

ADOBE® LIVECYCLE® DESIGNER 10 ヘルプ

法律上の注意

法律上の注意については、http://help.adobe.com/ja_JP/legalnotices/index.html を参照してください。

目次

第1章：Designer の概要

Designer について	1
様々なスペースでの Designer の使用	1
Designer の新機能	2
マニュアル、サンプルおよびチュートリアル場所	2

第2章：はじめに

フォームについて	4
フォームデザインについて	5
フォームデザインのレイアウト	5
フォームデザインの構成要素	6
Designer のインストールと設定	9
ワークスペースの概要	10
フォームデザインの作成手順	26

第3章：フォームデザインの作成

作成、開く、保存	30
ページレイアウト	44
スタイル	57
フォームの印刷	64
タブの順序	77
フォームのアクションの作成	86
フォームのスペルチェック	90
テキストのハイフネーション処理	96
ハイパーリンク	100
変換のための準備	101
マクロ	103

第4章：テストとトラブルシューティング

フォームのプレビューとテスト	106
レポートパレットでの警告メッセージの処理	112
Acrobat での検証エラーの表示	123

第4章：フォームのガイドライン

HTML フォームのベストプラクティス	126
PDF フォームのレンダリング	126
PDF フォームの種類の選択	127
クライアントサイドスクリプトを使用した形式設定の適用	128
オブジェクトの形式設定の保存	129

ダイナミックフォームでは使用できない Adobe Reader のコマンド	130
フォントの動作	131
スタティック PDF フォームのオブジェクトとプロパティ	131

第 4 章：ドキュメントの読み込み

PDF ファイルの読み込み	132
PDF ファイルの読み込み結果のレビュー	135
タグ付き PDF ファイルの読み込み	139
使用できないフォントの置換	139
Designer のフォントマッピングテーブルへの新しいマッピングの追加	140
ConvertPDF_FontMap.txt 内のフォントマッピングテーブル	140
ConvertPDF_CharMap.txt 内の文字マッピングテーブル	141
PDF 文書のアートワークとしての読み込み	142
Word ファイルの読み込み	146
Microsoft Excel からのスプレッドシートデータのコピー	148
Microsoft Excel スプレッドシートのコンテンツからのフォームの作成	148
InfoPath ファイルの読み込み	149
Adobe Output Designer フォームファイルの読み込み	151
XForms モデルファイルの読み込み	151

第 5 章：テーブルの使用

テーブルについて	153
簡単なテーブルを作成するには	156
テーブルアシスタントを使用してテーブルを作成するには	156
既存のオブジェクトからテーブルを作成するには	158
テーブル内にテーブルを作成するには	159
Microsoft Word からテーブルを読み込むには	160
サブフォームを使用してテーブルを作成するには	160
サブフォームを使用して階層化テーブルを作成するには	162
ボタンオブジェクトを使用して拡大するテーブルを作成するには	167
選択、コピー、移動、および操作	170
挿入と削除	175
テーブルの形式設定	175
カスタムライブラリのテーブルスタイルを作成するには	186
テーブルを使用してカレンダーを作成するには	187
テーブルの整列、サイズ調整および配置	188
テーブル内のデータの操作	190
データをグループ化するテーブルを作成するには	193
テーブルをオプションにするには	198
テーブルで計算を実行するには	199
テーブルでのページ番号の操作	199
テーブルのヘッダー行およびフッター行の操作	202

セルとセルのコンテンツの操作	204
テーブルセクションの使用	207
テーブルでの選択セクションの作成	210
選択テーブルセクション用のデータ連結と条件ステートメントの作成	211

第6章：サブフォームの使用

サブフォームについて	213
コンテンツの位置を固定するサブフォーム	216
コンテンツをフローするサブフォーム	216
サブフォームの作成と設定	217
サブフォームのコンテンツ管理方法を指定するには	219
サブフォームを配置するには	220
サブフォーム間でデータマージ方法を指定するには	220
サブフォームのカスタムデータ連結プロパティを定義するには	221
サブフォームセットの使用	221
繰り返しサブフォームおよび複数ページのサブフォームの作成	223
条件ステートメントを使用してサブフォームとサブフォームセットの改ページを制御するには	226
選択サブフォームセットの使用	227
編集可能なレイアウトが含まれるフォームの使用	228

第7章：フラグメントの使用

フラグメントについて	246
いつフラグメントを使用するか	247
フラグメントの名前付けと整理	248
フラグメント参照	248
フラグメント参照の解決	250
データソースへのフラグメントの連結	251
フラグメントの作成と挿入	251
フラグメントの編集および埋め込み	253
上書きおよび分割したフラグメント参照の修復	255
フラグメントに関するヒント	256

第8章：オブジェクトの使用

オブジェクトについて	257
オブジェクトの使用	262
オブジェクトの追加、コピーおよび削除	327
オブジェクトの選択、グループ化、移動	329
オブジェクトの整列とサイズ調整	332
書式設定	339
挿入ポイントの作成	349
キャプションの形式設定	351
オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する	353
フィールド値の形式設定とパターンの使用	355

別の言語用のオブジェクトの設定	370
特殊オブジェクトの使用	373

第9章：オブジェクトのプロパティ

レイアウトパレットのレイアウトプロパティ	377
境界線パレットの境界線プロパティ	377
フォントパレットのフォントプロパティ	378
段落パレットの段落プロパティ	378
アクセシビリティパレットのアクセシビリティプロパティ	380
「マスターページ」タブのマスターページプロパティ	381
「ページ編集」タブのマスターページプロパティ	382
「ページセット」タブのページセットプロパティ	383

第10章：オブジェクトパレット内のプロパティ

バーコード	384
ボタン	390
チェックボックス	397
円	401
コンテンツ領域	402
日付/時間フィールド	403
十進数フィールド	408
コンボボックス	410
電子メール送信ボタン	414
Flash フィールド	417
HTTP 送信ボタン	419
画像フィールド	421
画像	423
線	424
リストボックス	425
数値フィールド	430
Paper Forms Barcode	438
パスワードフィールド	442
ラジオボタン	447
長方形	450
署名フィールド	452
サブフォーム	454
サブフォームセット	458
テーブル	461
テキスト	479
テキストフィールド	480

第 11 章：データソースの操作

データ接続について	487
データ接続とデータ表示パレットの更新	488
データ表示パレットを使用するには	489
スキーマのフィルタリング	489
データソースへの接続	490
データ接続の変更および削除	496
データソースへのフィールドの連結	497
フィールドの種類	509
データソースからフォームオブジェクトプロパティへのダイナミックなデータの埋め込み	516

第 12 章：アクセシブルなフォームの作成

アクセシブルなフォームについて	537
アクセシブルなフォーム内での読み取り順序とタブ順序	537
アクセシブルなフォームのデザイン	538
視覚や身体に障害を持つユーザー向けのフォーム	539
四肢に障害を持つユーザーを想定したフォーム	540
アクセシブルなフォーム内の色	540
スクリーンリーダーのサポート	541
スクリーンリーダーで読み上げるフォームのデザイン時の注意点	542
アクセシビリティタグを使用した PDF フォームの作成	542
アクセシブルな PDF フォームの作成	543
オブジェクトのアクセシビリティ対応	545
テーブルのアクセシビリティ対応	548
フォームへの構造ナビゲーションの追加	550
フォームのアクセシビリティの確認	550

第 13 章：セキュリティの設定

デジタル ID の読み込み	552
XML 暗号化の使用	554
電子署名の使用	556
パスワードフィールドの使用	560
PDF セキュリティオプションの使用	561

第 14 章：最適なパフォーマンスを考慮したフォームの作成

パフォーマンスを向上するための一般的なデザイン上の考慮点	564
オブジェクトのパフォーマンスの最適化	565
パフォーマンスを考慮したデータの構造化	568
パフォーマンスを考慮したフォント選択	570
印刷用のデザイン上の考慮点	571
フォームを読み込む際のパフォーマンス上の考慮点	571
アクセシブルなフォームのパフォーマンス上の考慮点	572
スクリプトのパフォーマンス上の考慮点	572

XML フォームオブジェクトモデル式のパフォーマンス上の考慮点	573
最適なパフォーマンスを得るためのログメッセージの解決	574
 第 15 章：サーバー処理用のフォームを作成する際の考慮点	
Adobe LiveCycle 用のフォームの作成	576
Forms での取得データの処理方法	576
Forms でのフォームのレンダリング方法	577
Forms でのフォームの自動埋め込み方法	577
Forms 用のフォームのデザイン	577
Forms でのパフォーマンスの最適化と向上	581
HTML フォームの作成	583
 第 16 章：Process Management 用のフォームの作成	
Workspace で使用するフォームの準備	599
Workspace で PDF フォームのボタンを処理する方法	601
フィールドの処理オブジェクトのフィールド	601
 第 17 章：ショートカットキーの操作	
デフォルトのキーボードショートカット	603
キーボードを使用したパレットの制御	611
キーボードショートカットのカスタマイズ	613
 第 18 章：メニュー、コマンド、ツールバー、ダイアログボックスリファレンス	
メニューとコマンド	615
ツールバー	631
ダイアログボックスリファレンス	635
 第 19 章：用語集	
A	699
B	699
C	700
F	701
I	701
P	702
R	702
S	702
T	703
U	703
X	703

第 1 章：Designer の概要

Adobe® LiveCycle® Designer 11 をご利用いただきありがとうございます。

Designer について

注意：2012 年 3 月 10 日から、アドビでは Adobe® LiveCycle® ES のガイド機能を非推奨とします。ガイド機能は、アップグレード目的でのみ利用可能で、2 つのメジャーリリース後の製品からは削除されます。

Designer は、フォームを簡単に作成できるグラフィカルフォームデザインツールです。フォーム受信者は、フォームにオンラインで入力したり、データを送信したり、フォームを印刷したりするほか、印刷したフォームに手書きで入力することができます。フォームをデザインするだけでなく、ロジックを定義したり、同等の紙の書類に合わせて、または厳密な法的要件に合わせて変更を加えたりすることもできます。フォーム開発者は、Designer を使用して、ダイナミックなデータ主導のドキュメントを生成し、印刷、Web またはアーカイブ用にカスタマイズされたビジネスドキュメントを生成するアプリケーションを作成できます。フォームデザインを使用することで、フォーム開発者はガイド（非推奨）を作成できます。ガイドは、見やすくわかりやすいパネル群を通じてユーザーに操作手順を示すインタラクティブなデータ収集アプリケーションです。操作が容易になり、データ入力のエラーが減少します。

さらに、企業のデータソースの情報を読み込み、検証および追加するためのデータ収集ソリューションを構築および保守できます。Designer では、フォームを XML スキーマ、XML サンプルファイル、データベースおよび Web サービスに連結することで、PDF 文書を既存のワークフローに統合できます。

Designer で作成したフォームやドキュメントは、ビジネスデータと結合できるだけでなく、Adobe PDF、HTML、SWF や、PCL、Adobe PostScript®、Zebra（ZPL）プリンター用の印刷データなど、数多くのファイル形式でレンダリングできます。

関連項目

1 ページの「[様々なスペースでの Designer の使用](#)」

2 ページの「[Designer の新機能](#)」

様々なスペースでの Designer の使用

Designer を利用するには、2 つの方法があります。Adobe® Acrobat® Professional にバンドルされています。また、Adobe® LiveCycle® Enterprise Suite 4（ES4）ソフトウェアプラットフォームの一部として利用できます。

LiveCycle プラットフォームの一部として、Designer はビジネスプロセスやフォームを作成、管理および自動化する Adobe® LiveCycle® Workbench 11 と共に使用できます。フォームのデザインやオブジェクトの追加は Designer で行います。この Designer は Workbench 外で動作します。フォームデザインを作成したり開いたりするとき、フォームデザインは Designer に表示され、対応するタブが Workbench に表示されます。

Designer では、ローカルファイルシステムにあるファイルを使用します。Workbench では、アプリケーションから必要なファイルを同期させ、Designer で作成されたフォームをチェックインします。画像やフラグメントなどの参照ファイルもチェックインする必要があります。

Designer を Acrobat Professional と共に使用すると、ユーザーはビジネスプロセスやフォームを作成、管理および自動化できます。また、Adobe® Reader® で入力されたフォームのデータを統合できます。

LiveCycle ES4 について詳しくは、『[LiveCycle の概要](#)』を参照してください。

Designer の新機能

HTML での XDP フォームのプレビュー Designer の場合

フォームを PDF レンダリングでプレビューする他に、フォームを HTML レンダリングでプレビューすることができます。Adobe LiveCycle Designer でフォームを設計中に、新しい「HTML をプレビュー」タブをクリックし、フォームがブラウザーに表示されたらこれをプレビューします。

[HTML をプレビュー](#) を参照してください。

HTML での XDP フォームのプレビュー Forms Manager の場合

今後は、Forms Manager を使用して、LiveCycle フォームのプレビューと管理が可能になります。LiveCycle Designer 内から Forms Manager を起動できます。LiveCycle Designer から Forms Manager を起動するようにする設定について詳しくは、「[LiveCycle Designer から Forms Manager を起動する](#)」を参照してください。

アクセシビリティチェッカー

アクセシブルなフォームは、障害を持つユーザーを含む、多くの人々が使用できるフォームです。障害を持つユーザーとは、コンピューターの画面に表示されるフォームの使用に何らかの制限があるユーザーです。作成中の LiveCycle Designer フォームが一連のアクセシビリティルールに対応しているからアクセシビリティをテストするためにアクセシビリティチェッカーを使用できるようになりました。さらに詳しくは、「550 ページの「[フォームのアクセシビリティの確認](#)」」を参照してください。

PDF タイトルバーに文書タイトルを追加する

PDF タイトルバーに文書タイトルを追加できるようになりました。ユーザーが PDF を開くと、文書のタイトルがウィンドウのタイトルバーに表示されます。さらに詳しくは、「33 ページの「[PDF タイトルバーに文書タイトルを追加するには](#)」」を参照してください。

マニュアル、サンプルおよびチュートリアル場所

フォームやアプリケーションの開発を始める際に、次のリソースが役立ちます。

LiveCycle について LiveCycle について学習できます。また、製品のマニュアルにはない Designer の重要な情報が記載されています。

マニュアル	説明と場所
LiveCycle の概要	LiveCycle の概要が記載されています。 『LiveCycle の概要』 を参照してください。
Workbench ヘルプ	Workbench をインストールしている場合は、ヘルプメニューから参照できます。
Creating Dynamic Forms with Adobe LiveCycle Designer、著者 J.P. Terry	Designer を使用してインタラクティブフォームやダイナミックフォームを作成する方法を解説しています。 「Adobe Press」 で入手できます。

入門用サンプルおよびチュートリアル

これらのチュートリアルでは、LiveCycle アプリケーション用のフォームの作成プロセスを紹介します。フォームサンプルは、フォームデザイン技術を学ぶために役立ちます。また、フォームデザインを作成する出発点として利用できます。スク립ティングサンプルでは、すばやく簡単なフォームソリューションを紹介しています。

マニュアル	説明と場所
クイックスタートチュートリアル	Designer で初めてフォームを作成するときの基本操作について説明します。発注書フォームの作成、編集可能なレイアウトがある発注書フォームの作成およびフォームデザインのフラグメントの作成と使用に関するチュートリアルを参照してください。
LiveCycle アプリケーションの作成に関するチュートリアル	『 Creating Your First LiveCycle Application 』を参照してください。
Designer form fragment tutorial	フォームフラグメントの使用手順を説明します。 『 LiveCycle Designer form fragment tutorial 』を参照してください。
フォームサンプル	Designer には選りすぐりのサンプル一式があり、それぞれフォームデザイン、サンプルデータ、スキーマおよび最終版のフォームがセットになっています。これらのサンプルは、Designer のデフォルトのインストール先にあるディレクトリ <code>¥...¥JAJ¥Samples</code> にインストールされます。

フォームに計算を追加

FormCalc を使用して Designer フォームに計算を組み込みます。

マニュアル	説明と場所
FormCalc リファレンス	『 FormCalc の概要 』を参照してください。

スクリプトを使用したフォームの拡張

スクリプトを使用してフォームにインテリジェンスを組み込みます。

マニュアル	説明と場所
スク립ティング基礎	Designer で作成されたフォームを、スクリプトを使用して開発および拡張する方法の概要を示します。 『 スク립ティング基礎 』を参照してください。
スク립ティングサンプル	サンプルフォームを使って操作を試し、その技術を実際に使用するフォームに適用します。 Adobe Developer Connection で最新のサンプルフォームを取得してください。
スク립ティングリファレンス	Designer 環境でスクリプト可能なオブジェクト、プロパティおよびメソッドについて説明します。 『 スク립ティングリファレンス 』を参照してください。

第2章：はじめに

フォームについて

フォームとは、ユーザーが表示または対話処理する文書です。フォームは、**Designer** を使用して作成したフォームデザインから生成されます。

通常、ビジネスプロセスの前工程として、構造化されたデータを収集したり提示するのにフォームが使用されます。**Designer** では、ビジネスデータとマージできるフォームやドキュメントを作成し、PDF 文書、HTML、Flash (SWF ファイル)、また PostScript および Zebra (ZPL) プリンター用の印刷データなど、数多くのファイルタイプでレンダリングすることができます。

フォームは 3 つの方法で情報を取得し表示できます。

インタラクティブフォーム

エンドユーザーからデータを直接取得するように、フォームをデザインできます。ユーザーはオンラインでフォームの入力およびオプションの選択を行い、指定されたプロセスに従ってフォームデータを返送します。この種類のフォームは、インタラクティブフォームと呼ばれます。**Acrobat Professional**、**Adobe Reader** のいずれかを使用して入力するインタラクティブフォーム、または Web ブラウザーで入力する **Adobe® LiveCycle® Forms Standard 11** 用フォームを作成できます。

インタラクティブフォームには、紙ベースのフォームと比べて多くの利点があります。

- インタラクティブフォームは従来の紙ベースのフォームと同じように見えますが、インタラクティブフォームでは、紙のフォームを処理するときのような煩雑で時間のかかる作業を必要としません。インタラクティブフォームを使用してビジネスソリューションを提供することは、インターネットや企業規模のコンピューティングの世界では意味があります。
- インタラクティブフォームは、インターネット、イントラネットまたは電子メールを使用して配布できます。文書の交換プロセスを自動化し、信頼できる形式でフォームを保存し、文書の内容と整合性を保護できます。
- インタラクティブフォームを使用すると、データ収集プロセスを合理化できます。インタラクティブフォームでは、データを収集して既存のコアデータ収集システムに統合することができるので、データの活用幅が広がります。フォームによって、データをデータ収集システムに直接統合するか、またはサーバー上にある CGI スクリプト、ASP ページ、**Java Server Pages (JSP)**、サプレットなどのプログラムを使用して統合することができます。
- インタラクティブフォームを使用すると、組み込みロジックを使用するフォームベースのオンラインワークフロープロセスを確立して、フォームをユーザーからユーザーへ電子的に送信することもできます。インタラクティブフォームではスクリーンリーダーなどの支援技術もサポートされているので、障害があるユーザー向けにフォームを拡張できます。

最も簡単な場合では、エンドユーザーに必要なツールは **Adobe Reader** だけです。これを使用してフォームに記入し、記入したフォームデータを発信元に電子的に返送するか、フォームを印刷してフォームとデータを紙のコピーとして発信元に返送します。**Forms** を購入済みであれば、インタラクティブフォームを PDF にすることも、HTML にすることもできます。この場合、ユーザーは Web ブラウザーを使用してフォームを開き、入力します。

インタラクティブフォームには、通常、選択リスト、コンボボックス、チェックボックス、自動生成される計算、検証メッセージ、電子署名、送信ボタン、実行ボタンなどのデータ入力機能が含まれています。フォーム作成者は、組み込みの **FormCalc** 関数、および **JavaScript™** によるカスタムスクリプティングを使用して、インタラクティブフィールドの機能を拡張できます。ユーザーがデータをファイルやデータベースに保存したり、データを電子メールで特定のアドレスに送信したりできるように、インタラクティブフォームにコマンドボタンを含めることもできます。さらに、検証機能を追加することで、ユーザーが入力したデータの正確さを確認することもできます。フォームからは、指定の種類のデータを入力するように求めるメッセージなどのフィードバックを返すことができます。

非インタラクティブフォーム

エンドユーザーに情報を提供するフォームをデザインできます。データは、データベース、Web サービスまたは企業のコンテンツ管理システムなど、様々なデータソースから収集できます。エンドユーザーには、既にデータが入力されたフォームが表示されます。エンドユーザーは、フォーム内のデータを変更することや、フォームに新規データを追加することはできません。このような種類のフォームを、非インタラクティブフォームと呼びます。この種類のフォームは、Forms を含むソリューションで使用されることがよくあります。Forms は、フォームデザインにデータをマージし、データがあらかじめ入力された状態のフォームをレンダリングしてエンドユーザーに表示します。非インタラクティブフォームは、クレジットカードの明細書や電話料金の請求書でよく使用されます。

それ以外に、当初はエンドユーザーへの情報表示を目的としてデザインされたフォームでも、エンドユーザーが追加情報を入力して発信者またはサーバーに送信し、何らかの処理を実行できるようにすることもできます。

印刷および記入用フォーム

もうひとつの種類のフォームは、印刷および記入用フォームです。フォーム作成者は Designer でフォームをデザインし、通常は PDF として保存します。エンドユーザーはフォームを Acrobat または Adobe Reader で開き、印刷して、そのフォームに手書きで記入します。記入したフォームは、ファックスまたは郵便で返送します。

関連項目

126 ページの「[フォームのガイドライン](#)」

フォームデザインについて

フォームデザインとは、作成またはデザインプロセスの途中にあるフォームを指す用語です。フォームデザインでは、フォーム用に、レイアウト、データ取得、最終プレゼンテーションルールを指定します。フォームにデータを入力すると、このプレゼンテーションルールが適用されます。フォームへのデータの入力方法はフォームの目的によって異なり、また逆に入力方法を指定すると作成するフォームの種類に影響を与えます。

Designer では、オブジェクトを追加することで、テキストを入力する場所やフォームを電子メールで送信するためのボタンなど、各種機能をフォームに追加します。固定テキストやグラフィック情報の表示に使用するのがスタティックオブジェクトです。例えば、円、線、長方形、画像、テキストなどがスタティックオブジェクトです。

フォームデザインのレイアウト

固定レイアウト

最も標準的な種類のフォームには固定レイアウトが使用されています。つまり、レイアウトがあらかじめ決まっていて、入力するデータ量に関わらずページ数も固定されています。例えば、コース登録フォームなどが該当し、エンドユーザーはフォームを印刷して手入力することも、Acrobat または Adobe Reader を使用して入力することもできます。入力されたフォームは、元のレイアウトとページ数を保ちます。入力されなかったフィールドは空白のまま残ります。逆に、フォームに記入しきれない量のデータがある場合でも、収まるようにフォームを拡張することはできません。例えば、ユーザーが選択するコースを記入する 5 行のコース登録フォームでは、記入するデータが 10 行分あっても、入力できるのは 5 行だけです。同様に、エンドユーザーが 2 コースしか選択しなかった場合でも、2 行は入力済みで 3 行は空白の、合計 5 行が表示されます。

このフォームは、エンドユーザーが通常 Acrobat または Adobe Reader を使用してフォームに記入するインタラクティブなフォームにも、サーバープロセスによりデータソースのデータがマージされる非インタラクティブなフォームにもできます。同様に、Forms は通常、固定レイアウトの非インタラクティブフォームをレンダリングして、データソースの情報を表示します。

編集可能なレイアウト

固定レイアウトを持つフォームのほかに、フォームのレンダリング時にフォームのセクションがマージされるデータ量に応じて伸縮するよう定義することもできます。これを行うには、コンテンツをフローするように設定されているサブフォームに様々なセクション（サブフォームのグループ）を含めます。実行時には、そのデータ量を表示するのに必要なサブフォームだけが起動されます。

この種類のフォームはページ数が変動する編集可能なレイアウトを持ちます。サブフォームは、レンダリング時にフォームにマージされるデータの量に応じて調整され、ユーザーがデータを追加する必要がある場合は拡張されます。例えば、エンドユーザーが選択項目の記入に必要な行数をフォームに追加したり、行をフォームから削除したり、記入後フォームデータを電子的に返送できるようにすることもできます。エンドユーザーが追加した行数によっては、フォームが複数ページにまたがる場合もあります。

編集可能なレイアウトを含むインタラクティブフォームは、クライアントサイドフォームとも呼ばれます。この種類のインタラクティブフォームは、Acrobat および Adobe Reader 7.0 以降でサポートされています。

Forms 用の、編集可能なレイアウトを含むフォームを作成することもできます。この場合、Forms でデータがフォームデザインにマージされます。これらの電話料金の請求書やクレジットカードの明細書などのフォームは、通常非インタラクティブであり、データソースからの情報をユーザーに提示する目的でデザインされます。ユーザーはフォームを印刷したり、電子的に保存したりします。このようなフォームは、フォームデザインとデータのマージがサーバーで行われるので、サーバーサイドフォームと呼ばれることがあります。

関連項目

4 ページの「[フォームについて](#)」

232 ページの「[編集可能なレイアウトを含むインタラクティブフォームの作成](#)」

6 ページの「[フォームデザインの構成要素](#)」

フォームデザインの構成要素

フォームデザインを作成するには、ライブラリパレットのオブジェクトをレイアウトエディターの 1 つまたは複数のページにドラッグし、オブジェクトパレットを使用して選択したオブジェクトの固有のプロパティを変更します。選択したオブジェクトにより、オブジェクトパレットで利用できるタブが決まります。その他多くのパレットを使用して、特定のプロパティを変更できます。例えば、フォントパレットを使用して、選択したオブジェクトのテキストのフォントファミリー、サイズおよびスタイルを変更できます。

表示するオブジェクトを、ページのフォームデザインに配置します。オブジェクトをフォームデザインの各ページに表示する場合は、オブジェクトをマスターページに配置します。例えば、フォームデザインの各ページの同じ位置に常に表示されるロゴ、透かしまたは前置き情報を含めることができます。

フォームデザインを構成する主要なコンポーネントを以下に示します。

- マスターページ
- ページ
- コンテンツ領域
- サブフォーム
- フィールド
- ボイラプレートオブジェクト

フォームデザインの要素は、階層パレットに表示されます。

Designer では、フォームデザイン構築の作業を進めるに従って、各オブジェクトの XML ソースコードが自動的に生成されます。Designer では XML ソースコードが自動的に生成されるので、XML の知識がなくてもフォームデザインを作成できます。

マスターページ

すべてのフォームデザインには、Designer で自動的に作成されるマスターページが少なくとも 1 つ含まれています。マスターページはページの形式を設定するもので、マスターページの背景とレイアウト形式がフォームデザインの複数のページに反映させられるので、デザインの一貫性を容易に実現できます。

自動作成されたマスターページを使用して、ページの形式を設定したり、マスターページの設定を編集したり、必要に応じてマスターページを追加することができます。シンプルなインタラクティブフォームを作成する場合は、自動作成されたマスターページを設定変更しないで使用できることもあります。

少なくとも、ページの向きとサイズはマスターページで定義されます。マスターページを使用すると、フォームデザインの以下の特性を定義できます。

- ページのサイズと向き
- ヘッダーとフッター
- 透かしと会社ロゴ

各マスターページは、ページ全体に及ぶデフォルトのコンテンツ領域を含む状態で作成されます。マスターページには、テキスト、画像およびその他のボイラプレートオブジェクトを追加できます。これらのオブジェクトは、マスターページが形式を設定するすべてのページに表示されます（45 ページの「[マスターページの使用](#)」を参照してください）。

注意：マスターページ上のテキストフィールド、数値フィールド、日付 / 時間フィールドは、Acrobat 6 互換フォームではインタラクティブになりません。これらのフィールドに関連付けられたデータをユーザーが変更することはできません。

マスターページは、「マスターページ」タブで操作します。

ページ

ページはフォームのページを意味します。各ページには、マスターページのサイズと向きが使用されます。デフォルトでは、Designer で作成されるデフォルトのマスターページに各ページが関連付けられています。各ページは、ページ全体に及ぶデフォルトのサブフォームを含む状態で作成されます（44 ページの「[ページの設定](#)」を参照してください）。

フォームデザインに複数のマスターページが含まれる場合は、ページに割り当てるマスターページを選択できます（45 ページの「[マスターページの使用](#)」を参照してください）。

ページは、「デザインビュー」タブで操作します。

コンテンツ領域

コンテンツ領域は、ページ上でオブジェクトが配置可能な領域を定義します。フォームをデザインするときは、ページのコンテンツ領域で区切られた領域内でなければ、オブジェクトを配置することはできません。コンテンツ領域を追加できるのはマスターページ上だけです。

Designer で新規のマスターページを作成するときは、必ず、デフォルトのコンテンツ領域がマスターページ上に作成されます。

通常、固定レイアウトのフォームデザインには 1 つのコンテンツ領域が含まれます。データ量に合わせて調整されるセクションのあるフォームデザインは 1 つ以上のコンテンツ領域を持つことができます。オブジェクトを上から下に配置していくか、または左から右および上から下へ配置していくかは、各コンテンツ領域ごとに指定できます（283 ページの「[コンテンツ領域の使用](#)」を参照してください）。

サブフォーム

サブフォームは、フィールド、ボイラープレートオブジェクトおよびその他のサブフォームなどのフォームデザインオブジェクトをグループ化するために使用できるコンテナオブジェクトです。グループ化すると、フォームに設定したデータ連結に基づいて、フォーム上にサブフォームおよびグループ化したオブジェクトを表示するかどうかを制御できます。また、サブフォームオブジェクトは繰り返し可能に設定できます。繰り返し可能に設定すると、単一サブフォームの複数インスタンスおよびグループ化したオブジェクトをフォームに表示できるようになります。これにより、より柔軟で順応性のあるフォームデザインを作成できます。

サブフォームはデータやユーザーの操作に応じて実行時に表示させることも、非表示のままにしておくことも、拡大させることもできるダイナミックな機能を備えているので、データ量に合わせて拡張するセクションを含むフォームを作成する際に不可欠です（454 ページの「[サブフォーム](#)」を参照。）

テーブル

テーブルは、基本的には構造化されたコンテナオブジェクトで、フォームデザインのコンテンツを意義のある論理的方法で構成できます。テーブルの各セルは、フォームデザインオブジェクトを格納できる個別のコンテナです（153 ページの「[テーブルの使用](#)」を参照してください）。

テーブルは、機能および動作の点では、サブフォームに非常によく似ています。サブフォームと同様にテーブルにも、データやユーザーの操作に応じて実行時に繰り返しや拡大を行うことができるダイナミックな機能があります（454 ページの「[サブフォーム](#)」を参照。）

フィールドオブジェクト

Designer には、データの取得、マージおよび表示の機能を備えたフィールドオブジェクトが多数用意されています。フィールドオブジェクトはデータ入力領域を備えており、関連付けられたデータ値を入力したり選択したりすることで、フィールドオブジェクトに対するインタラクティブな操作を行うことができます（257 ページの「[オブジェクトについて](#)」を参照してください）。

次のオブジェクトはフィールドオブジェクトです。

- ボタン
- チェックボックス
- 日付 / 時間フィールド
- 十進数フィールド
- 署名フィールド
- コンボボックス
- 電子メール送信ボタン
- HTTP 送信ボタン
- 画像フィールド
- リストボックス
- 数値フィールド
- Paper Forms Barcode
- パスワードフィールド
- 印刷ボタン
- ラジオボタン
- テキストフィールド

ボイラープレートオブジェクト（スタティックオブジェクト）

ボイラープレートオブジェクト（スタティックオブジェクト）は読み取り専用オブジェクトで、フォームの美感を高めると同時に、コンテキストや支援機能を提供します。このオブジェクトは、ページまたはマスターページに追加できます（257ページの「[オブジェクトについて](#)」を参照してください）。

次のオブジェクトはボイラープレートオブジェクトです。

- 円
- 画像
- 線
- 長方形
- テキスト

Designer のインストールと設定

LiveCycle Designer はスタンドアロンのインストーラーとして使用でき、また LiveCycle WorkBench にバンドルされています。Workbench の一部として Designer をインストールする方法については、[このドキュメントの Workbench](#) のインストールと実行を参照してください。Designer にスタンドアロンのインストーラーを使用する場合は、次の手順に従います。

- 1 setup.exe をダブルクリックして Designer のインストーラーを起動します。
- 2 先に進んでユーザーの詳細とユーザー情報画面のシリアル番号を入力します。
- 3 使用許諾契約に同意する場合は、「次へ」をクリックして先に進みます。
- 4 (オプション) Designer ES4 を選択した場所にインストールする場合は、既定のインストールパスを変更します。「Next」をクリックします。
- 5 (オプション) LC Designer の以前のバージョンをインストールしている場合は、インストーラーは以前のインストールのユーザー設定について移行、削除、無視のオプションを表示します。「Next」をクリックします。
- 6 「戻る」をクリックして環境設定を変更します。Designer をインストールするには、「インストール」をクリックします。
- 7 インストールが完了したら「完了」をクリックします。

JVM 設定の設定

デフォルトでは、Designer が起動すると Java Virtual Machine (JVM) は初期化されます。

注意：JVM をインストールするには、JDK 1.5 以降をインストールします。

提供された INI ファイルを使用して JVM 設定と既定の動作を変更できます。ファイル名は JVMSettings.ini で、**[Designer** のインストールディレクトリ \cfg\ で入手できます。各種設定パラメーターは次のとおりです。

JVMOnDemand JVM を Designer を使用してを初期化する (値 0)、または必要な場合にのみ初期化する (値 1) を指定します。デフォルトでは、この値は 0 です。

JVMHeapSizeCustomization JVM のヒープサイズを JVM 自体 (値 0)、または Designer が決定する (値 1) 場合に指定します。デフォルトでは、この値は 0 です。

JVMInitialHeapSize 初期ヒープサイズを KB で指定します。JVMHeapSizeCustomization = 1 の場合、この設定と関連しています。値が 1025 未満の場合は、1025 (既定値) に設定されます。

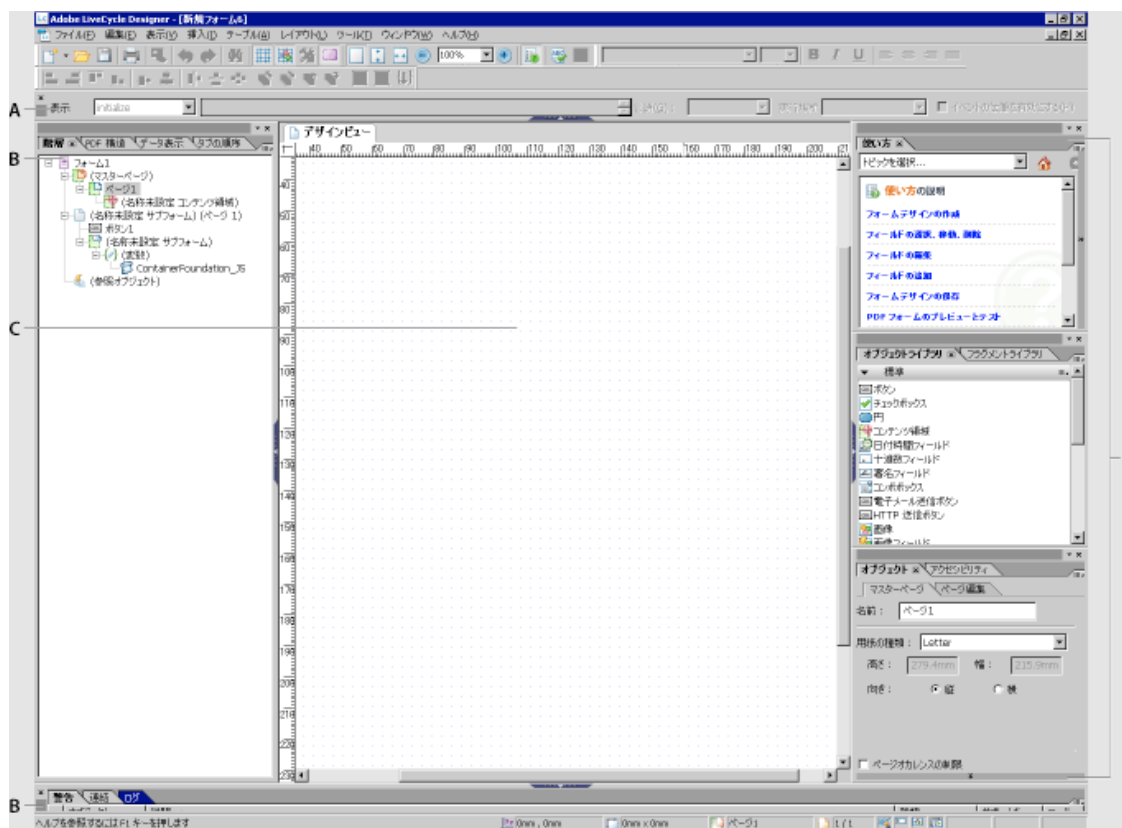
JVMMaxHeapSize JVMを増加できる最大ヒープサイズをKBで指定します。JVMHeapSizeCustomization = 1の場合、この設定と関連しています。値が2048未満の場合は、4096（既定値）に設定されます。

ワークスペースの概要

エディターについて

デフォルトでは、Designer ワークスペースは、レイアウトエディターとスクリプトエディターで構成されます。レイアウトエディターではフォームデザインの作成とレイアウトを行い、スクリプトエディターではスクリプトを作成しフォームデザインの機能を拡張できます。

フォームデザインの操作に慣れてきたら、必要に応じてワークスペースをカスタマイズできます。



A. スクリプトエディター B. パレット C. レイアウトエディター

レイアウトエディター

レイアウトエディターは、フォームデザインの作成と管理を行うメイン領域です。以下の4つのタブで構成されています。

「デザインビュー」タブ フォームデザインを構成するページを表示します。「デザインビュー」のページには、フォームデザインのコンテンツが表示されます。初めて Designer を起動したり新しいフォームデザインを作成したときは、オブジェクトを追加できるページが「デザインビュー」タブに表示されます。マスターページ内のオブジェクトはページに表示されませんが、選択することはできません。

「マスターページ」タブ デザインビューでページに適用できるマスターページを表示します。マスターページでは、フォームデザインのレイアウトと背景を指定します。マスターページには、フォームデザイン全体を通して同じ位置に置かれるオ

プロジェクトを追加します。「マスターページ」タブは、デフォルトでは非表示です。デザインビューページ内のオブジェクトはマスターページには表示されません。

「XML ソース」タブ フォームデザインの構造とそのオブジェクトを記述する XML ソースコードを表示します。XML ソースコードを直接、編集するのはお勧めできません。

「PDF プレビュー」タブ 現在のフォームデザインに基づいて PDF フォームを表示します。Acrobat または Adobe Reader がインストールされている場合、作業中に「PDF プレビュー」タブでフォームをプレビューすることができます。「PDF プレビュー」タブを使用して、フォームやテンプレートを PDF ファイルと同様に表示して動作をテストします。フォームのプロパティダイアログボックスの「プレビュー」タブを使用して、インタラクティブなフォームまたは印刷可能なフォームを PDF でプレビューするためのオプションを設定できます。

注意：フォームを「PDF プレビュー」タブでプレビューするには、Acrobat で、編集／環境設定／インターネット／「PDF をブラウザに表示」をオンにしておく必要があります。

デフォルトでは、すべてのタブが表示されるわけではありません。「デザインビュー」タブは表示されますが、「マスターページ」タブと「XML ソース」タブは表示されません。「PDF プレビュー」タブは、Acrobat または Adobe Reader がインストールされている場合にだけ表示されます。

タブ形式のパレットがレイアウトエディター周辺に並べられ、ワークスペースを散乱させずにツールに簡単にアクセスできます。

詳しくは、18 ページの「[レイアウトエディターをカスタマイズするには](#)」を参照してください。

スクリプトエディター

フォームの演算やスクリプトを作成、修正および表示するには、スクリプトエディターを使用します。例えば、2 つの数値フィールドを合計する単純な計算のスクリプトや、エンドユーザーの操作に応じてフォームの外観を変更する複雑なスクリプトを作成できます。Designer は、FormCalc と呼ばれる Designer 独自のスクリプト言語でのスクリプティングと JavaScript でのスクリプティングをサポートしています。

デフォルトでは、スクリプトエディターは Designer ワークスペースの上端に表示されます。スクリプトエディターには 1 行表示と複数行表示という 2 つの表示モードがあり、必要に合わせてどちらかを選択できます。1 行表示では、レイアウトエディターと他のパレット用のスペースが最大限に表示されます。複数行表示では、スクリプトを書くためのスペースが最大限に表示されます。

表示 ユーザー定義のスクリプティングのためのフォームデザインのイベントをすべて表示します。目的のオブジェクトに適応できないイベントは灰色で表示されます。演算やスクリプトを含むイベントは、名前の横にアスタリスク (*) が表示されます。

子オブジェクトのイベントを表示ボタン  現在のオブジェクトおよびすべての子オブジェクトについて、イベントリストで現在選択しているイベントを表示します。階層パレットで最上位のオブジェクトを選択している場合、このオプションでは、フォーム上のすべてのオブジェクトに対してイベントリストで現在選択しているイベントが表示されます。

関数  言語リストで現在選択しているスクリプティング言語に応じて、使用可能な FormCalc または JavaScript 組み込み関数のリストを表示します。

スクリプト編集フィールドに関数を配置し、一覧から関数を選択して Enter キーを押します。

スクリプトの構文をチェック  フォームに含まれるすべてのスクリプトの構文が正しいかどうかチェックし、エラーがあればレポートパレットの「警告」タブに表示します。

言語 現在の演算やスクリプトに使用するスクリプト言語を指定します。2 つのオプションを指定できます。

- **FormCalc** FormCalc は Adobe 独自の計算言語で、主として単純な演算など短いスクリプトに使用されます。
- **JavaScript** JavaScript は新規フォームのデフォルトのスクリプト言語です。

言語リストに表示されるスクリプト言語は、オプションダイアログボックスのワークスペースパネルで新規フォームのデフォルトとして選択したスクリプト言語オプションと一致します。ただし、フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで現在のフォームのスクリプト言語設定を変更した場合は、言語リストに表示されるスクリプト言語も新しいイベントの新規スクリプトに対して同様に変更されます。フォームのプロパティダイアログボックスでスクリプト言語オプションを変更しても既存のスクリプトのスクリプト言語は変更されません。イベントに既に含まれるスクリプトが削除された場合、Designer の現行セッション中はスクリプトエディターで引き続き同じスクリプト言語が使用されます。

実行場所 演算やスクリプトを実行する場所を指定します。3つのオプションを指定できます。

- **クライアント** 演算とスクリプトは、クライアントアプリケーション（Acrobat、Adobe Reader、Web ブラウザーなど）がフォームを処理するときに実行します。
- **サーバー** 演算とスクリプトは、サーバーアプリケーション（例えば Forms）がフォームを処理するときに実行します。
- **クライアント / サーバー HTML** クライアントアプリケーションでクライアントサイドのスクリプティングをサポートする場合を除き、演算やスクリプトは、サーバーアプリケーション（例えば Forms）がフォームを処理するときに実行します。例えば、データベースにアクセスして入力前のフォーム内容を設定するスクリプトなどがあります。

詳しくは、Designer を使用したスクリプティングを参照してください。

関連項目

[A Quick Way to get to the Script Editor in Designer](#)

パレットについて

パレットを使用すると、ワークスペースを散乱させずにツールに簡単にアクセスできます。パレットには 1 つ以上のタブが含まれ、各タブには共通プロパティがあります。例えば、オブジェクトパレットには 1 つ以上のタブを含めることができます。

パレットは、ワークスペース内で作業スタイルに合うように並べることができます。例えば、めったに使用しないパレットを非表示にして、頻繁に使用する複数のパレットを 1 つのパレットウィンドウに移動できます。

レイアウトエディターで作業をしていくと、パレットに表示される情報が選択したオブジェクトに合わせて変更されます。例えば、あるオブジェクトを選択すると、レイアウトパレットの情報が変更され、そのオブジェクトのサイズと位置に関する情報が表示されます。

階層パレット

階層パレットでは、「デザインビュー」タブと「マスターページ」タブにあるコンテンツが視覚的に表示されます。

階層パレットで選択したものは、関連付けられたボディページまたはマスターページでも選択できます。623 ページの「[階層パレットメニュー](#)」を参照してください。

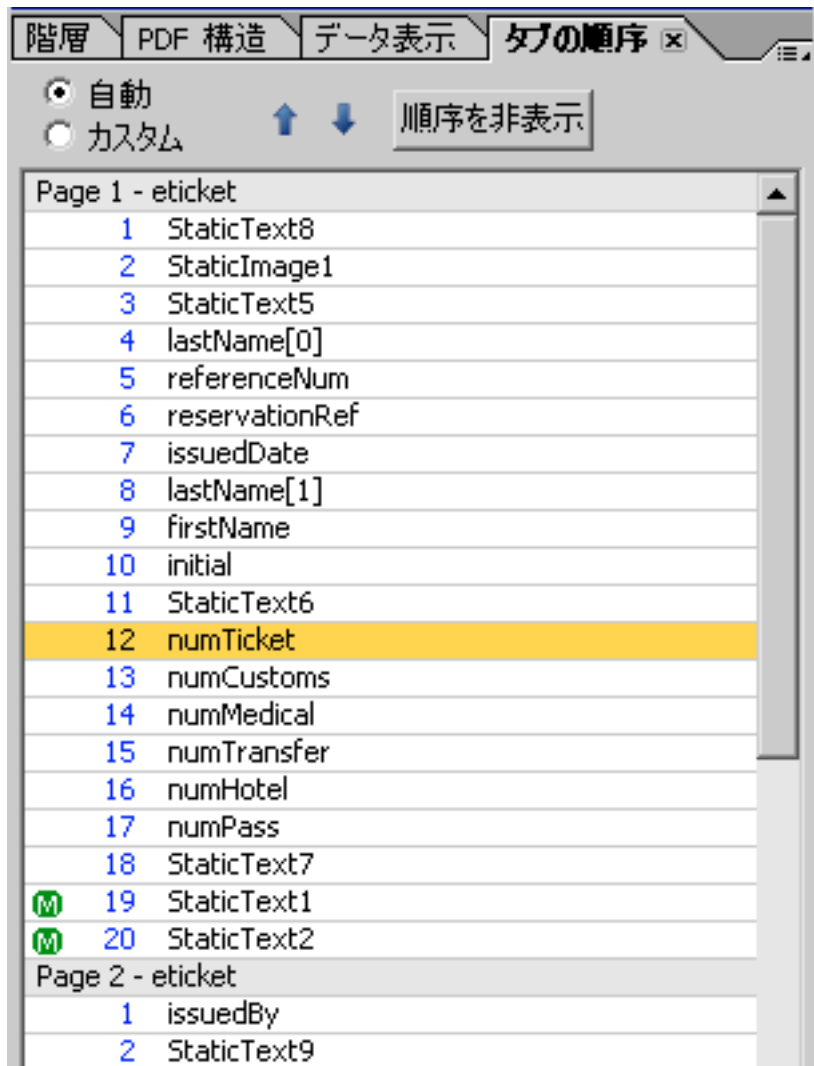
データ表示パレット

データ接続が存在する場合には、そのデータ接続の階層がデータ表示パレットに表示されます。階層の最上位のノードはデータ接続を示し、データ接続名が表示されます。データ接続は、フォームとデータソースをリンクさせます。

データ接続に基づいてフォームをデザインした場合、Designer がそのデータソースに基づいてフォームのデータ構造を構築します。使用するノードをフィルター処理し、データソースの一部またはすべてを使用してフォームをすばやく作成できます。さらに、連結を使用して、データソースのノードをフォーム上のオブジェクトにリンクさせることができます。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。

タブの順序パレット

タブの順序パレットでは、フォーム上のすべてのオブジェクトの番号付きリストが表示されます。各番号はタブ順序におけるオブジェクトの位置を表します。



タブの順序パレットでは、リストに次のような視覚的なマーカが表示される場合があります。

- ・ 灰色のバーはフォームの各ページを示します。各ページのタブ順序は数字 1 から始まります。
- ・ 緑の円内の文字 **M** は、マスターページオブジェクトを示します（「デザインビュー」タブでフォームを表示している場合にのみ表示されます）。
- ・ 数字の範囲はフラグメント参照内のオブジェクトを示します。
- ・ 黄色の背景は現在選択しているオブジェクトを示します。
- ・ ページの最初のオブジェクトの横に表示される錠前のアイコンは、そのオブジェクトがタブ順序内で移動できないことを示します（「マスターページ」タブでフォームを表示している場合にのみ表示されます）。

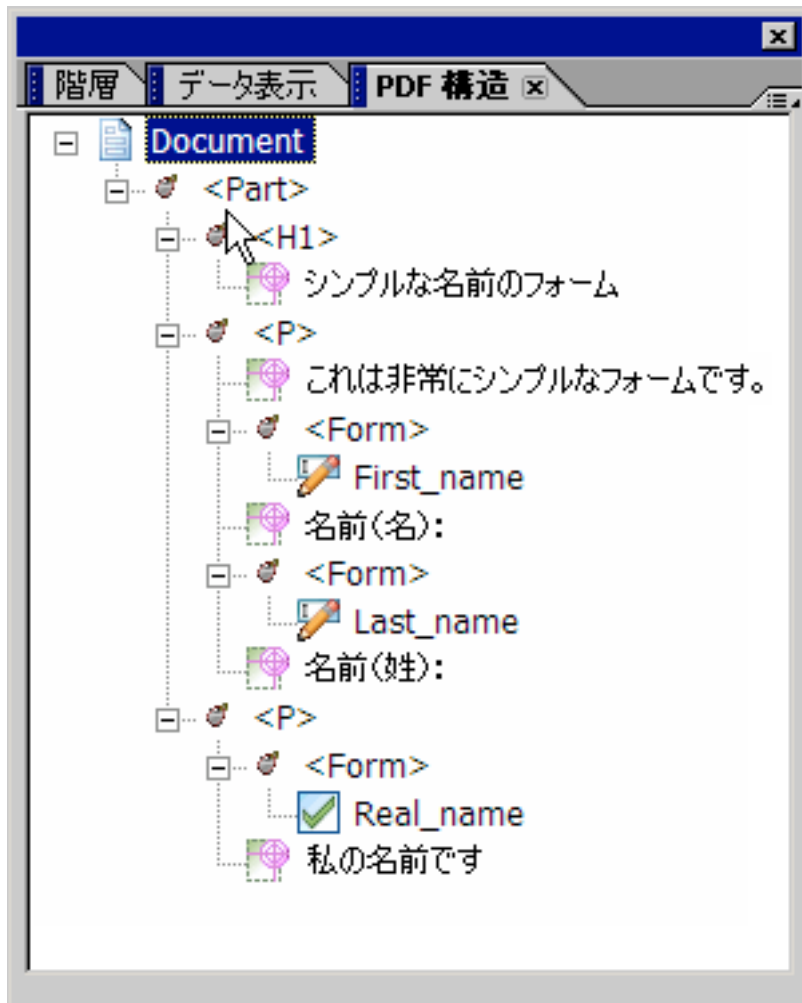
詳しくは、79 ページの「[タブの順序パレットの使用](#)」を参照してください。

Page 1 - 縦		
(名称未設定 コンテンツ領域)		
	1	Text1
	2	Text2
Page 2 - 横		
(名称未設定 コンテンツ領域)		
	1	Text3
	2	Text4

PDF 構造パレット

PDF 構造パレットにはタグ付き PDF 文書の階層構造のビューが表示され、これからキーボードやスクリーンリーダーなどの支援技術にアクセスしたり、タブや読み取りの順序を定義したりできます。624 ページの「[PDF 構造パレットメニュー](#)」を参照してください。

アートワークとしての PDF 文書については、142 ページの「[PDF 文書のアートワークとしての読み込み](#)」を参照してください。



オブジェクトライブラリパレット

オブジェクトライブラリパレットには、フォームデザインに追加できるすべてのオブジェクトが入っています。オブジェクトは、カテゴリごとに整理されています。

標準 チェックボックスやテキストフィールドなど、ごく一般的に使用するオブジェクトがあります。

バーコード バーコードオブジェクトのリストがあります。

カスタム 住所ブロックや電話番号フィールドなど、事前に形式設定されたオブジェクトがあります。

ライブラリパレットの使用については、22 ページの「[ライブラリパレットの管理](#)」を参照してください。

フラグメントライブラリパレット

フラグメントライブラリパレットには、現在開いているフラグメントライブラリが表示されます。フラグメントライブラリは、フラグメントのソース XDP ファイルを格納する、ファイルシステム内のフォルダーに対応します。

各フラグメントライブラリには、ライブラリ内で展開可能なパネルがあり、使用可能なフラグメントが表示されます。

マイフラグメント ユーザーが作成するフラグメントの場所です。このフラグメントをフォームデザインに挿入したり、新しいフラグメントの作成に使用したりできます。

スタイルカタログパレット

スタイルカタログパレットを使用して、スタイルシートの管理や、フォームデザイン内のオブジェクトの編集およびスタイル適用を行います。スタイルカタログパレットには、フォームで使用できる様々なスタイルシート、および各スタイルシートにあるスタイルが表示されます。スタイルカタログのパネルは、スタイルシートによって変わります。各パネルにはスタイルシートに含まれているスタイルが表示されます。最初のパネルは内部スタイルシートパネルです。内部スタイルシートパネルの下に、ユーザーがスタイルカタログに追加した Designer スタイルシートファイル (XFS) のそれぞれに対応したパネルが表示されます。57 ページの「[スタイル](#)」を参照してください。

レイアウトパレット

レイアウトパレットを使用して、選択したオブジェクトに以下のプロパティを設定します。

- オブジェクトのサイズおよび位置。
- 指定された高さと幅を無視して、オブジェクトのすべてのコンテンツが見えるように展開するかどうか。
- アンカー（挿入）ポイントの位置。アンカーポイントを中心にして、オブジェクトを 90°、180° または 270° で回転させることができます。
- コンテンツをフローするサブフォーム内で選択したオブジェクトの整列。
- オブジェクト周囲の余白。
- キャプションの位置および幅。キャプションを隠すこともできます。

詳しくは、346 ページの「[オブジェクトの形式設定](#)」を参照してください。

オブジェクトを選択すると、そのオブジェクトの設定が自動的にレイアウトパレットに表示されます。オブジェクトのレイアウト設定のほとんどは、レイアウトエディターで直接編集できます。例えば、オブジェクトの位置を変更する場合は、オブジェクトをページ上の新しい位置にドラッグすることができます。

境界線パレット

境界線パレットを使用して、フォームデザインのオブジェクトの境界線プロパティを編集します。境界線は個別（左、右、上、下）でも、一括でも編集できます。また、境界線のコーナーの種類と背景色も指定できます。

詳しくは、377 ページの「[境界線パレットの境界線プロパティ](#)」を参照してください。

オブジェクトパレット

オブジェクトパレットを使用して、選択したオブジェクトに固有のプロパティを変更します。レイアウトエディターで選択したオブジェクトにより、オブジェクトパレットで利用できるタブが決まります。

アクセシビリティパレット

アクセシビリティパレットを使用して、オブジェクトにカスタムテキストを設定し、Microsoft® Active Accessibility (MSAA) に準拠したスクリーンリーダーがフォームを通過したときに読み上げるようにします（545 ページの「[オブジェクトのアクセシビリティ対応](#)」を参照してください）。オブジェクトにカスタムのスクリーンリーダーテキストがある場合、スクリーンリーダーはツールヒントではなくカスタムテキストを読み取ります。

スクリーンリーダーがテキストを検索するデフォルトの順序を変更して、オブジェクト順にテキストを読み取るようにしたり、任意のオブジェクトのスクリーンリーダーテキストを無効にしたりすることもできます。

詳しくは、380 ページの「[アクセシビリティパレットのアクセシビリティプロパティ](#)」を参照してください。

フォントパレット

フォントパレットを使用して、1 つ以上の選択したオブジェクトのテキストの、フォントファミリー、サイズ、スタイル、スケールと、ベースラインシフト、文字間隔、カーニングを変更します。テキストオブジェクト内のテキスト、テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールドなどのオブジェクトのキャプション領域のテキスト、およびテキストフィールドオブジェクトの値領域のテキストのフォントプロパティを変更できます。

詳しくは、339 ページの「[テキストの書式設定](#)」を参照してください。

段落パレット

段落パレットを使用して、選択したテキストの位置揃え、インデント、行間およびハイフネーションを変更します。数値フィールドオブジェクトについては、小数点の配置も設定できます。段落パレットに表示されるオプションは、選択したオブジェクトによって決まります。

詳しくは、342 ページの「[段落の形式設定](#)」を参照してください。

段落パレットを使用して、リストを作成したり、選択したテキストの位置揃え、インデント、行間およびハイフネーションを変更したりします。数値フィールドオブジェクトについては、小数点の配置も設定できます。段落パレットに表示されるオプションは、選択したオブジェクトによって決まります。

描画ツールパレット

描画ツールパレットを使用して、グリッドおよび定規の設定と描画単位を指定します。オブジェクトの境界を表示 / 非表示にしたり、境界線のスタイルを指定したりすることもできます。描画ツールパレットには、オブジェクトをページの他の要素や定義したガイドラインにスナップするためのオプションもあります。

水平定規および垂直定規、グリッド、十字線は、ページの幅と長さに対してオブジェクトを正確に配置する場合に便利です。定規はアクティブなボディページまたはマスターページの上側と左側に表示されます。定規のマーカーは、ポインターを移動する際のポインターの位置を示します。定規の原点（上定規と左定規の（0, 0）マーク）を変更して、フォームデザインの特定点からの距離を計測できます。

フォームデザインのオブジェクトの境界を表示 / 非表示にすることもできます。境界線のないオブジェクトをフォームに表示する場合は、境界を表示させると便利です。フィールド、サブフォーム、コンテンツ領域、グループ、その他のオブジェクトの境界線のスタイルを指定することもできます。

オブジェクトを移動する場合、スナップオプションを使用すると、ページの他の要素に合わせて自動的にオブジェクトを配置できます。オブジェクトは、ページのグリッド、ガイドライン、別のオブジェクトまたはページの中心にスナップすることができます。

オブジェクトをスナップする際にガイドラインを視覚的キューや要素として使用できます。水平または垂直のガイドラインを追加または削除するには、ガイドラインの定義リストを使用します。

詳しくは、20 ページの「[描画ツールを使用するには](#)」を参照してください。

情報パレット

情報パレットには、選択したオブジェクトに関連付けられたメタデータが表示されます。このメタデータは、<desc> 要素の名前のついた子として XML ソースに保存されています。フォームのプロパティダイアログボックスの「情報」タブを使用して、フォームデザインの一部のメタデータを編集できます。

レポートパレット

レポートパレットには、フォームデザインに関する情報が表示されます。「警告」タブにはフォームデザインの作業中にレポートされたエラーが表示され、「連結」タブには連結データの定義方法に基づいてフィールドが表示されます。「ログ」タブには Designer でレポートされたアクションのログが表示されます。

「警告」タブをクリアするには、表示されているエラーを解決する必要があります。「ログ」タブをクリアするには、パレットメニューをクリックして「警告をクリア」を選択します。112 ページの「[レポートパレットでの警告メッセージの処理](#)」を参照してください。

使い方パレット

使い方パレットには、Designer における一般的な手順についてのヘルプトピックの一覧が表示されます。一覧をスクロールしてトピックを探し、「詳細」をクリックして手順を表示します。

関連項目

- 623 ページの「[データ表示パレットメニュー](#)」
- 623 ページの「[タブ順序パレットメニュー](#)」
- 628 ページの「[オブジェクトライブラリパレットメニュー](#)」
- 624 ページの「[スタイルカタログパレットメニュー](#)」
- 625 ページの「[レイアウトパレットメニュー](#)」
- 625 ページの「[境界線パレットメニュー](#)」
- 625 ページの「[オブジェクトパレットメニュー](#)」
- 626 ページの「[アクセシビリティパレットメニュー](#)」
- 626 ページの「[フォントパレットメニュー](#)」
- 626 ページの「[段落パレットメニュー](#)」
- 627 ページの「[描画ツールパレットメニュー](#)」
- 627 ページの「[情報パレットメニュー](#)」
- 652 ページの「[情報（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」
- 627 ページの「[レポートパレットメニュー](#)」
- 508 ページの「[連結されたフィールドの一覧の表示](#)」

ワークスペースのカスタマイズ

レイアウトエディターをカスタマイズするには

レイアウトエディターをカスタマイズして、タブの表示 / 非表示、ページのサイズ変更、ズームインとズームアウトを行うことができます。

タブを表示 / 非表示にするには

- 「デザインビュー」タブを表示 / 非表示にするには、表示 / デザインビューを選択します。
- 「マスターページ」タブを表示 / 非表示にするには、表示 / マスターページを選択します。
- 「XML ソース」タブを表示 / 非表示にするには、表示 / XML ソースを選択します。
- 「PDF プレビュー」タブを表示 / 非表示にするには、表示 / PDF プレビューを選択します。

ズームインおよびズームアウトするには

- ページを 100 %にサイズ設定するには、表示／100 %表示を選択します。
- ページのサイズをレイアウトエディターに合わせるには、表示／全体表示を選択します。
- ページのサイズをレイアウトエディターの幅に合わせるには、表示／幅に合わせるを選択します。
- レイアウトエディターにズームインまたはズームアウトするには、表示／ズームを選択し、「倍率指定」ボックスで 25 %～500 %の値を入力した後、「OK」をクリックします。ツールバーの倍率指定ボックスも使用できます。
- 領域を拡大するには、表示／領域のズームを選択します。ポインターが虫メガネに切り替わります。虫メガネを使用して、拡大する領域をクリックし、ドラッグして囲みます。
- 特定のページを表示するには、ページ全体が見えるようにズームアウトし、表示したいページまで下にスクロールします。

スクリプトエディターをカスタマイズするには

スクリプトエディターの表示 / 非表示を切り替えたり、1 行表示から複数行表示に変更したりできます。

- スクリプトエディターを表示 / 非表示にするには、ウィンドウ／スクリプトエディターを選択します。
- 1 行表示から複数行表示に変更するには、スクリプトエディターパレットの境界線上に表示される拡大ボタンを、パレットが必要なサイズになるまでドラッグします。

詳しくは、Designer を使用したスクリプティングを参照してください。

パレットをカスタマイズするには

パレットをカスタマイズして、パレットの表示 / 非表示、パレットのドッキングまたは移動、およびパレットのサイズ調整またはリセットを行うことができます。

パレットを表示 / 非表示にするには

- パレットを表示するには、ウィンドウ／[パレット名]を選択します。
- パレットを非表示にするには、パレットメニュー／パレットを非表示を選択します。
- すべてのパレットをレイアウトエディターの端に表示 / 非表示するには、パレットの境界線上にある展開ボタンをクリックします。パレットを閉じるには、もう一度クリックします。
- 選択した場所にあるすべてのパレットを表示 / 非表示にするには、ウィンドウ／ワークスペースを選択し、いずれかのコマンドを選択します。

パレットをドッキングまたは移動するには

- ウィンドウの端にパレットをドッキングするには、パレットバーを Designer ウィンドウの端までドラッグします。
- 複数のパレットをドッキングするには、パレットバーを別のパレットの下端にドラッグします。この手順は Designer ウィンドウにドッキングされているパレットにだけ適用され、フローティングパレットには適用されません。
- パレットを移動してドッキングするには、パレットバーをドラッグします。
- パレットをドッキングせず移動するには、Ctrl キーを押しながらパレットバーをドラッグします。
- パレットを別のパレットウィンドウの中に移動するには、移動するパレットのタブを移動先のパレットにドラッグします。サブタブを移動することはできません。

パレットをサイズ調整またはリセットするには

- パレットのサイズを変更するには、パレットの任意の端をドラッグします。
- パレットの位置をリセットするには、ウィンドウ／パレット位置をリセットを選択します。

描画ツールを使用するには

描画ツールパレットを使用して、定規やオブジェクトの境界を表示 / 非表示にしたり、グリッドを設定したり、その他の環境設定を行うことができます。

描画ツールを表示 / 非表示にするには

- ・ 描画ツールパレットをすばやく表示するには、定規をダブルクリックします。
- ・ オブジェクトの境界を表示 / 非表示にするには、「オブジェクトの境界を表示」を選択します。
- ・ ガイドラインまたはグリッドを表示 / 非表示にするには、「ガイドラインを表示」または「グリッドを表示」を選択します。
- ・ 定規を表示 / 非表示にするには、「水平定規」または「垂直定規」を選択します。
- ・ 十字線を表示 / 非表示にするには、「十字線」を選択します。

グリッドを使用するには

- ・ グリッドへのスナップを有効にするには、「グリッドにスナップ」を選択します。
- ・ グリッドの原点を設定するには、X 座標および Y 座標の「原点」ボックスに原点の新しい座標を入力します。
- ・ グリッドの間隔を設定するには、X 座標および Y 座標の「間隔」ボックスに新しい値を入力します。例えば、グリッドが 1 センチ単位で、間隔を 10 に設定した場合、1 センチ当たり 10 個のグリッドポイントが表示されます。

スナップオプションを設定するには

- ・ オブジェクトをグリッド上の位置に自動的に配置するには、「グリッドにスナップ」を選択します。
- ・ 定義したガイドライン上にオブジェクトを自動的に配置するには、「ガイドラインにスナップ」を選択します。
- ・ オブジェクトの端を別のオブジェクトに合わせて自動的に配置するには、「オブジェクトにスナップ」を選択します。
- ・ オブジェクトの中心を、ページの垂直または水平の中央線に自動的に配置するには、「ページ中央にスナップ」を選択します。

ガイドラインを使用するには

- ・ ガイドライン上にオブジェクトを自動的に配置するには、「ガイドラインにスナップ」を選択します。
- ・ ガイドラインを追加するには、レイアウトエディターの左上隅からポインターをページにドラッグします。ガイドラインを削除するには、定規に表示される三角形を選択してページ外にドラッグします。
- ・ 「ガイドラインの定義」を選択し、水平または垂直のガイドラインを追加してから  をクリックし、位置を数値で入力することもできます。ガイドラインを削除するには、削除するガイドラインを選択して  をクリックします。
- ・ プリセットガイドラインを選択する（例えば、標準のレターサイズやリーガルサイズのページ用のガイドラインを追加する）には、描画ツールパレットメニューを使用します。

その他の描画ツールを設定するには

- ・ 定規の測定単位を設定するには、単位リストから単位を選択します。
- ・ オブジェクトの境界線の色を設定するには、「スタイル」をクリックし、「色」ボックスをクリックして「その他の色」を選択し、パレットから定義済みの色を選択するか「色の作成」をクリックしてカスタムの色を作成します。
- ・ オブジェクトの境界線のスタイルを設定するには、「スタイル」をクリックして、必要なオブジェクトの境界線のスタイルを選択します。
- ・ グリッドやガイドラインの色を設定するには、「色」ボックスをクリックしてから「その他の色」を選択し、パレットから定義済みの色を選択するか「色の作成」をクリックしてカスタムの色を作成します。

ツールバーをカスタマイズするには

ツールバーをカスタマイズして、ツールバーの表示、非表示、ドッキングまたは移動、新しいツールバーの作成、必要なくなったツールバーの削除、頻繁に使用するコマンドの追加や使用しないコマンドのツールバーからの削除、デフォルトツールバーへのリセットを行うことができます。

ツールバーを表示、非表示、ドッキングまたは移動するには

- ツールバーを表示または非表示にするには、ツールバーを右クリックして、表示または非表示にするツールバーを選択または選択解除します。
- ツールバーをドッキングするには、そのツールバーを Designer ウィンドウの上にドラッグします。
- ツールバーを移動するには、そのツールバーを新しい場所にドラッグします。

ツールバーを作成するには

- 1 ツール／ユーザー設定を選択します。
- 2 「ツールバー」タブで「新規」をクリックします。
- 3 ツールバー名を入力してから「OK」をクリックします。
- 4 必要に応じてコマンドをツールバーに追加します。

ツールバーを削除するには

- 1 ツール／ユーザー設定を選択します。
- 2 「ツールバー」タブで削除するツールバーを選択し、「削除」をクリックします。

注意：ユーザーが作成したツールバーのみ削除できます。

ツールバーの名前を変更するには

- 1 ツール／ユーザー設定を選択します。
- 2 「ツールバー」タブで名前を変更するツールバーを選択し、「名前を変更」をクリックします。
- 3 ツールバーの名前を変更し、「OK」をクリックします。

注意：ユーザーが作成したツールバーの名前のみ変更できます。

ツールヒントを表示または非表示にするには

- 1 ツール／ユーザー設定を選択します。
- 2 ツールバーのツールヒントを表示または非表示にします。
 - ツールヒントを表示するには、「ツールヒントを表示」チェックボックスをオンにします。
 - ツールヒントを非表示にするには、「ツールヒントを表示」チェックボックスをオフにします。

ツールバーのコマンドを追加または削除するには

- 1 ツール／ユーザー設定を選択します。
- 2 「コマンド」タブのツールバーを編集リストで、編集するツールバーを選択します。

ボタンの追加または削除：

- ツールバーにコマンドを追加するには、追加するコマンドを選択し、「ツールバーにツールを追加」をクリックします。「ツールを上に移動」と「ツールを下に移動」を使用して、コマンドをツールバーに配置します。

- ツールバーのコマンドの後にセパレーターを追加するには、ツールバーでコマンドを選択し、「ツールバーに区切りを追加」をクリックします。「ツールを上に移動」と「ツールを下に移動」を使用して、セパレーターをツールバーに配置します。
- ツールバーからコマンドまたはセパレーターを削除するには、コマンドまたはセパレーターを選択し、「ツールバーからツールを削除」をクリックします。

3 「閉じる」をクリックします。

ツールバーのコマンドをデフォルトにリセットするには

- 1 ツール／ユーザー設定を選択します。
- 2 「コマンド」タブのツールバーを編集リストで、リセットするツールバーを選択します。
- 3 「ツールバーをデフォルトにリセット」をクリックします。

注意：ユーザーが作成したツールバーはリセットできません。

オブジェクトのツールヒントをカスタマイズするには

フォームデザインの作業中に、オブジェクトの位置、サイズ、名前を示すツールヒントを表示できます。

- ツールヒントの位置を表示 / 非表示にするには、ツール／オプション／ワークスペースを選択し、「編集中に位置とサイズのツールヒントを表示」を選択または選択解除した後、「OK」をクリックします。
- オブジェクトのツールヒントを表示 / 非表示にするには、ツール／オプション／ワークスペースを選択し、「オブジェクトをポイント時にオブジェクト名のツールヒントを表示」を選択または選択解除した後、「OK」をクリックします。

関連項目

- 10 ページの「[レイアウトエディター](#)」
- 17 ページの「[描画ツールパレット](#)」
- 627 ページの「[描画ツールパレットメニュー](#)」
- 332 ページの「[オブジェクトの整列とサイズ調整](#)」

ライブラリパレットの管理

オブジェクトライブラリパレット

このパレットでは、カテゴリの追加、既存のカテゴリの名前変更、カテゴリ間でのオブジェクト移動、パレットからのカテゴリ削除を実行できます。また、独自のオブジェクトを作成してカテゴリに追加することもできます。各カテゴリは、ファイルシステムのフォルダーに対応しています。

オブジェクトライブラリパレットにカテゴリを追加するには

- 1 オブジェクトライブラリパレットメニューの「グループの追加」を選択します。
- 2 カテゴリ名を入力し、「OK」をクリックします。オブジェクトライブラリパレットにカテゴリを追加すると、ファイルシステムにフォルダーが作成されます。



新しいフォルダーの場所を表示するには、オブジェクトライブラリパレットのカテゴリをクリックして、オブジェクトライブラリパレットメニューの「グループプロパティ」を選択します。「場所」ボックスにフォルダーの場所が表示されます。

オブジェクトライブラリパレットからカテゴリを削除するには

- 1 カテゴリメニューの「グループの削除」を選択します。
- 2 次のいずれかのタスクを実行します。
 - カテゴリを削除する場合は、「カテゴリとそのすべてのオブジェクトを削除」を選択します。
 - カテゴリを削除して、オブジェクトを別のカテゴリに移動する場合は、「カテゴリを削除し、オブジェクトを移動:[カテゴリ名]」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

オブジェクトをオブジェクトライブラリパレットの別のカテゴリに移動するには

- ❖ オブジェクトライブラリパレットで、移動するオブジェクトを右クリックして、オブジェクトの移動先/[カテゴリ名]を選択します。
オブジェクトの追加と削除が可能なカテゴリだけが表示されます。

オブジェクトライブラリパレットの表示をカスタマイズするには

- ❖ 以下の操作のいずれかまたは両方を実行します。
 - アイコンのサイズを変更するには、カテゴリメニューで表示/[アイコンサイズ]を選択します。
 - アイコンをソートするには、カテゴリメニューで表示/リストを選択します。

オブジェクトライブラリパレットのカテゴリについて権限を設定するには

- 1 カテゴリメニューの「グループプロパティ」を選択します。
- 2 次のいずれかのタスクを実行します。
 - オブジェクトをカテゴリに追加できるようにするには、「オブジェクトの追加を許可する」を選択します。
 - オブジェクトをカテゴリから削除できるようにするには、「オブジェクトの削除を許可する」を選択します。
 - カテゴリにあるオブジェクトを変更できるようにするには、「オブジェクトの変更を許可する」を選択します。

オブジェクトライブラリパレットにオブジェクトを追加するには

- 1 オブジェクトライブラリパレットで、オブジェクトの保存先とするカテゴリを選択します。
- 2 オブジェクトをオブジェクトライブラリパレットにドラッグします。
- 3 ライブラリオブジェクトの追加ダイアログボックスに、オブジェクトの名前を入力します。
- 4 (オプション) オブジェクトの説明を入力します。
- 5 「OK」をクリックします。

同一名のオブジェクトがこのカテゴリに存在する場合は、既存のオブジェクトを置き換えるかどうかを確認するプロンプトが Designer に表示されます。

グループプロパティダイアログボックスで、一部のカテゴリについて、オブジェクトの追加、削除または変更の禁止が設定されている場合があります。新しいオブジェクトの追加が禁止されているカテゴリの場合、オブジェクトは、オブジェクトを最初に受け入れたカテゴリに追加されます。

オブジェクトライブラリパレットからオブジェクトを削除するには

- 1 オブジェクトライブラリパレットで、オブジェクトの保存先とするカテゴリを選択します。
- 2 オブジェクトを右クリックして、「オブジェクトをライブラリから削除」を選択します。
グループプロパティダイアログボックスで、一部のカテゴリについて、オブジェクトの追加、削除または変更を禁止するように設定されている可能性があります。カテゴリで禁止されている場合は、オブジェクトを削除できません。

- 3 オブジェクトの削除を確認するプロンプトが表示されたら、「はい」をクリックします。オブジェクトがファイルシステムから削除されます。

オブジェクトライブラリパレットのオブジェクトの名前を変更するには

- 1 オブジェクトライブラリパレットで、オブジェクトの保存先とするカテゴリを選択します。

- 2 オブジェクトを右クリックして、「オブジェクト情報」を選択します。

グループプロパティダイアログボックスで、一部のカテゴリについて、オブジェクトの追加、削除または変更を禁止するように設定されている可能性があります。カテゴリで禁止されている場合は、オブジェクトを削除できません。

- 3 「名前」ボックスに新しい名前を入力します。
- 4 (オプション)「説明」ボックスに説明を入力します。
- 5 「OK」をクリックします。

同一名のオブジェクトがこのカテゴリに存在する場合は、既存のオブジェクトを置き換えるかどうかを確認するプロンプトが Designer に表示されます。

オブジェクトライブラリパレットのオブジェクトをデフォルトに戻すには

Designer では、お気に入り、標準、バーコードおよびカスタムのカテゴリにあるオブジェクトを、デフォルトのオブジェクトに戻すことができます。

重要：オブジェクトを元に戻すと、Designer のオブジェクトがすべて元に戻されます。削除したオブジェクトが元に戻されたり、元のオブジェクトと同じ名前のオブジェクトがすべて上書きされたりします。

❖ 以下の操作のいずれかまたは両方を実行します。

- すべてのカテゴリのオブジェクトを一度にデフォルトに戻すには、オブジェクトライブラリパレットメニューで「すべてのグループでオブジェクトをデフォルトに戻す」を選択します。
- 1つのカテゴリのオブジェクトをデフォルトに戻すには、お気に入り、標準、カスタムおよびバーコードのカテゴリのうちいずれかを選択します。その後カテゴリメニューで、「[カテゴリ名] オブジェクトをデフォルトに戻す」を選択します。

他のフォーム作成者やフォーム開発者とオブジェクトライブラリパレットのカテゴリを共有するには

オブジェクトライブラリパレットのオブジェクトは、他のフォーム作成者やフォーム開発者がアクセスできる共有フォルダーまたは Web フォルダーに配置して共有できます。

- 1 他のフォーム作成者やフォーム開発者がアクセスできる共有フォルダーまたは Web フォルダーを作成します。
- 2 共有するオブジェクトライブラリパレットの各カテゴリについてサブフォルダーを作成します。
- 3 既存の場所から新しい場所にオブジェクトをコピーします。
- 4 Designer で、オブジェクトライブラリパレットで共有するカテゴリを選択します。
- 5 オブジェクトライブラリパレットメニューの「グループプロパティ」を選択します。
- 6 「場所」ボックスに、手順 2 で作成した新しいカテゴリサブフォルダーの場所を入力または参照します。
- 7 「OK」をクリックします。
- 8 各カテゴリについて手順 4 ～ 7 を繰り返します。

他のフォーム作成者やフォーム開発者とオブジェクトライブラリを共有するには

オブジェクトライブラリのカテゴリとオブジェクトは、他のフォーム作成者やフォーム開発者がアクセスできる共有フォルダーまたは Web フォルダーに配置して共有できます。

既存のライブラリを使用して共有ライブラリを作成するには

- 1 既存のライブラリに対してカテゴリとオブジェクトの追加と削除を実行して、共有ライブラリで表示させる構造を作成します。
- 2 各カテゴリについて、オブジェクトライブラリパレットメニューの「グループプロパティ」を選択し、適切なユーザー権限を設定します。
- 3 Designer がインストールされているディレクトリの Objects フォルダを指定し、この Objects フォルダとこれに属するすべてのサブフォルダを、フォーム作成者や開発者がアクセスできる共有フォルダまたは Web フォルダにコピーします。
- 4 混乱しないように、Objects フォルダにある LocalLibrary.xml ファイルの名前を変更します。例えば、名前を SharedLibrary.xml に変更します。
- 5 25 ページの「[共有ライブラリを追加するには](#)」の手順に従い、共有ライブラリを Designer に追加します。

既存のライブラリを使用せずに共有ライブラリを作成するには

- 1 フォーム作成者や開発者がアクセスできる共有フォルダまたは Web フォルダを作成します。
- 2 共有フォルダ内で、共有するライブラリの各カテゴリについてサブフォルダを作成します。
- 3 既存の場所から新しい共有場所にライブラリオブジェクトをコピーします。



ライブラリ内のオブジェクトまたはカテゴリの現在の場所を表示するには、オブジェクトライブラリパレットのカテゴリをクリックして、カテゴリメニューから「グループプロパティ」を選択します。「場所」ボックスにフォルダの場所が表示されます。

- 4 フォームで、新しいオブジェクトライブラリファイルを作成します。**Category_name** はオブジェクトライブラリパレットのカテゴリタイトルとして表示される名前を、**folder** はそのカテゴリのオブジェクトが含まれるフォルダの場所または相対パスを示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<objectLibraryTabSet>
  <tab name="Category_name" directory="folder" permission="adm"/>
  <tab name="Category_name" directory="folder" permission="adm"/>
  .
  .
  .
</objectLibraryTabSet>
```

- 5 新しいオブジェクトライブラリファイルを .xml というファイル名拡張子を付けて共有フォルダのルートに保存します。
- 6 25 ページの「[共有ライブラリを追加するには](#)」の手順に従い、共有ライブラリを Designer に追加します。

共有ライブラリを追加するには

- 1 オブジェクトライブラリパレットメニューで「共有ライブラリの場所」を選択します。
- 2 「場所」ボックスに、追加する共有ライブラリ用のオブジェクトライブラリファイルが格納されている共有フォルダの名前を入力または参照します。
- 3 「OK」をクリックします。

フラグメントライブラリパレット

フラグメントライブラリでの表示は、フラグメント名の一覧表示にしたり、ファイル名などの詳細表示にしたりできます。また、選択したフラグメントのプレビューを表示することもできます。選択したフラグメントのプレビューは、フラグメントライブラリパレットの最下部に表示されます。

フラグメントライブラリは、ファイルシステム上でフォルダーとなっています。フラグメントライブラリを作成または削除するには、フォルダーを作成または削除します。フラグメントライブラリを作成したら、Designer で開くことができます。

フラグメントライブラリを開くには

- 1 フラグメントライブラリパレットメニューで「フラグメントライブラリを開く」を選択します。
- 2 フラグメントライブラリを選択します。
 - スタンドアロンバージョンの Designer を使用している場合は、フラグメントライブラリに対応するフォルダーを選択します。
 - Workbench に統合されている Designer を使用している場合は、フラグメントライブラリに対応する LiveCycle アプリケーションのフォルダーを選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

フラグメントライブラリパレットの表示を設定するには

- ❖ フラグメントライブラリパレットメニューで表示を設定します。
 - フラグメントをリストとして表示するには、表示／リストを選択します。
 - フラグメントを詳細リストとして表示するには、表示／詳細を選択します。

選択したフラグメントをプレビューするには

- ❖ フラグメントライブラリパレットメニューで「プレビューペインを表示」を選択します。

フォームデザインの作成手順

フォームデザイン作成の基本的な手順

Designer を使用してフォームデザインを作成する基本的な手順は、以下のとおりです。

- フォームデザインを計画する
- フォームデザインを作成する
- フォームデザインを保存する
- フォームデザインをプレビューし、テストする
- フォームデザインを発行する
- フォームを配布する

フォームデザインを計画する

フォームデザインを計画するときは、以下の点を考慮してください。

データ取得の要件 収集または配布することが望ましいデータと、それを取得し処理する方法を検討します。すべてのデータを手作業で入力するか、データがあらかじめフォームに入力されるようにするかを判断します。

データに関連付ける演算またはスクリプトと、それを実行する場所（クライアント、サーバー、またはクライアントとサーバーの両方） サーバー上でスクリプトが実行できるのは、Forms または Adobe® LiveCycle® Output 11 を使用してフォームを作成している場合のみです。

セキュリティ要件 テキストを開く操作や、印刷、コピーまたは署名などを実行する際に、ユーザーにパスワードを要求するかどうかを判断します。552 ページの「[セキュリティの設定](#)」、309 ページの「[パスワードフィールドの使用](#)」および 314 ページの「[署名フィールドの使用](#)」を参照してください。

ユーザーのニーズの決定 フォームを使用するユーザーのニーズを満たすことが、デザインの主目的です。目的が明確なほど、フォームデザインが向上します。

フラグメントのライブラリの作成 ロゴ、ヘッダー、住所ブロック、フッターなどの、フォームデザイン間で共有できるフラグメントの作成を検討します。

- FormCalc 言語を使用するか JavaScript 言語を使用するかを判断します。
- フォームに適用するセキュリティオプションを検討します。
- 必要に応じて、アクセシビリティの基準を設定します。

フォームの利便性の考慮 フォームを計画するとき、利便性のあるデザインを考慮します。次の点について考慮してください。

- フォームは、使用しやすいものにする必要があります。明確で意味のあるキャプションを付けてレイアウトを簡潔にすると、フォームがよりわかりやすくなります。フォームでは、ユーザーの入力を検証し、ユーザーのデータ入力を支援するメッセージを表示できます。Forms が使用可能な場合は、マージされたデータを使用して、情報の一部を前もって入力しておくことができます。スクリプティングの知識がある場合は、スクリプトを作成することにより、ユーザーがボタンをクリックするとデータおよびフォームが自動的に処理または転送されるように設定できます。
- フォームは、障害のあるユーザーが使用しやすいものにする必要があります。

537 ページの「[アクセシブルなフォームについて](#)」および 77 ページの「[タブの順序](#)」を参照してください。

フォームデザインを作成する

フォームデザインはいくつかの方法で作成できます。空のフォーム、テンプレートまたは PDF 文書から作成を開始できます。Designer で初めてフォームデザインを作成する場合は、チュートリアル of のいずれかを参照したり、Designer と共にインストールされているサンプルフォームのいずれかを参照したりすることをお勧めします。

サンプルフォームから始める

チュートリアルを参照する以外に、Designer と共にインストールされているサンプルフォームのいずれかを参照する方法があります。サンプルフォームには、簡単なものから複雑なものまで、様々なフォームデザイン技術が示されています。Designer には完全なサンプルがいくつか用意されていて、それぞれフォームデザイン、サンプルデータ、(スキーマ)、最終版のフォームがセットになっています。作成するフォームの要件に適したサンプルフォームがある場合は、そのサンプルフォームを作業の出発点として使用します。サンプルフォームについては、サンプルフォームスニペットとフォームの「Sample Forms」を参照してください。

フォームデザインをテンプレートに基づいて開始し、必要に応じて変更できます。テンプレートマネージャーには様々なサンプルテンプレートが含まれています。

フォームデザインを作成する際の考慮点

フォームデザインを作成する際は、フォームに固有の詳細情報を考慮する必要があります。フォームデザインの作業時には、次の表に示す項目を記録しておくことをお勧めします。

項目	仕様
ページのサイズと向き（マスターページ用）	ページサイズ（A4 など） ページの向き（縦など）
ロゴとグラフィック	必要なファイル形式（TIF など）
フォームのプロパティ	フォームのタイトルをフォームのプロパティに保存（する / しない） ロケール設定（ビューアのシステムロケールなど） デフォルトのスクリプト言語（JavaScript など）
アクセシビリティ	オブジェクトに必要なツールヒント（ツールヒントが必要なオブジェクトを指定） スクリーンリーダーの優先順位（ツールヒントなど）
タブの順序	設定（左から右など）
共通のフォントと描画のプロパティ	線の太さ（すべての線を同じ太さにするなど） すべてのキャプション（同じ書体とサイズ） すべてのデータ値（同じ書体とサイズ）
オブジェクトのプロパティ	フィールドの境界線と背景色（設定する / しない） 入力可能領域の背景色（RGB 値など） フィールド名（「フィールド名」リストを参照するなど）
フォーム情報	必須入力フィールド（フィールドを指定） 必須フィールドへの入力を促すメッセージ（必要なメッセージを指定）

関連項目

31 ページの「[Workbench でのフォームの作成](#)」

31 ページの「[テンプレート、サンプルまたは既存のフォームに基づくフォームの作成](#)」

5 ページの「[フォームデザインのレイアウト](#)」

フォームデザインを保存する

作業中にフォームデザインを保存します。

Workbench に統合されている Designer の場合、フォームデザインは LiveCycle アプリケーションに保存され、同じサーバーにログインしている他のユーザーも使用できるようになります。スタンドアロンバージョンの Designer の場合、フォームデザインは現在の名前で現在の場所に保存されます。

関連項目

37 ページの「[Acrobat および Adobe Reader 用フォームの保存](#)」

487 ページの「[データソースの操作](#)」

フォームデザインをプレビューし、テストする

フォームデザインの表示と動作が意図したとおりであることを確認するため、フォームデザインをプレビューしテストします。

作業中は「PDF プレビュー」タブでフォームデザインをプレビューします。フォームデザインをプレビューすると、フォームが Designer によって PDF ファイルとしてレンダリングされます。107 ページの「[PDF プレビュータブでフォームをプレビューし、テストするには](#)」を参照してください。

フォームのテストにはサンプルデータを使用できます。サンプルデータを使用してフォームをテストすると、データとフィールドがマップされていること、および繰り返しサブフォームが指定どおりに繰り返されることを確認できます。サンプルデータファイルを作成しなくても、フォームをプレビューしテストするためのサンプルデータを自動的に生成できます。繰り返しサブフォームまたは繰り返しサブフォームセットが含まれているフォームの場合は、フォームのプレビュー時にデータを繰り返す回数を指定できます。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。

フォームで印刷するサンプルデータを生成することにより、フォームがどのように印刷されるかを確認することもできます。繰り返しサブフォームまたは繰り返しサブフォームセットが含まれているフォームの場合は、フォームの印刷時にデータを繰り返す回数を指定できます。74 ページの「[サンプルデータを使用してフォームを印刷するには](#)」を参照してください。

関連項目

107 ページの「[インタラクティブフォームのプレビューオプションを設定するには](#)」

108 ページの「[非インタラクティブフォームのプレビューオプションを設定するには](#)」

フォームを発行する

この機能は、スタンドアロンバージョンの Designer でのみ使用できます。

共有フォルダーや Web フォルダーにフォームを発行すると、他のユーザーやアプリケーションがフォームにアクセスできるようになります。フラグメント、画像またはその他のリソースへのリンクがフォームデザインに含まれている場合は、ファイルの新しい場所が反映されるようにそれらのリンクが変更されます。フォーム内のすべてのファイルが単一のフォルダーにコピーされます。

Workbench の外部で作業している場合、リポジトリに発行するには、ファイルシステム上に Web フォルダーを設定し、LiveCycle リポジトリ内の該当場所にマッピングします。

関連項目

38 ページの「[LiveCycle リポジトリへの発行](#)」

38 ページの「[リポジトリへのフォームの発行](#)」

フォームを配布する

この機能は、スタンドアロンバージョンの Designer でのみ使用できます。

Acrobat 8 以降を使用している場合、Acrobat 配布ウィザードを使用して、PDF フォームを複数の受信者に送信できます。このウィザードは、Designer のファイルメニューから使用できます。

関連項目

37 ページの「[フォームの配布](#)」

第3章：フォームデザインの作成

作成、開く、保存

フォームの作成

フォームデザインは、オブジェクトライブラリからレイアウトエディターにオブジェクトをドラッグすることで作成できます。または、XML スキーマで定義されたオブジェクトをレイアウトエディターにドラッグすることもできます。

Designer でフォームを作成するプロセスは、スタンドアロンバージョンの Designer と Workbench に統合されている Designer では異なります。

スタンドアロンバージョンの Designer でのフォーム作成

Designer を起動すると、新規フォームを作成するか、テンプレートから新規フォームを作成するか、既存のフォームを開くかを選択するようメッセージが表示されます。サンプルフォームを調べることもできます。「新規フォーム」または「テンプレートから新規フォームを作成」オプションを選択すると、新規フォームアシスタントが表示されます。

新規フォームアシスタントでは、一連の手順に従って、作成するフォームデザインまたはテンプレートのタイプ、ユーザーによる入力の方法、および情報の返送方法を選択します。

新規フォームアシスタントを使用できないようにすることもできます。

Acrobat 8 以降を使用している場合、Acrobat 配布ウィザードを使用して、PDF フォームを複数の受信者に送信できます。このウィザードは、Designer のファイルメニューから利用できます。ウィザードを使用してフォームを送信すると、フォーム発信者の ID がフォーム受信者に承認され、受信者が入力済みのフォームを返送するときにデータを暗号化します。また、フォームに使用権限を追加し、フォーム入力者が Adobe Reader でフォームを保存できるようにします。

新規フォームアシスタントを使用してフォームデザインを作成するには

- 1 ファイル／新規を選択します。新規フォームアシスタントが表示されます。
- 2 はじめにパネルで、新規フォームの作成方法を選択し、「次へ」をクリックします。
- 3 画面上の指示に従ってフォームを作成します。
- 4 フォームに名前を付けて保存します。

新規フォームアシスタントを使用しないでフォームデザインを作成するには

- 1 ファイル／新規を選択します。新規フォームアシスタントが表示されます。
- 2 「アシスタントを使用しない」をクリックします。アシスタントオプションダイアログボックスが表示されます。
- 3 新規フォームアシスタントを使用しないオプションを設定し、「OK」をクリックします。新規ダイアログボックスが表示されます。
- 4 「空白」タブでアイコンをクリックしてページサイズを選択し、「OK」をクリックします。名称未設定のフォームデザインが作成されます。

 ページ全体、ページの実際のサイズ、ページの幅に等しい領域を表示するには、ツールバーの「100% 表示」、「全体表示」、「幅に合わせる」をクリックします。現在のズーム設定は、ツールボックスにも表示されます。

空白のフォームから始めるには

- ❖ ツールバーの新規ボタン  をクリックします。

Workbench でのフォームの作成

Workbench では、Form Design パースペクティブで LiveCycle アプリケーションの XDP および PDF フォームを作成して管理します。作成したフォームは Designer に表示され、そこでフォームデザインのレイアウトやオブジェクトの追加を行うことができます。Workbench には、フォームデザインの先頭ページの画像がタブに表示されますが、フォームのすべての編集は Designer で行います。

フォームデザインを作成したら、データモデル、データ送信方法、Acrobat または Adobe Reader のバージョンおよびフォームの種類を指定できます。また、フォームに関する Adobe Reader の機能（コメント、電子署名、暗号化など）を選択することもできます。

1 Designer または Workbench を使用して、フォームデザインを作成します。

- Designer では、ファイル／新規をクリックします。
- Workbench では、File / New / Form を選択します。

2 画面上の指示に従い、最後に「完了」(「Finish」) をクリックします。

テンプレート、サンプルまたは既存のフォームに基づくフォームの作成

スタンドアロンバージョンの Designer でも Workbench に統合されている Designer でも、テンプレート、サンプルまたは既存のフォームに基づいてフォームを作成することができます。

1 フォームデザインの基にするテンプレート、サンプル、または既存のフォームを開きます。

2 ファイル／別名で保存を選択します。

3 フォームデザインを保存する場所に移動します。

4 「ファイル名」ボックスに、フォームデザインのファイル名を入力します。

注意：前のバージョンの **Designer** で作成されたテンプレートを使用してフォームを作成する場合は、「互換性」タブ（フォームのプロパティダイアログボックス）を使用して、テンプレートをバージョン 7 用に更新することができます。

ガイド用のモデルとしてのフォームの使用

注意：ガイドは推奨されていません。

Designer の PDF または XDP フォームデザインを、Workbench でガイドを作成するためのモデルとして使用できます。LiveCycle の以前のリリースで作成したフォームガイドが既にある場合は、Guide Builder でそのフォームを開き、Guide Builder に既存のガイド定義を読み込むことができます。詳しくは、[XDP または PDF フォームに基づくガイド](#)を参照してください。

注意：PDF ファイルをアートワークとして読み込むことで作成したフォームデザインに基づいてガイドを作成することはできません。

PDF の読み込みによるフォームの作成

PDF 文書を読み込んで新規フォームデザイン作成の基にすることができます。詳しくは、132 ページの「[PDF ファイルの読み込み](#)」を参照してください。

スタンドアロンバージョンの Designer でも Workbench に統合されている Designer でも、PDF 文書を読み込んでフォームを作成することができます。

Acrobat などのアプリケーションで作成した PDF フォームがある場合は、それを背景のアートワークとして読み込むことができます。読み込んだ後でオブジェクトを追加し、インタラクティブな PDF フォームにすることもできます。

PDF フォームデザインを作成している場合は、Adobe および Acrobat Reader の対象バージョンを選択できます。対象バージョンを選択すると、オブジェクトがそのバージョンに適していない場合を確認できます。

関連項目

39 ページの「[テンプレートの作成と管理](#)」

132 ページの「[ドキュメントの読み込み](#)」

4 ページの「[フォームについて](#)」

126 ページの「[フォームのガイドライン](#)」

Acrobat および Adobe Reader で使用するフォームを作成する際の考慮点

Acrobat または Adobe Reader で開いて入力するフォームを作成する場合は、次の点に注意してください。

- ユーザーがどのバージョンの Acrobat および Adobe Reader を使用してフォームに入力するかを考慮します。Designer で Adobe Reader および Acrobat の対象バージョンを設定すると、互換性のあるフォームデザインの作成に役立ちます。37 ページの「[対象となる Acrobat および Adobe Reader のバージョンの選択](#)」を参照してください。
- Acrobat では、フォーム入力、ローカル保存、電子署名、レビューとマークアップ、データベース呼び出しと Web サービス呼び出し、印刷などの完全なインタラクティブ機能がサポートされています。
- Adobe Reader では、サポートされている機能が Acrobat よりも少なくなります。ユーザーは、フォームへの入力、フォームの印刷、場合によってフォームの送信をすることができます。Adobe Reader の機能を拡張して Acrobat の機能と同等にするには、Adobe® LiveCycle® Reader® Extensions 10 を使用してフォームに使用権限を設定する必要があります。詳しくは、561 ページの「[PDF セキュリティオプションの使用](#)」を参照してください。
- Acrobat および Adobe Reader では、インタラクティブ PDF フォームのためのクライアントサイドデータ交換処理がサポートされています。
- ダイナミックレンダリングや実行時のフォームの再表示などのサーバーサイドデータ処理は、Forms を介して使用できます。詳しくは、577 ページの「[Forms 用のフォームのデザイン](#)」を参照してください。

関連項目

126 ページの「[フォームのガイドライン](#)」

37 ページの「[フォームの配布](#)」

フォームの詳細の追加

フォームデザインまたはテンプレートについての詳細（ファイルの説明や作成者名など）を、フォームデザインまたはテンプレートに追加できます。フォームのプロパティ／「PDF セキュリティ」タブの「文章メタデータを暗号化しない」を選択して、詳細情報をメタデータとして PDF フォームと共に保存することもできます。保存したメタデータは、Acrobat や検索ユーティリティなど、他の Adobe アプリケーションで利用できます。Acrobat では、ドキュメントのプロパティダイアログボックスの「概要」タブにメタデータが表示されます。

著作権 URL などのカスタムプロパティをフォームに追加することもできます。

Acrobat では、メタデータは、ドキュメントのプロパティダイアログボックスの「カスタム」タブに表示されます。

一部の大文字と小文字が区別されるキーワードはプロパティ名のために予約されています。

- Title
- CreationDate
- Creator
- Producer
- Subject

- Keywords
- ModDate
- Trapped
- Author

フォームに関する情報を追加するには

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「情報」タブに情報を入力します。「情報」タブ内の項目の完全なリストと説明については、652 ページの「[情報（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。
- 3 他のアプリケーションで使用できるように情報を埋め込みます。
 - 「PDF セキュリティ」タブをクリックします。
 - 「権限」領域で、「文章の印刷および編集とセキュリティ設定にパスワードが必要」を選択し、必要なセキュリティ設定を選択します。

カスタムプロパティを追加するには

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「情報」タブのカスタムプロパティボックスで、「追加」ボタンをクリックします。
- 3 プロパティの名前を入力し、Enter キーを押します。
- 4 プロパティの値を入力し、Enter キーを押します。
- 5 追加するプロパティごとに、手順 4 と手順 5 を繰り返します。
- 6 「情報」タブ内の項目の一覧と説明については、652 ページの「[情報（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。
- 7 他のアプリケーションで使用できるように情報を埋め込みます。
 - 「PDF セキュリティ」タブをクリックします。
 - 「権限」領域で、「文章の印刷および編集とセキュリティ設定にパスワードが必要」を選択し、必要なセキュリティ設定を選択します。

カスタムプロパティを削除するには

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「情報」タブのカスタムプロパティボックスで、プロパティを選択し、「削除」ボタンをクリックします。

PDF タイトルバーに文書タイトルを追加するには

デフォルトでは、Adobe Reader または Adobe Acrobat のタイトルウィンドウの PDF 出力文書にはファイル名が表示されます。静的 XFA フォームの文書タイトルを PDF タイトルバーに追加できます。ユーザーが PDF を開くと、文書のタイトルがウィンドウのタイトルバーに表示されます。

- 1 文書の XML ソースを開くには、ビュー／XML ソースを選択します。

XML に次のタグがあることを確認してください：

```
<?originalXFAVersion http://www.xfa.org/schema/xf-a-template/3.3/ ?>
```

- 2 タグが存在する場合は、「DisplayDocTitle:1?」をタグに追加します。追加後のタグは次のようになります：

```
<?originalXFAVersion http://www.xfa.org/schema/xf-a-template/3.3/ DisplayDocTitle:1?>
```

タグが存在しない場合は、「DisplayDocTitle:1?」とともにタグを追加します。

```
<?originalXFAVersion http://www.xfa.org/schema/xf-a-template/3.3/ DisplayDocTitle:1?>
```

注意：このタグを他の処理指示形式とともに追加する必要があります。次の親ノードで：

```
<template xmlns="http://www.xfa.org/schema/xf-a-template/3.6/">
```

3 文書を保存します。

PDF フォームに対するユーザー権限を設定するには

Designer で出力された PDF フォームへアクセス、印刷および編集するための、ユーザー権限を設定できます。

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「PDF セキュリティ」タブで、「文章の印刷および編集とセキュリティ設定にパスワードが必要」を選択し、必要なセキュリティ設定を選択します。

関連項目

561 ページの「[PDF セキュリティオプションの使用](#)」

フォームの保存

フォームを保存するときには、ユーザー側のフォームの使用方法に適したファイル形式を選択する必要があります。フォームは PDF ファイルまたは XDP ファイルとして保存することができます。ファイルタイプには、それぞれ異なる用途があります。

Adobe スタティック PDF フォーム (*.pdf) 指定した Acrobat および Adobe Reader の対象バージョンに基づいて、フォームをスタティック PDF 形式で保存します。スタティック PDF フォームは 1 回だけレンダリングされ、クライアント上で対象バージョンの Acrobat または Adobe Reader によって表示されます。スタティック PDF フォームは、ユーザーの操作に応じてレンダリングされるものではありません。PDF フォームは編集可能なレイアウトを使用してデザインされている場合がありますが、スタティック PDF フォームを作成すると、そのレイアウトは固定され、結果の PDF フォームはクライアント上ではレンダリングされません。スタティック PDF フォームには、インタラクティブなものそうでないものがあります。

Acrobat ダイナミック XML フォーム (*.pdf) Acrobat および Adobe Reader の対象バージョンに基づいて、フォームをダイナミック PDF 形式で保存します。このフォームデザインには、ダイナミックな要素を含めることができます。ダイナミック PDF フォームは、クライアント上で Adobe Reader によってレンダリングされ、エンドユーザーの操作に応じて、クライアント上で複数回レンダリングできます。Adobe Reader は最終的な出力のレンダリングに十分な情報を持っているので、オブジェクトの表示に対する変更を Adobe Reader で行うことができます。例えば、オブジェクトの色を変更したり、ページ番号を変更したり、オブジェクトの表示と非表示を切り替えたりすることができます。エンドユーザーがボタンをクリックしてテーブルに新しい行を追加した場合、そのフォームは Adobe Reader でレンダリングされます。

Adobe XML フォームファイル (*.xdp) 新規フォームのデフォルトのファイル形式を、Designer で作成される固有の XML ベースファイル形式に設定します。Forms を使用する場合は、このオプションを使用します。

Designer テンプレート (*.tds) 基本的なフォームの構造をテンプレートとして保存します。フォント、ページレイアウト、書式、スクリプトなど、コンポーネントや設定を含めることができます。新規フォームを作成する際のベースとして使用できます。

Workbench に統合されている Designer では、ファイルはローカルシステムの Workbench フォルダーに保存されます。

- Windows® XP を使用している場合、Workbench フォルダーは ¥Documents and Settings¥<user name> にあります。
- Windows Vista® を使用している場合、Workbench フォルダーは ¥Desktop¥<user name> にあります。

フォームを保存した後で、フォームおよび参照ファイルを Workbench にチェックインします。

フォームデザインの保存

フォームデザインを保存する場合、現在の名前で現在の場所に保存することも、名前や場所を変更してコピーとして保存することもできます。

Workbench に統合されている Designer では、フォームデザインは Workbench のアプリケーションに保存されます。アプリケーションに保存したフォームデザインは、同じサーバーにログオンしている他のユーザーにも利用できます。フォームデザインを Designer で保存すると、Workbench の対応するフォーム画像が更新されます。フォームを保存した後で、フォームおよび参照ファイル（フラグメントや画像など）を Workbench にチェックインします。

フォームデザインは、いくつかの形式で保存できます。Designer で保存した PDF フォームは、Designer でのみ編集できます。

❖ フォームデザインを保存するには、次のいずれかの操作を行います。

- ファイル／保存を選択します。
- ツールバーの保存ボタン  をクリックします。

注意： Designer と Workbench を使用している場合は、フォームおよび参照ファイルを Workbench にチェックインします。

フォームを Workbench にチェックインするには

- 1 Designer のツールバーで、Workbench に切り替えボタンをクリックします。
- 2 Workbench で、Applications ビューを開きます。
- 3 保存したフォームに移動し、それを右クリックして「Check-in」を選択します。

フォームデザインのコピーを保存するには

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「保存オプション」タブをクリックして、次の保存オプションを設定します。
 - PDF フォームファイル内にアクセシビリティ情報を埋め込むには、「Acrobat 向けにアクセシビリティ情報（タグ）を生成する」を選択します。
 - 保存する PDF フォームファイルのログファイルを作成するには、「保存時にログファイルを生成する」を選択します。ログファイルはフォームと同じディレクトリに保存されます。
 - 保存する PDF フォームファイルにフォームフォントを埋め込むには、「フォントを埋め込む」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。
- 4 ファイル／別名で保存を選択します。
- 5 別の名前でフォームデザインをコピーする場合は、フォームデザインの保存先に移動します。「ファイル名」ボックスに別のファイル名を入力します。
- 6 ファイルタイプを変更する場合は、ファイルの種類リストから、次のオプションのいずれかを選択します。

注意：「保存オプション」領域の上に、フォームの対象バージョンの **Acrobat** および **AdobeReader** を示すメッセージが表示されます。対象バージョンを変更するには、ファイル／フォームのプロパティ／デフォルト／対象バージョン／フォームを実行するバージョンを選択を選択します。

- 7 「保存」をクリックします。

注意：サンプルのフォームデザインとテンプレートが用意されています。これらのサンプルを使用するには、関連する **Readme** ファイルを参照してください。サンプルのフォームデザインは **Designer** のインストールフォルダー内の **JAXSamples** フォルダーにインストールされます。サンプルのテンプレートは **Designer** のインストールフォルダー内の **Templates** フォルダーにインストールされます。テンプレートは、テンプレートマネージャーを使用して表示、管理できます。

関連項目

132 ページの「[ドキュメントの読み込み](#)」

32 ページの「[フォームの詳細の追加](#)」

37 ページの「[対象となる Acrobat および Adobe Reader のバージョンの選択](#)」

フォームを開く

Designer のみを使用して作成または変更したフォームデザイン (XDP)、テンプレート (TDS)、PDF フォームに加えて、その他の形式のファイルも開くことができます。これらの形式について詳しくは、132 ページの「[ドキュメントの読み込み](#)」で説明されています。

注意：**Designer** 以外のアプリケーションを使用して作成した PDF フォームの場合は、読み込む必要があります。

フォームデザイン、テンプレートまたはその他の形式のファイルを開くと、**Designer** では、ファイル内のフォントとコンピュータで利用できるフォントとの照合が行われます。使用できないフォントがファイルに含まれている場合、**Designer** によって、見つからないフォントと推奨置換フォントを示すダイアログボックスが表示されます。推奨された置換フォントをそのまま使用するか、置換フォントを変更することができます。後でファイルを保存するときに、ファイルと一緒に置換フォントを保存するかどうか指定できます。

前のバージョンの **Designer** で作成されたフォームを開く場合は、「互換性」タブ（フォームのプロパティダイアログボックス）を使用して、フォームを最新バージョンに更新することができます。

フォームは、**Designer** または **Workbench** で開くことができます。**Workbench** でフォームを開く場合は、**Applications** ビューで、フォームをダブルクリックします。**Workbench** でフォームを開くと、フォームは **Designer** に表示されます。**Workbench** では、対応するタブにフォームの先頭ページの画像が表示されます。

Workbench を使用しているユーザーは、**Workbench** の画像やフラグメントなどのファイルをローカルシステムと同期させる必要がある場合があります。**Workbench** では、フォームとフラグメントは **Applications** ビューで管理し、画像は **Resources** ビューで管理します。ファイルを同期させるには、ファイルを右クリックし、「同期」を選択します。

- 1 ファイル／開くを選択します。
- 2 フォームデザインが保存されている場所または **Workbench** アプリケーションまで移動し、ファイルを選択して「開く」をクリックします。ご使用のコンピュータにないフォントがファイルに含まれている場合は、見つからないフォントダイアログボックスが表示されます。
- 3 必要に応じて、フォント置換法を選択します。
 - 推奨置換フォントを受け入れるには、「OK」をクリックします。
 - 置換フォントを変更するには、「置換フォントの変更」をクリックします。フォントとフォントスタイルを選択してから「OK」をクリックします。見つからないフォントダイアログボックスで「OK」をクリックします。

注意：このフォントの置き換えは永久的なものではありません。**Designer** では、フォームを開くたびに使用できないフォントをマップする必要があります。フォントを永久的に置き換えるには、ファイルを保存する前に、ファイル／フォームのプロパティ／保存オプションを選択し、「フォントを埋め込む」を選択します。

対象となる Acrobat および Adobe Reader のバージョンの選択

特定の対象バージョンの Acrobat および Adobe Reader で実行されるフォームをデザインできます。選択した対象バージョンでサポートされない機能を使用すると、Designer によって警告メッセージが表示されます。

Acrobat および Adobe Reader の対象バージョンを指定する場合は、保存されている対象バージョンと一致する正しいバージョンの Acrobat がインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合、「PDF プレビュー」タブをクリックしたときにエラーメッセージまたは警告メッセージが表示されます。選択した対象バージョンは、フォームを保存するときに、名前を付けて保存ダイアログボックスの下端にも表示されます。

プレビューでは、保存されているフォームと同じ形式が使用されます。「PDF プレビュー」タブを右クリックすると、現在選択されている形式を確認できます。未保存のフォームの形式を指定するには、ツール／オプション／ドキュメントハンドリングを選択して「新規フォームのデフォルトのファイルタイプ」の設定を変更する必要があります。

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「デフォルト」タブをクリックし、フォームを実行するバージョンを選択リストで、対象となる Acrobat および Adobe Reader のバージョンを選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

関連項目

653 ページの「[デフォルト（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」

Acrobat および Adobe Reader 用フォームの保存

Acrobat と Adobe Reader 用のフォームを作成する場合は、PDF ファイルとして保存する必要があります。Designer で保存した PDF ファイルを編集する場合は、Designer のみを使用してください。

フォームを実行する Adobe Reader または Acrobat の対象バージョンを選択できます。対象バージョンを選択すると、サポートされていない機能を確認できます。37 ページの「[対象となる Acrobat および Adobe Reader のバージョンの選択](#)」を参照してください。

- 1 ファイル／別名で保存を選択します。
- 2 「ファイル名」ボックスにファイルの名前を入力します。
- 3 「ファイルの種類」で、必要な種類を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。

注意：保存された対象バージョンに一致する Acrobat のバージョンがインストールされている必要があります。バージョンが異なる場合には、「PDF プレビュー」タブをクリックしたときにエラーまたは警告メッセージが表示されることがあります。

関連項目

34 ページの「[フォームの保存](#)」

112 ページの「[レポートパレットでの警告メッセージの処理](#)」

112 ページの「[対象バージョンの警告メッセージ](#)」

フォームの配布

この機能は、スタンドアロンバージョンの Designer でのみ使用できます。

Acrobat 8 以降を使用している場合、Acrobat 配布ウィザードを使用して、PDF フォームを複数の受信者に送信できます。このウィザードは、Designer のファイルメニューから使用できます。

Acrobat 配布ウィザードは、フォーム作成者がフォームを配布し、フォームデータを自分のコンピュータでローカルに収集できるように設計されています。ファイル／フォームの配布を選択すると、フォームを配布ウィザードが表示されるので、操作手順ごとのペインに進み、配布するフォームを準備できます。ウィザードを使用してフォームを送信すると、フォーム発信者の ID がフォーム受信者に承認され、受信者が入力済みのフォームを返送するときにデータを暗号化します。また、フォームに使用権限を追加し、フォーム入力者が Adobe Reader でフォームを保存できるようにします。Designer でフォームのデザインを閉じるときに、フォームを配布することを選択できます（フォームのデザインの操作を Acrobat で開始した場合）。

Designer を使用してフォームを配布するには

- 1 フォームを PDF ファイルとして保存します。
- 2 フォームを配布するには、ファイル／フォームの配布を選択します。

フォームの発行

この機能は、スタンドアロンバージョンの Designer でのみ使用できます。

複数のユーザーや別のアプリケーションがアクセスできる共有フォルダーや Web フォルダーに、フォームデザインを発行できます。フォームデザインに外部ファイルへのリンクが含まれている場合は、ファイルの新しい場所が反映されるようにリンクが変更されます。発行先のフォルダーに対する書き込みアクセス権が必要です。権限の設定はネットワーク管理者に依頼してください。

関連項目

34 ページの「[フォームの保存](#)」

LiveCycle リポジトリへの発行

スタンドアロンバージョンの Designer で、LiveCycle リポジトリにある画像やフラグメントなどのリソースを使用する場合は、ファイルシステム上に Web フォルダーを設定し、それをリポジトリにマッピングします。フォームを発行するとき、リソースへのリンクは維持されます。LiveCycle リポジトリにファイルをコピーするには、「リポジトリへ発行」コマンドを使用します。

また、フォームデザインをファイルシステム上に作成することもできます。フォームデザインを完成させるときに、Workbench の Resources ビュー内にある適切なフォルダーにフォルダーおよびサブフォルダーをドラッグ&ドロップできます。

LiveCycle リポジトリに対してファイルの読み込みや書き込みを行うには、LiveCycle へのアクセス権が必要です。必要なアクセス権の設定については、ネットワーク管理者に依頼してください。

リポジトリへのフォームの発行

複数のユーザーや別のアプリケーションがアクセスできる共有フォルダーや Web フォルダーに、フォームとそれにリンクするファイルのコピーを置くことができます。フォームをリポジトリに発行すると、ファイル名、ファイルタイプ、および外部ファイル（画像）への参照に対する変更は、発行したコピーにのみ行われます。フォームに外部ファイルへのリンクが含まれている場合は、フォームとファイルが発行されるときに、ファイルの新しい場所が反映されるようにフォーム内のリストが変更されます。

フォームは PDF または XDP 形式で発行することができます。

- PDF 形式のフォームを発行すると、画像やスキーマなどの情報がフォームに埋め込まれ、外部ファイルは発行フォルダーにはコピーされません。
- XDP 形式のフォームを発行すると、外部参照ファイルへのリンクは相対パスに修正されます。相対パスを使用すれば、複数のフォームが参照できる画像を 1 か所に置くことができ、複数のコピーを持つ必要がありません。

外部リンクファイルが共有フォルダーや Web フォルダーの下フォルダーにない場合、それらのファイルは発行フォルダーにコピーされ、それらのファイルの新しい絶対パスに合わせて XDP ファイル内のリンクが調整されます。

LiveCycle リポジトリにフォームを発行するとき、すべての外部ファイルが Web フォルダーにコピーされます。

リポジトリへフォームを発行するには

- 1 ファイル／リポジトリへ発行を選択します。
- 2 (オプション) ファイルタイプを変更する場合は、ファイルの種類リストで新しいファイルタイプを選択します。
- 3 「保存」をクリックします。

フォームをリポジトリに発行する前に、その他の保存オプションを任意で指定できます。

フォームの発行前に保存オプションを設定するには

- 1 ファイル／フォームのプロパティ／保存オプションを選択し、次の必要な操作を行います。
 - PDF フォームファイル内にアクセシビリティ情報を埋め込むには、「Acrobat 向けにアクセシビリティ情報 (タグ) を生成する」を選択します。
 - 保存する PDF フォームファイルのログファイルを作成するには、「保存時にログファイルを生成する」を選択します。ログファイルはフォームと同じディレクトリに保存されます。
 - 保存する PDF フォームファイルにフォームフォントを埋め込むには、「フォントを埋め込む」を選択します。
- 2 「OK」をクリックします。

テンプレートの作成と管理

テンプレートはフォームデザインの基本構造を提供します。テンプレートには定義済みのファイル作成情報が含まれており、その情報が Designer によってフォームデザインに適用されます。テンプレートには、フォームデザインのページレイアウトと、フォームデザインで使用する各種オブジェクトの定義が含まれています。テンプレートには、複数のフォームデザインで繰り返し使用する可能性がある任意のプロパティを格納できます。テンプレートに格納できる主なプロパティは次のとおりです。

- マスターページレイアウト。ページのレイアウトに反映されます。
- ボイラープレートオブジェクト。設定済みのヘッダーとフッターを含みます。
- 埋め込み画像または埋め込みオブジェクト。ロゴや透かしなど、頻繁に使用されるグラフィックにリンクします。
- 任意のテキスト変数やフローティングフィールド。データ用のプレースホルダーとして使用します。
- 定義済みの式とスクリプト。
- ファイルのプロパティとファイル作成情報。
- 作業を円滑にしたり自動化したりするその他のプロパティ。

関連項目

4 ページの「[フォームについて](#)」

31 ページの「[テンプレート、サンプルまたは既存のフォームに基づくフォームの作成](#)」

テンプレートの作成

テンプレートの作成操作は、フォームデザインの作成操作に非常によく似ています。ただし、テンプレートによるデザインやオプションの設定は、通常、複数のフォームデザインで必要となるレイアウト、ファイル設定および環境設定を対象とします。テンプレートでは、必要に応じて、複数のフォームデザインに適用できる任意のオブジェクトを使用または定義することができます。テンプレートに基づいてフォームデザインを準備すると、必要な作業量が少なくて済むので、多くのフォームデザインに共通するレイアウトとプロパティをテンプレートに含めておくと、時間の節約になります。

テンプレート（TDS）ファイルは、新規フォームアシスタントで簡単に作成できます。新規フォームアシスタントでは、使用するテンプレートのプレビューと選択、連絡先情報の入力、電子メール送信ボタンや印刷ボタンの追加など、テンプレート作成に関わる手順を実行することができます。ただし、新規フォームアシスタントを使いたくない場合には、ツール／テンプレートマネージャーを選択してテンプレートマネージャーダイアログボックスを開き、必要なテンプレートを直接選択できます。

スタンドアロンバージョンの Designer でテンプレートを作成するには

- 1 新規フォームアシスタントを開くには、以下の方法のいずれかを実行します。
 - ファイル／新規を選択します。
 - ツールバーで、新規ボタンの横にある下矢印をクリックし、「新規」を選択します。
- 2 新規フォームアシスタントで「テンプレートを使用」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 3 画面に表示される指示に従い、必要に応じてテンプレートをカスタマイズします。
- 4 ファイル／別名で保存を選択します。
- 5 ファイルの種類リストで「Adobe Designer テンプレート (*.tds)」を選択します。
- 6 「保存」をクリックします。

Designer および Workbench でテンプレートを作成するには

- 1 Designer で、ファイル／新規をクリックします。
- 2 画面に表示される指示に従い、Designer で新規フォームアシスタントを表示し、「テンプレートを使用」を選択します。
- 3 画面に表示される指示に従い、必要に応じてテンプレートをカスタマイズします。
- 4 ファイル／別名で保存を選択します。
- 5 ファイルの種類リストで「Adobe Designer テンプレート (*.tds)」を選択します。
- 6 「保存」をクリックします。

テンプレートの管理

テンプレートマネージャーには Designer に用意されている各種のサンプルテンプレートが表示されます。Designer で作成し使用するテンプレートを追加することもできます。

テンプレートマネージャーは以下のタスクの実行に使用します。

- テンプレートのプレビュー
- フォームデザイン作成のためのデフォルトテンプレートの選択
- テンプレートの追加、削除および名前変更と、グループの追加および削除

テンプレートマネージャーでは、タブの追加または削除、タブ間のテンプレートの移動を実行できます。また、ファイルシステム内で Designer のテンプレートを保存する場所の指定もできます。各タブは、ファイルシステムのフォルダーに対応しています。デフォルトで、テンプレートファイルは Designer の Templates フォルダーに保存されています。

デフォルトで、テンプレートは Designer の Templates フォルダー (¥)A¥Templates) に保存されています。

Designer を開くたびに、アプリケーションによって Templates フォルダーにあるテンプレートファイルが各言語のユーザープロファイルにコピーされます。これは、ディスクの割り当てが制限されている特定のマルチユーザー環境では、問題になる場合があります。ディスク容量を節約するには、テンプレート用の共通ディレクトリを設定します。テンプレート用の共通ディレクトリの設定について詳しくは、http://kb2.adobe.com/jp/cps/524/cpsid_52464.html のテクニカルノートを参照してください。

テンプレートマネージャーにテンプレートを追加するには

- 1 ツール/テンプレートマネージャーを選択します。
- 2 テンプレートを追加するタブをクリックします。
- 3 パレットメニューで「テンプレートの追加」を選択します。
- 4 適切なフォルダーに移動し、追加するテンプレートファイル（TDS）を選択して「開く」をクリックします。テンプレートファイルのコピーがテンプレートマネージャーに追加されます。

テンプレートマネージャーからテンプレートを削除するには

- 1 ツール/テンプレートマネージャーを選択します。
- 2 目的のテンプレートが保存されているタブをクリックします。
- 3 テンプレートを右クリックし、「テンプレートの削除」を選択します。
- 4 テンプレートの削除を確認するプロンプトが表示されたら、「はい」をクリックします。ファイルがコンピューターのファイルシステムから削除されます。

テンプレートマネージャーでテンプレート名を変更するには

- 1 ツール/テンプレートマネージャーを選択します。
- 2 目的のテンプレートが保存されているタブをクリックします。
- 3 テンプレートを右クリックして、「テンプレート名の変更」を選択します。
- 4 別のテンプレート名を入力して、Enter キーを押します。

テンプレートマネージャーでデフォルトテンプレートを指定するには

- 1 ツール/テンプレートマネージャーを選択します。
- 2 目的のテンプレートが保存されているタブをクリックします。
- 3 テンプレートを選択します。
- 4 「選択項目をデフォルトに設定」をクリックします。

テンプレートマネージャーでデフォルトテンプレートに戻すには

テンプレートマネージャーダイアログボックスの「空白」タブと「フォーム」タブにあるデフォルトテンプレートに戻すことができます。

重要：テンプレートを元に戻すと、Designer の「空白」タブと「フォーム」タブに用意されているすべてのテンプレートが元に戻ります。Designer では、見つからないテンプレートはすべて復元され、元のテンプレートと同じ名前のテンプレートはすべて上書きされます。

- 1 ツール/テンプレートマネージャーを選択します。
- 2 「空白」タブまたは「フォーム」タブをクリックします。
- 3 パレットメニューを使用して、「テンプレートをデフォルトに戻す」を選択します。

テンプレートマネージャーにタブを追加するには

テンプレートマネージャーにタブを追加すると、Designer の Templates フォルダーに同じ名前のサブフォルダーが作成されます。

- 1 ツール／テンプレートマネージャーを選択します。
- 2 パレットメニューから「カテゴリの追加」を選択します。
- 3 タブ名を入力してから「OK」をクリックします。

テンプレートマネージャーからタブを削除するには

テンプレートマネージャーからタブを削除すると、Designer の Templates フォルダーから対応するフォルダーが削除されます。

- 1 ツール／テンプレートマネージャーを選択します。
- 2 削除するタブをクリックします。
- 3 パレットメニューから「カテゴリを削除」を選択します。
- 4 タブの削除を確認するプロンプトが表示されたら、以下の操作のいずれかを実行します。
 - 選択したタブとその関連カテゴリフォルダーおよびテンプレートを削除するには、「カテゴリを削除し、そのカテゴリ内にあったテンプレートをすべて削除」を選択します。
 - 選択したタブとその関連カテゴリフォルダーを削除する前にテンプレートを別のタブに移動するには、「カテゴリを削除し、テンプレートを他のカテゴリに移動: [tab name]」を選択して、テンプレートの移動先となるタブをクリックします。
- 5 「OK」をクリックします。

テンプレートをテンプレートマネージャーの別のタブに移動するには

- 1 ツール／テンプレートマネージャーを選択します。
- 2 目的のタブをクリックし、移動するテンプレートを右クリックして、テンプレートの移動先／[tab name] を選択します。

テンプレートファイルの保存場所を指定するには

- 1 ツール／テンプレートマネージャーを選択します。
- 2 目的のタブをクリックします。
- 3 パレットメニューから、「カテゴリプロパティ」を選択します。「テンプレートカテゴリのプロパティ」ボックスに、選択したタブに現在一覧表示されているテンプレートの保存場所が表示されます。

テンプレートマネージャーでの表示をカスタマイズするには

- 1 ツール／テンプレートマネージャーを選択します。
- 2 目的のタブをクリックします。
- 3 パレットメニューで、「表示」を選択し以下の操作のいずれかを実行します。
 - テンプレート名をアイコンとして表示するには、「大きいアイコン」を選択します。
 - テンプレート名を一覧表示するには、「リスト」を選択します。

テンプレートの読み込み

テンプレートファイル (TDS) を Designer に読み込んでテンプレートマネージャーにコピーし、そのテンプレートに基づいて新規フォームを作成したり、そのテンプレートを編集したりできます。

テンプレートを読み込むと、フォームの XML ソースコードに示されているテンプレートフォルダーにコピーが自動的に追加されます。追加先の場所が指定されていない場合は、**Other** という名前のフォルダーに追加されます。読み込まれたテンプレートはテンプレートマネージャーの対応するタブに表示されます。同じ名前のテンプレートがタブ内に既に存在する場合は、既存のファイルを置換するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

1 以下のいずれかの方法で、読み込むテンプレートファイルを開きます。

- ファイル／開くを選択し、目的のフォルダーに移動してテンプレートファイル（TDS）を選択し、「開く」をクリックします。
- Windows エクスプローラーで、テンプレートファイル（TDS）をダブルクリックします。
- テンプレートファイル（TDS）を Windows エクスプローラーから Designer ワークスペース内にドラッグします。

2 テンプレートオプションダイアログボックスで、以下のオプションのいずれかを選択します。

- テンプレートをテンプレートマネージャーに追加するには、「このテンプレートをテンプレートマネージャーにコピー」を選択します。
- テンプレートに基づいて PDF フォームを作成するには、「このテンプレートから新規フォームを作成」を選択します。
- 編集のためにテンプレートを Designer で開くには、「このテンプレートを編集」を選択します。

3 「OK」をクリックします。

テンプレートを基にしたフォームの作成とカスタマイズ

テンプレートファイル（TDS）では、フィールドキャプション、テキストオブジェクトおよびスタティック画像内に、カスタマイズ可能なテキストまたは画像が含まれている場合があります。カスタマイズ可能なテキストまたは画像のあるフィールドが含まれているテンプレートを基にフォームを作成すると、新規フォームマネージャーが開いて、各フィールドに表示される情報を必要に応じて変更することができます。例えば、テンプレートマネージャーではカスタマイズ可能なテキストと画像が含まれているサンプルテンプレートを利用でき、このテキストと画像を各企業の名称、住所、電話番号、ロゴに置き換えることができます。

各フィールドに入力した情報は保存され、次にテンプレートを開いたときに新規フォームアシスタントでの再入力に再利用されます。

スタンドアロンバージョンの Designer でテンプレートを基にしたフォームを作成するには

1 新規フォームアシスタントを開くには、以下の方法のいずれかを実行します。

- ファイル／新規を選択します。
- ツールバーで、新規ボタンの横にある下矢印をクリックし、「新規」を選択します。

2 新規フォームアシスタントで「テンプレートを使用」を選択し、「次へ」をクリックします。

3 画面に表示される指示に従い、必要に応じて新規フォームをカスタマイズします。

4 ファイルに名前を付けて保存します。

Workbench に統合されている Designer でテンプレートを基にしたフォームを作成するには

1 Designer で、ファイル／新規をクリックします。

2 画面の指示に従って、Designer で新規フォームアシスタントを表示します。次に「テンプレートを使用」を選択し、「次へ」をクリックします。

3 画面に表示される指示に従い、必要に応じて新規フォームをカスタマイズします。

4 ファイルに名前を付けて保存します。

ページレイアウト

ページの設定

ページは、フォームデザインを作成するキャンバスに相当します。フォームデザインをレイアウトするには、オブジェクトライブラリパレットにあるテキストフィールドなどのオブジェクトをページにドラッグします。「デザインビュー」タブでは、ページを表示、追加および削除できます。

ページの表示 / 非表示を切り替えるには

フォームデザインのページの表示と非表示はいくつかの方法で切り替えることができます。

- 別のタブがアクティブになっているときに「デザインビュー」タブを表示するには、レイアウトエディターで「デザインビュー」タブをクリックします。
- 「デザインビュー」タブを表示 / 非表示にするには、表示 / デザインビューを選択します。

ページを追加するには

ページを追加するには、挿入メニューまたは階層パレットを使用します。

 階層パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ / 階層を選択します。

- ページを追加するには、「デザインビュー」タブをクリックし、挿入 / 新規ページを選択します。
- 階層パレットにページを追加するには、ページレベルの必要なサブフォームを右クリックして、新規ページを選択します。

ページを削除するには

ページを削除するには、挿入メニューまたは階層パレットを使用します。

 階層パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ / 階層を選択します。

- ページを削除するには、ページの任意の場所をクリックし、編集 / ページの削除を選択します。
- 階層パレットでページを削除するには、ページに対応するページレベルのサブフォームを右クリックして、「削除」を選択します。

複数のページ間を移動するには

フォームデザインに複数のページがある場合、レイアウトエディターまたは階層パレットを使用すると、ページ間を簡単に移動できます。

 階層パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ / 階層を選択します。

- 「デザインビュー」タブで、表示したいページまで上下にスクロールします。
- 階層パレットで、必要なページをクリックします。

ページの順序を変更するには

ページの順序を変更する必要がある場合は、階層パレットを使用できます。

 階層パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ／階層を選択します。

- 1 階層パレットで、移動対象のページに対応するサブフォームを選択します。
- 2 サブフォームを "form1" ノードの下の新しい位置にドラッグします。
- 3 手順 1 と 2 を繰り返して、すべてのページを希望の順序に変更します。

ページの名前を変更するには

ページの名前を変更するには、階層パレットまたはオブジェクトパレットの「連結」タブを使用します。階層パレットにおけるページノードのデフォルト名は、「(名称未設定サブフォーム) (ページ 1)」、「(名称未設定サブフォーム) (ページ 2)」という順に続きます。

 階層パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ／階層を選択します。

- 階層パレットでページノードを右クリックして、「オブジェクト名の変更」を選択します。ページの新しい名前を入力します。
- 「デザインビュー」タブを選択した状態で、ページの任意の場所をクリックしてから、オブジェクトパレットをクリックし、「連結」タブにページの新しい名前を入力します。

マスターページの使用

マスターページでは、フォームデザイン全体を通して同じ位置に表示されるオブジェクトを追加できます。マスターページは、コンテンツ領域のサイズや位置を調整したり、ページ番号を追加したり、片面または両面の機能（ヘッダーやフッターなど）を作成したりする場合に便利です。

大きさの異なるページが 2 つある標準的なフォームデザインには、各ページに 1 つずつ、つまり少なくとも 2 つのマスターページが含まれています。フォームデザインにある複数のページの大きさと向きが同じである場合、フォームデザインに必要なマスターページは 1 つだけです。

デフォルトのマスターページを使用すると、すぐにページのデザインを開始できます。ページヘッダーやフッターなどのデザインコンポーネントを作成する必要がある場合など、デザインが複雑な場合は、マスターページ上で直接コンポーネントを操作します。

オブジェクトは、マスターページ上のどの位置にでも配置できます。各マスターページはそれぞれ独自のデザインを保持することができ、そのデザインは 1 つ以上のページに適用できます。マスターページを使用することで、個々のページ上に一度に 1 ページずつ同じレイアウトを直接作成していく手間を省くことができます。同じレイアウトを持つ複数のページで、必要なオブジェクト一式（標準フッターなど）も同じ場合は、ページごとにオブジェクトを複製する代わりに、マスターページ上にこのオブジェクト一式を配置して管理するほうが能率的です。オブジェクトをマスターページに配置すると、関連付けられたページすべての背景に、そのオブジェクトが表示されます。マスターページを変更すると、その後、関連付けられたページがすべて自動的に更新されます。

「ページ編集」タブを使用して、マスターページを使用するページを奇数ページ（表）、偶数ページ（裏）または空白ページにするかどうかと、ページセット内のマスターページの位置を指定します。また、選択したマスターページに付随してレンダリングされるページを、ページ数の合計に含めるかどうかを指定できます。

関連項目

50 ページの「[ヘッダー、フッターおよびその他の背景アイテム](#)」

52 ページの「[ページ数が一定ではないフォームへのマスターページの適用](#)」

381 ページの「[「マスターページ」タブのマスターページプロパティ](#)」

382 ページの「[「ページ編集」タブのマスターページプロパティ](#)」

繰り返しサブフォームでマスターページを使用するには

1 つのページに収まりきれず後続のページが必要となる繰り返しサブフォームがある場合は、フォームの 1 ページ目より後にある任意のページに対して、異なるマスターページを割り当てることができます。例えば、場合によってはフォームの 1 ページ目の途中でサブフォームが開始することがあります。別のマスターページを作成すると、そのようなサブフォームを、1 ページ目より後にあるページの先頭から開始させることができます。

マスターページの追加が必要となる状況

通常、マスターページは、複数のページサイズ、異なるページの向き、異なる印刷モードの設定を必要とするときに追加します。マスターページフィールドではファイリングからはサポートされていません。マスターページは静的で読み取り専用の内容のみを表示するために使用するよう推奨します。データキャプチャフィールドには通常のページを使用します。

固定されたレイアウトを使用するフォームの場合は、フォームのページ数も一定です。結合されるデータ量に応じて調整されるサブフォームを含むフォームの場合、Forms では、結合されるデータ量が 1 ページに収まらないときに、自動的にページが追加されます。

注意： 結合されたデータを受け取る固定レイアウトのフォーム用にフォームデザインを作成しているときは、入力するオブジェクトの大きさがコンテンツ領域を超えないように十分留意する必要があります。超えてしまうと、フォームのレンダリング時に、不要なページがフォームに自動的に追加される可能性があります。

フォームデザインには、コンテンツ領域を複数含めることができます。例えば、2 列のレイアウトを用意するには、マスターページにコンテンツ領域を 2 つ入れます。両面のボディページに対応するには、この種類のマスターページが 2 つ必要になります（1 つは奇数ページで、1 つは偶数ページ）。

マスターページの表示 / 非表示を切り替えるには

マスターページの表示と非表示はいくつかの方法で切り替えることができます。

- 別のタブがアクティブになっているときに「マスターページ」タブを表示するには、レイアウトエディターで「マスターページ」タブをクリックします。
- 「マスターページ」タブを表示 / 非表示にするには、表示 / マスターページを選択します。

マスターページを追加するには

マスターページを追加するには、挿入メニューまたは階層パレットを使用します。



階層パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ / 階層を選択します。

- マスターページを追加するには、「マスターページ」タブをクリックし、挿入 / 新規マスターページを選択します。
- 階層パレットでマスターページを追加するには、マスターページノードを右クリックして、「新規マスターページ」を選択します。

マスターページを削除するには

マスターページを削除するには、編集メニューまたは階層パレットを使用します。

 階層パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ／階層を選択します。

- マスターページを削除するには、「マスターページ」タブをクリックし、削除するマスターページに対応するコンテンツ領域を選択し、編集／マスターページの削除を選択します。
- 階層パレットでマスターページを削除するには、マスターページを右クリックして「削除」を選択します。

複数のマスターページ間を移動するには

フォームデザインに複数のマスターページがある場合、レイアウトエディターまたは階層パレットを使用すると、ページ間を簡単に移動できます。

 階層パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ／階層を選択します。

- 「マスターページ」タブで、必要なページまで上下にスクロールします。
- 階層パレットで、必要なマスターページをクリックします。

マスターページの順序を変更するには

フォームデザインでのマスターページの順序を変更する必要がある場合は、階層パレットで変更します。

 階層パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ／階層を選択します。

- 1 階層パレットで、マスターページをマスターページノードの下の新しい位置にドラッグします。
- 2 マスターページがすべて希望の順番になるまで、手順 1 を繰り返します。

マスターページの名前を変更するには

マスターページの名前を変更するには、階層パレットまたはオブジェクトパレットの「マスターページ」タブを使用します。

 階層パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ／階層を選択します。

- 階層パレットで、マスターページを右クリックし、「オブジェクト名の変更」を選択して、マスターページの新しい名前を入力します。
- 「マスターページ」タブを選択した状態で、マスターページの任意の場所をクリックしてから、オブジェクトパレットを選択し、「マスターページ」タブにマスターページの新しい名前を入力します。

ページ番号を追加するには

「マスターページ」タブで、現在のページとフォームのページ合計数を表示するオブジェクトを追加できます（「ページ 1 / 30」など）。

- 1 オブジェクトライブラリパレットのカスタムタブカテゴリをクリックします。
- 2 ページ n/m オブジェクトをクリックしてフォームデザインにドラッグします。

マスターページのサイズを指定するには

「マスターページ」タブでは、フォームの基本ページレイアウト（ページのサイズなど）に対する変更を表示できます。階層パレットでマスターページを選択すると、オブジェクトパレットの「マスターページ」タブで基本のページレイアウトプロパティを変更できます。

 フォームのページにオブジェクトを配置できる領域は、コンテンツ領域で定義します。コンテンツのフローが設定されているサブフォームが含まれたフォームを作成する場合は、コンテンツ領域すべてのサイズと位置を定義してから、その他のオブジェクトをマスターページに追加します。

- 1 階層パレットのマスターページノードの下で、サイズを変更するマスターページを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、用紙の種類リストからページサイズを選択します。
- 3 「カスタム」タイプを選択した場合は、「高さ」と「幅」ボックスにページの寸法を入力します。

マスターページの向きを指定するには

「マスターページ」タブでは、フォームの基本ページレイアウト（ページの向きなど）に対する変更を表示できます。階層パレットでマスターページを選択すると、オブジェクトパレットの「マスターページ」タブで基本のページレイアウトプロパティを変更できます。

- 1 階層パレットのマスターページノードの下で、向きを変更するマスターページを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「縦」または「横」を選択します。

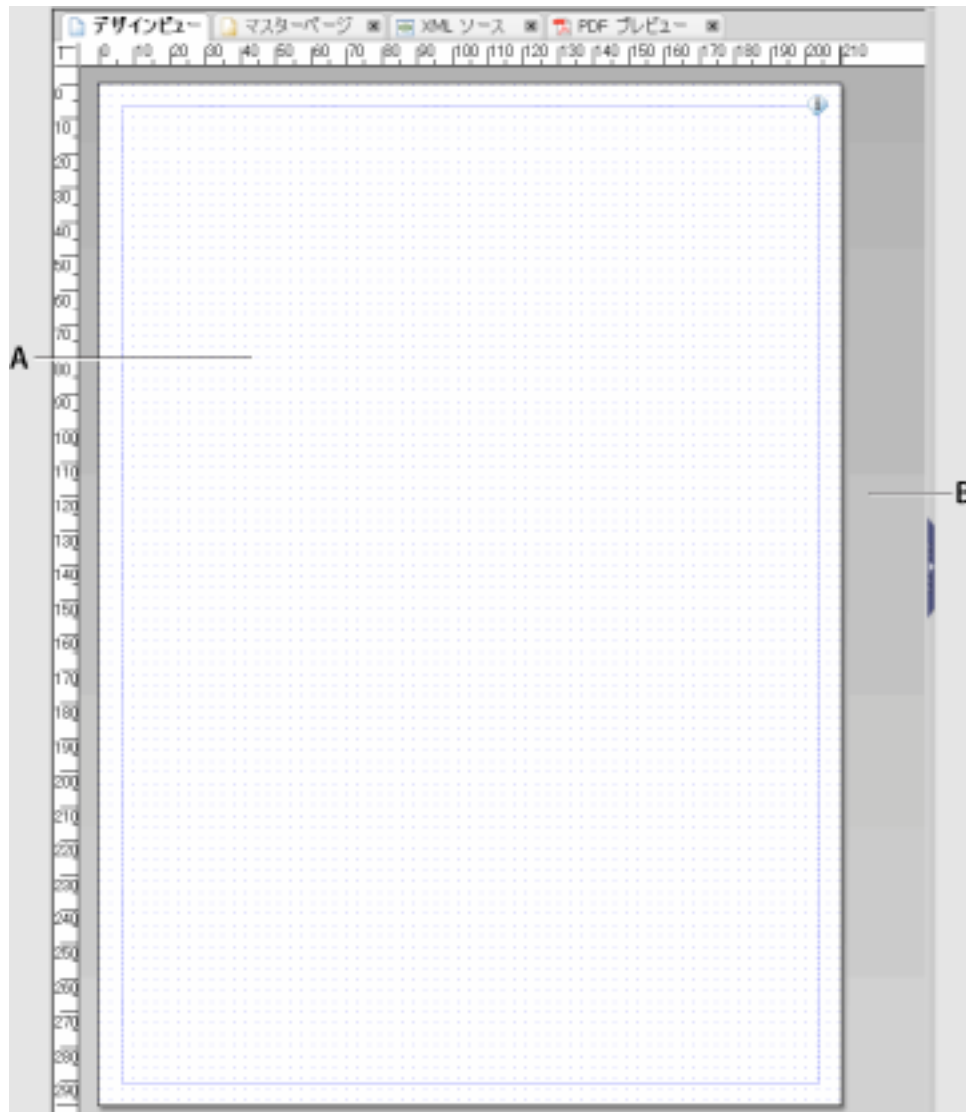
注意：「カスタム用紙の種類」でページの向きを明示的に縦向きまたは横向きに設定します。フォームの幅が高さよりも大きい場合、「カスタム用紙の種類」が選択されると向きが自動的に横向きになりません。

フォーム境界線周囲の空白の指定

従来の印刷文書では、余白とは、印刷のない、ページ境界線の外側周辺の領域を示します。インタラクティブフォームでは、余白とは、オブジェクト境界線の内側周辺にある空白の緩衝域だけを示します。

フォーム境界線の外側周辺にある空白を増やすには、マスターページでコンテンツ領域のサイズを小さくする必要があります。デフォルトでは、コンテンツ領域の境界線は、フォームの境界線から 0.635 センチの位置にあります。ヘッダーやフッターを配置するための空白を付加する場合や、プリンターの制約に合わせて調整する場合には、デフォルトのコンテンツ領域を小さくする必要があります。

コンテンツ領域で囲まれた領域によって、フォームのページにオブジェクトを配置できる場所が決まります。ページのデフォルトサブフォームは、マスターページのデフォルトコンテンツ領域と同じサイズです。また、デフォルトサブフォームの余白設定は 0 センチに設定されています。ページでデフォルトサブフォームの余白設定を変更すると、オブジェクトが配置される位置にも影響します。サブフォームの余白設定を増やすと、サブフォームのオブジェクトをレンダリングできる領域が小さくなります。



A. オブジェクトは、ページ上のコンテンツ領域で囲まれた領域の内側に配置できます。境界線は、コンテンツ領域の境界線を示します。**B.** コンテンツ領域の外側領域は、ページの空白を示します。

マスターページに配置したオブジェクトはすべて、コンテンツ領域の内側または外側のいずれに配置されているかに関わらず、関連付けられた各ページに表示されます。透かしを設定している場合は、透かしを構成するオブジェクトをコンテンツ領域の内側に配置します。

コンテンツをフローするサブフォームが含まれるフォームをデザインしているときに、マスターページにあるオブジェクトが、ページに配置したオブジェクトの妨げにならないようにしたい場合は、マスターページオブジェクトをコンテンツ領域の外側、つまりマスターページに作成した空白部分に配置する必要があります。コンテンツ領域の内側にオブジェクトを配置すると、フォームのレンダリング時に、その他のオブジェクトがマスターページオブジェクトの上に配置される場合があります。

関連項目

283 ページの「[コンテンツ領域の使用](#)」

213 ページの「[サブフォームについて](#)」

285 ページの「[コンテンツ領域のコピー、移動、サイズ変更](#)」

ヘッダー、フッターおよびその他の背景アイテム

フォームデザインのほとんどのページに、一定量の標準化された固定コンテンツが必要な場合は、マスターページにそのコンテンツを配置して一貫した背景を適用すると、編集を簡略化することができます。例えば、マスターページにテキスト、画像および幾何学図形を配置すると、これらを複数のページの同じ位置に表示できます。

ヘッダーとフッターを作成して、その他の背景アイテムをマスターページに配置する場合は、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- コンテンツのフローが設定されているサブフォームが含まれたフォームを作成する場合は、コンテンツ領域すべてのサイズと位置を定義してから、追加のオブジェクトをマスターページに追加します。
- オブジェクトは、マスターページ上で、コンテンツ領域の内外のどこにでも配置できます。フォームのレンダリング時に、マスターページオブジェクトの上にその他のオブジェクトを配置しない場合は、原則としてコンテンツ領域の内側にはオブジェクトを配置しないでください。透かしを設定している場合は、コンテンツ領域の内側に配置します。
- 読み取り専用テキストを保持するためのテキストオブジェクトや、画像（ロゴなど）を配置するための画像または画像フィールドオブジェクトが必要になることがあります。場合によっては、デザインの外観を向上させるために、円、線、長方形などの図形オブジェクトの追加を検討します。
- マスターページ上のすべてのオブジェクトは、フォームがレンダリングされるときに、ページに背景オブジェクトとして表示されます。

関連項目

285 ページの「[コンテンツ領域のコピー、移動、サイズ変更](#)」

複雑なフォームデザインへの追加的マスターページの割り当て

マスターページでは、各ページの土台となる形式と背景を指定します。新規フォームデザインはすべてデフォルトマスターページを使用して作成され、これが最初のページに適用されます。追加のページは、異なるマスターページを作成、使用しない限り、デフォルトマスターページのレイアウトに従って形式設定されます。

フォームデザインにはマスターページをいくつでも含めることが可能で、それぞれに異なるレイアウトを適用できます。一部のページに異なるレイアウトやボイラープレートオブジェクトが必要な場合は、一意な各レイアウト用のマスターページを作成できます。

マスターページを特定のページに割り当てるには

1 次のいずれかの方法を使用してサブフォームを選択します。

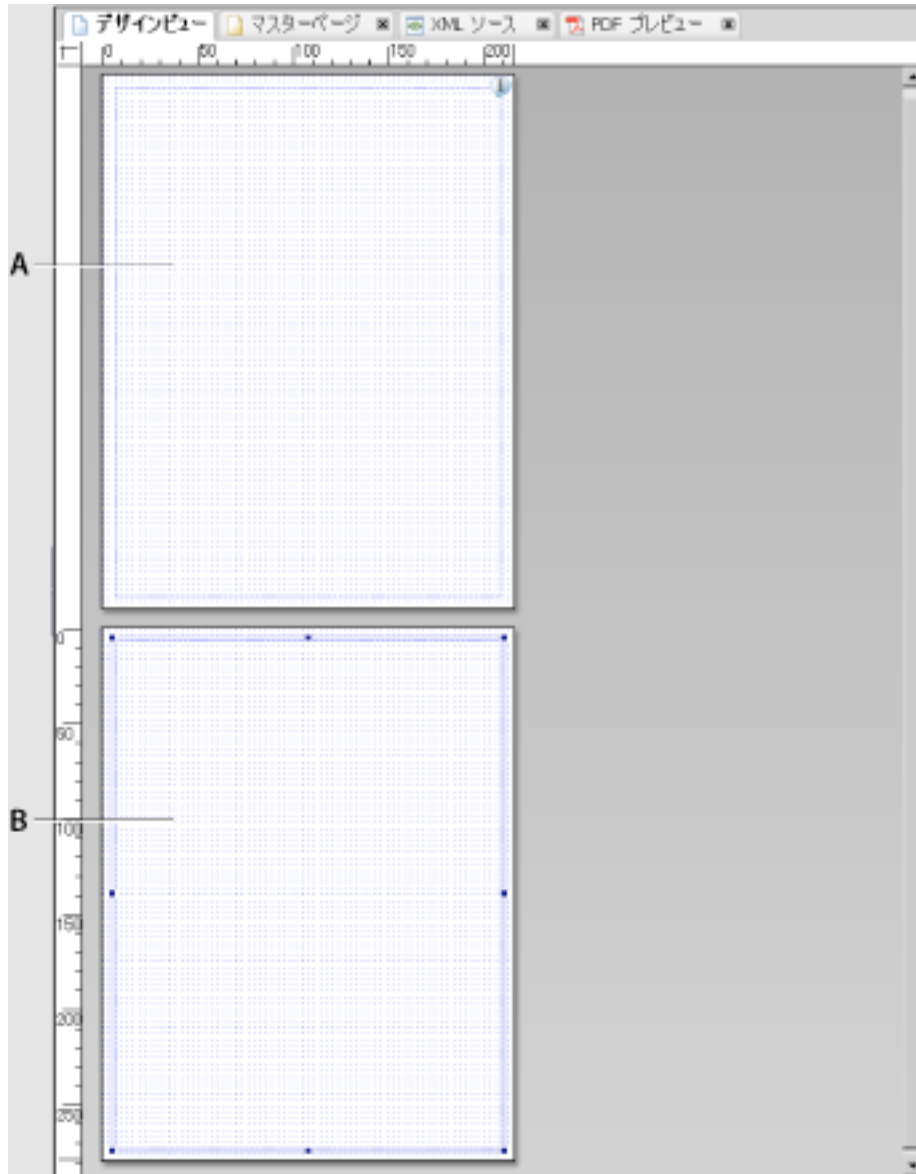
- 「デザインビュー」タブで、ページ上のデフォルトサブフォームを選択します。
- 階層パレットで、ページに対応するサブフォームを選択します。

2 オブジェクトパレットの「ページ編集」タブをクリックし、配置リストでページ上/[page]を選択します。[page]とは、使用するマスターページの名前です。

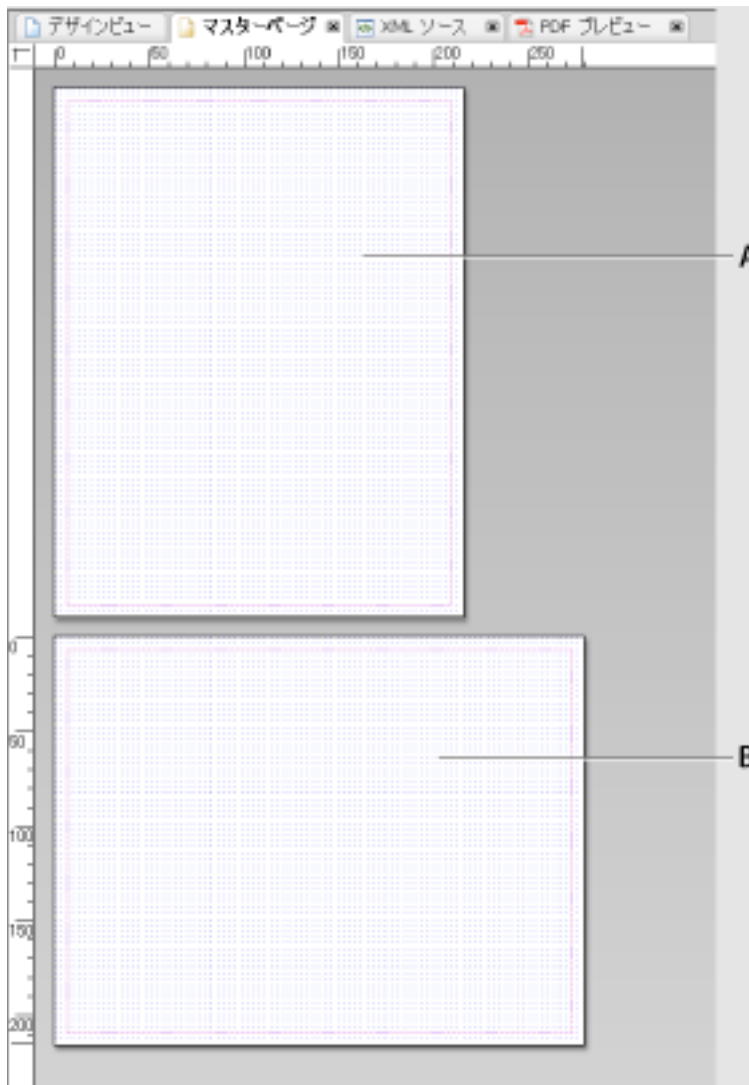
フォームデザインに2つ目のマスターページを割り当てる例

次の例は、インタラクティブなフォームデザインまたは固定されたレイアウトのフォームデザインのページに2つ目のマスターページを割り当てる手順を説明するものです。

このフォームデザインには、ページが2つとマスターページが2つ含まれています。最初のマスターページは縦向き、2番目のマスターページは横向きです。



A. ページ 1 B. ページ 2



A. マスターページ 1: 縦 B. マスターページ 2: 横

- 1 「デザインビュー」タブをクリックします。
- 2 ページ 2 のサブフォームを選択します。
- 3 オブジェクトパレットの「ページ編集」タブをクリックし、配置リストでページ上／[page] を選択します。[page] とは、マスターページ 2 の名前です。

ページ 2 はマスターページ 2 のレイアウトを継承し、横向きのレイアウトになります。

ページ数が一定ではないフォームへのマスターページの適用

コンテンツのフローが設定されているサブフォームを含んだフォームでは、ページ数は一定ではありません。フォームのレンダリング時にはオブジェクトがコンテンツ領域の内側に配置されます。コンテンツ領域がオブジェクトのデータでいっぱいになると、自動的に改ページが挿入されます。デフォルトでは、すべてのページはデフォルトマスターページの形式を継承します。

複数のマスターページが利用できる場合には、それぞれのマスターページがページの形式設定に影響する可能性があります。この場合、マスターページのレイアウトは、関連付けられたサブフォームがレンダリングされるときに適用されます。言い換えると、サブフォームをフォームのページ 2 でレンダリングすると、そのサブフォームに割り当てられたマスターページの形式がページ 2 に適用されます。

ページ数が一定でないフォームにマスターページを適用する方法としては 2 つの方法があります。フォームのタイプの特性によって、これらの方法のいずれを使用するかが決まります。

第 1 の方法では、特定のマスターページがフォーム内で使用される回数を、ページオカレンスの「最小値」と「最大値」を設定することで制限できます。例えば、最初のマスターページについては、常に 1 回だけ発生するようページオカレンスの「最小値」と「最大値」を設定する必要があります。マスターページについては、「最小値」のデフォルトは 0、「最大値」のデフォルトは -1 です。2 番目のマスターページについては、レイアウトが 1 つのページ上に無限回レンダリングされる可能性があります。

第 2 の方法では、ページセット内でのマスターページの配置を指定できます（最初の印刷ページ、最後の印刷ページ、間にある印刷ページなど）。例えば、給与明細書の場合、最初のページに会社および従業員固有の情報があります。後続のページには、会社や従業員の情報はほとんど無く、タイムカード情報が大半を占めます。マスターページを 2 つ定義する場合、最初のマスターページには、まずコンテンツ領域の外側に会社のロゴと連絡先情報を入れます。次に、従業員固有の情報を受け取る小さなコンテンツ領域が続きます。2 番目のマスターページには、ページ全体を含むことができるような、より大きなコンテンツ領域を入れ、ここにタイムカード情報を含めるようにします。

デフォルトでは、すべてのフォームデザインの作成時に、マスターページの適用方法をオカレンス値の「最小値」と「最大値」で指定するオプションが設定されます。異なるオプションを使用した場合でもページのレンダリング結果は同じになります。ただし、両面印刷を目的としたフォームの場合は、配置で指定するオプションを使用してください。

フォームデザインでマスターページの配置を定義してから、ページオカレンス値の設定に切り替える場合は、フォームが正しく動作するまでフォームに変更を加える必要があります。また、マスターページの配置による指定方法が推奨されるのは、Acrobat 8（スタティック）PDF フォームとして保存されるフォームの場合と、印刷（PCL や Postscript）を目的としたフォームデザインの場合のみです。

1 つ目のマスターページを 1 度だけ使用するには

1 つ目のマスターページを 1 回しか使用しないようにページオカレンス値の「最小値」と「最大値」を設定するか、そのマスターページの配置としてページセット内の最初のページを指定します。

デフォルトでは、すべてのフォームデザインの作成時に、マスターページの適用方法をオカレンス値の「最小値」と「最大値」で指定するオプションが設定されます。異なるオプションを使用した場合でもページのレンダリング結果は同じになります。ただし、両面印刷を目的としたフォームの場合は、配置で指定するオプションを使用してください。

フォームデザインでマスターページの配置を定義してから、ページオカレンス値の設定に切り替える場合は、フォームが正しく動作するまでフォームに変更を加える必要があります。また、マスターページの配置による指定方法が推奨されるのは、Acrobat 8（スタティック）PDF フォームとして保存されるフォームの場合と、印刷（PCL や Postscript）を目的としたフォームデザインの場合のみです。

ページオカレンス値の「最小値」と「最大値」を設定することで 1 つ目のマスターページを 1 回だけ使用するには

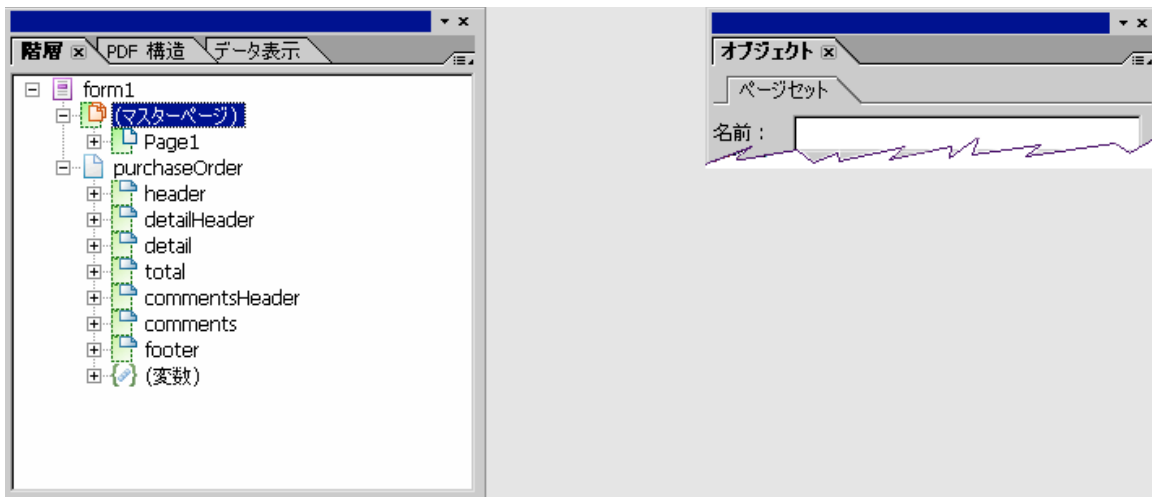
- 1 階層パレットで、1 つ目のマスターページであるページを選択します。
- 2 オブジェクトパレットをクリックし、以下のタスクを実行します。
 - 「ページの出現箇所の制限」を選択します。
 - 「最大値」を選択して、対応するボックスに「1」を入力します。
- 3 フォームデザインを保存します。

1 目目のマスターページのページセット内における配置を指定することでマスターページを 1 回だけ使用するには

- 1 階層パレットで、1 目目のマスターページであるページを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「ページ編集」タブをクリックします。
- 3 配置リストで、「最初のページ（ページセット内）」を選択します。
- 4 フォームデザインを保存します。

ページの順序および表示 / 非表示の制御

ページセットを使用すると、フォームデザイン内にあるページについて順序や表示 / 非表示を制御できます。フォームデザイン内には少なくとも 1 つのページセットが含まれます。



関連項目

- 353 ページの「オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する」
- 44 ページの「ページの設定」
- 383 ページの「「ページセット」タブのページセットプロパティ」
- 72 ページの「フォーム内のページセットを使用した片面印刷と両面印刷の制御」
- 64 ページの「既存フォームデザインに対するページ配置および印刷オプションの指定」
- 67 ページの「ページセット内におけるマスターページの配置を指定するには」

複数のページセット間を移動するには

- ❖ 階層パレットで、ページセットをクリックします。



階層パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ／階層を選択します。

ページセットを追加または削除するには

- ページセットを追加するには、階層パレットでマスターページノードを右クリックして、「ページセットの挿入」を選択します。

- ページセットを削除するには、階層パレットでページセットを右クリックして「削除」を選択します。

ページセットの順序を変更するには

- 1 階層パレットで、ページセットをマスターページノードの下の新しい位置にドラッグします。
- 2 ページセットがすべて希望の順番になるまで、手順 1 を繰り返します。

ページセットの名前を変更するには

- 1 階層パレットでページセットを右クリックして、「オブジェクト名の変更」を選択します。
- 2 ページセットの新しい名前を入力します。

注意：オブジェクトパレットの「ページセット」タブでも、選択したページセットの名前を変更できます。

各ページのオカレンス数を制御することによりページセットを管理するには

- 1 階層パレットで、ページセットを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの印刷リストから「ページオカレンス」を選択します。前に「片面で印刷（表側）」または「両面に印刷」を選択して、これから切り替えて「ページオカレンス」オプションに戻ろうとしている場合は、Designer に よって、フォームが正しく動作するまでフォームに変更を加える必要があることが通知されます。続行するには「はい」をクリックします。

改ページ制御の設定

Designer では、編集可能なレイアウトを含むフォームが、レンダリングされたページの下端を越える場合に挿入される改ページを制御することができます。

ウィドウとオーファンの制御 改ページが挿入されたときに、1 行のテキストだけが段落の残りの部分から分離されないようにします。段落の最後の行だけが次のページの先頭に表示される場合、この行はウィドウと呼ばれます。段落の最初の行だけがページの最後に表示される場合、この行はオーファンと呼ばれます。

合わせる対象：次へ 改行が挿入されたときに、テキストオブジェクトまたはテキストフィールドオブジェクトをドキュメント内の次のオブジェクトに合わせます。

コンテンツ内で改ページを許可する テキストオブジェクトまたはテキストフィールドオブジェクトのコンテンツ内で改ページを許可します。

「次と合わせる」および「コンテンツ内で改ページを許可する」の両方が選択されている場合、「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションは「次と合わせる」オプションよりも優先されます。

「ウィドウとオーファンの制御」、「次と合わせる」、「コンテンツ内で改ページを許可する」の各オプションは、マスターページまたはアートワーク上のオブジェクトでは利用できません。

フォームのプロパティダイアログボックス、オプションダイアログボックスおよび新しいフォームのデフォルトの改ページオプション、個々のフォームの改ページオプションおよびオブジェクトパレットの様々なオプションを使用して、選択したオブジェクトの改ページオプションを設定できます。

新しいフォームのウィドウ行とオーファン行を制御するには

新しいフォームのウィドウ行とオーファン行を制御するには、オプションダイアログボックスの「書式設定」ページを使用します。ウィドウおよびオーファン機能によって、改ページが挿入されたときに、フォーム内のすべてのテキストおよびテキストフィールドの 1 行だけが段落の残りの部分から分離されるのを防ぐことができます。ウィドウおよびオーファン制御を使用すると、最低でも段落の 2 行がまとめて処理されます。

新しいフォームのウィドウ行とオーファン行を制御するには

- 1 ツール／オプションを選択します。
- 2 「書式設定」をクリックし、「ウィドウとオーファンの制御」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

フォームのウィドウ行とオーファン行を制御するには

個々のフォームについてすべてのテキストおよびテキストフィールドオブジェクトのウィドウ行とオーファン行を制御するには、フォームのプロパティダイアログボックスの「書式設定」タブを使用します。

フォームのプロパティダイアログボックスに最初に表示されるデフォルトの設定は、オプションダイアログボックスの「書式設定」ページから継承されます。このデフォルトの設定は、新しいすべてのフォームに自動的に適用されます。フォームのプロパティダイアログボックスでデフォルトの設定を変更すると、現在のフォームについて、オプションダイアログボックスでの設定が新しい設定に置き換えられます。オプションダイアログボックスの「ウィドウとオーファンの制御」オプションは変更されません。

注意：新しいフォームのウィドウ行とオーファン行を変更するには、オプションダイアログボックスを使用します（詳しくは、55 ページの「[新しいフォームのウィドウ行とオーファン行を制御するには](#)」を参照してください）。

個々のフォームのウィドウ行とオーファン行を制御するには

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「書式設定」タブをクリックし、「ウィドウとオーファンの制御」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

フォームからウィドウとオーファンの制御を削除するには

テキストおよびテキストフィールドオブジェクトからウィドウとオーファンの制御を削除できます。

フォームからウィドウとオーファンの制御を削除するには

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「書式設定」タブをクリックし、「ウィドウとオーファンの制御」を選択解除します。
- 3 「OK」をクリックします。

関連項目

- 318 ページの「[テキストオブジェクト内で改ページを許可するには](#)」
- 319 ページの「[テキストオブジェクトをフォーム内の次のオブジェクトに合わせるには](#)」
- 321 ページの「[テキストフィールド内での改ページの許可](#)」
- 321 ページの「[テキストフィールドをフォーム内の次のオブジェクトに合わせるには](#)」
- 672 ページの「[書式設定（オプションダイアログボックス）](#)」
- 654 ページの「[書式設定（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」

スタイル

スタイルシートとスタイルを作成し管理することで、単一のフォーム内または複数のフォームを対象として一貫性のある書式設定を実現できます。例えば、キャプションやフィールド値のテキストの表示状態、オブジェクトの境界線や背景色の外観、ラジオボタンやチェックボックスオブジェクトのサイズとスタイルを制御できます。

スタイルシートの管理、スタイルの編集、フォームデザインに含まれるオブジェクトへのスタイルの適用を行うには、スタイルカタログを使用します。スタイルカタログには、フォームで使用できる様々なスタイルシートおよび各スタイルシートに含まれているスタイルが表示されます。スタイルカタログでは、これらのスタイルシートが異なるパネル（スタイルシートごとに 1 つのパネル）にまとめられています。最初のパネルは、フォームに埋め込まれる内部スタイルシート用のパネルです。内部スタイルシートパネルの下に、ユーザーがスタイルカタログに追加した各外部スタイルシート（Designer Style Sheet.xfs）のパネルが表示されます。各パネルバーには、スタイルシートの名前が表示されます。パネルバーの上にマウスポインターを置くと、スタイルシートの位置がツールヒントに表示されます。各パネルバーではメニューも使用できます。また、一覧に表示されている各スタイルではコンテキストメニューを使用できます。スタイルカタログメニューでは、追加のコマンドを使用できます。

内部スタイルシートは、作成した新しい各フォームに自動的に関連付けられます。内部スタイルシートは、単一のフォームを作成し、フォームにスタイルシートとスタイルを埋め込んで編集を容易にする必要がある場合に、便利です。ただし、複数のフォームデザインを作成する場合は、Designer で複数の外部スタイルシートを作成し、これらのスタイルシートを任意の数のフォームデザインに追加できます。

内部スタイルシートから、他のフォームで使用する新しい外部スタイルシートへスタイルを抽出できます。また、様々な外部スタイルシートに含まれるスタイルを、内部スタイルシートに追加することもできます。これを行うには、フォームデザインに外部スタイルシートを埋め込みます。

さらに、フォームのプロパティダイアログボックスとオプションダイアログボックスにあるオプションを使用し、新しいまたは既存のフォーム内にあるキャプションおよび値に対するデフォルトフォントを指定して、すべてのフォームオブジェクトのフォントをすばやく変更することができます。

スタイルカタログ内のスタイルシートをソートするには

スタイルカタログでは、スタイルシートが異なるパネル（スタイルシートごとに 1 つのパネル）にまとめられています。最初のパネルは、内部スタイルシート用のパネルです。内部スタイルシートパネルの下に、ユーザーがスタイルカタログに追加した Designer スタイルシートファイル（XFS）のそれぞれに対応したパネルが表示されます。

Designer では、デフォルトで、スタイルシートはスタイルカタログに追加された順番で配置されます。スタイルカタログにある外部スタイルシートファイルの一覧は、スタイルシート名前または種類順に再度ソートすることができます。

❖ スタイルカタログパレットメニューで、「ソート」をポイントし、以下のいずれかの操作を実行します。

- スタイルシートの一覧を名前順にソートするには、「名前」をクリックします。
- スタイルシートの一覧を種類順にソートするには、「種類」をクリックします。
- スタイルシートの一覧のソートを無効にするには、「ソートなし」をクリックします。

新しいフォームのデフォルトのスタイルシートを選択するには

新しいフォームに対して、Designer スタイルシート（XFS）ファイルを選択できます。新しいフォームを作成するとき、選択した XFS ファイルがスタイルカタログに表示され、使用するための準備が完了したことが示されます。

- 1 ツール／オプションをクリックします。
- 2 書式設定パネルを選択します。
- 3 「スタイルシートを使用」を選択します。

4 参照ボタンをクリックし、使用する Designer スタイルシート（XFS）ファイルを選択します。

フォームにスタイルシートを追加するには

フォームには、1 つ以上の Designer スタイルシート（XFS）ファイルを追加できます。新しいスタイルシートを追加した後、スタイルカタログには新しいパネルが表示され、フォームで使用できるスタイルが一覧に示されます。

スタイルカタログに示されている、XFS ファイル内のスタイルを、内部スタイルシートに追加することができます。これを行うには、フォームにスタイルを埋め込みます。58 ページの「[スタイルシートを埋め込むには](#)」を参照してください。

パネル切り替えバーの上にマウスポインターを置くと、スタイルシートの位置を表示できます。

- 1 ウィンドウ／スタイルカタログを選択します。
- 2 スタイルカタログパレットメニューで、「スタイルシートを追加」をクリックします。
- 3 開くダイアログボックスで、使用する Designer スタイルシート（XFS）ファイルを探し選択します。
- 4 「開く」をクリックします。

新しいスタイルシートを作成するには

新しいスタイルシートを作成するとき、Designer では空白の Designer スタイルシート（XFS）ファイルが開きます。ここで、新しいスタイルを作成します。スタイルシートは、フォームとは異なる背景色を使用して表示されます。これは、スタイルシートとフォームを区別するためです。階層パレットでは、最上位サブフォームは名前付きのスタイルシートです。

- 1 スタイルカタログメニューをクリックし、「新しいスタイルシート」をクリックします。
- 2 スタイルシートファイルに名前を付けて保存します。

スタイルシートを埋め込むには

スタイルは、フォームデザイン内にある Designer スタイルシート（XFS）ファイルから埋め込むことができますが、このファイルの数に制限はありません。これにより編集が容易になります。

「スタイルシートを埋め込む」コマンドを選択すると、スタイルカタログ内のすべての外部スタイルシートのパネルから内部スタイルシートのパネルへスタイルが追加されます。フォームオブジェクトまたはデフォルトのスタイルからの参照は新しい内部スタイルにリセットされ、外部スタイルへの参照はフォームから削除されます。

「スタイルシートを埋め込む」コマンドは、スタイルカタログに 1 つ以上の外部スタイルシートが含まれている場合に利用可能になります。

- 1 スタイルカタログメニューをクリックします。
- 2 「スタイルシートを埋め込む」を選択します。

新しいスタイルシートにスタイルを抽出するには

内部スタイルシートから新しい Designer スタイルシート（XFS）ファイルへスタイルを抽出できます。必要に応じて、内部スタイルシートを、新しい外部スタイルシートへの参照に置き換えることもできます。

- 1 内部スタイルシートのパネルでメニューをクリックします。
- 2 「新しいスタイルシートにスタイルを抽出」を選択します。
- 3 「ファイル名」ボックスに、新しいスタイルシートファイルの名前を入力します。
- 4 (オプション) 「内部スタイルシートを新しい外部スタイルシートへの参照に置き換える。」を選択することができます。
- 5 「保存」をクリックします。

スタイルシートを削除するには

いつでも、スタイルカタログから外部 Designer スタイルシート（XFS）ファイルを削除できます。

スタイルカタログでは、フォームで使えるスタイルシートが様々なパネルにまとめられています。最初のパネルは、内部スタイルシート用のパネルです。内部スタイルシートは削除できません。内部スタイルシートのパネルの下には、フォームから参照されている、各 Designer スタイルシート（XFS）ファイル用のパネルがあります。

- 1 削除する外部スタイルシートのパネルでメニューをクリックします。
- 2 「スタイルシートを削除」をクリックします。

スタイルシートを置き換えるには

いつでも、スタイルカタログ内の Designer スタイルシート（XFS）ファイルを置き換えることができます。スタイルカタログでは、フォームで使えるスタイルシートが様々なパネルにまとめられています。最初のパネルは、内部スタイルシート用のパネルです。内部スタイルシートは置き換えることはできません。内部スタイルシートのパネルの下には、フォームから参照されている、各 Designer スタイルシート（XFS）ファイル用のパネルがあります。

注意：2つの異なるスタイルシートでスタイル名が同じである場合、1つのスタイルシートを他のスタイルシートに置き換えると、フォーム内のオブジェクトは、置き換える新しいスタイルシートのスタイルプロパティによって、自動的に更新されます。

- 1 置き換えられる外部スタイルシートのパネルでメニューをクリックします。
- 2 「スタイルシートを置換」をクリックします。

スタイルシートファイルを編集するには

外部 Designer スタイルシート（XFS）ファイル内のスタイルを編集できます。スタイルシートファイルを編集するために、スタイルカタログにスタイルシートファイルを追加する必要はありません。

- 1 編集するためにスタイルシートを開くには、次のいずれかの操作を行います。
 - スタイルシートファイルがスタイルカタログ内にある場合は、編集するスタイルシートのパネルでメニューをクリックし、「スタイルシートを編集」をクリックします。スタイルシートファイルが開きます。
 - スタイルシートファイルがスタイルカタログ内にない場合は、ファイル／開くをクリックして、Designer でファイルを選択し開きます。内部スタイルシートのパネルにスタイルが追加されます。
- 2 スタイルカタログで、編集するスタイルを右クリックし、「スタイルを編集」を選択します。
- 3 スタイルエディターで、必要に応じて書式設定オプションを変更します。
- 4 スタイルシートファイルを保存して閉じます。

オブジェクトからの新しいスタイルの作成

外部 Designer スタイルシート（XFS）ファイル内のオブジェクトから新しいスタイルを作成できます。

- 1 新しいスタイルの作成に使用する外部スタイルシートのパネルでメニューをクリックします。
- 2 「スタイルシートを編集」を選択します。
- 3 「デザインビュー」タブで、新しいスタイルの作成に使用するオブジェクトを右クリックし、「スタイル」をポイントして、「オブジェクトから新しいスタイルを作成」をクリックします。
- 4 スタイルエディターで、スタイルに名前を設定し、必要に応じて書式設定オプションを選択します。
- 5 「OK」をクリックします。

6 変更を保存し、スタイルシートファイルを閉じます。

オブジェクトの種類に応じた新しいスタイルの作成

フォームデザインの内部スタイルシートまたは外部 Designer スタイルシート（XFS）ファイル内に、新しいスタイルを作成できます。

キャプション、値、境界線の書式設定を使用してオブジェクトのスタイルを作成するとき、同じオブジェクトの種類に関連する既存のスタイルを選択したり、共通のスタイルに関連する既存のスタイルを選択したりできます。共通のスタイルから、新しいスタイルはスタイルシートで指定されたプロパティを継承できます。

新しいスタイルを作成すると、そのスタイルがスタイルカタログに表示されます。

内部スタイルシート内に新しいスタイルを作成するには

現在のフォームデザイン内にある内部スタイルシートに対して新しいスタイルを作成します。

- 1 内部スタイルシートのパネルでメニューをクリックします。
- 2 「新しいスタイルを作成」を選択します。スタイルエディターダイアログボックスが表示されます。
- 3 一般パネルを選択します。
- 4 「スタイル名」ボックスにスタイルの名前を入力します。
- 5 種類リストで、作成するスタイルの対象となるオブジェクトの種類を選択します。
- 6 必要に応じて書式設定オプションを選択し、「OK」をクリックします。
- 7 変更を保存し、スタイルシートファイルを閉じます。

外部スタイルシートファイル内に新しいスタイルを作成するには

外部 Designer スタイルシート（XFS）ファイル内に新しいスタイルを作成するには、Designer でスタイルシートファイルを開き、そのファイル内にスタイルを作成します。

- 1 スタイルを追加する外部スタイルシートのパネルでメニューをクリックします。
- 2 「スタイルシートを編集」を選択します。
- 3 スタイルカタログで、編集するスタイルを右クリックし、「新しいスタイルを作成」を選択します。スタイルエディターダイアログボックスが表示されます。
- 4 一般パネルを選択します。
- 5 「スタイル名」ボックスにスタイルの名前を入力します。
- 6 種類リストで、作成するスタイルの対象となるオブジェクトの種類を選択します。
- 7 必要に応じて書式設定オプションを選択し、「OK」をクリックします。
- 8 変更を保存し、スタイルシートファイルを閉じます。

共通のスタイルの作成

共通のスタイルは汎用的なスタイルの種類で、どのオブジェクトの種類からでも参照できます。その結果、プロパティを備えた 1 つの共通のスタイルを定義し、他のすべてのオブジェクトの種類がそのプロパティを継承することができます。デフォルトでは、共通のスタイルは、キャプションテキストの書式設定、値テキストの書式設定および境界線のプロパティを定義します。テキストの書式設定プロパティだけを定義したり、境界線のプロパティだけを定義したりできます。

内部スタイルシート内に共通のスタイルを作成するには

現在のフォームデザイン内にある内部スタイルシートに対して共通のスタイルを作成します。

- 1 内部スタイルシートのパネルでメニューをクリックします。
- 2 「新しいスタイルを作成」を選択します。スタイルエディターダイアログボックスが表示されます。
- 3 一般パネルを選択します。
- 4 「スタイル名」ボックスにスタイルの名前を入力します。
- 5 種類リストで「共通のスタイル」を選択します。
- 6 必要に応じて書式設定オプションを選択し、「OK」をクリックします。
- 7 変更を保存し、スタイルシートファイルを閉じます。

外部スタイルシートファイル内に共通のスタイルを作成するには

外部 Designer スタイルシート（XFS）ファイル内に共通のスタイルを作成するには、Designer でスタイルシートファイルを開き、そのファイル内に共通のスタイルを作成します。

- 1 共通のスタイルの作成対象となる外部スタイルシートのパネルでメニューをクリックします。
- 2 「スタイルシートを編集」を選択します。
- 3 内部スタイルシートのパネルでメニューをクリックします。
- 4 「新しいスタイルを作成」を選択します。スタイルエディターダイアログボックスが表示されます。
- 5 一般パネルを選択します。
- 6 「スタイル名」ボックスにスタイルの名前を入力します。
- 7 種類リストで「共通のスタイル」を選択します。
- 8 必要に応じて書式設定オプションを選択し、「OK」をクリックします。
- 9 変更を保存し、スタイルシートファイルを閉じます。

オブジェクトにスタイルを適用するには

スタイルカタログには、各スタイルシートで使用できるスタイルが一覧表示されます。スタイルシート内の各スタイルは、特定のオブジェクトの種類に関連付けられています。同じオブジェクトの種類に、スタイルを適用できます。例えば、テキストフィールドスタイルはテキストフィールドオブジェクトに適用できます。適用するスタイルが、選択したオブジェクトに対応していない場合、「スタイルを適用」コマンドは使用できません。

すべてのオブジェクトの種類に適用できるプロパティを備えた、共通のスタイルを作成することもできます。60 ページの[「共通のスタイルの作成」](#)を参照してください。

- 1 「デザインビュー」タブで、スタイルを適用するオブジェクトの種類を選択します。
- 2 スタイルカタログで、適用するスタイルを右クリックします。
- 3 「スタイルを適用」をクリックします。

オブジェクトからスタイルを削除するには

「デザインビュー」タブのオブジェクトからスタイルを直接削除できます。

- 1 「デザインビュー」タブで、スタイルを削除するオブジェクトを選択します。
- 2 右クリックし、スタイル／スタイルを削除を選択します。

スタイルの編集

フォームデザインの内部スタイルシートまたは Designer スタイルシート（XFS）ファイルを参照する外部スタイルシートにあるスタイルを編集できます。現在のフォームデザインの内部スタイルシートにあるスタイルを編集します。外部スタイルシートにあるスタイルを編集するには、Designer で XFS スタイルシートを開きます。Designer でスタイルシートファイルを編集するとき、フォームデザインで使用されている白色の背景と区別するために、ページの背景色（デザインビュー）には色が付きます。

内部スタイルシートの場合、そのスタイルを使用しているすべてのオブジェクトに対して、変更が直ちに適用されます。外部スタイルシートの場合、フォームを保存するときに変更が適用されます。

内部スタイルシートにあるスタイルを編集するには

- 1 スタイルカタログで、内部スタイルシートのパネルを展開します。
- 2 編集するスタイルを右クリックし、「スタイルを編集」を選択します。
- 3 スタイルエディターで、必要に応じてオプションを選択し、「OK」をクリックします。
- 4 変更を保存します。

外部スタイルシートファイルにあるスタイルを編集するには

- 1 編集するためにスタイルシートを開くには、次のいずれかの操作を行います。
 - スタイルシートファイルがスタイルカタログ内にある場合は、編集する外部スタイルシートのパネルでメニューをクリックし、「スタイルシートを編集」をクリックします。スタイルシートファイルが開きます。
 - スタイルシートファイルがスタイルカタログ内にない場合は、ファイル／開くをクリックして、Designer でスタイルシートファイルを選択し開きます。
- 2 内部スタイルシートパネルで、編集するスタイルを右クリックし、「スタイルを編集」を選択します。
- 3 スタイルエディターで、必要に応じて書式設定オプションを選択し、「OK」をクリックします。
- 4 変更を保存します。

スタイルシートからのスタイルの削除

フォームデザインの内部スタイルシートまたは Designer スタイルシート（XFS）ファイルを参照する外部スタイルシートからスタイルを削除できます。フォームデザインの内部スタイルシートからは、スタイルを直接削除します。外部スタイルシートからスタイルを削除するには、Designer で XFS スタイルシートを開きます。

内部スタイルシートからスタイルを削除するには

- 1 スタイルカタログで、内部スタイルシートのパネルを展開します。
- 2 削除するスタイルを右クリックし、「スタイルを削除」を選択します。
- 3 「はい」をクリックして、スタイルを削除することを確認します。

外部スタイルシートからスタイルを削除するには

- 1 スタイルカタログで、外部スタイルシートのパネルにあるメニューをクリックします。
- 2 「スタイルシートを編集」を選択します。Designer でスタイルシートファイルが開き、スタイルカタログから関連するパネルが一時的に削除され、スタイルが内部スタイルシートのパネルに追加されます。
- 3 内部スタイルシートのパネルで、削除するスタイルを右クリックし、「スタイルを削除」を選択します。

- 4 変更を保存し、スタイルシートファイルを閉じます。Designer によって、残りのスタイルが内部スタイルシートのパネルから外部スタイルシートのパネルに戻されます。

新しいオブジェクトのデフォルトのスタイルを設定するには

スタイルカタログにある任意のスタイルシートから、新しいオブジェクトのデフォルトのスタイルを選択できます。オブジェクトライブラリにあるほとんどのオブジェクトに対してデフォルトのスタイルを選択できます。オブジェクトの種類に対して選択したデフォルトのスタイルは、スタイルカタログでは太字斜体のテキストで表示されます

「新しいオブジェクトにデフォルトのスタイルを適用」オプションが選択されているときに、フォームに新しいオブジェクトを追加すると、そのオブジェクトの種類に対するデフォルトのスタイルが自動的に新しいオブジェクトに適用されます。

- 1 スタイルカタログで、デフォルトとして設定するオブジェクトのスタイルを右クリックします。
- 2 「デフォルトのスタイルとして設定」をクリックします。

新しいオブジェクトにデフォルトのスタイルを適用するには

新しいオブジェクトにデフォルトのスタイルを適用する前に、フォームデザインに追加する各オブジェクトの種類に対して、デフォルトのスタイルを選択します。

- 1 スタイルカタログメニューをクリックします。
- 2 「新しいオブジェクトにデフォルトのスタイルを適用」を選択します。

新しいオブジェクトのデフォルトのスタイルを編集するには

新しいオブジェクトのデフォルトのスタイルを変更したり、解除したりできます。

- 1 スタイルカタログメニューをクリックします。
- 2 「デフォルトのスタイル設定を編集」を選択します。
- 3 対象となるオブジェクトの横にあるリストをクリックし、次のいずれかの操作を行います。
 - デフォルトのスタイルを解除するには、「なし」を選択します。
 - デフォルトのスタイルを変更するには、代わりのスタイルを選択します。

関連項目

- 655 ページの「[デフォルトフォント（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」
- 673 ページの「[デフォルトフォント（オプションダイアログボックス）](#)」
- 352 ページの「[新規フォームのキャプションのデフォルトフォントを設定するには](#)」
- 352 ページの「[既存フォームのキャプションのデフォルトフォントを設定するには](#)」
- 369 ページの「[新規フォームの値のデフォルトフォントを設定するには](#)」
- 369 ページの「[既存フォームの値のデフォルトフォントを設定するには](#)」

フォームの印刷

印刷用のフォーム設定

印刷を目的としたフォームでは、フォームデザイン内の各ページセットごとに片面印刷または両面印刷を選択できます。両面印刷を目的としたフォームの場合、マスターページを使用する用紙の面として、奇数ページ（表）、偶数ページ（裏）、奇数 / 偶数の制約なしまたは空白を指定できます。

片面印刷または両面印刷を指定することが推奨されるのは、Acrobat 8（スタティック）PDF フォームとして保存されるフォームデザインと、印刷（PCL や Postscript）を目的としたフォームデザインのみです。

フォームを印刷用に設定する際には、入力データの内容を再確認してください。サンプルデータファイルを用意するか Designer でサンプルデータファイルを自動生成し、フォームのレイアウト、書式設定、内容および動作が意図したとおり印刷時に反映されるかどうか調べることをお勧めします。例えば、フォームを両面印刷用に設定する場合は、フォームのレンダリング結果が奇数ページで終わる場合と偶数ページで終わる場合、および単一ページに収まる場合をテストするための各サンプルデータファイルを用意する必要があります。

PDF フォーム用の印刷設定を指定することもできます。例えば、Acrobat 8（スタティック）PDF フォームおよび Acrobat 8（ダイナミック）XML フォームの場合、印刷する部数および片面と両面のいずれで印刷するかを選択できます。ユーザーがフォームの印刷を選択すると、これらのオプションが自動的に適用されます。すべての PDF フォームに対して、フォームを開いた直後にそのフォームが印刷されるように指定できます。この場合、ユーザーがフォームを開くと印刷ダイアログボックスが表示され、デフォルトのプリンターと指定したプリンターのどちらにフォームを印刷するかを選択できます。

関連項目

64 ページの「[既存フォームデザインに対するページ配置および印刷オプションの指定](#)」

66 ページの「[両面印刷を目的としたフォーム内でマスターページを使用するには](#)」

67 ページの「[ページセット内におけるマスターページの配置を指定するには](#)」

70 ページの「[両面印刷を目的としたフォームで最初のページの後に空白ページを挿入](#)」

72 ページの「[フォーム内のページセットを使用した片面印刷と両面印刷の制御](#)」

76 ページの「[PDF フォームを開いたときに自動的に印刷するには](#)」

既存フォームデザインに対するページ配置および印刷オプションの指定

Designer 8 よりも前のバージョンで作成されたフォームデザインの場合、ページの繰り返しレンダリングを制御するには、選択したページセットまたはマスターページに対して、オブジェクトパレットで「ページの出現箇所の制限」、「最小値」、「初期値」および「最大値」オプションを指定します。

従来形式のフォームデザインは、更新することでページ配置および印刷オプションを使用できるようになります。これにはオカレンスの指定も反映されます。ページ配置および印刷オプションを使用すると、マスターページを適用するページの指定と、片面および両面印刷の設定ができます。

フォームデザインで片面印刷を指定した場合の結果は、ページセットおよびマスターページのオカレンス値について最小値および最大値を指定した場合の結果とほとんど同様です。したがって、当初はフォームデザインを片面印刷用に更新することをお勧めします。この段階でフォームが正しくレンダリングされることを確認してから、必要に応じて両面印刷用に更新し直すことができます。両面印刷を選択すると、マスターページおよびその他のオブジェクト（サブフォーム、サブフォームセット、テーブル）を奇数ページ（表）と偶数ページ（裏）のいずれに印刷するかを制御できます。

ただし、フォームデザインでページ配置および印刷オプションを選択すると、オカレンスの設定は Designer により無効化されます。これは、ページセットのオカレンス管理が、選択したページ配置と印刷オプションによって行われるからです。したがって、更新を開始する前にフォームデザインをバックアップしておくことをお勧めします。

既存フォームデザインに対してページ配置および印刷オプションを指定するには

- 1 階層パレットで、ページセットを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの印刷リストから「片面で印刷（表側）」を選択します。「ページの出現箇所の制限」オプションが無効化されることが通知されます。続行するには「はい」をクリックします。
- 3 ページセット内の最初のマスターページを選択し、オブジェクトパレットで「マスターページ」タブをクリックします。「ページの出現箇所の制限」オプションは無効化されています。無効になる前は、このマスターページにはページオカレンスの「最小値」および「最大値」の設定項目がありました。これらの項目は、オカレンスが 1 回だけになることを示す「1」に設定されていました。
- 4 「ページ編集」タブをクリックすると、奇数 / 偶数リストと配置リストが有効になっています。このマスターページに対して配置の制約は設定されていません。
- 5 このマスターページのオカレンスを 1 回にするには、配置リストで「最初のページ（ページセット内）」を選択します。
- 6 「PDF プレビュー」タブでフォームをプレビューし、このマスターページが 1 回だけ使用されていることを確認します。
- 7 ページセット内にある次のマスターページを選択します。
- 8 このページセット内で、ページオカレンスの「最小値」が「0」、「最大値」が「1」に設定されていたマスターページに対し、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブにある配置リストで次のいずれかのオプションを選択します。
 - 最初と最後のページを除いた途中のページにマスターページを適用するよう設定するには、「残りのページ」を選択します。
 - 最初のページを除くすべてのページにマスターページを適用するよう設定するには、「配置の制限がありません」を選択します。
- 9 このページセット内で、ページオカレンスの「最小値」および「最大値」が「1」に設定されていたマスターページに対し、配置リストで「最後のページ（ページセット内）」を選択して、このマスターページを最後のページに適用するよう設定します。
- 10 「PDF プレビュー」タブでフォームをプレビューします。

既存フォームデザインに対して両面印刷を指定するには

- 1 前述した手順に従い、既存フォームデザインに対してページ配置および片面印刷オプションを指定します。
- 2 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 3 「デフォルト」タブをクリックし、フォームを実行するバージョンを選択リストで「Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降」を選択します。
- 4 「プレビュー」タブをクリックし、プレビュータイプリストから「印刷フォーム（両面）」を選択します。
- 5 (オプション) プレビュー中のフォームを作成したデータソースを使用してテストする場合は、「参照」ボタンを使用してファイルを指定します。また、「データファイル」ボックスにテストデータファイルへの完全なパスを入力することもできます。両面印刷を目的としたフォームをテストする際は、複数のデータソースファイルを用意しておくことをお勧めします。例えば、単一ページにちょうど収まるデータソースファイル、フォームのレンダリング結果が偶数ページで終わるデータソースファイル、フォームのレンダリング結果が奇数ページで終わるデータソースファイルなどを使用してテストしてください。
- 6 (オプション) プレビュー中のフォームを、自動的に生成されたデータソースを使用してテストする場合は、「プレビューデータを生成」をクリックします。繰り返しサブフォームまたは繰り返しサブフォームセットが含まれたフォームの場合

は、データファイルで各サブフォームまたはサブフォームセットが繰り返される回数を指定します。ファイルの保存先の指定には参照ボタンを使用できます。ファイル名を入力し、「生成」をクリックします。

- 7 Adobe XML フォームのプレビュー形式リストから「スタティック PDF フォーム」を選択して「OK」をクリックします。
- 8 階層パレットで、ページセットを選択します。
- 9 オブジェクトパレットの印刷リストから「両面に印刷」を選択します。
- 10 「PDF プレビュー」タブでフォームをプレビューします。この作業はフォームをプレビューしながら進めることをお勧めします。意図しない動作がフォームのプレビューで見つかった場合は、フォームデザイン内の該当するサブフォーム、サブフォームセットおよびテーブルに対して、「ページ編集」タブの「配置」と「後」オプションの設定を確認してください。例えば、サブフォームを次の偶数ページに配置するよう設定した場合、フォームの途中で不自然な場所に空白の奇数ページが挿入されることがあります。
- 11 フォームを両面印刷用に設定する方法の一覧を次に示します。
 - 66 ページの「[両面印刷を目的としたフォーム内でマスターページを使用するには](#)」
 - 67 ページの「[ページセット内におけるマスターページの配置を指定するには](#)」
 - 70 ページの「[両面印刷を目的としたフォームで最初のページの後に空白ページを挿入](#)」
 - 72 ページの「[フォーム内のページセットを使用した片面印刷と両面印刷の制御](#)」

両面印刷を目的としたフォーム内でマスターページを使用するには

両面印刷を目的としたフォームの場合、マスターページを適用する用紙の面として、奇数ページ（表）、偶数ページ（裏）、奇数 / 偶数の制約なしまたは空白を指定できます。

両面印刷を目的としたフォームでは、奇数ページ（表）と偶数ページ（裏）とで別のマスターページを使い分けることができます。例えば、フォームを両面印刷した場合にページ番号を印刷する位置を、奇数ページ（表）では右下隅、偶数ページ（裏）では左下隅にする場合があります。

奇数ページ（表）に指定された両面印刷ページが 2 つ連続した場合に、それらの間に空白ページが挿入されるようにするには、「空白ページ」オプションを選択します。

注意：奇数 / 偶数リストのオプションは、ページオカレンスの最小値と最大値の設定に基づくフォームデザインには適用されません。

- 1 階層パレットのマスターページノードの下で、マスターページを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「ページ編集」タブをクリックします。
- 3 奇数 / 偶数リストで、マスターページを適用する印刷ページを選択します。

関連項目

- 64 ページの「[既存フォームデザインに対するページ配置および印刷オプションの指定](#)」
- 67 ページの「[ページセット内におけるマスターページの配置を指定するには](#)」
- 70 ページの「[両面印刷を目的としたフォームで最初のページの後に空白ページを挿入](#)」
- 72 ページの「[フォーム内のページセットを使用した片面印刷と両面印刷の制御](#)」

ページセット内におけるマスターページの配置を指定するには

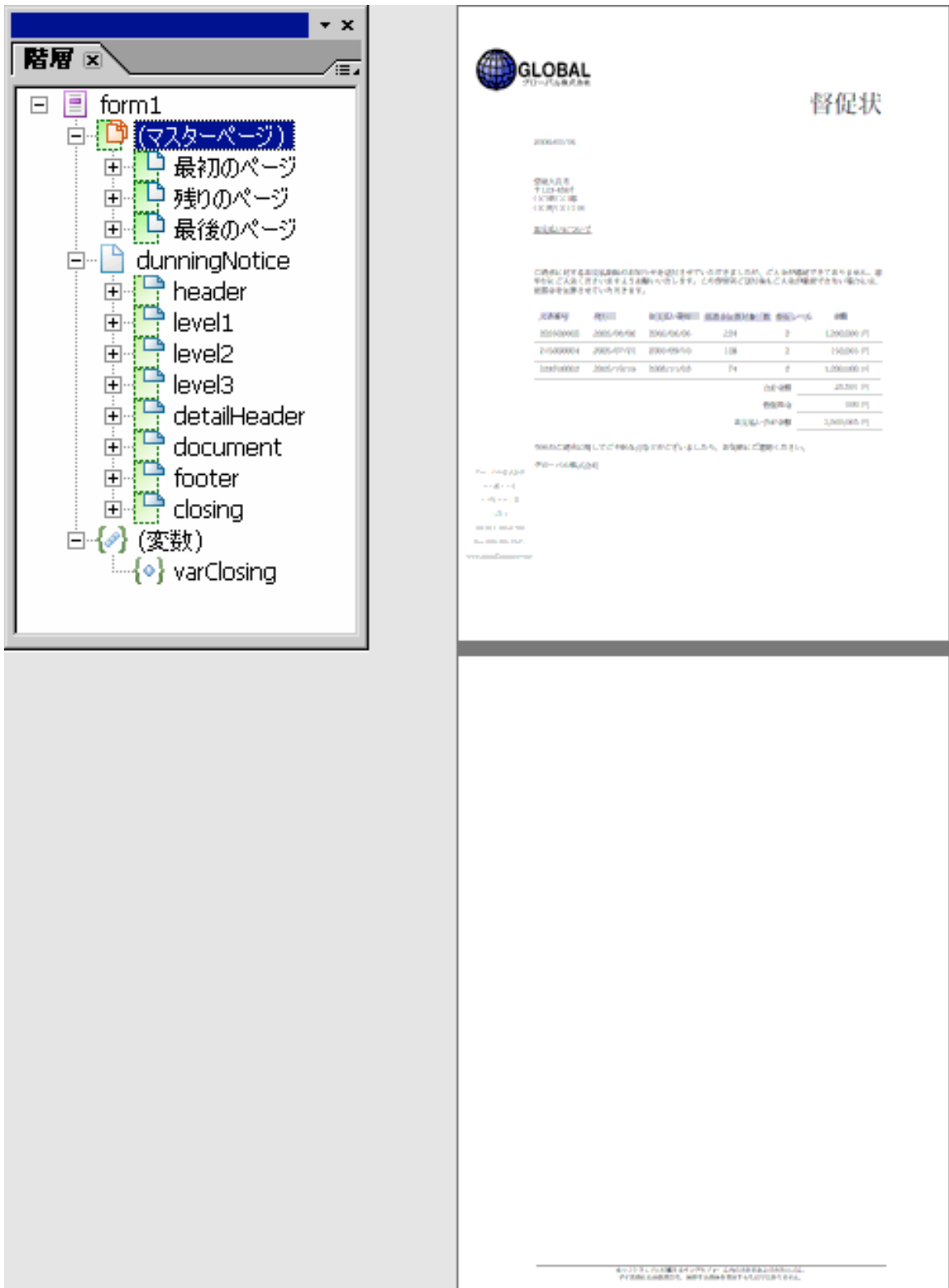
フォームデザイン内には少なくとも 1 つのページセットが含まれます。印刷を目的としたフォームの場合、ページセット内のどこにマスターページを使用するか（最初の印刷ページ、最後の印刷ページ、それら以外の途中のページなど）を指定する必要があります。

注意：ルートページセットの最初のページは空白にできません。コンテンツ領域を含める必要があります。

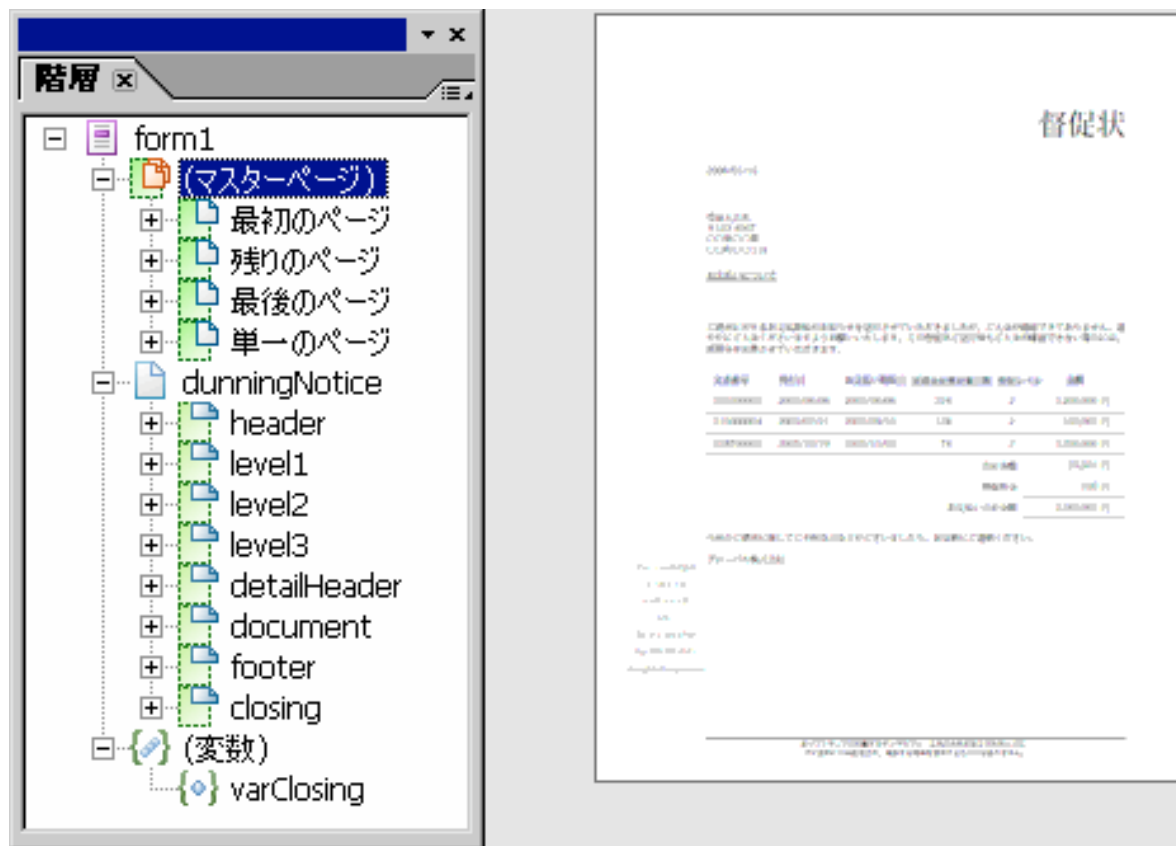
また、フォームデザイン内に複数のページセットがある場合は、1 つのページセットから別のページセットに移行するための区切りを含んだ印刷用サブフォームを指定する必要があります。

注意：マスターページ配置の指定は、ページオカレンスの最小値と最大値の設定に基づくフォームデザインには適用されません。

「ページのみ（ページセット内）」オプションは、フォームのレンダリング結果が印刷ページの片面に収まる場合に役立ちます。例えば、下のフォームではデータを 1 ページで印刷できますが、最初の印刷ページ用のマスターページと最後の印刷ページ用のマスターページがページセット内にあるため、結果として 2 ページが印刷されます。この例では、最初のページマスターページにヘッダー情報、最後のページマスターページにフッター情報を印刷するようになっています。



すべての内容が 1 ページに収まる場合に 2 ページが印刷されるのを防ぐには、マスターページを 1 つ作成して「ページのみ（ページセット内）」オプションを選択します。フォームをレンダリングしたデータが印刷ページの片面に収まる場合は常にこのマスターページが使用されます。



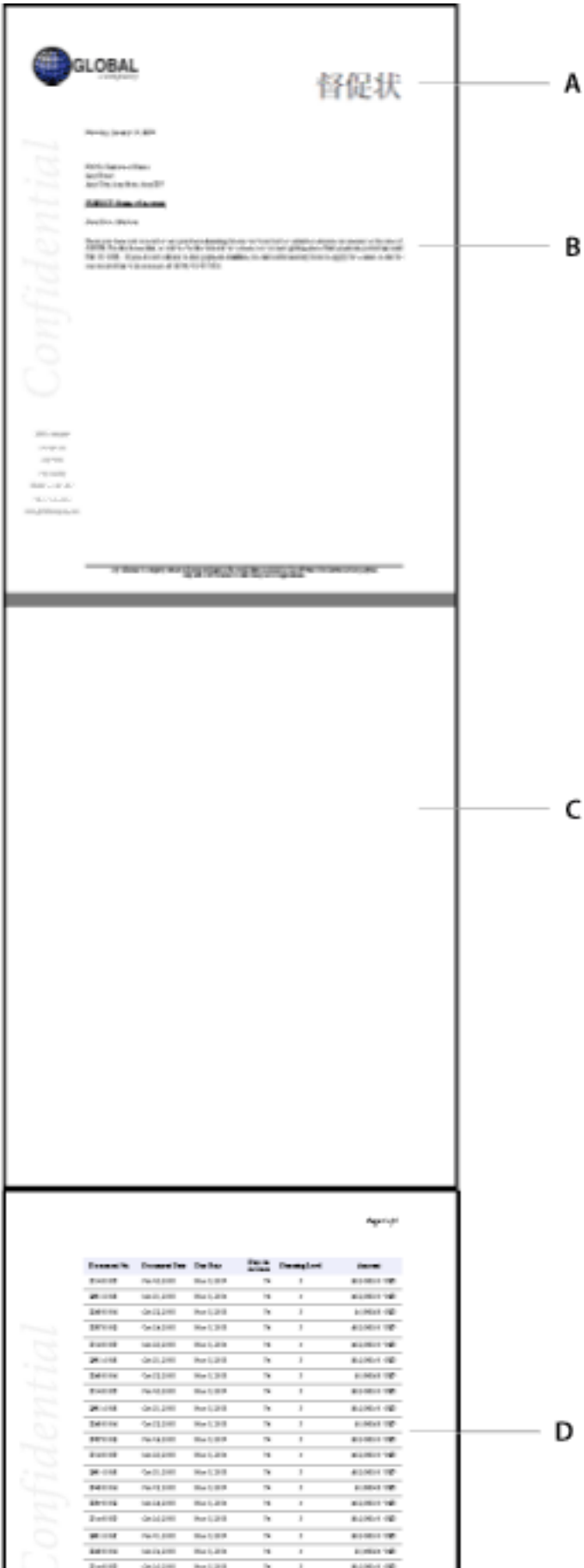
- 1 階層パレットのマスターページノードの下で、配置を変更するマスターページを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「ページ編集」タブをクリックします。
- 3 配置リストで、このマスターページの配置を選択します。

関連項目

- 64 ページの「既存フォームデザインに対するページ配置および印刷オプションの指定」
- 66 ページの「両面印刷を目的としたフォーム内でマスターページを使用するには」
- 70 ページの「両面印刷を目的としたフォームで最初のページの後に空白ページを挿入」
- 72 ページの「フォーム内のページセットを使用した片面印刷と両面印刷の制御」

両面印刷を目的としたフォームで最初のページの後に空白ページを挿入

両面印刷を目的としたフォームで最初のページの後に空白ページを挿入するには、ページセット内に、最初のページ用、奇数ページ用および偶数ページ用の各マスターページを含めます。例えば、カバーレターの裏面を空白ページにすることが必要な場合、カバーレターサブフォームに続く領域を奇数ページから始めるよう指定すると、フォームの印刷時、最初の偶数ページに空白ページが挿入されます。



A. このページはトップページマスターページを使用しています B. 最初の偶数ページには空白ページマスターページを適用した空白ページが挿入されます C. このページは奇数ページマスターページを使用しています D. このページは偶数ページマスターページを使用しています E. このサブフォームに続く領域を「次の奇数ページヘジャンプ」に設定しています

両面印刷を目的としたフォームで最初のページの後に空白ページを挿入するには

- 1 ページセットに新規マスターページを追加します。
- 2 作成したマスターページの任意の場所をクリックします。
- 3 「ページ編集」タブをクリックし、奇数 / 偶数リストで「空白ページ」を選択します。
- 4 挿入する空白ページの直前に位置するサブフォームまたはサブフォームセットを選択します。
- 5 「ページ編集」タブをクリックし、後リストで「次の奇数ページヘジャンプ」を選択します。
- 6 「PDF プレビュー」タブでフォームをプレビューします。

関連項目

64 ページの「[印刷用のフォーム設定](#)」

64 ページの「[既存フォームデザインに対するページ配置および印刷オプションの指定](#)」

66 ページの「[両面印刷を目的としたフォーム内でマスターページを使用するには](#)」

フォーム内のページセットを使用した片面印刷と両面印刷の制御

印刷を目的としたフォームでは、フォームデザイン内の各ページセットに対して片面印刷または両面印刷を指定できます。

注意：片面印刷または両面印刷の指定は、印刷（PCL や Postscript など）用のフォームデザインに推奨されます。

例えば、プレプリントやブレンコピーのフォームを生成するためのフォームデザインを作成する際にこの方法を使用できます。プレプリントフォームは、既に項目が印刷されている用紙に印刷されるフォームです。ブレンコピーフォームは、何も印刷されていない用紙に印刷されるフォームです。

この例では、ページセットに組み込まれる 5 つのマスターページを作成します。片面印刷するか両面印刷するかは、ページセットごとに指定できます。

MasterPage1 タイトルページの情報を含み、ページセット内の最初のページに適用され、片面印刷されます。印刷時に PrePrint ページセットへと正しく移行するために、MasterPage1 にはページ区切りを含んだサブフォームがあります。

MasterPage2 用紙に会社のロゴと連絡先情報が入ったプレプリントフォームです。このマスターページでは、これらの情報を表示する領域がコンテンツ領域の外にあります。次に、従業員固有の情報を受け取る小さなコンテンツ領域が続きます。この領域はプレプリントフォーム上に 1 回出現し、2 番目のページセットの最初のページとなります。2 番目のページセットは両面印刷する必要があります。

MasterPage3 ページ全体を含むことができるような、より大きなコンテンツ領域を入れ、多くの情報を受け取るようにします。このマスターページはプレプリントフォームの 2 ページ目およびその後続ページに使用されます。2 番目のページセット内に「残りのページ」配置オプションが割り当てられます。印刷時に PlainCopy ページセットへと正しく移行するために、MasterPage3 にはページ区切りを含んだサブフォームがあります。

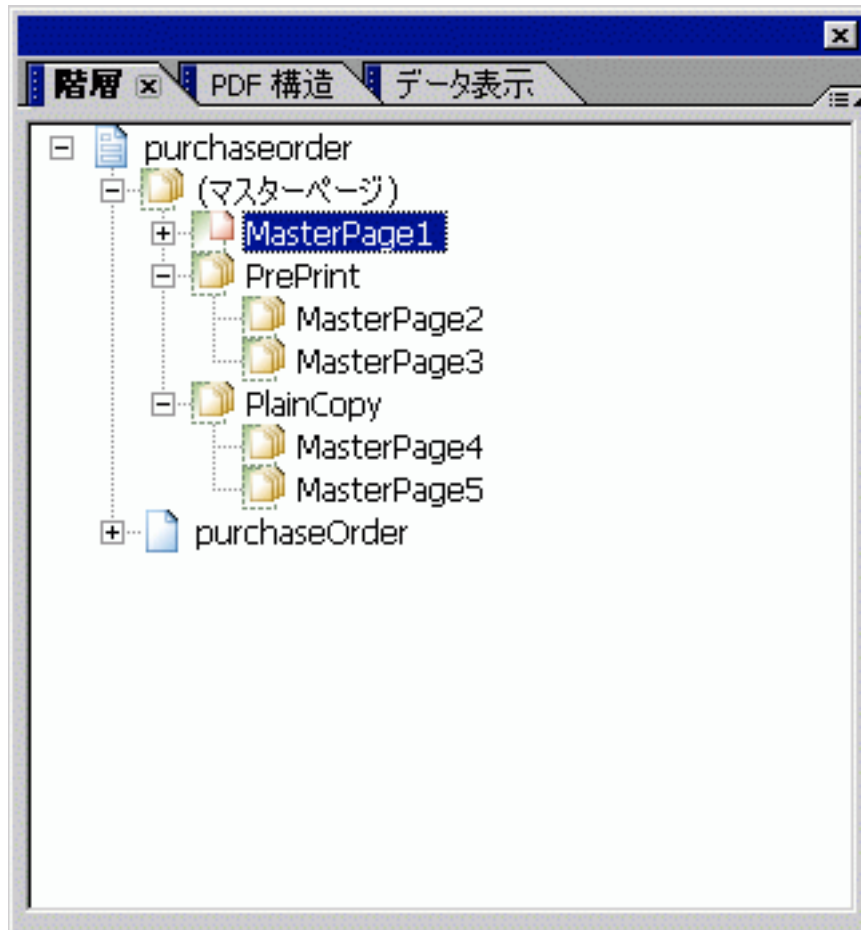
MasterPage4 MasterPage4 には、まずコンテンツ領域の外側に会社のロゴと連絡先情報を入れます。次に、従業員固有の情報を受け取る小さなコンテンツ領域が続きます。この領域はブレンコピーフォーム上に 1 回出現し、3 番目のページセットの最初のページとなります。3 番目のページセットも両面印刷する必要があります。

MasterPage5 ページ全体を含むことができるような、より大きなコンテンツ領域を入れ、多くの情報を受け取るようにします。このマスターページはブレンコピーフォームの 2 ページ目およびその後続ページに使用されます。出現回数は 0 ～ 無限回です。2 番目のページセット内に「残りのページ」配置オプションが割り当てられます。

これらのマスターページはページセットにグループ化されます。

- メインページセットは片面印刷に設定されます。

- PrePrint ページセットは両面印刷に設定されます。
- PlainCopy ページセットは両面印刷に設定されます。



このフォームは階層構造内のページセットの順序に従って次のようにレンダリングされます。

- 1 つ目のサブフォームは常に MasterPage1 上にレイアウトされます。
- プレプリントフォームの場合、次のサブフォームはまず MasterPage2 上、次に MasterPage3 上にレイアウトされます。プレーンコピーフォームの場合、次のサブフォームはまず MasterPage4 上、次に MasterPage5 上にレイアウトされます。

関連項目

54 ページの「[ページの順序および表示 / 非表示の制御](#)」

64 ページの「[既存フォームデザインに対するページ配置および印刷オプションの指定](#)」

66 ページの「[両面印刷を目的としたフォーム内でマスターページを使用するには](#)」

67 ページの「[ページセット内におけるマスターページの配置を指定するには](#)」

70 ページの「[両面印刷を目的としたフォームで最初のページの後に空白ページを挿入](#)」

「デザインビュー」タブや「マスターページ」タブの内容を印刷するには

- 1 レイアウトエディターの「デザインビュー」タブまたは「マスターページ」タブをクリックします。
- 2 ファイル／印刷を選択します。
- 3 必要なオプションを設定して、「OK」をクリックします。

注意：このダイアログボックスの「プリンター」セクションと「印刷範囲」セクションに表示されるオプションは、コンピューターに接続されているプリンターの種類によって異なります。プリンターのオプションについて詳しくは、プリンターのマニュアルを参照してください。

関連項目

74 ページの「[サンプルデータを使用してフォームを印刷するには](#)」

サンプルデータを使用してフォームを印刷するには

Designer では、現在のフォームデザインの最終バージョンを、サンプルデータを使用して印刷できます。フォームを印刷すると、それぞれのオブジェクトにサンプル XML ファイルのデータ値が表示されます。

サンプルデータを使用してフォームをテストすることで、完成したフォームの状態を確認し、デザインを検証することができます。

- 1 ファイル／印刷を選択します。
- 2 「データと共にフォームを印刷」を選択します。
- 3 (オプション) データソースを使用してフォームを印刷するには、参照ボタンを使用してファイルを指定します。また、「データファイル」ボックスにテストデータファイルへの完全なパスを入力することもできます。
- 4 (オプション) 自動的に生成されたデータソースを使用してフォームを印刷するには、「データファイルを生成」をクリックします。繰り返しサブフォームまたは繰り返しサブフォームセットが含まれたフォームの場合は、データファイルで各サブフォームまたはサブフォームセットが繰り返される回数を指定します。ファイルの保存先の指定には参照ボタンを使用できます。ファイル名を入力し、「生成」をクリックします。
- 5 「OK」をクリックします。

関連項目

490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」

フォームで印刷するサンプルデータを作成するには

サンプルデータを使用して現在のフォームデザインの最終バージョンを印刷すると、フォームが正しく印刷されるかどうかを確認できます。サンプルデータがない場合には、Acrobat を使用して作成できます。

サンプルデータファイルを作成したら、どのデータファイルをフォームの印刷に使用するかを指定することができます。次回 Designer でフォームを印刷するときは、それぞれのオブジェクトにサンプルデータが表示されます。

- 1 Designer で、フォームデザインを PDF ファイルとして保存します。
- 2 この PDF ファイルを Acrobat で開いて、テスト対象のフィールドに値を入力します。
- 3 Acrobat で、次のタスクを実行します。
 - アドバンスド／フォーム／フォームデータの書き出しを選択します。
 - フォームデータを指定形式で書き出しダイアログボックスで、ファイルに名前を付けて、XML データパッケージ (*.xdp) として保存します。

4 Designer で、次のタスクを実行します。

- ファイル／印刷を選択します。
- 「データと共にフォームを印刷」を選択します。
- データソースを使用してフォームを印刷するには、参照ボタンを使用してテストデータの含まれる XML ファイルを指定します。また、「データファイル」ボックスにテストデータ XML ファイルへの完全なパスを入力することもできます。
- 「OK」をクリックします。

関連項目

74 ページの「[サンプルデータを使用してフォームを印刷するには](#)」

フォームと共に印刷するサンプルデータを自動生成するには

Acrobat でサンプルデータファイルを作成する代わりに、フォームに印刷するサンプルデータを生成することができます。また、繰り返しサブフォームまたは繰り返しサブフォームセットが含まれているフォームの場合は、フォームの印刷時にデータを繰り返す回数を指定できます。

Designer では、フォーム内の対応するオブジェクトについて、有効なサンプルデータを生成できますが、これには次の制限があります。

- オブジェクトに対して指定できる検証スクリプトに従ってサンプルデータを生成することはできません。
- 生成されるサンプルデータファイルに対して指定する繰り返しサブフォームの数は、サブフォームの最小数と最大数により制限されます。
- 生成されるサンプルデータでは、2D バーコードに対して選択したデフォルト値が保持されます。

サンプルデータファイルの生成後は、必要に応じてファイルを編集することができます。

フォームの印刷時に、どのデータファイルを使用するかを指定します。次回 Designer でフォームを印刷するときは、それぞれのオブジェクトにサンプルデータが表示されます。

- 1 ファイル／印刷を選択します。
- 2 「データと共にフォームを印刷」を選択します。
- 3 「データファイルを生成」をクリックします。
- 4 「データファイル」ボックスで、参照ボタンを使用してテストデータファイルの場所を指定します。また、ファイル名を含むテストデータファイルの完全なパスを入力することもできます。
- 5 要素の繰り返しのリストで、サブフォームの右側にある番号を選択し、これがデータファイルで繰り返される回数を入力します。
- 6 「生成」をクリックします。

関連項目

74 ページの「[サンプルデータを使用してフォームを印刷するには](#)」

PDF フォーム印刷の設定を指定するには

PDF フォームを印刷する場合は、印刷ジョブの正しい設定をユーザーに任せる代わりに、フォームデザインで設定を指定できます。例えば、印刷する部数および片面と両面のどちらで印刷するか、またはページの拡大 / 縮小オプションを選択できます。ユーザーがフォームを印刷するときに、これらの設定が自動的に適用されます。

注意： Acrobat 8（スタティック）PDF フォームまたは Acrobat 8（ダイナミック）XML フォームとして保存されているフォームデザインに対してのみ、印刷の設定を指定することをお勧めします。

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「PDF 印刷オプション」タブをクリックし、「この PDF フォームの印刷に次の印刷設定を使用する」を選択します。
- 3 印刷する部数を選択します。
- 4 両面印刷用の次のいずれかのオプションを選択します。両面に印刷するには、選択するプリンターが両面印刷をサポートしている必要があります。
 - 用紙の片面に印刷するには、「単一」を選択します。
 - 用紙の長辺を軸にして裏返し、用紙の両面に印刷するには、「両面印刷（長辺で反転）」を選択します。
 - 用紙の短辺を軸にして裏返し、用紙の両面に印刷するには、「両面印刷（短辺で反転）」を選択します。
- 5 ページの拡大 / 縮小に関する次のいずれかのオプションを選択します。
 - Adobe Acrobat または Adobe Reader の印刷ダイアログボックスで選択された「ページの拡大 / 縮小」オプションを使用するには、「Adobe Acrobat / Reader の設定を使用する」を選択します。
 - Adobe Acrobat または Adobe Reader の印刷ダイアログボックスで「ページの拡大 / 縮小」を「なし」に設定するには、「ページの拡大 / 縮小なし」を選択します。Adobe Acrobat または Adobe Reader のユーザーは「ページの拡大 / 縮小」設定を変更できます。Adobe Acrobat または Adobe Reader のユーザーが「ページの拡大 / 縮小」を無効にしないようにするには、「ユーザーによる変更を禁止」を選択します。
 - ページサイズに基づいて自動的に給紙方法を選択するには、「ページサイズに基づいて給紙方法を選択」を選択します。
- 6 「OK」をクリックします。

関連項目

76 ページの「[PDF フォームを開いたときに自動的に印刷するには](#)」

PDF フォームを開いたときに自動的に印刷するには

PDF フォームを開いたときに印刷ダイアログボックスが表示されるように指定すると、ユーザーはすぐにフォームを印刷できます。

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「PDF 印刷オプション」タブをクリックし、「開いたときにフォームを自動的に印刷する」を選択します。
- 3 （オプション）ユーザーのコンピューターのデフォルトのプリンターを使用して PDF フォームを印刷するには、「ユーザーのデフォルトのプリンターに出力する」を選択します。
- 4 （オプション）指定したプリンターを使用して PDF フォームを印刷するには、「出力先」を選択し、一覧からプリンターを選択します。プリンター名を入力することもできます。この方法は、自分に割り当てられていないプリンターを指定する場合に便利です。このプリンター名は、ユーザーのコンピューターに取り付けられているプリンターの名前と完全に一致する必要があります。
- 5 「OK」をクリックします。

タブの順序

多くのユーザーは、マウスではなく Tab キーを使用して、フォーム内のフィールドやボタンの間を移動します。Designer では、フォーム内にあるオブジェクト間でのタブ順序を設定できます。

タブ順序は、インタラクティブフォームと固定されたレイアウトのフォームの両方で重要です。インタラクティブフォームの場合、タブ順序は、エンドユーザーがフォームを入力するときの操作性に影響します。

視覚や運動機能に障害のあるユーザーがフォームにアクセスできるようにする必要がある場合、インタラクティブフォームでも非インタラクティブフォームでも、タブ順序が非常に重要になります。一般に、このようなユーザーはフォームの操作にマウスを使用しないので、キーボードのキーおよび利用しやすいタブ順序を利用することで、フォーム上のすべてのフィールドに完全にアクセスすることができます。

このようなアクセシブルなフォームでは、フォームがインタラクティブであっても印刷用にデザインされていても、タブ順序の指定が必要です。また、スクリーンリーダーは地理的順序でフォームを読み取ります。地理的順序は、Designer でデフォルトのタブ順序を使用したときに設定されます。

Designer では、各フォームについてデフォルトのタブ順序が自動的に設定されます。このタブ順序は、フォームの論理的なフローを反映し、特定のユーザーの要件に対応するために容易に変更できます。

デフォルトのタブ順序の機能

フォーム内のオブジェクトに設定されているデフォルトのタブ順序は、左上隅コーナーから開始して左から右へ、上から下へとなっています。タブ順序は、サブフォーム、ラジオボタンおよびコンテンツ領域も対象となります。例えば、2つのサブフォームが並んでいて、各サブフォームにいくつかのフィールドオブジェクトが含まれている場合、タブシーケンスは最初のサブフォームのフィールドを順番に通じ、次のサブフォームに移動します。

注意：Designer では、タブ順序に円、線または長方形オブジェクトは含まれません。

タブ順序は、ページとそのマスターページ上でのオブジェクトの垂直方向の位置によっても決まります。

タブ順序は、最小の垂直座標を持つオブジェクトで始まり、最大の垂直座標を持つオブジェクトで終わります。この順序では、オブジェクトがボディページ上にあるかマスターページ上にあるかは関係ありません。

コンテンツ領域のような、別のオブジェクトを内包するオブジェクトの場合、子オブジェクトにタブ順序が設定されてから、そのすぐ上位のオブジェクトにタブ順序が設定されます。

ボディページとマスターページにおけるオブジェクトのタブ順序の例を以下に示します。

- マスターページ上にある垂直座標 1 の画像オブジェクト。
- ページ上にある垂直座標 4 のコンテンツ領域オブジェクト。コンテンツ領域内のすべてのオブジェクトにタブ順序が設定されてから、マスターページ上のサブフォームオブジェクトにタブ順序が設定されます。
- マスターページ上にある垂直座標 10 のサブフォームオブジェクト。コンテンツ領域内のすべてのオブジェクトにタブ順序が設定されてから、マスターページ上のテキストオブジェクトにタブ順序が設定されます。
- マスターページ上にある垂直座標 12 のテキストオブジェクト。

タブ順序は重要なので、フォーム上にオブジェクトを配置する際は、それぞれの位置関係を考慮して正確に配置してください。例えば、座標を使ってオブジェクトの位置とサイズを決めたり、オブジェクトをグリッド上のポイントにスナップすることができます。

フォーム内でデフォルトのタブ順序と異なるシーケンスが必要な場合、デフォルトのタブ順序を変更できます。例えば、列内で上から下へオブジェクトを移動してから、左から右へ移動するようにタブ順序を変更することができます。

注意： Acrobat 6.0.2 では、Tab キーでラジオボタンのグループへと移動すると、グループ内の左上隅にあるラジオボタンがアクティブになります。ラジオボタン間は Tab キーを使用して移動します。Acrobat 7.0.5 以降では、選択されているラジオボタンがアクティブになります。ラジオボタン間は矢印キーを使用して移動します。Tab キーを押すとグループの外へ移動します。

関連項目

337 ページの「[オブジェクトを配置するには](#)」

78 ページの「[デフォルトのタブ順序の表示](#)」

80 ページの「[タブ順序の変更](#)」

デフォルトのタブ順序の表示

フォーム作成時に必要な最終作業の 1 つに、タブ順序の設定があります。この作業を行う前に、フォームデザインのレイアウトが終了し、すべてのオブジェクトがフォーム上の適切な位置に配置されていることを確認します。最初に、Designer で自動的に作成されるデフォルトのタブ順序を調べます。

Designer でフォームをデザインしたり、開いたりするときには、タブ順序は表示されません。フォームのタブ順序を表示するには、表示／タブの順序を表示を選択するか、タブの順序パレットの「順序を表示」をクリックします。

注意： タブの順序パレットが表示されていない場合は、ウィンドウ／タブの順序を選択します。

フォーム上のタブ順序が、色付きの図形の中に連続する番号として表示されます。

- 灰色の円内の番号は、コンテンツ領域にあるオブジェクトのデフォルトのタブ順序を示します。
- 緑色の円内の番号は、マスターページオブジェクトのタブ順序を示します。
- 薄紫色の四角形内の番号は、フラグメント内のオブジェクトのタブ順序を示します。

1 自社

2 発注日

3 発注番号

4 発注者

5 住所

6 市

7 都道府県

8 国

9 国

デフォルトのタブ順序を注意深く調べて、特定の要件に合っているかどうかや、変更する必要があるかどうかを判断します。タブ順序を変更しても、タブの順序パレットで「自動」オプションを選択することによって、容易にデフォルトのタブ順序に戻すことができます。

注意：タブ順序を表示している間は、フォームのどの部分も編集できません。

タブ順序を非表示にして、通常のフォーム編集モードに戻るには

次のいずれかの操作を実行します。

- 表示／タブの順序を非表示を選択します。
- タブの順序パレットで、「順序を非表示」をクリックします。
- 階層パレットなどの別のパレットを開きます。

関連項目

77 ページの「[デフォルトのタブ順序の機能](#)」

80 ページの「[タブ順序の変更](#)」

タブの順序パレットの使用

タブの順序パレットを使用して、フォームのタブ順序を表示することもできます。タブの順序パレットでは、フォーム上のすべてのオブジェクトが番号付きリストとして表示されます。各番号はタブ順序でのオブジェクトの位置を表します。また、必要に応じて、このパレットでタブ順序を変更することもできます。

タブの順序パレットを開くには、ウィンドウ／タブの順序を選択します。

タブの順序パレットでは、リストに次のような視覚的なマーカーが表示される場合があります。

- 灰色のバーはフォームの各ページを示します。各ページのタブ順序は数字 1 から始まります。
- 緑の円内の文字 **M** は、マスターページオブジェクトを示します（「デザインビュー」タブでフォームを表示している場合にのみ表示されます）。
- 数字の範囲はフラグメント内のオブジェクトを示します。
- 黄色の背景は現在選択している項目を示します。
- ページの最初のオブジェクトの横に表示される錠前のアイコンは、そのオブジェクトがタブ順序内で移動できないことを示します（「マスターページ」タブでフォームを表示している場合にのみ表示されます）。

このリストに表示されるタブ順序の番号は、フォーム上に表示される番号とまったく同じです。

異なる点は、フォーム上に表示された番号は情報の提供のみを目的としているのに対して、リスト上の番号は変更してタブ順序を変更できることです。

タブの順序パレットでは、フォーム上のタブ順序の表示と非表示を切り替えたり、デフォルトのタブ順序とカスタムタブ順序を切り替えたりすることもできます。

関連項目

80 ページの「[タブ順序の変更](#)」

78 ページの「[デフォルトのタブ順序の表示](#)」

タブ順序の変更

デフォルトのタブ順序を調べた後、フォーム上の一部のオブジェクトについて別の順序が必要になる場合があります。例えば、2つのアドレスフィールドのグループが横に並んでいる場合に、最初のグループ内のフィールドをすべて移動してから、2番目のグループに移動することができます。

タブ順序内のオブジェクトの位置を変更するには、タブの順序パレットのリストでオブジェクトを上または下へ移動します。単一のオブジェクトまたはオブジェクトグループを移動できます。オブジェクトをタブ順序内の新しい位置に移動すると、Designer によって、オブジェクトの新しい位置に対応する番号が再び割り当てられます。

例えば、ページに 4 つのオブジェクトがあり、次のようなレイアウトで配置されているとします。

この場合、デフォルトのタブ順序は次の図のようになります。

このタブ順序を、LastName、FirstName、PhoneNum、Email のように、より論理的な順序に変更できます。必要な作業は、FirstName オブジェクトをリスト内で 1 つ上に移動することだけです。タブ順序の番号は、この移動方法を反映するように再び割り当てられます。

マスターページ上のオブジェクトおよびフラグメント内のオブジェクトのタブ順序もフォームに表示されますが、「デザインビュー」タブではこれらのオブジェクトの順序を変更できません。マスターページオブジェクトについては、「マスターページ」タブをクリックし、タブ順序をカスタマイズします（83 ページの「[マスターページのタブ順序の変更](#)」を参照してください）。フラグメントについては、必要なフラグメントを開いて、フラグメント内で順序を変更します（84 ページの「[フラグメント内のタブ順序を変更するには](#)」を参照してください）。

フォームに複数のページが含まれる場合は、各ページのタブ順序は数字 1 から始まり、各ページ内でのみ順序を変更できます。

タブ順序を変更する前に、次のようにして作業領域を準備する必要があります。

- 1 ウィンドウ／タブの順序を選択します。作業領域の左側にタブの順序パレットが表示されます。
- 2 「順序を表示」をクリックし、「カスタム」を選択します。

フォーム上に表示されるタブ順序の番号が、青い四角形内  に示されます。この四角形は、現在カスタムタブ順序モードであり、タブシーケンスで 1 つ以上のオブジェクトの位置を変更できることを視覚的に示します。

関連項目

- 79 ページの「[タブの順序パレットの使用](#)」
- 81 ページの「[マウスを使用して単一のオブジェクトのタブ順序を変更するには](#)」
- 82 ページの「[オブジェクトグループのタブ順序の変更](#)」
- 85 ページの「[視覚要素を使用してタブ順序を表示するには](#)」

マウスを使用して単一のオブジェクトのタブ順序を変更するには

タブ順序を変更するには、タブの順序パレットのリストでオブジェクトを選択し、オブジェクトの位置を変更します。

ドラッグ&ドロップを使用して順序を変更するには

- ❖ 選択したオブジェクトをリスト内で上または下へドラッグし、目的の位置に配置します。黒いハンドルは、オブジェクトを配置する前のリスト内での現在位置を示します。

矢印ボタンを使用して順序を変更するには

- ❖ タブの順序パレットで、選択したオブジェクトが適切な位置に配置されるまで、上または下矢印ボタンをクリックします。

メニューを使用して順序を変更するには

- ❖ タブの順序パレットメニューで、「最初へ移動」、「上へ移動」、「下へ移動」または「最後へ移動」を選択します。

番号を編集して順序を変更するには

- ❖ タブの順序パレットのリストで、選択したオブジェクトをクリックし、オブジェクト名の横に表示されている番号を編集可能にします。次に、タブ順序内のオブジェクトの新しい位置を示す新しい数字を入力し、Enter キーを押します。

コピーと貼り付けを使用して順序を変更するには

- ❖ タブの順序パレットメニューの「コピー」を選択し、リスト内で、移動するオブジェクトを配置する位置の上にあるオブジェクトを選択し、メニューから「貼り付け」または「後に貼り付け」を選択します。

関連項目

- 80 ページの「[タブ順序の変更](#)」
- 82 ページの「[キーボードショートカットを使用して単一のオブジェクトのタブ順序を変更するには](#)」
- 82 ページの「[オブジェクトグループのタブ順序の変更](#)」
- 85 ページの「[視覚要素を使用してタブ順序を表示するには](#)」

キーボードショートカットを使用して単一のオブジェクトのタブ順序を変更するには

注意：キーボードショートカットを使用してタブ順序を変更するには、キーボードとマウスポインターの両方を使用する必要があります。

タブ順序を変更するには、タブの順序パレットのリストでオブジェクトを選択し、オブジェクトの位置を変更します。

メニューを使用して順序を変更するには

- ❖ オブジェクトをリスト内で 1 つ上または下に移動するには、Ctrl + 上矢印キーまたは Ctrl + 下矢印キーを押します。

番号を編集して順序を変更するには

- ❖ F2 キーを押して、オブジェクト名の横に表示されている番号を編集可能にします。次に、タブ順序内のオブジェクトの新しい位置を示す新しい数字を入力し、Enter キーを押します。

コピーと貼り付けを使用して順序を変更するには

- ❖ Ctrl + C キーを押して選択したオブジェクトをクリップボードにコピーします。次に、上矢印キーまたは下矢印キーを繰り返し押して、オブジェクトを配置する位置の上にあるオブジェクトをハイライト表示し、Ctrl + V キーを押してクリップボードからオブジェクトを貼り付けます。

関連項目

- 80 ページの「[タブ順序の変更](#)」
- 81 ページの「[マウスを使用して単一のオブジェクトのタブ順序を変更するには](#)」
- 82 ページの「[オブジェクトグループのタブ順序の変更](#)」
- 85 ページの「[視覚要素を使用してタブ順序を表示するには](#)」

オブジェクトグループのタブ順序の変更

個々のオブジェクトをタブ順序の新しい位置に移動する代わりに、オブジェクトのグループを一度に移動できます。この方法は、オブジェクトのリスト内で連続して配置されているオブジェクトについてのみ使用できます。

リスト内で分散しているオブジェクトを選択している場合は、最初にオブジェクトが連続するようにしてから、グループを移動する必要があります。

順序が連続するオブジェクトのグループを選択した後、グループをタブ順序の新しい位置に移動するには、単一のオブジェクトを移動する場合と同じ方法を使用します。

マウスを使用して連続するオブジェクトのグループを選択するには

- 1 タブの順序パレットのリストで、シーケンスの最初のオブジェクトをクリックします。
- 2 Shift キーを押しながらシーケンスの最後のオブジェクトをクリックします。

キーボードを使用して連続するオブジェクトのグループを選択するには

- 1 タブの順序パレットのリストで、シーケンスの最初のオブジェクトをクリックします。
- 2 シーケンス内のすべてのオブジェクトが選択されるまで、Shift + 下矢印キーまたは Shift + 上矢印キーを押します。

個々に選択したオブジェクトのグループを連続するグループに変更するには

- 1 タブの順序パレットのリストで、最初のオブジェクトをクリックし、Ctrl キーを押しながら選択する各オブジェクトをクリックします。
- 2 パレットメニューで「連続にする」を選択します。選択したオブジェクトが、連続する順序のグループになるように移動されます。

順序を地理的順序に変更するには（左から右）

- 1 タブの順序パレットのリストで、シーケンス内のオブジェクトをクリックします。
- 2 タブの順序パレットメニューで「地理的順序にする」を選択します。

地理的順序を右から左への順序に変更するには

- 1 タブの順序パレットのリストで、シーケンス内のオブジェクトをクリックします。
- 2 タブの順序パレットメニューで「地理的順序を右から左にする」を選択します。

関連項目

- 80 ページの「[タブ順序の変更](#)」
- 81 ページの「[マウスを使用して単一のオブジェクトのタブ順序を変更するには](#)」
- 82 ページの「[キーボードショートカットを使用して単一のオブジェクトのタブ順序を変更するには](#)」
- 85 ページの「[視覚要素を使用してタブ順序を表示するには](#)」

マスターページのタブ順序の変更

マスターページに配置されているオブジェクトのタブ順序も「デザインビュー」タブに表示されますが、これらのオブジェクトの順序は「マスターページ」タブでのみ変更できます。

マスターページ上のオブジェクトは、コンテンツ領域の上およびコンテンツ領域の下の 2 つの領域に配置されます。この 2 つの領域のそれぞれにあるオブジェクトについてタブ順序が設定されます。したがって、各領域内のタブ順序のみを変更できます。

注意：各マスターページの左上のオブジェクトは、タブ順序の先頭位置にロックされており、移動できません。

マスターページ上でタブ順序を変更する場合、このマスターページを使用するフォーム内のすべてのページが変更の影響を受けます。

関連項目

- 80 ページの「[タブ順序の変更](#)」
- 81 ページの「[マウスを使用して単一のオブジェクトのタブ順序を変更するには](#)」
- 82 ページの「[キーボードショートカットを使用して単一のオブジェクトのタブ順序を変更するには](#)」
- 82 ページの「[オブジェクトグループのタブ順序の変更](#)」

フラグメント内のタブ順序を変更するには

フォーム内でフラグメント参照を使用している場合、フォームのタブ順序を表示したときに、フラグメント内のタブ順序も表示されます。フラグメント内のタブ順序を変更するには、フラグメントのソースファイルを編集用を開き、変更を行い、ファイルを保存します。このフラグメントを使用しているすべてのフォームが、この変更の影響を受けます。

- 1 表示／タブの順序を非表示を選択します。
- 2 フラグメント参照を選択します。
- 3 編集／フラグメント／フラグメントを編集を選択します。
- 4 表示／タブの順序を表示を選択します。
- 5 必要に応じてタブ順序を変更します。
- 6 フラグメントソースファイルを保存して閉じます。

関連項目

80 ページの「[タブ順序の変更](#)」

デフォルトのタブ順序に戻すには

カスタマイズしたタブ順序をフォームで使用しなくなった場合は、容易に自動的な（デフォルトの）タブ順序に戻すことができます。タブ順序の変更内容は失われます。

- 1 タブの順序パレットで、「自動」を選択します。
- 2 メッセージボックスで、「はい」をクリックして、カスタムタブ順序が削除されることを確認します。

タブ順序からのテキストおよび画像オブジェクトの除外

タブ順序からテキストおよび画像オブジェクトを除外して、フォームでのタブ順序の利便性およびフローを向上させることができます。

例えば、次のようなフォームで、ユーザーはフォームのタイトル（発注書）に移動してから「発注日」フィールドに移動する必要があります。

The screenshot shows a web form for 'Finance ファイナンス株式会社'. At the top left is the company logo. Below it is a tab labeled '発注書' (Order Form). To the right of the logo is a button labeled 'フォームを印刷' (Print Form). Below the tab are two input fields: '発注番号' (Order Number) and '発注日' (Order Date). Numbered callouts indicate the sequence of actions: 1 points to the company logo, 2 points to the 'フォームを印刷' button, 3 points to the '発注番号' field, 4 points to the '発注書' tab, and 5 points to the '発注日' field.

このタブ順序からテキストおよび画像オブジェクトを除外すると、このフォームでのタブ順序のフローは、ユーザーの入力または操作が必要なフィールドのみを含むように変更されます。

The screenshot shows a form design workspace. On the left, there is a logo for 'Finance ファイナンス株式会社' and a title '発注書'. On the right, there are two input fields: '発注番号' (Order Number) and '発注日' (Order Date). A button labeled 'フォームを印刷!' (Print Form!) is located at the top right. The fields and button are highlighted with orange borders, indicating they are part of the tab order.

フォームが次の 1 つ以上に該当する場合、タブ順序からテキストおよび画像オブジェクトを除外することはお勧めできません。

- フォームがスクリーンリーダーで使用される。
- フォームのテキストオブジェクトにハイパーリンクが含まれている。

テキストおよび画像オブジェクトは、デフォルトのタブ順序とカスタムタブ順序の両方から除外できます。

テキストおよび画像オブジェクトを除外するには

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- ツール／オプション／タブの順序を選択し、タブの順序パネルで「フィールドのタブ順序だけを表示する」を選択します。
- タブの順序パレットメニューで、「フィールドのみを表示」を選択します。

関連項目

78 ページの「[デフォルトのタブ順序の表示](#)」

80 ページの「[タブ順序の変更](#)」

視覚要素を使用してタブ順序を表示するには

複雑で煩雑なフォームでは、オブジェクト間のタブ順序のフローがわかりにくい場合があります。視覚要素を使用すると、フォーム上のタブ順序のフローがわかりやすくなります。

視覚要素を有効にすると、オブジェクト上にポインターを置いたときに、青い矢印が表示され、タブ順序の 2 つ前のオブジェクトおよび 2 つ後のオブジェクトまでのタブ順序のフローが示されます。

The screenshot shows a form with four fields: '姓' (Last Name), '電話番号' (Phone Number), '名' (First Name), and '電子メール' (Email). The fields are numbered 1, 2, 3, and 4 respectively. Blue arrows indicate the tab order flow: from 1 to 2, from 2 to 3, and from 3 to 4. A mouse cursor is shown hovering over the '名' field, which is highlighted with a green border.

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- ツール／オプション／タブの順序を選択し、タブの順序パネルで「タブ順序の追加の視覚要素を表示する」を選択します。

- タブの順序パレットメニューで、「視覚要素を表示」を選択します。

関連項目

78 ページの「[デフォルトのタブ順序の表示](#)」

80 ページの「[タブ順序の変更](#)」

フォームのアクションの作成

ツールメニューのアクションビルダーダイアログボックスを使用すると、スクリプトを記述せずに、フォームの一般的なインタラクティブ機能を作成できます。アクションを使用して、フォームのオブジェクトやデータの表示方法、フォーム操作に対するオブジェクトやデータの応答方法を制御できます。

アクションによって実行できる操作の例を以下に示します。

- フォーム入力者がフォームのセクションやテーブルの行を追加または削除するためにクリックできるボタンを追加します。
- フィールドの値を設定します。例えば、日付 / 時間フィールドオブジェクトに現在の日付を埋め込んだり、数値フィールドに特定の値を埋め込んだりします。
- フィールドの背景色を設定します。
- オブジェクトの表示 / 非表示を切り替えたり、特定のフィールドにフォーカスを設定したりします。
- スクリプトオブジェクトおよびスクリプトオブジェクト内の関数を使用してカスタムアクションを作成します。
- フラグメント内にアクションを作成します。

注意：フラグメントファイル内のアクションをアクションビルダーダイアログボックスに表示するには、フラグメントファイルを Adobe XML フォーム (XDP) ドキュメント内に埋め込むか、**Designer** でフラグメントを編集します。フラグメントライブラリで作成したフラグメント内のアクションは、アクションビルダーダイアログボックスに表示されません。

注意：アクションは、HTML フォームやガイドでは動作しない場合があります。

アクションは、フォーム内のほとんどのフィールドやオブジェクトに追加できます。

アクションビルダーダイアログボックスでオブジェクトリンクをクリックすると、オブジェクトを選択ダイアログボックスが表示され、条件または結果を作成するために選択できる、フォーム内のオブジェクトが示されます。

アクションを作成するには、満たす条件を 1 つ以上追加し、それが満たされたときの結果を 1 つ以上追加します。単純なアクションとしては、条件を 1 つだけ追加し、それが満たされたときに結果が実行されるようにします。複数の条件を組み合わせる複雑なアクションを作成し、追加した条件に応じて異なるタイミングで結果が実行されるようにすることもできます。

Designer はアクションごとにスクリプトを生成し、そのスクリプトに変更がないかどうかを監視します。スクリプトが変更されたことが **Designer** で検出された場合は、次のアクションが実行されます。

- スクリプトの監視を停止し、フォーム作成者にスクリプトの所有権を渡す。
- レポートパレットの「ログ」タブにメッセージを表示し、スクリプトが管理対象外になり、編集可能になったことを示す。

Designer では、管理対象外のスクリプトは変更されません。

Designer では、アクション用に生成されたスクリプトをスクリプトエディターでスクリプトの先頭に挿入します。その後に管理対象外のスクリプトが続きます。

レポートパレットには、中断されたアクションに関する警告メッセージが一覧表示されます。条件または結果の作成に使用されたオブジェクトがフォームから削除されると、アクションは中断します。中断されたアクションは、アクションリストに示されます。見つからないオブジェクトリンクも、対応する条件や結果の横に表示されます。レポートパレットで警告メッセージをダブルクリックすると、アクションビルダーダイアログボックスが開き、中断されたアクションがハイライト表示されます。

注意：Designer では、ラジオボタンや選択リストに対する変更は監視されません。リストの項目の変更、順序の変更、表示テキストの変更、値の保存またはラジオボタンの削除を行うと、アクションは中断され、中断されたアクションに関する警告は生成されません。

条件の組み合わせ

トリガー条件と他の条件を組み合わせる場合、トリガー条件は最後に満たされる条件ににする必要があります。他のすべての条件が満たされた後でのみ、トリガー条件によってアクションの結果が実行されます。そのため、アクションに追加できるトリガー条件は 1 つのみです。例えば、2 つのトリガー条件を追加して、フォーム入力者がボタンをクリックしてチェックボックスもクリックするようなアクションを作成することはできません。アクションに複数のトリガー条件を追加すると、アクションビルダーダイアログボックスにエラーメッセージが表示されます。ただし、トリガー条件はアクションに必須ではありません。トリガー条件をまったく追加せずにアクションを作成できます。アクションにトリガー条件を追加しない場合は、任意の順序で条件が満たされます。他のすべての条件が満たされた後で、アクションの中に最後に残った任意の条件によって結果が実行されます。

アクションに複数の条件を追加すると、アクションビルダーダイアログボックスに以下のように条件が一覧表示されます。トリガー条件を追加すると、それが一覧の先頭に表示されます。他のすべての条件は、トリガー条件の下にグループ化されます。グループ化された条件の横には、および / またはのリンクが表示されます。トリガー条件には、および / またはのリンクが表示されません。「および」を選択すると、グループ内のすべての条件が満たされた後で、アクションの結果が実行されます。「または」を選択すると、グループ内の最低 1 つの条件が満たされた後で、アクションの結果が実行されます。

The screenshot shows the 'Action Builder' dialog box with two main sections: '条件(C)' (Conditions) and '結果(R)' (Results). The '条件(C)' section contains three conditions: 1. 'タイミング ボタン [ボタン1](#) がクリックされました' (Timing Button [ボタン1](#) was clicked). 2. 'タイミング テキストフィールド [テキストフィールド1](#) 次の内容: [dropdown] はい' (Timing Text Field [テキストフィールド1](#) next content: [dropdown] はい). 3. 'タイミング 十進数フィールド [十進数フィールド1](#) 次の内容: [dropdown] 5' (Timing Decimal Field [十進数フィールド1](#) next content: [dropdown] 5). To the right of these conditions is a vertical list with 'A' next to the first condition and 'B' next to the second and third conditions. A bracket labeled 'および' (and) is positioned between the second and third conditions. The '結果(R)' section contains one result: 'フォームを保存します' (Save form). A green plus sign is visible in the top right corner of the dialog box.

A. トリガー条件 B. および / またはを切り替えるリンク

アクションの作成

アクションを作成するには、1 つ以上の条件と 1 つ以上の結果を追加します。条件が満たされると結果が実行されます。条件と結果は必要な数だけ追加できます。ただし、トリガー条件は最後に満たされる条件なので、アクションに 1 つだけ追加できます。例えば、フォーム入力者がボタンをクリックしてチェックボックスもクリックしなければ結果を実行できないようなアクションを作成することはできません。アクションに複数のトリガー条件を追加すると、アクションビルダーダイアログボックスにエラーメッセージが表示されます。

注意：条件に「変更された」オプションを使用してアクションを構築した場合、Acrobat または Adobe Reader でフォームを表示すると、フィールドから出るまで結果が適用されないことがあります。

追加する条件ごとにオブジェクトリンクをクリックし、オブジェクトを選択ダイアログボックスを開いて、オブジェクトを選択します。オブジェクトを選択ダイアログボックスには、条件または結果に使用できるフォーム内のオブジェクトのみが表示されます。追加する結果ごとに、結果を選択リストでオプションを選択し、オブジェクトに応じた他の様々なオプションを選択します。結果ごとに使用できるオプションは、選択したオブジェクトによって異なります。

注意：サブフォームのインスタンスの追加や削除を行うアクションを作成する場合は、各サブフォームオブジェクトに名前を必ず指定してください。アクションが名称未設定のサブフォームを参照している場合、そのアクションは失敗します。

次の結果は、HTML フォームまたはガイドとは互換性がありません。

- フォームへのファイルの添付
- フォームを閉じる
- 特定のページへの移動
- フォーム内のすべてのフィールドのリセット
- フォームの保存
- ズーム倍率の設定

Designer では、アクションごとにデフォルト名が生成されます。この名前の構成では、オブジェクトの名前の後に、条件が生成されるスクリプティングイベントの名前が設定されます（<name of object>.<name of scripting event>）。

イベントについて詳しくは、「[イベント](#)」を参照してください。

注意：Enter イベントでアクションを作成し、Acrobat 7.1.3 でフォームを実行した場合、フィールドの背景色や前景色は、ユーザーがフィールドを出るときまで変更されません。

- 1 ツール／アクションビルダーを選択します。
- 2 新しいアクションを追加  ボタンをクリックします。
- 3 「条件」領域で、条件の追加  ボタンをクリックします。
- 4 オブジェクトリンクをクリックします。
- 5 条件のオブジェクトを選択します。必要に応じて、手順 3 と手順 4 を繰り返します。3 つ以上の条件を追加すると、条件の横におよび / またはのリンクが表示されます。必要に応じて、このリンクをクリックして条件間の関係を変更します。
- 6 「結果」領域で、結果の追加  ボタンをクリックします。
- 7 結果を選択リストで、結果を選択し、必要に応じてオプションを選択します。必要に応じて、手順 6 と手順 7 を繰り返します。

アクション名の変更

- ❖ アクション名をクリックし、新しい名前を入力します。複数のアクションに同じ名前を指定できます。

デフォルト名に戻す

- ❖ 新しい名前を削除します。

アクションの編集

フォームのアクションを表示して編集するには、アクションダイアログボックスを使用します。アクションはダイアログボックスの左側に、選択したアクションの条件と結果は右側に表示されます。必要に応じて条件と結果を追加、削除、変更することができます。

既存の条件の場合、オブジェクトを選択ダイアログボックスには、その条件に関連付けられているオブジェクトおよび同じ種類の他のオブジェクトだけが表示されます。既存の条件に関するオブジェクトの種類を変更するには、その条件を削除して別の条件を作成します。

既存の結果の場合、オブジェクトを選択ダイアログボックスには、フォーム内のオブジェクトの中で結果用に選択できるすべてのオブジェクトが表示されます。既存の結果用のオブジェクトを変更するには、別のオブジェクトを選択します。

- 1 ツール／アクションビルダーを選択します。
- 2 「アクション」領域でアクションを選択し、必要に応じてオプションを選択します。

アクションの削除

アクションはフォームからいつでも削除できます。

- 1 ツール／アクションビルダーを選択します。
- 2 「アクション」領域で、削除するアクションを選択します。
- 3 既存のアクションを削除  ボタンをクリックします。

カスタム結果の作成

関数を含むスクリプトオブジェクトを使用して、アクションのカスタム結果を作成できます。スクリプトオブジェクトとは、特定のフォームオブジェクトとは別個に JavaScript の関数と値を格納できるオブジェクトです。

注意： Designer では、パラメーターと戻り値は検証されません。入力したパラメーターが正しく、戻り値が有効であることを確認してください。

- 1 ツール／アクションビルダーを選択します。
- 2 新しいアクションを追加  ボタンをクリックします。
- 3 「条件」領域で、条件の追加  ボタンをクリックします。
- 4 オブジェクトリンクをクリックします。
- 5 条件用のオブジェクトを選択します。必要に応じて、手順 3 と手順 4 を繰り返します。3 つ以上の条件を追加すると、条件の横におよび / またはのリンクが表示されます。必要に応じて、このリンクをクリックして条件間の関係を変更します。
- 6 「結果」領域で、結果の追加  ボタンをクリックします。
- 7 結果を選択リストで「スクリプトオブジェクト関数を呼び出す」を選択します。
- 8 スクリプトオブジェクト（オブジェクト）を呼び出しますリンクをクリックし、「変数」でスクリプトオブジェクトを選択します。
- 9 リストから関数を選択します。

10 ボックスにパラメーターを入力します。例: スクリプト * (スクリプトオブジェクト) * 関数 (関数名) をパラメーター * (funcParam1, funcParam2) * および " (戻り結果なし) " で呼び出します。

11 (オプション) 「戻り結果を次のフィールドに代入する」を選択し、オブジェクトリンクをクリックして、戻り結果用のオブジェクトを選択します。

詳しくは、「JavaScript 関数の作成と再利用」を参照してください。

PDF フォームのズーム倍率の設定

ユーザーが Acrobat または Adobe Reader で PDF フォームを開くと、ドキュメントの初期表示が示されます。PDF の初期表示領域を特定のズーム倍率またはページ表示比率に設定するアクションを作成できます。例えば、ズーム倍率をページサイズの特定の割合に設定したり、ページの幅または高さが自動的に調整されるように設定したりできます。

- 1 ツール/アクションビルダーを選択します。
- 2 新しいアクションを追加  ボタンをクリックします。
- 3 「条件」領域で、オブジェクトリンクをクリックします。
- 4 オブジェクトを選択ダイアログボックスで、フォーム階層の一番上にあるフォームの名前を選択します。デフォルト名は **form1** です。
- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「条件」領域で、「フォーム <form name> の読み込みが完了している」を選択します。
- 7 結果を選択リストで「ズーム倍率を設定する」を選択します。
- 8 倍率指定リストで必要なオプションを選択します。
- 9 「OK」をクリックします。

フォームのスペルチェック

デフォルトロケールを選択するには

フォームのスペルをチェックする場合は、事前に、正しいデフォルトフォームロケールが選択されていることを確認します。Designer によるスペルチェックに使用するデフォルトの言語は、フォームのプロパティダイアログボックスにあるフォームのデフォルトロケールリストでロケールのオプションを選択して指定します。スペルチェックダイアログボックスの右上、タイトルバーの真下には、クイックレファレンスとして、現在のスペルチェックに使用されている言語が示されます。

オブジェクトパレットのロケールリストでフォーム内の個々のオブジェクトに異なるロケールのオプションを適用すると、フォームのデフォルトロケール設定がこれらのロケール設定で上書きされます。つまり、オブジェクトのロケール設定とフォームのロケール設定が異なる場合、Designer では、これらのオブジェクトに関連付けられている単語（テキスト）が誤ったスペルとして認識されます。

テーブルとサブフォームのロケール設定は自動的にテーブルおよびサブフォーム内のオブジェクトにも適用されるので、個々のオブジェクトに異なるロケールを適用する場合は、注意が必要です。

注意：スペルチェック機能でサポートされていないロケールのオプション（言語）を選択すると、そのロケールが設定されたオブジェクトについてはスペルチェックが実行されないことを示すメッセージが表示されます。

- 1 ファイル/フォームのプロパティを選択します。
- 2 「デフォルト」タブをクリックして、スペルチェック機能で使用する言語をフォームのロケールリストから選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

関連項目

- 91 ページの「[入力時にスペルチェックを実行するには](#)」
- 92 ページの「[フォームのスペルチェックを実行するには](#)」
- 652 ページの「[フォームのプロパティダイアログボックス](#)」

入力時にスペルチェックを実行するには

Designer では、入力時にスペルミスを検出するよう設定できます。オプションダイアログボックスのスペルパネルで「入力時にスペルチェック」オプションを選択します。

「入力時にスペルチェック」オプションを選択した場合は、選択オプションに関係なく、テキストオブジェクト、キャプションフィールド、およびオブジェクトパレットやアクセシビリティパレットの各種フィールドにスペルミスがあると、赤の波線が表示されます。スペルチェックダイアログボックスの使用時にどの種類のテキストのスペルチェックを実行するかは、スペルチェックリストのオプションで指定します。

Designer では、フォームのスペルチェックを実行すると、必ず、内部辞書とユーザー設定の辞書（「カスタム辞書」）が参照されます。別のカスタム辞書ファイル（*.clam）を追加すると、Designer による参照時に正しいスペルと認識される単語のリストを拡張することができます。詳しくは、94 ページの「[無視する単語のリストへの単語の追加](#)」を参照してください。

 現在利用可能な辞書のリストを確認するには、ツール／オプションを選択して、「スペル」をクリックします。スペルパネルにインストール済みの辞書のリストが表示されます。「カスタム辞書」は常に選択された状態になっています。この選択を解除することはできません。

入力時にスペルチェックを実行する場合は、以下の点に注意してください。

- 「入力時にスペルチェック」オプションを選択すると、テキストオブジェクトとキャプションフィールドで、挿入ポイント（テキスト入力用の垂直の点滅バー）がテキスト内またはその横に配置された場合にだけ、スペルミスを示す赤の波線が表示されます。
- ツール／オプション／スペル／波形下線の色を選択すると、波線による下線の色を変更できます。
- スペルミスを簡単に修正するには、スペルの間違った単語を右クリックし、コンテキストメニューから修正候補の 1 つを選択します。Designer では、スペルミスのある単語ごとに最大 4 つのスペル修正候補がコンテキストメニューに表示されます。5 つ以上の修正候補を表示する場合は、スペルチェックダイアログボックスを使用します。

入力時にスペルミスを検出するよう Designer を設定するには

- 1 ツール／オプションを選択し、スペルパネルで「入力時にスペルチェック」を選択します。
- 2 入力時にスペルミスを修正するには、下線が引かれた単語内またはその真横に挿入ポイントを配置し、右クリックして、次のいずれかの操作を実行します。
 - スペルミスのある単語を修正するには、コンテキストメニューの修正候補を 1 つ選択します。スペルミスのある単語について修正候補がない場合は、代わりに「スペル修正候補なし」と表示されます。
 - 「カスタム辞書」に単語を追加するには、「辞書に追加」を選択します。これを選択すると、下線が引かれている単語が辞書の全言語に追加され、Designer では、この単語がスペルミスのある単語として認識されなくなります。
 - このスペルミスのある単語をすべて無視する場合は、「すべて無視」を選択します。これを選択すると、無視する単語のリストにこの単語が追加され、Designer では、一時的にこの単語がスペルミスのある単語として認識されなくなります。この単語は、Designer を再起動するまで、すべてのスペルチェックで無視されます。無視する単語のリストは、Designer を起動するたびにクリアされます。

関連項目

90 ページの「[デフォルトロケールを選択するには](#)」

92 ページの「[フォームのスペルチェックを実行するには](#)」

93 ページの「[カスタム辞書を編集するには](#)」

670 ページの「[オプションダイアログボックス](#)」

フォームのスペルチェックを実行するには

選択したオブジェクトまたはフォーム全体のテキストについてスペルミスを確認する場合は、スペルチェックダイアログボックスを使用します。

Designer のデフォルトの設定では、テキスト、キャプション、ツールヒント、カスタムのスクリーンリーダーテキスト、リストボックスの項目など、フォームの各種オブジェクトに関連付けられているすべてのテキストについて、スペルチェックが実行されます。Designer でスペルチェックするテキストの種類を管理する場合は、オプションダイアログボックスのスペルパネルにあるスペルチェックリストのオプションを選択します。「スタティックテキスト」オプションと「キャプション」オプションを選択した場合は、スペルチェック対象として、フォームの特定のテキストまたはキャプションを選択することもできます。「スタティックテキスト」オプションと「キャプション」オプションが選択されていない場合、Designer では選択したテキストオブジェクトやキャプションフィールドについてスペルチェックを実行しません。

Designer では、フォームのスペルチェックを実行すると、必ず、内部辞書とユーザー設定の辞書（「カスタム辞書」）が参照されます。別のカスタム辞書ファイル（*.clam）を追加すると、Designer による参照時に正しいスペルと認識される単語のリストを拡張することができます。詳しくは、94 ページの「[無視する単語のリストへの単語の追加](#)」を参照してください。

 現在利用可能な辞書のリストを確認するには、ツール／オプションを選択して、「スペル」をクリックします。スペルパネルにインストール済みの辞書のリストが表示されます。「カスタム辞書」は常に選択された状態になっています。この選択を解除することはできません。

- 1 （オプション）特定のテキストオブジェクトまたはキャプションフィールドについてスペルチェックを実行する場合は、Ctrl キーを押しながら対象のオブジェクトを選択します。
- 2 ツール／スペルチェックを選択します。スペルチェックダイアログボックスが表示され、「辞書にない単語」の下に、スペルミスのある 1 つ目の単語が赤のハイライト表示で表示されます。
- 3 スペルミスを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - スペルミスのある単語を修正するには、修正候補リストの単語を 1 つ選択し、「変更」をクリックして今回のスペルミスと置き換えるか、「すべて変更」をクリックしてこのスペルミスのあるすべての単語と置き換えます。適切な単語が修正候補のリストに含まれていない場合は、スペルチェックダイアログボックスに正しいスペルを直接入力し、必要に応じて「変更」または「すべて変更」をクリックします。「変更」または「すべて変更」をクリックしたときに、変更を元に戻したい場合は、「元に戻す」をクリックします。
 - 今回のスペルミスを無視する場合は、「1 回無視」を選択します。
 - このスペルミスのある単語をすべて無視する場合は、「すべて無視」をクリックします。これを選択すると、無視する単語のリストにこの単語が追加され、Designer では、一時的にこの単語がスペルミスのある単語として認識されなくなります。この単語は、Designer を再起動するまで、すべてのスペルチェックで無視されます。無視する単語のリストは、Designer を起動するたびにクリアされます。
 - 「カスタム辞書」に単語を追加するには、「辞書に追加」をクリックします。これを選択すると、ハイライト表示されている単語が「カスタム辞書」の全言語に追加され、Designer では、この単語がスペルミスのある単語として認識されなくなります。

1 つのスペルミスを修正すると、スペルチェックダイアログボックスにはスペルミスのある次の単語が自動的に表示されます。Designer によるスペルチェックが終了すると、メッセージが表示されます。

関連項目

93 ページの「[カスタム辞書を編集するには](#)」

637 ページの「[スペルチェックダイアログボックス](#)」

670 ページの「[オプションダイアログボックス](#)」

カスタム辞書の全言語に単語を追加するには

Designer でフォームのスペルチェックを実行したときに、実際には正しいスペルの単語がスペルミスと認識されることがあります。例えば、Designer では、一般的に、企業または業界に特有の製品の用語や略語は認識されません。このため、Designer では、各ユーザーはユーザー設定の辞書（「カスタム辞書」）を使用できます。カスタム辞書では、正しいスペルの単語が登録されたユーザー独自のリストを作成できます。「カスタム辞書」はオプションダイアログボックスのスペルパネルにある「インストール済みの辞書」の下に一覧表示されます。これは、常にデフォルトで選択されています。Designer では、フォームのスペルチェックを実行する際に必ず「カスタム辞書」が参照されるので、「カスタム辞書」は削除できないようになっています。

カスタム辞書に追加した単語は、自動的にすべての言語（ロケール）に追加されます。Designer では、フォームまたは選択したオブジェクトに現在どのロケールが適用されているかに関係なく、この単語が正しいスペルと見なされます。ただし、カスタム辞書に追加する単語がすべての言語に適用されるわけではない場合は、辞書の編集ダイアログボックスを使用して、選択した言語にその単語を追加できます。カスタム辞書に単語を追加すると、Designer は、その単語のスペルが正しいと認識し、その単語から赤の波線を削除します。

❖ スペルミスとして認識された単語を右クリックし、「辞書に追加」を選択します。

カスタム辞書の選択した言語に単語を追加するには

ユーザー設定の辞書（「カスタム辞書」）に追加する単語がすべての言語に適用されるわけではない場合は、辞書の編集ダイアログボックスを使用して、選択した言語にその単語を追加できます。「カスタム辞書」に単語を追加すると、Designer は、選択された言語についてその単語のスペルが正しいと認識し、その単語から赤の波線を削除します。

- 1 ツール／辞書の編集を選択します。
- 2 言語リストで、目的の言語を選択します。
- 3 単語ボックスで、追加する単語の正しいスペルを入力します。
- 4 「追加」をクリックします。
- 5 この言語を別の言語に追加する場合は、同じ手順を繰り返します。

関連項目

93 ページの「[カスタム辞書の全言語に単語を追加するには](#)」

93 ページの「[カスタム辞書を編集するには](#)」

646 ページの「[辞書の編集ダイアログボックス](#)」

カスタム辞書を編集するには

場合によっては、ユーザー設定の辞書（「カスタム辞書」）の編集や内容の再検討が必要になることがあります。辞書の編集ダイアログボックスでは、言語リストのオプションを選択すると、すべての言語または個々の言語に関連付けられている単語を確認できます。また、一覧表示されている単語のスペル変更や、すべての言語または選択した言語を対象として、単語の追加および削除を行うこともできます。

辞書の編集ダイアログボックスを開くには

❖ ツール／辞書の編集を選択します。

関連項目

93 ページの「[カスタム辞書の全言語に単語を追加するには](#)」

93 ページの「[カスタム辞書の選択した言語に単語を追加するには](#)」

670 ページの「[オプションダイアログボックス](#)」

646 ページの「[辞書の編集ダイアログボックス](#)」

無視する単語のリストへの単語の追加

Designer では、正しいスペルの単語がスペルミスと認識されることがあります。このような場合でも、カスタム辞書にその単語を追加することを希望しないことがあります。カスタム辞書に単語を追加する代わりに、Designer でドキュメントをスペルチェックするときに一時的に無視する単語のリストを作成できます。Designer は、スペルチェックの実行時、無視する単語のスペルについては、正しいか間違っているかを判断せずに無視します。

無視する単語のリストを表示または編集することはできません。このため、追加した単語を覚えておくことをお勧めします。無視する単語のリストは Designer を終了するまで有効です。このリストは Designer を起動するたびにクリアされます。

フォーム、オブジェクトパレット、階層パレットに含まれるいずれかのフィールドに入力するときに、無視する単語のリストに簡単に単語を追加できます。これを行うには、コンテキストメニュー（右クリック）のコマンドを使用します。また、フォームのスペルチェックを実行しているときに、スペルチェックダイアログボックスのボタンを使用して、無視する単語のリストへ単語を追加することもできます。

入力時に、無視する単語のリストに単語を追加するには

❖ フォーム、オブジェクトパレット、階層パレットのフィールドで、スペルミスのある単語を右クリックして「すべて無視」を選択します。Designer では、Designer が再起動されるまで、スペルミスのある単語のすべてのインスタンスが一時的に無視されます。

フォームのスペルチェック時に、無視する単語のリストに単語を追加するには

1 ツール／スペルチェックを選択します。スペルチェックダイアログボックスが表示され、「辞書にない単語」の下に、スペルミスのある 1 つ目の単語が赤のハイライト表示で表示されます。

2 次のいずれかの操作を実行します。

- 今回のスペルミスを無視する場合は、「1 回無視」を選択します。Designer は、この単語を無視し、スペルミスのある次の単語に進みます。
- このスペルミスのある単語をすべて無視する場合は、「すべて無視」をクリックします。Designer はこのスペルミスのある単語についてはすべてのインスタンスを無視し、スペルミスのある次の単語に進みます。このスペルミスのあるすべての単語は、Designer を再起動するまで、すべてのスペルチェックで無視されます。無視する単語のリストは、Designer を起動するたびにクリアされます。

関連項目

93 ページの「[カスタム辞書の選択した言語に単語を追加するには](#)」

93 ページの「[カスタム辞書を編集するには](#)」

637 ページの「[スペルチェックダイアログボックス](#)」

646 ページの「[辞書の編集ダイアログボックス](#)」

辞書を追加するには

必要に応じて、追加の辞書ファイルを Designer に追加できます。つまり、フォームのスペルチェックを実行するときに Designer が参照する正しいスペルの単語のリストを拡張する場合には、特定の言語またはサポートされているすべての言語について、1 つ以上のカスタム辞書ファイル (*.clam) を追加できます。例えば、医療、法律、工学技術、保険、会計など、専門業界の独特の用語が含まれたカスタム辞書を追加することができます。カスタム辞書に含まれる単語をすべての言語ではなく特定の言語に追加する場合は、カスタム辞書のファイル名に正しい言語拡張子を含める必要があります。例えば、カスタム辞書ファイルをカナダのフランス語だけに追加する場合は、**[file name]-fr_CA.clam** のように、ファイル名に「**fr_CA**」を追加します。ファイル名に言語拡張子を含めなかった場合、そのファイル内の単語はすべての言語で正しいと見なされます。

注意：¥Program Files¥Common Files¥Adobe¥Linguistics¥Providers¥Proximity にあるフォルダーにファイルを手動で追加することで、Designer でまだサポートされていない言語の標準辞書ファイル (*.lex) を追加することもできます。

辞書の追加と、スペルチェック操作時に使用する辞書の選択には、オプションダイアログボックスのスペルパネルにあるオプションを使用します。

- 1 ツール／オプションを選択します。
- 2 左のリストでスペルを選択して、「辞書の追加」をクリックします。カスタム辞書ファイルダイアログボックスが表示されます。
- 3 Designer に追加する辞書ファイルを参照し、「開く」をクリックします。この辞書がインストール済みの辞書のリストに追加されます。

関連項目

- 95 ページの「[辞書を削除するには](#)」
- 93 ページの「[カスタム辞書を編集するには](#)」
- 670 ページの「[オプションダイアログボックス](#)」
- 646 ページの「[辞書の編集ダイアログボックス](#)」

辞書を削除するには

オプションダイアログボックスのスペルパネルにあるインストール済みの辞書のリストには、現在フォームのスペルチェックに利用できる辞書が表示されます。不要になったカスタム辞書は削除できます。カスタム辞書を削除すると、インストール済みの辞書のリストからこの辞書が削除されます。実際の辞書ファイル (*.clam) がコンピューターのファイルシステムから削除されるわけではありません。

注意：フォームのスペルチェックを実行するときは Designer で常に「カスタム辞書」が参照されるので、「カスタム辞書」を削除することはできません。

- 1 ツール／オプションを選択します。
- 2 スペルパネルで、インストール済みの辞書のリストから削除する辞書を選択します。
- 3 「辞書を削除」をクリックします。

関連項目

- 94 ページの「[無視する単語のリストへの単語の追加](#)」
- 93 ページの「[カスタム辞書を編集するには](#)」
- 670 ページの「[オプションダイアログボックス](#)」

テキストのハイフネーション処理

行の最後の単語と右側の余白との間にある空白領域を小さくすることによって、特定の領域でテキストの位置を揃えるには、ハイフネーションを使用します。単語が長すぎて全体が 1 行に収まらない場合、単語の適切なハイフネーションの位置にハイフンが挿入され、できるだけ右側の余白に近い位置で改行されます。ハイフネーションによって、テキストの各行がほぼ同じ長さになり、より統一性の高いレイアウトになります。Designer では、ハイフネーション辞書、行間隔やフォントサイズなどのメトリック、およびその他の言語学的な情報を使用して、様々な単語の有効かつ最適なハイフネーションの位置を決定します。

テキストのハイフネーション処理は、テキストオブジェクトや、テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールドなどのオブジェクトのキャプション領域、およびテキストフィールドオブジェクトの値領域（デフォルトのテキストおよびフォーム入力者が入力したテキスト）で行うことができます。例えば、単語内のハイフネーションまでの最小文字数の指定、文の最初の単語など先頭が大文字の単語のハイフネーション処理、略語などすべて大文字の単語のハイフネーション処理、フォームのすべてのハイフネーションの追加と削除を行うことができます。

すべての新しいフォームでのデフォルトのハイフネーションオプションを設定したり、個々のフォームについてハイフネーションの設定をカスタマイズしたりすることができます。

ハイフネーションオプションは次の場所で設定します。

オプションダイアログボックス（書式設定パネル） すべての新しいフォームのデフォルトのハイフネーション設定を指定するには、このダイアログボックスのオプションを使用します。これらのオプションを変更しても、現在開いているフォームには影響しません。

フォームのプロパティダイアログボックス（「書式設定」タブ） 現在開いているフォームについてのみハイフネーション設定を指定するには、このダイアログボックスのオプションを使用します。

段落パレット（「ハイフネーション」オプション） 個々のオブジェクトのハイフネーションを有効または無効にするには、このオプションを使用します。

注意： フォームを作成する場合、フォームのプロパティダイアログボックスでは、新しいフォームのデフォルトのハイフネーション設定が、自動的にツール／オプションダイアログボックスから継承されます。別のハイフネーション設定でフォームを作成したり、既存のフォームでデフォルトの設定を変更したりするには、フォームのプロパティダイアログボックスを使用します。フォームのプロパティダイアログボックスでの設定は、現在のフォームについてはオプションダイアログボックスの設定よりも優先されます。現在のフォームについて、フォームのプロパティダイアログボックスでハイフネーションの設定を変更しても、オプションダイアログボックスの設定（新しいフォーム用）は変更されません。

関連項目

345 ページの「[選択した段落でのハイフネーション処理](#)」

378 ページの「[段落パレットの段落プロパティ](#)」

672 ページの「[書式設定（オプションダイアログボックス）](#)」

654 ページの「[書式設定（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」

ハイフネーションを設定する際の考慮点

ハイフネーション処理されるテキストを含むオブジェクトに対してオプションを選択する必要がある場合、これらの様々なオプションに関して、次の点を考慮してください。

段落パレットの「ハイフネーション処理」オプション

フォームのプロパティダイアログボックスおよびオプションダイアログボックスで選択したハイフネーションはフォーム全体に適用されますが、段落パレットの「ハイフネーション処理」オプションを使用して個々のオブジェクトのハイフネーションを追加または削除できます。「ハイフネーション処理」オプションを使用すると、オブジェクトごとに手動でテキストのレイアウトを調整できます。

段落パレットの「ハイフネーション処理」オプションを使用できるのは、フォームのプロパティダイアログボックス（「書式設定」タブ）またはオプションダイアログボックス（書式設定パネル）で「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」オプションと「テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する」オプションのいずれかまたは両方を選択している場合のみです。2つのオプションが混在しており、「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」オプションと「テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する」オプションのいずれかが選択解除されている場合には、「ハイフネーション処理」オプションに色付きの四角形が表示されます。つまり、2つのオプションが混在しているオブジェクトについて「ハイフネーション処理」オプションを選択すると、チェックボックスに色付きの矢印が表示され、これが色付きの四角形に代わって、いずれかのオプションが選択解除されることを示します。



オプションダイアログボックスの書式設定パネルで「新規項目をハイフネーション処理」を選択している場合、フォームに新しいオブジェクトを追加すると、自動的に「ハイフネーション処理」オプションが選択されます。

キャプション、値、またはキャプションと値の編集パレットメニュー

キャプション、値、またはキャプションと値の編集パレットメニューにあるコマンド（「キャプションと値を編集」、「キャプションの編集」、「値の編集」）によって、段落パレットでいつ「ハイフネーション処理」オプションを利用できるかが決まります（テキストオブジェクトには適用されません）。つまり、「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」オプションと「テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する」オプションは、選択したコマンドに応じて適用されます。例えば、「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」オプションを選択した場合は、「ハイフネーション処理」オプションを利用可能にするために、「キャプションと値を編集」コマンドまたは「キャプションの編集」コマンドも選択する必要があります。

これらのコマンドを使用して、ハイフネーション処理されるテキストが含まれている各オブジェクトで、ハイフネーション処理する領域（キャプション、値またはその両方）を選択します。例えば、テキストオブジェクト内のテキストと、テキストフィールドオブジェクト内のキャプションをハイフネーション処理するには、「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」オプションを選択し、「キャプションと値を編集」コマンドまたは「キャプションの編集」コマンドを選択します。また、テキストオブジェクトの値領域でデフォルトのテキストやユーザー入力テキストをハイフネーション処理するには、「テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する」オプションを選択し、「値の編集」コマンドを選択します。テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールドおよび署名フィールドのデフォルトのコマンドは、「キャプションと値を編集」です。

「拡大して合わせる」オプション

ハイフネーション処理されるテキストが含まれている各オブジェクトについて、「拡大して合わせる」（高さ）オプションを選択することをお勧めします。単語が長すぎて全体が1行に収まらない場合、ハイフネーションによって改行され、単語が2行に分割されます。その結果、追加された行を表示するために、必要に応じてテキストを含むオブジェクトの高さを拡大する必要があります。ただし、ハイフネーション処理が行われるように、手動でオブジェクトを適切なサイズに変更することもできます。「拡大して合わせる」（幅）オプションを選択していない場合でも、テキストオブジェクトの幅は、テキストを入力すると（必要に応じて）拡大されます。

「複数行」オプション

（テキストオブジェクトの値領域にのみ適用）テキストフィールドオブジェクトの値領域でテキストをハイフネーション処理するには、各テキストオブジェクトについてオブジェクトパレットの「フィールド」タブでこのオプションを選択します。このオプションによって、フィールドの高さの許容範囲でテキストが複数行に改行されます。

関連項目

- 345 ページの「[選択した段落でのハイフネーション処理](#)」
- 378 ページの「[段落バレットの段落プロパティ](#)」
- 672 ページの「[書式設定（オプションダイアログボックス）](#)」
- 654 ページの「[書式設定（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」

フォーム内のハイフネーションの設定と削除

テキストのハイフネーション処理およびハイフネーションの削除は、テキストオブジェクトや、テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールド、署名フィールドなどのオブジェクトのキャプション領域、およびテキストフィールドオブジェクトの値領域（デフォルトのテキストおよびフォーム入力者が入力したテキスト）で行うことができます。

新しいフォームのハイフネーションを設定するには オプションダイアログボックスの書式設定パネルを使用します。書式設定パネルで入力した数値および選択したオプションは、フォームのプロパティダイアログボックスの「書式設定」タブでデフォルトの設定として使用されます。

個々のフォームのハイフネーションを設定するには フォームのプロパティダイアログボックスの「書式設定」タブを使用します。「書式設定」タブで入力した数値および選択したハイフネーションのオプションは、現在のフォームにのみ適用されます。必要に応じて、現在のフォームのハイフネーション設定を変更できます。フォームのプロパティダイアログボックスに最初に表示されるデフォルトの設定は、オプションダイアログボックスの書式設定パネルから継承され、自動的にすべての新しいフォームに適用されます。フォームのプロパティダイアログボックスでデフォルトの設定を変更すると、現在のフォームについて、オプションダイアログボックスでの設定が新しい設定に置き換えられます。オプションダイアログボックスのハイフネーションのオプションは変更されません。

注意：フォームのハイフネーションを設定する前に、ハイフネーション処理されるテキストが含まれているオブジェクトについて選択する必要がある様々なオプションを理解しておくことをお勧めします（96 ページの「[テキストのハイフネーション処理](#)」を参照してください）。

フォームのハイフネーションを削除するには テキストオブジェクトのテキストや、テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールド、署名フィールドなどのオブジェクトのキャプション領域のテキスト、およびテキストフィールドオブジェクトの値領域のテキストからハイフネーションを削除できます。

新しいフォームのハイフネーションを設定するには

- 1 ツール／オプションを選択します。
- 2 「書式設定」をクリックし、新しいフォームに適用する値を入力し、オプションを選択します。
 - ・「単語の最低文字数」ボックスに、ハイフネーション処理する単語に含まれる最低文字数を入力します。
 - ・「最初の行の後」ボックスに、行のハイフンの前に表示する単語の最低文字数を入力します。
 - ・「最後の行の前」ボックスに、次の行でハイフンの後に表示する単語の最低文字数を入力します。
 - ・文の先頭にある単語など、大文字で始まる単語をハイフネーション処理するには、「大文字で始まる単語をハイフネーション処理する」を選択します。
 - ・略語など、すべてが大文字である単語をハイフネーション処理するには、「すべて大文字の単語をハイフネーション処理する」を選択します。
 - ・テキストオブジェクトのテキストや、テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールド、署名フィールドなどのオブジェクトのキャプション領域のテキストをハイフネーション処理するには、「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」を選択します。

- テキストフィールドオブジェクトの値領域のテキスト（デフォルトのテキストおよびフォーム入力者が入力したテキスト）をハイフネーション処理するには、「テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する」を選択します。
- フォームに追加される新しいオブジェクトのテキストをハイフネーション処理するには、「新規項目をハイフネーション処理」を選択します。

上記のオプションの説明および使用例については、672 ページの「[書式設定（オプションダイアログボックス）](#)」を参照してください。

3 「OK」をクリックします。

個々のフォームのハイフネーションを設定するには

1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。

2 「書式設定」タブをクリックし、現在のフォームに適用する値を入力し、オプションを選択します。

- 「単語の最低文字数」ボックスに、ハイフネーション処理する単語に含まれる最低文字数を入力します。
- 「最初の行の後」ボックスに、行のハイフネーション位置の前に表示される単語の最低文字数を入力します。
- 「最後の行の前」ボックスに、次の行のハイフネーション位置の後に表示される単語の最低文字数を入力します。
- 文の先頭にある単語など、大文字で始まる単語をハイフネーション処理するには、「大文字で始まる単語をハイフネーション処理する」を選択します。
- 略語など、すべてが大文字である単語をハイフネーション処理するには、「すべて大文字の単語をハイフネーション処理する」を選択します。
- テキストオブジェクトのテキストや、テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールド、署名フィールドなどのオブジェクトのキャプション領域のテキストをハイフネーション処理するには、「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」を選択します。
- テキストフィールドオブジェクトの値領域のテキスト（デフォルトのテキストおよびフォーム入力者が入力したテキスト）をハイフネーション処理するには、「テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する」を選択します。

上記のオプションの説明および使用例については、654 ページの「[書式設定（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。

3 「すべてをハイフネーション処理する」をクリックします。

 直前のハイフネーション処理を元に戻すには、編集／すべてをハイフネーション処理するを元に戻すをクリックします。

フォームのハイフネーションを削除するには

1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。

2 「書式設定」タブをクリックして、次のいずれかの操作を実行します。

- テキストオブジェクトのテキストおよびオブジェクトのキャプション領域のテキストからハイフネーションを削除するには、「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」を選択解除します。
- テキストフィールドオブジェクトの値領域のテキストからハイフネーションを削除するには、「テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する」を選択解除します。
- すべてのハイフネーションを削除するには、「すべてのハイフネーションを削除する」をクリックします。

3 「OK」をクリックします。

 直前のすべてのハイフネーション処理を復元するには、編集／すべてのハイフネーションを削除するを元に戻すをクリックします。

ハイパーリンク

外部の Web サイト、電子メールアドレス、PDF ファイルや HTML ファイルへのリンクを提供するには、ハイパーリンクを使用します。URL および電子メールのハイパーリンクは、スタティックテキストオブジェクト（フローティングフィールドを含む）や、テキストフィールド、画像フィールド、コンボボックスオブジェクトなどのオブジェクトのキャプション領域に挿入できます。

ダイナミック XML フォームでハイパーリンクを使用する場合は、Acrobat および Adobe Reader 9 以降を対象バージョンとして選択する必要があります。

注意：Designer は、実行時データのコンテンツを予期できません。ハイパーテキストリンクを含むリッチテキストをフォームに埋め込む場合は、対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に設定する必要があります。

ハイパーリンクが LiveCycle アプリケーション内のリソースを参照しているときに XDP フォームデザインを HTML にレンダリングするには、正しい表記法を使用してファイルを LiveCycle サーバーにチェックインします。ハイパーリンクとして、`http://<LiveCycle server name>:<port number>/repository/Applications/<application name>/<version>/<folder>/<filename>` の表記法を使用します。Workbench では、フォームデザインを、同じ LiveCycle サーバーの同じ場所にチェックインします。

注意：ハイパーリンクのメニューコマンドは、印刷やリセットなどのボタンおよび読み取り専用テキストでは利用できません。

ハイパーリンクを挿入するには

- 1 ハイパーリンクを挿入するテキストを選択します。
- 2 挿入／ハイパーリンクをクリックします。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - ・「URL」を選択し、有効な Web サイトのアドレスを入力または選択するか、参照ボタンをクリックしてコンピューター上のファイルを選択します。ファイルを選択する場合は、ドキュメントの相対パスが「URL」ボックスに表示されます。
 - ・「電子メール」を選択し、有効な 1 つ以上の電子メールアドレスと、必要に応じて件名を入力します。
- 4 「OK」をクリックします。編集メニューの「ハイパーリンクを元に戻す」コマンドや「ハイパーリンクのやり直し」コマンドを使用して、すばやく元のテキストに戻したり、ハイパーリンクを以前の状態に戻したりすることもできます。

ハイパーリンクを削除するには

- ❖ ハイパーリンク内に挿入ポイントを配置し、右クリックして「ハイパーリンクを削除」を選択します。

 編集メニューの「ハイパーリンクを元に戻す」コマンドや「ハイパーリンクのやり直し」コマンドを使用して、すばやく元のテキストに戻したり、ハイパーリンクを以前の状態に戻したりすることもできます。

ハイパーリンクを編集するには

- 1 ハイパーリンク内に挿入ポイントを配置し、右クリックして「ハイパーリンクを編集」を選択します。
- 2 必要な変更を行い、「OK」をクリックします。

ハイパーリンクをテストするには

ハイパーリンクを挿入した後で、ハイパーリンクをテストして正しく開くかどうかを確認することをお勧めします。

リンクは、「デザインビュー」タブまたは「PDF プレビュー」タブでテストできます。「デザインビュー」タブで、ハイパーリンク上にポインターを移動すると、関連付けられたオブジェクトの名前およびリンクがツールヒントに表示されます。「PDF プレビュー」タブで、ハイパーリンク上にポインターを移動すると、関連付けられたリンクのみがツールヒントに表示されます。各リンクによって、Web ブラウザーや電子メールプログラムなどの適切なプログラムが起動されます。

❖ ハイパーリンク内に挿入ポイントを配置し、右クリックして「ハイパーリンクを開く」を選択します。



ショートカットとして、**Ctrl** キーを押しながらクリックして、すばやくリンクを開くことができます。

変換のための準備

変換のためにフォームデザインを準備するには、変換可能なテキスト用の XLIFF 識別子を生成します。Designer では、「保存時に変換 ID を作成する」オプションを選択したときに識別子が生成されます。このオプションを選択すると、フォームデザインを初めて保存したときにテキスト文字列ごとに一意の XLIFF ID が生成されます。フォームデザインを Adobe XML フォーム（.xdp）形式で保存した場合、XLIFF 識別子は XML ソースで表示できます。

フォームデザインを変更して保存すると、Designer によって識別子と文字列の組み合わせが比較され、フォームデザインが最後に保存された時点から変更が行われたかどうか判断されます。変更には、テキストの変更、フィールドの削除またはフィールドの挿入が含まれます。最後に保存された時点からテキストが変更された場合は、既に識別子を持つオブジェクトをコピーしたときに、重複する識別子が作成されないよう Designer によってそのテキストが更新されます。

Designer には、XSLT（Extensible Stylesheet Language Transformations）ファイルの 2 つのサンプルが用意されています。**extractstrings.xslt** ファイルは XLIFF ID を抽出し、**mergestrings.xslt** ファイルは新しい言語で新しいバージョンのフォームデザインを作成します。これらのサンプルファイルは、Designer のインストール先にあるディレクトリ \\...\\FormTranslation にインストールされます。

関連項目

[Translating Forms using XLIFF](#)

変換 ID を作成するには

- 1 ツール/ドキュメントハンドリングを選択します。
- 2 「ファイルオプション」領域で、「保存時に変換 ID を作成する」を選択します。
- 3 フォームデザインを作成して保存します。

変換 ID と変換可能なテキストの抽出

サンプルファイル **extractstrings.xslt** をベースとして使用して、XLIFF 識別子と変換する必要があるテキストをフォームデザインから抽出します。

無料または市販の Saxon XSLT プロセッサなど、XSLT プロセッサを使用して、フォームデザインを **extractstrings.xslt** スタイルシートへ入力として渡します。オプションおよび必須の引数を指定できます。必須の引数は、指定した XSLT の抽出方法を記述します。オプションの引数にはメタデータが含まれています

例えば、XLIFF 識別子とテキストを **MyForm.xdp** ファイルから抽出するには、コマンドプロンプトで次の必須の引数を入力して **MyForm.s2x** ファイルを生成します。

```
java -jar saxon8.jar MyForm.xdp extractstrings.xslt > MyForm.s2x
```

MyForm.xdp は、XLIFF 識別子とテキストの抽出元であるフォームデザインの名前で、MyForm.s2x は、変換用に送信するファイルです。

XLIFF ファイルのバックアップを必ず保存してください。次に、フォームデザインを編集する必要がある場合は、XLIFF バックアップファイルと XLIFF ファイルを比較して変更されたフォームデザインを確認することで、変換する必要のある文字列を簡単に判断できます。

注意：使用している Saxon のバージョンに応じて、saxon8.jar ファイルには別の名前が使用されることがあります。例えば、saxon9.jar のようになります。

extractstrings.xslt オプションパラメーター

S2X メタデータに含まれる次のオプションのパラメーターを指定できます。

パラメーター	説明
locale	フォームデザインのロケール
xdpFilename	XLIFF 識別子およびテキストの抽出元であるフォームデザインの名前
develContact	フォームデザインの連絡先電子メールアドレス
collection	パッケージの名前
domain	ドメイン名

各パラメーターには次のデフォルト値があります。

```
<xslt:param name="locale" select="'en'" />
<xslt:param name="xdpFilename" select="'mytemplate.xdp'" />
<xslt:param name="develContact" select="'developer@mycompany.com'" />
<xslt:param name="collection" select="'package'" />
<xslt:param name="domain" select="'BC'" />
```

以下に例を紹介します。

```
java -jar saxon8.jar input.xdp extractstrings.xslt xdpFilename=MyForm.xdp locale=en_CA > MyForm.s2x
```

変換済みテキストを使用したフォームデザインの作成

変換済みの XLIFF ファイルが返送されたら、コマンドプロンプトで次の文字列を入力して変換済みのフォームデザインを作成します。

```
java -jar saxon8.jar MyForm.s2x mergestrings.xslt xdpFile=MyForm.xdp > MyFormTranslated.xdp
```

MyForm.s2x は変換済みの XLIFF ファイル、MyForm.xdp は元のフォームデザインの名前、MyFormTranslated.xdp は変換済みのフォームデザインです。

結果として、マスターフォームデザイン（MyForm.xdp）および変換済みのフォームデザイン（MyFormTranslated.xdp）が生成され、ユーザーが利用できるようになります。

フォームデザインを変更する必要がある場合は、マスターフォームデザインを編集し、上記の手順を繰り返して新しい XLIFF ファイルを生成します。

サンプルの mergestrings.xslt スタイルシートでは、新しい言語で新しいバージョンのフォームデザインを作成できます。

関連項目

101 ページの「[変換のための準備](#)」

マクロ

マクロは、Designer の機能を拡張するための外部プラグインインターフェイスを提供します。例えば、マクロを実行して、フィールド名を変更し、すべての関連スクリプトの参照を更新したり、全体がコメントで構成されるスクリプトを検索したりできます。

注意：マクロは、スクリプトの作成者が信頼できる場合にのみ実行する必要があります。

マクロは JavaScript ファイル (JS) です。JavaScript エディターで JavaScript ファイルを作成し、Designer でスクリプトを実行します。マクロ内の JavaScript には、テンプレートモデルへのフルアクセス権があります。テンプレート DOM に加えて、ルート名前空間には **designer** というオブジェクトがあります。**designer** オブジェクトでは、Designer との直接通信に使用できるメソッドが提供されます。例えば、1つのメソッドでは、SWF ダイアログボックスを起動し、そのダイアログボックスと文字列を交換して、カスタムユーザーインターフェイスを構築できます。

使用可能なスクリプティングメソッドについて詳しくは、[スクリプティングリファレンス](#)を参照してください。

Designer で使用するマクロを設定するには、Designer のインストールフォルダーに JavaScript ファイルのサブフォルダー構造を作成し、マクロメニュー（ツール／マクロ）から JavaScript ファイルを実行します。

Designer 用にマクロを設定するには

1 次のいずれかの操作を行います。

- 共通マクロ（すべての言語）の場合は、Designer のインストールフォルダーに **macros** というサブフォルダーを作成します。例えば、`<DesignerInstallationFolder>\macros` を作成します。
- 言語固有のマクロの場合は、Designer のインストールフォルダーに各言語（ロケール）用のサブフォルダーを作成してから、各ロケールフォルダーに **macros** フォルダーを作成します。例えば、`<DesignerInstallationFolder>\EN\macros` を作成します。

2 各 **macros** フォルダーに、JavaScript 用の 1 つ以上のサブフォルダー (JS) と **macro.xml** ファイルを作成します。

3 JavaScript ファイルと **macro.xml** ファイルを適切なサブフォルダーに保存します。マクロ JavaScript ファイルによって使用される SWF ファイルを同じフォルダーに置きます。

4 Designer で、ツール／マクロをクリックします。マクロ（共通および言語固有）がマクロメニューに表示されます。

macro.xml 設定ファイルについて

macro.xml 設定ファイルを作成して、サブフォルダー内の各 JavaScript ファイルのマクロメニューに表示されるコマンド名を変更します。1 つ以上の JavaScript ファイルを含む各サブフォルダーに、**macro.xml** ファイルを 1 つ追加します。

次の例の **macro.xml** ファイルの **label** タグと **script** タグに注意してください。**label** タグは、マクロメニューに表示されるコマンド (Merge) の名前を囲みます。**script** タグは、関連付けられている JavaScript ファイル (**mergenodes.js**) の名前を囲みます。

macro.xml ファイルの例：

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<designerMacros>
<!-- one or more macros that are in the same directory can be specified in the same macro.xml config file -->
<macro>
  <!-- used as menu command text -->
  <label>Merge</label>
  <!-- A macro key can refer to only one script file -->
  <script>mergenodes.js</script>
</macro>
</designerMacros>
```

macro.xml 設定ファイルの使用はオプションです。マクロのリストが更新されるとき、macros サブフォルダーで macro.xml ファイルが検索されます。サブフォルダーに macro.xml ファイルが見つからない場合は、JavaScript ファイルの名前がマクロメニューに表示されます。

macros サブフォルダーの整理

macros フォルダーに少なくとも 1 つのサブフォルダーを作成して JavaScript ファイルを格納します。JavaScript ファイルを macros フォルダーのすぐ下に保存した場合、それらのファイルは Designer のマクロメニューに表示されません。

macros サブフォルダーは様々な方法で整理できます。選択する方法はニーズによって決まります。存在する JavaScript ファイルの数、作成する macro.xml ファイルの数およびマクロメニュー上のコマンドの順序を考慮します。

macros サブフォルダーを整理する 1 つの方法は、すべての JavaScript ファイルを 1 つのサブフォルダーに保存することです。この方法では、1 つの macro.xml ファイルを使用して、そのフォルダーのすべての JavaScript ファイルの名前と、関連するマクロメニューのコマンドの名前を指定します。マクロメニューのコマンドの順序は、macro.xml ファイルにリストされているマクロの順序と同じです。

複数のマクロを含む macro.xml ファイルの例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<designerMacros>
  <macro>
    <label>Get Designer Locale</label>
    <!-- Description - Get Designer locale -->
    <script>getLocale.js</script>
  </macro>
  <macro>
    <label>Hello World</label>
    <!-- Description - Display Hello World -->
    <script>helloWorld.js</script>
  </macro>
  <macro>
    <label>Highlight Text</label>
    <!-- Description - Highlight text areas -->
    <script>HighlightFields.js</script>
  </macro>
  <macro>
    <label>Refactor</label>
    <!-- Description - Refactor -->
    <script>refactor.js</script>
  </macro>
  <macro>
    <label>Show Flex Sample</label>
    <!-- Description - Show Flex Sample -->
    <script>showFlexSample.js</script>
  </macro>
</designerMacros>
```

macros サブフォルダーを整理する別の方法として、JavaScript ファイルを別々のサブフォルダーに保存することもできます。各サブフォルダーの macro.xml ファイルを使用して、JavaScript ファイルの名前を指定し、関連するマクロメニューコマンドに名前を付けます。マクロメニューのコマンドの順序は、各 macro.xml ファイルにリストされているサブフォルダーとマクロの順序と同じです。

JavaScript ファイルに対して作成するすべてのサブフォルダーが、親 macros フォルダー (macros¥MyMacros) の子である必要があります。Designer では、最初のサブフォルダーより下のレベルのサブフォルダーはスキャンされません。

JavaScript ファイルを macros サブフォルダーに追加した後で、ツールメニューの「マクロ」コマンドの下にファイルの名前が表示されます。JavaScript ファイル名以外の名前を表示するには、macro.xml という XML 設定ファイルを作成して名前を変更します。

マクロのローカライズ

Designer のインストールフォルダーに、マクロに関連付けられている JavaScript ファイルのサブフォルダー構造を作成します。作成するサブフォルダー構造は、マクロのローカライズを計画しているかどうかによって決まります。

すべての言語に共通なのでマクロをローカライズする必要がない場合は、Designer のインストールフォルダーに **macros** というサブフォルダーを作成します。例えば、**c:\program files\Adobe\Designer\macros** を作成します。次に、実行する JavaScript ファイル用の 1 つ以上のサブフォルダーを **macros** サブフォルダーに作成します。すべての JavaScript ファイル用に 1 つのサブフォルダーを作成することも、JavaScript ファイルごとに別々のサブフォルダーを作成することもできます。フォームのロケールリスト（フォームのプロパティダイアログボックス／デフォルトパネル）で選択したロケールオプションにかかわらず、Designer によってこれらのサブフォルダー内の JavaScript ファイルがロードされます。

ロケール（言語）に固有なのでマクロをローカライズする必要がある場合は、Designer のインストールフォルダーに各ロケール用のサブフォルダーを作成します。次に、各ロケールサブフォルダーに **macros** サブフォルダーを作成し、ロケールサブフォルダーに Javascript ファイル用の 1 つ以上のサブフォルダーを作成します。例えば、**c:\program files\Adobe\Designer\EN\macros** を作成します。Designer のアプリケーション言語に基づいて、Designer によってこれらのフォルダー内の JavaScript ファイルがロードされます。

マクロのロギング

Designer でロードされるマクロが不明な場合は、マクロのログファイルを確認できます。

Designer では、**C:\Documents and Settings\<username>\Application Data\Adobe\Designer\<Designer version number>** にある Designer アプリケーションデータフォルダーに **MacrosLog.log** というログファイルが作成されます。

MacrosLog.log ファイルには、Designer にロードされたマクロがリストされています。

第4章：テストとトラブルシューティング

フォームのプレビューとテスト

「PDF プレビュー」タブでは、Acrobat または Adobe Reader を使用して、フォームデザインやテンプレートを PDF フォームとして表示およびテストできます。

「PDF プレビュー」タブは、Acrobat または Adobe Reader がインストールされている場合にだけ表示されます。Acrobat と Adobe Reader の両方がインストールされている場合、Designer はデフォルトで自動的に Acrobat を起動してフォームをプレビューします。フォームのプレビューに Adobe Reader を使用する場合は、起動してから「PDF プレビュー」タブをクリックする必要があります。

ファイル/フォームのプロパティ/デフォルト/対象バージョンの設定を、Acrobat および Adobe Reader の特定のバージョンに変更する場合は、保存されているフォームのバージョンに一致するバージョンの Acrobat をインストールしておく必要があります。バージョンが異なると、「PDF プレビュー」タブをクリックしたときにエラーメッセージまたは警告メッセージが表示されることがあります。

プレビューでは、保存されているフォームと同じ形式が使用されます。「PDF プレビュー」タブを右クリックすると、現在選択されているデフォルトファイル形式オプションを確認できます。未保存のフォームの形式を指定するには、ツール/オプション/ドキュメントハンドリングの設定を変更する必要があります。

インタラクティブフォームまたは印刷可能フォームをデザインしている場合は、ファイル/フォームのプロパティ/プレビュー/プレビュータイプの設定を変更して、PDF プレビューを正しく設定する必要があります。

Forms で使用するためのフォームをデザインしている場合は、同じフォームデザインを使用して PDF や HTML のフォームをレンダリングできます。HTML 形式のフォームデザインも「PDF プレビュー」タブでプレビューできますが、この場合は、Forms を使用してレンダリングされたときと表示が異なる可能性があります。HTML フォームを作成する場合は、Forms を使用してフォームをレンダリングし、Web ブラウザーでプレビューします。

関連項目

112 ページの「[レポートパレットでの警告メッセージの処理](#)」

HTML プレビュータブでフォームをプレビューし、テストするには

Adobe LiveCycle Designer でフォームをデザインする間に、フォームの PDF レンダリングをプレビューする他に、HTML レンダリングで形式をプレビューすることもできます。HTML プレビュータブを使用し、フォームがブラウザーで表示されるようにプレビューできます。詳しくは、「[HTML での XDP フォームのプレビュー](#)」を参照してください。

HTML でフォームをプレビューするには、LiveCycle サーバーの設定の詳細を提供します。

- 1 ツール/オプションに移動します。
- 2 オプションウィンドウで、「Server Options」ページを選択し、次の詳細を提供します。
 - **サーバー URL:** LiveCycle Server の URL。
 - **HTTP ポート番号:** LiveCycle サーバーが実行されているポート番号。デフォルト値は 8080 です。
 - **HTML プレビューのコンテキスト:** XFA フォームのレンダリングに使用するプロファイルのパス。デフォルト値は `lc/content/xf(forms)/profiles/default.html` です。デザイナーでフォームをプレビューするためにはデフォルトプロファイルが使用されます。その他のカスタムプロファイルを使用するためには、カスタムプロファイルの適切なパスを指定します。

- **Forms Manager コンテキスト :** Forms Manager UI がデプロイされるコンテキストパス。デフォルト値は lc/fm です。

注意 : LiveCycle が、上記で設定したサーバー URL で使用できることを確認してください。HTML プレビューは、CRX サーバーに接続してプレビューを生成します。

PDF プレビュータブでフォームをプレビューし、テストするには

フォームデザインが Acrobat や Adobe Reader でどのように表示されるかをプレビューする場合は、「PDF プレビュー」タブを使用します。フォームデザインをプレビューする場合は、事前に、フォームのプロパティダイアログボックスで、該当する種類のフォームのプレビューに適切なオプションが設定されていることを確認してください。

「PDF プレビュー」タブを右クリックすると、現在選択されているデフォルトのプレビュータイプオプションを確認できます。

「PDF プレビュー」タブで Acrobat または Adobe Reader のツールバーを表示するには、Alt+F8 キーを押します。

注意 : フォームを「PDF プレビュー」タブでプレビューするには、Acrobat で「PDF をブラウザに表示」オプションをオンにしておく必要があります。保存された対象バージョンに一致する Acrobat または Adobe Reader のバージョンがインストールされている必要があります。バージョンが異なる場合には、「PDF プレビュー」タブをクリックしたときにエラーまたは警告メッセージが表示されることがあります。

- 1 次のいずれかの操作を実行して、「PDF プレビュー」タブを表示します。
 - 表示 / PDF プレビューを選択します。
 - レイアウトエディターの「PDF プレビュー」タブをクリックします。
- 2 インタラクティブフォームの場合、フォームのオブジェクトをテストし、希望どおりに動作することを確認します。
- 3 (オプション) データに結合されている非インタラクティブフォームの場合は、サンプルのデータファイルを使用してフォームをテストし、フィールドがデータソースに適切にマップされていることを確認することもできます。

注意 : Web サービス機能とデータベース接続機能のテストには、Acrobat を使用する必要があります。これらの機能を実行するには権限付き PDF フォームが必要ですが、Designer ではプレビュー用に PDF フォームの使用権限を設定することはできません。

関連項目

112 ページの「[レポートパレットでの警告メッセージの処理](#)」

インタラクティブフォームのプレビューオプションを設定するには

インタラクティブフォームをプレビューするには、フォームのプロパティダイアログボックスで適切なオプションを設定する必要があります。

- 1 ファイル / フォームのプロパティを選択します。
- 2 「プレビュー」タブをクリックして、プレビュータイプリストから「インタラクティブフォーム」を選択します。
- 3 (オプション) プレビュー中のフォームを作成したデータソースを使用してテストする場合は、「データファイル」ボックスにテストデータファイルへの完全なパスを入力します。参照ボタンを使用してファイルを指定することもできます。
- 4 (オプション) プレビュー中のフォームを、自動的に生成されたデータソースを使用してテストする場合は、「プレビューデータを生成」をクリックします。ファイルの保存先の指定には参照ボタンを使用できます。繰り返しサブフォームまたは繰り返しサブフォームセットが含まれたフォームの場合は、データファイルで各サブフォームまたはサブフォームセットが繰り返される回数を指定します。
- 5 Adobe XML フォームのプレビュー形式リストから「スタティック PDF フォーム」または「ダイナミック XML フォーム」を選択します。

非インタラクティブフォームのプレビューオプションを設定するには

非インタラクティブフォームをプレビュー表示する場合は、フォームのプロパティダイアログボックスで適切なオプションを設定する必要があります。

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
 - 2 (オプション) プレビューしているフォームを片面印刷された状態でテストするには、「プレビュー」タブをクリックし、プレビュータイプリストで「印刷フォーム (片面)」を選択します。
 - 3 (オプション) プレビューしているフォームを両面印刷された状態でテストするには、「プレビュー」タブをクリックし、プレビュータイプリストで「印刷フォーム (両面)」を選択します。
- 注意:** 「印刷フォーム」を選択すると、すべてのオブジェクトが非インタラクティブになります。
- 4 (オプション) プレビュー中のフォームをデータソースを使用してテストする場合は、「データファイル」ボックスにテストデータファイルへの完全なパスを指定します。参照ボタンを使用してファイルを指定することもできます。
 - 5 (オプション) プレビュー中のフォームを自動的に生成されたデータソースを使用してテストする場合は、「プレビューデータを生成」をクリックします。ファイルの保存先の指定には参照ボタンを使用できます。繰り返しサブフォームまたは繰り返しサブフォームセットが含まれたフォームの場合は、データファイルで各サブフォームまたはサブフォームセットが繰り返される回数を指定します。
 - 6 Adobe XML フォームのプレビュー形式リストから「スタティック PDF フォーム」または「ダイナミック XML フォーム」を選択します。

サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには

Designer では、サンプル XML データを使用してフォームをプレビューおよびテストすることができます。フォームが正しくレンダリングされるよう、フォームをサンプルデータで頻繁にテストすることをお勧めします。

サンプルデータがない場合には、Designer で自動生成するか、または独自に作成することができます。108 ページの「[フォームのプレビュー用にサンプルデータを自動生成するには](#)」および 109 ページの「[フォームのプレビュー用にサンプルデータを作成するには](#)」も参照してください。

サンプルデータソースを使用してフォームをテストすると、データとフィールドがマップされていること、および繰り返しサブフォームが指定どおりに繰り返されることを確認できます。各オブジェクトに結合されたデータを表示するにあたり適切なスペースが確保された、バランスのよいフォームレイアウトを作成できます。

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「プレビュー」タブをクリックし、「データファイル」ボックスに、テストデータファイルへの完全なパスを入力します。参照ボタンを使用してファイルを指定することもできます。
- 3 「OK」をクリックします。「PDF プレビュー」タブでフォームを次にプレビューするときには、それぞれのオブジェクトにサンプル XML ファイルのデータ値が表示されます。

「プレビュー」タブの各オプションについて詳しくは、659 ページの「[プレビュー \(フォームのプロパティダイアログボックス\)](#)」を参照してください。

関連項目

490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」

フォームのプレビュー用にサンプルデータを自動生成するには

サンプルデータファイルを作成する代わりに、サンプルデータを生成して、フォームをプレビュー、テストすることができます。また、繰り返しサブフォームまたは繰り返しサブフォームセットが含まれているフォームの場合は、フォームのプレビュー時にデータを繰り返す回数を指定できます。

Designer では、フォーム内の対応するオブジェクトについて、有効なサンプルデータを生成できますが、これには次の制限があります。

- オブジェクトについて指定されることのある検証スクリプトに従って、サンプルデータを生成することはできません。
- 生成されるサンプルデータファイルに対して指定する繰り返しサブフォームの数は、サブフォームの最小数と最大数により制限されます。
- 生成されるサンプルデータでは、2D バーコードに対して選択したデフォルト値が保持されます。

サンプルデータファイルの生成後は、必要に応じてファイルを編集することができます。

フォームのプレビュー時に、どのデータファイルを使用するかを指定します。次に Designer でフォームをプレビューするときは、それぞれのオブジェクトにサンプルデータが表示されます。

- 1 Designer で、ファイル／フォームのプロパティ／「プレビュー」タブを選択します。
- 2 (オプション) プレビュー中のフォームをインタラクティブフォームとしてテストするには、プレビュータイプリストから「インタラクティブフォーム」を選択します。
- 3 (オプション) 片面印刷用としてプレビューしているフォームをテストするには、プレビュータイプリストから「印刷フォーム (片面)」を選択します。
- 4 (オプション) 両面印刷用としてプレビューしているフォームをテストするには、プレビュータイプリストから「印刷フォーム (両面)」を選択します。
- 5 「プレビューデータを生成」をクリックします。
- 6 プレビューデータを生成ダイアログボックスに、テストデータファイルの完全なパスを、ファイル名を含めて入力します。「データファイル」ボックスで、参照ボタンを使用して場所を指定することもできます。
- 7 要素の繰り返しのリストで、サブフォームの左側にある番号を選択し、これがデータファイルで繰り返される回数を入力します。
- 8 「生成」をクリックします。

フォームのプレビュー用にサンプルデータを作成するには

Designer で自動生成されたサンプルデータファイルを使用しない場合は、サンプルデータファイルを手動で作成できます。

- 1 フォームデザインを PDF ファイルとして保存します。
- 2 この PDF ファイルを開いて、テスト対象のフィールドに値を入力します。
- 3 Acrobat で、アドバンスド／フォーム／データをフォームから書き出すを選択します。
- 4 フォームデータを指定形式で書き出しダイアログボックスで、ファイルの種類を XML データパッケージ (*.xdp) として名前を付けて保存します。
- 5 Designer で、ファイル／フォームのプロパティ／「プレビュー」タブを選択します。
- 6 (オプション) プレビュー中のフォームをインタラクティブフォームとしてテストするには、プレビュータイプリストから「インタラクティブフォーム」を選択します。
- 7 (オプション) 片面印刷用としてプレビューしているフォームをテストするには、プレビュータイプリストから「印刷フォーム (片面)」を選択します。
- 8 (オプション) 両面印刷用としてプレビューしているフォームをテストするには、プレビュータイプリストから「印刷フォーム (両面)」を選択します。
- 9 「データファイル」ボックスの隣にあるフォルダーボタンをクリックし、XML ファイルを参照します。
- 10 XML ファイルを選択して「OK」をクリックします。

データを使用してフォームデザインをテストする際の考慮点

結合されたデータをサポートするようフォームを設定する場合は、入力データに関するフォームのデータ結合要件を分析します。入力データの構造に基づいてフォームデザインを作成する必要があります。

データ連結では、それぞれの新しいフォームノードをデータノードと一致させようとします。明示的な連結を使用する場合は、フォームデザインで定義したターゲットは暗黙的な連結よりも優先されます。暗黙的な（通常の）連結を使用する場合は、次のルールが適用されます。

- 同じ名前のデータ値またはデータグループの相対順序は重要です。
- 一意に名前が付けられたデータ値またはデータグループの相対順序は重要ではありません。
- データ値またはデータグループによって記述される構造の階層は重要です。

入力データをレビューしてサンプルデータファイルを作成するか、テスト目的に Designer でサンプルデータファイルを自動生成してください。

サンプルデータはフォームの動作を調べるために使用するものなので、十分なテストの代わりになるとは考えないでください。最適な結果を得るには、システム生成データでフォームデザインをテストする必要があります。次に挙げる提案リストに従ってサンプルデータを作成し、フォームのレイアウト、形式設定、コンテンツおよび動作が想定どおりかどうかを調べることができます。

- データの形式設定（例えば、フォントタイプ、フォントサイズ、段落の整列）が正しいかどうかを確認するには、フォームの各フィールドごとにデータを作成します。データを使用して、すべての計算済みのフィールド値を確認することもできます。
- フィールドオブジェクトがすべてのデータ値を収容できる大きさであるかどうかを確認するには、フィールドごとに最大許容文字数に達するデータを作成します。
- 複数行設定および拡大して合わせる設定の動作を確認するには、複数行のデータを作成します。
- フォームデザインに繰り返しのサブフォームがある場合には、繰り返すデータグループを生成して、作成するサンプルデータファイル内でのレンダリングをテストできます。自動生成されたサンプルデータファイルを使用する場合には、データグループの繰り返し回数を指定できます。
- フォームデザインにオーバーフローリーダーまたはトレーラーが入っている場合は、すべてのオーバーフローリーダーまたはトレーラーおよびそのオカレンスの設定をテストするために必要なデータを作成します。ページ番号も確認できるよう、3 ページにわたってフローするのに十分な量の繰り返しデータグループを作成する必要があります。サンプルデータを使用して（1 回に 1 つの繰り返しデータグループを追加）、繰り返しサブフォームが新しいページにフローしたときにどのように表示されるかを確認します。
- 連結データに対するデータパターン設定をテストするには、すべてのデータ値がシステムが生成した形式と同じであることを確認します。特に、ソースデータの構文が Designer のデフォルト値に一致していない場合には重要な確認事項です。
- レンダリングされたフォームのすべてのマスターページのレイアウトを使用するために十分な量のデータを作成します。

重要： キャリッジリターンおよび水平タブを除いて、フォームデータに、0x00 から 0x20 までの 16 進数値が入っていないことを確認します。これらの値は、Forms が認識できない無効な XML 文字です。

サンプルデータファイルの作成

次のガイドラインに従うと、代表的な入力データの入った単純なテストファイルを簡単に作成できます。

- 入力データファイルは有効な XML ファイルであることが必要です。例えば、フラットファイルの要素は次のような形式となります。

```
<root_node>
  <first_node>value</first_node>
  <second_node>value</second_node>
  ...
  <last_node>value</last_node>
</root_node>
```

- 入力データのフローとフォームの物理的レイアウトを比較します。暗黙的な連結を使用している場合は、データノード名がフォーム内の対応するコンテナおよびフィールドに一致し、フォームに入力されたものと同じ順序で表示されている必要があります。
- 入力データファイルの階層化レベルが階層パレットのアイテムよりも多い場合は、階層化されたすべてのオブジェクトに対するデータ連結が、オブジェクトパレットの「連結」タブで明示的に設定されている必要があります。
- 入力データファイル内で、繰り返されているがすべてのレコードに含まれてはいないデータを探します。この情報は、マスターページでボイラプレートオブジェクトとして処理されるか、または一意となるレコードだけにデータを繰り返すサブフォーム内で処理されます。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

5 ページの「[フォームデザインについて](#)」

5 ページの「[フォームデザインのレイアウト](#)」

アクセシビリティをテストするには

フォームがユーザーにとって利用しやすいものであるかどうかを確認するため、様々な支援テクノロジーを使用してフォームをテストする必要があります。

スクリーンリーダーソフトウェアのデモバージョンをダウンロードします。フォーム作成者としてフォームに慣れてしまっていると、スクリーンリーダーによって読み取られる情報が不足なく理解可能であるかを判別するのが難しくなります。モニターの電源を落としたテストは、可能であれば第三者に依頼するのが望ましいでしょう。スクリーンリーダー実行の結果をテストするため、モニターの電源を切り、スクリーンリーダーだけでフォーム内を移動し、入力を行ってください。

画面拡大ソフトウェアのデモバージョンがないかどうかをインターネットで確認します。

以下の質問事項を考慮しながら、キーボードだけを使用して、フォームに入力できることを確認します。

- 実行できない操作はないか。
- スムーズに実行できない、または実行が難しい操作はないか。
- キーボードの操作手順は明文化されているか。
- ボタンなどのコントロールや、メニュー項目にはすべて、下線付きのアクセスキーが付いているか。

フォームに入力するときは、以下の問題に注意してください。

- フォームの中で、非表示、認識不可能または使用が困難になる部分
- 白の背景色に黒色で表示され続ける領域
- サイズ変更や切り取りが適切に行われないフォームオブジェクト

レポートパレットでの警告メッセージの処理

レポートパレットには、フォームデザインの特性に関連した様々な警告およびエラーメッセージが表示されます。警告メッセージが生成されると、レポートパレットの「警告」タブに次の詳細情報が表示されます。

- 関係するオブジェクト
- 警告の説明
- 警告の種類
- オブジェクトをサポートする対象バージョン（該当する場合）
- 警告のコード番号

「警告」タブのメッセージは、フォームデザインで作業を進めると自動的に更新されます。エラーを修正すると、メッセージは表示されなくなります。

Designer で生成される警告メッセージには、次の種類があります。

対象バージョン 対象バージョンの警告メッセージは、対象となる Acrobat および Adobe Reader のバージョンでサポートされていない機能を使用しようとすると表示されます。対象バージョンの警告メッセージの対処方法について詳しくは、112 ページの「[対象バージョンの警告メッセージ](#)」を参照してください。

マーカー 警告マーカーメッセージは、オブジェクトに問題が発生した場合に表示されます。このメッセージは、警告の記号（黄色い三角印や赤色の円に白抜き「X」など）に関連付けられます。警告マーカーメッセージの対処方法について詳しくは、116 ページの「[警告メッセージについて](#)」を参照してください。

スクリプティング スクリプティングエラーは、フォームデザインのスクリプトに問題がある場合に発生します。ツール／スクリプトの構文をチェックをクリックすると、レポートパレットの「警告」タブにスクリプティングエラーメッセージが表示されます。スクリプティングエラーメッセージについて詳しくは、118 ページの「[スクリプティングエラーメッセージ](#)」を参照してください。

対象バージョンの警告メッセージ

選択した対象バージョンでサポートされない機能を使用すると、レポートパレットの「警告」タブに警告メッセージが表示されます。

その機能を使用する必要がある場合は、次のいずれかの対策を使用してください。

- その機能をサポートしている対象バージョンに更新します。
- フォームをスタティック PDF フォームとして保存します。フォームをスタティック PDF フォームとして保存すると、Acrobat および Adobe Reader の以前のバージョンで一部の機能がサポートされます。
- 警告メッセージを解決します。

次の表に、各対象バージョン警告メッセージのコード、影響を受けるファイル形式、レポートパレットの「警告」タブの「説明」列に表示される対象バージョン警告メッセージ、および警告メッセージを削除する方法を示します。

コード	ファイル形式	説明	警告メッセージを削除する方法
2405	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、フィールド値の垂直段落配置をサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、段落パレットをクリックして、垂直段落配置をデフォルト値にリセットします。 - テキストフィールド (1 行表示) - 中間揃え - テキストフィールド (1 行表示) - 上揃え - 日付 / 時間フィールド - 中間揃え - 数値フィールド - 中間揃え - 十進数フィールド - 中間揃え - コンボボックス - 中間揃え - パスワードフィールド - 中間揃え - リストボックス - 上揃え
2406	ダイナミック XML フォーム	従来 (バージョン 6) の「テキスト書式」は、フィールド値の垂直段落配置をサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「互換性」タブをクリックしてテキスト書式をバージョン 7 に更新するか、段落パレットをクリックして、垂直段落配置をデフォルト値にリセットします。 - テキストフィールド (1 行表示) - 中間揃え - テキストフィールド (1 行表示) - 上揃え - 日付 / 時間フィールド - 中間揃え - 数値フィールド - 中間揃え - 十進数フィールド - 中間揃え - コンボボックス - 中間揃え - パスワードフィールド - 中間揃え - リストボックス - 上揃え
2407	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは preOpen イベントをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、サポートされているイベントにスクリプトを移動するか、スクリプトを削除します。
2500	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式のチェックマークの形状をサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックして、チェックスタイルリストから「デフォルト」を選択します。
2501	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式のボタンのハイライト表示をサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックして、ハイライト表示リストから「反転」を選択します。
2502	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式の comb フィールドをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックして、「マス目で区切る」を選択します。
2503	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式の「文字数を表示領域に制限」オプションをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックして、「文字数を表示領域に制限」を選択解除します。
2505	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは「保存時にスクリプティングの変更をフォームに保持」オプションをサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「デフォルト」タブをクリックして、「保存時にスクリプティングの変更をフォームに保持」オプションの「手動」を選択します。
2506	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、署名後のフィールドのロックをサポートしていません。	署名フィールドオブジェクトを選択し、オブジェクトパレットの「署名」タブをクリックして、「署名後にフィールドをロックする」の選択を解除します。

コード	ファイル形式	説明	警告メッセージを削除する方法
2507	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは indexChange イベントをサポートしていません。	サポートされているイベントにスクリプトを移動するか、スクリプトを削除してください。
2508	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは署名の設定をサポートしていません。	署名フィールドオブジェクトを選択し、オブジェクトパレットの「署名」タブをクリックして、選択したオプションを選択解除します。
2509	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式の「表示 (画面のみ)」オプションをサポートしていません。	スタティック PDF フォーム (ボタン) の場合は、対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 7.0.5 以降に上げます。 ダイナミック XML フォーム (右側の境界線のボタン以外のすべてのオブジェクト) の場合は、対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げます。
2510	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式の「表示 (印刷のみ)」オプションをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げます。
2514	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは「JavaScript で厳密なスコープ規則を強制」オプションをサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「デフォルト」タブをクリックして、「JavaScript で厳密なスコープ規則を強制」の選択を解除します。
2515	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは XML データ署名をサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 8.0 以降に上げるか、オブジェクトを選択して、オブジェクトパレットの「フィールド」タブまたは「送信」タブをクリックし、「送信時に署名」の選択を解除します。
2516	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは「両面印刷モード」オプションをサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「PDF 印刷オプション」タブをクリックして「この PDF フォームの印刷に次の印刷設定を使用する」を選択解除するか、ファイル/フォームのプロパティを選択し、「PDF 印刷オプション」タブをクリックして「単一」を選択します。
2517	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンはテーブルの行の網掛けをサポートしていません。行の網掛けを追加してから対象バージョンを変更する場合は、新しい対象バージョンに対応するように網掛けを再度適用する必要があります。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 8.0 以降に上げます。
2518	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンはツールヒントをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 8.0 以降に上げるか、スタティック画像を選択し、アクセシビリティパレットをクリックしてツールヒントテキストを削除します。
2519	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは「コピー数」オプションをサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「PDF 印刷オプション」タブをクリックして、コピー数リストで「デフォルト」を選択するか、「この PDF フォームの印刷に次の印刷設定を使用する」を選択解除します。
2520	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは「ページの拡大 / 縮小なし」オプションをサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「PDF 印刷オプション」タブをクリックして、「この PDF フォームの印刷に次の印刷設定を使用する」を選択し、「Adobe Acrobat / Reader の設定を使用する」を選択するか、「この PDF フォームの印刷に次の印刷設定を使用する」を選択解除します。
2521	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは「ページサイズに基づいて給紙方法を選択」オプションをサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「PDF 印刷オプション」タブをクリックして、コピー数リストで「デフォルト」を選択するか、「この PDF フォームの印刷に次の印刷設定を使用する」を選択解除します。
2600	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式の「両面に印刷」または「片面で印刷 (表側)」オプションをサポートしていません。	階層パレットで「マスターページ」をクリックし、オブジェクトパレットをクリックします。次に「ページセット」タブをクリックし、印刷リストから「ページオカレンス」を選択します。
2601	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは「片面印刷のみ」または「両面印刷のみ」のオプションをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 8.1 以降に上げます。
2800	スタティック PDF フォーム (キャプションおよびテキストオブジェクトのみ) ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式のフォントの拡大縮小をサポートしていません。	スタティック PDF フォーム (フィールド値) およびダイナミック XML フォームの場合は、対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 に上げるか、フォントパレットをクリックして、「垂直方向のスケール」と「水平方向のスケール」ボックスに 100 % と入力します。

コード	ファイル形式	説明	警告メッセージを削除する方法
2801	スタティック PDF フォーム (キャプションおよびテキストオブジェクトのみ) ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式の文字間隔をサポートしていません。	スタティック PDF フォームおよびダイナミック XML フォームの場合は、対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、フォントパレットをクリックして、「文字間隔」ボックスに 0 と入力します。
2802	スタティック PDF フォーム (キャプションおよびテキストオブジェクトのみ) ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式のカーニングをサポートしていません。	スタティック PDF フォーム（フィールド値）およびダイナミック XML フォームの場合は、対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、フォントパレットをクリックして、「カーニング」を選択解除します。
2803	スタティック PDF フォーム (キャプションおよびテキストオブジェクトのみ) ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式のテキストハイフネーションをサポートしていません。	スタティック PDF フォーム（フィールド値）およびダイナミック XML フォームの場合は、対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、ファイル/フォームのプロパティを選択して、「書式設定」タブで「すべてのハイフネーションを削除する」をクリックします。
2804	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは GB18030 送信データエンコーディングをサポートしていません。	スタティック PDF フォーム（ボタンオブジェクト）およびダイナミック XML フォームの場合は、対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、オブジェクトパレットの「送信」タブをクリックして、データエンコーディングリストから別のエンコーディングオプションを選択します。
2805	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式の「ウィドウとオーファンの制御」オプションをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、フォームをスタティック PDF フォームとして保存するか、ファイル/フォームのプロパティを選択して、「書式設定」タブで「ウィドウとオーファンの制御」を選択解除します。
2806	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式の「コンテンツ内での改ページを許可」オプションをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、オブジェクトパレットで「サブフォーム」タブをクリックして、「コンテンツ内で改ページを許可する」を選択解除します。
2807	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式の「次と合わせる」オプションをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、「次と合わせる」を選択解除します。
2808	スタティック PDF フォーム (キャプションおよびテキストオブジェクトのみ) ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式のハイパーリンクをサポートしていません。	スタティック PDF フォーム（テキストオブジェクトとフィールド値）およびダイナミック XML フォームの場合は、対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、ハイパーリンクを削除します。
2809	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは preSign イベントをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、スクリプトイベントを削除します。
2810	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは postSign イベントをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、スクリプトイベントを削除します。
2811	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは postOpen イベントをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、スクリプトイベントを削除します。
2812	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは postSubmit イベントをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、スクリプトイベントを削除します。
2813	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは Web サービスの認証をサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げます。
2814	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式でのリーダーの使用をサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げます。
2815	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、現在のファイル形式の「コンテンツ内での改ページを許可」オプションを必要とします。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、オブジェクトパレットで「サブフォーム」タブをクリックして、「コンテンツ内で改ページを許可する」を選択します。
2816	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは「ユーザーによる変更を禁止」オプションをサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「PDF 印刷オプション」タブをクリックして、「ユーザーによる変更を禁止」を選択解除するか、「Adobe Acrobat / Reader の設定を使用する」を選択するか、「この PDF フォームの印刷に次の印刷設定を使用する」を選択解除します。

コード	ファイル形式	説明	警告メッセージを削除する方法
2817	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは「%s」アクションをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げます。
2818	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは「%s」アクションをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.0 以降に上げるか、アクションを削除するか、アクションのスクリプトを管理対象外にするか、直前のアクションを元に戻すか、別のトリガー条件を選択することでアクションを修復します。
3000	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは非アクティブ配置をサポートしていません。	オブジェクトを選択し、オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、サポートされている配置を選択します。
3001	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、イベントの伝播オプションをサポートしていません。	オブジェクトを選択し、スクリプトエディターをクリックして「イベントの伝播を有効にする」を選択解除します。
3002	ダイナミック XML フォーム	現在の対象バージョンは、US Postal Intelligent Mail バーコードをサポートしていません。	オブジェクトを削除するか、対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 9.1 以降に上げます。
3003	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは「ダイアログメッセージを表示」をサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「フォームの検証」タブをクリックして、「オプションのリスト」から「ダイアログメッセージを表示」を選択し、「Acrobat の検証メッセージボックス表示方法を設定する」を選択解除します。
3004	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは validationState イベントをサポートしていません。	対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 8.0 以降に上げるか、サポートされているイベントにスクリプトを移動するか、スクリプトを削除します。
3005	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、フォーム検証の「フォーカスを設定」オプションをサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「フォームの検証」タブをクリックして、オプションのリストから「フォーカスを設定」を選択し、「検証に失敗した最初のフィールドにフォーカスを設定する」を選択解除します。
3006	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、フォーム検証の「失敗したフィールドを色付き表示」オプションをサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「フォームの検証」タブをクリックして、オプションのリストから「失敗したフィールドを色付き表示」を選択し、「検証に失敗したフィールドを別の色で表示する」を選択解除します。
3007	ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは、フォーム検証の「必須フィールドを色付き表示」オプションをサポートしていません。	ファイル/フォームのプロパティを選択し、「フォームの検証」タブをクリックして、オプションのリストから「必須フィールドを色付き表示」を選択し、「まだ入力されていない必須のフィールドを別の色で表示する」を選択解除します。
90000	スタティック PDF フォーム ダイナミック XML フォーム	対象バージョンは %1 属性または要素をサポートしていません。	対象バージョン警告メッセージが該当しない他の問題に関する一般的なメッセージです。また、XML ソースを編集して、サポートされない機能を設定したときにも表示されます。

関連項目

627 ページの「[レポートパレットメニュー](#)」

656 ページの「[フォームの検証 \(フォームのプロパティダイアログボックス\)](#)」

警告メッセージについて

レポートパレットの「警告」タブには、アクションに関連するメッセージが一覧表示されます。

次の表に、アクション警告メッセージの一覧とその説明を示します。

コード	タイプ	説明
40000	アクション	「action name」アクションは中断されています。このアクションは、1 つ以上の見つからないオブジェクトを参照します。

関連項目

86 ページの「[フォームのアクションの作成](#)」

656 ページの「[フォームの検証 \(フォームのプロパティダイアログボックス\)](#)」

警告マーカーマッセージ

レポートパレットの「警告」タブには、オブジェクトに問題が起きた場合に表示される警告マーカーに関連付けられたメッセージが一覧表示されます。

次の表に、警告マーカーマッセージの一覧とその説明を示します。

コード	タイプ	説明
20000	その他	少なくとも 2 つのラジオボタンの値が同じです。グループは同時に複数を選択することはできないため、すべての値は一意である必要があります。
20001	その他	返信先 URL を提供する必要がある場合があります。送信ボタンの使用について詳しくは、「ヘルプ」の記事を参照してください。
20002	その他	電子メールアドレスが指定されていません。オブジェクトパレットを使用して電子メールアドレスを指定してください。
20003	その他	電子メールアドレスが無効です。次の形式の有効な電子メールアドレスを入力してください: name@address.com。
20004	その他	このオブジェクトにはリッチテキストを入力できますが、このオブジェクトのデータ形式はプレーンテキストにしか対応していません。オブジェクトパレットを使用してプロパティを一致させてください。
20005	その他	このオブジェクトにはプレーンテキストしか入力できませんが、このオブジェクトのデータ形式はリッチテキストに対応しています。オブジェクトパレットを使用してプロパティを一致させてください。
20006	その他	リストボックスは複数選択をサポートするように設定されており、「コミット」プロパティが推奨値の「exit」ではなく「select」に設定されています。
20007	その他	フィールドの値領域は最大値の長さに適合しません。フィールドの値領域を広げるか、値の大きさを小さくして、あらゆる値が適合するようにしてください。
20008	その他	バーコードフィールドの周囲の境界線は、バーコードのスキャンに影響を与えることがあります。
20009	その他	バーコードフィールドの背景の塗りつぶしは、バーコードのスキャンに影響を与えることがあります。
20010	その他	「表示領域に制限」は、「拡大して合わせる」に設定されたフィールドでは無視されます。
20011	その他	スクリーンリーダーがリストを正しく読み取るためには、リスト項目が親のリスト要素に含まれている必要があります。
20012	その他	コンテンツ領域にサブフォームがないか、最初のサブフォームがコンテンツ領域に対し大きすぎます。
20013	その他	印刷のみの表示および画面のみの表示には、コンテンツ領域が必要です。
20014	その他	印刷のみの表示および画面のみの表示には、ページ領域が必要です。
20015	パターン形式文字列	指定したデータパターン「%s」は無効です。有効なデータパターンを定義してください。
20016	パターン形式文字列	データパターン「%s」はオブジェクトのデータ形式と互換性がありません。互換性のあるデータパターンを定義してください。
20017	パターン形式文字列	指定した表示パターン「%s」は無効です。有効な表示パターンを定義してください。
20018	パターン形式文字列	表示パターン「%s」はオブジェクトのデータ形式と互換性がありません。互換性のある表示パターンを定義してください。
20019	パターン形式文字列	指定した検証パターン「%s」は無効です。有効な検証パターンを定義してください。
20020	パターン形式文字列	検証パターン「%s」はオブジェクトのデータ形式と互換性がありません。互換性のある検証パターンを定義してください。
20021	パターン形式文字列	指定した編集パターン「%s」は無効です。有効な編集パターンを定義してください。
20022	パターン形式文字列	編集パターン「%s」はオブジェクトのデータ形式と互換性がありません。互換性のある編集パターンを定義してください。
20029	データの連結	このフィールドの名前は、互換性のない別のグローバルフィールドの名前と同じです。
20030	データの連結	デフォルトのデータ接続が定義されている場合に「名前による」データ連結を使用すると、望ましくない結果になる可能性があります。
20031	データの連結	デフォルトの連結値「%1」がデータ接続に対応していません。
20032	データの連結	繰り返しデータの複数のレベルに対する直接連結の参照は、望ましい結果にならないことがあります。フォームには、繰り返されるサブフォームコンテナの相対連結参照が必要な場合があります。

コード	タイプ	説明
20033	ロケール	通貨を表すこのフィールドにビューアのシステムロケールを使用すると、値が予想どおりに表示されない場合があります。
20034	ロケール	このオブジェクトまたはこのロケールを継承する子オブジェクトでは、スペルはチェックされません。
20035	その他	このフラグメント参照は、ソースフラグメントのプロパティをローカルで上書きします。
20036	その他	PDF ファイルとして保存されたフォームのフラグメントを外部参照できません。フォームを XDP ファイルとして保存してください。
20037	その他	署名フィールドは、繰り返し可能にはできません。
20038	パターン形式文字列	指定したデータパターン「%」のシンボル数が、許可される最大文字数に等しくありません。新しいデータパターンを定義するか、フィールドの最大文字数を変更してください。
20039	その他	指定した表示パターン「%」のシンボル数が、許可される最大文字数に等しくありません。新しい表示パターンを定義するか、フィールドの最大文字数を変更してください。
20040	パターン形式文字列	指定した検証パターン「%」のシンボル数が、許可される最大文字数に等しくありません。新しい検証パターンを定義するか、フィールドの最大文字数を変更してください。
20041	パターン形式文字列	指定した編集パターン「%」のシンボル数が、許可される最大文字数に等しくありません。新しい編集パターンを定義するか、フィールドの最大文字数を変更してください。
20042	その他	ハイフンの後の最低文字数は、ハイフネーション処理する単語の最低文字数より少ない必要があります。
20043	その他	ハイフンの前の最低文字数は、ハイフネーション処理する単語の最低文字数より少ない必要があります。
20044	その他	コンテンツとキャプションを提供されたスペースに入れることができません。インジケーターを押し、オブジェクトを自動的に拡大してください。
20045	データの連結	データ接続「%1」はキャッシュされたデータ記述と一致しません。「接続プロパティ」を使用して、データ記述を再生成してください。
20046	その他	このオブジェクトは改ページを許可されていますが、親オブジェクトの「コンテンツ内での改ページを許可」オプションを選択解除すると、改ページが制限されます。
20047	その他	サブフォームエンコーディングは推奨されません。コレクションエンコーディングオプションを使用するか、カスタムスクリプトを用意してください。
20048	その他	フォームに 2 つ以上の署名フィールドオブジェクトが含まれています。少なくとも 1 つの署名フィールドオブジェクトで、「署名」タブの「署名後にフィールドをロックする」が選択されています。フォームで複数の署名フィールドオブジェクトを使用する方法については、 「ヘルプ」 の記事を参照してください。
20049	データの連結	書き出し連結値「%1」には、対応するデータ接続がありません。
20050	データの連結	読み込み連結値「%1」には、対応するデータ接続がありません。
20051	データの連結	このサブフォームの最大繰り返し値には、データ接続で許容される範囲の上限より大きい値が設定されています。
20052	データの連結	「%1」というデータノードは、このノードの種類と連結できません。
20053	データの連結	データ接続の作成に使用された「%1」が変更されました。場合によっては、「接続プロパティ」で接続を更新する必要があります。

関連項目

627 ページの「[レポートパレットメニュー](#)」

656 ページの「[フォームの検証 \(フォームのプロパティダイアログボックス\)](#)」

スクリプティングエラーメッセージ

レポートパレットの「警告」タブには、フォームデザインのスクリプティングエラーに関連する次の種類のエラーメッセージが一覧表示されます。

JavaScript スクリプティングエラー

次の表に、JavaScript スクリプティングエラーメッセージの一覧とその説明を示します。

コード	エラーの種類	エラーテキスト	エラーの説明
7001	エラー	%1	予期しないエラーまたは不明なエラーのプレースホルダーです。%1 には任意のテキストが含まれる可能性があります。
7002	ReferenceError	エラー %1 が未定義です	不完全な変数の参照に失敗しました。
7003	ReferenceError	値を割り当てることができません	数値、文字列または XML などの定数に値を割り当てようとした。
7004	SyntaxError	未終了の文字列定数です	文字列定数の末尾で終了引用符文字 (") が省略されました。 例： <pre>var sName = "Name;</pre> このエラーを修正するには、問題のある行を見つけて欠落している引用符文字 (") を追加します。
7005	SyntaxError	未終了のコメントです	コメント文字列の末尾で終了コメント文字 (*/) が省略されました。 例： <pre>/* The old fashioned comment style is still useful var i = 0;</pre> このエラーを修正するには、問題のある行を見つけて欠落している終了引用符文字を追加します。この例では、useful の後ろに */ を追加します。 1 行コメント文字 (//) を使用する場合は、対応する終了文字でコメント文字列を終了する必要はありません。
7006	SyntaxError	数値の桁数が不正です	数値ではない文字または有効な区切り文字（ピリオドまたはスペース）ではない文字が含まれています。 例： <pre>123u8 123,8</pre>
7007	SyntaxError	言語機能 %1 はサポートされていません	現在、Mozilla SpiderMonkey で定義される、プロパティ getter および setter メソッドのみサポートされていません。getter および setter メソッドは JavaScript 標準には属していません。このエラーは XML サポートなしに JavaScript をコンパイルして XML を使用しようとした場合にも生じます。
7008	SyntaxError	構文エラー	汎用 (catch-all) 構文エラーです。
7009	SyntaxError	予約語「%1」が正しく使用されていません	キーワードがコンテキスト外で使用されました。 例： <pre>var for = 56;</pre> for という語は予約語であり、変数名として使用できません。 このエラーを修正するには、キーワードを予約語以外のものに変更します。
7010	SyntaxError	ループの外側に break または continue があります	キーワード break および continue は for ループまたは while ループ内で使用します。キーワード break は switch ステートメント内でも有効です。これらのキーワードを構文外で使用することはできません。 例： 正しい構文： <pre>for (i = 0; i < 20; i++) { if (a == i) break; }</pre> 間違った構文： <pre>var sName = "Nicole"; break; var sAnimal = "cat";</pre> このエラーを修正するには、break ステートメントの行を削除します。

コード	エラーの種類	エラーテキスト	エラーの説明
7011	SyntaxError	ラベルがありません	JavaScript は goto をサポートしていませんが、continue および break ステートメントのラベルはサポートしています。 例： <pre>outer: for (I = 0; I < 100; i++) { inner: while (condition) { if (bad) break outer; } }</pre> このエラーを修正するには、プログラム内で使用されているラベルが定義されていることと、ラベル参照のスペルが一貫していることを確認してください。
7013	SyntaxError	終了括弧が多すぎます	プログラムに、対応する開始括弧がない終了括弧が含まれています。 例： <pre>if {sSoftware == "Designer"} { // Heh. sDesc = "Form Design Software"; }}</pre> このエラーを修正するには、余分な終了括弧を削除します。
7014	SyntaxError	対応する終了括弧がありません	プログラム内の終了括弧が足りません。 例： for ループの終了括弧がこのプログラム内にありません。 <pre>if {sSoftware == "Designer"} { for {i = 0; i < 7; i++} { nCount = nVer + 1; } }</pre> インデントからは for ループの終了括弧が足りないことがわかりますが、通常、エラー行は if ステートメントに括弧が足りないことを示します。一般的に、括弧が足りないエラーでは、一番外側のステートメントの終了括弧が足りないことがレポートされます。
7015	SyntaxError	try に catch または finally がありません	try ステートメントは catch/finally ステートメントとペアでないと使用できません。 このエラーを修正するには、try ステートメントを削除するか、catch/finally ステートメントを追加します。
7016	SyntaxError	catch または finally に try がありません	catch または finally ステートメントは try ステートメントとペアでないと使用できません。 このエラーを修正するには、catch/finally ステートメントを削除するか、try ステートメントを追加します。
7017	TypeError	変数名が必要です	変数名が必要です。 例： <pre>function f{1} {} try {} catch {"hi"} {} var 5;</pre> 太字の箇所には定数や数値ではなく変数名が必要です。
7018	TypeError	変数または値が必要です、見つかった値 %1	ほとんど表示されません。 オブジェクトのプリミティブ値への変換に失敗しました。 例： <pre>o={toString:function(){return this}}; o+"test";</pre>
7019	TypeError	引数 %1 が正しくありません	関数の引数を適切なデータ型に変換できません。例えば、関数が数値を予期している場合に文字列が渡された場合などです。
7020	TypeError	引数リストが正しくありません	関数の引数リストに問題があり、引数を使用できません。

コード	エラーの種類	エラーテキスト	エラーの説明
7021	TypeError	%1 がオブジェクトではありません	無効なオブジェクトを使用して操作を実行しました。操作にはオブジェクトが必要ですが、データをオブジェクトに変換できません。 例： <pre>var obj = null; obj.toString();</pre> obj は null でありオブジェクトではないので、obj でのメソッドの呼び出しに失敗しました。
7022	ReferenceError	%1 にコンストラクターがありません	作成できないホストオブジェクト（Application オブジェクトなど）には、ダミーのコンストラクター関数があるので、プロトタイプオブジェクトにはアクセスできます。例えば、Application.prototype 関数をコンストラクターとして使用した場合などです。
7023	ReferenceError	%1 に値がありません	オブジェクトのプリミティブ値への変換に失敗しました。 例： <pre>o={toString:function(){return this}}; o+"test";</pre>
7024	ReferenceError	%1 が関数ではありません	関数として呼び出したものが存在しません。 例： <pre>var f = "No function"; f();</pre>
7025	SyntaxError	次が必要です:%1	パーサーは記号を予期しましたが見つかりませんでした。見つからない記号は単一文字の場合がほとんどですが、複数文字の場合もあります。 例： <pre><xml>{javascript}</xml> // expected: }</pre> パーサーは javascript の後に開始記号に対応する終了記号 } を予期しました。
7026	エラー	%1 はこのクラスでは動作しません	あるクラスから別のクラスにメソッドが移動しました。他のクラスでも動作する汎用的なメソッドは String と Array メソッドだけです。 例： <pre>s = new String { 'test' }; s.getTime = Date.prototype.getTime; s.getTime();</pre>
7030	SyntaxError	関数の外側に不正な「return」があります	キーワード return を関数定義外ですることはできません。 このエラーを修正するには、return ステートメントを削除します。
7037	SyntaxError	変換エラー	ある文字エンコードから別の文字エンコードへの変換に失敗しました。これは JavaScript エラーではありません。このエラーは、例えば、ファイルフォーマットが壊れている Shift-JIS ファイルを読み込んだ場合などに発生します。
7038	SyntaxError	不完全なマルチバイト文字があります	このエラーは、ある文字エンコードから別の文字エンコードへの変換時に発生します。これは JavaScript エラーではありません。このエラーは、例えば、UTF-8 ファイルを読み込む際に最後のバイトが欠けている場合などに発生します。

コード	エラーの種類	エラーテキスト	エラーの説明
7039	SyntaxError	複数の switch default があります	switch ステートメントには特別なラベル default があります。これは、switch 内の他のケースが選択されない場合に実行されるコードです。switch ステートメントごとに使用できる default ラベルは 1 つだけです。 例： <pre>switch {nVersion} { case 1: // ... break; case 2: // ... break; default: // ... break; default: // ... break; };</pre> このエラーを修正するには、default ラベルを 1 つだけ残してすべて削除します。
7040	TypeError	%1 が再宣言されています	定数を複数回宣言することはできません。変数は複数回宣言できます。 例： <pre>const a = 5; const a = 6;</pre>
7041	RangeError	%1 が範囲外です	引数、インデックスまたは値が許可される数値範囲を超えています。 例： <pre>Number ¥{5¥}.toFixed ¥{111¥}; // 100 is max</pre>
7042	SyntaxError	無条件 catch の後に catch が使用されています	JavaScript は複数の catch 句をサポートしますが、最後の catch 句は無条件である必要があります。 例： <pre>try {} catch {e if e instanceof String} {} catch {e if e > 5} {} catch {e} {} catch {e if typeof e == "object"} {}</pre> このエラーを修正するには、不正な条件付き catch 句を無条件 catch 句の前に移動するか削除します。

FormCalc スクリプティングエラー

次の表に、FormCalc スクリプティングエラーメッセージの一覧とその説明を示します。

コード	エラーの種類	エラーテキスト	エラーの説明
7008	SyntaxError	%2 行、%3 列のトークン「%1」近くの構文エラーです。	汎用（catch-all）FormCalc エラーです。 通常、%1 にはエラー箇所に一番近いトークン（語）が入ります。トークンは、問題の箇所に近いだけでエラーには関係ないことがあります。 例： <pre>var b = abc{1} if {b ne 1} then //comment</pre> この例のエラーは、endif トークンがスクリプトにないことです。最後の正しいトークンは then です。コメントはトークンとは見なされません。 このエラーを修正するには、スクリプトの最後に endif ステートメントを追加します。
7100	SyntaxError	%2 行、%3 列の関数「%1」は組み込み関数です。	ユーザー定義関数名に組み込み関数名が使用されています。 行番号と列番号はエラーが出現する行を特定する情報を提供します。 例： <pre>func sum{ } do x = 1 endfunc</pre>
7101	SyntaxError	%2 行、%3 列の関数「%1」が不明です。	スクリプトで未定義の関数を呼び出しました。 例： <pre>read{ }</pre>

関連項目

627 ページの「[レポートパレットメニュー](#)」

656 ページの「[フォームの検証（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」

Acrobat での検証エラーの表示

フォームの検証オプションを使用して、Acrobat が PDF フォームのデータ検証エラーを表示する方法を制御します。

フォームの検証オプションは PDF フォーム全体に適用され、検証パターンや検証スクリプトなどその他の検証機能と連動します。フォームの検証オプションを選択する前に、Acrobat で検証を行うフィールドオブジェクトごとに検証パターンまたは検証スクリプトを適用します。例えば、ユーザーの入力値を検証して数値の正しい形式を確認する検証パターンを、数値フィールドオブジェクトに適用できます。ユーザーが無効な数値を入力した場合は、フィールドの検証に失敗します。検証パターンのオプションでは、フィールドに有効なデータを入力する方法を定義します。フォームの検証オプションでは、Acrobat での検証エラーの表示方法と動作を制御します。

Designer は、「ダイアログメッセージを表示」オプション以外の各検証オプションに対して検証スクリプトを生成します。「ダイアログメッセージを表示」オプションではスクリプトは生成されません。

Designer は検証スクリプトに変更がないかどうかを監視します。スクリプトが変更されたことが Designer で検出された場合は、次の操作が実行されます。

- スクリプトおよびその操作に関連するすべてのスクリプトの監視を停止する。
- フォームのプロパティダイアログボックスの「検証」タブで関連する検証オプションを選択解除する。
- スクリプトの監視が停止され編集可能になったことを示すメッセージをログファイルに追加する。

検証スクリプトが変更されずに管理されている限り、検証オプションを選択解除すると Designer によりフォームからスクリプトが削除されます。

Designer によりスタティクフォームおよびダイナミックフォームに対して様々なフォーム検証スクリプトが生成されます。このため、Adobe XML フォーム (*.xdp) としてフォームを保存するとき、生成されるスクリプトの種類は、フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブの PDF レンダリング形式リスト（スタティク PDF フォームまたはダイナミック XML フォーム）で選択したオプションに基づいて決まります。

注意：フォームの検証オプションで生成されるスクリプトは、フィールドオブジェクトの外観を変更する既存のスクリプトを上書きします。上書きは、フィールドオブジェクトが有効または無効になった場合に行われます。既存のスクリプトをカスタマイズして現在の外観を保存することをお勧めします。これにより、必要に応じて元の外観に戻すことができます。

フォームの検証オプションは、ダイナミック PDF フォームでを使用することをお勧めします。スタティク PDF フォームで使用する場合は、推奨事項に従ってください。

スタティク PDF フォームでフォームの検証を使用する場合の推奨事項

スタティク PDF フォームでフォーム検証機能を使用して、未入力の必須フィールドや検証に失敗したフィールドに色を付けると、Designer では検証対象フィールドの外観に変更が加わることがあります。

このため、境界線があるオブジェクトが含まれるスタティクフォームでフォーム検証機能を使用するときは、「境界線」タブの次のオプションのみを使用することをお勧めします。

- 境界線：実線、くぼみ - 3D、浮き彫り - 3D、破線
- コーナー：四角いコーナー
- 背景の塗りつぶしスタイル：ベタ塗り

Acrobat の検証エラーメッセージボックスの表示方法を設定するには

ユーザーが PDF フォームの入力や送信を行う場合に Acrobat が検証エラーメッセージボックスを表示する方法を設定できます。例えば、検証エラーメッセージごとに個別のボックスに表示するか、すべての検証エラーメッセージを 1 つのボックスに結合するかを選択できます。また、最初の検証エラーメッセージのみ表示したり、メッセージを表示しないこともできます。

注意：フォームの検証オプションは、検証対象として設定していないフィールドオブジェクトには適用されません。）

- 1 ファイル/フォームのプロパティを選択し、「フォームの検証」をクリックします。
- 2 「オプションのリスト」の「ダイアログメッセージを表示」をクリックします。
- 3 「Acrobat の検証メッセージボックス表示方法を設定する」を選択して、次のいずれかの操作を実行します。
 - ユーザーが現在のメッセージを閉じた後で新しい検証エラーメッセージを個別に表示するには、「各メッセージを別々のメッセージボックスで順番に表示する」を選択します。
 - 検証エラーを 1 つのリストに結合するには、「失敗したすべてのフィールドに関するメッセージを結合して 1 つのメッセージボックスに表示する」を選択します。
 - 最初の検証エラーメッセージのみ表示するには、「失敗した最初のフィールドに関するメッセージを表示し、他のメッセージは表示しない」を選択します。
 - すべての検証メッセージを停止するには、「メッセージボックスをまったく表示しない」を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。

検証に失敗したフィールドを別の色で表示するには

Acrobat で検証に失敗したフィールドオブジェクトの境界線、背景の塗りつぶしまたはその両方をハイライト表示するために別の色を選択できます。

注意：フォームの検証オプションは、検証対象として設定していないフィールドオブジェクトには適用されません。）

- 1 ファイル/フォームのプロパティを選択し、「フォームの検証」をクリックします。

- 2 「オプションのリスト」の「失敗したフィールドを色付き表示」をクリックします。
- 3 「検証に失敗したフィールドを別の色で表示します」を選択して、次のいずれかまたは両方の操作を実行します。
 - フィールドオブジェクトの境界線に適用する色を選択するには、「境界線色」をクリックしてパレットから色を選択します。
 - フィールドオブジェクトの背景に適用する色を選択するには、「背景色」をクリックしてパレットから色を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。

入力されなかった必須フィールドを別の色で表示するには

Acrobat でユーザーが入力しなかった必須のフィールドオブジェクトの境界線、背景の塗りつぶしまたはその両方をハイライト表示するために別の色を選択できます。

必須フィールドがハイライト表示され、別のスクリプトでそのフィールドをオプションにしている場合、ハイライト表示は削除されません。

注意：フォームの検証オプションは、検証対象として設定していないフィールドオブジェクトには適用されません。

- 1 ファイル/フォームのプロパティを選択し、「フォームの検証」をクリックします。
- 2 「オプションのリスト」の「必須フィールドを色付き表示」をクリックします。
- 3 「まだ入力されていない必須のフィールドを別の色で表示します」を選択して、次のいずれかまたは両方の操作を実行します。
 - フィールドオブジェクトの境界線に適用する色を選択するには、「境界線色」をクリックしてパレットから色を選択します。
 - フィールドオブジェクトの背景に適用する色を選択するには、「背景色」をクリックしてパレットから色を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。

検証に失敗した最初のフィールドにフォーカスを設定するには

「検証に失敗した最初のフィールドにフォーカスを設定する」オプションにより、Acrobat で検証されなかった最初のフィールドにフォーカスが設定されます。

フォーカスは、位置的な順序ではなく、階層パレットでの最初の無効なフィールドに設定されます。フォームデザインのフィールドオブジェクトの順序と一致するように階層パレットでフィールドオブジェクトを並べることをお勧めします。そうしないと、フォーカスがページの先頭の無効なフィールドに設定される前に、ページの下部の無効なフィールドに設定される場合があります。

注意：フォームの検証オプションは、検証対象として設定していないフィールドオブジェクトには適用されません。

- 1 ファイル/フォームのプロパティを選択し、「フォームの検証」をクリックします。
- 2 「オプションのリスト」の「フォーカスを設定」をクリックします。
- 3 「検証に失敗した最初のフィールドにフォーカスを設定する」を選択して「OK」をクリックします。

関連項目

355 ページの「[フィールド値の形式設定とパターンの使用](#)」

112 ページの「[レポートパレットでの警告メッセージの処理](#)」

260 ページの「[スクリプティングと演算をサポートするオブジェクト](#)」

653 ページの「[デフォルト \(フォームのプロパティダイアログボックス\)](#)」

670 ページの「[ドキュメントハンドリング \(オプションダイアログボックス\)](#)」

359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」

第 4 章： フォームのガイドライン

Designer でフォームを作成する場合、複数の形式でフォームデザインを保存できます。フォーム作成者は、フォームを PDF フォームとして保存し、フォーム入力者が Adobe Reader® でフォームに簡単にアクセスできるようにします。Designer でフォームデザインを PDF フォームとして保存する際に、Adobe スタティック PDF フォーム (*.pdf) または Adobe ダイナミック XML フォーム (*.pdf) のいずれかを選択できます。スタティック PDF フォームやダイナミック PDF フォームとして保存されたフォームデザインは、インタラクティブなものとならないものがあります。

あるいは、Forms Manager で HTML フォームとしてフォームを使用できます。Forms Manager ではこれらのフォームは Forms Portal に表示し、モバイルデバイスでも使用できます。

関連項目

232 ページの「[編集可能なレイアウトを含むインタラクティブフォームの作成](#)」

240 ページの「[編集可能なレイアウトを含む非インタラクティブフォームの作成](#)」

HTML フォームのベストプラクティス

HTML5 レンダリング用にフォームのテンプレートを使用できるようにするためのベストプラクティスについては、「[Mobile フォームを設計するためのベストプラクティス](#)」を参照してください。これらのガイドラインに従うことで、フォーム開発者は Mobile Forms と XFA ベースの PDF における動作と外観の一貫性を確保できます。

PDF フォームのレンダリング

スタティック PDF フォームとダイナミック PDF フォームの違いを理解するには、レンダリングという用語の意味を理解する必要があります。フォームのレンダリングとは、正確な最終レイアウトを作成し、フォームデザインから形式を設定するプロセスです。フォームは、データに結合できる場合とできない場合があります（フォームデザインとデータによる）。レンダリングは、サーバー上で LiveCycle によって実行するか、クライアント上で Adobe Reader によって実行することができます。PDF フォームをエンドユーザーに表示したり、印刷したりする前に、レンダリングする必要があります。したがって、レンダリングは最終的なイメージです。

スタティック PDF フォームの特性

スタティック PDF フォームとして保存されたフォームデザインはサーバー上で 1 回だけレンダリングされ、クライアント上で対象バージョンの Acrobat または Adobe Reader によって表示されます。スタティック PDF フォームは、ユーザーの操作に応じてレンダリングされるものではありません。フォームは編集可能なレイアウトを使用してデザインされている場合がありますが、スタティック PDF フォームを作成すると、そのレイアウトは固定され、結果の PDF フォームはクライアント上ではレンダリングされません。

ファイルサイズ 一般的に、スタティック PDF フォームとして保存されたフォームは、ダイナミック PDF フォームとして保存された同じファイルよりも大きいファイルサイズにレンダリングされます。

レンダリングの場所 スタティック PDF フォームは 1 回だけレンダリングされ、クライアント上で Acrobat または Adobe Reader によって表示されます。スタティック PDF フォームは、ユーザーの操作に応じてレンダリングされるものではありません。レンダリングはサーバー上で実行されるので、クライアント上で最終的な出力に対して可能な変更は少しだけです。例えば、ユーザーがボタンをクリックしたときや、他のフィールドに移動した後に、値領域を別の色で表示できます。

表示速度 一般的に、スタティック PDF フォームをサーバー上でレンダリングするには、ダイナミック PDF フォームよりも時間がかかりますが、エンドユーザーのコンピューター上のクライアントソフトウェアでの表示はスタティック PDF フォームのほうが高速です。サーバー上でのスタティック PDF フォームの処理に時間がかかるのは、サーバーでページレイアウト操作、データの結合および最終的なレンダリングが実行されるからです。ダイナミック PDF フォームの場合、サーバーではデータの結合だけが実行されます。エンドユーザーのコンピューター上のクライアントソフトウェアで、ページレイアウト操作と最終的なレンダリングが実行されます。結果として、ダイナミック PDF フォームのレンダリング時間は、特に PDF ファイルサイズが大きい場合、エンドユーザーのコンピューターの処理能力に依存します。

ダイナミック PDF フォームの特性

ダイナミック PDF フォームとして保存されたフォームは、クライアント上で Acrobat または Adobe Reader によってレンダリングされ、エンドユーザーの操作に応じて、クライアント上で複数回レンダリングできます。Acrobat または Adobe Reader は最終的な出力のレンダリングに十分な情報を持っているので、オブジェクトの表示に対する変更を Acrobat または Adobe Reader で行うことができます。例えば、オブジェクトの色を変更したり、ページ番号を変更したり、オブジェクトの表示と非表示を切り替えたりすることができます。エンドユーザーがボタンをクリックしてテーブルに新しい行を追加した場合、そのフォームは Acrobat または Adobe Reader でレンダリングされます。ダイナミック PDF フォームは、Adobe Reader、Acrobat Professional および Acrobat Standard 7.0 で最初に導入されました。

ファイルサイズ 一般的に、ダイナミックフォームとして保存されたフォームは、スタティック PDF フォームとして保存された同じファイルよりも小さいファイルサイズにレンダリングされます。

レンダリングの場所 ダイナミック PDF フォームとして保存されたフォームデザインは、クライアント上で Acrobat または Adobe Reader によってレンダリングされます。レンダリングはクライアント上で実行されるので、フォームはエンドユーザーの操作に応じて、複数回レンダリングできます。

表示速度 ダイナミック PDF フォームの場合、サーバーではデータの結合だけが実行されます。エンドユーザーのコンピューター上のクライアントソフトウェアで、ページレイアウト操作と最終的なレンダリングが実行されます。結果として、ダイナミック PDF フォームのレンダリング時間は、特に PDF ファイルサイズが大きい場合、エンドユーザーのコンピューターの処理能力に依存します。

関連項目

127 ページの「[PDF フォームの種類の選択](#)」

PDF フォームの種類の選択

様々な種類のフォームをスタティックフォームまたはダイナミックフォームとして作成することができ、エンドユーザーの使用感はほとんど差がありません。ただし、一部のフォームは、スタティックまたはダイナミック PDF フォームとして作成した場合にのみ、デザインどおりに機能します。一般的に、ダイナミックフォームとスタティックフォームのいずれを選択するかは、次の検討事項によって決まります。

- フォームがスタティック PDF フォームとしてもダイナミック PDF フォームとしても機能する場合、サーバー側の処理を少なくして、1 秒あたりのトランザクション数を増加させるには、ダイナミック PDF フォームを使用します。
- フォームがクライアントサイドスクリプトを使用してレイアウトを変更する（スクリプトを使用して、テーブルの行を追加、削除する、またはテキストフィールドを拡大するなど）場合は、ダイナミック PDF フォームを使用します。

- エンドユーザーが PDF フォームに注釈やコメントを追加する必要がある場合は、スタティック PDF フォームを使用します。
 - フォームをバージョン 7.0 以前のバージョンの Acrobat で使用する場合は、スタティック PDF フォームを使用します。
- さらに、スタティック PDF フォームとダイナミック PDF フォームのいずれを作成するかを選択するときに検討が必要な特定の問題が数多く存在します。これらは、フォームの種類による動作の相違点であり、選択の際に重要なポイントになる可能性があります。
- 128 ページの「[クライアントサイドスクリプトを使用した形式設定の適用](#)」
 - 129 ページの「[オブジェクトの形式設定の保存](#)」
 - 130 ページの「[ダイナミックフォームでは使用できない Adobe Reader のコマンド](#)」
 - 131 ページの「[フォントの動作](#)」
 - 131 ページの「[スタティック PDF フォームのオブジェクトとプロパティ](#)」
 - フォームに電子署名が含まれる場合は、Signature サービスでダイナミック PDF フォームを使用する方法が制限されます。この制限について詳しくは、『[LiveCycle サービスリファレンス](#)』を参照してください。

フォームをデザインするときに、スタティックまたはダイナミック PDF フォームとしての動作を「PDF プレビュー」タブで確認できます

クライアントサイドスクリプトを使用した形式設定の適用

スタティック PDF フォームでは、クライアント上で更新できるのはフィールドの値領域だけです。フォーム上で、これ以外はすべて固定されています。ダイナミック PDF フォームでは、フィールドオブジェクト全体をクライアント上で更新できます。以下の例では、これらの相違点を具体的に示します。

フィールドの境界線の色の変更

オブジェクトに境界線を適用するクライアントサイドスクリプトを作成した場合、スタティック PDF フォームとダイナミック PDF フォームではその結果が異なります。

例えば、フィールドの exit イベントで境界線の色を赤に変更するスクリプトを作成できます。

```
TextField1.border.edge.color.value="255,0,0"
```

スタティック PDF フォームでは、エンドユーザーがフィールドから別の場所に移動すると、値領域の輪郭だけが赤くなります。



ダイナミック PDF フォームでは、エンドユーザーがフィールドから別の場所に移動すると、フィールドオブジェクト全体の輪郭が赤くなります。



フィールドの網掛けの適用

オブジェクトに網掛けを適用するクライアントサイドスクリプトを作成した場合、スタティック PDF フォームとダイナミック PDF フォームではその結果が異なります。

例えば、フィールドの `exit` イベントでフィールドの網掛けの色を赤に変更するスクリプトを作成できます。

```
TextField1.fillColor = "255,0,0"
```

スタティック PDF フォームでは、エンドユーザーがフィールドから別の場所に移動すると、値領域だけが赤くなります。



ダイナミック PDF フォームでは、エンドユーザーがフィールドから別の場所に移動すると、値領域を含むオブジェクト全体が赤くなります。



オブジェクトの非表示

オブジェクトを非表示にするクライアントサイドスクリプトを作成した場合、スタティック PDF フォームとダイナミック PDF フォームではその結果が異なります。

スタティックまたはダイナミック PDF フォームをデザインするときに、オブジェクトの `presence` プロパティを「invisible」または「hidden」に設定して、フォーム上のオブジェクトを非表示にすることができます。いずれの場合も、オブジェクトは最終的な出力には表示されません。ただし、`presence` の値を「hidden」に設定した場合、オブジェクトはレイアウトで領域を使用しません。このオブジェクトがフローレイアウトのサブフォームオブジェクト内にある場合は、非表示のオブジェクトに合わせてサブフォーム自体が縮小されます。

スタティック PDF フォームとダイナミック PDF フォームの違いは、スタティック PDF フォームでは、ボタンの `click` イベントなど、インタラクティブなスクリプティングイベントを使用してオブジェクトの `presence` の値を変更できないことです。スタティック PDF フォームはクライアント上で再レンダリングすることができないので、インタラクティブイベントで実行されるスクリプトでは、フォームオブジェクトの表示と非表示を切り替えることができません。ダイナミック PDF フォームは、クライアント上で再レンダリングすることができるので、このような制限はありません。

スタティック PDF フォームでフォームオブジェクトの表示と非表示を切り替えるには、`initialize` イベントなど、フォームのレンダリング時にトリガーされる非インタラクティブイベントを使用します。例えば、ダイナミック PDF フォームでは、ボタンの `click` イベントでテキストフィールドを非表示にするスクリプトを作成できます。

```
TextField1.presence = "invisible"
```

また、次のスクリプトを使用して、テキストフィールドをレイアウトから完全に削除することもできます。

```
TextField1.presence = "hidden"
```

いずれの場合も、スタティック PDF フォームでも同じスクリプトを使用して同じ結果を実現できますが、テキストフィールドまたはボタンの `initialize` イベントでこれらを記述する必要があります。

関連項目

129 ページの「[オブジェクトの形式設定の保存](#)」

オブジェクトの形式設定の保存

Acrobat 8.0 より前のスタティック PDF フォームでは、オブジェクトの形式設定は、エンドユーザーがフォームを保存して閉じ、再び開いたときにも保存されています。ダイナミック PDF フォームでは、オブジェクトの形式設定は保存されません。

重要：クライアントサイドスクリプトを使用して、ダイナミック PDF フォーム上のオブジェクトの形式設定を保存できますが、このような処理は行わないようにしてください。オブジェクトの形式設定を保存する必要がある場合は、スタティク PDF フォームを使用する必要があります。

Acrobat 8.0 からは、すべてのオブジェクトの状態が保存され、再び開く際に自動または手動で状態を回復できます。これは、ルートサブフォームの `restoreState` スクリプティングプロパティで制御されます。

ダイナミック PDF フォームのオブジェクトの形式設定およびレイアウトは、次のいずれかのフォームアクションが発生した場合に変更されることがあります。

- ユーザーがフォームを開く
- ユーザーが新しいデータを読み込む
- ユーザーがフォームに新しいデータを追加する
- クライアントサイドスクリプトが実行される

次の表は、128 ページの「[クライアントサイドスクリプトを使用した形式設定の適用](#)」の例を使用して、エンドユーザーが Adobe Reader でスタティク PDF フォームまたはダイナミック PDF フォームとして保存した場合の結果を比較したものです。

フォームのコンテンツ	スタティク PDF フォーム	ダイナミック PDF フォーム
フィールドの境界線の色を変更するクライアントサイドスクリプト（126 ページの「 フォームのガイドライン 」を参照してください。）	フォームを保存して閉じ、再び開いたときに、値領域の輪郭は赤のままです。	フォームを保存して閉じ、再び開いたときに、オブジェクトの輪郭は赤のままではありません。
網掛けを適用するクライアントサイドスクリプト（126 ページの「 フォームのガイドライン 」を参照してください。）	フォームを保存して閉じ、再び開いたときに、入力可能な値領域は赤のままです。	フォームを保存して閉じ、再び開いたときに、値領域を含むオブジェクトは赤のままではありません。
オブジェクトを非表示にするクライアントサイドスクリプト（126 ページの「 フォームのガイドライン 」を参照してください。）	フォームを保存して閉じ、再び開いたときに、テキストフィールドの値は非表示のままです。	フォームを保存して閉じ、再び開いたときに、テキストフィールドは非表示のままではありません。

注意：`restoreState` を `auto` に設定すると、ドキュメントを Acrobat 8.0 で保存し再び開いたときでも、これらの変更はすべて保持されます。

詳しくは、『スクリプティングリファレンス』の「`restoreState`」を参照してください。

ダイナミックフォームでは使用できない Adobe Reader のコマンド

PDF フォームを Adobe Reader で開いたときに、スタティク PDF フォームでは使用できる Adobe Reader コマンドの一部が、ダイナミック PDF フォームでは使用できない場合があります。これは、最終的なフォームのレイアウトによって、オブジェクトの位置が変更され、フォームのページ数に影響する可能性があるからです。

Adobe Reader の次のコマンドは、スタティク PDF フォームでは使用できますが、ダイナミック PDF フォームでは使用できません。

- 注釈ツールバー
- 注釈の取り込みと注釈の書き出し
- ページの挿入、ページの抽出、ページの置換、ページの削除、ページのトリミングおよびページの回転

関連項目

127 ページの「[PDF フォームの種類の選択](#)」

112 ページの「[対象バージョンの警告メッセージ](#)」

フォントの動作

PDF フォームを作成するときに、フォームで実際に使用されているフォントの文字だけを含めることができます。この手法はフォントのサブセット化と呼ばれます。フォームにフォントを埋め込んで、エンドユーザーがフォームを使用するために必要なすべてのフォントを利用できるようにすることもできます。この場合、PDF ファイルのサイズは大きくなります。

注意：フォントの製造元では、許容される埋め込みのレベルを指定できます。

スタティック PDF フォームではフォントのサブセット化が可能

スタティック PDF フォームでは、テキストおよびフィールドのキャプションについてフォントをサブセット化することができます。サブセット化によって、PDF ファイルのサイズが小さくなります。フォーム内のフォントをサブセット化するには、選択したフォントが「Print & Preview Embedding Allowed」レベルに設定されている必要があります。

注意：スタティック PDF フォームで、フィールドの入力可能な領域で使用されているフォントは、サブセット化できません。これは、ユーザーの入力には、そのフォントの任意の文字が含まれる可能性があるからです。

ダイナミック PDF フォームに埋め込まれるフォント

ダイナミック PDF フォームでは、フォントは完全に埋め込みまたはリンクされます。埋め込みフォントはサブセット化されません。フォントが埋め込まれたフォームを開くと、システムにフォントが存在している場合でも、Adobe Reader によって、埋め込みフォントが使用されます。フォームにフォントを埋め込むには、選択したフォントの埋め込み設定の編集で埋め込みを許可する必要があります。

関連項目

570 ページの「[パフォーマンスを考慮したフォント選択](#)」

スタティック PDF フォームのオブジェクトとプロパティ

ここでは、フォーム作成者が Adobe Reader でスタティック PDF フォームのフィールドを変更するために使用できるスクリプティングオブジェクトの一覧を示します。スクリプティングオブジェクトについて詳しくは、「[スクリプティングオブジェクト](#)」を参照してください。

オブジェクト	説明
border	オブジェクトを囲む境界線を表します。
color	オブジェクト上の一意の色を表します。
fill	オブジェクトに囲まれた領域に色やオプションのレンダリングされたデザインを適用します。

ここでは、フォーム作成者が Adobe Reader で変更できるスタティック PDF フォームのフィールドのスクリプティングプロパティの一覧を示します。スクリプティングプロパティについて詳しくは、「[スクリプティングプロパティ](#)」を参照してください。

プロパティ	説明	構文
access	コンテンツのユーザーアクセスを制御します。	SOMexpression.access = "open readOnly protected"
fontColor	テキストのフォントの色の値です。	SOMexpression.fontColor = "[0-255], [0-255], [0-255]"
hAlign	水平方向のテキスト揃えを指定します。	SOMexpression.hAlign = "left center right"
maxChars	このテキスト値に含めることができる最大文字数を指定します。	SOMexpression.maxChars = "0 integer"
maxLength	コンテンツの許容最大長を指定します。-1 を指定すると、最大長に制限がないことを示します。	SOMexpression.maxLength = "0 integer"
multiLine	テキストを折り返し表示するかどうかを指定します。	SOMexpression.multiLine = "0 1"
presence	オブジェクトの値の可視性を指定します。	SOMexpression.presence = "visible invisible hidden"
textEntry	ユーザーがコンボボックスに値を入力できるかどうかを指定します。	SOMexpression.textEntry = "0 1"

第 4 章：ドキュメントの読み込み

Designer には、別のフォーム作成アプリケーションや XForm XML アプリケーションで作成したフォームを読み込むことができます。スプレッドシートのセルの内容をコピーしてフォームに貼り付けることによって、Microsoft Excel 2002 以降からスプレッドシートのデータを読み込むこともできます。また、レガシーフォームを元に新しい Designer フォームを作成できます。次のアプリケーションから Designer にファイルを読み込むことができます。

アプリケーション	ファイル形式
Acrobat	PDF
Adobe Form Designer 5.0 以降	XFT
Adobe Output Designer	IFD Output Designer ファイル (IFD) を Designer に読み込む前に、Output Designer 5.5 以降を Designer と同じコンピューターにインストールする必要があります。
Microsoft Word	DOC、DOT、RTF
Microsoft Excel	XLS、XML、HTML、XLT、TXT
Microsoft InfoPath	XSN
XForms モデル	XHTML、XML、HTML、HTM、XFDL

Designer には、読み込まれたファイル进行处理し、最適な出力をレンダリングするためのオプションが複数用意されています。読み込まれたフォームのレイアウトが Designer によってできる限り保持され、要素は Designer オブジェクトに変換されます。

PDF ファイルの読み込み

PDF ファイルのソースはたくさんあり、各作成アプリケーションは独自の方法で PDF ファイルのコンテンツを定義できます。

PDF ファイルを Designer に読み込む前に、読み込みプロセスの結果を微調整するための複数のオプションを理解する必要があります。

注意：Designer を使用して作成された PDF ファイルは読み込む必要はありません。Designer で直接開くことができ、デザインされたとおりに表示できます。

PDF ファイルを読み込むには、新規フォームアシスタントを使用します。新規フォームアシスタントにより、読み込みプロセスが簡素化されます。画面の指示に従って、読み込む PDF ファイルを選択し、読み込んだ PDF コンテンツの操作方法や、フォームの配布と回収の方法を指定できます。

Workbench に統合されている Designer では、Workbench を使用して PDF ファイルを読み込むこともできます。Workbench で、File / New / Form を選択し、画面の指示に従って操作します。新規フォームアシスタントの「はじめに」パネルで「PDF 文書の読み込み」オプションを選択します。

スタンドアロンバージョンの Designer では、読み込みオプションダイアログボックスを使用して PDF ファイルを読み込むこともできます。読み込みオプションダイアログボックスは、Workbench に統合されている Designer では使用できません。読み込みオプションダイアログボックスでは、編集可能なレイアウトを持つインタラクティブフォームを作成する際に、Designer が PDF ファイルのコンテンツを読み込む方法をより詳細に設定できます。例えば、Designer が文書内のテキスト、パラグラフ、画像を処理する方法を指定する、カスタムオプションを選択できます。読み込みオプションダイアログボックスは、次のいずれかの方法で表示します。

- 新規フォームアシスタントの「アシスタントを使用しない」リンクをクリックして、アシスタントオプションダイアログボックスを開きます。最適なオプションを選択します。
- ツール/オプションを選択してオプションダイアログボックスを開き、「ウィザードとヒント」を選択し、フォームアシスタントで「ドキュメントの読み込み時に表示」の選択を解除します。674 ページの「[ウィザードとヒント \(オプションダイアログボックス\)](#)」を参照してください。

PDF を読み込む前に、次のケースをご確認ください。

- Designer 以外のアプリケーションや Acrobat で作成された PDF 文書があり、そのコンテンツを背景アートワークとして読み込み、文書の元のレイアウトと外観を保持する場合は、「背景として読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。インタラクティブオブジェクトは任意に編集でき、その他のライブラリオブジェクトをアートワークの上に配置することもできます。
- PDF 文書のコンテンツを Designer で編集する場合は、「編集可能なレイアウトとして読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。ワードラップと改行が保持されず失われることもあります。

最初の変換結果に満足できない場合は、最高の結果を実現するためにオプションの組み合わせを変えてみます。

注意：セキュリティ権限が設定されている PDF ファイルを読み込む場合は、許可のないアクセスを防ぐために、Designer によって正しいパスワードの入力が求められます。

スタンドアロンバージョンの Designer で新規フォームアシスタントを使用して PDF ファイルを読み込むには

- 1 ファイル/新規を選択します。
- 2 新規フォームアシスタントの「はじめに」パネルで「PDF 文書の読み込み」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 3 設定:PDF の読み込みパネルで、読み込む PDF ファイルを参照して選択し、開く/次へをクリックします。
- 4 ドキュメントの設定:読み込みオプションパネルで、使用する読み込みオプションを選択します。
 - PDF ファイルを背景アートワークとして読み込むには、「背景として読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。PDF ファイルを背景アートワークとして読み込むと、Designer によって元の文書の外観が保持され、既存のインタラクティブフィールドも保持されます。
 - 読み込んだ PDF ファイルを Designer で編集したい場合は、「編集可能なレイアウトとして読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。
- 5 「次へ」をクリックします。
- 6 [オプション] フォーム返送の設定: ボタンの追加パネルで、フォームの配布方法とフォームデータの返送方法を選択します。

7 「完了」をクリックします。

スタンドアロンバージョンの Designer で新規フォームアシスタントを使用しないで PDF ファイルを読み込むには

1 ファイル／開くを選択します。

2 読み込む PDF ファイルに移動し、そのファイルを選択して「開く」をクリックします。読み込みオプションダイアログボックスが表示されます。ただし、オプションダイアログボックス（ウィザードとヒントパネル）で「ドキュメントの読み込み時に表示」オプションを解除して新規フォームアシスタントを無効にしていない場合は、新規フォームアシスタントが表示されます。必要な場合は、「アシスタントを使用しない」をクリックして読み込みオプションダイアログボックスを開きます。

3 読み込みオプションダイアログボックスでは、読み込んだ PDF コンテンツの使用方法に適したオプションを選択します。

- PDF コンテンツのレイアウトと外観を保持するには、「背景として読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。
- PDF 文書のコンテンツを Designer で編集するには、「編集可能なレイアウトとして読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択し、必要に応じて PDF を読み込む際のカスタムオプションを選択します。

4 「OK」をクリックします。「変換時に問題が発生した場合、概要レポートを表示する」オプションを選択した場合、フォームを開く前に、使用できないフォントやサポート外のオブジェクトなどの変換上の問題を一覧表示するダイアログボックスが表示されます。

注意：一時フォルダーとは、Windows により設定された一時ディレクトリです（通常は、¥Documents and Settings¥[username]¥Local Settings¥Temp）。ログファイルには PDF ファイルと同じ名前が付けられ、ファイルの拡張子 .log が付きます。同じファイル名のファイルが既に一時フォルダーに存在している場合、そのファイルが上書きされます。

Workbench に統合されている Designer で、ファイル／新規を使用して PDF ファイルを読み込むには

ファイル／新規を使用して PDF ファイルを読み込む場合は、フォームの名前を指定できます。フォームは、Workbench のアプリケーションビューに保存されます。

1 ファイル／新規を選択します。Workbench で、New Form ダイアログボックスが開きます。

2 画面の指示に従って、Designer の新規フォームアシスタントで、はじめにパネルを開きます。

3 「PDF 文書の読み込み」オプションを選択し、「次へ」をクリックします。

4 ドキュメントの設定 :PDF の読み込みパネルで、読み込む PDF ファイルを参照して選択します。次に「開く」をクリックし、「次へ」をクリックします。

5 ドキュメントの設定 :読み込みオプションパネルで、使用する読み込みオプションを選択します。

- PDF ファイルを背景アートワークとして読み込むには、「背景として読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。PDF ファイルを背景アートワークとして読み込むと、Designer によって元の文書の外観が保持され、既存のインタラクティブフィールドも保持されます。
- 読み込んだ PDF ファイルを Designer で編集したい場合は、「編集可能なレイアウトとして読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。

注意：デフォルトでは、画像は標準画質の JPEG 形式で埋め込まれます。画像の抽出に問題が発生した場合は、メッセージが「変換の概要」に表示され、画像は BMP 形式で埋め込まれます。

6 「次へ」をクリックします。

7 「完了」をクリックします。

Workbench に統合されている Designer で、ファイル／開くを使用して PDF ファイルを読み込むには
ファイル／開くを使用して PDF ファイルを読み込む場合は、フォームの保存先として LiveCycle アプリケーションを指定します。

- 1 ファイル／開くを選択します。
 - 2 読み込む PDF ファイルに移動し、そのファイルを選択して「開く」をクリックします。
 - 3 ドキュメントの設定: 読み込みオプションパネルで、使用する読み込みオプションを選択します。
 - PDF ファイルを背景アートワークとして読み込むには、「背景として読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。PDF ファイルを背景アートワークとして読み込むと、Designer によって元の文書の外観が保持され、既存のインタラクティブフィールドも保持されます。
 - 読み込んだ PDF ファイルを Designer で編集したい場合は、「編集可能なレイアウトとして読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。
- 注意:** デフォルトでは、画像は標準画質の JPEG 形式で埋め込まれます。画像の抽出に問題が発生した場合は、メッセージが「変換の概要」に表示され、画像は BMP 形式で埋め込まれます。
- 4 「完了」をクリックします。
 - 5 ファイル／別名で保存を選択します。
 - 6 ローカルシステム上の Workbench フォルダーに移動します。
 - Windows XP を使用している場合、Workbench フォルダーは ¥Documents and Settings¥<user name> にあります。
 - Windows Vista を使用している場合、Workbench フォルダーは ¥Desktop¥<user name> にあります。
 - 7 フォームデザインの保存先のアプリケーションフォルダーを選択します。
 - 8 フォームの名前を入力し、「Save」をクリックします。

関連項目

34 ページの「[フォームの保存](#)」

661 ページの「[読み込みオプションダイアログボックス](#)」

674 ページの「[ウィザードとヒント \(オプションダイアログボックス\)](#)」

PDF ファイルの読み込み結果のレビュー

PDF ファイルを読み込むことによって作成されるフォームデザインは、読み込み時に選択したオプションの組み合わせによって変化します。最初の変換結果に満足できない場合は、最良の結果を出すために、オプションの組み合わせを変えて比べてみることをお勧めします。また、オブジェクトエディターを使って、フォームデザインとしてオブジェクトを編集することもできます。

オブジェクトエディターはオブジェクトを選択すると表示され、オブジェクトの編集時に頻繁に使用するコマンドに簡単にアクセスできます。

最初にフォームデザイン内にオブジェクトの境界が表示されるので、PDF ファイルの要素（特にテキスト）がオブジェクトとしてどのようにグループ化されるかがわかります。このためにフォームデザインが煩雑になり、読みにくくなることがあります。フォームデザインの検討中にオブジェクトの境界が表示されないようにするには、表示メニューの「オブジェクトの境界」コマンドを使用します。フォームデザイン内のオブジェクトに変更を加える必要がある場合、オブジェクトの境界を使用すると便利です。例えば、境界線を持たないオブジェクトをサイズ変更または移動するとき、オブジェクトの境界を

ガイドとして使用します。また、テキスト本体がフォームデザイン内で複数のオブジェクトに分割される場合は、オブジェクトの境界が示されます。レイアウトメニューの「選択したテキストオブジェクトの結合」コマンドを使用すると、これらのオブジェクトを簡単に 1 つのテキストオブジェクトに結合することができます。

タイトルと指示テキストが別々のテキストオブジェクトとフィールドに分割されることがあります。キャプションを持たないフィールドオブジェクトのキャプションを作成するには、レイアウトメニューの「キャプションとして結合」コマンドを使用して、そのフィールドオブジェクトにテキストオブジェクトを結合します。

編集メニューのロックコマンドも便利です。オブジェクトをロックすると、そのオブジェクトをレイアウトエディターで選択し、編集することができなくなります。例えば、テキストがロックされていれば、必要なテキストまたはキャプションをダブルクリックしなければ編集できません。このため、テキストが簡単には修正できなくなります。テキスト、線、画像、シェイプなどのスタティックオブジェクトやフィールドオブジェクトもロックできます。

関連項目

132 ページの「[PDF ファイルの読み込み](#)」

136 ページの「[Designer での PDF オブジェクトの変換方法](#)」

138 ページの「[PDF の変換上の問題を避ける方法について](#)」

140 ページの「[Designer のフォントマッピングテーブルへの新しいマッピングの追加](#)」

141 ページの「[ConvertPDF_CharMap.txt 内の文字マッピングテーブル](#)」

Designer での PDF オブジェクトの変換方法

PDF コンテンツの XDP 形式への変換は、PDF ファイル自体のソースに非常に左右されます。PDF の仕様により、様々なスタイルと構造レイアウトが可能で、移行によく順応するものもあります。PDF は大体において最終的なフォームレイアウトとして使用されます。つまり、重要なのはコンテンツの表示でコンテンツ自体ではありません。

多くの場合、PDF ファイルを実際生成するのは Distiller® または PDFMaker ですが、両方とも与えられた順番で与えられたデータをレンダリングすることしかできません。

次の表に、PDF ファイルの主な要素と、それらが Designer で読み込まれるときの処理方法を示します。

項目	変換	変換なし
アクション (Acrobat フォームから)	Designer では、Acrobat で作成されたフォームに関連する次のアクションのみが変換されます。 - フォームデータの読み込み - URL を表示 - フォームのリセット (フィールドリストの全体および一部) - フィールドの表示 / 非表示 - 完全なフィールドリストのフォームを送信	残りのアクションすべて
演算	Average Maximum Minimum Sum Range	
コメントや注釈		変換なし

項目	変換	変換なし
ドキュメント	文書レベルの JavaScript スクリプトは、コメント化されてイベントスクリプトに変換されます。スクリプトを確認および更新して、Designer モデルに合わせてください。 ページと名前 JavaScript スクリプト以外のイベント セキュリティオプション PDF バージョン、タイトル、筆者、サブタイトル、キーワード、作成者、製作者、作成日、修正日などのドキュメントメタデータ タグ付き PDF のアクセシビリティ情報は保持されます。	タブ順序
フィールド	日付、テキスト、数値、チェックボックス、ラジオボタンとグループ、ボタン、コンボボックス、署名（識別のみ）、コンボボックス、リストボックスフィールドなどの種類 デフォルトテキスト サイズ イベント フォント名、サイズ、太字、斜体 JavaScript スクリプトは、コメント化されてイベントスクリプトに変換されます。スクリプトを確認および更新して、Designer モデルに合わせてください。 名前 データフォーマット（表示形式） 位置、用紙の向き、位置揃え、可視性 印刷可能 読み取り専用、必須、最大文字数、複数行などの属性 背景色、境界線のカラーおよびカラーの RGB およびグレーカラー定義その他のカラー指定は RGB 値にマップされます。 ツールヒントは保持されます。	PDF ファイルで使用されているすべてのフォントが、お使いのシステム内に存在しなければなりません。または、フォント置き換えルールがフォントマッピングテーブルで定義されている必要があります。 Designer では、チェックボックスが選択されていることを×印で示します。PDF ファイルでチェックボックスに別の文字が使用されていると、その文字は×印に変換されます。これにより、入力領域内の配置が最適でなくなる場合があります。
画像	すべての 1 ビット、4 ビット、8 ビット、24 ビット画像 サイズ 位置	ベクトルベースの画像 6 ビット画像 32 ビット画像 一部の TIFF 形式
線	カラー（境界線と塗りつぶし） サイズ 位置 幅 一部の点線および破線スタイル スタイル	

項目	変換	変換なし
長方形	カラー（境界線と塗りつぶし） サイズ 位置 幅 一部の点線および破線スタイル 角丸四角形は、検出時に変換されます。変換は、PDF ファイルの生成方法に依存します。	スタイル
スクリプト	文書、ページ、フィールドレベルの JavaScript スクリプトは、コメント化されたイベントスクリプトに変換されます。スクリプトを確認および更新して、Designer モデルに合わせてください。	
テキスト	コンテンツ サイズ フォント名、サイズ、太字、斜体 混合形式（リッチテキスト） 位置 背景色、境界線のカラーおよびカラーの RGB およびグレースカラー定義その他のカラー指定は RGB 値にマップされます。	PDF ファイルで使用されているすべてのフォントが、お使いのシステム内に存在しなければなりません。または、フォント置き換えルールがフォントマッピングテーブルで定義されている必要があります。 シンボルベースの文字は、正しく表示されない場合があります。文字のマッピングルールは、文字マッピングテーブルで定義できます。 Designer は、フォントカーニングをサポートしていません。PDF ベースのカーニングが検出された場合、テキストが 1 行に収まるようにフォントサイズが縮小されます。

PDF の変換上の問題を避ける方法について

PDF ファイルによっては、Designer に読み込むのが困難場合があります。変換上の問題は、PDF ファイルの作成に使用したアプリケーションや、ソースドキュメントの作成時に選択したオプションによって発生します。例えば、次のファイルが PDF ファイルのソースとなる場合、Designer への読み込みが難しいことがわかっています。

- 編集できないぐらいの 1 つの大きな画像に変換される Digipath ファイル
- 文書がフォームとして特にデザインされていない場合の Microsoft Word ファイル

次の問題を意識することで、発生の可能性がある変換問題を抑えることができます。

- フォームに使用されているフォントがシステムにインストールされていない場合、フォームの読み込み時にフォントが置き換えられます。フォントが置き換えられた場合、テキストの表示は元のフォームでの表示と多少異なる場合があります。
- Acrobat を使用して PDF ファイルを作成する場合、注釈の描画だけを使用してフォームを作成しないでください。
- ベクトルベースの画像のように、PDF フォームの画像に大量の線が含まれる場合、Designer では読み込み操作で線进行处理するのにかなりの時間を要します。処理を高速化するには、PDF の作成に使用するソースファイルから画像を削除してください。必要であれば、Designer でフォームデザインを保存した後に画像を再挿入することができます。ソースファイルを入手できない場合、Designer 上でフォームから画像を削除しても、フォームのパフォーマンスを改善できません。
- 変換時に問題が発生し、元のフォームのソースファイルにアクセスできる場合は、Distiller を使用して PDF ファイルを作成し直してみてください。PDF ファイルが正しく作成されていなかった場合、再作成することにより問題が解消されることがあります。

タグ付き PDF ファイルの読み込み

タグ付き PDF（アクセシビリティ機能を備えた PDF）を読み込むと、ページコンテンツのアクセシビリティ情報が保持されます。さらに、サブフォームを追加したり変更したりしてフォームを整理すると、アクセシビリティ情報が変更される場合があります。

フォームがユーザーの希望どおりに確実に動作するようにするには、フォームを細かくテストする必要があります。フォームが希望どおりに動作しない場合は、次の領域を調べ、調整してください。

- ツールヒント
- カスタムのスクリーンリーダーテキスト
- スクリーンリーダーの読み取り順序

関連項目

537 ページの「[アクセシブルなフォームについて](#)」

132 ページの「[PDF ファイルの読み込み](#)」

使用できないフォントの置換

読み込み時、Designer は、PDF ファイル内のフォントとコンピューター内のフォントを一致させようとします。使用できないフォントがファイルに含まれている場合、Designer の見つからないフォントダイアログボックスに、見つからないフォントと推奨される置換フォントが表示されます。推奨された置換フォントをそのまま使用するか、置換フォントを変更することができます。このフォントの置き換えは永久的なものではありません。Designer では、フォームを開くたびに使用できないフォントをマップする必要があります。

PDF の読み込み後、レポートパレットの「警告」タブには、使用できないすべてのフォントの一覧とどのように変換したかが表示されます。フォントマッピングテーブルに使用できないフォントが含まれている場合、「警告」タブでは、そのフォントが新しいフォントにマップされたことが示されます。使用できないフォントがフォントマッピングテーブルに含まれていない場合、Designer は適切な置き換えを選択しようとします。次に「警告」タブで、使用できないフォントが新しいフォントに変換されたことが示されます。この場合、そのフォントに永久に置き換えるか、フォントテーブルに新しいマッピングを追加することができます。

フォントを永久的に置き換えるには

- 1 PDF を読み込みます。132 ページの「[PDF ファイルの読み込み](#)」を参照してください。
- 2 見つからないフォントダイアログボックスが表示された場合は、置換フォントを指定します。
- 3 すぐにフォントを置き換える場合は、「見つからないフォントを置換して保存」を選択し、「OK」をクリックします。
- 4 このセッション中に、後でフォームデザインを閉じる前にフォントを置き換える場合は、ツール/見つからないフォントを選択し、「見つからないフォントを置換して保存」を選択します。
- 5 フォームデザインを保存します。

Designer のフォントマッピングテーブルへの新しいマッピングの追加

Designer は Designer.xci ファイルに格納されたフォントマッピングテーブルを使って、使用できないフォントをコンピューター内にあるフォントに短時間で置き換えます。このテーブルには、フォントマッピングのためのデフォルトのエントリが複数含まれています。

Designer.xci ファイルはインストールディレクトリ内にあります。ただし Designer を起動するとすぐに、XCI ファイルはユーザーのディレクトリにコピーされます。

Designer.xci ファイルのフォントマッピングテーブルにあるデフォルトのエントリは変更できます。

構文

```
<equate from='input_font_*_*' to='Designer_font_*_*' force="0"/>
```

パラメーター

input_font 入力 PDF ファイルで使用されているフォントの名前です。

Designer_font コンピューターにインストールされているフォントの名前です。

アスタリスク (*) ワイルドカード文字です。例えば、文字列 *Cour* は文字列 Cour を含むすべてのフォント名を指します。

疑問符 (?) 単一文字ワイルドカードです。

_*_* 太字属性と斜体属性です。最初のアンダースコアの後の有効な値は、*、normal および bold です。2 番目のアンダースコアの後の有効な値は、*、normal および italic です。

force="0" システム内のフォントを検索して、フォントが使用できない場合にのみフォントマッピングを使用するように Designer に指示します。

force="1" フォントがインストールされているかどうかに関わらずフォントをマッピングするように Designer に指示します。

例

次の行は、Courier が使用できない場合に Courier フォントを Courier New にマップするように Designer に指示しています。

```
<equate from='Courier_*_*' to='Courier New_*_*' force="0"/>
```

関連項目

132 ページの「[PDF ファイルの読み込み](#)」

136 ページの「[Designer での PDF オブジェクトの変換方法](#)」

140 ページの「[ConvertPDF_FontMap.txt 内のフォントマッピングテーブル](#)」

141 ページの「[ConvertPDF_CharMap.txt 内の文字マッピングテーブル](#)」

ConvertPDF_FontMap.txt 内のフォントマッピングテーブル

ConvertPDF_FontMap.txt ファイル内にフォントマッピングテーブルを設定することができます。

フォントマッピングルールをこのファイルに追加すると、Designer.xci ファイル内のフォントマッピングテーブルや置き換えフォントがお使いのコンピューター上で使用できるかどうかに関わらず、PDF の読み込み時にすべての置き換えフォントが、新しいフォントに変更されます。

ConvertPDF_FontMap.txt ファイルはインストールディレクトリ内にあり、デフォルトでは空です。

構文

input_font=Designer_font

input_font 入力 PDF ファイルで使用されているフォントの名前です。

Designer_font コンピューターにインストールされているフォントの名前です。

アスタリスク (*) ワイルドカード文字です。例えば、文字列 *Cour* は文字列 Cour を含むすべてのフォント名を指します。

input_font 名の前後にワイルドカード文字を追加すると、フォーム内の微妙に異なるフォント名も考慮されます。

疑問符 (?) 単一文字ワイルドカードです。

例

```
*Arial*=Arial
*Helv*=Arial
*Cour*=Courier New
*=Times New Roman
```

処理は、ファイル内と同じ順序で実行されます。この例の最後の行で、残ったすべてのフォントが Times New Roman に変換されます。

関連項目

132 ページの「[PDF ファイルの読み込み](#)」

136 ページの「[Designer での PDF オブジェクトの変換方法](#)」

140 ページの「[Designer のフォントマッピングテーブルへの新しいマッピングの追加](#)」

141 ページの「[ConvertPDF_CharMap.txt 内の文字マッピングテーブル](#)」

ConvertPDF_CharMap.txt 内の文字マッピングテーブル

PDF ファイルには、Designer では別の方法でマップされる文字が含まれている場合があります。この問題に対処するには、ConvertPDF_CharMap.txt ファイル内にある文字マッピングテーブルの文字マッピングルールを使用することができます。

Designer は入力 PDF シンボルを元の文字セットで正しく表示するために、文字テーブルマッピングを必要とします。このテーブルにはデフォルトエントリが複数含まれています。

ConvertPDF_CharMap.txt ファイルの行に設定と合わないものがある場合は、これを削除できます。必要であれば、行を追加することもできます。

ConvertPDF_CharMap.txt ファイルはインストールディレクトリ内にあります。

構文

input_char,input_font=Designer_char,Designer_font

input_char 入力 PDF シンボルの 10 進数値です。

input_font 文字が属している PDF 内の固有フォント名です。アスタリスク (*) はすべてのフォントを指します。

Designer_char 同じ文字の UTF-8 10 進数値です。

Designer_font その文字を含む推奨フォントです。アスタリスク (*) は、元のフォント名のままにしておくことを示します。

例

次の行では、PDF のすべてのフォントの二重引用符 (") が同じフォントの UTF-8 表記に変換されます。

```
0144,*=0039,*
```

関連項目

132 ページの「[PDF ファイルの読み込み](#)」

136 ページの「[Designer での PDF オブジェクトの変換方法](#)」

140 ページの「[Designer のフォントマッピングテーブルへの新しいマッピングの追加](#)」

140 ページの「[ConvertPDF_FontMap.txt 内のフォントマッピングテーブル](#)」

PDF 文書のアートワークとしての読み込み

Acrobat などのアプリケーションで作成した PDF 文書があり、それを基にして Designer で新規 PDF フォームを作成する場合は、新規フォームアシスタントの「背景として読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択し、PDF 文書のコンテンツを新規フォームの背景アートワークとして読み込みます。

PDF 文書が Acrobat で作成され、フォームフィールドが含まれている場合、Designer はそれらのフィールドを対応するライブラリオブジェクトに変換します。PDF をアートワークとして読み込んだ後、ライブラリオブジェクトをアートワークの上に追加で配置し、新しいフォームデザインを拡張することができます。

背景アートワークを変更したいときは、いつでも編集メニューの「アートワークの置換」コマンドを使って別の PDF 文書を読み込むことができます。

PDF 文書をアートワークとして読み込むときは、次の点にご注意ください。

- アートワークとして読み込むことができるのは、Acrobat などの PDF 文書生成アプリケーションで作成された PDF 文書に限られます。Designer で PDF 文書を作成した場合は、そのコンテンツをアートワークとして読み込むことはできません。編集可能なフォームオブジェクトとして読み込みます。
- PDF 文書をアートワークとして読み込んだ後、結果のフォームを Adobe スタティック PDF フォームとして保存する必要があります。フォームを Adobe ダイナミック XML フォームまたは Adobe XML フォームとして保存することはできません。PDF アートワークを含む新しいフォームのデフォルトのファイル形式は Adobe スタティック PDF フォーム (*.pdf) です。
- 非構造化 PDF 文書のほか、タグ付きで、キーボードアクセスとスクリーンリーダー用にタブ順と読み順が定義された構造化文書を読み込むこともできます。詳しくは、144 ページの「[構造化 PDF 文書のアートワークとしての読み込みについて](#)」を参照してください。
- PDF 文書をアートワークとして読み込む場合、円、コンテンツ領域、画像、ライン、矩形、サブフォーム、テーブル、テキスト、マスクされたフィールドとその一部、ページ n/m、シート n/m、署名（印刷してサイン）およびアンケートの質問は、標準グループとカスタムグループで使用できません。
- 読み込んだ PDF 文書のアイコン画像ラベルが付いたボタンはサポートされていません。
- 文書の作成に使用した Designer よりも古いバージョンで作成した背景アートを含む PDF 文書を開いた場合は、文書の画像データが正しく表示されない場合があります。

- 文書、ページ、フィールドレベルの JavaScript（アートワークとして読み込んだ PDF 文書内）は、コメント化されたイベントスクリプトに変換されます。スクリプトを確認および更新して、Designer モデルに合わせてください。以後は、このスクリプトを Acrobat で編集することはできません。

PDF 文書をアートワークとして読み込んだ後は、結果の文書をスタティック PDF フォームと同様に扱うことができます。

スタンドアロンバージョンの Designer で PDF ファイルをアートワークとして読み込むには

- 1 ファイル／新規を選択します。
- 2 新規フォームアシスタントの「はじめに」パネルで「PDF 文書の読み込み」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 3 設定 :PDF の読み込みパネルで、読み込む PDF ファイルを参照して選択し、開く／次へをクリックします。
- 4 ドキュメントの設定 :読み込みオプションパネルで、「背景として読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。PDF ファイルを背景アートワークとして読み込むと、Designer によって元の文書の外観が保持され、既存のインタラクティブフィールドも保持されます。
- 5 「次へ」をクリックします。
- 6 [オプション] フォーム返送の設定 : ボタンの追加パネルで、フォームの配布方法とフォームデータの返送方法を選択します。
- 7 「完了」をクリックします。

Workbench に統合されている Designer で、ファイル／新規を使用して PDF ファイルをアートワークとして読み込むには

ファイル／新規を使用して PDF ファイルを読み込む場合は、フォームの名前を指定できます。フォームは、Workbench のアプリケーションビューに保存されます。

- 1 ファイル／新規を選択します。Workbench で、New Form ダイアログボックスが開きます。
- 2 画面の指示に従って、Designer の新規フォームアシスタントで、はじめにパネルを開きます。
- 3 「PDF 文書の読み込み」オプションを選択し、「次へ」をクリックします。
- 4 ドキュメントの設定 :PDF の読み込みパネルで、読み込む PDF ファイルを参照して選択します。次に「開く」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 5 ドキュメントの設定 :読み込みオプションパネルで、「背景として読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。PDF ファイルを背景アートワークとして読み込むと、Designer によって元の文書の外観が保持され、既存のインタラクティブフィールドも保持されます。
- 6 「次へ」をクリックします。
- 7 「完了」をクリックします。

Workbench に統合されている Designer で、ファイル／開くを使用して PDF ファイルをアートワークとして読み込むには

ファイル／開くを使用して PDF ファイルを読み込む場合は、フォームの保存先として LiveCycle アプリケーションを指定します。

- 1 ファイル／開くを選択します。
- 2 読み込む PDF ファイルに移動し、そのファイルを選択して「開く」をクリックします。
- 3 ドキュメントの設定 :読み込みオプションパネルで、「背景として読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択します。PDF ファイルを背景アートワークとして読み込むと、Designer によって元の文書の外観が保持され、既存のインタラクティブフィールドも保持されます。
- 4 「完了」をクリックします。
- 5 ファイル／別名で保存を選択します。

6 ローカルシステム上の Workbench フォルダーに移動します。

- Windows XP を使用している場合、Workbench フォルダーは ¥Documents and Settings¥<user name> にあります。
- Windows Vista を使用している場合、Workbench フォルダーは ¥Desktop¥<user name> にあります。

7 フォームデザインの保存先のアプリケーションフォルダーを選択します。

8 フォームの名前を入力し、「保存」をクリックします。

PDF アートワークを置換するには

PDF フォームの背景アートワークを変更するには、編集メニューの「アートワークの置換」コマンドを使用します。Designer によって、現在の背景アートワークが新しい背景アートワークに置き換えられます。その際、以前の背景アートワークの上部に配置されていたフィールドオブジェクトはすべて保持されます。置換後の PDF アートワークに Acrobat フォームフィールドがあった場合は、すべて無視され削除されます。

PDF アートワークを置換すると PDF 構造に影響があるのでご注意ください。詳しくは、144 ページの「[構造化 PDF 文書のアートワークとしての読み込みについて](#)」を参照してください。

重要：アートワークの置換は元に戻すことができません。このため、アートワークを置換する前に PDF フォームを保存しておくことをお勧めします。

1 編集／アートワークの置換を選択します。

2 ファイル／保存を選択し、ファイルの種類リストにあるいずれかのファイル形式でフォームを保存します。

関連項目

37 ページの「[Acrobat および Adobe Reader 用フォームの保存](#)」

132 ページの「[ドキュメントの読み込み](#)」

構造化 PDF 文書のアートワークとしての読み込みについて

構造化 PDF 文書をアートワークとして読み込むことができます。これはタグと構造情報が付き、キーボードアクセスとスクリーンリーダーなどの支援テクノロジー用にタブ順と読み順が定義された文書です。

Designer の PDF 構造パレットでは、タグ付き PDF の階層構造がわかり、次の 3 種類の構造タグが表示されます。

<content> コンテンツタグは文書内のコンテンツに適用されます。コンテンツタグは HTML タグと似ていて、<P>、<H1>、<Sect>、<Figure> のように表示されます。これらのタグの下に文書のコンテンツが表示されます。コンテンツタグは参照として示されるだけで、Designer で編集することはできません。

<form> フォームタグは、フィールドタグのコンテナの役割を果たします。ライブラリオブジェクトの構造はすべてフォームタグの下に収められます。

<field> フィールドタグは文書内の実際のオブジェクトに対応します。フィールドタグは必ずフォームタグの下に存在します。各フィールドタグは単一のオブジェクトとリンクできます。フィールドタグが単一のオブジェクトとリンクされると、文書ではタグにオブジェクト名とオブジェクトの種類を示すアイコンが表示されます。フィールドタグにリンク先のオブジェクトがない場合、リンクがないことを示すタグが表示されます。

構造化 PDF 文書をアートワークとして読み込む場合、Designer は構造を維持し、ライブラリオブジェクトに変換したタグ付きの Acrobat フォームフィールドを自動的に文書構造上の正しいフォームタグと関連付けます。しかし、フォームにタグなしのフィールドが残ってしまった場合は、必要に応じて手で正しいフォームタグの下にフィールドタグを追加してください。また、PDF アートワークの上に追加でライブラリオブジェクトを配置し、フィールドタグを各オブジェクトの文書構造に追加することもできます。

PDF 構造パレットを使用すれば、どのオブジェクトがフォームの構造タグと関連付けられているかがわかります。PDF 構造パレットのコンテンツタグをクリックすると、フォームの対応するオブジェクトが「デザインビュー」タブでハイライト表示されます。例えば、PDF 構造パレットに表示されているパラグラフコンテンツタグ <P> をクリックすると、対応するコンテンツ（通常はテキスト）がフォームでハイライト表示されます。

構造化 PDF 文書をアートワークとして読み込んだ後、PDF 構造パレットメニュー（およびコンテキストメニュー）のコマンドを使って、フィールドタグの文書構造への追加と削除、構造内のナビゲート、構造内におけるフィールドの位置の上下移動、構造内でのコンテンツタグの表示を行うことができます。

注意：編集できるのは、Designer 内のフィールド構造だけです。フォームの構造タグとコンテンツ構造を編集したい場合は、Acrobat で行う必要があります。

文書構造に影響する PDF アートワークの置換

構造化 PDF 文書の背景アートワークを置換すると、現在の構造が新しい背景アートワークの構造に変わることにご注意ください。元のアートワークのコンテンツタグは、すべて新しいアートワークのコンテンツタグに置換されます。フォームとフィールドタグは残り、新しいコンテンツタグに結合されます。フィールドオブジェクトのコンテンツはすべて保持され、新しいコンテンツ構造に結合されます。結合されたタグが意図した場所がない場合は、そのフォームおよびフィールドタグを正しい場所に移動してください。

Acrobat で置換後の PDF アートワークに追加されたフォームフィールドは、Designer の対応する編集可能なライブラリオブジェクトには変換されません。

置換後の PDF アートワークが構造化されていない場合、現在の PDF アートワークの構造は削除され、結果の PDF フォームには構造がなくなります。

フィールドタグを文書構造に追加するには

フォームのフィールドオブジェクトを選択し、文書構造で選択したフォームタグの下にフィールドタグを追加することができます。各フォームタグには 1 つのフィールドタグを追加できます。

フォームのフィールドを PDF 構造パレットの構造タグ上にドラッグして、フィールドタグを作成することも可能です。

- 1 「デザインビュー」タブで文書構造に追加するフォームのフィールドを選択します。
- 2 PDF 構造パレットで、フィールドタグを追加するフォームタグを右クリックし、「構造にフィールドを追加」を選択します。

フィールドタグを文書構造から削除するには

- ❖ PDF 構造パレットで、削除するフィールドタグを右クリックし、「構造からフィールドを削除」を選択します。

フィールドタグを文書構造の上下に移動するには

- ❖ PDF 構造パレットで、移動するフィールドタグを右クリックし、目的に合わせて「フィールドを上へ移動」または「フィールドを下へ移動」を選択します。

文書構造でタグなしフィールドを見つけるには

- ❖ PDF 構造パレットを右クリックして、「タグなしフィールドを検索」を選択します。

文書構造でコンテンツタグを表示するには

- ❖ PDF 構造パレットで右クリックし、「コンテンツタグを表示」を選択します。

関連項目

132 ページの「[ドキュメントの読み込み](#)」

624 ページの「[PDF 構造パレットメニュー](#)」

Word ファイルの読み込み

Microsoft Word XP や Microsoft Word 2003 ファイルは、Designer に読み込むことができます。Word ファイルは、文書（DOC）、テンプレート（DOT）またはリッチテキスト形式（RTF）ファイルのいずれかです。

段落、テーブル、画像、ラインアート、フォームフィールド、ヘッダーおよびフッターなどの Word オブジェクトは Designer XML オブジェクトに変換され、すべてのリッチテキストの書式設定が保持されます。

注意：Word ファイルに連続した下線付きタブ文字（アンダースコアがタブ文字として使用されている部分）が含まれる場合、Designer はこの情報をテキストフィールドに変換しようとします。

Designer は、Word ファイルを読み込むたびに、ファイルの読み込みオプションを表示します。

- 1 ファイル／開くを選択します。
- 2 次のタイプのファイルリストで「Microsoft Word 文書 (*.doc; *.dot; *.rtf)」を選択します。
- 3 開くファイルに移動し、そのファイルを選択して「開く」をクリックします。
- 4 ファイルを開いたり、ファイルの保護を解除する必要がある場合は、ファイルの読み込みオプションダイアログボックスでパスワードを入力します。
- 5 見つからないフォントを置き換え、フォント置き換えエラーメッセージを表示しないようにするには、「見つからないフォントは無視する」オプションを選択します。
- 6 画像を変換してフォームデザインに埋め込むには、「画像の変換」オプションを選択します。
- 7 ログファイルの生成リストで、ログの記録方法のオプションを選択します。
- 8 「OK」をクリックします。

注意：Designer は Windows クリップボードにアクセスしてデータを変換するので、Designer が Word ファイルを読み込み中は、その他のアプリケーションはクリップボードにアクセスできません。

Designer での Word オブジェクトおよび設定の変換方法

Designer は Word ファイルを変換する際、レイアウトを保持します。ただし、フォームの見た目をできるだけよくするために、オブジェクトを変換後手作業で再配置しなければならない場合もあります。

次の表に、Word ファイルの主なオブジェクトと、それらが Designer で読み込まれるときの処理方法を示します。

項目	変換	変換なし
ファイルプロパティ	組み込みプロパティとカスタムプロパティは、フォームのプロパティに変換されます。	
段落	リッチテキスト形式を含むコンテンツ（例えば、テキスト） 下線、取り消し線、上付き文字および下付き文字などのフォント効果 段落の境界線とシェーディング	ハイパーリンク カラーの下線は黒の下線に変換されます。 すべてを大文字にするフォント効果 テキストのカラーと異なる場合のリスト番号のフォントのカラー 空の段落のシェーディング テキストの境界線
テーブル	テーブルはコンテンツの位置を決めるサブフォームに、テーブルのセルは子サブフォームに変換されます。	一部の境界線スタイルはサポートされていません。

項目	変換	変換なし
シェイプ	テキストボックス 画像 線、長方形および円はラスタライズされます。 自動設定シェイプ OLE オブジェクト フレーム ActiveX® コントロールは画像に変換されます。	矢印の先端は直線に変換されます。 描画オブジェクトは画像に変換されます。 勾配 90 の倍数以外の描画シェイプ回転はサポートされていません。 フレーム内の空白行 ActiveX コントロール機能
インラインシェイプ	画像と OLE オブジェクトは文字同様に処理され、テキストの行の中の文字のように配置されます。 ActiveX コントロールは画像に変換されます。	ActiveX コントロール機能
フォームフィールド	チェックボックスフィールドはチェックボックスに変換されます。デフォルトの状態が持ち越されます。 ドロップダウンフィールドはコンボボックスに変換されます。すべての項目リストは持ち越されます。 テキスト入力フィールドはテキストフィールドに変換されます。デフォルト値は保持されます。 HelpText と StatusText の内容はツールヒントに変換されます。	Textinput 値の形式 Web ツールオブジェクト
ヘッダーとフッター	すべてのヘッダーとフッターが同じ場合、これらはマスターページ上に作成され、Word 文書のヘッダーとフッターのレイアウト設定に従って配置されます。 異なるヘッダーとフッターがある場合は、それぞれのページに作成されます。	日付 / 時間などの埋め込みフィールドコード
ページ設定	ページのデフォルトサブフォームのレイアウトを指定するには、余白設定が使用されます。 複数のページは個別のページに変換されます。 ページサイズと印刷の向き設定によって、基本的なページレイアウトプロパティが決定されます。	綴じ代設定
スクリプト	フォームフィールドに関連するスクリプティングはすべて、Designer XML ソースコード内のコメントに変換されます。	
ページの境界線	指定された場合、この属性はマスターページ上の境界線に変換されます。	
行番号		変換なし
コメント		変換なし
Web ページの属性		変換なし

Word の変換上の問題を避ける方法について

Microsoft Word XP または Microsoft Word 2003 を Designer と同じコンピューターにインストールする必要があります。

電子メールのメッセージとして送信するように構成された Word XP ファイルを読み込む場合は、Word XP のサービスパック 1 をインストール済みであることを確認してください。このサービスパックがインストールされていないと、読み込みプロセスの完了後に Word XP がクラッシュします。

最適な結果を得るには、入力ファイルのページ数は 10 枚以下にしてください。

Microsoft Excel からのスプレッドシートデータのコピー

Microsoft Excel 2002 以降のスプレッドシートのセルをコピーして、Designer のフォームに貼り付けることができます。それよりも前のバージョンの Excel からデータをコピーして貼り付けると、予期しない結果が発生する可能性があります。

Designer により、スプレッドシートの選択部分と同じサイズ、セル数、データコンテンツのテーブルオブジェクトがフォームに作成されます。また、Designer では、テキスト、フォント、色、背景色、配置、境界線をはじめ、スプレッドシートの元のセルの形式設定が一部維持されます。スプレッドシートで選択されたセルに列ヘッダーが含まれている場合は、列ヘッダーの形式設定がテーブル最上部のヘッダー行に維持されます。

ただし、Designer では、Excel スプレッドシート内の計算、スクリプト、画像、グラフなどの埋め込みオブジェクトは維持されません。

- 1 Excel で、使用するスプレッドシートセルをコピーします。Excel は開いたままにします。
- 2 Designer で、編集/貼り付けを選択します。
- 3 「セルをテーブルとして貼り付け」を選択し、「OK」をクリックします。

関連項目

148 ページの「[Microsoft Excel スプレッドシートのコンテンツからのフォームの作成](#)」

692 ページの「[スプレッドシート貼り付けオプションダイアログボックス](#)」

Microsoft Excel スプレッドシートのコンテンツからのフォームの作成

この機能は、スタンドアロンバージョンの Designer でのみ使用できます。

Microsoft Excel スプレッドシートをベースに新しい PDF フォームを作成し、電子メールで配布して、スプレッドシートと同じ種類のデータを回収することができます。

新規フォームアシスタントを使用して、Excel スプレッドシートの列ヘッダーに基づいて、インタラクティブテキストフィールドを持つ PDF フォームを作成できます。新規フォームアシスタントでは、スプレッドシートの各列に対して 1 つのテキストフィールドオブジェクトが作成されます。テキストフィールドオブジェクトは、フォーム内に左から右に順に配置され、必要に応じて追加行に含められます。各テキストフィールドオブジェクトのキャプションと連結名は、スプレッドシートの列ヘッダーのテキストに対応します。

フォームに「電子メール送信」ボタンを追加すると、受信者にフォームを配布し、受信者がフォームに記入して返すことができます。ファイルメニューから「フォームの配布」コマンドを選択すると、Designer のフォームが閉じ、Acrobat 配布ウィザードが表示されるので、画面の指示に従って配布プロセスを行います。受信者から記入済みのフォームを受け取ったら、収集したデータを Acrobat のデータセットに整理できます。フォームデータを複数セット受領したら、スプレッドシートにフォームデータを整理し直すことができます。

ただし、Designer では、スプレッドシートドキュメント内の計算、スクリプト、画像、グラフなどの埋め込みオブジェクトは維持されません。

- 1 Excel で、新しい PDF フォームの作成に使用するスプレッドシートを開きます。
- 2 Designer で、ファイル/新規をクリックします。
- 3 「スプレッドシートを使用」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 4 新規フォームアシスタントの画面の指示に従って操作します。新規フォームアシスタントの操作を完了するには、Excel を閉じる必要があります。

関連項目

148 ページの「[Microsoft Excel からのスプレッドシートデータのコピー](#)」

692 ページの「[スプレッドシート貼り付けオプションダイアログボックス](#)」

InfoPath ファイルの読み込み

Microsoft InfoPath ファイル（XSN）は、Designer に読み込むことができます。変換プロセス中、Designer はこれらのコンポーネントを入力ファイルから抽出し、それらを使用して以下の Designer XML 要素を作成します。

- パッケージの内容を説明する XML ファイル
- InfoPath フォームを説明する XML ファイル
- 各表示を説明する XSL ファイル
- InfoPath フォーム向けスキーマファイル
- Designer XML ソースコード内にコメントとして保存されるスクリプトファイル

Designer は、InfoPath ファイルを読み込むたびに、ファイルの読み込みオプションを表示します。

- 1 ファイル／開くを選択します。
 - 2 次のタイプのファイルリストで「Microsoft InfoPath (*.xsn)」を選択します。
 - 3 開くファイルに移動し、そのファイルを選択して「開く」をクリックします。
 - 4 次のいずれかの操作を行います。
 - ビューのメッセージを表示する場合は、「変換中の表示を選択するプロンプトを表示」オプションを選択します。
InfoPath ファイルにビューが 1 つしかない場合、このオプションを選択していても、プロンプトは表示されません。
 - 読み込むビューの名前がわかっている場合は、「ビュー」ボックスにビューの名前を入力します。デフォルトビューを変換するには、ボックスを空白のままにしておきます。
 - 5 次のいずれかの操作を行います。
 - 「印刷設定を読み込む」オプションを選択し、InfoPath フォームのヘッダーおよびフッター、ページの向き、ページ余白を読み込みます。
 - InfoPath フォームのページサイズがわかっている場合は、リストからいずれかを選択するか、デフォルトを選択します。
 - InfoPath フォームのページの向きがわかっている場合は、リストからいずれかを選択します。
- 注意：**「印刷設定を読み込む」オプションを選択する場合、ページのサイズと向きは InfoPath フォームから取得され、ページのサイズおよび向きを選択する必要はありません。
- 6 (オプション) ログファイルの生成リストで、オプションを選択します。
 - 7 (オプション) 画像を変換してフォームデザインに埋め込むには、「画像を XDP に埋め込む」オプションを選択します。
 - 8 「OK」をクリックします。

注意：Designer は、Microsoft Internet Explorer 5.0 以降を使用して、InfoPath ファイルの読み込み中にデータを転送します。Internet Explorer をインストールしていない場合は、InfoPath ファイルを Designer に読み込むことはできません。

Designer での Microsoft InfoPath オブジェクトの変換方法

Designer は Microsoft InfoPath ファイルを変換する際、レイアウトを保持します。ただし、フォームの見た目をできるだけよくするために、オブジェクトを変換後手作業で再配置しなければならない場合もあります。

次の表に、InfoPath フォームの主なオブジェクトと、それらが Designer で読み込まれるときの処理方法を示します。

項目	変換	変換なし
コントロール	リッチテキストボックスなどのテキストボックスはテキストフィールドに変換されます。 コンボボックスはコンボボックスに変換されます。値が含まれるのは、コントロールを手動で入力した場合だけです。 リストボックスはリストボックスに変換されます。 InfoPath の日付ピッカーが「テキスト（文字列）」に設定されていない限り、日付ピッカーコントロールは日付 / 時間フィールドに変換されます。その場合、テキストフィールドに変換されます。 チェックボックスはチェックボックスに変換されます。 オプションボタンはラジオボタンに変換されます。 ボタンはボタンに変換されます。	入力規則 スクロール リッチテキストボックスに埋め込まれた画像 オプションボタンのグループは、1 つのラジオボタングループに変換されない場合があります。 ボタンの送信操作は処理されません。 チェックボックスとラジオボタンの埋め込みプロパティ 添付 カスタムコントロール
式ボックス		変換なし
リスト	番号付きリストはテキストに変換されます。 バレットリストの場合は、テキストだけがテキストに変換されます。	箇条書きの記号
画像	画像は画像に変換されます。	インキ描画
スキーマ	InfoPath フォームがスキーマを基に設計されている場合、Designer でスキーマが読み込まれ、連結が自動的に行われます。	
スクリプト		変換なし
スクロール領域	スクロール領域はサブフォームに変換されます。	
セクション	セクションはサブフォームに変換されます。 繰り返しセクションは、フォームの繰り返しサブフォームに変換されます。フォームの入力時には、セクションのインスタンスの追加または削除のために、追加ボタンおよび削除ボタンが用意されています。	フォームに含める / 含めないのプロパティ 説明のテキスト 省略可能セクションまたは繰り返しセクションのインスタンスは、1 つだけ変換されます。
テーブル	テーブルはテーブルに変換されます。 繰り返しテーブルは、フォームの繰り返しテーブルに変換されます。フォームの入力時には、セクションのインスタンスの追加または削除のために、追加ボタンおよび削除ボタンが用意されています。	一部の境界線スタイルはサポートされていません。 繰り返しテーブルの表示行だけが変換されます。 垂直方向に結合された行は、位置固定レイアウトのサブフォームに変換されます。
テキスト	テキストはテキストに変換されます。ハイライト表示カラーは背景色に変換されます。	ハイパーリンク

Designer オブジェクトと InfoPath オブジェクトの違い

Designer と InfoPath は、同じ機能とオブジェクトプロパティをサポートしているわけではありません。次のような明白な違いがあります。

- 画像は Designer テキストフィールドに配置できません。
- Designer は、編集可能な番号付きリストやバレットリストをサポートしていません。

Adobe Output Designer フォームファイルの読み込み

Output Designer ファイル (IFD) を Designer に読み込む前に、Output Designer 5.5 以降を Designer と同じコンピュータにインストールする必要があります。

Designer は、Adobe Output Designer フォームファイルを読み込むたびに、ファイルの読み込みオプションダイアログボックスを表示します。

- 1 ファイル／開くを選択します。
- 2 次のタイプのファイルリストで「Adobe Output Designer フォーム (IFD)」を選択します。
- 3 開くファイルを選択して、「開く」をクリックします。
- 4 ファイルの読み込みオプションダイアログボックスで、必要なオプションを選択します。
 - 一時ログファイルを生成するには、変換処理のトレースログを生成リストで、次のいずれかを選択します。
 - **¥TEMP¥ConvertIFD.log** 変換処理に関する情報を記録するログファイルをシステムの一時フォルダーに作成します。
 - **¥TEMP¥inputfile.log** 入力ファイルと同じ名前を使用してシステムの一時フォルダーにログファイルを生成します。読み込んだファイルごとにログファイルを生成します。
 - Output Designer 構成ファイルを使用して PDF フォームファイルを生成するには、「Output Designer の PDF 設定を使用する」を選択します。Output Designer 構成ファイル (pdf.ics) および構成ファイルのコンパイルバージョン (pdf.icf) を使用し、PDF フォームファイルを生成します。
 - 一致する名前を持つフィールドオブジェクトを同期させてグローバルデータ連結を使用するには、「グローバルという名前が付いたフィールドのように同期します」を選択します。フォーム内の同じ名前のすべてのフィールドオブジェクトにグローバル値を適用します。
 - 階層から名前の付いていないサブフォームをすべて削除するには、「フィールドのみ読み込みます」を選択します。
- 5 「OK」をクリックします。

関連項目

650 ページの「[Adobe Output Designer フォーム \(ファイルの読み込みオプションダイアログボックス\)](#)」

132 ページの「[ドキュメントの読み込み](#)」

XForms モデルファイルの読み込み

XForms モデルファイルは、Designer に読み込むことができます。XForms モデルファイルを読み込むたびに、ファイルの読み込みオプションダイアログボックスが表示されます。

- 1 ファイル／開くを選択します。
- 2 次のタイプのファイルリストで「XForms モデル」を選択します。
- 3 開くファイルに移動し、そのファイルを選択して「開く」をクリックします。
- 4 (オプション) XForms ドキュメントにスキーマが設定されている場合に、出力 XDP ファイルにスキーマを埋め込むには、「スキーマをインラインに埋め込む」を選択します。
- 5 (オプション) インスタンスデータ XML ファイルや XML スキーマファイルなど、XForms ドキュメントに含まれている相対ファイルパスを Designer でチェックする場合は、チェックするフォルダーへのパスを「作業ディレクトリを設定」ボックスに入力します。このフォルダーを指定しなかった場合、デフォルトの作業ディレクトリは読み込まれた

XForm と同じ場所になります。このディレクトリは、ログファイルや一時的なインスタンスのデータファイルが作成される場所ではありません。

6 ログファイルの生成リストで、次のいずれかのオプションを選択します。

- 変換出力メッセージを取得するためのログファイルを生成しない場合は、「ログを出力しない」を選択します。
- Documents and Settings¥[username]¥Local Settings¥Temp (Windows XP) または Users¥[username]¥AppData¥Local¥Temp (Windows Vista) の Temp フォルダ内にログファイルを生成する場合は、¥TEMP¥ConvertXF.log を選択します。作成される各ログファイルの名前は ConvertXF で始まり、一意の番号が付けられます (ConvertXF38512.log など)。

7 「OK」をクリックします。

注意： Designer フォームは、xforms-valid イベントに相当するイベントをサポートしません。xforms-valid イベントに関連するスクリプティングは読み込まれません。

関連項目

652 ページの「[XForms モデル \(ファイルの読み込みオプションダイアログボックス\)](#)」

132 ページの「[ドキュメントの読み込み](#)」

第 5 章：テーブルの使用

テーブルについて

テーブルは、フォームフィールドに入力したり、データとマージしたりできるセルの行と列で構成されています。この例では、テーブルの構成要素の名前を示します。

A	D				
	パーツ番号	内 容	数量	単価	単価
B	00010-100	モニタ	1	¥ 35,000	¥ 35,000
	00010-200	デスクランプ	3	¥ 5,500	¥ 16,500
	00025-275	電話	5	¥ 8,500	¥ 42,500
	00300-896	アドレス帳	2	¥ 1,500	¥ 3,000
C			合計数量	単価	合計金額
			11	¥ 50,500	¥ 97,000
				税	¥ 4,850
				総合計	¥ 101,850
	E				F

A. ヘッダー行 B. 行 C. フッター行 D. 列 E. セル F. セクション

テーブルの種類

Designer のフォームデザインでは、次の 2 種類のテーブルを作成できます。

- 行数および列数が固定されたテーブル。次に、ヘッダー行とフッター行のある 4 列、4 行の簡単なテーブルの例を示します。

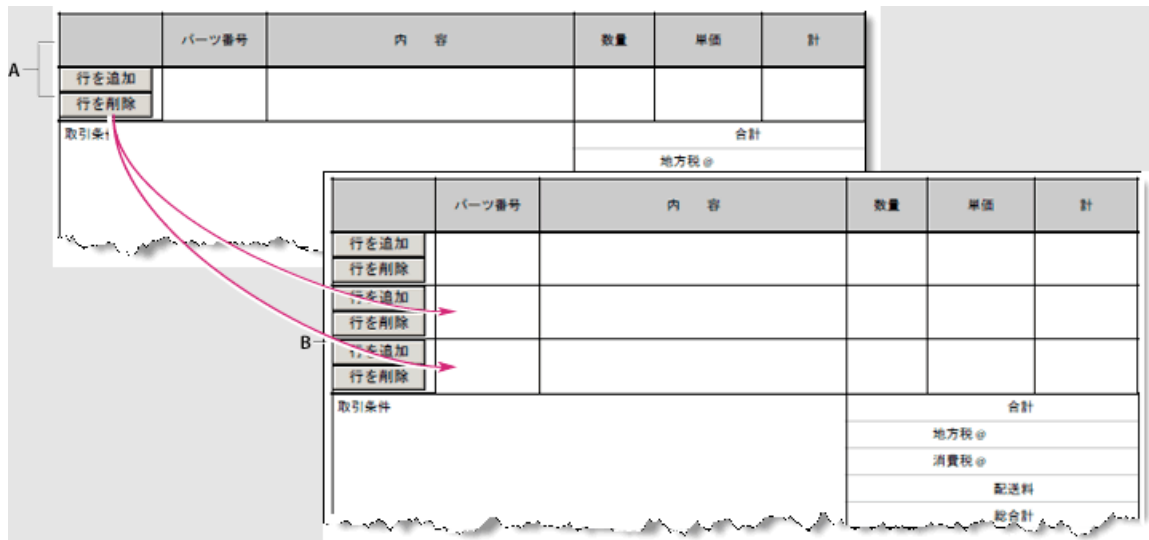
ヘッダ	ヘッダ	ヘッダ	ヘッダ
フッタ	フッタ	フッタ	フッタ

- 列数は固定される一方で行数がデータソースの情報量に応じて変化するテーブル。

パーツ番号	内 容	数量	単価	計
取引条件			合計	
			地方税 @	
A	00010-100	モニタ	1	¥35,000
	00010-200	デスクランプ	3	¥5,500
	00025-275	電話	5	¥8,500
	00300-896	アドレス帳	2	¥1,500
	取引条件		合計	¥97,000
	アカウント番号: 123456		地方税 @ 7.00%	¥6,790
			消費税 @ 8.00%	¥7,760
			配送料	¥5,000
			総合計	¥116,550

A. テーブルをレイアウトエディターで表示した例 B. データソースのデータとマージされたテーブルを「PDF プレビュー」タブで表示した例

また、インタラクティブテーブルは、行を追加または削除するボタンをユーザーがクリックすると、拡大または縮小します。



A. 行を追加または削除するボタン B. 行の追加ボタンを 2 回クリックすると、**Designer** で行が 2 行追加されます。

テーブルの作成方法

通常、テーブルは以下のいずれかの方法で作成します。

- 行数と列数が固定された空のテーブルを作成します。156 ページの「[簡単なテーブルを作成するには](#)」を参照してください。
- 行数と列数が固定された空のテーブルを作成します。156 ページの「[簡単なテーブルを作成するには](#)」を参照してください。
- 表示されるデータ量に応じて行数が変化するテーブルを作成します。190 ページの「[データソースからテーブルを作成するには](#)」を参照してください。
- データ量に応じて行数が変化する空のテーブルを作成します。156 ページの「[テーブルアシスタントを使用してテーブルを作成するには](#)」を参照してください。
- 既存のオブジェクトからテーブルを作成します。158 ページの「[既存のオブジェクトからテーブルを作成するには](#)」を参照してください。
- テーブル内に階層化されたテーブルを作成します。159 ページの「[テーブル内にテーブルを作成するには](#)」を参照してください。
- 別のアプリケーションからテーブルを読み込みます。160 ページの「[Microsoft Word からテーブルを読み込むには](#)」を参照してください。

簡単なテーブルを作成するには

ヘッダー行やフッター行の有無に関らず、列と行の範囲を持つ簡単なテーブルを作成できます。次に、ヘッダー行とフッター行のある 4 列、4 行のテーブルの例を示します。

ヘッダ	ヘッダ	ヘッダ	ヘッダ
フッタ	フッタ	フッタ	フッタ

- 1 オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリをクリックし、テーブルオブジェクト

を選択します。

- 2 テーブルを表示する位置をクリックします。

注意：テーブルの挿入ダイアログボックスで「次回から表示しない」オプションを選択している場合は、オブジェクトライブラリパレットからテーブルオブジェクトを選択すると、**Designer** により、テーブルの挿入ダイアログボックスで最後に挿入したテーブルと同じ列数および行数のテーブルが自動的に挿入されます。

- 3 テーブルの挿入ダイアログボックスで、列数と行数を入力します。

最大 20 列、50 行まで入力できます。テーブルを作成した後も、テーブルメニューの「挿入」コマンドを使用して、さらに列と行を追加できます。

- 4 (オプション) ヘッダー行を追加する場合は、「テーブルにヘッダー行を含む」を選択します。

- 5 (オプション) フッター行を追加する場合は、「テーブルにフッター行を含む」を選択します。

- 6 「OK」をクリックします。

関連項目

202 ページの「[ヘッダーまたはフッター行を後続のページで繰り返すには](#)」

テーブルアシスタントを使用してテーブルを作成するには

テーブルアシスタントを使用すると、テーブルをフォームに配置する前にテーブルの基本要素を簡単に定義できるので、能率的にテーブルを作成できます。例えば、テーブルアシスタントダイアログボックスには、ボディ行とボディ列の追加、ヘッダー行とフッター行の追加、セクションの追加、行への網掛けの適用、といったオプションが用意されています。

テーブルアシスタントは、行数と列数が固定されたテーブルや、列数が固定された一方で、データソースの情報量に応じて行数が変化するテーブルを作成する場合に使用できます。

各オプションを選択すると、テーブルアシスタントの「プレビュー」領域にテーブルの外観が表示されます。テーブルアシスタントを使用してテーブルを作成してからも、テーブルメニューのコマンドや、レイアウトパレット、境界線パレット、オブジェクトパレットおよびアクセシビリティパレットの様々なオプションを使用してテーブルを変更できます。

 デフォルトでは、挿入／標準／テーブルを選択するか、テーブルオブジェクトをレイアウトエディターにドラッグすると、テーブルの挿入ダイアログボックスが表示されます。以前にテーブルの挿入ダイアログボックスで「次回から表示しない」オプションを選択した場合は、ツール／オプション／ウィザードとヒントを選択し、「テーブルの作成時に表示」オプションを選択すると、デフォルトの動作に戻すことができます。

- 1 テーブル／テーブルの挿入を選択し、「アシスタントを使用してテーブルを作成」オプションを選択します。
- 2 テーブルアシスタントで、ボディレイアウトを指定して、「次へ」をクリックします。
 - 追加する行と列の数を指定する場合は、「ボディは固定配列」オプションを選択し、列数リストと行数リストで値を選択します。
 - テーブルのボディ行の数をデータの行数に一致させる場合は、「ボディ行はデータ量に依存」オプションを選択し、列数リストで値を選択します。
- 3 ヘッダー行を含めるかどうか指定し、「次へ」をクリックします。
 - ヘッダー行が不要な場合は、「ヘッダー行なし」を選択します。
 - ヘッダー行を追加する場合は、「ヘッダー行あり」を選択し、必要に応じて「すべてのページにヘッダー行を表示」を選択します。「すべてのページにヘッダー行を表示」オプションを使用できるのは、ボディのレイアウトページで「ボディ行はデータ量に依存」オプションを選択している場合だけです。
- 4 フッター行を含めるかどうか指定し、「次へ」をクリックします。
 - フッター行が不要な場合は、「フッター行なし」を選択します。
 - フッター行を追加する場合は、「フッター行あり」を選択し、必要に応じて「すべてのページにフッター行を表示」を選択します。「すべてのページにフッター行を表示」オプションを使用できるのは、ボディのレイアウトページで「ボディ行はデータ量に依存」オプションを選択している場合だけです。
- 5 追加するセクションを指定し、「次へ」をクリックします。
 - セクションのないボディ行を含める場合は、「ボディ行（セクションなし）」を選択します。
 - セクションにグループ化されたボディ行を含める場合は、「ボディ行（セクションあり）」を選択し、次の操作を行います。
 - 必要に応じて、セクションリストの上にある追加ボタン、削除ボタン、上へボタンおよび下へボタンを使用して、セクションの追加、削除および並べ替えを行います。
 - セクションリストに表示されているセクションの名前を変更する場合は、変更するセクションをダブルクリックし、テーブルセクションダイアログボックスでセクションの名前を変更します。
 - セクションリストに表示されているセクションにオプションを適用するには、セクションを選択し、必要に応じて「セクションオプション」のオプションを選択します。「セクションはオプション」を選択しているときは、セクションの最小オカレンスが0に設定されることに注意してください。つまり、セクションにデータが存在しない場合、セクションは表示されません。
- 6 行の網掛けを指定して、「完了」をクリックします。
 - 「1行おきに色を変える」を選択します。
 - 最初の行リストで、最初に網掛けする行数を選択して、色を選択します。
 - 次の行リストで、次に網掛けする行数を選択して、色を選択します。

202 ページの「ヘッダーまたはフッター行を後続のページで繰り返すには」

テーブルとして形式設定されたフィールドオブジェクトを含む既存のフォームがある場合、このフォームを簡単にテーブルに変換できます。例えば、Designer に付属の出荷伝票テンプレートには、テーブルと同じように形式設定されたフィールドが含まれています。

[illegible]

- 1 テーブルと同じように形式設定されたフィールドを含むフォームを開きます。

例えば、出荷伝票テンプレートを基にした新しいフォームを開きます。ファイル／新規を選択してから、「テンプレートを使用」を選択します。「次へ」をクリックし、出荷伝票テンプレートを選択します。「次へ」をクリックし、新規フォームアシスタントでの入力を完了します。
- 2 テーブルに変換するオブジェクトをドラッグで選択します。

例えば、ヘッダー行およびボディ行を選択し、「備考」と「保険料」セクションより上の部分を選択範囲とします。

商品番号	内 容	数量	発注単位	発注番号
備考			保険料	
			配送料	
			合計	

3 テーブル/テーブルに変換を選択します。

注意：任意のフィールドグループをテーブルに変換できます。例えば、このテンプレートで、「配送先」および「発注元」の下フィールドをテーブルに変換することもできます。

テーブル内にテーブルを作成するには

テーブル内に、メインテーブルから独立したテーブルを作成できます。例えば、階層化テーブルは、メインテーブルとは異なる行数と列数に設定できます。階層化できるテーブルのレベル数は無制限です。

テーブルを自動的に次のページにフローさせる場合は、次の条件を確認する必要があります。

- テーブルがオブジェクトパレットの「サブフォーム」タブで「フローレイアウト」に設定されていること。
- 「テーブル」タブで「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションが選択されていること。
- テーブルがグループ化されていないこと。

姓	名	生年月日	入社日	給与明細書		
スミス	ジョン	1972年3月1日	1998年12月12日	支払い日	税引き前給与総額	税引き後給与総額
				2005年1月1日	¥120,000	¥82,523
				2005年2月1日	¥120,000	¥82,523
				2005年3月1日	¥120,000	¥82,523

テーブル内のテーブル

- 1 テーブルを作成します。156 ページの「[簡単なテーブルを作成するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリをクリックし、テーブルオブジェクトをメインテーブルのセルにドラッグします。

注意：テーブルの挿入ダイアログボックスで「次回から表示しない」オプションを選択している場合は、オブジェクトライブラリパレットからテーブルオブジェクトを選択すると、**Designer** により、テーブルの挿入ダイアログボックスで最後に挿入したテーブルと同じ列数および行数のテーブルが自動的に挿入されます。

- 3 テーブルの挿入ダイアログボックスで、列数と行数を入力します。

最大 20 列、50 行まで入力できます。テーブルを作成した後も、テーブルメニューの「挿入」コマンドを使用して、さらに列と行を追加できます。

- 4 (オプション) ヘッダー行を追加する場合は、「テーブルにヘッダー行を含む」を選択します。

- 5 (オプション) フッター行を追加する場合は、「テーブルにフッター行を含む」を選択します。

- 6 「OK」をクリックします。

注意：既にテーブルがある場合は、テーブルを選択し、表示するセルにドラッグできます。

Microsoft Word からテーブルを読み込むには

Microsoft Word から Designer にテーブルを読み込むことができます。

- 1 Designer で、ファイル／開くを選択します。

- 2 ファイルの種類リストで「Microsoft Word 文書」を選択します。

- 3 テーブルが含まれている Microsoft Word 文書を選択し、「開く」をクリックします。

Designer により、新規フォームアシスタントが起動されます。「Microsoft Word 文書の読み込み」は既に選択されています。

- 4 「次へ」をクリックし、新規フォームアシスタントで質問される項目にすべて回答します。

- 5 ファイルの読み込みオプションダイアログボックスで、必要な情報を入力し、「OK」をクリックします。

Designer により、テーブルが含まれている文書のコンテンツが読み込まれます。

関連項目

205 ページの「[セルを別の種類のオブジェクトに変更するには](#)」

サブフォームを使用してテーブルを作成するには

サブフォームを使用して、テーブルを作成できます。サブフォーム内には、ボタン、テキストフィールド、別のサブフォームなど、様々なオブジェクトを含めることができます。サブフォームのフローの方向は、中に含まれるオブジェクトの整列方法を示します。通常は、オブジェクトライブラリパレットのテーブルオブジェクトを使用して、テーブルを作成します。列が一列になっていない複雑なテーブルを作成する必要があるときは、サブフォームを使用できます。

- 1 テーブルを開始します。

- オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、フォームにサブフォームオブジェクトをドラッグします。
- サブフォームのサイズを変更して、テーブルの目的の幅に合わせます。
- サブフォームの高さを、子サブフォームが 1 つ以上収まるように広げます。
- オブジェクトパレットの「連結」タブにある「名前」ボックスにサブフォームの名前を入力します。例えば、TableParent と入力します。

- アクセシビリティパレットで、「ロール」リストから「テーブル」を選択します。
- 2 テーブルヘッダーを作成します。
 - サブフォームオブジェクトをもう 1 つ、TableParent サブフォーム内にドラッグします。
 - ヘッダーサブフォームの幅を親サブフォームの幅と一致するように設定し、サブフォームの高さをヘッダー行の高さと一致するように設定します。
 - オブジェクトパレットの「連結」タブにある「名前」ボックスにサブフォームの名前を入力します。例えば、TableHeader と入力します。
 - アクセシビリティパレットで、「ロール」リストから「ヘッダー」を選択します。
 - 3 列ヘッダーのテキストを追加します。
 - テキストオブジェクトを TableHeader サブフォームにドラッグします。
 - テキストオブジェクトのテキストをダブルクリックして、列の名前を入力します。
 - 必要な回数だけ繰り返して、テーブルにヘッダーを追加します。
 - 4 テーブルの繰り返し行の役目を果たすボディ行を作成します。
 - サブフォームオブジェクトをもう 1 つ、TableParent サブフォーム内にドラッグします。
 - ボディ行サブフォームの幅が親サブフォームの幅と一致するように設定し、ボディ行サブフォームの高さがボディ行の高さと一致するように設定します。
 - オブジェクトパレットの「連結」タブにある「名前」ボックスにサブフォームの名前を入力します。例えば、TableBodyRow と入力します。
 - ヘッダーの下に手順 3 で追加した数と同じだけフィールドを追加して、テーブルにデータ値を表示します。フィールドのサイズを設定します。
 - レイアウトパレットのキャプションリストから「なし」を選択します。
 - アクセシビリティパレットで、「ロール」リストから「ボディ行」を選択します。
 - 5 TableParent サブフォームを選択してから、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブをクリックし、種類リストで「フローレイアウト」を選択します。
 - 6 オブジェクトパレットの「連結」タブをクリックし、「各データアイテムについてサブフォームを繰り返す」を選択します。
 - 7 (オプション) 必要に応じて、次のようにテーブルに追加設定します。
 - 境界線パレットを使用して、テーブル要素に境界線や網掛けを追加します。
 - テーブルの行に対するオーバーフローリーダーおよびトレーラーを指定します。

可変幅のセルを含んだテーブルを作成するには

- 1 複数のテーブルを作成します。各テーブルに、ボディ行が 1 行ずつ必要です。最初のテーブルにはヘッダー行を追加し、それ以外のテーブルにはボディ行だけを追加してください。
- 2 作成したテーブルを上下方向に整列させます。
- 3 これらのすべてのテーブルを、親サブフォームに含めます。
- 4 各セルの幅を必要に応じて調整します。
- 5 親サブフォームを「フローレイアウト」に設定します。

関連項目

213 ページの「サブフォームについて」

224 ページの「オーバーフローリーダーおよびオーバーフロートレーラーについて」

549 ページの「複雑なテーブルのアクセシビリティ対応」

377 ページの「境界線パレットの境界線プロパティ」

380 ページの「アクセシビリティパレットのアクセシビリティプロパティ」

サブフォームを使用して階層化テーブルを作成するには

サブフォームを使用してテーブルを作成すると、テーブルのセルにテーブルを挿入できます。例えば、独立した 2 つのテーブルを（それぞれ別のセルに挿入し）並べて表示したり、テーブル状のマテリアルを階層化させることができます。

セルにテーブルを挿入する前に、セルをサブフォームの中に含めておく必要があります。

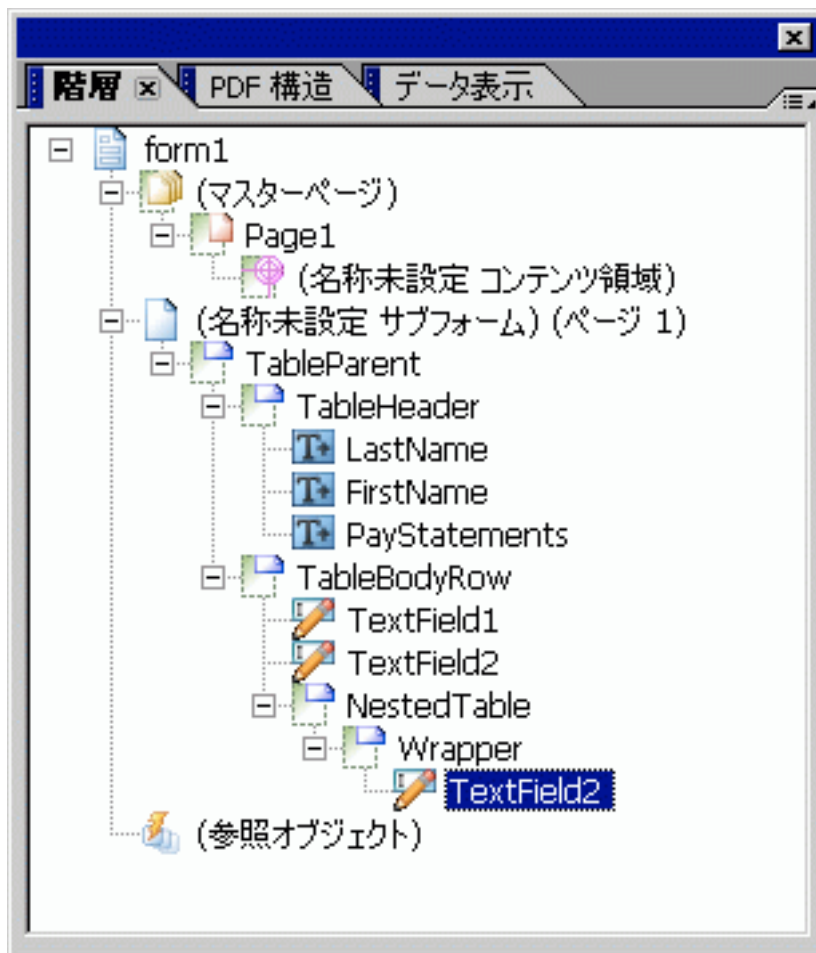
1 階層化テーブルを開始します。

- 階層化サブフォームを開始するセル（サブフォームを使用して作成したテーブル上のセル）を選択します。
- 挿入／サブフォームに含めるを選択します。
- オブジェクトパレットの「連結」タブにある「名前」ボックスにサブフォームの名前を入力します。例えば、Wrapper と入力します。

2 階層化テーブルを作成します。

- もう一度セルを右クリックして「サブフォームに含める」を選択するか、オブジェクトライブラリパレットのサブフォームオブジェクトをセルにドラッグします。
- オブジェクトパレットの「連結」タブにある「名前」ボックスにサブフォームの名前を入力します。例えば、NestedTable と入力します。

- アクセシビリティパレットで、「ロール」リストから「テーブル」を選択します。



3 セルを右クリックし（この例では TextField1）、「削除」を選択します。

4 階層化テーブルのヘッダー行を作成します。

- サブフォームオブジェクトをもう 1 つ、NestedTable サブフォーム内にドラッグします。
- ヘッダー行の幅と高さを設定します。
- オブジェクトパレットの「連結」タブにある「名前」ボックスにサブフォームの名前を入力します。例えば、NestedRow1 と入力します。
- アクセシビリティパレットで、「ロール」リストから「テーブルヘッダー」を選択します。

注意：「フローレイアウト」に設定されている親サブフォームに挿入されたサブフォームは、階層パレットで正しい位置に表示されないことがあります。

5 列ヘッダーのテキストを追加します。

- オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、2 つのテキストオブジェクトを NestedRow1 にドラッグします。

- どちらか一方のテキストオブジェクトを選択し、そのテキストオブジェクトの名前を入力します。例えば、Description と入力します。
- 他方のテキストオブジェクトを選択し、そのテキストオブジェクトの名前を入力します。例えば、Cost と入力します。
- NestedRow1 の 2 つのテキストオブジェクトを選択し、レイアウト／グループを選択します。

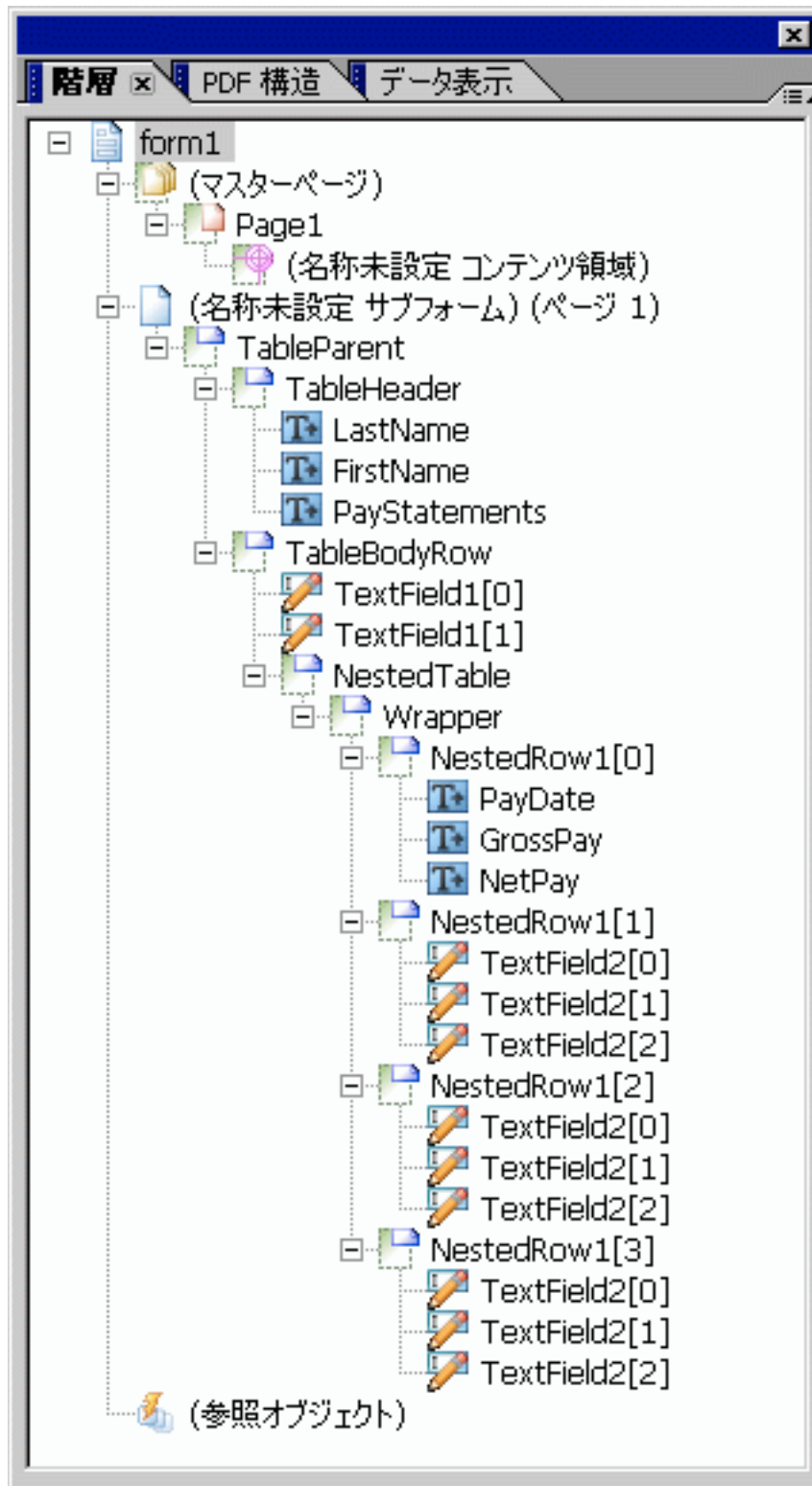
6 階層化テーブルのボディ行を作成します。

- サブフォームオブジェクトをもう 1 つ、NestedTable サブフォーム内にドラッグします。
- ボディ行の幅と高さを設定します。
- オブジェクトパレットの「連結」タブにある「名前」ボックスにサブフォームの名前を入力します。例えば、NestedRow2 と入力します。
- アクセシビリティパレットで、「ロール」リストから「ボディ行」を選択します。
- オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、3 つのフィールドオブジェクトを NestedRow2（テキストフィールドなど）にドラッグします。

7 テーブルの構成要素を「フローレイアウト」に設定します。

- NestedTable サブフォームを選択してから、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブをクリックし、種類リストで「フローレイアウト」を選択します。
- NestedTable サブフォームが含まれた「(名称未設定サブフォーム) (ページ 1)」というサブフォームを選択してから、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブをクリックし、種類リストで「フローレイアウト」を選択します。

階層パレットの表示はこのようなになります。



「PDF プレビュー」タブでフォームは次のように見えます。

姓	名	給与明細書		
スミス	ジョン	支払い日	税引き前給与総額	税引き後給与総額
		"2005 年 1 月 1 日"	"2005 年 2 月 1 日"	"2005 年 2 月 1 日"
		"2005 年 2 月 1 日"	"2005 年 2 月 1 日"	"2005 年 2 月 1 日"
		"2005 年 2 月 1 日"	"2005 年 2 月 1 日"	"2005 年 2 月 1 日"

関連項目

213 ページの「サブフォームについて」

224 ページの「オーバーフローリーダーおよびオーバーフロートレーラーについて」

377 ページの「境界線パレットの境界線プロパティ」

380 ページの「アクセシビリティパレットのアクセシビリティプロパティ」

ボタンオブジェクトを使用して拡大するテーブルを作成するには

ユーザーが行の追加ボタンをクリックすると行が追加されるテーブルを作成できます。また、行の削除ボタンを含めることもできます。テーブルを作成し、ボタンを追加してから、テーブルを拡大させるプロパティを設定する必要があります。

	パーツ番号	内 容	数量	単価	計
行を追加					
行を削除					
取引条件					
					合計
					地方税 @

	パーツ番号	内 容	数量	単価	計
行を追加					
行を削除					
行を追加					
行を削除					
行を追加					
行を削除					
取引条件					
					合計
					地方税 @
					消費税 @
					配送料
					総合計

A. 行を追加または削除するボタン B. 行の追加ボタンを 2 回クリックすると、行が 2 行追加されます。

ボタンオブジェクトを使用して拡大するテーブルを作成するには

- 1 テーブル／テーブルの挿入を選択します。
- 2 テーブルの挿入ダイアログボックスの「アシスタントを使用してテーブルを作成」を選択し、「OK」をクリックします。

- 3 テーブルアシスタントのボディのレイアウトパネルで「ボディ行はデータ量に依存」を選択します。

テーブルに送信されるデータに応じて行が追加または削除されるテーブルが作成されます。

- 4 列数を入力し、「次へ」をクリックします。
- 5 (オプション)「ヘッダー行あり」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 6 (オプション)「フッター行あり」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 7 (オプション)「ボディ行 (セクションなし)」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 8 (オプション)「交互に行の色を変える」を選択して、「完了」をクリックします。
- 9 フォームを Acrobat ダイナミック XML フォーム (*.pdf) として保存します。

次に、行の追加と削除に使用するボタンを追加する必要があります。

ボタンを追加するには

- 1 ボディ行の最初のセルを選択し、オブジェクトパレットで「セル」タブをクリックしてから、種類リストの「サブフォーム」を選択します。

このセルは、2つのボタンを含めることができるように、サブフォームにする必要があります。

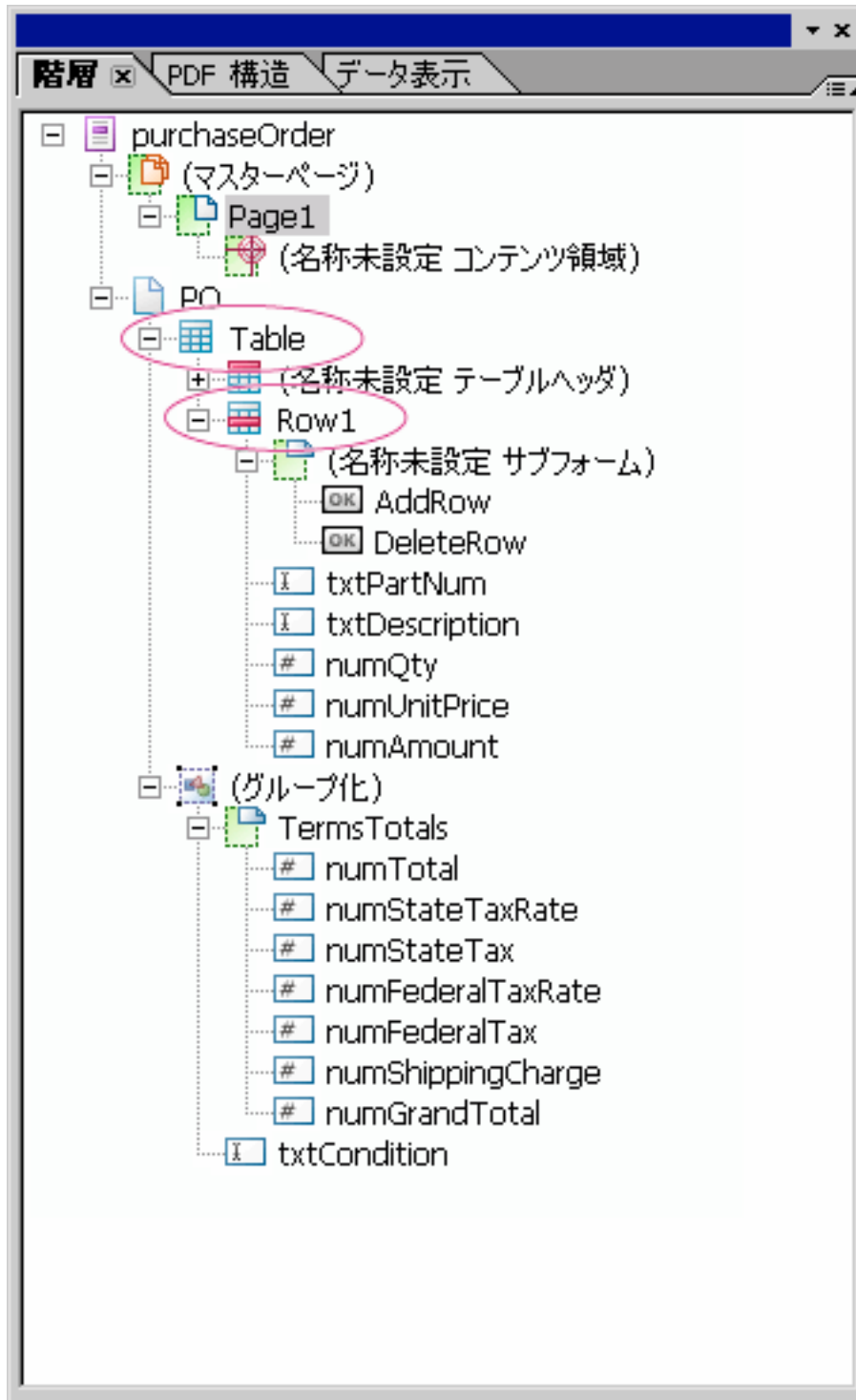


オブジェクトライブラリパレットのサブフォームオブジェクトをテーブルのセルにドラッグすることもできます。

- 2 オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリをクリックしてから、ボタンオブジェクトをボディ行のセルにドラッグします。例えば、ボタンオブジェクトをボディ行の最初のセルに入れます。
- 3 オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、「キャプション」ボックスに Add Row と入力します。
- 4 手順 2 と 3 を繰り返して、行の削除ボタンを作成します。
- 5 行の追加ボタンを選択して、スクリプトエディターの表示リストで「click」を選択します。
- 6 スクリプトエディターの言語リストで「JavaScript」を選択します。
- 7 次のスクリプトを入力します。

```
Table.Row1.instanceManager.addInstance(1);
```

独自のフォームのスクリプトを変更するには、スクリプトと階層の関係を理解する必要があります。例えば、現在のフォームの階層の場合、両方のボタンが同じサブフォーム内にあるので、テーブルより上のレベルのオブジェクトを指定する必要がありません。



- 8 行の削除ボタンを選択して、スクリプトエディターの表示リストで「click」を選択します。

9 スクリプトエディターの言語リストで「JavaScript」を選択します。

10 次のスクリプトを入力します。

```
Table.Row1.instanceManager.removeInstance(1);
```

💡 これらのボタンを別のフォームで再使用する場合は、オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリ（または独自のカテゴリ）に追加できます。別のフォームで使用するときは、ボタンのスクリプトを編集することが必要となる場合があります。

11 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

以下に、発注書サンプルのパーツテーブルを変更したときの表示例を示します。

	パーツ番号	内 容	数量	単価	計
行を追加					
行を削除					
取引条件			合計		
			地方税 @ 7.00%		
			消費税 @ 8.00%		
			配送料		

選択、コピー、移動、および操作

テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには

行、列、セル、セクションまたはテーブル全体を選択する方法はいくつかあります。

- テーブル内をクリックし、テーブルメニューの「選択」コマンドを使用します。
- マウスポインターをドラッグし、テーブルのそれぞれ異なる構成要素を選択します。
- 階層パレットでオブジェクトを選択します。

次のいずれかの方法を使用することもできます。

テーブル全体を選択するには

- ❖ テーブルの左上の領域をクリックするか、クリックしてドラッグし、テーブル全体を選択します。



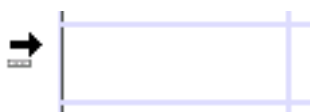
行のセルを選択するには

- ❖ 行の左側の領域内で、次の矢印が表示されたらクリックします。



行を選択するには

- ❖ 行の左側の領域内で、次の矢印が表示されたらクリックします。



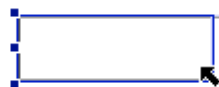
列のセルを選択するには

- ❖ 列の上をクリックします。



セルを選択するには

- ❖ セルの右下端をクリックします。



注意：セルを選択したら、矢印キーをテーブル内で移動し、さらにセルを選択できます。**Shift** キーを押しながら矢印キーを押して、隣接するセルを選択します。

複数の行、列、セルまたはセクションを選択するには

- ❖ 行、列、セルまたはセクション上にマウスポインターをドラッグします。

隣接していない複数の項目を選択するには、最初の行、列、セルまたはセクションをクリックし、**Ctrl** キーを押しながら次の行、列、セルまたはセクションをクリックします。

隣接するセルを選択するには、テーブル内の最初のセルをクリックし、**Shift** キーを押しながら矢印キーを使用して、セルの範囲を選択します。

注意：行、列、セルまたはセクションは、同じテーブル内にある必要があります。階層化テーブルは別のテーブルと見なされます。

セクションを選択するには

- ❖ セクションを示す右側の括弧をクリックします。



テーブル、行、列、セルまたはセクションをコピーするには

- 1 コピーするテーブル、行、列、セルまたはセクションを選択します。

- 2 次のいずれかの操作を行います。

- **Ctrl** キーを押しながら、コピーを新しい位置にドラッグします。
- 編集／コピーを選択し、オブジェクトの配置先をクリックして、編集／貼り付けを選択します。
- 編集／複製を選択します。このコマンドは、1 つのセルまたは行のセルに対しては動作しません。



複数のコピーを作成して配置および整理させるには、編集メニューの「複数コピー」コマンドを使用します。このコマンドは、1 つのセルまたは行のセルに対しては動作しません。

テーブルを移動するには

- 1 テーブルを選択します。
- 2 テーブルの左上部をクリックして移動カーソル  を表示させ、そのカーソルを新しい場所にドラッグします。

特定の行にジャンプするには

テーブルが長い場合は、テーブルのヘッダー行、ボディ行またはフッター行など、特定の行にジャンプできます。

- 1 テーブルの一部を選択し、テーブル／行へジャンプを選択します。
- 2 「ヘッダー行」、「ボディ行」または「フッター行」のいずれかを選択します。

セクション内の特定のヘッダー行またはフッター行にジャンプすることもできます。

- 3 ジャンプ先の行番号を入力して、「OK」をクリックします。

挿入と削除

行、列またはセクションを挿入するには

- 1 テーブルの一部を選択します。
- 2 テーブル／挿入を選択して、オプションを選択します。

注意：セクションを挿入すると、**Designer** によりデフォルトでセクションのヘッダー行が追加されます。

テーブル、行、列またはセクションを削除するには

テーブルを削除するには

- 1 テーブルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 テーブル／削除を選択して、「テーブル」をクリックします。



階層化テーブルでないテーブルの場合も、テーブル／削除を選択して、テーブルを削除できます。

行、列またはセクションを削除するには

- 1 行、列またはセクションを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 テーブル／削除を選択して、「行」、「列」または「セクション」をクリックします。

テーブルの形式設定

テーブルタイトルを追加するには

- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、テキストオブジェクト  をテーブル上部にドラッグします。
- 2 デフォルトのテキストをダブルクリックして、タイトルを入力します。
- 3 フォントプロパティを設定します。



テーブルの最初の行のセルを結合し、結合したセルにタイトルを入力することもできます。

空白の追加

テーブルの周囲に空白を追加するには

余白を使用してテーブルの周囲に空白を追加できます。



パーツ番号	内 容	数量	単価
00010-100	モニタ	1	￥35,000
00010-200	デスクランプ	3	￥5,500
00025-275	電話	5	￥8,500
00300-896	アドレス帳	2	￥1,500

- 1 テーブルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 レイアウトパレットで「左端」、「右端」、「上端」および「下端」の余白を設定します。

セルの周囲に空白を追加するには

余白を使用して、セルの周囲に空白を追加できます。

- 1 セルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 レイアウトパレットで「左端」、「右端」、「上端」および「下端」の余白を設定します。

行の周囲に空白を追加するには

余白を使用して、行の周囲に空白を追加できます。例えば、次のテーブルでは、行の周囲の余白が 0.25 インチに設定されています。

パーツ番号	内 容	数量	単価
00010-100	モニタ	1	¥35,000
00010-200	デスクランプ	3	¥5,500
00025-275	電話	5	¥8,500
00300-896	アドレス帳	2	¥1,500

- 1 行を選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 レイアウトパレットで「左端」、「右端」、「上端」および「下端」の余白を設定します。

テーブルへの境界線と網掛けの適用

境界線と網掛けを使用して、テーブルに変化や強調を加えることができます。境界線はテーブルだけでなく、個々の行、列またはセルにも追加できます。テーブルの背景には網掛けを使用できます。

ストライプ（1 行おき）の網掛けパターンを行に追加できます。ストライプの網掛けパターンに含める行数または列数を選択し、選択した色をパターンに適用します。

境界線と網掛けの適用または削除を行うには

- 1 テーブルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。

2 境界線と網掛けを適用するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 境界線を特定の辺だけに配置する場合は、境界線パレットで、境界線リストから「個別に編集」を選択します。「個別に編集」を選択すると、各辺について境界線を設定できます。
- すべての辺に同じ境界線を配置する場合は、境界線リストから「一括で編集」を選択します。

3 線種リストのオプションを選択し、カラーピッカーで色を選択します。

4 網掛けを適用するには、スタイルリストからスタイルを選択し、カラーピッカーで色を選択します。

5 境界線または網掛けを削除するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 境界線パレットの境界線リストから「一括で編集」を選択します。
- 線種リストから「なし」を選択します。

6 行にストライプ（1 行おき）の網掛けを適用するには

- オブジェクトパレットの「行の網掛け」タブをクリックし、「1 行おきに網掛け」を選択します。
- 最初の行、または最初の行セットの網掛けの色を選択します。
- 次の行、または次の行セットの網掛けの色を選択します。

注意：境界線パレットを使用してセルに網掛けを設定すると、テーブルに設定されている行の網掛けが上書きされます。

7 行からストライプ（1 行おき）の網掛けを削除するには

- オブジェクトパレットの「行の網掛け」タブをクリックし、「1 行おきに網掛け」の選択を解除します。

テーブル全体の周囲から境界線を削除するには

- ❖ テーブルを選択し、境界線パレットの線種リストから「なし」を選択します。

行と列を均等に分布させるには

複数の行または列を同じサイズにすることができます。すべての行を、選択した行の中で最大の高さに調整します。すべての列を、テーブルの幅に基づいて均等な幅に調整します。テーブルの幅は変わりません。

1 同じサイズにする行または列を選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。

2 テーブル／行の分布または列の分布を選択します。

注意：「セルの結合」コマンドを使用すると、元の列はそのまま残りますが、非表示になります（必要に応じてセルを再度分割できるようにするため）。セルを結合した後に列を同じサイズにするには、テーブル／削除／列コマンドを使用して、非表示になっている列を削除します。

テーブルまたはセルのコーナーの形式を設定するには

テーブルまたはテーブルの特定のセルを、丸いコーナーまたは切り込みのあるコーナーに形式設定することができます。



パーツ番号	内 容	数量	単価
00010-100	モニタ	1	¥35,000
00010-200	デスクランプ	3	¥5,500
00025-275	電話	5	¥8,500
00300-896	アドレス帳	2	¥1,500



パーツ番号	内 容	数量	単価
00010-100	モニタ	1	¥35,000
00010-200	デスクランプ	3	¥5,500
00025-275	電話	5	¥8,500
00300-896	アドレス帳	2	¥1,500



パーツ番号	内 容	数量	単価
00010-100	モニタ	1	¥35,000
00010-200	デスクランプ	3	¥5,500
00025-275	電話	5	¥8,500
00300-896	アドレス帳	2	¥1,500

- 1 テーブルまたはセルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 境界線パレットの「コーナー」で、いずれかのオプションを選択します。
- 3 「半径」ボックスに数値を入力します。例えば、前の例では 0.1 インチを使用しています。

行にキャプションを表示するには

デフォルトでは、フィールドがセルにある場合、フィールドのキャプションは表示されません。例えば、次のオブジェクトにはキャプションがありますが、フィールドがセルにある場合は非表示になります。

- チェックボックス
- 日付 / 時間フィールド
- 十進数フィールド
- 署名フィールド
- コンボボックス
- 画像フィールド
- リストボックス
- 数値フィールド
- パスワードフィールド
- テキストフィールド

テーブルによっては、キャプションの表示が必要な場合があります。例えば、次のフォームでは、テーブルを使用して情報を表示しています。ヘッダー行の下各行は 1 つのセルです。

貸付条件	貸付明細	個人データ	承認前
以下の貸付情報を入力してください			
貸付金額			
頭金			
金利			
支払い回数			
返済期間(年)			
返済開始日			

- 1 セルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 レイアウトパレットの位置リストから、キャプションの位置を選択します。

カスタムライブラリのテーブルスタイルを作成するには

独自のテーブルスタイルを作成すると、テーブルの境界線、網掛け、位置揃えおよびフォントの一貫した外観を保つことができます。例えば、次のテーブルと同じようなテーブルを形式設定し、カスタムライブラリに保存すると、このテーブルを別のフォームで再使用できます。

国	Q1	Q2	Q3	合計
カナダ				
US				
合計				

- 1 テーブルを作成します。
- 2 境界線、網掛け、セルの種類、セルの位置揃えおよびフォントを設定します。
- 3 オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリが開いていることを確認します。
- 4 テーブルを選択して、オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリにドラッグします。
- 5 ライブラリオブジェクトの追加ダイアログボックスに、このテーブルスタイルの名前を入力し、「OK」をクリックします。

説明を入力して、オブジェクトを表示するライブラリ内のタブグループを選択できます。

テーブルを使用してカレンダーを作成するには

テーブルを使用してカレンダーを作成できます。

1 月						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

- 1 表示／マスターページを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「マスターページ」タブをクリックし、「横」を選択します。
- 3 「デザインビュー」タブをクリックします。
- 4 オブジェクトライブラリパレットで、テーブル／テーブルの挿入を選択します。
- 5 テーブルの挿入ダイアログボックスで、列に 7、行に 6 と入力します。
- 6 「テーブルにヘッダー行を含む」を選択し、「OK」をクリックします。
- 7 テーブルをページの最上部に移動します。
- 8 列のサイズを変更して、テーブルがページの幅に合うようにします。
- 9 テーブル／列の分布を選択します。
- 10 テーブルの最後の行を選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 11 レイアウトパレットの「高さ」ボックスに 1.1in と入力します。

- 12 テーブルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 13 テーブル／行の分布を選択します。
- 14 テーブルの最初の行を選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 15 テーブル／セルの結合を選択します。
- 16 月を入力し、フォントプロパティを設定します。
- 17 2 行目に曜日を入力して、フォントプロパティを設定します。
- 18 残りのセルに日数を入力して、フォントプロパティを設定します。

テーブルの整列、サイズ調整および配置

テーブルをその他のオブジェクトと整列するには

- 1 テーブルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 Ctrl キーを押しながら、整列する別のオブジェクトをクリックします。
- 3 次のいずれかのオプションを選択します。
 - オブジェクトの左端を揃えるには、レイアウト／整列／左揃えを選択します。
 - オブジェクトの右端を揃えるには、レイアウト／整列／右揃えを選択します。
 - オブジェクトの上端を揃えるには、レイアウト／整列／上揃えを選択します。
 - オブジェクトの下端を揃えるには、レイアウト／整列／下揃えを選択します。
 - オブジェクトの垂直方向の中央を揃えるには、レイアウト／整列／垂直方向中央を選択します。
 - オブジェクトの水平方向の中央を揃えるには、レイアウト／整列／水平方向中央を選択します。

セルのコンテンツを整列するには

セルのコンテンツの水平方向および垂直方向の位置を変更できます。

- 1 セルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 段落パレットで、次のいずれかの位置揃えオプションを選択します。
 - セルのコンテンツを左揃えにするには、「左揃え」を選択します。
 - セルのコンテンツを中央揃えにするには、「中央揃え」を選択します。
 - セルのコンテンツを右揃えにするには、「右揃え」を選択します。
 - セルのコンテンツを均等揃えにするには、「均等配置」を選択します。

注意：この設定は、複数行にわたるセルの最終行を除くすべての行に適用されます（1 行だけの段落を均等揃えすることはできません）。

- セルの上端に揃えて整列するには、「上揃え」を選択します。
- セルの中央に揃えて整列するには、「中間揃え」を選択します。
- セルの下端に揃えて整列するには、「下揃え」を選択します。

別のオブジェクトをテーブルと同じサイズにするには

オブジェクトのサイズをフォーム内のテーブルと同じサイズにすることができます。例えば長方形をテーブルと同じ幅にして、分割要素を挿入したり、フォームのセクションの周囲に境界線を追加したりできます。その他のオブジェクトもテーブルと同じサイズにできますが、テーブルを他のオブジェクトと同じサイズにすることはできません。

- 1 テーブルと同じサイズにするオブジェクトを選択します。
- 2 Ctrl キーを押しながらクリックするか Shift キーを押しながらクリックして、テーブルを選択します。テーブルは最後に選択してください。
- 3 レイアウト／同じサイズに設定を選択して、「幅」、「高さ」または「すべて」のいずれかを選択します。
最後に選択したオブジェクトによって、両方のオブジェクトのサイズが設定されます。

テーブル全体をサイズ変更するには

テーブル全体のサイズを変更できます。サイズを変更できるのは、テーブルの下端または右端だけです。コンテンツ領域外のテーブルのサイズを変更する場合は、レイアウトパレットで最後の列または最後の行を選択し、その幅または高さを変更します。

- 1 テーブルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 二重矢印が表示されるまで、テーブルの端にポインターを合わせます。
- 3 目的のサイズになるまで、テーブルの境界線をドラッグします。

行と列のサイズを変更するには

行と列のサイズを変更できます。サイズを変更できるのは、行と列の下端、左端または右端だけです。コンテンツ領域外の最終列のサイズを変更する場合は、レイアウトパレットで幅を変更します。

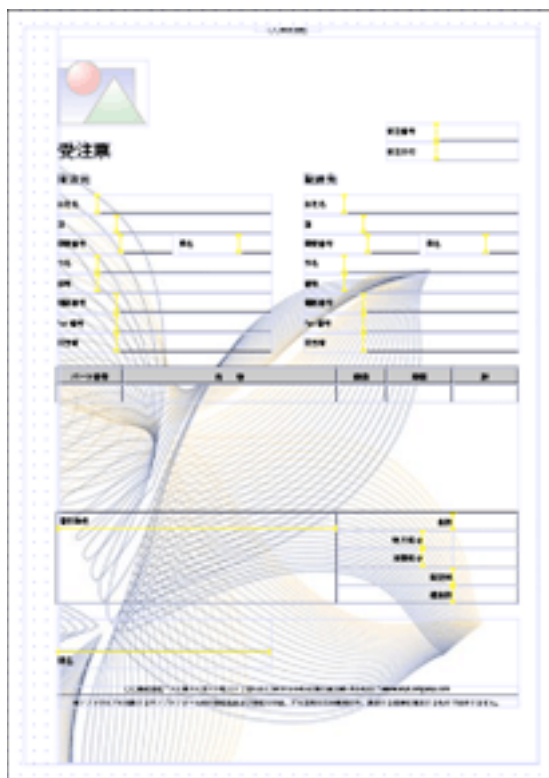
- 1 二重矢印が表示されるまで、行または列の境界線にポインターを合わせます。
- 2 行と列が目的のサイズになるまで、境界線をドラッグします。

テーブルを中央揃えにするには

- 1 テーブルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 レイアウト／中央揃えを選択して、「水平方向」または「垂直方向」のいずれかを選択します。

テーブルをその他のオブジェクトと整列させるには

オブジェクトを他のオブジェクトの前面または背面に配置して、重なり方を制御できます。例えば、テーブルの背面に透かし画像を配置できます。



- 1 テーブルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 以下のオプションのうちの 1 つを選択します。
 - テーブルを前面へ移動するには、レイアウト／前面へ移動を選択します。
 - テーブルを最前面へ移動するには、レイアウト／最前面へ移動を選択します。
 - テーブルを背面へ移動するには、レイアウト／背面へ移動を選択します。
 - テーブルを最背面へ移動するには、レイアウト／最背面へ移動を選択します。

テーブル内のデータの操作

データソースからテーブルを作成するには

データソースからのデータには、テーブルに表示できるものもあります。データソースに接続すると、テーブルに表示できる項目がデータ表示パレットに表示されます。Designer ではまた、繰り返しデータグループが存在する場合、テーブルで行となる項目が表示されます。

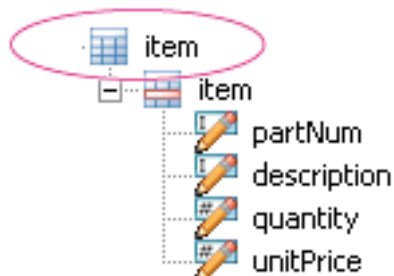
データソースに接続したら、データ表示パレットの項目をフォームデザインにドラッグして、データソースに連結したフィールドをすばやく作成できます。データ表示パレットのテーブル項目をフォームデザインにドラッグすると、Designer によりテーブルが作成されます。データファイルを選択すると、実行時に次のようなテーブルが表示されます。データファイルの繰り返しデータグループには 4 つのレコードがあります。

パーツ番号	内 容	数量	単価
00010-100	モニタ	1	¥ 35,000
00010-200	デスクランプ	3	¥ 5,500
00025-275	電話	5	¥ 8,500
00300-896	アドレス帳	2	¥ 1,500

- 1 データソースに接続していることを確認します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。

例えば、ユーザーまたは管理者が Designer に付属のサンプルをインストールしている場合は、データ接続ダイアログボックスの Purchase Order.xsd というスキーマを指定して開きます。

- 2 データ表示パレットで、テーブルに表示できるノードを検索します。例えば、次の **item** ノードを検索します。



テーブルを表す **item** ノード

- 3 ノードを選択して、フォームデザインにドラッグします。例えば、**item** ノードをフォームにドラッグすると、次のように表示されます。

パーツ番号	内 容	数量	単価

データ表示パレットに、ノードがオブジェクトに連結されていることが表示されます。

- 4 データファイルを選択するには、ファイル/フォームのプロパティを選択して「プレビュー」タブをクリックします。

例えば、ユーザーまたは管理者が Designer に付属のサンプルをインストールしている場合は、Purchase Order.xml というデータファイルを検索して開きます。

- 5 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

Designer により、データソースのデータの量に応じてダイナミックに拡大するテーブルが自動生成されます。

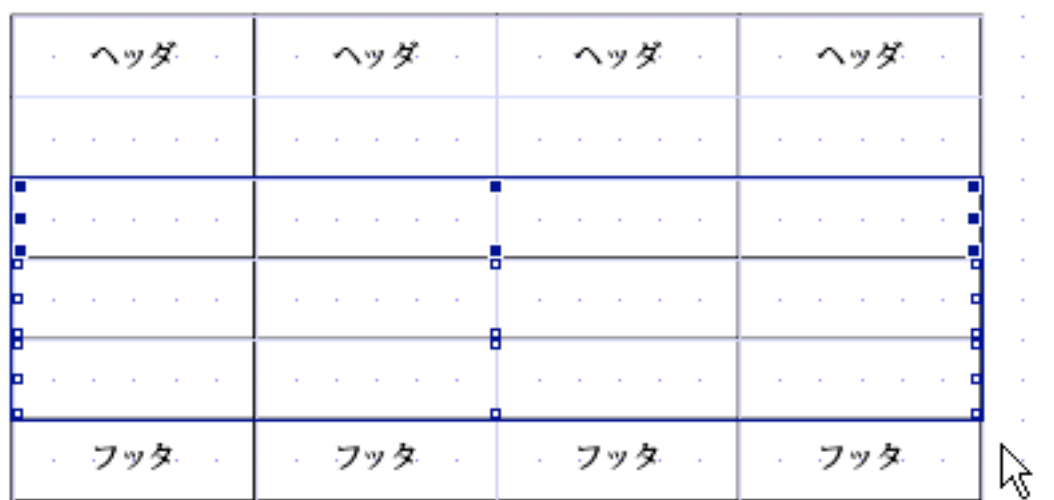
データ量に応じて調整されるテーブルの行を設定するには

行数と列数を固定したテーブルを既に作成している場合、データソースからのデータ量に応じて動的に拡大するテーブルに変換できます。テーブルを変換する場合は、テーブルが含まれるサブフォームを「フローレイアウト」に設定し、ボディ行と行を繰り返しに設定します。

1 テーブルを作成します。156 ページの「[簡単なテーブルを作成するには](#)」を参照してください。

2 2 行目以下の行を選択します。

列数が固定されていて、行数がデータソースの情報量に応じて変化するテーブルの場合は、1 行しか必要ありません。つまり、テーブルの最初の行だけを残して、残りすべての行を削除する必要があります。フッター行は残しておくことができます。



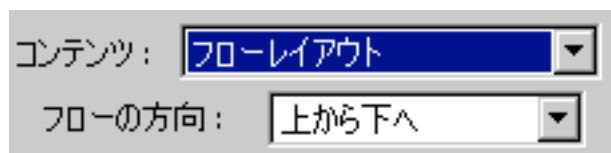
ヘッダ	ヘッダ	ヘッダ	ヘッダ
フッタ	フッタ	フッタ	フッタ

3 テーブル／削除／行を選択します。

4 フォームを Acrobat ダイナミック XML フォーム (*.pdf) として保存します。

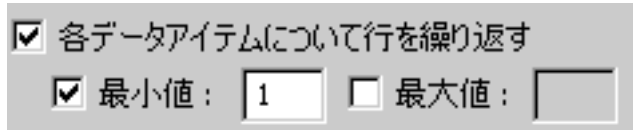
5 階層パレットで、テーブルを含むサブフォームを選択します。

6 オブジェクトパレットで「サブフォーム」タブをクリックし、コンテンツリストから「フローレイアウト」を選択します。



7 階層パレットで、Row1 などのボディ行を選択します。

- 8 オブジェクトパレットで「連結」タブをクリックし、「各データアイテムについて行を繰り返す」オプションを選択します。



- 9 データソースに接続します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。
テーブルにデータを表示するには、XML スキーマなどのデータソースに接続する必要があります。
- 10 データファイルを選択します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。
データを使用してフォームの表示とテストを行うには、データファイルを選択する必要があります。
- 11 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

データをグループ化するテーブルを作成するには

データをグループ化してテーブル内に表示できます。グループ化によって、国や地域などの関係別にデータを整理して整列させることができます。グループの階層化によって関係や傾向を簡単に示すことができます。また、総数などの概要を効果的に示すこともできます。

例えば、モニター、卓上スタンド、電話のような製品を供給する場合、状況によっては、国や地域別にそれらの製品の販売状況を確認できるテーブルが必要になります。このようなテーブルを作成するには、メインテーブル内にテーブルを階層化し、その階層化テーブル内にさらに別のテーブルを階層化します。

- 「Country」はメインテーブルのテーブルヘッダーです。
- 「Region」は最初の階層化テーブルのテーブルヘッダーです。

- 「Product」と「Profit」は、最初の階層化テーブル内に階層化されたテーブルのテーブルヘッダーです。

Country			
United States	Region		
	Western	Product	Profit
		Monitor	10
		Desk Lamp	20
	Central	Product	Profit
		Monitor	30
		Desk Lamp	25
		Telephone	28
	Atlantic	Product	Profit
		Monitor	31
		Desk Lamp	17
		Telephone	22

例えば、接続するサンプル XML ファイルでは次のような構文を使用できます。

```
<form1>
  <Sales>
    <SalesData>
      <country>United States</country>
      <CountryData>
        <RegionRow>
          <region>Western</region>
          <RegionData>
            <Item>
              <product>Monitor</product>
              <profit>10</profit>
            </Item>
            <Item>
              <product>Desk Lamp</product>
              <profit>20</profit>
            </Item>
          </RegionData>
        </RegionRow>
        <RegionRow>
          <region>Central</region>
          <RegionData>
            <Item>
              <product>Monitor</product>
              <profit>30</profit>
            </Item>
            <Item>
              <product>Desk Lamp</product>
```

```
        <profit>25</profit>
    </Item>
    <Item>
        <product>Telephone</product>
        <profit>28</profit>
    </Item>
</RegionData>
    </RegionRow>
    <RegionRow>
        <region>Atlantic</region>
    <RegionData>
    <Item>
        <product>Monitor</product>
        <profit>31</profit>
    </Item>
    <Item>
        <product>Desk Lamp</product>
        <profit>17</profit>
    </Item>
    <Item>
        <product>Telephone</product>
        <profit>22</profit>
    </Item>
</RegionData>
</RegionRow>
</CountryData>
</SalesData>
</Sales>
</form1>
```

この作業を行う前に、次の設定を確認する必要があります。

- データソースに接続していることを確認します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。
- サンプルデータを使用してフォームをテストするために、データファイルを指定していることを確認します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。

メインテーブルを作成するには

- 1 ファイル／名前を付けて保存を選択し、ファイルの名前を入力して、「Acrobat ダイナミック XML フォーム (*.pdf)」を選択します。「OK」をクリックします。
- 2 テーブル／テーブルの挿入を選択します。
- 3 テーブルの挿入ダイアログボックスで、列数と行数を入力します。例えば、列数に 2 を、行数に 1 を入力します。
最大 20 列、50 行まで入力できます。テーブルを作成した後も、テーブルメニューの「挿入」コマンドを使用して、さらに列と行を追加できます。
- 4 (オプション) ヘッダー行を含める場合は、「テーブルにヘッダー行を含む」を選択します。
- 5 (オプション) フッター行を含める場合は、「テーブルにフッター行を含む」を選択します。
- 6 「OK」をクリックします。
- 7 ヘッダー行の名前を変更します。例えば、1 列目のヘッダーの名前を Country に変更し、2 列目のヘッダーテキストを削除します。
- 8 テーブルのサイズを変更します。

最初の階層化テーブルを作成するには

- 1 テーブル内のセルに、オブジェクトライブラリパレットからテーブルオブジェクトをドラッグします。

- 2 ヘッダー行テキストの名前を変更します。例えば、1 列目のヘッダーの名前を **Region** に変更し、2 列目のヘッダーテキストを削除します。

最初の階層化テーブル内に次の階層化テーブルを作成するには

- 1 テーブル内のセルに、オブジェクトライブラリパレットからテーブルオブジェクトをドラッグして、もう 1 つの階層化テーブルを作成します。例えば、最初の階層化テーブル内のボディ行の 2 番目のセルにテーブルオブジェクトをドラッグします。
- 2 テーブルの挿入ダイアログボックスで、列数と行数を入力します。
- 3 (オプション) ヘッダー行を含める場合は、「テーブルにヘッダー行を含む」を選択します。
- 4 (オプション) フッター行を含める場合は、「テーブルにフッター行を含む」を選択します。
- 5 「OK」をクリックします。
- 6 ヘッダー行の名前を変更します。例えば、1 列目のヘッダーを **Product** に変更し、2 列目のヘッダーを **Profit** に変更します。

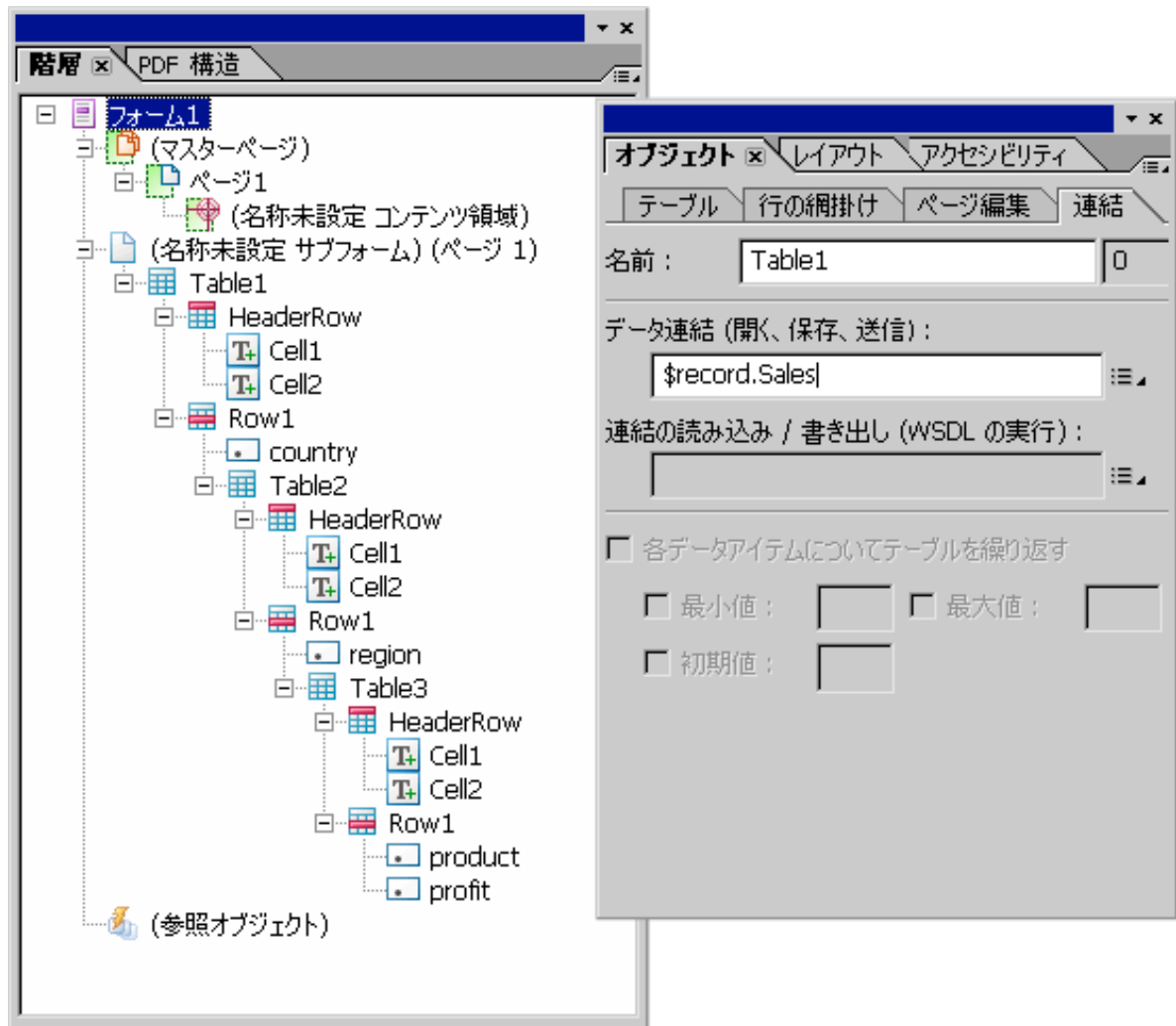
フォームは次のようになります。

Country			
	Region		
		Product	Profit

セル内にデータを表示するには

- 1 データ表示パレットで、1 列目の見出しの下のセルにノードをドラッグします。例えば、「Country」見出しの下のセルに **country** ノードをドラッグします。
- 2 名前を変更するセルごとに同様の手順を繰り返します。
例えば、「Region」見出しの下のセルに **region** ノードをドラッグします。「Product」見出しの下のセルに **product** ノードをドラッグします。「Profit」見出しの下のセルに **profit** ノードをドラッグします。
- 3 階層パレットで各 Row1 を選択し、オブジェクトパレットの「連結」タブで「各データアイテムについて行を繰り返す」を選択します。
- 4 テーブル、行、フィールドの名前をサンプル XML ファイル内の対応する名前に一致させます。

例えば、階層パレットで「Table1」を選択します。次に、オブジェクトパレットの「連結」タブをクリックし、「データ連結（開く、保存、送信）」ボックスに \$record.Sales と入力します。



例えば、次の表に示しているように、デフォルトの連結を設定します。

階層パレットでの選択	対応する文字列へのデータ連結の設定
Row1	SalesData
country	country
Table2	CountryData
Row1	RegionRow[*]
region	region
Table3	RegionData

階層パレットでの選択	対応する文字列へのデータ連結の設定
Row1	Item[*]
product	product
profit	profit

- 5 メインテーブルを挿入するサブフォームを選択し、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブで、コンテンツリストから「フローレイアウト」を選択します。
- 6 テーブルを書式設定します。例えば、境界線と網掛けを追加します。
- 7 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

テーブルをオプションにするには

テーブルに含まれている情報を表示しないときや、テーブルに表示するデータがないときは、テーブルをオプションにすると便利です。

- 1 データソースに接続します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。
テーブルにデータを表示するには、XML スキーマなどのデータソースに接続する必要があります。
- 2 データファイルを選択します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。
データを使用してフォームの表示とテストを行うには、データファイルを選択する必要があります。
- 3 「フローレイアウト」に設定されているサブフォーム内にテーブルがあることを確認します。
- 4 行数がデータソースの情報量に応じて変化するテーブルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
行数と列数が固定されているテーブルを選択し、これをオプションにすると、各データアイテムに対してヘッダー行が繰り返されます。このテーブルをデータ量に応じて行数が変化するテーブルに変換する場合は、ヘッダー行について「各データアイテムについて行を繰り返す」オプションの選択を解除し、ボディ行についてはこのオプションを選択します。
- 5 オブジェクトパレットの「連結」タブをクリックし、「各データアイテムについてテーブルを繰り返す」を選択します。
- 6 「最小数」の選択を解除します。

- 7 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

データソースに接続していない場合は、テーブルは表示されません。テーブルのセルとデータソースが連結されていて、その連結セルに対するデータが存在する場合は、テーブルが表示されます。

テーブルで計算を実行するには

FormCalc の sum 関数を使用すると、列の値の合計を算出できます。計算をテーブルのフッター行に追加する必要があります。

国	Q1	Q2	Q3	合計
カナダ	10K	15K	20K	45K
US	15K	20	25K	60K
合計	25K	35K	45K	105

- 1 計算を行うフッター行のセルを選択します。例えば、Q1 の合計に対応するセルを選択します。
- 2 スクリプトエディターで、イベントリストから「calculate」を選択します。
- 3 言語リストから「FormCalc」を選択します。
- 4 実行場所リストから「クライアント」を選択します。
- 5 スクリプト編集フィールドに FormCalc の計算を挿入します。例えば、Q1 データの合計を計算するには、次の式を入力します。

```
sum (Table.Row[*].Q1[*])
```

- 6 Q2 と Q3 の合計を繰り返します。
- 7 国別の合計を計算するには、次の式を入力します。

```
sum(Q1 + Q2 + Q3)
```

- 8 残りの行の合計を繰り返します。
- 9 総合計を計算するには、次の式を入力します。

```
sum(TotalQ1 + TotalQ2 + TotalQ3)
```

 データを **10K** のように表示するには、オブジェクトパレットの「セル」タブをクリックし、「パターン」をクリックして、「パターン」ボックスに「**z9'K'**」と入力します。「値」タブの種類リストから「計算済み - 読み取り専用」を選択します。

テーブルでのページ番号の操作

テーブルが複数ページにまたがるように設定するには

テーブルを自動的に次のページにフローさせるには、次の条件を確認する必要があります。

- テーブルがオブジェクトパレットの「サブフォーム」タブで「フローレイアウト」に設定されていること。
- 「テーブル」タブで「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションが選択されていること。
- テーブルがグループ化されていないこと。

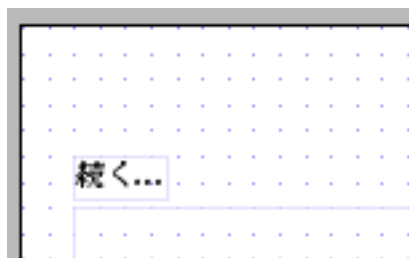
テーブルが複数ページにまたがる場合は、情報が適切に表示されるように、テーブルを調整することができます。テーブルが複数ページにまたがる場合は、テーブル継続タグを次のページの先頭に含めることができます。

00010-200	デスクランプ	3	¥5,500	¥16,500
00025-275	電話	5	¥8,500	¥42,500
00300-896	アドレス帳	2	¥1,500	¥3,000
1				
続く...				
パーツ番号	内 容	数量	単価	計
00010-100	モニタ	1	¥35,000	¥35,000
00010-200	デスクランプ	3	¥5,500	¥16,500

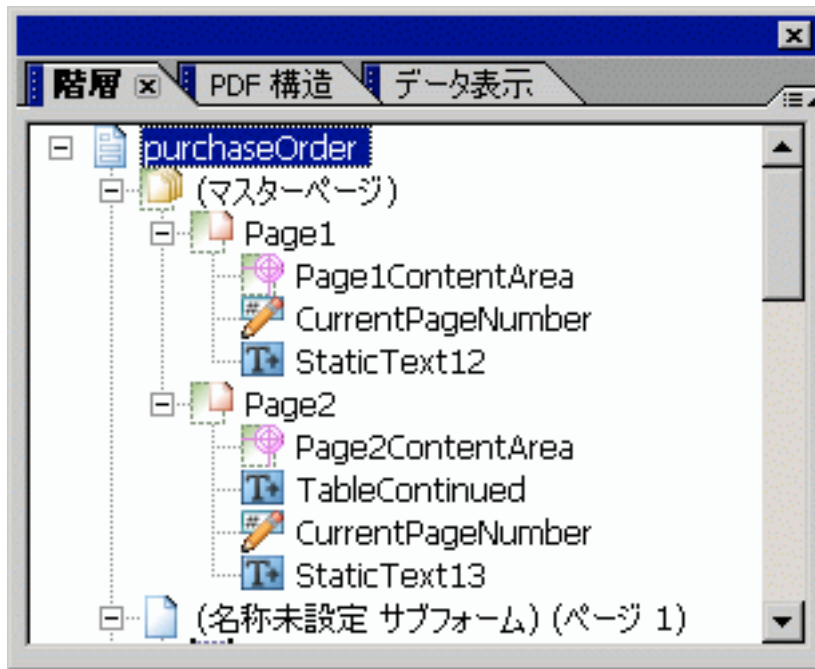
次のページでヘッダー行を繰り返す場合は、202 ページの「[ヘッダーまたはフッター行を後続のページで繰り返すには](#)」を参照してください。

テーブル継続タグが含まれたマスターページを設定するには

- 1 データソースからのデータ量に応じて拡大するテーブルを作成します。192 ページの「[データ量に応じて調整されるテーブルの行を設定するには](#)」を参照してください。
- 2 ヘッダー行を選択します。
- 3 オブジェクトパレットの「ページ編集」タブをクリックし、「後続のページにヘッダー行を含む」を選択します。
- 4 「マスターページ」タブがまだ表示されていない場合は、表示／マスターページを選択して「マスターページ」タブを表示します。
- 5 「マスターページ」タブをクリックし、挿入／新規マスターページを選択します。
- 6 コンテンツ領域のサイズを変更して、新しいマスターページよりも小さくなるようにします。
- 7 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、テキストオブジェクト  をコンテンツ領域の上にドラッグします。
- 8 デフォルトのテキストをダブルクリックして、「続く ...」と入力します。
- 9 テキストを選択し、フォントパレットでテキストに太字と斜体を設定します。



10 階層パレットの「Page 2」にある「(名称未設定コンテンツ領域)」を「Page2ContentArea」に名前変更します。



テーブルのページ番号を設定するには

1 レイアウトエディターの「デザインビュー」タブで、テーブルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。

2 オブジェクトパレットの「テーブル」タブをクリックし、「コンテンツ内で改ページを許可する」が選択されていることを確認します。

注意：デフォルトでは、テーブルに対して「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションが選択されていますが、テーブル行に対しては選択されていません。テーブル内で改ページを許可するには、テーブル行に対してこのオプションを選択する必要があります。

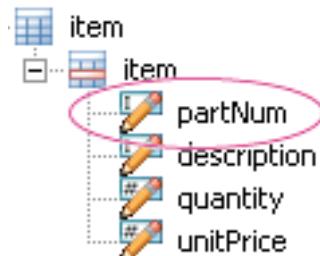
3 オブジェクトパレットの「ページ編集」タブをクリックし、オーバーフローリストの横にある矢印をクリックして、コンテンツ領域にジャンプ／Page2ContentArea を選択します。

データソースに接続するには

1 データソースに接続していることを確認します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。

例えば、ユーザーまたは管理者が Designer に付属のサンプルをインストールしている場合は、データ接続ダイアログボックスの Purchase Order.xsd というスキーマを指定して開きます。

- 2 データ表示パレットで partNum ノードを検索します。



- 3 ノードを Part No ヘッダーの下にある最初のセルにドラッグします。
- 4 description、quantity および unitPrice に対して、手順 2 と 3 を繰り返します。

データファイルを選択するには

- 1 ファイル/フォームのプロパティを選択し、「プレビュー」タブをクリックします。使用するデータファイルの場所を参照します。
注意：複数ページにまたがるテーブルに入力するのに十分なデータを含んでいるデータファイルを選択する必要があります。
- 2 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

ヘッダーまたはフッター行を後続のページで繰り返すには

- 1 クリックしてドラッグし、テーブルのヘッダーまたはフッターを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「ページ編集」タブで、次のいずれかの操作を行います。
 - 「後続のページにヘッダー行を含む」を選択します。
 - 「後続のページにフッター行を含む」を選択します。**注意：**既に「フローレイアウト」に設定されているサブフォームにテーブルを挿入する必要があります。

関連項目

- 643 ページの「[条件付き改行の編集ダイアログボックス](#)」
- 463 ページの「[「ページ編集」タブのテーブルプロパティ](#)」
- 476 ページの「[「ページ編集」タブのセクションプロパティ](#)」

テーブルのヘッダー行およびフッター行の操作

行をヘッダー行、ボディ行またはフッター行に変更するには

テーブルの挿入後、行の種類を変更できます。例えば、ボディ行をヘッダー行に変更してテーブルの中にテーブルを設定できます。また、ボディ行をフッター行に変更して、フォームの各ページに表示する最後の行にその概要を表示できます。

- 1 行を選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットの「行」タブをクリックし、種類リストから項目を選択します。

条件ステートメントを使用してテーブル、ヘッダー行、ボディ行およびセクション区切りを制御するには

Designer を使用すると、テーブルオブジェクト、ヘッダー行、ボディ行、フッター行およびセクションに対して、カスタマイズした条件付き改行を作成できます。データのオーバーフローに応じてこれらのオブジェクトにページ番号を付ける代わりに、条件付き改行を使用すると、条件ステートメントと呼ばれる真偽のチェックに基づいて、フォーム上のサブフォームの区切り方法を手動で制御できます。

条件ステートメントにより、テーブル、ヘッダー行、ボディ行またはセクション内のフィールドのデータをフィールドの前のインスタンスと照合できます。フィールドに入力されるデータの変更に応じて、テーブル、ヘッダー、行、ボディ行、フッター行またはセクションを区切ることができます。

例えば、電話料金請求書の場合、各請求書エントリの日付を保存しているフィールドの変更に応じて、テーブルオブジェクトを区切ることもできます。電話料金請求書を日付別に区切ると、請求書が読みやすくなります。

条件付き改行を指定するだけでなく、リーダーサブフォームおよびトレーラーサブフォームを指定して、フォーム上の繰り返しサブフォームの次のインスタンスを挿入する場所を示すこともできます。

この作業を行う前に、「フローレイアウト」に設定されているサブフォーム内にテーブルがあることを確認する必要があります。

- 1 テーブル、ヘッダー行、ボディ行、フッター行またはセクションを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「ページ編集」タブをクリックします。
- 3 「編集」ボタンをクリックしてから、追加ボタン  をクリックし、新しい条件付き改行リストの項目を挿入します。
- 4 言語リストでスクリプト言語を選択します。選択したスクリプト言語で条件付き改行の条件ステートメントが作成されます。
- 5 実行場所リストから、条件付き改行を実行する位置を選択します。
- 6 サンプル式の挿入ボタン  をクリックして、テーブル、ヘッダー行、ボディ行、フッター行またはセクション内で条件付き改行の比較フィールドとして使用するフォームデザインオブジェクトを選択します。また、フィールドに独自の条件ステートメントを入力できます。なお、条件付き改行として正しく機能させるために、ユーザー定義の条件ステートメントの評価は `true` または `false` である必要があります。
- 7 「前」または「後」を選択し、テーブル、ヘッダー行、ボディ行、フッター行またはセクションを区切る場所を選択します。「前」を選択すると、テーブル、ヘッダー行、ボディ行、フッター行またはセクションの現在のインスタンスがフォームに挿入される直前に区切りを挿入し、「後」を選択すると直後に区切りを挿入します。
- 8 移動場所フィールドで、残りのテーブル、ヘッダー行、ボディ行、フッター行またはセクションのオカレンスを配置する場所を選択します。
- 9 トレーラーリストおよびリーダーリストで適宜、現在の条件付き改行に使用するトレーラーサブフォームとリーダーサブフォームを選択します。
- 10 選択したオブジェクトに含める条件付き改行のそれぞれについて、手順 2 ～ 9 を繰り返します。リスト項目の追加が終了したら、「OK」をクリックします。

条件付き改行の項目をすべて作成したら、条件付き改行の編集ダイアログボックスで条件付き改行の表示順序を確認してください。Designer では、条件付き改行の編集ダイアログボックスで指定された条件付き改行が上から下に順番に処理されます。条件ステートメントが `true` に評価された条件付き改行がすべて実行されます。

上へボタン  および下へボタン  を使用して、条件付き改行の各リスト項目を目的の位置に移動します。

関連項目

468 ページの「[「ページ編集」タブのヘッダー行およびフッター行のプロパティ](#)」

474 ページの「[「連結」タブのボディ行のプロパティ](#)」

セルとセルのコンテンツの操作

セルをクリアするには

セルは削除できません。ただし、セルのコンテンツをクリアすることはできます。セルのコンテンツをクリアすると、セルの種類が空のテキストオブジェクトに変更されます。

- 1 セルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 編集／コンテンツをクリアを選択します。

セルの結合と分割を行うには

同じ行にある複数の隣接するセルを 1 つのセルに結合できます。例えば、複数のセルを水平方向に結合して、複数の列にまたがるテーブルの見出しを作成できます。結合できるのは、同じ行にあるセルのみです。

2 つのセルからのデータを 1 つのセルにマージすることはできません。テキストのみ結合できます。例えば、ヘッダー行のセルを結合する場合、ヘッダー行の 2 つのセルはテキストオブジェクトなので、テキストも結合されます。ただし、ボディ行のセルの結合で、結合するセルがデータソースの項目に連結されている場合、一番左側のセルだけが保持されます。

数量	単価	
1	¥35,000	
A	数量 単価	
B		1

A. セルを結合する前 B. セルを結合すると、ヘッダー行テキストも結合されますが、ボディ行のデータは一番左側のデータだけが保持されます。

💡 結合したセルがテーブルにある場合、列の追加や削除が通常と同じようにできないので、テーブルのデザインプロセスの最後にセルを結合することをお勧めします。

複数のセルを 1 つのセルに結合するには

- 1 結合するセルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 テーブル／セルの結合を選択します。

セルにテキストオブジェクトが含まれている場合は、Designer によりテキストが結合されます。セルに別のオブジェクトが含まれている場合は、そのオブジェクトが削除されます。

💡 セルを結合した後に「列の分布」コマンドを使用して列を同じサイズにするには、テーブル／削除／列コマンドを使用して非表示になっている列を削除します。

結合したセルを分割するには

- 1 結合したセルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 テーブル／セルを横に分割を選択します。

分割セルは空のテキストオブジェクトに変換されます。元のセルがサブフォームの場合は空のサブフォームに変換されます。例えば、結合したセルが数値フィールドの場合、すべての分割セルが数値フィールドになります。

注意：オブジェクトパレットの「セル」タブにある、セルの結合ボタン  とセルを横に分割ボタン  の 2 つのボタンを使用できます。

セルのテキストを垂直方向にするには

テーブルのセルの向きを変更して、データを水平方向ではなく、垂直方向に表示できます。

セルだけを回転できます。行、列、セクションおよびテーブル全体を回転することはできません。

- 1 セルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 レイアウトパレットで、いずれかの回転ボタンを選択します。
- 3 回転する方向にクリックします。例えば、前の例の垂直方向のテキストを 90° 回転します。
- 4 段落パレットで、セルに最も適した整列オプションを選択します。例えば、前の例の垂直方向のテキストは、右揃えと上揃えになっています。

注意：ユーザーが入力するフィールドを回転させた場合、ユーザーは回転後の角度でデータを入力することになります。

セルを別の種類のオブジェクトに変更するには

デフォルトでは、すべてのセルはテキストオブジェクトに設定されています。テキストオブジェクトは、ユーザーが編集できない読み取り専用のテキストです。テキストオブジェクトでは、次のような操作ができます。

- テーブルのヘッダーなど、フォーム内の領域へのラベル付け
- フォームの入力に関する指示
- フォームの強調表示

セルを、数値フィールドやテキストフィールドなど別の種類のオブジェクトに変更できます。次のように、テーブルを使用してフォーム全体をレイアウトできます。

テキストフィールド	数値フィールド	小数フィールド	パスワードフィールド	日付/時間フィールド	署名フィールド
姓	0	50.50	*****	2005 年 5 月 30	

チェックボックス	ラジオボタン	コンボボックス	リストボックス	画像フィールド
☒ オプション1	☐ オプションA ☐ オプションB	オプション1	オプションA オプションB オプションC	

テキスト	円	線	長方形	画像
テキスト				

セルをデータの送信、Web サービス操作やデータベースクエリの実行、電子メールデータの送受信を行うボタンにすることもできます。

セルをサブフォームにすることもできます。サブフォームはコンテナとしての役割を持ち、その中にフィールド、ボイラプレートオブジェクト、別のサブフォームなど、各種のオブジェクトを含めることができます。また、サブフォームはオブジェクトを相対的な位置に配置する場合にも便利で、構造を組み立てます。セルがサブフォームである場合、このセルに複数のオブジェクトを含めることができます。例えば、サブフォームであるセルに 2 つのボタンを含めることができます。

セルをテキストオブジェクト以外のオブジェクトにすると、フォームデザイン上のオブジェクトとは異なる動作をします。例えば、セルのテキストフィールドオブジェクトではキャプションが「なし」に設定されています。

セルを別の種類のオブジェクトに変更するには、次の方法があります。ただし、その結果は、セルに含まれているオブジェクトの種類と変更後のオブジェクトの種類に応じて異なります。

- オブジェクトパレットの「セル」タブにある種類リストを使用します。
- オブジェクトライブラリパレットのオブジェクトをセルにドラッグします。

種類リストまたはオブジェクトライブラリパレットで選択したオブジェクトおよびセルに含まれているオブジェクトに応じて、既存のオブジェクトが新しいオブジェクトに置き換えられます。セルをサブフォームに変更すると、セルに含まれていたオブジェクトは既にサブフォームに含まれています。例えば、セルにテキストフィールドが既に存在していて、種類リストから「サブフォーム」を選択した場合、Text Field はサブフォームに含まれます。セルにテキストフィールドが既に存在していて、種類リストから「数値フィールド」を選択した場合、テキストフィールドが数値フィールドに置き換えられます。

- テーブルの外側にあるフォームデザインの既存のオブジェクトをセル内にドラッグします。これで、オブジェクトの外観が保持されます。例えば、形式設定した電話番号フィールドをセル内にドラッグした場合、フィールドのサイズとキャプションが保持されます。

テーブルの外側にあるサブフォームオブジェクトをクリックしてセルにドラッグした場合、セルのコンテンツがサブフォームオブジェクトに置き換えられます。

注意：セルをテキストフィールドに変更した場合、オブジェクトパレットの「セル」タブで「複数行」オプションを選択し、複数行のテキストを表示できます。

オブジェクトパレットの「セル」タブにある種類リストを使用してセルを別の種類のオブジェクトに変更するには

- 1 セルを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットの「セル」タブをクリックし、種類リストから別の種類のオブジェクトを選択します。

オブジェクトライブラリパレットからオブジェクトをドラッグして、セルを別の種類のオブジェクトに変更するには

- ❖ オブジェクトライブラリパレットのオブジェクトを、表示先のセル内にドラッグします。

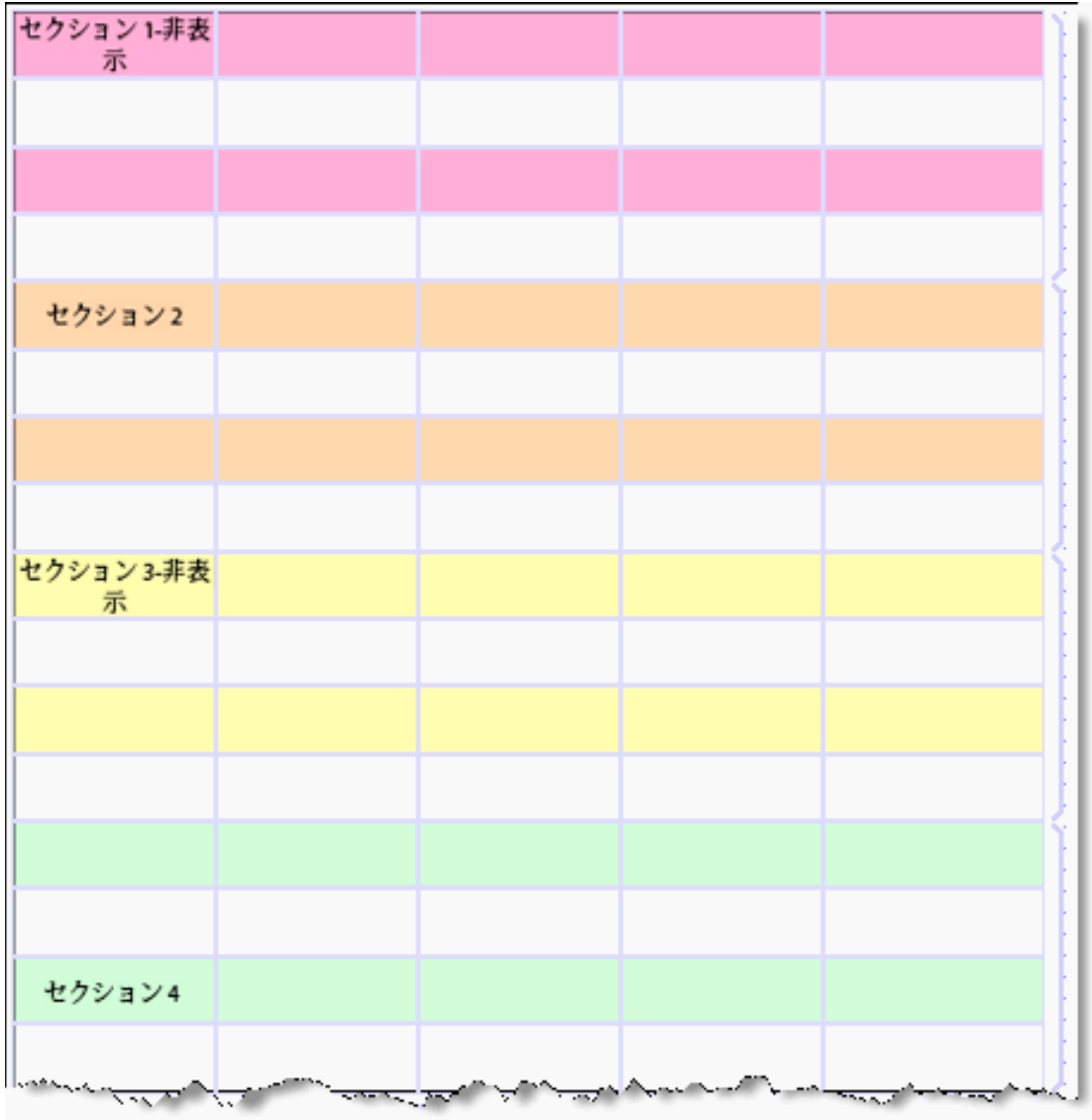
フォームデザインからオブジェクトをドラッグして、セルを別の種類のオブジェクトに変更するには

- ❖ フォームデザインで、テーブル外にある既存のオブジェクトを表示先となるセル内にドラッグします。

テーブルセクションの使用

テーブルセクションは、単位として残る行のグループです。セクションを使用してテーブルを整理できます。セクションには独自のヘッダーとフッターを含めることができるため、共通の値ごとにグループ化された詳細情報を表示できます。予測される順に各セクションがフォームに表示されます。デフォルトでは、Designer により各セクションにヘッダー行が挿入されます。

テーブルの作成後、行をセクションにグループ化できます。各セクションに行の網掛けを適用して、セクションごとに色を変えることができます。次に示すのは、4つのセクションにグループ化されたテーブルの例です。



セクション1-非表示				
セクション2				
セクション3-非表示				
セクション4				

テーブル内のセクションに含まれる情報を表示しない場合は、セクションをオプションにすることもできます。例えば、次のテーブルはセクション 1 とセクション 3 が非表示になっています。

セクション 2				
セクション 4				

テーブルセクションを挿入するには

- 1 セルまたは行を選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 テーブル／挿入を選択して、「上にセクションを挿入」または「下にセクションを挿入」をクリックします。
Designer により、セクションのヘッダー行とボディ行が 1 行ずつ挿入されます。

行を 1 つのセクションにグループ化するには

- 1 グループ化する行を選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。
- 2 テーブル／セクションとしてグループ化を選択します。
Designer には、セクションを示す括弧がテーブルの右端に表示されます。



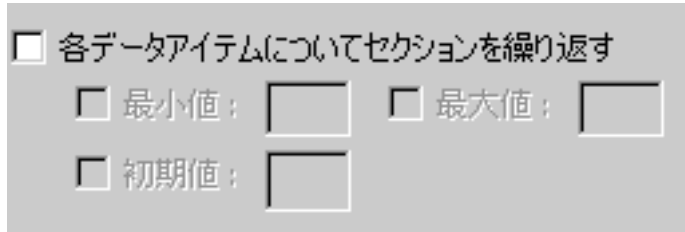
セクションのグループ化を解除して行に戻すには

- ❖ セクションを選択し、テーブル／セクションのグループ化解除を選択します。

テーブルセクションをオプションにするには

- 1 セクションを選択します。170 ページの「[テーブル、行、列、セルまたはセクションを選択するには](#)」を参照してください。

- 2 オブジェクトパレットの「連結」タブをクリックし、「サブフォームデータアイテムについてセクションを繰り返す」の選択を解除します。



💡 非表示になっているテーブルセクションを表示するには、セクションを選択し、「各データアイテムについてセクションを繰り返す」を選択してから、「最小値」を選択してボックスに 1 を入力します。

テーブルでの選択セクションの作成

選択セクションはテーブル内のセクションの一種で、これを設定することにより、セクション内の特定行の表示をカスタマイズできます。

このカスタマイズは、条件ステートメントを使用して、セクション内の個々の行に適用されます。例えば、特定の行について、行内の特定のフィールドの値に応じてテキストの色を変えてインスタンスを表示するように、選択セクションを設定することもできます。

次のいずれかのオプションを選択すると、ヘッダー行、ボディ行およびフッター行を選択セクションに追加したり、選択サブフォームセットから削除したりできます。

- データが指定されたサブフォームを編集ダイアログボックスを使用する。
- 階層パレットでサブフォームオブジェクトを選択サブフォームセット内外にドラッグして、コンテンツを手動編集する。

既存のセクションから選択セクションを作成するには

- 1 テーブルセクションを選択し、オブジェクトパレットの
- 2 「セクション」タブをクリックし、種類リストから「候補からサブフォームを 1 つ選択する」を選択します。

行から選択セクションを作成するには

- ❖ テーブル内の行を選択し、テーブル／選択セクションとしてグループ化を選択します。

ヘッダー行、ボディ行またはフッター行を選択セクションに追加するには

- 1 選択セクションを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「セクション」タブをクリックし、種類リストで「候補からサブフォームを 1 つ選択する」が選択されていることを確認します。
- 3 「代替オブジェクトの編集」ボタンをクリックします。
- 4 追加ボタン  をクリックして、別のサブフォームリストの新しい項目を挿入します。また、階層パレットで、行を選択サブフォームセット内にドラッグすることもできます。

新しい行を追加すると、現在選択している行の複製が追加されます。行が選択されていない場合は、選択セクションに名称未設定の新しい行が追加されます。

- 5 上へボタン、下へボタンを使用して、新しい行エントリを目的の位置に移動します。実行時にエントリが順番に処理され、式が **true** に評価された最初のエントリがフォームに表示されるので、別のサブフォームリストでエントリを順序付けておく必要があります。

重要：この手順では、新しい行を既存の選択セクションに追加するための処理について説明しています。この手順で行を追加すると、**Designer** ではまず新しい行オブジェクトが作成され、この行がテーブルと選択セクションに追加されます。既存のテーブル行を選択セクションに追加する場合は、階層パレットの行オブジェクトを選択セクション内にドラッグします。

選択セクションからヘッダー行、ボディ行またはフッター行を削除するには

- 1 選択セクションを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「セクション」タブをクリックし、「代替オブジェクトの編集」をクリックします。
- 3 別のサブフォームリストでエントリを選択し、削除をクリックします。

重要：データが指定されたサブフォームを編集ダイアログボックスで行を削除すると、フォームデザインから行が完全に削除されます。行を保持しながら、選択セクションから削除する場合は、階層パレットで行を選択セクション外に手動でドラッグする必要があります。

関連項目

645 ページの「[データが指定されたサブフォームを編集ダイアログボックス](#)」

選択テーブルセクション用のデータ連結と条件ステートメントの作成

選択セクションを作成したら、条件ステートメントを使用して、セクション内の様々な行にデータ連結を作成できます。また、条件ステートメントを使用せずにデータ連結を作成することも可能です。条件ステートメントを使用すると、選択セクション内の行のフォームへの表示を、データ連結だけを指定する場合よりも詳細に制御できます。

データが指定されたサブフォームを編集ダイアログボックスの別のサブフォームリストに表示される各行については、データ接続からデータノードを指定できます。条件ステートメントを指定する場合は、実行時に **true** または **false** と評価される式を入力できます。別のサブフォームリスト内で条件ステートメントが **true** に評価される最初のエントリがフォームに表示されます。

選択テーブルセクション用にデータ連結と条件ステートメントを作成するには

- 1 サブフォームセットオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「セクション」タブをクリックし、種類リストで「候補からサブフォームを 1 つ選択する」が選択されていることを確認します。
- 3 「代替オブジェクトの編集」をクリックします。
- 4 次のいずれかの操作を行って、選択セクション内から行のデータ連結の指定方法を選択します。
 - データノードの名前を使用して行に連結するには、「名前がデータ要素または属性に一致するサブフォームを選択」をクリックします。この場合、関連するデータノード名がフォームデザインの行の名と一致する必要があります。
 - 連結を手動で指定して、データ接続のデータノードにフォームデザインの行を連結するには、「式を使用してサブフォームを選択」をクリックします。
- 5 データ接続リストで、データを連結するデータソースを指定します。

- 6 追加  をクリックして、テーブルに新しい行を挿入するか、既存のリスト項目を選択します。新しい行を追加すると、現在選択している行の複製が追加されます。行が選択されていない場合は、選択セクションに名称未設定の新しい行が追加されます。
- 7 新しいサブフォームを選択サブフォームセットに挿入するか、既存のリスト項目を選択します。新しいサブフォームを追加すると、現在選択しているサブフォームの複製が追加されます。サブフォームが選択されていない場合は、選択サブフォームセットに名称未設定の新しいサブフォームが追加されます。
- 8 必要に応じて、名前フィールドに新しい行オブジェクトの名前を入力します。データの要素または属性の名前を使用して行を連結する場合、フィールド内の名前と関連するデータノード名が完全に一致するようにしてください。
手順 4 で「名前がデータ要素または属性に一致するサブフォームを選択」を選択した場合は、そのまま手順 12 に進むことができます。選択していない場合は、手順 9 に進みます。
- 9 連結フィールドの右側の矢印をクリックし、ポップアップメニューからデータノードを選択します。Designer では、選択したデータノードに対するスクリプティングリファレンスが自動的に連結フィールドに入力されます。フィールドにリファレンスを手動で入力することもできます。
- 10 言語リストでスクリプト言語を選択します。
- 11 式フィールドに、指定した行およびデータノードに対して目的的操作または処理を実行するためのスクリプトを入力します。
- 12 選択セクション内の他の行についても設定する場合は、手順 6 ～ 10 を繰り返し、「OK」をクリックします。

関連項目

645 ページの「[データが指定されたサブフォームを編集ダイアログボックス](#)」

第6章：サブフォームの使用

サブフォームについて

サブフォームは、オブジェクトのアンカー設定、レイアウト、および位置関係の管理ができるフォームデザインのセクションです。サブフォーム内のオブジェクトは、行や列に並べるなど、バランスよく整列させることができます。

1つのフォームデザインに複数のサブフォームを使用できます。サブフォームは別のサブフォームの中に配置できます。この関係は階層パレットに表示されます。

サブフォームは各セクションにフォームを整理するために使用されます。また、データ量に応じて自動的に拡大縮小されるセクションが含まれるフォームを作成する場合に使用することもできます。サブフォームを拡大可能に設定すると、フォームのレンダリング時に、マージされたデータ量に応じてフォームのレイアウトが変更されます。サブフォームでは、データをマージすると、オブジェクトとそのデータが相互関係を維持したまま配置されます。サブフォームは、XMLデータのデータ階層に一致させるために使用できます。

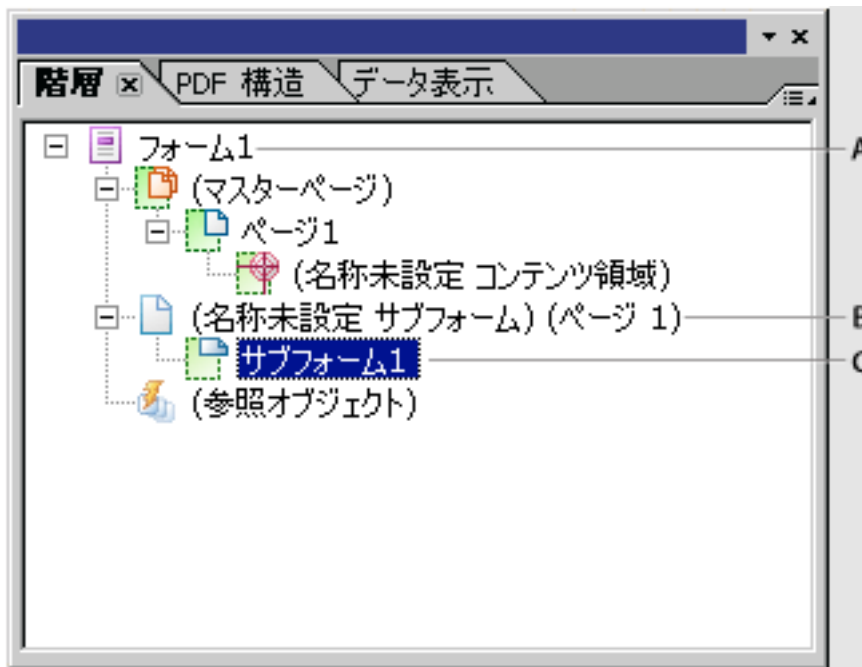
固定レイアウトのフォームをデザインしている場合は、デフォルトのサブフォームによりオブジェクトの位置が自動的に決まるので、複数のサブフォームを使用する必要はありません。

サブフォームのプロパティを操作するには、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブと「連結」タブを使用します。次のプロパティを定義できます。

- サブフォームに意味のある名前を付ける（推奨）
- データのマージ時に、サブフォームが改ページをまたがるようにするか、サブフォームを強制的に次のページにレンダリングさせる
- サブフォームを前のサブフォームの後に配置するか、指定のコンテンツ領域に配置するか、または指定のマスターページに従って形式設定されたページ上に配置するかを指定する
- サブフォームを前のサブフォームと同じコンテンツ領域に配置するか、次のサブフォームと同じコンテンツ領域に配置するかを指定する
- サブフォームを配置した後の、マージしたデータのフロー順を指定する
- フィールドを表示、非表示または隠すのいずれかに定義する
- サブフォームのロケールを指定する
- サブフォーム内のいずれかのオブジェクトに一意のデータアイテムが割り当てられるたびに、そのオブジェクトを繰り返すかどうかを指定する
- オブジェクトのレンダリングを繰り返すことができるサブフォームに対して、必要に応じて、オーバーフローリーダーやオーバーフロートレーラーを作成する
- 連結メソッドを指定して、サブフォームのオブジェクトをデータにマップする方法を制御する

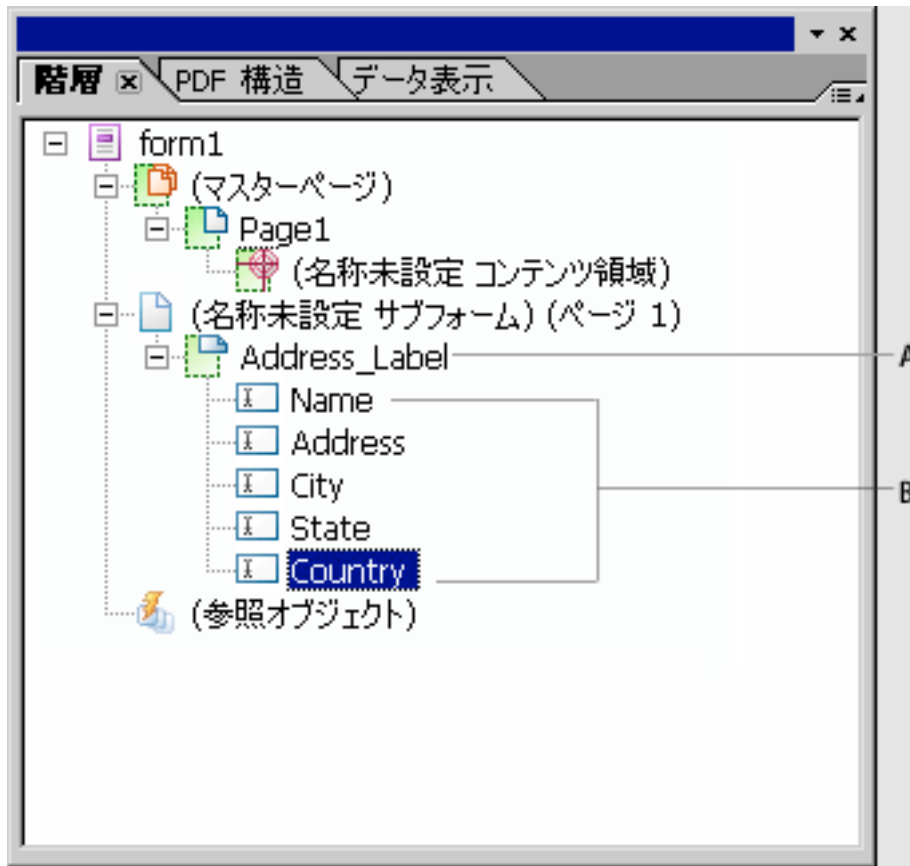
すべてのフォームにはルート（親）サブフォームが入っています。階層パレットでは、ルートサブフォーム（form1）が最上位ノードとして表示され、デフォルトのページのサブフォーム（名称未設定サブフォーム）がルートサブフォームの子ノードとして表示されます。

Designer では、ページ全体に適用される、マスターページのデフォルトのコンテンツ領域にサイズと位置が対応したデフォルトのサブフォームが、すべてのページに自動的に追加されます。この後にページに追加するサブフォームはすべて、階層パレットのデフォルトのページのサブフォームの下に階層化されて表示されます。



A. ルート（親）サブフォーム B. デフォルトのサブフォーム C. 新規サブフォーム

階層パレットでは、各サブフォームはノードで表され、サブフォームに含められたオブジェクトはサブフォームノードの下に表示されます。サブフォームの子には、サブフォームレベルで加えられた変更は継承されません。各オブジェクトのプロパティを個別に定義する必要があります。



A. 名称変更されたサブフォーム B. サブフォームのオブジェクト

発注書サンプルを見てみると、ルートサブフォームである form1 が最上位ノードの位置に表示され、その下にデフォルトのページのサブフォームである purchaseOrder が、ルートサブフォームの子として表示されています。オブジェクトをページに含めるために使用されたその他のサブフォーム (header、detailHeader、detail および total) は、ページのサブフォームの下に階層化されています。階層パレットでは、それぞれのサブフォームがノードで表され、サブフォームに含まれたオブジェクトが各ノードの下に表示されます。

関連項目

213 ページの「[サブフォームの使用](#)」

217 ページの「[サブフォームを追加するには](#)」

218 ページの「[サブフォーム内にオブジェクトを含めるには、および含めるを解除するには](#)」

454 ページの「[「サブフォーム」タブのサブフォームプロパティ](#)」

455 ページの「[「ページ編集」タブのサブフォームプロパティ](#)」

457 ページの「[「連結」タブのサブフォームプロパティ](#)」

コンテンツの位置を固定するサブフォーム

サブフォーム内のオブジェクトは、それぞれの X 座標と Y 座標に従って配置されます。フォームのレンダリング時には、階層パレット内でのサブフォームの位置によって、サブフォームが配置される順序が決まります。

ルートサブフォーム (form1) 以外のすべてのサブフォームは、デフォルトでコンテンツの位置を固定するよう設定されます。サブフォームはコンテンツの位置を固定するよう設定されている場合でも、マージされたデータの量に合わせて拡大できますが、サブフォーム内のオブジェクトはそれぞれのアンカーポイントから移動できません。その結果、サブフォームにコンテンツの位置固定を設定した場合は、頻繁にフォームデザインのテストを行って、データマージに応じて拡大することが予想されるサブフォーム内のオブジェクトがフォームデザイン内の別のオブジェクトに重ならないことを確認する必要があります。テキストフィールドオブジェクトなど拡大するように設定したオブジェクトは、フォームがレンダリングされる際に別のオブジェクトに重なる可能性があることに注意してください。このようなデザイン上の問題を避けるには、サブフォームがコンテンツをフローしコンテンツに合わせて拡大するよう設定します (216 ページの「[コンテンツをフローするサブフォーム](#)」を参照してください)。

Designer では、固定レイアウトのフォームやインタラクティブフォームをさらに作成しやすくするために、デフォルトのページのサブフォームがコンテンツの位置を固定するよう自動的に設定されます。詳しくは、213 ページの「[サブフォームについて](#)」を参照してください。

ただし、データ量に応じて調整されるレイアウトのフォームをデザインする場合は、フォームデザインの完成後に、デフォルトのページのサブフォームがコンテンツをフローするよう設定する必要があります。この設定変更は最後に行うのがよいでしょう。そうすれば、サブフォームは表示されたままとなり、サブフォーム内に配置するオブジェクトはページ上の目的の位置にとどまります。

サブフォーム内のコンテンツの位置を固定するには、「サブフォーム」タブの種類リストにある「位置固定コンテンツ」オプションを使用します。「位置固定コンテンツ」オプションを選択すると、サブフォーム内の各オブジェクトの X 座標と Y 座標が維持されます。オブジェクトは、サブフォームの位置を基準とした X 座標および Y 座標に配置されます。

テーブルをエミュレーションするために階層化したサブフォームをデザインする場合、ヘッダーサブフォームは位置固定コンテンツにする必要があります。そうでないと、後続のページにフィールド要素が正しく配置されなくなります。

コンテンツをフローするサブフォーム

サブフォーム内のオブジェクトはデータマージプロセス中に配置されるので、オブジェクトが相互に重なってレンダリングされることはありません。コンテンツをフローするサブフォームは昇順に配置されます。コンテンツをフローするサブフォームは、コンテンツに応じて自動的にフォームを拡大させる必要がある場合に使用できます。

ルートサブフォーム (form1) は、デフォルトでコンテンツをフローするよう設定されます。ルートサブフォームは常に、関連付けられたデフォルトのコンテンツ領域に適用したフローの方向のオプションに従ってコンテンツをフローします。ルートサブフォームがコンテンツをフローするよう設定されているので、ルートサブフォームの下に階層化されているサブフォームはすべて、必要に応じてデータのマージ時に、自動的にフォームページ (コンテンツ領域) からフォームページへ次々とフローします。フォームのレンダリング時に、ルートサブフォームの下サブフォームが、オブジェクト階層内のそれぞれの位置に従って降順に配置されます。

その他のサブフォームも同様に、コンテンツをフローするよう設定できます。コンテンツをフローするよう設定したサブフォームには、それぞれ異なる量のデータを含めることができます。サブフォーム内のオブジェクトはデータマージプロセス時にサブフォームと共に移動するので、オブジェクトが互いに干渉することはありません。

サブフォーム内のコンテンツをフローするには、「サブフォーム」タブの種類リストにある「フローコンテンツ」オプションを使用します。「フローコンテンツ」オプションを選択すると、「フローの方向」オプションの選択に基づいてオブジェクトが配置されます。フローの方向リストと「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションは、種類リストの「フローコンテンツ」を選択すると有効になります。

注意：コンテンツをフローするサブフォームのサイズを変更する場合、サブフォームは固定レイアウトを持つサブフォームに自動的に変換され、改ページができません。

関連項目

213 ページの「[サブフォームの使用](#)」

サブフォームの作成と設定

関連項目

224 ページの「[サブフォームが複数ページにまたがるように指定するには](#)」

457 ページの「[「連結」タブのサブフォームプロパティ](#)」

221 ページの「[サブフォームのカスタムデータ連結プロパティを定義するには](#)」

353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」

454 ページの「[「サブフォーム」タブのサブフォームプロパティ](#)」

377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

377 ページの「[境界線パレットの境界線プロパティ](#)」

サブフォームを追加するには

サブフォームは、メニューまたはライブラリパレットを使用して追加できます。

サブフォームをメニューから追加するには

❖ フォームのページを表示した状態で、挿入／標準／サブフォームを選択します。

サブフォームをライブラリパレットから追加するには

- ❖ 次のいずれかのアクションを実行します。
 - ・ ライブラリパレットの「標準」タブをクリックし、サブフォームオブジェクトを選択して、フォームのページ上にオブジェクトを描画します。
 - ・ ライブラリパレットの「標準」タブにあるサブフォームオブジェクトをフォームのページにドラッグします。
 - ・ ライブラリパレットの「標準」タブをクリックしてから、サブフォームオブジェクトをダブルクリックします。

サブフォームを命名するには

サブフォームの命名または名前変更を行うには、まずサブフォームを選択する必要があります。

階層パレットを使用してサブフォームの命名または名前変更を行うには

- 1 階層パレットでサブフォームを右クリックして、「オブジェクト名の変更」を選択します。
- 2 新しい名前を入力し、Enter キーを押します。

オブジェクトパレットの「連結」タブを使用してサブフォームの命名または名前変更を行うには

- 1 サブフォームを選択します。

- 2 「連結」タブで「名前」ボックスにサブフォームの新しい名前を入力し、Enter キーを押します。要素番号は Designer によって自動的に維持されます。

サブフォームを表示、非表示または隠すに設定するには

- 1 サブフォームを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「サブフォーム」タブをクリックします。
- 3 配置リストから、必要条件に応じてオプションを選択します。
 - オブジェクトを画面や印刷時に表示し、フォームレイアウトでスペースを占有させる場合は、「表示」を選択します。
 - オブジェクトを画面に表示する一方で、印刷時には表示せず、フォームレイアウトでスペースを占有させる場合は、「表示（画面のみ）」を選択します。
 - オブジェクトを画面に表示しない一方で、印刷時には表示し、フォームレイアウトでスペースを占有させる場合は、「表示（印刷のみ）」を選択します。
 - オブジェクトを画面や印刷時に表示せず、フォームレイアウトでスペースを占有させる場合は、「非表示」を選択します。
 - オブジェクトを画面や印刷時に表示せず、フォームレイアウトでもスペースを占有させない場合は、「隠す（レイアウトから除外）」を選択します。「隠す（レイアウトから除外）」オプションは、「フローレイアウト」として設定された親サブフォーム内に配置されたサブフォームに適用した場合にのみ機能します。

サブフォームのロケール（言語と国または地域）を指定するには

- 1 サブフォームを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 ロケールリストから、次のオプションのいずれか、またはサブフォームのローカリゼーション設定用に提供されている代替オプションのいずれかを選択します。
 - フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブに指定されたデフォルトロケールを使用する場合は、「デフォルトロケール」を選択します。
 - ユーザーのコンピューターにあるシステムロケールを使用する場合は、「ビューアのシステムロケール」を選択します。

注意：デザイン時および実行時には、形式設定されたフィールドの値はロケールに依存する形式で表示されます。

サブフォーム内にオブジェクトを含めるには、および含めるを解除するには

サブフォーム内にオブジェクトを配置することを、オブジェクトをサブフォームに「含める」と言います。

オブジェクトを既存のサブフォームに追加するには

- ❖ サブフォームに含めるオブジェクトを選択し、挿入／サブフォームに含めるを選択します。

サブフォーム内に含めたオブジェクトを解除するには

- ❖ 解除対象のオブジェクトを含んでいるサブフォームを選択し、挿入／サブフォームに含めるを解除を選択します。

サブフォームのコンテンツ管理方法を指定するには

デフォルトでは、ルートサブフォーム以外のサブフォームはすべてコンテンツの位置を固定するよう指定されています。ルートサブフォームは常に、関連するコンテンツ領域の「フローの方向」設定に従ってコンテンツをフローします。ルートサブフォームがコンテンツをフローするので、ルートサブフォームの下に階層化されているサブフォームはすべて、必要に応じてデータのマージ時に、自動的にフォームページ（コンテンツ領域）からフォームページへ次々とフローできます。

逆に、サブフォームがコンテンツの位置を固定する場合は、サブフォームの領域をマージされたデータの量に合わせて拡大できますが、サブフォーム内のオブジェクトを現在のアンカーポイントから移動させることはできません。したがって、可変サイズのデータとマージされるオブジェクトがサブフォーム内に含まれている場合は、これらのオブジェクトが別のオブジェクトの領域に重なるところまで拡大されないよう確認する必要があります。データマージによって拡大されるオブジェクト（テキストフィールドなど）は、別のオブジェクトの上に重なってレンダリングされる可能性があります。

このようなデザイン上の問題は、サブフォームがコンテンツをフローするよう設定することで回避できます。コンテンツをフローするサブフォームでは、オブジェクトが互いに重なってレンダリングされないよう、データマージプロセス中にオブジェクトの位置が正しく調整されます。

ページのデフォルトのサブフォームは、インタラクティブフォームや固定レイアウトのフォームを作成しやすくするよう、コンテンツの位置を固定します。作成中のフォームに、データ量に応じて調整されるサブフォームがある場合は、コンテンツの位置を固定するサブフォームだけでなく、コンテンツをフローするサブフォームも使用する必要があります。この種のフォームデザインでサブフォームを使用するには、いくつかの手法があります。データ量に応じてレイアウトが調整されるフォームデザイン作成についての知識に応じて、どの手法を採用するかを決定してください。詳しくは、232 ページの「[編集可能なレイアウトを含むインタラクティブフォームの作成](#)」を参照してください。

サブフォームのコンテンツ配置方法を指定するには

❖ オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブをクリックし、コンテンツリストから次のいずれかのオプションを選択します。

- 配置済み
- フローレイアウト

コンテンツをフローするサブフォーム内でのオブジェクトのフローの方向を指定するには

❖ オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブをクリックし、フローの方向リストにある次のオプションのいずれかを選択します（オブジェクトは常にサブフォームの先頭から配置されます）。

- 上から下へ
- 左から右
- 右から左

注意：「フローの方向」オプションは、コンテンツリストで「フローレイアウト」が選択されている場合にだけ使用できます。

コンテンツの位置を固定するサブフォームをコンテンツをフローするサブフォームに変更するには

1 コンテンツをフローするサブフォームを選択します。

2 オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブをクリックし、コンテンツリストで「フローレイアウト」を選択します。

3 フローの方向リストから、次のオプションのいずれかを選択します（オブジェクトは常にサブフォームの先頭から配置されます）。

- 上から下へ
- 左から右
- 右から左

関連項目

- 454 ページの「[「サブフォーム」タブのサブフォームプロパティ](#)」
- 220 ページの「[サブフォームを配置するには](#)」
- 220 ページの「[サブフォーム間でデータマージ方法を指定するには](#)」

サブフォームを配置するには

サブフォームの配置場所を指定するには

❖ オブジェクトパレットの「ページ編集」タブをクリックしてから、「配置」ボックスの右の矢印をクリックし、次の表示オプションのいずれかを選択します。

- 前のサブフォームに続く
- コンテンツ領域内／[コンテンツ領域名]
- 次のコンテンツ領域の先頭
- コンテンツ領域の先頭／[コンテンツ領域名]
- ページ上／[ページ名]
- 次のページの先頭
- ページの先頭／[ページ名]
- 奇数ページ
- 次のページの先頭
- 偶数ページ
- 次のページの先頭

サブフォームを、前または次のサブフォームと同じコンテンツ領域またはページ内に配置するには

❖ オブジェクトパレットの「ページ編集」タブをクリックして、「合わせる対象:前へ」または「合わせる対象:次へ」を選択します。

関連項目

- 454 ページの「[「サブフォーム」タブのサブフォームプロパティ](#)」
- 219 ページの「[サブフォームのコンテンツ管理方法を指定するには](#)」
- 220 ページの「[サブフォーム間でデータマージ方法を指定するには](#)」

サブフォーム間でデータマージ方法を指定するには

❖ オブジェクトパレットの「ページ編集」タブをクリックしてから、「後」ボックスの右の矢印をクリックし、次の表示オプションのいずれかを選択します。

- 親文書の記入を継続
- 次のコンテンツ領域へジャンプ
- コンテンツ領域へジャンプ／[コンテンツ領域名]

- [次ページへジャンプ](#)
- [ページへジャンプ / \[ページ名 \]](#)
- [次の奇数ページへジャンプ](#)
- [次の偶数ページへジャンプ](#)

関連項目

[454 ページの「サブフォーム」タブのサブフォームプロパティ](#)

[219 ページの「サブフォームのコンテンツ管理方法を指定するには」](#)

[220 ページの「サブフォームを配置するには」](#)

サブフォームのカスタムデータ連結プロパティを定義するには

連結の各オプションを使用すると、企業インフラストラクチャ用のデータを取得するフォームを作成したり、実行時に外部データソースのデータを使用してフォームに入力したりすることができます。データ連結プロパティは、オブジェクトパレットの「連結」タブで設定します。

サブフォームに含まれるオブジェクトはデータの取得と表示が可能ですが、サブフォームそのものはデータを取得したり表示したりできません。階層化されたオブジェクトがデータにどのようにマップされるかについては、サブフォームの連結設定が直接影響します。

サブフォームはデータグループに連結でき、サブフォーム内のオブジェクトはデータグループ内のデータ値に連結できます。デフォルトでは、サブフォーム内のオブジェクトの連結はサブフォームの連結に関連しています。

- 1 サブフォームを選択します。
- 2 フォームを開いたときに、データソースに接続できるようにします。
- 3 サブフォームとそのオブジェクトを対応するデータノードに連結します。オブジェクトとデータソースを連結する方法について詳しくは、[497 ページの「データソースへのフィールドの連結」](#)を参照してください。

関連項目

[213 ページの「サブフォームの使用」](#)

[457 ページの「連結」タブのサブフォームプロパティ](#)

[217 ページの「サブフォームを命名するには」](#)

[223 ページの「繰り返されるサブフォームを作成するには」](#)

サブフォームセットの使用

サブフォームセットは、複数の繰り返しサブフォームまたは複数ページのサブフォームをグループ化したものです。

サブフォームセットは、セット内のサブフォームがレンダリングされる順序を、セット内にサブフォームを表示する順序に基づいて制御する場合に使用します。

例えば、サンプルの発注書フォームを見ると、**detailHeader** および **detail** サブフォームが 1 つのサブフォームセットにグループ化されているのがわかります。サブフォームセットには 2 つのサブフォームが共に保存されています。したがって各データアイテムについて両方のサブフォームがレンダリングされ、**detail** サブフォームに対応したデータが存在しない場合はどちらのサブフォームもレンダリングされません。

サブフォームを 1 つのサブフォームセットにグループ化すると、サブフォームのレンダリング用データが存在しない場合、セット内のサブフォームはレンダリングされないことに注意してください。

セット内のサブフォームがレンダリングされる順序を制御するには、オブジェクトパレットの「サブフォームセット」タブにある種類リストから、次のいずれかのオプションを選択します。

- すべてのサブフォームを順番に使用

最終文書には、サブフォームセット内のすべてのサブフォームが階層パレットに表示される順序で表示されます。

- 候補からサブフォームを 1 つ選択する

最終文書には、セットにあるサブフォームの 1 つが表示されます。詳しくは、227 ページの「[選択サブフォームセットの使用](#)」を参照してください。

サブフォームのレンダリング方法を選択するときは、次の事項に注意してください。

- サブフォームを最小値 0 に設定した場合、サブフォーム内のデータがなければ、サブフォームはレンダリングされません。
- サブフォームをデータ内の実際のおカレンス数よりも小さい最小値に設定した場合、残りのデータ値は表示されません。逆に、サブフォームをデータ内の実際のおカレンス数よりも大きい最大値に設定すると、指定された数のサブフォームがレンダリングされます。サブフォーム内の一部のオブジェクトはデータなしでレンダリングされ、空白で表示されることになります。
- サブフォームセットは、必要に応じて、別のサブフォームセット内に任意のレベル数まで階層化できます。ただし、線、円、テキストフィールドオブジェクトなどの個々のオブジェクトはサブフォームセット内に配置できません。

サブフォームセットを挿入するには

サブフォームセットは、まとめておいた方が都合のよい複数のサブフォームをグループ化したものです。サブフォームセットは、サブフォームをまとめ、レンダリングの順序を制御する場合に使用できます。

サブフォームセットを作成する前に、「サブフォーム」タブの種類リストから正しいオプションを選択できるよう、フォームをレンダリングする順序を考えておくことをお勧めします。

- 1 階層パレットを右クリックしてから、「サブフォームセットの挿入」を選択します。名称未設定のサブフォームセットが階層パレットに追加されます。
- 2 階層パレットで、連結するサブフォームをサブフォームセットにドラッグします。
- 3 階層パレットでサブフォームセットを選択した状態で、オブジェクトパレットの「サブフォームセット」タブをクリックし、種類リストから必要なオプションを選択します。
- 4 「連結」タブをクリックします。オプションで、「名前」ボックスにサブフォームセットの名前を入力することもできます。
- 5 提供されたデータに応じてサブフォームセットを繰り返す場合は、「各データアイテムについてサブフォームセットを繰り返す」を選択してから、必要に応じて最小値および最大値を指定します。
- 6 フォームデザインをプレビューしてサブフォームセットをテストします。

関連項目

458 ページの「[サブフォームセット](#)」タブのサブフォームセットプロパティ」

458 ページの「[ページ編集](#)」タブのサブフォームセットプロパティ」

460 ページの「[連結](#)」タブのサブフォームセットプロパティ」

繰り返しサブフォームおよび複数ページのサブフォームの作成

サブフォームはページ上のどこにでも配置できますが、大量のデータをフォームにマージすると、レンダリングされたページの下端を越えてサブフォームが拡大することがあります。この問題に対処するには、「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションを選択してサーバーにサブフォームを途中で改ページさせるか、このオプションの選択を解除してサブフォーム全体をレンダリングされた次のページの先頭に強制的に配置します。サブフォームを強制的に次のページに配置すると、階層化されたすべてのサブフォームが必ず同じページ上に表示されます。「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションを選択しない場合は、オーバーフローリーダーサブフォームおよびオーバーフロートレーラーサブフォームが必要になることが考えられます（224 ページの「[オーバーフローリーダーおよびオーバーフロートレーラーについて](#)」を参照してください）。

データのマージ時には、サーバーでサブフォームのコンテンツがコンテンツ領域の領域内だけに配置されます。大量のデータをサブフォーム内のオブジェクトのいずれかとマージする必要がある場合、サブフォームが複数のフォームページにまたがる場合があります。別のコンテンツ領域またはマスターページへのフローを明確に指示しない限り、フォームのページがいっぱいになると、サーバーで自動的にまったく同じページがもう 1 枚レンダリングされ、新しいページにサブフォームが引き続き配置されます。同じフォームに複数のコンテンツ領域またはマスターページが存在する場合、サブフォームを特定のコンテンツ領域に配置するか、指定したマスターページに従って配置するかを指定できます。

繰り返されるサブフォームを作成するには

- 1 階層パレットで、繰り返すサブフォームの親サブフォームを選択します（213 ページの「[サブフォームについて](#)」を参照してください）。
- 2 オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブをクリックし、コンテンツリストで「フローレイアウト」を選択します。
- 3 繰り返すサブフォームを選択します。
- 4 オブジェクトパレットで「サブフォーム」タブをクリックし、コンテンツリストで「配置済み」または「フローレイアウト」を選択します。
- 5 「連結」タブをクリックし、「各データアイテムについて行を繰り返す」を選択します。
- 6 繰り返し回数の最小値を指定する場合は、「最小値」を選択して関連するボックスに数値を入力します。このオプションを 0 に設定した場合は、データマージ時にサブフォーム内のオブジェクトにデータが提供されないと、フォームのレンダリング時にサブフォームが配置されません。
- 7 サブフォームの繰り返し回数の最大値を指定する場合は、「最大値」を選択して関連するボックスに数値を入力します。「最大値」ボックスに値を指定しない場合、サブフォームの繰り返しの回数は無制限になります。
- 8 サブフォームの繰り返し回数をデータ量に関係なく指定する場合は、「初期値」オプションを選択して、関連するボックスに数値を入力します。このオプションを選択した場合は、データが使用できないときやデータ項目が指定された「初期値」の値より少ないときにも、フォーム上に空のサブフォームインスタンスが配置されます。

注意：「初期値」ボックスの値は「最小値」以上で「最大値」以下にする必要があります。「最小値」に値を指定しない場合や 0 を指定した場合、「初期値」はデフォルトで 0 になります。

サブフォームが複数ページにまたがるように指定するには

サブフォームは、フォームデザインのどこにでも配置できます。ただし、大量のデータがマージされると、サブフォームはレンダリングされたページの下端を越えて拡大される場合があります。

この問題を解決するために、サブフォームの途中での改ページを有効にするか、またはサブフォーム全体のレンダリングを強制的に次のページの先頭から開始させることができます。サブフォームを強制的に次のページに配置すると、階層化されたすべてのサブフォームが必ず同じページ上に表示されます。

データのマージ時には、サブフォームのコンテンツがコンテンツ領域の範囲内にだけ配置されます。大量のデータをサブフォーム内のオブジェクトのいずれかとマージする必要がある場合、サブフォームが複数のフォームページにまたがる場合があります。

フォームページがいっぱいになると、まったく同じページがもう 1 枚自動的にレンダリングされます。別のコンテンツ領域またはマスターページにフローするよう明示的に指示していない限り、新しいページにサブフォームが引き続き配置されます。同じフォームに複数のコンテンツ領域またはマスターページが存在する場合、サブフォームを特定のコンテンツ領域に配置するか、指定したマスターページに従って配置するかを指定できます。

サブフォームが複数ページにまたがるようにするには

❖ オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブをクリックし、「コンテンツ内で改ページを許可する」を選択します。

このオプションを選択解除すると、サブフォーム内のオブジェクトは同一ページ上に維持されます。

オーバーフローリーダーおよびオーバーフロートレーラーについて

柔軟なレイアウトのフォームの長さはフォームにマージされるデータの量によって異なってくるので、柔軟なレイアウトのフォームは 1 ページよりも長くなることが少なくありません。オーバーフローリーダーサブフォームおよびオーバーフロートレーラーサブフォームを使用すると、複数のページにまたがって繰り返されるサブフォームを効率的に開始および終了できます。コンテンツの位置を固定するよう設定されているサブフォームはどれも、オーバーフローリーダーまたはオーバーフロートレーラーとして使用できます。例えば、発注書サンプルフォームでは、**detail** サブフォームがコンテンツの位置を固定してデータアイテムごとに繰り返すよう設定されています。フォームへのデータのマージ時に、最初のページに **detail** サブフォームのオカレンスをすべて表示するだけのスペースがない場合は、新しいページが追加され新しいコンテンツ領域に引き続きデータがフローされます。

このように複数のページにデータがフローされる場合、「前ページから続く」などの特定のテキスト、またはデータの各列ごとの説明ラベルの入った列ヘッダー行などの特殊な形式設定要素を、新しいページの 1 枚 1 枚に入れることができます。後続の各ページに列ヘッダー行を使用すると、ユーザーは簡単にフォームのページを追っていただけるようになります。このような設定を行うには、各追加ページの列ヘッダー行として機能するオーバーフローリーダーサブフォームを作成します。例えば、発注書サンプルフォームでは、**detailHeader** サブフォームがオーバーフローリーダーとして選択されています。その結果、**detail** サブフォームの最初のオカレンスが生成される前に、新しいページごとの先頭に **detailHeader** サブフォームのコピーがレンダリングされます。

同様に、繰り返しサブフォームの最後のオカレンスが生成されてから、最後のページを除くすべてのページの末尾に情報を入れることができます。例えば、最後のページ以外のページの末尾に「次のページに続く」などのテキストを入れることができます。このような設定を行うには、オーバーフローリーダーサブフォームを作成したのと同じ方法で、繰り返しサブフォーム用のオーバーフロートレーラーサブフォームを作成します。

サブフォームが新しいページにオーバーフローすると、サーバーは次の操作を実行します。

- 現在のページにオーバーフロートレーラーを配置する
- 次のページにオーバーフローリーダーを配置する
- 拡大サブフォームと拡大サブフォームの繰り返しオブジェクトの残りを新しいページにフローする

オーバーフローリーダーとは特殊な位置固定サブフォームで、ページのオーバーフローが発生すると常に次のページの先頭に表示されます。

オーバーフローリーダーは標準的な表の見出し行に似ています。見出し行は表の先頭に表示され、表内の各列に対する説明ラベルを含んでいます。表が 1 ページに収まらないときは、次のページの先頭に見出し行を繰り返し表示するように設定できます。このように設定することで、読み手が次のページに進んでも表の情報を把握しやすくなります。

オーバーフローリーダーサブフォームもこれと同じように機能します。特定のサブフォームを繰り返しサブフォームのオーバーフローリーダーとして設定すると、現在のページおよび後続の各ページの先頭には、そのオーバーフローリーダーサブフォームが繰り返しサブフォームの前に 1 度表示されます。

繰り返しサブフォームは、データマージ時に必要な回数だけ配置されます。1 ページ目がいっぱいになると新しいページが作成され、すべてのデータが収容されるまで、引き続きデータが次のページにフローします。オーバーフローリーダーサブフォームは各ページの先頭に 1 度表示されます。

Designer に付属の、データ量に応じてレイアウトが調整されるフォームデザインのサンプルにて、オーバーフローリーダーサブフォームの使用例を確認できます。このサンプル (Purchase Order.xdp) は、ユーザーのシステム上で Designer がインストールされた場所の Samples フォルダーにあります。このサンプルでは、detailHeader という名前のサブフォームが、detail という繰り返しサブフォームのオーバーフローリーダーの役割を果たします。

ブックエンドリーダーとは、繰り返しサブフォームの前に表示されるサブフォームです。繰り返しサブフォームのすぐ上で兄弟サブフォームを定義し、それをオーバーフローリーダーに指定すると、その兄弟サブフォームはブックエンドリーダーおよびオーバーフローリーダーとなります。

オーバーフロートレーラーは、ページのオーバーフローが発生するごとに次のページの末尾に表示されます。オーバーフロートレーラーは、データをすべて配置した後に 1 度だけ表示する情報を含める場合に使用します。

ブックエンドトレーラーとは、繰り返しサブフォームのすぐ下に表示されるサブフォームです。繰り返しサブフォームのすぐ下で兄弟サブフォームを定義し、それをオーバーフロートレーラーに指定すると、その兄弟サブフォームはブックエンドトレーラーおよびオーバーフロートレーラーとなります。

オーバーフローリーダーおよびオーバーフロートレーラーを作成し、割り当てるには

オーバーフローリーダーまたはオーバーフロートレーラーは、任意の繰り返しサブフォームに割り当てることができる位置固定サブフォームです。通常は、まずオーバーフローリーダーまたはオーバーフロートレーラーとして使用するサブフォームを作成します。その後、繰り返しサブフォームに作成したサブフォームを割り当て、オーバーフロープロパティを設定します。

オーバーフローリーダーがブックエンドリーダーとしても扱われる場合には、階層パレットでサブフォームのすぐ上に表示されます。また、オーバーフロートレーラーが同時にブックエンドトレーラーとしても扱われる場合には、階層パレットでサブフォームのすぐ下に表示されます。

オーバーフローリーダーまたはオーバーフロートレーラーを作成するには

- 1 必要なサブフォームをすべて備えたフォームデザインを作成します。
- 2 オーバーフローリーダーまたはオーバーフロートレーラーとして使用するサブフォームをフォームデザイン上で探し、サブフォームを選択した上で、次の操作を行います。
 - オブジェクトパレットで「サブフォーム」タブを表示させます。コンテンツリストに「配置済み」が表示されていることを確認します。オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブをクリックし、コンテンツリストで「配置済み」が選択されていることを確認します。
 - オブジェクトパレットで「連結」タブを表示させます。オブジェクトパレットの「連結」タブをクリックし、「各データアイテムについてサブフォームを繰り返す」を選択して、リーダーとトレーラーが複数のオーバーフローで表示されるようにします。この数には、ブックエンドリーダーおよびブックエンドトレーラーは含まれません。

オーバーフローリーダーまたはオーバーフロートレーラーをサブフォームに適用するには

- 1 繰り返すサブフォームを選択します（複数選択することもできます）。
- 2 オブジェクトパレットの「連結」タブをクリックし、「各データアイテムについてサブフォームを繰り返す」を選択してサブフォームの繰り返しを設定します。
- 3 オブジェクトパレットの「ページ編集」タブをクリックし、「オーバーフロー」ボックスに、フォームがオーバーフローサブフォームを配置するコンテンツ領域またはページを指定します。]
- 4 オーバーフローリーダーを指定する場合、オーバーフローリーダーリストで、現在の繰り返しサブフォームのオーバーフローリーダーサブフォームとして使用するサブフォームを選択します。または、オーバーフローリーダーリストで「新規」を選択し、新しいオーバーフローリーダーサブフォームを作成して割り当てます。
- 5 オーバーフロートレーラーを指定する場合、オーバーフロートレーラーリストで、現在の繰り返しサブフォームのオーバーフロートレーラーサブフォームとして使用するサブフォームを選択します。または、オーバーフロートレーラーリストで「新規」を選択し、新しいオーバーフロートレーラーサブフォームを作成して割り当てます。

注意：オーバーフローリーダーおよびオーバーフロートレーラーの両方を使用する必要はありません。いずれか一方を使用するか、両方を使用するか、またはいずれも使用しないかは、使用するフォームの必要に応じてのみ決まります。

関連項目

- 228 ページの「[編集可能なレイアウトが含まれるフォームの使用](#)」
- 234 ページの「[オーバーフローリーダーサブフォームおよびオーバーフロートレーラーサブフォームを使用する](#)」
- 213 ページの「[サブフォームの使用](#)」
- 454 ページの「[「サブフォーム」タブのサブフォームプロパティ](#)」
- 455 ページの「[「ページ編集」タブのサブフォームプロパティ](#)」
- 457 ページの「[「連結」タブのサブフォームプロパティ](#)」

条件ステートメントを使用してサブフォームとサブフォームセットの改ページを制御するには

Designer を使用すると、繰り返しサブフォームオブジェクトに対してカスタマイズした条件付き改行を作成できます。データのオーバーフローに応じたページ番号付けとは異なり、条件付き改行を使用すると、条件ステートメントと呼ばれる真偽のチェックに基づいて、フォーム上のサブフォームの改ページ方法を手動で管理できます。

条件ステートメントにより、繰り返しサブフォーム内のフィールドのデータをフィールドの前のインスタンスと照合できます。フィールドに入力されるデータの変更に応じて、繰り返しサブフォームを区切ることができます。

例えば、電話料金請求書の場合、各請求書エントリの日付を保存しているフィールドの変更に応じて、繰り返しサブフォームを区切ることができます。電話料金請求書を日付別に区切ると、請求書が読みやすくなります。

条件付き改行を指定するだけでなく、リーダーサブフォームおよびトレーラーサブフォームを指定して、フォーム上の繰り返しサブフォームの次のインスタンスを配置する場所を示すこともできます。

- 1 サブフォームまたはサブフォームセットを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「ページ編集」タブをクリックします。
- 3 「編集」をクリックしてから、追加ボタン  をクリックし、条件付き改行リストの新しい項目を挿入します。
- 4 言語リストでスクリプト言語を選択します。選択したスクリプト言語で条件付き改行の条件ステートメントが作成されます。

- 5 実行場所リストから、条件付き改行を実行する位置を選択します。
- 6 サンプル式の挿入ボタン  をクリックして、サブフォーム内で条件付き改行の比較フィールドとして使用するフォームデザインオブジェクトを選択します。また、フィールドに独自の条件ステートメントを入力できます。なお、条件付き改行として正しく評価させるために、ユーザー定義の条件ステートメントの評価は true または false である必要があります。true と評価された条件ステートメントが実行されます。
- 7 次のいずれかのオプションを使用して、サブフォームオブジェクトの改ページの場所を指定します。
 - 「前」を選択すると、サブフォームの現在のインスタンスの直前に改ページが挿入されます。
 - 「後」を選択すると、サブフォームの現在のインスタンスの直後に改ページが挿入されます。
- 8 移動場所フィールドで、改ページされたサブフォームの残りのオカレンスを配置する場所を選択します。
- 9 トレーラーリストおよびリーダーリストで適宜、現在の条件付き改行に使用するトレーラーサブフォームとリーダーサブフォームを選択します。
- 10 選択したサブフォームに使用する条件付き改行ごとに、手順 2 ～ 8 を繰り返します。
- 11 リスト項目の追加を終了したら、「OK」をクリックします。

条件付き改行の項目をすべて作成したら、条件付き改行の編集ダイアログボックスで条件付き改行の表示順序を確認してください。Designer では、条件付き改行の編集ダイアログボックスで指定された条件付き改行が上から下に順番に処理されます。条件ステートメントが true に評価された条件付き改行がすべて実行されます。

上へボタン  および下へボタン  を使用して、条件付き改行の各リスト項目を目的の位置に移動します。

関連項目

643 ページの「[条件付き改行の編集ダイアログボックス](#)」

455 ページの「[「ページ編集」タブのサブフォームプロパティ](#)」

選択サブフォームセットの使用

選択サブフォームセットはサブフォームセットオブジェクトの一種です。条件ステートメントを使用して、サブフォームセット内の特定のサブフォームの表示をカスタマイズできます。サブフォームセットと同様に、データ接続からのデータに選択サブフォームセットが連結されます。さらに、選択サブフォームセットを使用して、実行時にセット内でどのサブフォームを表示するかを幅広く制御できるようになります。例えば、繰り返しサブフォーム内の特定のフィールドの値に応じてテキストの色を変えて繰り返しサブフォームのインスタンスを表示するように、選択サブフォームセットを設定できます。

選択サブフォームセットを作成するには

選択サブフォームセットは、既存のサブフォームセットまたは既存のサブフォームオブジェクトから作成できます。

既存のサブフォームセットから選択サブフォームセットを作成するには

- 1 サブフォームセットオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「サブフォームセット」タブをクリックし、種類リストで「候補からサブフォームを 1 つ選択する」を選択します。

サブフォームオブジェクトから選択サブフォームセットを作成するには

- ❖ サブフォームオブジェクトを選択し、挿入／選択サブフォームセットに含めるを選択します。

選択サブフォームセットについてサブフォームを追加または削除するには

選択サブフォームセットにサブフォームオブジェクトを追加する場合や、選択サブフォームセットからサブフォームオブジェクトを削除する場合は、次のいずれかを実行します。

- データが指定されたサブフォームを編集ダイアログボックスを使用する。
- 階層パレットで、サブフォームオブジェクトを選択サブフォームセットにドラッグしたり、選択サブフォームセットの外にドラッグしたりして、コンテンツを手動編集する。

重要：データが指定されたサブフォームを編集ダイアログボックスを使用して、別のサブフォームリストからサブフォームを削除すると、フォームデザインからサブフォームオブジェクトが完全に削除されます。サブフォームオブジェクトを保持しつつ選択サブフォームセットから削除する場合は、階層パレットを使用して、サブフォームオブジェクトを手動で選択サブフォームセットの外にドラッグする必要があります。

選択サブフォームセットにサブフォームを追加するには

- 1 サブフォームセットオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「サブフォームセット」タブをクリックし、「代替オブジェクトの編集」をクリックします。
- 3 追加ボタン  をクリックして、別のサブフォームリストの新しい項目を挿入します。また、階層パレットを使用して、選択サブフォームセットにサブフォームオブジェクトをドラッグ&ドロップできます。

新しいサブフォームを追加すると、現在選択しているサブフォームの複製が追加されます。サブフォームが選択されていない場合は、選択サブフォームセットに名称未設定の新しいサブフォームが追加されます。

- 4 上へボタン  および下へボタン  を使用して、新しいサブフォームのエントリを目的の位置に移動します。実行時には項目が順番に処理され、式が true と評価された最初のエントリがフォームに表示されるので、別のサブフォームリストでエントリを順序付けておく必要があります。

選択サブフォームセットからサブフォームを削除するには

- 1 サブフォームセットオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「サブフォームセット」タブをクリックし、「代替オブジェクトの編集」をクリックします。
- 3 別のサブフォームリストでエントリを選択し、削除ボタン  をクリックします。

関連項目

221 ページの「[サブフォームセットの使用](#)」

編集可能なレイアウトが含まれるフォームの使用

編集可能なレイアウトを含むフォームには、入力するデータの量に合わせて調整されるサブフォームやその他の要素が含まれています。このフォームは、エンドユーザーがフォームに記入できるインタラクティブにも、またはサーバーベースの処理によりデータがフォームにマージされる非インタラクティブにもできます（5 ページの「[フォームデザインのレイアウト](#)」を参照してください）。

マスターページ、コンテンツ領域およびサブフォームは、Designer でのフォーム内のオブジェクト配置方法、およびデータ量の変化に応じた表示の調整方法を制御する要素です。

デザイン時と実行時の相違

編集可能なレイアウトでは、デザイン時の表示と、フォームがユーザーにレンダリングされたときの表示が異なります。例えば、フォームデザインではデータを入力する項目行が 1 つでも、クライアントでレンダリングされたフォームでは項目行が複数で、さらにユーザーが項目行を追加できる場合もあります。デザイン時に表示される行数は、「最小値」と「最大値」を設定したサブフォームに項目行のオブジェクトを含めるかどうかで異なります。サブフォームの「最小値」オプションと「最大値」オプションを設定することで、初期状態で入力できる行数と、ユーザーが後から追加できる行数を制御できます。

編集可能なレイアウトを含むフォームは、データに応じて自動的に調整されるので、フォームに必要なオブジェクトのサイズや項目行の数を設定する必要はありません。例えば、「複数行」、「コンテンツ内で改ページを許可する」および「拡大して合わせる」などのオプションを選択し、不定量のデータに応じて調整される編集可能なレイアウトのインタラクティブフォームをデザインできます。

非インタラクティブフォームのデザイン時と実行時の表示の違いについては、240 ページの「[編集可能なレイアウトを含む非インタラクティブフォームの動作方法](#)」を参照してください。

関連項目

86 ページの「[フォームのアクションの作成](#)」

229 ページの「[編集可能なレイアウトを含むフォームでのオブジェクトの配置を制御する](#)」

230 ページの「[編集可能なレイアウトを含むフォームデザインの作成](#)」

240 ページの「[編集可能なレイアウトを含む非インタラクティブフォームの作成](#)」

243 ページの「[編集可能なレイアウトを含むフォームのデザイン上のヒント](#)」

126 ページの「[フォームのガイドライン](#)」

編集可能なレイアウトを含むフォームでのオブジェクトの配置を制御する

Designer でフォームにオブジェクトを配置する方法は、次のいずれかの方法で制御できます。

コンテンツ領域 マスターページのコンテンツ領域を使用して、Designer のページ上でオブジェクトを配置する領域とフローの方向を制御します。マスターページごとにデフォルトのコンテンツ領域があります。

サブフォーム サブフォームを使用して、Designer のフォームへのオブジェクト配置を制御します。オブジェクトをサブフォームに含めると、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブと「連結」タブのオプションを使用して、オブジェクトのレンダリング回数やページでの配置を制御できます。

編集可能なレイアウトのコンテンツ領域

マスターページごとにデフォルトのコンテンツ領域があり、それがすべての関連するページに表示されます。コンテンツ領域は、ページ上でオブジェクトを配置できる領域を囲むもので、テキスト文書の余白に似ています。ページのコンテンツ領域で示された領域の外側にオブジェクトを配置することはできません。



フォームごとに最低 1 つのコンテンツ領域が必要です。

コンテンツ領域は、マスターページでオブジェクトを配置する領域の輪郭を描いたり、その領域を制限したりするものではありません。ボイラープレートオブジェクトはコンテンツ領域の内外を問わず、マスターページ上の任意の場所に配置できます。ヘッダーやフッターのテキスト、日付と時間、ページ番号などを入れるためにコンテンツ領域の外側にオブジェクトを配置する場合は、フォームをテストして、オブジェクトが意図したとおりに表示されることを確認する必要があります。また、フォームのレンダリング時に、マスターページ上のオブジェクトにページ上のオブジェクトが重なって隠れていないことを確認する必要があります。

データ量に応じて調整されるセクションを持つフォームでは、フォームの最終的なレイアウトがデータ量によって決まることに注意してください。フォームが Forms または Output でレンダリングされる場合は、使用可能なすべてのデータがマージされるまでページが追加されます。新しいページが追加されると、各ページにわたりマスターページのコンテンツ領域によって指定された領域内で、データがフローされます。

フォームの各ページを同じレイアウトにする場合は、デフォルトのコンテンツ領域で十分です。ただし、複雑なレイアウトの場合は、デフォルトのマスターページにコンテンツ領域を追加できます。フローの方向やページの向きを変えたり、両面ページにしたい場合は、追加のマスターページを挿入してこのマスターページとコンテンツ領域をデザインに合わせて設定できます。



ページ上でコンテンツ領域は使用できません。

編集可能なレイアウトのサブフォーム

サブフォームを計画することは、編集可能なレイアウトを含むフォームの作成に欠かせない工程です。フローセクションを含むフォームでは、フォームのセクションごとにオブジェクトをサブフォームに含めます。サブフォームは、フォームのレイアウトを保ちながら、マージされるデータの量に応じて長さが調整されます。サブフォームにより、オブジェクト群が一体として移動し、オブジェクト間の配置も保たれます。オブジェクトをサブフォームに含めると、フォームにマージされるデータの量に関わりなく各セクションの形式が保持され、フォーム全体のレイアウトもレンダリングごとに変わりません。

サブフォームは任意の深さまで階層化できます。サブフォームを階層化することで、マージされる XML データファイルにフォームデザインを一致させることができます。例えば、XML データファイルに 2 つのレベルがある場合、サブフォーム名を XML データファイル内のタグ名に一致させてサブフォーム階層を作成し、データファイルを変換せずに Designer でデータをマップできます。

発注書サンプルなど、編集可能なレイアウトが含まれるフォームには通常、階層化された様々なサブフォームが含まれており、それぞれのサブフォームに 1 つ以上のオブジェクトが入っています。例えば発注書サンプルでは、様々なオブジェクトが **header**、**detailHeader**、**detail**、**total** というサブフォームにどのように含まれているかがわかります。テキストオブジェクトおよびテキストフィールドオブジェクトを行や列に整列し、サブフォームに含めることができます。サブフォームを使用して、様々なテキストフィールドオブジェクトなどのオブジェクトのグループを **detail** サブフォームに含めると、オブジェクトのレイアウトを維持できるだけでなく、サブフォームの繰り返し回数も制御できます。

それぞれのサブフォームを設定して、フォームのレンダリング時にデータコンテンツの表示に必要なオブジェクトの入ったサブフォームだけを配置できます。例えば、顧客ごとに異なる発注書を作成する場合があります。1 つの発注書フォームでは、購入品目を示すために **detail** サブフォームを 12 回繰り返し配置します。別の発注書フォームでは、複数のページにまたがって同じサブフォームを 50 回繰り返し配置します。

発注書フォームのサンプルを見ると、このような設定を実現するためにサブフォームをどのように使用すればよいかわかります。Designer でフォームを開いて、階層パレットでサブフォームの構造を確認できます。オブジェクトパレットでサブフォームの設定方法を確認できます。特に **purchaseOrder**、**detailHeader**、**detail** の各サブフォームとその設定方法に注目してください。親サブフォームである **purchaseOrder** がフォームのコンテンツのフローを制御し、使用可能なデータに合わせて拡大します。**detailHeader** サブフォームには最小値 1 が設定されていますが、これはフォームのレンダリング時にこのサブフォームが 1 回だけ表示されることを意味しています。一方、**detail** サブフォームはデータアイテムごとに繰り返すように設定されているので、フォームのレンダリング時にはデータのオカレンスと同じ回数だけ表示されます。

サブフォームを使用してサブフォームのグループの周囲に境界線を描くこともできます。例えば、1 つまたは複数のダイナミックサブフォームを作成し、サブフォーム内に階層化してから、このダイナミックサブフォームを含んだサブフォームの境界線を指定できます。フォームがレンダリングされると、すべての内部サブフォームを囲む境界線が描かれます。

編集可能なレイアウトを含むフォームデザインの作成

データ量に応じて調整されるサブフォームを含むフォームデザインの作成には、2 つの基本的な方法があります。

- 固定レイアウトでフォームデザインを開始する

- 編集可能なレイアウトでフォームデザインを作成する

どちらの方法でも同じ結果が得られます。ただし、使用するデザインスタイルによって、どちらか一方が他方より適していることがあります。編集可能なレイアウトを含むフォームデザインの作成に慣れてきたら、必要に応じて最適なスタイルを採用できます。

固定レイアウトでの作業開始

固定レイアウトを含むフォームの作成に慣れている場合、固定レイアウトでのデザイン開始は非常に作業しやすくなじみのある方法だと考えられます。ユーザーに表示するオブジェクトや情報など、フォームのレイアウトを計画します。固定レイアウトを使用して、マスターページとデザインページを必要な数だけ使用してフォームデザインを作成します。オブジェクトのレイアウトと形式設定が完了したら、フォームデザイン内のコンテンツをフローする領域に適切なプロパティを設定します。

この方法では、固定レイアウトの既存フォームを柔軟なレイアウトのフォームデザインに変換することも非常に簡単です。

次の手順では、計画段階が完了したという前提で、フォームデザインの作成を固定レイアウトで開始するための一般的なデザインプロセスを示します。

- 1 必要なマスターページを作成します。
- 2 ページでフォームのコンテンツを作成します。固定レイアウトのフォームを変換する場合は、フォーム上のオブジェクトをサブフォームに含める作業から開始します。空のフォームから始める場合は、次の操作を行います。
 - オブジェクトをフォームに追加して、適切なサブフォームに含めます。
 - 必要な形式設定をオブジェクトに適用します。
 - サブフォーム内のオブジェクトのレイアウトとページ上のサブフォームのレイアウトを完成させます。
 - 必要に応じてスクリプティングを追加します。
- 3 ダイナミックコンセプトを実装します。
 - 各ページでデフォルトのサブフォームの階層化を解除します。サブフォームは、フローコンテンツを含むルートサブフォーム `form1` の子になります。ここから先は、編集可能なレイアウトでのデザインとなります。フローの方向は上から下になるので、サブフォームは下に 1 つずつ続いていくように配置されます。
 - サブフォーム連結タイプや境界線などの必要な形式設定をサブフォームに適用します。
 - フローを定義します。オカレンス値、改ページ、リーダーサブフォームおよびトレーラーサブフォームを設定し、これらの要素をまとめるサブフォームを定義します。サブフォームをマスターページに関連付け、余白を設定します。
- 4 サンプルデータを使用してフォームをテストします。

注意： Designer に付属のサンプルフォームを使用する場合は、上記の手順に従います。利便上の理由から、実際のコンテンツが入っているサブフォームは連結タイプが「なし」に設定されているサブフォーム内部に含まれています。このようにサブフォームを設定すると、階層ビューで最初にフォームを表示させたときにフォームの全体的な構造が一目でわかります。

固定レイアウトでの作業開始に関するヒント

フォームデザインの作成を固定レイアウトで開始する場合は、次の点に注意してください。

- レイアウトに満足できる場合にのみ、フォームのコンテンツを「フロー」に設定します。フォームのコンテンツは「フロー」に設定した後でも位置固定コンテンツに戻せますが、フォームのレイアウトに問題が生じる場合があります。例えば、サブフォームを 1 つの位置固定コンテナ内に含めると、サブフォームはページの元の位置に正確に配置されますが、互いに重なり合うことがあります。重なり合わないようにするには、ページのグループ化を使用してサブフォームを含めます。
- サブフォームのデフォルトの最小数および最大数は 1 です。編集可能なレイアウトを含むフォームに対しては、この値を調整します。

- オブジェクトをサブフォーム内に含めると、オブジェクトの外側に定義された余分なスペースは破棄されます。左右の余白を追加してサブフォームを水平方向に再整列します。サブフォームのサイズも変更できます。ただし、その場合、オブジェクトは親を基準に配置されているので、オブジェクトの配置が変更されます。

関連項目

229 ページの「[編集可能なレイアウトを含むフォームでのオブジェクトの配置を制御する](#)」

283 ページの「[コンテンツ領域の使用](#)」

126 ページの「[フォームのガイドライン](#)」

213 ページの「[サブフォームの使用](#)」

454 ページの「[「サブフォーム」タブのサブフォームプロパティ](#)」

編集可能なレイアウトを含むインタラクティブフォームの作成

Designer を使用すると、データ取得用に編集可能なレイアウトを含むインタラクティブな PDF または HTML フォームを作成できます。この種のフォームはフロー要素とインタラクティブフォームの機能を兼ね備えており、ユーザーは拡大可能なフィールドにデータを直接入力したり、セクションを追加または削除したり、フォームデータを電子的に返送することができます。例えば、ユーザーが項目行を追加または削除し、フォームにコメントを追加できるインタラクティブフォームを作成できます（5 ページの「[フォームデザインのレイアウト](#)」を参照してください）。

エンドユーザーが編集可能なレイアウトを含むインタラクティブ PDF フォームに入力するには、Acrobat 7.0.5 または Adobe Reader 7.0.5 以降が必要です。

エンドユーザーが編集可能なレイアウトを含むインタラクティブ HTML フォームに入力するには、Web ブラウザーなどのクライアントアプリケーションが必要です（583 ページの「[HTML フォームの作成](#)」を参照してください）。

注意：編集可能なレイアウトを含むインタラクティブフォームの入力時には、Acrobat の注釈機能は使用できません。

ツールメニューのアクションビルダーダイアログボックスを使用すると、スクリプトを記述しないで、編集可能なレイアウトを含むフォームに一般的なインタラクティブ機能を作成できます。（88 ページの「[アクションの作成](#)」を参照してください）。

編集可能なレイアウトを含むインタラクティブフォームを作成する場合、固定レイアウトを含むインタラクティブなフォームデザインから開始することがよくあります。この方法で開始すると、完成したフォームの状態を確認できます。フォームデザインは、ユーザーが必要とするすべての要素を含む最終的なレイアウトになります。

固定レイアウトでのフォームデザインが完成したら、主要な構成要素をサブフォームとして分割し、フォームに入力されるデータをサブフォームでフローする方法を指定します。

インタラクティブフォームにダイナミックな機能を追加するには、通常、以下の手法が必要になります。

- 233 ページの「[マスターページ上でヘッダーおよびフッターを配置する](#)」
- 233 ページの「[フォームオブジェクトをサブフォームに含め、オカレンス値を設定する](#)」
- 234 ページの「[サブフォームに合わせて余白を変更する](#)」
- 234 ページの「[オーバーフローリーダーサブフォームおよびオーバーフロートレーラーサブフォームを使用する](#)」
- 234 ページの「[フロー要素を含むサブフォームを作成する](#)」
- 235 ページの「[セクションを追加または削除するボタンを作成する](#)」
- 236 ページの「[追加ボタンおよび削除ボタンを作成する](#)」

さらに、ユーザーが入力するデータの量に対応できるフォームにするため、サブフォームを追加および削除する方法についても理解する必要があります。（237 ページの「[スクリプティングを使用したサブフォームインスタンスの追加と削除](#)」および 238 ページの「[スクリプティングを使用したテーブルおよびテーブル行の追加と削除](#)」を参照してください）。

関連項目

- 126 ページの「[フォームのガイドライン](#)」
- 228 ページの「[編集可能なレイアウトが含まれるフォームの使用](#)」
- 4 ページの「[フォームについて](#)」
- 583 ページの「[HTML フォームの作成](#)」

マスターページ上でヘッダーおよびフッターを配置する

固定レイアウトを含むインタラクティブフォームでは、ヘッダーとフッターのテキストがページ上に配置されます。コンテンツをフローするよう設定されたサブフォームをフォームに追加する場合は、ヘッダーとフッターをマスターページに配置するのが一般的です。

コンテンツをフローするよう設定されたサブフォームが含まれるインタラクティブフォームの長さは、フォームに含まれるデータの量に応じて拡大するので、エンドユーザーがデータを入力し続けた場合には、フォームに追加ページが加えられることがあります。マスターページに配置したヘッダーとフッターは、最初のページだけでなく、すべてのページに表示されます。

関連項目

- 26 ページの「[フォームデザインを計画する](#)」

フォームオブジェクトをサブフォームに含め、オカレンス値を設定する

固定レイアウトのインタラクティブフォームをデザインする場合は、ユーザーの入力時に不足しないよう十分な数の項目行を用意する必要があります。一方、コンテンツをフローするよう設定したサブフォームに項目行を含めた場合は、ユーザーが必要に応じて項目行を追加できます。

サブフォームはダイナミックな機能を備えているので、1～2 行の項目行を追加ボタンおよび削除ボタンと共にフォームに含めることができます。オブジェクトをサブフォームに含めると、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブと「連結」タブのオプションを使用して、特定のサブフォームの繰り返しのタイミング、場所および回数を指定できます。

フォームオブジェクトのグループをサブフォームに含めることは、ダイナミックな機能を持つフォームを作成する過程で重要な作業です。

フォームの各セクションに配置されたオブジェクトをサブフォームに含めると、含められたオブジェクトはサブフォームに制御されるようになり、フォームの長さが入力データの量に応じて調整されてもフォームのレイアウトが保たれます。サブフォームでは、各オブジェクトの x 座標と y 座標が保持され、オブジェクトが必ずひとまとまりの単位として移動および配置されます。

オブジェクトのグループをサブフォームに含めると、フォーム内のデータ量に関係なく、各セクションの形式とフォーム全体のレイアウトは一貫し、予期しない変更を防ぐことができます。

エンドユーザーがフォームを開いたときにデータを入力する項目行が最低 1 つ必要です。サブフォームの「最小値」オプションに 1 以上の値を設定します。フォームによっては、PDF フォームに最初から複数の行を表示したほうがバランスのとれた表示になり、エンドユーザーが迷わず効率的に操作できる場合があります。

また、サブフォームはダイナミックな機能を備えているので、ユーザーがフォームの行やセクションを追加または削除することもできます。例えば、ユーザーが項目行の追加や削除、コメントの送信を行えるように、様々なボタンを含めることができます。

サブフォームにオブジェクトを含めて、フォームデザイン内にセクションを作成する方法を計画します。次にフォームデザインをテストし、サブフォームの移動および繰り返しが意図したとおりであり、意図に反したページ間の区切りがないことを確認します。

関連項目

- 213 ページの「[サブフォームの使用](#)」
- 126 ページの「[フォームのガイドライン](#)」
- 217 ページの「[サブフォームの作成と設定](#)」
- 235 ページの「[セクションを追加または削除するボタンを作成する](#)」

サブフォームに合わせて余白を変更する

固定レイアウトのインタラクティブフォームにダイナミックな機能を適用する場合は、通常、形式設定を多少変更する必要があります。オブジェクトのサイズ、位置、余白およびキャプションは、レイアウトパレットのオプションを使用して設定できます。例えば、サブフォームオブジェクトの周囲に余白を設定して、フォーム内の各セクションの配置やセクション間の間隔（空白）を制御することが必要になる場合があります。

関連項目

- 377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

オーバーフローリーダーサブフォームおよびオーバーフロートレーラーサブフォームを使用する

コンテンツをフローに設定したサブフォームが含まれるインタラクティブフォームの長さは、フォームに表示されるデータの量に応じて変化するので、フォームの長さが 1 ページを超えることが少なくありません。その結果、フォーム内の特定のサブフォーム（セクション）を後続のページでも繰り返し表示することが必要になる場合があります。

オーバーフローリーダーサブフォームおよびオーバーフロートレーラーサブフォームを使用すると、繰り返しや拡大によって追加のページに表示される可能性があるサブフォームの前後に表示するサブフォームを個別に指定できます。オーバーフローリーダーおよびオーバーフロートレーラーは、編集可能なレイアウトのフォームデザインにおいて使用できる特別な種類のサブフォームです。オブジェクトパレットの「連結」タブでサブフォームをオーバーフローリーダーサブフォームとして指定すると、追加される各ページの先頭にそのサブフォームが表示されるようになります。

例えば、表の先頭の見出し行をオーバーフローリーダーサブフォームとして使用できます。表の先頭に配置した見出し行は、追加される各ページの先頭に繰り返し表示されるので、テーブル行の情報が見やすく、簡単にページを追うことができます。

同様に、サブフォームをオーバーフロートレーラーとして指定すると、繰り返しサブフォームや拡大サブフォームが複数ページにまたがる場合に、各ページの最後のオカレンスに続けてそのサブフォームを表示できます。

関連項目

- 213 ページの「[サブフォームの使用](#)」
- 217 ページの「[サブフォームの作成と設定](#)」

フロー要素を含むサブフォームを作成する

作成するフォームデザインの目的によっては、ユーザーが特別な要望やコメントなどの情報を入力できるように、調整可能なセクションをフォームに追加することが必要な場合があります。Designer では、テキストフィールドやサブフォームに異なるオプションを適用して、フォーム内のセクションのサイズをユーザーからの入力データの量に応じて調整できます。

例えば、ユーザーがボタンをクリックして表示 / 非表示を切り替えられるコメントセクションをインタラクティブフォームに含めることができます。コメントセクションを作成するには、サブフォーム内にテキストフィールドを配置し、次のオプションを選択してダイナミックデータ入力を有効にします。

テキストフィールド 「フィールド」タブの「複数行」と「プレーンテキストのみ」、「値」タブの「ユーザー定義 - オプション」、レイアウトパレットの「高さ - 拡大して合わせる」

コメントセクションに必要なだけテキストを入力でき、テキストフィールドの高さが自動的に拡大してデータを表示できるようにします。

サブフォーム 「サブフォーム」タブの「コンテンツ内で改ページを許可する」、「連結」タブの「最大値」（1 に設定）、レイアウトパレットの「自動調整」

必要に応じてコメントサブフォームが後続のページにまたがり、フォーム内で重複して表示されることがなく、データ量に応じて自動的に拡大するようにします。

関連項目

213 ページの「[サブフォームの使用](#)」

217 ページの「[サブフォームの作成と設定](#)」

235 ページの「[セクションを追加または削除するボタンを作成する](#)」

セクションを追加または削除するボタンを作成する

インタラクティブなフォームデザインでは、ユーザーが選択するまで表示されないセクションをフォーム内に 1 つまたは複数設けることが一般的です。Designer では、スクリプトを定義したボタンを追加して、ユーザーがボタンをクリックするとフォームの特定のセクション（サブフォーム）がダイナミックに追加または削除されるように設定できます。

例えば、サンプルのインタラクティブ発注書フォームでは、ユーザーが「コメントを追加」ボタンをクリックすると、コメントセクション（comments サブフォーム）が表示されます。このボタンには現在のサブフォームの状態に応じて「コメントを追加」または「コメントをクリア」のどちらかのキャプションが表示され、その表示は交互に切り替わります。ユーザーがボタンをクリックするたびに、スクリプトが comments サブフォームの表示状態をチェックし、その結果に応じてボタンのキャプションを更新します。

ボタンによって実行されるスクリプトでは、XML フォームオブジェクトモデルのオブジェクトである `instanceManager` が使用されています。このオブジェクトは、フォームオブジェクトのインスタンスの作成、削除および移動を管理します。エンドユーザーが Comment サブフォームを削除すると、`instanceManager` オブジェクトは、フォームデータの文書オブジェクトモデル（DOM）とデータ DOM の両方から、そのサブフォームを削除します。

`instanceManager` では、`addInstance`、`removeInstance`、`moveInstance` および `setInstances` の 4 つのメソッドが使用されます。命名規則に従って、`instanceManager` には、サブフォーム名の前にアンダースコアを加えた名前（`_subformname`）が付けられます。`instanceManager` の構文は、`_subformname.methodname()` です。

サンプルのインタラクティブ発注書フォームでは、スクリプトエディターを使用して次の JavaScript スクリプトが入力されています。このスクリプトは、`setInstances` メソッドを使用して comments サブフォームの追加と削除、およびボタンのキャプションの変更を行います。`comments.count == 0` property はインスタンス化されたサブフォームインスタンスの数を返します。

```
// Invoke the Instance Manager to add and remove the comments subform.

if (_comments.count == 0) { // The count property specifies the current number
                                // of instances instantiated.
    _comments.setInstances(1); // Add the comments subform.
    this.resolveNode("caption.value.#text").value = "Clear Comments"; //
Change the button's caption.
}

else {
    _comments.setInstances(0); // Remove the comments subform.
    this.resolveNode("caption.value.#text").value = "Add Comments"; //
Change the button's caption.
}
```



ツールメニューのアクションビルダーダイアログボックスを使用すると、スクリプトを記述しないで、編集可能なレイアウトを含むフォームに一般的なインタラクティブ機能を作成できます。

関連項目

86 ページの「[フォームのアクションの作成](#)」

追加ボタンおよび削除ボタンを作成する

インタラクティブフォームにボタンを追加すると、発注書フォームの項目行などのセクションを定義するサブフォームで、インスタンスの追加や削除などの操作をエンドユーザーが実行できるようになります。

また、削除ボタンにツールヒントを追加して、ユーザーがボタンの上にポインターを置くと「アイテムを削除」という文字列を表示させることもできます。行ごとに個別の削除ボタンを用意すると、ユーザーがフォームから特定の行を削除できて便利です。

例えば、サンプルのインタラクティブ発注書フォームには、それぞれの detail サブフォームについて、「アイテムを追加」ボタンと、削除ボタン（「X」というマークの付いたボタン）が含まれています。「アイテムを追加」ボタンをクリックすると、スクリプトによって項目行が 1 行追加されます。また、ユーザーがいずれかの削除ボタンをクリックすると、スクリプトによって関連付けられた項目行が削除されます。



ツールメニューのアクションビルダーダイアログボックスを使用すると、スクリプトを記述しないで、編集可能なレイアウトを含むフォームに一般的なインタラクティブ機能を作成できます。**86** ページの「[フォームのアクションの作成](#)」を参照してください。

「アイテムを追加」ボタン

「アイテムを追加」ボタンの click イベントに含まれる次のスクリプト（JavaScript）は、ユーザーがサンプルのインタラクティブ発注書フォームに項目行を追加できるよう定義されています。また、このスクリプトでは新しい行が Total フィールドの計算に含まれるようフォームを再計算します。

ユーザーは「アイテムを追加」ボタンを使用して項目行の追加のみ行うので、このスクリプトは最小（オカレンス）値を検証する必要がありません。

```
// Invoke the Instance Manager to add one instance of the detail subform.
_detail.addInstance(1);

//Invoke the recalculate method to include the field values from the added subform in calculations.
xfa.form.recalculate(1);
```

削除ボタン

削除ボタンの click イベントに含まれる次のスクリプト（JavaScript）は、ユーザーがサンプルのインタラクティブ発注書フォームから detail サブフォームのインスタンスを削除できるよう定義されています。また、このスクリプトでは削除した行が Total フィールドでの計算に含まれないようフォームを再計算します。


```
// Invoke the Instance Manager to remove the current instance of the detail subform.  
_detail.removeInstance(this.parent.index);  
  
// Invoke the recalculate method to update the form calculations.  
xfa.form.recalculate(1);
```

detail サブフォームの最小オカレンス値の初期値は 2 なので、スクリプトで最小オカレンス値を減らし、フォームのレンダリング時に自動的に表示される 2 つの項目行をフォーム入力者が削除できるようにする必要があります。このスクリプトは **detail** サブフォームの **initialize** イベントに追加されます。

```
// Reset the minimum occurrence value of the detail subform.  
this.occur.min = "0";
```

このフォームではユーザーが **detail** サブフォームのすべてのインスタンスを削除できるので、**Total** フィールド (**numTotal**) の **calculate** イベントのスクリプトで、**detail** サブフォームに **numAmount** フィールドのインスタンスが少なくとも 1 つ存在することを検証する必要があります。検証しないと、計算時に **numAmount** フィールドのオカレンスを見つけれないので、エラーが表示されます。このスクリプトは、**numTotal** フィールドの **Calculate** イベントに追加されます。

```
// Verify at least one instance of the numAmount field exists.  
if (exists(detail[0].numAmount) == 1) then  
    Sum(detail[*].numAmount)  
endif
```

スクリプティングを使用したサブフォームインスタンスの追加と削除

サブフォームインスタンスを追加または削除するには、フォーム上のオブジェクトに演算またはスクリプトを追加します。スクリプティングを使用してサブフォームインスタンスを追加または削除する場合、サブフォームに名前を付けることが重要です。既存のサブフォームに対するスクリプティングで、サブフォームを一意の名前ではなく相対的な位置で指定すると、エラーが発生しやすくなります。

開始する前に、次の操作を行ってください。

- ウィンドウ/スクリプトエディターをクリックして、スクリプトエディターを表示します（まだ表示されていない場合）。スクリプトエディターを拡大して複数行表示にします。
- インスタンスを追加するサブフォームが、フローサブフォーム内にあることを確認します。



ツールメニューのアクションビルダーダイアログボックスを使用すると、スクリプトを記述しないで、編集可能なレイアウトを含むフォームに一般的なインタラクティブ機能を作成できます。86 ページの「[フォームのアクションの作成](#)」を参照してください。

関連項目

86 ページの「[フォームのアクションの作成](#)」

238 ページの「[スクリプティングを使用したテーブルおよびテーブル行の追加と削除](#)」

457 ページの「[「連結」タブのサブフォームプロパティ](#)」

インスタンスマネージャーのメソッドを使用したサブフォームの制御

`addInstance`

`removeInstance`

サブフォームインスタンスをフォームに追加するには

- 1 フォームデザイン上でスクリプトを追加するオブジェクトを選択し、スクリプトエディターの表示リストでイベントを選択します。例えば、ボタンまたはその他のインタラクティブフォームオブジェクトの **click** イベントを選択します。

- 2 スクリプトエディターに次のいずれかのスクリプトを入力します。**Subform1** はインスタンスを追加するサブフォームの名前を、値 **true** は新しいサブフォームのインスタンスをフォームデータにマージする必要があることを示します。

FormCalc

```
Subform1.instanceManager.addInstance(true) // Default instance manager syntax  
xfa.form.recalculate(true) // Invoke the recalculate method to include the field values from the added  
subform in the form calculations.
```

または

```
_Subform1.addInstance(true) // Short form of the instance manager syntax  
xfa.form.recalculate(true) // Invoke the recalculate method to include the field values from the added  
subform in the form calculations.
```

JavaScript

```
Subform1.instanceManager.addInstance(true); // Default instance manager syntax  
xfa.form.recalculate(true) // Invoke the recalculate method to include the field values from the added  
subform in the form calculations.
```

または

```
_Subform1.addInstance(true); // Short form of the instance manager syntax  
xfa.form.recalculate(true) // Invoke the recalculate method to include the field values from the added  
subform in the form calculations.
```

サブフォームインスタンスをフォームから削除するには

- 1 フォームデザイン上でスクリプトを追加するオブジェクトを選択し、スクリプトエディターの表示リストでイベントを選択します。
- 2 スクリプトエディターで次のいずれかのスクリプトを入力します。**Subform1** は、インスタンスを削除するサブフォームの名前、**integer** は、削除するインスタンスのインデックス番号（0 から始まる番号）を示します。

FormCalc

```
Subform1.instanceManager.removeInstance(integer) // Default instance manager syntax
```

または

```
_Subform1.removeInstance(integer) // Short form of the instance manager syntax
```

JavaScript

```
Subform1.instanceManager.removeInstance(integer); // Default instance manager syntax
```

または

```
_Subform1.removeInstance(integer); // Short form of the instance manager syntax
```

スクリプティングを使用したテーブルおよびテーブル行の追加と削除

テーブル、ボディ行、ヘッダー行およびフッター行を追加または削除するには、スクリプトエディターを使用して、フォーム上のオブジェクトにインスタスマネージャーのスクリプト式を追加します。

開始する前に、必ず次の操作を行ってください。

- ウィンドウ／スクリプトエディターをクリックして、スクリプトエディターを表示します（まだ表示されていない場合）。スクリプトエディターを拡大して複数行表示にします。
- インスタンスを追加するテーブルがフローサブフォームに含まれていて、テーブルまたはテーブル内の行の新しいインスタンスを追加できることを確認します。

テーブルまたはテーブル行インスタンスをフォームに追加するには

- 1 フォームデザイン上でスクリプトを追加するオブジェクトを選択し、スクリプトエディターの表示リストでイベントを選択します。
- 2 スクリプトエディターで次のいずれかのスクリプトを入力します。Table1 および Row1 は、インスタンスを追加するテーブルおよびテーブル行の名前を示します。

FormCalc

```
Table1.instanceManager.addInstance(true) // Default instance manager syntax
Table1.Row1.instanceManager.addInstance(true) // Default instance manager syntax
xfa.form.recalculate(true) // Invoke the recalculate method to include the field values from the added table or row in the form calculations.
```

または

```
Table1.addInstance(true) // Short form of the instance manager syntax
Table1._Row1.addInstance(true) // Short form of the instance manager syntax
xfa.form.recalculate(true) // Invoke the recalculate method to include the field values from the added table or row in the form calculations.
```

JavaScript

```
Table1.instanceManager.addInstance(true); // Default instance manager syntax
Table1.Row1.instanceManager.addInstance(true); // Default instance manager syntax
xfa.form.recalculate(true); // Invoke the recalculate method to include the field values from the added table or row in the form calculations.
```

または

```
Table1.addInstance(true); // Short form of the instance manager syntax
Table1._Row1.addInstance(true); // Short form of the instance manager syntax
xfa.form.recalculate(true); // Invoke the recalculate method to include the field values from the added table or row in the form calculations.
```

テーブルインスタンスまたはテーブル行インスタンスをフォームから削除するには

- 1 フォームデザイン上でスクリプトを追加するオブジェクトを選択し、スクリプトエディターの表示リストでイベントを選択します。
- 2 スクリプトエディターで次のいずれかのスクリプトを入力します。Table1 および Row1 はインスタンスを削除するテーブルおよびテーブル行の名前を、integer は削除するインスタンスのインデックス番号（0 から始まる番号）を示します。

FormCalc

```
Table1.instanceManager.removeInstance(true) // Default instance manager syntax
Table1.Row1.instanceManager.removeInstance(true) // Default instance manager syntax
```

または

```
Table1.removeInstance(true) // Short form of the instance manager syntax
Table1._Row1.removeInstance(true) // Short form of the instance manager syntax
```

JavaScript

```
Table1.instanceManager.removeInstance(true); // Default instance manager syntax
Table1.Row1.instanceManager.removeInstance(true); // Default instance manager syntax
```

または

```
Table1.removeInstance(true); // Short form of the instance manager syntax
Table1._Row1.removeInstance(true); // Short form of the instance manager syntax
```

関連項目

464 ページの「[「連結」タブのテーブルプロパティ](#)」

474 ページの「[「連結」タブのボディ行のプロパティ](#)」

469 ページの「[「連結」タブのヘッダー行のプロパティ](#)」

`addInstance`

`removeInstance`

237 ページの「[スクリプティングを使用したサブフォームインスタンスの追加と削除](#)」

編集可能なレイアウトを含む非インタラクティブフォームの作成

様々な量のデータを（通常データソースから）表示するフォームが必要な場合は、コンテンツをフローに設定した非インタラクティブフォームが便利です。様々な量のユーザー入力データを取得するように設定されたインタラクティブフォームと同様に、この種のフォームのレイアウトは、サーバーベースの処理によってフォームデザインとマージされるデータの量に合わせて自動的に調整されます。固定レイアウトのフォームとは異なり、フォームのセクション数やページ数をあらかじめ決めておく必要はありません。

通常、非インタラクティブフォームは電子的に印刷または保存できます。例えば、Output で使用する編集可能なレイアウトを含む非インタラクティブフォームデザインを作成できます。次に、Output はフォームデザインを XML フォームデータとマージして、フォームをネットワークプリンターおよびディスクファイルに出力し、電子メール受信者にも添付ファイルとして送信します。これらのフォームは PDF（PDF/A 文書を含む）、PostScript、Printer Control Language（PCL）および Zebra Programming Language（ZPL）形式で出力できます。

関連項目

213 ページの「[サブフォームの使用](#)」

243 ページの「[編集可能なレイアウトを含むフォームのデザイン上のヒント](#)」

編集可能なレイアウトを含む非インタラクティブフォームの動作方法

固定レイアウトのフォームデザインで使用するのは、通常、Designer がデフォルトでコンテンツの位置固定を設定したサブフォーム（ページのデフォルトのサブフォーム）1 つだけです。Designer でサブフォームのコンテンツの位置を固定すると、サブフォーム内のオブジェクトはデータの特性と量に関係なく、それぞれのアンカー位置から移動しません。

ただし、データ量に応じてフォームのセクションを拡大させる場合は、一般的に複数のサブフォームを使用します。ページのデフォルトのサブフォームがコンテンツをフローするよう設定し、さらにサブフォームを追加して「データアイテムごとに繰り返す」、「拡大して合わせる」、またはその両方に設定します。サブフォームがコンテンツをフローするよう設定すると、サブフォーム内のオブジェクトは、その他のサブフォームも含め、繰り返しサブフォームおよび拡大サブフォームにマージされたデータに応じて移動します。

Designer では、フォームのオブジェクトをデータファイル内のデータ要素に連結させ、フォーム内のテキストフィールドおよびサブフォームオブジェクトが、オブジェクトにマージされたデータの特性と量に応じて表示、繰り返し、または拡大するよう設定できます。フォーム内のオブジェクトはデータソースに連結されているので、フォームのレイアウトはデータによって決まります。

データ量に応じて拡大および縮小するセクションを含むフォームデザインを作成する場合は、フォームで 1 回表示されるサブフォーム（住所ブロックなど）とデータ量に応じて繰り返し表示されるサブフォーム（明細行など）を把握しておく必要があります。繰り返し表示されるサブフォームでは、サブフォームおよびそのコンポーネントのインスタンスを 1 つだけフォームデザインに含めます。そのため、デザイン時の表示は、フォームのレンダリング時にユーザーに表示されるものとは異なります。

例えば、次の非インタラクティブ発注書フォームのサンプルは、データがマージされる前のフォームデザインと、フォームデザインにデータがマージされた後にユーザーに対して表示されるフォームを示しています。部品リスト（使用可能なデータ）に合わせて、明細行（detail サブフォーム）が 4 回繰り返されています。

ファイナンス株式会社


Finance
ファイナンス株式会社

発注書

発注元

電話番号：
Fax 番号：
担当者：

発注番号

発注日付

配送先

電話番号：
Fax 番号：
担当者：

パーツ番号	内容	数量	単価	小計
取引条件	合計			
	配送料			
	総合計			

署名 _____

ファイナンス株式会社 * xx県xx市xx町xx丁目 123-1 Tel: 012-345-6789 Fax: 098-765-4321 * www.financeCorporation.com

本ソフトウェアに付属するサンプルフォーム内の会社名および会社ロゴは、デモ目的にのみ使用され、実存する団体を言及するものではありません。

ページ 1 / 1

データがマージされていない編集可能なレイアウトのフォーム

ファイナンス株式会社


Finance
ファイナンス株式会社

発注書

発注元
〇〇社
123-4567
〇〇県〇〇郡
〇〇町〇〇丁目123-1

電話番号: (123) 456-7890
Fax 番号: (123) 456-7899
担当者: 〇〇 〇〇様

発注番号 8745236985
発注日付 2004/02/08

配送先
〇〇社
123-4567
〇〇県〇〇郡
〇〇町〇〇丁目123-1

電話番号: (123) 456-7891
Fax 番号: (123) 456-7899
担当者: 〇〇 〇〇様

パーツ番号	内容	数量	単価	小計
00010-100	モニター	1	¥ 35,000	¥ 35,000
00010-200	デスクスタンド	3	¥ 5,500	¥ 16,500
00025-275	電話	5	¥ 8,500	¥ 42,500
00300-896	アドレス帳	2	¥ 1,500	¥ 3,000
取引条件 口座番号: 123456		合計		¥ 97,000
		地方税 @ 0.00%		¥ 6790
		消費税 @ 0.00%		¥ 7760
		配送料		¥ 5,000
		総合計		¥ 1,165,500

署名 _____

ファイナンス株式会社 * ××県××市××町××丁目123-1 Tel: 012-345-6789 Fax: 098-765-4321 * www.financeCorporation.com

本ソフトウェアに付属するサンプルフォーム内の会社名および会社ロゴは、デモ目的にのみ使用され、実存する団体を営及するものではありません。

ページ 1 / 1

データがマージされた編集可能なレイアウトのフォーム

編集可能なレイアウトを含むフォームのデザイン上のヒント

フォームの複雑さは、Adobe Reader による文書のレンダリングまたは再レンダリングの時間に大きく影響します。フォームの複雑さを判定する方法はいくつかありますが、主にフォームに表示されるオブジェクト数が目安になります。多数のオブジェクト、サブフォーム、ページを含む複雑なフォームデザインでも、一度に表示される数が限られる場合は、特に問題はありません。「配置」が「非表示」に設定されたオブジェクトは無視され、配置やレンダリングに時間がかからないので、問題なく実行できます。

編集可能なレイアウトを含むフォームを作成する場合は、次の事項に注意してください。

全般

- フォームデザイン全体の複雑さを軽減します。
 - スタティックテキストオブジェクトの代わりにフィールドキャプションを使用します。
 - 不要な場合はキャプションをフィールドから削除します。
 - 線を描画せずに境界線を指定します。
 - オブジェクトの代わりにサブフォームの余白を指定してサブフォーム間に間隔を追加します。
 - 重複するオブジェクト、スクリプト、構成要素の中で、フラグメント、スクリプトオブジェクト、グローバルフィールドに置き換えられるものは削除します。
- 明示的な改ページか、暗黙的な改ページのどちらか一方を使用します。
 - 暗黙的なページ番号を使用すると、マスターページは、オカレンスの最大値と最小値に基づいて、階層に表示されている順番でインスタンス化されます。
 - 複雑なフォームで明示的な改ページは使用でき、必要な場合も多いですが、複雑なフォームの作成に必ずしも必要ではありません。
- レイアウトの作業から開始し、次にダイナミックな動作およびスクリプティングを追加します。
- 固定レイアウトをできるだけ使用します（サブフォームなどのコンテナの子が1つの場合など）。
- 固定サイズのオブジェクトをできるだけ使用します。
- コンテンツ領域のサイズを変更し、重ねて表示しない他のオブジェクト（ページ番号、タイトル、ロゴなど）のスペースをページ上に十分に確保します。透かしは本来重なり合うコンテンツです。
- 列のレイアウトでは、複数のコンテンツ領域またはテーブルを使用するようにします。コンテンツを1つの列から他の列にフローするには、コンテンツ領域を使用します。各列のコンテンツを横に整列するには、テーブルを使用します。ヘッダー行とフッター行がないテーブルを作成します。

サブフォーム

- フローサブフォームを位置固定サブフォーム内に配置しないようにします。固定サブフォーム内に配置すると、改ページ、重なり合うオブジェクトおよび繰り返しサブフォームに問題が生じます。
- サブフォーム内のオブジェクトが可変サイズのデータとマージされる場合は、これらのオブジェクトが別のオブジェクトの領域に重なるまで拡大されないよう確認します。拡大可能なオブジェクト（テキストフィールドなど）は、別のオブジェクトの上に重なってレンダリングされる場合があります。サブフォームがコンテンツをフローし、コンテンツに合わせて拡大するよう設定します。
- サブフォームを作成したら、その幅がコンテンツ領域の幅と同じになるようにサイズを変更します。サブフォームのサイズ変更は、サブフォームにオブジェクトを配置する前に行います。サブフォームのサイズ変更をオブジェクトの配置前に行うと、サイズ変更後にサブフォームの子を再配置する必要があります。
- オーバーフローリーダーサブフォームおよびオーバーフロートレーラーサブフォームは常に位置固定コンテンツに設定し、「改ページを許可する」オプションを選択解除します。このように設定しないと、レンダリングされたフォームでヘッダーが重複したりフィールドが重なり合ったりするなどのエラーが発生する場合があります。

- 改ページするサブフォームには、オーバーフローリーダーサブフォームおよびオーバーフロートレーラーサブフォームを指定します。
- サブフォームの子に合わせてサブフォームのサイズをすばやく変更するには、レイアウトパレットの「自動調整」オプションを選択し、次にそれを無効にします。
- 名前がないサブフォームには一意の名前を付けることをお勧めします。サブフォームに名前を付けると、スクリプティングが容易になり、階層ビューでオブジェクトを指定しやすくなります。名前がないサブフォームは、データのマージに関与しません。名前が付いたサブフォームも関与しないようにするには、そのサブフォームの連結タイプを「なし」に設定します。

注意：構造がなくサイズの大きいインタラクティブ PDF フォームを作成すると、エンドユーザー側でフィールド間のタブ移動の動作が遅くなることがあります。この問題は、タグ付けしないでフォームを保存すれば避けられます。ただし、フォームにアクセシビリティ機能が必要な場合は、タグ付き PDF としてフォームを保存する必要があります。この状況に対処するには、フォームのセクションを名称未設定のサブフォームに含めます。これにより、必要な構造がフォームに追加されます。

- マスターページには複数のコンテンツ領域を追加できます。コンテンツ領域には、ページ上のコンテンツの位置に関係なく、階層ビューに表示されている順序でコンテンツが入力されます。
- 準拠フォームを作成する場合は、Acrobat を使用して文書と比較します。Acrobat のアドバンスドメニューで「文書と比較」を選択します。
- サブフォームの余白を設定すると、予期しない結果が生じる場合があります。大半のサブフォームのコンテンツは位置固定であり、高さが固定されています。余白を追加すると、サブフォームのコンテンツがオフセットされ、その下のオブジェクトが重なり合います。
- サブフォームのコンテンツを正確に含めるには、「拡大して合わせる」オプションを使用する方法以外に、レイアウトパレットにあるプロパティを使用してサブフォームのサイズを変更する方法があります。Designer に付属しているサンプルフォームは、両方の方法を使用しています。

アクセシビリティ

- アクセシビリティタグは、左から右へ、上から下へと生成されます。アクセシビリティの問題は、コンテンツの位置が固定されたサブフォームで、オブジェクトが正確に配置されていない場合に発生することがあります。

スクリプティング

- スクリプティング時は、マスターページのオブジェクトの initialize イベントにコードを入力しないようにします。以前のバージョンの Adobe Reader では、マスターページのオブジェクトに initialize イベントを使用すると、必要以上に実行されます。この余分なスクリプトの実行により、フォームのパフォーマンスが低下します。別のイベント（calculate イベントなど）をできるだけ使用してください。

データ連結

- データ接続がある場合は、オブジェクトをデータ接続に連結するか、連結の種類を「なし」に設定します。また、相対連結参照を使用します。繰り返しサブフォームに連結されていない繰り返しデータは使用しないでください。フィールドをデータ要素に連結し、サブフォームをデータグループに連結するのが最適です。データグループとサブフォームは繰り返し可能です。
- デフォルトでは、サブフォームの連結タイプは「名前による」に設定されています。スキーマを使用する場合は、デフォルトの連結の種類を「データ連結なし」に設定することをお勧めします。デフォルトのデータ連結は、ツール/オプション/データ連結で設定できます。
- データに書き出さないオブジェクトのデータ連結の種類を「データ連結なし」に設定します。フィールドを含まないサブフォームのデータ連結の種類を「データ連結なし」に設定します。例えば、通常、オーバーフローリーダーサブフォームまたはオーバーフロートレーラーサブフォームにはフィールドがありません。データ連結の種類を「データ連結なし」に

設定すると、マージには関与しなくなります。オーバーフローリーダーまたはオーバーフロートレーラーをマージから除外すると、パフォーマンスが向上する場合があります。

関連項目

230 ページの「[編集可能なレイアウトを含むフォームデザインの作成](#)」

一般的なミス

- プレビューデータを指定していない。
- 「PDF プレビュー」タブで入力したデータはフォームデータではないという認識がない。フォームを PDF フォームとして保存し、Acrobat または Adobe Reader で開くと、データは表示されません。
- フォームをダイナミック XML フォームとしてではなくスタティック PDF フォームとしてプレビューする。
- コンテンツ内で改ページを許可していない。
- フローサブフォームを位置固定サブフォーム内に配置する。
- サブフォームに繰り返しを設定する方法を理解していない。親コンテナで位置固定レイアウトが使用されている場合、繰り返しオプションは無効になります。
- フローコンテンツを含むコンテナのコンテンツをサイズ変更または移動する。
- サブフォーム（特に子コンテナが 1 つのサブフォーム）を不必要に階層化する。
- サブフォームを非表示にするのではなく、サブフォームインスタンスをドキュメントオブジェクトモデル (DOM) から削除する。
- レポートパレットや Acrobat の JavaScript デバッガー (Ctrl+J) を使用せずに、スクリプティングエラーを表示しようとする。

第7章：フラグメントの使用

フラグメントについて

フラグメントは、フォームの再利用可能な構成要素です。例えば、フラグメントには住所ブロックや法律文を含めることができます。

フラグメントはフラグメントライブラリで管理され、独立した XDP ファイルとして保存されます。この XDP ファイルは、複数のフォームデザインに挿入できます。スタンドアロンバージョンの Designer では、フラグメントはファイルシステムとフラグメントライブラリに保存されます。Workbench に統合されている Designer では、フラグメントはフラグメントライブラリと LiveCycle リポジトリに保存されます。

フラグメントの使用により、大量のフォームの作成とメンテナンスを簡単に、短時間で実行できます。フォームを作成するときに、必要なフラグメントへの参照を挿入すると、このフラグメントがフォームに表示されます。フラグメント参照には、物理 XDP ファイルを指すサブフォームが含まれます。

すべてのフラグメントには、次の共通の特性があります。

- すべてのフラグメントの作成方法は同じです。
- フラグメントは、現在のファイルにも別のファイルにも作成できます。また、同じファイルに複数のフラグメントを作成できます。

フラグメントを別個のファイルに作成する場合は、フラグメントをファイルシステムまたは LiveCycle リポジトリに保存するためのファイルが生成されます。

- 他のフォーム作成者は、自身のフォームデザインでフラグメントを使用できます。
- Designer でフラグメントソースファイルを編集します。

フラグメントおよびサブフォーム

フラグメントを作成するには、既存のサブフォームを 1 つ選択するか、1 つ以上のオブジェクトを選択します。サブフォームにも、テーブル、テーブル行、ヘッダー行およびフッター行があります。サブフォームにないオブジェクトを選択した場合、フラグメントを作成するときに、そのオブジェクトがサブフォームに含まれます。

複数のフラグメント参照を持つ選択サブフォームセットを使用することもできます。選択サブフォームセットはサブフォームセットオブジェクトの一種です。このオブジェクトでは、条件ステートメントを使用して、サブフォームセット内の特定のサブフォームの表示をカスタマイズできます。条件ステートメントを使用して、配信するフォームに表示するサブフォームをそのセットから指定します。

例えば、セットにあるサブフォームごとに特定の状態に関する情報を指定しておき、目的のフォームのファイル状態に基づいて、表示するサブフォームを決定できます。

スクリプトフラグメント

スクリプトフラグメントには、日付パーサーや Web サービス呼び出しなど、特定のオブジェクトから独立して保存されている再利用可能な JavaScript 関数や値が収められています。このようなフラグメントには、階層パレットに変数の子として表示される単独のスクリプトオブジェクトがあります。フラグメントは、他のオブジェクトのプロパティとなっているスクリプトからは作成できません。このようなスクリプトとして、検証、計算、初期化などのイベントスクリプトがあります。

詳しくは、「スクリプトフラグメントの使用」を参照してください。

関連項目

630 ページの「[フラグメントライブラリパレットメニュー](#)」

251 ページの「[データソースへのフラグメントの連結](#)」

227 ページの「[選択サブフォームセットの使用](#)」

いつフラグメントを使用するか

複数のフォームで使用するフォームコンテンツやスクリプトを特定する場合は、フラグメントを作成します。フラグメントを使用すると、複数のフォーム作成者と共有する要素をすばやく作成または変更できます。企業のロゴは、複数のフォームで使用するコンテンツの好例です。フラグメントファイルで一括変更できるので、ロゴを簡単に変更できます。

関数によって標準の書式設定や特定の種類の計算を定義する場合にも、スクリプトフラグメントを使用すると便利です。

コンテンツの再利用

フラグメントを使用して、複数のフォームデザインでコンテンツを再使用できます。複数のフォームで同じコンテンツの一部を使用する場合、コンテンツをコピーまたは再作成するよりも、フラグメントを使用する方が簡単で効率的です。フラグメントを使用し、それをフォームで参照することで、フォームデザインの中で頻繁に使用する部分を一貫性のあるコンテンツと外観ですべてのフォームに表示できます。

グローバルな更新

フラグメントを使用すれば、1つのファイルを1度変更するだけで、複数のフォームをグローバルに変更できます。フラグメントでコンテンツ、スクリプトオブジェクト、データ連結、レイアウトまたはスタイルを変更すると、そのフラグメントを参照しているすべての XDP フォームに変更が反映されます。PDF フォームでフラグメントを更新するには、Designer でそのフォームを再度保存します。

例えば、多くのフォームで共有される要素として、国名のコンボボックスオブジェクトを含む住所ブロックが考えられます。このコンボボックスオブジェクトの値を更新するには、多数のフォームを開いて変更する必要があります。フラグメントに住所ブロックを含めると、1つのフラグメントファイルを開くだけで変更できます。

共有フォームの作成

フラグメントを使用すると、複数のリソースでフォームの作成を共有できます。スクリプトまたは Designer のその他の高度な機能に精通しているフォーム開発者は、スクリプトまたは動的プロパティを活用するフラグメントを作成、共有することができます。フォーム作成者がこれらのフラグメントを使用してフォームデザインをレイアウトすれば、複数の担当者が作成した複数のフォームの各部分で一貫性のある外観と機能を実現できます。

セキュリティ

Workbench に統合されている Designer では、LiveCycle リポジトリを使用してフラグメントへのアクセスを制限したり、フラグメントを保存および共有したりできます。

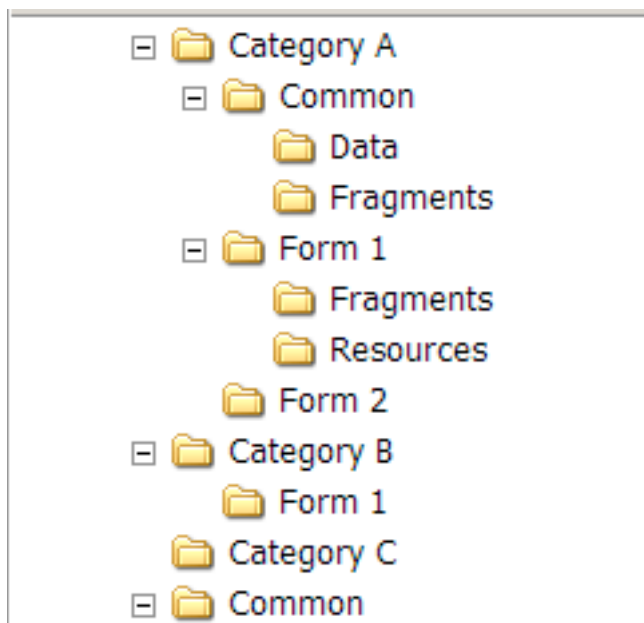
関連項目

252 ページの「[フラグメント参照の挿入](#)」

253 ページの「[フラグメントの編集および埋め込み](#)」

フラグメントの名前付けと整理

フラグメントを簡単に整理するには、フォームのカテゴリ別にフォルダーを作成し、各フォルダー内に共通フォルダーを設定してフラグメントを格納します。共通フォルダー内のフラグメントは、各カテゴリ内のフォーム間で共有されます。カテゴリ別の共通フォルダーとは別個に、すべてのフォームに共通なフラグメントを格納する共通フォルダーを作成することも有効です。例えば、企業のロゴや住所などのフラグメントをこの共通フォルダーに入れます。



フラグメントを含むフォルダー構造の例

各フラグメントには一意の名前を付け、その用途を「説明」ボックスに追加します。

フラグメントを LiveCycle リポジトリに格納した場合、フラグメント情報を参照するには、フラグメントを開いてその情報を表示する以外に方法がありません。フラグメントに適切な名前を付けると、フォーム作成者が必要なフラグメントを見つけやすくなります。

チーム間でコンテンツを有効に再利用するには、フラグメントのカタログを作成してフォーム作成者に配布する方法があります。例えば、フラグメントライブラリ内のすべてのフラグメントを論理的な順序で表示するフォームデザインを作成します。フラグメントのカタログから、すべてのフラグメントを一元的に参照し、必要な情報を入手できます。

フラグメント参照

Designer には、レイアウトエディターおよび階層パレットでフラグメント参照を識別する表示キューが用意されています。これらの表示キューから、フラグメントの動作に関する情報が取得できます。

レイアウトエディターでのフラグメント参照

フラグメントとフラグメント参照の周囲には、オブジェクト境界が表示されます。オブジェクト境界の色は、描画ツールパレットで設定できます。

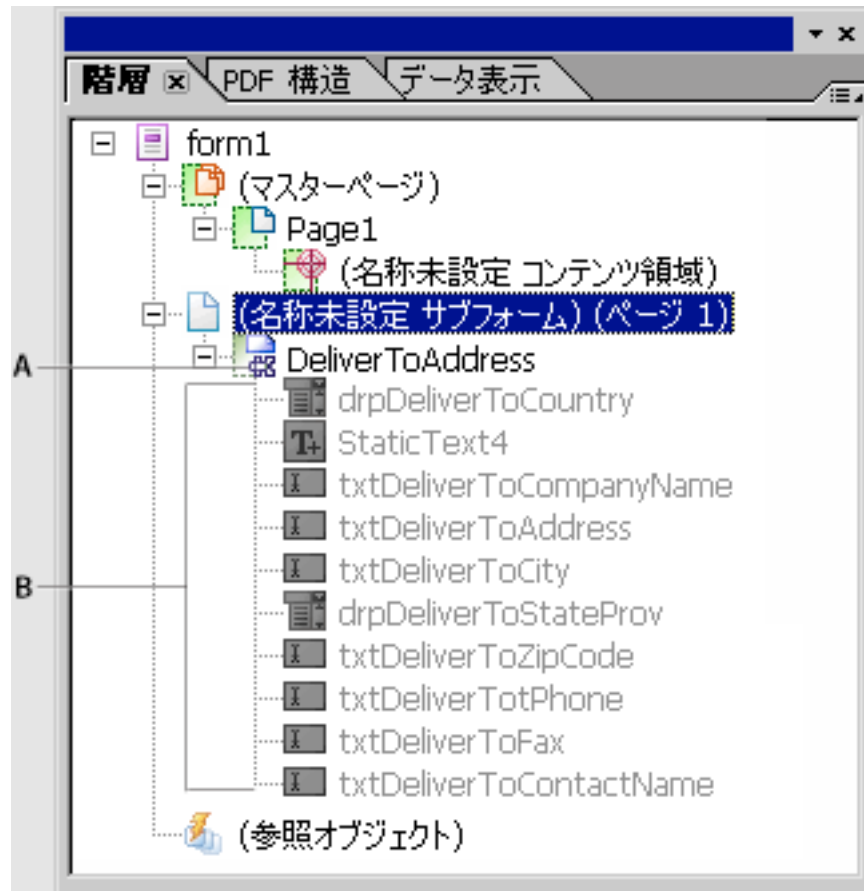
フラグメント参照の左上隅にフラグメントアイコンが表示されます。フラグメントアイコンには、オブジェクトの境界線の色が使用されます。フラグメント参照内のオブジェクトには、灰色の境界線が使用されます。灰色の境界線は、フラグメント参照からは編集できないことを示します。

フラグメント参照内の任意の場所をクリックすると、そのフラグメント参照が選択されます。フラグメント参照上の任意の場所をドラッグすると、そのフラグメント参照が移動します。

フラグメント参照内のオブジェクトは選択できません。例えば、テーブルを含むフラグメント参照の場合、その行や列は選択できません。フラグメント参照内のオブジェクトを選択するには、フラグメントの編集に使用するソースファイルを開きます。

階層パレットでのフラグメント参照

階層パレットでは、フラグメント参照内のオブジェクトは灰色で表示されています。これは、フラグメント参照からは、そのオブジェクトは選択も編集もできないことを示しています。



A. サブフォーム上のフラグメント参照アイコン B. フラグメント内のオブジェクトは灰色表示

階層パレット内では、フラグメント参照とそのコンテンツを、他のフォームオブジェクトと同じように単独のエンティティとして移動できます。ただし、オブジェクトをフラグメント参照内にドラッグすることはできません。

関連項目

- 17 ページの「[描画ツールパレット](#)」
- 20 ページの「[描画ツールを使用するには](#)」
- 10 ページの「[レイアウトエディター](#)」
- 12 ページの「[階層パレット](#)」
- 253 ページの「[フラグメントの編集および埋め込み](#)」

フラグメント参照の解決

フォームデザインを Designer で開くとき、プレビューするとき、または PDF ファイルとして保存するときに、フラグメント参照が解決されます。Workbench では、Forms または Output でフォームデザインを PDF ファイルとして保存することもできます。

フラグメントを更新すると、そのフラグメントを参照しているすべてのフォームデザインも更新されます。実際には、各フォームデザインを Designer で開いたときに変更が反映されます。Designer で開いたフォームデザインもすべて更新されます。

PDF フォームのフラグメント参照は、Designer でそのフォームデザインを開くか保存するときに解決されます。PDF フォームを保存した後に参照先のフラグメントを更新した場合は、その PDF フォームを Acrobat で表示すると、更新前のフラグメントが表示されます。PDF フォームを更新してフラグメントの変更を反映するには、そのフォームを Designer で再度保存します。

関連項目

251 ページの「[フラグメントの作成と挿入](#)」

252 ページの「[フラグメント参照の挿入](#)」

データソースへのフラグメントの連結

フラグメント参照を含むフォームデザインを作成する場合、フラグメント内の個別のオブジェクトを連結することはできません。代わりに、フラグメント参照をデータに連結するか、フラグメントソースファイルで連結を作成します。フラグメントソースファイルで連結を作成する場合は、ホストフォームのフラグメントの連結を「データ連結なし」に設定し、フラグメントソースファイルに設定されているデータ連結に干渉しないようにします。

関連項目

246 ページの「[フラグメントについて](#)」

497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」

フラグメントの作成と挿入

個別の XDP ファイルまたは現在のフォームデザインでフラグメントを作成できます。個別のファイルでフラグメントを作成した場合、選択したオブジェクトをフラグメントファイルへの参照に置き換えることができます。選択したオブジェクトをフラグメント参照に置き換えなかった場合、フラグメントは作成されますが、選択したオブジェクトは変更されず新しいフラグメントには接続されません。選択したオブジェクトが変更されないで、複数の同様なフラグメントを作成する手順が簡単になります。

1 つのファイルで複数のフラグメントを定義する場合、現在のファイルでフラグメントを作成すると便利です。1 つのファイルに複数のフラグメントを作成しておくと、複数のフラグメントを容易に更新できます。特に、これらのフラグメントが互いに似ている場合に便利です。

注意：PDF ファイルをアートワークとして読み込むことで作成したフォームには、フラグメントを作成できません。詳しくは、142 ページの「[PDF 文書のアートワークとしての読み込み](#)」を参照してください。

フラグメントは、フラグメント名によって識別されます。個別のファイルでフラグメントを作成した場合、場所とファイル名を指定することもできます。フラグメント名は、ファイル名と同じにする必要はありません。

フラグメントを作成ダイアログボックスで「OK」をクリックすると、フラグメント名がフラグメントライブラリに表示されます。現在のフォームデザインにフラグメントを作成し、それを XDP ファイルとして保存すると、そのフラグメント名がフラグメントライブラリに表示されます。

フラグメントを作成する場合、既存のサブフォームを選択するか、1 つ以上のオブジェクトを選択できます。サブフォームにないオブジェクトを選択した場合、フラグメントを作成するときに、そのオブジェクトがサブフォームに含まれます。

注意：既存のオブジェクトを選択してフラグメントを作成した後で、そのオブジェクトが新しいサブフォームに含まれていることを反映するように、フラグメントのスクリプト参照を更新します。

メニューを使用してフラグメントを作成するか、選択したオブジェクトをフラグメントライブラリ内にドラッグすることができます。選択部分をフラグメントライブラリにドラッグしてフラグメントを作成した場合、現在のファイルでフラグメントを作成するためのオプションは使用できません。

フラグメントソースファイルを XDP ファイルとして保存します。フラグメントソースファイルを PDF ファイルとして保存した場合、他のフォームでフラグメントを参照することはできません。

LiveCycle アプリケーションでフラグメントを作成してチェックインすると、そのフラグメントはリポジトリに保存され、Workbench の Applications ビューに表示されます。

スクリプトフラグメントは、サブフォームではなく、スクリプトオブジェクトを基に作成します。スクリプトフラグメントの作成は階層パレットで行います。

スクリプトフラグメントの作成と挿入について詳しくは、「スクリプトフラグメントの使用」を参照してください。

フラグメントの作成

- 1 フラグメントに追加するオブジェクトを選択します。1 つのフラグメントまたは複数のオブジェクトを選択できます。
- 2 編集／フラグメント／フラグメントを作成を選択します。
- 3 (オプション)「説明」ボックスにフラグメントの説明を入力します。
- 4 フラグメントを作成する方法を選択します。
 - ・ フラグメントを別個の XDP ファイルに定義してフラグメントライブラリに保存するには、「フラグメントライブラリに新しいフラグメントを作成」を選択します。
 - ・ スタンドアロンバージョンの Designer では、フラグメントファイルを保存するフラグメントライブラリを選択します。
 - ・ Workbench に統合されている Designer では、フラグメントライブラリリストから、フラグメントファイルを保存する LiveCycle アプリケーションフォルダーを選択します。ルートのアプリケーションフォルダーを選択することはできません。
 - ・ (オプション) 別のファイル名を使用する場合は、「ファイル名」ボックスにフラグメントのファイル名を入力します。
 - ・ 現在のフォームデザインで新しいフラグメントを参照するには、「選択内容を新しいフォームフラグメントへの参照と置き換える」を選択し、「OK」をクリックします。

フラグメント参照の挿入

フラグメントを使用すると、複数のフォームでコンテンツを再利用できます。フォームデザインを作成するときに、既存のフラグメントへの参照を挿入すると、このフラグメントがフォームデザインに表示されます。

フラグメント参照を挿入した後、フォームデザインで再配置できます。

Workbench に統合されている Designer を使用している場合は、ルートのアプリケーションフォルダー外にあるフラグメント、または Workbench アプリケーション内にはないフラグメントへの参照を挿入できます。ただし、参照先のフラグメントおよびファイルを現在のアプリケーション内にコピーする必要があります。ファイルは現在のフォームと同じフォルダー内にコピーされ、ファイルへの参照が更新されます。

注意：PDF ファイルをアートワークとして読み込んで作成したフォームには、フラグメントを挿入できません（142 ページの「PDF 文書のアートワークとしての読み込み」を参照してください）。



フラグメントライブラリパレットでフラグメントをプレビューするには、パレットメニューで「プレビューペインを表示」を選択します。

フラグメントライブラリパレットからフラグメントを挿入するには

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- フラグメントをフォームデザインにドラッグします。

注意：フラグメントライブラリパレットから **SubformSet** の子であるサブフォームにフラグメントをドラッグすることはできません。カーソルが変化し、この操作が無効であることを示す警告アイコン（斜線付きの円）が表示されます。

- フラグメントをダブルクリックします。

挿入メニューからフラグメントを挿入するには

- 1 挿入／フラグメントを選択します。
- 2 フラグメントを含むファイルに移動します。
- 3 ファイルを選択します。
- 4 複数のフラグメントを収めたファイルの場合は、目的のフラグメントを選択します。
- 5 「OK」をクリックします。表示ページの中央にフラグメントが表示されます。

関連項目

630 ページの「[フラグメントライブラリパレットメニュー](#)」

329 ページの「[オブジェクトを選択するには](#)」

639 ページの「[フラグメントを作成ダイアログボックス](#)」

663 ページの「[フラグメントを挿入ダイアログボックス](#)」

フラグメントの編集および埋め込み

フラグメントを編集するには、フラグメントライブラリパレットでフラグメントを選択するか、任意のフォームでフラグメント参照を選択します。

編集オプションを選択すると、フラグメントソースファイルが **Designer** で開き、フラグメントが選択されます。

注意： XDP ファイルを編集する場合と同様に、フラグメントのソースファイルを開いて編集することもできます。

フラグメント名の変更や、フラグメント内のフォームオブジェクトの変更ができます。フラグメントソースファイルを保存すると、変更は、そのフラグメントを参照する開いている全フォームにすぐに反映されます。変更を表示するためにフォームを再読み込みする必要はありません。

注意： フラグメントの参照先の XDP ファイルで、階層パレットからフラグメントのサブフォームの名前を変更すると、そのフラグメントへのすべての参照が破棄されます。フラグメント情報ダイアログボックスまたはオブジェクトパレットで、フラグメントメタデータの名前を変更できます。

フラグメントを編集すると、そのフラグメントを参照しているすべてのフォームでは、**Designer** でそのフォームを保存するときに変更が反映されます。PDF フォームを保存した後に参照先のフラグメントを更新した場合は、その PDF フォームを **Acrobat** で表示すると、更新前のフラグメントが表示されます。この PDF フォームに表示されるフラグメントを更新するには、**Designer** で PDF フォームを再度保存します。

フラグメントライブラリパレットからフラグメントを編集するには

- 1 フラグメントライブラリを開き、フラグメントを選択します。
- 2 フラグメントライブラリパネルメニューで「フラグメントを編集」を選択します。フラグメントソースファイルが開きます。
- 3 必要に応じてファイルを編集します。
- 4 フラグメントソースファイルを保存します。

フラグメント参照からフラグメントを編集するには

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - フラグメント参照をダブルクリックします。
 - 編集／フラグメント／フラグメントを編集を選択します。フラグメントソースファイルが開きます。
- 2 必要に応じてファイルを編集します。
- 3 フラグメントソースファイルを保存します。

フラグメント情報を表示するには

フラグメントの作成時に追加されたフラグメント情報を表示できます。フラグメント情報には、フラグメント名、説明、フラグメントソースファイルの場所が含まれます。

フラグメントおよびフラグメント参照についても、同じ情報が表示されます。フラグメントを選択するとこれらの情報を表示または編集できますが、フラグメント参照を選択した場合は表示のみが可能です。

- 1 次の手順でフラグメント情報を表示します。
 - フラグメント参照のフラグメント情報を表示するには、フラグメント参照を選択します。
 - フラグメントのフラグメント情報を表示するには、編集するフラグメントを開きます。
- 2 編集／フラグメント／フラグメント情報を選択します。

フラグメント参照を埋め込みオブジェクトに変換するには

フラグメント参照を変換すると、フラグメントの埋め込まれたコピーとなり、フラグメントのメタデータは削除されます。埋め込みオブジェクトは、フラグメントソースファイルとの関係を保持しません。フラグメントソースファイルは変更されず、フォームで引き続き参照できます。

フラグメントを参照する必要はなくなったが、フォームデザインからオブジェクトを削除しない場合は、フラグメント参照の変換が役立ちます。例えば、既存のフラグメントに基づいて新しいフラグメントを作成する場合、フラグメント参照を変換できます。

参照しているフラグメントにフラグメント参照が1つ以上含まれている場合、選択したフラグメント参照のみを埋め込みできるほか、選択したフラグメントとその下に階層化されたフラグメント参照を埋め込むこともできます。

- 1 埋め込むフラグメント参照を選択します。
- 2 編集／フラグメント／埋め込まれたオブジェクトに変換を選択します。

関連項目

246 ページの「[フラグメントについて](#)」

248 ページの「[フラグメント参照](#)」

上書きおよび分割したフラグメント参照の修復

フラグメントを参照しているフォームデザインでフラグメント参照のプロパティを編集すると、そのフラグメント参照の上書きが作成されます。この変更が影響するのは、現在のフォームのフラグメント参照だけで、フラグメントソースファイルまたは他の参照には影響しません。

フラグメントのサブフォームのオブジェクトパレット、レイアウトパレット、境界線パレット、およびアクセシビリティパレットにあるプロパティに対し、フラグメント参照の上書きを作成できます。スクリプトエディターでは、フラグメント参照のサブフォームで定義したスクリプトの上書きを作成できます。編集できるプロパティには、タブ順序、連結、スクリプト、X 位置と Y 位置、presence や locale などのサブフォームプロパティがあります。

サブフォームセットやテーブルなどの階層化されたオブジェクトを含む、フラグメント参照のオブジェクトのプロパティで上書きを作成することはできません。例えば、テーブルを含むフラグメント参照では、行の網掛けは編集できません。これは、行の網掛けがテーブルのセルのプロパティであるからです。

フラグメント参照の上書きを削除するには

オブジェクトパレット、境界線パレット、レイアウトパレットおよびアクセシビリティパレットのパレットメニューで「フラグメントプロパティの上書きをクリア」オプションを使用すると、フラグメント参照のプロパティから上書きを削除できます。このオプションでは、すべてのパレットで、選択したフラグメント参照からすべての上書きが削除されます。ただし、コンテンツの位置を指定するサブフォームにフラグメントが存在する場合の X プロパティと Y プロパティの上書きは削除されません。

上書きが存在する場合は、フラグメント参照に情報マークが表示され、レポートパレットの「警告」タブにエントリが表示されます。

- 1 上書きのあるフラグメント参照を選択します。
- 2 オブジェクトパレット、境界線パレット、レイアウトパレットおよびアクセシビリティパレットのパレットメニューで、「フラグメントプロパティの上書きをクリア」を選択します。

分割されたフラグメント参照を解決するには

名前の変更、削除、または移動により、Designer でフラグメントまたはフラグメントソースファイルが見つからない場合、フラグメント参照を分割できます。

分割されたフラグメント参照があるフォームを開くと、そのフラグメント参照は、以下の分割されたフラグメントアイコンに置き換えられます。



分割されたフラグメントアイコンは、階層パレットの分割されたフラグメント参照にも表示されます。

- 1 オブジェクトパレットで、「フラグメントソースファイルを開く」をクリックします。
- 2 フラグメントを含むファイルを選択し、「開く」をクリックします。
- 3 「フラグメント名」ボックスで、フラグメントの名前を選択します。

関連項目

246 ページの「[フラグメントについて](#)」

248 ページの「[フラグメント参照](#)」

12 ページの「[パレットについて](#)」

384 ページの「[オブジェクトパレット内のプロパティ](#)」

フラグメントに関するヒント

フラグメントを使用する場合は、次の点に注意してください。

- フラグメントの目的はコンテンツの再利用にあります。変更に伴って一部のフォームで使えなくなるようでは無意味です。汎用のコンテンツであることを確認してください。
- フラグメントの変更時には、次の項目も変更する必要があるかどうかを確認します。
 - フラグメントファイルを含むコレクションに署名するための電子署名。
 - フラグメントまたはホストフォームのスキーマの更新による変更の反映。
 - 変更に伴うエラー発生がないことを確認するためのホストフォームのフォームデザインレイアウト。ホストフォームへの変更を完了するには、追加の作業が必要な場合があります。LiveCycle サーバーを使用してオンデマンドで PDF ファイルを生成しない場合は、各フォームデザインを手動で開き、PDF ファイルとして再度保存することで、フラグメントの変更が表示されます。LiveCycle サーバーを使用して PDF ファイルを生成する場合は、フォームがレンダリングされる前にホストフォームデザインのフラグメント参照が解決されるので、追加の作業は不要です。
- マスターページにフラグメントを挿入する場合は、ページの境界線とフラグメントの間に余白として一定の間隔を保持します。
- レターのボディなどのフラグメントを作成する場合は、段落間の間隔に注意します。段落間の間隔は、段落を含めるスタティックテキストオブジェクトの一部にするか、フラグメントサブフォーム自体の一部にします（フラグメントサブフォームがスタティックオブジェクトの高さを超える場合）。段落フラグメントがボディページ内にフローされると、一定の間隔で配置されます。最も簡単に間隔を追加するには、段落パレットを使用して、スタティックテキストオブジェクト上に間隔を定義します。
- フローティングフィールドを含む段落フラグメントを作成する場合は、その幅が任意のデータ幅に対応できることを確認します。例えば、レターの挨拶部分をページと同じ幅にして、長い名前を収容できるようにします。

第 8 章：オブジェクトの使用

オブジェクトについて

オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。各オブジェクトは、テキストを入力する場所や、フォームを電子メールで送信する際に選択するボタンなど、フォームに何らかの機能を提供します。フォームを作成するには、オブジェクトを選択して、それをフォームデザインボディページまたはマスターページに追加するという作業を行います。オブジェクトライブラリパレットには、利用可能なオブジェクトがすべて入っています。

オブジェクトライブラリパレット内のオブジェクトは、カテゴリにグループ分けされています。標準カテゴリとバーコードカテゴリには、基本となるオブジェクトが入っています。また、カスタムカテゴリでは定義済みのカスタムオブジェクトを選択することができます。

オブジェクトのカテゴリ

大半のオブジェクトは、次の 2 つのいずれかに分類されます。

ボイラープレートオブジェクト（スタティックオブジェクト） データは、スタティックオブジェクトには取得されず、表示されません。これは固定テキストやグラフィック情報の表示に使用されます。例えば、円、線、長方形、画像、テキストなどがスタティックオブジェクトです。スタティックオブジェクトは、あらゆる種類のフォームに使用できます。

フィールドオブジェクト フィールドオブジェクトは、データの取り込みと表示の両方を行います。バーコード、ボタン、チェックボックス、日付 / 時間フィールド、コンボボックス、画像フィールド、リストボックス、パスワードフィールド、署名フィールド、ラジオボタン、およびテキストフィールドなどがあります。テキストフィールドなど一部のフィールドオブジェクトは、インタラクティブフォームであるか、ユーザーによって入力されるか、またはデータソースのマージによって入力されるかに関係なく、すべての種類のフォームで使用できます。一方、コンボボックスのように、インタラクティブフォーム専用を用意されたフィールドオブジェクトもあります。

オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリとバーコードカテゴリでは、以下のオブジェクトを使用できます。

オブジェクト	説明	カテゴリ	用途	詳細情報
バーコード	バーコード識別記号	スタティック	どの種類のフォームでも使用できます。	262 ページの「 バーコードの使用 」
ボタン	コマンドまたはクライアント要求の発行ボタン	フィールド	インタラクティブフォーム専用です。	265 ページの「 ボタンの使用 」
チェックボックス	有効（オン）または無効（オフ）状態を持つオブジェクト	フィールド	どの種類のフォームでも使用できます。	278 ページの「 チェックボックスの使用 」
円	円、楕円または円弧	スタティック	どの種類のフォームでも使用できます。	281 ページの「 円、線、長方形の使用 」
コンテンツ領域	オブジェクト階層で最上位オブジェクトとして機能し、オブジェクトを配置できるフォーム内の領域を定義するコンテナ	スタティック	すべてのマスターページに少なくとも 1 つのコンテンツ領域が定義されます。	283 ページの「 コンテンツ領域の使用 」
日付 / 時間フィールド	日付 / 時間データを受け取って表示する、パターン認識に対応したフィールド	フィールド	どの種類のフォームでも使用できます。	286 ページの「 日付 / 時間フィールドの使用 」
十進数フィールド	小数データを受け取って表示する、パターン認識に対応したフィールド	フィールド	どの種類のフォームでも使用できます。	289 ページの「 十進数フィールドと数値フィールドの使用 」
署名フィールド	ユーザーがフォームに電子署名を添付できるようにするコントロール	フィールド	どの種類のフォームでも使用できます。	314 ページの「 署名フィールドの使用 」

オブジェクト	説明	カテゴリ	用途	詳細情報
コンボボックス	オプションを 1 つ選択できる複数のオプションが用意されたリスト。一度に 1 つのオプションだけが表示されます。	フィールド	インタラクティブフォーム専用です。	292 ページの「 コンボボックスとリストボックスの使用 」
電子メール送信ボタン	指定した電子メールアドレスにフォームデータを返すためのボタン	フィールド	インタラクティブフォーム専用です。	266 ページの「 電子メール送信ボタン 」
Flash フィールド	手順説明ビデオなどの Flash コンテンツを表示するオブジェクト	フィールド	インタラクティブフォーム専用です。	297 ページの「 Flash フィールドの使用 」
HTTP 送信ボタン	HTTP Post を使って、指定した URL にフォームデータを返すためのボタン	フィールド	インタラクティブフォーム専用です。	267 ページの「 HTTP 送信ボタン 」
画像	ロゴやアイコンなどの画像を表示するオブジェクト	スタティック	どの種類のフォームでも使用できます。	299 ページの「 画像フィールドの使用 」
画像フィールド	フォームのレンダリング時に画像をダイナミックに読み込むためのプレースホルダー	フィールド	どの種類のフォームでも使用できます。	299 ページの「 画像フィールドの使用 」
線	実線、破線または点線	スタティック	どの種類のフォームでも使用できます。	281 ページの「 円、線、長方形の使用 」
リストボックス	オプションを 1 つ選択できる複数のオプションが用意されたリスト。一度に複数のオプションが表示されます。	フィールド	インタラクティブフォーム専用です。	292 ページの「 コンボボックスとリストボックスの使用 」
数値フィールド	数値データを受け取って表示する、パターン認識に対応したフィールド	フィールド	どの種類のフォームでも使用できます。	290 ページの「 数値フィールドについて 」
Paper Forms Barcode	ユーザーがインタラクティブフォームで入力したデータをエンコードする 2D バーコード。Paper Forms Barcode を利用するには、組織内で Reader Extensions を実装している必要があります。	フィールド	インタラクティブフォーム専用です。	292 ページの「 コンボボックスとリストボックスの使用 」
パスワードフィールド	英数字のパスワードを受け取り、その表示をマスクするフィールド	フィールド	どの種類のフォームでも使用できます。	309 ページの「 パスワードフィールドの使用 」
印刷ボタン	ユーザーがフォームを印刷するためのボタン	フィールド	インタラクティブフォーム専用です。	268 ページの「 印刷ボタン 」
ラジオボタン	相互に排他的な選択肢のグループのうち 1 つが選択されていることを表すオブジェクト	フィールド	どの種類のフォームでも使用できます。	311 ページの「 ラジオボタンの使用 」
長方形	標準のコーナー、切り込みのあるコーナーまたは丸いコーナーを持った長方形	スタティック	どの種類のフォームでも使用できます。	281 ページの「 円、線、長方形の使用 」
リセットボタン	フォームにあるフィールドのコンテンツをデフォルト値にリセットするためのボタン	フィールド	インタラクティブフォーム専用です。	268 ページの「 リセットボタン 」
サブフォーム	オブジェクトの位置を制御するコンテナ。各ページはサブフォームで、さらにサブフォームを含めることができます。	スタティック	どの種類のフォームでも使用できます。	213 ページの「 サブフォームについて 」
テーブル	フォームフィールドへの入力や、データとのマージで入力できるセルの行と列で構成されたコンテナ	スタティックオブジェクトまたはフィールドオブジェクトにすることができます。	どの種類のフォームでも使用できます。	153 ページの「 テーブルの使用 」
テキスト	読み取り専用テキスト	スタティック	どの種類のフォームでも使用できます。	315 ページの「 テキストの使用 」
テキストフィールド	テキストデータを受け取って表示する、パターン認識に対応したフィールド	フィールド	どの種類のフォームでも使用できます。	319 ページの「 テキストフィールドの使用 」

関連項目

324 ページの「[カスタムオブジェクトの使用](#)」

326 ページの「[カスタムオブジェクトを作成するには](#)」

オブジェクトの種類を変更するには

オブジェクトの種類はいくつかの方法で変更できます。

- ・ フォームデザインのオブジェクトを削除し、オブジェクトライブラリパレットから必要なオブジェクトをドラッグする。
- ・ オブジェクトパレットの「フィールド」タブにある種類リストを使用する（テキストフィールド、数値フィールド、ボタンなどのフィールドオブジェクト用）。
- ・ オブジェクトエディターのリストを使用する（テキストフィールド、数値フィールド、ボタンなどのフィールドオブジェクト用）。
- ・ オブジェクトパレットの「描画」タブにある種類リストを使用する（円、線、テキストなどのスタティックオブジェクト用）。

オブジェクトパレットのタブにある種類リストでオブジェクトの種類を変更するには

- 1 変更するオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「フィールド」タブまたは「描画」タブをクリックし、種類リストから別のオブジェクトの種類を選択します。

オブジェクトエディターの種類リストでオブジェクトの種類を変更するには

- 1 変更するオブジェクトを選択します。オブジェクトエディターがオブジェクトの周囲に表示されない場合は、表示／オブジェクトエディターを選択します。
- 2 種類リストから別のオブジェクトの種類を選択します。

オブジェクトの名前を設定および変更するには

オブジェクトライブラリパレットからフォームデザインにオブジェクトをドラッグすると、そのデフォルト名は、オブジェクト名の後ろにフォームデザインで使用されるこのオブジェクトのコピー数を表す数字が付いたものになります。例えば、フォームデザインにリストボックスが 2 つある場合、そのデフォルト名は `ListBox1` と `ListBox2` になります。この名前の指定は「要素番号」と呼ばれます。

フォームデザインの作成時には、キャプションを以下の場所で確認できます。

- ・ 階層パレット
- ・ オブジェクトパレットの「連結」タブ
- ・ オブジェクトエディター
- ・ オブジェクトにポインターを配置したときに表示されるフォームデザイン上のポップアップツールヒント

オブジェクトの命名と名前変更は、階層パレット、オブジェクトパレットの「連結」タブ、またはオブジェクトエディターで行うことができます。

注意： 演算やスクリプトを作成してフォームを拡張する場合は、オブジェクトの名前にスクリプティングプロパティ、メソッドおよびオブジェクトの名前を使用しないでください。類似する名前を使用すると、計算とスクリプティングが正常に実行されないことがあります。

階層パレットを使用してオブジェクト名を設定または変更するには

- 1 階層パレットで目的のオブジェクトを右クリックし、「オブジェクト名の変更」を選択します。
- 2 新しい名前を入力し、Enter キーを押します。

オブジェクトパレットの「連結」タブを使用してオブジェクトの名前を設定または変更するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「連結」タブをクリックします。
- 3 「名前」ボックスにオブジェクトの新しい名前を入力して、Enter キーを押します。

オブジェクトエディターを使用してオブジェクト名を設定または変更するには

- 1 オブジェクトを選択します。オブジェクトエディターが表示されない場合は、表示／オブジェクトエディターを選択します。
- 2 「名前」ボックスにオブジェクトの新しい名前を入力して、Enter キーを押します。

境界線のスタイルを設定するには

- オブジェクトの境界線のスタイルを設定するには、オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックして、表示方法リストで境界線のスタイルを選択します。
- オブジェクトの外観をカスタマイズするには、表示方法リストで「カスタム」を選択します。
- オブジェクト全体の境界線を定義するには、境界線パレットを使用します。

関連項目

377 ページの「[境界線パレットの境界線プロパティ](#)」

オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 ロケールリストから、次のオプションの 1 つ、またはオブジェクトのローカリゼーション設定用に提供されている代替オプションの 1 つを選択します。
 - フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブに指定されたデフォルトロケールを使用する場合は、「デフォルトロケール」を選択します。
 - ユーザーのコンピューターにあるシステムロケールを使用する場合は、「ビューアのシステムロケール」を選択します。

注意：デザイン時および実行時には、形式設定されたフィールドの値はロケールに依存する形式で表示されます。

関連項目

361 ページの「[ロケール](#)」

スクリプティングと演算をサポートするオブジェクト

データを受け取るオブジェクトに FormCalc または JavaScript の式を関連付けることができます。例えば、スクリプトを使用して、値を計算したり、ユーザーが入力したデータを検証したりすることができます。ほとんどの場合、データの有効性はオブジェクトの属性によって制御されます。複雑な入力（編集）パターンを必要とするオブジェクトの場合は、有効性はオブジェクトパレットの「値」タブのパターン設定によって制御されます。

一部のオブジェクトは、クライアント要求を起動するために使用できます。例えば、実行時にデータソースにクエリを実行するボタンを設定することができます。この場合、要求されたデータ値をフォームの特定のフィールドに返すスクリプトも作成する必要があります。

実行時にオブジェクトのいずれかのイベントが発生したときにコマンド、関数、または計算を実行するスクリプトを作成することができます。イベントは、実行時にユーザーがイベントで指定されたアクションを実行したときに開始されます。スクリプトを定義することで、オブジェクトでサポートされているメソッドのいずれかを呼び出し、プロパティを調査したり、設定したりできます。

円やコンテンツ領域など、イベントをサポートしていないオブジェクトもあります。スクリプティングと演算をサポートするオブジェクト、またはイベントを開始するオブジェクトには、バーコード、ボタン、チェックボックス、日付 / 時間フィールド、コンボボックス、Flash フィールド、画像フィールド、リストボックス、数値フィールド、パスワードフィールド、ラジオボタン、署名フィールド、サブフォーム、テキストフィールドなどがあります。また、サポートされているイベントはオブジェクトに固有のもので、オブジェクトによって異なります。

関連項目

261 ページの「[インタラクティブフォーム内でのオブジェクトの使用](#)」

インタラクティブフォーム内でのオブジェクトの使用

Designer には、データの入力機能とアクセス機能を備えている標準オブジェクトとカスタムオブジェクトが含まれています。演算とスクリプトをサポートしてアクションを起動しデータの取得と操作を処理します。テキストフィールドや描画オブジェクトなどのオブジェクトだけでなく、こうしたオブジェクトをフォームで使用することができます。

また、フォームで頻繁に使用する予定があるプロパティと特性を持ったカスタムオブジェクトを作成することもできます。カスタムオブジェクトを作成するには、プロパティを定義し、スクリプトや演算などの必要な機能を Designer の標準オブジェクトに追加します。カスタムオブジェクトは、オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリまたは自身で作成したカテゴリに保存します。

オブジェクトを選択するときは、オブジェクトによって提供される関数と機能を理解しておく必要があります。オブジェクトを選択するときに考慮する必要がある点がいくつかあります。

- フォームに組み込む必要がある情報の種類を決定し、オブジェクトの特性を把握します。
- フィールドには、データ入力に関する制限と要件のほかに、長さや外観に関する様々な要件とオプションがあることに注意します。
- 表示および取得したいデータのタイプを分析し、どのオブジェクトがこうしたタイプのデータをサポートしているかを判別します。
- 特定のオブジェクトを使用すると、計算を追加し、フィールド上でアクションを起動するスクリプトを作成することができます。特定のオブジェクトに対してどのタイプのスクリプトを使用できるか判別します。

関連項目

257 ページの「[オブジェクトについて](#)」

326 ページの「[カスタムオブジェクトを作成するには](#)」

オブジェクトの使用

バーコードの使用

企業ではバーコードが広範囲に使用されています。特に、在庫管理ではこの使用が見られます。バーコードはフォームを識別する目的に使用することもできますが、接着可能な紙に印刷され、在庫管理用ラベルとして使用されることもよくあります。

Designer は、2 種類のバーコードをサポートしています。

ハードウェアバーコード フォームをサーバーから直接プリンターで印刷する場合に限り、使用します。ハードウェアバーコードの印刷にはプリンターが必要なので、Designer ではフォーム内でハードウェアバーコードを表すためにプレースホルダーが使用されます。

ソフトウェアバーコード Designer で描画することができ、Acrobat および Adobe Reader で表示できます。印刷には任意の汎用プリンターを使用できます。

一部の種類のバーコードには任意のバイナリデータを含めることができます。その他のバーコードは特定の文字またはコードのセットに制限されます。フィールドに検証を実行するなどしてデータがバーコードに適していることを確認することはフォーム作成者の責任です。

関連項目

387 ページの「[サポートされているバーコード形式](#)」

388 ページの「[有効なバーコードテキスト文字](#)」

524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

384 ページの「[「フィールド」タブのバーコードプロパティ](#)」

384 ページの「[「値」タブのバーコードプロパティ](#)」

386 ページの「[「連結」タブのバーコードプロパティ](#)」

バーコード形式

Designer には様々なバーコード形式が用意されていますが、それらは日本語用に準備されたものではありません。サポートされているバーコード形式は、オブジェクトライブラリパレットのバーコードカテゴリに一覧表示されます。特別な種類のプリンターを必要とするバーコードは、Designer のフォームでは影付きの矩形で表されます。

注意：ユーザー入力を受け付けることのできるインタラクティブバーコードは、Acrobat 7.0.5 または Adobe Reader 7.0.5 以降で記入される PDF フォームでのみサポートされます。

Designer では、2 次元の Paper Forms Barcode もサポートされています。詳しくは、303 ページの「[Paper Forms Barcode について](#)」を参照してください。

バーコードの位置と外観

バーコードの関数は、バーコードリーダーという特殊なハードウェアによって読み取られます。バーコードは機械で読み取ることを目的としているので、通常その外観は厳密に制約されます。例えば、特定の種類のバーコードでは、バーの高さと間隔が厳しく制約されます。さらに、バーコードでは一般的に、周囲に最小限の空白（クワイエットゾーン）を設定し、指定されたページの端から一定の間隔を空けることが必要です。

Designer では、配置やクワイエットゾーンの要件を示したり強制したりすることはありません。これらの要件が満たされていることを確認するのはフォーム作成者の責任です。

バーコードのプロパティ

フォームデザインにバーコードを追加した後に、オブジェクトパレットの「フィールド」、「値」および「連結」タブで、バーコードオブジェクトのプロパティを操作することができます。次のプロパティを定義できます。

- テキストの位置
- データの長さ
- バーコードでサポートされているその他のプロパティ（例えば、オプションのチェックサム機能、テキストの配置や埋め込みなど）
- バーコードの表示設定（表示、非表示または隠す）
- 連結データの格納と取得に使用される連結メソッド

バーコードフィールドプロパティを定義するには

バーコードのプロパティを定義するには、目的のバーコードを選択してから、オブジェクトパレットの「フィールド」タブで基本的な特性を設定します。バーコードプロパティの数や種類は、バーコードによって異なります。

- 1 バーコードを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで「値」タブをクリックし、「デフォルト」ボックスにバーコードテキストを入力します。
- 3 「フィールド」タブをクリックし、「テキストの位置」ボックスでテキストの配置を選択します。
PDF 417 形式ではテキストの位置設定はサポートされていません。また、EAN8、EAN13 および UPC-A 形式でサポートされているのは「下に埋め込む」オプションだけです。
- 4 「値」列で、次の手順を 1 つ以上行います。
 - 「データ長」ボックスにデータの長さを入力します。MSI バーコードを定義する場合、データ長は 1 ～ 14 の範囲で指定する必要があります。「MSI」、「UPC-E」、「UPC EAN2」、「UPC EAN5」、「アメリカ合衆国郵便 Zip-5」、「アメリカ合衆国郵便 DPBC」および「アメリカ合衆国郵便標準」バーコード形式のデータ長は固定されていて、変更することはできません。
 - 「チェックサム」ボックスが表示されている場合は、チェックサムを有効または無効にします。デフォルトのチェックサムを有効にする場合は、「自動」を選択します。デフォルトのチェックサムを無効にする場合は、「なし」を選択します。MSI バーコードを定義する場合は、使用可能なチェックサムメソッドの 1 つを選択します。
 - 「終了文字」ボックスまたは「開始文字」ボックスが表示されている場合は、終了文字と開始文字のどちらかまたは両方を入力します。Codabar バーコードを定義する場合は、終了文字および開始文字に使用できる文字は A、B、C、D、a、b、c、d、*、N、T、E、n、t および e です。Code 49 バーコードを定義する場合は、使用できる開始文字は A、1、2、3、4 および 5 です。
 - 「幅比率」ボックスが表示されている場合は、幅比率の値を入力します。Codabar、Code 2 of 5 (Industrial、Interleaved、および Matrix) および Code 3 of 9 の場合は、幅比率の値を 2.2 ～ 3.0 の範囲に設定します。Code 11、Logmars、MSI および Plessey バーコードの場合は、幅比率の値を 2.0 ～ 3.0 の範囲に設定します。

バーコードのデフォルト値を設定するには

- ❖ オブジェクトパレットで「値」タブをクリックし、「デフォルト」ボックスにデフォルト値を入力します。

バーコードのデータ取得方法を管理するには

バーコードのプロパティを定義するには、まず、目的のバーコードを選択する必要があります。バーコードのデータ取得方法をコントロールするプロパティは、オブジェクトパレットの「値」タブで設定します。

 検証パターンのメッセージまたは検証スクリプトのメッセージには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。これにより、確実に有効な値がフィールドに入力されるようになります。

- 1 オブジェクトパレットの「値」タブをクリックし、種類リストから次のいずれかのオプションを選択します。
 - データを入力するかどうかをユーザーが選択できるようにする場合は、「ユーザー定義 - オプション」を選択します。
 - ユーザーにデータの入力を促し、推奨フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 推奨」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - ユーザーにデータの入力を促し、これを必須フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 必須」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - 読み取り専用フィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 読み取り専用」を選択します。ユーザーは計算値を編集できません。
 - 編集可能なフィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 上書き可能」を選択します。入力を処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。
 - 読み取り専用フィールドにして、実行時にマージまたは計算されたうえで表示されるデータ値を表示する場合は、「読み取り専用」を選択します。ユーザーは値を編集できません。
- 2 値が推奨または必須である場合は、「空白のメッセージ」ボックスにプロンプトを入力します。
- 3 値を計算する場合は、スクリプトエディターでオブジェクトに計算スクリプトを追加します。
- 4 (オプション) 上書き可能な計算値について、「上書きメッセージ」ボックスにメッセージを入力します。

バーコードのカスタムデータ連結プロパティを定義するには

連結プロパティを使用すると、企業インフラストラクチャ用のデータを取得するフォームを作成したり、実行時に外部データソースのデータをフォームに埋め込んだりすることができます。データ連結プロパティは、オブジェクトパレットの「連結」タブで設定します。

- 1 バーコードを選択します。
- 2 フォームを開いたときに、データソースに接続できるようにします。
- 3 対応するデータノードにバーコードを連結します。オブジェクトとデータソースを連結する方法について詳しくは、497ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」を参照してください。

バーコードデータの印刷しない文字のエンコーディング

Code 128 バーコードのデータ間で非表示で印刷しない文字をエンコードできます。例えば、Code 128 バーコード標準の一部として接頭辞と区切り文字を表す文字をエンコードできます。アプリケーションはバーコードを読んでから、文字の意味をデコードします。

Code 128 バーコードでは、印刷しない文字として使用するために予約されている文字があります。バーコードでこれらの文字をエンコードするには、Designer の次のメカニズムを使用します。

Code 128 の印刷しない文字	Designer で使用する値
FNC1	[F1]
FNC2	[F2]
FNC3	[F3]
SHIFT	[SH]

Code 128 の印刷しない文字	Designer で使用する値
Change to Subset A	[CA]
Change to Subset B	[CB]
Change to Subset C	[CC]
Start in Subset A	[SA]
Start in Subset B	[SB]
Start in Subset C	[SC]

例えば、Code 128 バーコードの FNC1 をエンコードするには、「00[F1]12345[F1]67890」のように [F1] を挿入します。

ボタンの使用

データの送信、Web サービスの操作、データベースクエリの実行などの操作をユーザーが開始できるようにする場合は、フォームにボタンを追加できます。Designer に組み込まれているクライアント / サーバー通信やスクリプティングのサポートを利用すると、ボタンを介して、次のような操作をフォームから実行できるようになります。

- 計算を実行する
- スクリプトによってデータを処理および操作する
- サーバーにデータを送信する（オプションの添付を含む）
- 送信されるフォームコンテンツに署名する
- 送信されるフォームコンテンツを暗号化する
- ホストへの接続を開く
- サーバーにクライアント要求を送信する
- Web サービス操作を呼び出す
- データソースをクエリする

ユーザーがボタンをクリックすると、ボタンに関連付けられている操作が開始されます。

フォームデザインにボタンオブジェクトを追加してコントロールの種類を「送信」、「実行」に設定すると、オブジェクトパレットの「フィールド」、「送信」および「実行」タブで、キャプションテキストを編集したり、オブジェクトのプロパティを操作したりすることができます。次のプロパティを定義できます。

- ボタンのキャプションを変更する
- ボタンの境界線のスタイルを設定する
- ボタンのハイライトスタイルを指定する
- ボタンを表示、非表示または隠すのいずれかに定義する
- ボタンのロケールを指定する
- 実行時の動作を指定する

Designer には、特定の機能を実現する 4 つのボタンが用意されています。電子メール送信ボタン、HTTP 送信ボタン、印刷ボタン、リセットボタンです。

関連項目

556 ページの「[電子署名の使用](#)」

554 ページの「[XML 暗号化の使用](#)」

390 ページの「[「フィールド」タブのボタンプロパティ](#)」

419 ページの「[「フィールド」タブの HTTP 送信ボタンプロパティ](#)」

414 ページの「[「フィールド」タブの電子メール送信ボタンプロパティ](#)」

268 ページの「[ボタンの処理オプション](#)」

588 ページの「[Web ブラウザーの制約事項への対処](#)」

電子メール送信ボタン

電子メール送信ボタンは、特定のプロパティが既に設定されている標準ボタンで、特殊なオブジェクトパレットが関連付けられています。このオブジェクトを使用すると、ユーザーがクリックしてフォームデータを電子メールで返送するためのボタンを簡単に作成することができます。Adobe Reader では PDF ファイルに変更（フォームデータを含む）を保存することができないので、ユーザーが Adobe Reader 内で記入することが予想されるフォームには、電子メール送信ボタンを用意しておくといでしょう。

電子メール送信ボタンは、次のように設定された標準ボタンオブジェクトと同じ働きをします。

- 「コントロールの種類」が「送信」
- 「送信フォーマット」が「XML データ (XML)」
- 「送信先 URL」が、mailto:name@adobe.com のような mailto: プロトコル
- 「エンコーディング」が「UTF-8」

新規フォームアシスタントを使用してフォームを作成し、返送方法としていずれかの送信オプションを選択した場合は、電子メール送信ボタンが自動的にフォームに挿入されます。

フォームデザインにボタンを追加すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブを使用して、キャプションテキストを編集したり、オブジェクトのプロパティを操作したりできます。次のプロパティを定義できます。

- ボタンのキャプションを変更する
- ボタンの境界線のスタイルを設定する
- ボタンのハイライトスタイルを指定する
- 電子メールメッセージの宛先アドレスと件名を設定する
- 送信されるフォームコンテンツに署名する
- 送信されるフォームコンテンツを暗号化する
- ボタンを表示、非表示または隠すのいずれかに定義する
- ボタンのロケールを指定する

また、階層パレットでボタン名を変更したり、フォントパレットや段落パレットでキャプションのスタイルを設定したりすることもできます。

電子メール送信ボタンを設定するには

フォームデータの送信先となる電子メールアドレスと送信される電子メールの件名を指定できます。

- 1 フォームデザインに電子メール送信ボタンを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「電子メールアドレス」ボックスに送信先の電子メールアドレスを入力します。
- 4 (オプション)「電子メールの件名」ボックスに電子メールの件名を入力します。

- 5 (オプション) 送信データにデータ署名を適用する場合は、「送信時に署名」を選択し、「設定」をクリックして署名のオプション設定を指定します。
- 6 (オプション) フォームコンテンツに XML 暗号化を適用する場合は、「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックして暗号化のオプション設定を設定します。

HTTP 送信ボタン

HTTP 送信ボタンは、特定のプロパティが既に設定されている標準ボタンで、特殊なオブジェクトパレットが関連付けられています。このオブジェクトを使用すると、ユーザーがクリックしてフォームデータを HTTP Post で返送するためのボタンを簡単に作成することができます。

HTTP 送信ボタンは、次のように設定された標準ボタンオブジェクトと同じ働きをします。

- 「コントロールの種類」が「送信」
- 「送信フォーマット」が「URL エンコードデータ (HTTP Post)」
- 「送信先 URL」が http: プロトコル

セキュリティで保護された https: プロトコルを通じてデータを返送する必要がある場合は、標準ボタンオブジェクトを使用することもできます。

フォームデザインにボタンを追加すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブを使用して、キャプションテキストを編集したり、オブジェクトのプロパティを操作したりできます。次のプロパティを定義できます。

- ボタンのキャプションを変更する
- ボタンの境界線のスタイルを設定する
- ボタンのハイライトスタイルを選択する
- データの送信先 URL を指定する
- 送信されるフォームコンテンツに署名する
- 送信されるフォームコンテンツを暗号化する
- ボタンを表示、非表示または隠すのいずれかに定義する
- ボタンのロケールを指定する

また、階層パレットでボタン名を変更したり、フォントパレットや段落パレットでキャプションのスタイルを設定したりすることもできます。

HTTP 送信ボタンを設定するには

- 1 フォームデザインに HTTP 送信ボタンを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、「URL」ボックスに URL プロトコルを入力します。

送信先	使用する URL プロトコル	例
パッケージを FTP サイトに送信する	ftp	ftp://ftp.gnu.org/gnu/GPL
パッケージを Web サーバーに送信する	http	http://myserver/cgi-bin/
セキュリティで保護された Web サーバーにパッケージを送信する	HTTPS	https://myserver/cgi-bin/
パッケージを電子メールアドレスに送信する	mailto	mailto:username@domain.com

注意：データを URL に送信する場合は、ターゲットを絶対的な形式で指定することをお勧めします。相対ターゲットはユーザー環境に基づいて解釈されるので、実行するユーザーによって変化する可能性があります。

- 3 (オプション) 送信データにデータ署名を適用する場合は、「送信時に署名」を選択し、「設定」をクリックして署名のオプション設定を指定します。
- 4 (オプション) フォームコンテンツに XML 暗号化を適用する場合は、「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックして暗号化のオプション設定を設定します。

印刷ボタン

印刷ボタンは、ユーザーがフォームを印刷できる印刷ダイアログボックスを表示するためのボタンです。印刷ボタンは「コントロールの種類」が「標準」に設定されている標準ボタンオブジェクトで、このボタンの click イベントには、ボタンがクリックされたときにフォームを印刷するスクリプトが含まれています。

スタンドアロンバージョンの Designer では、新規フォームアシスタントを使用してフォームを作成し、返送方法としていずれかの印刷オプションを選択すると、自動的に印刷ボタンがフォームに挿入されます。

リセットボタン

リセットボタンは、フォーム上のすべてのフィールドをデフォルト値にリセットします。リセットボタンは「コントロールの種類」が「標準」に設定されている標準ボタンオブジェクトで、このボタンの click イベントには、ボタンがクリックされたときにフィールドの値をリセットするスクリプトが含まれています。

演算またはスクリプトを実行する標準ボタンを挿入するには

- 1 フォームデザインにボタンを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「表示」ボックスからイベントを選択します。例えば、このボタンで計算を実行する場合は、「Click」を選択します。
- 4 スクリプトエディターで、言語リストから言語を選択します。
- 5 スクリプトエディターに演算またはスクリプトを入力します。

ボタンの処理オプション

オブジェクトパレットの「実行」タブでは、ボタンのデータ接続を選択し、このボタンに関連する処理をクライアントコンピューターとサーバーのどちらで行うか、それとも両方で行うかを指定することができます。このデータ接続は、Web サービスのインターフェイスまたは OLEDB データベースサーバーにアクセスする必要があります。これにより、実行時にフォームにデータを返すか、別のところで処理を行います。

データソース（487 ページの「[データソースの操作](#)」を参照してください）を指定したら、実行する操作やクエリを指定できます。実行時にボタンがクリックされると、操作またはクエリを通して、定義したとおりの処理が行われます。

返されたデータをフォームにマージするときに、フォームの構造はリフレッシュせず、既存のオブジェクトに関連するデータだけを上書きするように設定することができます。また、返された XML データに基づいてフォームの構造を更新するように設定することもできます。この場合は、フォームの構造が更新され、処理の完了後に返されたデータがマージされます。

ボタンの処理オプションを定義するには、まず目的のボタンを選択する必要があります。処理オプションは、オブジェクトパレットの「実行」タブで設定します。「実行」タブを表示するには、「フィールド」タブの「コントロールの種類」で「実行」オプションを選択する必要があります。

関連項目

396 ページの「[「実行」タブのボタンプロパティ](#)」

106 ページの「[フォームのプレビューとテスト](#)」

487 ページの「[データソースの操作](#)」

498 ページの「[連結されたフィールドまたはサブフォームを作成するには](#)」

ボタンを使用して Web サービスの操作やデータベースのクエリを実行するには

「実行」ボタンタイプを使用すると、Web サービスに対して処理要求を実行することができます。Web サービスは、フォームの入力情報と出力情報を定義するために送信される操作を処理します。

Web サービスへの接続を追加し、フィールドを作成するか、フィールドを要求メッセージと応答メッセージに連結します。連結されたフィールドでは、入力データを生成してサービスに送信したり、サービスからデータを受け取ったりすることができます。複数のフィールドを使用して要求メッセージを作成できます。応答メッセージで複数のフィールドにデータを埋め込むことができます。操作を処理するには、「実行」ボタンを使用するか、スクリプトを作成します。例えば、Web サービスを使用して、金利、為替レートまたは株価を検索することができます。

- 1 フォームデザインにボタンを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「コントロールの種類」領域で、「実行」を選択します。「実行」タブの設定に従って、Web サービスの操作やデータベースのクエリが実行されます。
- 4 「実行」タブをクリックし、接続リストで「新規データ接続」を選択します。
- 5 「WSDL ファイル」を選択して「次へ」をクリックします。
- 6 「WSDL ファイル」ボックスで、WSDL 文書の URL を入力するか、参照  をクリックし、コンピューターのハードディスクにある文書を探して選択します。WSDL 文書が安全なサーバーに保存されている場合は、認証が必要ダイアログボックスまたはデジタル ID を選択ダイアログボックスが表示されます。
- 7 次のいずれかの操作を実行します。
 - 認証ダイアログボックスに、正しいユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
 - デジタル ID を選択ダイアログボックスで、クライアント証明書として使用する正しいデジタル ID を選択し、「OK」をクリックします。
- 8 呼び出す操作を選択し、「次へ」をクリックします。

右側のウィンドウに、選択した操作の詳細が表示されます。選択した操作が SOAP エンコードでも doc/literal でもない場合は、操作を続行できないという警告がこのウィンドウに表示されます。
- 9 (オプション) クライアント認証を設定するには、次のいずれかの操作を行います。
 - HTTP/HTTPS 認証を定義するには、「HTTP/HTTPS 認証が必要」を選択します。その後で、検証で承認する証明書を設定することもできます。
 - SOAP メッセージ認証を定義するには、「メッセージレベルの認証が必要」を選択します。その後で、「ユーザー名とパスワードを承認する」を選択することもできます。
- 10 「完了」をクリックします。
- 11 実行場所リストで、処理を実行する場所を指定します。
 - クライアントコンピューター上で要求を処理する場合は、「クライアント」を選択します。
 - サーバー上で要求を処理する場合は、「サーバー」を選択します。
 - クライアントコンピューターとサーバーの両方で要求を処理する場合は、「クライアント / サーバー」を選択します。

- 1 オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリをクリックし、フォームデザインに 8 個のボタンオブジェクトをドラッグします。ボタンオブジェクトを追加するときのデフォルトのコントロールタイプは「標準」です。デフォルト設定を受け入れます。
- 2 ボタンに First、Previous、Next、Last、AddNew、Update、Delete、Cancel と名前を付けます。
- 3 「First」という名前の 1 つめのボタンを選択します。
- 4 スクリプトエディターの表示リストで「click」を選択し、言語リストの「JavaScript」を選択してから、実行場所リストで「クライアント」を選択します。
- 5 スクリプトエディターで、次の JavaScript スクリプトを追加します。

```
xfa.sourceSet.DataConnection.first();
```
- 6 次のスクリプトを使用して、残りの 7 つのボタンにステップ 5 を繰り返します。
 - Previous: `xfa.sourceSet.DataConnection.previous();`
 - Next: `xfa.sourceSet.DataConnection.next();`
 - Last: `xfa.sourceSet.DataConnection.last();`
 - AddNew: `xfa.sourceSet.DataConnection.addNew();`
 - Update: `xfa.sourceSet.DataConnection.update();`
 - Delete: `xfa.sourceSet.DataConnection.delete();`
 - Cancel: `xfa.sourceSet.DataConnection.cancel();`
- 7 フォームデザインを保存します。
- 8 「PDF プレビュー」タブでフォームをテストします。このフォームへの入力に Adobe Reader が使用される場合は、Adobe Reader がデータベースにアクセスできるようにするために、Reader Extensions を使用してフォームに使用権限を設定する必要があります。

- 9 様々なボタンをクリックして、各レコードに関連付けられているデータを表示します。この例は、「Last」ボタンを押すと、最後のレコードの ID、パーツ番号、内容および単価が適切なフィールドに表示されることを示しています。

The screenshot shows a data entry form with the following fields and buttons:

ID	7	PART_NO	OS78869
DESCRIPTION	Letter size white paper, 11x17	UNITPRICE	50.23

Buttons: First, Previous, Next, Last, AddNew, Update, Delete, Cancel. A mouse cursor is pointing at the 'Last' button.

データベースからフィールドを埋めるボタンの使用

フォームのフィールド（テキストフィールドや数値フィールドなど）にデータを提供するときには、データベースを使用することができます。

以下の例では、「Retrieve Record」ボタンとリストボックスが、左側のデータ表示パレットに表示されている DataConnection データベースに連結されています。このボタンには、リストボックスフィールドで選択されたパーツ番号に基づいて情報を取得する FormCalc スクリプトも追加されています。取得されたレコードは、「ID」、「PART_NO」、「UNITPRICE」および「DESCRIPTION」の各フィールドに表示されます。

The screenshot shows the Data Connection window with the following components:

- DataConnection_LB** (List Box):
 - OS12324
 - OS23561
 - OS93851
 - OS40681** (Selected)
 - OS83955
 - OS11939
 - OS78869
- RETRIEVE RECORD** button
- Fields:**
 - ID: 3
 - PART_NO: OS93851
 - UNITPRICE: 19.99
 - DESCRIPTION: Clear tape, 12mmx33mm

- 1 データベースに接続します。

- 2 DataConnection の下の UNIT_PRICE、DESCRIPTION、PART_NO および ID の各要素をデータ表示パレットからフォームデザインにドラッグします。フォームデザインにドラッグした各ノードにより、連結されたフィールドが作成されます。
- 3 オブジェクトパレットの「標準」タブをクリックし、フォームデザインにボタンオブジェクトをドラッグします。
- 4 ボタンの新しい名前を入力します。例では RETRIEVE RECORD を使用しています。
- 5 ボタンを選択し、スクリプトエディターの表示リストで「click」を選択してから、言語リストの「FormCalc」を選択し、実行場所リストで「クライアント」を選択します。
- 6 以下の例と同じような FormCalc スクリプトを入力します。このスクリプトは、ユーザーによってボタンがクリックされると、指定されたレコードのデータを取得し、それを対応するフィールドに出力するというものです。

```
//Change the commandType from TABLE to TEXT. TEXT
//is the equivalent of SQL Property
$sourceSet.DataConnection.#command.query.commandType = "text"

//Set the Select Node. Select in this case will be
//whatever SQL Property you want
$sourceSet.DataConnection.#command.query.select.nodes.item(0).value = Concat("Select*from
OfficeSupplies Where ID = ", DataListBox1.rawValue,"")

//Reopen the Data connection
$sourceSet.DataConnection.open()
```
- 7 フォームデザインを PDF ファイルとして保存します。
- 8 「PDF プレビュー」タブを使用してフォームをテストし、スクリプトが予想どおりに動作することを確認します。

ボタンを使用したデータの送信

フォームにはボタンを追加できます。フォームの入力者は、このボタンを使用して、フォームの様々なフィールドに入力した情報やデータを送信できます。オブジェクトライブラリには、フォームデータの送信に使用されるボタンオブジェクトが 3 つ用意されています（ボタン、電子メール送信ボタン、HTTP 送信ボタンの各オブジェクト）。

データ送信に使用するボタンのプロパティを定義するには、レイアウトエディターでボタンオブジェクトを選択し、オブジェクトパレットの「送信」タブまたは「フィールド」タブでオプションを選択します。ボタンオブジェクトを選択した場合は、「送信」タブにデータ送信に関するオプションを表示するために、まず「フィールド」タブの「コントロールの種類」領域で「送信」オプションを選択します。電子メール送信ボタンオブジェクトおよび HTTP 送信ボタンオブジェクトを選択した場合は、データ送信に関するオプションを「フィールド」タブで選択できます。

各送信ボタンには、様々な目的に対応したオプションが用意されています。例えば、データを URL に送信する場合は、ボタンオブジェクトか、HTTP 送信ボタンオブジェクトを使用します。ただし、注釈、PDF 文書、署名などの添付アイテムを含む XML データパッケージ (XDP) としてデータを送信する場合は、ボタンオブジェクトを使用してください。

XML データパッケージ (XDP)、PDF、XML データ (XML) または URL エンコードデータ形式でフォームデータを URL に送信する場合は、ボタンオブジェクトを使用します。ボタンオブジェクトは、注釈、テンプレート、PDF などの添付アイテムを含めるオプションを提供できる唯一のボタンです。ボタンオブジェクトを使用すると、mailto プロトコルを使用してフォームデータを電子メールで送信することもできます。

フォームデータを電子メールアドレス宛てに XDP または PDF 形式で送信する場合は、電子メール送信ボタンオブジェクトを使用します。

フォームデータを URL に URL エンコードデータ形式で送信する場合は、HTTP ボタンオブジェクトを使用します。

これら 3 つのボタンには、送信データに署名したり、送信データを暗号化したりするためのオプションがあります。

関連項目

556 ページの「[電子署名の使用](#)」

554 ページの「[XML 暗号化の使用](#)」

395 ページの「[「送信」タブのボタンプロパティ](#)」

414 ページの「[「フィールド」タブの電子メール送信ボタンプロパティ](#)」

419 ページの「[「フィールド」タブの HTTP 送信ボタンプロパティ](#)」

XML データパッケージ (XDP) を URL に送信するためのボタンを追加するには

- 1 フォームデザインにボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「コントロールの種類」領域で、「送信」を選択します。「送信」タブの設定に従って、データが送信されます。
- 4 「送信」タブをクリックし、「送信先 URL」ボックスに URL プロトコルを入力します。

送信先	使用する URL プロトコル	例
パッケージを FTP サイトに送信する	ftp	ftp://ftp.gnu.org/gnu/GPL
パッケージを Web サーバーに送信する	http	http://myserver/cgi-bin/
セキュリティで保護された Web サーバーにパッケージを送信する	HTTPS	https://myserver/cgi-bin/

注意：データを URL に送信する場合は、ターゲットを絶対的な形式で指定することをお勧めします。相対ターゲットはユーザー環境に基づいて解釈されるので、実行するユーザーによって変化する可能性があります。

- 5 送信形式リストで、「XML データパッケージ (XDP)」を選択します。
これらの形式により、サーバーサイドの処理が開始されます。「XML データパッケージ (XDP)」オプションでは、フォームデータに加えて、オプションとして Forms が実行時にフォームをレンダリングするために必要なフォームデザイン、注釈、署名などの他の情報が送信されます。XDP ファイルにしか添付できないものもあります。
- 6 (オプション) 送信データに署名を適用する場合は、「送信時に署名」を選択し、「設定」をクリックして署名のオプション設定を指定します。
- 7 (オプション) フォームコンテンツに XML 暗号化を適用する場合は、「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックして暗号化のオプション設定を指定します。
- 8 「含む」領域で、添付するアイテムの種類を選択します。
 - レビューコメント、ツールヒント、およびスクリーンリーダーテキストの取り込みに必要な特別なタグを含める場合は、「注釈」を選択します。
 - 添付として送信するときに PDF バージョンのフォーム（署名を含む）を含める場合は、「PDF（署名含む）」を選択します。これが選択されていない場合は、埋め込み PDF ファイルへの参照が含まれます。
 - フォームデザインのコピーを含める場合は、「テンプレート」を選択します。
 - XDP ソースファイルにある <xdp> 要素を含める場合は、「その他」を選択します。複数の要素を指定する場合は、xci, xslt, sourceset のようにカンマで区切ります。カンマの後のスペースは入れても入れなくてもかまいません。
- 9 データエンコーディングリストで、データのエンコーディング方法を 1 つ選択します。
 - UTF-8
 - UTF-16

- Shift_JIS
- Big5
- GBK
- KSC_5601

埋め込み PDF を URL に送信するためのボタンを追加するには

- 1 フォームデザインにボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「コントロールの種類」領域で、「送信」を選択します。「送信」タブの設定に従って、データが送信されます。
- 4 「送信」タブをクリックして、「送信先 URL」ボックスに URL プロトコルを入力します。

送信先	使用する URL プロトコル	例
パッケージを FTP サイトに送信する	ftp	ftp://ftp.gnu.org/gnu/GPL
パッケージを Web サーバーに送信する	http	http://myserver/cgi-bin/
セキュリティで保護された Web サーバーにパッケージを送信する	HTTPS	https://myserver/cgi-bin/
パッケージを電子メールアドレスに送信する	mailto	mailto:username@domain.com

注意：データを URL に送信する場合は、ターゲットを絶対的な形式で指定することをお勧めします。相対ターゲットはユーザー環境に基づいて解釈されるので、実行するユーザーによって変化する可能性があります。

- 5 送信形式リストで、「PDF」を選択します。

この形式では、埋め込み PDF ファイルが含まれたパッケージが送信されます。

この形式は、フォームに署名フィールドが含まれている場合や、フォームのコピーとデータをまとめて Forms で保存するか、別の種類のターゲットサーバーに送信する必要がある場合に選択します。フォームがサーバーサイド処理を開始する場合や、Forms を使用して HTML フォームまたはダイナミックフォームを実行時にレンダリングする場合は、このオプションを選択しないでください。PDF 形式でデータを送信する場合は、Reader Extensions を使用して「保存」使用権限がフォームに適用されていることを確認してください。「保存」使用権限がフォームに適用されていない場合は、データを送信できません。

- 6 (オプション) 送信データに署名を適用する場合は、「フィールド」タブの「送信時に署名」を選択し、「設定」をクリックして署名のオプション設定を指定します。
- 7 (オプション) フォームコンテンツに XML 暗号化を適用する場合は、「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックして暗号化のオプション設定を指定します。

埋め込み PDF を電子メールアドレス宛てに送信するための電子メール送信ボタンを追加するには

- 1 フォームデザインに電子メール送信ボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「電子メールアドレス」ボックスに PDF の送信先の電子メールアドレスを入力します。
- 4 (オプション) 「電子メールの件名」ボックスに電子メールメッセージの件名を入力します。
- 5 送信形式リストで、「PDF」を選択します。

この形式では、埋め込み PDF ファイルが含まれたパッケージが送信されます。

この形式は、フォームに署名フィールドが含まれている場合や、フォームのコピーとデータをまとめて Forms で保存するか、別の種類のターゲットサーバーに送信する必要がある場合に選択します。フォームがサーバーサイド処理を開始する場合や、Forms を使用して HTML フォームまたはダイナミックフォームを実行時にレンダリングする場合は、このオプションを選択しないでください。PDF 形式でデータを送信する場合は、Reader Extensions を使用して「保存」使用権限がフォームに適用されていることを確認してください。「保存」使用権限がフォームに適用されていない場合は、データを送信できません。

- 6 (オプション) 送信データに署名を適用する場合は、「フィールド」タブの「送信時に署名」を選択し、「設定」をクリックして署名のオプション設定を指定します。
- 7 (オプション) フォームコンテンツに XML 暗号化を適用する場合は、「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックして暗号化のオプション設定を指定します。

XML データを URL に送信するためのボタンを追加するには

- 1 フォームデザインにボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「コントロールの種類」領域で、「送信」を選択します。「送信」タブの設定に従って、データが送信されます。
- 4 「送信」タブをクリックして、「送信先 URL」ボックスに URL プロトコルを入力します。

送信先	使用する URL プロトコル	例
パッケージを FTP サイトに送信する	ftp	ftp://ftp.gnu.org/gnu/GPL
パッケージを Web サーバーに送信する	http	http://myserver/cgi-bin/
セキュリティで保護された Web サーバーにパッケージを送信する	HTTPS	https://myserver/cgi-bin/
パッケージを電子メールアドレスに送信する	mailto	mailto:username@domain.com

注意：データを URL に送信する場合は、ターゲットを絶対的な形式で指定することをお勧めします。相対ターゲットはユーザー環境に基づいて解釈されるので、実行するユーザーによって変化する可能性があります。

- 5 送信形式リストで、「XML データ (XML)」を選択します。

この形式では、XML データストリームが送信されます。これにより、データを階層形式で表し、任意の汎用 XML パーサーで解析できるようになります。実行時のユーザーアプリケーションプログラムと通信するサーバーが XML データストリームを受信する必要がある場合は、この形式を選択します。
- 6 (オプション) 送信データに署名を適用する場合は、「フィールド」タブの「送信時に署名」を選択し、「設定」をクリックして署名のオプション設定を指定します。
- 7 (オプション) フォームコンテンツに XML 暗号化を適用する場合は、「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックして暗号化のオプション設定を指定します。
- 8 エンコーディングリストで、データのエンコーディング方法を 1 つ選択します。
 - UTF-8
 - UTF-16
 - Shift_JIS
 - Big5
 - GBK
 - KSC_5601

XML データを電子メールアドレス宛てに送信するための電子メール送信ボタンを追加するには

- 1 フォームデザインに電子メール送信ボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「電子メールアドレス」ボックスに PDF の送信先の電子メールアドレスを入力します。
- 4 (オプション)「電子メールの件名」ボックスに電子メールメッセージの件名を入力します。
- 5 送信形式リストで、「XML データ (XML)」を選択します。

この形式では、XML データストリームが送信されます。これにより、データを階層形式で表し、任意の汎用 XML パーサーで解析できるようになります。実行時のユーザーアプリケーションプログラムと通信するサーバーが XML データストリームを受信する必要がある場合は、この形式を選択します。
- 6 (オプション) 送信データにデータ署名を適用する場合は、「フィールド」タブの「送信時に署名」を選択し、「設定」をクリックして署名のオプション設定を指定します。
- 7 (オプション) フォームコンテンツに XML 暗号化を適用する場合は、「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックして暗号化のオプション設定を指定します。

XML データを電子メールアドレス宛てに送信するためのボタンを追加するには

- 1 フォームデザインにボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「コントロールの種類」領域で、「送信」を選択します。「送信」タブの設定に従って、データが送信されます。
- 4 「送信」タブをクリックし、「送信先 URL」ボックスに次の例に示されているように `mailto` プロトコルを入力します。
`mailto:username@domain.com`
- 5 送信形式リストで、「XML データ (XML)」を選択します。

この形式では、XML データストリームが送信されます。これにより、データを階層形式で表し、任意の汎用 XML パーサーで解析できるようになります。実行時のユーザーアプリケーションプログラムと通信するサーバーが XML データストリームを受信する必要がある場合は、この形式を選択します。
- 6 (オプション) 送信データにデータ署名を適用する場合は、「フィールド」タブの「送信時に署名」を選択し、「設定」をクリックして署名のオプション設定を指定します。
- 7 (オプション) フォームコンテンツに XML 暗号化を適用する場合は、「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックして暗号化のオプション設定を設定します。
- 8 エンコーディングリストで、データのエンコーディング方法を 1 つ選択します。
 - UTF-8
 - UTF-16
 - Shift_JIS
 - Big5
 - GBK
 - KSC_5601

Post メソッドでテキストストリームを送信するためのボタンを追加するには

- 1 フォームデザインにボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。

- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「コントロールの種類」領域で、「送信」を選択します。「送信」タブの設定に従って、データが送信されます。
- 4 「送信」タブをクリックして、「送信先 URL」ボックスに URL プロトコルを入力します。

送信先	使用する URL プロトコル	例
パッケージを FTP サイトに送信する	ftp	ftp://ftp.gnu.org/gnu/GPL
パッケージを Web サーバーに送信する	http	http://myserver/cgi-bin/
セキュリティで保護された Web サーバーにパッケージを送信する	HTTPS	https://myserver/cgi-bin/
パッケージを電子メールアドレスに送信する	mailto	mailto:username@domain.com

注意：データを URL に送信する場合は、ターゲットを絶対的な形式で指定することをお勧めします。相対ターゲットはユーザー環境に基づいて解釈されるので、実行するユーザーによって変化する可能性があります。

- 5 送信形式リストで、「URL エンコードデータ (HTTP Post)」を選択します。

この形式では、POST メソッドを使用して、テキストストリームが指定の Uniform Resource Locator (URL) に送信されます。このテキストストリームは、HTML フォームを処理する FTP サーバー、メールサーバー、Web サーバー、または CGI スクリプトで解析できます。このメソッドを使用するには、URL に **mailto** プロトコルが指定されていない限り、ユーザーが Adobe Reader 6.0 以降または Web ブラウザーでフォームを開く必要があります。

- 6 エンコーディングリストで、データのエンコーディング方法を 1 つ選択します。

- UTF-8
- UTF-16
- Shift_JIS
- Big5
- GBK
- KSC_5601

暗号化されたフォームコンテンツを電子メールアドレス宛てに送信するための電子メール送信ボタンを追加するには

- 1 フォームデザインに電子メール送信ボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「電子メールアドレス」ボックスに送信先の電子メールアドレスを入力します。
- 4 (オプション)「電子メールの件名」ボックスに電子メールの件名を入力します。
- 5 送信形式リストで、「PDF」または「XML データ (XML)」を選択します。
- 6 「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックします。
- 7 データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックスで、必要なオプションを選択します。647 ページの「[データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックス](#)」を参照してください。

暗号化とエンコードが行われたフォームコンテンツを電子メールアドレス宛てに送信するためのボタンを追加するには

- 1 フォームデザインにボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「コントロールの種類」領域で、「送信」を選択します。「送信」タブの設定に従って、データが送信されます。
- 4 「送信」タブをクリックし、「送信先 URL」ボックスに次の例に示されているように `mailto` プロトコルを入力します。
`mailto:username@domain.com`
- 5 送信形式リストで、「PDF」または「XML データ (XML)」を選択します。
- 6 「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックします。
- 7 データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックスで、必要なオプションを選択します。647 ページの「[データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックス](#)」を参照してください。
- 8 エンコーディングリストで、データのエンコーディング方法を 1 つ選択します。
 - UTF-8
 - UTF-16
 - Shift_JIS
 - Big5
 - GBK
 - KSC_5601

暗号化されたフォームコンテンツを URL に送信するための HTTP ボタンを追加するには

- 1 フォームデザインに HTTP 送信ボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「URL」ボックスに、フォームデータを投稿する URL を入力します。
- 4 「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックします。
- 5 データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックスで、必要なオプションを選択します。647 ページの「[データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックス](#)」を参照してください。

チェックボックスの使用

ユーザーに対して、個別にオンまたはオフに設定できる選択肢を提供する場合は、フォームにチェックボックスを追加します。ユーザーはチェックボックスのステータスを切り替えることができます。チェックボックスが選択されている場合、ステータスはオンです。チェックボックスが選択されていない場合のステータスはオフです。チェックボックスは任意の組み合わせでオンまたはオフに設定することができ、選択のプロパティを設定するために使用できます。

フォームデザインにチェックボックスを追加した後に、オブジェクトパレットの「フィールド」、「値」および「連結」タブで、キャプションテキストを編集したり、オブジェクトのプロパティを操作したりできます。次のプロパティを定義できます。

- チェックボックスのキャプションを変更する。351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」を参照してください。
- ボックスの境界線のスタイルを設定する。260 ページの「[境界線のスタイルを設定するには](#)」を参照してください。

- オブジェクトを表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。
- チェックボックスのロケールを指定する。260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。
- チェックボックスのサイズを指定する。
- チェックのスタイルを指定する。
- チェックボックスのステータスを指定する。
- チェックボックスのデフォルトのステータスを選択する。
- チェックボックスがオン、オフまたは中間ステータスのときの値を指定する。
- 連結データの格納および取得のための連結メソッドを指定する。

チェックボックスはスクリプティングと演算をサポートしています。ユーザーにデータ入力を求める場合は、入力が推奨されるのか、それとも必須なのかを定義し、必要に応じてユーザーの注意を促すためのメッセージを設定することができます。ユーザーの入力はすべてスクリプティングを使用して検証できます。

チェックボックスオブジェクトをソースデータファイル内のデータ要素に連結して、フォームのレンダリング時にソースファイルからオンおよびオフ値を引き出すことができます。

チェックボックスのサイズを指定するには

- 1 チェックボックスのサイズを設定するには、オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックします。
- 2 「サイズ」ボックスに、別の値（ポイント）を入力して Enter キーを押します。
入力したサイズによっては、チェックボックスのサイズ調整が必要になることがあります。

チェックのスタイルを指定するには

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 チェックスタイルリストからオプションを 1 つ選択します。
 - チェックのスタイルをデフォルトの「X」マークに設定する場合は、「デフォルト」を選択します。
 - チェックのスタイルをチェックマークに設定する場合は、「チェック」を選択します。
 - チェックのスタイルを丸印に設定する場合は、「円」を選択します。
 - チェックのスタイルを十字マークに設定する場合は、「クロス」を選択します。
 - チェックのスタイルをダイヤ印に設定する場合は、「ひし形」を選択します。
 - チェックのスタイルを四角形に設定する場合は、「四角形」を選択します。
 - チェックのスタイルを星印に設定する場合は、「星形」を選択します。

チェックボックスのステータスを指定するには

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 ステータスの下のオプションを 1 つ選択します。
 - チェックボックスにオン（選択）とオフ（選択解除）の 2 つのステータスを持たせる場合は、「オン / オフ」を選択します。
 - チェックボックスにオン（選択）、オフ（選択解除）、中間（選択も選択解除もされていない）の 3 つのステータスを持たせる場合は、「オン / オフ / 中間」を選択します。それぞれのステータスに対する値は、オブジェクトパレットの「連結」タブで定義する必要があります。

チェックボックスの動作を定義するには

1 オブジェクトパレットの「値」タブをクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。

- データを入力するかどうかをユーザーが選択できるようにする場合は、「ユーザー定義 - オプション」を選択します。
- 読み取り専用フィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 読み取り専用」を選択します。計算結果の値をユーザーが変更することはできません。
- 編集可能なフィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 上書き可能」を選択します。入力を処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。
- 読み取り専用フィールドにして、実行時にマージまたは計算されたうえで表示されるデータ値を表示する場合は、「読み取り専用」を選択します。ユーザーは値を編集できません。

2 値を計算する場合は、スクリプトエディターでオブジェクトに計算スクリプトを追加します。

3 (オプション) 上書き可能な計算値について、「上書きメッセージ」ボックスにメッセージを入力します。

 検証パターンのメッセージまたは検証スクリプトのメッセージには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。これにより、ユーザーが確実に有効な値をフィールドに入力することができます。

チェックボックスのデフォルトのステータスを指定するには

1 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックします。

2 デフォルトリストからステータスを選択します。

- デフォルトのステータスをオンにする場合は、「オン」を選択します。チェックボックスは最初から選択されています。
- デフォルトのステータスをオフにする場合は、「オフ」を選択します。チェックボックスは最初は選択解除されています。
- デフォルトのステータスを中間にする場合は、「中間」を選択します。チェックボックスは最初は灰色で塗りつぶされています。

注意：デフォルトリストは、「種類」オプションが「ユーザー定義」または「読み取り専用」に設定されている場合のみ使用可能です。デフォルトリストで「中間」オプションが使用できるのは、「フィールド」タブの「ステータス」オプションが「オン / オフ / 中間」に設定されている場合だけです。

チェックボックスのステータスに割り当てる値を変更するには

デフォルトのチェックボックスでは、フォームデータ内の値が数値で表されます。デフォルトでは、オンが「1」、オフが「0」、中間が「2」で表されます。このデフォルト値を、データソース内の既存のデータに一致する値や、データファイル内でのチェックボックスの意味を表す言葉に変更することができます。

1 オブジェクトパレットで、「連結」タブをクリックします。

2 「オンの値」ボックスに、データソース内でのチェックボックスのオンステータスの値を指定します。

3 「オフの値」ボックスに、データソース内でのチェックボックスのオフステータスの値を指定します。

4 「フィールド」タブで「オン / オフ / 中間」を選択している場合は、「中間の値」ボックスに、データソース内のチェックボックスの中間ステータスの値を指定します。

チェックボックスのカスタムデータ連結プロパティを定義するには

連結プロパティを使用すると、企業インフラストラクチャ用のデータを取得するフォームを作成したり、実行時に外部データソースのデータをフォームに埋め込んだりすることができます。データ連結プロパティは、オブジェクトパレットの「連結」タブで設定します。

- 1 チェックボックスを選択します。
- 2 フォームを開いたときに、データソースに接続できるようにします。
- 3 対応するデータノードにチェックボックスを連結します。

オブジェクトとデータソースを連結する方法について詳しくは、497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」を参照してください。

関連項目

397 ページの「[フィールド](#)」タブのチェックボックスプロパティ」

399 ページの「[値](#)」タブのチェックボックスプロパティ」

400 ページの「[連結](#)」タブのチェックボックスプロパティ」

524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

円、線、長方形の使用

オブジェクトライブラリパレットの描画オブジェクトを使用すると、フォームをグラフィカルに強調できます。

- 円オブジェクトを使用して、ページの好きな位置に円、楕円、円弧を描画できます。
- 線オブジェクトを使用すると、ページの好きな位置に実線、破線、点線を描画できます。
- 長方形オブジェクトを使用して、角が 90° または角丸の長方形を描くことができます。長方形は、フォームの領域をグラフィカルな枠で囲んだり、別のオブジェクトの背景として長方形の領域を作成したりする場合に使用します。

フォームデザインに描画オブジェクトを追加したら、オブジェクトパレットの「描画」タブで、オブジェクトのプロパティを操作することができます。次のプロパティを定義できます。

- 線のスタイルを変更する。
- 線の太さを変更する。
- 線の色を選択する。
- 円の形状を指定する。
- 円弧の始点と終点を指定する。
- 円または長方形を色またはパターンで塗りつぶす。
- 線の傾きを変更する。
- 長方形の角を変更する。
- オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する。
- オブジェクトを表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。

線のスタイルを変更するには

- 1 円、線、または長方形を選択します。

- 2 オブジェクトパレットのスタイルリストで線のスタイルを選択します。

ズームインするか、線の太さを太くしないと、スタイルを確認できないことがあります。

線の太さを変更するには

- 1 円、線、または長方形を選択します。

- 2 オブジェクトパレットで、スタイルの右側にあるボックスに、新しい太さを入力します。

線を非常に太くする数値（2 センチなど）を入力すると、線を選択しにくくなります。階層パレットを使用して、線を選択します。

線の色を選択するには

- 1 円、線、または長方形を選択します。

- 2 オブジェクトパレットのカラーセクターボタンをクリックして、色を選択します。

円の形状を指定するには

- 1 円を選択します。

- 2 オブジェクトパレットの表示方法リストから、オブジェクトのシェイプを選択します。

- 楕円形を描画する場合は、「楕円」を選択します。
- 円形を描画する場合は、「円」を選択します。
- 円弧を描画する場合は、「円弧」を選択します。

円弧の始点と終点を指定するには

- 1 円弧を選択します。

- 2 オブジェクトパレットの「始点」ボックスに円弧の開始点、「角度」ボックスに円弧の終点を度単位で入力します。

円または長方形を色またはパターンで塗りつぶすには

- 1 円または長方形を選択します。

- 2 オブジェクトパレットの塗りつぶしリストからオプションを選択します。

- 3 その横にあるカラーセクターボタンを使用して、塗りつぶしに使用する色を選択します。

線の傾きを変更するには

線の傾きは変更可能です。これは、描画した線が曲がっている場合に便利です。このオプションで、線をまっすぐにすることができます。

- 1 線を選択します。

- 2 オブジェクトパレットで、表示方法ボタン  の 1 つをクリックします。

長方形の角を変更するには

- 1 長方形を選択します。

- 2 オブジェクトパレットで、「コーナー」ボタンの 1 つをクリックします。

- 3 「半径」ボックスにコーナーの半径を入力します。

関連項目

450 ページの「[「描画」タブの長方形のプロパティ](#)」

401 ページの「[「描画」タブの円プロパティ](#)」

424 ページの「[「描画」タブの線プロパティ](#)」

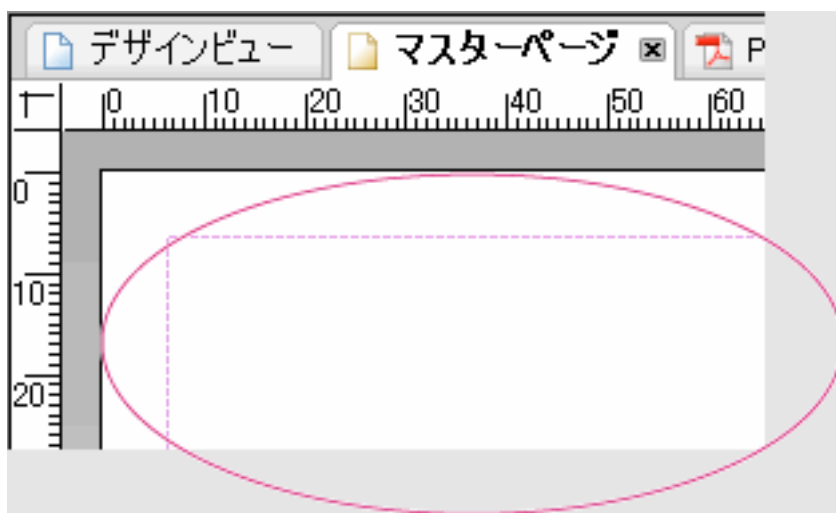
377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

コンテンツ領域の使用

コンテンツ領域では、フォーム内のすべてのオブジェクト（サブフォームを含む）のアンカーとレイアウトを管理できます。

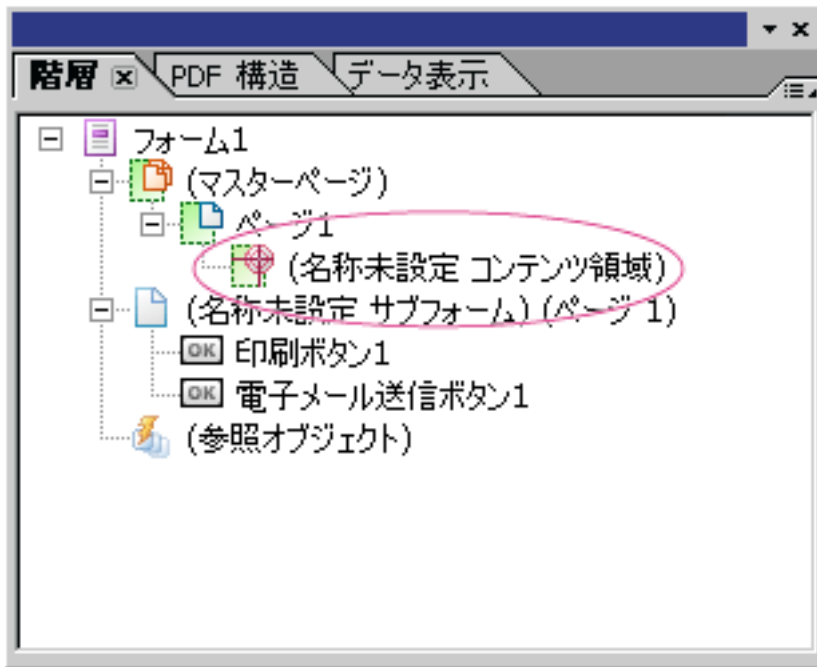
通常、コンテンツ領域のプロパティを変更する必要はありません。ただし、デザインしているフォームにコンテンツをフローするように設定されたサブフォームが含まれている場合は、コンテンツ領域のプロパティに習熟しておくことで、サブフォームの動作を理解しやすくなります。コンテンツ領域のプロパティについて詳しくは、402 ページの「[「コンテンツ領域」タブのコンテンツ領域プロパティ](#)」を参照してください。

コンテンツ領域は、レイアウトエディターの「デザインビュー」タブでは、選択や操作ができません。コンテンツ領域の選択、切り取り、コピー、貼り付け、移動、削除、サイズ変更などが必要な場合は、レイアウトエディターの「マスターページ」タブを使用します。コンテンツ領域の境界は、マスターページ上に長方形で表されます。



コンテンツ領域を区切る長方形

新規フォームにはデフォルトコンテンツ領域があります。コンテンツをフローするよう設定されているサブフォームが含まれたフォームをデザインする場合など、必要であれば、フォームにコンテンツ領域を追加することができます。コンテンツ領域はすべて、階層パレットに表示されます。



デフォルトコンテンツ領域

複数のコンテンツ領域間でのデータフロー

複数のコンテンツ領域が定義されている場合は、フォームをレンダリングするときに、コンテンツ領域からコンテンツ領域にオブジェクトがフローされます。オブジェクトとデータのフローの方向を選択することができます。フローの方向は、タブ移動シーケンス中にオブジェクトがいつフォーカスを受け取るかを同一フォーム内の別のオブジェクトとの相対関係でコントロールします。さらに、マージされたデータをオブジェクトがいつ受け取るかをフォーム内の別のオブジェクトとの相対関係で決定します。あるコンテンツ領域にフローの方向を指定すると、自動的に、そのフォーム内にあるその他のコンテンツ領域すべてのフロー方向も設定されます。

フォームをレンダリングするときに、データのマージ先オブジェクトが1つのコンテンツ領域に収まらないくらい大きくなってしまった場合は、そのオブジェクトが後続のコンテンツ領域に流し込まれます。同様に、フォームをデザインするときには、コンテンツ領域の境界線内に収まるところまでしかコンテンツ領域にオブジェクトを追加できません。コンテンツ領域がいっぱいになると、残りのオブジェクトは次に使用可能なコンテンツ領域にオーバーフローします。オーバーフローを受け取ることができるコンテンツ領域がない場合は、データが正しくレンダリングされません。

コンテンツ領域を選択するには

コンテンツ領域を選択するには、階層パレットまたはレイアウトエディターの「マスターページ」タブを使用します。

❖ 次のいずれかの操作を実行して、コンテンツ領域を選択します。

- レイアウトエディターの「マスターページ」タブをクリックします。コンテンツ領域を区切る青い長方形をクリックします。
- 階層パレットで、目的のコンテンツ領域をクリックします。

コンテンツ領域の名前を変更するには

- 階層パレットでコンテンツ領域名を変更する場合は、目的のオブジェクトを右クリックし、「オブジェクト名の変更」を選択します。新しい名前を入力し、Enter キーを押します。

- オブジェクトパレットでコンテンツ領域名を変更する場合は、コンテンツ領域を選択します。オブジェクトパレットで「名前」ボックスにコンテンツ領域の新しい名前を入力し、Enter キーを押します。要素番号は Designer によって自動的に維持されます。

コンテンツ領域内のサブフォームのタブ順序とデータ入力順序を定義するには

- ❖ オブジェクトパレットのフローの方向リストで、次のオプションのいずれか 1 つを選択します。
 - ページの最上部から始まり、ページの下方向に進んでいくデフォルトのタブ順序およびデータ入力順序を設定するには、「上から下」を選択します。
 - ページの最上部から始まり、ページの右端にある最後のオブジェクトに到達するまで、右方向に進んでいくデフォルトのタブ順序およびデータ入力順序を設定するには、「左から右」を選択します。ページの右端に到達したら、タブ順序およびフローの方向は、そのすぐ下でページの左端にあるオブジェクトに続きます。
 - ページの右側から始まり、ページの左側に進んでいくデフォルトのタブ順序およびデータ入力順序を設定するには、「右から左」を選択します。

コンテンツ領域のコピー、移動、サイズ変更

コンテンツ領域の切り取り、コピー、貼り付け、削除、サイズ変更、再配置は、レイアウトエディターの「マスターページ」タブで行います。以前にマスターページに追加したコンテンツ領域のみを切り取りまたは削除することができます。フォームごとに最低 1 つのコンテンツ領域が必要です。デフォルトのコンテンツ領域を削除することはできません。

コンテンツ領域の切り取り、コピー、貼り付け、または削除を行うには

- ❖ レイアウトエディターの「マスターページ」タブをクリックします。コンテンツ領域を右クリックし、必要なメニューコマンドを選択します。

コンテンツ領域のサイズを変更するには

- ❖ コンテンツ領域のサイズを変更するには、レイアウトエディターの「マスターページ」タブで次のいずれかの操作を実行します。
 - コンテンツ領域の境界線をクリックし、サイズ変更ハンドルをドラッグして、オブジェクトのサイズを変更します。
 - コンテンツ領域を選択してから、レイアウトパレットでサイズの設定を調整します。

コンテンツ領域を移動するには

- 1 レイアウトエディターの「マスターページ」タブで、目的のコンテンツ領域を選択します。
- 2 コンテンツ領域を移動するには、次の方法のいずれかを使用します。
 - コンテンツ領域を新しい位置にドラッグします。
 - レイアウトパレットで X 座標と Y 座標を編集します。
 - 矢印キーを使用して、コンテンツ領域を一方向に少し移動します。

コンテンツ領域の追加

コンテンツ領域を追加するには、挿入メニューまたはオブジェクトライブラリパレットを使用します。コンテンツ領域が追加できるのはマスターページだけです。

メニューを使用してコンテンツ領域を追加するには

- ❖ 表示されているフォームのマスターページで、挿入／標準／コンテンツ領域を選択します。

オブジェクトライブラリパレットを使用してコンテンツ領域を追加するには

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリをクリックします。コンテンツ領域オブジェクトをクリックし、フォームのマスターページにこのオブジェクトを描画します。
- オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリにあるコンテンツ領域オブジェクトを、フォームのマスターページにドラッグします。
- オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリをクリックします。コンテンツ領域オブジェクトをダブルクリックします。

関連項目

259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」

377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

381 ページの「[「マスターページ」タブのマスターページプロパティ](#)」

日付 / 時間フィールドの使用

日付、時間のいずれかまたは両方をフォームに記録する機能を持たせるには、フォームに日付 / 時間フィールドを追加します。日付 / 時間フィールドの値は、あらかじめ定義されているパターンに従って、またフィールドに指定されているロケールに従って、形式設定したり表示したりすることができます。

例えば、ユーザーが日付を入力またはカレンダーウィンドウで選択できるよう、フォームデザインに日付 / 時間フィールドを追加することができます。

フォームデザインに日付 / 時間フィールドを追加した後に、オブジェクトパレットの「フィールド」、「値」および「連結」タブを使用して、キャプションテキストを編集し、オブジェクトのプロパティを操作することができます。次のプロパティを定義できます。

- フィールドのキャプションを変更する。351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」を参照してください。
- フィールドの境界線のスタイルを設定する。260 ページの「[境界線のスタイルを設定するには](#)」を参照してください。
- フィールドを表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。
- フィールドのロケールを指定する。260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。
- フィールドについて comb 形式を指定する。319 ページの「[テキストフィールドの使用](#)」を参照してください。
- Designer で、テキストフィールドの水平方向の長さにより、許容される文字および数字の数が決定されるように指定する。
- 表示パターンを定義する。
- 編集パターン（日付の入力形式）を定義する。
- 表示のデフォルト値を指定する。
- 実行時のプロパティを定義する（例えば、フォームがレンダリングされた日付と時刻を挿入する）。
- 検証パターンを定義する。
- 日付、時刻のいずれかまたは両方を表示するかどうかを選択する。
- データ連結パターンを指定する。
- 連結データの格納および取得のための連結メソッドを指定する。

日付 / 時間フィールドはスクリプティングと演算をサポートしています。ユーザーにデータ入力を求める場合は、入力が推奨されるのか、それとも必須なのかを定義し、必要に応じてユーザーの注意を促すためのメッセージを設定することができます。ユーザーの入力はすべてスクリプティングを使用して検証できます。

関連項目

403 ページの「[フィールド](#)」タブの日付 / 時間フィールドプロパティ」

355 ページの「[フィールド値の形式設定とパターンの使用](#)」

403 ページの「[日付 / 時間フィールド](#)」

404 ページの「[値](#)」タブの日付 / 時間フィールドプロパティ」

406 ページの「[連結](#)」タブの日付 / 時間フィールドプロパティ」

357 ページの「[デフォルト値を指定するには](#)」

524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

現在の日付フィールドを追加するには

日付 / 時間フィールドに、現在の日付を自動表示できます。それには、オブジェクトパレットの「値」タブにある「実行時のプロパティ」オプションを使用します。

注意：現在の日付フィールドを使用すると、ユーザーがフォームを開くたびに、システムの現在の日付を反映して日付が更新されます。

- 1 オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリをクリックし、フォームデザインに日付 / 時間フィールドオブジェクトをドラッグします。
- 2 オブジェクトパレットで「値」タブをクリックし、種類リストから「計算済み - 読み取り専用」を選択します。
- 3 「実行時のプロパティ」オプションを選択します。
- 4 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

日付 / 時間フィールドの動作を定義するには

- 1 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックします。次のオプションのいずれか 1 つを選択します。
 - データを入力するかどうかをユーザーが選択できるようにする場合は、「ユーザー定義 - オプション」を選択します。
 - ユーザーにデータの入力を促し、推奨フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 推奨」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - ユーザーにデータの入力を促し、これを必須フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 必須」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - 読み取り専用フィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 読み取り専用」を選択します。ユーザーは計算値を編集できません。
 - 編集可能なフィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 上書き可能」を選択します。入力を処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。
 - 読み取り専用フィールドにして、実行時にマージまたは計算されたうえで表示されるデータ値を表示する場合は、「読み取り専用」を選択します。ユーザーは値を編集できません。
- 2 値が推奨または必須である場合は、「空白のメッセージ」ボックスにプロンプトを入力します。

- 3 値を計算する場合は、スクリプトエディターでオブジェクトに計算スクリプトを追加します。
- 4 (オプション) 上書き可能な計算値について、「上書きメッセージ」ボックスにメッセージを入力します。



検証パターンのメッセージまたは検証スクリプトのメッセージには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。これにより、ユーザーが確実に有効な値をフィールドに入力することができます。

日付 / 時間フィールドのカスタムデータ連結プロパティを定義するには

連結プロパティを使用すると、企業インフラストラクチャ用のデータを取得するフォームを作成したり、実行時に外部データソースのデータをフォームに埋め込んだりすることができます。データ連結プロパティは、オブジェクトパレットの「連結」タブで設定します。

- 1 日付 / 時間フィールドを選択します。
- 2 フォームを開いたときに、データソースに接続できるようにします。
- 3 対応するデータノードにフィールドを連結します。オブジェクトとデータソースを連結する方法について詳しくは、497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」を参照してください。

日付 / 時刻フィールドに表示するデータを指定するには

日付、時刻、日付と時刻のうちどれを表示するかを選択できます。

- 1 オブジェクトパレットで、「連結」タブをクリックします。
- 2 データ形式リストから、フィールドに表示する内容を指定します。
 - **日付**: オブジェクトに日付を指定します。
 - **時間**: オブジェクトに時間を指定します。
 - **日時**: オブジェクトに日付と時間を指定します。

日付 / 時間フィールドの表示パターンを定義するには

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 パターン / 表示をクリックします。
- 3 種類を選択リストで、日付 / 時間フィールドにデータを表示するために使用するパターンを選択します。

注意: 種類を選択リストにすべての日付、時刻、日付 / 時刻形式を表示するには、最初にオブジェクトパレットの「連結」タブのデータ形式リストから「日付と時間」を選択します。

日付 / 時刻フィールドに comb 形式を指定するには

comb 形式は、日付 / 時間フィールドに追加される数値を、境界線で区切る場合に使用します。

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 「マス目で区切る」を選択して、日付 / 時間フィールドに含まれる各数値を区切る境界線を含めます。
- 3 日付 / 時間フィールド内で、数値をいくつ境界線で区切るか数を入力します。

日付 / 時間フィールドの数字を制限するには

日付 / 時間フィールドに入力できる数字の数を制限する場合は、Designer で、日付 / 時間フィールドの水平方向の長さにより、許容される数字の数が決定されるように指定します。

- ❖ オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、「文字数を表示領域に制限」を選択します。

十進数フィールドと数値フィールドの使用

十進数フィールドは、数値フィールドと非常によく似ています。次の表に、十進数フィールドと数値フィールドの相違点を示します。

フィールド	説明
十進数フィールド	小数形式で数値を表示します。 小数点以上の最大桁数と小数点以下の最大桁数を設定できます。 小数点以上の桁数と小数点以下の桁数で形式設定された値を制限する表示パターンを設定できます。 十進数フィールドのデータ形式を指定することはできません。データは常に小数で格納されます。 形式指定された値には、デフォルトで、基数文字の後に 2 桁が表示されます。
数値フィールド	浮動小数点数または整数の形式で数値を表示します。 小数点以上の最大桁数と小数点以下の最大桁数を設定できません。 データパターンおよびデータ形式（浮動小数点数または整数）を設定できます。 形式設定された値には、基数文字の後に 2 桁しか表示されません。

十進数フィールドは次の場合に使用します。

- 小数点以上の桁数または小数点以下の桁数を設定する場合
- 小数または整数のデータを、切り捨てずに、入力されたとおりの精度で表示する場合（「トレーラーの桁数を制限」オプションを選択解除）

例えば、繰り返しサブフォーム内に Qty というフィールドがあるとします。このサブフォームの最初のインスタンス内にある Qty フィールドの値が 3、次のインスタンス内にある Qty フィールドの値が 3.123 だとすると、

- 「トレーラーの桁数を制限」オプションが最大値 2 に設定されている場合、最初の値は 3 として格納され（小数点以下の 0 が削除されるため）、2 番目の値は 3.12 として格納されます（数値が切り捨てられるため）。
- 「トレーラーの桁数を制限」オプションが選択解除されている場合、どちらの値も、入力されたとおりに格納されます（最初の値は 3 として、2 番目の値は 3.123 として格納されます）。

十進数フィールドのオプションについて詳しくは、数値フィールドの説明を参照してください。十進数フィールドのオプションの多くは、数値フィールドのオプションと同じです。

注意：インタラクティブフォーム内で十進数フィールドオブジェクトを使用するには、Adobe Reader 6.0.3 以降がインストールされている必要があります。

関連項目

- 430 ページの「[「フィールド」タブの数値フィールドプロパティ](#)」
- 408 ページの「[「フィールド」タブの十進数フィールドプロパティ](#)」
- 434 ページの「[数値パターン](#)」
- 351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」
- 355 ページの「[フィールド値の形式設定とパターンの使用](#)」
- 431 ページの「[「値」タブの数値フィールドプロパティ](#)」
- 433 ページの「[「連結」タブの数値フィールドプロパティ](#)」
- 357 ページの「[デフォルト値を指定するには](#)」
- 524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

360 ページの「[データパターンを指定するには](#)」

数値フィールドについて

浮動小数データや整数データ（通貨データを含む）を収集または表示する必要がある場合は、フォームに数値フィールドを追加します。数値フィールドの値は、あらかじめ定義されているパターンに従って、またフィールドに指定されているロケールに従って、形式設定したり表示したりすることができます。

フォームデザインに数値フィールドを追加した後に、オブジェクトパレットの「フィールド」、「値」および「連結」タブを使用して、キャプションテキストを編集し、オブジェクトのプロパティを操作することができます。次のプロパティを定義できます。

- フィールドのキャプションを変更する。351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」を参照してください。
- フィールドの境界線のスタイルを設定する。260 ページの「[境界線のスタイルを設定するには](#)」を参照してください。
- フィールドを表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。
- フィールドのロケールを指定する。260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。
- フィールドについて comb 形式を指定する。319 ページの「[テキストフィールドの使用](#)」を参照してください。
- Designer で、テキストフィールドの水平方向の長さにより、許容される数字の数が決定されるように指定する。
- 表示パターンを定義する。
- 編集パターンを定義する。
- 表示の初期値を指定する。
- 実行時プロパティを定義する（例えば、レンダリングされたページの番号を挿入する）。
- 検証パターンを定義する。
- フィールドを浮動小数点値または整数値に対応させるかどうかを選択する。
- データ連結パターンを指定する。
- 連結データの格納および取得のための連結メソッドを指定する。

数値フィールドはスクリプティングと演算に対応しています。ユーザーにデータ入力を求める場合は、入力が推奨されるのか、それとも必須なのかを定義し、必要に応じてユーザーの注意を促すためのメッセージを設定することができます。ユーザーの入力はすべてスクリプティングを使用して検証できます。

注意：数値フィールドの場合、ユーザーが入力できる値と計算結果の値の最大値は 2,147,483,647 です。これは、コンピュータ上で 32 ビットの符号付き整数型として表現できる最大の数値です。

数値の小数点による配置を定義するには

- 1 段落パレットメニューで「値の編集」を選択します。
- 2 「小数点による配置」 をクリックします。
- 3 隣にあるボックスに、小数点と入力可能領域の右端との間に作成するスペースの量を入力します。
- 4 Enter キーを押します。

重要：Acrobat 6.0.2 および Adobe Reader 6.0.2 では、小数点による配置はサポートされていません。フォームデザインを Acrobat 6.0.2 互換の PDF フォームとして保存する場合は、小数点による配置を有効にしないでください。これを有効にすると、ユーザーが値を編集できなくなります。

十進数フィールドまたは数値フィールドの動作を定義するには

- 1 オブジェクトパレットの「値」タブをクリックし、種類リストから次のいずれかのオプションを選択します。
 - データを入力するかどうかをユーザーが選択できるようにする場合は、「ユーザー定義 - オプション」を選択します。
 - ユーザーにデータの入力を促し、推奨フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 推奨」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - ユーザーにデータの入力を促し、これを必須フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 必須」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - 読み取り専用フィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 読み取り専用」を選択します。ユーザーは計算値を編集できません。
 - 編集可能なフィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 上書き可能」を選択します。入力を処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。
 - 読み取り専用フィールドにして、実行時にマージまたは計算されたうえで表示されるデータ値を表示する場合は、「読み取り専用」を選択します。ユーザーは値を編集できません。
- 2 値が推奨または必須である場合は、「空白のメッセージ」ボックスにプロンプトを入力します。
- 3 値を計算する場合は、スクリプトエディターでオブジェクトに計算スクリプトを追加します。
- 4 (オプション) 上書き可能な計算値について、「上書きメッセージ」ボックスにメッセージを入力します。

十進数フィールドと数値フィールドのカスタムデータ連結プロパティを定義するには

連結プロパティを使用すると、企業インフラストラクチャ用のデータを取得するフォームを作成したり、実行時に外部データソースのデータをフォームに埋め込んだりすることができます。データ連結プロパティは、オブジェクトパレットの「連結」タブで設定します。

- 1 目的のフィールドを選択します。
- 2 フォームを開いたときに、データソースに接続できるようにします。
- 3 対応するデータノードにフィールドを連結します。オブジェクトとデータソースを連結する方法について詳しくは、497ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」を参照してください。

数値フィールドのデータ形式を指定するには

数値フィールドでは、データを浮動小数点数または整数の形式で保存できます。デフォルトは浮動小数点数です。

デフォルトでは、十進数フィールドの数値データには小数点以下2桁までしか保存できません。小数点以下3桁目以降のデータは四捨五入されます。

- 1 オブジェクトパレットで、「連結」タブをクリックします。
- 2 データ形式リストから適切な形式を選択します。
 - 基数文字を含む3つの部分で表される数値形式を指定する場合は、「浮動小数点数」を選択します。
 - 先頭にマイナス記号が付く場合も含め、0から9の数字の並びで表される数値に指定する場合は、「数値 (整数)」を選択します。

十進数フィールドと数値フィールドの入力数値を制限するには

十進数フィールドと数値フィールドに入力できる数字の数を制限する場合は、Designer で、十進数フィールドと数値フィールドの水平方向の長さにより、許容される数字の数が決定されるように指定します。

❖ オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、「文字数を表示領域に制限」を選択します。

JavaScript を使用して十進数フィールドの演算を実行するには

十進数フィールドの演算は、FormCalc を使用して実行できます。ただし、「トレーラーの桁数を制限」オプションを選択解除した場合に、JavaScript で十進数フィールドの演算を実行するには、スクリプトを使用する必要があります。高い精度を維持するため、Designer では十進数フィールドの値を文字列として格納します。スクリプトによって、この文字列が数値であることが十進数フィールドに伝えられます。

例えば、フォームデザインに 3 つの十進数フィールドがあるとします。最初の十進数フィールドの名前を「a」、2 番目の十進数フィールドの名前を「b」、3 番目の十進数フィールドの名前を「Total」とし、「a」と「b」を加算します。

- 1 スクリプトエディターが表示されない場合は、ウィンドウ／スクリプトエディターを選択します。
- 2 (オプション) スクリプトエディターのパレットバーをドラッグして、パレットを大きくします。
- 3 演算に使用する十進数フィールドを選択します。
- 4 表示リストから「calculate」、言語リストから「JavaScript」、実行場所リストから「クライアント」を選択します。
- 5 スクリプトのソースフィールドに、次のスクリプトを入力します。

```
Total.rawValue = Number(a.rawValue) + Number (b.rawValue)
```

- 「Total」は、演算に使用する十進数フィールドの名前です。
- 「a」は最初の十進数フィールドです。
- 「b」は 2 番目の十進数フィールドです。

- 6 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

十進数フィールドと数値フィールドに comb 形式を指定するには

comb 形式は、十進数フィールドと数値フィールドに追加される数値を境界線で区切る場合に使用します。

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 「マス目で区切る」を選択して、十進数フィールドと数値フィールドに含まれる各数値を区切る境界線を含めます。
- 3 十進数フィールドと数値フィールド内で、数値をいくつ境界線で区切るか数を入力します。

コンボボックスとリストボックスの使用

コンボボックスとリストボックスを使用すると、ユーザーがリストの選択項目を 1 つ選択できるようになります。選択項目はテキストで表示されます。作成時に、デフォルトオプションのリストを定義します。

コンボボックス	リストボックス
ユーザーがリストを開くまで、選択項目は 1 つしか表示されません。	一度に表示できるオプションの数は任意に設定できます。リストボックスの表示領域が小さすぎて、リスト内の項目をすべて表示できない場合は、垂直方向にスクロールバーが表示されます。
ユーザーのカスタム入力を受け入れます。	ユーザーのカスタム入力を受け入れません。

チェックボックスやラジオボタンとは異なり、コンボボックスとリストボックスでは、様々なサイズのデータや選択項目セットに対応することができます。ドロップダウン矢印ボタンをクリックすると、選択肢がすべて表示されます。また、リストから選択肢を 1 つクリックすると、項目が 1 つ選択されます。フォームのレイアウトの関係でチェックボックスやラジオボタンが使用できない場合は、リストボックスを使用してオプションを提示することを検討してください。

フォームデザインにコンボボックスまたはリストボックスを追加したら、オブジェクトパレットの「フィールド」、「値」および「連結」タブで、キャプションテキストを編集したり、オブジェクトのプロパティを操作したりできます。次のプロパティを定義できます。

- リストのキャプションを変更する。351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」を参照してください。
- リストの境界線のスタイルを設定する。260 ページの「[境界線のスタイルを設定するには](#)」を参照してください。
- リストを表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。
- リストのロケールを指定する。260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。
- リストに初期の選択肢を追加し、デフォルトの選択項目を設定する。
- 選択肢を昇順または降順にソートする。
- ユーザー入力を有効または無効にする（コンボボックスのみ）。
- リストのロケールを指定する。
- リストの各項目のカスタムデータ値を指定する。
- 連結データの格納および取得のための連結メソッドを指定する。



コンボボックスまたはリストボックスには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

518 ページの「[コンボボックスまたはリストボックスへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

410 ページの「[「フィールド」タブのコンボボックスプロパティ](#)」

412 ページの「[「値」タブのコンボボックスプロパティ](#)」

413 ページの「[「連結」タブのコンボボックスプロパティ](#)」

425 ページの「[「フィールド」タブのリストボックスプロパティ](#)」

427 ページの「[「値」タブのリストボックスプロパティ](#)」

429 ページの「[「連結」タブのリストボックスプロパティ](#)」

524 ページの「[検証パターンメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

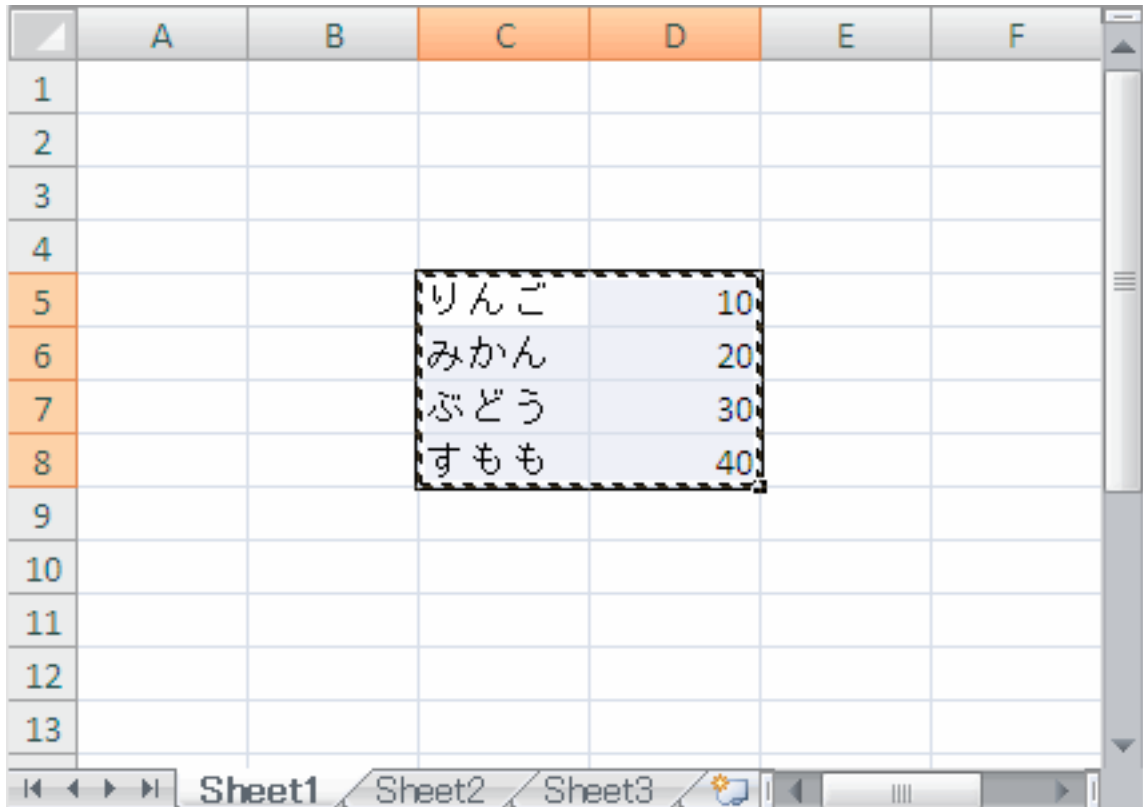
526 ページの「[検証スクリプトメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

コンボボックスまたはリストボックスにオプションのリストを指定するには

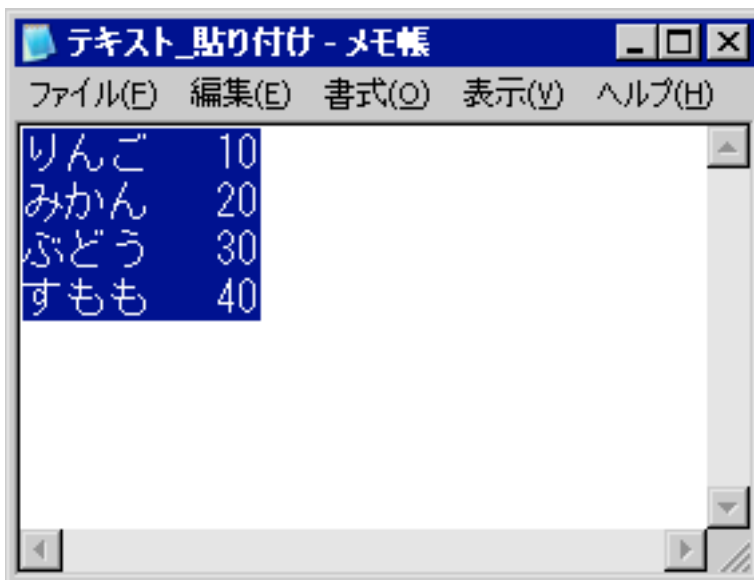
次の 2 つの方法のいずれかを使用して、コンボボックスまたはリストボックスにリスト項目を追加できます。

- Microsoft Excel またはテキストエディターからデータをコピーして追加する
- 「アイテムを追加」ボタンを使用して個別に追加する

コピーするデータはタブ区切り形式にする必要があります。テキストまたはテキストと値のペアをコピーして貼り付けることができます。テキストを貼り付ける場合は、テキストを 1 つの列に配置します。テキストと値のペアを貼り付ける場合は、1 つの列にテキストを配置し、別の列に値を配置します。Excel およびメモ帳でのテキストと値のペアの例を次に示します。リスト項目は常に最初の列に配置します。



	A	B	C	D	E	F
1						
2						
3						
4						
5			りんご	10		
6			みかん	20		
7			ぶどう	30		
8			すもも	40		
9						
10						
11						
12						
13						



りんご	10
みかん	20
ぶどう	30
すもも	40

 コンボボックスには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。

Excel またはテキストエディターから項目を追加するには

- 1 コンボボックスまたはリストボックスを選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - Excel で、コンボボックスまたはリストボックスで使用するテキスト（またはテキストと値のペア）を含むブレッドシートセルをコピーします。
 - テキストエディターで、コンボボックスまたはリストボックスで使用するテキスト（またはテキストと値のペア）をコピーします。
- 3 オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックして、「貼り付け」 をクリックします。
- 4 次のいずれかの操作を行うことができます。
 - リスト内の項目の順番を変更するには、該当する項目を選択し、「上へ移動」 または「下へ移動」 をクリックします。
 - リスト内の項目を削除するには、該当する項目を選択し、「削除」 をクリックします。
 - リストを昇順にソートするには、「昇順に並べ替え」 を選択します。
 - リストを降順にソートするには、「降順に並べ替え」 を選択します。
 - コンボボックスに限り、リストに表示されていない項目をユーザーが指定できるようにできます。この場合は、「カスタムテキストの入力を許可」オプションを選択します。

個別に項目を追加するには

- 1 オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックして、次のいずれかの操作を実行します。
 - 「項目リスト」ボックスの「テキスト」列見出しの下をダブルクリックします。
 - 「追加」 をクリックします。
- 2 先頭のオプションに対応するテキストを入力し、Enter キーを押します。
- 3 次のオプションに対応するテキストを入力し、Enter キーを押します。
- 4 リストに追加したい各オプションについて、手順 3 を繰り返します。
- 5 次のいずれかの操作を行うことができます。
 - リスト内の項目の順番を変更するには、該当する項目を選択し、「上へ移動」 または「下へ移動」 をクリックします。
 - リスト内の項目を削除するには、該当する項目を選択し、「削除」 をクリックします。
 - リストを昇順にソートするには、「昇順に並べ替え」 を選択します。
 - リストを降順にソートするには、「降順に並べ替え」 を選択します。
 - コンボボックスに限り、リストに表示されていない項目をユーザーが指定できるようにできます。この場合は、「カスタムテキストの入力を許可」オプションを選択します。

コンボボックスまたはリストボックスの動作を定義するには

- 1 オブジェクトパレットの「値」タブをクリックします。種類リストから次のオプションの 1 つを選択します。
 - データを入力するかどうかをユーザーが選択できるようにする場合は、「ユーザー定義 - オプション」を選択します。

- ユーザーにデータの入力を促し、推奨フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 推奨」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - ユーザーにデータの入力を促し、これを必須フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 必須」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - 読み取り専用フィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 読み取り専用」を選択します。計算結果の値をユーザーが変更することはできません。
 - 編集可能なフィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 上書き可能」を選択します。入力を処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。
 - 読み取り専用フィールドにして、実行時にマージまたは計算されたうえで表示されるデータ値を表示する場合は、「読み取り専用」を選択します。ユーザーは値を編集できません。
- 2 値が推奨または必須である場合は、「空白のメッセージ」ボックスにプロンプトを入力します。
 - 3 値を計算する場合は、スクリプトエディターでオブジェクトに計算スクリプトを入力します。
 - 4 (オプション) 上書き可能な計算値について、「上書きメッセージ」ボックスにメッセージを入力します。

コンボボックスまたはリストボックスにデフォルトの選択を表示するには

コンボボックスまたはリストボックスには、デフォルトの選択を設定できます。このためには、まず、リストの選択項目を指定する必要があります。

- 1 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックします。
- 2 デフォルトリストから、デフォルトオプションを選択します。

注意：「種類」オプションが「計算済み - 読み取り専用」または「計算済み - 上書き可能」に設定されている場合、デフォルトリストは使用できません。

デフォルトリストのオプションは、オブジェクトパレットの「フィールド」タブにある項目リストに対応します。

コンボボックスまたはリストボックスのカスタムデータ連結プロパティを定義するには

連結オプションを使用すると、企業インフラストラクチャ用のデータを取得するフォームを作成したり、実行時に外部データソースのデータをフォームに埋め込んだりすることができます。データ連結プロパティは、オブジェクトパレットの「連結」タブで設定します。

- 1 コンボボックスまたはリストボックスを選択します。
- 2 フォームを開いたときに、データソースに接続できるようにします。
- 3 対応するデータノードにリストを連結します。オブジェクトとデータソースを連結する方法については、497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」を参照してください。

コンボボックスまたはリストボックスの項目値を指定するには

リストの各項目はリスト項目を表すデータ値に関連付けられています。デフォルトでは、項目のテキストがそのままデータ値になります。この値を変更して、例えばデータソース内の既存の値に一致させることができます。

「項目の値を指定」を最初に選択したときは、デフォルトのデータ値が、1 から始まる整数値に変化します（最初の項目が 1 になります）。「項目の値を指定」オプションを選択解除した場合は、再び項目のテキストがデータ値として使用されます。



リストボックスにデータソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。

- 1 コンボボックスまたはリストボックスのオブジェクトを選択します。

- 2 オブジェクトパレットで、「連結」タブをクリックします。
- 3 「項目の値を指定」を選択します。
- 4 変更したい 1 つ目の値をダブルクリックします。
- 5 新しい値を入力します。
- 6 Enter キーを押して次の値の変更に進むか、変更したい別の値をダブルクリックします。

Flash フィールドの使用

インタラクティブフォームで Flash フィールドオブジェクトを使用して、グラフにグラフィカル表示されている埋め込みビデオやデータなどのリッチメディアコンテンツを配信できます。

注意：Flash フィールドオブジェクトは、Acrobat および Adobe Reader 10.0 以降でサポートされています。フォームプロパティダイアログボックスのデフォルトパネルで、この対象バージョンオプションを忘れずに選択するようにしてください。

Flash フィールドオブジェクトをフォームに追加するとき、SWF ファイルの URL を指定します。ポスター画像として使用する画像ファイルの場所を指定することもできます。ポスター画像ファイルは、Flash フィールドが使用またはアクティベートされていないときにいつでもレンダリングされます。

フォームをオフラインで使用する場合は、Flash データおよびポスター画像ファイルをフォームに埋め込むと、そのフォームのすべてのコンポーネントを使用できます。複数の SWF ファイルと画像ファイルを埋め込むと、PDF ファイルのサイズがかなり大きくなる可能性があることに注意してください。オブジェクトの埋め込みと参照の違いについては、[この記事を参照してください](#)。

フローティングウィンドウでリッチメディアコンテンツを表示できるほか、ビデオ、サウンド、画像、テキスト、XML、SWC ファイルなどの Flash アセットを追加できます。Flash アセットは、埋め込みまたは参照、あるいはこの両方が可能です。また、Flash フィールドを、XML スキーマや WSDL ファイルなどのコンテンツプロバイダーに連結することもできます。

さらに、リッチメディアコンテンツをどのようにフォームに表示するかをさまざまな角度から指定できます。例えば、オブジェクトパレットで次のプロパティを定義できます。

- フィールドのキャプションを変更する。351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」を参照してください。
- フィールドの境界線のスタイルを設定する。260 ページの「[境界線のスタイルを設定するには](#)」を参照してください。
- フィールドを表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。
- フィールドのロケールを指定する。260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。
- フィールドを配置する。377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」を参照してください。377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

SWF ファイルの URL を指定するには

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - SWF ファイルの場所がわかっている場合は、「URL」ボックスにファイルの URL を入力して、Enter キーを押します。
 - SWF ファイルの場所を参照する場合は、「URL」ボックスの右側にある参照ボタンをクリックし、SWF ファイルを選択して「開く」をクリックします。

Flash データをフォームに埋め込むには

- ❖ オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「データを埋め込む」を選択します。

注意：Paper Forms Barcode オブジェクトを使用している場合は、Flash フィールドオブジェクトが含まれていないコレクションをそのバーコードに適用していない限り、「データを埋め込む」オプションを選択しないでください。Flash データは、Paper Forms Barcode オブジェクトには大きすぎて収容できません。

ポスター画像の場所を指定するには

BMP、JPG、GIF、PNG、TIFF のいずれかのファイルをポスター画像として使用できます。

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - ポスター画像ファイルの場所がわかっている場合は、「ポスター」ボックスにファイルの URL を入力して、Enter キーを押します。
 - 画像ファイルの場所を参照する場合は、「ポスター」ボックスの右側にある参照ボタンをクリックし、画像ファイルを選択して「開く」をクリックします。

ポスター画像を埋め込むには

- ❖ オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「ポスター画像を埋め込む」を選択します。

注意：Paper Forms Barcode オブジェクトを使用している場合は、Flash フィールドオブジェクトが含まれていないコレクションをそのバーコードに適用していない限り、「ポスター画像を埋め込む」オプションを選択しないでください。ポスター画像ファイルのサイズは、Paper Forms Barcode オブジェクトには大きすぎて収容できません。

リッチメディアコンテンツをフローティングに表示するには

- 1 オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「フローティングウィンドウで Flash コンテンツを表示」を選択します。
- 2 フローティングウィンドウのサイズと位置を設定するには、プロパティリストで必要に応じて値を入力します。値はポイント単位で指定します（417 ページの「[フィールド](#)」タブの [Flash フィールドプロパティ](#)」を参照してください）。

アセットを追加するには

- 1 「編集」をクリックします。
- 2 追加 (+) をクリックします。
- 3 追加のアセットを参照ダイアログボックスで、追加するファイルを選択して「開く」をクリックします。
- 4 (オプション) ファイルを埋め込むには、「アセットを埋め込む」を選択します。
- 5 「OK」をクリックします。

追加のアセットの埋め込みを解除するか、アセットを削除するには

- 1 「編集」をクリックします。
- 2 追加のアセットダイアログボックスで、次のいずれかの操作を実行します。
 - アセットの埋め込みを解除するには、リストでアセットを選択し、「アセットを埋め込む」の選択を解除します。
 - アセットを削除するには、リストでアセットを選択し、削除 (-) をクリックします。
- 3 「OK」をクリックします。

Flash フィールドのカスタムデータ連結プロパティを定義するには

- 1 Flash フィールドを選択します。
- 2 フォームを開いたときに、データソースに接続できるようにします。
- 3 対応するデータノードにチェックボックスを連結します。オブジェクトとデータソースを連結する方法については、497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」を参照してください。

関連項目

417 ページの「[フィールド](#)」タブの [Flash フィールドプロパティ](#)」

419 ページの「[連結](#)」タブの [Flash フィールドプロパティ](#)」

画像フィールドの使用

Designer には 2 種類の画像オブジェクトがあります。

- 画像オブジェクトを使用すると、ユーザーには編集できない読み取り専用画像を追加することができます。このオブジェクトは、フォームの見た目に磨きをかけるのに役立ちます。この種の画像オブジェクトについて詳しくは、301 ページの「[画像の使用](#)」を参照してください。
- 画像フィールドオブジェクトを使用すると、インタラクティブフォーム内で変更可能な画像を追加することができます。

画像フィールドは外部データソースに連結したり、スクリプトを関連付けたりすることができます。画像フィールドは、連結を通じた外部画像データのマージをサポートしています。データソースに画像フィールドの値が含まれている場合は、その画像がフォームにレンダリングされます。この機能を利用して、画像をダイナミックに選択し、読み込むことができます。例えば、ユーザーがカタログからアイテムを選べるようなフォームを作成し、スクリプティングを使用して、各アイテムの写真が表示されるようにすることができます。フォームに空の画像フィールドが含まれている場合は、どの画像をフォームに表示するかを画像へのパスで表します。

注意：フォームを Acrobat および Adobe Reader 7.0.5 以降で開くときには、画像フィールドオブジェクト内のインタラクティブ画像を更新することができます。フォームを Acrobat 6.0.2 および Adobe Reader 6.0.2 で開くときには、インタラクティブ画像は読み取り専用になり、更新できません。ただし、Forms で作成されたインタラクティブな PDF フォームまたは HTML フォームのスクリプティングを利用すれば、ユーザーが同じフォームを別の画像とマージさせて再要求することができます。

画像フィールドオブジェクトでは、以下のファイル形式がサポートされています。

Windows ビットマップ (BMP) Designer は BMP 画像をサポートしています。

Joint Photographic Experts Group variations (JPG) Designer はデジタルカメラの EXIF (Exchangeable Image File: エグジフファイル) データなどの JPG 画像をサポートしています。

Graphics Interchange Format (GIF) Designer は GIF 画像をサポートしていますが、アニメーション GIF ファイルはサポートしていません。また、Designer は透明部分を含んだ GIF ファイルをサポートしているので、フォーム上に画像をオーバーレイできます。

Portable Network Graphics (PNG) Designer は PNG ファイル内の透明色をサポートしているので、フォーム上で画像をオーバーレイできます。

Tagged Image File (TIF) Designer は、モノクロ (1 カラーコンポーネント、深度 1 ビット)、グレースケール (1 カラーコンポーネント、深度 8 ビット)、RGB (3 カラーコンポーネント、深度 8 ビット)、およびパレット (1 カラーコンポーネント、深度 1、2、4、8 ビット) の TIF 画像に対応しています。

実行時に挿入される初期 (デフォルト) 画像は、ファイル名または URL (Uniform Resource Locator) で指定します。最初は、画像はリンクされています。つまり、画像はフォームとは別に格納され、フォームが開かれたときに表示されます。別の方法として、フォームの作成時に画像データをフォームに埋め込むこともできます。

重要：画像をリンクするのは、機密事項を含むビジネスデータを保護するうえで安全な方法ではありません。画像データを慎重に取り扱う必要がある場合は、フォームに埋め込んでください。また、安全な HTTPS 接続と URL を組み合わせて使用することもできます。ただし、HTTPS が画像データの送信を保護できるのは、データの送信中だけなので、画像へのアクセスは保護されません（つまり、認証が行われません）。

フォームデザインに画像フィールドを追加した後に、オブジェクトパレットを使用して、オブジェクトのプロパティを操作することができます。次のプロパティを定義できます。

- フィールドのキャプションを変更する。351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」を参照してください。
- フィールドの境界線のスタイルを設定する。260 ページの「[境界線のスタイルを設定するには](#)」を参照してください。
- 画像を表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。
- フィールドのロケールを指定する。260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。
- 画像をフォームに埋め込む。
- 画像サイズを拡大 / 縮小する。
- 初期（デフォルト）の画像ファイルへのパスを指定する。または連結画像データの格納や取り出しを行う連結メソッドを指定する。

データファイルに画像ファイルまたは画像ファイルへのリンクが入っていると、画像はフォームのレンダリング時にのみ表示され、フォームのデザイン時には表示されません。また、フォームをオフラインで使用する場合は、フォームのすべてのコンポーネントを使用できるよう、オブジェクトパレットの「フィールド」タブにある「画像データを埋め込む」オプションを選択してください。

関連項目

588 ページの「[Web ブラウザーの制約事項への対処](#)」

421 ページの「[「フィールド」タブの画像フィールドプロパティ](#)」

423 ページの「[「連結」タブの画像フィールドプロパティ](#)」

421 ページの「[「フィールド」タブの画像フィールドプロパティ](#)」

初期（デフォルト）のリンク先画像を指定するには

1 オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- 画像ファイルの場所がわかっている場合は、「URL」ボックスに画像ファイルの URL を入力して、Enter キーを押します。
- 画像ファイルの場所を参照する場合は、「URL」ボックスの右側にある参照ボタン  をクリックし、挿入対象の画像ファイルを選択して「開く」をクリックします。

注意：ユーザーがフォームを開いたときに、リンクされた画像が相対パスに基づいて取り出されるようにするには、対象の画像ファイルをユーザーがアクセスできるフォルダーに保存する必要があります。Forms が使用可能な場合は、Forms を基準とした相対パスにする必要があります。

フォーム作成時にフォームに画像データを埋め込むには

❖ オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、「画像データを埋め込む」を選択します。

フォームに画像を埋め込むと、画像情報のコピーがフォームに保存されます。フォームのレンダリング時にダイナミックに画像を読み込む画像フィールドでは、「画像データを埋め込み」オプションを選択しないでください。画像の埋め込みとリンクの違いについては、[この記事を参照してください](#)。

注意：Paper Forms Barcode オブジェクトを使用している場合は、画像フィールドが含まれていないコレクションをそのバーコードに適用していない限り、「画像データを埋め込む」オプションを選択しないでください。画像データは、Paper Forms Barcode オブジェクトには大きすぎて収容できません。

画像のサイズを設定するには

1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。

2 サイズ調整リストで次のいずれかのオプションを選択し、画像が読み込まれたときの動作を指定します。

- 画像の縦横比を維持したまま、オブジェクトの画像サイズを変更する場合は、「画像の縦横の比率を維持する」を選択します。
- オブジェクトの寸法に合わせて画像のサイズを変更する場合は、「長方形の大きさに合わせる」を選択します。画像の縦横比は維持されません。
- 画像の実際のサイズを維持する場合は、「オリジナルサイズを使用」を選択します。画像のサイズは変更されません。

画像フィールドのカスタムデータ連結プロパティを定義するには

連結オプションを使用すると、企業インフラストラクチャ用のデータを取得するフォームを作成したり、実行時に外部データソースのデータをフォームに埋め込んだりすることができます。

1 画像フィールドを選択します。

2 フォームを開いたときに、データソースに接続できるようにします。

3 対応するデータノードにフィールドを連結します。オブジェクトとデータソースを連結する方法については、497ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」を参照してください。

画像の使用

フォームの見た目に磨きをかける必要がある場合は、フォームに画像を追加することを検討してください。画像オブジェクトは、ロゴ、アイコン、グラフィック、写真などの画像を入れるのに使用します。画像オブジェクトを使用すると、ユーザーには編集できないグラフィック要素を追加できます。画像オブジェクトでは、以下のファイル形式がサポートされています。

Windows ビットマップ (BMP) EPS (Encapsulated PostScript) Joint Photographic Experts Group variations (JPG) Designer はデジタルカメラの EXIF (Exchangeable Image File: エグジフファイル) データなどの JPG 画像をサポートしています。

Graphics Interchange Format (GIF) Designer は GIF 画像をサポートしていますが、アニメーション GIF ファイルはサポートしていません。また、Designer は透明部分を含んだ GIF ファイルをサポートしているので、フォーム上に画像をオーバーレイできます。

Portable Network Graphics (PNG) Designer は PNG ファイル内の透明色をサポートしているので、フォーム上で画像をオーバーレイできます。

Tagged Image File (TIF) Designer は、モノクロ (1 カラーコンポーネント、深度 1 ビット)、グレースケール (1 カラーコンポーネント、深度 8 ビット)、RGB (3 カラーコンポーネント、深度 8 ビット)、およびパレット (1 カラーコンポーネント、深度 1、2、4、8 ビット) の TIF 画像に対応しています。

挿入する画像は、ファイル名または URL（Uniform Resource Locator）を使用して指定できます。デフォルトでは画像はリンクされています（つまり、フォームとは別に保存されていて、フォームが開かれるときに表示されます）。画像をフォームに埋め込むこともできます。

重要：画像をリンクするのは、機密事項を含むビジネスデータを保護するうえで安全な方法ではありません。画像を慎重に取り扱う必要がある場合は、フォームに埋め込んでください。また、安全な HTTPS 接続と URL を組み合わせて使用することもできます。ただし、HTTPS が画像データの送信を保護できるのは、データの送信中だけなので、画像へのアクセスは保護されません（つまり、認証が行われません）。

フォームデザインに画像オブジェクトを追加した後に、オブジェクトパレットを使用して、オブジェクトのプロパティを操作することができます。以下のプロパティを定義できます。

- 画像をフォームに埋め込む。
- 画像サイズを拡大 / 縮小する。
- 画像を表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。

関連項目

423 ページの「[「描画」タブの画像プロパティ](#)」

588 ページの「[Web ブラウザーの制約事項への対処](#)」

リンクする画像を指定するには

❖ オブジェクトパレットで、次のいずれかの方法を使用します。

- 画像ファイルの場所がわかっている場合は、「URL」ボックスに画像ファイルの URL を入力して、Enter キーを押します。
- 画像ファイルの場所を参照する場合は、「URL」ボックスの右側にある参照ボタン  をクリックし、挿入対象の画像ファイルを選択して「開く」をクリックします。

注意：ユーザーがフォームを開いたときに、リンクされた画像が相対パスに基づいて取り出されるようにするには、対象の画像ファイルをユーザーがアクセスできるフォルダーに保存する必要があります。Forms が使用可能な場合は、Forms を基準とした相対パスにする必要があります。

フォームに画像を埋め込むには

❖ オブジェクトパレットで、「画像データを埋め込む」を選択します。

注意：フォームに画像を埋め込むと、画像情報のコピーがフォームに保存されます。

画像のサイズを設定するには

1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。

2 サイズ調整リストで次のいずれかのオプションを選択し、画像が読み込まれたときの動作を指定します。

- 画像の縦横比を維持したまま、オブジェクトの画像サイズを変更する場合は、「画像の縦横の比率を維持する」を選択します。
- オブジェクトの寸法に合わせて画像のサイズを変更する場合は、「長方形の大きさに合わせる」を選択します。画像の縦横比は維持されません。
- 画像の実際のサイズを維持する場合は、「オリジナルサイズを使用」を選択します。画像のサイズは変更されません。

Paper Forms Barcode について

Paper Forms Barcode は、ユーザーがインタラクティブ PDF フォームに入力したデータを電子的に取り込みます。エンドユーザーが Adobe Reader または Acrobat を使用してフォームにデータを入力すると、その入力データは自動的にエンコードされてバーコードに反映されます。その後、ユーザーは入力済みのフォームを印刷し、ファックス、電子メールまたは手渡しで提出することができます。受け取り側は、ユーザーが入力したデータをスキャナーを使用してデコードします。

Paper Forms Barcode オブジェクトを利用するには、組織内で Reader Extensions を実装している必要があります。

Barcoded Forms ソリューションによって、Acrobat Reader を使用してユーザーがフォームに入力し、データをバーコードへ自動的にエンコードすることができます。印刷されたフォームのコピーが返送されたら、一般的なバーコードスキャナーを使用してフォームデータを抽出することができます。この抽出結果は 100 % 正確であり、データを再入力する必要はありません。

フォーム内で Paper Forms Barcode を使用すると、データを手動で入力したり、フォームを OCR で処理したりする必要がなくなります。入力後に印刷された紙のフォーム上のデータを電子的なワークフローに迅速に取り込むことができ、しかも、スキャニングやタイピングを行ってデータを再入力したときとは異なり、ミスによるデータ損失は起こりません。さらに、肉筆で署名されたトランザクションの電子コピーを残しておくことができます。

例えば、ある企業が電子的に入力できる PDF フォームを用意したとします。ただし、このフォームにはユーザーの署名が必要なので、完成したフォームを印刷し、署名してから、ファックスまたは郵送で返送する必要があります。このフォームに Paper Forms Barcode を含めておくと、電子的に入力されたデータがバーコードにエンコードされます。印刷されたフォームが返送されてきたら、バーコードリーダーを使用して、取り込んだすべてのデータを構造化データファイルに読み込むことができます。検証の必要があるのは署名のみです。

注意： Paper Forms Barcode オブジェクトは、Acrobat 6.0 互換の PDF フォームとして保存されたフォームでは使用できません。Paper Forms Barcode が含まれたフォームへの入力には、バーコードが取得データをエンコードできるようにするため、PDF 417 バーコードの場合は Acrobat 7.0 以降または Adobe Reader 7.0 以降、QR コードおよび DataMatrix バーコードの場合は Acrobat 7.0.5 以降または Adobe Reader 7.0.5 以降が必要です。

関連項目

327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」

305 ページの「[Paper Forms Barcode のデータエンコード方法を管理するには](#)」

438 ページの「[「フィールド」タブの Paper Forms Barcode プロパティ](#)」

440 ページの「[「値」タブの Paper Forms Barcode プロパティ](#)」

377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

377 ページの「[境界線パレットの境界線プロパティ](#)」

380 ページの「[アクセシビリティパレットのアクセシビリティプロパティ](#)」

Paper Forms Barcode の機能

Paper Forms Barcode オブジェクトは 2 次元 (2D) のバーコードで、工業規格の PDF417、QR コード (バージョン 2)、または DataMatrix (ECC200 モデル) コードを使用してエンコードされます。このバーコードには、フォームのフィールド内のデータをエンコードする、インテリジェントな計算スクリプトが含まれています。

Paper Forms Barcode でエンコードするフォームフィールドを選択する必要があります。ただし、バーコードの記憶容量は限られているので、必要なフィールドのみ選択することが重要です。

Paper Forms Barcode をフォームデザインに追加したら、要件に合った動作をさせるためにプロパティを指定します。オブジェクトパレットを使用して、例えば次のような Paper Forms Barcode プロパティを定義することができます。

- バーコードラベル

- バーコードにエンコードされたコード
- Paper Forms Barcode をデコードするときに使用するスキャン方法
- エラー修正レベルとバーコードのモジュールの幅と高さ（カスタムスキャン方式を選択した場合）
- フォーム上でのオブジェクトの表示設定
- データ圧縮オプション
- バーコードに含めるフォームデータ
- Paper Forms Barcode がデータとフィールドのエンコードに使用するデータ形式

完成したフォームを配布すると、ユーザーがフォームに入力し、これを印刷して返送します。受け取り側は、ユーザーが入力したデータをスキャナーでデコードします。

Paper Forms Barcode オブジェクトを含むフォームをデザインするときは、次の点に注意します。

- Paper Forms Barcode オブジェクトは、ユーザーが入力可能な PDF フォームに入力したデータをエンコードします。ペーパーフォームの処理に Paper Forms Barcode を使用するには、Reader Extensions が必要です。
- QR コードまたは DataMatrix の Paper Forms Barcode が含まれているフォームへの記入には、Acrobat または Adobe Reader 7.0.5 以降が必要です。そのため、フォームは Acrobat 7.0.5 互換形式または Acrobat 6.0.2 互換形式で保存しないでください。
- さらに、エンドユーザーが PDF417 Paper Forms Barcode を含むフォームに記入する場合、フォームの入力には Acrobat または Adobe Reader 7.0.5 以降が必要になります。

注意：Paper Forms Barcode を利用するには、組織内で Reader Extensions を実装している必要があります。

Paper Forms Barcode の使用

Paper Forms Barcode に一意のキャプションを指定するには

- 1 フォームデザイン上で、Paper Forms Barcode を選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、「ラベルを自動生成」の選択を解除して、「ラベル」ボックスにキャプションを入力します。

Paper Forms Barcode のキャプションを生成するには

- 1 フォームデザイン上で、Paper Forms Barcode を選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、「ラベルを自動生成」を選択します。

Paper Forms Barcode のコードを指定するには

- 1 フォームデザイン上で、Paper Forms Barcode を選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、コードリストから次のいずれかのオプションを選択します。
 - PDF417
 - QR コード
 - データマトリクス

注意：QR コードまたは DataMatrix バーコードが含まれたフォームへの記入には、Acrobat 7.0.5 以降または Adobe Reader 7.0.5 以降が必要です。QR コードおよび DataMatrix のバーコードのデコードは、Adobe® LiveCycle® Barcoded Forms 7.0 ではサポートされていますが、Adobe® LiveCycle® Barcoded Forms 7.0 Standalone (ST) ではサポートされていません。

Paper Forms Barcode のスキャン方法を指定するには

- 1 フォームデザイン上で、Paper Forms Barcode を選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、スキャン方法リストから次のいずれかのオプションを選択します。
 - ハンドヘルドスキャナー
 - ファックスサーバー
 - ドキュメントスキャナー
 - カスタム
- 3 「カスタム」を選択した場合は、独自のデコード設定を指定することができます。

Paper Forms Barcode のカスタムデコード設定を指定するには

- 1 フォームデザイン上で、Paper Forms Barcode を選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、スキャン方法リストで「カスタム」を選択します。
- 3 デコードプロパティを変更するには、プロパティ名の隣にある値リストで値を選択します。

注意：ハンドヘルドバーコードスキャナーを使用してバーコードをデコードする場合は、10.16 センチよりも幅が広いバーコードを作成しないでください。ハンドヘルドスキャナーを使用する場合、通常は縦に細長いバーコードの方が適しています。

Paper Forms Barcode のデータエンコード方法を管理するには

フォームデザインで Paper Forms Barcode オブジェクトを使用するときは、バーコードがデータのエンコード時に使用する形式とエンコード対象のデータを指定しなければなりません。次のデータ形式を指定することができます。

- XML
- 「区切り」

どちらのオプションも、Paper Forms Barcode オブジェクト対応のスクリプトを提供します。このスクリプトが、データのエンコード時に、特定のデータ型を使用するよう Paper Forms Barcode オブジェクトに指示を与えます。

また、独自のスクリプトを使用してデータをエンコードすることもできます。詳しくは、306 ページの「[Paper Forms Barcode でのデータエンコード用のカスタムスクリプトを作成するには](#)」を参照してください。

Paper Forms Barcode オブジェクトのデータ取得方法を定義するには、オブジェクトパレットの「値」タブのオプションを使用します。また、エンコード前にデータを圧縮するかどうかを指定することもできます。

バーコードデータをエンコードするスクリプトを自動生成するには

- 1 フォームデザイン上で、Paper Forms Barcode を選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「値」タブをクリックし、「自動スクリプティング」を選択します。
- 3 フォーマットリストから次のオプションの 1 つを選択します。
 - XML
 - 「区切り」
- 4 (オプション)「フィールド名を含む」および「ラベルを含む」を選択します。
- 5 適用先リストから次のオプションの 1 つを選択します。
 - フォーム全体のデータ
 - コレクションデータ：コレクションメニューからコレクションを選択します。

エンコーディング前にデータを圧縮するには

- 1 フォームデザイン上で、Paper Forms Barcode を選択します。
- 2 オブジェクトパレットで「値」タブをクリックし、「エンコーディング前にデータを圧縮」を選択します。

Paper Forms Barcode でのデータエンコード用のカスタムスクリプトを作成するには

データのエンコード時に政府仕様やその他の仕様に従わなければならない場合には、事前定義されているデータエンコードオプションでは要件を満たせないことがあります。「カスタム」オプションを選択すると、データのエンコード時に独自のスクリプトを使用することができます。このスクリプトは次の例のように非常に単純なものでもかまいません。

```
this.rawValue=NumericField1.rawValue
```

逆に、どのフィールドをエンコードするかを特定の条件に基づいて決定するような複雑なスクリプトを作成することもできます。

- 1 フォームデザイン上で、Paper Forms Barcode オブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで「値」タブをクリックし、「自動スクリプティング」を選択解除します。
- 3 スクリプトエディターで、サンプルカスタムスクリプトを修正することも、独自のスクリプトを作成することもできます。

例えば、次のサンプルコードは、フォームのフィールド値を取得した上で、フォームのフィールド値を含むカンマ区切り値 (CSV) インスタンスを表す文字列を形式設定し、インタラクティブ PDF フォーム用に Paper Forms Barcode を更新する、JavaScript スクリプトを示しています。このフォームには、accountNum、formerFirstName、formerMiddleInitial、formerLastName、newFirstName、newMiddleInitial および newLastName という名前のフィールドが含まれています。

```
// This function ensures that the barcode will update
// when a change is made to any field on the form.
function depends(node)
{
  for (var i = 0; i < node.nodes.length; ++i)
  {
    var child = node.nodes.item(i);
    if (child.isContainer)
      depends(child);
  }
}
// Return a field surrounded by quotes and followed with a separator
function fmtField(fieldName, separator)
{
  var str = "\"" + fieldName.rawValue + "\"" + separator;
  return str;
}
// Force all fields in the form to be updated in the dataset
depends(xfa.form);
// Generate the CSV string that will be encoded in the barcode
var comma = ",";
var newline = "\n";
var s = fmtField(accountNum, comma);
s += fmtField(formerFirstName, comma);
s += fmtField(formerMiddleInitial, comma);
s += fmtField(formerLastName, comma);
s += fmtField(newFirstName, comma);
s += fmtField(newMiddleInitial, comma);
s += fmtField(newLastName, newline);
// Assign the string to the barcode for encoding
this.rawValue = s;
```

レガシーエンコーディング形式を使用するには

デフォルトでは、Designer は XFA JavaScript 関数 `xfa.record.saveXML()` を使用する新しいエンコーディング形式を使用して XML エンコードデータを作成します。ただし、古い関数 `xfa.datasets.saveXML()` を使用するレガシーエンコーディング形式を使用することもできます。例えば、古い XML 形式のみを解析できるアプリケーションを使用してバーコードデータを含むフォームを処理する場合に、この方法を使用できます。

レガシーエンコーディング形式は、Designer 7.0 ～ 8.0 の Paper Forms Barcorde XML スクリプトで使用されます。レガシーエンコーディング形式を含むフォームを開くと、「レガシーフォーマットを使用」オプションが自動的に選択されます。

- 1 フォームデザイン上で、Paper Forms Barcode オブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックします。
- 3 フォーマットリストから「XML」を選択し、「レガシーフォーマットを使用」を選択します。

区切り文字を指定するには

フィールド名、フィールド値、バーコードラベルなどのフィールドデータを区切るために使用される区切り文字を選択できます。

復帰以外のすべての区切り文字では、最初の行がオプションのバーコードラベル見出しで始まり、それにフォームオブジェクト名が続き、区切りと改行文字で終わります。2 番目の行はバーコードラベルで始まり、それにフォームオブジェクトデータが続き、区切り文字と改行文字で終わります。デフォルトでは、バーコードラベルはグローバル意識別子 (GUID) です。

復帰の区切り文字では、フィールド名、バーコードラベルおよびフィールド値が複数の行にわたって表示されます。最初にフィールド名とバーコードラベルが別個の行に表示され、それに続いて復帰、改行文字、フィールド値がそれぞれ別の行に表示されます。

フォーム内のフィールド名またはフィールド値が空の場合、バーコードエンコードスクリプトは区切り文字を挿入し、次のフィールド名またはフィールド値をエンコードします。バーコードデータには、空のテキストのプレースホルダーとしての空白や特定のマークは含まれません。

注意：すべての種類の区切り文字で、フィールド名とバーコードラベルをバーコードコンテンツに含めるかどうかを制御できます。これを行うには、オブジェクトパレットの「値」タブで「フィールド名を含む」オプションと「ラベルを含む」オプションを選択します。

Paper Forms Barcode の区切り形式を選択する場合、デコードを正しく行うために、フォーム内のテキストコンテキストの一部と重複する区切り記号は使用しないでください。つまり、区切り記号として、Paper Forms Barcode のフィールド値に含まれていない文字を使用します。例えば、タブ、コンマまたはスペースを区切り記号にする場合は、デコーダが混乱することを防ぐため、エンコーディングするフォームフィールドのコンテンツにタブ、コンマまたはスペース文字が含まれていないことを確認します。

フォームのコンテンツが変更されたために、最初に区切り記号として選択した文字がコンテンツの一部と重複する場合は、別の文字を区切り文字として選択できます。

注意：「復帰」オプションを区切り文字として選択しないでください。復帰文字は、ヘッダー行と値行の区切り文字として Paper Forms Barcode の値で既に使用されています。

- 1 フォームデザイン上で、Paper Forms Barcode オブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックします。
- 3 フォーマットリストから「区切り」を選択し、区切り記号リストから目的の区切り記号の種類を選択します。

文字エンコーディングを指定するには

バーコードにエンコードされた値の文字エンコーディングは指定できます。

- 1 フォームデザイン上で、Paper Forms Barcode オブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックします。
- 3 文字エンコーディングリストから、必要条件に応じてオプションを選択します。

Paper Forms Barcode を使用する際のデザイン上のヒント

効果的な Paper Forms Barcode の作成とは、情報を後で理解可能な形に簡単にデコードできるような方法でエンコードを行うバーコードをデザインすることです。ここでは、有用でデコード可能なバーコードをデザインするときに注意が必要なポイントをいくつか示します。

バーコードデザイン上のヒント	詳細
用途に適したバーコードをデザインする。	ユーザーがフォームをどのような方法で返送してくるかを考慮します。印刷、郵送、ファックス、スキャンの各プロセスに耐えるバーコードをデザインする必要があります。
コレクションを使用する。	フォーム全体にバーコードを適用する代わりに、Paper Forms Barcode のコレクションを使用します。コレクションを利用すると、確実に適切なフィールドをバーコードに含めることができます。 注意： 「フィールド」タブにある「複数選択を許可」オプションを選択してリストボックスオブジェクトを Paper Forms Barcode のコレクションに追加する場合は、フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで「JavaScript で厳密なスコープ規則を強制」オプションも選択する必要があります。選択しないと、フォーム入力者がリストボックスオブジェクトで選択した値が Paper Forms Barcode で正しくエンコードされない場合があります。
Paper Forms Barcode のコレクション名にオブジェクトのコレクション名とは別の名前を付ける。	Paper Forms Barcode のコレクションの名前が、オブジェクト名とは違う名前である必要があります。名前が同じ場合は、Paper Forms Barcode が実行時にアップデートしません。
デフォルト名のサブフォームに Paper Forms Barcode を含めると予期しない結果が生じる場合がある。	複数の名称未設定サブフォーム内に Paper Forms Barcode を含めると、予期しない結果が生じる場合があります。デフォルト名を使用せず、サブフォームの名前を変更してください。
フォームデザイン上でのバーコードの位置に注意する。	Paper Forms Barcode は、フォームデザインのどこにでも配置できます。バーコードは必ず目に見えて、スキャンしやすい場所に配置してください。バーコードは用紙の端から少なくとも 1.27 センチ離れた場所に配置するようにします。そうすれば、フォームを印刷したときに確実にバーコード全体が入ります。
収集するデータ量に適したサイズのバーコードを作成する。	Paper Forms Barcode にエンコードできるデータの量には制限があります。バーコードのサイズは、エンコードできるデータの量にも影響を与えます。バーコードが小さすぎてユーザーが提供するデータを収容できない場合は、バーコードの右上コーナーに赤いマーカが表示され、エンコードするデータセットが大きすぎてバーコードに保存できないことを示すメッセージが表示されます。この場合は、次のいずれかの手順を行う必要があります。 • バーコードのサイズを変更し、より多くのデータを収容できるよう大きくします。 • テキストフィールドなど一部のフォームオブジェクトのデフォルトのデータサイズを変更して、データセットを減らします。例えば、各テキストフィールドの文字数制限はデフォルトで 255 に設定されています。テキストフィールドに姓、名またはフルネームしか入力しない場合は、文字数の制限を 20 ～ 50 文字に減らしても支障ありません。これによってバーコードのサイズの問題をある程度解決することができます。 • 拡張文字を使用する場合や、大文字と小文字の両方を使用する場合は、データのサイズが大きくなります。データを英数字と大文字に制限するスクリプトを作成します。 • データにフィールド名を含める場合は、短いオブジェクト名を使用します。 • フォームオブジェクトコレクションを使用します。
区切り記号をテキストコンテキスト内に含めない。	Paper Forms Barcode に区切り形式を選択した場合は、フォーム内のテキストコンテキストに区切り記号を含めないようにします。例えば、タブを区切り記号に選択した場合は、デコーダが混乱することを防ぐため、エンコーディングするフォームフィールドのコンテンツにはタブを入力しないようにします。混乱を防ぎ、エンコードを正しく行うため、最初に区切り記号として選択されていた文字がコンテンツ内で使用されている場合は、パイプやカンマなど別の文字を区切り文字として選択できます。

バーコードデザイン上のヒント	詳細
画像データ用のデータは埋め込まない。	Paper Forms Barcode には画像用データを埋め込むだけの容量がありません。フォームに画像フィールドオブジェクトがある場合は、画像フィールドオブジェクトについて「画像データを埋め込む」オプションを選択しないようにするか、このオブジェクトをバーコードデータから除外します。バーコードデータに画像フィールドが含まれている場合は、データ長を計算できないことを示す警告がバーコードに表示されます。
Paper Forms Barcode は回転させない。	Paper Forms Barcode を回転させると、Acrobat および Adobe Reader の 8.0 未満のバージョンでフォームに入力したときに、Paper Forms Barcode が短縮されてしまいます。
フォームを配布する前にテストする。	完成したフォームは、Acrobat だけでなく Adobe Reader でも必ずテストすることが重要です。この種のフォームを使用するユーザーの多くは、Adobe Reader しか持っていません。
フォームの入力に使用する Adobe Reader のバージョンを決定し、フォームに正しい権限を適用する。	Paper Forms Barcode オブジェクトを含むフォームを Adobe Reader 8.1 以降で開いた場合、ユーザーがフォームの入力を開始すると、Paper Forms Barcode オブジェクトがグレーで表示されます。これを避けるには、Reader Extensions を使用してフォームに 2 次元バーコードの使用権限を適用する必要があります。
ユーザーが必ずフォームに電子的に入力するようにする。	ユーザーには、電子的にフォームの入力を行う必要があることを明確に示してください。エンドユーザーがフォームを印刷してから記入した場合は、ユーザーが提供したデータを Paper Forms Barcode にエンコードすることはできません。
Paper Forms Barcode の最大許容量をテストする。	Adobe Reader と Acrobat の両方でフォームをテストし、各バーコードがすべての必要なデータを取り込めることを確認します。それには、最大長の実際のエントリを各フィールドに入力し、バーコードが灰色に変わらないことを確認します。Reader Extensions 用のバーコード使用権限が適用されている文書をテストするには、Adobe Reader を使用する必要があります。

関連項目

303 ページの「[Paper Forms Barcode について](#)」

304 ページの「[Paper Forms Barcode に一意のキャプションを指定するには](#)」

323 ページの「[フォームオブジェクトコレクションの使用](#)」

パスワードフィールドの使用

パスワードを使用してフォームへのアクセスをコントロールする場合は、フォームにパスワードフィールドを追加します。ユーザーがパスワードフィールドに入力した文字は、あらかじめ選択されている文字でマスクされます。必要に応じて、フォームへのアクセスに必要な入力パターンを定義することもできます。

フォームデザインにパスワードフィールドを追加した後に、オブジェクトパレットの「フィールド」、「値」および「連結」タブを使用して、キャプションテキストを編集し、オブジェクトのプロパティを操作することができます。次のプロパティを定義できます。

- フィールドのキャプションを変更する。351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」を参照してください。
- フィールドの境界線のスタイルを設定する。260 ページの「[境界線のスタイルを設定するには](#)」を参照してください。
- フィールドを表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。
- リストのロケールを指定する。260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。
- Designer で、テキストフィールドの水平方向の長さにより、許容される文字の数が決定されるように指定する。
- パスワード表示文字を選択する。
- 編集パターンを定義する。
- 検証パターンを定義する。
- データ連結パターンを指定する。
- 連結データの格納および取得のための連結メソッドを指定する。

ユーザーにパスワードの入力を強制しない場合でも、パスワードフィールドを配置することは可能です。パスワードが任意か、推奨か、必須かを定義でき、また、ユーザーに入力を促すメッセージを設定することができます。ユーザーの入力はすべてスクリプティングを使用して検証できます。

関連項目

- 351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」
- 355 ページの「[フィールド値の形式設定とパターンの使用](#)」
- 446 ページの「[パスワードパターン](#)」
- 442 ページの「[「フィールド」タブのパスワードフィールドプロパティ](#)」
- 444 ページの「[「値」タブのパスワードフィールドプロパティ](#)」
- 445 ページの「[「連結」タブのパスワードフィールドプロパティ](#)」
- 524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」
- 526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

パスワード表示文字を指定するには

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 「パスワード表示文字」ボックスに、実行時にパスワードの値を隠すために使用される文字を入力します。

フィールドの動作を定義するには

- 1 オブジェクトパレットの「値」タブをクリックし、種類リストから次のいずれかのオプションを選択します。
 - データを入力するかどうかをユーザーが選択できるようにする場合は、「ユーザー定義 - オプション」を選択します。
 - ユーザーにデータの入力を促し、推奨フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 推奨」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - ユーザーにデータの入力を促し、これを必須フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 必須」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
- 2 値が推奨または必須である場合は、「空白のメッセージ」ボックスにプロンプトを入力します。

パスワードフィールドのカスタムデータ連結プロパティを定義するには

連結プロパティを使用すると、企業インフラストラクチャ用のデータを取得するフォームを作成したり、実行時に外部データソースのデータをフォームに埋め込んだりすることができます。データ連結プロパティは、オブジェクトパレットの「連結」タブで設定します。

- 1 パスワードフィールドを選択します。
- 2 フォームを開いたときに、データソースに接続できるようにします。
- 3 対応するデータノードにフィールドを連結します。オブジェクトとデータソースを連結する方法について詳しくは、497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」を参照してください。

パスワードフィールドの文字数を制限するには

パスワードフィールドに入力できる文字数を制限する場合は、Designer で、十進数フィールドまたは数値フィールドの水平方向の長さにより、許容される文字数が決定されるように指定します。

- ❖ オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、「文字数を表示領域に制限」を選択します。

ラジオボタンの使用

ラジオボタンを使用すると、1 つしか選択できない選択項目をユーザーに提供することができます。ユーザーは、グループ内の任意のラジオボタンの状態をオンまたはオフに切り替えることができます。ラジオボタンを選択すると、その状態がオンになり、値が登録されます。ラジオボタンの選択を解除すると、その状態はオフになり、値は登録されません。グループ内では、一度に 1 つのラジオボタンオブジェクトしかオンの状態にすることができません。

 オブジェクトパレットの「フィールド」タブで外観の特性を設定すると、ラジオボタンをチェックボックスのような外観にすることができます。ただし、これを行う前に、チェックボックスの動作に関するユーザーの期待を考えてください。ユーザーがチェックボックスで複数項目の選択ができることを期待している場合は、標準のままにし、チェックボックス画像にラジオボタン機能を適用しないでください。

フォームデザインにラジオボタンを追加した後に、オブジェクトパレットの「フィールド」、「値」および「連結」タブを使用して、キャプションテキストを編集し、オブジェクトのプロパティを操作することができます。次のプロパティを定義できます。

- ラジオボタンのキャプションを変更する。351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」を参照してください。
- ラジオボタンの境界線のスタイルを設定する。260 ページの「[境界線のスタイルを設定するには](#)」を参照してください。
- ラジオボタンを表示、非表示または隠すとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。
- ラジオボタンのロケールを指定する。260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。
- 排他グループ内のラジオボタンのオン状態に値を割り当てる。
- ラジオボタンのスタイルを指定する。
- グループのデフォルト選択を指定する。
- 連結データの格納および取得のための連結メソッドを指定する。

ラジオボタンはスクリプティングと演算をサポートしています。ユーザーにデータ入力を求める場合は、入力が推奨されるのか、それとも必須なのかを定義し、必要に応じてユーザーの注意を促すためのメッセージを設定することができます。スクリプティングを通じて、ユーザー入力を確認することができます。

排他グループは、ラジオボタンのグループです。排他グループ内では、一度に 1 つのラジオボタンしか選択できません。

排他グループは 1 つのオブジェクトとして操作できます。オブジェクトパレットの一部のオプションは、同じ排他グループ内のすべてのラジオボタンに適用されます。ラジオボタンは排他グループ間で移動することができ、新しい排他グループを作成することもできます。1 つの排他グループ内に複数のラジオボタンがある場合は、簡単にいくつかのオブジェクトを別の排他グループに分割することができます。

新しいラジオボタンをフォームに追加するときに、同じサブフォームに直前に追加したオブジェクトがやはりラジオボタンである場合には、新しいラジオボタンが同じ排他グループの一部になります。直前に追加したオブジェクトがラジオボタンでない場合は、新しいラジオボタンにより新しい排他グループが作成されます。

排他グループは、グループ内のすべてのラジオボタンが収まるサイズに自動的に調整されます。ラジオボタンをページの空き領域にドラッグすると、そのラジオボタンを内包するように排他グループが拡大します。排他グループのサイズを手動で変更すると、それに従ってグループ内のすべてのラジオボタンがサイズ変更されます。

関連項目

351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」

546 ページの「[ラジオボタンのアクセシビリティ対応](#)」

447 ページの「[「フィールド」タブのラジオボタンプロパティ](#)」

448 ページの「[「値」タブのラジオボタンプロパティ](#)」

450 ページの「[「連結」タブのラジオボタンプロパティ](#)」

487 ページの「[データソースの操作](#)」

ラジオボタンのサイズを設定するには

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 「サイズ」ボックスに、別の値（ポイント）を入力して Enter キーを押します。
入力したサイズによっては、ラジオボタンのサイズ調整が必要になることがあります。

ラジオボタンのスタイルを指定するには

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 ボタンスタイルのリストからオプションを 1 つ選択します。
 - ボタンのスタイルをデフォルトの黒丸に設定する場合は、「デフォルト」を選択します。
 - ボタンのスタイルをチェックマークに設定する場合は、「チェック」を選択します。
 - ボタンのスタイルを丸に設定する場合は、「円」を選択します。
 - ボタンのスタイルを十字マークに設定する場合は、「クロス」を選択します。
 - ボタンのスタイルをダイヤ印に設定する場合は、「ひし形」を選択します。
 - ボタンのスタイルを四角形に設定する場合は、「四角形」を選択します。
 - ボタンのスタイルを星印に設定する場合は、「星形」を選択します。

ラジオボタンにオン値を割り当てるには

排他グループ内の各ラジオボタンには、フォームデータ内で選択されているラジオボタンを表す、オン値が関連付けられています。この値を変更して、例えばデータソース内の既存の値に一致させることができます。

オン値を指定する場合、デフォルトのオン値は 1 から始まる整数値になります（排他グループ内の最初のラジオボタンが 1 になります）。「項目の値を指定」オプションを選択解除している場合は、ラジオボタンのキャプションがオン値として使用されます。

- 1 排他グループを選択するか、排他グループ内にあるラジオボタンの 1 つを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「連結」タブをクリックし、「項目の値を指定」を選択します。
- 3 変更したい 1 つ目のオン値をダブルクリックします。
- 4 新しいオン値を入力します。
- 5 Enter キーを押して次のオン値の変更に進むか、変更したい別のオン値をダブルクリックします。

ラジオボタンのカスタムデータ連結プロパティを定義するには

連結プロパティを使用すると、企業インフラストラクチャ用のデータを取得するフォームを作成したり、実行時に外部データソースのデータをフォームに埋め込んだりすることができます。ラジオボタンのデータ連結プロパティは、オブジェクトパレットの「連結」タブで設定します。

- 1 グループを選択します。
- 2 フォームを開いたときに、データソースに接続できるようにします。
- 3 対応するデータノードに排他グループを連結します。オブジェクトとデータソースを連結する方法について詳しくは、497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」を参照してください。

新規の排他グループを作成するには

- 1 レイアウトエディターまたは階層パレットで、新しい排他グループに含めるラジオボタンを選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - ・ レイアウトエディター内で選択したオブジェクトの 1 つを右クリックし、「新規ラジオボタングループに含める」を選択します。
 - ・ 階層パレット内で選択したオブジェクトの 1 つを右クリックし、「新規ラジオボタングループに含める」を選択します。

注意：ラジオボタンのグループを追加できたら、ページに別のオブジェクトを追加します。例えば、テキストオブジェクトを追加します。フォームデザインに新しいボタンを追加すると、新しい排他グループが開始されます。

ラジオボタンを別の排他グループに移動するには

- 1 レイアウトエディターまたは階層パレットで、別の排他グループに移動するラジオボタンを選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - ・ フォーム上のラジオボタンを移動するには、レイアウトエディター内で、ラジオボタンを別の排他グループの境界線内までドラッグします。
 - ・ ページ上のボタンを動かさずに別の排他グループに移動するには、階層パレット内で、ラジオボタンを別の排他グループにドラッグします。

排他グループを移動するには

- 1 排他グループの境界線をクリックして、選択します。
- 2 グループをページ上の新しい位置にドラッグします。グループ内のすべてのラジオボタンが一緒に移動します。

複数の排他グループを結合するには

- 1 各排他グループの境界線をクリックして、選択します。
- 2 レイアウト／ラジオボタングループの結合を選択します。

排他グループの動作を定義するには

- 1 オブジェクトパレットの「値」タブで、種類リストから次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ データを入力するかどうかをユーザーが選択できるようにする場合は、「ユーザー定義 - オプション」を選択します。
 - ・ ユーザーにデータの入力を促し、推奨フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 推奨」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - ・ ユーザーにデータの入力を促し、これを必須フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 必須」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - ・ 読み取り専用フィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 読み取り専用」を選択します。ユーザーは計算値を編集できません。
 - ・ 編集可能なフィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 上書き可能」を選択します。入力を処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。
 - ・ 読み取り専用フィールドにして、実行時にマージまたは計算されたうえで表示されるデータ値を表示する場合は、「読み取り専用」を選択します。ユーザーは値を編集できません。
- 2 値が推奨または必須である場合は、「空白のメッセージ」ボックスにプロンプトを入力します。

- 3 値を計算する場合は、スクリプトエディターでオブジェクトに計算スクリプトを追加します。
- 4 (オプション) 上書き可能な計算値について、「上書きメッセージ」ボックスにメッセージを入力します。

排他グループのデフォルト選択を指定するには

- 1 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックします。
- 2 デフォルトリストから、オン状態に設定したいラジオボタンを表す値を選択します。

注意：デフォルトリストは、「種類」オプションが「ユーザー定義」または「読み取り専用」に設定されている場合のみ使用可能です。ラジオボタンのオン状態の値は、「連結」タブで変更できます。

署名フィールドの使用

ユーザーとドキュメントのコンテンツの正当性を認証する場合は、フォームに署名フィールドを追加します。電子署名には、署名者に関する情報と、署名時のドキュメントの状態が格納されます。Adobe の署名は、RSA MD5、RSA SHA-1 または DSA SHA-1 ハッシュアルゴリズムを使用する Public Key Cryptography Standard (PKCS) #7 をサポートしています。

署名フィールドは、フォーム全体に適用することも、フォーム内のオブジェクトのコレクションに適用することもできます。署名をオブジェクトのコレクションに適用する場合、署名者は Acrobat または Adobe Reader バージョン 8.0 以降を使用する必要があります。

署名をオブジェクトのコレクションに適用した場合、ドキュメントの署名後は、これらのフィールドがロックされ、変更できなくなります。このロックは継承されます。例えば、サブフォームをロックすると、サブフォームに含まれるすべてのオブジェクトにロックが継承されます。

フォームに署名するには、署名フィールドをクリックします。Acrobat での PDF フォームへの署名について詳しくは、**Acrobat** ヘルプを参照してください。

署名フィールドが電子署名を直接生成しているわけではありません。スクリプトによってサードパーティの署名ハンドラーが呼び出され、署名ハンドラーによって電子署名機能が提供されます。適切な署名ハンドラーがないとユーザーはフォームに署名できません。

オブジェクトをフォームデザインに追加した後でも、必要であれば、階層パレットで署名フィールド名を変更することができます。

フォームデザインに署名フィールドを追加したら、オブジェクトパレットの「署名」タブで、署名のプロパティを定義できます。署名をフォーム全体に適用するかフィールドオブジェクトのコレクションに適用するかを定義したり、デフォルトの署名プロパティを指定したりできます。

オブジェクトパレットの「フィールド」タブでは、キャプションテキストを編集したり、オブジェクトのプロパティを操作したりできます。次のプロパティを定義できます。

- フィールドのキャプションを変更する。351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」を参照してください。
- フィールドの境界線のスタイルを設定する。260 ページの「[境界線のスタイルを設定するには](#)」を参照してください。
- フィールドを表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。
- フィールドのロケールを指定する。260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。

関連項目

- 351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」
- 377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」
- 377 ページの「[境界線パレットの境界線プロパティ](#)」

410 ページの「[コンボボックス](#)」

556 ページの「[電子署名の使用](#)」

テキストの使用

テキストオブジェクトは、ユーザーが編集できない読み取り専用のテキストです。テキストオブジェクトでは、次のような操作ができます。

- フォーム内の領域にラベルを付ける
- フォームの入力の指示を与える
- ヘッダーとフッターを追加する

テキストオブジェクトをフォームデザインに追加した後に、次のプロパティを定義できます。

- テキストを表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。
- テキストのロケールを指定する。260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。
- テキストを入力してスタイルを設定する
- フィールドのコンテンツ内で改ページを許可する
- 改ページが挿入されたときに、テキストオブジェクトをドキュメント内の次のオブジェクトに合わせる
- テキスト全体またはテキストの選択した部分にフォントプロパティを適用する

さらに、テキストオブジェクトには、フローティングテキストフィールドなどのプレースホルダーや、ページ数、現在のページ、現在の日付 / 時間などの実行時プロパティの値を挿入できます。

テキストオブジェクトには、デフォルトで選択されている「編集中に固定サイズのテキストオブジェクトを自動調整」オプション（ツール／オプション／ワークスペース）があります。したがって、入力するテキストと、余白、境界線、フォントタイプおよびサイズなどのプロパティ設定の変更に合わせて、デザイン時に自動的にオブジェクトのサイズが変わります。

テキストオブジェクトに文字を入力するには

オブジェクトをフォームに追加したら、オブジェクトに文字を入力できます。

デフォルトでは、ツール／オプションダイアログボックスのワークスペースパネルにある「編集中に固定サイズのテキストオブジェクトを自動調整」オプションが選択されています。このオプションは、入力した文字に合わせてテキストオブジェクトの幅と高さを拡大するためのオプションです。テキストオブジェクトの幅と高さのどちらか一方だけを拡大する場合は、「編集中に固定サイズのテキストオブジェクトを自動調整」の選択を解除した上で、レイアウトパレットで該当する「拡大して合わせる」オプションを選択します。

- 1 「編集」を選択して、「テキストのロック」コマンドと「スタティックオブジェクトのロック」コマンドが選択されていないことを確認します。
- 2 テキストオブジェクトをダブルクリックして、追加する文字を入力します。

テキストオブジェクトにフローティングテキストフィールドを挿入するには

テキストオブジェクトには、フローティングテキストフィールドを埋め込むことができます。フローティングテキストフィールドを使用すると、様々なテキスト値をテキストオブジェクト内で結合できます。例えば、フローティングテキストフィールドを埋め込んで、定型レターの挨拶文の中に顧客名を表示することができます。

フローティングテキストフィールドはキャプションを持たず、テキストの 1 つの文字であるかのように編集できます。フローティングテキストフィールドのプロパティは、テキストオブジェクトのプロパティとは別に定義する必要があります。

注意：フローティングフィールドをデータと結合する際は、フローティングフィールドが複数ページにまたがることはできないことに注意してください。

- 1 テキストオブジェクト内で、フローティングテキストフィールドを結合する場所にカーソルを置きます。
- 2 挿入／フローティングフィールドを選択します。
- 3 フローティングテキストフィールドを選択して、プロパティを編集します。

テキストオブジェクトに実行時プロパティの値を挿入するには

テキストオブジェクトには、実行時プロパティの値を挿入できます。フォームを表示すると、実際の値が自動的に挿入されます。

挿入された値は、テキストオブジェクトとは異なるフォント、フォントサイズ、フォントスタイルにすることができます。

- 1 テキストオブジェクト内で、実行時プロパティの値を結合する場所にカーソルを置きます。
- 2 挿入／[実行時プロパティの値] を選択します。
 - 完成したフォームの現在のページ番号を挿入するには、「現在のページ番号」を選択します。
 - 完成したフォームを構成するページの総数を挿入するには、「ページ数」を選択します。
 - 現在の日付 / 時間を挿入するには、「現在の日時」を選択します。
 - フォームを処理するアプリケーションのロケール設定の値を挿入するには、「ビューアのロケール」を選択します。
 - フォームを処理するアプリケーションの名前を挿入するには、「ビューアの名前」を選択します。
 - フォームを処理するアプリケーションのバージョン番号を挿入するには、「ビューアのバージョン」を選択します。
- 3 実行時プロパティの値を選択し、そのプロパティを編集します。

テキストオブジェクトを結合するには

PDF ファイルを Designer にインポートすると、選択したインポートオプションに応じて、タイトルと説明テキストが複数のテキストオブジェクトに分割されることがあります。このインポート動作により、個々の単語や文字が複数のテキストオブジェクトに分割されるため、テキストの編集が困難になります。テキストを編集する必要がある場合は、テキストを更新しやすくするために、テキストオブジェクトを結合できます。

- 1 結合するテキストオブジェクトを選択します。

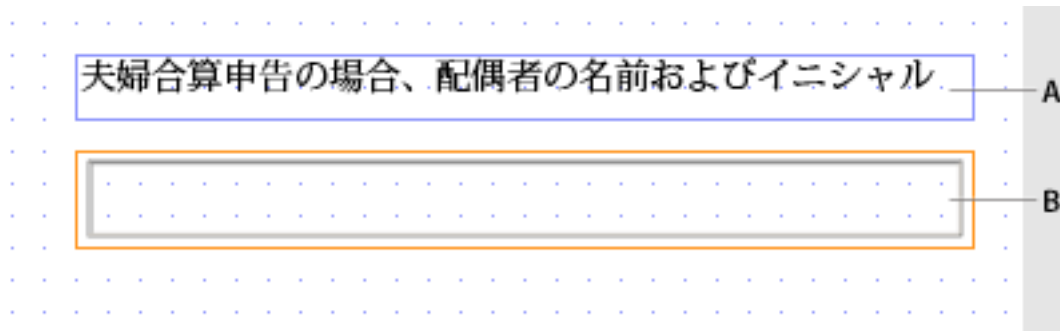
種類の異なるオブジェクトを選んでも、結合の対象にはなりません。
- 2 レイアウト／選択したテキストオブジェクトの結合を選択します。

選択したすべてのテキストオブジェクトが結合され、1つのオブジェクトになります。

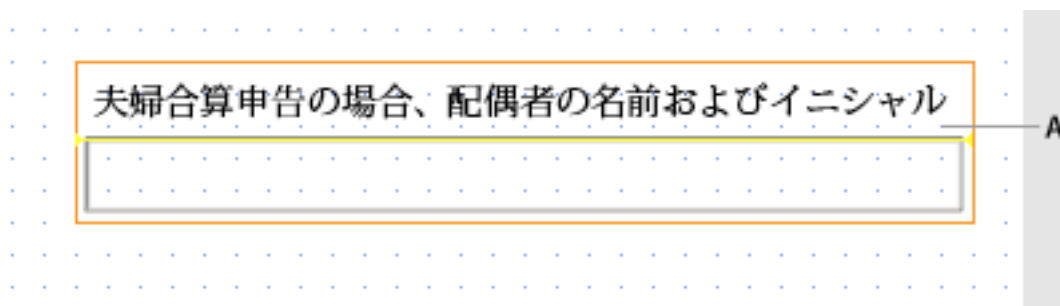
テキストオブジェクトとフィールドオブジェクトを結合してキャプションを作成するには

キャプションを持たないフィールドオブジェクトをテキストオブジェクトと結合することで、そのフィールドオブジェクトのキャプションを作成できます。

例えば、キャプションが「なし」に設定されているテキストフィールドの上部にテキストオブジェクトがある場合、2つのオブジェクトを結合して1つのフィールドを作成できます。テキストオブジェクトのテキストは、テキストフィールドのキャプションになります。



結合前：A. テキストオブジェクト B. テキストフィールド



結合後：テキストオブジェクト

この作業を行う前に、次の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- テキストオブジェクトが1つあること。
- レイアウトパレットでキャプションが「なし」に設定されているか、キャプションが空であるフィールドオブジェクトが1つあること。

フィールドオブジェクトは、以下のいずれかのオブジェクトです。

- チェックボックス
- 日付 / 時間フィールド
- 十進数フィールド
- 署名フィールド
- コンボボックス
- 画像フィールド
- リストボックス
- 数値フィールド
- パスワードフィールド
- ラジオボタン
- テキストフィールド

テキストオブジェクトとフィールドオブジェクトは、1対1で結合する必要があります。

- 1 フィールドオブジェクトのキャプションにするテキストオブジェクトを選択します。
- 2 Ctrl キーまたは Shift キーを押しながら、テキストオブジェクトと結合するフィールドオブジェクトをクリックして選択します。

フィールドオブジェクトのキャプションは、レイアウトパレットで「なし」に設定されているか、空であることが必要です。

3 レイアウト／キャプションとして結合を選択します。

新しいオブジェクトのキャプションは、テキストオブジェクトのテキストになります。新しいオブジェクトのサイズと位置は、結合したオブジェクト全体の境界に等しくなります。

必要に応じて、オブジェクトの結合後にキャプションのフォントと値を編集する必要があります。

テキストまたはキャプションに言語特有の数字を挿入するには

世界の大部分の地域では通常、ローマ式またはヨーロッパ式と呼ばれる数体系（1、2、3 など）が使用されています。一方、北インド式またはインド式の数字から派生したアラビア式の数体系はこれと異なります。

アラビア文字は右から左に記述されますが、アラビア数字は左から右に記述されます。一般にこのような数体系をアラビア-インド式と称します。

アラビア語（エジプト）のようにロケールがこの形式をサポートする場合は、テキストまたはキャプションに言語特有の数字を挿入できます。この機能をサポートしているロケールは次のとおりです。

- アラビア語（アルジェリア、モロッコおよびチュニジアを除く）
- タイ語（トラディショナル）

このヘルプトピックで説明されているオプションは、該当する言語のサポートが Microsoft Office の言語設定で有効になっている場合のみ使用できます。

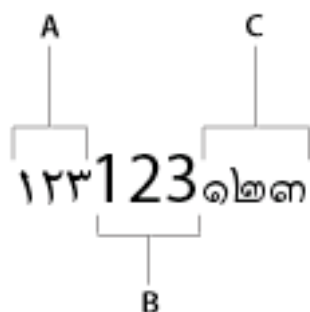
1 テキストを選択します。

2 右クリックし、言語特有の「数字を使用」コマンドが選択されていることを確認します。

このメニュー項目が存在しない場合は、このオブジェクトに設定されているロケールがこの機能をサポートするように設定してください。

3 数字を入力します。

以下の例は 3 種類の言語特有の数字を表示したキャプションです。



A. アラビア語（エジプト）、B. 英語（米国）、C. タイ語（トラディショナル）

テキストオブジェクト内で改ページを許可するには

「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションは、親サブフォームで改ページが許可されている場合に、テキストオブジェクトに対して有効になります。このオプションは、デフォルトで選択されません。

テキストオブジェクト内で改ページを許可する際は、次のことを考慮します。

- 「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションは、親オブジェクトで改ページが許可されている場合にのみ、テキストオブジェクトに対して有効になります。
- 改ページは、回転テキストオブジェクトではサポートされません。

- 「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションは、フローティングフィールドに対しては無効です。代わりに、フローティングフィールドを参照するテキストオブジェクトに対して「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションを有効にしてください。
- 改ページの挿入が可能なオブジェクトが、改ページを挿入できないオブジェクトの横に配置されている場合、改ページは許可されません。
- 「編集中に固定サイズのテキストオブジェクトを自動調整」オプション（ツール／オプション／ワークスペース）または「拡大して合わせる」オプション（レイアウトパレット）の選択が解除されている場合、ボイラプレートテキストはデザイン時に拡大されません。そのため、改ページは挿入できません。

テキストオブジェクト内で改ページを許可するには

- ❖ オブジェクトパレットの「描画」タブをクリックし、「コンテンツ内で改ページを許可」を選択します。

テキストオブジェクトをフォーム内の次のオブジェクトに合わせるには

「次と合わせる」オプションは、フローコンテナである親オブジェクトで改ページが許可されている場合に、テキストフィールドに対して有効になります。

「次と合わせる」オプションは、フローティングフィールドに対しては無効です。代わりに、フローティングフィールドを参照するテキストオブジェクトに対して「次と合わせる」オプションを有効にしてください。

- ❖ オブジェクトパレットの「描画」タブをクリックし、「次と合わせる」を選択します。

関連項目

377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

377 ページの「[境界線パレットの境界線プロパティ](#)」

378 ページの「[フォントパレットのフォントプロパティ](#)」

378 ページの「[段落パレットの段落プロパティ](#)」

479 ページの「[「描画」タブのテキストプロパティ](#)」

336 ページの「[オブジェクトをデータに合わせて拡大するには](#)」

286 ページの「[日付 / 時間フィールドの使用](#)」

319 ページの「[テキストフィールドの使用](#)」

351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」

テキストフィールドの使用

ユーザーがテキストデータを入力できるようにするには、フォームにテキストフィールドを追加します。テキストフィールドを用意しておくと、ユーザーはフィールド内で任意のテキストを入力、選択、編集、切り取り、コピー、貼り付けおよび削除することができます。

テキストフィールドでは、折り返されたテキスト行や、高度な形式設定機能がサポートされています。例えば、テキストフィールドには、テキストブロックを様々な書体やカラーで表示できます。テキストは、プレーンテキストまたは XHTML として保存、取得できます。必要であれば、定義済みパターンに従ってテキストフィールドを形式設定して表示することもできます。

フォームデザインにテキストフィールドを追加した後に、オブジェクトパレットの「フィールド」、「値」および「連結」タブを使用して、キャプションテキストを編集し、オブジェクトのプロパティを操作することができます。次のプロパティを定義できます。

- フィールドのキャプションを変更する。351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」を参照してください。

- フィールドの境界線のスタイルを設定する。260 ページの「[境界線のスタイルを設定するには](#)」を参照してください。
- フィールドを表示、非表示または隠すのいずれかとして定義する。353 ページの「[オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する](#)」を参照してください。
- フィールドのロケールを指定する。260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。
- フィールドについて comb 形式を指定する。
- 複数行のテキストを有効または無効にする。
- リッチテキスト形式でのフィールドへの入力を有効または無効にする。
- フィールド内の文字数を制限する。
- フィールドのコンテンツ内で改ページを許可する
- 改ページが挿入されたときに、テキストフィールドオブジェクトをドキュメント内の次のオブジェクトに合わせる。
- 表示パターンを定義する。
- 編集パターンを定義する。
- 表示の初期値を指定する。
- 実行時プロパティを定義する（例えば、ページ番号を挿入する）。
- 検証パターンを定義する。
- フィールドをプレーンテキストまたは XHTML に対応させるかどうかを選択する。
- データ連結パターンを指定する。
- 連結データの格納および取得のための連結メソッドを指定する。

テキストフィールドはスクリプティングと演算に対応しています。ユーザーにデータ入力を求める場合は、入力が推奨されるのか、それとも必須なのかを定義し、必要に応じてユーザーの注意を促すためのメッセージを設定することができます。ユーザーの入力はすべてスクリプティングを使用して検証できます。

関連項目

- 351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」
- 331 ページの「[オブジェクトをロックするには](#)」
- 355 ページの「[フィールド値の形式設定とパターンの使用](#)」
- 485 ページの「[テキストフィールドパターン](#)」
- 480 ページの「[「フィールド」タブのテキストフィールドプロパティ](#)」
- 482 ページの「[「値」タブのテキストフィールドプロパティ](#)」
- 484 ページの「[「連結」タブのテキストフィールドプロパティ](#)」
- 357 ページの「[デフォルト値を指定するには](#)」
- 524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」
- 526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

テキストフィールドで複数行のテキストを使用できるようにするには

- ❖ オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「複数行」を選択します。

テキストフィールド内の文字数を制限するには

テキストフィールド内の文字数は、2 とおりの方法で制限できます。

- 文字数の上限を指定する。
- Designer で、テキストフィールドの水平方向の長さにより、許容される文字数が決定されるように指定する。

テキストフィールド内の文字数を指定するには

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 「文字数の制限」を選択し、「最大文字数」ボックスに、ユーザーがテキストフィールドに入力できる最大文字数を入力します。

テキストフィールドの幅を基に文字数を制限するには

❖ オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、「文字数を表示領域に制限」を選択します。

テキストフィールド内での改ページの許可

「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションは、親サブフォームで改ページが許可されている場合に、テキストフィールドに対してデフォルトで有効になります。

テキストフィールド内で改ページを許可する際は、次のことを考慮します。

- 「コンテンツ内で改ページを許可する」オプションは、親オブジェクトで改ページが許可されている場合にのみ選択できます。
- オブジェクトパレットの「フィールド」タブでキャプションの位置として上または下が選択されている場合は、テキストフィールドオブジェクトのキャプションテキストは改ページされません。
- 改ページは、回転テキストフィールドオブジェクトではサポートされません。
- 改ページの挿入が可能なオブジェクトが、改ページを挿入できないオブジェクトの横に配置されている場合、改ページは許可されません。

テキストフィールド内での改ページを許可するには

❖ オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、「コンテンツ内で改ページを許可」を選択します。

テキストフィールドをフォーム内の次のオブジェクトに合わせるには

「次と合わせる」オプションは、フローコンテナである親オブジェクトで改ページが許可されている場合に、テキストフィールドに対して有効になります。

「次と合わせる」オプションは、フローティングフィールドに対しては無効です。代わりに、フローティングフィールドを参照するテキストフィールドオブジェクトの「次と合わせる」オプションを有効にしてください。

❖ オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、「次と合わせる」を選択します。

リッチテキスト形式でのフィールドへの入力を有効にするには

デフォルトでは、テキストフィールドではプレーンテキストが表示、取得されます。その場合、テキストフィールドに関連付けられたデータ値にテキストの形式設定情報が含まれていると、その形式設定は無視され、データ値はプレーンテキストとして表示されます。設定により、データのリッチテキストの形式設定を保持することもできます。

❖ オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックし、フィールドフォーマットリストで「リッチテキスト」を選択します。

フィールドの動作を定義するには

- 1 オブジェクトパレットの「値」タブで、種類リストから次のいずれかのオプションを選択します。
 - データを入力するかどうかをユーザーが選択できるようにする場合は、「ユーザー定義 - オプション」を選択します。
 - ユーザーにデータの入力を促し、推奨フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 推奨」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - ユーザーにデータの入力を促し、これを必須フィールドにする場合は、「ユーザー定義 - 必須」を選択して、「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージを入力します。
 - 読み取り専用フィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 読み取り専用」を選択します。ユーザーは計算値を編集できません。
 - 編集可能なフィールドにして、スクリプトにより計算され、表示されるデータ値を表示する場合は、「計算済み - 上書き可能」を選択します。入力を処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。
 - 読み取り専用フィールドにして、実行時にマージまたは計算されたうえで表示されるデータ値を表示する場合は、「読み取り専用」を選択します。ユーザーは値を編集できません。
- 2 値が推奨または必須である場合は、「空白のメッセージ」ボックスにプロンプトを入力します。
- 3 値を計算する場合は、スクリプトエディターでオブジェクトに計算スクリプトを追加します。
- 4 (オプション) 上書き可能な計算値について、「上書きメッセージ」ボックスにメッセージを入力します。

テキストフィールドのカスタムデータ連結プロパティを定義するには

連結プロパティを使用すると、企業インフラストラクチャ用のデータを取得するフォームを作成したり、実行時に外部データソースのデータをフォームに埋め込んだりすることができます。データ連結プロパティは、オブジェクトパレットの「連結」タブで設定します。

- 1 テキストフィールドを選択します。
- 2 フォームを開いたときに、データソースに接続できるようにします。
- 3 対応するデータノードにフィールドを連結します。オブジェクトとデータソースを連結する方法について詳しくは、497ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」を参照してください。

テキストフィールドのデータ形式を指定するには

テキストフィールドには、プレーンテキスト形式のデータのみを格納することも、XHTML テキスト形式設定情報が含まれるデータを格納することもできます。デフォルトはプレーンテキストです。データ形式を XHTML に変更すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブにあるフィールドフォーマットリストの「リッチテキスト」オプションが自動的に選択されます。

- 1 テキストフィールドオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 フィールドフォーマットリストから適切な形式を選択します。

テキストフィールドに comb 形式を指定するには

comb 形式は、テキストフィールドに追加される文字と数値を境界線で区切る場合に使用します。

- 1 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 2 「マス目で区切る」を選択して、テキストフィールドに含まれる各文字を区切る境界線を含めます。

3 テキストフィールド内で境界線で区切る文字の数を入力します。

フォームオブジェクトコレクションの使用

署名フィールドを適用する、または Paper Forms Barcode でエンコードする必要があるオブジェクトだけを選択し、それらをコレクションとして保存できます。

コレクションは、署名フィールドと Paper Forms Barcode のどちらか一方にしか適用できません。オブジェクトの表現が異なるので、両方に適用することはできません。署名フィールドについて利用できるコレクションは、オブジェクトパレットの「署名」タブに表示されます。Paper Forms Barcode について利用できるコレクションは、オブジェクトパレットの「値」タブに表示されます。

関連項目

556 ページの「[電子署名の使用](#)」

303 ページの「[Paper Forms Barcode について](#)」

557 ページの「[署名フィールドを追加するには](#)」

453 ページの「[「署名」タブの署名フィールドプロパティ](#)」

308 ページの「[Paper Forms Barcode を使用する際のデザイン上のヒント](#)」

440 ページの「[「値」タブの Paper Forms Barcode プロパティ](#)」

638 ページの「[コレクションエディターダイアログボックス](#)」

638 ページの「[コレクションリストダイアログボックス](#)」

452 ページの「[「フィールド」タブの署名フィールドプロパティ](#)」

フォームオブジェクトコレクションを作成するには

署名フィールドまたは Paper Forms Barcode 用のコレクションを作成できます。コレクションを作成し、特定の署名フィールドまたは Paper Forms Barcode で使用するコレクションをその中から選択できます。

注意：「フィールド」タブにある「複数選択を許可」オプションを選択してリストボックスオブジェクトを Paper Forms Barcode のコレクションに追加する場合は、フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで「JavaScript で厳密なスコープ規則を強制」オプションも選択する必要があります。選択しないと、フォーム入力者がリストボックスオブジェクトで選択した値が Paper Forms Barcode で正しくエンコードされない場合があります。

- 1 ファイル/フォームオブジェクトコレクションを選択します。
- 2 「新規」をクリックして、ボックスにコレクションの名前を入力します。
- 3 「変更」をクリックし、コレクションタイプリストで適切なオプションを選択します。選択したコレクションの種類について利用可能なオブジェクトのリストが表示されます。
- 4 コレクションに含めるオブジェクトを選択します。選択したタイプのコレクションでサポートされていないオブジェクトを非表示にする場合は、「サポートされていないノードを隠す」を選択します。
- 5 「OK」をクリックします。

フォームオブジェクトコレクションをコピーするには

- 1 ファイル/フォームオブジェクトコレクションを選択します。
- 2 リスト内のコレクションを選択して「複製」をクリックします。
- 3 コレクションをダブルクリックして名前を入力します。

- 4 コレクションの位置を指定するには、「上へ移動」または「下へ移動」をクリックします。

フォームオブジェクトコレクションの名前を変更するには

- 1 ファイル／フォームオブジェクトコレクションを選択します。
- 2 リスト内のコレクションをダブルクリックし、新しい名前を入力します。

フォームオブジェクトコレクションを変更するには

- 1 次の方法のいずれかを選択します。
 - ファイル／フォームオブジェクトコレクションを選択して、手順 3 に進みます。
 - ページ上の署名フィールドまたは Paper Forms Barcode オブジェクトを選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - Paper Forms Barcode 用のコレクションを変更する場合は、オブジェクトパレットの「値」タブをクリックします。
 - 署名フィールド用のコレクションを変更する場合は、オブジェクトパレットの「署名」タブをクリックします。
- 3 コレクションリストで、「コレクションの新規作成 / 管理」を選択します。
- 4 変更するコレクションを選択して、「変更」をクリックします。
- 5 コレクションタイプリストで適切なオプションを選択します。
- 6 コレクションから削除するオブジェクトまたはコレクションに追加するオブジェクトを選択します。選択したタイプのコレクションでサポートされていないオブジェクトを非表示にする場合は、「サポートされていないノードを隠す」を選択します。
- 7 「OK」をクリックします。
- 8 コレクションの位置を指定するには、「上へ移動」または「下へ移動」をクリックします。

フォームオブジェクトコレクションを削除するには

- 1 ファイル／フォームオブジェクトコレクションを選択します。
- 2 リストのコレクションを選択して「削除」をクリックし、「はい」をクリックします。

カスタムオブジェクトの使用

Designer では、オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリにあるオブジェクトに加え、定義済みのカスタムオブジェクトもいくつか使用することができます。これらのオブジェクトは、フォームの作成者が作業中たびたび必要とする機能を提供するように設定されます。このようなカスタムオブジェクトには、要件に合うように調整が可能なプロパティとスクリプトが用意されています。

下記の定義済みカスタムオブジェクトは、オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリにあります。

オブジェクト	説明
住所ブロック	米国郵政公社の形式で、住所を受け取って表示します。住所ブロックは、ユーザーが名前、住所、市町村名、都道府県名、郵便番号および国名を入力するテキストフィールドのグループです。 どの種類のフォームでも使用できます。
フィールドの処理	Process Management フォームで使用できるオブジェクトのブロックです。このブロックには、送信ボタン、アクションのコンボボックスおよびその他の非表示フィールドがあり、 Process Management がフォームデータを正確に回覧するのに必要なデータを転送するために使用されます。
国	国名が入力されたコンボボックスを表示します。このリストから国を追加、移動および削除することができます。 インタラクティブフォーム専用です。
現在の日付	ビューアのシステムロケールに応じて現在の日時を表示するスクリプトを持つ日付 / 時間フィールドです。 どの種類のフォームでも使用できます。
データコンボボックス	OLEDDB データソースからのリストを埋め込んだスクリプトのあるコンボボックスです。 インタラクティブフォーム専用です。
データリストボックス	OLEDDB データソースからのリストを埋め込んだスクリプトのあるリストボックスです。 インタラクティブフォーム専用です。
電子メールアドレス	電子メールアドレスの取得や検証を行うテキストフィールドです。 インタラクティブフォーム専用です。
Form Bridge	Acrobat 外部での PDF フォームへの通信を可能にする隠されたオブジェクトです。
名前	名前情報を受け取って表示する、テキストオブジェクトのグループです。エンドユーザーは、姓、名前およびイニシャルを入力できます。 どの種類のフォームでも使用できます。
ページ n/m	実行時に現在のページとフォームの合計ページ数を表示するスクリプトのある、テキストフィールドです。 例：ページ 1 / 30 どの種類のフォームでも使用できます。
ページナビゲーション	最初、最後、前および次のページへ移動するスクリプトのある、ボタンのグループです。 インタラクティブフォーム専用です。
電話番号 - 英国	入力を、英国 (UK) の電話番号にフォーマットするテキストフィールドです。 インタラクティブフォーム専用です。
電話番号 - 北米	入力を、北アメリカの電話番号にフォーマットするテキストフィールドです。 インタラクティブフォーム専用です。
シート n/m	フォームの総シート数に対する現在のシートの値を示す、テキストオブジェクトが表示されます。 例：シート 1/5 どの種類のフォームでも使用できます。
署名 (印刷してサイン)	ユーザーが署名できるように、印刷フォーム上に空白を設けます。 プリントフォーム専用です。
アンケートの質問	アンケートの質問のためのテキストオブジェクトおよび回答を選択するためのラジオボタンのグループです。 インタラクティブフォーム専用です。
ソーシャルセキュリティナンバー	ユーザーが米国の社会保証番号を入力できるテキストフィールドです。 インタラクティブフォーム専用です。
アメリカ合衆国の州	米国の州名が入力されたコンボボックスを表示します。このリストから州を追加、移動および削除することができます。 インタラクティブフォーム専用です。

カスタムオブジェクトの多くは、必要に応じてキャプションや形式設定番号を変えたり、フォントの種類を変えたりするなど、少し変更を加えるだけですぐに使用できます。カスタムオブジェクトをフォームデザインにドラッグし、変更を加えるだけで済みます。フォームデザインに配置したカスタムオブジェクトは、階層パレットにも表示されます。例えば住所ブロックのように、特定の 방법으로形式設定してグループ化された、複数の標準オブジェクトから構成されているカスタムオブジェクトの場合は、階層パレットに名前、住所、市町村名、都道府県名、郵便番号、国名といった個々のテキストフィールドオブジェクトが表示されます。

データコンボボックスとデータリストボックスの2つのカスタムオブジェクトは、関連したカスタムスクリプトを伴う1つのオブジェクトで構成されます。このスクリプトを使用して、2つの列に OLEDB データ接続からデータを入力することができます。フォームデザインにオブジェクトを配置すると、スクリプトエディターにスクリプトが表示されます。ここには、スクリプトを特定の実行時環境に適合させるのにどの変更が必要かを説明したコメントが記述されています。詳しくは、522 ページの「[OLEDB データ接続からコンボボックスまたはリストボックスへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

フィールドの処理オブジェクトは、Adobe® LiveCycle® Process Management 11 での使用に合わせて厳密にデザインされた特別なオブジェクトです。

関連項目

327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」

15 ページの「[オブジェクトライブラリパレット](#)」

22 ページの「[ライブラリパレットの管理](#)」

260 ページの「[スクリプティングと演算をサポートするオブジェクト](#)」

260 ページの「[スクリプティングと演算をサポートするオブジェクト](#)」

377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

377 ページの「[境界線パレットの境界線プロパティ](#)」

378 ページの「[フォントパレットのフォントプロパティ](#)」

378 ページの「[段落パレットの段落プロパティ](#)」

カスタムオブジェクトを作成するには

カスタムオブジェクトを作成するには

Designer では、独自のカスタムオブジェクトを作成、保存して再利用することができます。カスタムオブジェクトを作成するには、「標準」タブから1つ以上のオブジェクトを選んでフォームデザインに追加し、それぞれの目的に合わせてオブジェクトのプロパティを定義するという作業を行います。

オブジェクトは、オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリに保存することも、オブジェクトライブラリパレットに独自のカテゴリを作成してそこに保存することもできます。独自のオブジェクトライブラリカテゴリの作成は、作成したカスタムオブジェクトを整理し、Designer に用意されている定義済みのカスタムオブジェクトと区別しておくのに便利です。独自のカテゴリの作成について詳しくは、22 ページの「[オブジェクトライブラリパレットにカテゴリを追加するには](#)」を参照してください。

- 1 オブジェクトライブラリパレットで、カスタマイズするオブジェクトをフォームデザイン上にドラッグします。
- 2 オブジェクトのプロパティを定義します。
- 3 オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリをクリックします。
- 4 オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリにオブジェクトをドラッグします。
- 5 ライブラリオブジェクトの追加ダイアログボックスで、カスタムオブジェクトの名前と説明を入力し、「OK」をクリックします。

注意：複数のオブジェクトを1つのカスタムオブジェクトとして保存することができます。複数のオブジェクトを「カスタム」タブにまとめてドラッグすると、「カスタム」タブに単一のオブジェクトが作成されます。

オブジェクトの追加、コピーおよび削除

フォームデザインにオブジェクトを追加するには

オブジェクトはいくつかの方法でフォームデザインに追加できます。オブジェクトを追加したら、オブジェクトのプロパティを定義することができます。

挿入メニューを使用してオブジェクトを追加するには

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- ・ 挿入／標準／[オブジェクト]を選択します。
- ・ 挿入／バーコード／[オブジェクト]を選択します。
- ・ 挿入／カスタム／[オブジェクト]を選択します。

オブジェクトライブラリパレットからオブジェクトを追加するには

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- ・ オブジェクトをフォームデザインにドラッグします。
- ・ オブジェクトをダブルクリックします。
- ・ オブジェクトをクリックしてフォームデザイン内でドラッグし、オブジェクトを描画します。

同じ種類の複数のオブジェクトを追加するには

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- ・ オブジェクトライブラリパレットで、オブジェクトをクリックしてから、表示／繰り返し描画を選択します。「繰り返し描画」コマンドはどのオブジェクトにも使用できます。この機能を無効にするには、表示／繰り返し描画をもう一度選択するか、Esc キーを押します。
- ・ 「ツール」ツールバーのフィールド編集ツールボタンをクリックして、コンボボックスからオブジェクトを選択します。フィールド編集ツールボタンは、コンボボックス内のオブジェクトにしか利用できません。この機能を無効にするには、「ツール」ツールバーのツールを選択ボタンか手のひらツールボタンをクリックします。

このコマンドを選択しておく、オブジェクトライブラリパレットから毎回オブジェクトを選択することなく、オブジェクトのコピーを必要な数だけ挿入できます。

オブジェクトの切り取り、コピー、貼り付けを行うには

オブジェクトの切り取り、コピーおよび貼り付けは、メニューまたはキーボードショートカットで行うことができます。

オブジェクトの複製は、オブジェクトをコピーして貼り付けるのと同じです。デフォルトでは、複製は元のオブジェクトのすぐ右下に配置されます。複製を新しい位置にドラッグしてから複製すると、次の複製とそれ以降の複製は、最後の複製から同じ方向に同じ距離だけ離れた位置に配置されます。アクティブなコンテンツ領域に収まるだけの複製を作成することができます。

オブジェクトを切り取るかコピーしてから貼り付けるには

1 1つ以上のオブジェクトを選択します。

2 次のいずれかの操作を行います。

- オブジェクトを切り取る場合は、編集／切り取りを選択します。
- オブジェクトをコピーする場合は、編集／コピーを選択します。

3 編集／貼り付けを選択します。

ポインターがページ上にある場合、オブジェクトはポインターの下に貼り付けられます。ポインターがページ上にない場合、オブジェクトはアクティブなコンテンツ領域の左上コーナーに貼り付けられます。

オブジェクトのグループをコピーするには

1 階層パレットでグループノードを選択します。

2 編集／コピーを選択します。

1つ以上のオブジェクトのコピーを複数作成するには

1 フォームデザインまたは階層パレットで任意の数のオブジェクトを選択します。

2 編集／複数コピーを選択します。

3 「コピー数」ボックスにコピー数を入力します。アクティブなコンテンツ領域に収まるだけのコピーを作成することができます。

4 「垂直の位置」と「水平の位置」のオプションを選択します。

5 コピーオブジェクトと元のオブジェクトの間の垂直方向の間隔を広くする場合は、「垂直間隔」領域の「オフセット」オプションを選択し、隣りのボックスに距離を入力します。

6 コピーオブジェクトと元のオブジェクトの間の水平方向の間隔を広くする場合は、「水平間隔」領域の「オフセット」オプションを選択し、隣りのボックスに距離を入力します。

7 「OK」をクリックします。ページにコピーが追加され、元のオブジェクトとコピーオブジェクトの両方がすべて選択されます。

オブジェクトを複製するには

1 1つ以上のオブジェクトを選択します。

2 編集／複製を選択します。

ドラッグしてオブジェクトを複製するには

1 オブジェクトの複製を配置する場所にオブジェクトをドラッグします。

2 Ctrl キーを押しながら、マウスボタンを離します。

オブジェクトを削除するには

任意のオブジェクトを選択して、削除することができます。

1 1つ以上のオブジェクトを選択します。

2 次のいずれかの操作を行います。

- 編集／削除を選択します。
- Delete キーを押します。

オブジェクトの選択、グループ化、移動

関連項目

604 ページの「テキストを選択するためのキー」

609 ページの「オブジェクトを操作するためのキー」

213 ページの「サブフォームの使用」

377 ページの「レイアウトパレットのレイアウトプロパティ」

オブジェクトを選択するには

オブジェクトは、マウスとキーボードによる使い慣れた手法で選択することができます。

- オブジェクトを 1 つ選択する場合は、ツールバーのツールを選択ボタン  をクリックしてから、オブジェクトをクリックします。
- 複数のオブジェクトを選択する場合は、Ctrl キーを押しながら、選択対象の各オブジェクトをクリックするか、ポインターをドラッグして選択対象オブジェクトを選択します。
- すべてのオブジェクトを選択する場合は、編集／すべてを選択を選択します。
- すべてのスタティックオブジェクトを選択する場合は、編集／すべてのスタティックオブジェクトを選択を選択します。
- すべてのフィールドを選択する場合は、編集／すべてのフィールドを選択を選択します。

階層パレットでオブジェクトを選択するには

階層パレットを使用すると、オブジェクトの選択と操作が簡単です。

階層パレットでオブジェクトを選択すると、フォームでも同時にオブジェクトが選択されます。ただし、階層パレットで選択を行うときは、もう一度フォームで作業するまで、キーストローク (F2 や、Shift キーを押しながらクリックするなど) はすべて階層パレットに対して実行されます。

- 階層パレットを表示するには、ウィンドウ／階層を選択します。
- 階層パレットでオブジェクトを 1 つ選択する場合は、オブジェクトをクリックします。
- 階層パレットで隣り合う複数のオブジェクトを選択する場合は、最初のオブジェクトをクリックしてから、Shift キーを押しながら最後のオブジェクトをクリックします。
- 階層パレットで、隣接していない複数のオブジェクトを選択する場合は、Ctrl キーを押しながら各オブジェクトをクリックします。
- 階層パレットでオブジェクトのグループを 1 つ選択する場合は、グループノードをクリックします。

注意：階層パレットでオブジェクトを選択して「デザインビュー」タブをクリックすると、オブジェクトがフォームデザインで選択され、選択したオブジェクトをキーボードを使用して操作できるようになります。

オブジェクトのグループ化とグループ化解除を行うには

オブジェクトのグループ化とグループ化解除はレイアウトメニュー、階層パレットまたはレイアウトツールバーで行います。

- フォームデザインまたは階層パレットでオブジェクトをグループ化する場合は、グループ化するオブジェクトを選択してから、レイアウト／グループ化を選択するか、「グループ化」 をクリックします。
- フォームデザインまたは階層パレットでオブジェクトのグループ化を解除する場合は、グループ化を解除するオブジェクトを選択してから、レイアウト／グループ化解除を選択するか、「グループ化解除」 をクリックします。

- マウスで新しいオブジェクトをグループに追加する場合は、フォームデザインのオブジェクトをグループにドラッグします。
- 階層パレットで新しいオブジェクトをグループに追加する場合は、オブジェクトを既存のグループノードにドラッグします。

オブジェクトを移動するには

オブジェクトを移動するには、マウスでドラッグするか、キーボードの矢印キーを使用するか、レイアウトパレットに正確な値を入力します。

貼り付けでオブジェクトを移動または複製するには

- 1 1つ以上のオブジェクトを選択します。
- 2 選択対象を移動する場合は、編集／切り取りを選択し、複製する場合は、編集／コピーを選択します。
- 3 (オプション) 別のファイルにオブジェクトを貼り付ける場合は、そのファイルを開きます。
- 4 編集／貼り付けを選択して、オブジェクトをアクティブなウィンドウに貼り付けます。

ドラッグしてオブジェクトを移動するには

- 1 1つ以上のオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトを新しい位置にドラッグします。

矢印キーでオブジェクトを移動するには

- 1 1つ以上のオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトの移動方向に一致する矢印キーを押します。デフォルトの距離は 1 ポイント (1 / 72 インチ、0.3528 ミリ) です。
- 3 オブジェクトを 10 ポイント単位で移動する場合は、Shift キーを押しながら矢印キーを押します。

レイアウトパレットで X 座標と Y 座標を使用してオブジェクトを移動するには

- 1 1つ以上のオブジェクトを選択します。
- 2 レイアウトパレットの X 座標、Y 座標、または両方に新しい値を入力します。

オブジェクトを積み重ねるには

Designer では、連続的に描画されたオブジェクトが、最初に描画されたオブジェクトから積み重ねられていきます。オブジェクトが重なっている場合は、積み重ね順序により表示が変わってきます。フォームデザインにおけるオブジェクトの積み重ね順序は、レイアウトメニューの整列コマンドでいつでも変更できます。

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 次の方法のいずれかを使用します。
 - オブジェクトを前面へ移動するには、レイアウト／前面へ移動を選択するか、「前面へ移動」 をクリックします。
 - オブジェクトを最前面へ移動するには、レイアウト／最前面へ移動を選択するか、「最前面へ移動」 をクリックします。
 - オブジェクトを背面へ移動するには、レイアウト／背面へ移動を選択するか、「背面へ移動」 をクリックします。
 - オブジェクトを最背面へ移動するには、レイアウト／最背面へ移動を選択するか、「最背面へ移動」 をクリックします。

オブジェクトをロックするには

フォームデザインでオブジェクトをロックすると、レイアウトエディターでオブジェクトを選択、移動および編集できないようになります。

フォームデザインでは、次の構成要素をロックできます。

テキスト テキストオブジェクトのテキストやオブジェクトのキャプション内のテキストなどがあります。「テキストのロック」を選択するときは、編集するテキストまたはキャプションをダブルクリックする必要があります。これによってテキストを簡単には修正できなくなります。「テキストのロック」が有効にならない場合は、テキストを編集するキャプションまたはテキストオブジェクト内でクリックします。テキストに変更を加えないでオブジェクトを選択および移動する必要がある場合、「テキストのロック」は特に便利です。オブジェクトを選択するには、そのオブジェクトを 1 回クリックするだけでですが、キャプションまたはテキストに変更を加えるには、そのキャプションまたはテキストをダブルクリックする必要があります。

スタティックオブジェクト テキスト、円、線および長方形などがあります。

フィールドオブジェクト ボタン、チェックボックス、日付 / 時間フィールド、十進数フィールド、署名フィールド、コンボボックス、画像フィールド、リストボックス、数値フィールド、Paper Forms Barcode、パスワードフィールド、ラジオボタン、テキストフィールドなどがあります。

スタティックオブジェクトとフィールドオブジェクトをロックした場合は、ロックを解除しないと、新しいスタティックオブジェクトとフィールドを追加できません。

フォームデザイン内の特定のオブジェクトの形式設定を完了した後に、他の種類のオブジェクトの作業を続行する状況では、ロックコマンドが便利です。例えば、フォームに多数のテキストフィールドオブジェクト、およびフォームの入力方法について説明するテキストオブジェクトがあるとします。テキストオブジェクトはすべて配置済みで、形式設定済みですが、テキストフィールドオブジェクトに別のフォントを適用する必要があります。この場合、テキストオブジェクトをロックし、編集 / すべてを選択を使用して、すべてのテキストフィールドオブジェクトを一度に選択し、まとめてフォントを変更すると簡単です。

- テキストをロックする場合は、編集 / テキストのロックを選択します。テキストのロックを解除する場合は、編集 / テキストのロックを選択します。
- スタティックオブジェクトをロックする場合は、編集 / スタティックオブジェクトのロックを選択します。スタティックオブジェクトのロックを解除する場合は、編集 / スタティックオブジェクトのロックを選択します。
- フィールドをロックする場合は、編集 / フィールドのロックを選択します。フィールドのロックを解除する場合は、編集 / フィールドのロックを選択します。

フォームデザインのオブジェクトを階層パレットで選択して操作するには

フォームデザインで複数のオブジェクトが重なり合っている場合は、階層パレットでオブジェクトを選択して操作できます。その方がフォームデザインでオブジェクトを直接選択するよりも簡単です。

- 1 階層パレットで、操作するオブジェクトをクリックします。オブジェクトが階層パレットとフォームデザインの両方で選択されます。
- 2 「デザインビュー」タブをクリックします。
- 3 キーボードを使用してフォームデザインのオブジェクトを操作します。例えば、オブジェクトを 2 ポイントずらすには、オブジェクトの移動方向に対応する矢印キーを 2 回押します。フォームデザインのオブジェクトが目的の方向に移動します。

オブジェクトの整列とサイズ調整

オブジェクトを相互に整列させるには

オブジェクトを相互に整列させる場合、整列ポイントは選択した最後のオブジェクトによって決まります。例えば、左に整列するために Shift キーを押しながら複数のオブジェクトをクリックすると、オブジェクトは最後に選択したオブジェクトの左端に揃えられます。選択したオブジェクトのグループのうち、最後のオブジェクトに実線のサイズ変更ハンドルが付きます。

関連項目

332 ページの「[オブジェクトをグリッドに合わせて整列させるには](#)」

333 ページの「[ページの中央にオブジェクトを配置するには](#)」

333 ページの「[オブジェクトを分布させるには](#)」

609 ページの「[オブジェクトを操作するためのキー](#)」

オブジェクトの端を揃えるには

- 1 整列するオブジェクトを選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - オブジェクトの左端を揃えるには、レイアウト／整列／左揃えを選択するか、左揃えボタン  をクリックします。
 - オブジェクトの右端を揃えるには、レイアウト／整列／右揃えを選択するか、右揃えボタン  をクリックします。
 - オブジェクトの上端を揃えるには、レイアウト／整列／上揃えを選択するか、上揃えボタン  をクリックします。
 - オブジェクトの下端を揃えるには、レイアウト／整列／下揃えを選択するか、下揃えボタン  をクリックします。

オブジェクトの垂直方向の中央を揃えるには

- 1 整列するオブジェクトを選択します。
- 2 レイアウト／整列／垂直方向中央を選択するか、中央揃え（垂直方向）ボタン  をクリックします。

オブジェクトの水平方向の中央を揃えるには

- 1 整列するオブジェクトを選択します。
- 2 レイアウト／整列／水平方向中央を選択するか、中央揃え（水平方向）ボタン  をクリックします。

コンテンツがフローするサブフォームのオブジェクトを整列するには

コンテンツがフローするサブフォームでは、テーブル行とテーブルセル以外のオブジェクトを整列することができます。

- 1 整列するオブジェクトを選択します。
- 2 レイアウトパレットで、「フローコンテナでのコンテンツの配置」のいずれかの整列ボタンをクリックします。

オブジェクトをグリッドに合わせて整列させるには

グリッドの最も近い区切り線にオブジェクトを合わせることができます。グリッドの設定は描画ツールパレットで調整できます。

- 1 整列するオブジェクトを選択します。

- レイアウト／整列／グリッドに合わせるを選択します。

関連項目

- 337 ページの「[「グリッドにスナップ」の使用](#)」
- 609 ページの「[オブジェクトを操作するためのキー](#)」
- 17 ページの「[描画ツールパレット](#)」

ページの中央にオブジェクトを配置するには

ページの水平方向または垂直方向の中央にオブジェクトを配置することができます。中央は、定義されているページサイズに基づきます。

- 中央に配置するオブジェクトを選択します。
- レイアウト／中央揃え／水平方向に揃えるか、レイアウト／中央揃え／垂直方向に揃えるを選択します。

関連項目

- 332 ページの「[オブジェクトをグリッドに合わせて整列させるには](#)」
- 332 ページの「[オブジェクトを相互に整列させるには](#)」
- 333 ページの「[オブジェクトを分布させるには](#)」

オブジェクトを回転させるには

アンカーポイントを中心にして、オブジェクトを 90°、180° または 270° で回転させることができます。アンカーポイントは、オブジェクトの回転開始位置となり、オブジェクトの X 座標と Y 座標で定義します。

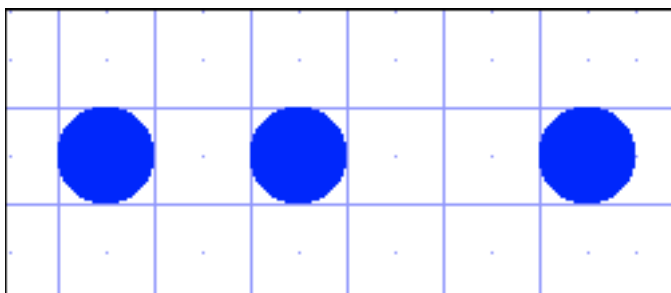
- オブジェクトを選択します。
- レイアウトパレットのアンカーリストから、アンカーポイントの位置を選択します（アンカーポイントをオブジェクトの境界線上のどこに置くかを選択します）。
- 回転ボタン  のいずれかをクリックします。

関連項目

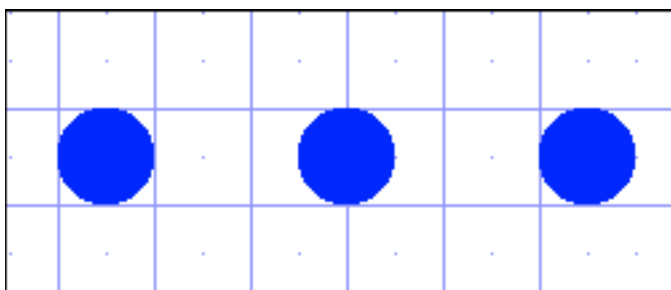
- 377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

オブジェクトを分布させるには

オブジェクトを分布させると、現在の選択によって囲まれた領域内にオブジェクトが均等に配置されます。選択したオブジェクトは、水平方向または垂直方向に均等に配置するか、行と列の形で配置することができます。現在の選択領域にオブジェクトを分布すると、オブジェクトは選択領域内のオブジェクトの一番左の端と一番右の端の間に均等に配置されます。

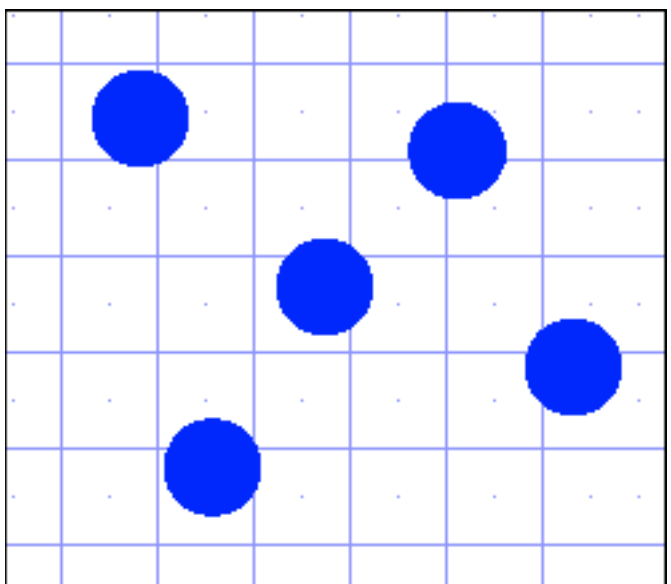


分布前は、各オブジェクト間の間隔が異なっています。

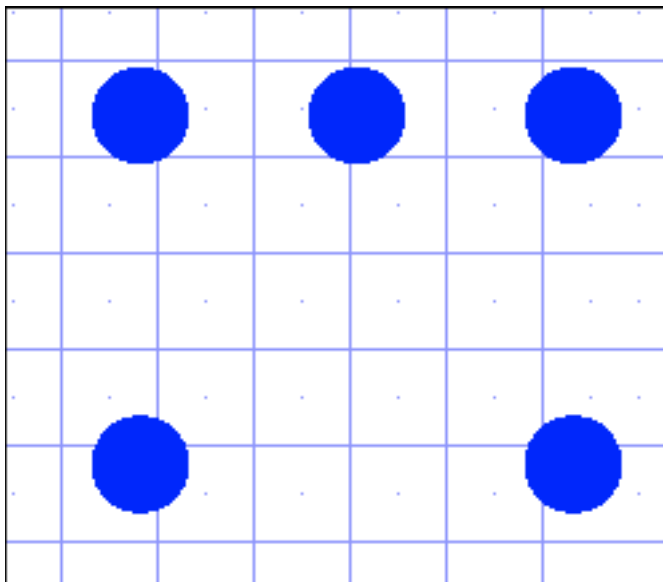


分布後は、各オブジェクト間の間隔が同じになります。

行と列の形で複数のオブジェクトを分布する場合は、選択領域の外側の境界に最も近いオブジェクトによって最左列、最右列、最上行および最下行の位置が決まります。



分布前は、オブジェクトが列と行に配置されていません。



分布後は、オブジェクトが列と行に配置されています。

💡 複雑なレイアウトの場合、一度に 1 つの行または列ずつ分布を行えば、行と列にすべてのオブジェクトを同時に分布するよりもうまく制御できます。最善の結果を得るために、まず最左列を分布し、次に最上行を分布するようにすることができます。その後で、各行を選択し、最左列と左揃えします。

- 1 分布するオブジェクトを選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - 現在の選択領域で水平方向にオブジェクトを分布させるには、レイアウト／分布／水平方向を選択するか、水平方向に分布  ボタンをクリックします。
 - 現在の選択領域で垂直方向にオブジェクトを分布させるには、レイアウト／分布／垂直方向を選択するか、垂直方向に分布  ボタンをクリックします。
 - オブジェクトを行と列の形で分布させるには、レイアウト／分布／行と列に合わせるを選択するか、行と列に整列して配置  ボタンをクリックします。

関連項目

332 ページの「[オブジェクトを相互に整列させるには](#)」

332 ページの「[オブジェクトをグリッドに合わせて整列させるには](#)」

333 ページの「[ページの中央にオブジェクトを配置するには](#)」

609 ページの「[オブジェクトを操作するためのキー](#)」

オブジェクトのサイズを変更するには

オブジェクトやオブジェクトグループのサイズはマウスで変更できます。複数のオブジェクトのサイズを同時に変更すると、オブジェクトは均等にサイズ変更されます。複数のオブジェクトのサイズを異なる量ずつ変更するには、各オブジェクトを個別に選択し、サイズ変更します。

レイアウトパレットで設定を編集してオブジェクトのサイズを変更することもできます。

注意：画像フィールドの「サイズ調整」オプション（オブジェクトパレットの「フィールド」タブ内）が「画像サイズを使用する」以外のオプションに設定されている場合は、画像フィールドだけをサイズ変更できます。

- 1 サイズ変更する各オブジェクトを選択します。
- 2 選択ハンドルの1つにポインターを合わせ、ポインターが二重矢印になったら、次のいずれかの手順を実行します。
 - オブジェクトを大きくするには、ハンドルを選択の外側に向けてドラッグします。
 - オブジェクトを小さくするには、ハンドルを選択の中心に向けてドラッグします。ハンドルをドラッグすると、ステータスバーにオブジェクトのサイズが表示されます。

関連項目

336 ページの「[オブジェクトを同じサイズにするには](#)」

377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

オブジェクトを同じサイズにするには

複数のオブジェクトの幅、高さ、またはその両方を同じにすることができます。選択した最後のオブジェクトのサイズによって、どの幅または高さが使用されるかが決まります。例えば、同じ幅にするために Shift キーを押しながら複数のオブジェクトをクリックすると、オブジェクトは最後に選択したオブジェクトの幅と一致するようにサイズ変更されます。選択したオブジェクトのグループのうち、最後のオブジェクトに実線のサイズ変更ハンドルが付きます。

注意：画像フィールドの「サイズ調整」オプション（オブジェクトパレットの「フィールド」タブ内）が「画像サイズを使用する」以外のオプションに設定されている場合は、画像フィールドだけをサイズ変更できます。

- 1 同じサイズにするオブジェクトを選択します。
- 2 レイアウト／同じサイズに設定／[dimension] を選択します。

関連項目

332 ページの「[オブジェクトを相互に整列させるには](#)」

335 ページの「[オブジェクトのサイズを変更するには](#)」

オブジェクトをデータに合わせて拡大するには

データをマージしたときに、アンカーポイントを基準にしてオブジェクトの幅と高さが拡大されるようにできます。オブジェクトはアンカーポイントとは逆の方向に拡大されるので、アンカーポイントの位置によっては、オブジェクトの拡大方向が制限される場合もあります。例えば、アンカーポイントを「中央上」に選択した場合、オブジェクトは左、右および下方向に拡大できます。

重要：Acrobat 6 互換フォームの場合、「拡大して合わせる」オプションを選択しないでください。Acrobat 6 互換フォームでは、拡大して合わせる事が可能なフィールド内のデータは編集できません。このオプションを使用する代わりに、ユーザーが入力するであろう最も長いデータ値でも収容できるようなフィールドの位置とサイズを設定してください。

オブジェクトを手動で拡大するには、オプションダイアログボックスの「ウィザードとヒント」パネルにある「テキストオーバーフローインジケータを表示する」オプションを選択する方法もあります。674 ページの「[ウィザードとヒント \(オプションダイアログボックス\)](#)」を参照してください。

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 レイアウトパレットで、「幅」、「高さ」のいずれかまたは両方に対して「拡大して合わせる」オプションを選択します。

関連項目

377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

オブジェクトを配置するには

オブジェクトの位置は、レイアウトパレットで X 座標と Y 座標を使用して厳密に指定できます。X 座標はサブフォームの左端を基準にしたオブジェクトの水平位置を定義します。Y 座標はサブフォームの上端を基準にしたオブジェクトの垂直位置を定義します。オブジェクトの全体的なサイズには、キャプション（ある場合）と関連する入力可能な領域が含まれます。

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 レイアウトパレットメニューで次のオプションのいずれかを選択します。
 - 絶対座標
 - 相対座標
- 3 レイアウトパレットで、オブジェクトの X 座標と Y 座標を指定します。

関連項目

337 ページの「[「グリッドにスナップ」の使用](#)」

377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

「グリッドにスナップ」の使用

「グリッドにスナップ」オプションを使用すると、フォームデザインに配置するオブジェクトを、グリッド上の最も近いポイントに自動的にスナップできます。「グリッドにスナップ」オプションは、描画ツールパレットで、または表示メニューから使用できます。

オブジェクトを移動すると、オブジェクトのアンカーポイントの X および Y 座標がグリッド単位で均等に分割されます。オブジェクトの幅または高さが現在のグリッド単位で均等に分割できない場合は、ページのコンテンツ領域を越えない場所に位置する最後のグリッドポイントを越えてオブジェクトを配置することはできません。

ページの右端または下端に沿ってオブジェクトを配置する場合は、次の点に注意してください。

- 「グリッドにスナップ」を選択した場合、ページの右端または下端に沿ってオブジェクトを配置するには、幅と高さをグリッド単位で均等に分割できるようにする必要があります。これを簡単に行うには、「グリッドにスナップ」を選択した状態で左下隅をドラッグしてオブジェクトのサイズを変更します。グリッド単位に対して倍数関係が等しくなるように、オブジェクトのサイズが制限されます。
- 「グリッドにスナップ」を選択しない場合は、ページの右端または下端にできる限り近くなるように手動でオブジェクトを配置できます。

関連項目

332 ページの「[オブジェクトをグリッドに合わせて整列させるには](#)」

17 ページの「[描画ツールパレット](#)」

「ガイドラインにスナップ」の使用

定義したガイドライン上にオブジェクトを自動的に配置するには、「ガイドラインにスナップ」オプションを使用します。「ガイドラインにスナップ」オプションは、描画ツールパレットで、または表示メニューから使用できます。ガイドラインを追加または削除するには、描画ツールパレットを使用します。

「ガイドラインにスナップ」を有効にすると、オブジェクトをガイドラインの 1 グリッド範囲内に近づけたときに、オブジェクトが自動的にガイドラインにスナップされます。他のスナップオプションも有効になっている場合は、オブジェクトをガイドラインにより近づけないとオブジェクトはスナップされません。

複数のオブジェクトを選択すると、これらのオブジェクトは 1 つのオブジェクトと見なされてスナップされます。

関連項目

17 ページの「[描画ツールパレット](#)」

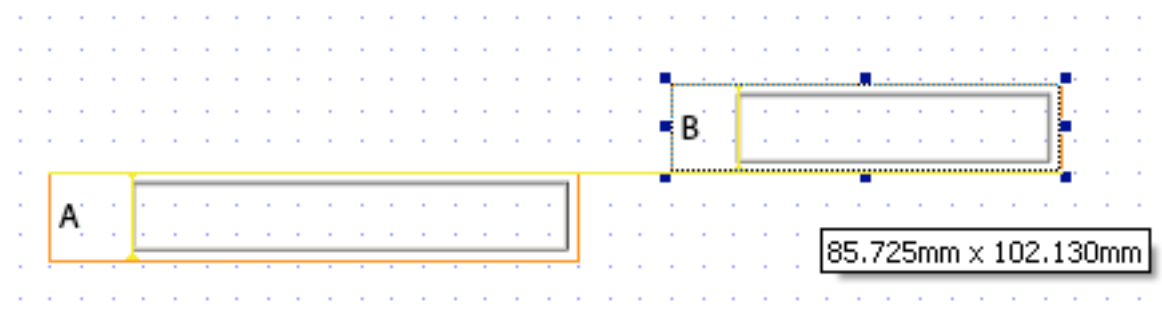
20 ページの「[描画ツールを使用するには](#)」

「オブジェクトにスナップ」の使用

オブジェクトの境界線を別のオブジェクトの境界線に自動的に合わせるには、「オブジェクトにスナップ」オプションを選択します。「オブジェクトにスナップ」オプションは、描画ツールパレットで、または表示メニューから使用できます。

「オブジェクトにスナップ」を有効にすると、オブジェクトを別のオブジェクトの 1 グリッド範囲内に近づけたときに、オブジェクトが自動的に別のオブジェクトにスナップされます。他のスナップオプションも有効になっている場合は、オブジェクトを別のオブジェクトにより近づけないとオブジェクトはスナップされません。

「オブジェクトにスナップ」では、オブジェクトが別のオブジェクトに接触しない場合でもオブジェクトがスナップされます。例えば、次の図で、オブジェクト B の下端の境界線はオブジェクト A の上端の境界線にスナップされます。



「オブジェクトにスナップ」オプションが有効になっている場合は、Alt キーを押しながらオブジェクトを配置することによって、このオプションを一時的に無効にできます。このオプションが無効になっている場合は、Alt キーを押すと一時的に有効になります。

注意：Alt キーを使用すると矢印キーが無効になるので、矢印キーを使用してオブジェクトを移動するときは、Alt キーで「オブジェクトにスナップ」のオン / オフを切り替えることはできません。

複数のオブジェクトを選択すると、これらのオブジェクトは 1 つのオブジェクトと見なされてスナップされます。

関連項目

17 ページの「[描画ツールパレット](#)」

20 ページの「[描画ツールを使用するには](#)」

「ページ中央にスナップ」の使用

オブジェクトの中心をページの垂直または水平の中央線に自動的に配置するには、「ページ中央にスナップ」を使用します。「ページ中央にスナップ」オプションは、描画ツールパレットで、または表示メニューから使用できます。

ページの中央線はオブジェクトではありません。「ページ中央にスナップ」を有効にして、オブジェクトを中央線に近づけた場合にのみ中央線が表示されます。

「ページ中央にスナップ」を有効にすると、オブジェクトをページの中央線の 1 グリッド範囲内に近づけたときに、オブジェクトが自動的に中央線にスナップされます。他のスナップオプションも有効になっている場合は、オブジェクトを中央線により近づけないとオブジェクトはスナップされません。オブジェクトをページの垂直および水平の中央線に同時にスナップすると、オブジェクトはページの中央に正確に配置されます。

複数のオブジェクトを選択すると、これらのオブジェクトは 1 つのオブジェクトと見なされてスナップされます。

関連項目

17 ページの「[描画ツールパレット](#)」

20 ページの「[描画ツールを使用するには](#)」

書式設定

テキストの書式設定

フォントプロパティは、テキストオブジェクト、オブジェクトのキャプションおよびデータ値について定義できます。

フォントパレットには、利用可能なすべてのフォントプロパティが用意されています。フォントパレットで定義できるフォントプロパティは次のとおりです。

- フォントタイプ
- フォントのサイズとスタイル
- ベースラインシフト
- フォントの垂直方向または水平方向のスケール
- 文字間隔
- 自動カーニング

フォントツールバーを使用すると、フォントタイプ、サイズ、スタイルなどの一般的なテキストの書式設定プロパティをすばやく定義できます。

注意：ラテン系言語（Latin-1）以外の文字でテキストを表示できるオブジェクトを作成する場合、そのオブジェクトに対しては、該当する言語の完全な文字セットをサポートするフォントを選択するとともに、オブジェクトパレットの「フィールド」タブで適切なロケールを選択する必要があります。

関連項目

378 ページの「[フォントパレットのフォントプロパティ](#)」

17 ページの「[フォントパレット](#)」

342 ページの「[段落の形式設定](#)」

378 ページの「[段落パレットの段落プロパティ](#)」

別のフォントを適用するには

1 変更するテキストを選択するか、オブジェクトを選択します。

編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- キャプションとデータ値を編集する場合は、フォントパレットで、キャプションと値の編集パレットメニューをクリックし、「キャプションと値を編集」を選択します。
- キャプションだけを編集する場合は、フォントパレットで、キャプションの編集パレットメニューをクリックし、「キャプションの編集」を選択します。
- データ値だけを編集する場合は、フォントパレットで、値の編集パレットメニューをクリックし、「値の編集」を選択します。

3 フォントパレットのフォントリストからフォント名を選択します。

フォントサイズを変更するには

1 変更するテキストを選択するか、オブジェクトを選択します。

編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- キャプションとデータ値を編集する場合は、フォントパレットで、キャプションと値の編集パレットメニューをクリックし、「キャプションと値を編集」を選択します。
- キャプションだけを編集する場合は、フォントパレットで、キャプションの編集パレットメニューをクリックし、「キャプションの編集」を選択します。
- データ値だけを編集する場合は、フォントパレットで、値の編集パレットメニューをクリックし、「値の編集」を選択します。

3 フォントパレットの「フォントサイズ」ボックスにポイントサイズを入力するか、ボックスでポイントサイズを選択します。

太字、斜体、下線、または取り消し線を適用するには

1 変更するテキストを選択するか、オブジェクトを選択します。編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- キャプションとデータ値を編集する場合は、フォントパレットで、キャプションと値の編集パレットメニューをクリックし、「キャプションと値を編集」を選択します。
- キャプションだけを編集する場合は、フォントパレットで、キャプションの編集パレットメニューをクリックし、「キャプションの編集」を選択します。
- データ値だけを編集する場合は、フォントパレットで、値の編集パレットメニューをクリックし、「値の編集」を選択します。

3 フォントパレットで、次のいずれかの操作を実行します。

- 太字を適用する場合は、「太字」をクリックします。
- 斜体を適用する場合は、「斜体」をクリックします。
- 下線を適用する場合は、「下線」をクリックします。
- 取り消し線を適用する場合は、「取り消し線」をクリックします。

テキストの色を変更するには

1 変更するテキストを選択するか、オブジェクトを選択します。編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- キャプションとデータ値を編集する場合は、フォントパレットで、キャプションと値の編集パレットメニューをクリックし、「キャプションと値を編集」を選択します。
- キャプションだけを編集する場合は、フォントパレットで、キャプションの編集パレットメニューをクリックし、「キャプションの編集」を選択します。
- データ値だけを編集する場合は、フォントパレットで、値の編集パレットメニューをクリックし、「値の編集」を選択します。

3 フォントパレットのカラーセクターをクリックして、希望の色を選択します。

テキストのベースラインシフトを変更するには

「ベースラインシフト」オプションを使用すると、スペースの量を指定して、ベースラインを基準に文字（または文字のグループ）を上下に移動できます。正の数値で文字を上、負の数値で文字を下に移動します。

ベースラインシフトを使用して、テキストに著作権や商標マーク（© または ™）を追加するなどの微調整を加えたり、式や数式で使われる数値や数字などの上付き文字および下付き文字を作成できます。これらは前後の文字より小さく、文字のわずかに上または下に表示されます。

ベースラインシフトの調整では、行間隔や文字のフォントサイズは変更しません。行間隔またはフォントサイズを変更しても、ベースラインシフトの位置は正しく保持されます。フォントサイズを変更するにはフォントパレットを、行間隔を調整するには段落パレットを使用します。

1 変更するテキストを選択するか、オブジェクトを選択します。編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- キャプションとデータ値を編集する場合は、フォントパレットで、キャプションと値の編集パレットメニューをクリックし、「キャプションと値を編集」を選択します。
- キャプションだけを編集する場合は、フォントパレットで、キャプションの編集パレットメニューをクリックし、「キャプションの編集」を選択します。
- データ値だけを編集する場合は、フォントパレットで、値の編集パレットメニューをクリックし、「値の編集」を選択します。

3 フォントパレットの「ベースラインシフト」ボックスに、適用するずらし量を入力します。

テキストの文字間隔を変更するには

「文字間隔」オプションを使用すると、1 単語または単語のグループの文字間のスペースを調整できます。Designer では文字のスペースの測定単位に EM（文字 **m** のプロポーショナル幅）を使用します。入力できる最小値は -1 000（-1em）です。最大値は 10 000（10em）です。デフォルト値は 0（スペースなし）です。自然数を入力する必要があります。小数部は自然数に四捨五入されます。

注意：1 つまたは複数の選択オブジェクトに対して異なる文字間隔の値を適用すると、「文字間隔」ボックスは混在して表示されます。

1 変更するテキストを選択するか、オブジェクトを選択します。編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。

2 フォントパレットで、次のいずれかの操作を実行します。

- キャプションとデータ値を編集する場合は、キャプションと値の編集パレットメニューをクリックし、「キャプションと値を編集」を選択します。

- キャプションだけを編集する場合は、キャプションの編集パレットメニューをクリックし、「キャプションの編集」を選択します。
- データ値だけを編集する場合は、値の編集パレットメニューをクリックし、「値の編集」を選択します。

3 フォントパレットの「文字間隔」ボックスに、適用する文字間隔の値を入力します。

テキストの垂直方向または水平方向のスケールを変更するには

テキストのサイズを増減するには、「垂直方向のスケール」または「水平方向のスケール」オプションを使用します。

Designer はパーセント値でフォントのスケールを計算します。垂直方向または水平方向のスケールのデフォルト値は 100% か、スケールなしです。入力できる最小値は 1% で、最大値は 1000% です。負の値は適用できません。小数点以下 2 桁まで入力できます（例えば、50.75%）。

入力した値を検証すると、パーセント記号（%）が自動的に挿入されます。無効な値を入力すると、代わりに直前の有効な値が表示されます。

注意：1 つまたは複数の選択オブジェクトに対して異なる垂直方向または水平方向のスケールを適用すると、「垂直方向のスケール」および「水平方向のスケール」ボックスは混在して表示されます。

- 1 変更するテキストを選択するか、オブジェクトを選択します。編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。
- 2 フォントパレットで、次のいずれかの操作を実行します。
 - キャプションとデータ値を編集する場合は、キャプションと値の編集パレットメニューをクリックし、「キャプションと値を編集」を選択します。
 - キャプションだけを編集する場合は、キャプションの編集パレットメニューをクリックし、「キャプションの編集」を選択します。
 - データ値だけを編集する場合は、値の編集パレットメニューをクリックし、「値の編集」を選択します。
- 3 フォントパレットで、「垂直方向のスケール」と「水平方向のスケール」ボックスのいずれかまたは両方に、適用するスケールをパーセントで入力します。

テキストに自動カーニングを設定するには

「自動カーニング」オプションを使用して、特定の文字間のスペースを減らすことができます。自動カーニングは、1 単語または単語のグループ内の文字の、一定ではない間隔を最小限に抑え、一定の間隔を保ちます。例えば、WA、MW、TA などの文字の組み合わせは通常、見やすくなるようにカーニングされます。

- 1 変更するテキストを選択するか、オブジェクトを選択します。編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。
- 2 フォントパレットで、次のいずれかの操作を実行します。
 - キャプションとデータ値を編集する場合は、キャプションと値の編集パレットメニューをクリックし、「キャプションと値を編集」を選択します。
 - キャプションだけを編集する場合は、キャプションの編集パレットメニューをクリックし、「キャプションの編集」を選択します。
 - データ値だけを編集する場合は、値の編集パレットメニューをクリックし、「値の編集」を選択します。
- 3 フォントパレットで「自動カーニング」を選択します。

段落の形式設定

段落プロパティは、テキストオブジェクト、オブジェクトのキャプションおよびデータ値について定義できます。これらのプロパティを定義するには、まず、目的のオブジェクトを選択する必要があります。

段落パレットには、Designer で利用可能なすべての段落プロパティが用意されています。段落パレットで定義できる段落プロパティは次のとおりです。

- 位置揃えと両端揃え
- リスト
- インデント
- 行間
- ハイフネーション

テキスト書式ツールバーを使用すると、最も一般的な段落設定コマンドにすばやくアクセスできます。

関連項目

96 ページの「[テキストのハイフネーション処理](#)」

378 ページの「[段落パレットの段落プロパティ](#)」

段落を整列させるには

- 1 変更するテキストを選択するか、オブジェクトを選択します。編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - キャプションとデータ値を編集する場合は、段落パレットで、キャプションと値の編集パレットメニューをクリックし、「キャプションと値を編集」を選択します。
 - キャプションだけを編集する場合は、段落パレットで、キャプションの編集パレットメニューをクリックし、「キャプションの編集」を選択します。
 - データ値だけを編集する場合は、段落パレットで、値の編集パレットメニューをクリックし、「値の編集」を選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - テキストを左揃えまたは右揃えにする場合は、段落パレットの「左揃え」または「右揃え」をクリックします。
 - テキストを中央揃えにする場合は、段落パレットの「中央揃え」をクリックします。
 - テキストの行端を揃える場合は、段落パレットの「均等配置」をクリックします。
 - キャプションや値のために空けてある領域の上端に揃えてテキストを整列する場合は、段落パレットの「上揃え」をクリックします。
 - キャプションや値のために空けてある領域の中央に揃えてテキストを整列する場合は、段落パレットの「中間揃え」をクリックします。
 - キャプションや値のために空けてある領域の下端に揃えてテキストを整列する場合は、段落パレットの「下揃え」をクリックします。

パレットリストを作成するには

- 1 箇条書き記号を追加するテキストを選択し、「パレットリスト」をクリックします。
- 2 パレットスタイルを選択するには、「箇条書き記号」の横にある矢印をクリックします。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - リストのインデントを増やすには、「インデントを増やす」をクリックします。
 - リストのインデントを減らすには、「インデントを減らす」をクリックします。

番号付きリストを作成するには

- 1 番号を追加するテキストを選択し、「番号付きリスト」をクリックします。
- 2 番号のスタイルを選択するには、「番号付きリスト」の横にある矢印をクリックします。
- 3 「開始」ボックスで開始番号を指定します。
- 4 次のいずれかの操作を行います。
 - リストのインデントを増やすには、「インデントを増やす」をクリックします。
 - リストのインデントを減らすには、「インデントを減らす」をクリックします。

番号付きリストに複合タグを追加するには

- 1 番号付きリスト内の任意の場所をクリックします。
- 2 「複合タグ」チェックボックスをオンにします。
- 3 複合タグを適用する番号付きリスト内のアイテムを選択し、「インデントを増やす」をクリックします。

例えば、次のようなリストがあるとします。

1. アイテム A
2. アイテム B
3. アイテム C
4. アイテム D

このリストでアイテム B とアイテム C のインデントを増やすと、次のような番号付きリストになります。

1. アイテム A
 - 1.1. アイテム B
 - 1.2. アイテム C
 2. アイテム D

段落のインデントを変更するには

- 1 変更するテキストを選択するか、オブジェクトを選択します。編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - キャプションとデータ値を編集する場合は、段落パレットで、キャプションと値の編集パレットメニューをクリックし、「キャプションと値を編集」を選択します。
 - キャプションだけを編集する場合は、段落パレットで、キャプションの編集パレットメニューをクリックし、「キャプションの編集」を選択します。
 - データ値だけを編集する場合は、段落パレットで、値の編集パレットメニューをクリックし、「値の編集」を選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - テキストの左揃えのインデントを増減する場合は、段落パレットの「インデント」の下にある「左」ボックスに希望のインデントを入力します。
 - テキストの右揃えのインデントを変更する場合は、段落パレットの「インデント」の下にある「右」ボックスに希望のインデントを入力します。

- 字下げインデントを作成するには、段落パレットの「最初の行」リストで「字下げ」を選択します。「幅」ボックスにインデント量を入力します。
- ぶら下げインデントを作成する場合は、段落パレットの「最初の行」リストで「ぶら下げ」を選択します。「幅」ボックスにインデント量を入力します。

段落の間隔を変更するには

- 1 変更するテキストを選択するか、オブジェクトを選択します。編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - キャプションとデータ値を編集する場合は、段落パレットで、キャプションと値の編集パレットメニューをクリックし、「キャプションと値を編集」を選択します。
 - キャプションだけを編集する場合は、段落パレットで、キャプションの編集パレットメニューをクリックし、「キャプションの編集」を選択します。
 - データ値だけを編集する場合は、段落パレットで、値の編集パレットメニューをクリックし、「値の編集」を選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - テキストの前後の間隔を変更する場合は、段落パレットの「スペース」の下にある「上」または「下」ボックスに希望の間隔を入力します。
 - 行間隔を設定する場合は、段落パレットの行間リストでオプションを選択します。

選択した段落でのハイフネーション処理

フォームのプロパティダイアログボックスおよびオプションダイアログボックスで選択したハイフネーション値はフォーム全体のテキストに適用されますが、段落パレットの「ハイフネーション処理」オプションを使用して個々の段落のハイフネーションを追加または削除できます。「ハイフネーション処理」オプションを使用すると、オブジェクトごとに手動でテキストのレイアウトを調整できます。

テキストのハイフネーション処理は、テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールドなどのオブジェクトのキャプション領域、およびテキストフィールドオブジェクトの値領域（デフォルトのテキストおよびフォーム入力者が入力したテキスト）で行うことができます。

ハイフネーション処理されるテキストが含まれているオブジェクトについて選択する必要がある、様々なオプションを理解しておくことをお勧めします 96 ページの「[テキストのハイフネーション処理](#)」を参照してください。

 オプションダイアログボックスの書式設定ページで「新規項目をハイフネーション処理」を選択している場合、フォームに新しいオブジェクトを追加すると、自動的に「ハイフネーション処理」オプションが選択されます。

関連項目

- 96 ページの「[テキストのハイフネーション処理](#)」
- 96 ページの「[ハイフネーションを設定する際の考慮点](#)」
- 98 ページの「[フォーム内のハイフネーションの設定と削除](#)」
- 378 ページの「[段落パレットの段落プロパティ](#)」
- 672 ページの「[書式設定（オプションダイアログボックス）](#)」
- 654 ページの「[書式設定（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」

選択した段落でハイフネーション処理を実行するには

1 段落パレットで「ハイフネーション処理」オプションを有効にするには、次のいずれかの操作を実行します。

- (新しいフォームで) ツール／オプション／書式設定を選択し、「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」オプションまたは「テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する」オプションのいずれかまたは両方を選択します。
- (現在のフォームで) ファイル／フォームのプロパティ／書式設定を選択し、「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」オプションまたは「テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する」オプションのいずれか、または両方を選択します。

2 ハイフネーション処理するテキストを選択します。

3 (テキストオブジェクトに適用しない場合) 段落パレットで、キャプション、値、またはキャプションと値の編集パレットメニューをクリックして、次のいずれかの操作を実行します。

- キャプションとデータ値のテキストをハイフネーション処理するには、「キャプションと値を編集」を選択します。
- キャプションのテキストのみをハイフネーション処理するには、「キャプションの編集」を選択します。
- データ値のテキストのみをハイフネーション処理するには、「値の編集」を選択します。

4 テキストフィールドオブジェクトの値領域のテキストをハイフネーション処理するには、オブジェクトパレットの「フィールド」タブで、「複数行」を選択します。

5 レイアウトパレットで、「幅」、「高さ」のいずれかまたは両方に対して「拡大して合わせる」オプションを選択します。

6 段落パレットで「ハイフネーション処理」を選択します。変更が適用されます。

選択した段落からハイフネーションを削除するには

❖ ハイフネーションを削除するテキストをクリックして、段落パレットで「ハイフネーション処理」を選択解除します。変更が適用されます。

オブジェクトの形式設定

関連項目

378 ページの「[フォントパレットのフォントプロパティ](#)」

378 ページの「[段落パレットの段落プロパティ](#)」

377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

377 ページの「[境界線パレットの境界線プロパティ](#)」

オブジェクトの周辺に空白を追加するには

どのようなオブジェクトにも、その周囲にはある程度の空白、つまり余白があります。

1 オブジェクトを選択します。

2 レイアウトパレットで「左端」、「右端」、「上端」および「下端」の余白を設定します。

オブジェクトの周囲に境界線を追加するには

境界線をサポートするオブジェクトについて境界線プロパティを定義するには、まず目的のオブジェクトを選択する必要があります。境界線パレットで定義したプロパティは、オブジェクト全体に適用されます。

1 オブジェクトを選択します。

2 境界線パレットの境界線リストから編集オプションを選択します。

- 各辺に境界線を個別に適用する場合は、「個別に編集」を選択します。このオプションは、3次元境界線には適用されません。
- すべての辺に同じ境界線を適用する場合は、「一括で編集」を選択します。

3 境界線リストの下で、境界線のスタイル、幅、色を選択します。

4 切れ目のあるコーナーを持つ境界線を作成するには、「コーナー」ボタンのいずれかをクリックし、「半径」ボックスでコーナーの半径をインチ、センチまたはポイント単位で定義します。

5 オブジェクトを色またはパターンで塗りつぶすには、スタイルリストからオプションを選択し、その横にあるカラーセレクトボタンで、適切な塗りつぶしの色を選択します。

塗りつぶし可能な領域の周囲に境界線を追加するには

オブジェクトの塗りつぶし可能な領域についても境界線プロパティを指定できます。例えば、テキストフィールドについて、オブジェクト全体に対してはある種類の境界線と塗りつぶしを適用し、データが表示される値領域に対しては別の種類の境界線と塗りつぶしを適用することができます。入力可能な領域を持つオブジェクトは以下のとおりです。

- コマンドボタン
- チェックボックス
- 署名フィールド
- コンボボックス
- リストボックス
- 数値フィールド
- パスワードフィールド
- ラジオボタン
- テキストフィールド

1 オブジェクトを選択します。

2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。表示方法リストで「カスタム」を選択します。

3 入力可能な領域の境界線に使用するスタイルを選択します。選択できるオプションは境界線パレットにあるオプションと同じです。

4 可能な場合は、オブジェクトの境界線の幅を入力し、色を選択します。

5 切れ目のあるコーナーを持つ境界線を作成するには、「コーナー」ボタンのいずれかをクリックし、「半径」ボックスでコーナーの半径をインチ、センチまたはポイント単位で定義します。

6 塗りつぶし可能な領域を色またはパターンで塗りつぶすには、スタイルリストからオプションを選択し、その横にあるカラーセレクトボタンで、適切な塗りつぶしの色を選択します。

新しいオブジェクトのデフォルトの形式設定を変更するには

新しいオブジェクトについては、デフォルトの形式設定を設定し、オブジェクトライブラリに保存できます。例えば、新しいテキストオブジェクトのすべてについてデフォルトのフォントを Times New Roman に変更できます。

1 オブジェクトを挿入します。

2 オブジェクトを変更します。例えば、境界線の追加、別のフォントの適用、テキストのサイズ変更を行います。

3 オブジェクトをオブジェクトライブラリパレットのカテゴリにドラッグします。

4 ライブラリオブジェクトの追加ダイアログボックスに、このオブジェクトの名前を入力し、「OK」をクリックします。

同一名のオブジェクトがこのタブに既に存在する場合は、既存のオブジェクトを上書きするかどうかを確認するプロンプトが Designer に表示されます。

テキストでのリーダーの使用

リーダーを使用すると、ユーザーが特定の情報から目次、価格表、請求書などに含まれる別の情報に、ページをまたいで簡単に移動できるようになります。リーダーは、テキストオブジェクトのテキスト行やテキストブロックのほか、テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールドなどのオブジェクトのキャプション領域に追加できます。テキストオブジェクトまたはキャプション領域が編集モードのとき、「リーダー」コマンドは挿入メニューとコンテキストメニューから使用できます。

定義と編集が可能なリーダープロパティには、終了位置、パターン、線の太さやドットの間隔、配置などがあります。フォントパレットと段落パレットのオプションを使用して、リーダーの位置、サイズおよび外観を調整することもできます。

リーダーを追加すると、リーダーが挿入位置から指定した終了位置まで描画されます。リーダーの終了位置は、ルーラーの単位に基づきます。デフォルトの終了位置は、キャプションまたはスタティックテキストオブジェクトの右端に設定されます。1 度に定義または編集できるリーダーは 1 つです。すべての変更は直ちに適用されます。

テキストの段落ごとに異なるリーダーを定義できますが、新しい段落には前の段落のリーダープロパティが引き継がれることに注意してください。つまり、新たに作成した段落には、前の段落で定義されていたリーダーが適用されます。

注意： Designer は、実行時データのコンテンツを予期できません。リーダーを含むリッチテキストをフォームに追加する場合は、フォームのデザイン時に対象バージョンを Acrobat 9 に設定する必要があります。

関連項目

641 ページの「[タブストップを削除ダイアログボックス](#)」

378 ページの「[フォントパレットのフォントプロパティ](#)」

17 ページの「[フォントパレット](#)」

リーダーを追加するには

- 1 テキストオブジェクトまたはキャプション領域内で、リーダーの開始位置に挿入ポイントを挿入し、挿入／リーダーを選択します。
- 2 「リーダーの終了位置」ボックスに、リーダーの終了位置にするルーラーの位置を入力します。
- 3 リーダーパターンリストで、リーダーを塗りつぶすパターンを選択します。
- 4 リーダーのドット間隔リストでドット間またはダッシュ間隔を指定し、リーダーパターンの太さリストで線の太さを選択します。
- 5 次のいずれかの操作でリーダーを整列します。
 - リーダーに続くテキストの左側（最初の文字の直前）を、リーダーの指定した終了位置で整列するには、「リーダーを左揃え」をクリックします。
 - リーダーに続くテキストの右側（最後の文字の直後）を、リーダーの終了位置として整列するには、「リーダーを右揃え」をクリックします。
- 6 レイアウトエディターの任意の場所をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

リーダーを編集するには

- 1 リーダーを選択して編集します。
- 2 レイアウトエディターの任意の場所をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

リーダーを削除するには

「リーダーの削除」コマンドを使用すると、選択したリーダー（タブ）や関連付けられたタブストップに加えて、パターン、間隔、配置などのリーダープロパティも削除されます。

注意：「リーダーの削除」コマンドは、リーダーを選択した後で、編集メニューで選択できます。ただし、リーダーを選択しても「リーダーの削除」コマンドが使用できない場合は、選択したリーダーがタブストップに関連付けられていません。この場合は、Delete キーを使用してリーダーを削除できます。

- 1 削除するリーダーを選択します。
- 2 編集／リーダーの削除を選択します。

「リーダーなし」に対する視覚的な手掛かりを有効化するには

リーダーの挿入中に「リーダーなし」オプションを選択した場合は、リーダーは「PDF プレビュー」および最終 PDF フォームのどちらにも表示されません。「リーダーなし」を選択した場合は、可視インジケータをオンにしてタブストップを表示できます。ドキュメントを開いている間にこの値が読み込まれるため、この値を有効にするには、既に開いているドキュメントを閉じて再度開きます。

- 1 ツール／オプション／書式設定で、「デザインビューでタブ位置を表示」オプションをオンにします。
- 2 空白の代わりに表示される文字を指定します。

タブストップを削除するには

選択したリーダーをキーボードの Delete キーを使用して削除した場合、実際に削除されるのはタブ文字だけです。関連付けられているタブストップや、パターン、間隔、配置などのリーダープロパティは削除されません。

未使用のタブストップを削除するには、タブストップの削除ダイアログボックスを使用する必要があります。

注意：「タブストップの削除」コマンドは、現在の段落に 1 つ以上のタブストップがある場合に、編集メニューで選択できます。複数の段落を選択している場合、このダイアログボックスは使用できません。

- 1 編集／タブストップの削除を選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - 選択したタブストップを削除する場合は、リストから 1 つ以上のタブストップを選択し、「クリア」をクリックします。
 - すべてのタブストップを削除する場合は、「すべてをクリア」をクリックします。
- 3 「OK」をクリックします。

挿入ポイントの作成

挿入ポイントは、アセンブラサービスを使用してサーバーでアセンブルするフォームで使います。

挿入ポイントは、フォームのアセンブル時にフォームに挿入されるフラグメントのプレースホルダーとなるサブフォームです。フォームのボディまたはマスターページに 1 つ以上の挿入ポイントを追加することができます。

挿入ポイントを作成するには、次のいずれかの方法を使用します。

- フォームに挿入ポイントオブジェクトを挿入します。
 - サブフォームをデフォルト名の **InsertionPoint** で挿入します。
 - 挿入ポイントプレースホルダー（一時的なプレースホルダーコンテンツを含むテキストボックス）を含む挿入ポイントサブフォームを挿入します。

- 「連結」タブの「データ連結（開く、保存、送信）」オプションを「データ連結なし」に設定します。
- 既存のサブフォームに挿入ポイントオブジェクトを挿入します。
 - 選択したサブフォームに挿入ポイントサブフォームを挿入します。デフォルト名は（名称未設定サブフォーム）です。
 - 挿入ポイントサブフォームに挿入ポイントプレースホルダーを挿入します。
 - 既存のサブフォームの場合は、「連結」タブの「データ連結（開く、保存、送信）」オプションを「名前による（＜オブジェクト名＞）」に設定します。挿入ポイントサブフォームの場合は、「連結」タブの「データ連結（開く、保存、送信）」オプションを「データ連結なし」に設定します。
 - 挿入ポイントプレースホルダー（テキストオブジェクト）に対して「レイアウト」タブの「拡大して合わせる」オプションを選択します。挿入ポイントプレースホルダーは、入力されるテキストの量に合わせて拡大できるようになります。
- 既存のサブフォームを挿入ポイントとして定義します。
 - 選択したサブフォームを挿入ポイントにします。
 - サブフォームの既存のオプション設定をすべて維持します。例えば、サブフォームを挿入ポイントとして定義する前に、「連結」タブの「データ連結（開く、保存、送信）」オプションが「名前による（＜オブジェクト名＞）」に設定されている場合、このオプション設定は変更後も保持されます。
- 挿入ポイントプレースホルダーを挿入しません。テキストオブジェクトを挿入ポイントプレースホルダーとして手動で追加できます。

挿入ポイント内に 1 つ以上の挿入ポイントを挿入できます。デフォルトでは、すべての新しい子の挿入ポイントは、親の挿入ポイントと同じ領域を使用します。この場合、複数の挿入ポイントが重なり合う可能性があります。したがって、挿入ポイントを構成するオブジェクトを個別に選択するには、階層パレットを使用することをお勧めします。階層パレットでは、「デザインビュー」タブと「マスターページ」タブにあるコンテンツをグラフィック表示しています。階層パレットで選択したコンテンツは、対応するボディページまたはマスターページでも選択されます。

描画ツールパレットでは、挿入ポイントに対して様々な境界線スタイルを選択できます。

必要に応じて「サブフォーム」タブの「名前」ボックスで挿入ポイントサブフォームの名前を入力できます。フォームのアセンブル時に挿入ポイントサブフォームに対応するフラグメントに関連付けるには、挿入ポイントおよびフラグメントと同じ名前を使用します。名前は、大文字と小文字を組み合わせる LiveCycle や InDesign のように入力します。

フォームに挿入ポイントオブジェクトを挿入

- 1 階層パレットで、挿入ポイントオブジェクトを挿入する場所を選択します。
- 2 挿入／カスタム／挿入ポイントをクリックします。
- 3 （オプション）「名前」ボックスに挿入ポイントサブフォームの名前を入力します。
- 4 必要に応じてフォーム内に挿入ポイントを配置します。

既存のサブフォーム内の挿入ポイント

- 1 階層パレットで、挿入ポイントを挿入する先のサブフォームを選択します。
- 2 挿入／挿入ポイントをクリックします。
- 3 （オプション）「名前」ボックスに挿入ポイントサブフォームの名前を入力します。

挿入ポイントとしてのサブフォームの定義

- 1 階層パレットで、挿入ポイントとして定義するサブフォームを選択します。

- 2 オブジェクトパレットで、「サブフォーム」タブをクリックし、「このサブフォームを挿入ポイントとして指定する」を選択します。
- 3 (オプション)「名前」ボックスに挿入ポイントサブフォームの名前を入力します。

挿入ポイントプレースホルダーを（挿入ポイントとして定義されたサブフォームに）追加

- 1 階層パレットで、挿入ポイントとして定義されたサブフォームを選択し、挿入／標準／テキストをクリックします。
- 2 オブジェクトパレットの「描画」タブで、「このサブフォームを挿入ポイントとして指定する」を選択します。
- 3 テキストオブジェクト内をクリックし、サブフォームを挿入ポイントとして識別するためのテキストを入力します。例えば、「これは一時的なプレースホルダーコンテンツです」と入力します。

キャプションの形式設定

キャプションはオブジェクトライブラリパレットの多くの標準フィールドオブジェクトでサポートされています。キャプションは、フォームフィールドに関するテキスト情報をユーザーに提供します。

キャプションをサポートするオブジェクトをフォームデザインに追加すると、Designer によってキャプションにデフォルト名が割り当てられます。デフォルト名は、オブジェクトの名前です。例えば、フォームデザインにリストボックスオブジェクトを追加した場合、デフォルトのキャプションは「リストボックス」になります。

フォームデザインの作成時には、オブジェクトのキャプションが、そのフォームデザイン自体のオブジェクトの横（デフォルト位置）と、オブジェクトパレットの「フィールド」タブの 2 か所に表示されます。

キャプションテキストを編集するには、オブジェクトパレットの「フィールド」タブを使用するか、ページ上のキャプションテキストを直接編集します。入力するに従ってテキストが折り返される場合は、オブジェクトのサイズを大きくすると、テキストが適切に表示されます。オブジェクトに白い十字が付いた赤いボックス  が表示されている場合は、オブジェクトのサイズを変更するか、キャプションのために空けておく領域を調整する必要があります。領域サイズに 0 を設定すると、キャプション領域は自動調整され、キャプション全体に合うように調整されます。キャプションは保護されているので、ユーザーがフォームに入力しているときに変更されることはありません。

注意：キャプションをデータソースに連結すると、「レイアウト」タブで「キャプションの位置」を「なし」に設定している場合でも、キャプションは常にフォームに表示されます。

フィールドオブジェクトの配置を調節するときに、キャプションを誤って変更することがないようにするには、「テキストのロック」コマンドを使用します。このコマンドを使用すると、フィールドオブジェクトを簡単に移動できる一方で、キャプションは簡単に変更できなくなります。

注意：フィールドオブジェクトがロックされている場合、キャプションを選択したり編集したりすることはできません。
331 ページの「[オブジェクトをロックするには](#)」を参照してください。

関連項目

339 ページの「[書式設定](#)」

316 ページの「[テキストオブジェクトとフィールドオブジェクトを結合してキャプションを作成するには](#)」

378 ページの「[フォントパレットのフォントプロパティ](#)」

378 ページの「[段落パレットの段落プロパティ](#)」

377 ページの「[レイアウトパレットのレイアウトプロパティ](#)」

331 ページの「[オブジェクトをロックするには](#)」

522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

新規フォームのキャプションのデフォルトフォントを設定するには

- 1 ツール／オプションをクリックします。
- 2 「デフォルトフォント」をクリックします。
- 3 「新規フォームのデフォルトのキャプションフォントプロパティ」で、必要に応じて「書体」、「サイズ」、「スタイル」オプションを選択します。

既存フォームのキャプションのデフォルトフォントを設定するには

- 1 ファイル／フォームのプロパティをクリックします。
- 2 「デフォルトフォント」をクリックします。
- 3 「デフォルトのキャプションフォントプロパティ」で、「書体」、「サイズ」、「スタイル」オプションを必要に応じて選択します。

キャプションの名前を変更するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - ・ レイアウトエディターでキャプションを変更するには、キャプションのテキストを選択して、新しいキャプションを入力します。編集／テキストのロックが有効になっている場合は、テキストをダブルクリックします。
 - ・ オブジェクトパレットでキャプションを変更するには、「フィールド」タブをクリックして、「キャプション」ボックスに新しいキャプションを入力します。



キャプションには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。

キャプションを配置するには

キャプションは、オブジェクトの入力可能な領域を基準に配置されます。

- 1 1つ以上のオブジェクトを選択します。
- 2 レイアウトパレットの位置リストから、キャプションの位置を選択します。

注意：テキストフィールドのキャプションをデータソースに連結すると、「レイアウト」タブでキャプションの位置を「なし」に設定している場合でも、テキストフィールドのキャプションラベルは常にフォームに表示されます。

キャプションのための領域サイズを指定するには

キャプションと入力可能な領域の間にある空白のサイズを調整することができます。

- 1 1つ以上のオブジェクトを選択します。
- 2 レイアウトパレットの「領域」ボックスに新しい値を入力します。

注意：キャプションの位置を選択する前に領域のサイズを入力した場合は、Designer によって領域が自動的に調整されます。

キャプションの領域に自動調整を設定するには

- 1 1つ以上のオブジェクトを選択します。
- 2 レイアウトパレットの「領域」ボックスに「0」と入力します。この数値を設定すると、キャプション領域は自動調整され、キャプション全体に合うように調整されます。

キャプションを隠すには

- 1 1つ以上のオブジェクトを選択します。
- 2 レイアウトパレットで、位置リストから「なし」を選択します。

オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定する

フォームの用途によっては、ユーザーが Acrobat または Adobe Reader でフォームを表示した場合と、Acrobat または Adobe Reader からフォームを印刷した場合とに応じて、PDF フォームにどのオブジェクトを含めるかを制御する必要があります。オブジェクトパレットの配置リストにある各種のオプションを使用すると、PDF フォームを画面に表示した場合と Acrobat または Adobe Reader から印刷した場合とで、異なるオブジェクトを選択的に表示、非表示、または隠すように設定できます。また、フォームが用紙の片面に印刷される場合に特定のオブジェクトを表示したり、両面に印刷される場合に表示したりすることも指定できます。

オブジェクトに配置オプションを適用するにあたっては、次に注意してください。

- 「非表示」オプションと「隠す」オプションは、グループ、コンテンツ領域、マスターページ、ページセットおよびサブフォームセットには使用できません。
- サブフォームなどのコンテナオブジェクトに適用する配置オプションは、含まれている各オブジェクトに適用されている配置オプションよりも優先されます。例えば、サブフォームセットに「表示 (印刷のみ)」オプションを適用すると、サブフォームと収集されたオブジェクトは、個々のオブジェクトの配置設定に関係なく、画面上には表示されませんが、フォームを印刷すると表示されます。
- フォームを Acrobat または Adobe Reader で印刷する場合は、印刷したフォームに表示するオブジェクトを含むコンテンツ領域オブジェクトに「表示 (画面のみ)」オプションを適用しないでください。「表示 (画面のみ)」オプションをコンテンツ領域オブジェクトに適用した場合、コンテンツ領域内のオブジェクトは画面にのみ表示され、印刷されたフォームには表示されません。コンテンツ領域またはマスターページのオブジェクトが画面と印刷の両方について非表示に設定されている場合は、マスターページの右上隅に警告マーカーが表示されます。フォームを印刷するときに1つのオブジェクトセットを表示し、フォームを画面に表示するときには別のオブジェクトセットを表示する場合は、オブジェクトのセットごとに1つずつ、合計で2つのコンテンツ領域オブジェクトを持つ1つのマスターページを作成します。1つのコンテンツ領域オブジェクトに「表示 (印刷のみ)」オプションを適用し、別のコンテンツ領域オブジェクトに「表示 (印刷のみ)」オプションを適用します。
- オブジェクトに「表示 (印刷のみ)」オプションを適用すると、「デザインビュー」タブと「マスターページ」タブにはオブジェクトが表示されますが、「PDF プレビュー」タブには表示されません。

次のリストには、配置オプションのいくつかの使用方法がまとめられています。

表示 オブジェクトが画面に表示され、Acrobat や Adobe Reader で印刷、またはサーバーから印刷したフォームにも表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。例えば、フォームのすべてのオブジェクトに「表示」オプションを適用すると、フォームの外観を画面上と印刷時の両方で同じにできます。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示 (画面のみ) オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Adobe Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。サーバーからフォームを印刷した場合にはオブジェクトが表示されます。

例えば、ユーザーが入力してオンラインで提出してから、印刷するフォームの場合は、「印刷」ボタンと「送信」ボタンに「表示（画面のみ）」を適用すると、ボタンを画面上に表示し、印刷されたフォームには表示されないようにできます。

表示（印刷のみ） オブジェクトは画面には表示されませんが、Acrobat や Adobe Reader で印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。サーバーからフォームを印刷した場合にはオブジェクトが表示されます。例えば、郵送の指示など、画面上では必要のない指示テキストを印刷されたフォームに含める必要がある場合は、指示が含まれたテキストフィールドオブジェクトに「表示（印刷のみ）」を適用すると、テキストを画面上に表示せずに、印刷されたフォームにだけ表示することができます。

非アクティブ 非アクティブ配置はオブジェクトが隠されていて、イベント処理から除外されることを示します。非アクティブオブジェクトでは、計算、検証、および他のイベントがトリガーされません。配置の属性の列挙は、フォームオブジェクトが参加するフォーム処理段階を決定します。非アクティブオブジェクトはフォーム DOM を作成するためにデータにテンプレートを結合する手順に参加します。

注意：配置非アクティブはすべての Designer オブジェクトに適用されます。

非表示 オブジェクトが画面と印刷時に表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。例えば、請求書フォームの支払い方法のセクションなど、ユーザーが特定のオプションを選択するまで非表示のままにしておく領域が含まれているフォームでは、クレジットカード情報を収集するために使用されるテキストフィールドオブジェクトに「非表示」オプションを適用すると、ユーザーがクレジットカードの種類を示すラジオボタンを選択するまで、このオブジェクトが表示されません。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面と印刷時に表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。例えば、ユーザーが特定のオプションを選択するまで隠したままにするセクションがあるフォームで、そのセクションが隠されている間はスペースを占有させない場合は、そのセクションの各種オブジェクトが含まれたサブフォームに「隠す（レイアウトから除外）」を適用すると、フォームのレイアウトが必要に応じて調整されます。

注意：「隠す（レイアウトから除外）」オプションは、「フローレイアウト」として設定されたサブフォーム内に配置されたオブジェクトに適用した場合にのみ機能します。

片面印刷のみ オブジェクトが画面に表示され、Acrobat や Adobe Reader で印刷、またはサーバーから印刷したフォームでは表側ページに表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。例えば、ページの右下隅にページ番号を表示するには、ページ番号オブジェクトに「片面印刷のみ」オプションを適用します。

両面印刷のみ オブジェクトが画面に表示され、Acrobat や Adobe Reader で印刷、またはサーバーから印刷したフォームでは両側ページに表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。例えば、両面印刷時に奇数ページの右下隅と偶数ページの左下隅にページ番号を表示するには、マスターページを 2 つ作成する必要があります。最初のマスターページでは、右下隅にページ番号オブジェクトを配置して「表示」オプションを適用します。2 番目のマスターページにはページ番号フィールドを 2 つ作成します。その 1 つは左下隅に配置して「両面印刷のみ」オプションを適用し、もう 1 つは右下隅に配置して「片面印刷のみ」オプションを適用します。

オブジェクトを表示、非表示または隠すに設定するには

配置リストは、選択したオブジェクトによって、異なるタブに表示されます。

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの適切なタブをクリックします。
- 3 配置リストから、次のいずれかのオプションを選択します。
 - オブジェクトを画面や印刷時に表示し、フォームレイアウトでスペースを占有させる場合は、「表示」を選択します。
 - オブジェクトを画面に表示する一方で、印刷時には表示せず、フォームレイアウトでスペースを占有させる場合は、「表示（画面のみ）」を選択します。
 - オブジェクトを画面に表示しない一方で、印刷時には表示し、フォームレイアウトでスペースを占有させる場合は、「表示（印刷のみ）」を選択します。

- オブジェクトを画面や印刷時に表示せず、フォームレイアウトでスペースを占有させる場合は、「非表示」を選択します。
- オブジェクトを画面や印刷時に表示せず、フォームレイアウトでもスペースを占有させない場合は、「隠す（レイアウトから除外）」を選択します。
- オブジェクトを画面に表示し、印刷時には用紙の表側にのみ表示し、フォームレイアウトのスペースを占有させるには、「片面印刷のみ」を選択します。
- オブジェクトを画面に表示し、印刷時には用紙の両側に表示し、フォームレイアウトのスペースを占有させるには、「両面印刷のみ」を選択します。

フィールド値の形式設定とパターンの使用

必要に応じて次のパターンを 1 つ以上指定すると、テキストフィールド、数値フィールド、日付 / 時間フィールドなどのフィールド値を実行時にどのように形式設定するかを制御できます。

- 表示パターン。フォームでのデータの表示方法を示します。初期デフォルト値を定義している場合は、表示パターンに基づいて形式設定されます。表示パターンは、ユーザー入力や実行時に取得される連結値の形式設定にも使用されます。
- 編集パターン。日付 / 時間フィールド、数値フィールド、テキストフィールドまたはパスワードフィールドにデータを実行時に入力する際の構文を示します。
- 検証パターン。実行時にユーザー入力を検証するために使用されます。
- データパターン。連結データまたは保存データの構文を示します。

形式設定オプションは、フォームの用途に合わせて選択します。例えば、インタラクティブフォームをデザインする場合は、ユーザー入力を処理するための編集パターンと入力内容を検証するための検証パターンをフィールドごとに定義する必要があります。フィールドがデータソースに連結されている場合は、データパターンを定義するだけで済みます。

数値フィールドまたは十進数フィールドオブジェクトの編集パターンのみ指定した場合も、フォーム入力者はフィールドに英数字を入力できます。この動作を回避するには、次のいずれかの操作を行います。

- 編集パターンを指定しません。Acrobat と Adobe Reader によって不要な英数字がフィルターされるようにします。
- 編集パターンと表示パターンを指定します。データが表示パターンに従って正しく形式設定されるようにします。
- 編集パターンと検証パターンを指定します。フォーム入力者が英数字を入力した場合に、値が拒否され、フィールドがクリアされるようにします。

いつパターンを使用するか

パターンは、実行時におけるフィールド値の処理方法を制御する場合に使用します。例えば、ユーザーが文字や数値をテキストフィールドに入力したときに、あらかじめ定義されたパターンに従って桁区切りやスペース設定を自動的に適用し、形式設定された値を表示することができます。

ユーザー入力の取り込みと表示

データを取り込むためのフォームを作成するときに、データの形式設定方法を指定することができます。データの表示形式を指定するには、表示パターンを使用します。表示パターンが指定されていない場合、データは Designer のデフォルトに従って表示されます。

ユーザーの入力データが Designer のデフォルトと一致しないことが予想される場合は、編集パターンを指定する必要があります。編集パターンはユーザー入力の構文を示します。編集パターンを指定すると、実行時のアプリケーションによってユーザー入力が生の値に変換され、表示パターンに従って形式設定されます。

インタラクティブフォームをデザインするときは、検証するユーザー入力に注意する必要があります。例えば、テキストフィールドは使用方法によって検証が必要な場合とそうでない場合があります。フォーム入力者がコメントを入力する複数行のテキストフィールドについては、検証の必要はありません。同様に、数値フィールドでは、フォーム入力者は自動的に数値以外のデータを入力できなくなります。ただし、データを特定の範囲の数値に制限する場合は、ユーザー入力を検証できます。実行時にユーザーに正しい値を入力させるために、カスタムメッセージを表示することができます。カスタムメッセージを指定しなかった場合は、システムにより自動的にメッセージが生成されます。

フォームのプロパティダイアログボックスの「フォームの検証」タブのオプションを使用することで、Acrobat で検証メッセージを表示したり、データが無効または空白であるために失敗したフィールドや必須フィールドをハイライト表示したり、検証に失敗した最初のフィールドにフォーカスを設定したりする方法を制御できます。123 ページの「[Acrobat での検証エラーの表示](#)」を参照してください。

注意：ユーザー入力の処理には、FormCalc 式と JavaScript スクリプトを使用できます（例えば、スクリプトでフィールドの生の値を要求できます）。式やスクリプトは生の値と形式設定された値を処理するので、入力が制限されたフィールドを検証することは重要です。

編集パターンと検証パターンを併用する例として、クレジットカード番号または社会保障番号の入力があります。テキストフィールドを次のような編集パターンで定義できます。

```
text{9999-9999-9999-9999}|text{9999 9999 9999 9999} for credit cards
```

または

```
text{999-99-9999}|text{999 99 9999} for a US social security number
```

どちらの場合でも、ユーザーはハイフン (-) またはスペース () を含む数値か、16 桁または 9 桁の数値のみを入力できます。この数値の最も単純な標準形式は、16 桁または 9 桁の数値です。

さらに次のような検証パターンを追加することもできます。

```
text{9999999999999999}
```

または

```
text{9999999999}
```

この場合、数値のみが保存され、検証では桁数が正しいかどうかを確認されます。ただしこの例では、検証パターンではなく検証スクリプトを指定する方がより有効です。クレジットカード番号が、単なる 16 桁のランダムな数値ではなく有効なクレジットカード番号の形式になるように、クレジットカード番号にチェックサムを実行するアルゴリズムがあります。クレジットカード用の Luhn アルゴリズムはこの一例です。

この結果、編集パターンによって典型的な 3 種類の形式によるクレジットカード番号のユーザー入力が許可され、さらに有効なクレジットカード番号形式の番号を検証スクリプトを実行して検証できるテキストフィールドをフォームに含めることができます。

連結データの取り出しと表示

連結データをフォームに結合する場合は、データを表示用にどのように形式設定するかを表示パターンで指定できます。表示パターンが指定されていない場合、データは Designer のデフォルトに従って表示されます。

連結データが Designer のデフォルトと一致しない場合は、データパターンを指定する必要があります。データパターンは連結データの構文を示します。データパターンを指定すると、取り出されたデータが実行時のアプリケーションによって生の値に変換され、表示用に形式設定されます。

値の形式設定に関するデフォルト

デフォルト値は、フィールドの種類に応じて、以下の規則に従った値であることが必要です。

フィールド	規則
日付 / 時間フィールド	日付 / 時間のデフォルト値は、日付 / 時間フィールドに対して指定されたロケールの短い形式に準拠した値であることが必要です。ただし、デフォルトの Designer では、デザイン時および実行時に、デフォルト値がロケールの標準形式で表示されます。 例えば、フォーム内に、ドイツ語（ドイツ）ロケールを使用するように設定された日付 / 時間フィールドがあるとしします。ここに短い日付形式 DD.MM.YY で日付のデフォルト値を入力します。別のフィールドにフォーカスを変更すると、ページ上でこのフィールドに指定した値が標準の日付形式 DD.MM.YYYY で表示されます。形式設定されたこの値は、「PDF プレビュー」タブでフォームを表示した場合も、標準形式で表示されます。 注意： デフォルトでは、実行時にフォーム入力者が日付 / 時間フィールドの値を編集する場合は、フィールドに指定したロケールの短い形式を使用する必要があります。パターンダイアログボックス（「フィールド」タブ／パターン）の「編集」タブで編集パターンを指定した場合（編集パターンは短い形式より優先されます）、ユーザーは編集パターンに従ってデータを入力する必要があります。
数値フィールドまたは十進数フィールド	デフォルトの数値は、1 つの基数点を含む整数または小数で入力します。基数文字は、選択されたロケールによって、「.」（ピリオド）と「,」（コンマ）場合があります。千単位区切り文字と通貨記号は、デフォルト値に含めることはできません。 例えば、ロケールが英語（米国）に設定されている数値フィールドに、\$1,234.56 というデフォルト値を指定した場合、通貨記号「\$」（ドル記号）と千単位区切り文字「,」（コンマ）の両方が無効です。
テキストフィールド	デフォルトのテキスト値（パスワードを含む）にはすべての英数字と空白文字を使用できます。

注意：ロケール固有の形式設定に従ったデフォルト値にする必要があるのは、この表のフィールドだけです。

デフォルト値を指定するには

日付 / 時間フィールド、数値フィールドおよびテキストフィールドには、フォームを開いたときに、初期値（デフォルト値）が表示されるように設定できます。この値は実行時のプロパティから取得することも、Designer 内で明示的に値を指定することもできます。また、連結を通じて、外部データソースから値を取得することも可能です。Designer では、実行時に、フィールドのデフォルト値が、各フィールドに指定されたロケールに従って形式設定されます。

- 1 日付 / 時間フィールド、十進数フィールド、数値フィールドまたはテキストフィールドを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。ロケールリストからロケールを選択します。
- 3 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックします。「デフォルト」ボックスに値を入力します。

デフォルト値は、ロケールに依存する形式で指定する必要があります。

注意：データが連結され、データパターンが指定されている場合は、この値は「連結」タブで指定されたデータパターンと一致する必要があります。

表示パターンを指定するには

実行時には、日付 / 時間フィールドおよび数値フィールドの値は、ロケールに依存する形式で表示されます。デフォルトと異なる形式でフィールドの値を表示するには、「フィールド」タブで「パターン」ボタンをクリックしてカスタムパターンを指定します。

注意：コンボボックスでは、カスタムユーザーエントリがサポートされていますが、カスタムユーザーエントリ用の表示パターンを指定することはできません。必要に応じて、ユーザー入力を形式設定するためのスクリプトを記述することができます。

表示パターンはフォーム内でのデータの表示方法を示すものなので、デフォルト値、ユーザー入力値およびデータベースから取り出された値はすべて、表示パターンで定義されている形式に変換されます。

注意：1900 年 1 月 1 日より前の日付に対しては、表示パターンによる形式設定は行われません。

- 1 日付 / 時間フィールド、数値フィールドまたはテキストフィールドを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。

- 3 「パターン」をクリックし、種類を選択リストからあらかじめ定義されている表示パターンのいずれかを選択するか、「パターン」ボックスにカスタムパターンを入力します。

ユーザーにデータの入力を促すメッセージを表示するには

ユーザーからのデータ入力や選択が必要となる状況では、入力や選択を促すメッセージが役に立ちます。ユーザーに日付 / 時間フィールド、数値フィールド、テキストフィールド、パスワードフィールドまたはコンボボックスへの値の入力を促したり、コンボボックス、リストボックスまたはラジオボタングループからのオプション選択を促したりするメッセージを記述することができます。

ユーザーにデータの入力を推奨

ユーザーにフィールドへのデータの入力を推奨し、入力しない場合でもユーザーがフォームを送信できるようにすることができます。ユーザーがフィールドにデータを入力し、フィールドから移動してデータをクリアした場合、メッセージボックスが表示されます。「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージが設定されている場合は、そのメッセージが表示されます。カスタムメッセージを設定していない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。メッセージは、フィールド内にデータがある場合、値が削除された場合、およびユーザーがデータを入力し直さずにフィールドから移動した場合にのみ表示されます。ユーザーがフィールドにデータを入力せずにフォームを送信しようとする、と、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。ユーザーはメッセージを無視してフォームを送信できます。ユーザーがフィールドにデータを入力することを推奨する場合は、「ユーザー定義 - 推奨」を選択します。

ユーザーにデータの入力を要求

ユーザーがフォームを送信する前にフィールドにデータを入力することを必須に設定できます。ユーザーがフィールドにデータを入力し、タブアウトした後、フィールドに戻ってデータをクリアすると、メッセージボックスが表示されます。「空白のメッセージ」ボックスにカスタムメッセージが設定されている場合は、そのメッセージが表示されます。カスタムメッセージを設定していない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。メッセージは、フィールド内にデータがある場合、値が削除された場合、およびユーザーがデータを入力し直さずにフィールドから移動した場合にのみ表示されます。ユーザーがフィールドにデータを入力せずにフォームを送信しようとする、と、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。ユーザーによるフィールドへのデータ入力を必須にする場合は、「ユーザー定義 - 必須」を選択します。

フォームのプロパティダイアログボックスの「フォームの検証」タブのオプションを使用することで、Acrobat で検証メッセージを表示したり、データが無効または空白であるために失敗したフィールドや必須フィールドをハイライト表示したり、検証に失敗した最初のフィールドにフォーカスを設定したりする方法を制御できます。123 ページの「[Acrobat での検証エラーの表示](#)」を参照してください。

注意：ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとする、と、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。ただし、推奨の値や必須の値を入力していない状態で PDF フォームを保存して閉じることはできます。この場合、ユーザーに入力を求めるメッセージは表示されません。

- 1 目的のフィールド、コンボボックス、リストボックスまたはラジオボタングループを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックします。種類リストから次のオプションの 1 つを選択します。
 - ユーザー定義 - 推奨
 - ユーザー定義 - 必須
- 3 「空白のメッセージ」ボックスにメッセージを入力します。場合によっては、このメッセージに必要な入力形式を指定する必要があります。例えば、ここで編集パターンを定義した場合、ユーザーはこの編集パターンに従って入力する必要があります。

編集パターンを指定するには

実行時には、日付、時間、数値および十進数フィールドの値は、ロケールに依存する形式で表示されます。フォーム入力者が、ロケールに依存するデフォルトの形式ではない形式でフィールドの値を編集できるようにするには、「フィールド」タブで編集パターンを指定します。ユーザーの入力が編集パターンに従っていない場合も、そのデータはそのままの形式で入力されます。

数値フィールドまたは十進数フィールドオブジェクトの編集パターンのみ指定した場合も、フォーム入力者はフィールドに英文字を入力できます。

編集パターンと表示パターンが異なっても問題ありません。例えば、日付を入力するときは短い方が、日付を確認するときは長い方が便利なので、日付 / 時間フィールドの編集パターンには短い日付を指定し、表示パターンには長い日付を指定することができます。表示パターンと編集パターンが異なる場合は、カーソルがフィールドから別の場所に移ると同時に、値が表示パターンで形式設定されます。

注意：このオプションは、オブジェクトパレットの「値」タブにある「種類」オプションが「保護されています」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。

- 1 日付 / 時間フィールド、数値フィールド、テキストフィールドまたはパスワードフィールドを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「パターン」をクリックし、「編集」タブをクリックします。種類を選択リストからあらかじめ定義されている表示パターンのいずれかを選択するか、「パターン」ボックスにカスタムパターンを入力します。

ユーザー入力を検証するには

どのフィールドにも、3 種類の検証を使用できます。これらの検証は以下の順序で実行されます。

- 無効なコンテンツのフィールドがないかテストします。
- フィールド値の形式が、特定のフィールドパターンに対応しているか確認します。フィールドパターンについて詳しくは、361 ページの「[単純なパターン](#)」を参照してください。
- 検証スクリプトを呼び出します。

検証パターンを定義して、日付 / 時間フィールド、数値フィールド、テキストフィールドおよびパスワードフィールドに対するユーザー入力を検証できます。デフォルトでは、値が必須の場合、**null** エントリは受け付けられません。生の値は検証パターンと直接比較され、検証パターンと一致した場合は、表示用に形式設定されます。

ユーザー入力値が検証パターンと一致しなかった場合は、プログラミングエラーまたは警告メッセージが表示されます。Acrobat、Adobe Reader または Forms によってエラーや警告が検知されると、ユーザーに対して自動的にメッセージが返されます。編集パターンが指定されていない場合に、ユーザー入力が Designer のデフォルトと一致しないと、検証は失敗します。

値が必要なオブジェクトに **null** 値が含まれた状態で、ユーザーがデータを Forms に送信しようすると、検証メッセージが表示されます。

注意：ユーザーが必須の値を入力しないまま PDF フォームを保存して閉じることはできます。この場合、検証は行われません。

必要に応じて、検証パターンのカスタムメッセージを記述し、デフォルトのエラーメッセージや警告メッセージを置き換えることができます。

検証パターンがサポートされていない場合は（ラジオボタングループやチェックボックスなど）、検証スクリプトを使用してユーザー入力を検証できます。また、検証パターンと検証スクリプトを併用することも可能です。スクリプトを通じて入力を検証することにより、データが確実にアプリケーションに受け入れられるようにします。この場合は、カスタムメッセージや実行時のエラーまたは警告もサポートされます。

フォームのプロパティダイアログボックスの「フォームの検証」タブのオプションを使用することで、Acrobat で検証メッセージを表示したり、データが無効または空白であるために失敗したフィールドや必須フィールドをハイライト表示したり、検証に失敗した最初のフィールドにフォーカスを設定したりする方法を制御できます。123 ページの「[Acrobat での検証エラーの表示](#)」を参照してください。



検証パターンのメッセージには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。このオプションにより、ユーザーが確実に有効な値をフィールドに入力するようになります。

検証パターンとカスタムメッセージを定義するには

- 1 日付 / 時間フィールド、数値フィールド、テキストフィールド、パスワードフィールド、コンボボックスまたはリストボックスを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックします。
- 3 「検証パターン」をクリックし、種類を選択リストからあらかじめ定義されている検証パターンのいずれかを選択するか、「パターン」ボックスにカスタムパターンを入力します。
- 4 「検証パターンのメッセージ」ボックスに、ユーザーに正しい値の入力を促すメッセージを入力します。このメッセージには、必要な入力形式を指定する必要があります。メッセージ内で改行するには、Ctrl+Enter キーを押します。
- 5 警告の代わりにプログラミングエラーが表示されるようにするには、「エラー」オプションを選択します。

無効な入力がスクリプトで検知された場合にメッセージを表示するには

- 1 日付 / 時間フィールド、数値フィールド、テキストフィールド、パスワードフィールド、コンボボックス、リストボックス、チェックボックスまたはラジオボタングループを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックします。「検証スクリプトのメッセージ」ボックスにメッセージを入力します。
- 3 警告の代わりにプログラミングエラーが表示されるようにするには、「エラー」オプションを選択します。

データパターンを指定するには

データ連結オプションを使用すると、企業インフラストラクチャ用のデータを取得するフォームを作成したり、実行時に外部データソースのデータをフォームに埋め込んだりすることができます。例えば、適切な連結情報（497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」を参照）があり、データソース（487 ページの「[データソースの操作](#)」を参照）にアクセスできる場合は、Acrobat や Adobe Reader でフォームを開いたときに、OLEDB データベースからデータを読み込んで表示することができます。オブジェクトは XML スキーマ、XML ファイルまたは WSDL データソースにも連結できます。

Acrobat、Adobe Reader および Forms では、データ連結プロパティを解釈して、取り込んだデータの格納と取り出したデータの解析を行います。デフォルトでは、オブジェクトのデータは Adobe データ結合規則に従って格納、結合されます。フォームを Acrobat または Adobe Reader で開くか、Forms でレンダリングすると、フィールドにデータソースから値が埋め込まれます。ユーザーがフィールド値に対して行った変更はすべて、フォームが Acrobat または Adobe Reader 内で保存されたときか、データが Forms に送信されたときに、関連するデータソースにコミットされます。

データがデータソースに連結されていない場合（フォームデータが電子メールで返送される場合など）、データの保存形式はデータパターンによって指定されます。データパターンを作成しない場合、データは標準形式で保存されます。様々なロケールのエンドユーザーがフォームに入力する可能性がある場合や、データが複数のロケールへと返送される可能性がある場合は、データを標準形式にしておくと、すべてのユーザーが同じ方法でデータを解釈しやすくなります。

データパターンは、日付 / 時間フィールド、数値フィールド、テキストフィールドおよびパスワードフィールドに対して指定できます。データパターンにより、取り出された値を Acrobat、Adobe Reader または Forms で解析できない場合は、値がそのままの形式で表示されます（表示用の形式設定は行われません）。

- 1 日付 / 時間フィールド、数値フィールド、テキストフィールドまたはパスワードフィールドを選択します。

- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「パターン」をクリックし、「データ」タブをクリックします。種類を選択リストからあらかじめ定義されているデータ連結パターンのいずれかを選択するか、「パターン」ボックスにカスタムパターンを入力します。

単純なパターン

単純なパターンは、日付 / 時間フィールド、数値フィールド、テキストフィールドおよびパスワードフィールドの値に形式を設定する場合に使用できます。単純なパターンには、有効なパターンの構成を管理するための独自の規則があります。パターンで使用できる文字には制限があります。また、日付 / 時間フィールド、数値フィールド、テキストフィールド、パスワードフィールドでは、それぞれ有効なパターンの構文が異なります。

パターンで使用可能な文字および有効な構成については、以下の節を参照してください。日付 / 時間フィールド、数値フィールドまたはテキストフィールドで使用される複雑なパターンについては、368 ページの「[複雑なフィールドパターン](#)」を参照してください。

ロケール

ロケールは、国際標準の整備にあたって特定の国（言語、国または地域）を識別するために使用される標準的な用語です。FormCalc の場合、ロケールは、特定の国や地域で使用する日付、時間、数値および通貨の形式を定義し、エンドユーザーが自分達の慣習に合った形式を使用できるようにします。

各ロケールは、ロケール識別子と呼ばれる固有の文字列で構成されています。これらの文字列の構成は、インターネットエンジニアリングタスクフォース（Internet Engineering Task Force:IETF）として知られる国際標準化機構（International Standards Organization:ISO）によって管理されています。IETF は、インターネット協会（www.isoc.org）の活動団体です。

ロケール識別子は、言語の部分、国または地域の部分、またはその両方から構成されます。次の表に Designer の本リリースで有効なロケールを示します。

言語	国または地域	ISO コード
アラビア語	アルジェリア	ar_DZ
アラビア語	バーレーン	ar_BH
アラビア語	エジプト	ar_EG
アラビア語	イラク	ar_IQ
アラビア語	ヨルダン	ar_JO
アラビア語	クウェート	ar_KW
アラビア語	レバノン	ar_LB
アラビア語	リビア	ar_LY
アラビア語	モロッコ	ar_MA
アラビア語	オマーン	ar_OM
アラビア語	カタール	ar_QA
アラビア語	サウジアラビア	ar_SA
アラビア語	スーダン	ar_SD
アラビア語	シリア	ar_SY

言語	国または地域	ISO コード
アラビア語	チュニジア	ar_TN
アラビア語	アラブ首長国連邦	ar_AE
アラビア語	イエメン	ar_YE
アルメニア語	アルメニア	hy_AM
アゼルバイジャン語 (キリル)	アゼルバイジャン	az_Cyrl_AZ
アゼルバイジャン語 (ラテン)	アゼルバイジャン	az_Latn_AZ
バスク語	スペイン	eu_ES
ボスニア語	ボスニア・ヘルツェゴビナ	bs_BA
ブルガリア語	ブルガリア	bg_BG
カタロニア語	スペイン	ca_ES
中国語	中華人民共和国 (簡体字)	zh_CN
中国語	香港、中国	zh_HK
中国語	台湾 (繁体字)	zh_TW
クロアチア語	クロアチア	hr_HR
チェコ語	チェコ共和国	cs_CZ
デンマーク語	デンマーク	da_DK
オランダ語	ベルギー	nl_BE
オランダ語	オランダ	nl_NL
英語	オーストラリア	en_AU
英語	ベルギー	en_BE
英語	カナダ	en_CA
英語	香港、中国	en_HK
英語	インド	en_IN
英語	インドルピー	en_IN_RUPEE
英語	アイルランド	en_IE
英語	ニュージーランド	en_NZ
英語	フィリピン	en_PH
英語	シンガポール	en_SG
英語	南アフリカ	en_ZA
英語	英国	en_GB
英語	英国ユーロ	en_GB_EURO
英語	アメリカ合衆国	en_US
英語	米領バージン諸島	en_VI
エストニア語	エストニア	et_EE

言語	国または地域	ISO コード
フィンランド語	フィンランド	fi_FI
フランス語	ベルギー	fr_BE
フランス語	カナダ	fr_CA
フランス語	フランス	fr_FR
フランス語	ルクセンブルク	fr_LU
フランス語	スイス	fr_CH
ドイツ語	オーストリア	de_AT
ドイツ語	ドイツ	de_DE
ドイツ語	ルクセンブルク	de_LU
ドイツ語	スイス	de_CH
ギリシャ語	ギリシャ	el_GR
ヘブライ語	イスラエル	he_IL
ヒンディー語	インド	hi_IN
ハンガリー語	ハンガリー	hu_HU
インドネシア語	インドネシア	id_ID
イタリア語	イタリア	it_IT
イタリア語	スイス	it_CH
日本語	日本	ja_JP
カザフ語	カザフスタン	kk_KZ
クメール語	カンボジア	km_KH
韓国語	韓国	ko_KR
韓国語	韓国 (Hanja)	ko_KR_HANI
ラオ語	ラオス	lo_LA
ラトビア語	ラトビア	lv_LV
リトアニア語	リトアニア	lt_LT
マレー語	マレーシア	ms_MY
ノルウェー語 - ブークモール	ノルウェー	nb_NO
ノルウェー語 - ニーノシク	ノルウェー	nn_NO
ペルシャ語	イラン	fa_IR
ポーランド語	ポーランド	pl_PL
ポルトガル語	ブラジル	pt_BR
ポルトガル語	ポルトガル	pt_PT
ルーマニア語	ルーマニア	ro_RO
ロシア語	ロシア	ru_RU

言語	国または地域	ISO コード
セルビア語 (キリル)	セルビア・モンテネグロ	sr_Cyrl_CS
セルビア語 (ラテン)	セルビア・モンテネグロ	sr_Latn_CS
スロバキア語	スロバキア	sk_SK
スロベニア語	スロベニア	sl_SI
スペイン語	アルゼンチン	es_AR
スペイン語	ボリビア	es_BO
スペイン語	チリ	es_CL
スペイン語	コロンビア	es_CO
スペイン語	コスタリカ	es_CR
スペイン語	ドミニカ共和国	es_DO
スペイン語	エクアドル	es_EC
スペイン語	エルサルバドル	es_SV
スペイン語	グアテマラ	es_GT
スペイン語	ホンジュラス	es_HN
スペイン語	メキシコ	es_MX
スペイン語	ニカラグア	es_NI
スペイン語	パナマ	es_PA
スペイン語	パラグアイ	es_PY
スペイン語	ペルー	es_PE
スペイン語	プエルトリコ	es_PR
スペイン語	スペイン	es_ES
スペイン語	アメリカ合衆国	es_US
スペイン語	ウルグアイ	es_UY
スペイン語	ベネズエラ	es_VE
スウェーデン語	スウェーデン	sv_SE
タガログ語	フィリピン	tl_PH
タイ語	タイ	th_TH
タイ語	タイ (トラディショナル)	th_TH_TH
トルコ語	トルコ	tr_TR
トルコ語 (トルコリラ)	トルコ	tr_TR_LIRA
ウクライナ語	ウクライナ	uk_UA
ベトナム語	ベトナム	vi_VN

ロケールの要素は通常、両方とも重要です。例えば、カナダ英語とイギリス英語では曜日名と月名の形式は同じですが、日付の形式が異なります。したがって、英語という言語ロケールを指定しただけでは不十分です。逆に、ロケールとして国を指定するだけでも十分ではありません。例えば、カナダでは英語とフランス語で異なる日付形式が使用されています。**Designer** でロケールを設定する方法について詳しくは、260 ページの「[オブジェクトのロケール（言語と国または地域）を指定するには](#)」を参照してください。

一般的に、すべてのアプリケーションはロケールが存在する環境で動作しています。このロケールは、環境ロケールとして知られています。場合によっては、ロケールが存在しないシステムまたは環境でアプリケーションが動作していることもあります。このようなことは稀ですが、この場合環境ロケールはデフォルトのアメリカ英語（en_US）に設定されます。このロケールは、デフォルトロケールとして知られています。

エポック

日付と時間には、時間の始点を示すエポックが関連付けられています。このエポックよりも前の日付の値や時間の値はすべて無効です。

すべての日付関数の値は、エポックからの日数で表されます。すべての時間関数の値は、エポックからのミリ秒数で表されます。

Designer では、すべての日付関数のエポックとして第 1 日目を 1900 年 1 月 1 日、すべての時間関数のエポックとして第 1 ミリ秒目をグリニッジ標準時（GMT）の 00:00:00 と定義しています。この定義では、GMT より東の時間帯にいるユーザーに負の時間値が返されることがあります。

日付形式

日付形式は日付の略記方法で、日付が使用する形式を表す各種の句読点や記号で構成されています。次に示す表は日付形式の例です。

日付形式	例
MM/DD/YY	11/11/78
DD/MM/YY	25/07/85
MMMM DD, YYYY	March 10, 1964

日付形式は ISO 標準で管理されています。各国または地域によって独自の形式が指定されます。一般的に、日付形式には、ショート形式、標準形式、ロング形式、フル形式の 4 種類があります。次の表に、4 つのカテゴリ別に異なるロケールの異なる時間形式の例を示します。

ロケール識別子と説明	日付形式（カテゴリ）	例
en_GB 英語（英国）	DD/MM/YY（ショート形式）	08/12/92 08/04/05
fr_CA フランス語（カナダ）	YY-MM-DD（標準形式）	92-08-18
de_DE ドイツ語（ドイツ）	D. MMMM YYYY（ロング形式）	17. Juni 1989
fr_FR フランス語（フランス）	EEEE, 'le' D MMMM YYYY（フル形式）	Lundi 29 Octobre 1990

時間形式

時間形式は、時間の形式を簡単に指定したもので、句読点、リテラル、パターン記号によって構成されています。次に示す表は時間形式の例です。

時間形式	例
h:MM A	7:15 PM
HH:MM:SS	21:35:26
HH:MM:SS 'o'clock' A Z	14:20:10 o'clock PM EDT

時間形式は ISO 標準で管理されています。時間形式についても、デフォルト形式、ショート形式、標準形式、ロング形式、フル形式を各国が指定しています。ロケールは、その国の標準に合った時間形式を識別する役割を担っています。

次の表に、4 つのカテゴリ別に異なるロケールの異なる時間形式の例を示します。

ロケール識別子と説明	時間形式 (カテゴリ)	例
en_GB 英語 (英国)	HH:MM (ショート形式)	14:13
fr_CA フランス語 (カナダ)	HH:MM:SS (標準形式)	12:15:50
de_DE ドイツ語 (ドイツ)	HH:MM:SS z (ロング形式)	14:13:13 -0400
fr_FR フランス語 (フランス)	HH 'h' MM Z (フル形式)	14 h 13 GMT-04:00

日時のパターン

日付 / 時間フィールドに日時パターンを作成するには、次の記号を使用する必要があります。一部の日付記号は、中国語、日本語および韓国語ロケールでのみ使用します。それらの記号についても下で説明します。詳しくは、407 ページの「[日付 / 時間パターンの例](#)」を参照してください。

注意：コンマ (,)、ダッシュ (-)、コロン (:)、スラッシュ (/)、ピリオド (.) およびスペース () はリテラル値として扱われ、パターンのどこでも使用できます。パターンにテキスト文字列を含めるには、文字列を一重引用符 (') で囲みます。例えば、表示パターンとして 'お客様の支払期限:' MM-DD-YY を指定できます。

日付記号	説明	ロケールが英語 (米国) に形式設定された値の、ロケール依存の入力値が 1/1/08 (2008 年 1 月 1 日) の場合
D	月の日付を、1 桁または 2 桁の数値 (1 ~ 31) で表します。	1
DD	月の日付を 2 桁の数値 (01 ~ 31) で表します。	01
J	1 年の何日目かを、1 桁、2 桁または 3 桁の数値 (1 ~ 366) で表します。	1
JJJ	1 年の何日目かを 3 桁の数値 (001 ~ 366) で表します。	001
M	月を 1 桁または 2 桁の数値 (1 ~ 12) で表します。	1
MM	月を 2 桁 (01 ~ 12) の数値で表します。	01
MMM	月名を略称で表示します。	Jan
MMMM	月名を略さずに表示します。	January

日付記号	説明	ロケールが英語（米国）に形式設定された値の、ロケール依存の入力値が 1/1/08（2008 年 1 月 1 日）の場合
E	曜日を 1 桁の数字（1 ～ 7）の数値で表します。ここで 1 は日曜日です。	3（2008 年 1 月 1 日は火曜日のため）
EEE	曜日を略称で表示します。	Tue（2008 年 1 月 1 日は火曜日のため）
EEEE	曜日を略さずに表示します。	Tuesday（2008 年 1 月 1 日は火曜日のため）
YY	年（西暦）を 2 桁で表します。30 未満の数値は 2000 年より後、30 を超える数値は 2000 年より前を表します。例えば、00=2000、29=2029、30=1930、99=1999 となります。	08
YYYY	年（西暦）を 4 桁で表します。	2008
G	紀元名（BC または AD）を表示します。	AD
w	月の第何週かを 1 桁の数値（0 ～ 5）で表します。その月で最も早く、土曜日で終わる連続した 4 日間が第 1 週になります。	1
WW	年の第何週かを表す 2 桁の数値（01 ～ 53）で、ISO-8601 に規定されています。1 月 4 日を含む週が第 1 週になります。	01

中国語、日本語および韓国語ロケールの日付パターン指定用に、追加の日付パターンがいくつかあります。

日本語の元号は数種類の記号で表されます。次のうち最後の 5 つは元号記号で、日本の元号を表す代替記号として使用します。

中国語、日本語および韓国語の日付シンボル	説明
DDD	当該ロケールで月の日を表す漢数字
DDDD	当該ロケールで月の日を表す漢数字（「十」表記）
YYY	当該ロケールで年を表す漢数字
YYYYY	当該ロケールで年を表す漢数字（「十」表記）
g	当該ロケールの元号。このパターンでは、現在の日本の元号「平成」に対しては ASCII 文字の「H」（U+48）が表示されます。
gg	当該ロケールの元号。このパターンでは、現在の日本の元号に対しては Unicode の 1 文字（U+5E73）が表示されます。
ggg	当該ロケールの元号。このパターンでは、現在の日本の元号に対しては Unicode の複数文字（U+5E73 U+6210）が表示されます。
g	当該ロケールの元号。このパターンでは、現在の日本の元号に対しては全角文字の「H」（U+FF28）が表示されます。
g g	当該ロケールの元号。このパターンでは、現在の日本の元号に対しては Unicode の 1 文字（U+337B）が表示されます。

時間シンボル	説明	ロケールに依存する入力値	ロケールが英語（米国）の形式設定された値
h	時間（12 時間制）を 1 桁または 2 桁の数値（1 ～ 12）で表します。	12:08 AM または 2:08 PM	12 または 2
hh	時間（12 時間制）を 2 桁の数値（01 ～ 12）で表します。	12:08 AM または 2:08 PM	12 または 02
k	時間（12 時間制）を 1 桁または 2 桁の数値（0 ～ 11）で表します。	12:08 AM または 2:08 PM	0 または 2
kk	時間（12 時間制）を 2 桁の数値（00 ～ 11）で表します。	12:08 AM または 2:08 PM	00 または 02
H	時間（24 時間制）を 1 桁または 2 桁の数値（0 ～ 23）で表します。	12:08 AM または 2:08 PM	0 または 14
HH	時間（24 時間制）を 2 桁の数値（00 ～ 23）で表します。	12:08 AM または 2:08 PM	00 または 14
K	時間（24 時間制）を 1 桁または 2 桁の数値（1 ～ 24）で表します。	12:08 AM または 2:08 PM	24 または 14

時間シンボル	説明	ロケールに依存する入力値	ロケールが英語（米国）の形式で設定された値
KK	時間（24 時間制）を 2 桁の数値（01 ～ 24）で表します。	12:08 AM または 2:08 PM	24 または 14
M	分を 1 桁または 2 桁の数値（0 ～ 59）で表します。 注意： このシンボルを時間シンボルで使用する必要があります。	2:08 PM	8
MM	分を 2 桁の数値（00 ～ 59）で表します。 注意： このシンボルを時間シンボルで使用する必要があります。	2:08 PM	08
S	秒を 1 桁または 2 桁の数値（0 ～ 59）で表します。 注意： このシンボルを時間と分のシンボルで使用する必要があります。	2:08:09 PM	9
SS	秒を 2 桁の数値（00 ～ 59）で表します。 注意： このシンボルを時間と分のシンボルで使用する必要があります。	2:08:09 PM	09
FFF	1000 分の 1 秒を 3 桁の数値（000 ～ 999）で表します。 注意： このシンボルを時間、分、秒のシンボルで使用する必要があります。	2:08:09 PM	09
A	午前零時から正午まで（AM）または正午から午前零時まで（PM）で表します。	2:08:09 PM	PM
z	ISO-8601 タイムゾーン形式（例えば、Z、+0500、-0030、-01、+0100）。 注意： このシンボルを時間シンボルで使用する必要があります。	2:08:09 PM	-0400
zz	別の ISO-8601 タイムゾーン形式（例えば、Z、+05:00、-00:30、-01、+01:00）。 注意： このシンボルを時間シンボルで使用する必要があります。	2:08:09 PM	-04:00
Z	タイムゾーン名の略称（例:GMT、GMT+05:00、GMT-00:30、EST、PDT）。 注意： このシンボルを時間シンボルで使用する必要があります。	2:08:09 PM	EDT

予約済みの記号

以下の記号は特別な意味を持つので、リテラルテキストとしては使用できません。

記号	説明
?	送信する場合、この記号は何らかの 1 文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。
*	送信する場合、この記号は 0 または Unicode の空白文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。
+	送信する場合、この記号は 1 つ以上の Unicode の空白文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。

複雑なフィールドパターン

日付 / 時間フィールド、数値フィールドおよびテキストフィールドに対する単純なパターンの定義に加えて、ロケール固有のパターンを定義したり、可変パターンを処理したりすることができます。

ロケールに依存するパターン

オブジェクトに既に割り当てられているロケールに関係なく、パターンにロケールを強制的に適用する必要がある場合は、ロケール固有のパターンを定義できます。ロケール固有のパターンの構文は次のように定義されます。

```
category_name(locale_name){pattern}
```

各部の意味は次のとおりです。

- `category_name` は、`date`、`time`、`num` または `text` にすることができます。
- `locale_name` は、RFC 1766 (Tags for the Identification of Languages、1995) で定義されている言語や国または地域コードで識別します。
- `pattern` には、値を処理するための単純なパターンを指定します。

例えば、日付 / 時間フィールドで、フランスの国コードに従って日付を強制的にフランス語に変換するには、次のパターンを定義します。

```
date(fr_FR){DD MMMM, YYYY}
```

可変パターン

ユーザー入力や連結データが複数の形式で表現される場合は (例えば、電話番号の市外局番が 3 桁のところも、3 桁以外のところもあります)、その差異に対応したパターンを定義することができます。様々な受け入れ可能なパターンを定義するための構文は次のとおりです。

```
category_name{pattern}|category_name{pattern}|category_name{pattern}
```

各パターンの間は垂直バー (|) で区切ります。指定できるパターンの数に制限はありません。例えば、次の構文では 2 種類のテキストパターンを定義できます。

```
text{999*9999}|text{999*999*9999}
```

新規フォームの値のデフォルトフォントを設定するには

- 1 ツールメニューで「オプション」を選択します。
- 2 「デフォルトフォント」をクリックします。
- 3 「新規フォームのデフォルトの値フォントプロパティ」で、「書体」、「サイズ」、「スタイル」オプションを必要に応じて選択します。

既存フォームの値のデフォルトフォントを設定するには

- 1 ファイル／フォームのプロパティをクリックします。
- 2 「デフォルトフォント」をクリックします。
- 3 「デフォルトの値フォントプロパティ」で、「書体」、「サイズ」、「スタイル」オプションを必要に応じて選択します。

関連項目

656 ページの「[フォームの検証 \(フォームのプロパティダイアログボックス\)](#)」

524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

434 ページの「[数値パターン](#)」

485 ページの「[テキストフィールドパターン](#)」

446 ページの「[パスワードパターン](#)」

別の言語用のオブジェクトの設定

アラビア語とヘブライ語用にオブジェクトを設定するには

すべてのフォームの構築ブロックとなるオブジェクトは、フォームの対象言語に応じて外観が異なります。

例えば、英語フォームのコンボボックスでは通常、キャプションは左側に、コンボボックスの矢印は右側に表示されます。一方、アラビア語とヘブライ語は右から左に記述する言語であるので、コンボボックスではキャプションが右に、矢印が左に表示されます。

The screenshot displays a form with five rows, each representing a different language. Each row contains a label, a text field, and a dropdown arrow. The first row is for English, showing 'English' on the left and '1' in the text field. The second row is for Arabic, showing 'Arabic' on the left, a text field containing 'ش' (Sh), and a dropdown arrow on the right. The third row is for Hebrew, showing 'Hebrew' on the left, a text field containing 'ש' (Sh), and a dropdown arrow on the right. The fourth row is for Thai, showing 'Thai' on the left, a text field containing 'ฟ' (F), and a dropdown arrow on the right. The fifth row is for Vietnamese, showing 'Vietnamese' on the left, a text field containing 'Việt Nam là', and a dropdown arrow on the right.

アラビア語とヘブライ語用オブジェクトを設定するには、次の手順を実行する必要があります。

- ロケールをアラビア語またはヘブライ語に設定します。
- キャプションを右に配置します（ただし、チェックボックスとラジオボタンは左に配置する必要があります）。
- キャプションおよび値を右揃えにします。
- 言語がサポートするフォントを設定します。

アラビア語とヘブライ語用オブジェクトの設定は次のオブジェクトに適用されます。

- チェックボックス
- 日付 / 時間フィールド
- 十進数フィールド
- 署名フィールド
- コンボボックス
- リストボックス
- 数値フィールド
- パスワードフィールド
- ラジオボタン
- テキストフィールド

注意：このヘルプトピックで説明されているオプションは、該当する言語のサポートが Microsoft Office の言語設定で有効になっている場合のみ使用できます。

1 オブジェクトを追加します。

例えば、オブジェクトライブラリパレットからコンボボックスのオブジェクトをフォームデザインにドラッグします。

2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。

3 「ロケール」ボックスから、言語と国のオプションを選択します。

例えば、「アラビア語 (バーレーン)」を選択します。

4 オブジェクトを選択します。

5 フォントパレットで、選択したロケールをサポートするフォントを選択します。

例えば、Adobe Arabic はアラビア語をサポートし、Adobe Hebrew はヘブライ語をサポートします。システムに存在しない場合は、インターネットで言語に必要なフォントを検索できます。

6 オブジェクトを選択します。

7 段落パレットで「右揃え」をクリックし、キャプションと値を右揃えにします。

8 レイアウトパレットで、キャプションの位置リストから、適切なオプションを選択します。

オブジェクト	位置
チェックボックス	左端
日付 / 時間フィールド	右端
十進数フィールド	右端
署名フィールド	右端
コンボボックス	右端
リストボックス	右端
数値フィールド	右端
パスワードフィールド	右端
ラジオボタン	左端
テキストフィールド	右端

 「PDF プレビュー」タブでオブジェクトを表示し、正しく表示されることを確認します。

タイ語とベトナム語用にオブジェクトを設定するには

タイ語とベトナム語用にオブジェクトを設定するには、次の手順を実行する必要があります。

- ロケールをタイ語またはベトナム語に設定します。
- 言語がサポートするフォントを設定します。

注意：このヘルプトピックで説明されているオプションは、該当する言語のサポートが Microsoft Office の言語設定で有効になっている場合のみ使用できます。

1 オブジェクトを追加します。

例えば、オブジェクトライブラリパレットからコンボボックスのオブジェクトをフォームデザインにドラッグします。

2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。

- 3 「ロケール」ボックスから、言語と国のオプションを選択します。

例えば、「タイ語（タイ）」を選択します。

- 4 オブジェクトを選択します。

- 5 フォントパレットで、選択したロケールをサポートするフォントを選択します。

例えば、Adobe Thai はタイ語をサポートし、Myriad® Pro および Minion® Pro はベトナム語をサポートします。システムに存在しない場合は、インターネットで言語に必要なフォントを検索できます。

- 6 「PDF プレビュー」タブでオブジェクトを表示し、正しく表示されることを確認します。

別の言語用に日付フィールドを設定するには

- 1 Microsoft® Windows® のコントロールパネルで地域と言語のオプションが適切な言語に設定されていることを確認します。
- 2 Designer で、オブジェクトライブラリパレットから日付 / 時間フィールドオブジェクトをフォームデザインにドラッグします。
- 3 オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「パターン」ボタンをクリックします。
- 4 パターンダイアログボックスの「表示」タブで、DD/MM/gYY と入力します。

例えば、タイの場合は、次の日付が使用されます。

- g は仏暦を示します。
- gg はタイ語で使用される仏暦の略式表記を示します。
- ggg はタイ語で使用される仏暦の完全表記を示します。

- 5 「PDF プレビュー」タブの日付 / 時間フィールドおよびカレンダーは次のように表示されます。

Date/Time Field 20/05/AD05

← พฤษภาคม 2548 →

จ.	อ.	พ.	พฤ.	ศ.	ส.	อา.
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

วันที่: 20/5/2548

特殊オブジェクトの使用

オブジェクトライブラリパレット内の標準およびカスタムオブジェクトに加え、**Designer** には、実行時にフォーム上で特殊な機能を提供するオブジェクトやプロパティが多数用意されています。これらのオブジェクトとプロパティを次に示します。

- グローバルフィールド
- フローティングフィールド
- 実行時のプロパティ
- 変数

グローバルフィールドを定義するには

グローバルフィールドには、フォームの複数の位置に表示される情報が含まれます。例えば、請求書には請求書番号が含まれますが、これはフォームのいろいろな場所に表示する必要があります。フォームデザインでは、請求書番号をグローバルフィールドに設定し、別の必要な場所で再利用することができます。

いろいろな場所で繰り返されることがわかっている情報がある場合は、グローバルフィールドが非常に役立ちます。グローバルフィールドを使用すると、送信しなければならないデータの量を削減できるだけでなく、フォームの必要な場所にまったく同じデータを確実に表示することができます。

グローバル連結プロパティを使用すると、フォーム内で同じ名前を持つすべてのオブジェクトに同じ値を適用することができます。

オブジェクトにグローバル設定を適用すると、同じ名前のすべてのオブジェクトが実行時に同じデータに連結されます。同じ名前のグローバルオブジェクトが同じデータ値にリンクされるので、あるグローバルオブジェクトに表示されたデータは自動的に同じ名前を持つその他すべてのグローバルオブジェクトに表示されます。すべてのオブジェクトではなく一部のオブジェクトがグローバルに設定されている場合は、フォームに同じ名前の複数のオブジェクトを入れることはできません。

グローバル連結設定は次の種類のオブジェクトに適用できます。

- チェックボックス
- 日付 / 時間フィールド
- コンボボックス
- 画像フィールド
- リストボックス
- 数値フィールド
- 十進数フィールド
- パスワードフィールド
- ラジオボタン
- テキストフィールド
- バーコードフィールド (Paper Forms Barcode を除く)

オブジェクトにグローバル設定を適用すると、**Designer** はフォーム内の同じ名前のその他のすべてのオブジェクトに自動的にグローバル値を適用します。反対に、オブジェクトからグローバル設定を削除すると、**Designer** は同じ名前および設定をもつその他のすべてのオブジェクトから値を削除します。

注意：オブジェクトにグローバル連結を適用した場合、現在のページ、ページ数、現在の日時などの実行時のプロパティはオブジェクトに適用できません。

- 1 必要なオブジェクトをフォームデザインに追加します。
- 2 各オブジェクトに同じ名前を付けます。
- 3 同じ名前のオブジェクトの1つを選択します。
- 4 オブジェクトパレットで「連結」タブをクリックし、データ連結リストから「グローバルデータによる」を選択します。
選択したオブジェクトと同じ名前を持つすべてのオブジェクトにグローバル連結を適用することを確認するメッセージが表示されます。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」

フローティングフィールドを挿入するには

テキストオブジェクトにフローティングフィールドを挿入すると、各種タイプの情報を表示することができます。フローティングフィールドは、フォームのレンダリング時にテキストオブジェクト内のテキスト、数値、実行時のプロパティおよびスクリプティングの結合をサポートするオブジェクトです。フローティングフィールドを挿入できるのは、テキストオブジェクトだけです。

デフォルトのフローティングフィールドはテキストフィールドオブジェクトですが、オブジェクトパレットの「フィールド」タブにある種類リストで、オブジェクトの種類を変更することができます。

また、フローティングフィールドをデータソースに連結して特定のテキストまたは数値を表示することもできます。例えば、フローティングフィールドを挿入して、フォームレターの挨拶文に個々の顧客名をレンダリングすることができます。次の例に示しているように、フローティングフィールドは `TextField` オブジェクトとして表示されます。

(Dear Mr./Ms. {TextField})

- 1 フローティングテキストフィールドオブジェクトを挿入するテキストオブジェクトの内側をクリックします。
- 2 Designer で、フローティングテキストフィールドオブジェクトを挿入する行にカーソルを置きます。
- 3 挿入／フローティングフィールドを選択します。
- 4 フローティングフィールドのプロパティを設定するには、テキストオブジェクトの内側でフローティングフィールドのマーカーをクリックしてから必要なオプションを選択します。フローティングテキストフィールドオブジェクトの名前を変更して、必要な連結を指定するとよいでしょう。



フローティングフィールドオブジェクトのプロパティは、テキストオブジェクトのプロパティの設定とは別に設定します。デフォルトでは、フローティングフィールドオブジェクトは配置リストで「隠す（レイアウトから除外）」に設定されています。

Adobe Reader 内部で（スクリプティングなどを使用して）フローティングフィールドの値をダイナミックに更新する場合は、Adobe Reader 9.1 以降のバージョンを使用する必要があります。Acrobat および Adobe Reader 9.1 以降を対象のバージョンに設定して、フォームをダイナミック PDF フォーム形式で保存します。フローティングフィールドの境界を超えるような大量のテキストの入力が予想される場合は、「拡大して合わせる」オプションをフローティングフィールドとその親テキストのコンテナに設定すると、フィールドとコンテナを拡張できるようになります。

関連項目

375 ページの「[実行時のプロパティを追加するには](#)」

315 ページの「[テキストの使用](#)」

319 ページの「[テキストフィールドの使用](#)」

実行時のプロパティを追加するには

フォームデザインに実行時のプロパティを使用すると、実行時に特定の種類の情報をフォームに表示できます。表示できる情報の種類は、現在のページ、ページ数、現在の日時、ビューアのロケール、ビューアの名前、ビューアのバージョンです。

実行時のプロパティは次のオブジェクトに挿入できます。

- 数値フィールド
- テキスト
- テキストフィールド

実行時のプロパティは、フィールドの値にのみ挿入できます。フィールドのキャプションには挿入できません。

実行時のプロパティをテキストオブジェクトに追加するには、挿入メニューにあるコマンドを使用します。また、種類リストを使用して、実行時のプロパティをテキストフィールドオブジェクトまたは数値フィールドオブジェクトに追加することもできます。Designer によって、目的の値を生成する演算スクリプトとプロパティに基づくデフォルト値と共に、実行時のプロパティが選択したオブジェクトに追加されます。

注意：「現在のページ」実行時プロパティをオブジェクトに追加する場合は、グローバル連結オプションを適用しないでください。このオプションを適用すると、各ページに一意のページ番号ではなく同じページ番号が適用されます。

実行時のプロパティをテキストオブジェクトに追加するには

- 1 テキストオブジェクトをクリックします。
- 2 「挿入」を選択してから、挿入する実行時のプロパティを選択します。

テキストフィールドまたは数値フィールドオブジェクトに実行時のプロパティを追加するには

- 1 テキストフィールドまたは数値フィールドをクリックします。
- 2 オブジェクトパレットの「値」タブをクリックし、種類リストから「計算済み - 読み取り専用」を選択します。「実行時のプロパティ」オプションが表示されます。
- 3 「実行時のプロパティ」を選択し、その下に表示されるリストから挿入する実行時のプロパティを選択します。

関連項目

290 ページの「[数値フィールドについて](#)」

315 ページの「[テキストの使用](#)」

319 ページの「[テキストフィールドの使用](#)」

フォームに変数を追加するには

変数は、変化するテキストや値を挿入する場合に使用します。変数は、Designer が（必要に応じて）スクリプティングを使用して自動的に更新または変更できるテキストまたは値の一部です。

変数要素には、任意の数値や任意の独立したデータアイテムを入れることが可能です。データアイテムはそれぞれ、独自の名前属性で個々に名前が付けられているので、スクリプトで別々に指定することができます。

テキスト変数を定義して、キャプションやその他のテキストに挿入することができます。例えば、ある時点で変更される可能性がある製品の用語に変数を適用することができます。変数（用語）を変更する必要がある場合は、その変更の影響を受けるフォームを開いて変数値を更新すると、**Designer** がその用語のすべてのインスタンスを自動的に更新します。

変数を作成するには、変数に名前を付けて **Designer** が使用する値を指定する必要があります。例えば、**ProductName** という変数を作成して現在の製品名を入れ、必要に応じて更新することができます。

変数値はフォームと一緒に保存されます。

関連項目

657 ページの「[変数（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」

第9章：オブジェクトのプロパティ

レイアウトパレットのレイアウトプロパティ

サイズや位置、余白、キャプションの位置など、選択したオブジェクトに適用される様々な特性を指定するには、レイアウトパレットを使用します。ページ上の個々のオブジェクトに対して、レイアウトプロパティを指定することができます。

XとY オブジェクトのアンカーポイントの水平方向および垂直方向の位置を設定します。アンカーリストでの設定が「左上」ではない場合、「X」および「Y」オプションは「アンカー X」と「アンカー Y」に変わります。337 ページの「[オブジェクトを配置するには](#)」を参照してください。

幅、高さ、拡大して合わせる / 自動調整 オブジェクトの全体的な高さと幅の最小値を設定します。また、必要に応じて、その方向への拡大を可能にします。337 ページの「[オブジェクトを配置するには](#)」および 336 ページの「[オブジェクトをデータに合わせて拡大するには](#)」を参照してください。

注意：オブジェクトを手動で拡大するには、オプションダイアログボックスの「ウィザードとヒント」パネルにある「テキストオーバーフローインジケータを表示する」オプションを選択する方法もあります。674 ページの「[ウィザードとヒント \(オプションダイアログボックス\)](#)」を参照してください。

「自動調整」オプションは、サブフォームオブジェクトでのみ表示されます。このオプションを選択すると、Designer 内でのサブフォームのサイズがコンテンツに合わせて伸縮されます。

アンカー オブジェクトのアンカーポイントを設定します。333 ページの「[オブジェクトを回転させるには](#)」を参照してください。

回転  アンカーポイントを中心に、オブジェクトを回転させます。333 ページの「[オブジェクトを回転させるには](#)」を参照してください。

フローコンテナでのコンテンツの配置 コンテンツをフローするサブフォームで選択したオブジェクトの配置を設定します。

余白 オブジェクトの上下左右に残す空白のサイズを設定します。346 ページの「[オブジェクトの形式設定](#)」を参照してください。

キャプション キャプションの位置を設定します。349 ページの「[挿入ポイントの作成](#)」を参照してください。

領域 キャプションのために空けておく領域サイズを設定します。346 ページの「[オブジェクトの形式設定](#)」を参照してください。

領域サイズに 0 を設定すると、キャプション領域は自動調整され、オブジェクトのサイズがキャプションに合うように調整されます。

境界線パレットの境界線プロパティ

境界線のあるオブジェクトの境界線プロパティを編集するには、境界線パレットを使用します。境界線は 1 本ずつ編集することも、まとめて編集することもできます。

境界線 すべての境界線または個別の境界線の境界線プロパティを設定します。

- **個別に編集** 境界線を各境界線に対し個別に適用します。このオプションは、3 次元境界線には適用されません。
- **一括で編集** 同じ境界線をすべての境界線に適用します。
- **各境界線**  境界線のスタイルと幅を設定します。
- **カラーピッカー**  線の色を設定します。

コーナー  境界線のコーナーにスタイルを適用します。

半径 切れ目のあるコーナーを作成するときのコーナーの半径を設定します。

改ページの周囲の境界線を削除 選択したオブジェクトの最初のページの下部の境界線と 2 番目のページの上部の境界線を削除します。

スタイル 背景の塗りつぶしに使用するカラーやパターンを設定します。

- **カラーピッカー**  背景の塗りつぶしに使用するカラーを設定します。

関連項目

[Understanding Borders and Margins in Flowed Layouts](#)

フォントパレットのフォントプロパティ

フォントパレットを使用して、1 つ以上の選択したオブジェクトのテキストの、フォントファミリー、サイズ、スタイル、スケールと、ベースラインシフト、文字間隔、カーニングを変更できます。

フォント 書体を設定します。

フォントサイズ 書体のサイズを設定します。

スタイル  書体のスタイルを設定します。

ベースラインシフト ベースラインを基準にして文字（または文字のグループ）を移動する際のスペースのサイズを上下に指定します。正の数値で文字を上、負の数値で文字を下に移動します。

文字間隔 1 つの単語または単語のグループの文字間で、残すスペースの量を設定します。

垂直方向のスケール テキストの垂直方向のサイズを増減するには、程度をパーセント値で設定します。

水平方向のスケール テキストの水平方向のサイズを増減するには、程度をパーセント値で設定します。

自動カーニング 1 つの単語または単語のグループにおける、文字間のスペースの量を減らします。

注意：「フォントサイズ」および「スタイル」オプションは、固定サイズのフォント（例えば Courier New）でも使用可能です。ただし、固定サイズのフォントは変更しないことをお勧めします。固定サイズのフォントは、元のサイズとスタイルで印刷されます（[XDC Editor ヘルプ](#)を参照してください）。

段落パレットの段落プロパティ

選択したテキストの位置揃え、インデントおよび行間を変更するには、段落パレットを使用します。

整列  水平方向の位置揃えオプションを設定します。

- **左揃え** キャプションまたは値を左揃えにします。
- **中央揃え** キャプションまたは値を中央揃えにします。
- **右揃え** キャプションおよび値を右揃えにします。
- **均等** キャプションや値の両端を揃えます。この設定は、複数行に渡るキャプションや値の最終行を除くすべての行に適用されます（1 行だけの段落を両端揃えすることはできません）。

小数点による配置  数値フィールドの小数点による配置を設定します。このオプションは、数値フィールドオブジェクトが選択されているときのみ段落パレットに表示されます。

重要: 小数点による配置が定義された数値フィールドは、Acrobat 6.0.2 および Adobe Reader 6.0.2 用の PDF フォームではサポートされません。

垂直方向の整列  垂直方向の位置揃えオプションを設定します。

- **上揃え** キャプションや値のために空けておいた領域の上端に揃えて整列します。
- **中間揃え** キャプションや値のために空けておいた領域の中央に揃えて整列します。
- **下揃え** キャプションや値のために空けておいた領域の下端に揃えて整列します。

リスト リストのオプション設定をします。

- **パレットリスト** 箇条書きリストを開始します。異なる箇条書きスタイルを選択するには、矢印をクリックします。
- **番号付きリスト** 番号付きリストを開始します。異なる番号スタイルを選択するには、矢印をクリックします。
- **インデントを減らす** リストのインデントのレベルを下げます。
- **インデントを増やす** リストのインデントのレベルを上げます。
- **始点** 番号付きリストで選択したアイテムの開始番号を設定します。
- **複合タグ** 複数レベルの番号付きリストを作成します。

最初の行 最初の行のインデントを設定します。

- **なし** すべての行を同じ幅でインデントします。
- **字下げ** 先頭行だけをインデントします。
- **ぶら下げ** 先頭行以外のすべての行をインデントします。

幅 字下げインデントやぶら下げインデントの幅を設定します。

スペース 段落の前後にあけるスペースを設定します。

- **段落前** 段落の上に空ける垂直方向のスペースの幅を設定します。この値は「段落後」ボックスに指定された値に加算されます。
- **段落後** 段落の下に空ける垂直方向のスペースの幅を設定します。この値は「段落前」ボックスに指定された値に加算されます。

行間 行と行の間にあけるスペースのサイズを設定します。

- **1 行** 行の高さを、その行に含まれる最も大きな文字の高さと同じにします。
- **1.5 行** 行の高さを、その行に含まれる最も大きな文字の高さの 1.5 倍にします。
- **2 行** 行の高さを、その行に含まれる最も大きな文字の高さの 2 倍にします。
- **固定値** 行の高さを「スペース」ボックスに設定した値と同じにします。

ハイフネーション 個々のオブジェクト（テキストオブジェクトや、テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールド、署名フィールドなどのオブジェクトのキャプション領域のテキスト、およびテキストフィールドオブジェクトの値領域）のハイフネーションを追加または削除します。「ハイフネーション処理」オプションを使用すると、オブジェクトごとに手動でテキストのレイアウトを調整できます。このオプションは、「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」オプションと「テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する」オプションのいずれかまたは両方を選択しているときに使用できます。

アクセシビリティパレットのアクセシビリティプロパティ

Designer には、スクリーンリーダーを使用するためのオプションが数多く用意されています。フォーム内の各フィールドオブジェクトごとに、スクリーンリーダーテキストに関して次のいずれかの設定を選択できます。

- カスタムのスクリーンリーダーテキスト（アクセシビリティパレットで設定）
- オブジェクトのツールヒント（アクセシビリティパレットで設定）
- フィールドのキャプション
- オブジェクトの名前（「連結」タブの「名前」ボックスで指定）

これらの設定で、スクリーンリーダーが読み上げる、PDF フォーム上のオブジェクトの情報を決定します。1 つのオブジェクトについて、読み上げられる設定は 1 つだけです。

フォームをタグ付き PDF 形式で保存すると、Designer はフォームのこれらの設定を検索します。デフォルトの検索順序は、カスタムテキスト、ツールヒント、キャプション、名前の順です。デフォルトの順番を変更したい場合は、アクセシビリティパレットにある「スクリーンリーダーの優先順位」オプションを使用します。



ツールヒントとスクリーンリーダーテキストには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。

注意： ツールヒントは、実行時にユーザーがポインターをオブジェクトに合わせたときに表示されます。アクセシビリティパレットの設定内容は、フォームが PDF フォームとしてレンダリングされる場合はオブジェクトに影響しません。

ロール サブフォーム、テーブル、テーブル内の選択した行、リスト、見出しまたは見出しレベルを、スクリーンリーダーがどのように解釈するか指定します。

- **テーブル** 選択したサブフォームにテーブルの役割を割り当てます。ユーザーがこのサブフォームにアクセスすると、ほとんどのスクリーンリーダーはこのサブフォームをテーブルと認識して行と列の数を示します。
- **ヘッダー行** 選択したサブフォームまたはテーブル行にヘッダー行の役割を割り当てます。ほとんどのスクリーンリーダーは、ボディ行セルの内容を読み上げるときに、まずヘッダー行の対応するセルの内容を確認します。
- **ボディ行** 選択したサブフォームまたはテーブル行にボディ行の役割を割り当てます。セルにサブフォームが格納されている場合、スクリーンリーダーは、通常、ヘッダー行の対応するセルの内容を読み上げ、その後サブフォームのフィールドを読み上げます。
- **フッター行** 選択したサブフォームまたはテーブル行にフッター行の役割を割り当てます。
- **リスト** 選択したサブフォームにリストの役割を割り当てます。
- **リスト項目** 選択したサブフォームにリスト項目の役割を割り当てます。リスト項目の役割は、リストの役割が指定されているサブフォームに含まれるサブフォームだけに割り当てることができます。テーブルまたはテーブル行をリストまたはリスト項目として定義することはできませんが、リスト項目をテーブルに含めることはできます。
- **見出し** 選択したテキストオブジェクトに見出しの役割を割り当てます。
- **見出しレベル 1 ～見出しレベル 6** 選択したテキストオブジェクトに見出しレベルの役割を割り当てます。
- **（なし）** テーブルまたはその内容に関する情報を伝える行を指定します。スクリーンリーダーは、この行をテーブルの一部と認識しませんが、その内容を読み上げます。

ツールヒント オブジェクトのツールヒントを定義します。ツールヒントは、実行時にユーザーがポインターをオブジェクトに合わせたときに表示されます。スクリーンリーダーはこのボックスに入力されているテキストを読み上げます。

1 つのオブジェクトに独自のカスタムのツールヒントテキストとカスタムのスクリーンリーダーテキストの両方を割り当てることはできません。どちらか 1 つを選択する必要があります。ツールヒントテキストとスクリーンリーダーによって読み上げられるテキストに同じテキストを使用する場合は、ツールヒントを入力し、スクリーンリーダーの優先順位リストから「ツールヒント」を選択します。

注意：ほとんどのオブジェクトの場合、「ツールヒント」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。

スクリーンリーダーの優先順位 スクリーンリーダーがどの設定を読み上げるかを指定します。1つのオブジェクトについて、読み上げられる設定は1つだけです。

- **カスタムテキスト** 「カスタムのスクリーンリーダーテキスト」ボックスに指定されているテキストを読み上げます。このオプションがデフォルトです。
- **ツールヒント** 「ツールヒント」ボックスで指定したテキストを読み上げます。
- **キャプション** オブジェクトのキャプションを読み上げます。スクリーンリーダーがキャプションを読み上げる順序は、オブジェクトを基準とするキャプションの相対的な位置によって変更されません。「ツールヒント」ボックスまたは「カスタムのスクリーンリーダーテキスト」ボックスに何も指定されていない場合は、デフォルトでキャプションがスクリーンリーダーにより読み上げられます。この設定は、スクリーンリーダーで優先される選択肢です。
- **名前** オブジェクトの名前（オブジェクトパレットの「連結」タブで指定）を読み上げます。
- **なし** フィールドに割り当てられたカスタムのツールヒントまたはカスタムのスクリーンリーダーテキストを無効にします。

カスタムのスクリーンリーダーテキスト 選択したオブジェクトのカスタムテキストを定義します。スクリーンリーダーはこのボックスに入力したテキストを読み上げます。

1つのオブジェクトに独自のカスタムのツールヒントテキストとカスタムのスクリーンリーダーテキストの両方を割り当てることができません。どちらか1つを選択する必要があります。カスタムのスクリーンリーダーテキストをツールヒントテキストとスクリーンリーダーテキストの両方に使用する場合は、カスタムテキストを入力し、スクリーンリーダーの優先順位リストから「カスタムテキスト」を選択します。

注意：ほとんどのオブジェクトの場合、「カスタムのスクリーンリーダーテキスト」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。

「マスターページ」タブのマスターページプロパティ

オブジェクトパレットの「マスターページ」タブを使用して、各マスターページのページ名および様々なレイアウトオプションを設定します。「マスターページ」タブを表示するには、階層パレットで、操作するマスターページを選択します。

名前 マスターページの名前を設定します。

用紙の種類、高さおよび幅 マスターページのサイズを設定します。「高さ」および「幅」ボックスに大きさが表示されており、「用紙の種類」オプションを「カスタム」に設定すると、この大きさを変更できます。

印刷の向き マスターページの画像の向きを設定します。

- **縦** ページの高さがページの幅より長いまたは等しくなります。
- **横** ページの幅がページの高さより長いまたは等しくなります。

注意：「カスタム用紙の種類」でページの向きを明示的に縦向きまたは横向きに設定します。フォームの幅が高さよりも大きい場合、「カスタム用紙の種類」が選択されると向きが自動的に横向きになりません。

ページオカレンスの制限、最小値、最大値 データが収まるようにレイアウトが調整されるフォームを作成する場合にのみこのオプションを選択します。選択したマスターページを基にしたボディページの繰り返しレンダリングを、有効または無効

にします。このオプションを選択すると、「最小値」ボックスに繰り返し回数の最小値を、「最大値」ボックスに繰り返し回数の最大値を入力できます。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

「ページ編集」タブのマスターページプロパティ

マスターページを選択すると、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブに複数のページ番号オプションが表示されます。

奇数 / 偶数 フォームをレンダリングして印刷するときに、マスターページを用紙の表（奇数）、裏（偶数）または両面のいずれに表示するかを指定します。

- **奇数（表） ページ** マスターページを印刷時の奇数ページに表示します。
- **偶数（裏） ページ** マスターページを印刷時の偶数ページに表示します。
- **空白ページ** フローコンテンツを含まない空白ページを挿入します。このオプションは、両面印刷の際、裏側（偶数）ページを空白にして次のセクションを表側（奇数）ページから印刷する必要がある場合に便利です。
- **奇数 / 偶数の制限がありません** 両面印刷モードでマスターページを印刷する面を制限しません。このオプションがすべてのマスターページに対するデフォルトです。

配置 フォームデザインの中でマスターページを適用するページを指定します。

- **最初のページ（ページセット内）** マスターページはページセット内の最初のページに挿入されます。
- **最後のページ（ページセット内）** マスターページはページセット内の最後のページに挿入されます。
- **ページのみ（ページセット内）** マスターページはページセット内の 1 ページのみに挿入されます。このオプションは、フォーム内にマージされるデータによってコンテンツ領域が複数ページにわたることがない場合に選択できます。このオプションを設定できるマスターページは 1 ページのみです。
- **残りのページ** マスターページは、ページセット内の最初と最後のページを除くページに挿入されます。
- **配置の制限がありません** マスターページの配置に制限がありません。デフォルトの挿入オプションです。

このページをページ数の合計に含める 選択したマスターページに付随してレンダリングされたページを、ページ数の合計に含めるかどうかを指定します。デフォルトではこのオプションは選択されており、すべてのボディページが集計されます。

ドキュメントの最初のページの場合 選択したマスターページに従って、レンダリングされたボディページのページ番号を設定します。

- **バッチ内の前のドキュメントからページ番号を引き継ぐ** ページ番号は、Forms により処理された最後の文書から引き継いで増加します。
- **開始位置** ページ番号は、ここで指定された値から開始します。

「ページセット」タブのページセットプロパティ

オブジェクトパレットの「ページセット」タブを使用して、各ページセットの名前およびオカレンスオプションを設定します。「ページセット」タブを表示するには、階層パレットで、操作するページセットを選択します。

各ページセットごとに次のオプションを設定できます。

名前 ページセットの名前を設定します。

印刷 ページセットを各用紙の片面のみに印刷するか、または両面に印刷するかを指定します。

ページセットオカレンスの制限、最小値、最大値 インタラクティブフォームを作成する場合にだけ、このオプションを選択します。選択したページセット内のマスターページを基にしたページの繰り返しレンダリングを、有効または無効にします。このオプションを選択すると、「最小値」ボックスに繰り返し回数の最小値を、「最大値」ボックスに繰り返し回数の最大値を入力できます。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

第 10 章：オブジェクトパレット内のプロパティ

バーコード

「フィールド」タブのバーコードプロパティ

バーコードを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、バーコードの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

場所

バーコードテキストの位置を設定します。リストから選択できるオプションは、選択するバーコードによって異なります。一部のバーコードでは、このリストを使用できません。

プロパティ / 値

バーコード固有のプロパティを設定します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

関連項目

262 ページの「[バーコードの使用](#)」

「値」タブのバーコードプロパティ

バーコードを作成すると、「値」タブに、このオブジェクトに適用できるオプションが表示されます。

種類

実行時の計算とプロンプトを有効にします。

ユーザー定義 - オプション データを入力するかどうかをユーザーが選択できます。

ユーザー定義 - 推奨 ユーザーがフィールドに値を入力することが推奨されます。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとする、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。ユーザーはメッセージを無視してフォームを送信できます。

ユーザー定義 - 必須 ユーザーがフィールドに値を入力する必要があります。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。メッセージは、フィールド内に値がある場合、値が削除された場合、およびユーザーが値を入れ直さずにフィールドから移動した場合にのみ表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとする、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。

計算済み - 読み取り専用 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。ユーザーは計算値を編集できません。

計算済み - 上書き可能 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。入力処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。

保護済み ユーザーはフィールド内の値を変更できません。演算などによる間接的な変更はできます。保護済みのフィールドはタブの順序に含まれず、イベントも生成されません。

読み取り専用 データ値が実行時にマージまたは計算され、表示されます。ユーザーは値を編集できません。

デフォルト

バーコードの初期値を設定します。入力したデフォルト値の長さによって、バーコードの表示幅が決まります。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - オプション」、「ユーザー定義 - 推奨」、「ユーザー定義 - 必須」または「読み取り専用」に設定されている場合のみ使用可能です。

空白のメッセージ

推奨の値または必須の値の入力を促すメッセージを設定します。358 ページの「[ユーザーにデータの入力を促すメッセージを表示するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - 推奨」または「ユーザー定義 - 必須」に設定されている場合のみ使用可能です。

検証パターン

ユーザー入力の有効性を確認するための検証パターンを設定します。このパターンは、ユーザー入力のシンタックスと一致し、「連結」タブで選択したデータ形式と互換性のあるものでなければなりません。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護済み」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。

検証パターンのメッセージとエラー

生の値が検証パターンと一致しなかった場合に表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

検証スクリプトのメッセージとエラー

検証スクリプトで受け入れ不可能な値が検知されたときに表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。「検証スクリプトのメッセージ」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

フォームレベルの検証設定

「フォームの検証」タブのフォームのプロパティダイアログボックスを開きます。656 ページの「[フォームの検証（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。

上書きメッセージ

ユーザーに対して、計算済みフィールドの値を変更しようとしていることを知らせるカスタムメッセージを設定します。このメッセージは、計算結果の値をユーザーが変更すると表示されます。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 上書き可能」に設定されている場合にのみ使用できます。

関連項目

262 ページの「[バーコードの使用](#)」

263 ページの「[バーコードのデータ取得方法を管理するには](#)」

524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

「連結」タブのバーコードプロパティ

「連結」タブには、バーコードを連結するためのオプションがいくつか表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

バーコード名を設定します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます（373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください）。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

262 ページの「[バーコードの使用](#)」

264 ページの「[バーコードのカスタムデータ連結プロパティを定義するには](#)」

サポートされているバーコード形式

サポートされているバーコード形式を以下に示します。

Aztec Aztec 形式 (ハードウェアレンダリング)

AUS Post Custom2 オーストラリア郵便 Custom 2 形式

AUS Post Custom3 オーストラリア郵便 Custom 3 形式

AUS Post Reply Paid オーストラリア郵便受取人払い形式

AUS Post Standard オーストラリア郵便標準形式

Codabar Codabar 形式。USD-4、NW-7 および 2 of 7 コードとの互換性を提供します。

Code 11 Code 11 形式 (ハードウェアレンダリング)

Code 128SSCC UCC/EAN 128 SSCC (Serial Shipping Container Code) 形式

Code 128 Code128 形式

Code 128A Code128、セット A 形式

Code 128B Code128、セット B 形式

Code 128C Code128、セット C 形式

Code 2 of 5 Industrial 2 of 5 工業用形式

Code 2 of 5 Interleaved 2 of 5 インターリーブ形式。Code 25、I2of5、ITF および I25 との互換性を提供します。

Code 2 of 5 Matrix 2 of 5 マトリックス形式

Code 2 of 5 Standard Code 2 of 5 形式 (ハードウェアレンダリング)

Code 3 of 9 3 of 9 形式

Code 93 Code 93 形式 (ハードウェアレンダリング)

Code 49 Code 49 形式 (ハードウェアレンダリング)

Data Matrix データマトリックス形式

EAN13 EAN13 形式

EAN8 EAN8 形式

日本の郵便バーコード 日本の郵便の形式

Logmars Logmars 形式 (ハードウェアレンダリング)

MSI MSI 形式 (ハードウェアレンダリング)

PDF 417 1800 個までの ASCII 文字に対応した 2 次元形式

Paper Forms Barcode Paper Forms Barcode 形式

Planet Code Planet Code 形式 (ハードウェアレンダリング)

Plessey Plessey 形式 (ハードウェアレンダリング)

QR Code QR (Quick Response) 2-D コード形式 (ハードウェアレンダリング)

RFID Radio Frequency Identification バーコード (ハードウェアレンダリング)

RSS 14 Stacked RSS 14 Stacked 形式 (ハードウェアレンダリング)

RSS 14 Omni RSS 14 Omni 形式 (ハードウェアレンダリング)

RSS 14 Truncated RSS 14 Truncated 形式 (ハードウェアレンダリング)

RSS Expanded RSS Expanded 形式 (ハードウェアレンダリング)

RSS Limited RSS Limited 形式 (ハードウェアレンダリング)

UK Post RM4SCC イギリス郵便 RM4SCC 形式

UPC-A UPC-A 形式

UPC-E UPC-E 形式 (ハードウェアレンダリング)

UPS Maxicode UPS Maxicode 形式 (ハードウェアレンダリング)

UPC EAN2 UPC EAN2 形式 (ハードウェアレンダリング)

UPC EAN5 UPC EAN5 形式 (ハードウェアレンダリング)

US Postal Zip-5 アメリカ合衆国郵便 5 桁 (ZIP) 形式

US Postal DPBC Delivery Point ZIP +6 形式

US Postal Standard アメリカ合衆国郵便標準形式

US Postal Intelligent Mail US Postal Intelligent Mail バーコード

注意: その他のハードウェア固有のバーコード形式を、デフォルトでサポートされているバーコード形式に追加することもできます。

関連項目

262 ページの「[バーコードの使用](#)」

有効なバーコードテキスト文字

この表は、バーコードテキストで使用できる文字をまとめたものです。

バーコード	有効な文字
Aztec AUS Post Custom2 AUS Post Custom3 AUS Post Reply Paid AUS Post Standard Code 2 of 5 Industrial Code 2 of 5 Standard Code 3 of 9 Code 2 of 5 Interleaved Code 2 of 5 Matrix EAN13 EAN8 MSI UPC-A UPC-E UPC-EAN2 UPC-EAN5 US Postal Zip-5 US Postal DPBC US Postal Standard UPS Maxicode	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
Codabar	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 - \$: / . +
Code 11	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 -
Code 128SSCC Code 128 Code 128A Code 128B Code 128C	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ! # & ' < > ` \$ % () * + , - . / : ; ? @ # = [] ^ _ { } ~ スペース A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
Code 3 of 9	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 - . \$ / + % * スペース A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
Code 49	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 < > - . \$ / + % : ; ? = A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
Code 93	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 & ' - . \$ () / + % , スペース A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

バーコード	有効な文字
Logmars	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 - . \$ / + % スペース A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
RSS 14 RSS 14 Stacked RSS 14 Stacked Omni RSS 14 Truncated RSS Expanded RSS Limited	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
PDF 417	制限なし
Plessey	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
UK Post RM4SCC	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
日本の郵便	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 - A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

関連項目

262 ページの「[バーコードの使用](#)」

ボタン

「フィールド」タブのボタンプロパティ

ボタンを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、ボタンの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

境界線のスタイルを設定します。

境界線なし ボタンの周囲の線を削除します。

境界線（実線） ボタンの周囲に太い線を引きます。

境界線（立体） ボタンの周囲に陰影を付け、ボタンが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。ボタンの外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

ハイライト表示

ボタンをクリックしたときにボタンのハイライトを設定します。

なし ボタンのハイライトを削除します。

反転 ボタンをクリックしたときにボタンのハイライトを反転します。

プッシュ ボタンの周囲に陰影を付け、ボタンが押し下げられて見えるようにします。

アウトライン ボタンをクリックしたときに周囲に線を引きます。

ロールオーバーキャプション

ボタンハイライトをプッシュに設定したときにロールオーバーキャプションを設定します。マウスポインターをボタンに合わせるとこのキャプションが表示されます。

ダウンキャプション

ボタンハイライトをプッシュに設定したときにダウンキャプションを設定します。ボタンをクリックするとこのキャプションが表示されます。

コントロールの種類

ユーザーがボタンをクリックしたときの動作を指定します。「印刷」ボタンおよび「リセット」ボタンに対しては、次に示すオプションは表示されません。

標準 アタッチされたスクリプトや演算が実行されます。スクリプトまたは演算はユーザーによって入力されます。

送信 「送信」タブの設定に従って、データが送信されます。395 ページの「[「送信」タブのボタンプロパティ](#)」を参照してください。

実行 「実行」タブの設定に従って、Web サービスの操作やデータベースのクエリが実行されます。396 ページの「[「実行」タブのボタンプロパティ](#)」を参照してください。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

「フィールド」 タブの印刷ボタンプロパティ

ボタンを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、ボタンの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

境界線のスタイルを設定します。

境界線なし ボタンの周囲の線を削除します。

境界線（実線） ボタンの周囲に太い線を引きます。

境界線（立体） ボタンの周囲に陰影を付け、ボタンが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。ボタンの外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

ハイライト表示

ボタンをクリックしたときにボタンのハイライトを設定します。

なし ボタンのハイライトを削除します。

反転 ボタンをクリックしたときにボタンのハイライトを反転します。

プッシュ ボタンの周囲に陰影を付け、ボタンが押し下げられて見えるようにします。

アウトライン ボタンをクリックしたときに周囲に線を引きます。

ロールオーバーキャプション

ボタンハイライトをプッシュに設定したときにロールオーバーキャプションを設定します。マウスポインターをボタンに合わせるとこのキャプションが表示されます。

ダウンキャプション

ボタンハイライトをプッシュに設定したときにダウンキャプションを設定します。ボタンをクリックするとこのキャプションが表示されます。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ間にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

「フィールド」タブのリセットボタンプロパティ

ボタンを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、ボタンの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類 オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

境界線のスタイルを設定します。

境界線なし ボタンの周囲の線を削除します。

境界線（実線） ボタンの周囲に太い線を引きます。

境界線（立体） ボタンの周囲に陰影を付け、ボタンが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。ボタンの外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

ハイライト表示

ボタンをクリックしたときにボタンのハイライトを設定します。

なし ボタンのハイライトを削除します。

反転 ボタンをクリックしたときにボタンのハイライトを反転します。

プッシュ ボタンの周囲に陰影を付け、ボタンが押し下げられて見えるようにします。

アウトライン ボタンをクリックしたときに周囲に線を引きます。

ロールオーバーキャプション

ボタンハイライトをプッシュに設定したときにロールオーバーキャプションを設定します。マウスポインターをボタンに合わせるとこのキャプションが表示されます。

ダウンキャプション

ボタンハイライトをプッシュに設定したときにダウンキャプションを設定します。ボタンをクリックするとこのキャプションが表示されます。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ間にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

「送信」タブのボタンプロパティ

ボタンを作成し、ボタンの「コントロールの種類」を「送信」に設定すると、オブジェクトパレットに「送信」タブが表示されます。データを送信する形式設定ボタンに固有のオプションが複数表示されます。

送信先 URL

Web でホストされているサーバーの場所を設定します。ftp、http、https または mailto プロトコルを指定できます。

送信形式

送信するデータの形式を設定します。

XML データパッケージ (XDP) Designer により作成されるファイル形式でパッケージが送信されます。フォームがサーバーサイド処理を開始する場合や、フォームデザイン、フォームデータ、注釈など、Forms が実行時にフォームをレンダリングするときに必要となる関連情報を送信する場合に、この形式を選択します。

PDF 埋め込み PDF PDF ファイルを含むパッケージを送信します。この形式は、フォームに署名フィールドが含まれている場合や、フォームのコピーとデータをまとめて Forms で保存するか、別の種類のターゲットサーバーに送信する必要がある場合に選択します。フォームがサーバーサイド処理を開始する場合、Forms を使用して HTML フォームまたは調整可能なレイアウトのあるフォームを実行時にレンダリングする場合、または Reader Extensions を使用せずに Adobe Reader 内で記入される PDF フォームの場合は、このオプションを選択しないでください。

XML データ (XML) XML データストリームを送信します。これにより、データを階層形式で表し、任意の汎用 XML パーサーで解析できるようになります。実行時のユーザーアプリケーションプログラムと通信するサーバーが XML データストリームを受信する必要がある場合は、この形式を選択します。

URL エンコードデータ (HTTP Post) POST メソッドを使用して、テキストストリームを指定の URL (Uniform Resource Locator) に送信します。このテキストストリームは、HTML フォームを処理する FTP サーバー、メールサーバー、Web サーバー、または CGI スクリプトで解析できます。このメソッドを使用するには、URL に mailto プロトコルが指定されていない限り、ユーザーが Adobe Reader 6.0 以降または Web ブラウザーでフォームを開く必要があります。

送信時に署名 送信データにデータ署名を適用します。フォーム入力者がこのボタンをクリックすると、送信データと添付データを対象とした電子署名が作成されます。データ署名では、署名されたデータが保護され、送信時にデータの整合性が確保されます。フォームデータ、または添付データを含む送信データ全体にデータ署名を適用します。「設定」ボタンをク

リックして、署名ハンドラー、署名の証明書、証明書発行者など、データ署名に関するオプションのセキュリティプロパティを定義します。

送信を暗号化 フォームコンテンツを暗号化します。フォーム入力者がこのボタンをクリックすると、フォームコンテンツが送信前に暗号化され、送信時のコンテンツが保護されます。フォームデータ、または添付データを含む送信データ全体に暗号化を適用します。「設定」ボタンをクリックして、暗号化アルゴリズム、暗号化証明書、証明書発行者、キーの使用など、オプションの暗号化プロパティを設定します。

含める

添付として含める項目を設定します。XDP ファイルにしか添付できないものもあります。

注釈 レビューコメント、ツールヒントなど、スクリーンリーダーテキストの取り込みに必要な特別なタグを含めます。

PDF (署名含む) 添付ファイルとしてフォームが送信されるときにフォームの PDF バージョンを含めます。このオプションが選択されていない場合は、埋め込み PDF ファイルへの参照が含まれます。

テンプレート データがマージされていないフォームデザインを含めます。

その他 XDP ソースファイル内の <xdp> 要素を含めます。複数の要素を指定する場合はコンマで区切ります。コンマの後のスペースは入れても入れなくてもかまいません。例えば、xci, xslt, sourceset と入力します。

データエンコーディング

データ転送のエンコーディング形式を設定します。

UTF-8 Unicode Transformation Format 8。

UTF-16 Unicode Transformation Format 16。

Shift_JIS シフト JIS エンコーディング。

Big5 繁体字中国語をエンコーディングするための一般的な標準。

GBK 簡体字中国語 (GB 13000.1-93) 文字エンコーディング (GB 2312-80 の拡張)。

KSC_5601 韓国語エンコーディング。

GB18030 中華人民共和国 (PRC) 公式文字セットエンコーディング (GB2312 を置き換える)。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」

「実行」タブのボタンプロパティ

ボタンを作成し、このボタンの「コントロールの種類」を「実行」に設定すると、オブジェクトパレットに「実行」タブが表示されます。このタブには、データ接続と共に形式設定ボタン固有のオプションがいくつか表示されます。

接続

接続を設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

接続情報

接続情報と、実行する操作またはクエリの名前を指定します。

実行場所

実行する場所を設定します。

クライアント クライアントコンピューター上で要求を処理します。

サーバー サーバー上で要求を処理します。

クライアント/サーバー クライアントコンピューターとサーバー上で要求を処理します。

フォームデータの再結合

処理完了後のフォーム構造の更新を有効または無効にします。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

268 ページの「[ボタンの処理オプション](#)」

チェックボックス

「フィールド」タブのチェックボックスプロパティ

チェックボックスを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、チェックボックスの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類 オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

チェックボックスの入力可能領域の境界線スタイルを設定します。

なし ボックスの周囲に境界線を表示しません。

四角形（べた） ベタ塗りの四角形を使用してボックスを表します。

四角形（くぼみ） ボックスの周囲に四角形の陰影を付け、ボックスが立体的に見えるようにします。

円（べた） ベタ塗りの円を使用してボックスを表します。

円（くぼみ） ボックスの周囲に円形の陰影を付け、ボックスが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。入力可能な領域の外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

ステータス

サポートされているステータスの数を設定します。

オン/オフ チェックボックスはオン（選択）とオフ（選択解除）の2つのステータスを持ちます。

オン/オフ/中間 チェックボックスはオン（選択）、オフ（選択解除）、中間（選択も選択解除もされていない）の3つのステータスを持ちます。

それぞれのステータスに対する値は、オブジェクトパレットの「連結」タブで定義する必要があります。

サイズ

ボックスのサイズを設定します。

チェックスタイル

チェックのスタイルを設定します。

デフォルト チェックのスタイルに X を使用します。

チェック チェックのスタイルにチェックマークを使用します。

円 チェックのスタイルに円を使用します。

バツ チェックのスタイルにバツ (x) を使用します。

ひし形 チェックのスタイルにひし形を使用します。

四角形 チェックのスタイルに四角形を使用します。

星形 チェックのスタイルに星形を使用します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

278 ページの「[チェックボックスの使用](#)」

「値」タブのチェックボックスプロパティ

チェックボックスを作成すると、「値」タブに、このオブジェクトに適用できるオプションが表示されます。

種類

実行時の計算とプロンプトを有効にします。

ユーザー定義 データを入力するかどうかをユーザーが選択できます。

計算済み - 読み取り専用 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって実行時に表示されます。計算結果の値をユーザーが変更することはできません。

計算済み - 上書き可能 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。入力进行处理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。

読み取り専用 データ値が実行時にマージまたは計算され、表示されます。ユーザーは値を編集できません。

デフォルト

チェックボックスの初期ステータスを選択します。

オン デフォルトのステータスをオンにします。チェックボックスは最初から選択されています。

オフ デフォルトのステータスをオフにします。チェックボックスは最初は選択解除されています。

中間 デフォルトのステータスを中間にします。チェックボックスは最初は灰色で塗りつぶされています。

注意：デフォルトリストは、「種類」オプションが「ユーザー定義」または「読み取り専用」に設定されている場合のみ使用可能です。デフォルトリストで「中間」オプションが使用できるのは、「フィールド」タブの「ステータス」オプションが「オン / オフ / 中間」に設定されている場合だけです。

検証スクリプトのメッセージとエラー

検証スクリプトで受け入れ不可能な値が検知されたときに表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護済み」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。「検証スクリプトのメッセージ」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

フォームレベルの検証設定

「フォームの検証」タブのフォームのプロパティダイアログボックスを開きます。656 ページの「[フォームの検証（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。

上書きメッセージ

ユーザーに対して、計算済みフィールドの値を変更しようとしていることを知らせるカスタムメッセージを設定します。このメッセージは、計算結果の値をユーザーが変更すると表示されます。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 上書き可能」に設定されている場合にのみ使用できます。

関連項目

278 ページの「[チェックボックスの使用](#)」

「連結」タブのチェックボックスプロパティ

チェックボックスを作成すると、「連結」タブに、このオブジェクトに適用できるデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

チェックボックスの名前を設定します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます（373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください）。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

オンの値

データソース内でのチェックボックスのオンステータスの値を指定します。280 ページの「[チェックボックスのステータスに割り当てる値を変更するには](#)」を参照してください。

オフの値

データソース内でのチェックボックスのオフステータスの値を指定します。

中間の値

データソース内でのチェックボックスの中間ステータスの値を指定します。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

278 ページの「[チェックボックスの使用](#)」

円

「描画」タブの円プロパティ

円を作成すると、オブジェクトパレットの「描画」タブに、円の形式設定で利用できるオプションが表示されます。

種類 オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

表示方法

オブジェクトの形状を設定します。

楕円 楕円形を描画します。

円 円形を描画します。

円弧 円弧を描画します。

始点

円弧の始点を設定します。

角度

円弧の終点を設定します。

スタイル

線のスタイルと太さを設定します。

カラーピッカー

 線の色を設定します。

塗りつぶし

塗りつぶしのスタイルを設定します。

カラーピッカー

 塗りつぶしの色を設定します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

関連項目

281 ページの「[円、線、長方形の使用](#)」

コンテンツ領域

「コンテンツ領域」タブのコンテンツ領域プロパティ

コンテンツ領域を選択すると、「コンテンツ領域」タブに 2 つのオプションが表示されます。

名前

コンテンツ領域名を設定します。

フローの方向

コンテンツ領域内のサブフォームのフロー方向を設定します。

上から下へ デフォルトのタブ順序およびデータ入力順序を、ページの先頭から始まり、ページの下方向に進むように設定します。

左から右 デフォルトのタブ順序およびデータ入力順序を、ページの先頭から始まり、ページの右端にある最後のオブジェクトに到達するまで、右方向に進んでいくように設定します。ページの右端に到達したら、タブ順序およびフローの方向は、そのすぐ下でページの左端にあるオブジェクトに続きます。

右から左 デフォルトのタブ順序およびデータ入力順序を、ページの右から始まり、ページの左方向に進むように設定します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

関連項目

283 ページの「[コンテンツ領域の使用](#)」

284 ページの「[複数のコンテンツ領域間でのデータフロー](#)」

日付 / 時間フィールド

「フィールド」 タブの日付 / 時間フィールドプロパティ

日付 / 時間フィールドを選択すると、「フィールド」タブに、日付 / 時間フィールドの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類 オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

フィールドの入力可能領域の境界線スタイルを設定します。

なし フィールドの周囲に境界線を表示しません。

下線付き フィールドに下線を付けます。

ボックス (実線) フィールドの周囲に実線の境界を表示します。

ボックス (くぼみ) フィールドの周囲に陰影を付け、フィールドが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。入力可能な領域の外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

文字数を表示領域に制限

日付 / 時間フィールドの横方向の長さに従い、フィールドに入力できる文字と数字の最大数を設定します。

マス目で区切る

comb 形式を有効にします。

パターン

フォームに形式設定された値の表示、ユーザー入力のシンタックス、ユーザー入力の有効性の検証および連結されたデータの格納と取得またはフォームがデータソースに連結されていないときのデータ保存に使用するパターンを設定します。677 ページの「[パターンダイアログボックス](#)」を参照してください。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示 (画面のみ) オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示 (印刷のみ) オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隔にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

286 ページの「[日付 / 時間フィールドの使用](#)」

357 ページの「[表示パターンを指定するには](#)」

359 ページの「[編集パターンを指定するには](#)」

366 ページの「[日時のパターン](#)」

「値」 タブの日付 / 時間フィールドプロパティ

日付 / 時間フィールドを作成すると、「値」タブに、このオブジェクトに適用できるオプションが表示されます。

種類

実行時の計算とプロンプトを有効にします。

ユーザー定義 - オプション データを入力するかどうかをユーザーが選択できます。

ユーザー定義 - 推奨 ユーザーがフィールドに値を入力することが推奨されます。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとする、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。ユーザーはメッセージを無視してフォームを送信できます。

ユーザー定義 - 必須 ユーザーがフィールドに値を入力する必要があります。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。メッセージは、フィールド内に値がある場合、値が削除された場合、およびユーザーが値を入れ直さずにフィールドから移動した場合にのみ表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとする、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。

計算済み - 読み取り専用 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。ユーザーは計算値を編集できません。

計算済み - 上書き可能 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。入力を処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。

保護済み ユーザーはフィールド内の値を変更できません。演算などによる間接的な変更はできます。保護済みのフィールドはタブの順序に含まれず、イベントも生成されません。

読み取り専用 データ値が実行時にマージまたは計算され、表示されます。ユーザーは値を編集できません。

デフォルト

フィールドの初期値を設定します。値は、パターンダイアログボックスにある種類を選択リストで選択したオプションに従って形式設定されますが、フィールドに対して指定されたロケールに従って、短い形式の日付または時間形式に値を適合させる必要があります。日付および時間の短い形式について詳しくは、365 ページの「[日付形式](#)」および 366 ページの「[時間形式](#)」を参照してください。データが連結され、データパターンが指定されている場合は、この値は「連結」タブで指定されたデータパターンと一致する必要があります。357 ページの「[デフォルト値を指定するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - オプション」、「ユーザー定義 - 推奨」、「ユーザー定義 - 必須」または「読み取り専用」に設定されている場合のみ使用可能です。

空白のメッセージ

推奨の値または必須の値の入力を促すメッセージを設定します。358 ページの「[ユーザーにデータの入力を促すメッセージを表示するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - 推奨」または「ユーザー定義 - 必須」に設定されている場合のみ使用可能です。

検証パターン

ユーザー入力の有効性を確認するための検証パターンを設定します。パターンはユーザー入力のシンタックスと一致する必要があります。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護されています」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。

検証パターンのメッセージとエラー

生の値が検証パターンと一致しなかった場合に表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

検証スクリプトのメッセージとエラー

検証スクリプトで受け入れ不可能な値が検知されたときに表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。「検証スクリプトのメッセージ」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

フォームレベルの検証設定

「フォームの検証」タブのフォームのプロパティダイアログボックスを開きます。656 ページの「[フォームの検証（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。

計算スクリプト

オブジェクトの値を、オブジェクトの calculate イベントに記述されているスクリプトによって計算します。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 読み取り専用」に設定されている場合にのみ使用できます。

実行時のプロパティ

オブジェクトに関する実行時プロパティを設定します。実行時プロパティを選択すると、フォームがレンダリングされるときに、このオプションに対応する有効値がダイナミックに挿入されます。

現在の日時 現在の日時を日付 / 時間フィールドに表示します。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 読み取り専用」に設定されている場合にのみ使用できます。

上書きメッセージ

ユーザーに対して、計算済みフィールドの値を変更しようとしていることを知らせるカスタムメッセージを設定します。このメッセージは、計算結果の値をユーザーが変更すると表示されます。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 上書き可能」に設定されている場合にのみ使用できます。

関連項目

286 ページの「[日付 / 時間フィールドの使用](#)」

「連結」タブの日付 / 時間フィールドプロパティ

日付 / 時間フィールドを作成すると、「連結」タブに、このフィールドに適用できるデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

日付 / 時間フィールドの名前を設定します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます（373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください）。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

データ形式

フィールド内のデータを表示する形式を設定します。

日付 フィールド内のデータを日付形式で表示します。

時間 フィールド内のデータを時間形式で表示します。

日付と時間 フィールド内のデータを日時形式で表示します。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

286 ページの「[日付 / 時間フィールドの使用](#)」

288 ページの「[日付 / 時刻フィールドに表示するデータを指定するには](#)」

366 ページの「[日時のパターン](#)」

日付 / 時間パターンの例

形式設定された値は、表示したり処理したりできます。生の値は Designer のデフォルトに準拠します。

定義済みパターン

次の表に、オブジェクトパレットの「フィールド」タブの「パターン」オプションを使用して指定できる定義済みの日付 / 時間パターンと、それぞれのロケールの指定を使用してデフォルトの入力値を形式設定した例を示します。次に、ロケールが英語（米国）に設定されている場合の例を示します。

定義済みパターン	入力値（日付に M/D/YY、時間に h:MM A の短い形式を使用した場合）	形式設定された値
YYYY-MM-DD	8/23/08	2008-08-23
EEEE, MMMM D, YYYY	8/23/08	Saturday, August 23, 2008
HH:MM:SS	5:02 PM	17:02:00
date{YYYY-MM-DD} time{HH:MM:SS}	8/23/08 5:02 PM	2008-08-23 17:02:00

注意：日付と時間のデフォルトの短い形式を探すには、表示 / XML ソースを選択して次の行を検索します。

```
<datePatterns>
  <datePattern name="full">EEEE, MMMM D, YYYY</datePattern>
  <datePattern name="long">MMMM D, YYYY</datePattern>
  <datePattern name="med">MMM D, YYYY</datePattern>
  <datePattern name="short">M/D/YY</datePattern>
</datePatterns>
<timePatterns>
  <timePattern name="full">h:MM:SS A Z</timePattern>
  <timePattern name="long">h:MM:SS A Z</timePattern>
  <timePattern name="med">h:MM:SS A</timePattern>
  <timePattern name="short">h:MM A</timePattern>
</timePatterns>
```

カスタムパターン

次の表に、ロケールの指定を使用してデフォルトの入力値を形式設定するために定義可能なカスタムの表示パターンの例を示します。次に、ロケールが英語（米国）に設定されている場合の例を示します。

カスタムパターン	入力値（日付に M/D/YY、時間に h:MM A の短い形式を使用した場合）	形式設定された値
MMMM DD, YYYY	8/23/08	August 23, 2008
EEEE, 'the' D 'of' MMMM, YYYY	8/23/08	Saturday, the 23 of August, 2008
HH:MM	5:02 PM	17:02
h:MM:SS 'o'clock' A Z	5:02 PM	5:02:00 o'clock PM EDT
HH:MM:SS Z	5:02 PM	17:02:00 EDT

十進数フィールド

「フィールド」タブの十進数フィールドプロパティ

十進数フィールドを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに十進数フィールドのオプションが表示されます。2つのオプションを除き、数値フィールドのオプションと同じです。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

フィールドの入力可能領域の境界線スタイルを設定します。

なし フィールドの周囲に境界線を表示しません。

下線付き フィールドに下線を付けます。

ボックス (実線) フィールドの周囲に実線の境界を表示します。

ボックス (くぼみ) フィールドの周囲に陰影を付け、フィールドが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。入力可能な領域の外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

文字数を表示領域に制限

数値フィールドの横方向の長さに従い、フィールドに入力できる文字と数字の最大数を設定します。

マス目で区切る <x> 文字

comb 形式を有効にします。

パターン

フォームでの形式設定された値の表示、ユーザー入力のシンタックス、ユーザー入力の有効性の検証、および連結されたデータの格納と取得またはフォームがデータソースに連結されていないときのデータ保存に使用するパターンを設定します。677 ページの「[パターンダイアログボックス](#)」を参照してください。

リーダーの桁数を制限および最大値

小数点記号の前に表示できる最大桁数を設定します。最大桁数を超過した場合は、ゼロ (0) が表示されます。

デフォルト値: 制限なし

最大値: 15 (小数点以下を含む)。Designer には、リーダーの桁数が 15 桁を超えた場合に警告メッセージが表示されます。

トレーラーの桁数を制限および最大値

小数点記号の後に表示できる最大桁数を設定します。最大桁数を超過した場合は、切り捨てられます。

「トレーラーの桁数を制限」オプションを選択解除した場合は、入力したとおりの精度でデータが表示されます。

デフォルト値: 2

最大値: 15 (小数点以上を含む)。Designer には、トレーラーの桁数が 15 桁を超えた場合に警告メッセージが表示されます。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示 (画面のみ) オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示 (印刷のみ) オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す (レイアウトから除外) オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ間にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

289 ページの「[十進数フィールドと数値フィールドの使用](#)」

290 ページの「[数値フィールドについて](#)」

430 ページの「[「フィールド」タブの数値フィールドプロパティ](#)」

431 ページの「[「値」タブの数値フィールドプロパティ](#)」

433 ページの「[「連結」タブの数値フィールドプロパティ](#)」

コンボボックス

「フィールド」タブのコンボボックスプロパティ

コンボボックスを選択すると、「フィールド」タブに、コンボボックスの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

フィールドの入力可能領域の境界線スタイルを設定します。

なし フィールドの周囲に境界線を表示しません。

下線付き フィールドに下線を付けます。

ボックス (実線) フィールドの周囲に実線の境界を表示します。

ボックス (くぼみ) フィールドの周囲に陰影を付け、フィールドが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。入力可能な領域の外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

リスト項目

 リスト内の項目とその位置を設定します。項目は、ラベルの横にあるボタンを使用して、追加または削除したり、貼り付けたり、上下に移動したり、昇順または降順にソートしたりすることができます。

注意：「リスト項目」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。

カスタムテキストの入力を許可

ユーザーのカスタムエントリを有効または無効にします。ユーザー入力値は Designer のデフォルトと一致する必要があります。356 ページの「[値の形式設定に関するデフォルト](#)」を参照してください。

コミット

選択したオプションをいつコミットするかを決定します。

選択 選択したときにオプションをコミットします。

終了 ユーザーがリストボックスを終了して、別のオブジェクトにフォーカスを移動した場合に、選択したオプションをコミットします。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

292 ページの「[コンボボックスとリストボックスの使用](#)」

「値」タブのコンボボックスプロパティ

コンボボックスを作成すると、「値」タブに、このオブジェクトに適用できるオプションが表示されます。

種類

実行時の計算とプロンプトを有効にします。

ユーザー定義 - オプション データを入力するかどうかをユーザーが選択できます。

ユーザー定義 - 推奨 ユーザーがフィールドに値を入力することが推奨されます。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとすると、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。ユーザーはメッセージを無視してフォームを送信できます。

ユーザー定義 - 必須 ユーザーがフィールドに値を入力する必要があります。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。メッセージは、フィールド内に値がある場合、値が削除された場合、およびユーザーが値を入れ直さずにフィールドから移動した場合にのみ表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとすると、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。

計算済み - 読み取り専用 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。ユーザーは計算値を編集できません。

計算済み - 上書き可能 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。入力処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。

保護済み ユーザーはフィールド内の値を変更できません。演算などによる間接的な変更はできます。保護済みのフィールドはタブの順序に含まれず、イベントも生成されません。

読み取り専用 データ値が実行時にマージまたは計算され、表示されます。ユーザーは値を編集できません。

デフォルト

デフォルトの選択を設定します。「フィールド」タブで「カスタムテキストの入力を許可」を選択している場合は、リスト項目に含まれていないテキストをデフォルトの選択肢として入力することができます。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - オプション」、「ユーザー定義 - 推奨」、「ユーザー定義 - 必須」または「読み取り専用」に設定されている場合のみ使用可能です。

空白のメッセージ

推奨の値または必須の値の入力を促すメッセージを設定します。358 ページの「[ユーザーにデータの入力を促すメッセージを表示するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - 推奨」または「ユーザー定義 - 必須」に設定されている場合のみ使用可能です。

検証パターン

ユーザー入力の有効性を確認するための検証パターンを設定します。このパターンは、ユーザー入力のシンタックスと一致し、「連結」タブで選択したデータ形式と互換性のあるものでなければなりません。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護済み」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。

検証パターンのメッセージとエラー

生の値が検証パターンと一致しなかった場合に表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

検証スクリプトのメッセージとエラー

検証スクリプトで受け入れ不可能な値が検知されたときに表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護済み」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。「検証スクリプトのメッセージ」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

フォームレベルの検証設定

「フォームの検証」タブのフォームのプロパティダイアログボックスを開きます。656 ページの「[フォームの検証（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。

上書きメッセージ

ユーザーに対して、計算済みフィールドの値を変更しようとしていることを知らせるカスタムメッセージを設定します。このメッセージは、計算結果の値をユーザーが変更すると表示されます。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 上書き可能」に設定されている場合にのみ使用できます。

関連項目

292 ページの「[コンボボックスとリストボックスの使用](#)」

「連結」タブのコンボボックスプロパティ

コンボボックスを作成すると、「連結」タブに、このリストに適用できるデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースにも、オブジェクトがデータソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

リストの名前を設定します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1 つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます (373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください)。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

項目の値を指定

リストの各項目のカスタムデータ値を指定できるようにします。このオプションを選択しない場合は、項目のテキストがそのままデータ値になります。このオプションを選択した場合は、各項目のデフォルト値として整数の連番が割り当てられます (最初の項目が 1 になります)。296 ページの「[コンボボックスまたはリストボックスの項目値を指定するには](#)」を参照してください。

注意: 「項目の値を指定」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。

上へ移動、下へ移動、昇順に並べ替え、降順に並べ替え



リスト内の項目の順序を変更します (例えば、コンボボックスでのオプションの表示順序とは異なる順序でデータを格納する必要がある場合)。項目は、ラベルの横にあるボタンを使用して、上下に移動したり、昇順または降順にソートしたりすることができます。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

292 ページの「[コンボボックスとリストボックスの使用](#)」

電子メール送信ボタン

「フィールド」タブの電子メール送信ボタンプロパティ

電子メール送信ボタンを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、電子メール送信ボタンの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

境界線のスタイルを設定します。

境界線なし ボタンの周囲の線を削除します。

境界線（実線） ボタンの周囲に太い線を引きます。

境界線（立体） ボタンの周囲に陰影を付け、ボタンが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。ボタンの外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

ハイライト表示

ボタンをクリックしたときにボタンのハイライトを設定します。

なし ボタンのハイライトを削除します。

反転 ボタンをクリックしたときにボタンのハイライトを反転します。

プッシュ ボタンの周囲に陰影を付け、ボタンが押し下げられて見えるようにします。

アウトライン ボタンをクリックしたときに周囲に線を引きます。

ロールオーバーキャプション

ボタンハイライトをプッシュに設定したときにロールオーバーキャプションを設定します。マウスポインターをボタンに合わせるとこのキャプションが表示されます。

ダウンキャプション

ボタンハイライトをプッシュに設定したときにダウンキャプションを設定します。ボタンをクリックするとこのキャプションが表示されます。

電子メールアドレス

電子メールメッセージおよび添付されたフォームデータの受信者を設定します。

電子メールの件名

電子メールメッセージの件名を設定します。

送信形式

送信するデータの形式を設定します。

PDF 埋め込み PDF ファイルを含むパッケージを送信します。この形式は、フォームに署名フィールドが含まれている場合や、フォームのコピーとデータをまとめて **Forms** で保存するか、別の種類のターゲットサーバーに送信する必要がある場合に選択します。フォームがサーバーサイド処理を開始する場合、**Forms** を使用して HTML フォームまたは調整可能なレイアウトのあるフォームを実行時にレンダリングする場合、または **Reader Extensions** を使用せずに Adobe Reader 内で記入される PDF フォームの場合は、このオプションを選択しないでください。

XML データ (XML) XML データストリームを送信します。これにより、データを階層形式で表し、任意の汎用 XML パーサーで解析できるようになります。実行時のユーザーアプリケーションプログラムと通信するサーバーが XML データストリームを受信する必要がある場合は、この形式を選択します。

URL エンコードデータ (HTTP Post) POST メソッドを使用して、テキストストリームを指定の URL (Uniform Resource Locator) に送信します。このテキストストリームは、HTML フォームを処理する FTP サーバー、メールサーバー、Web サーバー、または CGI スクリプトで解析できます。このメソッドを使用するには、URL に **mailto** プロトコルが指定されていない限り、ユーザーが Adobe Reader 6.0 以降または Web ブラウザーでフォームを開く必要があります。

送信時に署名 送信データにデータ署名を適用します。フォーム入力者がこのボタンをクリックすると、送信データと添付データを対象とした電子署名が作成されます。データ署名では、署名されたデータが保護され、送信時にデータの整合性が確保されます。データ署名は、フォームデータに適用される場合と、添付データを含む送信データ全体に適用される場合があります。「設定」ボタンをクリックして、署名ハンドラー、署名の証明書、証明書発行者など、データ署名に関するオプションのセキュリティプロパティを定義します。

送信を暗号化 フォームコンテンツを暗号化します。フォーム入力者がこのボタンをクリックすると、フォームコンテンツが送信前に暗号化され、送信時のコンテンツが保護されます。フォームデータ、または添付データを含む送信データ全体に暗号化を適用します。「設定」ボタンをクリックして、暗号化アルゴリズム、暗号化証明書、証明書発行者、キーの使用など、オプションの暗号化プロパティを設定します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示 (画面のみ) オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示 (印刷のみ) オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す (レイアウトから除外) オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ間にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

419 ページの「[HTTP 送信ボタン](#)」

Flash フィールド

「フィールド」タブの Flash フィールドプロパティ

キャプション オブジェクトのキャプションを設定します。

URL 現在選択している Flash フィールドに表示させる Flash ソースファイル（SWF）の URL を指定します。ソースファイルの場所を入力するか、または参照ボタンをクリックしてファイルを選択します。

データを埋め込む Flash データをフォームに格納します。

ポスター 現在選択している Flash フィールドに表示させる画像ファイルの URL を指定します（Flash ファイル（SWF）を表示させない場合）。

ポスター画像データを埋め込む 画像ファイルをフォームに格納します。

プロパティ / 値

アクティベート・明示的 Flash コンテンツは、ユーザーの操作またはスクリプトによってアクティベートされます。

- **現在のページ** Flash コンテンツは、Flash フィールドを配置したページが現在のページである場合にアクティベートされます。
- **表示されているページ** Flash コンテンツは、Flash フィールドを配置したページが表示されている場合にアクティベートされます。

アクティベートを解除・明示的 Flash コンテンツは、ユーザーの操作またはスクリプトによってアクティベートが解除されます。

- **現在のページ** Flash コンテンツは、Flash フィールドを配置したページが現在のページでない場合にアクティベートが解除されます。
- **表示されているページ** Flash コンテンツは、Flash フィールドを配置したページが表示されていない場合にアクティベートが解除されます。

コンテキストクリックを渡す Flash コンテンツのコンテキストクリックが、Flash Player ランタイムに渡されるか、ビューアのアプリケーションによって処理されるかどうかを示すフラグです。コンテキストクリックは、通常マウスの右クリックによって生成されますが、他の方法で呼び出すこともできます。例えば、明示的なコンテキストメニューキーを使用する方法や、マウスクリックと修飾キーを組み合わせる方法がありますが、これだけに限りません。

- ○ ビューアのアプリケーションにあるコンテキストメニューは表示されず、Flash Player ランタイムによって生成されたコンテキストメニューおよび関数項目が表示されます。
- × ビューアのアプリケーションでコンテキストクリックを処理します。

フローティングウィンドウで Flash コンテンツを表示 フローティングウィンドウのプロパティおよび値の設定を有効にします。

プロパティ / 値

デフォルトの幅 フローティングウィンドウのデフォルトの幅を指定します。

最大の幅 フローティングウィンドウの最大の幅を指定します。

最小の幅 フローティングウィンドウの最小の幅を指定します。

デフォルトの高さ フローティングウィンドウのデフォルトの高さを指定します。

最大の高さ フローティングウィンドウの最大の高さを指定します。

最小の高さ フローティングウィンドウの最小の高さを指定します。

水平方向の位置 Flash コンテンツウィンドウの水平方向の位置を指定します。水平方向の位置によって、水平方向のオフセットの適用方法が決まります。「近い」「中央」「遠い」のオプションがあります。

垂直方向の整列 Flash コンテンツウィンドウの垂直方向の位置を指定します。垂直方向の位置によって、垂直方向のオフセットの適用方法が決まります。「近い」「中央」「遠い」のオプションがあります。

水平方向のオフセット 「水平方向の位置」で指定した位置からのオフセットを指定します。「近い」および「中央」の位置に対して正の値を設定すると、「遠い」側へのオフセットが生成されます。「遠い」位置に対して正の値を設定すると、「近い」側へのオフセットが生成されます。

垂直方向のオフセット 「垂直方向の位置」で指定した位置からのオフセットを指定します。「近い」および「中央」の位置に対して正の値を設定すると、「遠い」側へのオフセットが生成されます。「遠い」位置に対して正の値を設定すると、「近い」側へのオフセットが生成されます。

編集 追加のアセットダイアログボックスを開いて、ビデオ、サウンド、画像、テキスト、XML、SWF ファイルなどのアセットの追加、削除および埋め込みを行えるようにします。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示 (画面のみ) オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示 (印刷のみ) オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す (レイアウトから除外) オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ間にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

注意: 「隠す (レイアウトから除外)」オプションを選択し、フォームの入力者がフィールドをクリックしたときに Flash フィールドを表示して有効にするスクリプトを適用した場合、フォーム入力者は両方の変更を開始するためにフィールドを 2 回クリックする必要があります。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

419 ページの「[「連結」タブの Flash フィールドプロパティ](#)」

297 ページの「[Flash フィールドの使用](#)」

「連結」タブの Flash フィールドプロパティ

名前

Flash フィールド名を設定します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が自動的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます（373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください）。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。このウィザードを使用して、接続を設定します（490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください）。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

連結の読み込み / 書き出し (WSDL の実行) WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。（495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください）。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

417 ページの「[「フィールド」タブの Flash フィールドプロパティ](#)」

297 ページの「[Flash フィールドの使用](#)」

HTTP 送信ボタン

「フィールド」タブの HTTP 送信ボタンプロパティ

HTTP 送信ボタンを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、HTTP 送信ボタンの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

境界線のスタイルを設定します。

境界線なし ボタンの周囲の線を削除します。

境界線（実線） ボタンの周囲に太い線を引きます。

境界線（立体） ボタンの周囲に陰影を付け、ボタンが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。ボタンの外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

ハイライト表示

ボタンをクリックしたときにボタンのハイライトを設定します。

なし ボタンのハイライトを削除します。

反転 ボタンをクリックしたときにボタンのハイライトを反転します。

プッシュ ボタンの周囲に陰影を付け、ボタンが押し下げられて見えるようにします。

アウトライン ボタンをクリックしたときに周囲に線を引きます。

ロールオーバーキャプション

ボタンハイライトをプッシュに設定したときにロールオーバーキャプションを設定します。マウスポインターをボタンに合わせるとこのキャプションが表示されます。

ダウンキャプション

ボタンハイライトをプッシュに設定したときにダウンキャプションを設定します。ボタンをクリックするとこのキャプションが表示されます。

URL

フォームデータのポスト先の URL を設定します。

送信時に署名 送信データにデータ署名を適用します。フォーム入力者がこのボタンをクリックすると、送信データと添付データを対象とした電子署名が作成されます。データ署名では、署名されたデータが保護され、送信時にデータの整合性が確保されます。データ署名は、フォームデータに適用される場合と、添付データを含む送信データ全体に適用される場合があります。「設定」ボタンをクリックして、署名ハンドラー、署名の証明書、証明書発行者など、データ署名に関するオプションのセキュリティプロパティを定義します。

送信を暗号化 フォームコンテンツを暗号化します。フォーム入力者がこのボタンをクリックすると、フォームコンテンツが送信前に暗号化され、送信時のコンテンツが保護されます。フォームデータ、または添付データを含む送信データ全体に暗号化を適用します。「設定」ボタンをクリックして、暗号化アルゴリズム、暗号化証明書、証明書発行者、キーの使用など、オプションの暗号化プロパティを設定します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

267 ページの「[HTTP 送信ボタン](#)」

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

画像フィールド

「フィールド」タブの画像フィールドプロパティ

画像フィールドを選択すると、「フィールド」タブに、画像フィールドの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

URL

画像ファイルの位置を設定します。ユーザーがフォームを開いたときに、リンクされた画像が相対パスに基づいて取り出されるようにするには、対象の画像ファイルをユーザーがアクセスできるフォルダーに保存する必要があります。Forms が使用可能な場合は、Forms を基準とした相対パスにする必要があります。

画像データを埋め込む

このオプションを選択した場合、画像情報のコピーがフォームに保存されます。選択しない場合は、画像データはフォームとは別に保存され、フォームを開いたときに画像が読み込まれて表示されます。

フォームのレンダリング時にダイナミックに画像を読み込む画像フィールドでは、「画像データを埋め込み」オプションを選択しないでください。

サイズ調整 画像が読み込まれるときの画像のサイズ変更を有効または無効にします。

- **画像の縦横の比率を維持する** 画像の縦横比を維持したまま、オブジェクトの画像サイズが変更されます。
- **長方形の大きさに合わせる** オブジェクトの寸法に合わせて画像のサイズが変更されます。画像の縦横比は維持されません。
- **オリジナルサイズを使用** 画像のサイズは変更されません。オブジェクトのサイズが変更され、画像の実際のサイズを維持します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

299 ページの「[画像フィールドの使用](#)」

「連結」タブの画像フィールドプロパティ

画像フィールドを作成すると、「連結」タブに、このオブジェクトに適用できるデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

画像フィールドの名前を設定します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が自動的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます（373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください）。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

299 ページの「[画像フィールドの使用](#)」

画像

「描画」タブの画像プロパティ

画像オブジェクトを作成すると、オブジェクトパレットの「描画」タブに、画像の形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

URL

画像ファイルの位置を設定します。ユーザーがフォームを開いたときに、リンクされた画像が相対パスに基づいて取り出されるようにするには、対象の画像ファイルをユーザーがアクセスできるフォルダーに保存する必要があります。Forms が使用可能な場合は、Forms を基準とした相対パスにする必要があります。

画像データを埋め込む

このオプションを選択した場合、画像情報のコピーがフォームに保存されます。選択しない場合は、画像データはフォームとは別に保存され、フォームを開いたときに画像が読み込まれて表示されます。

サイズ調整

画像が読み込まれるときの画像のサイズ変更を有効または無効にします。

画像の縦横の比率を維持する 画像の縦横比を維持したまま、オブジェクトの画像サイズが変更されます。

長方形の大きさに合わせる オブジェクトの寸法に合わせて画像のサイズが変更されます。画像の縦横比は維持されません。

オリジナルサイズを使用 画像のサイズは変更されません。オブジェクトのサイズが変更され、画像の実際のサイズを維持します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

関連項目

301 ページの「[画像の使用](#)」

線

「描画」タブの線プロパティ

線を作成すると、オブジェクトパレットの「描画」タブに、線の形式設定に使用されるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

表示方法

 線の傾きを設定します。

スタイル

線のスタイルと太さを設定します。

カラーピッカー

 線の色を設定します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

関連項目

281 ページの「[円、線、長方形の使用](#)」

リストボックス

「フィールド」タブのリストボックスプロパティ

リストボックスを選択すると、「フィールド」タブに、リストボックスの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

フィールドの入力可能領域の境界線スタイルを設定します。

なし フィールドの周囲に境界線を表示しません。

下線付き フィールドに下線を付けます。

ボックス (実線) フィールドの周囲に実線の境界を表示します。

ボックス (くぼみ) フィールドの周囲に陰影を付け、フィールドが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。入力可能な領域の外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

リスト項目



リスト内の項目とその位置を設定します。項目は、ラベルの横にあるボタンを使用して、追加または削除したり、貼り付けたり、上下に移動したり、昇順または降順にソートしたりすることができます。

注意: 「リスト項目」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。

複数選択を許可

リストで複数のオプションを選択できるようにします (実行時)。

注意: 「フィールド」タブにある「複数選択を許可」オプションを選択してリストボックスオブジェクトを Paper Forms Barcode のコレクションに追加する場合は、フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで「JavaScript で厳密なスコープ規則を強制」オプションも選択する必要があります。選択しないと、フォーム入力者がリストボックスオブジェクトで選択した値が Paper Forms Barcode で正しくエンコードされない場合があります。

コミット

ユーザーがリストボックスを終了して、別のオブジェクトにフォーカスを移動した場合に、選択したオプションをコミットします。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示 (画面のみ) オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示 (印刷のみ) オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す (レイアウトから除外) オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

292 ページの「[コンボボックスとリストボックスの使用](#)」

「値」タブのリストボックスプロパティ

リストボックスを作成すると、「値」タブに、このオブジェクトに適用できるオプションが表示されます。

種類

実行時の計算とプロンプトを有効にします。

ユーザー定義 - オプション データを入力するかどうかをユーザーが選択できます。

ユーザー定義 - 推奨 ユーザーがフィールドに値を入力することが推奨されます。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとすると、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。ユーザーはメッセージを無視してフォームを送信できます。

ユーザー定義 - 必須 ユーザーがフィールドに値を入力する必要があります。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。メッセージは、フィールド内に値がある場合、値が削除された場合、およびユーザーが値を入れ直さずにフィールドから移動した場合にのみ表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとすると、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。

計算済み - 読み取り専用 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。ユーザーは計算値を編集できません。

計算済み - 上書き可能 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。入力を処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。

保護済み ユーザーはフィールド内の値を変更できません。演算などによる間接的な変更はできます。保護済みのフィールドはタブの順序に含まれず、イベントも生成されません。

読み取り専用 データ値が実行時にマージまたは計算され、表示されます。ユーザーは値を編集できません。

デフォルト

デフォルトの選択を設定します。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - オプション」、「ユーザー定義 - 推奨」、「ユーザー定義 - 必須」または「読み取り専用」に設定されている場合のみ使用可能です。

空白のメッセージ

推奨の値または必須の値の入力を促すメッセージを設定します。358 ページの「[ユーザーにデータの入力を促すメッセージを表示するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - 推奨」または「ユーザー定義 - 必須」に設定されている場合のみ使用可能です。

検証パターン

ユーザー入力の有効性を確認するための検証パターンを設定します。このパターンは、ユーザー入力のシンタックスと一致し、「連結」タブで選択したデータ形式と互換性のあるものでなければなりません。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護済み」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。

検証パターンのメッセージとエラー

生の値が検証パターンと一致しなかった場合に表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

検証スクリプトのメッセージとエラー

検証スクリプトで受け入れ不可能な値が検知されたときに表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護済み」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。「検証スクリプトのメッセージ」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

フォームレベルの検証設定

「フォームの検証」タブのフォームのプロパティダイアログボックスを開きます。656 ページの「[フォームの検証（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。

上書きメッセージ

ユーザーに対して、計算済みフィールドの値を変更しようとしていることを知らせるカスタムメッセージを設定します。このメッセージは、計算結果の値をユーザーが変更すると表示されます。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 上書き可能」に設定されている場合にのみ使用できます。

関連項目

292 ページの「[コンボボックスとリストボックスの使用](#)」

「連結」タブのリストボックスプロパティ

リストボックスを作成すると、「連結」タブに、このリストに適用できるデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースにも、オブジェクトがデータソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

リストの名前を設定します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます (373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください)。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

項目の値を指定

リストの各項目のカスタムデータ値を指定できるようにします。このオプションを選択しない場合は、項目のテキストがそのままデータ値になります。このオプションを選択した場合は、各項目のデフォルト値として整数の連番が割り当てられます (最初の項目が 1 になります)。296 ページの「[コンボボックスまたはリストボックスの項目値を指定するには](#)」を参照してください。

注意：「項目の値を指定」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。

上へ移動、下へ移動、昇順に並べ替え、降順に並べ替え

 リスト内の項目の順序を変更します (例えば、コンボボックスでのオプションの表示順序とは異なる順序でデータを格納する必要がある場合)。項目は、ラベルの横にあるボタンを使用して、上下に移動したり、昇順または降順にソートしたりすることができます。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

292 ページの「[コンボボックスとリストボックスの使用](#)」

数値フィールド

「フィールド」タブの数値フィールドプロパティ

数値フィールドを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、フィールドの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

フィールドの入力可能領域の境界線スタイルを設定します。

なし フィールドの周囲に境界線を表示しません。

下線付き フィールドに下線を付けます。

ボックス (実線) フィールドの周囲に実線の境界を表示します。

ボックス (くぼみ) フィールドの周囲に陰影を付け、フィールドが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。入力可能な領域の外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

文字数を表示領域に制限

数値フィールドの横方向の長さに従い、フィールドに入力できる文字と数字の最大数を設定します。

マス目で区切る <x> 文字

comb 形式を有効にします。

パターン

フォームでの形式設定された値の表示、ユーザー入力のシンタックス、ユーザー入力の有効性の検証、および連結されたデータの格納と取得またはフォームがデータソースに連結されていないときのデータ保存に使用するパターンを設定します。677 ページの「[パターンダイアログボックス](#)」を参照してください。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示 (画面のみ) オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

注意：「隠す（レイアウトから除外）」オプションを選択し、フォームの入力者がフィールドをクリックしたときに Flash フィールドオブジェクトを表示してアクティブにするスクリプトを適用した場合、フォーム入力者はフィールドを 2 回（イベントごとに 1 回）クリックする必要があります。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

290 ページの「[数値フィールドについて](#)」

289 ページの「[十進数フィールドと数値フィールドの使用](#)」

「値」タブの数値フィールドプロパティ

数値フィールドを作成すると、「値」タブに、このオブジェクトに適用できるオプションが表示されます。

種類

実行時の計算とプロンプトを有効にします。

ユーザー定義 - オプション データを入力するかどうかをユーザーが選択できます。

ユーザー定義 - 推奨 ユーザーがフィールドに値を入力することが推奨されます。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとすると、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。ユーザーはメッセージを無視してフォームを送信できます。

ユーザー定義 - 必須 ユーザーがフィールドに値を入力する必要があります。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。メッセージは、フィールド内に値がある場合、値が削除された場合、およびユーザーが値を入れ直さずにフィールドから移動した場合にのみ表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとすると、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。

計算済み - 読み取り専用 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。ユーザーは計算値を編集できません。

計算済み - 上書き可能 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。入力を処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。

保護済み ユーザーはフィールド内の値を変更できません。演算などによる間接的な変更はできます。保護済みのフィールドはタブの順序に含まれず、イベントも生成されません。

読み取り専用 データ値が実行時にマージまたは計算され、表示されます。ユーザーは値を編集できません。

デフォルト

フィールドの初期値を設定します。値は、「フィールド」タブにある「パターン」オプションを使用して指定された設定に従って形式設定されますが、フィールドに対して指定されたロケールに応じた値に適合させる必要があります。データが連結され、データパターンが指定されている場合は、この値は「連結」タブで指定されたデータパターンと一致する必要があります。357 ページの「[デフォルト値を指定するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - オプション」、「ユーザー定義 - 推奨」、「ユーザー定義 - 必須」または「読み取り専用」に設定されている場合のみ使用可能です。

空白のメッセージ

推奨の値または必須の値の入力を促すメッセージを設定します。358 ページの「[ユーザーにデータの入力を促すメッセージを表示するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - 推奨」または「ユーザー定義 - 必須」に設定されている場合のみ使用可能です。

検証パターン

ユーザー入力の有効性を確認するための検証パターンを設定します。このパターンは、ユーザー入力のシンタックスと一致し、「連結」タブで選択したデータ形式と互換性のあるものでなければなりません。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護されています」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。

検証パターンのメッセージとエラー

生の値が検証パターンと一致しなかった場合に表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

検証スクリプトのメッセージとエラー

検証スクリプトで受け入れ不可能な値が検知されたときに表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護済み」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。「検証スクリプトのメッセージ」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

フォームレベルの検証設定

「フォームの検証」タブのフォームのプロパティダイアログボックスを開きます。656 ページの「[フォームの検証（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。

計算スクリプト

オブジェクトの値を、オブジェクトの calculate イベントに記述されているスクリプトによって計算します。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 読み取り専用」に設定されている場合にのみ使用できます。

実行時のプロパティ

オブジェクトに対して、次の実行時プロパティのいずれかを設定します。実行時プロパティを選択すると、フォームがレンダリングされるときに、このオプションに対応する有効値がダイナミックに挿入されます。

現在のページ番号 数値フィールドに現在のページ番号を表示します。

ページ数 フォームの合計ページ数を挿入します。

現在のシート番号 現在アクティブになっている用紙（シート）の番号を数値フィールドに挿入します。

シート数 フォームを構成する用紙（シート）の合計数を挿入します。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 読み取り専用」に設定されている場合にのみ使用できます。

上書きメッセージ

ユーザーに対して、計算済みフィールドの値を変更しようとしていることを知らせるカスタムメッセージを設定します。このメッセージは、計算結果の値をユーザーが変更すると表示されます。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 上書き可能」に設定されている場合にのみ使用できます。

関連項目

290 ページの「[数値フィールドについて](#)」

289 ページの「[十進数フィールドと数値フィールドの使用](#)」

「連結」タブの数値フィールドプロパティ

数値フィールドを作成すると、「連結」タブに、このオブジェクトに適用できるデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

数値フィールドの名前を設定します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1 つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます (373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください)。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

データ形式

データの形式を設定します。360 ページの「[データパターンを指定するには](#)」を参照してください。

浮動小数点数 基数文字を含む 3 つの部分で表される数値。この数値は、符号、数値、基数文字によって表されます。浮動小数点数の例として、4.23423412、1234.1234234、4.00 があります。ロケールによっては、基数文字が小数点ではない場合があります。例えば、ドイツ語 (ドイツ) ロケールでは、基数文字はコンマになります (例:1234,1234)。

整数値 0 ~ 9 の数字の並びで表される数値。先頭にマイナス記号が付く場合もあります。正の数 (1、2、3 など)、ゼロ、または負の自然数 (-1、-2、-3 など) がその例です。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

290 ページの「[数値フィールドについて](#)」

289 ページの「[十進数フィールドと数値フィールドの使用](#)」

数値パターン

数値フィールド用の数値パターンを作成するには、特別な記号を使用する必要があります。これらの記号は、十進数フィールドの数値パターンを作成する際にも使用できます。

注意: ダッシュ (-)、コロン (:)、スラッシュ (/)、およびスペース () はリテラル値として扱われ、パターンのどこでも使用できます。パターンにテキスト文字列を含めるには、文字列を二重引用符 (") で囲みます。例えば 'Your balance is' z,zz9.99 のように、「表示パターン」に指定します。

パターンを作成するには、次のパターン記号を使用します。パターンでは、ユーザーがデータを入力または形式設定する形式を定義します。「例」の列にある形式設定の結果は二重引用符で囲み、スペースのある箇所を見やすくしています。結果には、二重引用符は含まれません。次に、ロケールが英語 (米国) に設定されている場合の例を示します。

数値記号	説明	例
9	1 桁の数値。入力データが空の場合は 0 で桁埋め。小数点の後に、データ値に含まれるのと同じ桁数を示します。	表示パターン: <code>zzz,zz9.999</code> 入力値: 123456.1236 または 1234 形式設定された値: "123,456.124" または "1,234.000"
Z	1 桁の数値。入力データが 0 で始まる桁の場合、または入力データが空の場合は出力なし。	表示パターン: <code>\$zzz9</code> 入力値: 123 形式設定された値: "\$123"
Z	1 桁の数値。入力データが 0 で始まる桁の場合、または入力データが空の場合はスペース。	表示パターン: <code>\$ZZZ9</code> 入力値: 123 形式設定された値: "\$ 123"
s	負の数の場合はマイナス記号 (-)。正の数の場合は記号は不要。	表示パターン: <code>\$szzz9</code> 入力値: 123 または -123 形式設定された値: "\$123" または "\$-123"
S	負の数の場合はマイナス記号 (-)。正の数の場合はスペース。	表示パターン: <code>\$Szzz9</code> 入力値: 123 または -123 形式設定された値: "\$ 123" または "\$-123"
E	指数記号 (E+3 は指数値が 3、E-2 は指数値が -2 であることを表す)。 指数記号 (E) は 9、z または Z の数字の後でのみ使用できます。	表示パターン: <code>99.999E</code> 入力値: 12345 または 0.12345 形式設定された値: "12.345E+3" または "12.345E-2"
\$	オブジェクトの現在のロケール設定に対応する通貨記号。	表示パターン: <code>\$zzz9</code> 入力値: 123 形式設定された値: "\$123"
cr	負の数の場合は貸方記号 (CR)。正の数の場合は記号は不要。	表示パターン: <code>cr\$zzz9</code> 入力値: 123 または -123 形式設定された値: "\$123" または "CR\$123"
CR	負の数の場合は貸方記号 (CR)。正の数の場合はスペース。	表示パターン: <code>CR\$zzz9</code> 入力値: 123 または -123 形式設定された値: " \$123" または "CR\$123"
db	負の数の場合は借方記号 (DB)。正の数の場合は記号は不要。	表示パターン: <code>db\$zzz9</code> 入力値: 123 または -123 形式設定された値: "\$123" または "DB\$123"
DB	負の数の場合は借方記号 (DB)。正の数の場合はスペース。	表示パターン: <code>DB\$zzz9</code> 入力値: 123 または -123 形式設定された値: " \$123" または "DB\$123"
()	負の数であることを示す左括弧と右括弧。正の数の場合は、括弧がスペースになります。 注意: 左括弧と右括弧で囲むことができるのは、8、9、z、Z の数字だけです。	表示パターン: <code>(\$zzz9)</code> 入力値: 123 または -123 形式設定された値: " \$123 " または "(\$123)"

数値記号	説明	例
.	オブジェクトの現在のロケール設定に対応する小数点。	表示パターン: zzz9.99 入力値: 123.45 形式設定された値 (ロケールがドイツ語 (ドイツ)): "123,45"
v	オブジェクトの現在のロケール設定に対応する暗黙の小数点 (出力の書き込み前に小数点は削除)。	表示パターン: zzz9v99 入力値: 123.45 形式設定された値: "12345"
,	オブジェクトの現在のロケール設定に対応するグループ化記号。	表示パターン: z,zz9.99 入力値: 1234.56 形式設定された値 (ロケールがドイツ語 (ドイツ)): "1.234,56"
%	オブジェクトの現在のロケール設定に対応する百分率 (パーセンテージ) 記号。	表示パターン: z9.99% 入力値: 0.123 形式設定された値: "12.30%"

予約済みの記号

以下の記号は特別な意味を持つので、リテラルテキストとしては使用できません。

記号	説明
?	送信する場合、この記号は何らかの 1 文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。
*	送信する場合、この記号は 0 または Unicode の空白文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。
+	送信する場合、この記号は 1 つ以上の Unicode の空白文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。

関連項目

355 ページの「[フィールド値の形式設定とパターンの使用](#)」

360 ページの「[データパターンを指定するには](#)」

359 ページの「[編集パターンを指定するには](#)」

436 ページの「[数値パターンの例](#)」

数値パターンの例

次の表に、表示パターンの例と、それらの表示パターンを使用して入力値のサンプル (ユーザー入力データまたは連結データ) を形式設定した結果を示します。形式設定の結果は二重引用符で囲み、スペースのある箇所を見やすくしています。結果には、二重引用符は含まれません。次に、ロケールが英語 (米国) に設定されている場合の例を示します。

パターン	入力値	形式設定された値
zzz,zz9.99	123456.1236 123456.4 123456	"123,456.12" "123,456.40" "123,456.00"
\$Z,ZZ9.99	123.4	" 123.40"

パターン	入力値	形式設定された値
\$z,zz9.99CR	1234 -1234	"\$1,234.00" "\$1,234.00CR"
\$Z,ZZ9.99DB	123 -123	"\$ 123.00" "\$ 123.00DB"
(\$z,zz9.99)	1234 -1234	" \$1,234.56 " "(\$1,234.00)"
zzz9	12.0	"12"
Szzz,zz9.99	1234.56 -1234.56	"1,234.56" "-1,234.56"
\$9,999.99	123.4	"\$0,123.40"
\$Z,999.99	123.4	"\$ 123.40"
99999	1234	"01234"
S999v99	-1.23	"-00123"
S999V99	-1.23 123	"-001.23" " 123.00"
SZZ9.99	12.3 -12.3	" 12.30" "- 12.30"
szz9.99	12.3 -12.3	"12.3" "-12.3"
99.999E	12345 0.12345	"12.345E+3" "12.345E-2"

次の表に、編集パターンまたはデータパターンを使用して入力値（ユーザー入力データまたは連結データ）を生の値に変換した場合の例を示します。

カスタムパターン	入力値	生の値
99V99	1050 3125	10.50 31.25
99.999E	12.345E3 12.345E-2	12345 0.12345
z999	150 0150	150 150
z,zz9.99	10.50 3,125.00	10.50 3125.00
\$z,zz9.99DB	\$1,234.00 \$1,234.00DB	1234.00 -1234.00

Paper Forms Barcode

「フィールド」タブの Paper Forms Barcode プロパティ

フォームデザイン上で Paper Forms Barcode オブジェクトを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、Paper Forms Barcode の形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

ラベル

バーコードの下に表示されるカスタムキャプションまたは自動生成キャプション。特定バージョンのバーコードフォームのバーコードを区別する場合に役立ちます。

ラベルを自動生成

選択すると、バーコードラベルが自動的に生成されます。カスタムラベルを指定する場合、このオプションは選択解除します。

記号体系

バーコードの記号体系として次のいずれかを指定します。

- PDF417
- QR コード
- データマトリクス

注意：QR コードまたは DataMatrix バーコードが含まれたフォームへの記入には、Acrobat 7.0.5 以降または Adobe Reader 7.0.5 以降が必要です。QR コードおよび DataMatrix のバーコードのデコードは、Adobe LiveCycle Barcoded Forms 7.0 ではサポートされていますが、Adobe LiveCycle Barcoded Forms 7.0 Standalone (ST) ではサポートされていません。

スキャン方法

フォーム上に印刷された Paper Forms Barcode 内の情報をデコードする際の条件を指定します。このデコード条件により、バーコードの水平および垂直のデータセルサイズとエラー修正レベルが決まります。Designer には、次のプリセットとカスタムオプションが用意されています。

ドキュメントスキャナー（デフォルト） このオプションを選択すると、「エラー修正レベル」、「モジュールの高さ / 幅」および「モジュールの幅」が、300 dpi のスキャナーを使用して Paper Forms Barcode をスキャンするときに適した値に自動的に設定されます。Designer により、次の値が指定されます。

- エラー修正レベル：5
- モジュールの高さ / 幅 :2 (PDF417)、1 (QR コードおよびデータマトリクス)
- モジュールの幅：0.0133 インチ

ハンドヘルドスキャナー このオプションを選択すると、「エラー修正レベル」、「モジュールの高さ / 幅」および「モジュールの幅」が、ハンドヘルドスキャナーを使用して Paper Forms Barcode をスキャンするときに適した値に自動的に設定されます。Designer により、次の値が指定されます。

- エラー修正レベル：5
- モジュールの高さ / 幅 :3 (PDF417)、1 (QR コードおよびデータマトリクス)
- モジュールの幅：0.0133 インチ

ファックスサーバー このオプションを選択すると、「エラー修正レベル」、「モジュールの高さ / 幅」および「モジュールの幅」が、ファックスで受信したフォーム上に印刷されている **Paper Forms Barcode** をスキャンするときに適した値に自動的に設定されます。**Designer** により、次の値が指定されます。

- エラー修正レベル：6
- モジュールの高さ / 幅：2 (PDF417)、1 (QR コードおよびデータマトリクス)
- モジュールの幅：0.0133 インチ

カスタム このオプションを選択すると、プロパティ / 値リストがアクティブになり、「エラー修正レベル」、「モジュールの高さ / 幅」および「モジュールの幅」プロパティに、次の範囲内で任意の値を設定できるようになります。

- エラー修正レベル：1 ～ 8
- モジュールの高さ / 幅：1 ～ 4 (自然数、PDF417)、1 (QR コードおよびデータマトリクス)
- モジュールの幅：0.0133 ～ 0.04 インチ

「カスタム」を選択しているときは、「エラー修正レベル」、「モジュールの高さ / 幅」および「モジュールの幅」プロパティの値に関係なく (いずれかのプリセット条件に一致する値が設定されている場合でも)、プロパティリストがアクティブなままになります。

注意：エラー修正レベルの設定は、データマトリクスのバーコードでは無効です。

プロパティ / 値

「カスタム」オプションを選択しているときは、エラー修正レベル、モジュールの高さ / 幅の比率、モジュールの幅に関するプロパティ値を設定する必要があります。

エラー修正レベル スキャンエラーを訂正するためにバーコードに追加されるデータ冗長性のレベルを指定します。指定できる値の範囲は 1 ～ 8 です。レベルが高いほど冗長性が高くなり、より堅牢なバーコードになります。レベルを高くするときは、バーコードのサイズも大きくする必要があります。堅牢なバーコードでは、バーコードに冗長な情報を含めることで、エラー (文書内のペンマークや折り目など) を解決できるようにしています。**Designer** では、選択したスキャンデバイスの種類に応じて「エラー修正レベル」が自動的に設定されます。

通常は、「エラー修正レベル」を 5 に設定すると、適切なサイズのバーコードを使用しつつ、良好なパフォーマンスを実現することができます。バーコードのデコード技術を熟知している場合を除いては、「エラー修正レベル」を 5 以上に設定することをお勧めします。

注意：エラー修正レベルの設定は、データマトリクスのバーコードでは無効です。

モジュールの高さ / 幅 バーコードの高さを、モジュールの幅に対する高さの比率として設定します。指定できる値は、整数 (自然数) の 1 ～ 4 (PDF417)、1 (QR コードおよびデータマトリクス) です。

モジュールの幅 バーコード内の最小のバーの幅を設定します。バーコード内のその他すべてのバーのサイズは、この寸法の倍数になります。指定できる値の範囲は 0.0133 ～ 0.04 インチです。

「モジュールの幅」の値は、バーコードが **Acrobat** または **Adobe Reader** 内でレンダリングされるときに、1/300 インチ刻みで最も近い値に丸められます。「モジュールの幅」を選択するときには、バーコードのデコード技術を熟知していなければなりません。

配置

ユーザーが **Acrobat** や **Adobe Reader** でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示 (画面のみ) オブジェクトが画面には表示されますが、**Acrobat** や **Acrobat Reader** で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ間にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

関連項目

303 ページの「[Paper Forms Barcode について](#)」

「値」タブの Paper Forms Barcode プロパティ

フォームデザイン上で Paper Forms Barcode オブジェクトを選択すると、オブジェクトパレットの「値」タブに、Paper Forms Barcode の形式設定に使用できるオプションが表示されます。

エンコーディング前にデータを圧縮

Paper Forms Barcode オブジェクトによってデータをエンコードする前に、データを圧縮するかどうかを指定します。デフォルト設定では、データを圧縮しません。

このデータ圧縮では Flate 方式を使用します。このオプションを選択した場合は、バーコードが描画されるときに Acrobat または Adobe Reader 内で圧縮が実行されます。

データを圧縮すると、バーコード内で使用する記憶領域が減るので、より多くのフォームデータをバーコードに保存できるようになります。

注意：ハンドヘルドスキャナーを使用して、または解凍ソフトウェア以外の独自のデコードソリューションを使用してデータをデコードする場合を除き、通常はデータを圧縮する必要があります。データの圧縮について詳しくは、Acrobat ヘルプを参照してください。

自動スクリプティング

バーコードデータを自動的に取得するか、カスタムスクリプティングを使用して取得するか指定します。

フォーマット

自動スクリプティングを使用してバーコードデータを取得する場合、その形式を指定します。オプションを選択すると、関連するスクリプトがスクリプトエディターに表示されます。必要に応じて、定義済みのスクリプトを編集することができます。次の形式のいずれかを選択します。

XML データを XML 形式でエンコードするスクリプトを使用して、バーコードの値を取得します。

「区切り」 データを区切り形式（複数のフィールド値を指定した区切り文字で区切ったフラットな ASCII 表現）でエンコードするスクリプトを使用して、バーコードの値を取得します。

フィールド名を含む

フィールド名を指定した区切り文字で区切ってエンコードします。フィールド名が最初に表示され、その後にフィールド値が続きます。このオプションは、フォーマットリストで「区切り」オプションが選択されている場合に使用できます。

ラベルを含む

(「フィールド」タブに表示される) ラベルをバーコードコンテンツの最初の区切りフィールドとしてエンコードします。このオプションは、フォーマットリストで「区切り」オプションが選択されている場合に使用できます。

レガシーフォーマットを使用

レガシーエンコーディング形式を使用して XML バーコードコンテンツを生成します。レガシーエンコーディング形式は、Designer 7.0 ~ 8.0 の Paper Forms Barcorde XML スクリプトで使用されます。Designer でレガシーエンコーディング形式を使用するフォームを開くと、このオプションが自動的に選択されます。デフォルトでは、Designer は新しいエンコーディング形式を使用します。

Paper Forms Barcode オブジェクトは、2 つの XFA JavaScript 関数 `xfa.datasets.saveXML()` および `xfa.record.saveXML()` によって生成される 2 つの XML エンコーディング形式をサポートします。レガシーエンコーディング形式では `xfa.datasets.saveXML()` 関数を、新しいエンコーディング形式では `xfa.record.saveXML()` 関数を使用して XML エンコードデータを作成します。レガシーエンコーディング形式では、新しいエンコーディング形式に比べて XML データ出力が長くなります。新しいエンコーディング形式では、生成される XML データ出力がより簡潔になり、バーコードのスペースが増加するので、XML エンコーディングスクリプトに適しています。

区切り記号

エンコードデータでフィールド名、フィールド値およびバーコードラベルを区切るために使用される区切り文字を指定します。このオプションは、フォーマットリストで「区切り」オプションが選択されている場合に使用できます。

注意： 復帰文字はヘッダー行と値行の区切り文字として Paper Forms Barcode の値で既に使用されているので、「復帰」オプションを区切り文字として選択しないことをお勧めします。307 ページの「[区切り文字を指定するには](#)」を参照してください。

文字エンコーディング

バーコードコンテンツで使用される文字セットを指定します。次のオプションのいずれか 1 つを選択します。

UTF-8 文字は Unicode-3.2 で定義されている Unicode コードポイントと、ISO/IEC 10646 で定義されている UTF-8 シリアル化を使用してエンコードされます。バイトオーダーマークはありません。デフォルトでは、このオプションは選択されています。

UTF-16 文字は Unicode-3.2 で定義されている Unicode コードポイントを使用してエンコーディングされます。UTF-16 は ISO/IEC 10646 および ISO-10646 によって定義されています。バイトオーダーマークはありません。

UCS-2 文字は Unicode-3.2 で定義されている Unicode コードポイントと、ISO/IEC 10646 で定義されている UCS-2 シリアル化を使用してエンコードされます。バイトオーダーマークはありません。

ISO-8859-1 文字は ISO-8859-1 (Latin-1 と呼ばれます) を使用してエンコーディングされます。

ISO-8859-2 文字は ISO-8859-2 を使用してエンコーディングされます。

ISO-8859-7 文字は ISO-8859-7 を使用してエンコーディングされます。

Shift_JIS 文字は JIS X 0208 (Shift_JIS と呼ばれます) を使用してエンコーディングされます。

KSC_5601 文字は Code for Information Interchange (Hangul および Hanja) を使用してエンコーディングされます。

GB-2312 文字は簡体中国語を使用してエンコーディングされます。

Big-Five 文字は繁体中国語 (Big-Five) を使用してエンコーディングされます。Big-Five に公的な規格はなく、いくつかのバリエーションが使用されています。

フォントに固有 文字はフォント固有の方法でエンコーディングされます。各文字は 8 ビットの 1 バイトで表されます。

なし 特別なエンコードを指定しません。文字は、オペレーティングシステムの環境エンコードを使用してエンコードされます。

注意：一部のスキャニングデバイスは特定の文字セットをサポートしていないことに注意してください。また、Acrobat および Adobe Reader 7.0、およびそれ以前のバージョンでは文字エンコーディングをサポートしていません。

適用先

選択した形式の適用先を指定します。次のリストの中から選択します。

フォーム全体のデータ 選択した形式のすべてのフォームフィールドのデータをエンコードします。

コレクションデータ 選択したコレクションで指定されているすべてのフィールドのデータをエンコードします。

コレクション

データのエンコードに使用するコレクションを指定します。次のリストの中から選択します。

コレクション名 作成したコレクションの名前です。

コレクションの新規作成 / 管理 コレクションリスト内でコレクションを作成、削除、複製、名前変更および修正します。

注意：「フィールド」タブにある「複数選択を許可」オプションを選択してリストボックスオブジェクトを Paper Forms Barcode のコレクションに追加する場合は、フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで「JavaScript で厳密なスコープ規則を強制」オプションも選択する必要があります。選択しないと、フォーム入力者がリストボックスオブジェクトで選択した値が Paper Forms Barcode で正しくエンコードされない場合があります。

変更

現在のコレクションで選択されているフィールドを表示します。またこのウィンドウでは、コレクション内のフィールドを編集したり、コレクション名を変更することができます。

関連項目

303 ページの「[Paper Forms Barcode について](#)」

305 ページの「[Paper Forms Barcode のデータエンコード方法を管理するには](#)」

308 ページの「[Paper Forms Barcode を使用する際のデザイン上のヒント](#)」

パスワードフィールド

「フィールド」タブのパスワードフィールドプロパティ

パスワードフィールドを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、パスワードフィールドの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

フィールドの入力可能領域の境界線スタイルを設定します。

なし フィールドの周囲に境界線を表示しません。

下線付き フィールドに下線を付けます。

ボックス (実線) フィールドの周囲に実線の境界を表示します。

ボックス (くぼみ) フィールドの周囲に陰影を付け、フィールドが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。入力可能な領域の外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

パスワード表示文字

表示文字を設定します。

文字数を表示領域に制限

パスワードフィールドの長さに従い、フィールドに入力できる最大文字数を設定します。

パターン

ユーザー入力のシンタックス、ユーザー入力の有効性の検証および連結されたデータの格納と取得またはフォームがデータソースに連結されていないときのデータ保存に使用するパターンを設定します。677 ページの「[パターンダイアログボックス](#)」を参照してください。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示 (画面のみ) オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示 (印刷のみ) オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す (レイアウトから除外) オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ間にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

309 ページの「[パスワードフィールドの使用](#)」

「値」タブのパスワードフィールドプロパティ

パスワードフィールドを作成すると、「値」タブに、このオブジェクトに適用できるオプションが表示されます。

種類

実行時の計算とプロンプトを有効にします。

ユーザー定義 - オプション データを入力するかどうかをユーザーが選択できます。

ユーザー定義 - 推奨 ユーザーがフィールドに値を入力することが推奨されます。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとする、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。ユーザーはメッセージを無視してフォームを送信できます。

ユーザー定義 - 必須 ユーザーがフィールドに値を入力する必要があります。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。メッセージは、フィールド内に値がある場合、値が削除された場合、およびユーザーが値を入れ直さずにフィールドから移動した場合にのみ表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとする、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。

空白のメッセージ

推奨の値または必須の値の入力を促すメッセージを設定します。358 ページの「[ユーザーにデータの入力を促すメッセージを表示するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - 推奨」または「ユーザー定義 - 必須」に設定されている場合のみ使用可能です。

検証パターン

ユーザー入力の有効性を確認するための検証パターンを設定します。このパターンは、ユーザー入力のシンタックスと一致し、「連結」タブで選択したデータ形式と互換性のあるものでなければなりません。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護済み」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。

検証パターンのメッセージとエラー

生の値が検証パターンと一致しなかった場合に表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

検証スクリプトのメッセージとエラー

検証スクリプトで受け入れ不可能な値が検知されたときに表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護済み」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。「検証スクリプトのメッセージ」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

フォームレベルの検証設定

「フォームの検証」タブのフォームのプロパティダイアログボックスを開きます。656 ページの「[フォームの検証（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。

関連項目

309 ページの「[パスワードフィールドの使用](#)」

「連結」タブのパスワードフィールドプロパティ

パスワードフィールドを作成すると、「連結」タブに、このオブジェクトに適用できるデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

フィールドの名前を設定します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1 つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます（373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください）。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

309 ページの「[パスワードフィールドの使用](#)」

パスワードパターン

必要な場合には、フィールドのパスワードパターンを定義することができます。ただし、パスワードパターンを定義すると、使用可能な文字の組み合わせが減少するので、パスワードが攻撃に対して脆弱になることに注意してください。パターンを定義するには、次の記号を使用します。

注意：コンマ (,)、ダッシュ (-)、コロン (:)、スラッシュ (/)、ピリオド (.) およびスペース () はリテラル値として扱われ、パターンのどこでも使用できます。

パスワードで利用できる記号	説明
A	英字 1 文字
x	1 文字
O	英数字 1 文字
0	英数字 1 文字
9	1 桁の数値

注意：O (大文字のオー) と 0 (ゼロ) は、入力し間違えたり読み間違えたりする人が多いので、ここでは同じものとして認識されるようになっています。

予約済みの記号

次の記号は特別な意味を持つので、パスワードには使用できません。

記号	説明
?	送信する場合、この記号は何らかの 1 文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。
*	送信する場合、この記号は 0 または Unicode の空白文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。
+	送信する場合、この記号は 1 つ以上の Unicode の空白文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。

関連項目

355 ページの「[フィールド値の形式設定とパターンの使用](#)」

446 ページの「[パスワードパターンの例](#)」

パスワードパターンの例

次の表に、ユーザーが入力したパスワードを処理するために定義した編集パターンの例をいくつか示します。

カスタムパターン	入力値
AAA999	MAB123
XXX-9	MA2-4
99999	12345
9009AA9	1M23BE4 1m23be4 1MA3BE4

ラジオボタン

「フィールド」タブのラジオボタンプロパティ

ラジオボタンまたは排除グループを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブにラジオボタンの形式設定に関するオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

表示方法

ボタンの境界線のスタイルを設定します。

単独のラジオボタンを選択した場合は、次のオプションが使用できます。

なし ボタンの周囲に境界線を表示しません。

四角形（べた） ベタ塗りの四角形を使用してボタンを表します。

四角形（くぼみ） ボタンの周囲に四角形の陰影を付け、ボタンが立体的に見えるようにします。

円（べた） ベタ塗りの円を使用してボタンを表します。

円（くぼみ） ボタンの周囲に円形の陰影を付け、ボタンが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。入力可能な領域の外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

排除グループを選択した場合は、次のオプションが使用できます。

境界線なし 排除グループの周囲に境界線を表示しません。

境界線（実線） 排除グループの周囲に太い線を引きます。

境界線（立体） 排除グループの周囲に陰影を付け、立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。排除グループの外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

サイズ

ラジオボタンのサイズを設定します。

チェックスタイル

ラジオボタンのスタイルを設定します。

デフォルト ボタンのスタイルに塗りつぶした円を使用します。

チェック ボタンのスタイルにチェックマークを使用します。

円 ボタンのスタイルに円を使用します。

バツ ボタンのスタイルにバツ（×）を使用します。

ひし形 ボタンのスタイルにひし形を使用します。

四角形 ボタンのスタイルに四角形を使用します。

星形 ボタンのスタイルに星形を使用します。

項目

現在の排他グループに含まれるラジオボタンをすべて示します。ラジオボタン名をダブルクリックするとキャプションを編集できます。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ間にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

311 ページの「[ラジオボタンの使用](#)」

「値」タブのラジオボタンプロパティ

ラジオボタンの排他グループを作成すると、「値」タブには、そのグループ全体に適用できるオプションが表示されます。

種類

実行時の計算とプロンプトを有効にします。

ユーザー定義 - オプション データを入力するかどうかをユーザーが選択できます。

ユーザー定義 - 推奨 ユーザーがフィールドに値を入力することが推奨されます。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとする、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。ユーザーはメッセージを無視してフォームを送信できます。

ユーザー定義 - 必須 ユーザーがフィールドに値を入力する必要があります。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。メッセージは、フィールド内に値がある場合、値が削除された場合、およびユーザーが値を入れ直さずにフィールドから移動した場合にのみ表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとする、と、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。

計算済み - 読み取り専用 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。ユーザーは計算値を編集できません。

計算済み - 上書き可能 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。入力処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。

保護済み ユーザーはフィールド内の値を変更できません。演算などによる間接的な変更はできます。保護済みのフィールドはタブの順序に含まれず、イベントも生成されません。

読み取り専用 データ値が実行時にマージまたは計算され、表示されます。ユーザーは値を編集できません。

デフォルト

デフォルトの選択を設定します。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - オプション」、「ユーザー定義 - 推奨」、「ユーザー定義 - 必須」または「読み取り専用」に設定されている場合のみ使用可能です。

空白のメッセージ

推奨の値または必須の値の入力を促すメッセージを設定します。358 ページの「[ユーザーにデータの入力を促すメッセージを表示するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - 推奨」または「ユーザー定義 - 必須」に設定されている場合のみ使用可能です。

検証スクリプトのメッセージとエラー

検証スクリプトで受け入れ不可能な値が検知されたときに表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護済み」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。「検証スクリプトのメッセージ」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

フォームレベルの検証設定

「フォームの検証」タブのフォームのプロパティダイアログボックスを開きます。656 ページの「[フォームの検証（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。

上書きメッセージ

ユーザーに対して、計算済みフィールドの値を変更しようとしていることを知らせるカスタムメッセージを設定します。このメッセージは、計算結果の値をユーザーが変更すると表示されます。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 上書き可能」に設定されている場合のみ使用できます。

関連項目

311 ページの「[ラジオボタンの使用](#)」

「連結」タブのラジオボタンプロパティ

ラジオボタンの排他グループを作成すると、「連結」タブに、このグループに適用できるデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

排他グループの名前を設定します。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます（373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください）。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

項目の値を指定

排他グループ内のラジオボタンに、それぞれカスタムのオン値を指定できるようにします。同じグループ内のラジオボタンには、それぞれ異なる値を割り当てる必要があります。

このオプションを選択しない場合は、ラジオボタンのキャプションがオン値として使用されます。このオプションを選択した場合は、各ラジオボタンのデフォルトのオン値として連番が割り当てられます（グループ内の最初のラジオボタンが 1 になります）。312 ページの「[ラジオボタンにオン値を割り当てるには](#)」を参照してください。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

311 ページの「[ラジオボタンの使用](#)」

長方形

「描画」タブの長方形のプロパティ

長方形を作成すると、オブジェクトパレットの「描画」タブに、長方形の形式設定で使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

スタイル

線のスタイルと太さを設定します。

カラーピッカー



線の色を設定します。

コーナー



コーナーのスタイルを設定します。

半径

切れ目のあるコーナーを作成するときのコーナーの半径を設定します。

塗りつぶし

塗りつぶしのスタイルを設定します。

カラーピッカー



塗りつぶしの色を設定します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ間にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

関連項目

281 ページの「[円、線、長方形の使用](#)」

署名フィールド

「フィールド」 タブの署名フィールドプロパティ

署名フィールドを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、署名フィールドの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

フィールドの入力可能領域の境界線スタイルを設定します。

なし フィールドの周囲に境界線を表示しません。

下線付き フィールドに下線を付けます。

ボックス (実線) フィールドの周囲に実線の境界を表示します。

ボックス (くぼみ) フィールドの周囲に陰影を付け、フィールドが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。入力可能な領域の外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示 (画面のみ) オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示 (印刷のみ) オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す (レイアウトから除外) オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

314 ページの「[署名フィールドの使用](#)」

556 ページの「[電子署名の使用](#)」

「署名」タブの署名フィールドプロパティ

署名フィールドオブジェクトを選択すると、オブジェクトパレットの「署名」タブに、署名フィールドに署名した後にどのフィールドを（オブジェクトから）ロックできるかを制御する様々なオプションが表示されます。ロックできるオブジェクトの種類は、ボタン、チェックボックス、日付 / 時間フィールド、十進数フィールド、コンボボックス、画像フィールド、リストボックス、数値フィールド、Paper Forms Barcode、パスワードフィールド、ラジオボタン、その他の署名フィールドおよびテキストフィールドです。

「設定」ボタンをクリックすると、署名ハンドラー、署名の証明書、証明書発行者など、署名に関するオプションのセキュリティタイププロパティを定義することもできます。

署名後にフィールドをロックする

署名をどのフィールド（オブジェクト）に適用するかを指定します。署名フィールドはドキュメント内のすべてのフィールド、選択したオブジェクトのコレクション内部のすべてのフィールド、または選択したオブジェクトのコレクション外部のすべてのフィールドに適用できます。署名者が署名フィールドに署名した後、指定された領域内のフィールドがロックされます。このオプションは、フォームデザインに署名フィールドを追加するときデフォルトで選択されています。このオプションの選択を解除すると、署名者が署名フィールドに署名した後、フォーム内のすべてのフィールドはロックされません。

コンボボックス内のいずれかのオプションを選択して、ロックするフィールドを指定したり、コレクションを管理したりできます。

ドキュメント内のすべてのフィールド ドキュメント内のすべてのフィールドをロックします。

コレクション - <名前> 選択されたコレクション内のすべてのフィールドをロックします。

コレクションの新規作成 / 管理 コレクションリストダイアログボックスを開いて、オブジェクトコレクションを作成、変更、複製、削除、ソートできるようにします。

コレクション内のすべてのフィールド

選択されたコレクションに含まれるすべてのフィールドをロックします。

コレクションに含まれないすべてのフィールド

選択されたコレクションに含まれないすべてのフィールドをロックします。

関連項目

314 ページの「署名フィールドの使用」

556 ページの「電子署名の使用」

323 ページの「フォームオブジェクトコレクションの使用」

サブフォーム

「サブフォーム」タブのサブフォームプロパティ

サブフォームを選択すると、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブに形式設定オプションが表示されます。

ソースファイル

フラグメント参照のソースファイルを設定します。このプロパティは、選択したオブジェクトがフラグメント参照の場合にのみ表示されます。

フラグメント名

フラグメントの名前を設定します。フラグメント情報ボタン  をクリックするとフラグメント情報を表示できます。

このプロパティは、フラグメント参照を選択するかソースファイルに定義されているフラグメントを選択すると表示されます。選択したオブジェクトがフラグメント参照の場合、ソースファイルが指定されていないと、このプロパティは表示されません。フラグメント名リストには、指定したソースファイル内のすべてのフラグメントが表示されます。「カスタム」オプションは、フラグメント参照としての SOM 式または ID 値の設定を直接サポートします。また、XML フォームアーキテクチャでの実装をサポートします。

内容

サブフォームのコンテンツを配置済みまたはフローレイアウトに設定します。

配置済み サブフォーム内でのオブジェクトの位置を、それぞれの X 座標と Y 座標に従って配置します。

フローレイアウト データマージプロセス中に、サブフォーム内でのオブジェクトの位置を、オブジェクトが互いに重なってレンダリングされないように配置します。

フローの方向

フローオブジェクトのフローの方向を設定します。

上から下へ オブジェクトを他のオブジェクトの下に配置します。

左から右 オブジェクトを左から右へ配置します。オブジェクトがサブフォームの右端で折り返されるときは、引き続きすぐ下の行で左から右へ配置します。

右から左 デフォルトのタブ順序およびデータ入力順序を、ページの右から始まり、ページの左方向に進むように設定します。

注意：このオプションは、コンテンツリストで「フローレイアウト」が選択されている場合にだけ使用できます。

コンテンツ内で改ページを許可する

サブフォームの途中での改ページを有効または無効にします。

このサブフォームを挿入ポイントとして指定する

選択したサブフォームを挿入ポイントとして指定します。349 ページの「[挿入ポイントの作成](#)」を参照してください。

名前

挿入ポイントサブフォームの名前を設定します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ間にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

213 ページの「[サブフォームについて](#)」

224 ページの「[サブフォームが複数ページにまたがるように指定するには](#)」

「ページ編集」タブのサブフォームプロパティ

サブフォームを選択すると、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブに複数のページ番号オプションが表示されます。

配置

サブフォームをどこに配置するかを指定します。

前のサブフォームに続く サブフォームを、親サブフォームの前のオブジェクトの後に配置します。

コンテンツ領域内／[コンテンツ領域名] サブフォームを指定されたコンテンツ領域に配置します。

次のコンテンツ領域の先頭 サブフォームを次のコンテンツ領域の先頭に配置します。

コンテンツ領域の先頭／[コンテンツ領域名] サブフォームを指定されたコンテンツ領域の先頭に配置します。

ページ上／[ページ名] サブフォームを指定のページに配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

次のページの先頭 サブフォームを次のページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

ページの先頭／[ページ名] 指定のページがレンダリングされる場合は常に、サブフォームをそのページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

奇数ページ 奇数ページに印刷されるように設定されたページにサブフォームを配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、サブフォームを奇数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

偶数ページ 偶数ページに印刷されるように設定されたページにサブフォームを配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、サブフォームを偶数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

合わせる対象：前へ

サブフォームを前のサブフォームと同じコンテンツ領域に配置します。

合わせる対象：次へ

サブフォームを次のサブフォームと同じコンテンツ領域に配置します。

後

サブフォームの配置後に記入する領域を指定します。

親文書の記入を継続 親サブフォーム内でまだ記入されずに残っているすべてのオブジェクトに引き続きデータをマージします。

次のコンテンツ領域へジャンプ 次のコンテンツ領域への記入を開始します。

コンテンツ領域へジャンプ／[コンテンツ領域名] 指定されたコンテンツ領域への記入を開始します。

次ページへジャンプ 次のページへの記入を開始します。

ページへジャンプ／[ページ名] 指定されたページへの記入を開始します。

次の奇数ページへジャンプ 次の奇数ページへの記入を開始します。

次の偶数ページへジャンプ 次の偶数ページへの記入を開始します。

条件付き改行

サブフォームに対して定義されている条件付き改行の数を指定します。

オーバーフロー

複数ページにまたがるサブフォームのオーバーフローを設定します。

なし 次のページへの記入を開始します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

コンテンツ領域へジャンプ／[コンテンツ領域名] 指定されたコンテンツ領域への記入を開始します。

ページへジャンプ／[ページ名] 指定されたページへの記入を開始します。

オーバーフローリーダー

ページ番号を付ける必要があるサブフォームに対するオーバーフローリーダーを指定します。

[サブフォーム名] 既存のサブフォームをオーバーフローリーダーとして使用します。

なし サブフォームにページ番号を付けているときは、オーバーフローリーダーを使用しないでください。

新規 Designer で新しいオーバーフローリーダーサブフォームを作成し、このサブフォームのページ番号を付けるときにオーバーフローリーダーとして設定します。

オーバーフロートレーラー

ページ番号を付ける必要があるサブフォームに対するオーバーフロートレーラーを指定します。

【サブフォーム名】 既存のサブフォームをオーバーフロートレーラーとして使用します。

なし サブフォームにページ番号を付けているときはオーバーフロートレーラーを使用しないでください。

新規 Designer で新しいオーバーフロートレーラーサブフォームを作成し、このサブフォームのページ番号を付けるときにオーバーフロートレーラーとして設定します。

関連項目

213 ページの「[サブフォームについて](#)」

454 ページの「[「サブフォーム」タブのサブフォームプロパティ](#)」

457 ページの「[「連結」タブのサブフォームプロパティ](#)」

「連結」タブのサブフォームプロパティ

サブフォームを選択すると、オブジェクトパレットの「連結」タブにデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

サブフォームの名前を設定します。デフォルトでは、サブフォームには名前がありません。217 ページの「[サブフォームを命名するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。サブフォームはデータマージ操作には関わりませんが、サブフォームのオブジェクト（階層化されたサブフォームを含む）は引き続きデータを取り込んだり表示したりできます。

連結の読み込み / 書き出し (WSDL の実行)

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

初期値

現在選択しているサブフォームオブジェクトのオカレンス数を、データ接続からのデータ量に関わらず、フォームの初期表示に設定します。指定する値は、「最小値」の値以上かつ「最大値」の値以下（それぞれの値を含む）にする必要があります。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

213 ページの「[サブフォームについて](#)」

サブフォームセット

「サブフォームセット」タブのサブフォームセットプロパティ

サブフォームセットを選択すると、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブに形式設定オプションが表示されます。

注意：「代替オブジェクトの編集」は、種類リストから「候補からサブフォームを 1 つ選択する」オプションが選択されている場合にだけ使用できます。

種類

サブフォームセット内のサブフォームがフォーム上でレンダリングされる順序を設定します。

すべてのサブフォームを順番に使用 サブフォーム内のすべてのサブフォームが、フォームデザインで表示される順序でレンダリングされます。

候補からサブフォームを 1 つ選択する サブフォームセット内のサブフォームの 1 つだけが、フォームの作成者が指定した条件に基づいてレンダリングされます。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

関連項目

221 ページの「[サブフォームセットの使用](#)」

458 ページの「[「ページ編集」タブのサブフォームセットプロパティ](#)」

460 ページの「[「連結」タブのサブフォームセットプロパティ](#)」

645 ページの「[データが指定されたサブフォームを編集ダイアログボックス](#)」

「ページ編集」タブのサブフォームセットプロパティ

サブフォームセットを選択すると、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブにページ番号オプションが表示されます。

配置

サブフォームセットをどこに配置するかを指定します。

前のサブフォームに続く 親サブフォームの前のオブジェクトの後にサブフォームセットを配置します。

コンテンツ領域内／[コンテンツ領域名] サブフォームセットを指定されたコンテンツ領域内に配置します。

次のコンテンツ領域の先頭 サブフォームを次のコンテンツ領域の先頭に配置します。

コンテンツ領域の先頭／[コンテンツ領域名] サブフォームを指定されたコンテンツ領域の先頭に配置します。

ページ上／[ページ名] サブフォームを指定されたページに配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

次のページの先頭 次のページの先頭にサブフォームセットを配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

ページの先頭／[ページ名] 指定のページがレンダリングされる場合は常に、そのページの先頭にサブフォームセットを配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

奇数ページ 奇数ページに印刷されるように設定されたページにサブフォームセットを配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、サブフォームセットを奇数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

偶数ページ 偶数ページに印刷されるように設定されたページにサブフォームセットを配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、サブフォームセットを偶数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

後

サブフォームの配置後に記入する領域を指定します。

親文書の記入を継続 親サブフォーム内でまだ記入されずに残っているすべてのオブジェクトに引き続きデータをマージします。

次のコンテンツ領域へジャンプ 次のコンテンツ領域への記入を開始します。

コンテンツ領域へジャンプ／[コンテンツ領域名] 指定されたコンテンツ領域への記入を開始します。

次ページへジャンプ 次のページへの記入を開始します。

ページへジャンプ／[ページ名] 指定されたページへの記入を開始します。

次の奇数ページへジャンプ 次の奇数ページへの記入を開始します。

次の偶数ページへジャンプ 次の偶数ページへの記入を開始します。

条件付き改行

サブフォームセットに対して定義されている条件付き改行の数を指定します。

オーバーフロー

複数ページにまたがるサブフォームセットのオーバーフローを設定します。

なし 次のページへの記入を開始します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

コンテンツ領域へジャンプ／[コンテンツ領域名] 指定されたコンテンツ領域への記入を開始します。

ページへジャンプ／[ページ名] 指定されたページへの記入を開始します。

オーバーフローリーダー

ページ番号を付ける必要があるサブフォームセットに対するオーバーフローリーダーを指定します。

なし サブフォームセットにページ番号を付けているときは、オーバーフローリーダーを使用しないでください。

【サブフォーム名】 既存のサブフォームセットをオーバーフローリーダーとして使用します。

新規 Designer で新しいオーバーフローリーダーサブフォームセットを作成し、このサブフォームのページ番号を付けるときにオーバーフローリーダーとして設定します。

オーバーフロートレーラー

ページ番号を付ける必要があるサブフォームセットに対するオーバーフロートレーラーを指定します。

なし サブフォームセットにページ番号を付けているときはオーバーフロートレーラーを使用しないでください。

【サブフォーム名】 既存のサブフォームセットをオーバーフロートレーラーとして使用します。

新規 新しいオーバーフロートレーラーサブフォームを作成し、このサブフォームのページ番号を付けるときにオーバーフロートレーラーとして設定します。

関連項目

221 ページの「[サブフォームセットの使用](#)」

458 ページの「[「サブフォームセット」タブのサブフォームセットプロパティ](#)」

460 ページの「[「連結」タブのサブフォームセットプロパティ](#)」

「連結」タブのサブフォームセットプロパティ

サブフォームセットを選択すると、オブジェクトパレットの「連結」タブにデータ連結オプションが表示されます。

名前

サブフォームセットの名前を設定します。デフォルトでは、サブフォームセットには名前がありません。

各データアイテムについてサブフォームを繰り返す

サブフォームの繰り返しを有効または無効にします。

最小値

現在選択しているオブジェクトをフォームに表示するオカレンスの最小値を設定します。

最大値

現在選択しているオブジェクトをフォームに表示するオカレンスの最大値を設定します。

連結の読み込み / 書き出し (WSDL の実行)

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

関連項目

221 ページの「[サブフォームセットの使用](#)」

テーブル

「テーブル」 タブのテーブルプロパティ

テーブルを選択すると、オブジェクトパレットの「テーブル」タブに複数の形式設定オプションが表示されます。

ソースファイル

フラグメント参照のソースファイルを設定します。このプロパティは、選択したオブジェクトがフラグメント参照の場合にのみ表示されます。

フラグメント名

フラグメントの名前を設定します。フラグメント情報ボタン  をクリックするとフラグメント情報を表示できます。

このプロパティは、フラグメント参照を選択するかソースファイルに定義されているフラグメントを選択すると表示されます。選択したオブジェクトがフラグメント参照の場合、ソースファイルが指定されていないと、このプロパティは表示されません。フラグメント名リストには、指定したソースファイル内のすべてのフラグメントが表示されます。「カスタム」オプションは、フラグメント参照としての SOM 式または ID 値の設定を直接サポートします。また、XML フォームアーキテクチャでの実装をサポートします。

ボディ行

ボディ行の数を表示します。

ヘッダー行

ヘッダー行の数を表示します。

列

列の数を表示します。

フッター行

フッター行の数を表示します。

コンテンツ内で改ページを許可する

テーブルの途中で改ページを有効または無効にします。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

462 ページの「[「行の網掛け」タブのテーブルプロパティ](#)」

463 ページの「[「ページ編集」タブのテーブルプロパティ](#)」

464 ページの「[「連結」タブのテーブルプロパティ](#)」

「行の網掛け」タブのテーブルプロパティ

テーブルを選択すると、オブジェクトパレットの「行の網掛け」タブに、1 行おきに網掛けの色を適用するためのオプションが表示されます。

1 行おきに網掛け

テーブル内のボディ行の網掛けを有効または無効にします。

フォームのレンダリング時にデータをマージするテーブルの場合、マージしたデータが表示されるボディ行にのみ網掛けは適用されます。データマージプロセスに関係しないボディ行に対しては、網掛けは適用されません。網掛けを適用するすべての行に名前が必要です。474 ページの「[「連結」タブのボディ行のプロパティ](#)」を参照してください。

1 番目の網掛けの色を適用する、先頭のボディ行から始まるボディ行の数を設定します。

カラーピッカー

 網掛けに使用する 1 番目の塗りつぶし色を設定します。

次の行

2 番目の網掛けの色を適用するボディ行の数を設定します。1 番目の網掛けの色を適用するボディ行に後続する行を指定します。

カラーピッカー

 網掛けに使用する 2 番目の塗りつぶし色を設定します。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

177 ページの「[テーブルへの境界線と網掛けの適用](#)」

461 ページの「[「テーブル」タブのテーブルプロパティ](#)」

463 ページの「[「ページ編集」タブのテーブルプロパティ](#)」

464 ページの「[「連結」タブのテーブルプロパティ](#)」

「ページ編集」タブのテーブルプロパティ

テーブルを選択すると、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブに複数のページ番号オプションが表示されます。

配置

テーブルをどこに配置するかを指定します。

前のサブフォームに続く 親サブフォーム内の前のオブジェクトの後にテーブルを配置します。

コンテンツ領域内／[コンテンツ領域名] テーブルを指定されたコンテンツ領域内に配置します。

次のコンテンツ領域の先頭 テーブルを次のコンテンツ領域の先頭に配置します。

コンテンツ領域の先頭／[コンテンツ領域名] テーブルを指定されたコンテンツ領域の先頭に配置します。

ページ上／[ページ名] テーブルを指定されたページに配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

次のページの先頭 次のページの先頭にテーブルを配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

ページの先頭／[ページ名] 指定のページがレンダリングされる場合は常に、そのページの先頭にテーブルを配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

奇数ページ 奇数ページに印刷されるように設定されたページにサブフォームを配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、サブフォームを奇数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

偶数ページ 偶数ページに印刷されるように設定されたページにサブフォームを配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、サブフォームを偶数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

合わせる対象：前へ

テーブルを前のテーブルと同じコンテンツ領域に配置します。

合わせる対象：次へ

テーブルを次のテーブルと同じコンテンツ領域に配置します。

後

テーブルの配置後に記入する領域を指定します。

親文書の記入を継続 親サブフォーム内でまだ記入されずに残っているすべてのオブジェクトに引き続きデータをマージします。

次のコンテンツ領域へジャンプ 次のコンテンツ領域への記入を開始します。

コンテンツ領域へジャンプ／[コンテンツ領域名] 指定されたコンテンツ領域への記入を開始します。

次ページへジャンプ 次のページへの記入を開始します。

ページへジャンプ／[ページ名] 指定されたページへの記入を開始します。

次の奇数ページへジャンプ 次の奇数ページへの記入を開始します。

次の偶数ページへジャンプ 次の偶数ページへの記入を開始します。

条件付き改行

テーブルに対して定義されている条件付き改行の数を指定します。203 ページの「[条件ステートメントを使用してテーブル、ヘッダー行、ボディ行およびセクション区切りを制御するには](#)」を参照してください。

オーバーフロー

複数ページにまたがるテーブルのオーバーフローを設定します。199 ページの「[テーブルが複数ページにまたがるように設定するには](#)」を参照してください。

なし 次のページへの記入を開始します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

コンテンツ領域ヘジャンプ / [コンテンツ領域名] 指定されたコンテンツ領域への記入を開始します。

ページヘジャンプ / [ページ名] 指定されたページへの記入を開始します。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

199 ページの「[テーブルが複数ページにまたがるように設定するには](#)」

461 ページの「[「テーブル」タブのテーブルプロパティ](#)」

462 ページの「[「行の網掛け」タブのテーブルプロパティ](#)」

464 ページの「[「連結」タブのテーブルプロパティ](#)」

「連結」タブのテーブルプロパティ

テーブルを選択すると、オブジェクトパレットの「連結」タブに複数のデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

テーブルの名前を設定します。フォーム内の既存のテーブルが同じ名前を使用している場合、名前の横の番号で現在のテーブルのインスタンスを示します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1 つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます（373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください）。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

各データアイテムについてテーブルを繰り返す

テーブルの繰り返しを有効または無効にします。

最小値

現在選択しているオブジェクトをフォームに表示するオカレンスの最小値を設定します。

最大値

現在選択しているオブジェクトをフォームに表示するオカレンスの最大値を設定します。

初期値

現在選択しているサブフォームオブジェクトのオカレンス数を、データ接続からのデータ量に関わらず、フォームの初期表示に設定します。指定する値は、「最小値」の値以上かつ「最大値」の値以下（それぞれの値を含む）にする必要があります。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

461 ページの「[「テーブル」タブのテーブルプロパティ](#)」

462 ページの「[「行の網掛け」タブのテーブルプロパティ](#)」

463 ページの「[「ページ編集」タブのテーブルプロパティ](#)」

「行」タブのヘッダー行のプロパティ

ヘッダー行またはフッター行を選択すると、オブジェクトパレットの「行」タブに複数の形式設定オプションが表示されます。

ソースファイル

フラグメント参照のソースファイルを設定します。このプロパティは、選択したオブジェクトがフラグメント参照の場合にのみ表示されます。

フラグメント名

フラグメントの名前を設定します。フラグメント情報ボタン  をクリックするとフラグメント情報を表示できます。

このプロパティは、フラグメント参照を選択するかソースファイルに定義されているフラグメントを選択すると表示されます。選択したオブジェクトがフラグメント参照の場合、ソースファイルが指定されていないと、このプロパティは表示されません。フラグメント名リストには、指定したソースファイル内のすべてのフラグメントが表示されます。「カスタム」オプションは、フラグメント参照としての SOM 式または ID 値の設定を直接サポートします。また、XML フォームアーキテクチャでの実装をサポートします。

種類

行のコンテンツの種類を設定します。

ボディ行 行にはテーブルのコンテンツが格納されています。

ヘッダー行 この行にはヘッダー情報が格納されており、通常はこれがテーブルに対して最初に配置される行になります。例えば、ヘッダー行で各テーブル列の情報を示します。

フッター行 この行にはフッター情報が格納されており、通常はこれがテーブルに対して最後に配置される行になります。例えば、数値データを表示するテーブルの場合、フッター行で各列の合計値を示します。

レイアウト

ヘッダー行のレイアウトを設定します。

左から右の行 ヘッダー行内のセルを左から右にレイアウト設定します。

右から左の行 ヘッダー行内のセルを右から左にレイアウト設定します。

コンテンツ内で改ページを許可する

行の途中で改ページを有効または無効にします。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

202 ページの「[行をヘッダー行、ボディ行またはフッター行に変更するには](#)」

468 ページの「[「ページ編集」タブのヘッダー行およびフッター行のプロパティ](#)」

469 ページの「[「連結」タブのヘッダー行のプロパティ](#)」

「行」タブのフッター行のプロパティ

ヘッダー行またはフッター行を選択すると、オブジェクトパレットの「行」タブに複数の形式設定オプションが表示されます。

ソースファイル

フラグメント参照のソースファイルを設定します。このプロパティは、選択したオブジェクトがフラグメント参照の場合にのみ表示されます。

フラグメント名

フラグメントの名前を設定します。フラグメント情報ボタン  をクリックするとフラグメント情報を表示できます。

このプロパティは、フラグメント参照を選択するかソースファイルに定義されているフラグメントを選択すると表示されます。選択したオブジェクトがフラグメント参照の場合、ソースファイルが指定されていないと、このプロパティは表示されません。フラグメント名リストには、指定したソースファイル内のすべてのフラグメントが表示されます。「カスタム」オプションは、フラグメント参照としての SOM 式または ID 値の設定を直接サポートします。また、XML フォームアーキテクチャでの実装をサポートします。

種類

行のコンテンツの種類を設定します。

ボディ行 行にはテーブルのコンテンツが格納されています。

ヘッダー行 この行にはヘッダー情報が格納されており、通常はこれがテーブルに対して最初に配置される行になります。例えば、ヘッダー行で各テーブル列の情報を示します。

フッター行 この行にはフッター情報が格納されており、通常はこれがテーブルに対して最後に配置される行になります。例えば、数値データを表示するテーブルの場合、フッター行で各列の合計値を示します。

レイアウト

フッター行のレイアウトを設定します。

左から右の行 フッター行内のセルを左から右にレイアウト設定します。

右から左の行 フッター行内のセルを右から左にレイアウト設定します。

コンテンツ内で改ページを許可する

行の途中で改ページを有効または無効にします。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

202 ページの「[行をヘッダー行、ボディ行またはフッター行に変更するには](#)」

468 ページの「[「ページ編集」タブのヘッダー行およびフッター行のプロパティ](#)」

469 ページの「[「連結」タブのヘッダー行のプロパティ](#)」

「ページ編集」タブのヘッダー行およびフッター行のプロパティ

ヘッダー行またはフッター行を選択すると、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブに複数のページ番号オプションが表示されます。

配置

ヘッダー行またはフッター行を配置する場所を指定します。

前のサブフォームに続く 前の行の後に行を配置します。

コンテンツ領域内／[コンテンツ領域名] 行を指定されたコンテンツ領域内に配置します。

次のコンテンツ領域の先頭 行を次のコンテンツ領域の先頭に配置します。

コンテンツ領域の先頭／[コンテンツ領域名] 行を指定されたコンテンツ領域の先頭に配置します。

ページ上／[ページ名] 行を指定されたページに配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

次のページの先頭 次のページの先頭に行を配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

ページの先頭／[ページ名] 指定のページがレンダリングされる場合は常に、そのページの先頭に行を配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

奇数ページ 奇数ページに印刷されるように設定されたページに行を配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、行を奇数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

偶数ページ 偶数ページに印刷されるように設定されたページに行を配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、行を偶数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

合わせる対象：前へ

行を前の行と同じコンテンツ領域に配置します。

合わせる対象：次へ

行を次の行と同じコンテンツ領域に配置します。

後

行の配置後に記入する領域を決定します。

親文書の記入を継続 親テーブル内でまだ記入されずに残っているすべてのオブジェクトに引き続きデータをマージします。

次のコンテンツ領域へジャンプ 次のコンテンツ領域への記入を開始します。

コンテンツ領域へジャンプ／[コンテンツ領域名] 指定されたコンテンツ領域への記入を開始します。

次ページへジャンプ 次のページへの記入を開始します。

ページへジャンプ／[ページ名] 指定されたページへの記入を開始します。

次の奇数ページへジャンプ 次の奇数ページへの記入を開始します。

次の偶数ページへジャンプ 次の偶数ページへの記入を開始します。

条件付き改行

ヘッダー行またはフッター行に対して定義されている条件付き改行の数を指定します。203 ページの「[条件ステートメントを使用してテーブル、ヘッダー行、ボディ行およびセクション区切りを制御するには](#)」を参照してください。

テーブルにヘッダー行を含む

ヘッダー行をテーブル内の現在位置に表示するよう指定します。

後続のページにヘッダー行を含む

テーブルが複数ページにまたがる場合、各ページのテーブル内の先頭の行としてヘッダー行を追加します。

後続のページにフッター行を含む

テーブルが複数ページにまたがる場合、各ページのテーブル内の最後の行としてフッター行を追加します。

テーブルにフッター行を含む

フッター行をテーブル内の現在位置に表示するよう指定します。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

202 ページの「[ヘッダーまたはフッター行を後続のページで繰り返すには](#)」

465 ページの「[「行」タブのヘッダー行のプロパティ](#)」

469 ページの「[「連結」タブのヘッダー行のプロパティ](#)」

472 ページの「[「ページ編集」タブのボディ行のプロパティ](#)」

「連結」タブのヘッダー行のプロパティ

ヘッダー行またはフッター行を選択すると、オブジェクトパレットの「連結」タブに複数のデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

行の名前を設定します。テーブル内の既存の行が同じ名前を使用している場合、名前の横の番号で現在の行のインスタンスを示します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1 つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます (373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください)。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、491 ページの「[XML データファイルへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

各データアイテムについて行を繰り返す / 最小値 / 最大値 / 初期値

行の繰り返しを有効または無効にします。192 ページの「[データ量に応じて調整されるテーブルの行を設定するには](#)」を参照してください。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

465 ページの「[「行」タブのヘッダー行のプロパティ](#)」

468 ページの「[「ページ編集」タブのヘッダー行およびフッター行のプロパティ](#)」

474 ページの「[「連結」タブのボディ行のプロパティ](#)」

「連結」タブのフッター行のプロパティ

ヘッダー行またはフッター行を選択すると、オブジェクトパレットの「連結」タブに複数のデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

行の名前を設定します。テーブル内の既存の行が同じ名前を使用している場合、名前の横の番号で現在の行のインスタンスを示します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1 つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます (373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください)。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、491 ページの「[XML データファイルへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

各データアイテムについて行を繰り返す / 最小値 / 最大値 / 初期値

行の繰り返しを有効または無効にします。192 ページの「[データ量に応じて調整されるテーブルの行を設定するには](#)」を参照してください。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

465 ページの「[「行」タブのヘッダー行のプロパティ](#)」

468 ページの「[「ページ編集」タブのヘッダー行およびフッター行のプロパティ](#)」

474 ページの「[「連結」タブのボディ行のプロパティ](#)」

「行」タブのボディ行のプロパティ

ボディ行を選択すると、オブジェクトパレットの「行」タブに複数の形式設定オプションが表示されます。

ソースファイル

フラグメント参照のソースファイルを設定します。このプロパティは、選択したオブジェクトがフラグメント参照の場合にのみ表示されます。

フラグメント名

フラグメントの名前を設定します。フラグメント情報ボタン  をクリックするとフラグメント情報を表示できます。

このプロパティは、フラグメント参照を選択するかソースファイルに定義されているフラグメントを選択すると表示されます。選択したオブジェクトがフラグメント参照の場合、ソースファイルが指定されていないと、このプロパティは表示されません。フラグメント名リストには、指定したソースファイル内のすべてのフラグメントが表示されます。「カスタム」オプションは、フラグメント参照としての SOM 式または ID 値の設定を直接サポートします。また、XML フォームアーキテクチャでの実装をサポートします。

種類

行のコンテンツの種類を設定します。

ボディ行 行にはテーブルのコンテンツが格納されています。

ヘッダー行 この行にはヘッダー情報が格納されており、通常はこれがテーブルに対して最初に配置される行になります。例えば、ヘッダー行で各テーブル列の情報を示します。

フッター行 この行にはフッター情報が格納されており、通常はこれがテーブルに対して最後に配置される行になります。例えば、数値データを表示するテーブルの場合、フッター行で各列の合計値を示します。

465 ページの「[「行」タブのヘッダー行のプロパティ](#)」を参照してください。

レイアウト

行のレイアウトを設定します。

左から右の行 行内のセルを左から右にレイアウト設定します。

右から左の行 行内のセルを右から左にレイアウト設定します。

コンテンツ内で改ページを許可する

行の途中で改ページを有効または無効にします。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

202 ページの「[行をヘッダー行、ボディ行またはフッター行に変更するには](#)」

472 ページの「[「ページ編集」タブのボディ行のプロパティ](#)」

474 ページの「[「連結」タブのボディ行のプロパティ](#)」

「ページ編集」タブのボディ行のプロパティ

ボディ行を選択すると、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブに複数のページ番号オプションが表示されます。

注意：「含める」オプションは、ヘッダー行またはフッター行を選択した場合に限り使用できます。468 ページの「[「ページ編集」タブのヘッダー行およびフッター行のプロパティ](#)」を参照してください。

配置

行をどこに配置するかを決定します。

前のサブフォームに続く 前の行の後に行を配置します。

コンテンツ領域内／[コンテンツ領域名] 行を指定されたコンテンツ領域内に配置します。

次のコンテンツ領域の先頭 行を次のコンテンツ領域の先頭に配置します。

コンテンツ領域の先頭／[コンテンツ領域名] 行を指定されたコンテンツ領域の先頭に配置します。

ページ上／[ページ名] 行を指定されたページに配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

次のページの先頭 次のページの先頭に行を配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

ページの先頭／[ページ名] 指定のページがレンダリングされる場合は常に、そのページの先頭に行を配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

奇数ページ 奇数ページに印刷されるように設定されたページに行を配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、行を奇数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

偶数ページ 偶数ページに印刷されるように設定されたページに行を配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、行を偶数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

合わせる対象：前へ

行を前の行と同じコンテンツ領域に配置します。

合わせる対象：次へ

行を次の行と同じコンテンツ領域に配置します。

後

行の配置後に記入する領域を決定します。

親文書の記入を継続 親テーブル内でまだ記入されずに残っているすべてのオブジェクトに引き続きデータをマージします。

次のコンテンツ領域へジャンプ 次のコンテンツ領域への記入を開始します。

コンテンツ領域へジャンプ／[コンテンツ領域名] 指定されたコンテンツ領域への記入を開始します。

次ページへジャンプ 次のページへの記入を開始します。

ページへジャンプ／[ページ名] 指定されたページへの記入を開始します。

次の奇数ページへジャンプ 次の奇数ページへの記入を開始します。

次の偶数ページへジャンプ 次の偶数ページへの記入を開始します。

条件付き改行

行に対して定義されている条件付き改行の数を指定します。203 ページの「[条件ステートメントを使用してテーブル、ヘッダー行、ボディ行およびセクション区切りを制御するには](#)」を参照してください。

関連項目

- 153 ページの「[テーブルの使用](#)」
- 471 ページの「[「行」タブのボディ行のプロパティ](#)」
- 474 ページの「[「連結」タブのボディ行のプロパティ](#)」

「連結」タブのボディ行のプロパティ

ボディ行を選択すると、オブジェクトパレットの「連結」タブに複数のデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

行の名前を設定します。デフォルトでは、ボディ行には名前がありません。フォーム内の既存の行が同じ名前を使用している場合、名前の横の番号で現在の行のインスタンスを示します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が自動的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます（373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください）。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、491 ページの「[XML データファイルへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

各データアイテムについて行を繰り返す / 最小値 / 最大値 / 初期値

行の繰り返しを有効または無効にします。192 ページの「[データ量に応じて調整されるテーブルの行を設定するには](#)」を参照してください。

関連項目

- 153 ページの「[テーブルの使用](#)」
- 471 ページの「[「行」タブのボディ行のプロパティ](#)」
- 472 ページの「[「ページ編集」タブのボディ行のプロパティ](#)」
- 469 ページの「[「連結」タブのヘッダー行のプロパティ](#)」

「セクション」タブのセクションプロパティ

セクションを選択すると、オブジェクトパレットの「セクション」タブに複数の形式設定オプションが表示されます。

種類

フォームのレンダリング時に表示するセクションを、そのセクションのコンテンツに基づき指定します。

すべてのサブフォームを順番に使用 フォームがレンダリングされる場合に、セクション内のすべての行を含めます。

候補からサブフォームを1つ選択する フォームがレンダリングされる場合に、考えられる2つの行のいずれかをレンダリングします。表示される行は、マージされるデータに基づき決定されます。例えば、計算した値を表示するセルを持つ行の場合、値が0以上のときに表示する行、値が0より小さいときに表示する行を指定できます。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

207 ページの「[テーブルセクションの使用](#)」

210 ページの「[テーブルでの選択セクションの作成](#)」

475 ページの「[「行の網掛け」タブのセクションプロパティ](#)」

476 ページの「[「ページ編集」タブのセクションプロパティ](#)」

477 ページの「[「連結」タブのセクションプロパティ](#)」

「行の網掛け」タブのセクションプロパティ

セクションを選択すると、オブジェクトパレットの「行の網掛け」タブに、セクション内の行に1行おきに網掛けの色を適用するためのオプションが表示されます。

1行おきに網掛け

セクション内のボディ行の網掛けを有効または無効にします。

フォームのレンダリング時にデータをマージするセクションの場合、マージしたデータが表示されるボディ行にのみ網掛けは適用されます。データマージプロセスに関係しないボディ行に対しては、網掛けは適用されません。網掛けを適用するすべての行に名前が必要です。474 ページの「[「連結」タブのボディ行のプロパティ](#)」を参照してください。

最初の行

1 番目の網掛けの色を適用する、先頭のボディ行から始まるボディ行の数を設定します。

カラーピッカー

 網掛けに使用する1番目の塗りつぶし色を設定します。

次の行

2 番目の網掛けの色を適用するセクション内のボディ行の数を設定します。1 番目の網掛けの色を適用するボディ行に後続する行を指定します。

カラーピッカー

 網掛けに使用する2番目の塗りつぶし色を設定します。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

474 ページの「[「セクション」タブのセクションプロパティ](#)」

476 ページの「[「ページ編集」タブのセクションプロパティ](#)」

477 ページの「[「連結」タブのセクションプロパティ](#)」

「ページ編集」タブのセクションプロパティ

セクションを選択すると、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブに複数のページ番号オプションが表示されます。

配置

セクションをどこに配置するかを決定します。

前のサブフォームに続く 前のセクションの後にセクションを配置します。

コンテンツ領域内／[コンテンツ領域名] セクションを指定されたコンテンツ領域内に配置します。

次のコンテンツ領域の先頭 セクションを次のコンテンツ領域の先頭に配置します。

コンテンツ領域の先頭／[コンテンツ領域名] セクションを指定されたコンテンツ領域の先頭に配置します。

ページ上／[ページ名] セクションを指定されたページに配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

次のページの先頭 次のページの先頭にセクションを配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

ページの先頭／[ページ名] 指定のページがレンダリングされる場合は常に、そのページの先頭にセクションを配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

奇数ページ 奇数ページに印刷されるように設定されたページに行を配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、行を奇数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

偶数ページ 偶数ページに印刷されるように設定されたページに行を配置します。

次のページの先頭 指定のページがレンダリングされる場合は常に、行を偶数ページの先頭に配置します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

後

セクションの配置後に記入する領域を決定します。

親文書の記入を継続 親テーブル内でまだ記入されずに残っているすべてのオブジェクトに引き続きデータをマージします。

次のコンテンツ領域へジャンプ 次のコンテンツ領域への記入を開始します。

コンテンツ領域へジャンプ／[コンテンツ領域名] 指定されたコンテンツ領域への記入を開始します。

次ページへジャンプ 次のページへの記入を開始します。

ページへジャンプ／[ページ名] 指定されたページへの記入を開始します。

次の奇数ページへジャンプ 次の奇数ページへの記入を開始します。

次の偶数ページへジャンプ 次の偶数ページへの記入を開始します。

条件付き改行

セクションに対して定義されている条件付き改行の数を指定します。203 ページの「[条件ステートメントを使用してテーブル、ヘッダー行、ボディ行およびセクション区切りを制御するには](#)」を参照してください。

オーバーフロー

複数ページにまたがるセクションのオーバーフローを設定します。199 ページの「[テーブルが複数ページにまたがるように設定するには](#)」を参照してください。

なし 次のページへの記入を開始します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。

コンテンツ領域へジャンプ／[コンテンツ領域名] 指定されたコンテンツ領域への記入を開始します。

ページヘジャンプ／[**ページ名**] 指定されたページへの記入を開始します。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

474 ページの「[「セクション」タブのセクションプロパティ](#)」

475 ページの「[「行の網掛け」タブのセクションプロパティ](#)」

477 ページの「[「連結」タブのセクションプロパティ](#)」

「連結」タブのセクションプロパティ

セクションを選択すると、オブジェクトパレットの「連結」タブに複数のデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

セクションの名前を設定します。テーブル内の既存のセクションが同じ名前を使用している場合、名前の横の番号で現在のセクションのインスタンスを示します。デフォルトでは、セクションには名前がありません。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

各データアイテムについてセクションを繰り返す／最小値 / 最大値 / 初期値

セクションの繰り返しを有効または無効にします。207 ページの「[テーブルセクションの使用](#)」を参照してください。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

474 ページの「[「セクション」タブのセクションプロパティ](#)」

475 ページの「[「行の網掛け」タブのセクションプロパティ](#)」

476 ページの「[「ページ編集」タブのセクションプロパティ](#)」

「セル」タブのセルのプロパティ

セルを選択すると、オブジェクトパレットの「セル」タブに形式設定オプションが表示されます。

デフォルトでは、セルにはテキストを格納するので、「セル」タブにはテキストオブジェクト用の形式設定オプションが表示されます。セルのコンテンツを変更すると、「セル」タブにはオブジェクトの種類に対応した形式設定オプションが表示されます。例えば、セルのコンテンツをテキストフィールドに変更すると、「セル」タブにはテキストフィールドオブジェクト用の形式設定オプションが表示されます。

セルの種類は任意のデフォルトのオブジェクトタイプに設定できます。「セル」タブに表示される形式設定オプションは、オブジェクトを直接フォームに追加した場合に使用できる形式設定オプションと同じです。例えば、セルの種類が「テキストフィールド」の場合、「セル」タブのオプションはテキストフィールドオブジェクトの「フィールド」タブのオプションと同じです。同様に、セルの種類が円の場合、「セル」タブには円オブジェクトの「描画」タブのオプションと同じオプションが表示されます。

「セル」タブには、オブジェクトタイプの形式設定オプションのほかに、次のオプションが表示されます。

セルの結合  選択した 2 つ以上の隣接するセルを結合します。

セルを横に分割  結合したセルが選択されている場合、元の位置に基づいて分割します。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示 (画面のみ) オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示 (印刷のみ) オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

205 ページの「[セルを別の種類のオブジェクトに変更するには](#)」

204 ページの「[セルの結合と分割を行うには](#)」

478 ページの「[「値」タブのセルのプロパティ](#)」

478 ページの「[「連結」タブのセルのプロパティ](#)」

「値」タブのセルのプロパティ

値オプションの適用対象となるオブジェクトの種類（テキストフィールドオブジェクト、数値フィールドオブジェクトなど）に設定されているセルを選択すると、オブジェクトパレットの「値」タブに複数のオプションが表示されます。「値」タブに表示されるオプションは、選択するセルの種類によって異なります。例えば、テキストフィールドセルを選択すると、「値」タブにはテキストフィールドオブジェクト用のオプションが表示されます。

「値」タブに表示されるオプションは、フォームにオブジェクトを直接追加する場合に「値」タブで利用できるオプションと同じです。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

477 ページの「[「セル」タブのセルのプロパティ](#)」

478 ページの「[「連結」タブのセルのプロパティ](#)」

「連結」タブのセルのプロパティ

連結オプションの適用対象のオブジェクト（テキストフィールドオブジェクト、サブフォームオブジェクトなど）を含むセルを選択すると、オブジェクトパレットの「連結」タブに複数のデータ連結オプションが表示されます。「連結」タブに表示されるオプションは、選択するセルの種類によって異なります。

例えば、テキストフィールドセルを選択すると、「連結」タブにはテキストフィールドオブジェクト用のオプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

「連結」タブに表示されるオプションは、フォームにオブジェクトを直接追加する場合に「連結」タブで使用できるオプションと同じです。

関連項目

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

477 ページの「[「セル」タブのセルのプロパティ](#)」

478 ページの「[「値」タブのセルのプロパティ](#)」

テキスト

「描画」タブのテキストプロパティ

テキストオブジェクトを作成すると、オブジェクトパレットの「描画」タブに、オブジェクトの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

コンテンツ内で改ページを許可する

テキストオブジェクトのコンテンツ内で改ページを許可します。

合わせる対象: 次へ

改行が挿入されたときに、テキストオブジェクトをドキュメント内の次のオブジェクトにあわせませす。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ隅にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

315 ページの「[テキストの使用](#)」

318 ページの「[テキストオブジェクト内で改ページを許可するには](#)」

319 ページの「[テキストオブジェクトをフォーム内の次のオブジェクトに合わせるには](#)」

テキストフィールド

「フィールド」タブのテキストフィールドプロパティ

テキストフィールドを選択すると、オブジェクトパレットの「フィールド」タブに、数値フィールドの形式設定に使用できるオプションが表示されます。

種類

オブジェクトの種類を設定します。オブジェクトは、あらゆるフォームの構築単位です。

キャプション

オブジェクトのキャプションを設定します。

注意：「キャプション」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。522 ページの「[キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

表示方法

フィールドの入力可能領域の境界線スタイルを設定します。

なし フィールドの周囲に境界線を表示しません。

下線付き フィールドに下線を付けます。

ボックス (実線) フィールドの周囲に実線の境界を表示します。

ボックス (くぼみ) フィールドの周囲に陰影を付け、フィールドが立体的に見えるようにします。

カスタム カスタム表示ダイアログボックスを開きます。入力可能な領域の外観をカスタマイズするには、このオプションを選択します。

複数行

複数行を有効または無効にします。

文字数の制限と最大文字数

指定した最大文字数に従ってフィールドの長さを設定します。

文字数を表示領域に制限

テキストフィールドの長さに従い、フィールドに入力できる最大文字数を設定します。

コンテンツ内で改ページを許可する

テキストフィールドオブジェクトのコンテンツ内で改ページを許可します。

合わせる対象: 次へ

改行が挿入されたときに、テキストフィールドオブジェクトをドキュメント内の次のオブジェクトに合わせます。

マス目で区切る

comb 形式を有効にします。

フィールドフォーマット

フォーム内のフィールド値のプレーンテキスト形式またはリッチテキスト形式を有効にします。

プレーンテキストのみ プレーンテキストの形式設定を有効にします。

リッチテキスト リッチテキストの形式設定を有効にします。

パターン

フォームでの形式設定された値の表示、ユーザー入力のシンタックス、ユーザー入力の有効性の検証、および連結されたデータの格納と取得またはフォームがデータソースに連結されていないときのデータ保存に使用するパターンを設定します。677 ページの「[パターンダイアログボックス](#)」を参照してください。

配置

ユーザーが Acrobat や Adobe Reader でフォームを表示する場合またはユーザーがフォームを印刷する場合に、PDF フォームにオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

表示 オブジェクトが画面や印刷時に表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。すべてのオブジェクトのデフォルトの配置設定は「表示」です。

表示（画面のみ） オブジェクトが画面には表示されますが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷したフォームには表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

表示（印刷のみ） オブジェクトが画面には表示されませんが、Acrobat や Acrobat Reader で印刷、またはサーバーから直接印刷したフォームには表示され、フォームレイアウトのスペースを占有します。

非表示 オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースを占有します。

隠す（レイアウトから除外） オブジェクトが画面や印刷したフォームに表示されず、フォームレイアウトのスペースも占有しません。

片面印刷のみ オブジェクトが、片面印刷を使用した場合のみ表示されます。

両面印刷のみ オブジェクトが、両面印刷を使用した場合に表示されます。両面印刷を行うときに、片面印刷とは異なるページ間にページ番号を配置する必要がある場合は、このオプションを使用すると便利です。

ロケール

言語と国または地域に対して指定されたロケールに従ってデータをレンダリングします。リストから特定の言語と国を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

デフォルトロケール フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで指定されたデフォルトロケールを使用します。

ビューアのシステムロケール ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

注意：ロケールリスト内のロケールは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。

関連項目

319 ページの「[テキストフィールドの使用](#)」

「値」タブのテキストフィールドプロパティ

テキストフィールドを作成すると、「値」タブに、このオブジェクトに適用できるオプションが表示されます。

種類

実行時の計算とプロンプトを有効にします。

ユーザー定義 - オプション データを入力するかどうかをユーザーが選択できます。

ユーザー定義 - 推奨 ユーザーがフィールドに値を入力することが推奨されます。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとする、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。ユーザーはメッセージを無視してフォームを送信できます。

ユーザー定義 - 必須 ユーザーがフィールドに値を入力する必要があります。ユーザーが値を入力し、フィールドから移動して値をクリアした場合、カスタムメッセージボックスが表示されます（「空白のメッセージ」ボックスに設定されている場合）。カスタムメッセージを入力しない場合は、標準的な空白時のメッセージが表示されます。メッセージは、フィールド内に値がある場合、値が削除された場合、およびユーザーが値を入れ直さずにフィールドから移動した場合にのみ表示されます。ユーザーがフィールドに値を入力せずにフォームを送信しようとする、「このフィールドは必須です。」というエラーメッセージが表示されます。

計算済み - 読み取り専用 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。ユーザーは計算値を編集できません。

計算済み - 上書き可能 データ値が計算され、アタッチされたスクリプトによって表示されます。入力を処理するための計算スクリプトが記述されている場合、ユーザーは計算結果の値を編集できます。ユーザーが計算結果の値を編集すると、「上書きメッセージ」ボックスで指定したカスタムメッセージが表示されます。

保護済み ユーザーはフィールド内の値を変更できません。演算などによる間接的な変更はできます。保護済みのフィールドはタブの順序に含まれず、イベントも生成されません。

読み取り専用 データ値が実行時にマージまたは計算され、表示されます。ユーザーは値を編集できません。

デフォルト

フィールドの初期値を設定します。値は、「フィールド」タブにある「パターン」オプションを使用して指定された設定に従って形式設定されますが、フィールドに対して指定されたロケールに応じた値に適合させる必要があります。データが連結され、データパターンが指定されている場合は、この値は「連結」タブで指定されたデータパターンと一致する必要があります。357 ページの「[デフォルト値を指定するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - オプション」、「ユーザー定義 - 推奨」、「ユーザー定義 - 必須」または「読み取り専用」に設定されている場合のみ使用可能です。

空白のメッセージ

推奨の値または必須の値の入力を促すメッセージを設定します。358 ページの「[ユーザーにデータの入力を促すメッセージを表示するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「ユーザー定義 - 推奨」または「ユーザー定義 - 必須」に設定されている場合のみ使用可能です。

検証パターン

ユーザー入力の有効性を確認するための検証パターンを設定します。このパターンは、ユーザー入力のシンタックスと一致し、「連結」タブで選択したデータ形式と互換性のあるものでなければなりません。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護済み」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。

検証パターンのメッセージとエラー

生の値が検証パターンと一致しなかった場合に表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

検証スクリプトのメッセージとエラー

検証スクリプトで受け入れ不可能な値が検知されたときに表示されるカスタムメッセージを設定します。デフォルトでは、実行時にこの状況が起きるとプログラミングエラーが生成されます。代わりに警告を生成するには、「エラー」オプションの選択を解除します。359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。「検証スクリプトのメッセージ」はダイナミックプロパティです。ダイナミックプロパティは、緑の下線が引かれたアクティブなラベルによって識別されます。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルのオン/オフを切り替えるには、オブジェクトパレットメニューの「ダイナミックプロパティを表示」コマンドを使用します。526 ページの「[検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

フォームレベルの検証設定

「フォームの検証」タブのフォームのプロパティダイアログボックスを開きます。656 ページの「[フォームの検証（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。

計算スクリプト

オブジェクトの値を、オブジェクトの calculate イベントに記述されているスクリプトによって計算します。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 読み取り専用」に設定されている場合にのみ使用できます。

実行時のプロパティ

オブジェクトに対して、次の実行時プロパティのいずれかを設定します。実行時プロパティを選択すると、フォームが表示されるときに、このオプションに対応する有効値がダイナミックに挿入されます。

現在のページ番号 完成したフォームの現在のページ番号を挿入します。

ページ数 完成したフォームの合計ページ数を挿入します。

ビューアのロケール フォームを処理するアプリケーションに対して指定されたロケールのロケール識別子を挿入します。例えば、英語（米国）のロケール識別子は **en_US** で、**en** が言語を **US** が国を表します。

ビューアの名前 フォームを処理するアプリケーションの名前を挿入します。

ビューアのバージョン フォームを処理するアプリケーションのバージョン番号を挿入します。

現在のシート番号 現在アクティブになっている用紙（シート）の番号を数値フィールドに挿入します。

シート数 フォームを構成する用紙（シート）の合計数を挿入します。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 読み取り専用」に設定されている場合にのみ使用できます。

上書きメッセージ

ユーザーに対して、計算済みフィールドの値を変更しようとしていることを知らせるカスタムメッセージを設定します。このメッセージは、計算結果の値をユーザーが変更すると表示されます。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「計算済み - 上書き可能」に設定されている場合にのみ使用できます。

関連項目

319 ページの「[テキストフィールドの使用](#)」

「連結」タブのテキストフィールドプロパティ

テキストフィールドを作成すると、「連結」タブに、このオブジェクトに適用できるデータ連結オプションが表示されます。データ接続の作成に関連しないオプションは、データソースに連結されたデータにも、データソースに連結されていないときファイルに保存されたデータにも適用されます。

名前

テキストフィールドの名前を設定します。259 ページの「[オブジェクトの名前を設定および変更するには](#)」を参照してください。

データの連結

デフォルトのデータ連結メソッドを設定します。

名前による データマージオプションと保存オプションを有効にします。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

グローバルデータによる 1 つのデータ値を、同じ名前を持つすべてのオブジェクトと関連付けます（373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」を参照してください）。

新規データ接続 新規データ接続ウィザードを起動します。ウィザードを使用して接続を定義するには、491 ページの「[XML データファイルへのデータ接続の作成](#)」または 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」を参照してください。

データ連結なし データ連結を無効にします。マージされたデータをオブジェクトで取得または表示しなくなるので、フォームデータを保存または送信する際に、オブジェクトに関連付けられている情報が出力として書き込まれなくなります。

連結の読み込み / 書き出し

WSDL データ接続に対して連結の読み込みと書き出しを設定します。495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」を参照してください。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

319 ページの「[テキストフィールドの使用](#)」

485 ページの「[テキストフィールドパターン](#)」

テキストフィールドパターン

テキストフィールドのテキストパターンを作成するには、次の記号を使用する必要があります。

注意：コンマ (,)、ダッシュ (-)、コロン (:)、スラッシュ (/)、ピリオド (.) およびスペース () はリテラル値として扱われ、パターンのどこでも使用できます。パターンにテキスト文字列を含めるには、文字列を二重引用符 (") で囲みます。例えば 'Your phone number is (999)' 999-9999 のように、「表示パターン」に指定します。

テキスト記号	説明	例
A	英字 1 文字	表示パターン：A9A 9A9 入力値：K1S5K2 形式設定された値：K1S 5K2
X	1 文字	表示パターン：XXX XXX 入力値：!1\$5&2 形式設定された値：!1\$ 5&2
O	英数字 1 文字	表示パターン：OO OO OO 入力値：123ABC 形式設定された値：12 3A BC
0	英数字 1 文字	表示パターン：00 00 00 入力値：123ABC 形式設定された値：12 3A BC
9	1 桁の数値	表示パターン：999-9999 入力値：9407000 形式設定された値：940-7000

注意：O（大文字のオー）と 0（ゼロ）は、入力し間違えたり読み間違えたりする人が多いので、ここでは同じものとして認識されるようになっています。

予約済みの記号

以下の記号は特別な意味を持つので、リテラルテキストとしては使用できません。

記号	説明
?	送信する場合、この記号は何らかの 1 文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。
*	送信する場合、この記号は 0 または Unicode の空白文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。
+	送信する場合、この記号は 1 つ以上の Unicode の空白文字に対応します。表示のために結合する場合はスペースになります。

関連項目

355 ページの「[フィールド値の形式設定とパターンの使用](#)」

368 ページの「[複雑なフィールドパターン](#)」

486 ページの「[テキストパターンの例](#)」

テキストパターンの例

定義済みパターン

パターンダイアログボックス（オブジェクトパレット／パターン）の種類を選択リストから定義済みのパターンを選択することによって、表示パターン、編集パターンおよび検証パターンを簡単に作成および編集して、データ入力値（ユーザー入力または連結データ）の形式を設定できます。例えば、「郵便番号（英国）」オプションでは A9A 9A9|AA9A 9A9 というパターンが適用され、KB1C3R2 という入力値は KB1C 3R2 と形式設定されます。

カスタムパターン

次の表に、表示パターンを使用して入力値（ユーザー入力データまたは連結データ）を形式設定するために「パターン」ボックスで定義可能なカスタムパターンの例を示します。

カスタムパターン	入力値	形式設定された値
'+1 ('999)' 999-9999	6135551212	+1 (613) 555-1212
999.999.9999	6135551212	613.555.1212

今度は、シリアル番号の入力データのパターンを考えてみましょう。3 文字の英字の次に 4 桁の数字を入力し、次に任意の種類の文字を 1 つ入力するようにします。適切なテキストパターンは次のようになります。

AAA-9999-X

次の表に、編集パターンまたはデータパターンを使用して入力値（ユーザー入力データまたは連結データ）を生の値に変換した場合の例を示します。

カスタムパターン	入力値	生の値
AAA-9999-X	ABC-1234-5	ABC12345
	ABC-1234-D	ABC1234D
	123-4567-8	""

この最後の例では、入力値 123-4567-8 がパターンに一致しないので、結果の生の値は空文字列になっています。

関連項目

355 ページの「[フィールド値の形式設定とパターンの使用](#)」

355 ページの「[いつパターンを使用するか](#)」

356 ページの「[値の形式設定に関するデフォルト](#)」

303 ページの「[Paper Forms Barcode について](#)」

308 ページの「[Paper Forms Barcode を使用する際のデザイン上のヒント](#)」

第 11 章：データソースの操作

簡単なデータ取得以上のことを行うフォームデザインを作成できます。Designer を使用すると、フォームデザインを企業データベースや Web サービスと統合して、企業データソースについて読み込み、認証、データの追加を行うデータ取得ソリューションを構築し管理をすることができます。これを行うには、使用するフォームデザインをデータソースと接続し、データをフォームデザインのフィールドに連結します。

以下のデータソースに接続し、フィールドを連結することができます。

XML スキーマ XML スキーマは、XML 文書内の要素に関する正式な記述方法を指定したものです。XML スキーマに接続すると、スキーマに定義されている要素と属性をフォームデザインのフィールドに連結できます。接続に使用する XML データルート要素を選択することもできます。

OleDb データベース OleDb は Microsoft の統一された規格で、組織全体のデータに対し下位レベルのアプリケーションプログラムインターフェイス (API) を提供します。OleDb データベースに接続すると、企業データベースサーバー用のデータエントリツールや取得ツールとして機能するフォームデザインを作成できます。データベースを使用して、実行時にフォームの一部にコンテンツを提供することもできます。

サンプル XML データ XML ファイルに接続すると、XML ファイルに定義されている要素と属性にフィールドを連結できます。この方法は、XML スキーマはないが、サンプルとして使用できる XML ファイルがある場合に便利です。

Adobe Data Model Adobe Data Model に接続すると、このモデルに定義された要素、属性および関係をフォームのフィールドに連結できます。その後で、サーバーサイドの処理を使用し、モデルに基づくデータとフォームデザインを結合することができます。

Web サービス記述言語 (WSDL) ファイル WSDL ファイルは、XML を使用して Web サービスを記述したファイルです。WSDL ファイルに接続すると、フォームデザインのフィールドと 1 つ以上の Web サービスを連結できます。Web サーバー上の WSDL 文書へのデータ接続を作成し、HTTP/HTTPS 認証、メッセージレベル認証、またはその両方を使用して、アクセスを制御できます。

関連項目

552 ページの「[デジタル ID の読み込み](#)」

データ接続について

インタラクティブなフォームデザインを作成するときは、外部データソース（データベース、XML データファイル、XML スキーマおよび Web サービス）を使用して、フィールド値を定義したり、フォームのフィールドに入力したり、フォームに入力されたデータを収集したりできます。Designer には、データソースへの接続を定義できるデータ接続ツールが用意されています。これらのタイプのデータを受け取るフィールドをデータソースに連結することができます。フィールドでスク립ティングがサポートされている場合は、ビジネスロジックを表現し、計算および検証を作成するために、FormCalc または JavaScript ソリューションを記述することができます。また、「データコンボボックス」と「データリストボックス」という 2 つのカスタムオブジェクトを利用してデータベースに接続し、リストボックスに入力することもできます。この 2 つのオブジェクトは、オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリにあります。

選択するデータのタイプは、フォームと、そのフォームをどのように配布するかによって異なります。1 つまたは複数のデータソースに接続し、データをフォームデザインの 1 つまたは複数のフィールドに連結することができます。

タイプ	説明
XML スキーマ	XML スキーマは、XML 文書内の要素に関する正式な記述方法を指定したものです。1 つの XML スキーマをフォームに接続し、スキーマに定義されている特定の要素と属性をフォームのフィールドに連結することができます。この操作は、スキーマと一致する形式でフォームフィールドにデータをマップしたり、フォームフィールドからデータをマップしたりするために使用できます。詳しくは、490 ページの「 XML スキーマへのデータ接続の作成 」を参照してください。
サンプル XML データ	XML スキーマがない場合は、XML データファイルをフォームに接続し、ファイルの要素と属性をフォームのフィールドに連結することができます。フォームに取り込まれるデータは、XML データファイルと一致します。データファイルは、必要な形式でフォームフィールドにデータをマップしたり、フォームフィールドからデータをマップしたりするために使用できます。詳しくは、491 ページの「 XML データファイルへのデータ接続の作成 」を参照してください。
Adobe Data Model	Adobe Data Model に接続すると、LiveCycle で取得されたデータ構造を使用するフォームを作成できます。Designer では、Adobe Data Model のデータ接続を含むフォームを XDP 形式でのみ保存します。詳しくは、491 ページの「 モデルへのデータ接続の作成 」を参照してください。
WSDL ファイル	WSDL ファイルの Web サービスは、HTTP/HTTPS とメッセージレベル (SOAP) の認証規格を使用してインターネット経由で他のアプリケーションに関数とデータを提供します。Web サービスは、コマンドを受け取って処理し、フォームに結果を返すことができます。Web サービスをフォームに接続することができます。 詳しくは、495 ページの「 WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する 」を参照してください。
OLEDB データベース	データベースをフォームに接続して、フォームとデータベース間でデータを交換することができます。データベースからのデータでフィールドを入力したり、フォームに取り込まれたデータをデータベースと統合したりできます。データ交換は、クライアントサイドの連結を使用する Acrobat のインタラクティブフォームの場合に可能です。詳しくは、492 ページの「 OLE データベースへのデータ接続の作成 」を参照してください。

Designer には、データソースの作成や、データソースへの連結、データソースに対する読み込みと書き出しを行うためのツールが組み込まれています。ただし、データソースの操作経験がないフォーム作成者は、データ接続を実装するためのサポートを提供する、データベース管理者やその他の技術スタッフの支援を求めてください。

フォームで必要とされるデータ交換を設定して実行する方法を計画するときは、以下の点を検討してください。

- ユーザーが入力したデータを取得し、フォームフィールドにデータを読み込むために使用するデータソースを特定します。
- データの構造を定義するために XML スキーマまたはデータファイルへのフィールド連結を使用するかどうかを決定します。
- 既存のデータソースで使用されるデータタイプおよび構造などのデータマッピング情報を取得します。

注意：Acrobat では、セキュリティ上の問題から Driver=; 構文を使用して ODBC 接続文字列を指定できないので、クライアントシステムには ODBC 接続用に設定された DSN が必要です。また、Adobe Reader での利用を目的としたフォームで外部データソースを使用する場合は、Reader Extensions 10 を使用してフォームの使用権限を設定する必要があります。

関連項目

490 ページの「[データソースへの接続](#)」

497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」

12 ページの「[データ表示パレット](#)」

データ接続とデータ表示パレットの更新

データ接続を作成すると、Designer ではデータ記述が作成され、フォームに保存されます。さらに、データ表示パレットにデータソースの階層ビューが表示されます。データソースが埋め込み XML スキーマまたは Adobe Data Model である場合は、フォームに保存された記述から階層が生成されます。データソースが非埋め込み XML スキーマ、XML データファイルまたは WSDL ファイルである場合は、その外部ファイルを使用して階層が生成されます。

Designer では、フォームを再度開いたときに、データ接続のソースファイルが変更されているかどうかを確認されます。変更されている場合は、データ接続を更新するよう求められます。データ接続を更新すると、Designer によって、フォームファイルに保存されているデータ記述が再作成されます。データ表示パレットでも階層が再生成されます。

更新の警告が表示されないようにするには、オプションダイアログボックスのデータ連結パネルで、「ソースファイルが変更された場合に更新ダイアログを表示」オプションの選択を解除します。

非埋め込み XML スキーマのデータ接続に応じたデータ表示パレットの更新

データ接続のソースが非埋め込み XML スキーマ、XML データファイルまたは WSDL ファイルである場合は、データ表示パレットの階層ビューが外部ファイルを使用して生成されます。外部ファイルが変更されると、フォームを再度開いたときに、その変更を反映するためにデータ表示パレットの階層が再生成されます。フォームの編集集中に外部ファイルが変更された場合は、ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、データ表示パレットの階層を再読み込みすることができます。

これらの警告が表示されないようにするには、フォームファイルを開いたときに、プロンプトに応じてデータ接続を更新します。または、データ表示パレットでデータ接続名を選択して右クリックし、「接続プロパティ」をクリックしてデータ接続を再作成します。

データ表示パレットを使用するには

- ノードの詳細を表示するには、ウィンドウ／情報を表示を選択します。
- ノードを展開するには、プラス記号 (+) をクリックします。
- ノードを折りたたむには、マイナス記号 (-) をクリックします。
- ノードのデータ説明（最高 25 文字）を表示するには、パレットメニューのデータ説明を表示を選択します。ノードにキャプションが設定されていない場合は、データ名が表示されます。データを説明するデータソースに接続している必要があります。
- ノードのデータ名と説明の両方を表示するには、パレットメニューの両方表示を選択します。データを説明するデータソースに接続している必要があります。

関連項目

623 ページの「[データ表示パレットメニュー](#)」

497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」

スキーマのフィルタリング

スキーマのフィルタリングでは、データ表示パレットで表示するノードを選択できます。大きいスキーマの場合は、スキーマのフィルタリングによって複数のノードおよび子孫をまとめて選択できます。

スキーマのフィルタリングはデータ表示パレットにのみ影響し、スキーマから生成されるデータ記述には影響しません。フィルターを適用したデータ表示パレット内で作成した連結は、フィルターを適用していない場合と同じです。また、データ表示パレットに表示されないノードも有効なままで、検証はデータスキーマ全体に適用されます。

注意：表示するノードを選択する場合、参照データノードを選択することはできません。参照データノードは、リレーショナルデータモデルに基づくソースに接続したときに生成されます。

データ表示パレットにフィルターを適用するには

- 1 データ表示パレットで、最上位ノードを選択します。
- 2 データ表示パレットメニューの「データビューにフィルターを適用」を選択します。
- 3 表示するノードを選択し、「OK」をクリックします。

データ表示パレットからフィルターを削除するには

- 1 データ表示パレットで、最上位ノードを選択します。
- 2 データ表示パレットメニューの「データビューのフィルターをクリア」を選択します。

関連項目

492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

データソースへの接続

フォームデザインのデータソースへの接続は、データをフォームデザインのフィールドに連結するための第 1 段階です。フォームデザインにデータソース接続を作成すると、データ表示パレットに各データソースの階層ビューが表示されます。階層の上位ノードは各データ接続を表しており、それらのノードには接続を作成したときに割り当てた名前が表示されます。データ接続を作成したら、データをフォームデザインのフィールドへ連結する必要があります。

XML スキーマへのデータ接続の作成

フォームデザインに XML スキーマ定義を読み込み、フォームデザインのオブジェクトと XML スキーマ定義の要素や属性を連結することができます。

注意：<xs:include> または <xs:import> スキーマ要素を含む XML スキーマを読み込む場合、その要素の schemaLocation 属性はローカルファイルシステム上のファイル参照に設定する必要があります。

- 1 次のいずれかを実行します。
 - ファイル／新規データ接続を選択します。
 - ページでオブジェクトを選択して、オブジェクトパレットで「連結」タブをクリックし、データ連結メニューから「新規データ接続」を選択します。
- 2 「XML スキーマ」を選択して「次へ」をクリックします。
- 3 次のいずれかのタスクを実行します。
 - 「参照」をクリックし、XML スキーマファイルを検索して選択します。
 - XML スキーマファイルの場所を示す URL を「XML スキーマファイルの選択」フィールドに入力するか、貼り付けます。
- 4 以下のオプションのうちの 1 つまたは複数を指定します。
 - XML データのルート要素名を使用メニューで、フォームデザインのルートサブフォームの名前付けに使用するルートデータ要素を選択します。このメニューには、XML スキーマのグローバル要素宣言が含まれています。
 - (オプション)「XML スキーマを埋め込む」を選択して、XML スキーマをパケットとして XDP ファイルに埋め込みます。

- (オプション)「受信データ変換」を選択して、「参照」をクリックし、フォームデザインの受信データ変換に使用される XSLT ファイルを検索して選択します。
- (オプション)「送信データ変換」を選択して、「参照」をクリックし、フォームデザインの送信データ変換に使用される XSLT ファイルを検索して選択します。

5 「完了」をクリックします。データ表示パレットにデータが表示されます。

注意：データ表示パレットの **name** の前にあるアットマーク (@) は、このノードが **option** ノードの属性であることを表します。また、**#data** は、**option** ノードの実値を表します。

関連項目

497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」

498 ページの「[連結されたフィールドまたはサブフォームを作成するには](#)」

499 ページの「[参照データノードをフィールドまたはサブフォームに連結するには](#)」

XML データファイルへのデータ接続の作成

XML スキーマがない場合は、データサンプルとして使用する XML ファイルへのデータ接続を作成することができます。

1 次のいずれかのタスクを実行します。

- ファイル／新規データ接続を選択します。
- ページでオブジェクトを選択します。オブジェクトパレットで「連結」タブをクリックし、データ連結メニューから「新規データ接続」を選択します。

2 「サンプル XML データ」を選択して「次へ」をクリックします。

3 「参照」をクリックし、XML ファイルを検索して選択します。

4 以下のオプションのうちの 1 つまたは両方を選択します。

- (オプション)「受信データ変換」を選択して、「参照」をクリックし、フォームデザインの受信データ変換に使用される XSLT ファイルを検索して選択します。
- (オプション)「送信データ変換」を選択して、「参照」をクリックし、フォームデザインの送信データ変換に使用される XSLT ファイルを検索して選択します。

5 「完了」をクリックします。データ表示パレットにデータが表示されます。

関連項目

497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」

490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」

499 ページの「[参照データノードをフィールドまたはサブフォームに連結するには](#)」

モデルへのデータ接続の作成

他の Document Services 製品で取得したデータ構造を使用してフォームデザインを作成できます。Adobe アプリケーションモデリングテクノロジーでは、UML に類似した機能を提供するだけでなく、派生プロパティ、バリエーション、制約、フィルター、スタイルなどを含む高度な機能をサポートしています。Adobe Data Model の接続を作成するには、FML ファイルを選択します。

モデルへのデータ接続により、このモデルに基づく要素と属性をフォームのフィールドに連結できます。データ構造を使用して、連結されたフィールドとサブフォームを作成することもできます。次に、サーバーにフォームを送信して、モデルに基づくデータとフォームを結合することができます。

注意： Adobe Data Model に接続されるフォームは XDP 形式で保存され、スタティック PDF としてプレビューされます。Adobe Data Model の接続をフォームに追加すると、インタラクティブフォームに関するすべての機能が無効になります。

次のいずれかのタスクを実行します。

- ファイル／新規データ接続を選択します。
- ページでオブジェクトを選択します。オブジェクトパレットで「連結」タブをクリックし、データ連結メニューから「新規データ接続」を選択します。
- 「新規データ接続の名前」ボックスに接続名を入力します。
名前は 1 語で 127 文字以下にする必要があります。また、名前の 1 文字目は文字またはアンダースコア (_) である必要があります。残りの文字には、文字、数字、ハイフン (-)、アンダースコアまたはピリオド (.) を使用できます。
- 「Adobe Data Model」を選択して「次へ」をクリックします。
- 「参照」をクリックし、FML ファイルを検索して選択します。
- 「完了」をクリックします。データ表示パレットにデータスキーマが表示されます。

関連項目

497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」

490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」

499 ページの「[参照データノードをフィールドまたはサブフォームに連結するには](#)」

OLE データベースへのデータ接続の作成

場合によっては、フォームからデータベースの情報にアクセスする必要があります。例えば、フォームへの入力時にユーザーが入力する従業員 ID のように、ある値に基づいてデータを抽出しフォームに埋め込みたいとします。ユーザーが ID 番号を入力すると、データベースから一致するレコードが検索され、フォームに表示されます。

データベースのデータを表示、挿入、更新または削除するには、データベースへの接続を作成し、フォームのフィールドとデータベースのテーブルの対応する列を連結します。

スクリプティングによって、データベースのレコードの挿入、更新、削除を行ったり、レコード間を前後に移動したりできます。

データベースを XML データファイルなどに対して使用するタイミングの決定は、アプリケーション開発者に一任されています。1 つのフォームに複数のデータ接続 (1 つはデータベース、1 つは XML ファイル) を設定し、各データ接続に個々のフィールドを連結できます。

OleDb は、Designer から接続できる唯一のデータベース接続です。Microsoft OleDb Provider for ODBC ドライバーを使用すると、ODBC データソース名 (DSN) によって識別されるデータベースにアクセスすることもできます。Microsoft OleDb Provider for ODBC 以外の OLE ドライバーを使用することもできますが、実行時に機能させる前に、フォームを Acrobat で認証することが必要になります。

Acrobat では、セキュリティ上の問題から Driver=; 構文を使用して ODBC 接続文字列を指定することはできません。したがって、クライアントコンピュータには ODBC 接続用に設定された DSN が必要になります。

Adobe Reader を使用して入力するフォームデザインで外部データソースを使用する場合は、Reader Extensions 10 を使用してフォームの使用権限を設定する必要があります。

1 次のいずれかのタスクを実行します。

- ファイル／新規データ接続を選択します。
- ページでオブジェクトを選択します。オブジェクトパレットで「連結」タブをクリックし、データ連結メニューから「新規データ接続」を選択します。

2 「新規データ接続の名前」ボックスに接続名を入力します。

名前は 1 語で 127 文字以下にする必要があります。また、名前の 1 文字目は文字またはアンダースコア (_) である必要があります。残りの文字には、文字、数字、ハイフン (-)、アンダースコアまたはピリオド (.) を使用できます。

3 「OLEDB データベース」を選択して「次へ」をクリックします。

4 OLEDB 接続ダイアログボックスで、使用するデータベースの接続文字列を設定します。設定に関する情報が必要な場合は、使用するデータベースプロバイダーのマニュアルを参照してください。

5 以下のいずれかのオプションを選択して「次へ」をクリックします。

- 「表」オプションを選択し、記録元として表を選択します。この一覧には、接続文字列によって識別されるデータベースで使用可能なすべてのテーブルの一覧が含まれます。
- 「ストアードプロシージャ」を選択し、一覧から記録元を選択します。この一覧には、データベースで使用可能なすべてのストアードプロシージャの一覧が含まれます。
- 「SQL クエリ」オプションを選択し、SQL クエリ文字列を入力します。

6 「ユーザー」と「パスワード」のボックスにユーザー名とパスワードを入力し、適切な ADO レコードセットオプションを設定します。

7 「次へ」をクリックします。Designer によってデータベースへの接続が成功したかどうかを検証され、必要な場合は資格情報を求めるプロンプトが表示されます。

8 「完了」をクリックします。データ表示パレットにデータが表示されます。

関連項目

509 ページの「[フィールドの種類](#)」

WSDL ファイルを使用したデータ接続の作成について

Web Service Definition Language (WSDL) 文書によって定義された Web サービスには、多くの操作が記載されています。WSDL ファイルによって、各操作に入力メッセージ、出力メッセージまたはその両方を定義できます。入力メッセージはサーバーに送信され、サーバーは出力メッセージで応答します。フォームデザインのフィールドを作成して、Web サービスと連結できます。WSDL ファイルには、データ定義が記述されています。データ定義は、WSDL データ接続を確立するために使用されます。

WSDL データ接続はその他のデータ接続の種類と異なります。Web サービス操作は、入力パラメーターまたは出力パラメーター（またはその両方）を使用した関数の呼び出しと似ています。特定のフィールドを、入力メッセージのソースおよび出力メッセージの保存先にすることができます。

Designer と WSDL データ接続を使用して、以下のタスクを実行できます。

- 1 つ以上の Web サービス内で 1 つ以上の操作を連結できます。
- ボタンのクリックイベントによって、フィールド、サブフォームおよび排他グループを Web サービス操作の実行にアタッチできます。
- 各イベントでスクリプトによって Web サービス操作を実行できます。

- Web サービスから返される要素がフィールドに連結されているかどうかに関わらず、それらのすべての要素にスクリプト経由でアクセスできます。
- SOAP 1.1 方式の通信 (SOAP 連結および HTTP/HTTPS 転送) を使用できます。
- doc/literal 交換形式を使用して、Web サービスとデータを交換できます。
- Acrobat SOAP JavaScript Object (RPC / エンコードをサポート) を使用して、クライアントサイドスクリプトを作成できます。

以下の機能はサポートされていません。

- 一部の XML スキーマ機能。
- SMTP や FTP などのプロトコル。SOAP の基本転送としてはサポートされていません。
- 拡張性タイプ要素。
- UDDI を使用した Web サービスの検出。
- Remote Procedure Call (RPC) エンコードされた SOAP メッセージ。
- HTTP POST および GET WSDL 連結の使用。

安全な Web サーバー上にある WSDL 文書を使用してデータ接続を作成できます。これには、アクセスを制御する HTTP/HTTPS クライアント認証、Web サービスを要求するメッセージレベルの認証、またはその両方が必要です。

HTTP/HTTPS 認証は転送レイヤーで行われます。このレイヤーでは、WSDL 文書にアクセスし、安全な Web サービスに接続するために、クライアント検証が必要です。HTTP/HTTPS 認証では、有効な認証として、ユーザー名とパスワード、ユーザー名とパスワードダイジェスト、およびクライアント証明書を使用できます。

- ユーザー名とパスワードによる認証では、基本的なアクセス検証を行うことができます。ログインダイアログボックスがユーザーに表示されます。ユーザー名とパスワードの組み合わせは、クリアテキストで送信され、サーバーに送信される前にハッシュされません。
- ユーザー名とパスワードダイジェストによる認証では、強化された検証を行うことができます。ログインダイアログボックスがユーザーに表示されます。ただし、ユーザー名とパスワードは、サーバーに送信される前にハッシュされません。

注意：ログインダイアログボックスには、ユーザーが接続するサーバーと領域の名前が表示されます。特定のサーバーで複数の領域が設定されている場合があるので、この情報は、ログインに必要な資格情報をユーザーが判断する際に役立ちます。

- クライアント証明書による認証では、デジタル ID 検証を行うことができます。この検証では、使用可能なデジタル ID が一覧表示される、デジタル ID を選択ダイアログボックスが表示されます。ユーザーは正しいデジタル ID を選択してサーバーに送信し、認証を行います。

注意：クライアント証明書による認証を使用するには、Windows の証明書ストアまたは Designer のデジタル ID ファイルストアでデジタル ID を使用できるようにし、WSDL データ接続を作成するときにデジタル ID が使用可能な状態になっている必要があります。552 ページの「[デジタル ID の読み込み](#)」を参照してください。

メッセージレベルの認証は SOAP (Simple Object Access Protocol) メッセージレイヤーで行われます。このレイヤーでは、安全な Web サービスに接続するために、クライアント認証にセキュリティトークン (SOAP メッセージヘッダーに含まれます) が必要です。メッセージレベルレイヤーでは、ユーザー名とパスワードによる認証が行われます。ログインダイアログボックスがユーザーに表示されます。Acrobat 9.0 以降では、ユーザー名とパスワードによるメッセージレベルの認証がサポートされています。

安全な WSDL データ接続を作成するときに、HTTP/HTTPS 認証とメッセージレベルの認証で受け付ける資格情報の種類を指定することもできます。HTTP/HTTPS 認証の資格情報は、HTTP/HTTPS プロトコルヘッダーの一部として送信されます。メッセージレイヤー (SOAP) の資格情報は、セキュリティトークン (SOAP メッセージヘッダーに含まれます) の作成に使用されます。サーバーがユーザーの操作なしで資格情報を提供しなければならないサーバーワークフローでは、受け付ける資格情報の種類を指定する必要があることに注意してください。

注意：Workbench リポジトリの WSDL ファイルに接続しようとする、ファイルを読み込めないというエラーが表示される場合があります。WSDL データ接続を作成する前に、Workbench で WSDL ファイルを開く必要があります。

WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する

安全な WSDL データ接続を作成するには、WSDL ファイルの場所を把握しておく必要があります。WSDL ファイルにアクセスし、Web サービス要求に埋め込まれたセキュリティトークンを作成するには、正しい認証資格情報（ユーザー名とパスワードまたはデジタル ID の名前）を把握しておく必要があります。また、認証方法（HTTP/HTTPS 認証、メッセージレベルの認証またはその両方）や、各認証方法で受け付ける資格情報を決めておく必要もあります。

- 1 ファイル／新規データ接続を選択します。
- 2 「新規データ接続の名前」ボックスに接続名を入力します。
名前は 1 語で 127 文字以下にする必要があります。また、名前の 1 文字目は文字または数字であることが必要です。残りの文字には、文字、数字、ハイフン (-)、アンダースコアまたはピリオド (.) を使用できます。
- 3 「WSDL ファイル」を選択して「次へ」をクリックします。
- 4 「WSDL ファイル」ボックスで、WSDL 文書の URL を入力するか、「参照」をクリックし、コンピューターのハードディスクにある文書を探して選択します。WSDL 文書が安全なサーバーに保存されている場合は、認証が必要ダイアログボックスまたはデジタル ID を選択ダイアログボックスが表示されます。
- 5 次のいずれかの操作を実行します。
 - 認証ダイアログボックスに、正しいユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
 - デジタル ID を選択ダイアログボックスで、クライアント証明書として使用する正しいデジタル ID を選択し、「OK」をクリックします。
- 6 呼び出す操作を選択し、「次へ」をクリックします。
右側のウィンドウに、選択した操作の詳細が表示されます。選択した操作が SOAP エンコードでも doc/literal でもない場合は、サポートされている操作を選択するまで操作を続行できないという警告がこのウィンドウに表示されます。
- 7 (オプション) Web サービス要求のクライアント認証を設定するには、次のいずれかの操作を行います。
 - HTTP/HTTPS 認証を定義するには、「HTTP/HTTPS 認証が必要」を選択します。その後で、検証で承認する証明書を設定することもできます。
 - SOAP メッセージ認証を定義するには、「メッセージレベルの認証が必要」を選択します。その後で、「ユーザー名とパスワードを承認する」を選択することもできます。
- 8 「完了」をクリックします。

関連項目

665 ページの「[認証（新規データ接続ダイアログボックス）](#)」

495 ページの「[Web サービスへの接続を実行する](#)」

509 ページの「[フィールドの種類](#)」

Web サービスへの接続を実行する

Web サービスへの接続は様々な方法で実行できます。

ボタンを使用して Web サービスへの接続を実行するには

WSDL データ接続では、データ表示パレットにボタンを表すノードが含まれています。

- ❖ ボタンを表すノードをフォームデザイン上にドラッグします。接続操作をこのボタンで実行できます。

別のイベントを使用して Web サービスへの接続を実行するには

Web サービスへの接続の実行は、ボタンの代わりに別のイベントから行うことができます。例えば、値に基づいて一覧から選択し、その値をサービスへ渡したいとします。

❖ Web サービスをトリガーするイベントに以下のスクリプトを入力します。

```
JavaScript:xfa.connectionSet.MyWSDLDataConnection.execute(0);
```

```
FormCalc:$connectionSet.MyWSDLDataConnection.execute(0)
```

どちらの場合も、渡されるパラメーターは Boolean 値です。Web サービスから結果が返されると、この値は、データ DOM 全体がフォームと結合されるのか、またはフォームの現在のインスタンスの値が戻り値によって置換されるのかを示します。0 は、データが再結合されないことを示します。つまり、この処理の実行結果として、新規のフィールドもサブフォームも直接には追加または削除されません。1 は、データ DOM のすべてのデータが再結合されることを示します。

ボタンの接続情報を表示するには

- 1 ページでボタンを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「実行」タブをクリックし、「接続情報」で接続情報を確認します。

データ接続の変更および削除

データ接続の削除

フォームデザインにあるデータ接続を削除できます。

- 1 データ表示パレットで、削除したいデータ接続を選択します。
- 2 パレットメニューから「データ接続の削除」を選択します。
- 3 以下のオプションのうちの 1 つを選択します。
 - データベース接続と一緒に連結も削除するには、「削除されたデータ接続の連結を削除」を選択します。
 - データ接続は削除するがデータ連結は残すには、「削除されたデータ接続の連結を削除」の選択を解除します。連結はフォームデザインのデータを参照しており、データ接続がなくなっても、データ自体がそのまま残っているならば有効です。
- 4 「削除」をクリックします。

データ接続の変更

データ記述のタイプを除く、大部分のデータ接続プロパティは変更することができます。

- 1 データ表示パレットで、変更するデータ接続を選択します。
- 2 パレットメニューから「接続プロパティ」を選択します。
- 3 適切な変更を行います。「次へ」をクリックして、ダイアログボックスの操作を進めます。
- 4 「完了」をクリックします。

関連項目

497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」

データソースへのフィールドの連結

データソースへフォームデザインのフィールドを連結するとき、フォームデザインとデータソース間の関連性を作成します。この関連性により、フォームデザインに関連する情報を取得、表示、移動、処理、出力および印刷できます。

データ記述はフォームでのデータの生成を制御します。データ記述によって、フォームのデフォルトのデータ接続（XML スキーマまたはサンプル XML データからの接続）に応じて、書き出されたデータまたは保存されたデータが有効であることが保証されます。データ記述またはデータ接続によって定義されていないデータに連結されたフィールドおよびサブフォームの場合、Designer では警告メッセージが表示されます。また、これらのフィールドのデータは Acrobat に書き出されません。

一部のフィールドだけがデータソースに連結されている場合、名前を使用して連結されたフィールドのデータは Acrobat でデータを保存するときに失われます。デフォルトのデータ接続を使用する場合、データの保存が必要なフィールドはすべてデータ接続に連結する必要があります。

Designer では、クライアントサイドまたはサーバーサイドの連結を使用することができます。クライアントサイドの連結を使用すると、データを即時に変更できます。サーバーサイドの連結では、サーバーに再送信して、データの変更をコミットすることが必要です。

クライアントサイドの連結を実行するには、Acrobat または Adobe Reader（権限付きフォームの場合）がインストールされている必要があります。サーバーサイドのデータベース連結を行うには、Microsoft のサーバー上に Forms が必要です。

デフォルトのデータ接続で定義されていないデータへの連結

デフォルトのデータ接続で定義されていないデータへの連結を許可するように設定することで、デフォルトのデータ連結を上書きできます。「デフォルトのデータ接続で定義されていないデータへの連結を許可」設定を使用すると、フィールドのデータが名前または明示的な連結参照を使用して連結されている場合に、そのデータが保存されます。

別の名前空間への未定義のデータの保存または書き出し

別の名前空間にデータを保存または書き出すには、名前空間の設定を選択します。名前空間では、デフォルトのデータ接続の外部のデータにフィールドまたはサブフォームを連結できます。設定した場合、ノードを追加するとデータ記述が自動的に更新されます。オプションで、名前空間の接頭辞を指定することもできます。名前空間を指定しない場合、追加されたノードの名前空間情報は、追加されたノードの親から継承されます。

データ表示パレットで、追加されたノードがフィルターを適用したノードを基準として連結されるように指定することもできます。

デフォルトのデータ接続に連結されていないノードの識別

データ表示パレットで、デフォルトのデータ接続に連結されていないノードは灰色で表示されます。デフォルトのデータ接続に連結されていないノードを使用する場合には次の点に注意してください。

- ノードをフォームレイアウトにドラッグして新しいノードを作成することはできません。また、ノードを既存のノードに連結することはできません。
- ノードは、オブジェクトパレット／「連結」タブに表示されません。

デフォルトのデータ接続で定義されていないデータへの連結を許可するには

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「データ連結」タブをクリックして、「デフォルトのデータ接続で定義されていないデータへの連結を許可」を選択します。
- 3 (オプション) 次のいずれかの操作を行います。
 - 名前空間を追加するには、XML 名前空間を選択して名前空間を入力します。

- 名前空間に接頭辞を追加するには、「XML 名前空間の接頭辞」を選択して接頭辞を入力します。
- フィルターを適用した階層にデータノードを追加するには、「フィルターを適用したデータ階層内にデータノードを追加」を選択します。

関連項目

12 ページの「[データ表示パレット](#)」

661 ページの「[データ連結（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」

連結されたフィールドまたはサブフォームを作成する方法

連結されたフィールドまたはサブフォームは、次のいずれかの方法で作成できます。

データ表示パレットを使用した新規フォームオブジェクトの作成 データ表示パレットにあるノードまたはノードと子孫ノードをページにドラッグします。1つの連結フィールド、複数のフィールドまたは複数のサブフォームが自動的に作成されます。作成したフォームフィールドやサブフォーム（および子）はそのデータソースに連結されます。また、データ連結のプロパティに従ってフォームフィールドプロパティも自動的に設定されます。例えば、フォームオブジェクトのタイプ、名前およびキャプションは、いずれも連結オブジェクトを反映した内容に設定されます。

データ表示パレットを使用したノードと既存フォームフィールドの関連付け データ表示パレットにあるノードをページの既存のフィールドにドラッグし、フィールドとノードを連結します。また、このときフォームフィールドのプロパティを連結オブジェクトのプロパティに合わせて更新するかどうかを選択できます。更新可能なプロパティは、フォームオブジェクトのタイプと連結のタイプによって異なります。更新可能なプロパティについて詳しくは、636 ページの「[連結プロパティダイアログボックス](#)」を参照してください。

オブジェクトパレットの「連結」タブを使用した連結ノードの指定 ページ上のオブジェクトを選択し、次にオブジェクトパレットの「連結」タブで、オブジェクトに連結するノードを選択します。フォームフィールドのプロパティは、データ表示パレットから既存のフォームフィールドにノードをドラッグする場合と同様の方法で更新できます。更新可能なプロパティについて詳しくは、636 ページの「[連結プロパティダイアログボックス](#)」を参照してください。

Designer を使用したサブフォームへの連結フィールドの自動生成 データ表示パレットでは、サブフォームに新しい連結フィールドを生成できます。

連結されたフィールドまたはサブフォームを作成するには

1 次のいずれかの方法を選択します。

- データ表示パレットのすべてのノードから連結されたフィールドを作成するには、データ接続の最上位ノードをページにドラッグします。階層内の各ノードに連結されたサブフォームおよびオブジェクトが Designer により作成されます。
- 連結されたフィールドを作成するには、ノードをページにドラッグします。
- 連結されたサブフォームを作成するには、ノードとその子ノードをページにドラッグします。

2 オブジェクトとサブフォームを必要条件に合うようにページに配置します。

3 テキストフィールドを連結します。

注意：キャプションをデータソースに連結すると、「レイアウト」タブで「キャプションの位置」を「なし」に設定している場合でも、キャプションは常にフォームに表示されます。

関連項目

492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

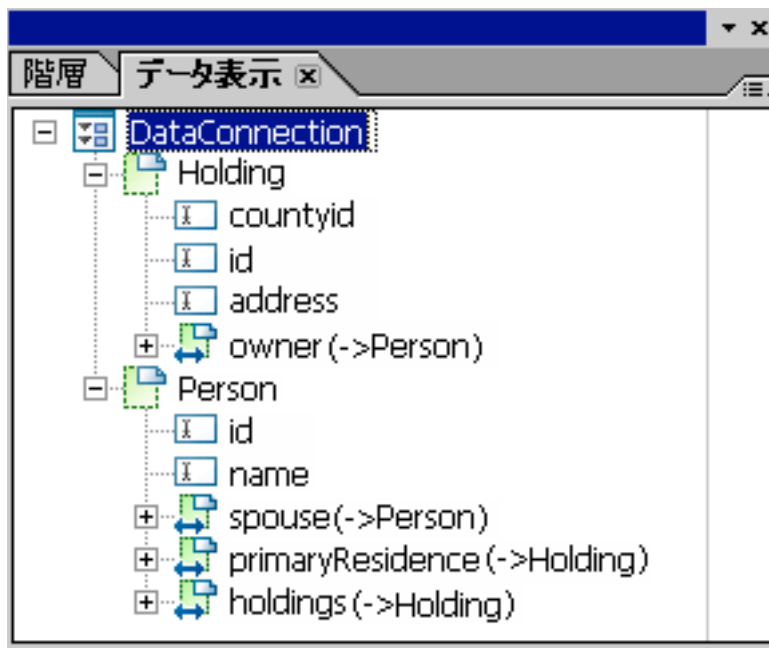
499 ページの「[参照データノードをフィールドまたはサブフォームに連結するには](#)」

509 ページの「[フィールドの種類](#)」

参照データノードをフィールドまたはサブフォームに連結するには

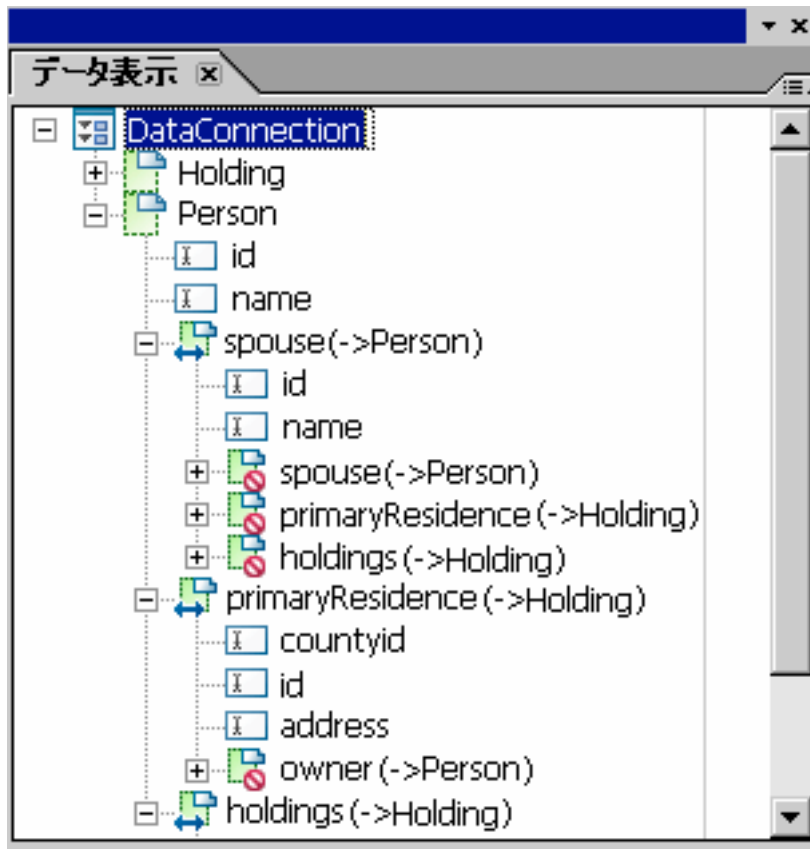
データ接続のソースがリレーショナルデータモデルに基づいている場合は、要素と属性間の関連付けは参照データノードとして表示されます。参照データノードは独自のアイコンを持ち、その名前には関連付けと対象の参照要素名の両方が使用されます。

次の図は、Holding 要素と Person 要素の子ノードになっている参照データノードを示しています。ノード名には、関連付け (owner、spouse、primaryResidence、holdings) と参照要素 (Person、Holding) が含まれます。



参照ノードを使用してサブフォームおよびフィールドを作成するには、ノードまたはその親をページにドラッグします。データ表示パレットメニューの「フィールドの生成」コマンドを使用して、連結されたフォームオブジェクトを作成することもできます。ただし、すべての参照データノードを自動的に使用してフォームオブジェクトに連結できるわけではありません。デフォルトでは、親ノードを使用してフィールドを作成する場合、最初のレベルの子孫だけが含まれます。以降の子孫（アイコン内に赤い丸とバーが表示される）は自動的に含められません。参照データノードを含めたり除外したりするには、コンテキスト（右クリック）メニューを使用します。

次の図は、Person 要素のデフォルトの連結設定を示しています。この要素の子である参照データノードは含められますが、以降の子孫は除外されます。



- 参照データノードの親ノードを使用して連結オブジェクトを作成するときに参照データノードを含めるには、参照データノードを右クリックし、「参照データを含める」をクリックします。
- 参照データノードの親ノードを使用して連結オブジェクトを作成するときに参照データノードを除外するには、参照データノードを右クリックし、「参照データを除外する」をクリックします。

関連項目

498 ページの「[連結されたフィールドまたはサブフォームを作成する方法](#)」

490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」

ノードを既存のフィールドに連結するには

データ表示パレットまたはオブジェクトパレットを使用して、ノードを既存のフィールドに連結できます。

データ表示パレットを使用して、ノードを既存のフィールドに連結するには

- 1 データ表示パレットで適切なノードを選択し、ページ上のフィールドにドラッグします。
- 2 連結プロパティダイアログボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - すべての関連プロパティを更新する
 - 次のプロパティだけを更新する

- 関連プロパティを更新しない

- 3 「OK」をクリックします。オブジェクトのプロパティを更新する場合、しない場合のいずれも、これでフォームオブジェクトがデータソースに連結されます。

オブジェクトパレットを使用して、ノードを既存のフィールドに連結するには

- 1 ページで、ノードに連結するオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットで、「連結」タブをクリックし、データ連結メニューから目的のノードを選択します。
- 3 連結プロパティダイアログボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - すべての関連プロパティを更新する
 - 次のプロパティだけを更新する
 - 関連プロパティを更新しない
- 4 「OK」をクリックします。オブジェクトのプロパティを更新する場合、しない場合のいずれも、これでフォームオブジェクトがデータソースに連結されます。

関連項目

492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

509 ページの「[フィールドの種類](#)」

サブフォームに連結フィールドを生成するには

- 1 連結フィールドを生成するサブフォームを選択します。
- 2 データ表示パレットで、サブフォームに子ノードを作成するノードを選択します。
- 3 パレットメニューから「フィールドの生成」を選択します。指定したノードに対応する新しいフィールドがサブフォーム内に作成されます。

関連項目

492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

509 ページの「[フィールドの種類](#)」

選択サブフォームセットのデータ連結と条件ステートメントの作成

選択サブフォームセットを作成したら、条件ステートメントを使用して、セット内の各種サブフォームオブジェクトにデータ連結を作成できます。また、条件ステートメントを使用せずにデータ連結を作成することもできます。条件ステートメントを使用すると、どのような状況で選択サブフォームセット内のサブフォームをフォームに表示するかを、データ連結だけを指定したときよりも適切に制御できます。

データが指定されたサブフォームを編集ダイアログボックスにある「別のサブフォーム」リストに表示されるサブフォームオブジェクトごとに、データ接続からデータノードを指定できます。条件ステートメントを指定する場合は、実行時に true または false と評価される式を入力できます。フォームには、「別のサブフォーム」リスト内で条件ステートメントが true と評価された最初の項目だけが表示されます。

注意：条件ステートメントが指定されていない「別のサブフォーム」リスト内の項目は、true の値を保持すると見なされます。

- 1 サブフォームセットオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトパレットの「サブフォームセット」タブをクリックし、種類リストで「候補からサブフォームを 1 つ選択する」が選択されていることを確認します。
- 3 「代替オブジェクトの編集」を選択し、次のいずれかの操作を実行して、サブフォームセット内からサブフォームのデータ連結を指定する方法を選択します。
 - 名前を使用してデータノードをサブフォームオブジェクトに連結するには、「名前がデータ要素または属性に一致するサブフォームを選択」をクリックします。この場合、関連するデータノード名がフォームデザインのサブフォームオブジェクト名と一致する必要があります。
 - 連結を手動で指定して、データ接続からデータノードにフォームデザインのサブフォームオブジェクトを連結するには、「式を使用してサブフォームを選択」をクリックします。
- 4 「データ接続」リストで、データを連結するデータソースを指定します。
- 5 追加ボタン  をクリックして、選択サブフォームセットに新しいサブフォームを挿入するか、既存のリスト項目を選択します。新しいサブフォームを追加すると、現在選択しているサブフォームの複製が追加されます。サブフォームが選択されていない場合は、選択サブフォームセットに名称未設定の新しいサブフォームが追加されます。
- 6 必要に応じて、名前フィールドに新しいサブフォームオブジェクトの名前を入力します。データの要素または属性の名前を使用してサブフォームを連結する場合、フィールド内の名前と関連するデータノード名が完全に一致するようにしてください。

手順 4 で「名前がデータ要素または属性に一致するサブフォームを選択」オプションを選択した場合は、そのまま手順 11 に進んでください。選択していない場合は、手順 8 に進んでください。
- 7 「連結」フィールドの右側の三角印をクリックして、メニューからデータノードを指定します。Designer では、選択したデータノードに対するスクリプティングリファレンスが自動的に連結フィールドに入力されます。フィールドにリファレンスを手動で入力することもできます。
- 8 言語リストでスクリプト言語を選択します。
- 9 「式」フィールドで、指定したサブフォームオブジェクトおよびデータノードについて必要な操作や処理を実行するためのスクリプトを入力します。
- 10 別のサブフォームを追加する場合は、手順 6 から 10 を繰り返します。
- 11 リスト項目の追加を終了したら、「OK」をクリックします。

関連項目

227 ページの「[選択サブフォームセットの使用](#)」

645 ページの「[データが指定されたサブフォームを編集ダイアログボックス](#)」

オブジェクトのプロパティおよび値の参照

複数の場所に同じデータを表示させる方法

複数の場所に同じデータを表示するための方法はいくつかあります。

- 複数のフィールドをグローバルフィールドに設定して、インタラクティブに入力された同じデータを表示します。
- 複数のフィールドを 1 つのノードに連結して、フィールドにあるデータソースから同じデータを表示します。
- スクリプトを使用して、1 つのフィールドに入力されたデータを別のフィールドに表示します。

次の表で、グローバルフィールドを使用した方法、複数のフィールドを1つのノードに連結する方法、スクリプトを使用して1つのフィールドに入力されたデータを別のフィールドに表示する方法を比較します。

比較内容	グローバルフィールド	連結	スクリプト
表示結果	Designer では、同じ名前を持つすべてのフィールドに同じデータが表示されます。	Designer では、同じ連結のすべてのフィールドに同じデータが表示されます。	Designer では、1つのフィールドに入力されたデータが別のフィールドに表示されます。
フィールドの名前	フィールド名はすべて同じです。	フィールド名が異なる場合があります。	フィールド名が異なる場合があります。
実行時のプロパティ（現在のページ、ページ数、現在の日時など）	フィールドに実行時のプロパティを追加することはできません。	フィールドに実行時のプロパティを追加することはできません。	フィールドに実行時のプロパティを追加することができます。
削除する場合	1つのフィールドからグローバル設定を削除すると、Designer では、同じ名前の他のすべてのフィールドからもその設定が削除されます。	1つのフィールドから連結を削除しても、他のフィールドの連結は保持されます。	適用なし
ノードの参照	グローバルフィールドは、現在のレコードの外にあるノードを参照します。	明示的なデータ連結は、現在のレコードにあるノードを参照します。	適用なし
使用例	顧客名や住所など、フォームで繰り返し使用される情報に使用します。ユーザーが1度情報を入力すると、グローバルに設定されている他のフィールドにデータが自動入力されます。	複数のフィールドに表示されたデータソースにあるデータのインスタンスを1つ扱う場合に使用します。	1ページ目の担当者の名前に入力したデータをコピーして、2ページ目の定型レターで表示する場合に使用します。

次の図では、複数のフィールドをグローバルフィールドに設定するとどうなるかを示しています。1 ページ目で名前や住所をユーザーが入力すると、2 ページ目の名前や住所にも入力されます。

1 ページ

名前

山田 太郎

都道府県

東京都

住所

千代田区十番町 123

国

日本

2 ページ

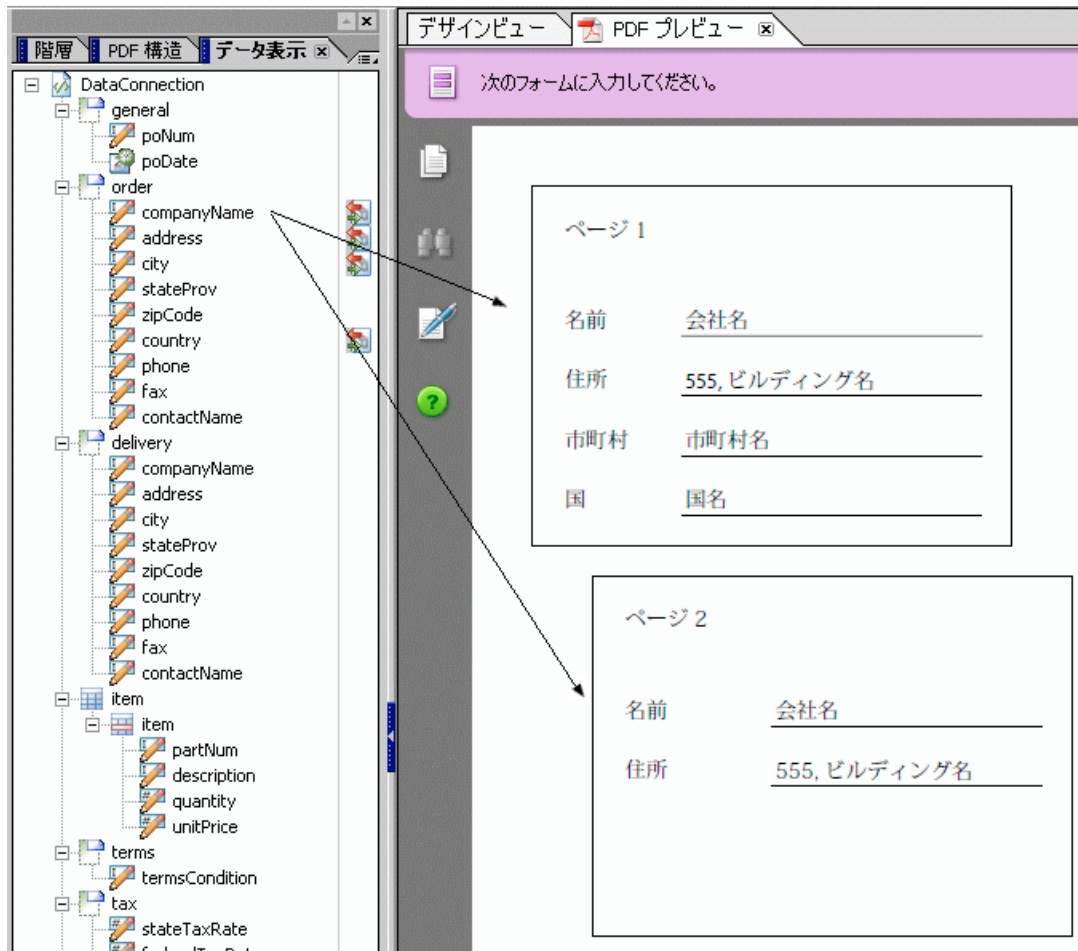
名前

山田 太郎

都道府県

東京都

次の図では、複数のフィールドを1つのノードに連結するとどうなるかを示しています。名前と住所にデータソースの内容を入力します。



次の図では、1つのフィールドに入力されたデータを別のフィールドに表示させるスクリプトを使用するとどうなるかを示しています。定型レターの **ContactName** は、1 ページ目の名前フィールドに入力された名前と同じです。

1 ページ	
名前	山田 太郎
都道府県	東京都
住所	千代田区十番町 123
国	日本

[ContactName] 様

2 ページ
山田 太郎 様
請求書の代金の支払期限になりました。既にお支払いいただいた場合には、この通知を破棄していただきますようお願い申し上げます。
敬具

1 つのノードへの複数のフィールドの連結

次のいずれかの操作により、複数のフィールドを 1 つのノードに連結することができます。

- ドラッグ&ドロップを使用して、データ表示パレットのノードを既存のフォームフィールドに関連付けます。
- 既存のフォームフィールドに対して、オブジェクトパレットの「連結」タブを使用し、連結ノードを明示的に指定します。

データのインスタンスに複数のフィールドを連結します。繰り返しデータを複数のフィールドに連結することはできません。

1 データ表示パレットで適切なノードを選択し、ページ上のフィールドにドラッグします。

2 連結プロパティダイアログボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

- すべての関連プロパティを更新する
- 「次のプロパティだけを更新する」および必要なオプションを選択する
- 関連プロパティを更新しない

- 3 「OK」をクリックします。オブジェクトのプロパティを更新する場合、しない場合のいずれも、これでフォームオブジェクトがデータソースに連結されます。
- 4 手順 1 のノードと同じノードを選択して、同じノードに連結する他のフィールドで手順 2 と 3 を繰り返します。

スクリプトを使用して特定のフィールドに入力されたデータを別のフィールドに表示

スクリプトを使用して、1 つのフィールドに入力されたデータを別のフィールドで表示することができます。ユーザーのアクションに反応してトリガーされる特定のフィールドに関するイベントでこのスクリプトを実行します。

例えば、インタラクティブフォームではユーザーに部署名を入力するように求めます。この部署名はフォームの後続のページで表示される場合があります（複数ページのインタラクティブフォームの場合）。部署名のフィールドがデータフィールドに連結されます。部署名はこのデータフィールドに記録されます。部署名を他のページに表示するには、入力フィールドのコンテンツを他のページに表示するようにする必要があります。他のインスタンスを編集可能にする必要はありません。これらのインスタンスが、別のフィールドの構成要素である場合があります（フローティングフィールドなど）。この場合には、スクリプトを使用して部署名を他のフィールドにコピーします。

- 1 最初のフィールドを選択します。
- 2 まだスクリプトエディターが表示されていない場合は、ウィンドウ／スクリプトエディターを選択します。
- 3 （オプション）パレットの境界にある拡張ボタンをクリックして、パレットを大きくします。
- 4 イベントリストからフィールドに関するイベントを選択します。

例えば、イベントリストから「exit」を選択します。

- 5 言語リストから「JavaScript」、実行位置リストから「クライアント」を選択します。
- 6 スクリプト編集フィールドに、スクリプトを入力します。

例えば、次のスクリプトを入力します。

```
ContactName.rawValue = this.rawValue;
```

ContactName はオブジェクトパレットの「フィールド」タブにある 2 番目のフィールドの名前です。

- 7 2 番目のフィールドを選択します。
- 8 オブジェクトパレットで、「値」タブをクリックし、種類リストで「計算済み - 読み取り専用」を選択します。

スクリプティングについて詳しくは、『[スクリプティング基礎](#)』を参照してください。

関連項目

373 ページの「[グローバルフィールドを定義するには](#)」

フィールドの生成オプションの設定

次の設定を必要に応じて指定できます。これらの設定は、フィールドまたはフィールドグループの生成時に適用されます。

- 新規フィールドに対する検証スクリプトを生成します。フィールドに生成される検証スクリプトは JavaScript スクリプトです。検証スクリプトでは、例えば、フィールドの値が許可リストにある値であるかどうかをチェックすることができます。
- 詳細情報を生成します。
- テーブルを生成可能にします。データソースからのデータには、テーブルに表示できるものもあります。データソースに接続すると、テーブルに表示できる項目がデータ表示パレットに表示されます。Designer ではまた、繰り返しデータグループが存在する場合、テーブルで行となる項目が表示されます。

- 1 データ表示パレットメニューから「オプション」を選択します。

2 以下のオプションのうちの 1 つの選択を解除します。

- 「検証スクリプトの生成」の選択を解除すると検証スクリプトの生成が無効になります。
- 「詳細情報の生成」の選択を解除すると詳細情報が無効になります。
- テーブルの生成を許可

3 「OK」をクリックします。

関連項目

509 ページの「[フィールドの種類](#)」

連結の削除

フィールドとサブフォームから連結を削除することができます。

1 連結を削除するオブジェクトを選択します。

2 オブジェクトパレットで「連結」タブをクリックし、データ連結メニューから「データ連結なし」を選択します。オブジェクトがデータを取得したり表示したりしなくなるので、フォームデータを保存する際、オブジェクトに関連付けられている情報は出力として書き込まれなくなります。

注意：サブフォームからの連結を無効にすると、サブフォームはデータの結合操作から除外されますが、サブフォームのオブジェクト（階層化されたサブフォームを含む）はその後もデータを取得したり表示したりすることができます。

関連項目

492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

509 ページの「[フィールドの種類](#)」

データ接続の更新

フォームデザインにあるすべてのデータ接続を更新できます。このコマンドは、ファイルやデータベースを変更してフォームデザインを更新するときに便利です。

❖ データ表示パレットメニューから「データ表示の更新」を選択します。

関連項目

492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

509 ページの「[フィールドの種類](#)」

連結されたフィールドの一覧の表示

次の種類のフィールドに関する一覧を生成することができます。

- 通常データ連結を使用するフィールド
- 参照によるデータ連結を使用するフィールド
- グローバル連結を使用するフィールド
- データ連結のないフィールド

- データ連結のない接続ノード

1 レポートパレットで「連結」タブをクリックします。

2 適切なオプションを選択して、連結メニューからメニューコマンドを選択します。

- 通常のデータ連結が設定されたフィールドの一覧を表示するには、「通常のデータ連結フィールド」を選択します。
- 参照によるデータ連結が設定されたフィールドの一覧を表示するには、「参照によるデータ連結フィールド」を選択します。
- グローバルデータ連結が設定されたフィールドの一覧を表示するには、「グローバルデータ連結フィールド」を選択します。
- データ連結が設定されていないフィールドの一覧を表示するには、「データ連結のないフィールド」を選択します。
- 連結されていないフィールドの一覧を表示するには、「データ連結のない接続ノード」を選択します。

関連項目

509 ページの「[フィールドの種類](#)」

フィールドの種類

データ接続を作成した後で、データのすべてまたは一部に対応するサブフォームやフィールドを作成できます。多くの場合、必要のない余分なデータが存在します。このため、すべてのサブフォームやフィールドを自動的に作成するよりも、選択的に作成したほうが適している場合もあります。別の方法として、最初にフォームデザインを作成してから、データ表示パレットを使用して、フォームデザイン内の特定のフィールドと階層内の特定のデータノードを連結することもできます。

Designer は、XML スキーマ、XML ファイル、WSDL ファイルから特定のフィールドを連結するときや、データ表示パレットからフィールドを生成するときに、要素と属性のタイプに基づいて、作成するフィールドの種類を決定します。例えば、画像はフォームデザイン内のスタティック画像オブジェクトにマップされます。

ノードをデータ表示パレットからページにドラッグしてフィールドやサブフォームを作成すると、XML スキーマの要素や属性の名前が、生成されたフィールドやサブフォームの名前として使用されます。要素や属性の名前は、フィールドのキャプションとして初めに使用されます。フィールドの連結値は、フィールドと、スキーマの要素宣言または属性宣言で記述されるデータノードの連結に使用されます。

XML スキーマ、XML ファイルまたは WSDL ファイルからフィールドを連結するときに作成されるフィールドの種類を Designer ではどのように決定するかについて詳しくは、次の関連項目の節に記載されているトピックを参照してください。

関連項目

498 ページの「[連結されたフィールドまたはサブフォームを作成するには](#)」

492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

単純型

XML スキーマの要素の宣言では単純型または複合型を使用できます。要素内容も属性も持たない要素は、XML スキーマで単純型で宣言されます。属性の宣言では単純型を使用できます。一般に、単純型の要素と属性は Designer によってフィールドにマップされます。フィールドの種類は、単純型の値に基づいて決まります。

組み込み単純型

XML スキーマでは多数の組み込み単純型を定義します。

以下の型はテキストフィールドオブジェクトにマップされます。このオブジェクトはプレーンテキストコンテンツを持つオブジェクトです。

- string
- normalizedString
- token
- Name
- NCName
- QName
- language

以下の型は数値フィールドオブジェクトにマップされます。

- float
- double
- decimal
- integer
- long
- int
- short
- byte
- positiveInteger
- nonPositiveInteger
- negativeInteger
- nonNegativeInteger
- unsignedLong
- unsignedInt
- unsignedShort
- unsignedByte

次の表は、日付型と時間型のマッピングの一覧を示します。

日付と時間	オブジェクトのタイプ
duration	テキスト編集フィールド
dateTime	日付 / 時間フィールド。制御タイプは日付と時間です。
date	日付 / 時間フィールド。制御タイプは日付です。
time	日付 / 時間フィールド。制御タイプは時間です。
gYear	パターン形式文字列付きのテキストフィールド
gYearMonth	パターン形式文字列付きのテキストフィールド

日付と時間	オブジェクトのタイプ
gMonth	パターン形式文字列付きのテキストフィールド
gMonthDay	パターン形式文字列付きのテキストフィールド
gDay	パターン形式文字列付きのテキストフィールド

以下のレガシー型は、テキストフィールドオブジェクトにマップされます。

ID

IDREF

IDREFS

ENTITY

ENTITIES

NMTOKEN

NMTOKENS

NOTATION

その他の型は次の表のようにマップされます。

その他	オブジェクトのタイプ
boolean	チェックボックス
hexBinary	スタティック画像
base64Binary	スタティック画像
anyURI	テキストフィールド

制限単純型

XML スキーマの制限を使用して、新しい単純型を別の単純型から生成できます。この節では、これらの制限をフォームデザインにマップする方法について説明します。

列挙ファセット 列挙値を宣言する、XML スキーマの要素宣言や属性宣言の基本型は、宣言の基本型のデフォルトフィールドではなくコンボボックスオブジェクトを生成します。以下はその例です。

```
<xsd:element name="Colors">
  <xsd:complexType>
    <xsd:simpleContent>
      <xsd:extension base="xsd:string">
        <xsd:enumeration value="red"/>
        <xsd:enumeration value="green"/>
        <xsd:enumeration value="blue"/>
      </xsd:extension>
    </xsd:simpleContent>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>
```

列挙値のセットは、コンボボックスのアイテムとして保存されます。

範囲、長さおよび精度ファセット 可能な場合はいつでも、範囲（minInclusive、minExclusive、maxInclusive、maxExclusive）、長さ（length、minLength、maxLength）および精度（totalDigits や fractionDigits）を制御する制約

ファセットは、生成されたオブジェクトのプロパティにマップされます。または、制約ファセットは検証スクリプトを生成するために使用されます。次に 2 つの例を示します。

- maxLength ファセットを使用し、テキスト値の maxChars プロパティを設定します。

```
<field><value><text maxChars="100"/></value></field>
```

- fractionDigits ファセットを使用し、小数値の fracDigits プロパティを設定します。

```
<field><value><decimal fracDigits="3"/></value></field>
```

リスト型とユニオン型

リスト型は、値を空白で区切った 1 行値のリストとして定義できる型です。リスト型を持つ要素と属性は、テキストフィールドオブジェクトにマップされます。

ユニオン型とは、設定可能な値のセットとして、2 つ以上の別の値セットを統合した型のことです。それぞれのセットは同じ基本型でなくても構いません。一般的に、ユニオン型はテキストフィールドオブジェクトにマップされます。例えば、統合したすべてのセットが同じ型の場合、マッピングはこれらのセットのいずれかを使用したものと同じになります（つまり列挙値の 2 つのセットを統合すると、統合したすべての値を示すコンボボックスが生成されます）。

複合型

XML スキーマの要素の宣言では単純型または複合型を使用できます。属性の宣言では単純型を使用できます。一般に、単純型の要素と属性は Designer によってフィールドにマップされます。複合型を持つ要素には、ほかの要素と属性、または属性が含まれていて、一般的にサブフォームにマップされます。

複合型は、その他のすべての要素を定義するために使用します。複合型では、要素内容、単純内容、混在内容および空内容を定義できます。

複合型の要素には、属性を宣言することもしないこともできます。

データソースの要素内容からのサブフォームの生成方法

単一の要素内容を持つ要素をフォームデザインにドラッグしたり、必要に応じて属性をフォームデザインにドラッグしたりすると、サブフォームが生成されます。

このサブフォームには、要素で宣言された各属性のオブジェクトと、各子要素のオブジェクトまたはサブフォームが含まれます。

単純内容

単純内容は単純な内容（テキストデータ）を含むように要素が宣言されている場所で、属性を宣言することもできます。要素で属性を宣言しない場合、マッピングは単純型要素の場合と同じです。

属性が宣言されると、要素はその要素名を使用した名前のサブフォームにマッピングされます。このサブフォームには、要素に連結された 1 つのフィールドと、各属性の追加フィールドが含まれます。要素に連結されたフィールドの名前は、要素名に文字列「_data」を付加した名前になります。この例として、要素（例えば <phone>）が数値内容と type という名前の属性を持つとします。

```
<phone type="work">5554567</phone>
```

type および phone_data という名前のオブジェクトを含む phone という名前のサブフォームが生成されます。type オブジェクトは \$data...phone.type に連結され、phone_data フィールドは \$data...phone に連結されます。

混在内容

混在内容は、要素の子とテキスト内容が混在したものを含むように要素が宣言されているときに存在します。

空内容

空内容を持つ複合型は、単純内容と同様に扱われます。作成され、要素に連結されるオブジェクトは、内容を持つことができません。

オカレンス

XML スキーマ要素宣言のオカレンス属性（minOccurs および maxOccurs）は、サブフォームを生成します。これはサブフォームの反復プロパティにマップされます。

内容モデル

要素の子の内容モデルがシーケンス以外である場合、マッピングは subformSets を使用してモデルとすべてのグループを選択しようとしています。

リッチテキストオブジェクト

XHTML スキーマから内容を定義する要素宣言は、プレーンテキストフィールドオブジェクトではなくリッチテキストフィールドオブジェクトにマップされます。したがって、フォームデザイン内に作成される <field> オブジェクトには、<value><exData contentType="text/html"/></value> が含まれます。

要素がリッチテキスト内容を持つと判定されると、以下の 3 つの状態が発生します。

- スキーマは XHTML スキーマを読み込んで単一の子を含む 1 つの要素を宣言します。この要素は、以下の例で示される xhtml <body> 要素です。

```
<xsd:schema xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns:xhtml="http://www.w3.org/1999/xhtml">
  <xsd:import namespace="http://www.w3.org/1999/xhtml"/>
  <xsd:element name="RichTextField">
    <xsd:complexType>
      <xsd:sequence>
        <xsd:element ref="xhtml:body"/>
      </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>
```

- スキーマ文書はデフォルト値または以下の内容で始まる固定値を持つ、1 つの文字列型要素を宣言します。

```
<body xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" ...
```

この場合、デフォルト値または固定値の値に設定された値を持つリッチテキストオブジェクトが作成されます。

- 要素宣言には、以下の例に示されるように text/html の固定値を持つ xfa:contentType の属性が含まれます。

```
<xsd:schema xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns:xfa="http://www.adobe.com/2003/xfa">
  <xsd:import namespace="http://www.adobe.com/2003/xfa"/>
  <xsd:element name="RichTextField">
    <xsd:complexType>
      <xsd:simpleContent>
        <xsd:extension base="xsd:string">
          <xsd:attribute ref="xfa:contentType" fixed="text/html"/>
        </xsd:extension>
      </xsd:simpleContent>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>
```

この例では、xfa:contentType 属性は一般的な属性の場合と同じように、フィールドの生成には使用されません。代わりに、生成されるフィールドはリッチテキストフィールドでなければならないという命令として解釈されます。名前空間識別子として、フォームデザインは xmlns="http://www.xfa.org/schema/xfa-template/2.1/"、XDP ファイルは xmlns:xdp="http://ns.adobe.com/xdp/" を持ちます。

画像

画像はフォームデザイン内のスタティック画像フィールドオブジェクトにマップされます。以下の属性があります。

```
xfa:contentType  
xfa:href  
xfa:transferEncoding
```

ここでは以下のような宣言の例を紹介します。

```
<xsd:schema xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"  
            xmlns:xfa="http://www.adobe.com/2003/xfa">  
<xsd:import namespace="http://www.adobe.com/2003/xfa">  
<xsd:element name="ImageField">  
  <xsd:complexType>  
    <xsd:extension base="xsd:hexBinary">  
      <xsd:attribute ref="xfa:contentType" fixed="image/jpeg"/>  
      <xsd:attribute ref="xfa:transferEncoding" fixed="base64"/>  
    </xsd:extension>  
  </xsd:simpleContent>  
</xsd:complexType>  
</xsd:element>
```

この場合、属性はフォームデザインへのフィールドの生成に使用されません。属性は画像フィールドに対応する要素を認識するために使用され、属性のデフォルト値または固定値は、生成された <image> 要素に対して設定されます。

デフォルト値または固定値

単純型の属性宣言や要素宣言、または単純内容を持つ複合型の属性宣言や要素宣言では、要素や属性に対して固定値またはデフォルト値を指定できます。

固定値またはデフォルト値を指定する要素宣言や属性宣言を行うと、宣言で指定した固定値またはデフォルト値に初期値が設定されたフィールドが生成されます。

注釈情報

XML スキーマで <xsd:element> や <xsd:attribute> の子として表されている注釈情報は、要素宣言または属性宣言から生成されるフィールドに <desc> コンテンツとしてマップされます。

名前空間

XML スキーマに targetNamespace が定義されている場合、この情報は保存されて、データ要素を識別するために使用されます。名前空間および名前空間接頭辞の情報は、データ表示パレットにも、データ接続から生成されるオブジェクトやサブフォーム内にも表示されません。ただし名前空間情報は、フォームデザインと XML スキーマで記述されたデータ間のマッピングに使用されるスキーマから生成された dataDescription によって保存されます。

検証

XML スキーマが要素や属性（およびテンプレート内の対応するフィールド）で許可される値についての情報を含んでいる場合、生成されるフィールドには、値がスキーマ宣言により許可される値かどうかを検証する JavaScript 検証スクリプトが含まれます。このような情報は、要素または属性のデータ型、基本型に適用される制約ファセットによって提供されます。次の例について考えてください。

```
<xsd:element name="Number">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:integer">
      <xsd:minInclusive value="4"/>
      <xsd:maxInclusive value="9"/>
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
```

マッピングの結果、値が 4 ～ 9 の整数かどうかを検証する検証スクリプトを持つ、「Number」という名前の数値フィールドが生成されます。

XML スキーマが提供する制約ファセットには、多くの場合、検証スクリプトの生成に使用される情報が含まれています。文字列型の `maxLength` ファセットの `<text maxChars="">` に対するマッピングのように、情報をプロパティに直接マップできない場合、この情報は検証スクリプトの生成にのみ使用されます。

数値型のスクリプト

XML スキーマ内のすべての数値型は単一の数値フィールドへマップされます。ただし、XML スキーマの数値型によって課せられる追加の制限は、数値が XML スキーマの元の型で許可された範囲であることを確認する検証スクリプトを生成することで保持されます。XML スキーマ内の「`unsigned byte`」型は、値が符号なしバイトの値かどうかを検証するスクリプトを含む数値フィールドを生成します。つまり、次のスクリプトが生成されます。

```
this.rawValue >= 0 && this.rawValue <= 255;
```

以下の値に対する適正範囲のテストスクリプトが生成されます。

- integer
- positive integer
- negative integer
- non-positive integer
- non-negative integer
- long、int
- short
- byte
- unsigned long
- unsigned int
- unsigned short
- unsigned byte

Inclusion / exclusion スクリプト

数値型で最小または最大の包含値あるいは排他値（またはその両方）を指定すると、入力された値が制約ファセットで定義された範囲内にあるかどうかをテストするスクリプトが生成されます。フィールドに 514 ページの「[検証](#)」で定義された数値型のスクリプトが既にある場合、スクリプトは、データ型範囲または包含 / 排他範囲の最も限定的な範囲に従ってテストを実行します。

length、minLength および maxLength スクリプト

XML スキーマの文字列型では、`length` 制約ファセットや、`minLength` または `maxLength` 制約ファセット（またはその両方）を指定できます。スキーマノードがテキストフィールドにマップされている場合、`length` 制約ファセットや `minLength` 制約ファセットで指定された値は、テキストフィールド長が `length` で指定された値か、少なくとも `minLength` で指定された値かどうかをテストする検証スクリプトの生成に使用されます。

すべての `maxLength` ファセット値はテキストフィールドに `maxChars` としてマップされることに注意してください。

文字列データ型がポップアップリスト（列挙値であるため）および `length` または `minLength` / `maxLength` にマップされると、リストで選択された値が `length`、`minLength` および `maxLength` ファセットに応じた有効な長さかどうかをチェックする検証スクリプトが生成されます。

totalDigits / fractionDigits スクリプト

`totalDigits` ファセットは小数値やすべての整数値型（すなわち `decimal`、`integer`、`positive integer`、`negative integer`、`non-positive integer`、`non-negative integer`、`long`、`int`、`short`、`byte`、`unsigned long`、`unsigned int`、`unsigned short` および `unsigned byte` データ型）で使用する数字の最大桁数を指定します。`fractionDigits` ファセットは小数値データ型のみに適用され、使用される小数部分の最大桁数を指定します。

`totalDigits` または `fractionDigits` が、数値フィールドにマップされる要素または属性に対して指定された場合、総桁数または小数部の桁数（またはその両方）の合計が制約ファセットで許可されるかどうかをテストする検証スクリプトが生成されます。

データソースからフォームオブジェクトプロパティへのダイナミックなデータの埋め込み

ダイナミックプロパティとは、データソースから値が割り当てられ、実行時に更新されるフォームオブジェクトプロパティです。これにより、例えば、データソースに格納されている国名リストをコンボボックスに埋め込むことができます。

次のフォームオブジェクトプロパティは、ダイナミックプロパティであり、データソースの値と連結することができます。

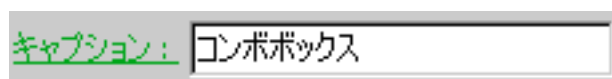
- コンボボックスまたはリストボックスの項目リスト
- キャプション
- 検証パターンのメッセージ
- 検証スクリプトのメッセージ
- ツールヒント
- スクリーンリーダーテキスト

ダイナミックプロパティを使用することにより、フォームデザインの外でフォームオブジェクトプロパティを変更し、データソースからデータを埋め込むことができます。これは、デプロイメントやメンテナンスの観点からも便利な機能です。

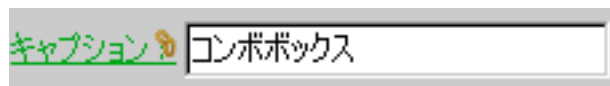
さらに、1つのデータソースのデータを別のフォームデザインで使用することもできます。例えば、国名リストを1つのデータファイルに格納し、複数のフォームで使用することができます。複雑なデータベースから簡単なXMLファイルまで、様々なデータソースを使用することができます。

注意：キャプションまたはツールヒントなどのダイナミックに挿入されるテキストにハイパーリンクやドットリーダーが含まれると予想される場合は、フォームの対象バージョンとして Acrobat および Acrobat Reader 9.0 以降を選択してください。

Designer では、ダイナミックプロパティとして設定できるフォームオブジェクトプロパティの識別にアクティブなラベルが使用されます。アクティブなラベルのオンとオフを切り替えるには、ツール／オプション／データ連結を選択し、データ連結ダイアログボックスで「ダイナミックプロパティを表示」オプションを選択します。次の図は、データソースにダイナミックに連結する前と後における、コンボボックスのキャプションのアクティブなラベルを示しています。



前



後

データ表示パレットに表示されるアイコン  は、ノードがオブジェクトにダイナミックに連結されていることを示します。

注意：ノードがダイナミックプロパティとフィールドの両方に連結されている場合は、デフォルトのアイコン  が表示されます。

データソースからフォームオブジェクトプロパティにデータをダイナミックに埋め込むには、まずフォームオブジェクトプロパティをデータファイルに連結し、フォームオブジェクトプロパティに埋め込むデータを格納するデータファイルを参照するように指定する必要があります。

注意：データファイル構造が特定されている場合は、フォームオブジェクトプロパティをデータファイルに手動で連結することができます。この場合、データ接続は不要です。

次の表に、オブジェクトとそのアクティブなラベルを示します。

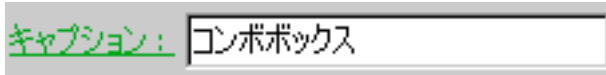
アクティブなラベル / オブジェクト	リスト項目	項目の値を指定	キャプション	検証パターンのメッセージ	検証スクリプトのメッセージ	ツールヒント	カスタムのスクリーンリーダーテキスト
バーコード				Y	Y	Y	Y
ボタン			Y			Y	Y
チェックボックス			Y		Y	Y	Y
日付 / 時間フィールド			Y	Y	Y	Y	Y
十進数フィールド			Y	Y	Y	Y	Y
署名フィールド			Y			Y	Y
コンボボックス	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
電子メール送信ボタン			Y			Y	Y
HTTP 送信ボタン			Y			Y	Y
画像						Y	Y
画像フィールド			Y			Y	Y
リストボックス	Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
数値フィールド			Y	Y	Y	Y	Y
パスワードフィールド			Y	Y	Y	Y	Y
印刷ボタン			Y			Y	Y
ラジオボタン					Y	Y	Y
テキスト						Y	Y
テキストフィールド			Y	Y	Y	Y	Y

ダイナミックプロパティの設定

どのフォームオブジェクトプロパティがダイナミックプロパティであるかを識別するには、まずアクティブなラベルをオンにする必要があります。

どのプロパティをダイナミックにできるかは、アクティブなラベルで識別することができます。アクティブなラベルには、緑の下線が引かれています。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。アクティブなラベルにデフォルトの色を設定することができます。

次の図は、コンボボックスのキャプションのアクティブなラベルを示しています。



デフォルトでは、ダイナミックプロパティはオフになっています。

アクティブなラベルのオン / オフを切り替えるには

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- ・ オブジェクトパレットメニューから「ダイナミックプロパティを表示」を選択します。
- ・ ツール／オプションを選択して、左側のリストから「データ連結」を選択します。次に、「ダイナミックプロパティを表示」オプションを選択し、「OK」をクリックします。

注意：アクティブなラベルをオフにしても、データソースに既にダイナミックに連結されているフォームオブジェクトプロパティはすべて連結してアクティブなままです。

アクティブなラベルにデフォルトの色を設定するには

- 1 ツール／オプションを選択して、左側のリストから「データ連結」を選択します。
- 2 「カスタムラベル色を使用」オプションを選択します。
- 3 カラーピッカーをクリックして色を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。

コンボボックスまたはリストボックスへのデータのダイナミックな埋め込み

コンボボックスまたはリストボックスには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。

指定可能な値セットがあらかじめ決められており、変動しない場合は、フォームのデザイン時にその値セットをコンボボックスまたはリストボックスに埋め込むことができます。292 ページの「[コンボボックスとリストボックスの使用](#)」を参照してください。値セットが変動する場合は、実行時にコンボボックスまたはリストボックスにデータソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。値セットが大規模な場合は、値セットをデータソースに格納することにより、フォームをより柔軟に設定できるようになります。

例えば、データソースに格納されている国名リストをコンボボックスに埋め込むことができます。また、リストボックスにはフランス語の製品名が埋め込まれ、データソースには英語のデータ値が送信されるようにすることができます。

例えば、接続したスキーマで次のようにリストが定義されているとします。

```
<form>
  <lists>
    <item uiname="item1" token="value1"/>
    <item uiname="item2" token="value2"/>
  </lists>
</form>
```

参照されるよう指定したデータファイルで次のようにリストが定義されているとします。

```
<form>
  <lists>
    <item uiname="MasterCard" token="MC"/>
    <item uiname="Visa" token="VS"/>
    <item uiname="Eurocard" token="EC"/>
    <item uiname="Special Card" token="SC"/>
  </lists>
</form>
```

データファイルとフォームデザインを結合すると、リストにはオプションの1つとして「**MasterCard**」と表示されますが、フォームが送信される時は「**MC**」というトークンがデータソースに送信されます。

 **OLEDB** データ接続を使用している場合は、オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリにあるデータコンボボックスオブジェクトまたはデータリストボックスオブジェクトを使用して、コンボボックスまたはリストボックスにテーブルの列のデータを埋め込むことができます。522 ページの「[OLEDB データ接続からコンボボックスまたはリストボックスへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

この作業を行う前に、次の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- アクティブなラベルがオンであることを確認します。518 ページの「[ダイナミックプロパティの設定](#)」を参照してください。
- フォームオブジェクトプロパティと連結するデータを記述するデータソースに接続していることを確認します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。
- サンプルデータでフォームをテストするために、フォームオブジェクトプロパティ用に定義されているデータを格納するデータファイルを参照するように指定していることを確認します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。

- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、コンボボックスまたはリストボックスをフォームデザインにドラッグします。

ここでは、コンボボックスオブジェクトを挿入します。

- 2 (オプション) オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「キャプション」ボックスにオブジェクトのキャプションを入力します。

ここでは、「Credit Card」というキャプションを入力します。

- 3 次のいずれかの操作を行います。

- オブジェクトパレットの「フィールド」タブで「項目リスト」アクティブなラベルをクリックします。
- オブジェクトパレットの「連結」タブで「項目の値を指定」アクティブなラベルをクリックします。

注意：操作性を高めるため、「項目リスト」アクティブなラベルと「項目の値を指定」アクティブなラベルの両方について、同じダイナミックプロパティダイアログボックスが表示されます。

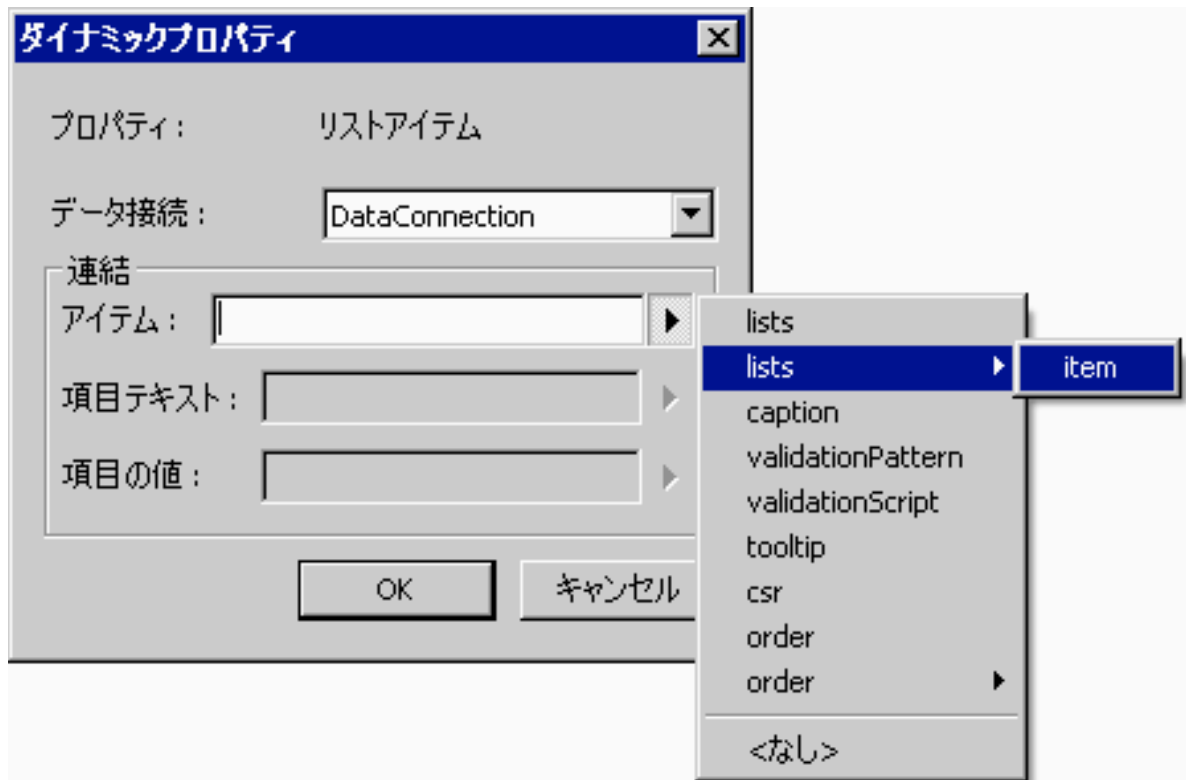
- 4 データ接続を選択します。

注意：データソースにまだ接続していない場合、データ接続リストで選択できるのは「デフォルトのデータ連結」のみです。

- 5 「アイテム」ボックスの横にある三角形をクリックして連結を選択します。

コンボボックスまたはリストボックスに複数の項目が表示されるよう、繰り返しデータ値または繰り返しデータグループを選択します。

例えば、lists / item を選択します。



「アイテム」ボックスに次の文字列が表示されます。

`$record.lists.item[*]`

💡 この文字列を選択する代わりに、「アイテム」ボックスにこの文字列を入力することもできます。

注意：OLEDB データ接続を使用する場合、「アイテム」ボックスは使用できません。「項目テキスト」ボックスと「項目の値」ボックスを使用して、リストへのデータの埋め込みに使用するデータベースの列を選択します。

- 6 実行時にユーザーにわかりやすい項目名を表示するには、「項目テキスト」ボックスの横にある三角形をクリックして、連結を選択します。

例えば、@uname を選択して「MasterCard」と表示させます。



参照されるよう指定したデータファイルで繰り返しデータ値を設定することもできます。

```
<form>
  <pymt>
    <cc type="MC">MasterCard</cc>
    <cc type="VS">Visa</cc>
  </pymt>
</form>
```

注意：#data を選択すると、コンボボックスに「Mastercard」と表示されます。

- 7 (オプション)「項目テキスト」ボックスの値と異なる値をデータソースに保存するには、「項目の値」ボックスの横にある三角形をクリックして、連結を選択します。

例えば、@token を選択して「MC」をデータファイルに保存します。

参照されるよう指定したデータファイルで繰り返しデータ値を設定することもできます。

```
<form>
  <pymt>
    <cc type="MC">MasterCard</cc>
    <cc type="VS">Visa</cc>
  </pymt>
</form>
```

注意：#data を選択すると、コンボボックスに「MC」と表示されます。

- 8 「OK」をクリックします。

連結が設定されると、アクティブなラベルに小さなリンクアイコンが表示されます。



- 9 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

OLEDDB データ接続からコンボボックスまたはリストボックスへのデータのダイナミックな埋め込み

オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリでは 2 つのカスタムオブジェクトを使用できます。これらのオブジェクトを使用すると、2 つの列に OLEDDB データ接続からのデータを埋め込むことができます。データコンボボックスオブジェクトでもデータリストボックスオブジェクトでも、2 つの列には OLEDDB データ接続からのデータが埋め込まれます。

注意：これは、スクリプトベースの代替方法です。ダイナミックプロパティを使用して同じ処理を実行することができます。518 ページの「[コンボボックスまたはリストボックスへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」を参照してください。

- 1 オブジェクトライブラリパレットでカスタムカテゴリをクリックし、適切なリストオブジェクトをページにドラッグします。
 - コンボボックスを作成するには、データコンボボックスオブジェクトをドラッグします。
 - リストボックスを作成するには、データリストボックスオブジェクトをドラッグします。
- 2 オブジェクトを選択します。
- 3 ウィンドウ/スクリプトエディターを選択します。
- 4 `sDataConnectionName = "<value>"` の `value` 部分をデータ接続名に置き換えます。
- 5 `sColHiddenValue = "<value>"` の `value` 部分を非表示の値の名前に置き換えます。
- 6 `sColDisplayText = "<value>"` の `value` 部分を表示テキストの列名に置き換えます。

関連項目

- 498 ページの「[連結されたフィールドまたはサブフォームを作成するには](#)」
- 492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」
- 495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」
- 509 ページの「[フィールドの種類](#)」

キャプションへのデータのダイナミックな埋め込み

キャプションには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。

例えば、キャプションにフランス語の製品名を埋め込むことができます。接続したスキーマで次のようにキャプションが定義されているとします。

```
<form>  
  <caption product="ProductName"></caption>  
</form>
```

参照されるよう指定したデータファイルで次のようにキャプションが定義されているとします。

```
<form>  
  <caption product="Desk Lamp"></caption>  
</form>
```

データファイルとフォームデザインをマージすると、製品のキャプションは「**Desk Lamp**」と表示されます。

もう 1 つの例として、製品名を別の言語で表示させることもできます。参照されるよう指定したデータファイルで次のようにキャプションが定義されているとします。

```
<form>  
  <caption product="Lampe de Bureau"></caption>  
</form>
```

データファイルとフォームデザインをマージすると、製品のキャプションは「**Lampe de Bureau**」と表示されます。

注意：データファイルで ASCII テキスト以外（アクセント記号など）を使用する場合は、ファイルが適切にエンコードされ、エンコーディングが XML 処理指示形式で正しく表記されていなければなりません。次に例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

この作業を行う前に、次の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- アクティブなラベルがオンであることを確認します。518 ページの「[ダイナミックプロパティの設定](#)」を参照してください。
- フォームオブジェクトプロパティと連結するデータを記述するデータソースに接続していることを確認します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。
- サンプルデータでフォームをテストするために、フォームオブジェクトプロパティ用に定義されているデータを格納するデータファイルを参照するように指定していることを確認します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。

- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、オブジェクトをフォームデザインにドラッグします。

例えば、テキストフィールドオブジェクトを挿入します。

- 2 (オプション) オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「キャプション」ボックスにオブジェクトのキャプションを入力します。

ここでは、「Product」と入力します。

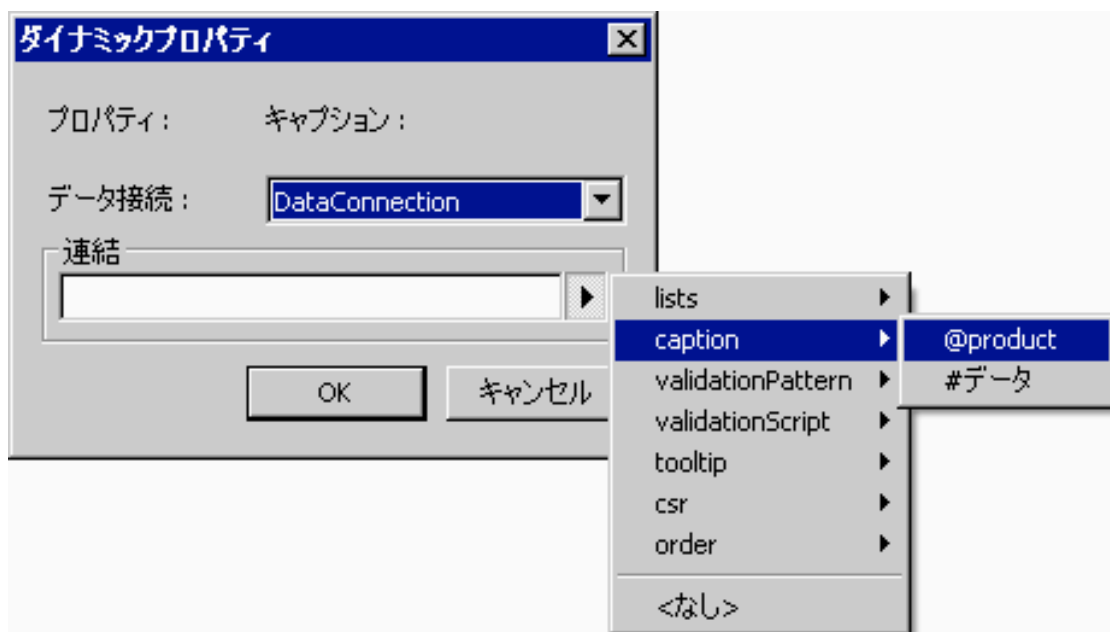
- 3 「キャプション」アクティブなラベルをクリックします。

- 4 データ接続を選択します。

注意：データソースにまだ接続していない場合、データ接続リストで選択できるのは「デフォルトのデータ連結」のみです。

- 5 「連結」ボックスの横にある三角形をクリックして連結を選択します。

例えば、caption / @product を選択します。



注意：キャプションをデータソースに連結すると、「レイアウト」タブで「キャプションの位置」を「なし」に設定している場合でも、キャプションは常にフォームに表示されます。

6 「OK」をクリックします。

7 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み

検証パターンのメッセージには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。これにより、確実に有効な値がフィールドに入力されるようになります。

例えば、ユーザーがフィールドに無効なパターンを入力した場合にカスタムエラーメッセージを表示させることができます。

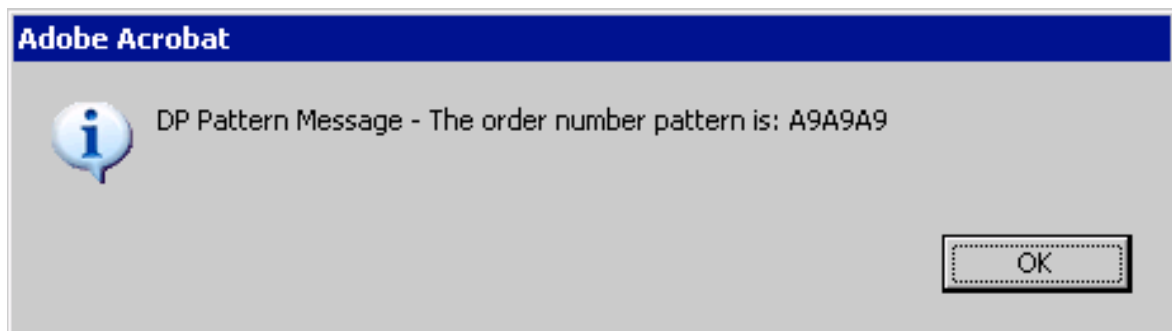
接続したスキーマで次のように検証パターンが定義されているとします。

```
<form>  
  <validationPattern dp_patternMessage="message1"/>  
</form>
```

参照されるよう指定したデータファイルで次のように検証パターンが定義されているとします。

```
<form>  
  <validationPattern dp_patternMessage="DP Pattern Message - The order number pattern is: A9A9A9"/>  
</form>
```

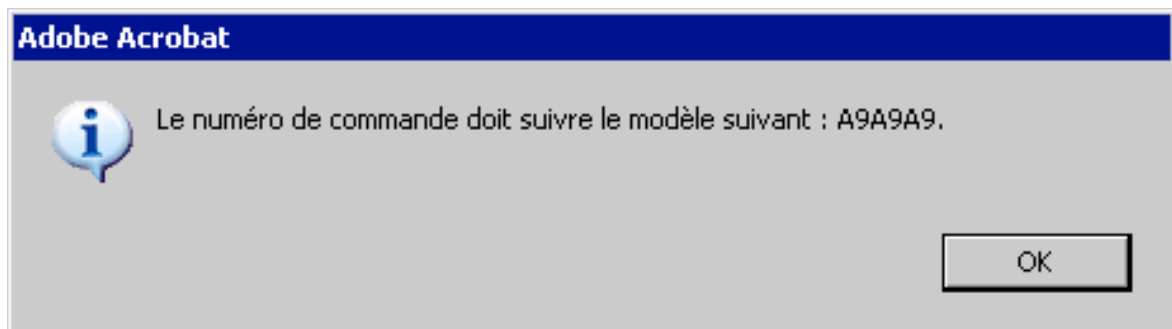
データファイルとフォームデザインを結合し、「Order Number」フィールドに必要なパターンと一致しない番号を入力すると、エラーダイアログボックスが表示されます。



もう 1 つの例として、パターンのカスタムエラーメッセージを別の言語で表示させることもできます。参照されるよう指定したデータファイルで次のように検証パターンが定義されているとします。

```
<form>  
  <validationPattern dp_patternMessage="Le numéro de commande doit suivre le modèle suivant : A9A9A9"/>  
</form>
```

データファイルとフォームデザインを結合し、「Order Number」フィールドに必要なパターンと一致しない番号を入力すると、エラーダイアログボックスがフランス語で表示されます。



注意：データファイルで ASCII テキスト以外（アクセント記号など）を使用する場合は、ファイルが適切にエンコードされ、エンコーディングが XML 処理指示形式で正しく表記されていなければなりません。次に例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

この作業を行う前に、次の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- アクティブなラベルがオンであることを確認します。518 ページの「[ダイナミックプロパティの設定](#)」を参照してください。
- フォームオブジェクトプロパティと連結するデータを記述するデータソースに接続していることを確認します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。
- サンプルデータでフォームをテストするために、フォームオブジェクトプロパティ用に定義されているデータを格納するデータファイルを参照するように指定していることを確認します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。

- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、オブジェクトをフォームデザインにドラッグします。

例えば、テキストフィールドオブジェクトを挿入します。

- 2 (オプション) オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「キャプション」ボックスにオブジェクトのキャプションを入力します。

ここでは、「Order Number」と入力します。

- 3 「値」タブをクリックし、「検証パターン」をクリックします。

- 4 種類を選択リストで、検証パターンを選択します。

例えば、郵便番号（カナダ）を選択すると、パターン A9A 9A9 が「パターン」ボックスに表示されます。

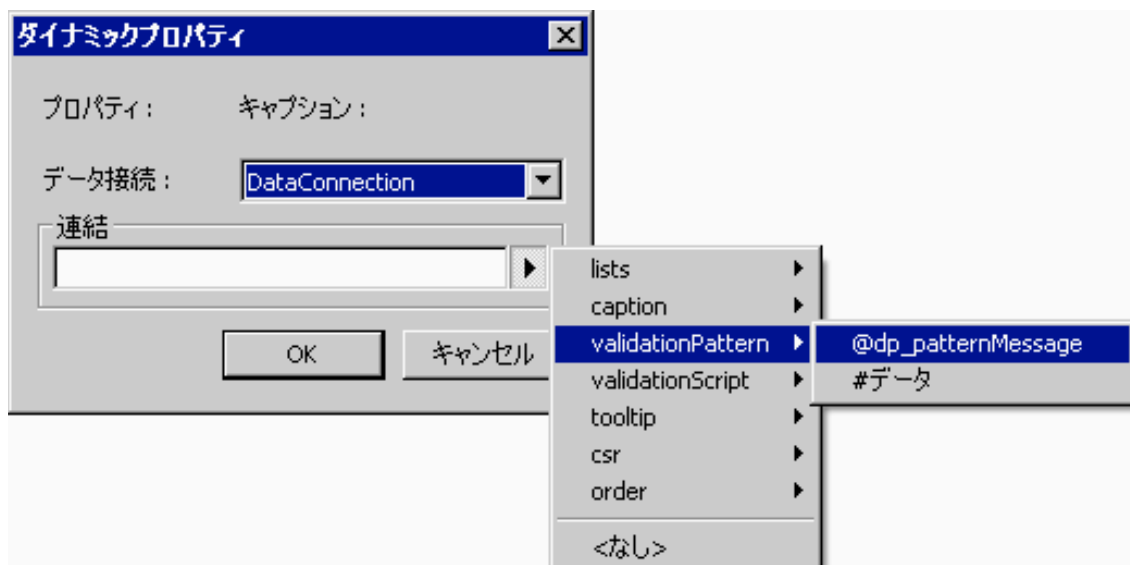
- 5 「検証パターンのメッセージ」アクティブなラベルをクリックします。

- 6 データ接続を選択します。

注意：データソースにまだ接続していない場合、データ接続リストで選択できるのは「デフォルトのデータ連結」のみです。

- 7 「連結」ボックスの横にある三角形をクリックして連結を選択します。

ここでは、validation / @dp_patternMessage を選択します。



「連結」ボックスに次の文字列が表示されます。

```
$record.validation.dp_patternMessage
```



この文字列を選択する代わりに、「アイテム」ボックスにこの文字列を入力することもできます。

8 「OK」をクリックします。

9 「PDF プレビュー」タブでエラーメッセージを表示します。

例えば、「PDF プレビュー」タブで、パターンと一致しない発注番号を入力します。

検証スクリプトのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み

検証スクリプトのメッセージには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。これにより、確実に有効な値がフィールドに入力されるようになります。

例えば、フィールドのスクリプトで必要としている値と一致しない値をユーザーがフィールドに入力した場合に、カスタムエラーメッセージを表示させることができます。一例を挙げると、「Quantity」などの数値フィールドには、100 より大きい数値を許可しないスクリプトをアタッチすることができます。ユーザーが 100 より大きい数値を入力すると、カスタムエラーメッセージが表示されます。

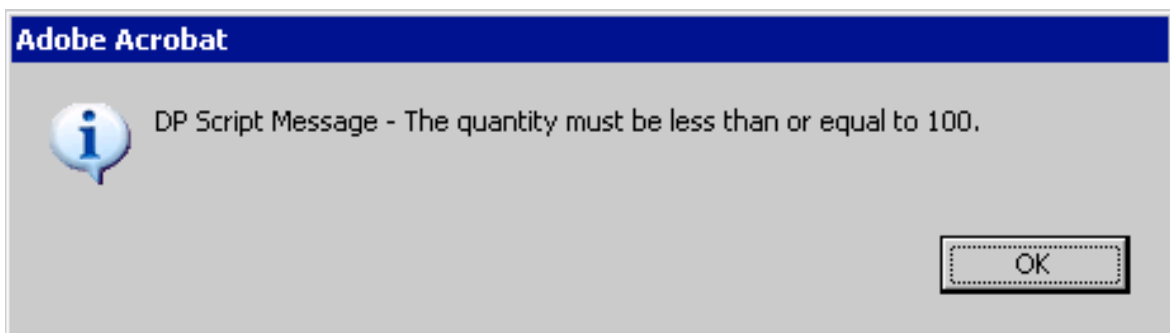
接続したスキーマで次のように検証スクリプトが定義されているとします。

```
<form>
  <validationScript dp_scriptMessage="message1"/>
</form>
```

参照されるよう指定したデータファイルで次のように検証スクリプトが定義されているとします。

```
<form>
  <validationScript dp_scriptMessage="DP Script Message - The quantity must be less than or equal to 100."/>
</form>
```

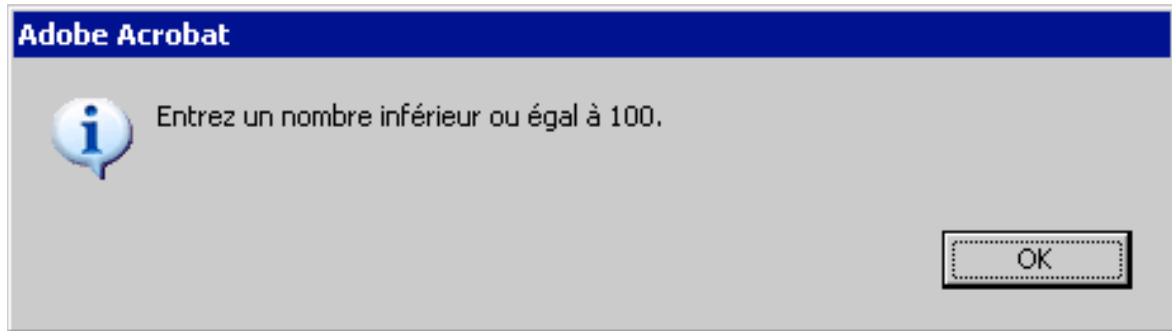
データファイルとフォームデザインを結合し、「Quantity」フィールドに 100 より大きい数値を入力すると、エラーダイアログボックスが表示されます。



もう 1 つの例として、スクリプトにアタッチするカスタムエラーメッセージを別の言語で表示させることもできます。参照されるよう指定したデータファイルで次のように検証スクリプトが定義されているとします。

```
<form>
  <validationScript dp_scriptMessage="Entrez un nombre inférieur ou égal à 100."/>
</form>
```

データファイルとフォームデザインを結合し、「Quantity」フィールドに 100 より大きい数値を入力すると、エラーダイアログボックスがフランス語で表示されます。



注意：データファイルで ASCII テキスト以外（アクセント記号など）を使用する場合は、ファイルが適切にエンコードされ、エンコーディングが XML 処理指示形式で正しく表記されていなければなりません。次に例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

この作業を行う前に、次の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- アクティブなラベルがオンであることを確認します。518 ページの「[ダイナミックプロパティの設定](#)」を参照してください。
- フォームオブジェクトプロパティと連結するデータを記述するデータソースに接続していることを確認します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。
- サンプルデータでフォームをテストするために、フォームオブジェクトプロパティ用に定義されているデータを格納するデータファイルを参照するように指定していることを確認します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。

- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、オブジェクトをフォームデザインにドラッグします。

ここでは、数値フィールドオブジェクトを挿入します。

- 2 (オプション) オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「キャプション」ボックスにオブジェクトのキャプションを入力します。

ここでは、「Quality」と入力します。

- 3 スクリプトエディターで、イベントリストから「validate」を選択します。

- 4 スクリプトエディターで、「言語」ボックスから言語を選択します。

ここでは、「言語」ボックスから「JavaScript」を選択します。

- 5 オブジェクトのスクリプトを入力します。

ここでは、「Quantity」フィールドに次のスクリプトを入力します。

```
this.rawValue <= 100
```

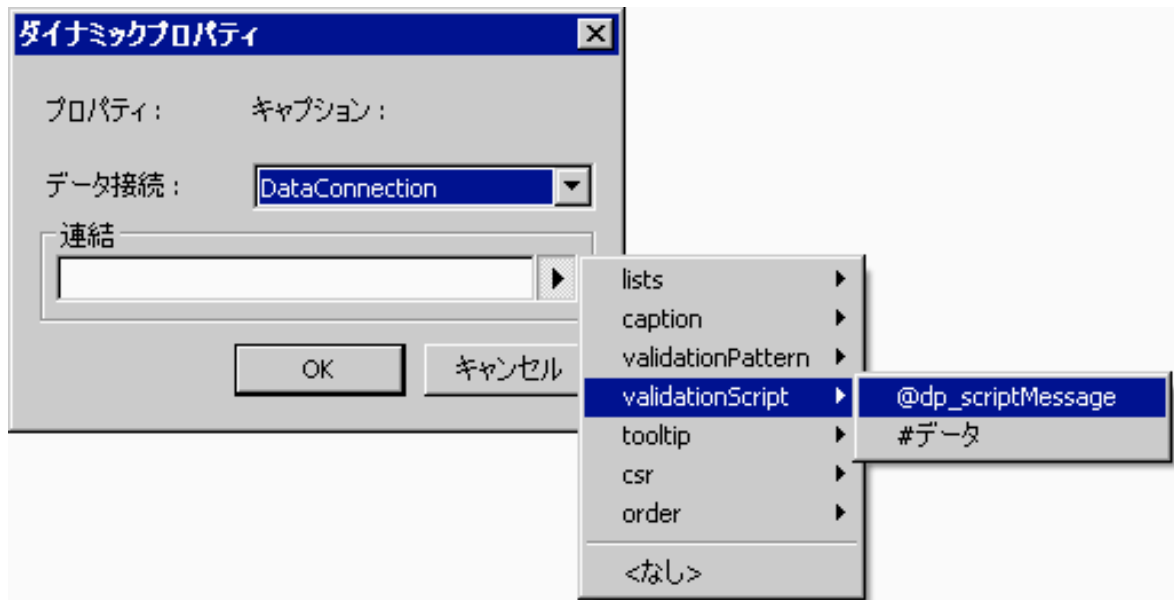
- 6 オブジェクトパレットで「値」タブをクリックし、「検証スクリプトのメッセージ」アクティブなラベルをクリックします。

- 7 データ接続を選択します。

注意：データソースにまだ接続していない場合、データ接続リストで選択できるのは「デフォルトのデータ連結」のみです。

- 8 「連結」ボックスの横にある三角形をクリックして連結を選択します。

ここでは、validation / @dp_scriptMessage を選択します。



「連結」ボックスに次の文字列が表示されます。

\$record.validation.dp_scriptMessage



この文字列を選択する代わりに、「アイテム」ボックスにこの文字列を入力することもできます。

9 「OK」をクリックします。

10 「PDF プレビュー」タブでエラーメッセージを表示します。

例えば、「PDF プレビュー」タブで 100 より大きい数量を入力します。

ツールヒントへのデータのダイナミックな埋め込み

ツールヒントには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。例えば、オブジェクトのカスタムツールヒントをフランス語で表示させることができます。

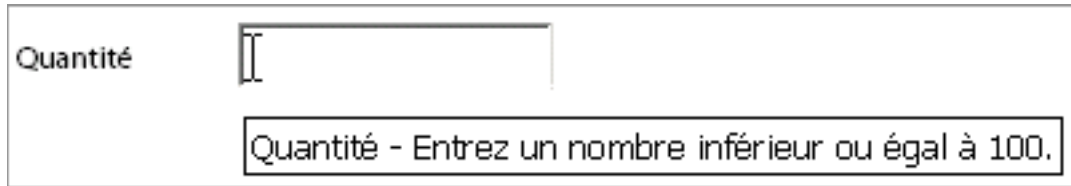
接続したスキーマで次のようにツールヒントが定義されているとします。

```
<form>
  <tooltip dp_tt="tooltip1"/>
</form>
```

参照されるよう指定したデータファイルで次のようにツールヒントが定義されているとします。

```
<form>
  <tooltip dp_tt="Quantité - Entrez un nombre inférieur ou égal à 100."/>
</form>
```

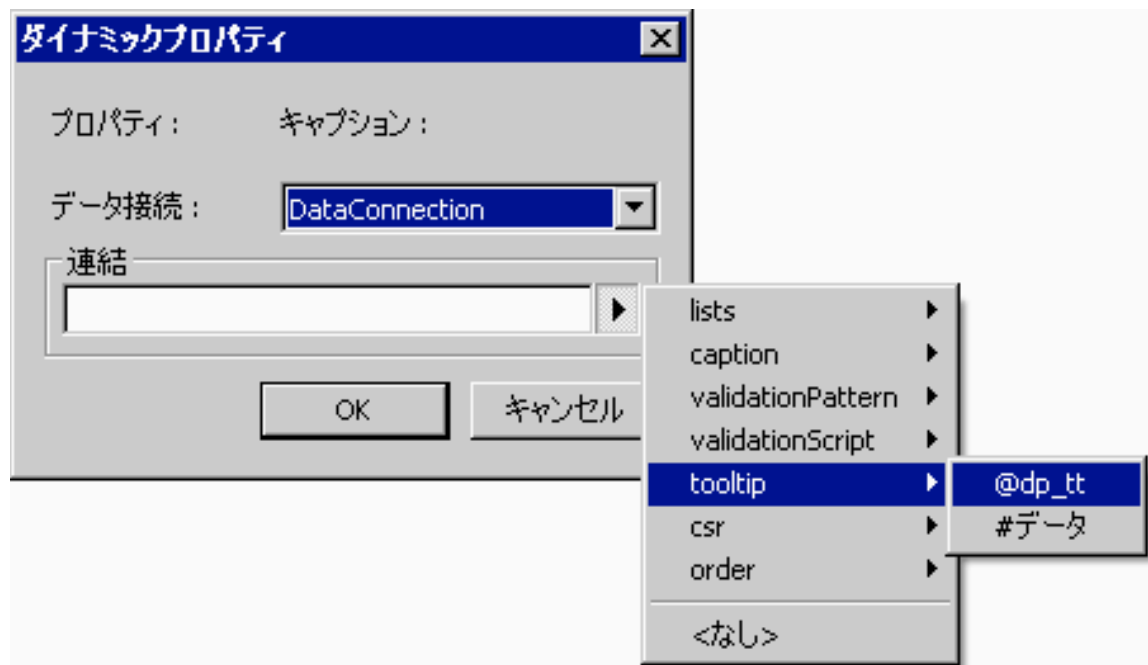
データファイルとフォームデザインを結合し、「Quantity」フィールドにポインターを移動すると、次のツールヒントが表示されます。



この作業を行う前に、次の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- アクティブなラベルがオンであることを確認します。518 ページの「[ダイナミックプロパティの設定](#)」を参照してください。
 - フォームオブジェクトプロパティと連結するデータを記述するデータソースに接続していることを確認します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。
 - サンプルデータでフォームをテストするために、フォームオブジェクトプロパティ用に定義されているデータを格納するデータファイルを参照するように指定していることを確認します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。
- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、オブジェクトをフォームデザインにドラッグします。
例えば、テキストフィールドオブジェクトを挿入します。
 - 2 (オプション) オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「キャプション」ボックスにオブジェクトのキャプションを入力します。
ここでは、「Quantity」と入力します。
 - 3 アクセシビリティパレットで「ツールヒント」アクティブなラベルをクリックします。
 - 4 データ接続を選択します。
注意：データソースにまだ接続していない場合、データ接続リストで選択できるのは「デフォルトのデータ連結」のみです。
 - 5 「連結」ボックスの横にある三角形をクリックして連結を選択します。

ここでは、tooltip / @dp_tt を選択します。



「連結」ボックスに次の文字列が表示されます。

\$record.tooltip.dp_tt

 この文字列を選択する代わりに、「アイテム」ボックスにこの文字列を入力することもできます。

6 「OK」をクリックします。

7 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

例えば、「PDF プレビュー」タブで「Quantity」フィールドにポインターを移動させてカスタムツールヒントを表示させます。

スクリーンリーダーテキストへのデータのダイナミックな埋め込み

スクリーンリーダーテキストには、データソースの文字列をダイナミックに埋め込むことができます。例えば、フランス語のオブジェクトについてカスタムのスクリーンリーダーテキストを表示することができます。

接続したスキーマで次のようにカスタムのスクリーンリーダーテキストが定義されているとします。

```
<form>
  <csr dp_csr="csr1"/>
</form>
```

参照されるよう指定したデータファイルで次のようにカスタムのスクリーンリーダーテキストが定義されているとします。

```
<form>
  <csr dp_csr="The 7-digit customer identification field."/>
</form>
```

データファイルとフォームデザインをマージし、スクリーンリーダーを起動すると、フィールドの種類が読み取られ、「The 7-digit customer identification field.」と読み上げられます。

この作業を行う前に、次の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- アクティブなラベルがオンであることを確認します。518 ページの「[ダイナミックプロパティの設定](#)」を参照してください。
- フォームオブジェクトプロパティと連結するデータを記述するデータソースに接続していることを確認します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。
- サンプルデータでフォームをテストするために、フォームオブジェクトプロパティ用に定義されているデータを格納するデータファイルを参照するように指定していることを確認します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。
- Acrobat で編集／環境設定を選択し、環境設定ダイアログボックス（読み方カテゴリ）で、「フォームのフィールドを読み上げる」が有効になっていることを確認します。

- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、オブジェクトをフォームデザインにドラッグします。

ここでは、数値フィールドオブジェクトを挿入します。

- 2 (オプション) オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「キャプション」ボックスにオブジェクトのキャプションを入力します。

ここでは、「Customer ID」と入力します。

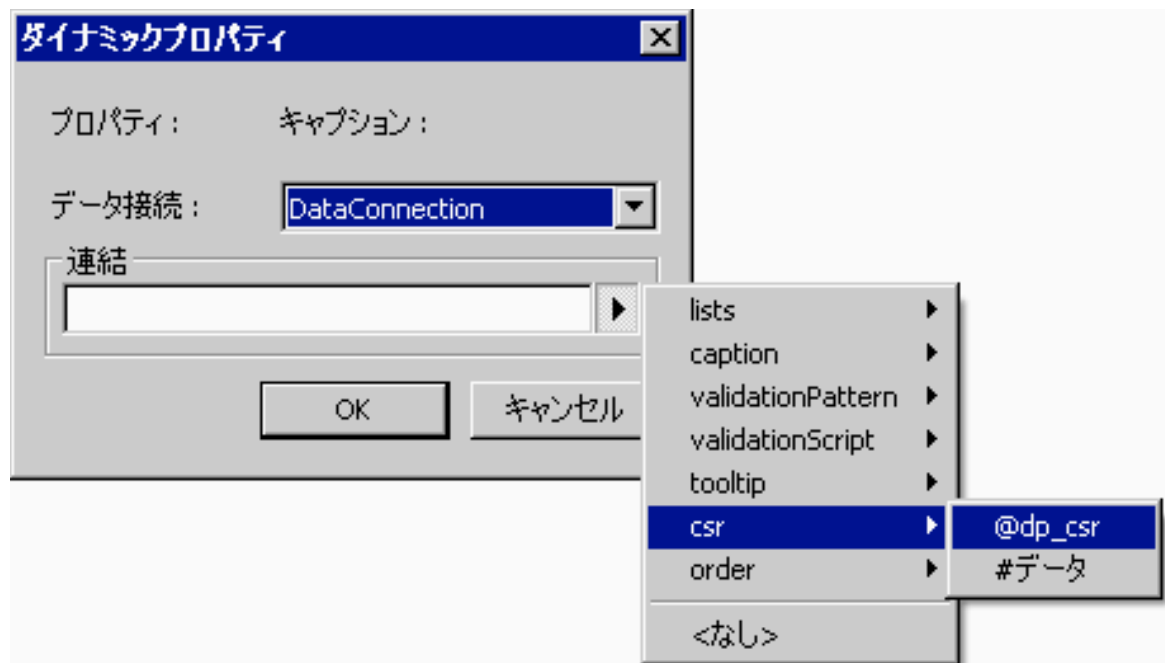
- 3 アクセシビリティパレットで「カスタムのスクリーンリーダーテキスト」アクティブなラベルをクリックします。

- 4 データ接続を選択します。

注意：データソースにまだ接続していない場合、データ接続リストで選択できるのは「デフォルトのデータ連結」のみです。

- 5 「連結」ボックスの横にある三角形をクリックして連結を選択します。

ここでは、`csr / @dp_csr` を選択します。



「連結」ボックスに次の文字列が表示されます。

`$record.csr.dp_csr`

 この文字列を選択する代わりに、「アイテム」ボックスにこの文字列を入力することもできます。

6 「OK」をクリックします。

7 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

例えば、「PDF プレビュー」タブで「Customer ID」フィールドにデータを入力してカスタムのスクリーンリーダーテキストを読み上げさせます。

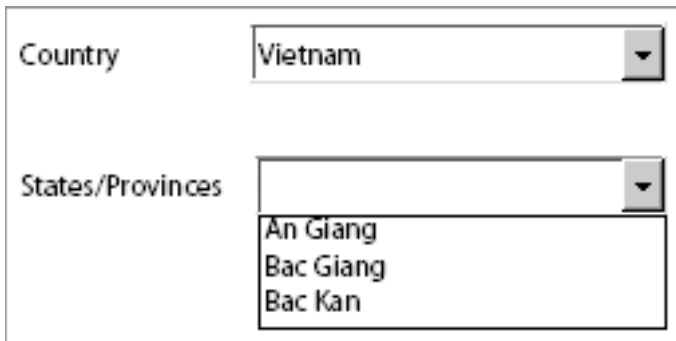
1 つ目のフィールドにデータをダイナミックに埋め込んだ後に 2 つ目のフィールドにデータをダイナミックに埋め込む

スクリプティングを使用して、1 つ目のフィールドにデータを埋め込んだ後に 2 つ目のフィールドにデータをダイナミックに埋め込むことができます。例えば、まず、1 つ目のコンボボックスに国名リストが表示されるようにします。ユーザーがそのコンボボックスから国名を選択したら、その国の州または県のリストが表示されるようにすることができます。

例えば、接続したサンプル XML ファイルで次のように定義されているとします。

```
<MyData>
  <country/>
  <countries>
    <item uiname="United States" token="US"/>
    <item uiname="Vietnam" token="SRV"/>
  </countries>
  <state/>
  <US>
    <item>California</item>
    <item>New York</item>
    <item>Texas</item>
  </US>
  <SRV>
    <item>An Giang</item>
    <item>Bac Giang</item>
    <item>Bac Kan</item>
  </SRV>
</MyData>
```

例えば、1 つ目のコンボボックスから「Vietnam」を選択すると、States / Provinces リストにはベトナムに該当する項目のみが表示されます。



The screenshot shows a web form with two fields. The first field, labeled 'Country', is a dropdown menu with 'Vietnam' selected. The second field, labeled 'States/Provinces', is a list box showing three items: 'An Giang', 'Bac Giang', and 'Bac Kan'.

この作業を行う前に、次の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- アクティブなラベルがオンであることを確認します。518 ページの「[ダイナミックプロパティの設定](#)」を参照してください。

- フォームオブジェクトプロパティと連結するデータを記述するデータソースに接続していることを確認します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。
- サンプルデータでフォームをテストするために、フォームオブジェクトプロパティ用に定義されているデータを格納するデータファイルを参照するように指定していることを確認します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。

1 つ目のフィールドを設定するには

- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、コンボボックスまたはリストボックスをフォームデザインにドラッグします。

ここでは、コンボボックスオブジェクトを挿入します。

- 2 (オプション) オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「キャプション」ボックスにオブジェクトのキャプションを入力します。

ここでは、「Country」と入力します。

- 3 次のいずれかの操作を行います。

- オブジェクトパレットの「フィールド」タブで「項目リスト」アクティブなラベルをクリックします。
- オブジェクトパレットの「連結」タブで「項目の値を指定」アクティブなラベルをクリックします。

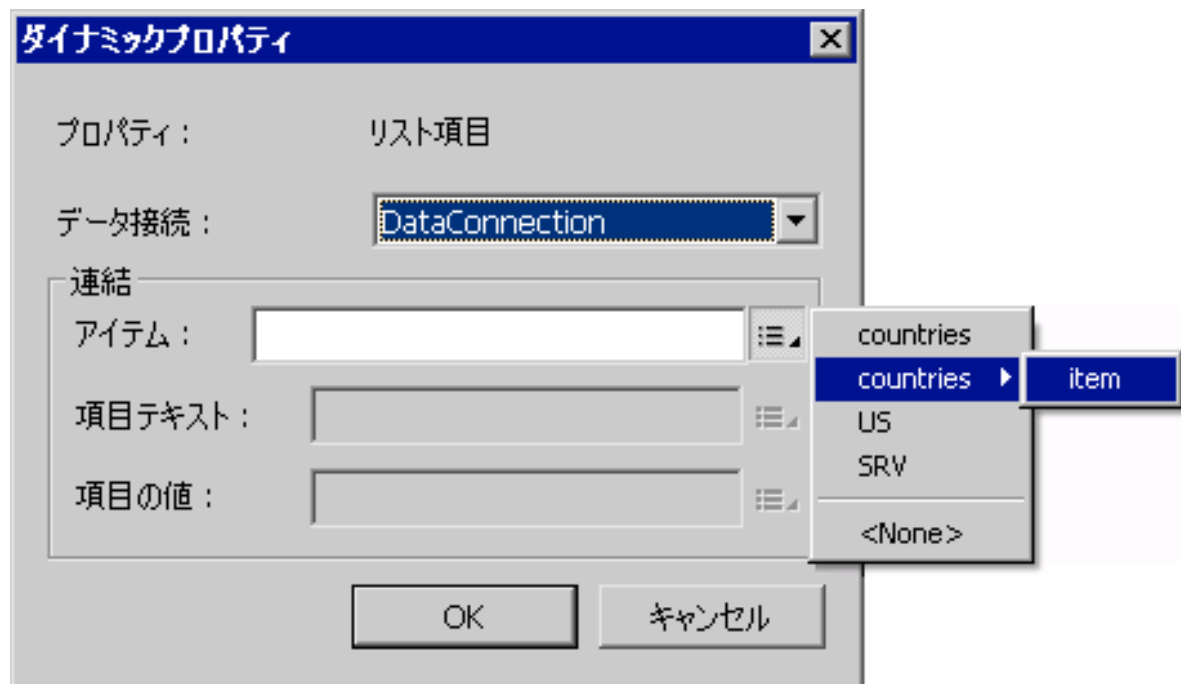
- 4 データ接続を選択します。

注意：データソースにまだ接続していない場合、データ接続リストで選択できるのは「デフォルトのデータ連結」のみです。

- 5 「アイテム」ボックスの横にある三角形をクリックして連結を選択します。

コンボボックスまたはリストボックスに複数の項目が表示されるよう、繰り返しデータ値または繰り返しデータグループを選択します。

ここでは、countries / item を選択します。



「アイテム」ボックスに次の文字列が表示されます。

```
$record.countries.item[*]
```



この文字列を選択する代わりに、「アイテム」ボックスにこの文字列を入力することもできます。

注意：OLEDDB データ接続を使用する場合、「アイテム」ボックスは使用できません。「項目テキスト」ボックスと「項目の値」ボックスを使用して、リストへのデータの埋め込みに使用するデータベースの列を選択します。

- 実行時にユーザーにわかりやすい項目名を表示するには、「項目テキスト」ボックスの横にある三角形をクリックして、連結を選択します。

例えば、@uname を選択して「**United States**」と表示させます。

- (オプション)「項目テキスト」ボックスの値と異なる値をデータソースに保存するには、「項目の値」ボックスの横にある三角形をクリックして、連結を選択します。

例えば、@token を選択して「**US**」をデータファイルに保存します。

- 「OK」をクリックします。

連結が設定されると、アクティブなラベルに小さなリンクアイコンが表示されます。



1 つ目のフィールドにデータが埋め込まれた後に 2 つ目のフィールドにデータをダイナミックに埋め込むスクリプトを設定するには

- 選択した最初のコボボックスに、スクリプトエディターのイベントリストから「change」を選択します。
- 「言語」ボックスから「JavaScript」を選択します。
- 次のスクリプトを入力します。

```
var tempString = "xfa.record." + this.boundItem(xfa.event.newText);
var oItems = xfa.resolveNode(tempString);
var nItemsLength = oItems.nodes.length;

DropDownList2.clearItems();

for (var nItemCount = 0; nItemCount < nItemsLength; nItemCount++) {
    DropDownList2.addItem(oItems.nodes.item(nItemCount).value);
}
```

スクリプト	説明
tempString	xfa.record の文字列を指定します。例えば、「United States」が選択されると、xfa.record は xfa.record.US になります。
this.boundItem	ユーザーにわかりやすい名前から値またはトークン文字列に変換するリストオブジェクトメソッドです。例えば、「United States」が選択されると、「US」が送信されます。
xfa.event.newText	リストの Change イベントの新しいテキストコンテンツを返します。例えば、「United States」が選択されると、「United States」が送信されます。
var nItemsLength = oItems.nodes.length;	<US> (または <SRV>) の子要素の数 (<item> の子の数) をクエリします。

スクリプト	説明
<code>DropDownList1.clearItems();</code>	2 つ目のコンボボックスの既存の項目を削除します。
<code>for (var nItemCount = 0; nItemCount < nItemsLength; nItemCount++)</code>	<US> (または <SRV>) の各 <item> の子をクエリします。
<code>DropDownList1.addItem(olItems.nodes.item(nItemCount).value);</code>	nItemCount インデックスにより示される <item> の子のテキスト値を取得し、その値を新しい項目として 2 つ目のコンボボックスに追加します。

2 つ目のフィールドを設定するには

- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、コンボボックスまたはリストボックスをフォームデザインにドラッグします。

ここでは、コンボボックスオブジェクトを挿入します。

- 2 (オプション) オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「キャプション」ボックスにオブジェクトのキャプションを入力します。

ここでは、「States/Provinces」と入力します。

- 3 フィールドをデータソースに連結します。

例えば、state ノードを「States/Provinces」コンボボックスに連結します。

- 4 「PDF プレビュー」タブでフォームを表示します。

ドラッグ&ドロップ操作でのフォームオブジェクトプロパティへのデータのダイナミックな埋め込み

フォームオブジェクトプロパティのダイナミックデータ連結は、ドラッグ&ドロップ操作ですばやく設定することができます。

注意：コンボボックスまたはリストボックスの項目リストをドラッグ&ドロップ操作で設定することはできません。

この作業を行う前に、次の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- アクティブなラベルがオンであることを確認します。518 ページの「[ダイナミックプロパティの設定](#)」を参照してください。
- フォームオブジェクトプロパティと連結するデータを記述するデータソースに接続していることを確認します。490 ページの「[データソースへの接続](#)」を参照してください。
- サンプルデータでフォームをテストするために、フォームオブジェクトプロパティ用に定義されているデータを格納するデータファイルを参照するように指定していることを確認します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。

- 1 ダイナミックデータ連結を設定する対象のアクティブなラベルまで移動します。

- 2 データ表示パレットで、リンクするノードを選択します。

- 3 ノードをクリックしてアクティブなラベルまでドラッグします。

連結されているダイナミックプロパティのアクティブなラベルには、小さなリンクアイコンが表示されます。次に例を示します。

項目リスト 

同じデータ接続でプロパティに既にデータ連結が設定されている場合、既存のデータ連結は上書きされます。

ダイナミックデータ連結の編集

- 1 ダイナミックデータ連結がアタッチされているオブジェクトを選択します。

連結されているダイナミックプロパティのアクティブなラベルには、小さなリンクアイコンが表示されます。次に例を示します。



- 2 データ連結を編集する対象となるダイナミックプロパティのアクティブなラベルまで移動します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - アクティブなラベルをクリックします。
 - アクティブなラベルを右クリックして「[property] 個の連結を編集」を選択します。
- 4 必要に応じて変更を行い、「OK」をクリックします。

ダイナミックデータ連結の削除

- 1 ダイナミックデータ連結がアタッチされているオブジェクトを選択します。

連結されているダイナミックプロパティのアクティブなラベルには、小さなリンクアイコンが表示されます。次に例を示します。



- 2 ダイナミックデータ連結を削除する対象となるアクティブなラベルまで移動します。
- 3 アクティブなラベルを右クリックして「[property] 個の連結をクリア」を選択します。

 ダイナミックプロパティダイアログボックスで「<なし>」を選択することによっても、ダイナミックデータ連結を削除することができます。また、データ接続を削除する場合に、「削除されたデータ接続の連結を削除」オプションを選択すると、デフォルトのデータ連結とダイナミックデータ連結の両方が削除されます。

第 12 章：アクセシブルなフォームの作成

アクセシブルなフォームについて

アクセシブルなフォームは、障害を持つユーザーを含む、多くの人々が使用できるフォームです。障害を持つユーザーとは、コンピューターの画面に表示されるフォームの使用に何らかの制限があるユーザーです。例えば、視覚に障害があるフォームユーザーや、障害のために動作が制限されるフォームユーザーなどが考えられます。

Designer は、障害を持つ様々なユーザーがフォームをより快適に使用できるような特長や機能を多数備えており、障害を持つユーザーのためのアクセシビリティを備えた PDF フォームを簡単に作成できます。

Designer は、Forms を使用したアクセシブル HTML (AHTML) ファイルの作成と、タグ付き PDF フォームの作成をサポートしています。タグ付き PDF フォームには、完全な論理構造が含まれています。また、アクセシビリティを大幅に向上させるための、ドキュメントのコンテンツに関する追加情報も含まれています。

アクセシブルなフォームを作成する際には、エンドユーザーによるインタラクティブな書き込みを想定したフォームなのか、表示と印刷のみを目的とするものなのかを考慮する必要があります。

既存のアクセシブルな PDF ファイルを読み込み、これから作成するフォームの基盤として使用することもできます。詳しくは、139 ページの「[タグ付き PDF ファイルの読み込み](#)」を参照してください。

アクセシブルなフォーム内での読み取り順序とタブ順序

読み取り順序は、スクリーンリーダーがフォーム内のすべてのスタティックオブジェクト（テキストや画像など）とフィールドオブジェクトを読み取る順序です。PDF ファイルでは、スクリーンリーダーが読み取る順序はツリー構造として提供されます。読み取り順序は常に一定の経路を進み、フォーム上の各情報は 1 回だけ表現されます。前方に読み取る場合でも後方に読み取る場合でも経路は同じです。

タブ順序は、ユーザーがキーボードを使用してフォーム内のフィールドを移動する経路です。Designer のデフォルトでは、各フォームのタブ順序は、地理的順序（左から右へ、上から下への配置順）に自動的に設定されます。タブ順序は、タブの順序パレットでカスタマイズできます。タブ順序で進む経路は固定されていません。

読み取り順序に関する制約

Designer では、デフォルトまたはカスタムのタブ順序が読み取り順序のツリー構造に反映されます。ただし、読み取り順序には、様々な制約（読み取る経路が固定されるなど）があるため、Designer では、読み取り順序とタブ順序が別個に生成されます。読み取り順序とタブ順序を統一する場合は、読み取り順序の制約に合わせてタブ順序を設定します。

読み取り順序とサブフォーム

サブフォームはフォーム上のコンテンツを区分けし、フィールド間をタブで移動しやすくします。読み取り順序では、サブフォーム内のオブジェクトがグループとして扱われ、グループ内のすべてのオブジェクトが読み取られた後で、別のサブフォーム内のオブジェクトのグループが読み取られます。

あるサブフォーム内のオブジェクトから別のサブフォーム内のオブジェクトに移動するようにタブ順序をカスタマイズできますが、読み取り順序については、このようなカスタマイズはできません。読み取り順序にタブ順序を合わせるには、1 つのサブフォームですべてのオブジェクト間をタブで移動してから、別のサブフォームに進むようにします。

スタティックテキストオブジェクトとタブ順序

スタティックテキストオブジェクトをタブ順序に含めると、読み取り順序でのその位置を変更できます。ヘッダーやセクションタイトルはスタティックテキストオブジェクトの例です。ただし、テキストオブジェクトはキーボードナビゲーションからは除外されます。タブ順序でテキストオブジェクトの位置を変更しても、キーボードを使用してナビゲートするユーザーには影響しません。

関連項目

77 ページの「[タブの順序](#)」

77 ページの「[デフォルトのタブ順序の機能](#)」

80 ページの「[タブ順序の変更](#)」

337 ページの「[オブジェクトを配置するには](#)」

20 ページの「[描画ツールを使用するには](#)」

アクセシブルなフォームのデザイン

より多くのユーザーが使用できるようにフォームをデザインするには、フォームの使用に何らかの制限がある、障害を持つユーザーのことも考慮する必要があります。例えば、視覚や四肢に障害を持つユーザーが考えられます。すべてのユーザーのニーズを満たすには、デザイン時に目的に合わせた機能をフォームに追加し、様々な支援テクノロジーを使用してフォームをテストすることをお勧めします。

アクセシブルなフォームをデザインするための注意点

以下はアクセシブルなフォームをデザインするための注意点です。

- フォームが容易に使用できない場合、そのフォームはアクセシブルとは言えません。シンプルで使用しやすいフォームをデザインするよう心がけてください。ボタンおよびスイッチ類やフィールドをシンプルにレイアウトし、それぞれについての簡潔な説明をキャプションやツールヒントとして付加すれば、すべてのユーザーにとって入力しやすいフォームが作成できます。
- どのようなユーザーでもできるだけ簡単に入力できるフォームを作成するには、明確で論理的に整理されたフォームをデザインし、各項目には簡潔な説明を付加します。タブ順序やキーボードショートカットなどのナビゲーション機能は、フォーム上のオブジェクトの論理的な順番に従っている必要があります。フィールドについてのキャプションは、フィールドの入力用のスペースと同じ行に並べます。キャプションはフィールドの左右どちらかに統一して配置します。
- ユーザーにとって適切に使用できるのは、常に正しい入力が行えるフォームです。簡潔なエラーメッセージを表示すれば、万一ユーザーが入力を間違えてもその場で修正できます。
- フォームを簡単に使用できるようにするオブジェクトを選択します。例えば、テーブルを適切に使用すれば、テーブル形式の情報を整理して表示する効果的な手段となります。テーブルの階層やセクションを使用した、過度に複雑なテーブルは避けることをお勧めします。
- キーボードまたは類似の入力デバイスのみを使用してフォームの入力が完了できるようにします。四肢や視覚に障害を持つユーザーはキーボードのみで入力を行わなければならない場合があります。また、マウスを使用できるユーザーのほとんどが、キーボードのみで入力したいと考えています。入力の方法を複数用意することで、アクセシブルなフォームが作成できるだけでなく、すべてのユーザーの要望に応えられるフォームが作成できます。
- 設定を変更しないで別のアプリケーションやシステム標準に対応したフォームをデザインしてください。例えば、標準的な Windows コントロールパネルで使用される色設定をサポートしたり、標準的なキーボードの操作を使用します。

- 適切にデザインされたフォームは、様々な支援テクノロジーに対応します。このような支援テクノロジーがどのように機能するかをよく理解し、様々な支援テクノロジーに対応したテクニックおよびユーザーインターフェイスの要素を活用してください。
- 色を適切に利用するとフォームの操作性が大きく向上します。色付きで表示することにより、フォームの任意の部分を強調し目立たせることができます。ただし、色だけで情報を伝えることは避けてください。色の付いた部分が多すぎると、ユーザーが目を痛める恐れがあります。また、色を多く使用しすぎると、最も目立つべきテキストが目立たなくなります。白の背景の上に黒というデフォルト設定のようなコントラストの大きな色の組み合わせを使用することをお勧めします。
- 画像を使用すると、障害を持つユーザーによっては、フォームをより良く理解できるようになる場合があります。ただし、多くのスクリーンリーダーはグラフィックを読み取ることができないため、画像の使用により、視覚に障害のあるユーザーに対するフォームのアクセシビリティが低下する可能性もあります。画像を使用する場合は、フォーム上のオブジェクトとその目的を説明するテキストを指定してください。
- クライアントサイドのスクリプトは、スクリプトがクライアントのアプリケーションのフォーカスを変更した場合にスクリーンリーダーおよびキーボードの動作を阻害する可能性があります。例えば、`change` および `mouseenter` イベントをコンボボックスやリストボックスで使った場合、間違ったアクションを引き起こすことがあります。クライアントサイドのスクリプトを記述する際は、スクリーンリーダーおよびキーボードに問題を起こさないよう注意してください。同様に、ユーザーにとって読みにくくなる可能性があるため、テキストの明滅などのビジュアル効果を生むイベントスクリプトの記述は避けてください。
- ラジオボタンは Web ブラウザーやスクリーンリーダーによって処理が不統一なため、意図した目的で使用されなかったり、障害を持つユーザーには HTML フォーム上でのアクセスが難しい場合があります。リストボックスを代わりに使用できる場合は、HTML フォームでのラジオボタンの使用は避けてください。

関連項目

542 ページの「[スクリーンリーダーで読み上げるフォームのデザイン時の注意点](#)」

543 ページの「[アクセシブルな PDF フォームの作成](#)」

548 ページの「[単純なテーブルのアクセシビリティ対応](#)」

549 ページの「[複雑なテーブルのアクセシビリティ対応](#)」

547 ページの「[画像のアクセシビリティ対応](#)」

547 ページの「[スクリプトのアクセシビリティ対応](#)」

視覚や身体に障害を持つユーザー向けのフォーム

視覚や身体に障害を持つユーザーの多くが利用するのが、情報を音声で読み上げてくれる、スクリーンリーダーと呼ばれる支援テクノロジーです。スクリーンリーダーは画面上でカーソルが表示されている位置に関する情報をユーザーに伝達します。また、スクリーンリーダーはツールヒントも読み上げることができるので、フォームのデザインにツールヒントを組み込んでおくことは非常に重要です。

各フィールドについて明確に説明するために、ツールヒントのほかに、キャプション、オブジェクト名またはカスタムのスクリーンリーダーテキストも使用できます。また、テキストオブジェクトを使用して、必要な入力の種類を伝えることもできます。入力が必要なフィールドを示す場合は、それが明確にわかるようにする必要があります。例えば、ツールヒントのテキストに「入力必須」というフレーズを入れておきます。

PDF フォームで確実にスクリーンリーダーを使用できるようにするには、各オブジェクトに音声情報を定義し、タグ付きの PDF フォームを生成する必要があります。

同じフォームデザインから HTML フォームを作成する場合、スクリーンリーダーは AHTML 変換によってツールヒントを読み上げることができます。

視覚や身体に障害を持つユーザーのために、以下の項目を考慮してフォームをデザインしてください。

- 視覚や身体に障害を持つユーザーは、マウスを使用してコンピューターを操作することができません。すべての機能はキーボードから使用できるようにする必要があります。ほとんどのフォームでは、Tab キーおよび Shift + Tab キーを押すことで、フォーム内でカーソルを前後に移動できます。すべてのフィールドおよびボタンについて、Tab キーによる移動が論理的になるようにデザインします。
- フォームには、入力を完了するための手順を説明した管理用の情報を含めます。適切なタイミングですべての必要な情報が確実に読み上げられるようにするには、ツールヒントを使用します。例えば、ある機能を実行するために、スペースバーを押してボタンを選択したり、下向き矢印キーを押してリストボックスの項目を選択したりといったキーボード操作が必要な場合、キーボード操作に関する情報を音声でユーザーに伝える必要があります。
- 十分な音声情報をフォームに追加して、要求されている入力のタイプ、およびフィールドに適切に入力する方法をユーザーが正確に理解できるようにします。ただし、過剰な情報はユーザーをかえって混乱させます。
- フォームの最上部と最下部にナビゲーションボタンを配置します。例えば、フォームの最上部に「データファイルを開く」、「前ページへ」および「次ページへ」といったボタンを追加します。フォームの最下部には、「データを保存」、「データを電子メールで送信」、「トップに戻る」および「印刷」といったボタンを追加できます。
- フォームによっては、スマートフィールドを使用すると入力が容易になる場合があります。例えば、フィールドの行と列を複数ずつ含む出張申請用のフォームを考えます。ここで、ある行に何らかのデータが入力されたかどうかを、各行の最後のフィールドでチェックすることにします。ある行が空白の場合、Tab キーは空白のフィールドを飛ばして次の項目にジャンプします。
- 視覚障害を持つユーザーは、カーソルが見えにくいことがあります。ユーザーが選択したカラースキームを使用し、ユーザーが必要とする適切な色によってオブジェクトが表示されるようにします。
- 視覚障害を持つユーザーは一般的に、拡大プログラムなどの支援テクノロジーを利用します。このプログラムを使用すると、カーソルを拡大表示できます。その他の一般的な拡大プログラムでもフォームをテストして、フォームのアクセシビリティを確認してください。

四肢に障害を持つユーザーを想定したフォーム

歩行機能や手指の機能に障害を持つユーザーにとって、フォームの入力は難しい作業となる場合があります。マウスを使用できないユーザーのためには、フォーム内のすべての機能がキーボードから使用できなければなりません。

歩行や手指の機能に障害を持つユーザーのために、数多くの支援テクノロジーが用意されています。例えば、特殊キーボード、マイクを使用した音声入力のための音声入力ソフトウェア、さらには呼吸や眼球の動きでコンピューターを制御する高度なものまで、様々なテクノロジーが存在します。

作成したフォームを様々な支援テクノロジーでテストし、フォームのアクセシビリティ確認してください。

アクセシブルなフォーム内の色

色を適切に利用するとフォームの操作性が大きく向上します。色の付いた部分が多すぎると、ユーザーが目をもめる恐れがあります。また、色を多く使用しすぎると、最も目立つべきテキストが目立たなくなります。

アクセシブルなフォームをデザインする際は、色の使用について他にもいくつかのガイドラインを考慮する必要があります。色付きで表示することにより、フォームの任意の部分を強調し目立たせることができます。ただし、色だけで情報を伝えることは避けてください。

例えば、ユーザー入力が必要なテキストフィールドを示すために赤いアスタリスクが使用されることがよくあります。視覚障害を持つユーザーは、赤が見えにくい場合があります。このため、テキストフィールドの種類を「ユーザー定義 - 必須」に設定し、そのフィールドへの入力が必要であることを示すメッセージを定義する方法のほうが、アクセシブルなフォームには適しています。

視覚障害を持つユーザーの多くは、フォームを読むためにテキストと背景のコントラストを大きくします。デフォルトのフォントの色と背景色を使用することを強くお勧めします。白の背景の上に黒というデフォルト設定は、コントラストが大きく、フォームの読みやすさが向上します。これらのデフォルトの色を変更する必要がある場合は、コントラストの大きい、適切な色の組み合わせを選択する必要があります。

Windows コントロールパネルの標準の色設定など、他のアプリケーションやシステム標準に対応したフォームをデザインしてください。視覚障害を持つユーザーは、カーソルが見えにくいことがあります。標準の色設定の使用により、この問題を解消できる場合があります。

フォームをデザインするときは、視覚障害を持つ多くのユーザーがフォームへの入力で使用すると考えられるカラースキーム設定に近い設定を使用して、頻繁にフォームのテストを行ってください。これを実践することにより、デザインプロセスの早い段階で問題を発見し、修正することができます。

関連項目

378 ページの「[フォントパレットのフォントプロパティ](#)」

378 ページの「[段落パレットの段落プロパティ](#)」

377 ページの「[境界線パレットの境界線プロパティ](#)」

544 ページの「[フォームのアクセシビリティ機能をテストするテクニック](#)」

スクリーンリーダーのサポート

フォームに関する音声情報にアクセスするために、視覚障害を持つユーザーはスクリーンリーダーを使用することができます。スクリーンリーダーはフォーム上のカーソル位置に関する情報を読み上げます。スクリーンリーダーが読み上げるテキストはフォーム作成者が定義しておく必要があります。また、フォームを PDF として保存する場合には、タグ付きの PDF フォームを作成する必要があります。

Designer は、Microsoft Active Accessibility (MSAA) 準拠のスクリーンリーダーおよび Freedom Scientific 社の JAWS for Windows をサポートしています。

関連項目

542 ページの「[スクリーンリーダーで読み上げるフォームのデザイン時の注意点](#)」

380 ページの「[アクセシビリティパレットのアクセシビリティプロパティ](#)」

スクリーンリーダーで読み上げるフォームのデザイン時の注意

アクセシブルなフォームを作成するには、スクリーンリーダーが機能する仕組みを理解する必要があります。また、Designer のアクセシビリティパレットの使用法を理解し、フォーム上の各オブジェクトについてスクリーンリーダーが読み上げる情報を指定する必要があります。スクリーンリーダーをサポートしたアクセシブルなフォームを作成する場合には、以下の点に注意してください。

- どのフォームが開いたか、またどのように入力を進めていけばよいかをユーザーが理解できるよう、フォームの概要を伝えます。フォームが開いたとき、スクリーンリーダーは、テキストおよび画像オブジェクトを含めて、ページ全体を読み上げるのが一般的です。ユーザーが Tab キーによるフォーム内の移動を開始すると、スクリーンリーダーはアクティブになったオブジェクトごとにテキストを読み上げるようになります。
- 視覚障害を持つユーザーがナビゲーションしやすくなるよう、すべてのテキスト、フィールド、ボタンおよび画像について、論理的なタブ順序を設定します。PDF スクリーンリーダーのタグは、デフォルトで上から下および左から右に順序付けられているので、タブ順序の設定は重要です。
- ある機能の実行に特定のキー操作が必要な場合には、キー操作に関する情報を音声でユーザーに伝えます。このようなキー操作には、スペースバーを押してボタンを選択したり、下向き矢印キーを押してリストボックス内の項目を選択したりといった操作があります。
- ユーザーがあるボタンやフィールドに Tab キーで移動したら、そのボタンやフィールドの名前や役割などを読み上げます。
- チェックボックスおよびラジオボタンの状態を読み上げます。
- リストボックスやコンボボックスで、デフォルトで選択されている項目を読み上げます。ユーザーには必ず、下向きおよび上向き矢印キーでリストの項目間を移動できることを伝えておきます。また、リストの項目を選択するには、Tab キー、Enter キーまたは Return キーを押します。スクリプトを使用すると、オブジェクトに Change イベントを設定して、リストからどの項目が選択されたかを読み上げさせることができます。

関連項目

380 ページの「[アクセシビリティパレットのアクセシビリティプロパティ](#)」

545 ページの「[オブジェクトのカスタムのスクリーンリーダーテキストの指定](#)」

545 ページの「[オブジェクトのカスタムのツールヒントの指定](#)」

546 ページの「[スクリーンリーダーテキストの新しい検索順序の指定](#)」

546 ページの「[オブジェクトのスクリーンリーダーテキストの無効化](#)」

アクセシビリティタグを使用した PDF フォームの作成

スクリーンリーダー用にテキストを指定する以外にも、スクリーンリーダーがテキストを読めるようにタグ付きの PDF フォームを作成する必要があります。タグ付き PDF フォームを作成するには、フォームデザインを PDF ファイルとして保存する際に、アクセシビリティタグを生成します。

Designer では、デフォルトでタグ付き PDF フォームが作成されます。

注意：編集可能なレイアウトが含まれるフォームのアクセシビリティタグを Acrobat で表示するには、Acrobat でフォームを開く前にスクリーンリーダーを実行する必要があります。

- 1 ファイル/フォームのプロパティを選択します。

- 2 アクセシビリティタグを生成するには、「保存オプション」タブをクリックし、PDF 領域で「Acrobat 向けにアクセシビリティ情報（タグ）を生成する」が選択されていることを確認します。
- 3 「OK」をクリックします。

関連項目

540 ページの「[アクセシブルなフォーム内の色](#)」

543 ページの「[アクセシブルな PDF フォームの作成](#)」

アクセシブルな PDF フォームの作成

PDF フォームをアクセシブルにするには、タグ付きドキュメントとして作成します。すべてのフィールドをタグツリー内で論理的に配置し、ツールヒントやキャプションを使用する適切なテキスト記述子を設定します。

アクセシブルな PDF フォームのデザイン時の注意点

Acrobat および Adobe Reader 用のアクセシブルなフォームを作成するときの注意点は以下のとおりです。

- PDF フォームでは、円、線および長方形オブジェクトにはタグは付きません。これらのオブジェクトは、視覚や身体に障害を持つユーザーにとって有用な情報ではありません。スクリーンリーダーはこれらのオブジェクトの情報を読み上げません。
- フィールドオブジェクトの「スクリーンリーダーの優先順位」を「なし」に設定しないようにします。「なし」に設定すると、たとえば読み取り専用フィールドであっても、ユーザーが Tab キーでそのフィールドに移動したときに、スクリーンリーダーは正しく読み上げることができません。
- サブフォームは、関連する複数のオブジェクトを整理したり、論理的なタブ構造を構築したりするために役立ちます。デフォルトのタブ順序は、左から右、上から下という配置順序になっています。例えば、2つのサブフォームが並んでいて、各サブフォームにいくつかのフィールドオブジェクトが含まれている場合、タブシーケンスは最初のサブフォームのフィールドを順番に通り、次のサブフォームに移動します。
- Tab キーでラジオボタンに移動したとき、スクリーンリーダーは、そのラジオボタンが属するグループオブジェクトのテキストをまず読み上げてから、ラジオボタンのオンの値を読み上げます。ラジオボタンの各排他グループにはカスタムのスクリーンリーダーテキストを設定し、またラジオボタンのオンの値が、キャプションと一致するか、または意味のある値を使用していることを確認してください。
- 画像を使用すると、障害を持つユーザーによっては、フォームをより良く理解できるようになる場合があります。ただし、多くのスクリーンリーダーはグラフィックを読み取ることができないため、画像の使用により、視覚に障害のあるユーザーに対するフォームのアクセサビリティが低下する可能性もあります。画像を使用する場合は、フォーム上のオブジェクトとその目的を説明するテキストを指定してください。
- ページおよびそのマスターページ上でのオブジェクトのタブ順序は、オブジェクトの垂直方法の位置関係によって決まります。フォームをテストし、スクリーンリーダーでのオブジェクトの読み上げ順序が意図するとおりであることを確認してください。
- クライアントサイドのスクリプトは、スクリプトがクライアントのアプリケーションのフォーカスを変更した場合にスクリーンリーダーおよびキーボードの動作を阻害する可能性があります。例えば、`change` および `mouseEnter` イベントをコンボボックスやリストボックスで使った場合、間違ったアクションを引き起こすことがあります。クライアントサイドのスクリプトを記述する際は、スクリーンリーダーおよびキーボードに問題を起こさないよう注意してください。同様に、ユーザーにとって読みにくくなる可能性があるため、テキストの明滅などのビジュアル効果を生むイベントスクリプトの記述は避けてください。

- フォームに大量のオブジェクトが配置されている場合、Acrobat 6.0.2 では、Tab キーによる移動に時間がかかることがあります。Acrobat 6.0.2 と互換性のあるフォームを作成する場合には、フォームオブジェクトをいくつかのグループに分け、各グループを取りまとめるように名称未設定のサブフォームを配置すると、論理構造に中間のレベルが追加され、この問題を解決できます。

フォーム作成者およびユーザーは、Acrobat とスクリーンリーダーに関する既知の問題を把握しておく必要があります。

- ユーザーがフィールド（パスワードフィールドを含む）でキー入力を行うと、スクリーンリーダーが各キー操作を読み上げてしまいます。
- 検証エラーの通知などでメッセージボックスが開くたびに、フォームがフォーカスを失ってしまいます。Tab キーを再度押すと、フォーカスはタブ順序の先頭のフィールドに戻ります。
- スクリーンリーダーは、すべてのテキストがフォームのデフォルトロケール設定の言語で記述されているものとして読み上げます。
- 編集可能なレイアウトが含まれるフォームのアクセシビリティタグを Acrobat で表示するには、Acrobat でフォームを開く前にスクリーンリーダーを実行する必要があります。

関連項目

542 ページの「[スクリーンリーダーで読み上げるフォームのデザイン時の注意点](#)」

542 ページの「[アクセシビリティタグを使用した PDF フォームの作成](#)」

380 ページの「[アクセシビリティパレットのアクセシビリティプロパティ](#)」

546 ページの「[オブジェクトのスクリーンリーダーテキストの無効化](#)」

フォームのアクセシビリティ機能をテストするテクニック

作成したフォームのアクセシビリティ機能を確認するには、様々な支援テクノロジーを使用してフォームをテストします。フォームは、ここで説明するテクニックで簡単にテストできます。

フォームは必ずキーボードのみで入力できるようにします。フォーム全体の入力を確実にを行い、すべてのフィールドとボタンをテストします。フォームの入力を進めながら、以下の項目に基づいて改良の必要があるかどうかを検討します。

- 実行できない操作はないか。
- スムーズに実行できない、または実行が難しい操作はないか。
- キーボードの操作手順は明文化されているか。
- ボタンなどのコントロールや、メニュー項目にはすべて、下線付きのアクセスキーが付いているか。
- スクリーンリーダーソフトウェアの評価版はインターネットから無料でダウンロードできます。スクリーンリーダー実行の結果をテストするため、モニターの電源を切り、スクリーンリーダーだけでフォーム内を移動し、入力を行ってください。フォームの作成者はそのフォームに慣れ過ぎていて、スクリーンリーダーが読み上げる情報が十分で、意味が正しいかどうかを正当に判断できない傾向にあります。モニターの電源を落としたテストは、可能であれば第三者に依頼するのが望ましいでしょう。
- 表示拡大ソフトウェアの評価版もインターネットを通じて無料で入手できます。
- 音声入力ソフトウェアはコンピューターショップなどで安価で販売されています。音声入力だけを使用してフォームをテストしてください。

視覚障害を持つユーザーの多くは、フォームを読むためにテキストと背景のコントラストを大きくします。Microsoft Windows は、コントラストの大きなカラースキームを備えています。これにより、視覚障害を持つ多くのユーザーがフォームへの入力で使用すると思われるカラースキーム設定に近い設定で画面を表示できます。画面をコントラストの

大きなモードに設定するには、Windows のコントロールパネルにある「ユーザー補助のオプション」で目的の機能を有効にします。このモードでフォームの入力を進めながら、以下の項目に基づいて改良の必要があるかどうかを検討します。

- フォームの中に、表示されない、見にくい、または使用が難しい部分はないか。
- 背景が白い箇所と、黒く表示され続ける領域はないか。
- 適切なサイズでなくなったり、途切れて表示されている要素はないか。

オブジェクトのアクセシビリティ対応

オブジェクトのカスタムのスクリーンリーダーテキストの指定

カスタムのスクリーンリーダーテキストをオブジェクトに定義するには、アクセシビリティパレットを使用します。

フォームをテストするには、Acrobat で編集／環境設定を選択し、環境設定ダイアログボックス（読み方カテゴリ）を表示し、「フォームのフィールドを読み上げる」が有効になっていることを確認します。

- 1 フォームデザインでオブジェクトを選択します。
- 2 アクセシビリティパレットをクリックし、「カスタムのスクリーンリーダーテキスト」ボックスにカスタムテキストを入力します。

オブジェクトのカスタムのツールヒントの指定

オブジェクトのカスタムのツールヒントを定義するには、アクセシビリティパレットを使用します。ほとんどのオブジェクトでは、ツールヒントは、実行時にユーザーがポインターをオブジェクトに合わせたときに表示されます。Paper Forms Barcode オブジェクトのような一部の読み取り専用オブジェクトでは、スクリーンリーダーを使用している場合のみツールヒントが表示されます。

1 つのオブジェクトに対して、一意のカスタムのツールヒントテキストと一意のカスタムのスクリーンリーダーテキストを両方割り当てることはできません。どちらか 1 つを選択する必要があります。カスタムのツールヒントが必要な場合は、カスタムテキストを入力し、スクリーンリーダーの優先順位リストから「ツールヒント」を選択します。カスタムのスクリーンリーダーテキストは含めません。カスタムのスクリーンリーダーテキストをツールヒントテキストとスクリーンリーダーテキストの両方に使用する場合は、カスタムテキストを入力し、スクリーンリーダーの優先順位リストから「カスタムテキスト」を選択します。

「ツールヒント」ボックスまたは「カスタムのスクリーンリーダーテキスト」ボックスに何も指定されていない場合は、デフォルトでキャプションがスクリーンリーダーにより読み上げられます。

- 1 フォームデザインでオブジェクトを選択します。
- 2 アクセシビリティパレットをクリックし、「ツールヒント」ボックスに目的のテキストを入力します。複数行のツールヒントを作成するには、最初の行を入力し、Ctrl + Enter コマンドを使用して次の行に移動します。
- 3 カスタムのスクリーンリーダーテキストも定義されているオブジェクトで、カスタムのスクリーンリーダーテキストではなくツールヒントをスクリーンリーダーに読み上げさせたい場合は、スクリーンリーダーの優先順位リストから「ツールヒント」を選択します。

スクリーンリーダーテキストの新しい検索順序の指定

デフォルトでは、スクリーンリーダーがスクリーンリーダーテキストのフォーム設定を検索するときには、カスタムテキスト、ツールヒント、キャプション、名前の順序で検索を行います。「スクリーンリーダーの優先順位」オプションを使用すると、このデフォルト順序を変更できます。

- 1 フォームデザインでオブジェクトを選択します。
- 2 アクセシビリティパレットをクリックします。
- 3 スクリーンリーダーの優先順位リストから使用したいオプションを選択します。

例えば、スクリーンリーダーにキャプションではなく名前を読み上げさせたい場合には、「名前」を選択します。また、これにより名前、カスタムテキスト、ツールヒント、キャプションの順に検索順序が変更されます。

オブジェクトのスクリーンリーダーテキストの無効化

状況によっては、オブジェクトのタイプなども含めたオブジェクトのテキストを一切読み上げさせたくない場合があります。スクリーンリーダーのテキストをオブジェクトごとに無効化することができます。

フォームをテストするには、Acrobat で編集／環境設定を選択し、環境設定ダイアログボックス（読み方カテゴリ）を表示し、「フォームのフィールドを読み上げる」が有効になっていることを確認します。

- 1 フォームデザインでオブジェクトを選択します。
- 2 アクセシビリティパレットをクリックします。
- 3 スクリーンリーダーの優先順位リストから「なし」を選択します。

ラジオボタンのアクセシビリティ対応

Tab キーで排他グループに移動したとき、スクリーンリーダーは、その排他グループのテキストをまず読み上げてから、アクティブなラジオボタンのキャプションを読み上げます。

視覚障害を持つユーザーが Tab キーでラジオボタンに移動したとき、スクリーンリーダーでは次の 2 つを読み上げる必要があります。

- ボタンのグループの目的に関する一般的な説明
- 各ラジオボタンの目的に関するわかりやすい説明

例えば、支払いに関するラジオボタンのグループがフォーム内にあるとします。この排他グループ全体については、「支払方法を選択してください」といったスピーチテキストが必要になります。また、各ボタンについては「現金」、「クレジットカード」、「小切手」といった値がそれぞれ必要になります。ユーザーが Tab キーで排他グループに移動すると、最初のラジオボタンである「現金」がアクティブになり、スクリーンリーダーで、オブジェクトのタイプ、「支払方法を選択してください、現金」というテキスト、オブジェクトの状態（チェックされているかいないか）が読み上げられます。

Designer には、スクリーンリーダーをサポートし、スピーチテキストを定義するためのオプションが用意されています。カスタムのスクリーンリーダーテキストとツールヒントを定義するには、アクセシビリティパレットを使用します。オブジェクトの名前（「連結」タブの「名前」ボックスで指定）およびキャプションも使用できます。ほとんどの場合、ラジオボタンのキャプションには、スクリーンリーダー用の意味がわかりやすいテキストが使用されます。

ボタンのキャプションを使用してラジオボタンをアクセシブルにするには

- 1 階層パレットで排他グループを選択します。
- 2 アクセシビリティパレットをクリックし、「カスタムのスクリーンリーダーテキスト」ボックスに、そのグループ用のスピーチテキストを入力します。例えば、「支払方法を選択してください」といったテキストを入力します。

- 3 各ラジオボタンのキャプションがわかりやすい内容のスピーチテキストである場合は、オブジェクトパレットで「連結」タブを選択し、「項目の値を指定」を選択解除します。

特定の項目の値を使用してラジオボタンをアクセシブルにするには

- 1 階層パレットで排他グループを選択します。
- 2 アクセシビリティパレットをクリックし、「カスタムのスクリーンリーダーテキスト」ボックスに、そのグループ用のスピーチテキストを入力します。例えば、「支払方法を選択してください」といったテキストを入力します。
- 3 階層パレットで排他グループ内の最初のラジオボタンを選択します。
- 4 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。項目の領域で項目をダブルクリックし、選択したラジオボタンの意味をわかりやすく示す値を入力します。例えば、「現金」といったテキストを入力します。
- 5 排他グループ内の各ラジオボタンごとに、手順 3 と手順 4 を繰り返します。

リストのアクセシビリティ対応

フォームデザイン内にサブフォームを階層化することで作成されたリストがフォームデザインに含まれている場合には、アクセシビリティパレットを使用してそのリストを構成している各サブフォームに対して適切なサブフォームロールを設定し、スクリーンリーダーがリスト、リストの項目数、階層化レベル、リストの終わりを読み上げられるようにできます。

例えば、ロールのリストを最上位サブフォームに割り当て、リスト項目のロールをそのリスト項目を構成する階層化されたサブフォームに割り当てます。

注意：アクセシビリティ用に階層化したサブフォームのリストがフォームデザインに含まれている場合があります。HTMLでレンダリングするフォームデザインでは、コンテンツをフローするサブフォームを使用してください。コンテンツを配置するサブフォームを使用すると、この種のリストは正しくレンダリングされません。

画像のアクセシビリティ対応

画像を使用すると、障害を持つユーザーによっては、フォームをより良く理解できるようになる場合があります。ただし、多くのスクリーンリーダーはグラフィックを読み取ることができません。画像は、視覚に障害を持つユーザーにとってはフォームのアクセシビリティを低下させる場合があります。

画像を使用する場合は、すべての画像オブジェクトおよび画像フィールドオブジェクトに対して説明のテキストを指定してください。ユーザーがこのオブジェクトにアクセスすると、スクリーンリーダーはこのテキストを読み上げます。このテキストは、フォーム上のオブジェクトとその目的を説明する内容である必要があります。

説明のテキストを指定するには、アクセシビリティパレットでツールヒントまたはカスタムのスクリーンリーダーテキストを使用するか、テキストフィールド、キャプションおよびオブジェクト名（「連結」タブの「名前」ボックスで指定）を使用します。

フォームでの画像のアクセシビリティを高めるには、画像の説明テキストの指定に加えて、以下の一般的なガイドラインを検討してください。

- 画像は、不必要な詳細を加えることなく、フォームのコンテンツにより良い効果をもたらすものでなければなりません。
- カラーを使用する画像では、見やすさを最大限に高めるためにコントラストの大きなカラーの組み合わせを選択します。
- 見るのが困難なほどには画像サイズを小さくしないようにします。

スクリプトのアクセシビリティ対応

フォームのデザインプロセスの過程で、フォーム作成者はスクリプトを使用して、ユーザーの操作性を向上させることができます。スクリプトは、フォーム内のほとんどのフィールドやオブジェクトに追加できます。例えば、簡単なスクリプトを作成して、ユーザーからの入力に応じてインタラクティブフォーム上の値をダイナミックに更新することが可能です。

アクセシビリティを提供するためのスクリプトをデザインする場合は、以下の一般的なガイドラインを検討してください。

- フォームのコンテンツを視覚的に妨げないようにします。例えば、コンテンツのちらつき、明滅または移動を伴う機能の使用を避けます。
- ポップアップウィンドウは、ユーザーが開始した動作の結果としてだけ表示されるようにします。同様に、フォームの現在のフォーカスが変化したり、コンテンツが再表示されたりする動作は、ユーザーがそのような動作を開始した場合にのみ許可してください。フォームのフォーカスは、ユーザーの現在の視点を示します。例えば、ユーザーがフォームの下半分にあるフィールドに入力しているときには、ユーザーがフォームの左上隅に移動することを選択しない限り、フォームの左上隅にフォーカスを移動させないでください。
- 障害を持つユーザーは、フィールドへ入力するために、より長い時間が必要になる場合があります。入力フィールドには、時間に基づいた応答を指定しないでください。
- クライアントサイドのスクリプトは、スクリプトがクライアントのアプリケーションのフォーカスを変更した場合にスクリーンリーダーおよびキーボードの動作を阻害する可能性があります。例えば、`change` および `mouseenter` イベントをコンボボックスやリストボックスで使った場合、間違ったアクションを引き起こすことがあります。クライアントサイドのスクリプトを記述する際は、スクリーンリーダーおよびキーボードに問題を起こさないよう注意してください。

スクリプティングについて詳しくは、『[スクリプティング基礎](#)』を参照してください。

関連項目

537 ページの「[アクセシブルなフォームについて](#)」

380 ページの「[アクセシビリティパレットのアクセシビリティプロパティ](#)」

603 ページの「[ショートカットキーの操作](#)」

540 ページの「[アクセシブルなフォーム内の色](#)」

311 ページの「[ラジオボタンの使用](#)」

301 ページの「[画像の使用](#)」

299 ページの「[画像フィールドの使用](#)」

テーブルのアクセシビリティ対応

単純なテーブルのアクセシビリティ対応

テーブルはアクセシブルなフォームでコンテンツの整理や表示を効果的に行う方法の 1 つです。テーブルの行と列を適切に使用すれば、フォームのコンテンツに予測可能で一貫性のある構造を持たせることができます。

例えば、ユーザーがボディ行セルに移動すると、スクリーンリーダーがセルの位置を識別し、セルの内容を読み上げます。スクリーンリーダーは、行ヘッダーと列ヘッダーまたは行番号と列番号の組み合わせを使用してセルの位置を識別します。

セルの位置を特定することに加えて、スクリーンリーダーは、列の先頭行のセルの内容など、ヘッダー情報を指定することもできます。スクリーンリーダーはセルの内容が含まれているテーブル内の場所へユーザーをガイドするための情報を提供するので、テーブルのレイアウトはテーブルのアクセシビリティに直接影響します。

テーブルのレイアウトは単純にすることをお勧めします。単純なテーブルは単一のヘッダー行で始まり、それにボディ行が続きます。

アクセシビリティのために単純なテーブルをデザインする場合、次のポイントに留意してください。

- テーブルのタブ順序はフォーム自身と同じように地理的順序に従います。テーブルの内容が左から右、上から下へと順に読み取られるように編成してください。

- ほとんどのスクリーンリーダーはテーブル内の 1 行目をヘッダー行として解釈します。ボディ行セルの内容を読み取るとき、このようなスクリーンリーダーは、関連付けられたヘッダー行セルの内容を最初に読み取ります。各ヘッダー行セルの内容は、列の内容を説明するものにしてください。
- 2 列以上にまたがるセル、階層化されたテーブル、テーブルセクションなどの使用は避けます。スクリーンリーダーは、このような機能を正しく解釈できない場合や使用できない場合があります。例えば、ボディ行内のセルが 2 列にまたがる場合、スクリーンリーダーは行内の次のセルを読み取るとき、ヘッダー列の正しいセル内容を参照できないことがあります。

アクセシブルなフォーム内のテーブルの操作

アクセシブルなフォームでは、スクリーンリーダーがテーブル内のカーソル位置に関する情報を読み上げます。ユーザーがフォーム内のテーブルセルの間を移動すると、スクリーンリーダーはセルの内容を読み上げます。ユーザーが階層化されたテーブルのあるセルに移動すると、スクリーンリーダーはセルと階層化されたテーブルの内容を読み上げます。

階層化されたテーブルにある編集可能なフィールドは、フォームでのタブ順序に含まれるフィールドです。そのため、ユーザーは矢印キーを使用して、階層化されたテーブルの中の編集可能なフィールド間を移動できます。ユーザーが階層化されたテーブルの中や外に移動すると、テーブルの初めと終わりが読み上げられます。

注意：JAWS を使用する場合、階層化されたテーブルの初めと終わりは、仮想カーソルモードでは読み上げられません。

結果	操作
スクリーンリーダーは、現在のテーブルのセルを読み上げます。	Ctrl + Alt + 5 (テンキーボード)
セル間を水平に移動します。	Ctrl + Alt + 左または右向き矢印キー
セル間を垂直に移動します。	Ctrl + Alt + 上向きまたは下向き矢印キー

複雑なテーブルのアクセシビリティ対応

アクセシビリティを備えたテーブルをデザインする場合、テーブルレイアウトを、後にボディ行が続く単一のヘッダー行がある単純なものにすることをお勧めします。ただし、内容によっては、テーブル形式での表示がその他の形式より適しているても、より複雑なレイアウトが必要となる場合があります。例えば、内容を効果的に伝えるために、複数のヘッダーにまたがるセルを使用する必要がある場合があります。

複雑なテーブルを作成するには、テーブルオブジェクトを使用するか、サブフォームオブジェクトを組み合わせます。テーブルオブジェクトでは、列および行の挿入やサイズ変更のためのオプションなど、デザインプロセスをサポートするための機能を使用します。

デザインの経験と環境設定に応じて、サブフォームオブジェクトを組み合わせることによる複雑なテーブルの作成を選択できます。例えば、2 つの行を含む 1 つのサブフォームを作成し、テーブルのヘッダーとしてこのサブフォームを指定し、テーブルのボディ行に別のサブフォームを指定することができます。

テーブルオブジェクトではなくサブフォームオブジェクトを使用してテーブルを作成する場合、次の手順も実行する必要があります。

- 各サブフォームのタイプを「配置済み」に設定します。454 ページの「[サブフォーム](#)」タブのサブフォームプロパティ」を参照してください。
- アクセシビリティパレットで、テーブルを構成する各サブフォームに適切なサブフォームの役割を設定します。例えば、ヘッダー行の役割をテーブルヘッダーとして使用されるサブフォームに割り当てます。380 ページの「[アクセシビリティパレットのアクセシビリティプロパティ](#)」を参照してください。
- テーブルまたはその内容に関する情報を伝えているが、テーブルの一部とは見なされない行については、「なし」というサブフォームの役割を割り当てます。スクリーンリーダーはその行の内容を読み取ります。

複雑なテーブルに対してどのような情報が読み上げられるかは、スクリーンリーダーがサポートしている機能によって決まります。例えば、ヘッダー行およびヘッダー行のあるセクションを含むテーブルがあるとします。ユーザーがテーブルセクション内のボディ行セルに移動したとき、スクリーンリーダーは次の内容をこの順序で読み上げると考えられます。

- テーブルのヘッダー行に適したセルの内容
- セクションのヘッダー行に適したセルの内容
- 選択されたセルの内容

スクリーンリーダーによっては、いずれか一方のヘッダー行にあるセルしか読み上げることができない場合があります。

フォームへの構造ナビゲーションの追加

スクリーンリーダーで見出しを基準にしてフォーム上を移動するための機能を、ユーザーに提供できます。そのためには、テキストオブジェクトを1つのフォーム内の異なるセクションの先頭に置き、アクセシビリティパレットを使用して各テキストオブジェクトに対して見出しまたは見出しレベルロールを指定します。

ユーザーが JAWS スクリーンリーダーで H キーを押すと、スクリーンリーダーは現在のオブジェクトからフォーム内の見出しロールでマークされた次のテキストオブジェクトに移動し、そのテキストオブジェクトが読み上げられます。ユーザーが JAWS スクリーンリーダーでキー 1 ～ 6 を押すと、スクリーンリーダーは現在のオブジェクトからフォーム内の見出しレベルロールでマークされた次のテキストオブジェクトに移動します。例えば、2 キーを押すと、スクリーンリーダーは現在の見出しレベル 2 のロールでマークされた次のテキストオブジェクトに移動します。

フォームのアクセシビリティの確認

アクセシビリティチェッカーは LiveCycle Designer でのフォームのアクセシビリティを検証します。チェッカーは特定のルールセットで、フォームのアクセシビリティを検証します。

アクセシビリティチェッカーを実行するには

- 1 ツール/マクロ/アクセシビリティチェックをクリックします。
- 2 ルールダイアログではチェッカーが実行するチェックのセットが表示されます。
それぞれのチェックに対応するチェックボックスは、実行するチェックの指定を可能にします。
- 3 「OK」を実行してチェッカーをクリックします。

チェッカーが検証を完了したらすぐに、結果の PDF が表示されます。PDF では 2 列の出力が提供され、各行項目はフォームオブジェクト、および見つかったアクセシビリティのエラーまたは警告を説明します。

フォームの Designer ログパレットではチェッカーの結果も表示できます。

アクセシビリティチェッカーのルール

規則	説明	解決策
キャプションなしのフィールド	キャプションが指定されていないフィールドを識別します。	目的のフィールドを選択します。「レイアウト」に移動して、「キャプション」グループで有効なオプションを指定します。

規則	説明	解決策
アシストテキストのないフィールド	代替のテキストやツールヒントが指定されていないテキストフィールドを識別します。	目的のフィールドを選択します。「アクセシビリティ」タブに移動して、「カスタムのスクリーンリーダーテキスト」または「ツールヒント」テキストフィールドに適切な説明を入力します。
ヘッダー行のないテーブル	ヘッダー行が定義されていないテーブルを識別します。	フォームにテーブルを追加する場合、テーブルの挿入ダイアログで「テーブルにヘッダー行を含む」を選択します。
代替テキストのない画像	代替テキストが指定されていない画像を識別します。	画像を選択します。「アクセシビリティ」タブに移動して、「カスタムのスクリーンリーダーテキスト」に適切な説明を入力します。
読み込み順序とタブ順序の分岐	フォームの読み込み順序とタブ順序が同一でないかを識別します。 これはユーザーが「タブ順序」タブに移動し、フォームのタブ順序を変更すると起こります。	「タブ順序」タブに移動し、タブ順序が読み込み順序と同一であることを確認します。
プライマリロケール	フォームのプライマリロケールが指定されていないかを識別します。 デフォルトで、Designer はフォームが作成されたシステムのロケールを使用します。	ファイル/プロパティに移動します。「デフォルト」タブで、「フォームロケール」ドロップダウンリストからロケールを選択します。
フォームタイトル	フォームにタイトルが指定されていないかを識別します。	ファイル/プロパティに移動します。「情報」タブで、有効なタイトルを「タイトル」フィールドを入力します。
スクリプトの存在の確認	フォームの作成者に、フォーム内にスクリプトがあることを警告します。作成者はアクセシビリティの違反を確認する必要があります。	スクリプトがフォームへの更新を実行する場合、これらの更新がアクセシビリティルールに準拠することを確認します。
繰り返されるハイパーリンクの確認	ハイパーリンクのリンクテキストが 3 回以上繰り返される場合、フォーム作成者に警告します。	-
ロールの確認	1 つ以上のロールが静的テキストオブジェクトに指定されているかを識別します。 ロールリストが指定されているサブフォームにリスト項目があるかを識別します。	静的テキストオブジェクトを選択します。「アクセシビリティ」タブに移動して、有効なロールを指定します。 オブジェクトライブラリからネストされたサブフォームをサブフォームに追加します。「アクセシビリティ」タブに移動し、ロールをリスト項目として指定します。

スクリプティングについて詳しくは、『[スクリプティング基礎](#)』を参照してください。

第 13 章：セキュリティの設定

インタラクティブ PDF フォームを設計するときに考慮する必要がある重要なことは、フォームと集めるデータが必ず安全なものであるようにすることです。Designer の次の機能は、フォームにセキュリティオプションを提供します。

PDF セキュリティ設定 PDF フォームに対してユーザーのアクセス権限を定義することができます。フォームのプロパティダイアログボックスでは、フォームを開いて入力するためにユーザーが入力しなければならないパスワードを指定できます。フォームに対する様々なレベルのアクセスを制限することもできます。例えば、ユーザーにフィールドと署名の入力は許可するが、フォームへのコメントまたはページの追加は許可しないという場合があります。

電子署名 署名者を認証したり、署名後にフォームが変更されるのを防いだりすることができます。電子署名フィールドをフォームデザインに追加するには、署名フィールドを使用するか、送信ボタンに関連付けられたデータ署名を使用します。フォームオブジェクトの外観とこれらのオブジェクトに格納される値を保護するには、署名フィールドを使用します。フォームデータの整合性を保護するには、データ署名を使用します。

パスワードフィールド フォームに対するアクセスを制御することができます。フィールドのオプションとして文字マスキングを設定できるので、データは画面に表示されません。パスワードが任意か、推奨か、必須かを定義でき、また、ユーザーに入力を促すメッセージを設定することができます。ユーザーの入力はすべてスクリプティングを使用して検証できます。パスワードフィールドはデータソースに連結することもできます。

安全な WSDL データ接続 HTTP/HTTPS とメッセージレベル (SOAP) のクライアント認証を使用して WSDL ドキュメントにアクセスし、セキュリティトークン (SOAP メッセージヘッダーに埋め込み) を使用して安全な Web サービスに接続できるようになります。

XML 暗号化 フォームコンテンツに XML 暗号化を適用できます。暗号化するコンテンツ、使用する暗号化アルゴリズム、暗号化の対象となる公開暗号化証明書および公開暗号化証明書のフィルタリング処理に使用する主な使用条件を指定するなどの暗号化オプションを適用できます。

デジタル ID の読み込み

HTTP/HTTPS クライアント証明書の認証を使用して安全な WSDL データ接続を作成する場合は、デジタル ID を使用して、安全な Web サーバー上の WSDL ドキュメントにアクセスする必要があります。デジタル ID は、クライアント認証を実行するために安全な Web サーバーが必要とする証明書です。

デジタル ID はドキュメントであり、通常は、所有者の名前および公開鍵、公開鍵の失効日、ID のシリアル番号、ID 発行元の組織の名前と電子署名が含まれます。デジタル ID は、所有者の名前と、ドキュメントを暗号化し、署名するために使用できる電子鍵 (公開鍵および秘密鍵) の組を連結します。

HTTP/HTTPS クライアント証明書の認証を使用して安全な WSDL データ接続を作成する前に、Windows の証明書ストアまたは Designer のデジタル ID ファイルストアで、接続の作成時にデジタル ID を選択できる状態にしておく必要があります。クライアント証明書の認証では、デジタル ID を HTTP/HTTPS 認証に使用します。ここで、デジタル ID を選択ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、Windows の証明書ストアと Designer のデジタル ID ファイルストアで使用できるデジタル ID のリストが含まれます。安全なサーバーにログインするには、正しいデジタル ID を選択する必要があります。デジタル ID は HTTP/HTTPS プロトコルヘッダーに埋め込まれており、HTTP/HTTPS クライアント認証用の証明書として機能します。

注意： Microsoft® Windows® Vista™ では、デフォルトで証明書失効チェックを追加することで、Internet Explorer 7 における HTTPS セキュリティが強化されています。また、Windows Vista では、証明書のチェックに加えて、証明書が失効したかどうかチェックします。この追加のチェックによって、Designer の HTTPS クライアント証明書の認証が失敗する可能性があります。証明書失効チェックを無効にするには、インターネットコントロールパネルの「詳細設定」タブで、「セキュリティ」の「サーバー証明書の取り消しを確認する」チェックボックスの選択を解除します。

HTTPS 接続が初めて確立されると、HTTPS サーバーはその証明書を確認用にクライアントに送信します。この時点で、クライアントコンピューターにインストールされた HTTPS サーバーの証明書を識別するために必要な証明書を持っていないかもしれません。HTTPS サーバー証明書を識別（信頼）できない場合、Designer では、操作を続行して接続を確立するかどうかを尋ねる警告ダイアログボックスを表示します。

デジタル ID ダイアログボックス（ツール／オプション／セキュリティ／デジタル ID）の 2 つのタブを使用して、Windows の証明書ストアまたはデジタル ID ファイルストア、あるいはその両方にデジタル ID を読み込むことができます。Windows の証明書ストアのデジタル ID は、すべての Windows アプリケーションで使用できます。デジタル ID ファイルストアのデジタル ID は Designer だけで使用できます。「デジタル ID ファイル」タブには、現在のユーザーの私有証明書ストアにインストールされているデジタル ID が表示されます。

クライアント証明書の認証を使用して安全な WSDL データ接続を作成するときに、デジタル ID を選択ダイアログボックスを使用することで、デジタル ID を Designer のデジタル ID ファイルストアに追加することもできます。

デジタル ID は、パスワードで保護された PKCS#12 ファイルに、ファイル名拡張子 *.p12 または *.pfx を使用して保存されます。

デジタル ID を Windows の証明書ストアに読み込むには

- 1 ツール／オプション／セキュリティを選択します。
- 2 「デジタル ID」をクリックします。
- 3 「Windows の証明書ストア」タブをクリックし、「デジタル ID を読み込む」をクリックします。
- 4 「次へ」をクリックします。
- 5 読み込むデジタル ID ファイルのパスを「ファイル名」ボックスに入力するか、「参照」をクリックし、デジタル ID ファイルを検索して選択し、「次へ」をクリックします。ファイルの種類リストで「Personal Information Exchange (*.pfx*.p12)」オプションを必ず選択してください。
- 6 デジタル ID ファイルへのアクセスに必要なパスワードを「パスワード」ボックスに入力します。
- 7 (オプション)「強力な秘密キーの保護を有効にする」を選択します。
- 8 (オプション)「このキーをエクスポート可能にする」を選択します。
- 9 「次へ」をクリックします。
- 10 「証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する」を選択します。
- 11 「次へ」をクリックし、「完了」をクリックします。デジタル ID の名前が、Windows の証明書ストアで使用可能な ID のリストに表示されます。

デジタル ID をデジタル ID ファイルストアに読み込むには

- 1 ツール／オプション／セキュリティを選択します。
- 2 「デジタル ID」をクリックします。
- 3 「デジタル ID ファイル」タブをクリックし、「ID ファイルを追加」をクリックします。
- 4 デジタル ID ファイルのパスを「ファイル名」ボックスに入力するか、「参照」をクリックし、デジタル ID ファイルを検索して選択します。
- 5 デジタル ID ファイルへのアクセスに必要なパスワードを「パスワード」ボックスに入力し、「OK」をクリックします。デジタル ID の名前が、デジタル ID ファイルストアで使用可能な ID のリストに表示されます。
- 6 「OK」をクリックします。

関連項目

641 ページの「[デジタル ID ダイアログボックス](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

XML 暗号化の使用

Designer には、電子的に送信するフォームコンテンツを保護するための W3C XML 標準の暗号化が用意されています。

フォームコンテンツに XML 暗号化を適用すると、データの整合性が確保され、情報を安全にやり取りすることができます。例えば、XML 暗号化を使用して、送信するデータに個人情報や機密事項が含まれる金融または医療のフォームの情報を保護できます。

XML 暗号化はフォームデータまたは送信データ全体（添付データを含む）に対して適用します。使用する暗号化アルゴリズム、暗号化の対象となる公開暗号化証明書、公開暗号化証明書のフィルタリング処理に使用する主な使用条件などの暗号化オプションを選択できます。

ボタン、電子メール送信ボタンおよび HTTP 送信ボタンの 3 つのライブラリオブジェクトを使用すると、暗号化されたフォームコンテンツを送信できます。例えば、フォームに電子メール送信ボタンを追加し、ユーザーがフォームを電子メールで送信するためにボタンをクリックしたらフォームデータを暗号化するように設定することができます。

注意：暗号化されたフォームコンテンツを送信するためのボタンをフォームに追加する場合は、フォームの対象バージョンを Acrobat および Adobe Reader 10.0 以降に設定してください。また、暗号化されたデータを含むフォームを使用するには、フォームの入力者のコンピューターに Acrobat または Adobe Reader 10 以降が必要です（653 ページの「[デフォルト（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照）。

ボタンを使用してフォームコンテンツに XML 暗号化を適用するには

- 1 フォームデザインにボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「コントロールの種類」領域で、「送信」を選択します。「送信」タブの設定に従って、データが送信されます。
- 4 「送信」タブをクリックし、「送信先 URL」ボックスに URL プロトコルを入力します。

送信先	使用する URL プロトコル	例
パッケージを FTP サイトに送信する	ftp	ftp://ftp.gnu.org/gnu/GPL
パッケージを Web サーバーに送信する	HTTP	http://myserver/cgi-bin/
セキュリティで保護された Web サーバーにパッケージを送信する	HTTPS	https://myserver/cgi-bin/

注意：データを URL に送信する場合は、ターゲットを絶対的な形式で指定することをお勧めします。相対的な形式の送信先はユーザー環境に基づいて解釈されるので、実行するユーザーによって変化する可能性があります。

- 5 送信形式リストで、「XML データパッケージ (XDP)」、「PDF」または「XML データ (XML)」を選択します。
これらの形式により、サーバーサイドの処理が開始されます。「XML データパッケージ (XDP)」オプションでは、フォームデータに加えて、オプションとして Forms が実行時にフォームをレンダリングするために必要なフォームデザイン、注釈、署名などの他の情報が送信されます。XDP ファイルにしか添付できないものもあります。
- 6 (オプション) 送信データに署名を適用する場合は、「送信時に署名」を選択し、「設定」をクリックして署名のオプション設定を指定します。

- 7 (オプション) フォームコンテンツに XML 暗号化を適用する場合は、「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックして暗号化のオプション設定を選択します。
- 8 (XDP の場合のみ) 「含む」領域で、添付データの種類を選択します。
 - レビューコメント、ツールヒントおよびスクリーンリーダーテキストの取り込みに必要な特別なタグを含める場合は、「注釈」を選択します。
 - 添付として送信するときに PDF バージョンのフォーム（署名を含む）を含める場合は、「PDF（署名含む）」を選択します。これが選択されていない場合は、埋め込み PDF ファイルへの参照が含まれます。
 - フォームデザインのコピーを含める場合は、「テンプレート」を選択します。
 - XDP ソースファイルにある <xdp> 要素を含める場合は、「その他」を選択します。指定する要素はコンマで区切ります。空白は省略可能です。例えば、「xci, xslt, sourceset」のように入力します。
- 9 (XDP および XML データ) データエンコーディングリストで、次のいずれかのデータエンコーディングスキームを選択します。
 - UTF-8
 - UTF-16
 - Shift_JIS
 - Big5
 - GBK
 - KSC_5601

電子メール送信ボタンを使用してフォームコンテンツに XML 暗号化を適用するには

- 1 フォームデザインに電子メール送信ボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「電子メールアドレス」ボックスに、PDF の送信先となる電子メールアドレスを入力します。
- 4 (オプション) 「電子メールの件名」ボックスに、電子メールメッセージの件名行を入力します。
- 5 送信形式リストで、「PDF」または「XML データ (XML)」を選択します。
- 6 (オプション) 送信データに署名を適用する場合は、「フィールド」タブの「送信時に署名」を選択し、「設定」をクリックして署名のオプション設定を指定します。
- 7 (オプション) フォームコンテンツに XML 暗号化を適用する場合は、「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックして暗号化のオプション設定を選択します。

HTTP 送信ボタンオブジェクトを使用してフォームコンテンツに XML 暗号化を適用するには

- 1 フォームデザインに HTTP 送信ボタンオブジェクトを追加します。327 ページの「[フォームデザインにオブジェクトを追加するには](#)」を参照してください。
- 2 オブジェクトパレットで、「フィールド」タブをクリックします。
- 3 「URL」ボックスに、フォームデータを投稿する URL を入力します。
- 4 「送信を暗号化」を選択し、「設定」をクリックします。

- 5 データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックスで、必要なオプションを選択します。647 ページの「[データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックス](#)」を参照してください。

関連項目

- 272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」
395 ページの「[「送信」タブのボタンプロパティ](#)」
414 ページの「[「フィールド」タブの電子メール送信ボタンプロパティ](#)」
419 ページの「[「フィールド」タブの HTTP 送信ボタンプロパティ](#)」
647 ページの「[データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックス](#)」

電子署名の使用

証明書を使用してフォームに電子的に署名できるようにすることにより、フォームの整合性を保護できます。フォームに署名すると、署名を無効にしない限りフォームの署名された部分は変更できなくなります。電子署名によって、必要な電子署名機能を備えたサードパーティ製署名ハンドラーが起動されます。

署名を検証すれば、データの送信後に誰もデータを改ざんしていないことが保証されます。あるユーザーがフォームに署名すると、署名されるデータのメッセージ要約が作成され、数学計算によってそのユーザーの秘密鍵と指定されたフォームデータが結合され、それらが一緒に暗号化されます。それによって出力されるのが電子署名です。この電子署名には、署名されたデータと、フォームに署名した人に関連付けられた証明書情報が含まれています。

署名が検証されると、署名者の公開鍵を使用して、署名されたデータが復号化され、要約値が取得されます。署名処理と同じアルゴリズムを使用して、受信したドキュメントに関する新しい要約値が計算されます。2つの要約値が一致しない場合は、フォームの署名後にデータが改ざんされており、検証に失敗したことを意味します。

電子署名では、証明書も署名データに連結されます。署名に含まれる証明書が信頼できるものであることを証明すると、データに署名した人が本人であることが確認できます。

署名者がフォームに署名するには、適切な証明書発行者からの電子署名が必要です。Adobe の署名では、RSA MD5、RSA SHA-1 または DSA SHA-1 ハッシュアルゴリズムを使用する PKCS (Public Key Cryptography Standard) #7 がサポートされます。

Designer には、以下の 2 種類の電子署名が含まれています。

ドキュメント署名

ドキュメント署名では、フォームオブジェクトの外観とこれらのオブジェクトに格納される値が保護されます。ドキュメント署名を作成するには、署名フィールドをフォームデザインに追加します。ドキュメント署名をフォーム全体に適用するか、フォーム上のオブジェクトのコレクションに適用するかを指定できます。デフォルトでは、フォーム全体に適用されます。ドキュメント署名をフォームオブジェクトのコレクションに適用する場合、署名者は Acrobat または Adobe Reader 8.0 以降を使用する必要があります。

ドキュメント署名がオブジェクトのコレクションに適用される場合、円や長方形などのスタティックオブジェクトは無視されます。ドキュメント署名は、ボタン、チェックボックス、日付/時間フィールド、十進数フィールド、コンボボックス、画像フィールド、リストボックス、数値フィールド、Paper Forms Barcode、パスワードフィールド、ラジオボタン、その他の署名フィールドおよびテキストフィールドにのみ適用されます。

フォームに署名するには、署名フィールドをクリックします。ドキュメントがフォームオブジェクトのコレクションに適用される場合、署名で指定されたオブジェクトはロックされ、読み取り専用で設定されます。オブジェクトをロックすると、ドキュメントの署名後にオブジェクトの値が受信者によって変更されるのを防ぐことができます。

データ署名

データ署名では、フォームデータが保護され、送信時にデータの整合性が確保されます。データ署名を作成するには、送信ボタン、電子メール送信ボタンまたは HTTP 送信ボタンを追加して、オブジェクトパレットの「送信時に署名」オプションを選択します。データに署名するには、署名者が Acrobat または Adobe Reader 8.0 以降を使用する必要があります。

データ署名は、フォームデータのみにも適用される場合と、注釈、ドキュメント署名、PDF ドキュメントなどの添付データを含む送信データ全体にも適用される場合があります。

ユーザーがフォームデータに署名するには、送信ボタンをクリックします。ユーザーは、このボタンをクリックするときに、署名入り証明書を指定して、フォームデータを送信する前に電子署名が適用されるようにする必要があります。

署名フィールドを追加するには

Designer には署名フィールドが組み込まれており、フォームに追加して、入力したデータにユーザーが署名できるようにすることができます。デフォルトでは、署名はフォーム上のすべてのオブジェクトに適用されます。署名をフォーム上のオブジェクトのコレクションに適用するには、コレクションを作成してから、オブジェクトパレットの「署名」タブでそのコレクションを指定する必要があります。詳しくは、314 ページの「[署名フィールドの使用](#)」を参照してください。

署名がオブジェクトのコレクションに適用される場合は、ドキュメントに署名すると、コレクション内のフィールドもロックされます。複数の署名フィールドをフォームの複数の部分にわたって追加した場合、最初の署名フィールドが署名された時点で最初のオブジェクトコレクションがロックされ、その後は残りのフィールド以外には入力できなくなります。オブジェクトコレクションについて詳しくは、323 ページの「[フォームオブジェクトコレクションの使用](#)」を参照してください。

署名がオブジェクトのコレクションに適用されると、オブジェクトに格納されている値が保護されます。また、署名によってコレクション内のオブジェクトの外観も保護されるので、フォームを開いたときに、元の外観が保たれるようになります。オブジェクトの外観を保護できるかどうかは、フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブにある「保存時にスクリプティングの変更をフォームに保持」オプションによって決まります。このオプションがデフォルトの「自動」に設定されている場合、オブジェクトの外観は自動的に保護されます。このオプションが「手動」に設定されている場合は、オブジェクトの外観を保つためのスクリプトを作成する必要があります。

署名フィールドは、繰り返し可能に設定したり、繰り返し可能なサブフォームオブジェクトに挿入したりしないでください。繰り返し可能な署名フィールドを持つフォームは無効であり、Acrobat に署名フィールドが一切表示されないという問題の原因となります。

署名がオブジェクトのコレクションにわたっている場合は、オブジェクトの数が変化すると署名が無効になるので、コレクション内のオブジェクトを繰り返し可能に設定しないでください。その場合は、繰り返し可能なオブジェクトをコレクションから削除するか、データ署名を代わりに使用することができます。

フォームに署名するには、署名フィールドをクリックします。フォームオブジェクトのコレクションに署名するには、署名者が Acrobat または Adobe Reader 8.0 以降を使用する必要があります。

- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、フォームデザインに署名フィールドをドラッグします。
- 2 (オプション) フォーム上のフィールドのコレクションに署名を適用するには、オブジェクトパレットの「署名」タブをクリックして、「署名後にフィールドをロックする」を選択します。
- 3 (オプション) コレクションを作成して選択するには、次の操作を行います。
 - 「コレクションの新規作成 / 管理」を選択します。
 - コレクションリストダイアログボックスで「新規」をクリックします。コレクション名を入力したら、Enter キーを押して、「変更」をクリックします。
 - コレクションエディターダイアログボックスで、コレクションに含めるオブジェクトを選択し、「OK」をクリックします。
 - コレクションリストダイアログボックスで「閉じる」をクリックします。
 - リストからコレクションを選択します。

- 4 (オプション) コレクションに含まれているフィールドまたはコレクションに含まれていないフィールドに署名を適用するには、次の操作を行います。
 - コレクションに含まれているフィールドに署名を適用するには、「コレクション内のすべてのフィールド」を選択します。
 - コレクションに含まれていないフィールドに署名を適用するには、「コレクションに含まれないすべてのフィールド」を選択します。
- 5 (オプション) 署名ハンドラーや証明書失効リストなどのオプションのセキュリティ設定を定義するには、「設定」をクリックします。
- 6 パレットを使用して、署名フィールドの外観を整えます。
- 7 フォームデザインを保存します。

複数の署名フィールドを追加する際の考慮点

フォームデザインに署名フィールドを配置するとき、「署名後にフィールドをロックする」オプションはデフォルトで選択されています。つまり、フィールドに署名した後、すべてのフォームオブジェクトはロックされます。

複数の署名フィールドをフォームデザインに配置する場合、少なくとも 1 つの署名フィールドに対して「署名後にフィールドをロックする」オプションが選択されていると、そのフォームに署名した後、すべての署名フィールドを含むすべてのフォームオブジェクトがロックされます。

すべての署名フィールドに署名できるようにするには、署名フィールドオブジェクトの 1 つだけを含むフォームオブジェクトのコレクションを作成し、「署名後にフィールドをロックする」オプションが選択されていることを確認します。この署名フィールドに署名した後、コレクションで指定されたすべてのオブジェクトはロックされます。残りの署名フィールドオブジェクトをコレクションの外側に置き、それぞれの「署名後にフィールドをロックする」オプションの選択を解除すると、それらの署名フィールドは署名可能なままになります。

オブジェクトコレクションについて詳しくは、323 ページの「[フォームオブジェクトコレクションの使用](#)」を参照してください。

署名フィールドをテストするには

署名フィールドが予想どおりに動作するかどうかを確認するには、「PDF プレビュー」タブを使用します。フォームデザインをテストする前に、フォームのプロパティダイアログボックスで、インタラクティブフォームをプレビューするためのデフォルトオプションが設定されていることを確認してください。

フォームオブジェクトのコレクションに署名するには、署名者が Acrobat または Adobe Reader 8.0 以降を使用する必要があります。

- 1 「PDF プレビュー」タブをクリックして、フォームデザインをインタラクティブ PDF フォームとして表示します。
- 2 署名フィールドをクリックします。
- 3 警告ダイアログボックスが表示された場合は「続行」をクリックします。
- 4 文書に署名ダイアログボックスでデジタル ID を選択して「署名」をクリックします。

フォームのテストについて詳しくは、106 ページの「[テストとトラブルシューティング](#)」を参照してください。

データ署名を送信ボタンに追加するには

データを送信する前にデータ署名を作成するように送信ボタンを設定すると、ユーザーはフォームを送信する際にフォームデータに署名できるようになります。データ署名は、データの整合性を保護し、データの送信時に署名者を認証するために使用されます。例えば、データ署名を使用すると、自動化されたトランザクションでフォームデータのセキュリティを保護することができます。

データに署名するには、署名者が Acrobat または Adobe Reader 8.0 以降を使用する必要があります。

- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、ボタン、電子メール送信ボタンまたは HTTP 送信ボタンをフォームデザイン上にドラッグします。
- 2 オブジェクトパレットで、データ署名をボタンに関連付けます。
 - 標準ボタンを使用している場合は、「フィールド」タブの「コントロールの種類」領域で「送信」を選択し、「送信」タブで「送信時に署名」を選択します。
 - 電子メール送信ボタンまたは HTTP 送信ボタンを使用している場合は、「フィールド」タブの「送信時に署名」を選択します。
- 3 (オプション) 署名をデータのみに適用するか送信データ全体に適用するかなど、オプションのセキュリティ設定を定義するには、「設定」をクリックします。
- 4 パレットを使用して、送信ボタンの外観を整えます。
- 5 フォームデザインを保存します。

詳しくは、272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」を参照してください。

ダイナミック PDF フォームで電子署名を使用するには

電子署名をダイナミック PDF フォームに追加する場合、署名された時点のフォーム状態を保持する必要があります。フォーム状態を保持すると、フォームを保存するときに、フォーム内のスクリプトの変更が確実に保持されます。例えば、フォームが署名されたときに一部のフィールドが非表示になっている場合、それらのフィールドはフォームを保存して再度開いても非表示になります。

フォーム状態は自動でも手動でも保持することができます。自動で保持すると、フォームを保存するときに、自動的にスクリプトの変更が保持されます。手動で保持すると、フォームを保存するときに、スクリプティングを使用してスクリプトの変更が保持されます。フォーム状態を手動で保持するには、delta スクリプトオブジェクトと preSave イベントおよび initialize イベントを使用します。

preSave イベントと initialize イベントについて詳しくは、『[スクリプティング基礎](#)』の「イベント」を参照してください。

フォームが承認されていない場合は、フォーム状態を自動でも手動でも保持することができます。フォームが承認されている場合は、フォーム状態を手動で保持する必要があります。自動的にスクリプトの変更を保持し、フォーム状態を復元すると、承認済みフォームの電子署名が無効になります。

注意：フォームが承認されている場合は、フォーム状態の特定にスクリプトではなく、データの連結を使用できます。

フォームのプロパティダイアログボックスを使用して、フォーム状態の保持方法を指定します。

- 1 フォームのプロパティダイアログボックスを表示するには、ファイル/フォームのプロパティを選択し、「デフォルト」をクリックします。
- 2 「保存時にスクリプティングの変更をフォームに保持」を選択します。
 - フォームが承認されていない場合は、「自動」または「手動」を選択します。
 - フォームが承認されている場合は、「手動」を選択します。

関連項目

- 314 ページの「署名フィールドの使用」
- 452 ページの「[「フィールド」タブの署名フィールドプロパティ](#)」
- 453 ページの「[「署名」タブの署名フィールドプロパティ](#)」
- 653 ページの「[デフォルト（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」
- 265 ページの「[ボタンの使用](#)」
- 638 ページの「[コレクションエディターダイアログボックス](#)」
- 638 ページの「[コレクションリストダイアログボックス](#)」

パスワードフィールドの使用

パスワードフィールドとスクリプトを使用すると、フォームに対するアクセスを制御することができます。パスワードフィールドには次のような多くのオプションがあります。

- ユーザーが入力したデータをマスクする文字を指定できる文字マスキングオプション。パスワードフィールドにパスワードがそのまま表示されることはありません。
- 編集パターン。実行時にパスワードフィールドにデータを入力するための構文を表します。
- 検証パターン。実行時にユーザー入力を検証するために使用されます。
- パスワードフィールドが必須か、推奨か、任意かを指定し、推奨された値または必要な値を入力するようにユーザーに通知するメッセージを含める設定。

注意：情報の取得とフィールドへの文字の表示は、視覚的な目的のためだけのものです。フィールドの値をプログラミングインターフェイスから隠したり、データの送信時に値を隠したりする試みは行われません。情報の安全性を確保したい場合は、セキュアリンク（SSL など）を使用して、送信時にデータを暗号化する必要があります。

インタラクティブフォームでパスワードフィールドを追加するには

- 1 オブジェクトライブラリパレットで標準カテゴリをクリックし、フォームデザインにパスワードフィールドオブジェクトをドラッグします。
- 2 レイアウト、フォント、段落および境界線パレットを使用して、パスワードフィールドのプロパティを設定します。
- 3 パスワードの検証に使用する検証パターンと、パスワードが有効な形式でない場合に表示されるメッセージを追加します。
- 4 （オプション）デフォルトのマスキング文字を変更します。
- 5 必要に応じて連結情報を追加します。
- 6 フォームデザインを保存し、テストを行います。

パスワード表示文字を変更するには

ユーザーがパスワードを入力したときにデフォルトで表示されるパスワード表示文字は、アスタリスク記号（*）です。この記号は、オブジェクトパレットの「フィールド」タブにある「パスワード表示文字」オプションで変更できます。

- ❖ オブジェクトパレットの「フィールド」タブをクリックして、「パスワード表示文字」でデフォルトの記号（*）を選択し、代わりの文字（例えば #）を入力します。

入力形式と検証メッセージを指定するには

実行時にユーザー入力を検証するために使用する検証パターンと、形式が有効なパターンでない場合にパスワードを再入力するようにユーザーに通知するメッセージを含めることができます。ユーザーが新しいパスワードを入力すると、検証パターンとの比較が行われます。パターンが一致していない場合にメッセージが表示されます。

 検証パターンのメッセージには、データソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。このオプションにより、ユーザーが確実に有効な値をフィールドに入力するようにできます。

- 1 オブジェクトパレットの「値」タブをクリックして、「検証パターン」をクリックし、次の操作を実行します。
 - 種類を選択リストで、検証パターンを選択するか、「パターン」ボックスにカスタムパターンを入力します。
 - 「検証パターンのメッセージ」ボックスに、ユーザーに正しい値を入力するように通知するメッセージを入力します。
- 2 実行時にエラーメッセージを生成するには、「エラー」を選択します。

関連項目

446 ページの「[パスワードパターン](#)」

524 ページの「[検証パターンのメッセージへのデータのダイナミックな埋め込み](#)」

PDF セキュリティオプションの使用

インタラクティブ PDF フォームを配布するとき、PDF フォームの標準機能の一部を制限したい場合があります。例えば、PDF フォームでは通常、コメントの追加、ページの挿入と削除、フォームへの署名、テキストのコピー、フォームのコピーの保存を行うことができます。

ファイルメニューからフォームのプロパティダイアログボックスを選択し、「PDF セキュリティ」タブで PDF セキュリティオプションを設定すると、特定の機能へのアクセスを制限することができます。次のオプションを無効にすることができます。

- フォームの印刷
- パスワードなしでフォームを開く機能
- ページの挿入、抽出、回転
- コメントを追加する機能
- 署名を追加する機能
- テキストと画像のコピー
- プレーンテキストのメタデータ

PDF フォームの機能に対するアクセスを制限するときは、ファイル内のタグ付き PDF 要素を読み取るスクリーンリーダーの機能にも影響する可能性があることに注意する必要があります。スクリーンリーダーは、視覚や身体に障害を持つユーザーがコンピューターを使用できるように支援するソフトウェアテクノロジーです。こうしたユーザーがフォームを確実に使用できるようにするには、スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする必要があります。

PDF フォームを開くためのパスワードを設定するには

PDF フォームを開くためにユーザーが入力しなければならないパスワードを設定することができます。このプロセスは 2 つのステップで構成されます。まず、パスワードが必要なことを指定します。次に、フォームを開くときにユーザーが入力しなければならないパスワードを指定します。

- 1 ファイル/フォームのプロパティを選択します。
- 2 「PDF セキュリティ」タブをクリックします。

- 3 「文書を開くときにパスワードが必要」を選択して、「OK」をクリックします。
- 4 フォームを Adobe PDF フォーム (*.pdf) として保存します。
- 5 文書を開くパスワードを設定ダイアログボックスで、次の操作を行います。
 - 「文書を開くパスワード」ボックスにパスワードを入力します。
 - 「確認入力」ボックスにパスワードを再入力します。
 - 「OK」をクリックします。
- 6 フォームデザインを閉じます。

PDF フォームの印刷を制限するには

PDF フォームがユーザーによって印刷されるのを防ぐことができます。印刷が可能、最低解像度で印刷が可能、高解像度で印刷が可能ないずれかを指定できます。

- 1 ファイル/フォームのプロパティを選択します。
- 2 「PDF セキュリティ」タブをクリックします。
- 3 「権限」領域で、「文書の印刷および編集とセキュリティ設定にパスワードが必要」を選択します。
- 4 印刷を許可リストで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - なし
 - 低解像度 (150 dpi)
 - 高解像度

PDF フォームの編集を制限するには

PDF フォームの特定の編集機能を無効にすることができます。

- ページの挿入、抽出、回転
 - コメントの追加
 - 署名の追加
 - テキストと画像のコピー
 - プレーンテキストのメタデータの有効化
- 1 ファイル/フォームのプロパティを選択します。
 - 2 「PDF セキュリティ」タブをクリックします。
 - 3 「権限」領域で、「文書の印刷および編集とセキュリティ設定にパスワードが必要」を選択します。
 - 4 変更を許可リストで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - ページの挿入、削除、回転
 - フォームフィールドの入力と署名
 - 注釈の作成、フォームフィールドの入力と署名
 - ページの抽出を除くすべての操作
 - 5 以下のオプションのうちの 1 つまたは両方を選択します。
 - テキスト、画像、およびその他の内容のコピーを有効にする
 - 文章メタデータを暗号化しない

安全なフォームでのスクリーンリーダーによるテキストアクセスを有効にするには

PDF 機能へのアクセスを制限するオプションを設定する場合、これらのオプションが、フォームのタグ付き PDF マテリアルを読み取るスクリーンリーダーの機能にも影響する可能性があることに注意する必要があります。

スクリーンリーダーデバイスからフォームに確実にアクセスできるようにするには、「スクリーンリーダーのテキストアクセス」オプションが選択されていることを確認する必要があります。

- 1 ファイル／フォームのプロパティを選択します。
- 2 「PDF セキュリティ」タブをクリックし、「権限」領域で次の操作を行います。
 - 「文書の印刷および編集とセキュリティ設定にパスワードが必要」を選択します。
 - 「スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする」を選択します。

第 14 章：最適なパフォーマンスを考慮したフォームの作成

レンダリングするときやフォームを使用するときのパフォーマンスは、フォームの種類など、様々な要因に影響されます。例えば、非インタラクティブフォームはインタラクティブフォームよりも速くレンダリングされます。

パフォーマンスに影響するその他の要因としては、フォームで使用されるフォントの種類と数、オブジェクトの数、種類および複雑さなどがあります。データソースに連結されているフォームの場合は、データの構造もパフォーマンスに影響を与えます。

Designer には、フォームをデザインするためのオプションが数多く搭載されています。したがって、同じ結果を達成するのに複数のデザインオプションを使用できることがよくあります。この場合、デザインオプションを選択するときに、それぞれのパフォーマンスへの影響を考慮に入れるようにしてください。

パフォーマンスを向上するための一般的なデザイン上の考慮点

様々な要因がパフォーマンスに影響しますが、パフォーマンスを最適化するための主な方法の 1 つは、フォームのファイルサイズをできるだけ小さくすることです。

サーバーがフォームをレンダリングするとき、低速な通信チャンネルでフォームを転送するとき、ニアラインストレージにフォームを保存するとき、またはニアラインストレージからフォームを取り出すときには、フォームのファイルサイズがパフォーマンスに影響します。

フォームのファイルサイズを最小に抑えるには、以下の一般的なヒントを検討してください。

- 埋め込む必要のあるフォントの使用、特にフィールドオブジェクトでの使用を避けます。埋め込みフォントはサブセット化できません。
- リンクされた画像ではなく埋め込み画像を使用します。デフォルトでは、画像はリンクされます。画像の埋め込みとリンクの違いについて詳しくは、[この記事を参照](#)してください。
- JPEG または GIF などの圧縮画像形式を使用します。
- 色には、パレット画像またはモノクロ画像を使用します。24 ビットカラー形式の使用は避けます。
- アクセシブルなフォームの生成はパフォーマンスに影響することに注意してください。
- フォーム内では最小限の数のオブジェクトを使用し、オブジェクトをできるだけ単純にします。

インタラクティブフォームのパフォーマンスを向上させるには、以下の一般的なヒントを検討してください。

- Forms にデータを送信するフォームでは、送信データに XML データ (XML) 形式を選択します。272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」を参照してください。
- フォームキャッシングを有効にすると、フォームのレンダリングのパフォーマンスが向上します。フォームをキャッシュすると、そのデータが、事前に生成されているプレゼンテーション内に結合されます。データ量に応じてレイアウトが調整されるフォームは、常にキャッシュできます。固定レイアウトのフォームもキャッシュできますが、制限があります。この制限については、581 ページの「[フォームキャッシング](#)」を参照してください。固定レイアウトのフォームを Forms でキャッシュするには、作成する個々のフォームについて、Designer でフォームキャッシングのオプションを選択する必要があります。

非インタラクティブフォームのパフォーマンスを向上させるには、以下の一般的なヒントを検討してください。

- データ入力の検証や編集マスクといった、検証のための構成要素やその他のインタラクティブなフォーム機能の使用を避けます。

これらの機能を使用すると、Forms によってインタラクティブフォームのレンダリングが行われます。一般に、非インタラクティブフォームはインタラクティブフォームよりファイルサイズが小さく、より高速にレンダリングできます。

フォームが印刷を目的とするものである場合、インタラクティブ機能は何も付加利益をもたらしません。例えば、Designer では、XML スキーマに連結されるフォームの特定のオブジェクト用に検証スクリプトを生成できます。インタラクティブフォームでは、これらの検証スクリプトによって、ユーザーが入力したデータがスキーマ仕様に適合することを確認します。例えば、検証スクリプトで、数値オブジェクトに入力された値が 4 ～ 9 の整数であるかどうかをチェックできます。非インタラクティブフォームはユーザー入力を受け付けません。したがって、検証スクリプトは使用されません。これらの検証スクリプトの生成をオフにすると、スクリプトを実行するための処理がなくなるため、パフォーマンスが向上します。507 ページの「[フィールドの生成オプションの設定](#)」を参照してください。

- 複数のフォームを 1 つにまとめて処理します。

様々な顧客の請求書など、単一のフォームの複数のインスタンスをレンダリングする場合、すべてのインスタンスのデータを 1 つのデータファイルにまとめ、このファイルから個々のフォームをレンダリングします。この方法は、フォームを個別に処理するよりも効率的です。ただし、異なるフォームを一括処理する場合は、フォームをグループ化してからレンダリングします。例えば、請求書と発送明細票を同時に処理する場合、すべての請求書をグループ化して処理した後、すべての発送明細票を処理します。

関連項目

566 ページの「[画像のパフォーマンスの最適化](#)」

301 ページの「[画像の使用](#)」

572 ページの「[アクセシブルなフォームのパフォーマンス上の考慮点](#)」

567 ページの「[オブジェクトの数を減らすためのヒント](#)」

568 ページの「[オブジェクトの複雑さを減らすためのヒント](#)」

オブジェクトのパフォーマンスの最適化

関連項目

564 ページの「[パフォーマンスを向上するための一般的なデザイン上の考慮点](#)」

454 ページの「[「サブフォーム」タブのサブフォームプロパティ](#)」

480 ページの「[「フィールド」タブのテキストフィールドプロパティ](#)」

571 ページの「[フォームを読み込む際のパフォーマンス上の考慮点](#)」

351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」

316 ページの「[テキストオブジェクトを結合するには](#)」

377 ページの「[境界線パレットの境界線プロパティ](#)」

570 ページの「[パフォーマンスを考慮したフォント選択](#)」

568 ページの「[パフォーマンスを考慮したデータ連結オプション](#)」

画像のパフォーマンスの最適化

フォームに画像が含まれていると、レンダリングするときに、処理時間が長くなります。画像を使用する場合、ファイルサイズを最小に抑えるには、コンパクトなファイル形式で、できるだけ小さい寸法の画像を使用します。画像のサイズを目的の寸法に変更してから、フォームに追加します。画像をフォームに追加した後での画像のサイズ変更は避けてください。

フォームのレンダリング時のパフォーマンスを最適化するには、コーナーを四角にし、線を正確に水平および垂直にします。正確に水平または垂直であるように見える線でも、わずかに傾いている場合があります。

レイアウトパレットで、水平線と垂直線の傾きをチェックすることができます。「高さ」オプションは水平線の傾きを表し、「幅」オプションは垂直線の傾きを表します。次の例では、垂直線には約 0.5 ミリの小さな傾きがあります。幅が 0 ミリの場合、線は正確に垂直になります。



個別オプション選択によるパフォーマンスの最適化

チェックボックスオブジェクト、リストボックスオブジェクトおよびラジオボタンオブジェクトは、個別のオプション選択を提供します。リストボックスとチェックボックスは、ラジオボタンよりも高速にレンダリングされます。

サブフォームのパフォーマンスの最適化

Designer では、テキスト、線、画像などのボイラープレートオブジェクト（スタティックオブジェクト）は、テキストフィールドや画像フィールドなどの可変のコンテンツを含むオブジェクトと区別されます。

例えば、インタラクティブフォームには、ユーザーに情報を提供するテキストラベルや、ユーザーからの情報を取り込むテキストフィールドオブジェクトを含めることができます。

サブフォームは、コンテンツを含むオブジェクトの種類の 1 つです。多くの場合、サブフォームは、各サブフォームに連結されるデータの構造に基づいてグループ化されます。繰り返し、オプション、および条件付きの各データグループをサブフォームに連結する機能を使用すると、スクリプトを使用して同じ結果を実現する場合よりも、デザイン上のエラーが生じるリスクが小さくなります。

例えば、繰り返しデータグループのオブジェクトを含むサブフォームを作成できます。このフォームをレンダリングすると、すべてのデータグループを示すために必要な数のサブフォームインスタンスが Forms によって作成されます。

サブフォームを使用する場合は、最適なパフォーマンスを得るために以下の点を考慮してください。

- 繰り返しサブフォームや階層化されたサブフォームを使用すると、フォームのレンダリング時により多くの処理が必要になります。これらのサブフォームを使用するのは、それによって別のオプションよりも高いパフォーマンスが得られる場合のみにします。例えば、繰り返しサブフォームを使用することで、多数の繰り返しオブジェクトを使用する必要がなくなる場合があります。
- サブフォーム内で改ページを許可すると、Forms で改ページを適用しない場合でも処理が増えます。例えば、サブフォームの位置、サイズまたはコンテンツによっては、改ページできない場合があります。パフォーマンスを最適化するには、サブフォーム内の改ページを無効にします。デフォルトでは、改ページが許可されています。

テキストフィールドのパフォーマンスの最適化

デフォルトでは、テキストフィールドオブジェクトのエントリは、プレーンテキストとして形式設定されます。このオプションを変更して、リッチテキスト形式を許可することができます。

ただし、プレーンテキストのエントリでは、デザイン時に使用したフォント、スタイルおよびサイズがユーザー入力に適用されます。フォームをより効率的にレンダリングするには、フォームデザインで使用したテキストプロパティを使用します。

リッチテキストのエントリでは、オブジェクトに入力されたテキストのフォントスタイルおよびフォントサイズをユーザーがカスタマイズすることができます。リッチテキストのエントリは、説明的な情報などに使用すると便利ですが、余分な属性が増えるのでパフォーマンスが低下します。

マスターページ上のオブジェクトとボディページ上のオブジェクトのパフォーマンス

マスターページ上のオブジェクトは、Forms がフォームをレンダリングするときに、より多くの処理時間がかかります。可能な場合は、ボディページ上にオブジェクトを配置してください。

オブジェクトの数を減らすためのヒント

フォームのファイルサイズには、フォーム上のオブジェクトの数が影響します。フォーム上のオブジェクトの数を最小に抑えるには、以下の一般的なヒントを検討してください。

- ボックスを作成する場合は、4 つの個別の線を結合するのではなく、1 つの長方形オブジェクトを使用します。
- フィールドオブジェクトまたはサブフォームオブジェクトの境界線を作成する場合は、別個のボックスを作成するのではなく、オブジェクトの境界線属性を使用します。
- オブジェクトの背景を作成する場合は、別個の網掛けのボックスオブジェクトを作成するのではなく、背景の塗りつぶしを使用します。
- キャプションには、別個のテキストオブジェクトを使用するのではなく、オブジェクトのキャプションプロパティを使用します。
- 複数のテキストオブジェクトを 1 つのテキストオブジェクトに結合します。この方法は、フォームを Designer に読み込んだ後で特に役立ちます。

オブジェクトの複雑さを減らすためのヒント

フォームのファイルサイズには、フォーム上のオブジェクトの複雑さが影響します。単純なオブジェクトは、複雑なオブジェクトよりも効率的に処理できます。オブジェクトの複雑さを最小に抑えるには、以下の一般的なヒントを検討してください。

- フォント、スタイルおよびサイズの数をもっと抑えて、キャッシュされたフォント情報を活用します。
- 可能な場合は、伸縮するダイナミックオブジェクトではなく固定のオブジェクトを使用します。
- オブジェクトの上に別のオブジェクトを構築することを避けます。特に、オブジェクトを 4 レイヤー以上重ねることは避けてください。

パフォーマンスを考慮したデータの構造化

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

457 ページの「[「連結」タブのサブフォームプロパティ](#)」

568 ページの「[オブジェクトの複雑さを減らすためのヒント](#)」

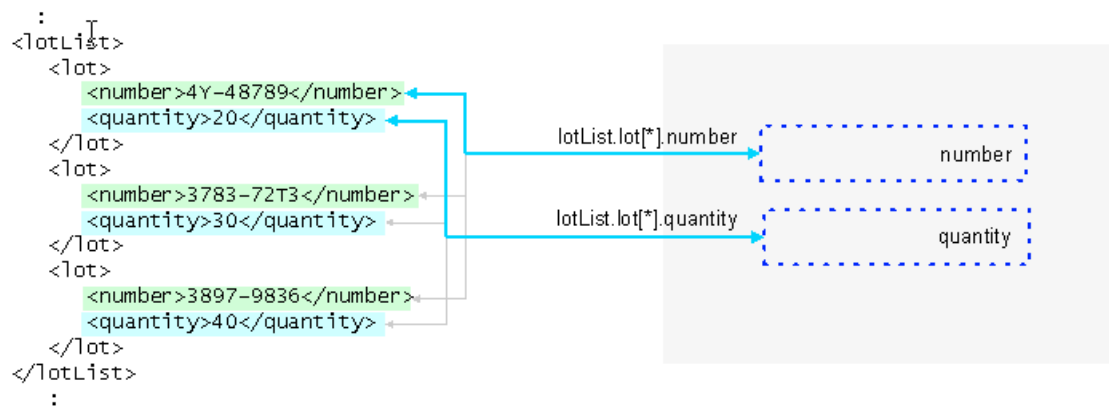
570 ページの「[パフォーマンスを考慮したフォント選択](#)」

パフォーマンスを考慮したデータ連結オプション

データソースに連結されているフォームの場合は、フィールドやサブフォームのようなフォームオブジェクトにデータ要素を関連付けることができます。この関連付けをデータ連結と呼びます。表示されるデータの量に応じて縮小または拡大されるオブジェクトを選択できます。

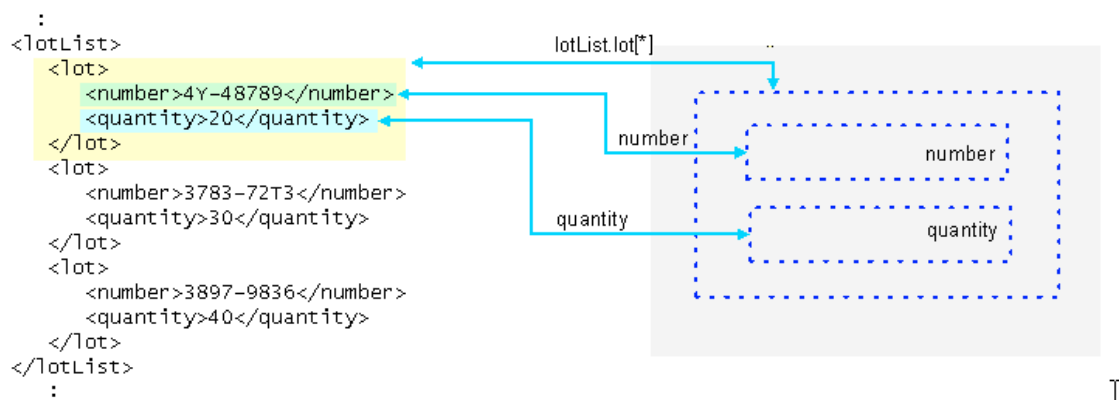
フォームのレンダリング時、同じ結果になるとしても、データ連結の定義には多くの方法があります。ただし、フォームオブジェクトとそのデータ要素との関係をより明確に定義するほど、Forms はデータ連結をより効率的に処理できます。

次の図に示しているフィールドの連結例では、フォーム内の 2 つのフィールドオブジェクトがデータ要素に連結されています。フィールドオブジェクトに複数のインスタンスとデータが存在するので、連結があいまいです。フォームのレンダリング時、各オブジェクトの *n* 番目のオカレンスを、対応するデータの *n* 番目のオカレンスに一致させることが必要なので、そのための処理が増えます。



フィールドの連結 (number と quantity)

次の図に示しているサブフォームの連結例では、オブジェクトをグループ化することによって、フォームのレンダリング処理を単純化しています。サブフォームはデータ内の繰り返しグループに連結され、あいまいな連結が解消されています。この連結では、最初のグループに対してのみ評価が行われ、後続の繰り返しグループに対しての再評価は不要です。



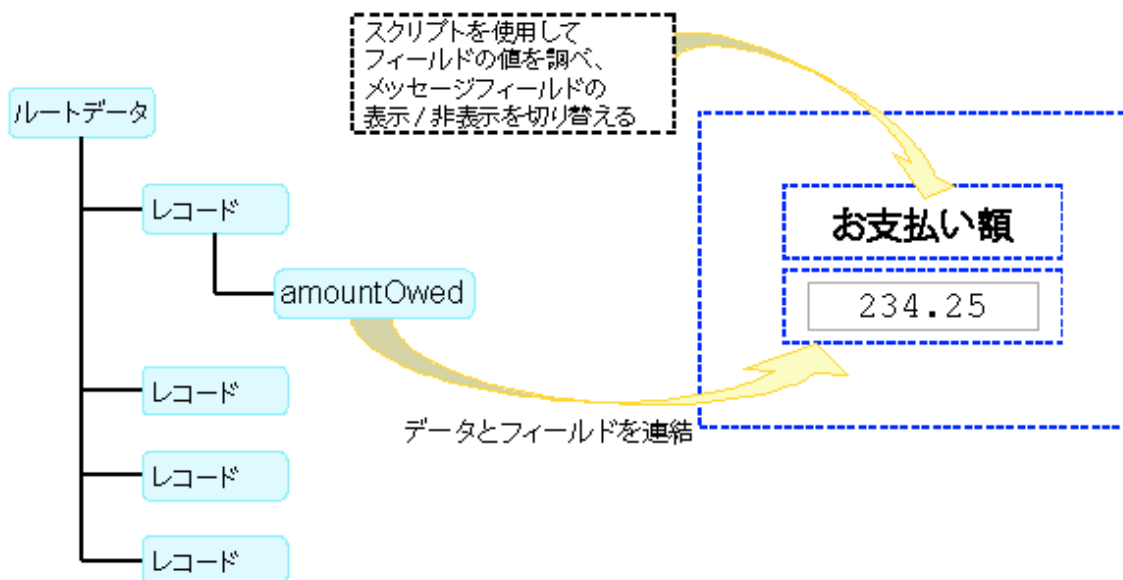
A. フィールドの連結 (number と quantity) B. サブフォームの連結

💡 サブフォームを使用すると、サブフォームをデータ要素に連結せずに、オブジェクトをグループ化して整理できます。データをマージするときに、Forms がサブフォームのデータ要素を検索しないようにするには、サブフォームのデータ連結の種類をデフォルト値の「標準」から「なし」に変更します。

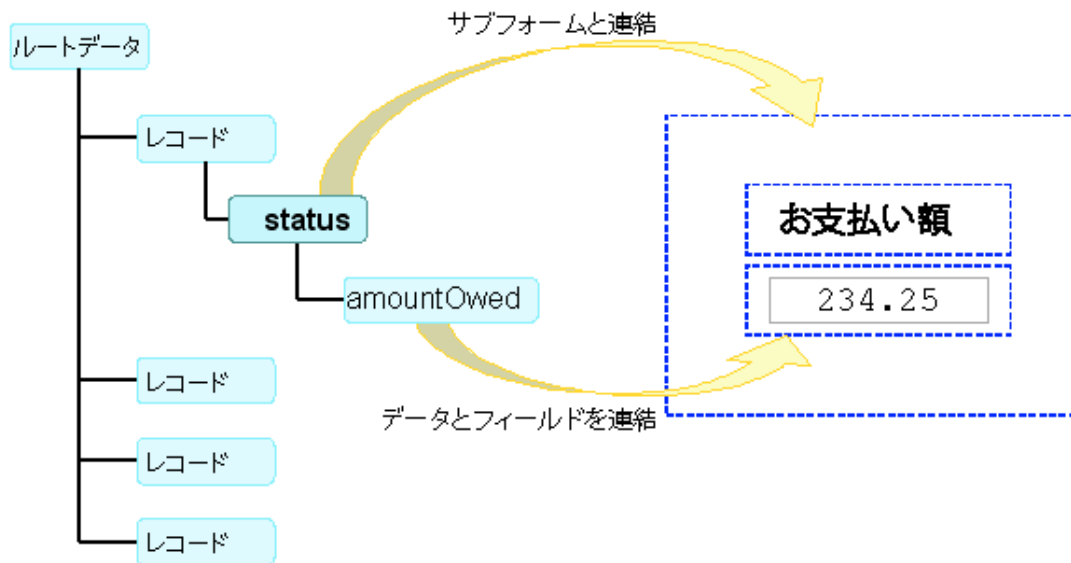
パフォーマンスを考慮したデータ構造の評価

データ構造がパフォーマンスにどのように影響するかを実際に試してみるには、フィールドの表示 / 非表示を切り替えるのが 1 つの手段です。

amountOwed データ要素の値が 0 より大きい場合のみ、メッセージを表示するとします。1 つ目の方法では、スクリプトを使用して、amountOwed の値を調べ、このデータ要素の値に応じて、メッセージフィールドの表示 / 非表示プロパティを変更します。



2つ目の方法では、データをサブフォームに連結します。結果は同じですが、データをサブフォームに連結する方法のほうがデータをフィールドに連結する方法よりも効率的です。ここでは、**status** 要素をデータ構造に追加し、この要素をサブフォームに連結しています。サブフォーム内には、メッセージフィールドと **amountOwed** フィールドがあります。サブフォームの最小値が 0 に設定され、**status** 要素が存在する場合のみ、メッセージが表示されます。



データコンテキストで、**status** ノードをデータファイルに追加するかどうかの判断は、値が 0 より大きい場合のみ、サブフォームの生成時に行われる必要があります。この手法は、サブフォームがデータコンテキストデザインで必要かどうかを判断するためのロジックを提供します。

パフォーマンスを考慮したフォント選択

フォームの作成に使用するフォントを選択する際には、**Designer** にインストールされている一部のフォントが **Acrobat** や **Adobe Reader** の環境にはインストールされていない場合があります。この点に注意が必要です。**Acrobat** で見つからないフォントを使用したフォームを開くと、見つからないフォントは置換フォントに置き換えられるので、**Designer** 上で作成した本来のデザインとは異なるフォームレイアウトになることがあります。この問題を避けるには、見つからないフォントをフォームユーザーのコンピュータにインストールするか、フォーム作成者が「フォントを埋め込む」オプションを選択し、PDF フォームにフォントを埋め込んで保存する必要があります。

ただし、ファイルサイズが小さければ小さいほど、フォームはより速くレンダリングされます。ファイルサイズをできるだけ小さくするには、フォントの種類を最小限に抑え、フォントの置換防止のために埋め込む必要がないようなフォントを使用します。

次のフォントは **Acrobat** および **Adobe Reader** で常に使用できるため、埋め込まなくてもフォントの置換は発生しません。

- Courier Std、Courier Std Bold、Courier Std Bold Oblique、Courier Std Oblique
- Minion Pro Bold、Minion Pro Bold It、Minion Pro It、Minion Pro Regular
- Myriad Pro Bold、Myriad Pro Bold It、Myriad Pro It、Myriad Pro Regular
- Symbol (Type 1)

次のフォントは Acrobat では常に使用できますが、Adobe Reader では対応する言語パッケージがインストールされている場合にだけ使用できます。

- 4 つのスタイル（太字、太字斜体、斜体および標準）がすべて揃っている Adobe Arabic/Hebrew/Thai。拡張言語パッケージがインストールされている場合に Adobe Reader で使用できます。
- Kozuka Gothic Pro-VI M（KozGoPro VI-Medium.otf）および Kozuka Mincho Pro-VI R（KozMinProVI-Regular.otf）。日本語言語パッケージがインストールされている場合に Adobe Reader で使用できます。

PDF、PCL、PostScript の各出力デバイス上でフォームデザインの外観が確実に同じになるようにするには、次のフォントを使用してください。

- Courier
- Arial
- Times New Roman

PDF 専用のフォームデザインの場合は、上のリストに示した Adobe Reader 付属のフォントを使用することでパフォーマンスを最適化できます。

関連項目

17 ページの「[フォントパレット](#)」

569 ページの「[パフォーマンスを考慮したデータ構造の評価](#)」

571 ページの「[フォームを読み込む際のパフォーマンス上の考慮点](#)」

印刷用のデザイン上の考慮点

フォームを印刷用に送信すると、フォームとデータの両方がメモリに読み込まれ、結果のレイアウトもメモリ内に作成されます。したがって、最終的な出力のサイズには制限があります。

フォームのデータ量とページ数がメモリ使用量に最も大きい影響を及ぼしますが、フォームがメモリ使用量に影響する他の要因も考えられます。印刷用のフォームをデザインする場合は、次の事項に留意してください。

- 選択サブフォームの使用を避けます。
- フィールドのラベル付けにはテキストフィールドのキャプションを使用し、スタティックテキストの使用を避けます。
- リッチテキストの使用を避けます。
- サブフォームおよび階層化されたサブフォームの過度の使用を避けます。
- 長方形オブジェクトおよび線オブジェクトの過度の使用を避けます。

フォームを読み込む際のパフォーマンス上の考慮点

既存のフォームを Designer に読み込むことができます。読み込み時に、不必要なオブジェクトが作成される場合があります。

例えば、PDF フォームを読み込む場合、元のフォーム内の各行または各単語につき 1 つのテキストオブジェクトが作成される場合があります。オブジェクトの数や複雑さが増すと、フォームのファイルサイズが大きくなり、フォームレンダリング時のパフォーマンスが低下します。

Designer には、作成された不必要なオブジェクトの数を減らすオプションが用意されています。フォームの読み込み時には、「背景として読み込んでインタラクティブフォームを作成」オプションまたは「編集可能なレイアウトとして読み込んでインタラクティブフォームを作成」を選択できます。

結果として得られるフォーム上のオブジェクト数および複雑さという点で、各オプションは異なる結果を生みます。「編集性を保持」オプションと「外観を保持」オプションを 1 回ずつ試してみることが有効な場合があります。各オプションを使用して得られたフォームの最適な要素を組み合わせ、最終的なフォームを作成することができます。

フォームを読み込んだ後で、関連するテキストオブジェクトを組み合わせることで、フォーム上のオブジェクトの数を減らすことができます。例えば、1 つの文を構成する個々のテキストオブジェクトを選択して、それらを 1 つのテキストオブジェクトに結合させることができます。

関連項目

- 132 ページの「[PDF ファイルの読み込み](#)」
- 316 ページの「[テキストオブジェクトを結合するには](#)」
- 567 ページの「[オブジェクトの数を減らすためのヒント](#)」
- 568 ページの「[オブジェクトの複雑さを減らすためのヒント](#)」
- 570 ページの「[パフォーマンスを考慮したフォント選択](#)」
- 572 ページの「[アクセシブルなフォームのパフォーマンス上の考慮点](#)」

アクセシブルなフォームのパフォーマンス上の考慮点

アクセシブルなフォームを作成するときは、スクリーンリーダーが読み上げるテキストを定義できます。スクリーンリーダーがテキストを読み上げることができるように、タグ付きの PDF フォームを作成する必要があります。タグ付き PDF フォームを作成するには、フォームデザインを PDF ファイルとして保存する際に、アクセシビリティタグを生成します。

Designer では、デフォルトでタグ付き PDF フォームが作成されます。

アクセシビリティを目的としたタグ付けによってファイルサイズが大きくなり、パフォーマンスが下がります。アクセシブルなフォームによるパフォーマンスへの影響を解消するには、デザイン要素を慎重に選択します。

例えば、選択肢のリストにはリストボックスやチェックボックスを採用します。これらのオブジェクトはラジオボタンよりも高速にレンダリングされます。

関連項目

- 542 ページの「[アクセシビリティタグを使用した PDF フォームの作成](#)」
- 571 ページの「[フォームを読み込む際のパフォーマンス上の考慮点](#)」
- 572 ページの「[スクリプトのパフォーマンス上の考慮点](#)」

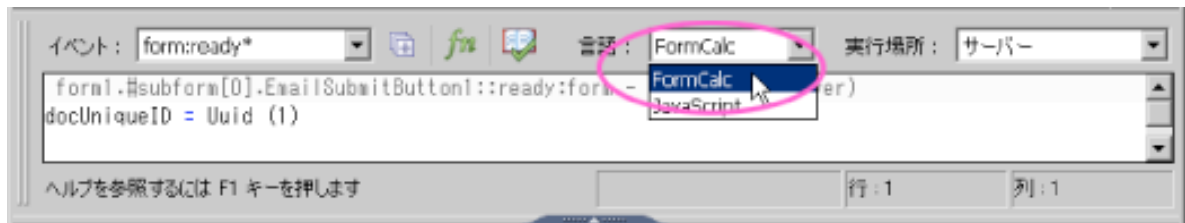
スクリプトのパフォーマンス上の考慮点

一般に、スクリプトによってフォームのレンダリングに必要な処理が増えます。スクリプトを使用する前に、パフォーマンスを上げるために別の手段がないかどうかを検討する必要があります。例えば、文字マスクを使用すると、スクリプトを使用する場合と同じ結果を得ながら、パフォーマンスを上げることができます。

フォーム内の計算と妥当性検証に JavaScript または FormCalc を使用することもできます。ただし、できるだけ妥当性検証スクリプトを使用しないようにしてください。このようなスクリプトの処理に時間がかかるので、パフォーマンスに影響が出ます。

スクリプトを使用する場合、次の理由から通常、JavaScript よりも FormCalc を使用するほうがパフォーマンスが上がりま

- FormCalc は単純な計算と妥当性検証をより高速に実行できる。
 - FormCalc は XML フォームオブジェクトモデルの構文を直接解釈するため、参照構文式をより効率的に評価できる。
- スクリプトエディターを使用してスクリプト言語を選択します。



関連項目

572 ページの「[アクセシブルなフォームのパフォーマンス上の考慮点](#)」

573 ページの「[XML フォームオブジェクトモデル式のパフォーマンス上の考慮点](#)」

Designer を使用したスクリプティング

FormCalc の使用

JavaScript の使用

演算とスクリプトでのオブジェクトの参照

XML フォームオブジェクトモデル式のパフォーマンス上の考慮点

Adobe XML フォームオブジェクトモデルは、フォームレイアウト、フォームデザインおよびフォームデータを区別できるフォームの作成を実現します。

フォームデザインでは、参照構文式によりドキュメントオブジェクトモデル (DOM) のツリー構造の階層内でオブジェクトに値、オブジェクトおよびプロパティが関連付けられます。通常、参照構文式はフォームロジック、検証、計算などのビジネスルールに書き込まれます。

参照構文式の処理時間を短縮するため、次の点を考慮してください。

- 式を可能な限り簡潔にする。
- 「“.”」(二重引用符) を式で使わないようにする。

さらに、スクリプトで参照構文を評価した後、その結果をオブジェクト変数に格納してください。これにより、参照構文が再使用される場合に、この結果を再取得できるようになります。結果の再使用は式の再評価よりも効率的です。

次の例では、resolveNode メソッドが 1 回使用され、その結果生成されるオブジェクト参照が保存されて、他の各種関連オブジェクトの操作において再使用されます。このスクリプトは、各オブジェクトについて参照構文式と resolveNode メソッドを使用するスクリプトよりも効率的に処理できます。

```
var oSubform = xfa.resolveNode("xfa.form.form1.Subform1");
if (oSubform.all.length < 3) {
    Subform.SubformUpButton1.presence = "invisible";
    Subform.SubformLabel1.presence = "invisible";
    Subform.SubformUpButton2.presence = "invisible";
    Subform.SubformLabel2.presence = "invisible";
}
```

関連項目

572 ページの「[スクリプトのパフォーマンス上の考慮点](#)」

574 ページの「[最適なパフォーマンスを得るためのログメッセージの解決](#)」

Designer を使用したスクリプティング

JavaScript の使用

演算とスクリプトでのオブジェクトの参照

最適なパフォーマンスを得るためのログメッセージの解決

フォームデザインを保存したり、「PDF プレビュー」タブを使用してプレビューしたりするときには、レポートパレットに様々なエラーが表示されます。エラーの一部は「ログ」タブに表示されます。ログメッセージが生成されるとパフォーマンスが低下します。できるだけこれらのメッセージを解決するようにしてください。

例えば、使用可能であることが確かなフォントを使用することで、フォントの置換についてのメッセージを解決できる場合があります。一部のメッセージは、フォームが正常に動作していても生成されます。そのようなメッセージは、解決できない場合があります。

フォームデザインの作業中、対象バージョン警告やスクリプティングエラーなど Designer が生成するメッセージは、レポートパレットの「警告」タブに表示されます。「警告」タブに表示される警告メッセージやエラーメッセージはパフォーマンスには影響しませんが、フォームを配置する前に解決する必要があります。

Designer のレポートパレットでメッセージをチェックできます。これらのメッセージは、Forms のログファイルでもチェックできます。レポートパレットのメッセージについて詳しくは、112 ページの「[レポートパレットでの警告メッセージの処理](#)」を参照してください。

必ず、生成された警告メッセージとエラーメッセージの両方を確認してください。Designer がメッセージを生成しない場合でも、Forms の環境は、ユーザーのデスクトップ環境とは大きく異なっている可能性があります。

Forms がフォームをレンダリングするときに生成される一般的なメッセージの例を以下に示します。

- 「Fonts ZaDb が見つかりませんでした。Myriad Pro で置換されました。」

フォームで、Forms で使用可能でないフォントが使用されています。使用可能なフォントに置き換えられました。置換フォントを使用してフォームが正しく表示される場合は、置換フォントを使用するようにフォームを変更することで、このエラーをなくすことができます。Forms で見つからないフォントをインストールすることでも、このエラーを解決できます。

- 「スクリプトが無効です（言語は JavaScript ; コンテキストは ...）」

スクリプトエラーがあるので、スクリプトを実行できません。スクリプトがフォームに結果を生成しない場合、このエラーはフォームのテスト時に検出されない場合があります。ただし、このエラーの生成はパフォーマンスに影響します。

次の例は、スクリプトエラーを示しています。

```
script = function testFractionDigits(maxDigits)
{
    index = this.rawValue.lastIndexOf(".");
    if (index >= 0)
        return (((this.rawValue.length1) - index) <= maxDigits);
    return true;
}
```

この例で、`index` は未定義の変数です。このエラーを解決するには、`index` の最初のインスタンスの前に `var` を付けます。

- 「フィールドで使用されているフォントはサブセットできません。フォント ArialMT はサブセットされず、埋め込まれます。」

フォントをサブセット化できません。このエラーを解決するには、標準フォントを使用してフォントのサブセット化をなくします。この変更により、生成されるファイルのサイズも小さくなります。

- 「`ImageField` 'アクセス' 属性は、明示的に `'nonInteractive'` に設定する必要があります。フィールドはボイラープレートとして描画されます。」

Acrobat 6.0.2 Professional、Acrobat 6.0.2 Standard、および Adobe Reader 6.0.2 のフォームで、画像フィールドオブジェクトが非インタラクティブとしてレンダリングされています。このメッセージを解決するには、そのオブジェクトをスタティック画像オブジェクトに変換します。

- 「サブフォーム `AccountDetails` に無効なレイアウト属性があります。デフォルトを使用します。」

レイアウトタイプが行であるサブフォームは親テーブル内に階層化される必要がありますが、テーブル内に含まれていません。このエラーを解決するには、サブフォームをテーブル内に移動するか、サブフォームの種類を位置固定コンテンツまたはフローコンテンツに変更します。

関連項目

573 ページの「[XML フォームオブジェクトモデル式のパフォーマンス上の考慮点](#)」

112 ページの「[レポートパレットでの警告メッセージの処理](#)」

第 15 章：サーバー処理用のフォームを作成する際の考慮点

Adobe LiveCycle 用のフォームの作成

Adobe® LiveCycle® Forms Standard 11 を使用すると、組織はインターネット経由で PDF、HTML および Flash 形式の電子フォームをデプロイすることによって、インテリジェントデータキャプチャプロセスを拡張できます。Forms では、フォームデータを中央リポジトリから取得し、指定されたフォームに結合することもできます。エンドユーザーは、追加のソフトウェアなしにオンラインフォームにアクセスして、オンラインで入力したり、保存してオフラインで入力したりできます。

Forms には、次の主な機能が用意されています。

- PDF、HTML または Adobe Flash ベースのインタラクティブフォームをレンダリングします。フォームデータを統合できます。これは、PDF フォームにデータを読み込んだり、PDF フォームからデータを抽出したりする機能です。
- ガイドのレンダリングをサポートします。
- ドキュメントの暗号化をサポートします。
- フォームアセンブリを実行します。

Forms について詳しくは、576 ページの「[サーバー処理用のフォームを作成する際の考慮点](#)」を参照してください。

注意：Forms では、フォームを HTML としてレンダリングする場合に、テキストフィールドや数値フィールドなどのオブジェクトでデフォルト値としてハイパーリンクテキストを使用することをサポートしていません。

関連項目

576 ページの「[Forms での取得データの処理方法](#)」

577 ページの「[Forms でのフォームのレンダリング方法](#)」

577 ページの「[Forms でのフォームの自動埋め込み方法](#)」

Forms での取得データの処理方法

インタラクティブフォームを使用して、ユーザーが入力データを取得できます。フォームに「送信」ボタンが付いている場合、ユーザーは入力したデータを Forms にアップロードできます。

ユーザーが実行時に「送信」ボタンをクリックすると、データが Forms に送信されます。そのように設定されていて、検証エラーが発生しなかった場合、Forms はデータとフォームを再結合してユーザーに返すことができます。または、追加の処理を行うためにカスタムアプリケーションにデータを転送するよう Forms を設定することもできます。

データは様々な形式で Forms に送信できるので、カスタムアプリケーションの要件に合わせた「送信」ボタンのプロパティの定義方法を理解しておくことが重要です。

関連項目

- 265 ページの「[ボタンの使用](#)」
- 272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」
- 359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」

Forms でのフォームのレンダリング方法

Forms では、フォームデザインを PDF、HTML または Flash ベースのインタラクティブフォームとしてレンダリングできます。

フォームデザインが Forms にデプロイされると、レンダリングされたフォームは Web ベースのユーザーインターフェイスを介して直接ユーザーに配布することができます。ユーザーからフォームが要求されると、Forms はフォームデザインに適した変換を適用してフォームをレンダリングします。

例えば、ユーザーがインタラクティブな PDF フォームを要求すると、Forms は PDFForm 変換を使用してフォームをレンダリングします。

関連項目

- 580 ページの「[フォーム変換](#)」
- 580 ページの「[フォームデザインの保存：XDP 形式と PDF 形式](#)」

Forms でのフォームの自動埋め込み方法

Forms では、フォームのレンダリング時に外部データソースのデータを使用してフォームを自動的に埋め込むことができます。

単純なアプリケーションの場合は、Designer でデータ連結を設定すると、スクリプトを作成せずに外部データと連動するフォームを作成できることがあります。連結は通常、単独で使用して WSDL データソースまたは OLEDB データベースからデータを入手することができます。

Forms は、単純なデータ連結をサポートしています。単純な連結では、1 つの値を 1 つのフィールドに連結できます。

関連項目

- 497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」
- 110 ページの「[データを使用してフォームデザインをテストする際の考慮点](#)」
- 583 ページの「[フォームフィールドへのデータの自動埋め込み](#)」

Forms 用のフォームのデザイン

Forms 用のフォームデザインの作成プロセスは、他の種類のフォームデザインを作成する場合と同じです。ただし、Forms 用のフォームデザインを作成する場合は、同じフォームデザインを使用して PDF または HTML フォームをレンダリングできます。

Forms を使用して、インターネットやイントラネット上で PDF および HTML フォームをポストできます。Forms で HTML フォームをレンダリングすると、通常、フォームは Web ブラウザーで開かれます。Forms で PDF フォームをレンダリングすると、フォームは Acrobat または Adobe Reader で直接開かれます。どちらのアプリケーションで開かれるかは、ユーザーのコンピューターにインストールされている Acrobat や Adobe Reader の設定によって異なります。

Web 環境でフォームを配布する場合は、環境の制約事項を考慮する必要があります。例えば、Designer を使用してフォームデザインに割り当てることができる機能の中には、Web 環境でサポートされていないものがあったり、Web ブラウザーによっては同じオブジェクトでも異なって表示されたりすることがあります。

また、Web ブラウザーや HTML 技術で直接サポートされていないフォーム機能もあります。フォーム機能をすべて使用できるのは、Acrobat または Adobe Reader を使用して PDF フォームを開いたときだけです。

Web ブラウザー別のサポートされるプロパティについて詳しくは、『[Transformation Reference](#)』を参照してください。

Forms 用のフォームデザインを作成する際の考慮点

同じフォームデザインを使用して PDF フォームと HTML フォームをレンダリングする場合は、2 つのタイプの出力の間にいくつかの動作上の違いがあることを知っておくことが重要です。

上記のような動作上の違いが少ない単一のフォームデザインを作成するには、次のガイドラインに従います。

変換に関するリファレンスをよく読む PDF フォームは Acrobat または Adobe Reader で表示できるので、フォームデザインで定義するオブジェクトプロパティが完全にサポートされます。同じフォームデザインに基づく HTML フォームを配布する場合、一部のクライアントアプリケーション（例えば、Web ブラウザー）では、個々のオブジェクトプロパティは PDF フォームと同じレベルではサポートされません。特定のクライアントアプリケーションでのオブジェクトの動作を判断するには、変換に関するリファレンスが役立ちます。フォームデザインの作成時に、サポートされていないオブジェクトプロパティに依存せずにフォームを実装する方法を探して、クライアントアプリケーションの制約事項に対処するよう作業してください。580 ページの「[フォーム変換](#)」を参照してください。

フォームキャッシングを有効にする フォームのキャッシングを有効にすると、レンダリング時のフォームのパフォーマンスを向上できます。また、固定レイアウトのフォームをデザインし、そのフォームを HTML でレンダリングする場合には、フォームキャッシングを有効にする必要があります。581 ページの「[フォームキャッシング](#)」を参照してください。

PDF フォームと HTML フォームの両方に使用できるレイアウトを組み込む HTML フォームをレンダリングする場合、ページサイズ（PDF フォームのページ番号付けに必要）は無意味となります。編集可能なレイアウトを含むフォームは HTML ページでは無制限に長さを拡大できるので、マスターページにフッターを配置しないことが大切です。HTML コンテンツは、他のフォーム（PDF フォーム）ではページの境界となる地点を越えてフローするので、マスターページのコンテンツ領域の下にフッターがあると、HTML コンテンツの上にフッターが重なってしまいます。

フィールド、排他グループおよびサブフォームに一意の名前をつける HTML を出力する場合は、すべてのフィールド、排他グループおよびサブフォームの名前を一意にする必要があります。これにより、データの結合の問題を回避できます。

アクセシビリティを考慮する アクセシブルなフォームの作成に関するセクションを読み、ガイドラインに従ってフォームデザインにアクセシビリティを組み込みます。537 ページの「[アクセシブルなフォームについて](#)」を参照してください。

フォームデザインに存在するスクリプトをどこで実行するかを指定する デフォルトでは、スクリプトはクライアント上で実行されます。フォームデザインに組み込んだスクリプトをサーバーで実行する必要がある場合、またはクライアントとサーバーで実行する必要がある場合は、デフォルト設定を変更するか無効にする必要があります。576 ページの「[サーバー処理用のフォームを作成する際の考慮点](#)」を参照してください。

フォームをプレビューする Designer（PDF フォームの場合）または対象となるクライアントアプリケーション（HTML フォームの場合）を使用して定期的にフォームをプレビューし、デザインプロセスの初期の段階で問題のトラブルシューティングを行います。107 ページの「[PDF プレビュータブでフォームをプレビューし、テストするには](#)」を参照してください。

サンプルデータを使用してフォームデザインをテストする Forms がフォームをデータと結合する場合は、テストデータを使用してフォームデザインを十分にテストしてから、Forms に適用できる最終バージョンを作成します。108 ページの「[サンプルデータを使用してフォームをプレビューするには](#)」を参照してください。

Web ブラウザーの制約事項を考慮する Web ブラウザーによっては機能が制約される場合があります。どのブラウザにも共通する最低限の機能を想定し、それに従ってフォームをデザインすることをお勧めします。588 ページの「[Web ブラウザーの制約事項への対処](#)」を参照してください。

関連項目

- 589 ページの「[クライアントおよびサーバーサイドの処理](#)」
- 589 ページの「[HTML フォームのプレビュー](#)」
- 579 ページの「[データ送信の形式の指定](#)」
- 110 ページの「[データを使用してフォームデザインをテストする際の考慮点](#)」
- 580 ページの「[フォームデザインの保存：XDP 形式と PDF 形式](#)」
- 580 ページの「[フォームデザインのローカルネットワークへのコピー](#)」

Forms にフォームデザインを送信するためのその他の要件

Forms にフォームデザインを送信する前に、次のようないくつかの追加作業を完了する必要があります。

- カスタムアプリケーションの開発者は、アプリケーションの要件を定義する必要があります。フォームデザインのファイル形式（XDP または PDF）は、定義された要件に応じて異なります。
- 必要な変換がサポートされるように、Forms API で変換オプションを定義する必要があります。カスタムアプリケーションの開発者は、フォームデザイン作成者の入力に基づいてオプションを設定します。
- PDF フォームデザインで署名オブジェクトを使用する場合、カスタムアプリケーションの開発者は、電子署名をサポートするサードパーティー製のソリューションを組み込む必要があります。

関連項目

- 580 ページの「[フォームデザインの保存：XDP 形式と PDF 形式](#)」
- 580 ページの「[フォームデザインのローカルネットワークへのコピー](#)」

データ送信の形式の指定

フォーム作成時に、フォーム上のデータを送信する形式を指定できます。Designer では、次の 2 つの方法のいずれかでデータ送信形式を指定します。

- フォームにボタンオブジェクトを配置して、そのボタンオブジェクトを送信ボタンに指定し、データを送信する形式を選択します。
- フォームに HTTP 送信ボタンまたは電子メール送信ボタンを配置します。

ボタンオブジェクトをフォームデザインに追加した後、オブジェクトパレットの「送信」タブでデータ送信の形式を指定できます。HTTP 送信ボタンおよび電子メール送信ボタンは、特定の送信形式を使用するように事前に設定されています。データ送信形式について詳しくは、272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」を参照してください。

Designer は、次の 4 つのデータ送信形式をサポートしています。

- XML データパッケージ（XDP）：ファイルの添付をサポートする唯一の形式です。
- PDF

- XML データ (XML)
- URL エンコードデータ (HTTP Post)

URL エンコードデータ (HTTP Post) 形式は、HTML フォーム用の唯一のデータ送信形式です。

関連項目

395 ページの「[「送信」タブのボタンプロパティ](#)」

110 ページの「[データを使用してフォームデザインをテストする際の考慮点](#)」

581 ページの「[Forms でのパフォーマンスの最適化と向上](#)」

フォーム変換

Forms では、変換を使用してフォームを様々な形式でレンダリングします。変換とは、Acrobat、Adobe Reader、各種 Web ブラウザー、スクリーンリーダーなどのクライアントアプリケーションの機能に合わせてフォームをレンダリングすることです。

Forms では、CSS2 仕様に準拠するすべての HTML クライアントをサポートしています。CSS2 のサポートはブラウザによって大きく異なり、古いブラウザではサポートしていないので、一部のブラウザおよび汎用ユーザーエージェントでは固有の変換が必要です。

各種変換でサポートされているすべてのオブジェクトとプロパティの一覧については、『[Transformation Reference](#)』を参照してください。

注意：Netscape 4.7.0 以降をサポートする HTML4 変換を選択した場合は、クライアント上で実行するようデザインされたすべての JavaScript が、自動的にクライアント上ではなくサーバー上で実行されます。

フォームデザインのローカルネットワークへのコピー

Forms にフォームデザインを提供するには、Forms が実行時にファイルを取得する場所への書き込みアクセス権が、ユーザーに必要となります。この場所については、カスタムアプリケーションの開発者に問い合わせてください。また、適切なアクセス権の設定については、ネットワーク管理者に依頼してください。

完成したフォームデザインは、カスタムアプリケーションの開発者がアクセスできるよう、ローカルファイルシステムに配置します。フォームデザインをサポートするために必要なその他のすべてのファイル（例えば、画像）を組み込む必要があります。

スタンドアロンバージョンの Designer を使用している場合は、フォームデザインを該当の場所に発行できます。アクセス権が設定された後で、Designer の発行コマンド（ファイル／リポジトリへ発行を選択）を使用します。38 ページの「[フォームの発行](#)」を参照してください。

関連項目

578 ページの「[Forms 用のフォームデザインを作成する際の考慮点](#)」

580 ページの「[フォームデザインの保存：XDP 形式と PDF 形式](#)」

フォームデザインの保存：XDP 形式と PDF 形式

Forms は、次のどちらの形式のフォームデザインでも受け付けます。

- XDP
- PDF

XDP は、Designer で作成されるファイル形式です。この形式を選択すると、Forms が実行時にフォームをレンダリングするために必要となるすべての関連情報（フォームデザイン、すべてのフォームデータ、注釈、アクセシビリティタグなど）を送信することができます。フォームでサーバーサイドの処理を開始する場合は、この形式を選択する必要があります。

フォームが常に Acrobat または Adobe Reader で開かれる場合は、PDF 形式でフォームを保存します。

フォームに署名フィールドが含まれている場合、または実行時にユーザーがデータを PDF フォームで直接保存すると考えられる場合は、PDF を選択します。レンダリングされたフォームのレイアウトが固定で、フォームが頻繁に要求されることが予想される場合は、フォームデザインを PDF で Forms に提供すると、実行時のパフォーマンスが向上します。

以下の状況では PDF を選択しないでください。

- フォームによってサーバーサイドの処理が開始される場合
- HTML フォームまたは柔軟なレイアウトを持つフォームをレンダリングするために Forms を使用する場合

関連項目

578 ページの「[Forms 用のフォームデザインを作成する際の考慮点](#)」

580 ページの「[フォームデザインのローカルネットワークへのコピー](#)」

Forms でのパフォーマンスの最適化と向上

Designer では、Forms を使用する場合のフォームのパフォーマンスを様々な方法によって最適化および向上させることができます。これにより、フォームのレンダリング時間が短縮されたり、クライアントでのフォームのレンダリングによりサーバーへの負荷が軽減されたり、フォームへの既知のデータの自動埋め込みによりフォーム入力者への負担が軽減されたりして、時間の節約が図れます。

フォームキャッシング

フォームキャッシングは、フォームのレンダリングのパフォーマンスを向上させるために効果的な方法です。フォームをキャッシュすると、そのデータが、事前に生成されているプレゼンテーション内に結合されます。Forms を使用すると、フォームをキャッシュしてレンダリングパフォーマンスを向上できます。

データ量に応じてレイアウトが調整されるフォームは、常にキャッシュできます。レイアウトが固定されているフォームもキャッシュできますが、次の制限があります。

- 固定レイアウトのフォームにフローティングフィールドがある場合、「フォームをレンダリングしてサーバーにキャッシュする」オプションを選択すると、フィールド内のデータは出力 PDF にレンダリングされません。フローティングフィールドのデータをレンダリングするには、必ずこのオプションの選択を解除してください。
- Acrobat または Adobe Reader 6.0.2 を使用して入力できるフォームの場合、キャッシュが有効なのは固定レイアウトのフォームのみです。編集可能なレイアウトのフォームのキャッシングは、Acrobat および Adobe Reader 7.0.5 以降でのみサポートされています。
- フォームレイアウトに対するサーバーサイドのスクリプティングはすべて無視されます。例えば、塗りつぶしの色、フォントの色、境界線の幅、境界線の色などに対するスクリプトは使用できません。
- ページコンテンツ、フィールド数、フィールドの位置、または外観を変化させるサーバーサイドのスクリプティングは無視されます。
- PDF 変換または PDFForm 変換を使用する場合、クライアントサイドのスクリプティングによってフォームのレイアウトを変更することはできません。しかし、HTML 変換を使用する場合は、フォームのキャッシングが有効になっている

ときでも、クライアントサイドのスクリプティングによってクライアントサイドのフォームの外観を変更することは可能です。

- フォームのレンダリングパフォーマンスをさらに向上させるために、使用権限はキャッシングの前に適用されます。
- キャッシングが機能するには、個々のフォームをすべて一意に識別する必要があります。既存のフォームをベースとして新しいフォームを作成する場合は、オペレーティングシステムのコピーコマンドでフォームをコピーしないでください。このような場合、一意に識別されるキャッシング可能なフォームを新しく作成するには、Designer のファイル/名前を付けて保存コマンドを使用する必要があります。
- 既存のフォームを Designer で開き、変更を保存すると、キャッシュは自動的に更新されます。

固定レイアウトのフォームを Forms でキャッシュするには、作成する個々のフォームについて、Designer でフォームのキャッシングオプションを選択する必要があります。

固定レイアウトのフォームに対してフォームキャッシングを指定するには

- 1 ファイル/フォームのプロパティを選択します。
- 2 「デフォルト」タブをクリックして、「フォームをレンダリングしてサーバーにキャッシュする」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

関連項目

581 ページの「[フォームキャッシング](#)」

110 ページの「[データを使用してフォームデザインをテストする際の考慮点](#)」

580 ページの「[フォーム変換](#)」

576 ページの「[サーバー処理用のフォームを作成する際の考慮点](#)」

編集可能なレイアウトを含むフォームデザインのクライアント上でのレンダリング

フォーム入力者が Acrobat 7.0.5 以降または Adobe Reader 7.0.5 以降を使用している場合、サーバーではなくクライアントでフォームをレンダリングすることを選択できます。

編集可能なレイアウトを含むインタラクティブフォームまたは非インタラクティブフォームを、クライアント側の Acrobat または Adobe Reader でレンダリングすると、サーバーでレンダリングするよりもパフォーマンスが向上します。これは、サーバーではなく、Acrobat または Adobe Reader クライアントアプリケーションでレンダリング操作を実行するためです。編集可能なレイアウトを持ちデータの結合が行われるフォームも、クライアント上でレンダリングできます。

さらに、クライアント側のレンダリングでは、PDF コンテンツの配布が最適化され、Forms のネットワーク負荷の処理能力も向上します。

クライアントでフォームをレンダリングするには、クライアントでフォームをレンダリングし、シェル PDF を生成するように Forms を設定する必要があります。

シェル PDF ファイルは、XDP ファイルを（データストリームの一部として）Acrobat または Adobe Reader クライアントに配布できるコンテナです。シェル PDF ファイルは、ダイナミックにレンダリングされた PDF を表示し、XDP で必要とする埋め込みフォントを含むことができる「殻」の役割を持ちます。シェル PDF ファイルにより、Acrobat および Adobe Reader は、クライアント上で XDP を開いて PDF をレンダリングできます。

関連項目

228 ページの「[編集可能なレイアウトが含まれるフォームの使用](#)」

フォームフィールドへのデータの自動埋め込み

Forms を使用すると、すべてのタイプのフォームにデータを自動的に埋め込むことができます。データベース、別のフォーム、別のアプリケーションなど、様々なソースからデータを埋め込むことができます。

フォームの自動埋め込みには、いくつかの利点があります。

- ユーザーがフォーム内にカスタムデータを表示できる
- ユーザーがフォームに入力する作業を削減できる
- データを配置する場所を制御できるため、データの整合性を維持できる

クライアント上ではなくサーバー上でフォームをレンダリングするときにデータを自動的に埋め込むほうが、より速く安全にフォームの自動埋め込みを実行できます。

データ結合用に XML データソースを検証する

フォームにデータを自動的に埋め込む際には、データ構造がフォームデザインの構造に適合すること、またはフォームデザインがデータ構造に適合することが重要です。

つまり、データを自動的に埋め込むすべてのフォームフィールドについて、データソース内に XML 要素が存在する必要があります。フォームの構造とデータソースの構造に何らかの相違があると、正しく出力されない可能性があります。XML 要素の名前とフォームフィールドの名前が一致する必要があり、フォームフィールドに対応しない XML 要素は無視されます。

次の 2 つのタイプのデータソースから、Designer フォームの自動埋め込みを行うことができます。

- XML であり XML フォームアーキテクチャ構文に準拠する、XDP データソース
- フォームフィールドの名前と一致する名前 / 値のペアを持つ、任意の XML データソース

フォームの自動埋め込みには、XML データソースが使用されます。ただし、レイアウトがフレキシブルなフォームの自動埋め込みに使用される XML データソースには、フォーム内で繰り返されるサブフォームの自動埋め込みに使用される、繰り返し XML 要素が含まれています。

関連項目

497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」

110 ページの「[データを使用してフォームデザインをテストする際の考慮点](#)」

228 ページの「[編集可能なレイアウトが含まれるフォームの使用](#)」

213 ページの「[サブフォームの使用](#)」

HTML フォームの作成

Forms では、PDF フォームおよびガイドだけでなく、データ取得用のインタラクティブ HTML フォームもレンダリングできます。HTML フォームを配布するには、フォームデザインを XDP ファイルとして保存し、XDP ファイルおよび画像などのその他のすべてのサポートファイルを Forms にデプロイする必要があります。

HTML フォームは Web ブラウザーなどのクライアントアプリケーションで表示されるので、クライアントアプリケーション環境の制約事項に左右されます。署名フィールドを除くすべての種類のオブジェクトを、HTML フォームに含めることができます。ただし、クライアントアプリケーションの制約事項によっては、すべてのオブジェクトプロパティがサポートされているとは限りません。

各種変換でサポートされているすべてのオブジェクトとプロパティの一覧については、『[Transformation Reference](#)』を参照してください。

注意：HTML 出力のフォームデザインを作成している場合は、すべてのフィールド、排他グループ、サブフォームの名前が一意であることを確認する必要があります。

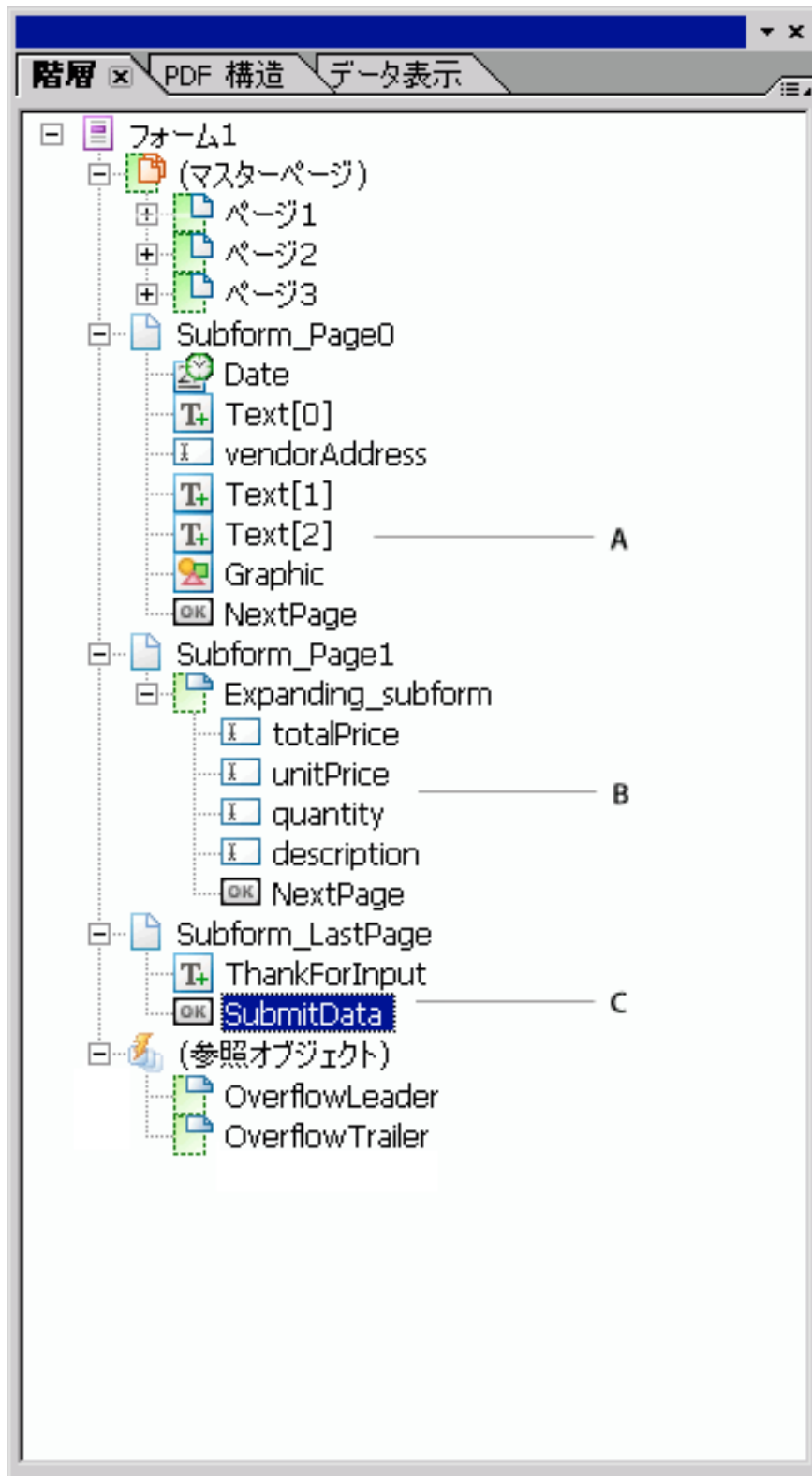
サブフォームを使用した HTML ページの作成

フォームデザインに拡大可能なサブフォームが含まれている場合、実行時に作成されるフォームに何ページレンダリングされるかを正確に知ることは困難です。ページサイズ設定は PDF フォームのページ番号付けに使用されますが、HTML フォームのレンダリング時は HTML ページの長さが任意となるので無視されます。

複数ページの HTML フォームのコンセプトを実現するには、ページレベルのサブフォームを 1 つずつ、フォームデザインに組み込みます。サブフォームは、フォームにレンダリングするページごとに 1 つ必要です。フロー要素を含むフォームの場合は、1 つのページレベルサブフォームの内部に、コンテンツをフローするサブフォームを 1 つずつネストする必要があります。その後でフォームをレンダリングすれば、同じページレベルのサブフォームに入っているすべてのコンテンツが同じ HTML ページに表示されます。

注意：複数ページの HTML フォームのコンセプトを実現するには、ユーザーがページからページに移動できるよう、それぞれのページレベルサブフォームにボタンを組み込む必要があります。フォーム開発者は、ユーザーがボタンのいずれかをクリックするたびに処理を行うスクリプトを作成する必要があります。

例として、次の図に示すフォームデザインを考えてみましょう。このフォームデザインには、Subform_Page0、Subform_Page1 および Subform_LastPage の 3 つのページレベルサブフォームが含まれています。Forms がこのフォームデザインに基づいて HTML フォームをレンダリングする場合には、それぞれのページレベルのサブフォームから自動的に HTML ページが 1 つずつ作成されます。



A. Subform_Page0 はコンテンツの位置を固定します。マスターページ Page 1 のレイアウトを使用して、フォームの最初のページにいったんオブジェクトを表示するよう設定されています。B. Subform_Page1 には、コンテンツをフローするサブフォームが入っています。Expanding_subform は、結合されたデータに合わせてオブジェクトのレンダリングを必要な回数だけ繰り返すことができます。Subform_Page1 のコンテンツは、マスターページ

Page2_etc のレイアウトを使用してページに表示することができます。C. Subform_LastPage はコンテンツの位置を固定します。マスターページ Page3 のレイアウトを使用して、最後にレンダリングされたページにオブジェクトを表示するよう設定されています。

Forms が実行時に HTML フォームをレンダリングすると、最初のページレベルサブフォームが最初のページに表示されます。このサンプルの目的上、最初のページは下に示すページと同じような外観となります。ユーザーがフォームの次のページに進めるよう、「次のページ」ボタンを組み込む必要があります。

ファイナンス株式会社



Finance
ファイナンス株式会社

発注書

ベンダ _____日付 _____

実行時に Expanding_subform との結合で利用できるレコードが最低 1 つあると仮定すると、2 番目のページは次に示すサンプルページのようになります。ここでも、ユーザーがフォームの次のページに進めるよう、「次のページ」ボタンが必要です。また、フォームに「前のページ」ボタンを組み込むように選択することもできます。

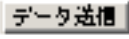
ファイナンス株式会社

内容	数量	単価	合計
			¥0

総合計

ファイナンス株式会社 ××県××市××町××丁目 #123-1#
電話番号:111.222.3333 Fax 番号:111.222.4444 * www.financeCorporation.com
例として使用されている会社名およびロゴは、実在の会社、組織を示すものではありません。

3 番目のページレベルサブフォーム Subform_LastPage は、レンダリングされたフォームの最後のページに表示されます。この例では、最後のページにはフォームの入力に対するユーザーへの謝意のメッセージと、ユーザーが入力したデータを Forms に送信するための「送信」ボタンが入っています。

入力ありがとうございます。
データベースを更新するには「データ送信」をクリックしてください。 

ユーザーが HTML ページ間を移動できるようにするスクリプトの作成方法については、「596 ページの「[HTML ページを処理するスクリプトの作成方法](#)」を参照してください。

関連項目

587 ページの「[HTML フォームのレイアウトの考慮点](#)」

587 ページの「[HTML フォーム作成のための画像のガイドライン](#)」

588 ページの「[Web ブラウザーの制約事項への対処](#)」

HTML フォームのレイアウトの考慮点

以下の情報は、見栄えが良く読みやすい HTML フォームのデザインに役立ちます。

- ・ フォームに線、ボックス、グリッドを描画するときに、オブジェクトの境界線プロパティを使用しないでください。ブラウザーによっては、Designer のプレビューで表示されるとおりに境界線が表示されないことがあります。また、オブジェクトが重なって表示されたり、他のオブジェクトを本来の位置から押しのけたりする場合があります。
- ・ Microsoft Internet Explorer を使用する場合は、背景を定義するときに、線、長方形および円を使用してフォームをデザインできます。その他のブラウザーでは、垂直および水平の線のみを使用できます。フォームデザインで長方形や円を実行時に表示することはできません。
- ・ Opera ブラウザーを使用している場合は、フィールドを意図するよりも少し大きめにデザインします。Opera では、常にフィールドの境界線の内側がくぼんでいます。適用した境界線スタイルはすべて、この境界線の外周りに配置します。その理由は、くぼみのある境界線でフィールドのスペースが使用され、入力可能領域が小さくなるからです。
- ・ スタティックテキストは、テキストを収容するのに必要と思われる大きさよりも少し大きめに作成します。Designer と Acrobat のカーニング方法は、特定の Web ブラウザーのカーニング方法とは異なる場合があります、テキストによっては正しく表示されないことがあります。

関連項目

587 ページの「[HTML フォーム作成のための画像のガイドライン](#)」

588 ページの「[Web ブラウザーの制約事項への対処](#)」

HTML フォーム作成のための画像のガイドライン

HTML としてレンダリングされるフォームデザインに画像を追加するときは、次のガイドラインを考慮してください。

サポートされる画像ファイル ユーザーが HTML フォームの表示に使用する Web ブラウザーの制約事項に従うことを前提として、任意の画像ファイル（GIF アニメーションファイルは除く）を組み込むことができます。

注意：Internet Explorer では、ボタンと画像オブジェクトの組み合わせを他の Web ブラウザーとは異なる方法で処理することに注意してください。例えば、カスタムの透明な外観を持つボタンオブジェクトを作成して画像オブジェクトの上に配置すると、Internet Explorer ではその HTML が正しくレンダリングされず、マウスを使用してボタンをクリックできない場合があります。588 ページの「[Web ブラウザーの制約事項への対処](#)」を参照してください。

画像をフォームに埋め込まない Forms では埋め込み画像をサポートしていません。その代わりに、画像ファイルの挿入には相対パス名を使用します。例えば、デフォルトでフォームリポジトリとして指定されるフォルダーである、Forms フォームルートディレクトリの相対パスを使用できます。次のパスにある **images** フォルダーは、**form** フォルダーと同じレベルとなります。

```
../images/graphic.jpg
```

関連項目

587 ページの「[HTML フォームのレイアウトの考慮点](#)」

588 ページの「[Web ブラウザーの制約事項への対処](#)」

Web ブラウザーの制約事項への対処

機能が制約されたブラウザーを使用しているユーザーがいることが予想される場合は、どのブラウザーにも共通する最低限の機能を想定し、それに従ってフォームをデザインします。または、会社で使用しているブラウザーが XHTML をサポートしている場合は、フォームデザインのレイアウトに関する選択肢が多くなります。

様々なブラウザーで表示されることが予想されるフォームをデザインする場合は、次の点に注意してください。

- HTML4 変換 (Netscape Navigator 4.7.0 以降に対応) ですべてのスタティックオブジェクトが正しく表示されることが確実なページサイズを指定します。そうしないと、フォームのレンダリング時にフィールドに必要なスペースだけしか確保されません。
- フォームの上端および左端に少なくとも 0.635 ミリの余白を組み込みます。この余白のさらに上および左にあるものは一切表示されません。
- 負のグリッド座標に描画されたオブジェクトまたはオブジェクトの一部は表示されません。例えば、縦のグリッド座標 - 127 から始まるオブジェクトを描画する場合、オブジェクトの - 127 から 0.635 センチの余白の内側の端までの部分は表示されません。
- ローエンドブラウザーで発生する可能性のある表示の劣化を補正するために、フィールドの周囲に十分なスペースを空けておきます。例えば、ブラウザーによっては、チェックボックスおよびラジオボタンがデザインされているよりも大きく表示されることがあります。
- フォームの表示にローエンドブラウザーを使用している場合、特にユーザーがブラウザーのデフォルトフォントを変更すると、データの左揃えが維持されません。
- Internet Explorer では、ボタンと画像オブジェクトの組み合わせを他の Web ブラウザーとは異なる方法で処理することに注意してください。例えば、カスタムの透明な外観を持つボタンオブジェクトを作成して画像オブジェクトの上に配置すると、Internet Explorer ではその HTML が正しくレンダリングされず、マウスを使用してボタンをクリックできない場合があります。ただし、タブを使用してボタンに移動し、Enter キーまたはスペースバーを使用してボタンを押すことはできます。この処理エラーが発生するのは、ボタンオブジェクトのサイズがキャプションの長さによって決まるためです。キャプション領域の空白スペースのサイズは、ボタンのサイズが画像のサイズより大きくなるように十分な大きさにする必要があります。この問題を解決するには、キャプションテキストを十分な空白スペースに置換して、マウスを使用してボタンをクリックできるようにします。

関連項目

587 ページの「[HTML フォームのレイアウトの考慮点](#)」

587 ページの「[HTML フォーム作成のための画像のガイドライン](#)」

581 ページの「[フォームキャッシング](#)」

HTML フォームのプレビュー

Forms を使用してフォームデザインの動作をテストし、フォームデザインのコマンドボタンを正確に設定するには、Forms への要求に関連付けられる URL を把握しておく必要があります。この URL を知っているのはカスタムアプリケーションの開発者です。

HTML フォームをプレビューするには、フォームデザインを Forms で使用可能な状態にして、フォームデザインを保存できるようにする必要があります。その後で、Forms に関連付けられた URL を介してフォームを要求することができます。フォームを開くには、Web ブラウザーまたは対象のクライアントアプリケーション（スクリーンリーダーなど）のいずれかを使用します。

関連項目

576 ページの「サーバー処理用のフォームを作成する際の考慮点」

580 ページの「フォームデザインのローカルネットワークへのコピー」

演算とスクリプトの実行場所

演算とスクリプトをフォームデザインに埋め込んで、実行時にオブジェクトのイベントのどれかが発生した場合に演算、メソッド、または操作を実行することができます。例えば、イベントで指定されたアクションをユーザーが実行すると、実行時にイベントが発生します。スクリプトを定義することで、オブジェクトでサポートされているメソッドのいずれかを呼び出し、プロパティを調査したり、設定したりできます。

Designer では、スクリプトおよび演算はデフォルトでクライアントデバイスで実行するよう指定されています。デフォルトの実行場所は、フォームのプロパティダイアログボックスの「プレビュー」タブで定義されます（ファイル/フォームのプロパティを選択します）。デフォルトの実行場所を無効にするには、スクリプトまたは演算をオブジェクトに接続する際に、スクリプトエディターの「実行場所」オプションを使用して別の実行場所を明確に指定します。

Forms を使用している場合、処理はクライアント、サーバーまたはその両方で実行することができます。スクリプトや演算をクライアントとサーバーで実行するよう指定した場合、クライアントとサーバーの両方がそのスクリプトや演算を実行しようとする可能性があります。Forms は、クライアントがスクリプトや演算を処理できない場合は、常にその処理を実行しようとします。スクリプトや演算をサーバーで実行するよう指定した場合、Forms はスクリプトや演算を実行し、実行結果をフォームに再度結合して、実行結果とフォームの両方をクライアントに返します。

クライアントサイドのスクリプトおよび演算は、クライアントデバイスで実行されます。Acrobat または Adobe Reader 用の PDF フォームを作成する場合は、すべての処理をクライアントで実行する必要があります。ただし、クライアントがスクリプトまたは演算を実行できない場合は、Forms がスクリプトまたは演算を処理しようとします。

クライアントサイドのスクリプトを HTML フォームで正常に実行するには、次に示す特定の条件を満たす必要があります。

- クライアントアプリケーションが Microsoft Explorer 5.0 以降、Netscape Navigator 6.0 以降、Opera 5 以降のいずれかであること。
- JavaScript だけでスクリプトを作成すること（フォームデザインに FormCalc 演算を組み込むことはできません）。
- JavaScript がクライアントアプリケーションで有効であること。

クライアントおよびサーバーサイドの処理

処理は、クライアント、サーバー、またはその両方で実行することができます。スクリプトおよび演算は、クライアントで実行する場合とサーバーで実行する場合では動作が異なります。

クライアントサイドの処理

処理がクライアント上で実行されるよう設定されている場合、実行時にスクリプトや演算はすべてユーザーのコンピューター上でリアルタイムで実行されます。宣言されているコードおよび変数は、フォームを開くとほとんど同時に使用可能になります。次のうちのどれか 1 つの状態が発生するまで、この情報は使用可能なままとなり、データの状態も維持されます。

- 別のスクリプトが実行される。
- 別のスクリプトが、関連するオブジェクトを削除する。
- フォームが閉じられる。

サーバーサイドの処理

Forms は、クライアントアプリケーションが管理できないすべてのスクリプトや演算を管理できます。例えば、フォームを自動的に埋め込むために、スクリプトを使用して、クライアントでは使用できないデータベースまたは Web サービスに接続することが必要になる場合があります。Forms では、スクリプトまたは演算を実行するとき、フォームをレンダリングしながら実行します。コードまたは変数は、処理が完了した後は使用不可となります。つまり、スクリプトまたは演算に変数を追加する場合、変数が有効なのは処理の間だけです。

注意: Netscape 4.7 以降をサポートする HTML4 変換を選択した場合は、クライアントで実行するよう指定されたすべての JavaScript が自動的にクライアント上ではなくサーバー上で実行されます。

関連項目

FormCalc について

スクリプトまたは演算で参照可能なイベント

サーバーサイドのスクリプト

Acrobat および Adobe Reader では、Designer がサポートするすべてのイベントを認識します。クライアントアプリケーションは、サーバーサイドの処理を行うために Forms にユーザー開始イベントを送ります。ユーザー開始イベント以外のタイプのイベントは、サーバーサイドの処理をトリガーしません。Forms は、フォームをレンダリングしているか、クライアントから開始されたサーバーイベントを実行しているか、送信されたデータを処理しているときには、必ずサーバーサイドの処理を実行します。

スクリプトまたは演算をサーバーで実行するよう指定した場合、以下のユーザー開始イベントによって、Acrobat または Adobe Reader から処理のためのイベントが Forms に送られます。

- exit
- mouseEnter
- mouseExit
- change
- mouseUp
- mouseDown
- click

イベントの処理中に、Forms はサーバー上で実行するよう指定されたすべてのスクリプトや演算を実行し、実行結果をフォームに再度結合してからクライアントアプリケーションにフォームを返します。

次のイベントがサーバーサイドのスクリプトや演算で参照された場合、Acrobat または Adobe Reader はそのイベントを無視します。

- initialize

- calculate
- validate
- docReady
- docClose

次の表に、サーバーサイドのスクリプトや演算でだけ参照できるイベントを示します。これらのイベントはクライアントの HTML アプリケーションに認識されません。

イベント	詳細情報の場所
form:ready	form:ready イベント
layout:ready	layout:ready イベント

スクリプトをサーバー上で実行するよう指定している場合、HTML クライアントがサーバーサイドの処理を開始するのは、click イベント（標準ボタンの）が発生したときだけです。処理中に、Forms は実行結果を HTML フォームに再度結合し、そのフォームをクライアントアプリケーションに返します。click イベント以外のイベントはすべて HTML クライアントに無視され、実行されるのは Forms がサーバーサイドの処理を実行するときだけです。

クライアントサイドのスクリプト

クライアントサイドのスクリプトおよび演算の場合、Acrobat および Adobe Reader は Designer で定義できるイベント全体をサポートします。

ただし、これらのイベントのすべてが HTML クライアントに認識されるわけではありません。1 つのフォームデザインを使用して PDF フォームと HTML フォームの両方を作成する場合、クライアントサイドのスクリプトが、サポートされているイベントのサブセットのみを参照する必要があります。

クライアントサイドのスクリプトは、HTML クライアントが認識しないイベントを参照した場合、認識されていないイベントが参照された地点で実行を停止します。

HTML フォームからクライアントサイドのスクリプトを実行するのに使用できるイベントは、次の通りです。

イベント	詳細情報の場所
initialize	initialize イベント
enter	initialize イベント
exit	initialize イベント
calculate	calculate イベント 注意： HTML フォームでのみ、カーソルがフィールドの外に出ると calculate イベントでトリガーされるアクティビティが実行されます。ユーザーがフィールドの値を変更しても処理は開始されませんが、必要に応じて execCalculate() メソッドを使用し、ユーザーによる値の変更時に処理を明示的に起動することができます。
validate	validate イベント
change	change イベント 注意： PDF および HTML フォームでは、このイベントはコンボボックスおよびリストボックスに対してのみサポートされています。
mouseUp	mouseUp イベント

イベント	詳細情報の場所
mouseDown	mouseDown イベント
click	click イベント 注意： click イベントは、PDF または HTML フォームの「送信」ボタンには使用できません。代わりに preSubmit イベントを使用します。
preSubmit	preSubmit イベント 注意： PDF および HTML フォームでは、このイベントは「送信」ボタンに対してのみサポートされています。preSubmit イベントを使用してクライアントサイドのスクリプトを実行する場合、処理はデータが送信される前に行われます。このイベントによってスクリプトがサーバー上で実行される場合、処理はデータの送信中に行われます。

サポートされているプロパティ、メソッドおよびイベントのまとめ

注意：ガイドは推奨されていません。

いくつかのホストオブジェクトメソッドを除いて、Acrobat および Adobe Reader は、プロパティ、メソッドおよびイベントを完全にサポートしています。HTML クライアントが認識するプロパティ、メソッドおよびイベントは数が限られています。

1 つのフォームデザインを使用して PDF フォームと HTML フォームの両方を作成する場合、スクリプトはサポートされているプロパティ、メソッドおよびイベントのサブセットを参照できます。

下の表は、クライアントやサーバーサイドのスクリプトで参照できる各種のプロパティ、メソッド、イベントを、どのクライアントアプリケーションが認識するかをまとめたものです。

ホストオブジェクト - プロパティ	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
currentPage (読み取り専用)	○	○
numPages (読み取り専用)	○	○
name (読み取り専用)	○	○
validationsEnabled	○	○
calculationsEnabled	○	○

ホストオブジェクト - メソッド	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
pageUp	○	クライアント / サーバーのみ。
pageDown	○	クライアント / サーバーのみ。
exportData	○	×
importData	○	×
gotoURL	クライアントのみ。	クライアントのみ。
messageBox	クライアントのみ。	クライアントのみ。
resetData	○	○
setFocus	クライアントのみ。	クライアントのみ。

ホストオブジェクト - イベント	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
docReady	○	サーバーのみ。
docClose	○	サーバーのみ。
postPrint	○	×
postSave	○	×
prePrint	○	×
preSave	○	×

フォームオブジェクト - メソッド	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
resolveNodes	○	○
resolveNode	○	○
execCalculate	○	○
execValidate	○	○
execInitialize	○	○

サブフォームオブジェクト - プロパティ	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
name (読み取り専用)	○	○
index (読み取り専用)	○	○
x	○	○
y	○	○
w	○	○
h	○	○
validationMessage	○	○

サブフォームオブジェクト - メソッド	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
resolveNodes	○	○
resolveNode	○	○
execCalculate	○	○
execValidate	○	○
execInitialize	○	○

サブフォームオブジェクト - イベント	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
enter	○	○
exit	○	○

サブフォームオブジェクト - イベント	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
initialize	☐	☐
validate	☐	☐
calculate	☐	☐

フィールドオブジェクト - プロパティ	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
name (読み取り専用)	☐	☐
index (読み取り専用)	☐	☐
rawValue	☐	☐
formattedValue	注 1 を参照。	☐
x	☐	☐
y	☐	☐
w	☐	☐
h	☐	☐
presence	☐	☐
mandatory	☐	☐
fontColor	☐	☐
fillColor	☐	☐
borderColor	☐	☐
borderWidth	☐	☐
validationMessage	☐	☐

フィールドオブジェクト - メソッド	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
execCalculate	☐	☐
execInitialize	☐	☐
execValidate	☐	☐
addItem	参照可、コンボボックスおよびリストボックスのみ。	参照可、コンボボックスおよびリストボックスのみ。
clearItems	参照可、コンボボックスおよびリストボックスのみ。	参照可、コンボボックスおよびリストボックスのみ。
resolveNodes	☐	☐
resolveNode	☐	☐

フィールドオブジェクト - イベント	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
exit	☐	☐
enter	☐	☐
calculate	☐	☐

フィールドオブジェクト - イベント	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
validate	○	○
initialize	○	○
click	参照可。ただし、「送信」ボタンは除く。注 2 を参照。	参照可。ただし、「送信」ボタンは除く。注 2 を参照。
change	○	参照可、コンボボックスおよびリストボックスのみ。
mouseUp	○	○
mouseDown	○	○
preSubmit	○	認識可。ただし、「送信」ボタンのみ。

注 1: リストボックスの場合、formattedValue は表示テキストを返しません。

注 2: click イベントは、PDF または HTML フォームの「送信」ボタンに対してはサポートされていません。代わりに preSubmit イベントを使用します。

ScriptObject オブジェクト	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
注 3 を参照。	○	○

注 3: ScriptObject オブジェクトは、他の任意のスクリプトで作成したり使用したりできます「[スクリプトオブジェクトを作成するには](#)」を参照してください。

イベントオブジェクト - プロパティ	Acrobat / Adobe Reader	HTML またはガイドクライアント
prevText	○	×
prevContentType	○	×
newText	○	×
newContentType	○	×
fullText	○	×
commitKey	○	×
keyDown	○	×
modifier	○	×
name	○	×
selEnd	○	×
selStart	○	×
shift	○	×
target	○	×
change	○	×

注 1: リストボックスの場合、formattedValue は表示テキストを返しません。

注 2: click イベントは、PDF フォームの「送信」ボタンに対してはサポートされていません。代わりに preSubmit イベントを使用します。

注 3:ScriptObject オブジェクトは、他の任意のスクリプトで作成したり使用したりできます「[スクリプトオブジェクトを作成するには](#)」を参照してください。

HTML クライアントがサポートする式

参照構文式の簡素化されたサブセットは、HTML クライアントによってサポートされています。

- FormCalc による演算は HTML ブラウザーに認識されず、フォームが HTML でレンダリングされる前に削除されます。
- 省略記号 (...) 構文はサポートされていません。
- HTML フォームに対応したクライアントサイドのスクリプトを作成する場合は、JavaScript resolveNode 式を使用して階層内のノードを配置する必要があります。スクリプトは、オブジェクト表記を使用して階層を検索することはできません。例えば、次の式はサポートされていません。

```
xfa.form.subform1.TextEdit1
```

次の式はサポートされています。

```
xfa.form.resolveNode("subform1.TextEdit1")
```

制限のないフィールド参照を使用して、階層内の兄弟フィールドを検索することができます。

注意: Netscape 4.7 以降をサポートする HTML4 変換を選択した場合は、クライアントで実行するよう指定されたすべての JavaScript が自動的にクライアント上ではなくサーバー上で実行されます。

関連項目

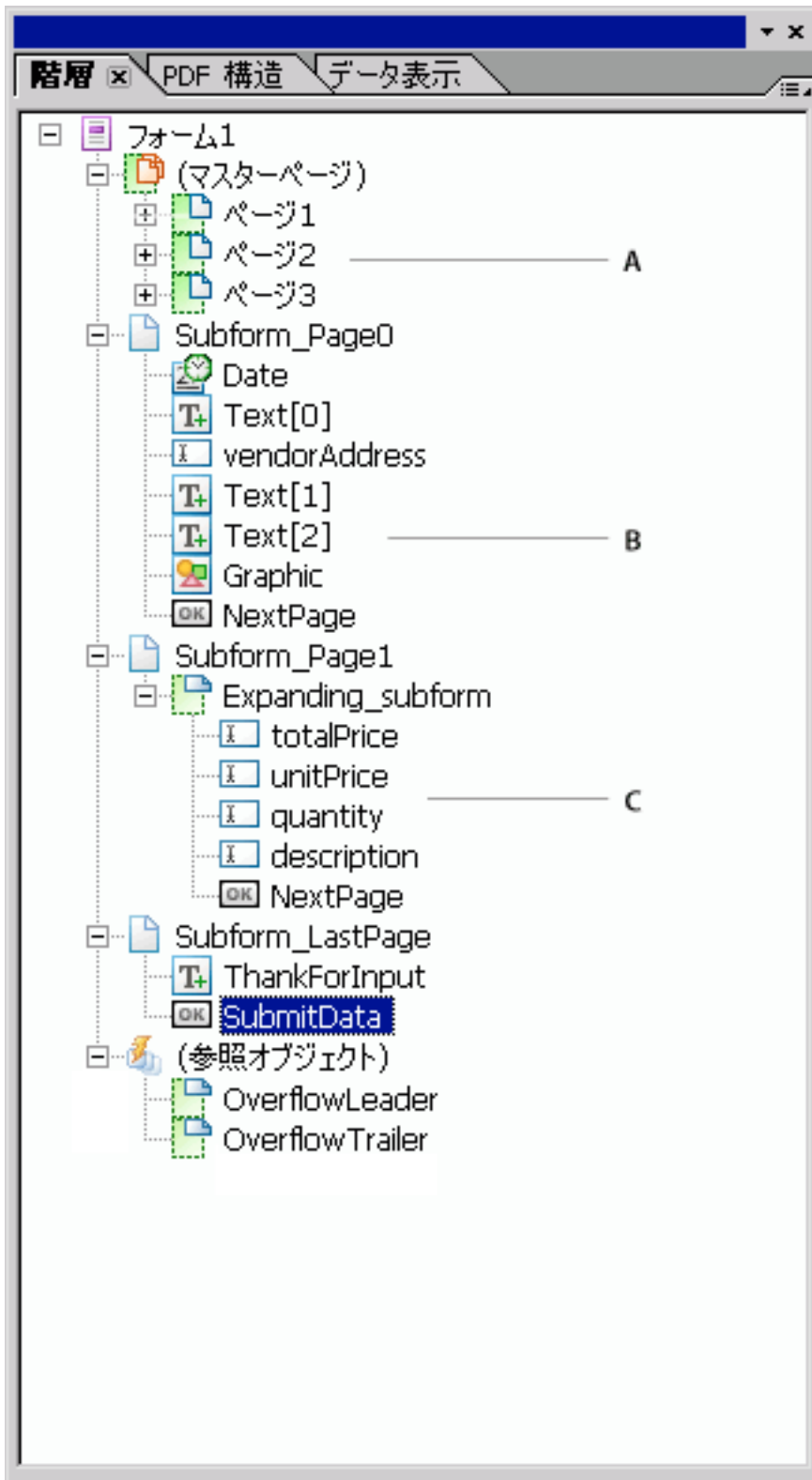
Designer を使用したスクリプティング

HTML ページを処理するスクリプトの作成方法

同じフォームデザインを使用して PDF フォームと HTML フォームの両方をレンダリングする場合、ページサイズ設定を使用して PDF フォームのページ番号を付けますが、HTML フォームのレンダリング時にはページサイズ設定は無視されます。PDF ページと HTML ページの違いに対処するために、フォーム作成者は必要に応じてページレベルサブフォームを使用し、工夫を凝らした HTML ページを設定することができます。この方法で HTML ページを設定する場合は、JavaScript を使用してユーザーが実行時に HTML ページ間を移動できるようにする必要があります。

pageUp() および pageDown() メソッドを使用すると、ユーザーは標準的なコマンドボタンを使用して HTML ページ間を移動することができます。このコマンドボタンは、ボタンの click イベントが発生したときに処理をトリガーします。PDF フォームの場合も HTML フォームの場合も、処理はクライアントおよびサーバーで実行する必要があります。

pageUp() および pageDown() メソッドは、ページレベルサブフォームで動作します。例えば、フォーム作成者がフォームデザインで次の構造を設定したとします。



A. このページレベルサブフォームは、1 ページ目に対応しています。B. このページレベルサブフォームは、2 ページ目に対応しています。C. このページレベルサブフォームは、3 ページ目に対応しています。

ユーザーが Subform_Page0 に対応する HTML ページを表示している場合、`xfa.host.pageDown()` を呼び出すと Subform_Page1 がブラウザに表示されます。同様に、Subform_Page1 の表示中に `xfa.host.pageUp()` を呼び出すと、Subform_Page0 がブラウザに表示されます。HTML ページを操作するために、次のプロパティにページ番号が割り当てられます。

```
xfa.host.currentPage = 0 //moves to the first page
xfa.host.currentPage = 1 //moves to the second page
xfa.host.currentPage = 2 //moves to the third page
xfa.host.currentPage = xfa.host.numPages -1 //moves to the last page
```

ユーザーが HTML ページ間を移動する際、データの状態は維持されますが、オブジェクトのプレゼンテーション状態（例えば、フィールドの背景色）はページが変わると変化します。ページ間のプレゼンテーション設定は、隠しフィールドを使用して維持できます。隠しフィールドには、各種の設定とユーザーがフォームのページを前に進めたり後に戻すためのコマンドボタンに対応した状態値が入っています。スクリプトは、隠しフィールドの値に基づいてフィールドのプレゼンテーション状態を更新します。ユーザーが前に進むか後ろに戻るのどちらかのコマンドボタンをクリックすると、ボタンに対応した `calculate` イベントが使用されてスクリプトが実行されます。

例えば、次の JavaScript は `hiddenField` という名前のフィールドの値に基づいて、フィールドの塗りつぶしの色を維持します。このスクリプトは、`calculate` イベントの発生時にトリガーされます。

```
If (hiddenField.rawValue == 1)
this.fillColor = "255,0,0"
else
this.fillColor = "0,255,0"
```

注意：クライアントデバイスで HTML フォームのスクリプトを実行する場合、スクリプトを実行できるのは現在のサブフォーム / HTML ページに対してだけです。

第 16 章：Process Management 用のフォームの作成

Designer では、LiveCycle アプリケーションで使用するフォームデザインを作成できます。LiveCycle アプリケーションは、プロセスとその関連アセット（フォームデザイン、画像、フラグメント）から構成されるソリューションです。これは、自動化されたプロセスとなります。通常、LiveCycle アプリケーションは Workbench で開発されます。LiveCycle アプリケーションの作成について詳しくは、『[Creating Your First LiveCycle Application](#)』を参照してください。

Adobe® LiveCycle® Workspace 11 は、Adobe® LiveCycle® Process Management 11 のブラウザーベースのコンポーネントです。これを使用すると、エンドユーザーは自動化されたフォームベースのビジネスプロセスに参加できます。

Workspace を使用して、ユーザーは次のタスクを実行できます。

- ビジネスプロセスを開始するフォームに入力する。
- レビュー、承認、または詳細情報入力のためユーザーまたはグループキューに転送されたフォームを開く。
- ユーザーが開始または参加した、完全なビジネスプロセスまたはアクティブプロセスの一部になっているフォームを検索する。

例えば、ビジネスプロセスに住宅ローン申込書の処理が含まれているとします。フォーム作成者は、Workbench で作成されるプロセスで使用するフォームデザインを作成します。これにより、ローンの申込人は Workspace を使用することで、コンピューターを利用した申込フォームへの入力ができるようになります。融資担当者または銀行の担当者は、Workspace を使用して申込の承認を行います。

Process Management を使用すると、フォームデザインを次の出力タイプでクライアントにレンダリングできます。

- HTML
- PDF

注意： Acrobat で作成されたフォームを Workspace で使用するには、Acrobat でフォームデザインを準備する必要があります。手順については、『[Application Development Using Workbench](#)』の「[Leveraging Acrobat forms in Workspace](#)」を参照してください。

Workspace で使用するフォームの準備

Workspace で使用するフォームデザインは、Workspace で適切に表示されるように設定する必要があります。アプリケーションや出力形式に応じて、次の中から必要なオブジェクトをフォームデザインに含めます。

- 送信ボタン（オブジェクトパレット）。クライアントで Adobe Reader 9.1 以上を使用している場合は、フォームデザインに送信ボタンを追加する必要はありません。
- フィールドの処理オブジェクト（オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリ）。
- Form Bridge オブジェクト（オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリ）。Form Bridge オブジェクトを使用すると、Acrobat の外部で PDF フォームと通信できます。

新規フォームウィザードでは、このウィザードでの選択内容に応じて、送信ボタン、フィールドの処理オブジェクト、Form Bridge オブジェクトが自動的に追加されます。また、このウィザードでの設定内容に応じて、送信ボタンの適切な送信形式も設定されます。

デフォルトでは、Workspace には PDF フォームおよびガイド用の完了ボタンが含まれます。通常、送信ボタンと完了ボタンは単一のフォームに混在しないようにします。Workspace による PDF フォームでの送信ボタンと完了ボタンの処理方法について詳しくは、601 ページの「[Workspace で PDF フォームのボタンを処理する方法](#)」を参照してください。

フィールドの処理オブジェクトには、ボタンオブジェクト、コンボボックス、その他多数の非表示オブジェクトが含まれています。フィールドの処理オブジェクトについて詳しくは、601 ページの「[フィールドの処理オブジェクトのフィールド](#)」を参照してください。

Workspace でのフォームのレンダリングに関する一般的なシナリオとフォームデザインで必要となるオブジェクトを次の表に示します。

注意：クライアントで Adobe Reader 9.1 以上を使用している場合は、フォームデザインに送信ボタンは不要です。

注意：ガイドは推奨されていません。

タスク	フォームデザインで使用するオブジェクト
オンラインの PDF 出力用の XDP フォームデザインを Workspace でレンダリングする場合。	送信ボタン
オンラインの PDF 出力用の PDF フォームデザインを Workspace でレンダリングする場合。	送信ボタン
ガイドを Workspace でレンダリングする場合。フォームデザインは PDF または XDP のいずれかです。	送信ボタン 注意： これは Designer 8.x で作成されたガイドに適用されます。 Designer 9.x 以降でガイドを作成するには、 Workbench で使用できる Guide Builder を使用します。
ユーザーが電子メールでフォームを送信できるようにする場合。	フィールドの処理オブジェクト
オンライン対応の PDF 形式で XDP フォームデザインをレンダリングする場合。Workspace ユーザーは、この形式の PDF フォームをオフラインで参照できます。	フィールドの処理オブジェクト 注意： オフライン対応の PDF 形式ではガイドをレンダリングできません。
HTML 形式の XDP フォームデザインを Workspace でレンダリングする場合。	フィールドの処理オブジェクト 注意： HTML フォームでは、 Workspace に完了ボタンは表示されません。フィールドの処理オブジェクトがフォームデザインに表示される位置は、 HTML フォームでボタンが表示される位置です。
Forms または LiveCycle Workspace によって PDF フォームデザインや XDP フォームデザインをユーザーに初めて配布する前に、その使用権限を承認、暗号化、適用する場合。	送信ボタンと Form Bridge オブジェクト
リポトリにフォームを保存する前に、Designer でフォームを PDF フォームとして保存し、フォームの使用権限を承認、暗号化、適用する場合。	送信ボタンと Form Bridge オブジェクト
Workspace で PDF フォームの署名を有効にする場合。	送信ボタン

アートワークを含むフォームデザインでの Form Bridge オブジェクトの使用

アートワークが含まれるフォームデザインに Form Bridge オブジェクトを追加すると、オブジェクトはデザインビューに表示されません。

アートワークを含むフォームデザインを Workspace に送信するには

- 1 アートワークが含まれる PDF フォームを開きます。

- 2 ルートノードを選択します。
- 3 このノードにスクリプトオブジェクトを追加し、オブジェクトの名前を ContainerFoundation_JS と指定します。
- 4 空白のフォームを開き、このフォームに Form Bridge オブジェクトを追加します。
- 5 ContainerFoundation_JS オブジェクトを選択します。
- 6 スクリプトエディターで、form ready イベントと JavaScript 言語を選択します。
- 7 手順 1 で開いた PDF フォームの ContainerFoundation_JS オブジェクトにスクリプトをコピーします。
- 8 空白のフォームでルートノードを選択します。
- 9 スクリプトエディターで、form ready イベントと JavaScript 言語を選択します。
- 10 手順 1 で開いた PDF フォームのルートノードにスクリプトをコピーします。

Workspace で PDF フォームのボタンを処理する方法

Workspace の完了ボタンを使用すると、PDF フォームを送信できます。

注意：ユーザー送信データに XDP データだけでなく PDF を含める場合は、Reader Extensions を使用してフォームに適切な権限を与える必要があります。

Workspace で PDF フォームのボタンがどのように処理されるかをまとめます。

- フォームデザインに送信ボタンが含まれていない場合は、Workspace の「完了」ボタンが無効になり、ユーザーはフォームを送信できなくなります。
- フォームデザインに送信ボタンが 1 つ含まれている場合は、Workspace では送信ボタンが非表示になり、Workspace の完了ボタンが有効になります。
- 間接送信ボタン（スクリプトを使用して送信ボタンを参照する標準ボタン）がフォームデザインに含まれている場合は、Workspace では間接送信ボタンが非表示になり、Workspace の完了ボタンが有効になります。ユーザーが完了ボタンをクリックすると、間接送信ボタンのスクリプトが実行され、それによりフォームデータの送信を行う送信ボタンが参照されます。これは、フォーム作成者がフォームデータの送信を行う送信ボタンが非表示になるように設定していることを前提としています。
- フォームデザインに 1 つ以上の送信ボタンを参照する複数の間接送信ボタンが含まれている場合は、Workspace の完了ボタンが無効になります。ユーザーはフォーム上の適切なボタンをクリックしてフォームを送信する必要があります。この場合も、ユーザーはフォームの下書きを保存したり、フォームをオフラインで使用したりできます。

注意：クライアントで Adobe Reader 9.1 以上を使用している場合、送信ボタンは不要です。

関連項目

272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」

フィールドの処理オブジェクトのフィールド

フィールドの処理オブジェクトのフィールドおよび各フィールドの正常な動作に必要な設定を次の表に示します。

注意：フィールドの処理はグループ化しないでください。このフィールドをグループ化すると、フォームが Process Management で動作しません。

フィールド名	オブジェクト	説明
AWS_SUBMIT	ボタン	フォームを Process Management に送信するための要求を開始します。 送信が既に行われたかどうかを検証し、ホスト環境（電子メールまたは Web）を判定してから、送信の要求を開始します。 フォームおよびフォームデータを PDF 文書に変換し、参照を文書変数に保存する場合は、FSSUBMIT_ ボタンオブジェクトで PDF の送信形式を使用するように設定する必要があります。
AWS_ACTION	コンボボックス	作業アイテムの入力に使用できる選択肢を一覧表示します。このフィールドには、AWS_CHOICE フィールドの値が埋め込まれます。選択肢を提供しない場合、AWS_CHOICE フィールドは空にしておきます。
AWS_ASSIGNED_ID	テキストフィールド（非表示）	フォームを送信する参加者の名前を格納する、非表示のテキストフィールドです。
AWS_STATUS	テキストフィールド（非表示）	ステータス情報が自動的に埋め込まれる、非表示のテキストフィールドです。
AWS_TASKID	テキストフィールド（非表示）	作業の識別情報が自動的に埋め込まれる、非表示のテキストフィールドです。 このフィールドには、フォームに関連付けられた作業の識別情報が格納されます。
AWS_MAILTO	テキストフィールド（非表示）	Process Management が使用する電子メールアドレスが格納される、非表示のテキストフィールドです。
AWS_CHOICE	テキストフィールド（非表示）	データが自動的に埋め込まれる、非表示のテキストフィールドです。データはルート名のコンマ区切りリストです。
AWS_PROCESSTYPE	テキストフィールド（非表示）	フォームに関連付けられるプロセスタイプが格納される、非表示のテキストフィールドです。 AWS_TASKID フィールドが空の場合、Process Management は AWS_PROCESSTYPE フィールドで指定されているプロセスタイプを起動します。
AWS_SUBMIT_TYPE	テキストフィールド（非表示）	送信の種類を XDP または PDF として指定する非表示のテキストフィールドです。デフォルト値は XDP です。 新規フォームウィザードでは、このフィールドに正しい送信形式が設定されます。必要に応じて、このフィールドを手動で変更することができます。 AWS_SUBMIT_TYPE フィールドを PDF に設定すると、PDF_SUBMIT が呼び出されます。AWS_SUBMIT_TYPE フィールドを XDP に設定すると、FSSUBMIT_ が呼び出されます。
FSSUBMIT_	ボタン（非表示）	ユーザーが Workspace の完了ボタンをクリックしたときにトリガーされる非表示の送信ボタンです。「完了」ボタンをクリックすると、フォームが LiveCycle に送信されます。 AWS_SUBMIT_TYPE フィールドを XDP に設定すると、FSSUBMIT_ が自動的に呼び出されます。
PDF_SUBMIT	ボタン（非表示）	PDF として送信するように設定された非表示の送信ボタンです。 AWS_SUBMIT_TYPE フィールドを PDF に設定すると、PDF_SUBMIT が自動的に呼び出されます。

関連項目

599 ページの「[Workspace で使用するフォームの準備](#)」

第 17 章：ショートカットキーの操作

デフォルトのキーボードショートカット

一般的操作のためのキー

結果	操作
メニューバーモードを有効または無効にします。	Alt または F10
現在の作業を終了したり、開いたメニューやダイアログボックスを閉じたりします。	Esc
選択したアイテムのショートカットメニューを表示します。	Shift + F10
カーソルを現在の行にあるテキストの行頭に移動させます。	Home
カーソルを現在の行にあるテキストの行末に移動させます。	End
カーソルをテキストの行末に移動させます。	Ctrl + End
カーソルをテキストの先頭に移動させます。	Ctrl + Home
Designer のヘルプ画面を開きます。	F1
選択します（主マウスボタンのクリックと同じです）。	スペースバー
デフォルトで、新規フォームアシスタントが開きます。オプションダイアログボックスの「ウィザードとヒント」パネルにある「フォームアシスタンス」で「新規ドキュメントの作成時に表示」オプションを解除した場合は、新規ダイアログボックスが表示されます。	Ctrl + N

操作を元に戻したり、やり直したりするためのキー

結果	操作
元に戻した操作をやり直します。	Ctrl + Shift + Z または Ctrl + Y
最後の操作を元に戻します。	Ctrl + Z または Alt + Backspace

テキストを削除するためのキー

結果	操作
選択したテキストを切り取って、クリップボードに送ります。	Ctrl + X または Shift + Delete
左側の 1 文字を削除します。	Backspace

結果	操作
右側の 1 文字を削除します。または、選択したテキストをクリップボードに送らずに削除します。	Delete
左側の 1 語を削除します。	Ctrl + Backspace
右側の 1 語を削除します。	Ctrl + Delete

テキストを選択するためのキー

結果	操作
編集モードにします。	F2
カーソル位置から段落の先頭までを選択または選択解除します。	Ctrl + Shift + 上向き矢印
カーソル位置から段落の末尾までを選択または選択解除します。	Ctrl + Shift + 下向き矢印
カーソル位置から単語の末尾までを選択または選択解除します。	Ctrl + Shift + 右向き矢印
カーソル位置から現在の行の先頭までを選択または選択解除します。	Shift + Home
カーソル位置から単語の先頭までを選択または選択解除します。	Ctrl + Shift + 左向き矢印
カーソル位置から現在の行の末尾までを選択または選択解除します。	Shift + End
カーソル位置から次の行の同じ位置までを選択または選択解除します。カーソルが最後の行にある場合、この選択は現在の行の末尾までとなります。	Shift + 下向き矢印
カーソル位置から前の行の同じ位置までを選択または選択解除します。カーソルが最初の行にある場合、この選択は最初の行の先頭までとなります。	Shift + 上向き矢印
左側の 1 文字を選択または選択解除します。	Shift + 左向き矢印
右側の 1 文字を選択または選択解除します。	Shift + 右向き矢印
1 つの画面から次の画面の同じ位置までを選択または選択解除します。	Shift + Page Down
1 つの画面から前の画面の同じ位置までを選択または選択解除します。	Shift + Page Up
オブジェクトのテキストの先頭（オブジェクトのテキストの左上の位置）までを選択または選択解除します。	Ctrl + Shift + Home
オブジェクトのテキストの末尾（オブジェクトのテキストの右下の位置）までを選択または選択解除します。	Ctrl + Shift + End
テキストフィールドまたはスクリプトエディター内の全テキストを選択します。 ページ内の全オブジェクトを選択します。	Ctrl + A

テキストをコピーして移動させるためのキー

結果	操作
選択したテキストをクリップボードにコピーします。	Ctrl + C または Ctrl + Insert
選択したテキストを切り取って、クリップボードに置きます。	Ctrl + X
右側の 1 文字を削除します。または、選択したテキストをクリップボードに送らずに削除します。	Delete
右側の 1 語を削除します。	Ctrl + Delete
クリップボードの内容を挿入位置に貼り付けます。	Ctrl + V または Shift + Insert

選択したテキストに文字書式を適用するためのキー

結果	操作
太字を適用します（欧文フォントで、太字に対応している必要があります）。	Ctrl + B
斜体を適用します（欧文フォントで、斜体に対応している必要があります）。	Ctrl + I
下線を適用します。	Ctrl + U

特殊文字用のキー

結果	操作
改行なしスペースを追加します。	Ctrl + Shift + スペースバー

行間設定のためのキー

結果	操作
1.5 行間隔（文字を選択時に）を適用します。	Ctrl + Shift + 5
2 行間隔（文字を選択時に）を適用します。	Ctrl + Shift + 2
1 行間隔（文字を選択時に）を適用します。	Ctrl + Shift + 1

段落を整列させるためのキー

結果	操作
段落を中央揃えにします。	Ctrl + E
ぶら下げインデントを解除します。	Ctrl + Shift + T
ぶら下げインデントを作成します。	Ctrl + T
段落を左端からインデントします。	Ctrl + M
段落を整列させます。	Ctrl + J
段落を左揃えにします。	Ctrl + L

結果	操作
段落の左インデントを狭くします。	Ctrl + Shift + M
段落のフォーマットを変更前のデフォルトの状態に戻します。	Ctrl + Q
段落を右揃えにします。	Ctrl + R

ウィンドウを制御するためのキー

結果	操作
「PDF プレビュー」タブを表示します。	F5
次の開いているウィンドウに移動します。	Ctrl + F6
次のペインまたはパレットに移動します。	Ctrl + Tab
現在のパレット内の次のタブに移動します。	Crtl + ,
前のパネルまたはパレットに移動します。	Ctrl + Shift + Tab
現在のパレット内の前のタブに移動します。	Crtl + .
Designer を終了します。	Alt + F4
グリッドの表示 / 非表示を切り替えます。	Ctrl + '
「グリッドにスナップ」のオン / オフを切り替えます。	Ctrl + Shift + '
ワークスペースのパレットを展開 / 縮小します。	Ctrl + F3 注意：このキーボードショートカットは PDF プレビューの表示では機能しません。

パレットを制御するためのキー

結果	操作
パレットメニューを開きます。	Ctrl + スペースバー 設定した場合、Ctrl + スペースバー は Microsoft Windows の IMEA（アジア言語文字入力システム）と競合する場合があります。デフォルトでは、Windows の IMEA は Ctrl + スペースバーを使用します。Windows の IMEA に対するキーボードマッピングを変更、または Designer のパレットメニューに対するキーボードショートカットを変更できます。
ドッキングまたはドッキング解除したパレットのサイズを元に戻します。	Ctrl + スペースバー + R
パレットを移動します。	Ctrl + スペースバー + M パレットを配置するには、矢印キーを押します。 移動を終了してパレットをドッキング解除するには、Ctrl + Enter を押します。 移動を終了してパレットをドッキングするには、Enter を押します。ドッキング領域に移動すると、パレットはドッキングされます。パレットがドッキング領域に入ると、パレット枠線の太さが増えます。 移動モードを終了してパレットを元の位置に戻すには、Esc キーを押します。
パレットのサイズを調整します。	Ctrl + スペースバー + S パレットのサイズを調整するには、矢印キーを押します。 サイズ調整を終了するには、Enter キーを押します。 サイズ調整モードを終了してパレットを元の大きさに戻すには、Esc キーを押します。
パレットを最後にドッキングされた位置にドッキングします。	Ctrl + スペースバー + D
パレットを最後にフローティングされた位置でドッキング解除します。	CTRL + スペースバー + U
パレットを閉じます。	Ctrl + スペースバー + C

フォームデザインを操作するためのキー

結果	操作
最初のページに移動します。	Ctrl + Home
最後のページに移動します。	Ctrl + End
次のページに移動します。	Page Down
前のページに移動します。	Page Up
フォームデザインとアクティブなパレットを切り替えます。	F6
パレット内の次のタブのページに切り替えます。	Ctrl + .
パレット内の前のタブのページに切り替えます。	Ctrl + ,

結果	操作
ズームインします。	Ctrl + =
ズームアウトします。	Ctrl + -
倍率を原寸大に指定します。	Ctrl + 1
ページの幅に合うように倍率を指定します。	Ctrl + 2
ページ全体を表示するように倍率を指定します。	Ctrl + 0

メニューを制御するためのキー

結果	操作
パレットメニューを表示します。	Ctrl + M
メニューバーをアクティブにして、メニューモードに入ります。	F10 または Alt
メニューバーをアクティブにして、アクセスキーに対応するメニューを開きます。	Alt + [メニューまたは選択したダイアログボックス上のアクセスキー]
選択したアイテムのショートカットメニュー（またはコンテキストメニュー）を表示します。	Shift + F10
アクティブな子ウィンドウのショートカットメニューを表示します。	Alt + ハイフン
アクティブウィンドウのショートカットメニューを表示します。	Alt + スペースバー
メニューモード (Alt +) のときに、対応するコマンドを実行します。	アクセスキー
メニューモード (Alt +) のときに、1 つ上のアイテムに移動したり、フォーカスがメニューの先頭にある場合にメニューの下端に移動します。	上向き矢印
メニューモード (Alt +) のときに、メニューアイテムを開いたり、1 つ下のアイテムに移動したり、フォーカスがメニューの下端にある場合にメニューの先頭に移動します。	下向き矢印
メニューモード (Alt +) のときに、左隣のメニューを開いたり、サブメニューを閉じたりします。	左向き矢印
メニューモード (Alt +) のときに、右隣のメニューを開いたり、サブメニューを開いたりします。	右向き矢印

スクリプトエディターまたは XML ソースタブのキー

結果	操作
次を検索します。	F3
前を検索します。	Shift + F3
フォーム上のオブジェクトに対する略称参照構文を挿入します。	Ctrl キーを押しながら、参照するオブジェクトをクリックします（スクリプトエディターにフォーカスがある間）。
検索ダイアログボックスを開きます。	Ctrl + F

結果	操作
スクリプトエディターのスクリプトソースフィールドで、FormCalc 関数リストを開きます。	F10
行ヘジャンプダイアログボックスを開きます。	Ctrl + G
置換ダイアログボックスを開きます。	Ctrl + H
スクリプトエディターの表示 / 非表示を切り替えます。	Ctrl + Shift + F5

オブジェクトを操作するためのキー

結果	操作
下揃えにします。	Ctrl + 下向き矢印
水平方向中央に揃えます。	Alt + Ctrl + 右向き矢印
左揃えにします。	Ctrl + 左向き矢印
右揃えにします。	Ctrl + 右向き矢印
整列グリッドに合わせます。	Alt + Ctrl + 左向き矢印
上揃えにします。	Ctrl + 上向き矢印
垂直方向中央に揃えます。	Alt + Ctrl + 上向き矢印
特定のオブジェクトを複製します。	Ctrl + D
階層パレットのオブジェクトを展開したり折りたたんだりします。	左向き矢印または右向き矢印
オブジェクトを挿入します。	Alt + I。矢印キーを押してオブジェクトを選択してから、Enter キーを押します。
繰り返し描画を実行します。	Ctrl + K
下に 10 単位動かします。	Shift + 下向き矢印
下に 1 単位動かします。	下向き矢印
左に 10 単位動かします。	Shift + 左向き矢印
左に 1 単位動かします。	左向き矢印
右に 10 単位動かします。	Shift + 右向き矢印
右に 1 単位動かします。	右向き矢印
上に 10 単位動かします。	Shift + 上向き矢印
上に 1 単位動かします。	上向き矢印
階層パレットを使用してオブジェクト名を変更します。	Ctrl + F2
階層パレットで、選択したオブジェクトの名前を変更します。	F2
階層パレットを使用してオブジェクトを選択します。	上向き矢印または下向き矢印
階層パレットで隣接する複数のオブジェクトを選択します。	Shift + 上向き矢印または Shift + 下向き矢印

結果	操作
階層パレットで隣接していない複数のオブジェクトを選択します。	Ctrl + 上向き矢印または Ctrl + 下向き矢印、次にスペースバー
アクセシビリティパレットの表示 / 非表示を切り替えます。	Shift + F6
境界線パレットの表示 / 非表示を切り替えます。	Shift + F8
フォントパレットの表示 / 非表示を切り替えます。	Shift + F4
階層パレットの表示 / 非表示を切り替えます。	Shift + F11
レイアウトパレットの表示 / 非表示を切り替えます。	Shift + F9
オブジェクトライブラリパレットの表示 / 非表示を切り替えます。	Shift + F12
オブジェクトパレットの表示 / 非表示を切り替えます。	Shift + F7
段落パレットの表示 / 非表示を切り替えます。	Shift + F5
スクリプトエディターの表示 / 非表示を切り替えます。	Ctrl + Shift + F5

タブ順序を変更するためのキー

結果	操作
項目のタブ順序の編集	F2
コピー	Ctrl + C
貼り付け	Ctrl + V
タブ順序を上へ移動	Ctrl + 上向き矢印
タブ順序を下へ移動	Ctrl + 下向き矢印

テーブル内の選択および移動に使用するキー

結果	操作
選択範囲を行頭まで拡張します。	Shift + Home
選択範囲をテーブルの先頭まで拡張します。	Ctrl + Shift + Home
選択範囲を行末まで拡張します。	Shift + End
選択範囲をテーブルの末尾まで拡張します。	Ctrl + Shift + End
選択範囲を拡張します。	Shift + 左向き矢印、Shift + 右向き矢印、Shift + 上向き矢印または Shift + 下向き矢印
セル間を移動します。	左向き矢印、右向き矢印、上向き矢印または下向き矢印
列内のすべてのセルを選択します。	Ctrl + スペースバー
行内のすべてのセルを選択します。	Shift + スペースバー
テーブル内のすべてのセルを選択します。	Ctrl + Shift + スペースバー

結果	操作
複数のセルが選択されている場合にアクティブなセルのみを選択します。	Shift + Backspace
行の最初のセルを選択します。	Home
テーブルの最初のセルを選択します。	Ctrl + Home
行の最後のセルを選択します。	End
テーブルの最後のセルを選択します。	Ctrl + End
アクティブなセルでテキスト編集モードのオン / オフを切り替えます。	F2

Designer ヘルプを操作するためのキー

結果	操作
ヘルプビューアを閉じます。	Alt + F4
Designer ヘルプを表示します。	F1
「目次」タブを表示します。	Alt + C
「キーワード」タブを表示します。	Alt + N
オプションメニューを表示します。ヘルプビューアツールバー内のすべてのボタンのコマンドは、オプションメニューから使用できます。	Alt + O
「検索」タブを表示します。	Alt + S
選択したトピックを表示します。 前のトピックに戻ります。 次のトピックに移動します。	Enter または Alt + D Alt + 左向き矢印 Alt + 右向き矢印
ブックを開いたり閉じたりします。	プラス記号およびマイナス記号、または左向き矢印および右向き矢印
リスト内のキーワードを選択します。	上向き矢印および下向き矢印
検索結果のリスト内のトピックを選択します。	Alt + T キーを押して上向き矢印または下向き矢印
トピックを選択します。	下向き矢印および上向き矢印
検索を開始します。	Alt + L

キーボードを使用したパレットの制御

キーボードを使用してパレットを復元、移動、サイズ調整、ドッキング、ドッキング解除および閉じることができます。

キーボードを使用してパレットメニューを開くには、タブを使用してパレットに移動し、Ctrl + スペースバーキーを押します。

- ドッキングまたはドッキング解除されたパレットのサイズを元に戻すには、Ctrl + スペースバー + R キーを押します。
- パレットを移動するには、Ctrl + スペースバー + M キーを押します。パレットを配置するには、矢印キーを押します。移動を終了するには、Enter キーを押します。移動モードを終了してパレットを元の位置に戻すには、Esc キーを押します。

- パレットのサイズを調整するには、Ctrl + スペースバー + S キーを押します。パレットのサイズを変更するには、矢印キーを押します。サイズ調整を終了するには、Enter キーを押します。サイズ調整モードを終了してパレットを元の大きさに戻すには、Esc キーを押します。左側または右側のドッキング領域でパレットの幅を調整する場合は、ドッキング領域および領域内のすべてのパレットのサイズを変更します。上部または下部のドッキング領域でパレットの高さを調整する場合は、ドッキング領域および領域内のすべてのパレットのサイズを変更します。
- パレットをドッキングするには、Ctrl + スペースバー + D キーを押します。この操作により、パレットは最後にドッキングされた位置に移動します。
- パレットをドッキング解除するには、Ctrl + スペースバー + U キーを押します。この操作により、パレットは最後にフローティングされた位置に移動します。
- パレットを閉じるには、Ctrl + スペースバー + C キーを押します。

データ表示情報領域のサイズ調整

- 1 データ表示パレットを選択して、Ctrl + M キーを入力します。
- 2 S キーを入力して、「情報を表示」を選択します。
- 3 Ctrl + M キーを押します。
- 4 I キーを入力して、「情報を表示」を選択します。
- 5 上向き矢印キーまたは下向き矢印キーを使用して、情報領域のサイズを調整します。
- 6 サイズ調整を終了するには、Enter キーを押します。

オブジェクトライブラリのプレビュー領域のサイズを調整するには

- 1 オブジェクトライブラリパレットを選択して、Ctrl + M キーを入力します。
- 2 「オブジェクトのプレビューを表示」を選択するには、S キーを入力します。
- 3 Ctrl + M キーを入力します。
- 4 「オブジェクトのプレビューをサイズ調整」を選択するには、I キーを入力します。
- 5 上向き矢印キーまたは下向き矢印キーを使用して、オブジェクトのプレビュー領域のサイズを調整します。
- 6 サイズ調整を終了するには、Enter キーを押します。

フラグメントライブラリのプレビュー領域のサイズを調整するには

- 1 フラグメントライブラリパレットを選択して、Ctrl + M キーを押します。
- 2 「フラグメントのプレビューを表示」を選択するには、S キーを入力します。
- 3 Ctrl + M キーを押します。
- 4 「フラグメントのプレビューをサイズ調整」を選択するには、I キーを入力します。
- 5 上向き矢印キーまたは下向き矢印キーを使用して、フラグメントのプレビュー領域のサイズを調整します。
- 6 サイズ調整を終了するには、Enter キーを押します。

キーボードショートカットのカスタマイズ

カスタマイズされたキーボードショートカットセットを作成するには

キーボードショートカットセットとは、キーボードショートカットの集合に名前を付けたものです。個人または複数のユーザーのニーズに適合した、1つ以上のカスタマイズキーボードショートカットセットを作成できます。

例えば、複数のユーザーが異なる時間帯に Designer の同じコピーを使用して作業する場合、各ユーザーは独自のカスタマイズキーボードショートカットセットを作成できます。複数のセットが作成されても、各ユーザーは、その他のユーザーが使い慣れている「(デフォルト)」セットを変更することなく、自身が使用する各キーボードショートカットを管理できます。

注意：「(デフォルト)」キーボードショートカットセットを直接変更、置き換え、または削除することはできません。「(デフォルト)」セット（または既存のカスタマイズ済みセット）を何らかの方法で変更すると、Designer は、そのセットの別のインスタンスを、「(変更済み)」という語を付加したセット名を使用してセットリストに追加します。この後、変更したセットの名前を任意の名前に変更できます。

- 1 ツール／キーボードショートカットを選択します。
- 2 セットリストで、変更するキーボードショートカットセットを選択します。(デフォルト) セットまたは既存のカスタマイズ済みセットを使用します。
- 3 「名前を付けて保存」をクリックします。
- 4 (オプション)「名前」ボックスにセットの名前を入力します。セットの新しい名前を入力しないと、「(変更済み)」という語がそのまま既存のセット名に付加されます。
- 5 「OK」をクリックします。

コマンドにキーボードショートカットを割り当てるには

コマンドにキーボードショートカットを割り当てることができます。同じコマンドに、1つ以上のキーボードショートカットを割り当てることができます。ただし、不要な重複を避けるために、1つのコマンドに1つのキーボードショートカットを割り当てることをお勧めします。

使用したいキーボードショートカットが別のコマンドに既に割り当てられている場合、Designer はプロンプトを表示し、別のコマンドからそのキーボードショートカットを削除して、現在選択しているコマンドに割り当てるよう指示します。

キーボードショートカットが割り当てられていないコマンドにキーボードショートカットを割り当てた場合、またはデフォルトのキーボードショートカットが既に割り当てられているコマンドに追加のキーボードショートカットを割り当てた場合、コマンドリストに表示されるコマンド名の前にアスタリスク (*) が表示され、コマンドに関連付けられるキーボードショートカットが変更されたことが示されます。

注意：コマンドにキーボードショートカットを割り当てると、そのコマンドが属するキーボードショートカットセット、つまり「(デフォルト)」セットまたは既存のカスタマイズ済みセットが変更されます。この場合、Designer は、キーボードショートカットセットの別のインスタンスを、そのセットが変更されたことを示す「(変更済み)」という語を付加したセット名を使用してセットリストに追加します。コマンドに割り当てたキーボードショートカットを保存するには、関連するキーボードショートカットセットを保存する必要があります。

キーボードショートカットセットに対して行った変更を保存しない場合、Designer でその変更が保持されるのは、セットリストで別のセットを選択するまでです。別のキーボードショートカットセットを選択すると、「(デフォルト)」セットまたはカスタマイズ済みセットに対して行った変更を保存するよう求めるプロンプトが表示されます。

- 1 ツール／キーボードショートカットを選択します。
- 2 セットリストで、キーボードショートカットの保存先のセットを選択します。
- 3 製品の領域リストで、「(すべてのコマンド)」を選択するか、アクセスするコマンドを含む特定のメニューを選択します。

- 4 コマンドリストで、目的のコマンドを選択します。既存のキーボードショートカットが、現在のショートカットリストに表示されます。
- 5 (オプション) 現在のショートカットリストで、コマンドに既に割り当てられている別のショートカットから削除したいものを選択し、「削除」をクリックします。
- 6 「新しいショートカット」ボックスに、コマンドに割り当てるショートカットを入力し、「割り当て」をクリックします。
- 7 「名前を付けて保存」をクリックして、キーボードショートカットセットに対して行った変更を保存します。
- 8 (オプション) 「名前」ボックスに、必要に応じて新しいセットの名前を入力します。セットの新しい名前を入力しないと、「(変更済み)」という語がそのまま既存のセット名に付加されます。
- 9 「OK」をクリックします。

コマンドからキーボードショートカットを削除するには

デフォルトのキーボードショートカットを含めて、各コマンドからキーボードショートカットを削除することができます。

例えば、使用しなくなったキーボードショートカットを削除したり、別の使いやすいショートカットに置き換えるために、キーボードショートカットを削除したい場合があります。

デフォルトキーボードショートカットをコマンドから削除すると、コマンドリストに表示されるコマンド名の前にアスタリスク (*) が表示され、コマンドに関連付けられているキーボードショートカットが変更されたことが示されます。

注意：コマンドからキーボードショートカットを削除すると、そのコマンドが属するキーボードショートカットセット、つまり「(デフォルト)」セットまたは既存のカスタマイズ済みセットが変更されます。この場合、**Designer** は、キーボードショートカットセットの別のインスタンスを、そのセットが変更されたことを示す「(変更済み)」という語を付加したセット名を使用してセットリストに追加します。変更を保存するには、関連するキーボードショートカットセットを保存する必要があります。

キーボードショートカットセットに対して行った変更を保存しない場合、**Designer** でその変更が保持されるのは、セットリストで別のセットを選択するまでです。別のキーボードショートカットセットを選択すると、「(デフォルト)」セットまたはカスタマイズ済みセットに対して行った変更を保存するよう求めるプロンプトが表示されます。

- 1 ツール/キーボードショートカットを選択します。
- 2 セットリストで、削除するキーボードショートカットを含むセットを選択します。
- 3 製品の領域リストで、「(すべてのコマンド)」を選択するか、アクセスするコマンドを含む特定のメニューを選択します。
- 4 コマンドリストで、目的のコマンドを選択します。既存のキーボードショートカットが、現在のショートカットリストに表示されます。
- 5 現在のショートカットリストで、削除するキーボードショートカットを選択して「削除」をクリックします。
- 6 (オプション) キーボードショートカットセットの名前を変更するには、「名前を付けて保存」をクリックしてから、「名前」ボックスに任意のセット名を入力します。
- 7 「OK」をクリックします。

コマンドの現在のキーボードショートカットを確認するには

- 1 ツール/キーボードショートカットを選択します。
- 2 セットリストで、確認するキーボードショートカットを含むキーボードショートカットセットを選択します。
- 3 製品の領域リストで、「(すべてのコマンド)」を選択するか、アクセスするコマンドを含む特定のメニューを選択します。
- 4 コマンドリストで、目的のコマンドを選択します。コマンドに割り当てられているキーボードショートカットが、現在のショートカットリストに表示されます。

第 18 章：メニュー、コマンド、ツールバー、ダイアログボックスリファレンス

メニューとコマンド

メニューには、コマンドのリストが表示されます。これらのコマンドの一部には、横にアイコンが付いており、ツールバーの対応するボタンに簡単にコマンドを関連付けることができます。それ以外のコマンドには、アクセラレーターキー（アンダーラインの付いたキー）とキーボードショートカットが割り当てられており、これらを使用して一般的な作業を手早く行うことができます。

Designer ウィンドウやパレットの多くの上端にあるメニューだけでなく、コンテキストメニューにもアクティブなパレット／ページに関連するコマンドが表示されます。

ショートカットキーを使用してメニューを開くには

- ❖ ショートカットキーを使用してメニューを開くには、Alt+[アクセラレーターキー] を押し、そのコマンドのアクセラレーターキーを押してメニューのコマンドを選択します。例えば、編集メニューを開いて「切り取り」コマンドを選択するには、Alt+E に続けて T を押します。また、ショートカットキー Ctrl+X を使用しても「切り取り」コマンドを選択できます。

コンテキストメニューを表示するには

- 1 パレットまたはページにポインターを置きます。
- 2 マウスの右ボタンをクリックします。クリックした場所にコンテキストメニューが表示されます。

メニューバーのコマンド

ファイルメニュー

ファイルメニューには、Designer の主要な処理を実行するコマンドが用意されています。

新規 新しいフォームデザインを作成します。スタンドアロンバージョンの Designer を使用している場合は、標準ツールバーの新規ボタンリストをクリックして、新しいフォームデザインのベースとなるテンプレートをすばやく選択することができます。これらのテンプレートは、Workbench に統合されている Designer では使用できません。

開く 既存のフォームデザインを開きます。

閉じる アクティブなフォームデザインを閉じます。変更を保存するかどうかをたずねるプロンプトが表示されます。

保存 アクティブなフォームデザインのコンテンツを保存します。

名前を付けて保存 アクティブなフォームデザインのコンテンツを、Adobe スタティック PDF フォーム (.pdf)、Acrobat ダイナミック XML フォーム (.pdf)、Adobe XML フォーム (.xdp)、Designer テンプレート (.tds) のいずれかのファイル形式で保存します。

リポジトリへ発行 複数のユーザーや他のアプリケーションがアクセスできる共有フォルダーや Web フォルダーに、フォームデザインとその関連ファイルを保存します。このコマンドは、スタンドアロンバージョンの Designer でのみ使用できます。

フォームの配布 Designer のフォームが閉じ、Acrobat 配布ウィザードが表示されるので、画面の指示に従って配布プロセスを行います。このコマンドは、スタンドアロンバージョンの Designer でのみ使用できます。

新規データ接続 データソースとフォームデザインとの接続の説明を取得し、データ接続を確立します。

フォームオブジェクトコレクション 署名フィールドと Paper Forms Barcodes のコレクションの作成、削除、複製、名前変更および修正を行います。

フォームのプロパティ アクティブなフォームデザインのプロパティを表示します。

印刷 レイアウトエディターのアクティブな「デザインビュー」タブまたは「マスターページ」タブの内容を印刷します。フォームをサンプルデータと共に印刷するかどうかを選択できます。

最近使ったファイル 最近開いたフォームデザインをリスト表示します。

終了 Designer を終了します。変更を保存するかどうかをたずねるプロンプトが表示されます。

編集メニュー

編集メニューには、フォームデザインを編集するためのコマンドが用意されています。

元に戻す 過去のアクションを最大 10 個まで元に戻すことができます。

やり直し 元に戻したアクションを 1 つずつ、最大 10 個までやり直すことができます。

切り取り 現在の選択範囲を削除し、そのコピーをクリップボードに移動します。

コピー 現在の選択範囲のコピーをクリップボードに追加します。

貼り付け クリップボードのコンテンツをページにコピーします。

削除 コピーをクリップボードに置くことなく、現在の選択範囲を削除します。

ページの削除 現在のページを削除します。このコマンドは「デザインビュー」タブがアクティブになっているときだけ表示されます。

マスターページの削除 現在のマスターページを削除します。このコマンドは「マスターページ」タブがアクティブになっているときだけ表示されます。

複製 コピーをクリップボードに置くことなく、現在の選択範囲を複製します。

複数コピー 選択したオブジェクトのコピーを指定した数だけ作成します。

すべてを選択/すべてを選択 レイアウトエディターのアクティブなタブで、上位レベルのオブジェクト、グループおよびサブフォームをすべて選択します。スクリプトエディターのコンテンツも選択します。

すべてを選択/すべてのスタティックオブジェクトを選択 テキスト、円、線、長方形を含むすべてのスタティックオブジェクトを選択します。

すべてを選択/すべてのフィールドを選択 ボタン、チェックボックス、日付/時間フィールド、十進数フィールド、署名フィールド、コンボボックス、画像フィールド、リストボックス、数値フィールド、Paper Forms Barcode、パスワードフィールド、ラジオボタン、テキストフィールドなどを含むすべてのフィールドを選択します。

検索 「XML ソース」タブまたはスクリプトエディターで特定の語句の候補をすべて検索します。

次を検索 「XML ソース」タブまたはスクリプトエディターで特定の語句の次の候補を検索します。

前を検索 「XML ソース」タブまたはスクリプトエディターで特定の語句の前の候補を検索します。

置換前 「XML ソース」タブまたはスクリプトエディターでテキストを検索して置換します。

行ヘジャンプ 「XML ソース」タブまたはスクリプトエディターで、指定した行番号に移動します。

ロック/テキストのロック 有効な場合、オブジェクトの選択にはシングルクリックを使い、キャプションの編集にはダブルクリックを使います。無効な場合、シングルクリックでオブジェクトとキャプションを直接選択できます。

ロック/スタティックオブジェクトのロック 有効にすると、テキスト、線、画像、およびシェイプなどのスタティックオブジェクトを選択または編集できません。

ロック／フィールドのロック 有効にすると、フィールドオブジェクトを選択または編集できません。

アートワークの置換 PDF 文書の背景アートワークを、選択した別の PDF 文書のものと置換します。このコマンドは PDF 文書に背景アートワークがない場合は使用できません。

フラグメント／フラグメントを作成 選択したオブジェクトから新しいフラグメントを作成します。

フラグメント／フラグメントを編集 編集のために選択したフラグメント参照のソースファイルを開きます。

フラグメント／フラグメント情報 選択したフラグメントまたはフラグメント参照に関する情報を表示します。フラグメントに関する情報は編集できますが、フラグメント参照に関する情報は表示のみ可能です。

フラグメント／埋め込まれたオブジェクトに変換 選択したフラグメント参照を埋め込まれたフラグメントのコピーに変換します。埋め込まれたオブジェクトはフラグメントソースファイルに接続されなくなり、現在のフォームデザイン内で編集できます。

パターン／表示 パターンダイアログボックスの「表示」タブを開きます。

パターン／編集 パターンダイアログボックスの「編集」タブを開きます。

パターン／検証 パターンダイアログボックスの「検証」タブを開きます。

パターン／データ パターンダイアログボックスの「データ」タブを開きます。

リーダーの削除 選択したリーダーを削除します。

タブストップの削除 タブストップの削除ダイアログボックスを開きます。

アクションプロファイルの管理 Workbench に切り替えて、アクションプロファイルの管理ダイアログボックスを開きます。フォームごとにデフォルトのアクションプロファイルが作成されます。このコマンドは、Workbench に統合されている Designer でのみ使用できます。

表示メニュー

表示メニューにはワークスペースを変更するコマンドが用意されています。

定規 定規の表示 / 非表示を切り替えます。

グリッドとガイドライン／グリッドの表示 グリッドの表示 / 非表示を切り替えます。

グリッドとガイドライン／グリッドにスナップ オブジェクトを最も近いグリッドポイントにスナップします。

グリッドとガイドライン／ガイドラインの表示 ガイドラインの表示 / 非表示を切り替えます。

グリッドとガイドライン／ガイドラインにスナップ オブジェクトをガイドラインにスナップします。

オブジェクト／オブジェクトの境界 ページ上のオブジェクトの周囲に表示される境界線の表示 / 非表示を切り替えます。

オブジェクト／オブジェクトにスナップ オブジェクトの境界線を別のオブジェクトの境界線にスナップします。

オブジェクト／ページ中央にスナップ オブジェクトの中心線を、ページの垂直方向または水平の中央線にスナップします。中央線は、「ページ中央にスナップ」をオンにして、オブジェクトを中央線に近づけた場合にのみ表示されます。

繰り返し描画 このボタンを選択しておくと、オブジェクトライブラリパレットから毎回オブジェクトを選択する必要なく、オブジェクトのコピーを必要な数だけ描画できます。この機能を無効にするには、「繰り返し描画」ボタンをもう一度クリックします。

オブジェクトエディター ページ上の選択したオブジェクトの周囲に表示されるオブジェクトエディターの表示 / 非表示を切り替えます。オブジェクトエディターからは一般的なプロパティにすばやくアクセスできます。

デザインビュー 「デザインビュー」タブを表示します。

マスターページ 「マスターページ」タブを表示します。

XML ソース 「XML ソース」タブを表示します。

PDF プレビュー 「PDF プレビュー」タブを表示します。

ズーム 詳細を表示する場合はズームイン、広域を表示するにはズームアウトします。

100 %表示 ページを 100 %にサイズ設定します。

全体表示 ページをレイアウトエディターに合うようにサイズ設定します。

幅に合わせる ページをレイアウトエディターの幅に合うようにサイズ設定します。

領域のズーム ページの選択した領域にズームインします。

タブの順序を表示 / 非表示 フォーム上にタブ順序の番号を表示 / 非表示します。

挿入メニュー

挿入メニューには、フォームデザインにオブジェクトを追加するためのコマンドが用意されています。

フローティングフィールド フローティングフィールドをフォームデザインに挿入します。

現在のページ番号 完成したフォームの現在のページ番号を挿入します。

ページ数 完成したフォームの合計ページ数を挿入します。

現在の日時 現在の日付と時刻を挿入します。

ビューアのロケール フォームを処理するアプリケーションのロケール設定の値を挿入します。

ビューアの名前 フォームを処理するアプリケーションの名前を挿入します。

ビューアのバージョン フォームを処理するアプリケーションのバージョン番号を挿入します。

現在のシート番号 選択したテキストオブジェクトの現在のシート番号を挿入します。

シート数 選択したテキストオブジェクトの現在のシート数を表すプレースホルダーを挿入します。

リーダー カーソル位置のすぐ上にリーダーダイアログボックスが表示されます。終了位置（幅）、パターン、文字間隔、配置などのリーダープロパティを定義および編集できます。

標準 / [オブジェクト] フォームに追加できる描画オブジェクトをリストに追加します。このコマンドにあるオブジェクトは、オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリにあるオブジェクトと一致します。

カスタム / [オブジェクト] フォームに追加できるカスタム描画オブジェクトをリストに追加します。このコマンドにあるオブジェクトは、オブジェクトライブラリパレットのカスタムカテゴリにあるオブジェクトと一致します。

バーコード / [オブジェクト] フォームに追加できるバーコードオブジェクトをリストに追加します。このコマンドにあるオブジェクトは、オブジェクトライブラリパレットのバーコードカテゴリにあるオブジェクトと一致します。

サブフォームに含める サブフォームを新しく作成して、選択したオブジェクトを含めます。

サブフォームに含めるを解除 オブジェクトをフォームデザインに残して、サブフォームを削除します。

サブフォームセットに含める 複数のサブフォームを 1 つにまとめられるように、これらをグループ化する新しいサブフォームを作成します。

選択サブフォームセットに含める 複数のサブフォームを 1 つにまとめられるように、これらをグループ化する新しいサブフォームを作成します。ただし、最終的なフォーム上には、ユーザー定義条件に基づいて 1 つのサブフォームだけが表示されます。

サブフォームセットに含めるを解除 1 つにまとめるように含められていた複数のサブフォームのグループ化を削除します。

ハイパーリンク ハイパーリンクの挿入ダイアログボックスを開き、外部の Web サイト、電子メールアドレス、PDF ファイルや HTML ファイルへ接続するハイパーリンクを作成できます。

フラグメント 選択したフラグメントへの参照をフォームデザインに挿入します。

新規ページ フォームデザインで最終ページの後に新規ページを挿入します。このコマンドは「デザインビュー」タブがアクティブになっているときだけ表示されます。

新規マスターページ フォームデザインで最終マスターページの後に新規マスターページを挿入します。このコマンドは「マスターページ」タブがアクティブになっているときだけ表示されます。

テーブルメニュー

テーブルメニューには、テーブルで作業するためのコマンドが用意されています。

テーブルの挿入 テーブルの挿入ダイアログボックスを開きます。

挿入／左側に列を挿入 選択されている列の最左列の左側に、複数の列を挿入します。挿入される列数は、選択されている列数と同じです。

挿入／右側に列を挿入 選択されている列の最右列の右側に、列を挿入します。挿入される列数は、選択されている列数と同じです。

挿入／上に行を挿入 選択した行のセルまたは行の上に複数行を挿入します。挿入される行数は、選択されている行数と同じです。

挿入／下に行を挿入 選択した行のセルの下、または行の下に、行を挿入します。挿入される行数は、選択されている行数と同じです。

挿入／上にセクションを挿入 選択した行のセル、行またはセクションの上に 1 つのセクションを挿入します。

挿入／下にセクションを挿入 選択した行のセル、行またはセクションの下に 1 つのセクションを挿入します。

削除／行 選択したセルが含まれるすべての行を削除します。

削除／列 選択したセルが含まれるすべての列を削除します。

削除／セクション 選択したセルを含むすべてのセクションを削除します。

削除／テーブル 選択したセルを含むすべてのテーブルを削除します。

選択／セル テキスト編集モードで、カーソルのあるセルを選択します。

選択／行のセル 選択したセルを含む行のすべてのセルを選択します。行のセル（テキストオブジェクト）のみを選択します。行自体は選択しません。

選択／列のセル 選択したセルを含む列のすべてのセルを選択します。

選択／行 選択したセルを含むすべての行を選択します。

選択／セクション 選択したセルまたは行を含むすべてのセクションを選択します。

選択／テーブル 選択したセル、行、またはセクションを含むすべてのテーブルを選択します。

セルの結合 同じ行にある複数の隣接するセルを 1 つのセルに結合します。

セルを横に分割 同じ行内で結合された 2 つ以上のセルを個別のセルに分割します。

行の分布 選択されている行をセクションまたはテーブルに均等に分割します。すべての行を、選択した行の中で最大の高さに調整します。

列の分布 選択されている列をセクションまたはテーブルに均等に分割します。列の幅がすべて同じになるように、選択したすべての列の合計幅が、選択した数の列に均等に分割されます。テーブルの幅は変わりません。

セクションとしてグループ化 選択した行またはセクションを 1 つのセクションにグループ化します。

選択セクションとしてグループ化 データ選択テーブルの行セクションの作成に役立ちます。Designer は行をセクションに含め、行セットの条件を「候補からサブフォームを 1 つ選択する」に設定します。また、この行のオカレンス制約をテーブルセクションに型変換し、行の最小カウントと最大カウントの設定を 1 に設定します。このコマンドはテーブル行が 1 行選択されている場合に使用できます。

セクションのグループ化解除 行またはセクションをグループ解除して、個々の行にします。

テーブルに変換 選択された 1 つ以上のオブジェクトをテーブルに変換します。

サブフォームに変換 選択された 1 つ以上のオブジェクトをサブフォームに変換します。

行ヘジャンプ 行ヘジャンプダイアログボックスを開きます。

レイアウトメニュー

レイアウトメニューには、フォームデザイン内でオブジェクトを配置するためのコマンドが用意されています。

整列／左揃え 選択したオブジェクトの左端を揃えて、最後に選択したオブジェクトの位置に一致するようにします。

整列／右揃え 選択したオブジェクトの右端を揃えて、最後に選択したオブジェクトの位置に一致するようにします。

整列／上揃え 選択したオブジェクトの上端を揃えて、最後に選択したオブジェクトの位置に一致するようにします。

整列／下揃え 選択したオブジェクトの下端を揃えて、最後に選択したオブジェクトの位置に一致するようにします。

整列／垂直方向中央 選択したオブジェクトの縦中央を揃えます。

整列／水平方向中央 選択したオブジェクトの横中央を揃えます。

整列／グリッドに合わせる 選択したオブジェクトを最も近いグリッドポイントに揃えます。

分布／水平方向 選択したオブジェクトを水平方向に等間隔で配置します。

分布／垂直方向 選択したオブジェクトを垂直方向に等間隔で配置します。

分布／行と列に合わせる 選択したオブジェクトを行と列に整列して等間隔に配置します。

中央揃え／水平方向 選択したオブジェクトをフォームデザイン上に水平に中央配置します。

中央揃え／垂直方向 選択したオブジェクトをフォームデザイン上に垂直に中央配置します。

同じサイズに設定／幅 選択したオブジェクトのサイズを変更して、最後に選択したオブジェクトの幅に一致するようにします。

同じサイズに設定／高さ 選択したオブジェクトのサイズを変更して、最後に選択したオブジェクトの高さに一致するようにします。

同じサイズに設定／すべて 選択したオブジェクトのサイズを変更して、最後に選択したオブジェクトの高さと幅に一致するようにします。

グループ 選択したオブジェクトをマージして、1 つの単位として機能するようにします。1 グループのオブジェクトにはいくつでもオブジェクトを入れることができ、深さに関係なく入れ子にできます。

グループ化解除 グループオブジェクトを別々の単位に分割します。

選択したテキストオブジェクトのマージ 複数のテキストオブジェクトのコンテンツを 1 つのオブジェクトにマージします。新しいオブジェクトのサイズと位置は、結合したオブジェクト全体の境界に等しくなります。

キャプションとしてマージ キャプションが「なし」に設定されているテキストオブジェクトおよびフィールドオブジェクトのコンテンツを 1 つのオブジェクトにマージします。新しいオブジェクトのキャプションは、テキストオブジェクトのテキストになります。新しいオブジェクトのサイズと位置は、結合したオブジェクト全体の境界に等しくなります。

新規ラジオボタングループに含める 選択した複数のラジオボタンオブジェクトを 1 つのオブジェクトに含めます。

ラジオボタングループのマージ 選択した複数のラジオボタングループ（または、最低 1 つのラジオボタングループと 1 つ以上のラジオボタン）を 1 つのラジオボタングループにマージします。

最前面へ移動 選択したオブジェクトを最前面へ移動します。

前面へ移動 選択したオブジェクトをその前にある別のオブジェクトよりも前に移動します。

背面へ移動 選択したオブジェクトをその後ろにある別のオブジェクトよりも後ろに移動します。

最背面へ移動 選択したオブジェクトを最背面へ移動します。

ツールメニュー

ツールメニューには、オプションを指定するためのコマンドが用意されています。

スペルチェック スペルチェックダイアログボックスを開き、選択したオブジェクトまたはフォーム全体でスペルが間違っている単語を個別またはすべて一括して修正したり、カスタム辞書に単語を追加したり、無視する単語リストを作成したり、オプションダイアログボックスにスペルパネルを表示したりできます。

辞書の編集 辞書の編集ダイアログボックスを開き、個別言語または全言語のカスタム辞書で使用可能な単語リストを表示したり、リストされた単語のスペルを変更したり、個別言語または全言語から単語を追加および削除したりすることができます。

スクリプトの構文をチェック フォームに含まれるすべてのスクリプトの構文が正しいかどうかチェックし、エラーがあればレポートパレットの「警告」タブに表示します。

マクロ 実行できるマクロを表示します。Designer インストールフォルダーに macros フォルダーが存在し、その macros フォルダーのサブフォルダーに少なくとも 1 つの JavaScript ファイル (JS) が含まれている場合にのみ使用できます。

テンプレートマネージャー テンプレートマネージャーダイアログボックスを開き、テンプレートを管理し、デフォルトのテンプレートを設定することができます。

キーボードショートカット キーボードショートカットダイアログボックスを開き、キーボードショートカットをカスタマイズできます。

オプション オプションダイアログボックスを開き、ドキュメントハンドリング、ワークスペース、スペル、ウィザードとヒント、双方向テキスト、データ連結、および言語環境と単位のオプションを定義できます。

見つからないフォント 見つからないフォントダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、フォームデザインで使用する適切なフォントを指定できます。このオプションは、開いた文書にお使いのコンピューターで使用できない 1 つ以上のフォントが含まれている場合にのみ使用可能です。

ウィンドウメニュー

ウィンドウメニューには、フォームデザインおよび Designer 内のパレットを表示または非表示にするためのコマンドが用意されています。

整列／重ねて表示 開いているフォームデザインを重ねて表示します。

整列／並べて表示 開いているフォームデザインのウィンドウをすべて表示します。

整列／アイコンの整列 Designer ウィンドウの下端に最小化したウィンドウを整列します。

ワークスペース／上パレット Designer ウィンドウの上端にドッキングしたパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

ワークスペース／下パレット Designer ウィンドウの下端にドッキングしたパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

ワークスペース／左パレット Designer ウィンドウの左端にドッキングしたパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

ワークスペース／右パレット Designer ウィンドウの右端にドッキングしたパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

ワークスペース／フローティングパレット フローティングパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

ワークスペース／パレットを展開 / 閉じる すべてのパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

ワークスペース／パレット位置をリセット パレットをデフォルトの位置にリセットします。

ツールバー ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。

スクリプトエディター スクリプトエディターの表示 / 非表示を切り替えます。

ステータスバー ステータスバーの表示と非表示を切り替えます。

階層 階層パレットの表示 / 非表示を切り替えます。

PDF 構造 PDF 構造パレットの表示 / 非表示を切り替えます。

データ表示 データ表示パレットの表示 / 非表示を切り替えます。

タブの順序 タブ順序パレットの表示 / 非表示を切り替えます。

オブジェクトライブラリ オブジェクトライブラリパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

フラグメントライブラリ フラグメントライブラリパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

スタイルカタログ スタイルカタログパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

レイアウト レイアウトパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

境界線 境界線パレットの表示 / 非表示を切り替えます。

オブジェクト オブジェクトパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

アクセシビリティ アクセシビリティパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

フォント フォントパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

段落 段落パレットの表示 / 非表示を切り替えます。

描画ツール 描画ツールパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

情報 情報パレットの表示 / 非表示を切り替えます。

レポート レポートパレットの表示 / 非表示を切り替えます。

使い方 使い方パレットの表示 / 非表示を切り替えます。

Workbench に切り替え Designer から Workbench に切り替えます。Designer は開いたままで、必要に応じて戻ることができます。このコマンドは、Workbench に統合されている Designer でのみ使用できます。

ヘルプメニュー

ヘルプメニューには、ヘルプを取得するためのコマンドが用意され、Designer のバージョン情報が表示されます。

Designer ヘルプ Designer のヘルプトピックが表示されます。

ようこそ スタートアップダイアログの表示 / 非表示を切り替えます。

使い方 使い方パレットの表示 / 非表示を切り替えます。

Designer クイックスタート ヘルプトピックの「クイックスタートチュートリアル」を開きます。このトピックでは、Designer で基本的なフォームを作成する手順を示すために作成されたチュートリアルについて説明しています。

サンプル ヘルプトピックの「サンプルフォームについて」を開きます。このトピックでは、Designer に用意されている各種サンプルフォームについて説明しています。

スクリプティングリファレンス 「スクリプティングリファレンス」を表示します。スクリプティングリファレンスでは、Designer スクリプト環境で使用可能なオブジェクト、プロパティ、メソッドについて説明します。

Designer Online Designer 製品の Web サイトを表示します。

Adobe Developer Connection Adobe Developer Connection の Web サイトを表示します。

Designer について Designer のバージョンと版權情報を表示します。

パレットメニュー

階層パレットメニュー

階層パレットメニューには、階層パレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。マウスの右ボタンをクリックすると、階層パレットのコンテキストメニューにアクセスすることもできます。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、階層パレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

両方表示 オブジェクトの名前とキャプションを両方表示します。

スクリプトインジケータを表示 対象のオブジェクトに隣接する階層パレットに、スクリプトインジケータアイコンを表示します。

連結インジケータを表示 対象のオブジェクトに隣接する階層パレットに、連結インジケータアイコンを表示します。

データ表示パレットメニュー

データ表示パレットメニューには、データ表示パレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。マウスの右ボタンをクリックすると、データ表示パレットのコンテキストメニューにアクセスすることもできます。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、データ表示パレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

新規データ接続 データソースとフォームデザインとの接続の説明を取得し、データ接続を確立します。

データ接続の削除 選択したデータ接続をフォームデザインから削除します。

接続プロパティ 現在のデータ接続のプロパティを表示します。プロパティの中には変更できるものもあります。

フィールドの生成 データ接続が示すデータ階層に対応するフォームデザインにフィールド、サブフォーム、サブフォームセットを新規作成します。

データビューにフィルターを適用 データ表示パレットに表示するノードを選択できます。

データビューのフィルターをクリア データ表示パレットに適用したフィルターをクリアします。

オプション フィールドの生成コマンドを使用し、フィールド / フィールドグループ生成時に適用されるオプションを表示します。

データ名を表示 オブジェクトのデータ名（デフォルト）を表示します。

データ説明を表示 オブジェクトのデータ説明を表示します（最大 25 文字）。オブジェクトに説明が設定されていない場合は、データ名が表示されます。

両方表示 オブジェクトのデータ名と説明の両方を表示します。

情報を表示 データ表示で選択したノードのプロパティの表示 / 非表示を切り替えます。

データ表示の更新 現在のテンプレートにあるすべてのデータ接続を更新します。

タブ順序パレットメニュー

タブ順序パレットメニューには、タブ順序パレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。マウスの右ボタンをクリックすると、タブ順序パレットのコンテキストメニューにアクセスすることもできます。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、タブ順序パレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

コピー 現在の選択範囲のコピーをクリップボードに追加します。

貼り付け クリップボードのコンテンツを、リストの現在の選択範囲の上にコピーします。

タブ順序を編集 選択オブジェクトの横に表示されているタブ順序の番号を編集可能にします。オブジェクトに新しいタブ順序の番号を入力できるようになります。

上へ移動 選択項目または複数の隣接する項目をタブ順序内の 1 つ上に移動します。

下へ移動 選択項目または複数の隣接する項目をタブ順序内の 1 つ下に移動します。

最初に移動 選択項目または複数の隣接する項目をタブ順序内の最初に移動します。

最後に移動 選択項目または複数の隣接する項目をタブ順序内の最後に移動します。

連続にする リスト内で選択された複数の隣接しない項目のタブ順序を連続にします。

地理的順序にする 選択された複数の項目を左から右、上から下へのタブ順序にします。

地理的順序を右から左にする 選択された複数の項目を右から左、上から下へのタブ順序にします。

フィールドのみを表示 入力フィールドまたは表示フィールドのタブ順序だけを表示します。

視覚要素を表示 フィールド上にマウスカーソルを置いたときに、青い矢印が表示され、タブ順序の 2 つ前のフィールドおよび 2 つ後のフィールドが示されます。

PDF 構造パレットメニュー

PDF 構造パレットメニューには、PDF 構造パレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。マウスの右ボタンをクリックすると、PDF 構造パレットのコンテキストメニューにアクセスすることもできます。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、PDF 構造パレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。再表示するにはウィンドウメニューを使用します。

構造にフィールドを追加 「デザインビュー」タブで選択したフィールドオブジェクトから新規フィールド構造要素を作成します。構造ビューで各フィールドに指定できる構造要素は 1 つだけです。

構造からフィールドを削除 選択したフィールド構造要素を削除します。

前のタグ 選択した構造タグから前の構造タグに移動します。

次のタグ 選択した構造タグから次の構造タグに移動します。

フィールドを上へ移動 現在の構造タグで、選択したフィールドの位置を 1 段階上に移動します。選択したフィールドがタグの最初のフィールドの場合は、前の構造タグに移動します。

フィールドを下へ移動 現在の構造タグで、選択したフィールドの位置を 1 段階下に移動します。選択したフィールドがタグの最後のフィールドの場合は、次の構造タグに移動します。

タグなしフィールドを検索 構造を持たないフィールドを探し、識別します。

コンテンツタグを表示 コンテンツタグの表示 / 非表示を切り替えます。

スタイルカタログパレットメニュー

スタイルカタログメニューには、スタイルカタログパレットで使用するコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、スタイルカタログパレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

新しいスタイルシート Designer で空白の Designer スタイルシート（XFS）ファイルを開き、新しいスタイルを作成します。

スタイルシートを追加 スタイルシートを選択ダイアログボックスを開きます。

新しいオブジェクトにデフォルトのスタイルを適用 フォームデザインにオブジェクトを追加する際、デフォルトのスタイルを適用します。新しいオブジェクトにデフォルトのスタイルを適用するには、フォームデザインに追加するオブジェクトの種類ごとにデフォルトのスタイルを選択します。

デフォルトのスタイル設定を編集 デフォルトのスタイルダイアログボックスを開きます。

スタイルシートを埋め込む Designer で、スタイルカタログのすべての外部スタイルシートパネルにあるスタイルが、内部スタイルシートパネルに追加されます。

ソート順 スタイルカタログにある Designer スタイルシート（XFS）ファイルを、名前順または種類別にソート、または非ソートします。

レイアウトパレットメニュー

レイアウトパレットメニューには、レイアウトパレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、レイアウトパレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

絶対座標 サブフォームの左上隅を基準とした X 座標および Y 座標を表示します。固定レイアウトを持つフォームには、絶対座標が最適です。

相対座標 親オブジェクトを基準とした X 座標および Y 座標を表示します。データに合わせて調整されるレイアウトを持つフォームには、相対座標が最適です。

フラグメントプロパティの上書きをクリア フラグメント参照のプロパティから上書きを削除します。

境界線パレットメニュー

境界線パレットメニューには、境界線パレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、境界線パレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

フラグメントプロパティの上書きをクリア フラグメント参照のプロパティから上書きを削除します。

オブジェクトパレットメニュー

オブジェクトパレットメニューには、オブジェクトパレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、オブジェクトパレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

ダイナミックプロパティを表示 ダイナミックプロパティのアクティブなラベルのオン/オフを切り替えます。アクティブなラベルによりダイナミックプロパティを識別することができます。アクティブなラベルには、緑の下線が引かれています。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。

フラグメントプロパティの上書きをクリア フラグメント参照のプロパティから上書きを削除します。

アクセシビリティパレットメニュー

アクセシビリティパレットメニューには、アクセシビリティパレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、アクセシビリティパレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

ダイナミックプロパティを表示 ダイナミックプロパティのアクティブなラベルのオン / オフを切り替えます。アクティブなラベルによりダイナミックプロパティを識別することができます。アクティブなラベルには、緑の下線が引かれています。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。

フラグメントプロパティの上書きをクリア フラグメント参照のプロパティから上書きを削除します。

フォントパレットメニュー

フォントパレットメニューには、フォントパレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、フォントパレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

フォント名をそのフォントでリスト 名前を表示するフォントを使用してフォント名を表示します。

キャプション、値、またはキャプションと値の編集パレットメニュー キャプション、値、またはキャプションと値の編集パレットメニューには、フォントパレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

注意：キャプション、値、またはキャプションと値の編集パレットメニューは、オブジェクト全体が選択されていて、編集 / テキストのロックオプションが選択されていない場合にのみ使用できます。

キャプションと値を編集 フォントパレットでキャプションと値の両方に対して行った変更を適用します。

キャプションの編集 フォントパレットでキャプションに対して行った変更を適用します。

値の編集 フォントパレットで値に対して行った変更を適用します。

段落パレットメニュー

段落パレットメニューには、段落パレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、段落パレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

キャプション、値、またはキャプションと値の編集パレットメニュー キャプション、値、またはキャプションと値の編集パレットメニューには、段落パレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

注意：キャプション、値、またはキャプションと値の編集パレットメニューは、オブジェクト全体が選択されていて、編集 / テキストのロックオプションが選択されていない場合にのみ使用できます。

キャプションと値を編集 フォントパレットでキャプションと値の両方に対して行った変更を適用します。

キャプションの編集 フォントパレットでキャプションに対して行った変更を適用します。

値の編集 フォントパレットで値に対して行った変更を適用します。

描画ツールパレットメニュー

描画ツールパレットメニューには、描画ツールパレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、描画ツールパレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

インチ (小数単位) / センチ (小数単位) / ミリ (小数単位) / ポイント 値をインチ単位またはセンチ単位で表示します。

行 / (インチ / センチ / ミリ / パイカ) 値をインチまたはセンチ単位で表示します。

ガイドライン設定 / [ガイドライン] 水平方向と垂直方向のガイドラインを追加します。

情報パレットメニュー

情報パレットメニューには、情報パレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、情報パレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

レポートパレットメニュー

パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

警告タブ (レポートパレット)

このタブを使用して、フォームデザインの作業中にレポートされたメッセージを表示します。メッセージには 2 つの種類があります。

対象バージョン フォームの対象となる Acrobat および Acrobat Reader のバージョンでサポートされていない機能を使用しようとする则表示されます。

マーカー オブジェクトに問題が起きた場合に、警告マーカー (黄色い三角印や赤色の円に白抜き「X」など) に関連付けられます。

スクリプトの構文チェックの警告も「警告」タブに表示されます。

パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

- **オプション** オプションダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、「警告」タブに表示する警告の種類を選択できます。
- **フォームのプロパティ** フォームのプロパティダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、Designer が各フォームデザインに使用する多くの標準設定 (Acrobat や Adobe Reader の対象バージョンなど) を指定できます。
- **ヘルプ** Designer ヘルプを開き、情報パレットの説明を表示します。

連結タブ (レポートパレット)

このタブを使用して、連結データの定義に基づいてフィールドのリストを表示できます。例えば、グローバルデータ連結が設定されているフィールドのみのリストや、データ連結が定義されていないフィールドのみのリストを表示させることができます。この機能は、特にフォームにデータ連結フィールドが多数ある場合に便利です。

パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。フィールドのリストには、次のようなフィールドが表示されます。

- 通常のデータ連結フィールド
- 参照によるデータ連結フィールド

- グローバルデータ連結フィールド
- データ連結のないフィールド
- データ連結の読み込みのあるフィールド
- データ連結の書き出しのあるフィールド
- データ連結のない接続ノード
- ダイナミックプロパティを連結したオブジェクト

ヘルプ Designer ヘルプを開き、情報パレットの説明を表示します。

ログタブ (レポートパレット)

このタブを使用して、Designer によりレポートされたアクションのログを表示したり、「PDF プレビュー」タブを使用してフォームデザインをプレビューするときに更新内容を表示したりします。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

警告をクリア 「ログ」タブをクリアします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、情報パレットの説明を表示します。

関連項目

112 ページの「[レポートパレットでの警告メッセージの処理](#)」

使い方パレットメニュー

使い方パレットメニューには、使い方パレットを扱うためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、使い方パレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

オブジェクトライブラリパレットメニューとフラグメントライブラリパレットメニュー

オブジェクトライブラリパレットメニュー

オブジェクトライブラリパレットメニューには、オブジェクトライブラリパレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、オブジェクトライブラリパレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

すべてを折りたたむ オブジェクトライブラリパレットにあるオブジェクトを非表示にします。

すべてを展開 オブジェクトライブラリパレットにあるオブジェクトを表示します。

オブジェクトのプレビューを表示 選択したオブジェクトのプレビューペインの表示 / 非表示を切り替えます。

プレビューのズーム / [%] プレビューペインのズームレベルを表示します。

グループの追加 新しいカテゴリをオブジェクトライブラリパレットに追加します。オブジェクトライブラリパレットではオブジェクトを作成および保存することができます。

共有ライブラリの場所 共有ライブラリの場所を表示します。

すべてのグループでオブジェクトをデフォルトに戻す 許可した場合、インストール時にオブジェクトライブラリパレットにあったすべてのオブジェクトが元に戻ります。

標準メニュー

標準メニューには、オブジェクトライブラリパレットの標準オブジェクトで作業するためのコマンドが表示されます。メニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

表示／大きいアイコン オブジェクトを大きいアイコンとして表示します。

表示／小さいアイコン オブジェクトを小さいアイコンとして表示します。

表示／リスト オブジェクトを名前ごとに昇順に表示します。

オブジェクトの移動先／[タブ] 選択したオブジェクトを選択したオブジェクトライブラリパレットのリストに移動します。

オブジェクトをライブラリから削除 選択したオブジェクトをオブジェクトライブラリパレットから削除します。

オブジェクト情報 オブジェクト情報を表示します。オブジェクトの変更が許可されている場合は、このコマンドを使用してオブジェクトの情報を編集できます。

グループの削除 選択したカテゴリとオブジェクトをオブジェクトライブラリパレットから削除します。

グループプロパティ オブジェクトライブラリパレットで選択したカテゴリのプロパティを表示します。共有ライブラリのプロパティは編集できません。

オブジェクトをデフォルトに戻す インストール時に標準カテゴリにあったオブジェクトを元に戻し、オブジェクトを現在のリストに追加します。

カスタムメニュー

標準メニューには、オブジェクトライブラリパレットのカスタムオブジェクトで作業するためのコマンドが表示されます。メニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

表示／大きいアイコン オブジェクトを大きいアイコンとして表示します。

表示／小さいアイコン オブジェクトを小さいアイコンとして表示します。

表示／リスト オブジェクトを名前ごとに昇順に表示します。

オブジェクトの移動先／[タブ] 選択したオブジェクトを選択したオブジェクトライブラリパレットのリストに移動します。

オブジェクトをライブラリから削除 選択したオブジェクトをオブジェクトライブラリパレットから削除します。

オブジェクト情報 オブジェクト情報を表示します。オブジェクトの変更が許可されている場合は、このコマンドを使用してオブジェクトの情報を編集できます。

グループの削除 選択したカテゴリとオブジェクトをオブジェクトライブラリパレットから削除します。

グループプロパティ オブジェクトライブラリパレットで選択したカテゴリのプロパティを表示します。共有ライブラリのプロパティは編集できません。

オブジェクトをデフォルトに戻す インストール時にカスタムカテゴリにあったオブジェクトを元に戻し、オブジェクトを現在のリストに追加します。

バーコードメニュー

バーコードメニューには、オブジェクトライブラリパレットのバーコードオブジェクトで作業するためのコマンドが表示されます。メニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

表示／大きいアイコン オブジェクトを大きいアイコンとして表示します。

表示／小さいアイコン オブジェクトを小さいアイコンとして表示します。

表示／リスト オブジェクトを名前ごとに昇順に表示します。

オブジェクトの移動先／[タブ] 選択したオブジェクトを選択したオブジェクトライブラリパレットのリストに移動します。

オブジェクトをライブラリから削除 選択したオブジェクトをオブジェクトライブラリパレットから削除します。

オブジェクト情報 オブジェクト情報を表示します。オブジェクトの変更が許可されている場合は、このコマンドを使用してオブジェクトの情報を編集できます。

グループの削除 選択したカテゴリとオブジェクトをオブジェクトライブラリパレットから削除します。

グループプロパティ オブジェクトライブラリパレットで選択したカテゴリのプロパティを表示します。共有ライブラリのプロパティは編集できません。

オブジェクトをデフォルトに戻す インストール時にバーコードカテゴリにあったオブジェクトを元に戻し、オブジェクトを現在のカテゴリに追加します。

フラグメントライブラリパレットメニュー

フラグメントライブラリパレットメニューには、フラグメントライブラリパレットで作業するためのコマンドが表示されます。パレットのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、フラグメントライブラリパレットの説明を表示します。

パレットを非表示 パレットを非表示にします。

フラグメントライブラリを開く フラグメントライブラリを参照ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、使用するフラグメントを格納しているフォルダーを選択できます。このフォルダー内のフラグメントは、パレット内の新しいパネルに表示されます。

すべてを展開 すべてのパネルを展開し、各パネルに含まれるフラグメントを表示します。

すべてを折りたたむ すべてのパネルを閉じて、パネル名のみを表示します。

表示／リスト パネルにフラグメントの名前が表示されます。

表示／詳細 パネルにフラグメントの名前と各フラグメントのファイル名が表示されます。

フラグメントのプレビューを表示 選択したフラグメントのプレビューを表示するプレビューペインの表示 / 非表示を切り替えます。

フラグメントライブラリパネルメニュー

フラグメントライブラリパネルメニューには、フラグメントライブラリパレットの個々のパネルで作業するためのコマンドが表示されます。パネルのメニューボタンをクリックしてこのメニューにアクセスします。

[フラグメント]ライブラリを閉じる 現在のライブラリおよびパネルを閉じます。

フラグメントを編集 選択したフラグメントを含むファイルを開きます。

フラグメント情報 フラグメントの名前、説明、およびファイルの場所を表示します。

フラグメントを削除 選択したフラグメントを削除します。

テンプレートマネージャーメニュー

新規およびテンプレートマネージャーダイアログボックスに表示されるメニューには、フォームテンプレートを管理するためのコマンドが用意されています。

ヘルプ Designer ヘルプを開き、ダイアログボックスの説明を表示します。

表示／大きいアイコン オブジェクトを大きいアイコンとして表示します。

表示／リスト オブジェクトを名前ごとに昇順に表示します。

テンプレートの追加 テンプレートファイルの追加ダイアログボックスを開き、ダイアログボックスに追加するテンプレートを指定することができます。

テンプレートの削除 選択したテンプレートをダイアログボックスから削除します。

テンプレート名の変更 ダイアログボックス内のテンプレートの名前を変更します。

テンプレートの移動先／[タブ] テンプレートをダイアログボックスにある別のタブに移動します。

カテゴリの追加 タブをダイアログに追加します。

カテゴリを削除 現在のタブをダイアログボックスから削除します。すべてのタブを削除できるわけではありません。

カテゴリプロパティ タブのプロパティを表示します。プロパティは編集できます。

テンプレートをデフォルトに戻す デフォルトのテンプレートを元の設定に戻します。

ツールバー

ツールバーについて

ツールバーにはよく使われるコマンドのボタンが収められています。次のツールバーが Designer と一緒にインストールされます。

- 標準
- テキスト書式
- レイアウト
- スタイル
- テーブル
- ツール

必要に応じてツールバーを変更したり、新規作成したりできます。

関連項目

631 ページの「[標準ツールバー](#)」

632 ページの「[テキスト書式ツールバー](#)」

633 ページの「[レイアウトツールバー](#)」

633 ページの「[スタイルツールバー](#)」

634 ページの「[テーブルツールバー](#)」

634 ページの「[ツールツールバー](#)」

標準ツールバー



標準ツールバーを使用すると、Designer の一般的なコマンドにすばやくアクセスできます。

新規  新しいフォームデザインを開きます。

開く  既存のフォームデザインを開きます。

保存  アクティブなフォームデザインのコンテンツを保存します。

印刷  レイアウトエディターのアクティブな「デザインビュー」タブまたは「マスターページ」タブの内容を印刷します。フォームをサンプルデータと共に印刷するかどうかを選択できます。

フォームの配布  Designer のフォームが閉じ、Acrobat 配布ウィザードが表示されるので、画面の指示に従って配布プロセスを行います。このコマンドは、スタンドアロンバージョンの Designer でのみ使用できます。

元に戻す  過去のアクションを最大 10 個まで元に戻すことができます。

やり直し  元に戻したアクションを 1 つずつ、最大 10 個までやり直すことができます。

検索  「XML ソース」タブまたはスクリプトエディターで特定の語句の候補をすべて検索します。

グリッドを表示  グリッドの表示 / 非表示を切り替えます。

グリッドにスナップ  「グリッドにスナップ」のオン / オフを切り替えます。オンの場合、描画中またはドラッグ中のオブジェクトを最も近いグリッドポイントにスナップします。

繰り返し描画  このボタンを選択しておくと、オブジェクトライブラリパレットから毎回オブジェクトを選択するのではなく、オブジェクトのコピーを必要な数だけ描画できます。この機能を無効にするには、「繰り返し描画」ボタンをもう一度クリックします。

オブジェクトの境界  ページ上のオブジェクトの周囲に表示される境界線の表示 / 非表示を切り替えます。

100 %表示  ページを 100 %にサイズ設定します。

全体表示  ページをレイアウトエディターに合うようにサイズ設定します。

幅に合わせる  ページをレイアウトエディターの幅に合うようにサイズ設定します。

ズームアウト  より広い領域が見えるように縮小します。

ズーム  詳細を表示する場合はズームイン、広域を表示するにはズームアウトします。

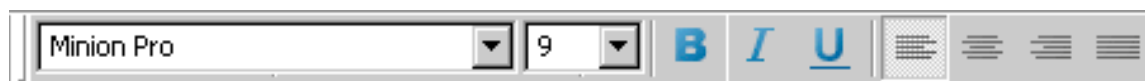
ズームイン  細部まで見えるように拡大します。

使い方パレット  使い方パレットの表示 / 非表示を切り替えます。

スペルチェック  現在の文書の一部またはすべてに対してスペルチェックを行います。

Workbench に切り替え  Designer から Workbench に切り替えます。Designer は開いたままで、必要に応じて戻ることができます。

テキスト書式ツールバー



テキスト書式ツールバーを使用すると、一般的なテキストとパラグラフの書式コマンドにすばやくアクセスできます。

フォント (書式)  選択したテキストのフォント名を表示します。

フォントサイズ  選択したテキストのフォントサイズを表示します。

太字  太字書式を選択したテキストに適用または削除します。

斜体  斜体書式を選択したテキストに適用または削除します。

下線  下線書式を選択したテキストに適用または削除します。

左揃え  テキストを左に揃えます。

中央揃え  テキストを中央に揃えます。

右揃え  テキストを右に揃えます。

均等  テキストの行端を揃えます。

レイアウトツールバー



レイアウトツールバーを使用すると、一般的なレイアウトコマンドにすばやくアクセスできます。

左揃え  選択したオブジェクトの左辺を揃えます。

右揃え  選択したオブジェクトの右辺を揃えます。

上揃え  選択したオブジェクトの上辺を揃えます。

下揃え  選択したオブジェクトの底辺を揃えます。

垂直方向中央配置  選択したオブジェクトの縦中央を揃えます。

水平方向中央配置  選択したオブジェクトの横中央を揃えます。

水平方向に分布  選択したオブジェクトを水平方向に等間隔で配置します。

垂直方向に分布  選択したオブジェクトを垂直方向に等間隔で配置します。

行と列に整列して配置  選択したオブジェクトを行と列に整列して等間隔に配置します。

最前面へ移動  選択したオブジェクトを最前面へ移動します。

最背面へ移動  選択したオブジェクトを最背面へ移動します。

前面へ移動  選択したオブジェクトをその前にある別のオブジェクトよりも前に移動します。

背面へ移動  選択したオブジェクトをその後ろにある別のオブジェクトよりも後ろに移動します。

グループ  選択したオブジェクトをマージして、1つの単位として機能するようにします。1グループのオブジェクトにはいくつでもオブジェクトを入れることができ、深さに関係なく入れ子にできます。

グループ化解除  グループオブジェクトを別々の単位に分割します。

マージ  2つ以上のテキストオブジェクトが選択されている場合に、それらのオブジェクトを1つのオブジェクトにマージします。2つ以上のラジオボタンが選択されている場合は、選択したラジオボタンを含む新しい排他グループを作成します。

スタイルツールバー



スタイルツールバーを使用すると、共通のスタイルコマンドにすばやくアクセスできます。

適用されているスタイル  現在選択されているオブジェクトに適用されたスタイルの名前を表示します。選択したオブジェクトの種類に対して使用できるスタイルを、すべて一覧表示します。この一覧を使用して、スタイルを適用、変更、または削除してください。スタイルが上書きを含む場合は、そのスタイル名にアスタリスク文字 (*) が付きます。

新しいスタイルシートを作成  名称未設定の新しいスタイルシートを作成します。このスタイルシートを保存する場合、デフォルトのファイルの種類は Designer スタイルシート (*.xfs) です。

スタイルシートを追加  Web ブラウザーを開き、Designer スタイルシート (XFS) ファイルを選択し、現在のフォームに追加します。

新しいオブジェクトにデフォルトのスタイルを適用  新しいオブジェクトへのデフォルトスタイルの自動適用を有効または無効にします。

テーブルツールバー



テーブルツールバーを使用すると、一般的なテーブルコマンドにすばやくアクセスできます。

テーブルの挿入  テーブルの挿入ダイアログボックスを開きます。

下に行を挿入  選択した行のセルの下、または行の下に、行を挿入します。挿入される行数は、選択されている行数と同じです。

右側に列を挿入  選択されている列の最右列の右側に、列を挿入します。挿入される列数は、選択されている列数と同じです。

セルの結合  同じ行にある複数の隣接するセルを 1 つのセルに結合します。

セルを横に分割  同じ行内で結合された 2 つ以上のセルを個別のセルに分割します。

行の削除  選択したセルが含まれるすべての行を削除します。

列の削除  選択したセルが含まれるすべての列を削除します。

テーブルに変換  選択された 1 つ以上のオブジェクトをテーブルに変換します。

サブフォームに変換  選択された 1 つ以上のオブジェクトをサブフォームに変換します。

ツールツールバー



ツールツールバーを使用すると、一般的なツールにすばやくアクセスできます。

ツールを選択  オブジェクトを選択します。

手のひらツール  ページの表示位置を動かし、どの領域でも表示できるようにします。手のひらツールによる Designer ページの移動は、デスク上の用紙を手で動かす動作と似ています。

フィールド編集ツール  オブジェクトのタイプを変更します。

ズームツール  細部まで見えるように拡大します。

タブの順序を表示 / 非表示  現在のタブの順序を表示または非表示にします。

ダイアログボックスリファレンス

アクションビルダーダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、アクションの作成、表示および編集を行います。

このダイアログボックスを表示するには、ツール/アクションビルダーを選択します。

新しいアクションを追加 「アクション」リストに新しいアクションを追加します。デフォルト名（「新しいアクション」）をクリックしてアクションの名前を変更します。

既存のアクションを削除 「アクション」リストで選択したアクションを削除します。

アクション フォーム内のすべてのアクションを一覧表示します。

条件 条件を追加または削除します。追加ボタンまたは削除ボタンをクリックして、条件を追加または削除します。

タイミング（リンク） オブジェクトを選択ダイアログボックスを開きます。条件を作成するために選択できるフォーム内のすべてのオブジェクトが一覧表示されます。

結果 結果を追加または削除します。追加ボタンまたは削除ボタンをクリックして、結果を追加または削除します。

結果を選択 結果オプションを一覧表示します。

関連項目

88 ページの「[アクションの作成](#)」

追加のアセットダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、ビデオ、サウンド、画像、テキスト、XML、SWC ファイルなどのアセットの追加、削除および埋め込みを行います。

このダイアログボックスを表示するには、Flash フィールドオブジェクトを選択し、オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックしてから「編集」をクリックします。

アセットを埋め込む フォームにアセットを埋め込みます。アセットはデフォルト設定では埋め込まれていません。新規アセットを追加すると、そのアセットの「埋め込み」列には「いいえ」が表示されます。

追加 追加のアセットを参照ダイアログボックスを開き、ファイル選択を有効にします。

削除 選択したアセットをリストから削除します。

名前 アセット名を表示します。

URL アセットの URL を表示します。

埋め込み アセットが埋め込まれている場合は「はい」、埋め込まれていない場合は「いいえ」を表示します。

関連項目

417 ページの「[Flash フィールド](#)」

297 ページの「[Flash フィールドの使用](#)」

連結プロパティダイアログボックス

データ連結をフォームデザイン上の既存のフィールドに関連付ける場合は、このダイアログボックスを使用してフォームオブジェクトのプロパティを変更します。データ連結は、データ表示パレットからノードをオブジェクト上にドラッグするか、オブジェクトパレットの「連結」タブを使用して、フォームオブジェクトに関連付けることができます。498 ページの「[連結されたフィールドまたはサブフォームを作成するには](#)」を参照してください。

このダイアログボックスは、フォームオブジェクトでデータ連結をサポートしている場合にのみ表示されます。ラジオボタンオブジェクトの連結を設定する際には表示されないことに注意してください。

このダイアログボックスを表示するには、データ表示パレットからフォームデザインの既存のフィールドにノードをドラッグするか、またはオブジェクトパレットの「連結」タブを使用して連結ノードを指定します。

すべての関連プロパティを更新する フォームオブジェクトのすべてのプロパティを更新し、連結するオブジェクトのプロパティに一致させます。

フォームオブジェクトの種類が連結する種類とは異なり、「すべての関連するプロパティを更新する」を選択している場合、フォームオブジェクトの種類は連結する種類に合うように変更されます。例えば、フォームオブジェクトがテキストフィールドで、連結するオブジェクトが数値フィールドの場合、「すべての関連するプロパティを更新する」を選択すると、フォームオブジェクトが数値フィールドに変更されます。オブジェクトの種類を変更するかどうかを制御するには、「次のプロパティのみ更新する」オプションを使用します。

次のプロパティだけを更新する フォームオブジェクトのプロパティのうち、連結するオブジェクトのプロパティに応じて更新されるものを一覧表示します。特定のプロパティのみが更新されるように指定することができます。すべてのオプションを選択すると、「すべての関連するプロパティを更新する」オプションを選択した場合と同じ結果になります。

一覧に表示されるプロパティは、フォームオブジェクトと連結するオブジェクトの組み合わせによって異なります。フォームオブジェクトと連結するオブジェクトが同じオブジェクトの場合、更新可能なプロパティとして次のオプションが一覧表示されることがあります。

- 名前
- キャプション
- 詳細情報
- オカレンス
- 検証スクリプト

名前とキャプションのプロパティは必ず表示されます。その他のプロパティは、フォームオブジェクトと連結するオブジェクトに適している場合に表示されます。例えば、連結に検証スクリプト情報が含まれる場合は、検証スクリプトのオプションが表示されます。

フォームオブジェクトと連結の組み合わせに応じて、Designer では、そのオブジェクトの種類に関連するオプションも表示されます。更新可能なプロパティとして表示される可能性がある、種類ごとのオプションを次に表示します。

- データパターン（テキストフィールド、日付 / 時間フィールドのみ）
- デフォルト値（画像フィールド以外のすべてのフィールド）
- 画像 URL（画像フィールドのみ）
- 項目リスト（コンボボックスのみ）
- 最大文字数（テキストフィールドのみ）

フォームオブジェクトと連結オブジェクトの種類が同一の場合は、Designer では、前述のプロパティのほか、種類に応じたプロパティが表示されます。ただし、フォームオブジェクトと連結オブジェクトの種類が異なる場合は、「種類」オプションが表示され、種類ごとのプロパティがすべて表示されます。この場合、種類ごとのプロパティを更新するには「種類」オプションを選択しておく必要があります。「種類」オプションを選択しない場合、種類に応じたプロパティは 1 つも更新されません。

フォームオブジェクトの種類を変更したくない場合は、「種類」オプションの選択を解除します。

関連プロパティを更新しない 連結プロパティ以外のオブジェクトのプロパティが変更されないように指定します。

次回から表示しない データ表示パレットからレイアウトエディターにノードをドラッグしたときに、連結プロパティダイアログボックスが表示されないようにします。

オブジェクトのプロパティが、データソース内のデータアイテムのプロパティに一致するように更新されることはありません。

連結プロパティダイアログボックスを再度表示するには、データ表示パレットを右クリックして、「オプション」を選択し、次に「連結プロパティダイアログを表示」オプションを選択します。

関連項目

497 ページの「[データソースへのフィールドの連結](#)」

スペルチェックダイアログボックス

このダイアログボックスでは、選択したオブジェクトまたはフォーム全体でスペルが間違っている単語を個別またはすべて一括して修正したり、カスタム辞書に単語を追加したり、無視する単語リストを作成したり、オプションダイアログボックスにスペルパネルを開いたりします。

注意： Designer のデフォルトの設定では、テキストオブジェクト、キャプション、ツールヒント、カスタムスクリーンリーダーテキスト、リストボックスの項目など、フォームの各種オブジェクトに関連付けられているすべてのテキストについて、スペルチェックが実行されます。Designer でチェックするテキストの種類を管理する場合は、オプションダイアログボックスのスペルパネルにあるスペルチェックリストのオプションを選択します。詳しくは、672 ページの「[スペル \(オプションダイアログボックス\)](#)」を参照してください。

このダイアログボックスを表示するには、ツール/スペルチェックを選択します。

辞書にない単語 文中で見つかったスペルの間違いを表示します。例えば、ツールヒントのテキストにスペルの間違いがあった場合は、そのツールヒントのテキストがすべて表示され、スペルの間違いがハイライト表示（赤い太字）されます。このボックスに直接入力してスペルの間違いを修正できます。このボックスでテキストを修正した場合は、赤い太字で示されていたスペルの間違いのハイライト表示が解除され、1 回無視、すべて無視、辞書に追加、すべて変更、元に戻すボタンは選択できなくなります。

検出場所 スペルチェックを行っているオブジェクトを示す参照構文を表示します。

修正候補 ハイライト表示された単語の代替スペル候補を表示します。

1 回無視 スペルの間違った単語を今回は無視します。Designer で同じスペルの間違いが再度あった場合は、ハイライト表示します。

すべて無視 このスペルの間違った単語はすべて無視します。無視する単語のリストにこの単語が追加され、Designer では一時的にこの単語がスペルミスのある単語として認識されなくなります。この単語は、Designer を再起動するまで、すべてのスペルチェックで無視されます。無視する単語のリストは、Designer を起動するたびにクリアされます。

辞書に追加 ハイライト表示されている単語を「カスタム辞書」の全言語に追加します。Designer では、この単語がスペルミスのある単語として認識されなくなります。

変更 スペルミスのある（ハイライト表示された）単語を、修正候補リストから選択した単語または「辞書にない単語」ボックスに入力した単語に置き換えます。

すべて変更 スペルミスのある（ハイライト表示された）単語をすべて、修正候補リストで選択した単語と置き換えます。

元に戻す 直前の変更を元に戻します。

オプション オプションダイアログボックスのスペルパネルを開きます。スペルパネルで行った変更はすぐに有効となり、現在のスペルチェックに反映されます。例えば、スペルチェックリストの「ツールヒント」チェックボックスをクリアすると、Designer はツールヒントのテキストはチェックしません。

閉じる スペルチェックダイアログボックスを閉じます。

コレクションエディターダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、署名フィールドまたは Paper Forms Barcode のコレクションに含めるオブジェクトを選択します。

このダイアログボックスを表示するには、(Paper Forms Barcode が選択されている状態で) オブジェクトパレットの「値」タブにある「修正」をクリックします。

名前 選択したコレクションの名前を表示します。

コレクションタイプ 変更するコレクションの種類を指定します。署名と Paper Forms Barcode という 2 種類のコレクションがあります。

このリストでは、オブジェクトが階層構造で示され、コレクションに含めるオブジェクトを選択したり、選択解除したりできます。

サポートされていないノードを隠す 選択したコレクションでサポートされていないオブジェクトを非表示にします。サポートされていないノードを非表示にすると、コレクションに含めるオブジェクトを見つけやすくなります。

関連項目

557 ページの「[署名フィールドを追加するには](#)」

453 ページの「[「署名」タブの署名フィールドプロパティ](#)」

263 ページの「[バーコードのデータ取得方法を管理するには](#)」

323 ページの「[フォームオブジェクトコレクションの使用](#)」

コレクションリストダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、署名フィールドと Paper Forms Barcode のオブジェクトのコレクションを作成、コピー、削除、編成および変更します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル/フォームオブジェクトコレクションをクリックします。

コレクション 署名フィールドと Paper Forms Barcode のコレクションを表示します。署名フィールドと Paper Forms Barcode では、それぞれ異なる種類のオブジェクトが使用されるので、コレクションはそのどちらか一方に適用され、両方には適用されません。署名フィールドについて利用できるコレクションは、オブジェクトパレットの「署名」タブに表示されます。Paper Forms Barcode について利用できるコレクションは、オブジェクトパレットの「値」タブに表示されます。

新規 コレクションリストの末尾に新しいコレクションを作成します。

複製 選択したコレクションのコピーをコレクションリスト内に作成します。

上へ移動 コレクションリスト内で、選択したコレクションを上へ移動します。

下へ移動 コレクションリスト内で、選択したコレクションを下へ移動します。

変更 コレクションエディターダイアログボックスを開き、コレクションに含まれるオブジェクトのリストを変更できるようにします。

関連項目

- 557 ページの「署名フィールドを追加するには」
- 453 ページの「**「署名」** タブの署名フィールドプロパティ」
- 263 ページの「**バーコード**のデータ取得方法を管理するには」
- 323 ページの「**フォームオブジェクトコレクション**の使用」

接続プロパティダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、選択したデータ接続の名前を変更します。

このダイアログボックスを表示するには、データ接続を選択し、データ表示パレットメニューの「接続プロパティ」を選択します。

接続名 データソース接続名を表示します。この入力ボックスを使用してデータソース接続名を変更します。

関連項目

- 487 ページの「**データソース**の操作」
- 490 ページの「**XML スキーマ**へのデータ接続の作成」
- 492 ページの「**OLE データベース**へのデータ接続の作成」
- 495 ページの「**WSDL ファイル**を使用したデータ接続を作成する」

フラグメントを作成ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、選択したオブジェクトからフラグメントを作成します。

このダイアログボックスを表示するには、フラグメントに含めるオブジェクトを選択し、編集／フラグメント／フラグメントを作成を選択します。

LiveCycle アプリケーションでフラグメントを作成すると、そのフラグメントはリポジトリに保存され、Workbench のアプリケーションビューに表示されます。

名前 フラグメントの名前を入力します。選択項目が名前付きのサブフォームまたはスクリプトオブジェクトである場合は、オブジェクトの名前がデフォルト値になります。選択項目が名前なしのオブジェクトであった場合や、複数のオブジェクトが選択されていた場合は、デフォルト値は「フラグメント <n>」（<n> は数字）です。

説明 オプション。フラグメントの説明を入力します。

フラグメントライブラリに新しいフラグメントを作成 指定したライブラリにフラグメントファイルを作成します。

フラグメントライブラリ 新しいフラグメントが保存されるフラグメントライブラリです。フラグメントを保存するライブラリがリストに表示されていない場合は、「フラグメントライブラリを開く」を選択します。

ファイル名 フラグメントを格納する XDP ファイルの名前です。デフォルト値はフラグメント名です。

選択内容を新しいフォームフラグメントへの参照と置き換える 選択内容を、新しいフラグメントファイルへの参照に置き換えます。フラグメントファイルを後で更新すると、フラグメント参照も更新されます。

現在のドキュメントに新しいフラグメントを作成 選択項目を現在のファイル内のフラグメントとして定義します。新しいフラグメントファイルは作成されません。例えば、同じ XDP ファイルおよびライブラリ内に複数のフラグメントを作成するには、このオプションを選択します。

ツールバーのユーザー設定ダイアログボックス

ツールバー（ツールバーのユーザー設定ダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、表示または非表示にするツールバーの選択、新しいツールバーの作成、ユーザーが作成したツールバーの名前変更または削除を行います。ツールヒントの表示または非表示も選択できます。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／ユーザー設定を選択し、「ツールバー」をクリックします。

ツールバーを表示 / 非表示 どのツールバーを表示または非表示にするかを指定します。表示するツールバーの横のチェックボックスを選択します。

ツールヒントを表示 マウスポインターをツールバーのコマンドの上に置いたときにツールヒントが表示されるかどうかを指定します。

新規 ツールバーを作成します。ツールを追加または削除することにより、ツールバーをカスタマイズします。

名前変更 選択したツールバーの名前を変更します。ユーザーが作成したツールバーの名前のみ変更できます。

削除 選択したツールバーを削除します。ユーザーが作成したツールバーのみ削除できます。

コマンド（ツールバーのユーザー設定ダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、ツールバーのコマンドとセパレーターを追加または削除します。ツールバーをデフォルト設定にリセットすることもできます。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／ユーザー設定を選択し、「コマンド」をクリックします。

表示 ツールバーのボタンとして選択できるコマンドのリストを表示します。リストをコマンドのタイプでフィルタリングできます。「すべてのコマンド」を選択すると、使用可能なすべてのコマンドがリストに表示されます。

ツールバーにツールを追加 クリックすると、選択したコマンドがツールバーに追加されます。

ツールバーに区切りを追加 クリックすると、ツールバーにセパレーターが追加されます。セパレーターは、ツールバーの共通コマンドをグループ化するのに役立ちます。セパレーターを削除するには、そのセパレーターを選択し、「ツールバーからツールを削除」をクリックします。

ツールバーからツールを削除 クリックすると、選択したコマンドまたはセパレーターがツールバーから削除されます。

ツールバーを編集 現在編集しているツールバーを指定します。リストには、選択したツールバーのボタンが表示されます。

ツールバーをデフォルトにリセット 選択したツールバーのデフォルトのボタンを復元します。ユーザーが作成したツールバーには使用できません。

ツールを上に移動 クリックすると、選択したコマンドまたはセパレーターがリスト内で上に移動します。

ツールを下に移動 クリックすると、選択したコマンドまたはセパレーターがリスト内で下に移動します。

データ表示オプションダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、「フィールドの生成」コマンドでフィールドまたはフィールドグループを生成するときに適用されるオプションを設定します。

このダイアログボックスを表示するには、データ表示パレットメニューから「オプション」を選択します。

検証スクリプトの生成 新規フィールドに対する検証スクリプトを生成します。フィールドに生成される検証スクリプトは JavaScript スクリプトです。検証スクリプトでは、例えば、フィールドの値が許可リストにある値であるかどうかをチェックすることができます。

詳細情報の生成 詳細情報を生成します。

テーブルの生成を許可 データ表示パレットからレイアウトエディターにテーブルノードをドラッグしたときに、テーブルを作成します。このオプションを選択解除すると、Designer は階層化されたフローサブフォームまたは位置固定サブフォームを作成します。

任意のテーブルにヘッダー行を作成 作成されるテーブルごとにヘッダー行を作成します。

連結プロパティダイアログを表示 データ表示パレットからレイアウトエディターにノードをドラッグしたときに、連結プロパティダイアログボックスを表示します。

このオプションを選択解除すると、データ表示パレットからレイアウトエディターにノードをドラッグしても、オブジェクトのプロパティがデータソース内のデータアイテムのプロパティに一致するように更新されません。

関連項目

507 ページの「[フィールドの生成オプションの設定](#)」

タブストップを削除ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、未使用のタブストップを削除します。

このダイアログボックスを表示するには、編集／タブストップを削除を選択します。

クリア リストから選択したタブストップを削除します。

すべてをクリア リストに表示されたすべてのタブストップを削除します。

デジタル ID ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、データ接続の作成に使用する Web サービス記述語（WSDL）ドキュメントにアクセスするために使用するデジタル ID を選択したり、または Designer デジタル ID ファイルストアにデジタル ID を追加したりします。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプション／セキュリティ／デジタル ID を選択します。

「Windows の証明書ストア」タブ（デジタル ID ダイアログボックス）

デジタル ID を読み込む Windows の証明書読み込みウィザードを開きます。このウィザードで、Windows の証明書ストアに読み込むデジタルファイル（*.p12 または *.pfx）の場所を指定し、ファイルへのアクセスに必要なパスワードを入力します。552 ページの「[デジタル ID の読み込み](#)」を参照してください。

デジタル ID を削除 現在表示されているリスト（Windows の証明書ストアまたは Designer デジタル ID ファイルストア）から、選択したデジタル ID ファイルを削除します。

デジタル ID を表示 Windows の証明書ストアで使用可能なデジタル ID を表示します。

「デジタル ID ファイル」タブ（デジタル ID ダイアログボックス）

ID ファイルを追加 デジタル ID を追加ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、Designer デジタル ID ファイルストアに追加するデジタルファイル（*.p12 または *.pfx）の場所を指定し、ファイルへのアクセスに必要なパスワードを入力します。552 ページの「[デジタル ID の読み込み](#)」を参照してください。

ID ファイルを削除 現在表示されているリスト（Windows の証明書ストアまたは Designer デジタル ID ファイルストア）から、選択したデジタル ID ファイルを削除します。

デジタル ID を表示 証明書ビューアダイアログボックスを開きます。ここには、選択された証明書（デジタル ID）に関する一般的な情報と詳細情報が表示されます。

関連項目

677 ページの「[セキュリティ \(オプションダイアログボックス\)](#)」

552 ページの「[デジタル ID の読み込み](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

ダイナミックプロパティダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、フォームオブジェクトプロパティをデータソースの値とダイナミックに連結することができます。これにより、フォームオブジェクトプロパティ（コンボボックスやリストボックスの項目リストなど）にデータソースの値をダイナミックに埋め込むことができます。

このダイアログボックスを表示するには、アクティブなラベルがオンになっていることを確認してから、ダイナミックデータ連結がアタッチされているフォームオブジェクトプロパティを選択し、次のいずれかのアクティブなラベルをクリックします。

- 項目リストおよび項目の値を指定（コンボボックスまたはリストボックスの場合）
- キャプション
- 検証パターンのメッセージ
- 検証スクリプトのメッセージ
- ツールヒント
- カスタムのスクリーンリーダーテキスト

データ接続 ダイナミックデータ連結に使用するデータ接続を指定します。データソースにまだ接続していない場合、データ接続リストで選択できるのは「デフォルトのデータ連結」のみです。

通常のデータ連結と同様に、1 つ以上の WSDL データ接続を指定することができます。

アイテム コンボボックスまたはリストボックスの項目リストへのデータ埋め込みに使用されるノードセットを指定します。

「<なし>」を選択すると、選択されているプロパティの連結が解除されます。文字列を選択する代わりに、文字列を入力することもできます。

このオプションは、コンボボックスおよびリストボックスの「項目リスト」および「項目の値を指定」アクティブなラベルをクリックすると、使用できるようになります。OLEDB データ接続を使用する場合、「アイテム」ボックスは使用できません。「項目テキスト」ボックスと「項目の値」ボックスを使用して、リストへのデータの埋め込みに使用するデータベースの列を選択します。

項目テキスト 実行時に表示されるユーザーにわかりやすいラベルを指定します。選択できる連結は、「アイテム」ボックスで選択されているノードセットの子孫のみです。

「<なし>」を選択すると、選択されているプロパティの連結が解除されます。文字列を選択する代わりに、文字列を入力することもできます。

このオプションは、コンボボックスおよびリストボックスの「項目リスト」および「項目の値を指定」アクティブなラベルをクリックすると、使用できるようになります。

項目の値 データソースに送信されるデータ値を指定します。選択できる連結は、「アイテム」ボックスで選択されているノードセットの子孫のみです。このオプションは省略可能です。このボックスを空白のままにしておくと、「項目テキスト」の文字列がデータソースに送信されます。

「<なし>」を選択すると、選択されているプロパティの連結が解除されます。文字列を選択する代わりに、文字列を入力することもできます。

このオプションは、コンボボックスおよびリストボックスの「項目リスト」および「項目の値を指定」アクティブなラベルをクリックすると、使用できるようになります。

バインド 選択したプロパティの連結を設定します。選択できる連結は、選択したデータ接続に使用できる連結のみです。

「<なし>」を選択すると、選択されているプロパティの連結が解除されます。文字列を選択する代わりに、文字列を入力することもできます。

このオプションは、「キャプション」、「検証パターンのメッセージ」、「検証スクリプトのメッセージ」、「ツールヒント」および「カスタムのスクリーンリーダーテキスト」アクティブなラベルをクリックすると、使用できるようになります。

関連項目

516 ページの「[データソースからフォームオブジェクトプロパティへのダイナミックなデータの埋め込み](#)」

条件付き改行の編集ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、サブフォーム、サブフォームセット、テーブル、ヘッダー行、ボディ行およびセクションの条件付き改行ステートメントを作成します。条件付き改行は従来の改ページよりも柔軟で、単一オブジェクトの複数改ページが許可されます。

このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- サブフォームオブジェクトを選択し、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブにある「編集」をクリックします。選択するサブフォームオブジェクトは、フローサブフォームオブジェクト内のフォームデザイン上に存在している必要があります。
- サブフォームセットオブジェクトを選択し、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブにある「編集」をクリックします。
- テーブルオブジェクトを選択し、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブにある「編集」をクリックします。選択するテーブルオブジェクトは、フローサブフォームオブジェクト内のフォームデザイン上に存在している必要があります。
- テーブルヘッダー行を選択し、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブにある「編集」をクリックします。ヘッダー行と関連付けられたテーブルは、フローサブフォームオブジェクト内のフォームデザイン上に存在している必要があります。
- テーブルボディ行を選択し、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブにある「編集」をクリックします。ボディ行と関連付けられたテーブルは、フローサブフォームオブジェクト内のフォームデザイン上に存在している必要があります。
- テーブルフッター行を選択し、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブにある「編集」をクリックします。フッター行と関連付けられたテーブルは、フローサブフォームオブジェクト内のフォームデザイン上に存在している必要があります。
- テーブルセクションを選択し、オブジェクトパレットの「ページ編集」タブにある「編集」をクリックします。選択するテーブルセクションは、フローサブフォームオブジェクト内のフォームデザイン上に存在している必要があります。

追加 現在のオブジェクトの新しい改ページ条件を追加します。現在、条件付き改行が選択されている場合、選択したエントリの前に新規エントリが作成されます。

削除 現在選択されているオブジェクトの改ページ条件を削除します。

上へ移動 現在選択されている条件付き改行をリストの上方に移動します。

下へ移動 現在選択されている条件付き改行をリストの下方に移動します。

タイミング 条件付き改行をいつ実行するかを表す式を指定します。

改行条件として使用するのに有効なオブジェクトを選択するには、サンプル式の挿入ボタンを使用します。条件が **true** に評価される場合、条件付き改行を強制的に実行するサンプルステートメントが **Designer** によって挿入されます。

サンプル式の挿入ボタンは、フォームデザインに有効なオブジェクトが存在しない限り、無効になっています。

言語 演算やスクリプトに使用するスクリプト言語を指定します。選択できるスクリプト言語は次の2つです。

- **FormCalc** 短いスクリプトに適した、Adobe 独自の演算言語です。
- **JavaScript** より複雑なスクリプトのための、機能が多く柔軟なスクリプト言語です。

言語リストに表示されるスクリプト言語は、オプションダイアログボックスのワークスペースパネルで新規フォームのデフォルトとして選択したスクリプト言語オプションと一致します。ただし、フォームのプロパティダイアログボックスの「デフォルト」タブで現在のフォームのスクリプト言語設定を変更した場合は、条件付き改行の編集ダイアログボックスのそれぞれの新しい条件付き改行で同じ言語が使用されます。

実行場所 演算やスクリプトを実行する場所を指定します。次の3つのオプションがあります。

- **クライアント** 演算やスクリプトは、クライアントアプリケーション（例えば、Acrobat や Web ブラウザー）がフォームを処理するときに実行します。
- **サーバー** 演算やスクリプトは、サーバーアプリケーション（例えば Forms）がフォームを処理するときに実行します。
- **クライアント / サーバー** 演算やスクリプトは、フォームを処理するアプリケーションに応じて、クライアントまたはサーバーによる処理時に実行します。

改行 条件付き改行が実行される場所を指定します。

- **前** 現在のサブフォーム、サブフォームセット、テーブル、ヘッダー行、ボディ行、フッター行またはセクションの直前。
- **後** 現在のサブフォーム、サブフォームセット、テーブル、ヘッダー行、ボディ行、フッター行またはセクションの直後。

目的 条件付き改行の後、改ページされたサブフォームの残りのフィールドおよびデータを配置する場所を判別します。

- **コンテンツ領域内 / [コンテンツ領域名]** 指定されたコンテンツ領域内で再開します。
- **次のコンテンツ領域の先頭** 次のコンテンツ領域の先頭で再開します。
- **コンテンツ領域の先頭 / [コンテンツ領域名]** 指定されたコンテンツ領域の先頭で再開します。
- **ページ / [ページ名]** 指定ページで再開します（指定したページが現在のページと異なる場合、改ページを挿入します）。
- **次のページの先頭** 次のページの先頭で再開します（改ページが挿入されます）。
- **ページの先頭 / [ページ名]** 指定のページがレンダリングされる場合に、そのページの先頭で再開します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。
- **奇数ページ** 次の奇数ページで再開します。
- **次のページの先頭** 次の奇数ページの先頭で再開します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。
- **偶数ページ** 次の偶数ページで再開します。
- **次のページの先頭** 次の偶数ページの先頭で再開します（自動的に改ページが行われない場合は、改ページを挿入します）。
- **改行なし。リーダーとトレーラーのみ** 前のサブフォーム、サブフォームセット、テーブル、ヘッダー行、ボディ行、またはフッター行の後にオブジェクトを配置します。サブフォーム、サブフォームセット、テーブル、ヘッダー行、ボディ行、フッター行またはセクションが、現在のコンテンツ領域に収まらない場合のみ、新規コンテンツ領域に切り替えます。

リーダー 条件付き改行に使用するリーダーのサブフォームを指定します。

- **[サブフォーム / テーブル名]** 既存のサブフォーム、サブフォームセット、テーブル、ヘッダー行またはボディ行をオーバーフローリーダーとして使用します。
- **なし** オーバーフローリーダーは使用しません。

トレーラー 条件付き改行に使用するトレーラーのサブフォームを指定します。

- **【サブフォーム / テーブル名】** 既存のサブフォーム、サブフォームセット、テーブル、ヘッダー行またはボディ行をオーバーフロートレーラーとして使用します。
- **なし** オーバーフロートレーラーは使用しません。

関連項目

213 ページの「[サブフォームの使用](#)」

221 ページの「[サブフォームセットの使用](#)」

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

223 ページの「[繰り返されるサブフォームを作成するには](#)」

226 ページの「[条件ステートメントを使用してサブフォームとサブフォームセットの改ページを制御するには](#)」

203 ページの「[条件ステートメントを使用してテーブル、ヘッダー行、ボディ行およびセクション区切りを制御するには](#)」

データが指定されたサブフォームを編集ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、選択肢サブフォームセットのサブフォームまたは選択肢セクションの行の表示を制御します。

このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- 選択肢サブフォームセットを選択し、オブジェクトパレットの「サブフォームセット」タブにある「代替オブジェクトの編集」をクリックします。
- 選択肢セクションを選択し、オブジェクトパレットの「セクション」タブにある「代替オブジェクトの編集」をクリックします。

名前がデータ要素または属性に一致するサブフォームを選択 選択肢サブフォームセットの単一サブフォームまたは選択肢セクションの行を、データ接続の類似名を持つデータと一致させます。データノードのいずれかと一致する名前のサブフォームまたは行のみが、フォームレイアウトに表示されます。

式を使用してサブフォームを選択 選択肢サブフォームセットの単一サブフォームまたは選択肢セクションの単一行を、データ接続内のユーザー定義データノードと関連付けます。次に、「式」フィールドで等式および不等式のような関係スクリプト式を使用して、名前の付いたサブフォームまたは行をフォームレイアウトに表示するために満たす必要のある条件を示します。別のサブフォームリスト内で最初に **true** に評価される式がフォームに表示されます。

データ接続 現在のデータ接続の名前を指定します。

- **デフォルトのデータ連結** 現在、フォームデザインにはデータ接続が指定されていません。
- **【データ接続名】** そのフォームデザインに現在定義されているデータ接続の名前です。

追加 新規サブフォームオブジェクトを選択肢サブフォームセットに追加するか、新規行を選択肢セクションに追加します。新規サブフォームまたは行を追加すると、別のサブフォームリストで現在選択されているサブフォームオブジェクトの複製が追加されます。選択されているサブフォームまたは行がない場合、名前の付いていない新規サブフォームが選択肢サブフォームセットまたは選択肢セクションに追加されます。

削除 現在選択されているサブフォームまたは行オブジェクトを、現在の選択肢サブフォームセットまたは選択肢セクションから削除します。

上へ移動 別のサブフォームリストで現在選択されているエントリをリストの上方に移動します。

下へ移動 別のサブフォームリストで現在選択されているエントリをリストの下方に移動します。

名前 選択肢サブフォームセット内のサブフォームオブジェクトの名前または選択肢セクション内の行の名前を指定します。

バインド 現在のデータ接続で使用可能なすべての連結オプションを指定します。

- **【データノード名】** サブフォームまたは行を、データ接続内のこのデータノードエントリに連結します。
- **<なし>** データ接続のユーザー定義のデータノードを使用したデータ連結を無効にします。サブフォームまたは行が存在する場合、引き続きデータ接続の類似名データノードに連結されています。

注意: また、連結フィールドにはユーザー定義の連結を直接入力できます。

式 等式および不等式のような関係スクリプト式を指定して、名前の付いたサブフォームまたは行をフォームレイアウトに表示するために満たす必要のある条件を示します。

式が指定されていない場合、条件付き改行の値は **true** であると見なされます。

言語 演算やスクリプトに使用するスクリプト言語を指定します。選択できるスクリプト言語は次の 2 つです。

- **FormCalc** 短いスクリプトに適した、Adobe 独自の演算言語です。
- **JavaScript** より複雑なスクリプトのための、機能が多く柔軟なスクリプト言語です。

関連項目

213 ページの「[サブフォームの使用](#)」

221 ページの「[サブフォームセットの使用](#)」

153 ページの「[テーブルの使用](#)」

474 ページの「[「セクション」タブのセクションプロパティ](#)」

辞書の編集ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、個別言語または全言語のカスタム辞書で使用可能な単語リストを表示したり、リストされた単語のスペルを変更したり、個別言語または全言語から単語を追加および削除したりすることができます。

このダイアログボックスを表示するには、ツール/辞書の編集を選択します。

言語 選択可能な言語を一覧表示します。言語を選択すると、その言語に関連付けられた単語リストが表示されます。

単語 単語リストから選択した単語がこのボックスに表示され、スペルを修正または変更できます。また、新しい単語を入力し、「カスタム辞書」に追加することもできます。

追加 単語ボックスに入力した新しい単語を「カスタム辞書」に追加します。

削除 選択した単語を、選択した言語に関連付けた単語リストから削除します。

完了 辞書の編集ダイアログボックスを閉じます。

フラグメント識別子を編集ダイアログボックス

デフォルトのフラグメント名の代わりにカスタム識別子を使用する場合は、このダイアログボックスを使用します。このダイアログボックスで、フラグメント識別子を表示したり、編集したりできます。

このダイアログボックスを表示するには、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブで「フラグメント名」リストから「カスタム」を選択します。

フラグメントの識別の基準 フラグメントを識別するために使用するメソッドを選択します。

SOM 式 フラグメントを識別する SOM 式を入力します。これはフラグメントファイルに含まれるフラグメントの内容のルートノードを一意に識別する必要があります。例えば、`$template.form.#subform.MyFragment` のようにします。

ID フラグメントを識別する ID 値を指定します。大部分の ID は、Designer で生成されます。ID には、それが含まれるドキュメント内で一意の有効な XML ID 文字列であれば何でも使用できます。

ハイパーリンクを編集ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、URL と電子メールのハイパーリンクを編集します。

このダイアログボックスを表示するには、挿入／ハイパーリンクを選択します。

URL URL ハイパーリンクを作成するときに選択します。

電子メール 電子メールハイパーリンクを作成するときに選択します。

- **電子メールアドレス** 1 つ以上の電子メールアドレスを入力します。
- **件名** 適切な件名を入力します（オプション）。

データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックス

データの暗号化（データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックス）

このパネルを使用して、フォームを送信する前に暗号化するフォームコンテンツを選択します。このパネルを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信」を選択して、「送信」タブをクリックします。次に、「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「データを暗号化」をクリックします。
- 電子メール送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「データを暗号化」をクリックします。
- HTTP 送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「データを暗号化」をクリックします。

データだけを暗号化 送信に含まれるフォームデータのみを暗号化します。このオプションがデフォルト設定です。

送信全体を暗号化 注釈、PDF 文書など、フォームデータと添付ファイルを暗号化します。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」

暗号化アルゴリズム（データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックス）

このパネルを使用して、フォームコンテンツの暗号化に使用する暗号化アルゴリズムを指定します。

このパネルを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信」を選択して、「送信」タブをクリックします。次に、「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「暗号化アルゴリズム」をクリックします。
- 電子メール送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「暗号化アルゴリズム」をクリックします。
- HTTP 送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「暗号化アルゴリズム」をクリックします。

暗号化アルゴリズム 使用できる暗号化アルゴリズムを一覧表示します。

暗号化の実行者に指定した暗号化アルゴリズムを使用するよう求める 指定した暗号化アルゴリズムを暗号化の実行者が使用する必要があることを示します。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」

暗号化証明書（データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックス）

このパネルを使用して、ドキュメントの暗号化の実行者を特定する暗号化証明書と件名の識別名を指定します。

このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信」を選択して、「送信」タブをクリックします。次に、「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「暗号化証明書」をクリックします。
- 電子メール送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「暗号化証明書」をクリックします。
- HTTP 送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「暗号化証明書」をクリックします。

暗号化の証明書を指定する 使用可能な暗号化証明書を一覧表示します。

- **追加** ユーザー証明書の選択ダイアログボックスを開き、暗号化証明書を参照して追加できるようにします。
- **削除** 選択された証明書をリストから削除します。
- **詳細** 証明書ビューアを開き、選択された証明書に関する詳細を表示できるようにします。表示される詳細情報は、どの証明機関（CA）の証明書がインストールされているかによって異なります。
- **指定した証明書だけに暗号化を制限する** テーブルで選択されている公開暗号化証明書についてのみフォームが暗号化されることを作成者が指定できるようにします。

件名の識別名（DN）を指定する 暗号化証明書の件名の識別名（DN）を指定します。暗号化証明書内の件名の識別名には複数の属性があります。識別名の例は、O = My Company、OU = My Department、CN = My Name、C = My Country などです。この例に含まれる属性は、O が Organization、OU が Organizational Unit、CN が Common Name、C が Country です。

- **追加** DN をリストに追加します。
- **削除** 選択された DN をリストから削除します。
- **上へ移動** 選択された DN をリスト内で上に移動します。
- **下へ移動** 選択された DN をリスト内で下に移動します。
- **昇順に並べ替え** 表示されている DN のエントリを昇順に並べ替えます。
- **降順に並べ替え** 表示されている DN のエントリを降順に並べ替えます。
- **指定した件名の識別名を持つ証明書だけに暗号化を制限する** テーブル内の公開暗号化証明書で、条件を満たしているものについてのみコンテンツが暗号化されることを作成者が指定できるようにします。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」

発行者とポリシー（データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックス）

このパネルを使用して、証明書の発行者、証明書ポリシーおよび関連オブジェクト識別子（OID）を指定します。このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信」を選択して、「送信」タブをクリックします。次に、「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「発行者とポリシー」をクリックします。
- 電子メール送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「発行者とポリシー」をクリックします。
- HTTP 送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「発行者とポリシー」をクリックします。

証明書発行者 暗号化の実行者に対して暗号化証明書を提供できる発行者を識別する証明書を一覧表示します。

- **追加** 発行者の証明書の選択ダイアログボックスを開き、発行者の証明書を参照して追加できるようにします。
- **削除** 選択された発行者の証明書をリストから削除します。
- **詳細** 証明書ビューアを開き、選択された発行者の証明書に関する詳細を表示できるようにします。表示される詳細情報は、どの証明機関（CA）の証明書がインストールされているかによって異なります。

指定した発行者からの証明書だけに暗号化を制限する テーブル内の公開暗号化証明書で、条件を満たしているものについてのみコンテンツが暗号化されることを作成者が指定できるようにします。

証明書ポリシーおよび関連オブジェクト識別子 コンテキスト XML 暗号化で使用する、受信者の暗号化証明書の証明書ポリシーを表すオブジェクト識別子（OID）を一覧表示します。

- **追加** オブジェクト識別子を追加します。
- **削除** 選択されたオブジェクト識別子を削除します。

指定したポリシーに適合する証明書だけに暗号化を制限する テーブル内の公開暗号化証明書で、条件を満たしているものについてのみコンテンツが暗号化されることを作成者が指定できるようにします。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」

キーの使用（データおよび送信時の設定を暗号化ダイアログボックス）

このパネルを使用して、暗号化証明書によって要求または除外される鍵用途パラメーターを指定して、XML 暗号化でできるようにします。

このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信」を選択して、「送信」タブをクリックします。次に、「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「鍵用途」をクリックします。
- 電子メール送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「鍵用途」をクリックします。
- HTTP 送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「鍵用途」をクリックします。

鍵用途の設定は、証明書の鍵用途パラメーターを表します。各鍵用途のチェックボックスによって、関連するコンボボックスが有効または無効になります。それぞれのコンボボックスで、「鍵要素を要求」または「鍵要素を除外」を選択できます。

鍵用途を要求 指定した鍵用途パラメーターが、暗号化証明書によって要求されることを示します。

鍵用途を除外 指定した鍵用途パラメーターが、暗号化証明書によって除外されることを示します。

鍵用途の設定を満たしている署名証明書のみ使用する 各鍵用途の設定リストに示された条件を満たしている公開暗号化証明書についてのみコンテンツが暗号化されることを、作成者が指定できるようにします。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」

スタイルシートを抽出ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用し、内部スタイルシートからスタイルを抽出して、外部スタイルシートファイル（XFS）に適用させます。このダイアログボックスを表示するには、内部スタイルシートパネルのメニューをクリックして、「新しいスタイルシートにスタイルを抽出」を選択します。

保存する場所 ファイルやフォルダーの場所を指定します。

ファイル名 選択したファイルの名前を表示します。

次の形式で保存 スタイルシートファイル保存時のファイルの種類として、デフォルトで Designer スタイルシート（*.xfs）が表示されます。

内部スタイルシートを新しい外部スタイルシートへの参照に置き換える 内部スタイルシートを、新しい外部スタイルシートへの参照に置き換えます。

ファイルの読み込みオプション

Adobe Output Designer フォーム（ファイルの読み込みオプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、Adobe Output Designer フォームファイルの読み込みに関するオプションを設定します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／開くを選択し、開く Output Designer フォームファイルを選択します。

変換処理のトレースログを生成 変換処理に関する情報を記録し、ASCII テキストエディターを使用して読むことができる一時ログファイルをシステムの一時フォルダーに作成します。次のオプションのいずれか 1 つを選択して、ログファイルの配置場所を指定します。

- ログを出力しない: ログファイルは生成されません。
- %TEMP%\ConvertIFD.log : ConvertIFD.log というログファイルをシステムの一時フォルダーに生成します。
- %TEMP%\inputfile.log : 入力ファイルと同じ名前を使用してシステムの一時フォルダーにログファイルを生成します。
例えば、入力ファイルの名前が ABC.ifd である場合、ログファイルの名前は ABC.log となります。読み込んだファイルごとにログファイルを作成します。

Output Designer の PDF 設定を使用する Output Designer 構成ファイル（pdf.ics）および構成ファイルのコンパイルバージョン（pdf.icf）を使用し、PDF フォームファイルを生成します。

指定されたフィールドをグローバルフィールドとして同期する 一致する名前を持つフィールドオブジェクトを同期させてグローバルデータ連結を使用します。フォーム内の同じ名前のすべてのフィールドオブジェクトにグローバル値を適用します。

フィールドのみ読み込む 階層から名前の付いていないサブフォームをすべて削除します。

Microsoft InfoPath（ファイルの読み込みオプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、Microsoft® InfoPath ファイルの読み込みに関するオプションを設定します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／開くを選択し、開く InfoPath ファイルを選択します。

変換中の表示を選択するプロンプトを表示 ビューの選択を求めるプロンプトが表示されます。InfoPath ファイルにビューが 1 つしかない場合、このオプションを選択していても、プロンプトは表示されません。

表示 変換するビューの名前を指定します。デフォルトビューを変換するには、ボックスを空白のままにしておきます。「変換中の表示を選択するプロンプトを表示」オプションが選択されている場合、このオプションは無視されます。

印刷設定を読み込む InfoPath フォームのヘッダーおよびフッター、ページの向き、ページ余白を読み込みます。「印刷設定を読み込む」オプションを選択する場合、ページのサイズと向きは InfoPath フォームから取得され、ページのサイズおよび向きを選択する必要はありません。

ページサイズ 変換されたフォームのページサイズを指定します。デフォルトのページサイズを変換するには、「デフォルト」を選択します。

印刷の向き 変換されたページの向きを指定します。

ログファイルの生成 「ログを出力しない」以外のオプションが選択されている場合、Adobe® LiveCycle® Digital Signatures 11 はユーザーが選択した名前と位置を使用してログファイル (*.log) を作成します。ログファイルには、変換処理に関する情報が記録されます。ログファイルは、ASCII テキストエディターを使用して読むことができます。

画像を XDP に埋め込む このオプションを選択すると、InfoPath ファイル内の画像が変換され、変換されたフォームに埋め込まれます。このオプションを選択していない場合、Digital Signatures は画像を変換せず、画像のプレースホルダーを挿入します。

関連項目

149 ページの「[InfoPath ファイルの読み込み](#)」

150 ページの「[Designer での Microsoft InfoPath オブジェクトの変換方法](#)」

Microsoft Word（ファイルの読み込みオプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、Microsoft® Word 文書ファイルの読み込みに関するオプションを設定します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／開くを選択し、開く Word ファイルを選択します。

ファイルを開くときのパスワード Word ファイルを開くのにパスワードの入力が必要な場合は、このボックスにパスワードを入力してください。

ファイルの保護を解除するときのパスワード Word ファイルが保護されており（ユーザーが指定エリアにしかデータを入力できない）、保護を解除するのにパスワードの入力が必要な場合は、このボックスにパスワードを入力してください。

見つからないフォントを無視 Digital Signatures は、Word ファイルにお使いのコンピューターでは使用できないフォントが含まれているかどうかを検出します。この問題を処理するためには、見つからないフォントをインストールするか、Word 上で適切なフォント置き換えルールを設定します。このオプションを選択すると、Digital Signatures は見つからないフォントを使用可能なフォントで置き換え、フォント置き換えエラーメッセージはまったく表示されません。

画像の変換 このオプションを選択すると、画像が変換され、変換されたフォームに埋め込まれます。このオプションを選択していない場合、Digital Signatures は画像を変換せず、画像のプレースホルダーを挿入します。

ログファイルの生成 「ログを出力しない」以外のオプションが選択されている場合、Digital Signatures はユーザーが選択した位置にログファイル (*.log) を作成します。ログファイルには、変換処理に関する情報が記録されます。ログファイルは、ASCII テキストエディターを使用して読むことができます。ログファイル名には、フォームファイルの名前が含まれます。

関連項目

146 ページの「[Word ファイルの読み込み](#)」

146 ページの「[Designer での Word オブジェクトおよび設定の変換方法](#)」

147 ページの「[Word の変換上の問題を避ける方法について](#)」

XForms モデル（ファイルの読み込みオプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、XForms モデルファイルの読み込みに関するオプションを設定します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／開くを選択し、開く XForms モデルファイルを選択します。

スキーマをインラインに埋め込む XForms ドキュメントにスキーマが設定されている場合に、出力 XDP ファイルにスキーマを埋め込みます。

作業ディレクトリを設定 Designer が、データ XML ファイルや XML スキーマファイルなど、XForms ドキュメントに含まれている可能性がある相対ファイルパスをチェックする場所を指定します。このフォルダーを指定しなかった場合、デフォルトの作業ディレクトリは読み込まれた XForm と同じ場所になります。この場所は、ログファイルや一時的なインスタンスのデータファイルが作成される場所ではありません。

ログファイルの生成 変換出力メッセージを格納した、生成済みのログファイルを配置する場所を指定します。次のオプションのいずれかを選択できます。

- ログを出力しない: ログファイルは生成されません。
- %TEMP%\ConvertXForms.log : ConvertXForms.log という名前のログファイルを、Documents and Settings\%username%\Local Settings (Windows XP) フォルダーまたは Users\%username%\AppData\Local\Temp (Windows Vista) フォルダーに生成します。各ファイルには、ConvertXF38512.log のように一意の番号が追加されます。

フォームのプロパティダイアログボックス

情報（フォームのプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、フォームデザインに関する一般的な情報を取得して表示します。例えば、「ファイル」オプションではファイル名およびフォームデザインの位置へのパスが表示されます。

PDF アートワークを含む PDF 文書で作業する場合、「情報」タブの情報は読み取り専用となり、編集するには Acrobat を使用する必要があります。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／フォームのプロパティを選択し、「情報」をクリックします。

ファイル ファイル名とそのファイルまでのパスを表示します。フォームデザインを保存すると、ファイル名が作成されます。

タイトル フォームデザイン名を指定します。

説明 フォームデザインの説明を指定します。

作成者 フォームデザインの作成者を指定します。

連絡先 補足的な連絡先の情報を指定します。

部署 社内でフォームデザインを所有する部署を指定します。

作成日時 フォームデザインが作成された日付を指定します。

バージョン フォームデザインの現在のバージョンを指定します。

バージョンの日付 フォームデザインの現在のバージョンの日付を指定します。

カスタムプロパティ フォームのカスタムプロパティ（著作権 URL など）を指定します。

関連項目

32 ページの「[フォームの詳細の追加](#)」

デフォルト（フォームのプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスでは、Designer がそれぞれのフォームデザインに適用するいくつかの標準的な設定を指定することができます。必要に応じて、これらの設定を個々のフォームデザイン用に上書きすることが可能です。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／フォームのプロパティを選択し、「デフォルト」をクリックします。

対象バージョンを選択 フォームを実行する Acrobat および Adobe Reader のデフォルトの対象バージョンを指定します。Designer によって作業中にフォームデザインが検証され、追加した機能が選択した Acrobat および Adobe Reader の対象バージョンの検証でエラーになる場合は、レポートパレットの「警告」タブに警告メッセージが表示されます。また、選択した対象バージョンと一致するバージョンの Acrobat がインストールされている必要があります。インストールされていないと、「PDF プレビュー」タブをクリックしたときに、エラーメッセージまたは警告メッセージが表示されます。選択した対象バージョンは、フォームを保存するときに、名前を付けて保存ダイアログボックスの下端にも表示されます。

フォームのロケール フォームデザインのデフォルトの言語、国、または地域を指定します。これにより、フォームに表示される日付、時刻、日時、数値および通貨の値の形式と区切り文字が定義されます。ロケールオプションは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。フォームのロケールはスペルチェック機能で使用する言語も定義します。複数ロケール向けの出力を印刷できるフォームの場合は、「ビューアのシステムロケール」オプションを選択します。

デフォルト言語 現在のフォームデザインに使用するデフォルトのスクリプト言語を指定します。JavaScript または FormCalc を選択することができます。最初に表示されるスクリプト言語は、オプションダイアログボックスのワークスペースパネルで新規フォームのデフォルトとして選択したスクリプト言語オプションと一致します。新規フォームのスクリプト言語を設定するには、オプションダイアログボックスのワークスペースパネルにある「新規フォームのデフォルト言語」リストを使用します。671 ページの「[ワークスペース（オプションダイアログボックス）](#)」を参照してください。

デフォルト実行位置 テンプレート上のスクリプトを実行するデフォルトの位置を指定します。指定できるオプションは次のとおりです。

- **クライアント** スクリプトをクライアントで実行する必要があることを示しています。このオプションがデフォルトです。
- **サーバー** スクリプトをサーバーで実行する必要があることを示しています。実行結果がブラウザに返されます。
- **クライアント / サーバー** スクリプトがクライアントとサーバーの両方で実行できることを示します。

関連項目

18 ページの「[レポートパレット](#)」

実行時（フォームプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、スクリプティングの変更保存についての実行時スクリプトオプションを指定します。また、JavaScript デバッガーおよび JavaScript コンソールの可用性を管理します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／フォームのプロパティを選択し、「実行時」をクリックします。

一時ファイルへ文書の変更を自動保存する Acrobat または Adobe Reader X のフォームの自動保存を有効または無効にします。Acrobat または Adobe Reader の保存設定に従ってフォームコンテンツを定期的に自動で保存するように指定します。preSave スクリプトは実行されません。サイズの大きいフォームの内容を保存する場合、パフォーマンスが低下することがあります。

注意：ユーザーが Acrobat Reader での作業中に変更を一時ファイルへ保存できるのは、Reader Extensions のフォームに適切な権限が適用された場合のみです。

保存時にスクリプティングの変更をフォームに保持 フォームを保存するときに、スクリプトの変更をフォームに保持する方法を指定します。

- **自動** フォームを保存するときに、フォーム内のスクリプトの変更を自動的に保持することを指定します。フォームが承認済みである場合、スクリプトの変更は保存されません。フォームが未承認である場合は、フォームを承認できなくなります。
- **手動で** フォームを保存するときに、フォーム内のスクリプトの変更をスクリプトによって保持することを指定します。そのためには、delta スクリプトオブジェクトを使用する必要があります。手動オプションは、承認済みのフォームに適しています。

JavaScript で厳密なスコープ規則を強制 JavaScript に厳密なスコープ規則を適用します。厳密なスコープ規則を適用すると、フォームのパフォーマンスが向上し、スクリプトがさらに使いやすくなります。パフォーマンスの向上は、Acrobat 8.1 以降向けのフォームに適用されます。

Acrobat 8.1 より前のバージョン向けのフォームでは、厳密なスコープを適用しないでください。厳密なスコープを選択してから、Acrobat 8.1 より前のバージョンを選択すると、スクリプトが予期せぬ動作をしたり、動作しない場合があります。

JavaScript デバッガー JavaScript デバッガーの可用性を設定します。Acrobat X および Adobe Reader X 向けのフォームでのみ使用できます。

- **JavaScript デバッグを有効にする** ユーザーが JavaScript デバッガーを有効にできます。
- **JavaScript デバッグを無効にする** ユーザーが JavaScript デバッガーを無効にできます。
- **PDF ビューアで JavaScript デバッグの可用性を決定** ユーザーが JavaScript デバッグを PDF Viewer（デフォルト設定）に割り当てることができます。

JavaScript コンソール JavaScript コンソールの可用性を設定します。Acrobat X および Adobe Reader X 向けのフォームでのみ使用できます。

- **JavaScript コンソールを有効にする** ユーザーが JavaScript コンソールを有効にできます。
- **JavaScript コンソールを無効にする** ユーザーが JavaScript コンソールを無効にできます。
- **PDF ビューアで JavaScript コンソールの可用性を決定** ユーザーが JavaScript コンソールの可用性を PDF Viewer（デフォルト設定）に割り当てることができます。

詳しくは、『[スクリプティング基礎](#)』の「演算とスクリプトのデバッグ」を参照してください。

書式設定（フォームのプロパティダイアログボックス）

現在のフォームのみに「ハイフネーション」、または「ウィドウとオーファンの制御」オプションを設定するには、このダイアログボックスを使用します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル/フォームのプロパティ/書式設定を選択します。

単語の最低文字数 <x> 文字 ハイフネーション処理する単語に含まれる最低文字数を指定します。例えば、値に「7」を入力すると、7 文字以上の単語のみがハイフネーション処理されます。最小値は「2」で、最大値は「99」です。

最初の行の後 <x> 文字 行のハイフンの前に表示する単語の最低文字数を指定します。例えば、値に「2」を入力すると、最低でも単語の最初の 2 文字がハイフネーションの前の行に表示されます。最小値は「1」で、最大値は「99」です。「単語の最低文字数」ボックスの値よりも小さくする必要があります。

最後の行の前 <x> 文字 次の行のハイフンの後に表示する単語の最低文字数を指定します。例えば、値に「4」を入力すると、最低でも単語の最後の 4 文字が次の行に表示されます。最小値は「1」で、最大値は「99」です。「単語の最低文字数」ボックスの値よりも小さくする必要があります。

大文字で始まる単語をハイフネーション処理する 文の先頭にある単語など、大文字で始まる単語をハイフネーション処理します。

すべて大文字の単語をハイフネーション処理する 略語など、すべてが大文字の単語をハイフネーション処理します。

テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールド、署名フィールドなど、オブジェクトのキャプション領域にあるテキストオブジェクトのハイフネーション処理を許可します。

テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する テキストフィールドオブジェクト（デフォルトのテキストおよびフォーム入力者が入力したテキスト）の値領域のハイフネーション処理を許可します。

すべてをハイフネーション処理する テキストオブジェクトのテキストや、テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールド、署名フィールドなどのオブジェクトのキャプション領域のテキスト、およびテキストフィールドオブジェクトの値領域（デフォルトのテキストおよびフォーム入力者が入力したテキスト）をハイフネーション処理します。このオプションは、「テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する」オプションと「テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する」オプションのいずれかまたは両方を選択しているときに使用できます。

すべてのハイフネーションを削除する テキストオブジェクトのテキストや、テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールド、署名フィールドなどのオブジェクトのキャプション領域のテキスト、およびテキストフィールドオブジェクトの値領域（デフォルトのテキストおよびフォーム入力者が入力したテキスト）の、すべてのハイフネーションを削除します。

ウィドウとオーファンの制御 テキストおよびテキストフィールドオブジェクトのウィドウとオーファンを制御します。ウィドウは、その行だけが次のページの先頭に表示される段落の最後の行です。オーファンは、その行だけがページの最後に表示される段落の最初の行です。ウィドウおよびオーファン制御を使用すると、最低でも段落の 2 行がまとめて処理されます。

関連項目

96 ページの「[テキストのハイフネーション処理](#)」

96 ページの「[ハイフネーションを設定する際の考慮点](#)」

98 ページの「[新しいフォームのハイフネーションを設定するには](#)」

56 ページの「[フォームのウィドウ行とオーファン行を制御するには](#)」

56 ページの「[フォームからウィドウとオーファンの制御を削除するには](#)」

デフォルトフォント（フォームのプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、現在のフォームに使用するデフォルトフォントのプロパティの調査や変更を行います。このダイアログボックスを表示するには、ファイル／フォームのプロパティをクリックし、左側のリストから「デフォルトフォント」を選択します。

デフォルトのキャプションフォントプロパティ 現在のフォーム内のキャプションに使用するデフォルトフォントプロパティを設定します。

- **書体** フォントの種類を設定します。
- **サイズ** フォントのサイズを設定します。
- **スタイル** フォントのスタイルを設定します。
- **既存のキャプションにプロパティを適用** 選択した書体、サイズ、スタイルのプロパティを、現在のフォーム内のキャプションに適用します。

デフォルトの値フォントプロパティ 現在のフォーム内の値に使用するデフォルトフォントプロパティを設定します。

値のフォントプロパティは、キャプションのデフォルトフォントプロパティと同じです。

デフォルトのプロパティにリセット 現在のフォーム内のキャプションおよび値に使用するデフォルトフォントプロパティを元に戻します。

関連項目

673 ページの「[デフォルトフォント \(オプションダイアログボックス\)](#)」

693 ページの「[キャプションテキストの書式設定 \(スタイルエディターダイアログボックス\)](#)」

フォームの検証 (フォームのプロパティダイアログボックス)

このダイアログボックスを使用して、Acrobat でユーザーがフォームを送信するときに、検証メッセージボックスを表示したり、データが無効または入力されていない失敗したフィールドや必須フィールドをハイライト表示したり、検証に失敗した最初のフィールドにフォーカスを設定したりする方法を制御します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／フォームのプロパティ／フォームの検証を選択します。

ダイアログメッセージを表示 Acrobat で検証メッセージボックスの表示方法を設定するためのオプションを表示します。

- **Acrobat の検証メッセージボックス表示方法を設定する** Acrobat で検証メッセージボックスの表示方法を設定するためのオプションを有効にします。
- **各メッセージを別々のメッセージボックスで順番に表示する** ユーザーが現在のメッセージを閉じるたびに、新しい検証エラーメッセージを表示します。
- **失敗したすべてのフィールドに関するメッセージを結合して 1 つのメッセージボックスに表示する** 検証エラーを 1 つのリストに結合します。
- **失敗した最初のフィールドに関するメッセージを表示し、他のメッセージは表示しない** 最初の検証エラーメッセージだけを表示します。
- **メッセージボックスをまったく表示しない** すべての検証メッセージを表示しません。

失敗したフィールドを色付き表示 検証に失敗したフィールドをハイライト表示する境界線色と背景色を選択するためのオプションを表示します。

- **検証に失敗したフィールドを別の色で表示する** 選択した境界線色と背景色を検証に失敗したフィールドに適用します。このオプションにより、「境界線色」オプションと「背景色」オプションも有効になります。
- **境界線色** カラーパレットを開きます。選択した色が、検証に失敗したフィールドの境界線に適用されます。
- **背景色** カラーパレットを開きます。選択した色が、検証に失敗したフィールドの背景に適用されます。

必須フィールドを色付き表示 検証に失敗した必須フィールドをハイライト表示する境界線色と背景色を選択するためのオプションを表示します。このオプションにより、「境界線色」オプションと「背景色」オプションも有効になります。

- **まだ入力されていない必須のフィールドを別の色で表示する** 選択した境界線色と背景色を検証に失敗した必須フィールドに適用します。このオプションにより、「境界線色」オプションと「背景色」オプションも有効になります。
- **境界線色** カラーパレットを開きます。選択した色が、検証に失敗した必須フィールドの境界線に適用されます。
- **背景色** カラーパレットを開きます。選択した色が、検証に失敗した必須フィールドの背景に適用されます。

フォーカスを設定 • **検証に失敗した最初のフィールドにフォーカスを設定する** 検証に失敗した最初のフィールドを選択します。

関連項目

123 ページの「[Acrobat での検証エラーの表示](#)」

359 ページの「[ユーザー入力を検証するには](#)」

サーバー（フォームのプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、フォームデザインのサーバーおよび印刷キャッシュのプロパティを指定します。印刷キャッシュのオプションにより、指定した印刷出力のサーバーサイドの処理およびパフォーマンスが向上します。ただし、これらのオプションを選択することで、フォームデザインのファイルサイズが大きくなったり、クライアントサイドのパフォーマンスが低下したりすることがあります。複数の「印刷」オプションを選択すると、フォームデザインのファイルサイズが大幅に大きくなります。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／フォームのプロパティを選択し、「サーバー」をクリックします。

関連項目

576 ページの「[サーバー処理用のフォームを作成する際の考慮点](#)」

564 ページの「[最適なパフォーマンスを考慮したフォームの作成](#)」

変数（フォームのプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、フォームデザインに基づくストリング変数を指定します。この変数は、現在のフォームデザインで保存されます。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／フォームのプロパティを選択し、「変数」をクリックします。

変数 現在のフォームデザイン内のすべての変数を表示します。

追加 新規の変数を定義するときはこのボタンをクリックします。変数リストで変数名を、右の編集ボックスで変数の値を指定する必要があります。

フォームデザイン内の各変数はそれぞれ異なる名前を持つ必要があります。変数名に使用されるアルファベットの大文字と小文字は区別されません。

スペースを変数名の中で使用することはできません。Designer では、Enter キーを押すと、カーソルが自動的に右の編集ボックスに移動します。

変数が値を持たない場合、Designer はその変数を現在のセッションを超えてフォームデザインで保存しません。

削除 変数リストで現在選択されている変数を削除するときはこのボタンをクリックします。

詳しくは、『[Designer スクリプティングリファレンス](#)』の「変数」を参照してください。

PDF セキュリティ（フォームのプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、PDF フォームへのアクセスを制限します。アクセスを制限するには、パスワードを指定したり、PDF フォームの印刷や変更の機能などを制限します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／フォームのプロパティを選択し、「PDF セキュリティ」をクリックします。

文書を開くときにパスワードが必要 PDF フォームがユーザーにフォームを開くためのパスワードを要求することを示します。PDF でフォームデザインを保存するときに、パスワードを設定するよう要求されます。

パスワードをクリア PDF フォームを開いて文書を印刷したり、編集したりするために必要なパスワードを削除します。PDF でフォームデザインを保存するときに、パスワードを設定するよう要求されます。

文書の印刷および編集とセキュリティ設定にパスワードが必要 エンドユーザーが PDF フォームを印刷したり、編集したりするために正しいパスワードを入力する必要があることを示します。PDF 形式でフォームデザインを保存するときに、エンドユーザーはパスワードを設定するよう要求されます。

印刷を許可 ユーザーがフォームを印刷できるように設定します。印刷を許可する場合には、リストから印刷の解像度を選択します。リストのオプションは次のとおりです。

- 低解像度 (150 dpi)

- 高解像度

変更を許可 ユーザーが PDF フォームを変更できるかどうかを示します。変更を許可する場合は、ユーザーに許可する変更の種類を選択します。リストのオプションは次のとおりです。

- ページの挿入、削除、回転
- フォームフィールドの入力と署名
- 注釈の作成、フォームフィールドの入力と署名
- ページの抽出を除くすべての操作

テキスト、画像、およびその他の内容のコピーを有効にする ユーザーがテキスト、画像およびその他の内容をコピーできるよう設定します。

スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする ユーザーがスクリーンリーダーデバイスを使って文書にアクセスできるよう設定します。

文章メタデータを暗号化しない「情報」タブに入力された情報が PDF フォームで保存されることを示します。

関連項目

552 ページの「[セキュリティの設定](#)」

561 ページの「[PDF セキュリティオプションの使用](#)」

PDF 印刷オプション（フォームのプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、印刷ジョブの正しい設定をユーザーに任せる代わりに、フォームのデザインで PDF フォームの印刷設定を指定します。PDF フォームを開いたときに印刷ダイアログボックスが表示されるように指定すると、ユーザーはすぐにフォームを印刷できます。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／フォームのプロパティを選択し、「PDF 印刷オプション」をクリックします。

この PDF フォームの印刷にこれらの印刷設定を使用する PDF フォームを印刷するためのオプションが含まれます。

注意： Acrobat 8（スタティック）PDF フォームまたは Acrobat 8（ダイナミック）XML フォームとして保存されているフォームデザインに対してのみ、以下のオプションを設定することをお勧めします。

- **コピー数** 印刷する部数を指定します。
- **両面印刷モード** 両面印刷設定を指定します。両面印刷オプションを選択する場合は、選択するプリンターが両面印刷をサポートしている必要があります。

ページの拡大 / 縮小 印刷設定をユーザーに任せる代わりに、フォームデザインで設定を指定できます。

- **Acrobat / Reader の設定を使用する** Acrobat / Reader の印刷ダイアログボックスで選択した「ページの拡大 / 縮小」オプションを使用して印刷します。
- **ページの拡大 / 縮小なし** ページの拡大 / 縮小を「なし」に設定します。
- **ユーザーによる変更を禁止** ユーザーはページの拡大 / 縮小を変更できません。

ページサイズに基づいて給紙方法を選択 ページサイズに基づいて給紙方法を選択します。

開いたときにフォームを自動的に印刷する PDF フォームを開いたときに印刷するためのオプションが含まれます。

- **ユーザーのデフォルトのプリンターに出力する** ユーザーのデフォルトのプリンター（ローカルプリンターまたはネットワークプリンター）を使用して PDF フォームを印刷します。
- **出力先** PDF フォームを印刷するプリンターを指定します。

関連項目

64 ページの「[フォームの印刷](#)」

互換性（フォームのプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、Designer バージョン 6 で作成したフォームをバージョン 7 に更新します。古いバージョンのフォームを更新すると、一部のテキストがシフトして、手動調整が必要となる場合があります。また、コンボボックスの enter および exit イベントのスクリプト処理が影響を受けます。古いバージョンのフォームを主に Acrobat 7.0.5 または Adobe Reader 7.0.5 以降で表示する場合は、この「互換性」ダイアログボックスを使用してバージョン 7 に更新してください。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル/フォームのプロパティを選択し、「互換性」をクリックします。

フォームがバージョン 6 で作成されていた場合は、バージョン 7 へのアップデートに使用するボタンが表示されます。

「レンダリングモデルを元に戻す」 すべてのバージョンの Acrobat で、Designer の以前のバージョンで利用できたフォームのレンダリングモデルを使用するようにします。

デフォルトでは、Acrobat は PDF フォームのレンダリングに新しいフォームのレンダリングモデル（ダイレクトレンダリング）を使用するようになりました。新しいフォームのレンダリングモデルでは、以前のフォームのレンダリングモデルよりも高いパフォーマンスが得られます。ただし、新しいフォームのレンダリングモデルを使用すると、以前のレンダリングモデルを使用するレガシーフォームの外観とパフォーマンスに差異が生じることがあります。

「テキストの書式設定を元に戻す」 または **「テキストの書式設定を更新」** 以前のバージョンの Designer からフォームを開いた場合、テキストの書式設定ルールが異なります。

現在のテキストの書式設定ルールを使用するには、「テキストの書式設定を更新」をクリックします。古いバージョンのフォームを更新すると、一部のテキストがシフトして、手動調整が必要となる場合があります。

バージョン 6 のテキストの書式設定ルールを使用するには、「テキストの書式設定を元に戻す」をクリックします。

「イベントモデルを元に戻す」 または **「イベントモデルの更新」** 以前のバージョンの Designer からフォームを開いた場合、フォームの enter イベントの動作が異なります。バージョン 7 では、ユーザーが初めてコンボボックス内をクリックすると、reenter プロパティが false に設定されて enter イベントが送られます。ユーザーがフィールド内を再度クリックするか、Enter キーを押すと、reenter プロパティが true に設定されて再度 enter イベントが送られます。

現在のイベント処理ルールを使用するには、「イベントモデルの更新」をクリックします。ユーザーがコンボボックスをクリックするたびに enter イベントを発生させる場合は、イベントモデルを更新します。

バージョン 6 のイベント処理ルールを使用するには、「イベントモデルを元に戻す」をクリックします。例えば、Designer バージョン 6 で作成されたフォームを使用し、最初の enter イベントでのみサーバーからデータをダウンロードする場合は、古いイベントモデルをそのまま維持するか、古いイベントモデルに戻します。

プレビュー（フォームのプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用することで、フォームデザインをプレビューするために、別のオプションを指定することができます。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル/フォームのプロパティを選択し、「プレビュー」をクリックします。

プレビュータイプ 「PDF プレビュー」タブを使用するときにプレビューしたいフォームの種類を指定します。

- **インタラクティブフォーム** インタラクティブデータの取得用のフィールドを含むフォームを表示する場合にこのオプションを選択します。フォームデザインをプレビューすると、結果のフォームがインタラクティブな PDF として開きます。
- **印刷フォーム（片面）** 用紙の片面に印刷するフォームのプレビューを表示する場合にこのオプションを選択します。フォームデザインをプレビューする際に、すべてのオブジェクトはインタラクティブでなくなります。
- **印刷フォーム（両面）** 用紙の両面に印刷するフォームのプレビューを表示する場合にこのオプションを選択します。フォームデザインをプレビューする際に、すべてのオブジェクトはインタラクティブでなくなります。

プレビューデータを生成 このオプションは、サンプルフォームデータを生成する場合に選択します。フォームデザインをプレビューするときに、サンプルデータにマージされます。プレビューするフォームデザインの繰り返しサブフォームの回数を指定することもできます。

データファイル フォームデザインをどのようにデータと統合するかをプレビューするときに使用するデータファイルを指定します。データは標準の XML 形式である必要があります。「データファイル」ボックスにデータファイルまでのパスを入力する、またはファイルまでのディレクトリを参照することができます。

Adobe XML フォームのプレビュー形式 Adobe XML フォームファイル (XDP) として保存されたフォームのプレビュー形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択できます。

- **スタティック PDF フォーム** スタティック PDF をデフォルトのプレビュー形式として設定します。このフォームデザインに含めることができるのは、スタティックな要素だけです。フォームデザインにダイナミックな要素が含まれている場合、それらの要素はフォーム内で使用できません。例えば、列数が固定で、データソースの情報量によって行数が変動するテーブルがフォームに含まれている場合、「PDF プレビュー」タブに表示されるのは、データ行 1 行のみとなります（オカレンスの最小値が 1 に設定されている場合）。
- **ダイナミック XML フォーム** ダイナミック PDF をデフォルトのプレビュー形式として設定します。このフォームデザインには、ダイナミックな要素を含めることができます。例えば、列数が固定で、データソースの情報量によって行数が変動するテーブルがフォームに含まれている場合、「PDF プレビュー」タブにはすべてのデータ行が表示されます。また、スタティック PDF フォームでは実行できなかった、テーブルに行を追加するテストも実行可能です。

関連項目

107 ページの「[PDF プレビュータブでフォームをプレビューし、テストするには](#)」

107 ページの「[インタラクティブフォームのプレビューオプションを設定するには](#)」

108 ページの「[非インタラクティブフォームのプレビューオプションを設定するには](#)」

保存オプション（フォームのプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用すると、フォームデザインを PDF として保存するときに、別のオプションを適用するように指定できます。

注意：このダイアログボックスのオプションは、フォームデザインを PDF ファイルとして保存する場合にのみ適用されます。Forms でレンダリングされる PDF および XDP のフォームデザインには適用されません。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／フォームのプロパティを選択し、「保存オプション」をクリックします。

Acrobat 向けにアクセシビリティ情報（タグ）を生成する 保存する PDF ファイルにアクセシビリティ情報を埋め込みます。このオプションを使用できるのは、PDF で発行する場合に限られます。

保存時にログファイルを生成 保存するファイルのログファイルを生成します。ログファイルはフォームと同じディレクトリに保存されます。このオプションを使用できるのは、PDF で発行する場合に限られます。

フォントを埋め込む 保存するフォームデザインにフォームフォントを埋め込みます。このオプションを使用できるのは、PDF で発行する場合に限られます。

関連項目

34 ページの「[フォームの保存](#)」

37 ページの「[Acrobat および Adobe Reader 用フォームの保存](#)」

106 ページの「[フォームのプレビューとテスト](#)」

データ連結（フォームのプロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用することで、フォームデザインのデータの連結オプションを指定することができます。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／フォームのプロパティを選択し、「データ連結」をクリックします。

デフォルトのデータ接続で定義されていないデータへの連結を許可 このオプションは、デフォルトのデータ接続で定義されていないデータ（XML スキーマまたはサンプル XML データ）への連結を許可する場合に選択します。このオプションが有効である場合、データ接続で定義されていないデータノードに連結されたフィールド内のデータが保存されます。

- **XML 名前空間** このオプションは、未定義のデータを別の名前空間に保存または書き出す場合に選択します。名前空間はデータ記述に追加されます。名前空間を指定しない場合、名前空間情報は未定義のデータを含むノードの親から継承されます。

- **XML 名前空間の接頭辞**（オプション） 名前空間の接頭辞を指定できます。

注意：接頭辞 dd は使用しないでください。dd は使用するデータ記述名前空間のために予約されています。

XML で無効な名前空間または接頭辞を指定した場合、関連するテキストボックスの横に警告が表示されます。

- **フィルターを適用したデータ階層内にデータノードを追加** データビューにフィルターを適用する場合、フィルターを適用した単一のルートを基準として、未定義のデータを連結することを指定します。

関連項目

497 ページの「[デフォルトのデータ接続で定義されていないデータへの連結](#)」

489 ページの「[スキーマのフィルタリング](#)」

フラグメント情報ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、フラグメントに関する情報を表示または編集します。フラグメントソースファイルについてこのダイアログボックスを使用する場合は、情報を表示および編集できます。フラグメント参照についてこのダイアログボックスを使用する場合は、情報を表示することのみ可能です。

このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- フォーム上でフラグメントを選択し、編集／フラグメント／フラグメント情報を選択します。
- フォームでフラグメントを選択し、オブジェクトパレットで「フラグメント情報」をクリックします。
- フラグメントを右クリックし、フラグメント／フラグメント情報を選択します。
- フラグメントライブラリパレットで、フラグメントの詳細情報の下にある「詳細」をクリックします。
- フラグメントライブラリでフラグメントを選択し、フラグメントライブラリパネルメニューで「フラグメント情報」を選択します。

名前 フラグメントの名前です。フラグメントには名前が必要です。

説明 フラグメントの説明です。

場所 フラグメントのファイル名とファイルの場所です。

読み込みオプションダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、Designer 以外で作成された PDF ファイルの読み込みに関するオプションを設定します。

このダイアログボックスは、Workbench に統合されている Designer では使用できません。

スタンドアロンバージョンの Designer で、このダイアログボックスを表示するには、ファイル／開くを選択します。次に PDF ファイルを選択し、「開く」をクリックします。新規フォームアシスタントが表示された場合は、「アシスタントを使用しない」リンクをクリックします。

背景として読み込んでインタラクティブフォームを作成 Acrobat または開くダイアログボックスで利用できるその他のアプリケーションで作成した PDF 文書の外観を保持します。フォームフィールドを、対応する Designer ライブラリオブジェクトに変換します。PDF 文書のコンテンツをアートワークとして読み込んだ後、必要に応じてライブラリオブジェクトをアートワークの上に追加で配置することができます。Acrobat またはその他のアプリケーションで作成した PDF 文書があり、それを Designer で作成する固定ページのインタラクティブフォームのベース（背景）として使用する場合に、このオプションを使用します。

編集可能なレイアウトとして読み込んでインタラクティブフォームを作成 コンテンツを Designer で編集できるように PDF 文書を読み込みます。添付ファイルと注釈は削除されます。テキストがより少ない数のオブジェクトに結合されます。このオプションは、編集可能なレイアウトを使用したインタラクティブフォームを作成し、読み込んだ PDF フォームに大幅な変更を加えたり、Designer を使用してフォームを継続的に更新する場合に使用します。このオプションはワードラップもサポートしていますが、改行が失われることもあります。元の文書の外観を保つには、若干修正が必要となる場合があります。

PDF を読み込むためのカスタムオプション テキスト読み込みのためのオプションが含まれます。

- **配置する場所** フォームデザイン内のコンテンツを配置する場所（ページまたはマスターページ）を指定します。
- **テキストの結合単位** テキストをオブジェクトに変換する方法を指定します。
- **テキスト結合の許容値** この設定値が大きいほどバリエーション許容度が高くなり、より多くのテキストが 1 つのオブジェクトに結合されます。この値を大きくすると、本来別のオブジェクトであったテキストが結合されることがあります。この値を小さくすると、より多くのテキストが独立したオブジェクトとして保持されます。
- **行結合の許容値** この設定値が大きいほどバリエーション許容度が高くなり、より多くのテキスト行が 1 つのオブジェクトに結合されます。この値を大きくすると、本来別のオブジェクトであった行が結合されることがあります。この値を小さくすると、より多くの行が独立したオブジェクトとして保持されます。
- **段落結合の許容値** この設定値が大きいほどバリエーション許容度が高くなり、より多くの段落が結合されます。この値を大きくすると、本来分離していた段落が結合されることがあります。この値を小さくすると、より多くの段落が独立したオブジェクトとして保持されます。値を小さくしたために、本来段落となるべきテキストが結合されないことがあります。

画像の埋め込み PDF ファイル内の画像が変換され、変換されたフォームに埋め込まれます。サポートされている形式のいずれかを選択できます。このオプションを選択していない場合、Designer は画像を変換せず、画像のプレースホルダーを挿入します。

フォーマット 選択可能な画像ファイル形式を一覧表示します。

変換時に問題が発生した場合、概要レポートを表示する 変換上の問題が見つかったら、変換処理が完了する前に関連情報がダイアログボックスに表示されます。必要であれば処理をキャンセルすることもできます。

ログファイルの生成 変換処理に関する情報を記録し、ASCII テキストエディターを使用して読むことができる一時ログファイルをシステムの一時フォルダーに作成します。次のオプションのいずれか 1 つを選択して、ログファイルの配置場所を指定します。

- ログを出力しない: ログファイルは生成されません。
- %TEMP%\ConvertPDF.log: ConvertPDF.log というログファイルをシステムの一時フォルダーに生成します。
- %TEMP%\inputfile.log: 入力ファイルと同じ名前を使用してシステムの一時フォルダーにログファイルを生成します。
例えば、入力ファイルの名前が ABC.pdf である場合、ログファイルの名前は ABC.log となります。読み込んだファイルごとにログファイルを作成します。

ページ範囲 読み込むページ数を示すオプションが含まれます。

すべて PDF 内のすべてのページを読み込みます。

ページ ページずつまたはある範囲のページを読み込みます。例えば、2,3,6 と入力するとそれぞれのページを、2-5 と入力するとその範囲のページとなります。ページとページ範囲は 1,3,6-9 のように組み合わせることができます。

関連項目

- 132 ページの「[PDF ファイルの読み込み](#)」
- 136 ページの「[Designer での PDF オブジェクトの変換方法](#)」
- 138 ページの「[PDF の変換上の問題を避ける方法について](#)」
- 142 ページの「[PDF 文書のアートワークとしての読み込み](#)」

フラグメントを挿入ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、フォームデザインに挿入するフラグメントを選択します。

スクリプトフラグメントはルートサブフォームの下の変数の子に挿入され、フォームデザインの既存のスクリプトの中で最も可視性が高くなります。

このダイアログボックスを表示するには、挿入／フラグメントを選択します。

ファイル名 フラグメントを格納しているファイルの名前です。

ファイルの種類 フラグメントを格納しているファイルの種類です。デフォルトは XDP です。

フラグメントを選択 リストから挿入するフラグメントを選択します。このリストには、指定したファイル内のすべてのフラグメントが表示されます。

フラグメント情報 選択したフラグメントに関連付けられた説明を表示します。

フラグメントプレビュー 選択したフラグメントのプレビューを表示します。

ハイパーリンクの挿入ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、URL と電子メールのハイパーリンクを作成します。

このダイアログボックスを表示するには、挿入／ハイパーリンクを選択します。

URL URL ハイパーリンクを作成するときに選択します。

電子メール 電子メールハイパーリンクを作成するときに選択します。

電子メールアドレス 1 つ以上の電子メールアドレスを入力します。

件名 適切な件名を入力します（オプション）。

関連項目

- 100 ページの「[ハイパーリンク](#)」
- 100 ページの「[ハイパーリンクを挿入するには](#)」

テーブルの挿入ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して簡単なテーブルを作成するか、テーブルアシスタントを使用してテーブルを作成します。

このダイアログボックスを表示するには、挿入／標準／テーブルを選択するか、オブジェクトライブラリパレットの標準カテゴリから標準テーブルオブジェクトをレイアウトエディターにドラッグします。また、テーブルの挿入ダイアログボックスは、テーブル／テーブルの挿入を選択して表示することもできます。

単純なテーブルを作成 選択したオプションを使用して、簡単なテーブルを作成します。

列 指定した数の列を簡単なテーブルに追加します。

ボディ行 指定した数のボディ行を簡単なテーブルに追加します。

テーブルにヘッダー行を含む ヘッダー行を簡単なテーブルに追加します。

テーブルにフッター行を含む フッター行を簡単なテーブルに追加します。

アシスタントを使用してテーブルを作成 テーブルアシスタントを開き、簡単なテーブルや、データの行数に応じて調整されるテーブルを作成できます。

次回から表示しない 挿入／標準／テーブルを選択したとき、および、テーブルオブジェクトをレイアウトエディターにドラッグしたときに、テーブルの挿入ダイアログボックスが表示されなくなります。テーブルの挿入ダイアログボックスを再度表示するには、ツール／オプション／ウィザードとヒント／テーブルの作成時に表示を選択します。

関連項目

696 ページの「[ボディのレイアウト（テーブルアシスタントダイアログボックス）](#)」

156 ページの「[テーブルアシスタントを使用してテーブルを作成するには](#)」

156 ページの「[簡単なテーブルを作成するには](#)」

ショートカットキーダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、Designer のコマンドのショートカットキーを作成および管理します。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／キーボードショートカットを選択します。

セット 使用、変更、保存または削除が可能なショートカットキーの「(デフォルト)」セットおよびユーザー定義セットを一覧表示します。選択したセットを変更した後は、セット名に「(変更済み)」が追加されます。

名前を付けて保存 名前を付けて保存ダイアログボックスを開き、選択したショートカットキーの命名および保存を可能にします。必要に応じて、変更済みセットの名前を変更できます。「(デフォルト)」ショートカットキーセットを置き換えることはできません。

削除 選択したショートカットキーセットを削除します。「(デフォルト)」ショートカットキーセットを削除することはできません。

製品の領域 カスタマイズしたショートカットキーを作成できる（メニューおよびパレットを含む）製品領域を一覧表示します。

コマンド 製品領域リストのすべてのコマンドが選択されているときに使用できるすべてのコマンドを表示します。ただし、特定のメニューまたはパレットが選択されているときは、関連コマンドのみが表示されます。コマンドは、ファイル、編集、表示およびパレットなどの製品領域ごとに整理されます。

現在のショートカット コマンドリストで選択されたコマンドに割り当てられているショートカットキーを一覧表示します。

削除 選択したショートカットを現在のショートカトルリストから削除します。コマンドリストで選択されたコマンドに割り当てられたショートカットキーがない場合、このオプションは無効になっています。

新しいショートカット 選択したコマンドに割り当てる新規ショートカットキーを入力するボックスです。

割り当て 選択したコマンドに新規ショートカットキーを割り当てます。

説明 選択したコマンドの簡単な説明を入力します。

関連項目

613 ページの「[キーボードショートカットのカスタマイズ](#)」

見つからないフォントダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、コンピューターに存在しないフォントの置換フォントを選択します。置換フォントを選択するか、またはデフォルトの置換フォントを使用すると、それらを使って文書が表示されるようになります。

このダイアログボックスは、コンピューターにインストールされていないフォントを含むフォームを開いたときに表示されます。

フォントの置換 見つからないフォントがすべて表示されます。

置換フォントの変更 デフォルトのフォントを使いたくない場合に、このボタンをクリックして別のフォントを選択します。

見つからないフォントを置換して保存 このオプションを選択すると、指定した利用可能な置換フォントで、見つからないフォントが永久的に置き換えられます。

代替フォントが定義されていない場合のみ表示 フォントに置換フォントが定義されていない場合、見つからないフォントダイアログボックスを表示します。

置換フォントの変更ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、推奨される置換フォントを使用するか、または変更するかを指定します。ダイアログには、見つからないフォントと、推奨される置換フォントが表示されます。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプションを選択します。左側のリストから「ドキュメントハンドリング」を選択し、「置換フォントの変更」をクリックします。

フォントの置換 見つからないフォントと、その横に、推奨される置換フォントがそれぞれ表示されます。

置換フォントの変更 表示されている置換フォントを使いたくない場合に、このボタンをクリックして別のフォントを選択します。

ネットワーク接続が見つかりませんダイアログボックス

ネットワーク接続が見つかりませんダイアログボックスを使用して、指定した URL への接続を作成します。

ネットワーク接続が見つかりませんダイアログボックスは、指定したベース URL へのネットワーク接続の確立が Designer で検出できない場合に表示されます。Designer で検出しようとしているフォルダーが、ダイアログボックスに表示されます。続行するには「OK」をクリックし、フォルダーへの接続を作成します。

コピー このダイアログボックスに表示されているフォルダーをコピーします。

新規データ接続ダイアログボックス

認証（新規データ接続ダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、HTTP/HTTPS またはメッセージレベル（SOAP）、あるいはその両方のタイプの認証を、作成中の WSDL データ接続に適用したり、検証で承認する証明書のタイプを選択したりします。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／新規データ接続を選択し、WSDL データ接続を作成します。

HTTP/HTTPS 認証が必要 WSDL ドキュメントにアクセスし、安全な Web サービスに接続するために、HTTP/HTTPS（転送レイヤー）メッセージにクライアントの認証が必要であることを示します。転送レイヤーの認証証明書は、HTTP/HTTPS プロトコルヘッダーの一部として送信されます。

ユーザー名とパスワードを承認する 基本的なクライアント認証を提供します。ユーザーに対してログインダイアログボックスが表示されます。パスワードは、サーバーに送信される前はハッシュされません（明確なテキスト）。

ユーザー名とパスワードダイジェストを承認する 基本的なクライアント認証の拡張を提供します。ユーザーに対してログインダイアログボックスが表示されます。ただし、パスワードは、サーバーに送信される前にハッシュされます。

クライアント証明書を承認する デジタル ID クライアント検証を提供します。使用可能なデジタル ID のリストが含まれるデジタル ID を選択ダイアログボックスが表示されるので、適切なデジタル ID を選択し、認証のためにサーバーに送信します。

メッセージレベルの認証が必要 安全な Web サービスに接続するために、セキュリティトークンを使用するクライアントの認証がメッセージレベル (SOAP) に必要であることを示します。メッセージレイヤー (SOAP) の証明書は、セキュリティ UserToken の作成に使用されます。

ユーザー名とパスワードを承認する 基本的なクライアント認証を提供します。ユーザーに対してログインダイアログボックスが表示され、ユーザー名とパスワードの組み合わせは、サーバーへの送信前に暗号化されません。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

552 ページの「[デジタル ID の読み込み](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

ADO プロパティ (新規データ接続ダイアログボックス)

このダイアログボックスを使用して、データベース接続の特性を決めるためのプロパティを指定します。

ユーザー データベース接続時に認証を行うユーザーを指定します。

パスワード データベース接続時の認証用にパスワードを指定します。

接続タイムアウト データベースに接続を確立するための待機する時間で、時間内に接続が確立できない場合はエラーメッセージが返されます。

クエリタイムアウト データベースが SQL クエリの結果を返すまでの待機する時間で、時間内に結果を返されない場合はエラーメッセージが返されます。

遅延オープン これを有効にすると、Designer ではフォームの読み込み時にデータソースへの接続が自動的に行われなくなります。このオプションは、フォームが接続を試行する前に、ユーザー ID やパスワードなどユーザーからの入力を要求する場合に選択します。

カーソルの種類 Recordset オブジェクトを開くときに使用するカーソルの種類を指定します。

カーソルの位置 カーソルの位置を指定します。クライアントまたはサーバーサイドの位置を選択できます。

ロックタイプ フォームを開いたときに使用するロックの種類を指定します。

BOF での動作 データソースの最初にある BOF (ファイルの開始) レコードよりも前に移動しようとした場合に、どのようなアクションを起こすかを指定します。例えば、無効なレコードを参照する、直前の有効なレコードに戻る、ラップアラウンドするなどの動作を選択できます。

EOF での動作 データソースの最後にある EOF (ファイルの終了) レコードよりも後に移動しようとした場合に、どのようなアクションを起こすかを指定します。例えば、無効なレコードを参照する、直前の有効なレコードに戻る、ラップアラウンドするなどの動作を選択できます。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」

OLEDB 接続（新規データ接続／接続プロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、OLEDB とフォームデザインの間のデータ接続について説明します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／新規データ接続を選択し、「OLEDB データベース」を選択して「次へ」をクリックします。

接続文字列 接続文字列の名前を指定します。

テーブル テーブルを指定します。

ストアドプロシージャ ストアドプロシージャを指定します。

SQL クエリ SQL クエリを指定します。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」

新規接続（新規データ接続ダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、データソースとフォームデザインの間の接続を定義します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／新規データ接続を選択します。

新規データ接続の名前 データ接続に割り当てる名前を指定します。

データ定義の取得先 使用可能なデータソースのリストを表示し、フォームを選択します。

注意：「Adobe Data Model」オプションは、PDF アートワークを含む Adobe スタティック PDF フォームでは使用できません。142 ページの「[PDF 文書のアートワークとしての読み込み](#)」を参照してください。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」

492 ページの「[OLE データベースへのデータ接続の作成](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

サンプル XML データ（新規データ接続／接続プロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、サンプル XML データとフォームデザインの間のデータ接続について説明します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／新規データ接続を選択し、「サンプル XML データ」を選択して「次へ」をクリックします。

サンプル XML データファイルの選択 XML ファイルの場所と名前を指定します。

受信データ変換 指定した XSLT ファイルを使って受信データを変換します。

XSLT ファイル 受信データ変換に使用される XSLT ファイルを指定します。

送信データ変換 指定の XSLT ファイルを使って送信データを変換します。

XSLT ファイル 送信データ変換に使用される XSLT ファイルを指定します。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」

操作（新規データ接続ダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、WSDL の操作を選択します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／新規データ接続を選択し、WSDL データ接続を作成します。

機能を選択 WSDL データ接続を作成するために選択できる操作を表示します。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

WSDL ファイル（新規データ接続ダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、データ接続の作成に使用する Web サービス記述語（WSDL）ファイルの場所と名前を指定します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／新規データ接続を選択し、「WSDL ファイル」を選択して「次へ」をクリックします。

WSDL ファイル WSDL ファイルの場所と名前を指定します。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

Adobe Data Model（新規データ接続ダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、データ接続の作成に使用する Adobe Data Model（FML）ファイルの場所と名前を指定します。ユーザーがフォーム内で FML データ接続の作成を試行すると、JVM エラーが発生する可能性があります。この問題を乗り越えるには WB_JRE_HOME 変数の値を読み込むために、マシンの再起動が必要です。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／新規データ接続を選択し、「Adobe Data Model」を選択して「次へ」をクリックします。

Adobe Data Model の選択 Adobe Data Model（FML）ファイルの場所とファイル名を指定します。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

491 ページの「[モデルへのデータ接続の作成](#)」

XML スキーマ（新規データ接続／接続プロパティダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、XML スキーマとフォームデザイン間のデータ接続について説明します。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／新規データ接続を選択し、「XML スキーマ」を選択して「次へ」をクリックします。

XML スキーマファイルの選択 XML スキーマファイルの場所と名前を指定します。

XML データのルート要素名を使用 データ表示パレットに表示させるデータルート要素を指定します。

XML スキーマを埋め込む フォームデザインに XML スキーマを埋め込みます。

受信データ変換 指定した XSLT ファイルを使って受信データを変換します。

XSLT ファイル 受信データ変換に使用される XSLT ファイルを指定します。

送信データ変換 指定の XSLT ファイルを使って送信データを変換します。

XSLT ファイル 送信データ変換に使用される XSLT ファイルを指定します。

関連項目

487 ページの「[データソースの操作](#)」

490 ページの「[XML スキーマへのデータ接続の作成](#)」

新規ダイアログボックス

このダイアログボックスは、スタンドアロンバージョンの **Designer** でのみ使用できます。このダイアログボックスを使用して、新規フォームを作成したり、テンプレートから新規フォームを作成したり、既存のサンプルフォームを開きます。サンプルのフォームテンプレートを参照するオプションもあります。

このダイアログボックスを表示するには、新規フォームアシスタントを無効にし、ファイル／新規を選択するか、スタートアップスクリーンの「新規フォーム」または「テンプレートから新規フォームを作成」をクリックします。

「空白」タブ 使用可能なテンプレートサイズを表示します。

「フォーム」タブ 使用可能なサンプルテンプレートを表示します。

「フォーム - バニラ」タブ 「フォーム」タブのテンプレートと同じ内容だが、別の「バニラ」レイアウトを使用するテンプレートを表示します。

「フォーム - ページュ」タブ 「フォーム」タブのテンプレートと同じ内容だが、別の「ページュ」レイアウトを使用するテンプレートを表示します。

「フォーム - ブルー」タブ 「フォーム」タブのテンプレートと同じ内容だが、別の「ブルー」レイアウトを使用するテンプレートを表示します。

「その他」タブ テンプレートマネージャーに追加したテンプレートを表示します。

選択項目をデフォルトに設定 選択したテンプレートを、新しいフォームデザインを作成するためのデフォルトテンプレートとして指定できます。

作成 新規フォームを作成するか、新規テンプレートを作成するかを指定します。

開くダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、既存のフォームデザインまたはテンプレートを開きます。様々な形式から文書を開くことができます。Designer で開くと、文書が XDP ファイル形式に変換されます。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／開くを選択します。

ファイルの場所 ファイルやフォルダーの場所を指定します。

ファイル名 ファイル名を表示します。テンプレートを保存すると、ファイル名が作成されます。

ファイルの種類 開くことができるファイルの種類を表示します。

関連項目

36 ページの「[フォームを開く](#)」

オプションダイアログボックス

ドキュメントハンドリング（オプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、新規フォームのデフォルトファイル形式、最近使ったファイル、圧縮およびバックアップのオプション、画像ファイルブラウザのオプションおよびフォント置き換えオプションを変更します。

このダイアログボックスを表示するには、ツール/オプションを選択し、左側のリストから「ドキュメントハンドリング」を選択します。

新規フォームのデフォルトファイル形式 新規フォームのデフォルトファイル形式を指定します。ここでの設定は、名前を付けて保存ダイアログボックスのデフォルトと、フォームが未保存の場合に「PDF プレビュー」タブで使用されるファイル形式に影響を与えます。

- **スタティック PDF フォーム (*.pdf)** 指定した Acrobat および Adobe Reader の対象バージョンに基づいて、フォームをスタティック PDF 形式で保存します。スタティック PDF フォームは 1 回だけレンダリングされ、クライアント上で対象バージョンの Acrobat または Adobe Reader によって表示されます。スタティック PDF フォームは、ユーザーの操作に応じてレンダリングされるものではありません。PDF フォームは編集可能なレイアウトを使用してデザインされている場合がありますが、スタティック PDF フォームを作成すると、そのレイアウトは固定され、結果の PDF フォームはクライアント上ではレンダリングされません。スタティック PDF フォームには、インタラクティブなものともそうでないものがあります。

- **ダイナミック XML フォーム (*.pdf)** Acrobat および Adobe Reader の対象バージョンに基づいて、フォームをダイナミック PDF 形式で保存します。このフォームデザインには、ダイナミックな要素を含めることができます。ダイナミック PDF フォームは、クライアント上で Adobe Reader によってレンダリングされ、エンドユーザーの操作に応じて、クライアント上で複数回レンダリングできます。Adobe Reader は最終的な出力のレンダリングに十分な情報を持っているので、オブジェクトの表示に対する変更を Adobe Reader で行うことができます。例えば、オブジェクトの色を変更したり、ページ番号を変更したり、オブジェクトの表示と非表示を切り替えたりすることができます。エンドユーザーがボタンをクリックしてテーブルに新しい行を追加した場合、そのフォームは Adobe Reader でレンダリングされます。

- **Adobe XML フォームファイル (.xdp)** 新規フォームのデフォルトのファイル形式を、Designer で作成される固有の XML ベースファイル形式に設定します。Forms を使用する場合は、このオプションを使用します。このファイルタイプの PDF プレビューに使用される PDF は、「プレビュー」タブ（フォームのプロパティダイアログボックス）の XDP プレビュー形式設定で制御されます。

最近使用したファイル 最近使用したファイルのリストに表示されるファイルの数を制御します。表示するファイル名をの数を入力してください。最大値は 10 です。

PDF ファイルを圧縮して保存 PDF ファイルを保存するときに圧縮します。

保存時にバックアップコピーを作成 フォームデザインを保存するときにバックアップファイルを作成します。バックアップコピーは、フォームと同じ場所に保存されます。ファイル名の拡張子の前に「_BAK」という文字列が追加されます。バックアップコピーの保存時には、ファイルの前のバージョンを復元することが必要となる場合に備えて、前のバージョンも保存されます。

保存時に変換 ID を作成する フォームデザイン内の変換可能なテキストに対して識別子 (XLIFF) を作成します。XLIFF は、ローカリゼーションデータを交換するための XML ベースの形式です。詳しくは、101 ページの「[変換のための準備](#)」を参照してください。

デフォルトのファイルブラウザを表示 デフォルトとして使用するファイルブラウザを指定します。特殊なりポジトリにある外部 COM コンポーネント（ファイルブラウザコンポーネントなど）を読み込むことができます。そのようなコンポーネントをお使いのコンピューターに登録していない場合、Designer によって該当するコンポーネントが検出され、このリストに表示されます。

置換フォントの変更 フォントが見つからない文書用にフォントの置換を定義します。

フォントに置換フォントが定義されていない場合に、見つからないフォントダイアログボックスを表示する フォントに置換フォントが定義されていない場合は、見つからないフォントダイアログボックスを表示します。

レポートパレットが表示されていない場合に警告ダイアログボックスを表示 レポートパレットが非表示のときに、対象バージョンの警告ダイアログボックスを表示します。

関連項目

106 ページの「[フォームのプレビューとテスト](#)」

101 ページの「[変換のための準備](#)」

37 ページの「[対象となる Acrobat および Adobe Reader のバージョンの選択](#)」

ワークスペース（オプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、オブジェクトに関するヒントの表示と非表示の切り替え、「スクリプトエディター」オプションの設定、ソース表示オプションの設定などを行います。

このダイアログボックスを表示するには、ツール/オプションを選択し、左側のリストから「ワークスペース」を選択します。

編集中に位置とサイズのツールヒントを表示 位置とサイズのツールヒントを表示します。

オブジェクトをポイント時にオブジェクト名のツールヒントを表示 ポインターがオブジェクトの上にあるときに、そのオブジェクトのツールヒントを表示します。

繰り返し描画ツールを表示 表示メニューの「繰り返し描画」コマンドを有効にし、標準ツールバーに「繰り返し描画」ボタンを追加します。

編集中に固定サイズのテキストオブジェクトを自動調整 テキストの量に合うように固定サイズのオブジェクトを拡張します。オブジェクトは、親の右端に届くまで、またはユーザーが改行を入力するまで横方向に拡大し、その時点で縦方向に拡大します。

FormCalc のシンタックスフォーマット スクリプトエディターで FormCalc 構文のフォントと色の設定を表示します。

JavaScript シンタックスフォーマット スクリプトエディターで JavaScript 構文のフォントと色の設定を表示します。

ステートメント完了オプションを表示 スクリプトエディターでステートメント完了オプションを表示します。

ステートメント完了方法の署名を追加する パラメーターの署名をスクリプトに自動的に追加します。

行番号を表示 スクリプトエディターで行番号を表示します。

新規フォームのデフォルト言語 新規フォームのデフォルトのスクリプト言語を設定します。個々のフォームにスクリプト言語を設定するには、フォームのプロパティダイアログボックスでデフォルトパネルのデフォルト言語リストを使用します。653 ページの「[デフォルト（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」を参照してください。

XML ソース構文のフォーマット XML ソースページの XML 構文のフォントと色の設定を表示します。

行番号を表示 XML ソースページの行番号を表示します。

現在の Designer をデフォルトに設定する Designer をデフォルトバージョンに設定します。デフォルトバージョンは、システムに登録される Designer のバージョンです。8.0 より前のバージョンがシステムにインストールされている場合に、それを起動すると、前のバージョンが自己登録され、デフォルトバージョンになります。

起動時に、Designer がデフォルトの Designer かどうかをチェックする Designer の起動時にそれがデフォルトバージョンであるかどうかをチェックします。デフォルトバージョンになっていない場合は、手動でデフォルトに設定できます。

関連項目

22 ページの「[オブジェクトのツールヒントをカスタマイズするには](#)」

695 ページの「[シNTAXSフォーマットダイアログボックス](#)」

スペル（オプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、入力中のスペルチェック、Designer がスペルのエラーをチェックするテキストの種類の制御、およびカスタム辞書の追加と削除のオプションを選択したり、辞書の編集ダイアログボックスを開いてカスタム辞書の編集を行うオプションを選択したりします。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプションを選択し、左側のリストから「スペル」を選択します。

入力時にスペルチェック 入力時にスペルチェックを行います。このオプションを選択すると、Designer でスペルが間違っている単語の下に色付きの波線が引かれます。

波形下線の色 カラーパレットを開いて、スペルが間違っている単語の下に引く波線に別の色を選択できます。デフォルトの色は赤です。

スペルチェックオプション スペルチェックダイアログボックスを使用するときに、Designer でスペルをチェックできるフォームのテキストの種類を一覧表示します。デフォルトでは、すべてのオプションが選択されています。

スペルチェックの対象 スペルチェックで選択できる領域を表示します。

インストール済みの辞書 スペルチェックで使用する辞書を表示します。Designer は、フォームのスペルチェックを行うときに選択した辞書を使用します。一覧の最初の辞書は常にユーザー（現在のユーザー）のカスタム辞書となります。この辞書は常に使用対象として選択され、一覧から削除することはできません。

辞書の追加 カスタム辞書ファイルダイアログボックスを開き、辞書リストに追加するカスタム辞書ファイル (*.clam) を指定して開くことができます。

辞書を削除 インストールした辞書の一覧から選択した辞書を削除します。実際の辞書ファイル (*.clam) がコンピューターのファイルシステムから削除されるわけではありません。

カスタム辞書を編集 辞書の編集ダイアログボックスを開き、個別言語または全言語のカスタム辞書で使用可能な単語リストを表示したり、リストされた単語のスペルを変更したり、個別言語または全言語から単語を追加および削除したりすることができます。インストールされた他の辞書のコンテンツは編集できません。

書式設定（オプションダイアログボックス）

すべての新しいフォームに「ハイフネーション」、または「ウィドウとオーファンの制御」オプションを設定するには、このダイアログボックスを使用します。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプション／書式設定を選択します。

スタイルシートを使用 新しいフォームのデフォルトスタイルシートとして使用する Designer スタイルシートファイル (XFS) の場所を指定します。

ウィドウとオーファンの制御 ウィドウとオーファンを制御します。ウィドウは、その行だけが次のページの先頭に表示される段落の最後の行です。オーファンは、その行だけがページの最後に表示される段落の最初の行です。

単語の最低文字数 <x> 文字 ハイフネーション処理する単語に含まれる最低文字数を指定します。例えば、値に「7」を入力すると、7 文字以上の単語のみがハイフネーション処理されます。最小値は「2」で、最大値は「99」です。

最初の行の後 <x> 文字 行のハイフンの前に表示する単語の最低文字数を指定します。例えば、値に「2」を入力すると、最低でも単語の最初の 2 文字がハイフネーションの前の行に表示されます。最小値は「1」で、最大値は「99」です。「単語の最低文字数」ボックスの値よりも小さくする必要があります。

最後の行の前 <x> 文字 次の行のハイフンの後に表示する単語の最低文字数を指定します。例えば、値に「4」を入力すると、最低でも単語の最後の 4 文字が次の行に表示されます。最小値は「1」で、最大値は「99」です。「単語の最低文字数」ボックスの値よりも小さくする必要があります。

大文字で始まる単語をハイフネーション処理する 文の先頭にある単語など、大文字で始まる単語をハイフネーション処理します。

すべて大文字の単語をハイフネーション処理する 略語など、すべてが大文字の単語をハイフネーション処理します。

テキストおよびフィールドキャプションのハイフネーション処理を許可する テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールド、署名フィールドなど、オブジェクトのキャプション領域にあるテキストオブジェクトのハイフネーション処理を許可します。

テキストフィールドの値のハイフネーション処理を許可する テキストフィールドオブジェクト（デフォルトのテキストおよびフォーム入力者が入力したテキスト）の値領域のハイフネーション処理を許可します。

新規項目をハイフネーション処理 フォームに追加される新しいオブジェクトのテキストをハイフネーション処理します。テキストフィールド、十進数フィールド、数値フィールド、署名フィールドなど、オブジェクトのキャプション領域にあるテキストオブジェクトのテキストをハイフネーション処理します。

関連項目

96 ページの「[テキストのハイフネーション処理](#)」

96 ページの「[ハイフネーションを設定する際の考慮点](#)」

378 ページの「[段落パレットの段落プロパティ](#)」

654 ページの「[書式設定（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」

デフォルトフォント（オプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、新しいフォームに使用するデフォルトフォントプロパティの調査や変更を行います。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプションを選択し、左側のリストから「デフォルトフォント」を選択します。

新規フォームのデフォルトのキャプションフォントプロパティ 新しいフォームのキャプションに使用するデフォルトフォントプロパティを設定します。

- **書体** フォントの種類を設定します。
- **サイズ** フォントのサイズを設定します。
- **スタイル** フォントのスタイルを設定します。

新規フォームのデフォルトの値フォントプロパティ 新しいフォームの値に使用するデフォルトフォントプロパティを設定します。

値のフォントプロパティは、キャプションのデフォルトフォントプロパティと同じです。

デフォルトに戻す 新しいフォームのキャプションおよび値に使用するデフォルトフォントプロパティを元に戻します。

関連項目

655 ページの「[デフォルトフォント（フォームのプロパティダイアログボックス）](#)」

693 ページの「[キャプションテキストの書式設定（スタイルエディターダイアログボックス）](#)」

ウィザードとヒント（オプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、ダイアログボックス、警告、およびスタートアップダイアログボックスでヒントの表示と非表示を切り替えるオプションを変更します。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプションを選択し、左側のリストから「ウィザードとヒント」を選択します。

すべてのヒントをリセットする ヒントのダイアログボックスを表示します。ヒントのダイアログボックスには、Designer で行った操作に基づくヒントが表示されます。「以後、このヒントを表示しない」が選択されている場合、ヒントのダイアログボックスを再度表示するには、「すべてのヒントダイアログをリセット」をクリックします。

すべての警告をリセットする エラーが発生すると、警告ダイアログボックスを表示します。

スタートアップダイアログボックスを表示する Designer が起動するときにスタートアップダイアログボックスを表示します。

警告マーカーを所定の位置に表示 オブジェクトに問題が起きた場合に、警告マーカー（黄色い三角印や赤色の円に白抜き「X」など）を表示します。

値領域が小さすぎる場合 値領域が小さすぎて、フィールドで許可されている最長の値を表示できない場合は、警告マーカーを表示します。例えば、フィールドを幅 7.6 センチ（3 インチ）、高さ 1.3 センチ（0.5 インチ）にサイズ調整し、フィールドの長さを最大 50 文字に制限した場合、実行時にすべての文字をフィールドに表示するには値領域が小さすぎる場合があります。値領域の幅を、フィールド値に合わせて調整する必要があります。

Designer はフィールドをチェックし、実行時に値を表示するのに十分な大きさが値領域にあるかどうかを評価します。次の条件を満たす場合、Designer は警告マーカーを表示します。

- フィールドで、等幅フォント（Courier や LetterGothic など）が使用されます。プロポーショナルフォント（Times New Roman など）を使用すると、例えば、複数の i の文字が W の 1 文字分のスペースに収まってしまうために、Designer はフィールドを評価できません。等幅フォントを使用すると、Designer で値領域のサイズを予想しやすくなります。

注意： 小さすぎる値を設定をしたフィールドでフォントをテストして、警告マーカーが表示されるかどうかを調べることによって、Designer がそのフォントを等幅として認識していることを確認します。

- このフィールドには、レイアウトパレットの「高さ」ボックスと「幅」ボックスに固定寸法が設定されています。
- フィールドには、文字数または桁数に長さの制限が設定されています。文字での制限は、オブジェクトパレットの「フィールド」タブで設定できます。
- このフィールドには、データパターンまたは表示パターンが設定されていません。

注意： このフィールドがテーブル内のセルである場合、警告マーカーは表示されません。

テキストオーバーフローインジケータを表示 値領域やキャプション領域が小さすぎてコンテンツを表示できない場合にオブジェクト上に赤いテキストオーバーフローインジケータボタンを表示します。テキストオーバーフローインジケータボタンにポインターを合わせると、小さすぎる領域が赤でハイライト表示されます。このボタンをクリックして、問題のある領域を自動的に拡大することができます。値領域は、コンテナ（サブフォームまたはページ）の端まで右方向に拡大された後、下方向に拡大されます。キャプション領域は下方向に拡大されます。他のアプリケーションから Designer にフォームを読み込むときにこのオプションを選択すると、テキストを含むオブジェクトのサイズ調整の処理が容易になります。レイアウトパレットで「拡大して合わせる」オプションを選択している場合は、テキストオーバーフローインジケータは表示されません。

テーブルに表示します テキストオブジェクトを拡大できない場合に、テーブルに灰色のマーカーを表示します。

オブジェクトを拡大できない場合に表示します オブジェクトを拡大できない場合に、灰色のマーカーを表示します。

新規ドキュメントの作成時に表示 フォームデザインを新規作成時に新規フォームアシスタントを表示します。

Workbench に統合されている Designer では、このオプションを選択解除しても、新規ドキュメントの作成時に常に新規フォームアシスタントが表示されます。

ドキュメントの読み込み時に表示 ファイルを読み込むときに、新規フォームアシスタントを表示します。

Workbench に統合されている Designer では、このオプションを選択解除しても、ドキュメントの読み込み時に常に新規フォームアシスタントが表示されます。

Acrobat から PDF 文書を読み込むときに表示 PDF ファイルを Acrobat から開いたときに新規フォームアシスタントを表示します。PDF ファイルを Designer で直接開いている場合は、このオプションを使用できません。

テーブルの作成時に表示 オブジェクトライブラリパレットからテーブルオブジェクトを使用してテーブルを作成するときに、テーブルの挿入ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスからテーブルアシスタントを使用できます。

双方向テキスト（オプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、デザイン時に論理的または視覚的なカーソルの移動を指定します。デフォルト設定は「論理」です。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプションを選択し、左側のリストから「双方向テキスト」を選択します。

論理 遭遇したテキストの方向に従って、双方向テキストの挿入ポイントを移動します。例えば、矢印キーを使用してアラビア語のテキスト内を移動し、同じキャプションで英数字を入力するとき、右矢印キーではアラビア語のテキストを右から左に移動し、英数字では左側の文字から右へと移動します。「論理」オプションは、ダイアログボックス、パレット、スクリプトエディターおよび XML ソースに適用されます。

ビジュアル 視覚的に隣接した次の文字に移動して、双方向テキスト内の挿入ポイントを移動します。例えば、矢印キーを使用してアラビア語のテキストを右から左に移動するとき、テキストの方向にかかわらず、同じキャプションでは英数字も右から左に移動します。「ビジュアル」オプションは、「デザインビュー」と「マスターページ」におけるカーソルの移動を変更するだけで、ダイアログボックス、パレット、スクリプトエディターおよび XML ソースには適用されません。

関連項目

370 ページの「[アラビア語とヘブライ語用にオブジェクトを設定するには](#)」

371 ページの「[タイ語とベトナム語用にオブジェクトを設定するには](#)」

データ連結（オプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、アクティブなラベルのオン / オフを切り替えたり、アクティブなラベルのデフォルトのカラーを設定したり、新規サブフォームのデフォルトの連結を設定したりします。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプションを選択し、左側のリストから「データ連結」を選択します。

ダイナミックプロパティを表示 ダイナミックプロパティのアクティブなラベルのオン / オフを切り替えます。アクティブなラベルによりダイナミックプロパティを識別することができます。アクティブなラベルには、緑の下線が引かれています。これをクリックすることで、プロパティとデータソースをダイナミックに連結することができます。

カスタムラベル色を使用 アクティブなラベルのデフォルトの色を設定します。

カスタムラベル色 アクティブなラベルの色を選択するためのカラーパレットを開きます。

新規サブフォームのデフォルト連結 新規サブフォームのデフォルトの連結を設定します。

- **名前による** データマージオプションと保存オプションを設定します。Adobe のデータマージ規則に従ってデータ値が暗黙的にマージされ、保存されます。

- **データ連結なし** 新規サブフォームのデータマージオプションと保存オプションを解除します。デフォルトでは、新規サブフォームはデータマージ操作に関与しません。

警告 見つからない情報に関する警告を表示します。

- **見つからないデータ接続について警告する** フォームを開き、接続プロパティダイアログボックスで指定したサンプルデータファイルが Designer で見つからない場合に警告を表示します。OLEDB 以外のすべての種類のデータ接続に対して警告が表示されます（639 ページの「[接続プロパティダイアログボックス](#)」を参照してください）。

- **見つからないプレビューデータについて警告する** 「PDF プレビュー」タブをクリックし、フォームのプロパティダイアログボックスの「プレビュー」タブの「データファイル」ボックスで指定したデータファイルが Designer で見つからない場合に警告を表示します（652 ページの「[フォームのプロパティダイアログボックス](#)」を参照してください）。

データ接続の自動更新 データ接続のソースファイルが変更されている場合に警告します。

- **ソースファイルが変更された場合に更新ダイアログを表示** データ接続のソースであるファイルが変更されている場合に警告ダイアログボックスを表示し、データ接続を更新できるようにします。

関連項目

518 ページの「[ダイナミックプロパティの設定](#)」

言語環境（オプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、アプリケーションの言語を選択します。言語の変更を適用するには、Designer を再起動する必要があります。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプションを選択し、左側のリストから「言語」を選択します。

アプリケーションを表示する言語 使用可能なアプリケーションの言語を一覧表示します。

フォントを選択 Designer でデフォルトフォントを使用するか、拡張文字（GB18030 や HKSCS など）をサポートするフォントを使用するかを指定します。使用できるオプションは、インストールされているフォントに応じて異なります。

注意： Microsoft Windows 2000 および Windows XP での HKSCS - 2001 のサポート . Designer では、香港増補字符集（HKSCS）のレンダリングをサポートしています。オブジェクトに対して正しい HKSCS フォントが選択されている場合、フォームデザイン、デザインビュー、および「PDF のプレビュー」タブで HKSCS 文字が正しく表示されます。ただし、階層ビューやオブジェクトパレットなどのユーザーインターフェイスでは、拡張 HKSCS 文字は正しく表示できない場合があります。

デフォルトのアプリケーションロケールで測定単位を表示する アプリケーションのロケールに従って測定単位を表示します。

タブ順序（オプションダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、タブ順序からテキストおよび画像オブジェクトを除外し、視覚要素を使用してタブ順序を表示します。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプションを選択し、左側のリストから「タブ順序」を選択します。

フィールドのタブ順序だけを表示する 入力フィールドまたは表示フィールドのタブ順序だけを表示します。テキストフィールドおよび画像はタブ順序から除外されます。

タブ順序の追加の視覚要素を表示する フィールド上にポインターを置いたときに、青い矢印が表示され、タブ順序の 2 つ前のフィールドおよび 2 つ後のフィールドが示されます。

関連項目

84 ページの「[タブ順序からのテキストおよび画像オブジェクトの除外](#)」

85 ページの「[視覚要素を使用してタブ順序を表示するには](#)」

セキュリティ (オプションダイアログボックス)

このダイアログボックスを使用して、ユーザーがログインしてデジタル ID ダイアログボックスにアクセスするときに、ログインダイアログボックスを常に表示するかどうかを指定します。

このダイアログボックスを表示するには、ツール/オプションを選択し、左側のリストから「セキュリティ」を選択します。

デジタル ID デジタル ID ダイアログボックスを開きます。

関連項目

641 ページの「[デジタル ID ダイアログボックス](#)」

552 ページの「[デジタル ID の読み込み](#)」

パターンダイアログボックス

表示 (パターンダイアログボックス)

このダイアログボックスを使用して、フォームに形式設定された値（日付、時間、数値およびテキストデータ）を表示するためのパターンを定義します。表示パターンは、データパネルのデータ形式リストで選択したオプションと互換性がある必要があります。例えば、データ形式を「日付」にした場合、表示パターンは日付値を表している必要があります。

注意：デザイン時および実行時には、形式設定されたオブジェクトの値はロケールに依存する形式で表示されます。

このダイアログボックスを表示するには、パターンを作成するオブジェクトを選択し、オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「パターン」をクリックし、「表示」タブをクリックします。

種類を選択 データを表示するために使用するパターンを指定します。日付、時間、日時および数値データのオプションは、ロケールリストで選択したオプションによって異なります。複数の表示パターンを選択するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押しながらオプションを選択します。

注意：種類を選択リストにすべての日付、時刻、日付 / 時刻形式を表示するには、最初にオブジェクトパレットの「連結」タブのデータ形式リストから「日付と時間」を選択します。

Locale 使用する言語、国、または地域を指定して、選択したオブジェクトに表示される日付、時間、日時、数値および通貨の値の形式と区切り文字が定義されます。ロケールオプションは言語順で表示され、同じ言語が複数ある場合は国または地域順で表示されます。デフォルトで選択されるロケールオプションは、フォームのプロパティダイアログボックスのデフォルトパネルにあるフォームのロケールリストで選択したオプションと一致します。リストから特定の言語、国または地域を選択するか、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

- **デフォルトロケール** フォームプロパティダイアログボックスのデフォルトパネルで指定されたデフォルトロケールを使用します。
- **ビューアのシステムロケール** ユーザーのコンピューターのシステムロケールを使用します。

種類を選択リストで選択できるオプションは、選択したロケールによって異なる場合があります。

サンプル 選択したパターンで形式設定されるオブジェクトの値を指定します。値を指定していない場合、「サンプル」ボックスは空白のままになるか、値がパターンに含まれているときは「空白を許可」オプションによって生成された値が表示されます。

パターン 種類を選択リストで選択したオプションと、「空白を許可」チェックボックスや「ゼロを許可」チェックボックスに関連付けられたパターンが表示されます。このボックスには、カスタムパターンを入力することもできます。種類を選択リストのパターンとカスタムパターンを混在させることはできません。

空白を許可 パターンに null 値の記号を挿入します。空白値がパターン句とテキストのどちらであるかに関係なく、オブジェクトによる空白値の処理方法を定義できます。

ゼロを許可 パターンにゼロの記号を挿入し、オブジェクトによるゼロ値の処理方法を定義します。

関連項目

- 678 ページの「[編集 \(パターンダイアログボックス\)](#)」
- 678 ページの「[検証 \(パターンダイアログボックス\)](#)」
- 678 ページの「[データ \(パターンダイアログボックス\)](#)」

編集 (パターンダイアログボックス)

このダイアログボックスを使用して、ユーザー入力（日付、時間、数値およびテキストデータ）の構文のパターンを定義します。編集パターンは、「データ」タブのデータ形式リストで選択したオプションと互換性がある必要があります。例えば、データ形式を「日付」にした場合は、日付値を表すパターンを設定する必要があります。ユーザーの入力が編集パターンに従っていない場合、そのデータは拒否され、フィールドの値の形設定は行われません。

注意：デザイン時および実行時には、形式設定されたオブジェクトの値はロケールに依存する形式で表示されます。

このダイアログボックスを表示するには、パターンを作成するオブジェクトを選択し、オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「パターン」をクリックし、「編集」タブをクリックします。このタブのオプションは、「表示」タブのオプションと同じです。使用可能なオプションについては詳しくは、677 ページの「[表示 \(パターンダイアログボックス\)](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、オブジェクトパレットの「値」タブにある「種類」オプションが「保護されています」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。

関連項目

- 678 ページの「[検証 \(パターンダイアログボックス\)](#)」
- 678 ページの「[データ \(パターンダイアログボックス\)](#)」

検証 (パターンダイアログボックス)

このダイアログボックスを使用して、ユーザー入力（日付、時間、数値およびテキストデータ）を検証するための検証パターンを定義します。パターンはユーザー入力のシンタックスと一致する必要があります。バーコード、コンボボックスおよびリストボックスについては、このタブのみ使用できます。「表示」タブ、「編集」タブおよび「データ」タブは使用できません。

このダイアログボックスを表示するには、パターンを作成するオブジェクトを選択し、オブジェクトパレットで「値」タブをクリックし、「検証パターン」をクリックし、「検証」タブをクリックします。このタブのオプションは、「表示」タブのオプションと同じです。使用可能なオプションについては詳しくは、677 ページの「[表示 \(パターンダイアログボックス\)](#)」を参照してください。

注意：このオプションは、「種類」オプションが「保護されています」、「計算済み - 読み取り専用」または「読み取り専用」に設定されている場合には使用できません。

関連項目

- 678 ページの「[編集 \(パターンダイアログボックス\)](#)」
- 678 ページの「[データ \(パターンダイアログボックス\)](#)」
- 656 ページの「[フォームの検証 \(フォームのプロパティダイアログボックス\)](#)」

データ (パターンダイアログボックス)

このダイアログボックスを使用して、連結されたデータを格納および取得するためのパターンや、フォームがデータソースに連結されていないときにデータを保存するためのパターンを設定します。360 ページの「[データパターンを指定するには](#)」を参照してください。

このダイアログボックスを表示するには、パターンを作成するオブジェクトを選択し、オブジェクトパレットで「フィールド」タブをクリックし、「パターン」をクリックし、「データ」タブをクリックします。このタブのオプションは、「表示」タブのオプションと同じです。使用可能なオプションについて詳しくは、677 ページの「[表示 \(パターンダイアログボックス\)](#)」を参照してください。

関連項目

678 ページの「[編集 \(パターンダイアログボックス\)](#)」

印刷ダイアログボックス

選択したフォームデザインを指定したプリンターで印刷します。「データとともにフォームを印刷」オプションを選択していない場合、Designer は、現在開いているデザインビューまたはマスターページビューを印刷します。

このダイアログボックスの「プリンター」セクションと「印刷範囲」セクションに表示されるオプションは、コンピューターに接続されているプリンターの種類によって異なります。プリンターのオプションについて詳しくは、プリンターのマニュアルを参照してください。

データとともにフォームを印刷 このオプションを選択すると、現在のフォームデザインの最終バージョンを、選択したプリンターで印刷できます。指定したデータファイルを使用してフォームデザインを印刷することも選択できます。Designer は、フォームデザインとデータファイルをマージし、選択したプリンターで最終的なドキュメントを生成します。

データファイル フォームデザインをデータと共に印刷するときに、使用するデータファイルを指定できます。データは標準の XML 形式である必要があります。「データファイル」ボックスにデータファイルまでのパスを入力する、またはファイルまでのディレクトリを参照することができます。

データファイルを生成 このオプションは、フォームデザインを印刷するときに使用するサンプルフォームデータを生成する場合に選択します。フォームデザインを印刷するときに、サンプルデータとマージされます。印刷するフォームデザインの繰り返しサブフォームの回数を指定することもできます。

両面印刷 このオプションは、用紙の両面にフォームを印刷する場合に選択します。プリンターで両面印刷がサポートされていない場合は、代わりに片面印刷オプションが表示されます。

設定ファイル 出力の形式を定義するデバイス設定ファイルを指定できます。コンボボックスに、Designer と共にインストールされた複数の構成ファイル、および Designer のインストールフォルダーに独自に追加した構成ファイルが表示されます。このリストでは、XDC ファイル名は角括弧で囲まれ、よりわかりやすい名前後に示されます (例えば、PCL - Black & White [hppcl5e])。

リポジトリへ発行ダイアログボックス

このダイアログボックスは、スタンドアロンバージョンの Designer でのみ使用できます。複数のユーザーや他のアプリケーションがアクセスできる共有フォルダーや Web フォルダーに、フォームデザインとそれにリンクするファイルを置く場合にこのダイアログボックスを使用します。フォームデザインとファイルが発行されるときにフォームが外部ファイルにリンクされている場合は、ファイルの新しい場所が反映されるようにフォームデザインが変更されます。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／リポジトリへ発行をクリックします。

保存する場所 フォームを発行したい場所を指定します。

ファイル名 ファイル名を表示します。

次の形式で保存 保存することができるファイルの種類を表示します。

- **Adobe スタティック PDF フォーム (*.pdf)** 指定した Acrobat および Adobe Reader の対象バージョンに基づいて、フォームをスタティック PDF 形式で保存します。スタティック PDF フォームは 1 回だけレンダリングされ、クライアント上で対象バージョンの Acrobat または Adobe Reader によって表示されます。スタティック PDF フォームは、ユーザーの操作に応じてレンダリングされるものではありません。PDF フォームは編集可能なレイアウトを使用してデザインされている

場合がありますが、スタティック PDF フォームを作成すると、そのレイアウトは固定され、結果の PDF フォームはクライアント上ではレンダリングされません。スタティック PDF フォームには、インタラクティブなものとうでないものがあります。

- **Acrobat ダイナミック XML フォーム (*.pdf)** Acrobat および Adobe Reader の対象バージョンに基づいて、フォームをダイナミック PDF 形式で保存します。このフォームデザインには、ダイナミックな要素を含めることができます。ダイナミック PDF フォームは、クライアント上で Adobe Reader によってレンダリングされ、エンドユーザーの操作に応じて、クライアント上で複数回レンダリングできます。Adobe Reader は最終的な出力のレンダリングに十分な情報を持っているので、オブジェクトの表示に対する変更を Adobe Reader で行うことができます。例えば、オブジェクトの色を変更したり、ページ番号を変更したり、オブジェクトの表示と非表示を切り替えたりすることができます。エンドユーザーがボタンをクリックしてテーブルに新しい行を追加した場合、そのフォームは Adobe Reader でレンダリングされます。

- **Adobe XML フォーム (*.xdp)** フォームを Designer で作成される固有の XML ベースファイル形式で発行します。Forms を使用する場合は、このオプションを使用します。

- **Designer テンプレート (*.tds)** フォームをテンプレート (.tds) ファイルとして発行します。フォント、ページレイアウト、書式、スクリプトなど、コンポーネントや設定を含めることができます。新規フォームを作成する際のベースとして使用できます。

関連項目

38 ページの「[リポジトリへのフォームの発行](#)」

スタイルを削除ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、「デザインビュー」タブのオブジェクトからスタイルを削除します。

このダイアログボックスを表示するには、「デザインビュー」タブで、スタイルを削除するオブジェクトを選択し、右クリックしてスタイル／スタイルを削除を選択します。

参照を削除した後も現在のスタイルプロパティを保持します スタイルシートへの参照を削除します。オブジェクトのスタイルプロパティをフォームに埋め込みます。スタイルプロパティは変更されません。オブジェクトの外観は変わりません。

オブジェクトプロパティをリセットして、オブジェクトライブラリの標準オブジェクトに一致させます スタイルシートへの参照を削除します。オブジェクトのスタイルプロパティをデフォルト設定に復元します。オブジェクトの外観は標準の外観に戻ります。

オブジェクトプロパティをリセットしません スタイルプロパティを削除しません。オブジェクトの外観は、XML フォームアーキテクチャ (XFA) 設定に変わります。

関連項目

61 ページの「[オブジェクトからスタイルを削除するには](#)」

57 ページの「[スタイル](#)」

警告のレポートオプションダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、レポートパレットの「警告」タブに表示する警告を指定します。

このダイアログボックスを表示するには、レポートパレットの「警告」タブのメニューボタンをクリックし、「警告オプション」をクリックします。

対象バージョン 「警告」タブに対象バージョンの警告を表示します。

フォーマットパターン 「警告」タブにパターン形式文字列の警告を表示します。

データの連結 「警告」タブにデータ連結の警告を表示します。

ロケール設定 「警告」タブにロケール設定の警告を表示します。

スクリプトの構文をチェック 「警告」タブにスクリプトの構文チェックの警告を表示します。

その他 「警告」タブにその他の警告を表示します。

アクション 「警告」タブにアクションに関連する警告を表示します。

関連項目

112 ページの「[レポートパレットでの警告メッセージの処理](#)」

18 ページの「[レポートパレット](#)」

名前を付けて保存ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、フォームデザインやテンプレートを現在の名前と場所で保存したり、コピーを別の名前と場所で保存したりします。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／名前を付けて保存を選択します。

保存する場所 ファイルやフォルダーの場所を指定します。

ファイル名 ファイル名を表示します。フォームデザインを保存すると、ファイル名が作成されます。

次の形式で保存 保存することができるファイルの種類を表示します。

- **Adobe スタティック PDF フォーム (*.pdf)** 指定した Acrobat および Adobe Reader の対象バージョンに基づいて、フォームをスタティック PDF 形式で保存します。スタティック PDF フォームは 1 回だけレンダリングされ、クライアント上で対象バージョンの Acrobat または Adobe Reader によって表示されます。スタティック PDF フォームは、ユーザーの操作に応じてレンダリングされるものではありません。PDF フォームは編集可能なレイアウトを使用してデザインされている場合がありますが、スタティック PDF フォームを作成すると、そのレイアウトは固定され、結果の PDF フォームはクライアント上ではレンダリングされません。スタティック PDF フォームには、インタラクティブなものとうでないものがあります。

- **Acrobat ダイナミック XML フォーム (*.pdf)** Acrobat および Adobe Reader の対象バージョンに基づいて、フォームをダイナミック PDF 形式で保存します。このフォームデザインには、ダイナミックな要素を含めることができます。ダイナミック PDF フォームは、クライアント上で Adobe Reader によってレンダリングされ、エンドユーザーの操作に応じて、クライアント上で複数回レンダリングできます。Adobe Reader は最終的な出力のレンダリングに十分な情報を持っているので、オブジェクトの表示に対する変更を Adobe Reader で行うことができます。例えば、オブジェクトの色を変更したり、ページ番号を変更したり、オブジェクトの表示と非表示を切り替えたりすることができます。エンドユーザーがボタンをクリックしてテーブルに新しい行を追加した場合、そのフォームは Adobe Reader でレンダリングされます。

- **Adobe XML フォーム (*.xdp)** フォームを Designer で作成される固有の XML ベースのファイル形式で保存します。Forms を使用する場合は、このオプションを使用します。

- **Designer テンプレート (*.tds)** 基本的なフォームの構造をテンプレートとして保存します。フォント、ページレイアウト、書式、スクリプトなど、コンポーネントや設定を含めることができます。新規フォームを作成する際のベースとして使用できます。

関連項目

35 ページの「[フォームデザインの保存](#)」

35 ページの「[フォームデザインのコピーを保存するには](#)」

デジタル ID 選択ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、データ接続の作成に使用している Web サービス記述語（WSDL）ドキュメントにアクセスするために使用するデジタル ID を選択します。または、Windows の証明書ストアおよび Designer デジタル ID ファイルストアにデジタル ID を追加したり、ここから削除したりします。

このダイアログボックスを表示するには、ファイル／新規データ接続を選択し、WSDL データ接続を作成します。

デジタル ID Windows の証明書ストアと Designer デジタル ID ファイルストアで使用可能なデジタル ID を表示します。

デジタル ID を追加 デジタル ID を追加ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、リストに追加するデジタルファイル（*.p12 または *.pfx）の場所を指定し、このファイルへのアクセスに必要なパスワードを入力します。デジタルファイルをリストから削除するには、デジタル ID ダイアログボックスを使用します（ツール／オプション／セキュリティ／デジタル ID）。641 ページの「[デジタル ID ダイアログボックス](#)」を参照してください。

リフレッシュ デジタル ID リストを更新して、現在使用可能な ID を表示します。

表示 証明書ビューアダイアログボックスを開きます。ここには、選択された証明書（デジタル ID）に関する一般的な情報と詳細情報が表示されます。

関連項目

677 ページの「[セキュリティ（オプションダイアログボックス）](#)」

552 ページの「[デジタル ID の読み込み](#)」

495 ページの「[WSDL ファイルを使用したデータ接続を作成する](#)」

署名の設定ダイアログボックス

署名ハンドラー（署名の設定／データおよび送信時の設定に署名ダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、ドキュメント署名またはデータ署名のオプションの署名ハンドラーを定義します。署名ハンドラーとは、公開鍵による暗号化処理を実装して、暗号化されたドキュメントまたはデータへのアクセスを制御するソフトウェアモジュールのことです。Adobe.PPKLite（アドビ システムズ社のデフォルトのセキュリティ）署名ハンドラーは、公開鍵による暗号化をサポートしています。

注意： Adobe.PPKLite は、署名の設定、およびデータおよび送信時の設定に署名ダイアログボックスに入力した情報を分析および処理するように設計された唯一の署名ハンドラーです。サードパーティの署名ハンドラーは、これらの情報を処理できない場合があります。

このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- 署名フィールドを選択して、オブジェクトパレットの「署名」タブをクリックし、「設定」をクリックします。次に「署名ハンドラー」をクリックします。
- 送信ボタンを選択して、オブジェクトパレットの「送信」タブをクリックし、「送信時に署名」が選択されていることを確認します。次に「設定」をクリックし、「署名ハンドラー」をクリックします。
- 電子メールまたは HTTP の送信ボタンを選択して、オブジェクトパレットで「送信時に署名」が選択されていることを確認します。次に「設定」をクリックし、「署名ハンドラー」をクリックします。

名前 Adobe.PPKLite をデフォルトのセキュリティハンドラーとして表示します。必要に応じて、別のサードパーティ署名ハンドラーの名前を入力することができます。

署名者に指定した署名ハンドラーを使用するよう求める Acrobat で電子署名に作成する際に、「名前」リストボックスで指定した署名ハンドラー（フィルターとも呼ばれます）を使用することを要求します。署名者が自分のコンピューターで利用できる指定署名ハンドラーを持っていない場合、Acrobat は署名処理をキャンセルします。

指定された署名ハンドラーを署名者が使用する必要があるかどうかを決定するには（使用可能かどうかにかかわらず）、Acrobat および Adobe Reader で署名者が状況に応じて実行できる操作と実行できない操作を理解しておくことが有効です。

次の表で、名前リストで署名ハンドラーを指定するときに発生する可能性がある様々な状況について説明します。

必須	署名者が使用可能	Acrobat または Adobe Reader での動作
×	×	Acrobat または Adobe Reader は、インストールされたデフォルトの署名方法を使用しようとしますが、インストールされた他の署名ハンドラーの選択を署名者に許可します。
×	○	Acrobat または Adobe Reader は、名前リストで指定された署名ハンドラーだけを署名者に使用させます。署名者は他の署名ハンドラーを使用することはできません。
○	×	Acrobat または Adobe Reader は、名前リストで指定された署名ハンドラーを使用するように署名者に求めます。署名者は指定された署名ハンドラーをインストールしないと、署名することができません。
○	○	Acrobat または Adobe Reader は、名前リストで指定された署名ハンドラーを使用するように署名者に求めます。

subFilter を指定する 署名辞書の内容の構文を指定し、ハンドラー間の相互運用を可能にします。Acrobat が認識するデジタル署名の有効な subFilters は、adbe.x509.rsa_sha1、adbe.pkcs7.detached および adbe.pkcs7.sha1 です。

署名者に指定した subFilter を使用するように求める 指定した subFilter のいずれかを Acrobat または Adobe Reader で使用することを要求します。署名ハンドラーによりサポートされるエンコード方式に一致する subFilter リスト内の最初の名前が、署名のエンコード方式として使用されます。subFilter を指定したときに、このエントリが必須の制約事項であることを flags プロパティが示している場合は、一致する最初のエンコードが署名時に使用されます。それ以外の場合は、署名は行われません。flags プロパティが、これがオプションの制約であることを示している場合は、一致する最初のエンコーディングが使用されます（ある場合）。一致するエンコーディングがない場合は、システムデフォルトのエンコーディングが使用されます。

指定された subFilter を署名者が使用する必要があるかどうかを決定するには（使用可能かどうかにかかわらず）、Acrobat および Adobe Reader で署名者が状況に応じて実行できる操作と実行できない操作を理解しておくことが有効です。

次の表で、subFilter で発生する可能性がある様々な状況について説明します。

注意： Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、Acrobat ではなく、署名の設定ダイアログボックス、およびデータおよび送信時の設定に署名ダイアログボックスに入力した subFilter 情報を分析および処理します。結果として、これら 4 つの状況は Adobe.PPKLite 署名ハンドラーオプションを選択した場合にのみ発生します。サードパーティの署名ハンドラーは、これらの情報を処理できない場合があります。

必須	署名者が使用可能	Acrobat または Adobe Reader での動作
×	×	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、subFilters リストで指定された subFilter の 1 つを使用するように署名者に求めます。subFilter を使用するように指定していない場合、署名者は別の subFilter を使用できます。Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。
×	○	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、subFilter リストで指定された subFilter の 1 つだけを署名者に使用させます。署名者は別の subFilter を使用できません。Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。
○	×	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、subFilter リストで指定された subFilter の 1 つを使用するように署名者に求めます。署名者は指定された subFilter の 1 つを選択しないと、署名することができません。Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。
○	○	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、subFilter リストで指定された subFilter の 1 つを使用するように署名者に求めます。 Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。

ダイジェストメソッドを指定する 許容可能なダイジェストメソッド要素の値を指定します。有効な文字列は MD5、SHA1、SHA256、SHA384、SHA512 および RIPEMD160 です。

署名者に指定したダイジェストメソッドを使用するよう求める Acrobat または Adobe Reader が指定したダイジェストメソッド要素を使用するようにします。

ダイジェストメソッドを署名者が使用する必要があるかどうかを決定するには（使用可能かどうかにかかわらず）、Acrobat および Adobe Reader で署名者が状況に応じて実行できる操作と実行できない操作を理解しておくことが有効です。

次の表で、ダイジェストメソッドで発生する可能性がある様々な状況について説明します。

注意： Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、Acrobat ではなく、署名の設定ダイアログボックス、およびデータおよび送信時の設定に署名ダイアログボックスに入力したダイジェストメソッド情報を分析および処理します。結果として、これら 4 つの状況は Adobe.PPKLite 署名ハンドラーを選択した場合にのみ発生します。サードパーティの署名ハンドラーは、これらの情報を処理できない場合があります。

必須	署名者が使用可能	Acrobat または Adobe Reader での動作
×	×	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、システムデフォルトのダイジェストメソッド要素を使用します。Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。
×	○	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、ダイジェストメソッドリストで指定されたダイジェストメソッドの 1 つを使用するように署名者に求めます。署名者は別のダイジェストメソッドを使用できません。Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。
○	×	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、ダイジェストメソッドリストで指定されたダイジェストメソッドの 1 つを使用するように署名者に求めます。Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。
○	○	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、ダイジェストメソッドリストで指定されたダイジェストメソッドの 1 つを使用するように署名者に求めます。Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。

関連項目

- 314 ページの「署名フィールドの使用」
- 266 ページの「電子メール送信ボタン」
- 267 ページの「HTTP 送信ボタン」
- 272 ページの「ボタンを使用したデータの送信」
- 557 ページの「署名フィールドを追加するには」

署名の証明書（署名の設定／データおよび送信時の設定に署名ダイアログボックス）

ドキュメントまたはデータに署名できる署名者を識別する証明書を指定するには、このダイアログボックスを使用します。

このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- 署名フィールドを選択して、オブジェクトパレットの「署名」タブをクリックし、「設定」をクリックします。次に「署名の証明書」タブをクリックします。
- 送信ボタンを選択して、オブジェクトパレットの「送信」タブをクリックし、「送信時に署名」が選択されていることを確認します。次に「設定」をクリックし、「署名の証明書」をクリックします。
- 電子メールまたは HTTP の送信ボタンを選択して、オブジェクトパレットで「送信時に署名」が選択されていることを確認します。次に「設定」をクリックし、「署名の証明書」をクリックします。

追加 ユーザー証明書の選択ダイアログボックスを開き、署名の証明書を参照して追加できるようにします。証明書ファイルには、.p7c、.p7b、.cer などのファイル名拡張子が付きます。

削除 選択された証明書をリストから削除します。

詳細 証明書ビューアを開き、選択された証明書に関する詳細を表示できるようにします。表示される詳細情報は、どの証明機関（CA）の証明書がインストールされているかによって異なります。

指定した証明書に関連付けられた署名者だけに署名を制限する リストに含まれている署名者だけがドキュメントまたはデータに署名できるようにします。ただし、選択した証明書が使用可能であれば、このオプションが選択されていない場合でも、署名者はこの証明書を使用しなければなりません。

サブジェクト識別名を指定する 署名の証明書のサブジェクト識別名 (DN) を指定します。署名の証明書内のサブジェクト識別名には複数の属性があります。識別名の例は、O = My Company、OU = My Department、CN = My Name、C = My Country などです。この例に含まれる属性は、O が Organization、OU が Organizational Unit、CN が Common Name、C が Country です。

署名証明書が指定した件名の識別名に一致することを求める 署名の証明書が指定した件名の識別名と一致するようにします。

署名の証明書が指定された件名の識別名と一致している必要があるかどうかを決定するには、Acrobat および Adobe Reader で署名者が状況に応じて実行できる操作と実行できない操作を理解しておくことが有効です。

次の表で、指定した件名の識別名に一致する、または一致しない署名証明書で発生する可能性がある様々な状況について説明します。

注意： Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、Acrobat ではなく、署名の設定ダイアログボックス、およびデータおよび送信時の設定に署名ダイアログボックスに入力した署名証明書情報を分析および処理します。結果として、これら 4 つの状況は Adobe.PPKLite 署名ハンドラーを選択した場合にのみ発生します。サードパーティの署名ハンドラーは、これらの情報を処理できない場合があります。

必須	署名者が使用可能	Acrobat または Adobe Reader での動作
×	×	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、サブジェクト識別名リストで指定されたサブジェクト識別名の 1 つに一致するサブジェクト識別名を持つデジタル ID を使用するように署名者に求めます。サブジェクト識別名を指定していない場合、署名者は別のデジタル ID を使用できます。 Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。

必須	署名者が使用可能	Acrobat または Adobe Reader での動作
×	○	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、サブジェクト識別名リストで指定されたサブジェクト識別名の 1 つに一致するサブジェクト識別名を持つデジタル ID のみを使用するように署名者に求めます。署名者は別のデジタル ID を使用できません。 Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。
○	×	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、サブジェクト識別名リストで指定されたサブジェクト識別名の 1 つに一致するサブジェクト識別名を持つデジタル ID を使用するように署名者に求めます。署名者は署名する前に、必要なデジタル ID を取得する必要があります。 Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。
○	○	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、サブジェクト識別名リストで指定されたサブジェクト識別名の 1 つに一致するサブジェクト識別名を持つデジタル ID を使用するように署名者に求めます。 Adobe.PPKLite 以外の署名ハンドラーを指定すると、この設定が適用されない場合があります。

関連項目

- 314 ページの「署名フィールドの使用」
- 266 ページの「電子メール送信ボタン」
- 267 ページの「HTTP 送信ボタン」
- 272 ページの「ボタンを使用したデータの送信」
- 557 ページの「署名フィールドを追加するには」
- 559 ページの「データ署名を送信ボタンに追加するには」

発行者とポリシー（署名の設定／データおよび送信時の設定に署名ダイアログボックス）

証明書発行者、証明書登録用サーバーおよび証明書ポリシーを指定するには、このダイアログボックスを使用します。

このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- 署名フィールドを選択して、オブジェクトパレットの「署名」タブをクリックし、「設定」をクリックします。次に「発行者とポリシー」をクリックします。
- 送信ボタンを選択して、オブジェクトパレットの「送信」タブをクリックし、「送信時に署名」が選択されていることを確認します。次に「設定」をクリックし、「発行者とポリシー」をクリックします。

- 電子メールまたは HTTP の送信ボタンを選択して、オブジェクトパレットで「送信時に署名」が選択されていることを確認します。次に「設定」をクリックし、「発行者とポリシー」をクリックします。

証明書発行者 署名者に署名の証明書を提供できる発行者を識別する証明書を表示します。

- **追加** 発行者の証明書の選択ダイアログボックスを開き、発行者の証明書を参照して追加できるようにします。証明書ファイルには、.p7c、.p7b、.cer などのファイル名拡張子が付きます。
- **削除** 選択された証明書をリストから削除します。
- **詳細** 証明書ビューアを開き、選択された証明書に関する詳細を表示できるようにします。表示される詳細情報は、どの証明機関（CA）の証明書がインストールされているかによって異なります。

指定した発行者からの証明書だけに署名を制限する Acrobat では、指定された発行者からの証明書を署名者が持っていない場合、署名が拒否されます。

証明書登録用サーバー URL 証明書登録用 Web ページの URL を指定します。この Web ページは、使用可能な署名の証明書を署名者が持っていない場合に表示されます。

証明書ポリシーおよび関連オブジェクト識別子 ドキュメントまたはデータへの署名に使用できる証明書を制限するための証明書ポリシーに関連付けられたオブジェクト識別子（OID）を表示します。OID を設定する場合は、Acrobat がエントリを認識できるように、証明書の発行者も指定する必要があります。

追加 オブジェクト識別子を追加します。

削除 選択されたオブジェクト識別子を削除します。

指定したポリシーに適合する証明書だけに署名を制限する Acrobat では、指定されたポリシーに署名の証明書が従っていない場合、署名が拒否されます。

指定されたポリシーに適合する証明書だけに署名を制限するかどうかを決定するには、Acrobat および Adobe Reader で署名者が状況に応じて実行できる操作と実行できない操作を理解しておくことが有効です。

次の表で、指定されたポリシーに適合する、または適合しない署名証明書で発生する可能性がある様々な状況について説明します。

注意： Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、Acrobat ではなく、署名の設定ダイアログボックス、およびデータおよび送信時の設定に署名ダイアログボックスに入力したオブジェクト識別子情報を分析および処理します。結果として、これら 4 つの状況は Adobe.PPKLite 署名ハンドラーを選択した場合にのみ発生します。サードパーティの署名ハンドラーは、これらの情報を処理できない場合があります。

必須	署名者が使用可能	Acrobat または Adobe Reader での動作
×	×	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、署名者に証明書ポリシーに関わらず署名にデジタル ID を使用させます。
×	○	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、署名者に特定の証明書ポリシーがあるデジタル ID のみを使用させます。署名者は、一致する証明書ポリシーを含まないデジタル ID を署名に選択することはできません。
○	×	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、指定された証明書ポリシーがあるデジタル ID を使用するよう署名者に求めます。署名者は、指定された証明書ポリシーがあるデジタル ID を取得してから署名を続行する必要があります。
○	○	Adobe.PPKLite 署名ハンドラーは、指定された証明書ポリシーがあるデジタル ID を使用するよう署名者に求めます。

関連項目

- 314 ページの「[署名フィールドの使用](#)」
- 266 ページの「[電子メール送信ボタン](#)」
- 267 ページの「[HTTP 送信ボタン](#)」
- 272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」
- 557 ページの「[署名フィールドを追加するには](#)」
- 559 ページの「[データ署名を送信ボタンに追加するには](#)」

署名理由（署名の設定／データおよび送信時の設定に署名ダイアログボックス）

ドキュメントの署名理由を指定するには、このダイアログボックスを使用します。

このダイアログボックスを表示するには、署名フィールドを選択して、オブジェクトパレットの「署名」タブをクリックし、「設定」をクリックします。次に「署名理由」をクリックします。

署名理由を指定 Acrobat のデフォルトの理由は、ここで指定した理由によって置き換えられます。署名者は、フォームに署名するときにいずれかの理由を選択できます。

- **追加** 署名理由をリストに追加します。
- **削除** 選択された署名理由をリストから削除します。
- **上へ移動** 選択した理由をリスト内で上に移動します。
- **下へ移動** 選択した理由をリスト内で下に移動します。
- **昇順に並べ替え** リストを上から下に昇順で並べ替えます。
- **降順に並べ替え** リストを上から下に降順で並べ替えます。

署名者にこのリストから理由を選択するよう求める フォームの署名時に署名者によってこのリストから理由が選択されるようにします。署名理由リストが不要な場合、署名者は文書を承認または署名するダイアログボックスに表示される他の署名理由を使用することも、別の理由を入力することもできます。署名理由リストが必要な場合は、署名者は指定した署名理由の 1 つを選択する必要がある、独自の理由を追加することはできません。署名理由リストが必要なときに、リストに署名理由が追加されていない場合は、Acrobat 8.0 以降では理由リストが無効になります。

関連項目

- 314 ページの「[署名フィールドの使用](#)」
- 557 ページの「[署名フィールドを追加するには](#)」

鍵用途（署名の設定／データおよび送信時の設定に署名ダイアログボックス）

このパネルを使用して、暗号化証明書によって要求または除外される鍵用途パラメーターを指定して、XML 暗号化でできるようにします。

このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信」を選択して、「送信」タブをクリックします。次に、「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「鍵用途」をクリックします。
- 電子メール送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「鍵用途」をクリックします。
- HTTP 送信ボタンオブジェクトを選択し、「フィールド」タブで「送信を暗号化」を選択して「設定」をクリックし、「鍵用途」をクリックします。

鍵用途の設定は、証明書の鍵用途パラメーターを表します。各鍵用途のチェックボックスによって、関連するコンボボックスが有効または無効になります。それぞれのコンボボックスで、「鍵要素を要求」または「鍵要素を除外」を選択できます。

鍵用途を要求 指定した鍵用途パラメーターが、暗号化証明書によって要求されることを示します。

鍵用途を除外 指定した鍵用途パラメーターが、暗号化証明書によって除外されることを示します。

鍵用途の設定を満たしている署名証明書のみ使用する 各鍵用途の設定リストに示された条件を満たしている公開暗号化証明書についてのみコンテンツが暗号化されることを、作成者が指定できるようにします。

関連項目

265 ページの「[ボタンの使用](#)」

272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」

署名情報（署名の設定／データおよび送信時の設定に署名ダイアログボックス）

証明書失効リスト（CRL）または Online Certificate Status Protocol（OCSP）の応答を指定したり、タイムスタンプサーバーを指定したりするには、このダイアログボックスを使用します。

このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- 署名フィールドを選択して、オブジェクトパレットの「署名」タブをクリックし、「設定」をクリックします。次に「署名情報」をクリックします。
- 送信ボタンを選択して、オブジェクトパレットの「送信」タブをクリックし、「送信時に署名」が選択されていることを確認します。次に「設定」をクリックし、「署名情報」をクリックします。
- 電子メールまたは HTTP の送信ボタンを選択して、オブジェクトパレットで「送信時に署名」が選択されていることを確認します。次に「設定」をクリックし、「署名情報」をクリックします。

タイムスタンプサーバーの URL このオプションは、署名フィールドだけに表示され、タイムスタンプサーバーの URL を指定します。タイムスタンプは、ドキュメントまたはデータが署名された日付と時刻を示します。外部サーバーを使用してタイムスタンプを電子署名に追加すると、ドキュメントがいつ署名されたかという疑問を取り払うことができます。Acrobat または Adobe Reader は、次の優先順位でタイムスタンプサーバーを選択します。

- 1 セキュリティ設定コンソールで設定されたタイムスタンプサーバーを使用します。
- 2 デジタル ID の拡張として表示されるタイムスタンプサーバーを使用します。
- 3 指定されたタイムスタンプサーバーを最初に使用します。

署名者に指定したタイムスタンプサーバーを使用するよう求める このオプションは、署名フィールドだけに表示され、ドキュメントの署名時に Acrobat によってタイムスタンプが電子署名に追加されるようにします。このオプションを選択すると、Acrobat または Adobe Reader はタイムスタンプサーバーを選択しますが、有効なタイムスタンプが返されない場合は、署名は失敗し、署名は作成されません。このオプションを選択しないと、Acrobat または Adobe Reader はタイムスタンプサーバーを選択しますが、有効なタイムスタンプが返されない場合も、署名は続行します。

署名時に CRL または OCSP 応答を含める ドキュメントまたはデータに署名するときに、証明書失効リスト（CRL）またはオンライン証明書状態プロトコル（OCSP）の応答を署名に含めます。署名者は適切なサーバーから CRL または OCSP の応答を取得できるよう、インターネットにアクセスする必要があります。

署名を続行するために求める 署名を続行するには、CRL または OCSP の応答が必要です。

ローミング ID サーバーの URL 署名者がドキュメントまたはデータへの署名に使用する電子証明書が格納された Web サービスを参照します。

指定した URL サーバーだけに署名を制限する 指定したサーバーで Acrobat によって証明書が検索されるようにします。このオプションを選択しないと、サーバーは単なる推奨サーバーになり、指定したサーバーを使用できない場合には、

Acrobat は使用可能なそれ以外の証明書を使用できます。そのサーバーが使用可能な場合は、不要であっても証明書を使用しなければなりません。特定のローミング証明書サーバーが不要な場合、Acrobat は場所にかかわらず任意のデジタル ID を使用します。

関連項目

- 314 ページの「[署名フィールドの使用](#)」
- 266 ページの「[電子メール送信ボタン](#)」
- 267 ページの「[HTTP 送信ボタン](#)」
- 272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」
- 557 ページの「[署名フィールドを追加するには](#)」
- 559 ページの「[データ署名を送信ボタンに追加するには](#)」

データおよび送信時の設定に署名ダイアログボックス

データおよび送信時の設定に署名ダイアログボックスについて

署名理由パネルの代わりにデータに署名パネルが含まれている点を除き、このダイアログボックスには、署名の設定ダイアログボックスと同じパネルが含まれます。

このダイアログボックスのパネルについては、682 ページの「[署名の設定ダイアログボックス](#)」を参照してください。

データに署名（データおよび送信時の設定に署名ダイアログボックス）

送信ボタンに関連付けられたデータ署名に含めるデータを選択するには、このダイアログボックスを使用します。署名には、デフォルトデータセットまたはすべてのデータを含めることができます。

このダイアログボックスを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- 送信ボタンを選択して、オブジェクトパレットの「送信」タブをクリックし、「送信時に署名」が選択されていることを確認します。次に「設定」をクリックし、「データに署名」をクリックします。
- 電子メールまたは HTTP の送信ボタンを選択して、オブジェクトパレットで「送信時に署名」が選択されていることを確認します。次に「設定」をクリックし、「データに署名」をクリックします。

データだけに署名する 送信に含まれるフォームデータのみを対象とした署名を作成します。このオプションがデフォルト設定です。

送信全体に署名する フォームデータとそれに含まれる添付データ（フォームデザイン、ドキュメントの署名、注釈など）を対象とした署名を作成します。

関連項目

- 266 ページの「[電子メール送信ボタン](#)」
- 267 ページの「[HTTP 送信ボタン](#)」
- 272 ページの「[ボタンを使用したデータの送信](#)」
- 559 ページの「[データ署名を送信ボタンに追加するには](#)」

置換フォントの指定ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、見つからないフォントの置換フォントを選択します。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプションを選択します。左側のリストから「ドキュメントハンドリング」を選択して、置換フォントの変更をクリックします。置換フォントの変更をクリックします。

見つからないフォント コンピューターに見つからないフォントの名前を指定します。

利用可能なフォント 見つからないフォントの代わりに選択できるフォントの一覧が表示されます。

フォントスタイル 選択した利用可能なフォントに適用するフォントスタイルの一覧が表示されます。

スプレッドシート貼り付けオプションダイアログボックス

このダイアログボックスを使用すると、Microsoft Excel スプレッドシートのセルをフォームに貼り付けたり、新しく作成する PDF フォームのベースとしてスプレッドシートを使用したりできます。

このダイアログボックスを表示するには、編集／貼り付けを選択します。スプレッドシート貼り付けオプションダイアログボックスは、Excel スプレッドシートの内容をフォームに貼り付けるときにだけ表示されます。

セルを表として貼り付ける スプレッドシートの選択部分と同じサイズ、セル数、データコンテンツのテーブルオブジェクトがフォームに作成されます。また、Designer では、テキスト、フォント、色、背景色、配置、境界線をはじめ、スプレッドシートの元のセルの形式設定が一部維持されます。スプレッドシートで選択されたセルに列ヘッダーが含まれている場合は、列ヘッダーの形式設定がテーブル最上部のヘッダー行に維持されます。

セルを入力フィールドとして貼り付ける スプレッドシートの各列に対して 1 つのテキストフィールドオブジェクトを作成します。テキストフィールドオブジェクトは、フォーム内に左から右に順に配置され、必要に応じて追加行に含められます。各テキストフィールドオブジェクトのキャプションと連結名は、スプレッドシートの列ヘッダーのテキストに対応します。

関連項目

148 ページの「[Microsoft Excel からのスプレッドシートデータのコピー](#)」

148 ページの「[Microsoft Excel スプレッドシートのコンテンツからのフォームの作成](#)」

スタイルエディターダイアログボックス

一般（スタイルエディターダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、内部スタイルシートパネルのスタイルを編集します。

このダイアログボックスを表示するには、内部スタイルシートパネルにあるスタイルを右クリックし、「スタイルを編集」を選択してから、左側のリストにある「一般」を選択します。一般パネルはデフォルトで表示されます。

スタイル名 スタイルの名前です。1 つのスタイルシートにあるスタイルのそれぞれに、一意の名前を付けます。スタイル名にスペースを含めることはできません。

注意：異なるライブラリパレットを使用して、スタイルに対する個々の書式設定オプションを上書きできます。書式設定オプションを上書きすると、そのオプションの横、およびスタイルツールバーにあるスタイル名の横にアスタリスクが表示されます。

種類 スタイルに使用できるオブジェクトの種類を表示します。

選択したオブジェクトの種類によって、一般パネルの残りのオプションが変更されます。特定のオブジェクトの種類に対して一般パネルで利用できるオプションは、オブジェクトパレットの「フィールド」タブで利用できるオプションに対応しています。384 ページの「[オブジェクトパレット内のプロパティ](#)」を参照してください。

関連項目

57 ページの「[スタイル](#)」

62 ページの「[スタイルの編集](#)」

キャプションテキストの書式設定（スタイルエディターダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、フィールドキャプションのテキストの書式設定を行います。このダイアログボックスを表示するには、内部スタイルシートパネルにあるスタイルを右クリックし、「スタイルを編集」を選択してから、左側のリストにある「キャプションテキストの書式設定」を選択します。

次からプロパティを継承 書式設定プロパティを継承する元のスタイルを指定します。同じオブジェクトの種類、または共通のスタイルを持つオブジェクトの種類で利用できるスタイルを表示します。「継承しない」がデフォルトのオプションです。このオプションを選択しても、個々の書式設定プロパティは上書きできます。スタイルの保存時は、参照元のスタイルと異なる上書きのみが保存されます。

「フォント」および「フォントサイズ」 書体と書体のサイズを設定します。

スタイル 書体のスタイルを設定します。

ベースラインシフト ベースラインを基準にして文字（または文字のグループ）を移動する際のスペースのサイズを上下に指定します。正の数値で文字を上、負の数値で文字を下に移動します。

文字間隔 1つの単語または単語のグループの文字間で、残すスペースの量を設定します。

垂直方向のスケール テキストの垂直方向のサイズを増減するには、程度をパーセント値で設定します。

水平方向のスケール テキストの水平方向のサイズを増減するには、程度をパーセント値で設定します。

自動カーニング 1つの単語または単語のグループにおける、文字間のスペースの量を減らします。

配置 水平方向および垂直方向の配置を設定します。

- **左揃え** キャプションまたは値を左揃えにします。
- **中央揃え** キャプションまたは値を中央揃えにします。
- **右揃え** キャプションおよび値を右揃えにします。
- **均等** キャプションや値の両端を揃えます。この設定は、複数行に渡るキャプションや値の最終行を除くすべての行に適用されます（1行だけの段落を両端揃えすることはできません）。
- **上揃え** キャプションや値のために空けておいた領域の上端に揃えて整列します。
- **中間揃え** キャプションや値のために空けておいた領域の中央に揃えて整列します。
- **下揃え** キャプションや値のために空けておいた領域の下端に揃えて整列します。

インデント 段落のインデントを設定します。

- **左端** 左インデントを設定します。
- **右端** 右インデントを設定します。
- **最初の行** 最初の行のインデントを設定します。なし：すべての行を同じ幅でインデントします。字下げ：先頭行だけをインデントします。ぶら下げ：先頭行以外のすべての行をインデントします。
- **幅** 字下げインデントやぶら下げインデントの幅を設定します。

スペース 段落の前後に空けるスペースを設定します。

- **段落前** 段落の上に空ける垂直方向のスペースの幅を設定します。
- **段落後** 段落の下に空ける垂直方向のスペースの幅を設定します。

- **行間** 行と行の間に空けるスペースのサイズを設定します。1 行: 行の高さを、その行に含まれる最も大きな文字の高さと同じにします。1.5 行: 行の高さを、その行に含まれる最も大きな文字の高さの 1.5 倍にします。2 行: 行の高さを、その行に含まれる最も大きな文字の高さの 2 倍にします。

関連項目

57 ページの「[スタイル](#)」

351 ページの「[キャプションの形式設定](#)」

値テキストの書式設定（スタイルエディターダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、フィールド値のテキストの書式設定を行います。このダイアログボックスを表示するには、内部スタイルシートパネルにあるスタイルを右クリックし、「スタイルを編集」を選択してから、左側のリストにある「値テキストの書式設定」を選択します。

値テキストの書式設定パネルにあるオプションは、キャプションテキストの書式設定パネルにあるオプションと基本的に同じです。各種オプションの説明については、693 ページの「[キャプションテキストの書式設定（スタイルエディターダイアログボックス）](#)」を参照してください。

関連項目

57 ページの「[スタイル](#)」

355 ページの「[フィールド値の形式設定とパターンの使用](#)」

境界線（スタイルエディターダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、境界線のプロパティを設定します。このダイアログボックスを表示するには、内部スタイルシートパネルにあるスタイルを右クリックし、「スタイルを編集」を選択してから、左側のリストにある「境界線」を選択します。

次からプロパティを継承 書式設定プロパティを継承する元のスタイルを指定します。同じオブジェクトの種類、または共通のスタイルを持つオブジェクトの種類で利用できるスタイルを表示します。「継承しない」がデフォルトのオプションです。このオプションを選択しても、個々の書式設定プロパティは上書きできます。スタイルの保存時は、参照元のスタイルと異なる上書きのみが保存されます。このオプションを選択し、境界線のプロパティを継承すると、境界線パネルの他のオプションは使用不可になり、個々のオプションは上書きされません。

境界線 すべての境界線または個別の境界線の境界線プロパティを設定します。

- **一括で編集** 同じ境界線をすべての境界線に適用します。
- **個別に編集** 境界線を各境界線に対し個別に適用します。このオプションは、3 次元境界線には適用されません。

サイド 境界線のスタイル、幅、および色を設定します。

コーナー 境界線のコーナーにスタイルを適用します。

改ページの周囲の境界線を削除 選択したオブジェクトの最初のページの下部の境界線と 2 番目のページの上部の境界線を削除します。

スタイル 背景の塗りつぶしのスタイルと色を設定します。

関連項目

57 ページの「[スタイル](#)」

346 ページの「[オブジェクトの形式設定](#)」

レイアウト（スタイルエディターダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、レイアウトのプロパティを設定します。このダイアログボックスを表示するには、内部スタイルシートパネルにあるスタイルを右クリックし、「スタイルを編集」を選択してから、左側のリストにある「レイアウト」を選択します。

サイズ 「幅」、「高さ」、「拡大して合わせる」のオプションを有効にします。

「幅」および「拡大して合わせる」 オブジェクトの全体的な幅の最小値を設定します。また、必要に応じて、その方向への拡大を可能にします。

「高さ」および「拡大して合わせる」 オブジェクトの全体的な高さの最小値を設定します。また、必要に応じて、その方向への拡大を可能にします。

アンカー オブジェクトのアンカーポイントを設定します。

回転 オブジェクトの回転を解除するか、または 90°、180° または 270° で回転させます。

フローコンテナでのコンテンツの配置 サブフォームなどフローコンテナでのコンテンツの配置を設定します。

余白 オブジェクトを囲む空白の幅を設定します。

キャプション キャプションの位置、およびキャプションと値フィールドの間に設ける空白の幅を設定します。

関連項目

57 ページの「[スタイル](#)」

346 ページの「[オブジェクトの形式設定](#)」

シンタックスフォーマットダイアログボックス

FormCalc のシンタックスフォーマットダイアログボックス、JavaScript のシンタックスフォーマットダイアログボックスまたは XML ソース構文のフォーマットダイアログボックスを使用して、FormCalc 構文、JavaScript 構文または XML ソースの構文のフォントおよび色の設定を定義します。

スクリプトエディターまたは「XML ソース」タブでアラビア語、ヘブライ語、タイ語およびベトナム語の文字を表示するには、Designer がスクリプトエディターおよび「XML ソース」タブで使用するフォント設定を変更する必要があります。そのように設定しない場合、Designer では言語特有の文字が存在する位置に四角形が表示されます。例えば、アラビア語のフォントには Adobe Arabic を、ヘブライ語のフォントには Adobe Hebrew を、タイ語のフォントには Adobe Thai を、ベトナム語のフォントには Myriad Pro または Minion Pro を設定します。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／オプションを選択します。左側のリストから「ワークスペース」を選択して、いずれかの構文のシンタックスフォーマットボタンをクリックします。

フォント フォントを設定します。

サイズ フォントのサイズを設定します。

カラー設定 変更するカテゴリを設定します。

カスタムテキスト色を使用 文字の色を設定します。

カスタム背景色を使用 背景の色を設定します。

サンプル 設定後の例を表示します。

デフォルトに戻す フォントと色の設定をデフォルトにリセットします。

テーブルアシスタントダイアログボックス

ボディのレイアウト（テーブルアシスタントダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、ボディ行数および列数が固定のテーブルや、ボディ行数が変化し列数が固定のテーブルを作成できます。

このダイアログボックスを表示するには、挿入／標準／テーブル／アシスタントを使用してテーブルを作成／OK を選択します。

ボディは固定配列 選択した（固定）数の列およびボディ行を持つテーブルを作成します。

列数 指定した数の列（最大 20 列）を追加します。

ボディの行数 指定した数のボディ行（最大 50 行）を追加します。

ボディ行はデータ量に依存 データの行数に応じて行数が変化するテーブルを作成します。

関連項目

156 ページの「[テーブルアシスタントを使用してテーブルを作成するには](#)」

フッター行（テーブルアシスタントダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、テーブルからフッター行を除外したり、テーブルにフッター行を含めたり、各ページでフッター行を繰り返し作成したりします。

このダイアログボックスを表示するには、挿入／標準／テーブル／アシスタントを使用してテーブルを作成／OK／フッター行を選択します。

フッター行なし フッター行をテーブルから除外します。

フッター行あり フッター行をテーブルに含めます。

すべてのページにフッター行を表示 各ページでフッター行を繰り返します。このオプションを使用できるのは、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブで親サブフォームがフローに設定されている場合だけです。

関連項目

156 ページの「[テーブルアシスタントを使用してテーブルを作成するには](#)」

ヘッダー行（テーブルアシスタントダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、テーブルからヘッダー行を除外したり、テーブルにヘッダー行を含めたり、各ページでヘッダー行を繰り返し作成したりします。

このダイアログボックスを表示するには、挿入／標準／テーブル／アシスタントを使用してテーブルを作成／OK／ヘッダー行を選択します。

ヘッダー行なし ヘッダー行をテーブルから除外します。

ヘッダー行あり ヘッダー行をテーブルに含めます。

すべてのページにヘッダー行を表示 各ページでヘッダー行を繰り返します。このオプションを使用できるのは、オブジェクトパレットの「サブフォーム」タブで親サブフォームがフローに設定されている場合だけです。

関連項目

156 ページの「[テーブルアシスタントを使用してテーブルを作成するには](#)」

行の網掛け（テーブルアシスタントダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、交互に色を適用した行を追加します。

このダイアログボックスを表示するには、挿入／標準／テーブル／アシスタントを使用してテーブルを作成／OK／行の網掛けを選択します。

1 行おきに色を変える 指定した数の行および選択した色を使用して、交互にボディ行に色を追加します。

最初の行 最初の色を適用する行数を指定します。

カラーピッカー 最初の行または最初の行セットの色を選択するカラーパレットを開きます。

次の行 2 番目の色を追加する行数を指定します。

カラーピッカー 2 番目の行または 2 番目の行セットの色を選択するカラーパレットを開きます。

関連項目

156 ページの「[テーブルアシスタントを使用してテーブルを作成するには](#)」

セクション（テーブルアシスタントダイアログボックス）

このダイアログボックスを使用して、テーブル内でセクション（一体化された行のグループ）の追加、削除、命名および順序設定を行います。

このダイアログボックスを表示するには、挿入／標準／テーブル／アシスタントを使用してテーブルを作成／OK／セクションを選択します。

ボディ行（セクションなし） ボディのレイアウトダイアログボックスで指定した数のボディ行を持つテーブルを作成します。このとき、セクションは除外します。

ボディ行（セクションあり） ボディのレイアウトダイアログボックスで指定した数のボディ行と、セクションリストで指定したセクションを持つテーブルを作成します。

セクション テーブルレイアウトに追加されたセクションを一覧表示します。Section1 はプレースホルダーセクション名で、この名前はダブルクリックすると変更できます。

追加 セクションを追加し、テーブルセクションダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスを使用して、セクションの名前を付けることができます。

削除 選択したセクションを削除します。

上向き矢印 選択したセクションを上に移動します。

下向き矢印 選択したセクションを下に移動します。

セクションにヘッダー行を含める 選択したセクションにヘッダー行を追加します。

セクションにフッター行を含める 選択したセクションにフッター行を追加します。

セクションはオプション 選択したセクションでデータを使用できない場合、そのセクションが表示されないようにします。

関連項目

156 ページの「[テーブルアシスタントを使用してテーブルを作成するには](#)」

テンプレートマネージャーダイアログボックス

テンプレートマネージャーを使用して、テンプレートをプレビューして、フォームデザインを作成するためのデフォルトテンプレートを選択できます。テンプレートマネージャーを開くと、デフォルトのテンプレートが表示されます。

このダイアログボックスを表示するには、ツール／テンプレートマネージャーを選択します。

「空白」タブ 使用可能なテンプレートサイズを表示します。

「フォーム」タブ 使用可能なサンプルテンプレートを表示します。

「フォーム - バニラ」タブ 「フォーム」タブのテンプレートと同じ内容だが、別の「バニラ」レイアウトを使用するテンプレートを表示します。

「フォーム - ページュ」タブ 「フォーム」タブのテンプレートと同じ内容だが、別の「ページュ」レイアウトを使用するテンプレートを表示します。

「フォーム - ブルー」タブ 「フォーム」タブのテンプレートと同じ内容だが、別の「ブルー」レイアウトを使用するテンプレートを表示します。

「その他」タブ テンプレートマネージャーに追加したテンプレートを表示します。

選択項目をデフォルトに設定 選択したテンプレートを、新しいフォームデザインを作成するためのデフォルトテンプレートとして指定できます。

関連項目

39 ページの「[テンプレートの作成と管理](#)」

41 ページの「[テンプレートマネージャーにテンプレートを追加するには](#)」

42 ページの「[テンプレートマネージャーにタブを追加するには](#)」

テンプレートオプションダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して、Designer で読み込んだテンプレートを処理する方法を指定します。

このダイアログボックスを表示するには、まだテンプレートマネージャーに追加されていないテンプレートファイル (TDS) を開きます。

このテンプレートをテンプレートマネージャーにコピー テンプレートファイルをテンプレートマネージャーにコピーします。

このテンプレートから新規フォームを作成 テンプレートをベースに名称未設定の PDF フォームを作成します。新しいフォームは名前を付けて保存できます。テンプレートにプレースホルダーが含まれる場合は、新規フォームアシスタントが開き、各種フィールドに表示されるプレースホルダー情報を変更できます。

このテンプレートを編集 編集するテンプレートファイルを開きます。

第 19 章：用語集

この用語集には、Designer 文書に特有の用語定義が記載されています。これらの用語は、別のコンテキストでは異なる意味を持つ場合がありますが、本ドキュメントでは意味が限定されています。

A

アクセシブルなフォーム

身体や視覚に障害のあるユーザーが、スクリーンリーダーやその他の補助技術を使用して入力することができるフォームです。

Acrobat フォーム

Acrobat で作成された、1 つ以上のフォームフィールドを含む PDF 文書。Acrobat フォームには、フォーム以外のコンテンツを含めることもできます。

Adobe 認証ドキュメント

特定の Adobe ルート証明書で署名されたドキュメント。Adobe ルート認証は、ハードウェアのセキュリティモジュールで配布されます。Adobe 認証ドキュメントでは、ドキュメントの信頼性と不変性が強力に保証されます。「証明書」も参照してください。

アプリケーション

Forms が実行できる独立言語アプリケーションを構成する相関 / 独立ファイル群です。一般的には独立ファイル群を指します。

[トップへ](#)

B

データの連結

データファイルやデータベースの適切なフィールドとオブジェクトをリンクさせる操作です。

ボイラープレート

テキストや画像を含み、フォームデザインの視覚的な要素となるスタティックな、または固定されたオブジェクトです。データフィールドとは異なり、ボイラープレートの情報が変わることはありません。

ボイラープレートオブジェクト

テキスト、ライン、円または矩形などの、フォーム上のスタティックオブジェクトです。

[トップへ](#)

C

標準形式

式を記述する際の標準的な方法です。例えば、 $9 + x$ および $x + 9$ という 2 つの式は同じ結果となるため等価と考えられますが、2 番目の式は最も優先度の高い x を最初に置く一般的な方法で記述されているため、「標準形式」となります。通常は、標準形式であるかどうかを判断するための一定のルールが存在します。標準形式を使用した方が比較が容易になります。

次の表は、各種フィールドとその標準形式を示しています。角括弧で囲まれた値はオプションです。通貨記号とグループ化記号は、標準形式では無効になります。

フィールドタイプ	説明	標準形式	例
日付フィールド	ISO-8601/XFA 日付文字列です。	YYYY[-MM[-DD]] YYYY[MM[DD]]	2005-07-04 20050704
日付 / 時間フィールド	ISO-8601/XFA 日時です。これは、有効な ISO-8601/XFA 日付文字列と、有効な ISO-8601/XFA 時間文字列が連結されたもので、日付文字列と時間文字列の間に「T」という区切り文字が使用されます。		2004-07-04T10:11:12+05:00 20040704T101112
数値フィールド	整数部、小数点、小数部、e (E)、および符号付き指数部から成る、ASCII 数値のシーケンスです。e (E) および符号付き指数部はオプションです。		12 1.234 .12 1e-2 1.2E3
テキストフィールド	スペースを使用しない、Unicode 文字のシーケンスです。		A1B2C3 表示パターン :A9A 9A9 形式設定された値 :A1B 2C3
時間フィールド	ISO-8601/XFA 時間文字列です。	HH[:MM[:SS[.FFF][Z]]] HH[:MM[:SS[.FFF][+HH[:MM]]]] HH[:MM[:SS[.FFF][-HH[:MM]]]] HH[MM[SS[.FFF][Z]]] HH[MM[SS[.FFF][+HH[MM]]]] HH[MM[SS[.FFF][-HH[MM]]]]	10:11:12.123+05:00 101112+0500 10:11:12Z 10:11 10

証明書

暗号化および署名処理に使用される秘密鍵（私有鍵）に対応する公開鍵です。「Adobe 認証ドキュメント」も参照してください。

クライアント

クライアント / サーバーシステムにおいて、要求を出すプログラムまたはユーザーです。Web ブラウザーはクライアントアプリケーションの 1 つです。

秘密鍵

復号化や署名処理の際に、一致性を確立するために使用される私有鍵です。

[トップへ](#)

F

固定レイアウト

データ入力時でも、レイアウトが設計時のままのフォームです。入力データの量によってレイアウトが変わることはありません。

編集可能なレイアウト [へんしゅうかのうなれいあうと]

結合または入力されるデータの量に応じて拡大または縮小できるフォーム、フォームデザインまたはドキュメントレイアウトです。

フォーム

データの取得や送信を行う電子文書です。ユーザーがインタラクティブフォームにデータを追加したり、サーバー処理でフォームデザインとデータを結合してフォームを生成したりできます。

フォーム作成者

シンプルなインタラクティブフォームや非インタラクティブフォームを作成できる Designer ユーザーです。これらのフォームには、基本的な演算やスクリプトが含まれることがあります。

FormCalc

一般の表計算ソフトウェアで使用されている計算言語に類似した計算言語で、従来のスクリプティング技術や言語に関する知識がなくてもフォームデザインの使い勝手を向上させることができます。

フォームデザイン

フォームの作成者や開発者が Designer で作成したフォームのデザイン時のバージョンです。

フォーム開発者

異なる環境で使用するための、複雑なフォームベースのアプリケーションを作成できる Designer ユーザーです。「フォーム作成者」も参照してください。

フォームオブジェクト

ボタンやテキストフィールドなどの、フォーム上に配置することができるフォーム要素です。オブジェクトには、固有のプロパティセットとイベントがあります。

[トップへ](#)

I

インタラクティブフォーム

ユーザーがインタラクティブに操作でき、オンライン（例えば、PDF、ガイド、HTML、Flex アプリケーション）とオフライン（例えば、PDF）の両方で電子的に入力できるフォームです。

[トップへ](#)

P

PDF フォーム

1 つ以上のフォームフィールドを含む PDF ファイルです。PDF フォームは、Acrobat または Designer で作成できます。

権限

ユーザーが PDF 文書を開く、編集する、または印刷することを制限するセキュリティ設定です。ユーザーに権限パスワードがない限り、権限を変更することはできません。

権限の設定は、Designer、Acrobat、Forms で実行できます。

自動埋め込み済みフォーム

複数またはすべてのフィールドに対し、データが自動的に入力された状態で表示されるフォームです。

R

レンダリング

この操作により、Forms または Output がフォームデザインを取得し、場合によってはフォームデザインをデータと結合し、ブラウザで PDF または HTML 形式として表示します。

制限付き文書

文書が開かれたり、印刷、保存および編集されることを防ぐパスワードセキュリティ制限付きの PDF 文書です。

権限付き文書 (追加機能付き)

Adobe Reader ユーザーがフォームにデータを入力して保存したり、コメントを追加したり、文書に署名したりできるセキュリティ拡張機能を持つ PDF 文書です。

実行時

アプリケーションまたはサーバー処理でフォームデザインを取得し、場合によってはフォームデザインとデータを結合し、ユーザーが確認または入力できるようにフォームを表示するタイミングです。

[トップへ](#)

S

スクリプトフラグメント

複数の XDP ファイルで再利用できる FormCalc または JavaScript コードの断片です。

セキュリティハンドラー

暗号化プロセスの様々な要素を実装し、暗号化されたドキュメントのコンテンツへのアクセスをコントロールするソフトウェアモジュールです。署名を付加し、検証する方法など、あらゆるセキュリティロジックが含まれます。

スタティックフォーム

「固定レイアウト」を参照してください。

サブフォーム

フォームオブジェクトおよび他のサブフォームなどのコンテナとして機能するオブジェクト。サブフォームは、フォームオブジェクトを相対的な位置に配置する場合に便利で、編集可能なレイアウトを含むフォームデザインの構造を組み立てます。また、フィールドの範囲を制限することによって、フォームにデータを連結するときに基準点を設定し、対応するデータノードの基準点に一致させることもできます。

[トップへ](#)

T

タグ付き PDF フォーム

論理構造、様々な要素の中から定義された相関性および独立性、さらに折り返し表示を可能にする追加情報を含むフォームです。

信頼済み証明書

関連する証明書によって認識された証明書です。フォームに署名できるのは、特定の信頼済み証明書に限られます。

[トップへ](#)

U

使用権限

Adobe Reader の機能を拡張し、ユーザーがデータ入力されたフォームの保存、コメントの追加、および文書への署名をできるようにする権限です。

[トップへ](#)

X

XML フォームアーキテクチャ

Adobe XML フォームソリューションの基盤となる技術です。これにより、クライアントまたはサーバーで使用するための、確実に柔軟性のあるフォームベースのアプリケーション構築が可能となります。

XML フォーム

XML フォームアーキテクチャに基づくフォームです。XML フォームは Designer で作成され、ファイル名に .xdp や .pdf という拡張子を付けることができます。

[トップへ](#)